

## エクシードハイパーシリーズ

### 技術資料

天井埋込形4方向吹出し (FDTZ)

天井埋込形2方向吹出し (FDTWZ)

天井埋込形1方向吹出し (FDTSZ)

天埋カセテリア (FDRZ)

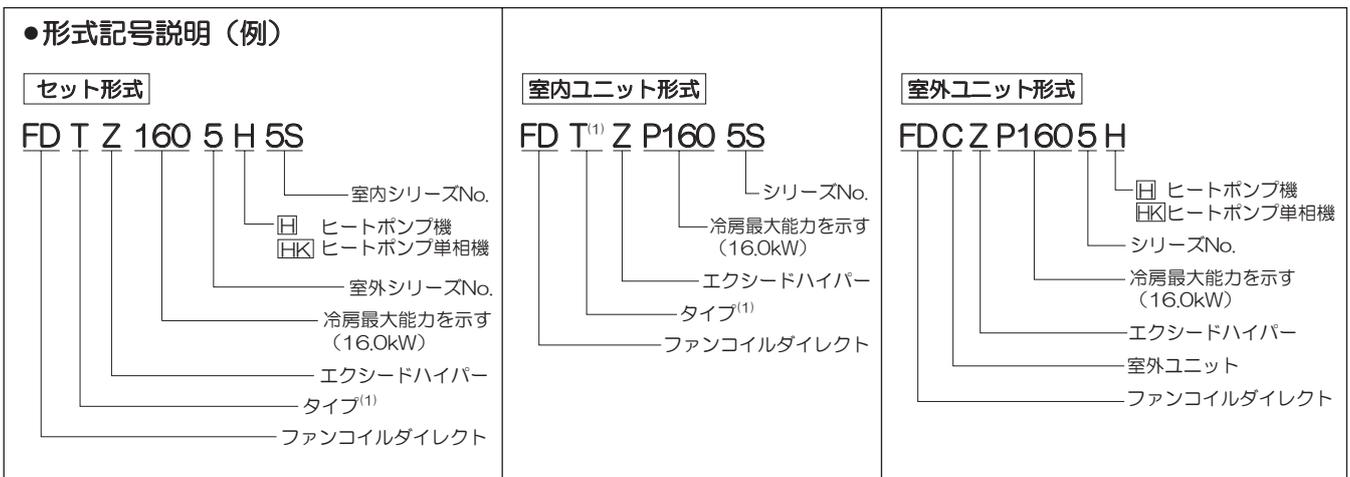
高静圧ダクト形 (FDUZ)

天吊形 (FDEZ)

天吊耐油形 (FDESZ)

# 目 次

1. 仕 様	.....	2
2. 使用範囲	.....	27
3. 外形図	.....	29
4. 塗装色	.....	54
5. 能力特性	.....	57
6. 送風機特性	.....	65
7. 気流分布	.....	75
8. 運 転 音	.....	84
9. 電気配線図	.....	90
10. 電源・配線仕様	.....	104
11. 防振設計用参考資料	.....	106
12. 冷媒配管系統図	.....	108
13. 据付関連事項	.....	109
14. マイコン運転制御機能	.....	290
15. 電装品故障診断要領	.....	327
16. 耐重塩害仕様室外ユニット	.....	409
17. 別売部品	.....	411



注（1） T…天井埋込形4方向吹出し， TW…天井埋込形2方向吹出し， TS…天井埋込形1方向吹出し， R…天埋カセテリア， U…高静圧ダクト形， E…天吊形， ES…天吊耐油形

# 1. 仕様

## (1)天井埋込形4方向吹出し (FDTZ) 冷暖房兼用機 (ヒータレス単相電源形)〔FDTZ-HK〕

セット形式		形式		
項目		FDTZ805HK5S 室内：FDTZP805S 室外：FDCZP805HK		
パネル形式(別売品)		54ページをご覧ください。		
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2, RC-D4G <sup>(2)</sup>		
電源		単相 200V 50/60Hz		
(1)能力	冷房能力	定格	7.1 [1.9 ~ 8.0]	
		中間	3.2 (中温: 3.2)	
	暖房能力	最小中温	1.9	
		定格標準	8.0 [2.1 ~ 10.0] (最小: 2.1)	
		中間	3.6	
最大低温	8.4			
定格冷房時の顕熱比	0.92			
(1)運転	運転電流	冷房	7.8	
	始動電流 (最大電流)	暖房	8.1	
特性	消費電力	冷房	1.55	
		中間	0.460 (中温: 0.375)	
	暖房	最小中温	0.207	
		定格標準	1.60 (最小: 0.343)	
		中間	0.538	
最大低温	2.60			
力率	冷: 99, 暖: 99			
エネルギー消費効率	冷房	定格: 4.58, 中間: 6.96		
	暖房	定格: 5.00, 中間: 6.69		
	通年エネルギー消費効率 (2015)	6.8		
通年エネルギー消費効率 (2006)	6.5			
運転音	室内ユニット	パワーレベル	P急: 58, 急: 51, 強: 46, 弱: 43	
	音圧レベル		P急: 43, 急: 35, 強: 31, 弱: 28	
室外ユニット	パワーレベル		冷: 65, 暖: 66	
	音圧レベル		冷: 48, 暖: 48	
室内ユニット	外形寸法 (高さ×幅×奥行)	mm	本体: 298 × 840 × 840 <sup>(5)</sup> , パネル: 35 × 950 × 950	
	製品質量	kg	本体: 24.5, 標準パネル: 5, エアフレックスパネル: 6, ラクリーナパネル: 7, お掃除ラクリーナパネル: 12	
	空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式	
	形式・台数		ターボ式 (モータ直結) × 1	
	送風装置	送風量	m <sup>3</sup> /min	P急: 30, 急: 22, 強: 18, 弱: 15
	機外静圧 (標準風量時)	Pa	0	
	電動機定格出力	W	120	
	エアフィルタ		プラスチックネット (洗浄可能)	
	吹出ダクト接続口		側板を利用して可能 (100 × 100, 200 × 100ダクト接続)	
	新鮮空気取入口		側板を利用して可能 (65 × 112ダクト接続)	
	運転調整		操作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気, グリル昇降), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転・点検用・LED, 液晶表示)	
	遠方発停用機能		遠方発停入力用コネクタ (CnT: 6P, CnTA: 2P) を保有 (室内基板上)	
	加湿器		— (気化式加湿器取付可能)	
	防振装置・防音・断熱材		送風用電動機: 防振ゴム, 外板: 吸音断熱材貼付	
	室外ユニット	外形寸法   高さ×幅×奥行	mm	845 × 970 × 370
製品質量		kg	70	
圧縮機		形式・台数		RMT5118SWE1 × 1
		電動機出力	kW	1.4
空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
冷媒制御			電子膨張弁	
冷媒封入量		kg	3.6 (R32) [配管30m分封入済]	
冷凍機油封入量		ℓ	0.675 (M-MB75)	
送風装置		形式・台数		軸流式 (モータ直結) × 1
送風量		m <sup>3</sup> /min		冷: 52, 暖: 48
電動機定格出力		W		86
クラックケースヒータ		W		20
低外気温時冷房運転制御機能				室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温 -15℃ ~ 50℃ で冷房運転可能 <sup>(4)</sup>
除霜				マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式
防振・防音装置				圧縮機: 防振ゴム, 吸音断熱材巻付
配管寸法	冷媒配管 (外径)	液管	φ9.52 (フレア接続)	
	ガス管		φ15.88 (フレア接続)	
排水口			(室内) VP25の排水管の接続可能 (室外) 内径φ20mmの排水穴×3個	
電気配線	電源配線サイズ	mm <sup>2</sup>	□3.5 × 2本	
	漏電しゃ断器 (高調波対応品)	A	30	
開閉器または配線用しゃ断器			30	
アース線サイズ	φmm		φ1.6	
室内外ユニット接続配線	φmm		φ1.6 × 3本	
設計圧力	MPa		高圧部: 4.15, 低圧部: 2.26	
法定冷凍能力	トン		0.74 (届出不要)	
IPコード			室内: IPX0, 室外: IPX4	
保護装置			冷房時 Frost 防止, 過負荷保護, 吐出温度保護	

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量において JIS B 8616 : 2015 および JRA4048 : 2006 条件により運転した値です。[ ~ ] は最小最大範囲を示します。通年エネルギー消費効率 (2006) は, JIS B 8616 : 2006 条件, (2015) は, JIS B 8616 : 2015 条件に基づいた値です。運転音のパワーレベルは, JIS B 8616 : 2015, 音圧レベルは, JIS B 8616 : 2006 条件に基づいた値です。  
 (2) リモートコントローラの全形式は, 標準パネルの場合のみ使用可能です。エアフレックパネル, ラクリーナパネル, お掃除ラクリーナパネルについては, RC-DX3のみ使用可能です。  
 (3) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速 (急・強・弱) となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定 (P急・急・強) としてください。  
 (4) 外気温が -5℃ 以下で冷房運転を行う場合, フレックスフローアダプタおよび防雪フード (別売) を取付けてください。  
 (5) お掃除ラクリーナパネル使用時, 外形寸法の本体高さはプラス110mm高くなります。(詳細は外形図をご覧ください。)  
 (6) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.14kW

# 冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDTZ-H〕

セット形式		FDTZ805H5S		
形式		室内：FDTZP805S 室外：FDCZP805H		
項目	形式	54ページをご覧ください。		
パネル形式(別売品)		RC-DX3, RC-DX2, RC-D4G (2)		
リモートコントローラ		三相 200V 50/60Hz		
(1)能力	冷房能力	定格	7.1 [ 1.9 ~ 8.0 ]	
		中間	3.2 (中温: 3.2)	
	暖房能力	最小中温標準	1.9	
		定格	8.0 [ 2.1 ~ 10.0 ] (最小: 2.1)	
		最大低温	3.6	
定格冷房時の顕熱比		8.4		
(1)運転特性	運転電流	冷房	4.9	
		暖房	5.1	
	始動電流(最大電流)		5 (13)	
			1.54	
	消費電力	冷房	中間	0.452 (中温: 0.360)
			最小中温標準	0.196
		暖房	中間	1.59 (最小: 0.331)
			最大低温	0.533
	率		2.60	
	エネルギー消費効率	冷房	冷房	冷: 91, 暖: 90
暖房			定格: 4.61, 中間: 7.08	
通年エネルギー消費効率(2015)			定格: 5.03, 中間: 6.75	
運転音	室内ユニット	パワーレベル音圧レベル	7.0	
	室外ユニット	パワーレベル音圧レベル	6.5	
室内ユニット	外形寸法(高さ×幅×奥行)	mm	本体: 298 × 840 × 840 (5), パネル: 35 × 950 × 950	
	製品質量	kg	本体: 24.5, 標準パネル: 5, エアフレックパネル: 6, ラクリーナパネル: 7, お掃除ラクリーナパネル: 12	
	空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数	ターボ式(モータ直結) × 1	
	風量	m³/min	P急: 30, 急: 22, 強: 18, 弱: 15	
	機外静圧(標準風量時)	Pa	0	
	電動機定格出力	W	120	
	エアフィルター		プラスチックネット(洗浄可能)	
	吹出ダクト接続口		側板を利用して可能(100 × 100, 200 × 100ダクト接続)	
	新鮮空気取入口		側板を利用して可能(65 × 112ダクト接続)	
	連転調整		操作(運転切換, 風量調整, タイマ, 換気, グリル昇降), 室温調節(電子サーモスタート), 表示(運転・点検用・LED, 液晶表示)	
	遠方発停用機能		遠方発停入力用コネクタ(CnT: 6P, CnTA: 2P)を保有(室内基板上)	
	加湿器		— (気化式加湿器取付可能)	
	防振装置・防音・断熱材		送風用電動機: 防振ゴム, 外板: 吸音断熱材貼付	
	室外ユニット	外形寸法(高さ×幅×奥行)	mm	845 × 970 × 370
製品質量		kg	70	
圧縮機		形式・台数		RMT5118SWE1 × 1
		電動機出力	kW	1.4
空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
冷媒制御器			電子膨張弁	
冷媒封入量		kg	3.6 (R32) [配管30m分封入済]	
冷凍機油封入量		ℓ	0.675 (M-MB75)	
送風装置		形式・台数	軸流式(モータ直結) × 1	
風量		m³/min	冷: 52, 暖: 48	
電動機定格出力	W	86		
クラックケースヒータ	W	20		
低外気温時冷房運転制御機能		室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温-15℃~50℃で冷房運転可能(4)		
除湿		マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式		
防振・防音装置		圧縮機: 防振ゴム, 吸音断熱材巻付		
配管寸法	冷媒配管(外径)	液管	φ9.52 (フレア接続)	
	ガス管		φ15.88 (フレア接続)	
	排水口		[室内] VP25の排水管の接続可能 [室外] 内径φ20mmの排水穴×3個	
	電源配線サイズ	mm²	□3.5 × 3本	
電気配線	漏電しゃ断器(高調波対応品)	A	30	
	開閉器または配線用しゃ断器		20	
	アース線サイズ	φmm	φ1.6	
	室内外ユニット接続配線	φmm	φ1.6 × 3本	
設計	圧力	MPa	高圧部: 4.15, 低圧部: 2.26	
	法定冷凍能力	トン	0.74 (届出不要)	
	IPコード		室内: IPX0, 室外: IPX4	
保護装置			冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護	

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616: 2015およびJRA4048: 2006条件により運転した値です。[ ~ ]は最小最大範囲幅を示します。  
 通年エネルギー消費効率(2006)は、JIS B 8616: 2006条件、(2015)は、JIS B 8616: 2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは、JIS B 8616: 2015, 音圧レベルは、JIS B 8616: 2006条件に基づいた値です。  
 (2) リモートコントローラの全形式は、標準パネルの場合のみ使用可能です。エアフレックパネル、ラクリーナパネル、お掃除ラクリーナパネルについては、RC-DX3のみ使用可能です。  
 (3) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速(急・強・弱)となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定(P急・急・強)としてください。  
 (4) 外気温が-5℃以下で冷房運転を行う場合、フレックスフローアダプタおよび防雪フード(別売)を取付けてください。  
 (5) お掃除ラクリーナパネル使用時、外形寸法の本体高さはプラス110mm高くなります。(詳細は外形図をご覧ください。)  
 (6) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.14kW

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDTZ-H〕

セット形式		FDTZ1125H5S	FDTZ1405H5S	FDTZ1605H5S	
項目	形式	室内：FDTZP1605S 室外：FDCZP1125H	室内：FDTZP1605S 室外：FDCZP1405H	室内：FDTZP1605S 室外：FDCZP1605H	
パネル形式（別売品）		54ページをご覧ください。			
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2, RC-D4G (2)			
電源		三相 200V 50/60Hz			
(1)能力	冷房能力	定格	100 [27~112]	125 [34~140]	140 [37~160]
		中温	4.5 (中温:4.7)	5.7 (中温:5.9)	6.3 (中温:6.5)
	暖房能力	最小中温	2.7	3.4	3.7
		定格標準	11.2 [2.8~14.3] (最小:2.8)	14.0 [3.5~18.3] (最小:3.5)	16.0 [4.0~20.3] (最小:4.0)
定格冷房時の顕熱比		0.84	0.75	0.71	
(1)運転特性	運転電流	冷房	6.5	9.7	12.0
		暖房	7.1	9.9	12.5
	始動電流 (最大電流)		5 (23)	5 (23)	5 (23)
			2.15	3.18	3.94
消費電力	冷房	定格	0.679 (中温:0.574)	0.895 (中温:0.755)	1.02 (中温:0.878)
		最小中温	0.312	0.375	0.436
	暖房	定格標準	2.34 (最小:0.438)	3.26 (最小:0.532)	4.10 (最小:0.636)
		最大低温	0.748	1.00	1.17
力率		4.98	5.88	5.88	
エネルギー消費効率	冷房	冷:95, 暖:95	冷:95, 暖:95	冷:95, 暖:95	
		定格:4.65, 中間:6.63	定格:3.93, 中間:6.73	定格:3.55, 中間:6.18	
	暖房	冷:4.79, 中間:6.82	冷:4.29, 中間:6.30	冷:3.90, 中間:6.15	
		通年エネルギー消費効率 (2015)	6.8	6.5	6.2
通年エネルギー消費効率 (2006)		6.4	5.9	5.6	
運転音	室内ユニット	パワーレベル音圧レベル	P急:63, 急:58, 強:50, 弱:45 P急:48, 急:42, 強:35, 弱:29	P急:63, 急:58, 強:51, 弱:46 P急:48, 急:42, 強:36, 弱:30	P急:63, 急:58, 強:53, 弱:46 P急:48, 急:42, 強:38, 弱:31
	室外ユニット	パワーレベル音圧レベル	冷:66, 暖:66 冷:49, 暖:50	冷:67, 暖:69 冷:50, 暖:52	冷:68, 暖:70 冷:52, 暖:53
室内ユニット	外形寸法 (高さ×幅×奥行)		mm 本体:298×840×840 (5), パネル:35×950×950		
	製品質量		kg 本体:27, 標準パネル:5, エアフレックパネル:6, ラクリーナパネル:7, お掃除ラクリーナパネル:12		
	送風装置		アルミフィン&銅チューブ式 ターボ式 (モータ直結) ×1		
	形式・台数				
	風量	m³/min	P急:36, 急:25, 強:22, 弱:18	P急:36, 急:27, 強:24, 弱:19	P急:36, 急:28, 強:25, 弱:20
	機外静圧 (標準風量時)	Pa	0		
	電動機定格出力	W	120		
	エアフィルタ		プラスチックネット (洗浄可能)		
	吹出ダクト接続口		側板を利用して可能 (100×100, 200×100ダクト接続)		
	新鮮空気取入口		側板を利用して可能 (65×112ダクト接続)		
運転調整	操作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気, グリル昇降), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転・点検用・LED, 液晶表示)				
	遠方発停用機能				
	遠方発停入力用コネクタ (CnT: 6P, CnTA: 2P) を保有 (室内基板上)				
	加湿器				
防振装置	防音・断熱材				
	送風用電動機:防振ゴム, 外板:吸音断熱材貼付				
室外ユニット	外形寸法 (高さ×幅×奥行)		mm 1505×970×370		
	製品質量		kg 115		
	圧縮機	形式・台数	RMT5126SWE2 ×1		
		電動機出力	2.0	2.7	3.4
	送風装置		アルミフィン&銅チューブ式 電子膨張弁		
	冷媒封入量		kg 4.2 (R32) 【配管30m分封入済】		
	冷凍機油封入量		ℓ 0.9 (M-MB75)		
	送風装置	形式・台数	軸流式 (モータ直結) ×2		
		風量	m³/min	冷:92, 暖:92	冷:92, 暖:100
	電動機定格出力	W	86 ×2		
クラックケースヒータ	W	20			
低外気温時冷房運転制御機能		室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温-15℃~50℃で冷房運転可能(4)			
除霜		マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式			
防振・防音装置		圧縮機:防振ゴム, 吸音断熱材巻付			
配管寸法	冷媒配管 (外径)	液管	φ9.52 (フレア接続)		
	ガス管		φ15.88 (フレア接続)		
排水		【室内】VP25の排水管の接続可能【室外】内径φ20mmの排水穴×3個			
電気配線	電源配線サイズ		mm² 0.55 ×3本		
	漏電しゃ断器 (高調波対応品)		A 30		
	開閉器または配線用しゃ断器		30		
	アース線サイズ		φmm φ1.6		
室内外ユニット接続配線		φmmφ30mmφ φ1.6 ×3本 (~70mm), φ3.5 ×3本 (~120mm)			
設計圧力		MPa 高圧部:4.15, 低圧部:2.26			
法定冷凍能力		トン 1.04 (届出不要)		1.39 (届出不要)	
IPコード		室内:IPX0, 室外:IPX4			
保護装置		冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護			

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616 : 2015およびJRA4048 : 2006条件により運転した値です。[ ~ ]は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率 (2006) は, JIS B 8616 : 2006条件, (2015) は, JIS B 8616 : 2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは, JIS B 8616 : 2015, 音圧レベルは, JIS B 8616 : 2006条件に基づいた値です。  
 (2) リモートコントローラの全形式は, 標準パネルの場合のみ使用可能です。エアフレックパネル, ラクリーナパネル, お掃除ラクリーナパネルについては, RC-DX3のみ使用可能です。  
 (3) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速 (急・強・弱) となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定 (P急・急・強) としてください。  
 (4) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合, フレックスフローアダプタおよび防雪フード (別売) を取付けてください。  
 (5) お掃除ラクリーナパネル使用時, 外形寸法の本体高さはプラス110mm高くなります。(詳細は外形図をご覧ください。)  
 (6) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.14kW

(2)天井埋込形2方向吹出し (FDTWZ)  
 冷暖房兼用機 (ヒータレス単相電源形)〔FDTWZ+HK〕

セット形式		形式		FDTWZ805HK4B	
項目	形式	室内: FDTWZVP804B 室外: FDCZP805HK			
パネル形式 (別売品)		54ページをご覧ください。			
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2, RC-D4G			
電源		単相 200V 50/60Hz			
(1)能力	冷房能力	定格	kW	7.1 [1.8~8.0]	
		中間		3.2 (中温: 3.3)	
	暖房能力	最少中温	kW	1.8	
		定格標準		8.0 [2.0~10.0] (最少: 2.0)	
		中間		3.6	
	最大低温		8.1		
	定格冷房時の顕熱比		0.68		
(1)運転	運転電流	冷房	A	10.2	
		暖房		11.1	
特性	消費電力	始動電流 (最大電流)	kW	5 (18)	
		冷房		2.02	
		最少中温		0.577 (中温: 0.474)	
		定格標準		0.221	
		中間		2.19 (最少: 0.372)	
		最大低温		0.661	
	力率		%	3.23	
	エネルギー消費効率	冷房		冷: 99, 暖: 99	
		暖房		定格: 3.51, 中間: 5.55	
	通年エネルギー消費効率 (2015)			定格: 3.65, 中間: 5.45	
	消費効率 (2006)			5.6	
運転音	室内ユニット	パワーレベル音圧レベル	dB(A)	P急: 61, 急: 56, 強: 54, 弱: 50	
	室外ユニット	パワーレベル音圧レベル		P急: 45, 急: 40, 強: 38, 弱: 34	
				冷: 65, 暖: 66	
				冷: 48, 暖: 48	
室内ユニット	外形寸法 (高さ×幅×奥行)	mm	本体: 325×820×620, パネル: 20×1120×680		
	製品質量	kg	本体: 23, 標準パネル: 8.5, ラクリーナパネル: 10		
	送風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式		
		風量	m <sup>3</sup> /min	ターボ式 (モータ直結) ×	
		機外静圧 (標準風量時)	Pa	P急: 16.5, 急: 13, 強: 12, 弱: 10	
		電動機定格出力	W	0	
		エアフィルタ		50	
		吹出ダクト接続口		プラスチックネット (洗浄可能)	
		新鮮空気取入口		φ200mmフレキシブルダクト × 1, 接続可能 (ユニット側面) (片側直吹と併設可能) (3)	
		運転調整		側板を利用して可能 (φ125 フレキシブルダクト接続可能・天井内)	
ト	遠方発停機能		操作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気, グリル昇降), 室温調節 (電子サーモスタート), 表示 (運転・点検用・LED, 液晶表示)		
	加湿器		遠方発停入力用コネクタ (CnT: 6P, CnTA: 2P) を保有 (室内基板上)		
	防振装置・防音・断熱材		- (気化式加湿器取付可能)		
室外ユニット	外形寸法 高さ×幅×奥行	mm	845 × 970 × 370		
	製品質量	kg	70		
	冷却装置	圧縮機	形式・台数	RMT5118SWE1 × 1	
			電動機出力	1.4	
		空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量	kg	3.6 (R32) [配管30m分封入済]	
		冷凍機油封入量	ℓ	0.675 (M-MB75)	
	送風装置	形式・台数		軸流式 (モータ直結) × 1	
		風量	m <sup>3</sup> /min	冷: 52, 暖: 48	
	電動機定格出力	W	86		
	クランクケースヒータ	W	20		
	低外気温時冷房運転制御機能		室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温度-15℃~50℃で冷房運転可能(4)		
	除霜		マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式		
	防振・防音装置		圧縮機: 防振ゴム, 吸音断熱材巻付		
配管寸法	冷媒配管 (外径)	液管	mm	φ9.52 (フレア接続)	
		ガス管		φ15.88 (フレア接続)	
電気配線	排水口		〔室内〕 VP25の排水管の接続可能 (室外) 内径φ20mmの排水穴×3個		
	電源配線サイズ	mm <sup>2</sup>	□3.5/□3.5 × 2本		
設計	漏電しゃ断器 (高調波対応品)	A	30/30		
	開閉器または配線用しゃ断器		30/30		
I P コー	アース線サイズ	φmm	φ1.6/φ1.6		
	室内外ユニット接続配線	φmm	φ1.6 × 3本		
保護装置	計圧力	MPa	高圧部: 4.15, 低圧部: 2.26		
	法定冷凍能力	トン	0.74 (届出不要)		
			室内: IPX0, 室外: IPX4		
			冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護		

- 注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616: 2015条件により運転した値です。 [ ~ ] は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率 (2006) は, JIS B 8616: 2006条件, (2015) は, JIS B 8616: 2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは, JIS B 8616: 2015, 音圧レベルは, JIS B 8616: 2006条件に基づいた値です。  
 (2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速 (急・強・弱) となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定 (P急・急・強) としてください。  
 (3) 送風は吹出分岐ダクト側にしてください。  
 (4) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合, フレックスフローアダプタおよび防雪フード (別売) を取付けてください。  
 (5) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.06kW

# 冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDTWZ-H〕

セット形式		形式		FDTWZ805H4B		
項目	形式	室内：FDTWZVP804B 室外：FDCZP805H				
パネル形式（別売品）		54ページをご覧ください。				
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2, RC-D4G				
電源		三相 200V 50/60Hz				
(1)能力	冷房能力	定格	kW	7.1 [1.8～8.0]		
		最少中温		3.2 (中温：3.3)		
	暖房能力	定格標準	kW	8.0 [2.0～10.0] (最少：2.0)		
		最大低温		3.6		
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	6.3		
		暖房		6.9		
	始動電流（最大電流）		kW	5 (13)		
		冷房		定格	1.99	
				最少中温	0.572 (中温：0.465)	
		暖房		定格標準	0.219	
	最大低温		2.15 (最少：0.362)			
	力率		%	冷：91, 暖：90		
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.57, 中間：5.59		
	通年エネルギー消費効率	暖房		定格：3.72, 中間：5.50		
運転音	室内ユニット	パワーレベル音圧レベル	dB(A)	P急：61, 急：56, 強：54, 弱：50		
	室外ユニット	パワーレベル音圧レベル		P急：45, 急：40, 強：38, 弱：34		
室内ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）	mm	本体：325×820×620, パネル：20×1120×680			
	製品質量	kg	本体：23, 標準パネル：8.5, ラクリーナパネル：10			
	送風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式 ターボ式（モータ直結）×1			
	送風量	m³/min	P急：16.5, 急：13, 強：12, 弱：10			
	電動機定格出力	W	0			
	エアフィルタ		プラスティックネット（洗浄可能）			
	吹出ダクト接続口		φ200mmフレキシブルダクト×1, 接続可能（ユニット側面）（片側直吹と併設可能） <sup>(3)</sup>			
	新鮮空気取入口		側板を利用して可能（φ125フレキシブルダクト接続可能・天井内）			
	運転調整		操作（運転切換, 風量調整, タイマ, 換気, グリル昇降）, 室温調節（電子サーモスタート）, 表示（運転・点検用・LED, 液晶表示）			
	遠方発停機機能		遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）			
室外ユニット	加湿器		—（気化式加湿器取付可能）			
	防振装置・防音・断熱材		送風用電動機：防振ゴム, 外板：吸音断熱材貼付			
	外形寸法（高さ×幅×奥行）	mm	845×970×370			
	製品質量	kg	70			
	圧縮機	形式・台数		RMT5118SWE1×1		
		電動機出力	kW	1.4		
	送風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式 電子膨張弁			
	冷媒封入量	kg	3.6 (R32) [配管30m分封入済]			
	冷凍機油封入量	ℓ	0.675 (M-MB75)			
	送風装置	形式・台数	軸流式（モータ直結）×1			
送風量	m³/min	冷：52, 暖：48				
電動機定格出力	W	86				
クラックケースヒータ	W	20				
低外気温時冷房運転制御機能		室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温-15℃～50℃で冷房運転可能 <sup>(4)</sup>				
除霜		マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式				
防振・防音装置		圧縮機：防振ゴム, 吸音断熱材巻付				
配管寸法	冷媒配管（外径）	mm	φ9.52（フレア接続） φ15.88（フレア接続）			
	排水管		〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個			
電気配線	電源配線サイズ	mm²	□3.5/□3.5×3本			
	漏電しゃ断器（高調波対応品）	A	30/30			
設計	開閉器または配線用しゃ断器		20/20			
	アース線サイズ	φmm	φ1.6/φ1.6			
設定	室内外ユニット接続配線	φmm	φ1.6×3本			
	圧力	MPa	高圧部：4.15, 低圧部：2.26			
I P コ ー ド	法定冷能力	トン	0.74（届出不要）			
	保護装置		室内：IPX0, 室外：IPX4 冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護			

- 注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616：2015条件により運転した値です。〔～〕は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率（2006）は、JIS B 8616：2006条件、（2015）は、JIS B 8616：2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは、JIS B 8616：2015、音圧レベルは、JIS B 8616：2006条件に基づいた値です。  
 (2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速（急・強・弱）となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定（P急・急・強）としてください。  
 (3) 送風は吹出分岐ダクト側にしてください。  
 (4) 外気温が-5℃以下で冷房運転を行う場合、フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。  
 (5) BEST計算用 室内送風機消費電力：0.06kW

# 冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDTWZ-H〕

セット形式		FDTWZ1125H4B	FDTWZ1405H4B	FDTWZ1605H4B	
項目	形式	室内：FDTWZVP1124B 室外：FDCZP1125H	室内：FDTWZVP1404B 室外：FDCZP1405H	室内：FDTWZVP1604B 室外：FDCZP1605H	
パネル形式（別売品）		54ページをご覧ください。			
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2, RC-D4G			
電		三相 200V 50/60Hz			
(1)能力	冷房能力	定格	100 [2.7 ~ 11.2]	12.5 [3.2 ~ 14.0]	14.0 [3.7 ~ 16.0]
		中温	4.5 (中温: 4.6)	5.7 (中温: 5.9)	6.3 (中温: 6.4)
	暖房能力	最少中温	2.7	3.2	3.7
		定格標準	11.2 [2.8 ~ 14.3] (最小: 2.8)	14.0 [3.5 ~ 18.3] (最小: 3.5)	16.0 [4.1 ~ 20.3] (最小: 4.1)
定格冷房時の顕熱比		0.76	0.69	0.67	
(1)運転	運転電流	冷房	7.9	12.0	14.1
		暖房	8.1	11.7	14.1
特性	始動電流（最大電流）		5 (23)		
			2.60	3.95	4.64
	消費電力	冷房	0.700 (中温: 0.544)	0.986 (中温: 0.795)	1.11 (中温: 0.916)
		暖房	0.314	0.393	0.444
	力	率	2.67 (最小: 0.477)	3.85 (最小: 0.629)	4.63 (最小: 0.728)
		率	0.842	1.09	1.34
エネルギー消費効率	冷房	率	5.40	6.21	6.25
		率	冷: 95, 暖: 95	冷: 95, 暖: 95	冷: 95, 暖: 95
	暖房	率	冷: 95, 暖: 95	冷: 95, 暖: 95	冷: 95, 暖: 95
		率	冷: 95, 暖: 95	冷: 95, 暖: 95	冷: 95, 暖: 95
通年エネルギー消費効率	率	冷: 95, 暖: 95	冷: 95, 暖: 95	冷: 95, 暖: 95	
	率	冷: 95, 暖: 95	冷: 95, 暖: 95	冷: 95, 暖: 95	
運転音	室内ユニット	パワーレベル	P急: 63, 急: 60, 強: 56, 弱: 52		
	室外ユニット	パワーレベル	P急: 48, 急: 45, 強: 41, 弱: 37		
室内ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）	mm	本体: 325 × 1535 × 620, パネル: 20 × 1835 × 680		
	製品質量	kg	本体: 35, 標準パネル: 13, ラクリーナパネル: 15		
	送風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式 ターボ式（モータ直結）× 1		
	電動機	定格出力	35×2	40×2	
	吹出ダクト接続口		φ200mmフレキシブルダクト×1, 接続可能（ユニット側面）（片側直吹と併設可能） <sup>(4)</sup>		
	新鮮空気取入口		側板を利用して可能（φ125フレキシブルダクト接続可能・天井内）		
	遠方発停用機能		操作（運転切換, 風量調整, タイマ, 換気, グリル昇降）, 室温調節（電子サーモスタート）, 表示（運転・点検用・LED, 液晶表示） 遠方発停入力用コネクタ（CnT: 6P, CnTA: 2P）を保有（室内基板上）		
	加湿器		—（気化式加湿器取付可能）		
	防振装置・防音・断熱材		送風用電動機: 防振ゴム, 外板: 吸音断熱材貼付		
	室外ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）	mm	1505 × 970 × 370	
製品質量		kg	115		
圧縮機		形式・台数	RMT5126SWE2 × 1		
電動機出力		kW	2.0	2.7	3.4
送風装置		形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式 電子膨張弁		
冷媒封入量		kg	4.2 (R32) 【配管30m分封入済】		
冷凍機油封入量		ℓ	0.9 (M-MB75)		
送風装置		形式・台数	軸流式（モータ直結）× 2		
電動機		定格出力	86 × 2		冷: 92, 暖: 100
除霜			マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式		
配管寸法	冷媒配管（外径）	mm	φ9.52（フレア接続） φ15.88（フレア接続）		
	排水口		〔室内〕 VP25の排水管の接続可能〔室外〕 内径φ20mmの排水穴×3個		
	電源配線サイズ	mm <sup>2</sup>	□5.5/□5.5 × 3本		
	電気配線	A	30/30 30/30		
設計	計圧	MPa	φ1.6/φ1.6 φ1.6 × 3本（～70mm）, □3.5 × 3本（～120mm）		
	圧力	MPa	高圧部: 4.15, 低圧部: 2.26		
法定	冷房能力	トン	1.04 (届出不要)	1.39 (届出不要)	1.62 (届出不要)
	IPコード		室内: IPX0, 室外: IPX4		
保護装置		冷房時 Frost 防止, 過負荷保護, 吐出温度保護			

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616: 2015条件により運転した値です。〔 ～ 〕は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率（2006）は、JIS B 8616: 2006条件、（2015）は、JIS B 8616: 2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは、JIS B 8616: 2015、音圧レベルは、JIS B 8616: 2006条件に基づいた値です。  
 (2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速（急・強・弱）となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定（P急・急・強）としてください。  
 (3) 送風は吹出分岐ダクト側にしてください。  
 (4) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合、フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。  
 (5) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.10kW (160形: 0.11kW)

(3)天井埋込形1方向吹出し (FDTSZ)  
 冷暖房兼用機 (ヒータレス単相電源形) (FDTS-HK)

セット形式		形式		FDTSZ805HK4B		
項目	形式	室内: FDTSZVP804B 室外: FDCZP805HK				
パナール形式 (別売品)	標準仕様 (直吹き)・オートスイング付 下がり天井仕様・オートスイングなし	TS-PSA-3AW TS-PNA-3AW				
リモートコントロール		RC-DX3, RC-DX2, RC-D4G				
電源		単相 200V 50/60Hz				
(1)能力	冷房能力	定格	7.1 [1.8~8.0]			
		中間	3.2 (中温: 3.2)			
	暖房能力	最小中温	1.8			
		定格標準	8.0 [2.1~10.0] (最小: 2.0)			
定格冷房時の顕熱比	最大低温	3.6				
(1)運転特性	運転電流	冷房	9.7			
		暖房	10.9			
	消費電力	始動電流 (最大電流)		5 (18)		
		冷房	定格	1.93		
			中間	0.602 (中温: 0.495)		
		暖房	最小中温	0.241		
	定格標準		2.16 (最小: 0.381)			
	力	中間	0.690			
		最大低温	3.42			
	率			冷: 99, 暖: 99		
エネルギー消費効率	冷房	定格: 3.68, 中間: 5.32				
	暖房	定格: 3.70, 中間: 5.22				
通年エネルギー消費効率	(2015)	5.4				
	(2006)	4.9				
室内ユニット	パワーレバ	P急: 65, 急: 61, 強: 56, 弱: 51				
	音圧レベル	P急: 50, 急: 46, 強: 41, 弱: 36				
室外ユニット	パワーレバ	冷: 65, 暖: 66				
	音圧レベル	冷: 48, 暖: 48				
室内ユニット	外形寸法 (高さ×幅×奥行)	mm	本体: 220×1150×565, パネル: 35×1460×650			
	製品質量	kg	本体: 28, 標準パネル: 6, 下がり天井パネル: 6			
	送風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式			
	風量	m <sup>3</sup> /min	両吸込多翼遠心式 (モータ直結) ×			
	機外静圧 (標準風量時)	Pa	P急: 18, 急: 15, 強: 12, 弱: 10			
	電動機定格出力	W	0			
	エアフィルタ		70			
	吹出ダクト接続口		プラスチックネット (洗浄可能)			
	新鮮空気取入口		不可能			
	運転調整		背面を利用して可能			
ト	遠方発停用機能	操作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転・点検用・LED, 液晶表示)				
	加湿器	遠方発停入力用コネクタ (OnT: 6P, CnTA: 2P) を保有 (室内基板上)				
	防振装置・防音・断熱材	- (組込不可能)				
		送風用電動機: 防振ゴム, 外板: 吸音断熱材貼付				
室外ユニット	外形寸法 (高さ×幅×奥行)	mm	845×970×370			
	製品質量	kg	70			
	冷却装置	圧縮機形式・台数	RMT5118SWE1×1			
		電動機出力	1.4			
	空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式			
	冷媒制御器		電子膨張弁			
	冷媒封入量	kg	3.6 (R32) 【配管30m分封入済】			
	冷凍機油封入量	ℓ	0.675 (M-MB75)			
	送風装置	形式・台数	軸流式 (モータ直結) ×1			
		風量	m <sup>3</sup> /min	冷: 52, 暖: 48		
電動機定格出力	W	86				
クランクケースヒータ	W	20				
低外気温時冷房運転制御機能		室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温-15℃~50℃で冷房運転可能 <sup>(3)</sup>				
除霜		マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式				
防振・防音装置		圧縮機: 防振ゴム, 吸音断熱材巻付				
配管寸法	冷媒配管 (外径)	液管	φ9.52 (フレア接続)			
	ガス管	φ15.88 (フレア接続)				
排水口		【室内】VP25の排水管の接続可能【室外】内径φ20mmの排水穴×3個				
電気配線	電源配線サイズ	mm <sup>2</sup>	□3.5/□3.5×2本			
	漏電しゃ断器 (高調波対応品)	A	30/30			
	開閉器または配線用しゃ断器		30/30			
	アース線サイズ	φmm	φ1.6/φ1.6			
室内外ユニット接続配線	φmm	φ1.6×3本				
設計法定冷能力	計圧力	MPa	高圧部: 4.15, 低圧部: 2.26			
	冷能力	トン	0.74 (届出不要)			
IPコード		室内: IPX0, 室外: IPX4				
保護装置		冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護				

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616: 2015条件により運転した値です。[ ~ ]は最小最大範囲幅を示します。

通年エネルギー消費効率 (2006) は, JIS B 8616: 2006条件, (2015) は, JIS B 8616: 2015条件に基づいた値です。

運転音のパワーレベルは, JIS B 8616: 2015, 音圧レベルは, JIS B 8616: 2006条件に基づいた値です。

(2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速 (急・強・弱) となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定 (P急・急・強) としてください。

(3) 外気温が-5℃以下で冷房運転を行う場合, フレックスフローアダプタおよび防雪フード (別売) を取付けてください。

(4) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.09kW

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDTSZ-H〕

セット形式		形式		FDTSZ805H4B	
項目	形式	室内：FDTSZVP804B 室外：FDCZP805H			
パナール形式 (別売品)	標準仕様(直吹き)・オートスイング付 下がり天井仕様・オートスイングなし	TS-PSA-3AW TS-PNA-3AW			
リモートコントロール		RC-DX3, RC-DX2, RC-D4G			
(1)能力	冷房能力	定格	三相 200V 50/60Hz		
		中間	7.1 [1.8~8.0]		
	暖房能力	最小	3.2 (中温:3.2)		
		標準	1.8		
		最大	8.0 [2.0~10.0] (最小:2.0)		
定格冷房時の顕熱比		0.70			
(1)運転特性	運転電流	冷房	6.0		
		暖房	6.8		
	消費電力	始動電流(最大電流)		5 (13)	
		冷房	定格	1.90	
			中間	0.592 (中温:0.485)	
暖房	最小	0.238			
	定格標準	2.11 (最小:0.375)			
室内ユニット	音圧レベル	冷房	0.678		
		暖房	3.35		
	電力率	冷房	冷:91, 暖:90		
		暖房	冷:91, 暖:90		
		中間	冷:91, 暖:90		
エネルギー消費効率	冷房	冷房:3.74, 中間:5.41			
暖房	暖房:3.79, 中間:5.31				
通年エネルギー消費効率(2015)		5.5			
通年エネルギー消費効率(2006)		5.0			
室内ユニット	パワーレベル	P急:65, 急:61, 強:56, 弱:51			
	音圧レベル	P急:50, 急:46, 強:41, 弱:36			
室外ユニット	パワーレベル	冷:65, 暖:66			
	音圧レベル	冷:48, 暖:48			
室内ユニット	外形寸法(高さ×幅×奥行)	mm	本体:220×1150×565, パネル:35×1460×650		
	製品質量	kg	本体:28, 標準パネル:6, 下がり天井パネル:6		
	送風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式		
	風量	m <sup>3</sup> /min	両吸込多翼遠心式(モータ直結)×		
	機外静圧(標準風量時)	Pa	P急:18, 急:15, 強:12, 弱:10		
	電動機定格出力	W	0		
	エアフィルタ		70		
	吹出ダクト接続口		プラスチックネット(洗浄可能)		
	新鮮空気取入口		不可能		
	運転調整		背面を利用して可能		
	遠方発停用機能		操作(運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節(電子サーモスタット), 表示(運転・点検用・LED, 液晶表示)		
	加湿器		遠方発停入力用コネクタ(CnT:6P, CnTA:2P)を保有(室内基板上)		
	防振装置・防音・断熱材		- (組込不可能)		
	送風用電動機		防振ゴム, 外板:吸音断熱材貼付		
	室外ユニット	外形寸法(高さ×幅×奥行)	mm	845×970×370	
製品質量		kg	70		
圧縮機		形式・台数	RMT5118SWE1×1		
		電動機出力	kW	1.4	
送風装置		形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式		
風量		m <sup>3</sup> /min	電子膨張弁		
機外静圧(標準風量時)		Pa	3.6 (R32) [配管30m分封入済]		
電動機定格出力		W	0.675 (M-MB75)		
エアフィルタ			0.675 (M-MB75)		
吹出ダクト接続口			軸流式(モータ直結)×1		
新鮮空気取入口			冷:52, 暖:48		
運転調整			86		
遠方発停用機能			20		
加湿器			室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温度-15℃~50℃で冷房運転可能 <sup>(3)</sup>		
防振装置・防音・断熱材			マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式		
送風用電動機		圧縮機:防振ゴム, 吸音断熱材巻付			
配管寸法	冷媒配管(外径)	mm	φ9.52 (フレア接続)		
	ガス管		φ15.88 (フレア接続)		
	排水口		〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個		
電気配線	電源配線サイズ	mm <sup>2</sup>	□3.5/□3.5×3本		
	漏電しゃ断器(高調波対応品)	A	30/30		
	開閉器または配線用しゃ断器		20/20		
	アース線サイズ	φmm	φ1.6/φ1.6		
	室内外ユニット接続配線	φmm	φ1.6×3本		
設定	計圧力	MPa	高圧部:4.15, 低圧部:2.26		
	法定冷凍能力	トン	0.74 (届出不要)		
	IPコード		室内:IPX0, 室外:IPX4		
保護装置		冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護			

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616:2015およびJRA4048:2006条件により運転した値です。[ ~ ]は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率(2006)は、JIS B 8616:2006条件、(2015)は、JIS B 8616:2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは、JIS B 8616:2015、音圧レベルは、JIS B 8616:2006条件に基づいた値です。  
 (2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速(急・強・弱)となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定(P急・急・強)としてください。  
 (3) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合、フレックスフローアダプタおよび防雪フード(別売)を取付けてください。  
 (4) BEST計算用 室内送風機消費電力:0.09kW

(4)天埋カセテリア (FDRZ)  
冷暖房兼用機 (ヒータレス単相電源形)〔FDRZ-HK〕

セット形式		FDRZ805HK4B			
形式		室内：FDRZVP804B 室外：FDCZP805HK			
項目		サイレントパネル	キャンパスパネル		
吸込パネル形式(別売品)		R-PNS-3AW	R-PNC-3AW		
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2			
電	力	源格	kW	単相 200V 50/60Hz	
				7.1 [1.8 ~ 8.0]	
				3.2 (中温: 3.3)	
				1.8	
				8.0 [2.1 ~ 10.0] (最小: 2.1)	
				3.6	
(1) 運	特	性	A	9.8	
				9.9	
				5 (20)	
				1.94	
				0.592 (中温: 0.467)	
				0.269	
運	音	dB(A)	P急: 68, 急: 64, 強: 60, 弱: 52	P急: 69, 急: 65, 強: 61, 弱: 53	
				P急: 47, 急: 43, 強: 39, 弱: 31	P急: 48, 急: 44, 強: 40, 弱: 32
				冷: 65, 暖: 66	
				冷: 48, 暖: 48	
				冷: 99, 暖: 99	
				定格: 3.66, 中間: 5.41	
室	内	mm	kg	サイレントパネル使用: 348 × 950 × 635, キャンパスパネル使用: (348 + α) × 950 × 635 (2)	
				20 × 1240 × 750	20 × 1064 × 585
				本体: 34, パネル: 11.4	本体: 34, パネル: 9.3
				アルミフィン&銅チューブ式	
				両吸込多翼遠心式 (モータ直結) × 2	
				P急: 24, 急: 19, 強: 15, 弱: 10	
送	風	Pa	W	定格: 30, 最小: 10, 最大: 100 (リモコンから設定)	
				130	
				プラスチックネット (洗浄可能)	
				前面 (φ200mm フレキシブルダクト × 3 スポット接続)	
				新鮮外気取入 (側面: φ125mm, 背面: φ150mm フレキシブルダクト接続), 排気 (側面: φ125mm フレキシブルダクト接続)	
				操作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転・点検用・LED, 液晶表示)	
加	湿	器	mm	遠方発停入力用コネクタ (CnT: 6P, CnTA: 2P) を保有 (室内基板上)	
				- (組込不可能)	
				送風用電動機: 防振ゴム, 外板: 吸音断熱材貼付	
				845 × 970 × 370	
				70	
				RMT5118SWE1 × 1	
室	外	kW	kg	アルミフィン&銅チューブ式	
				電子膨張弁	
				3.6 (R32) [配管30m分封入済]	
				0.675 (M-MB75)	
				軸流式 (モータ直結) × 1	
				冷: 52, 暖: 48	
送	風	m³/min	W	86	
				20	
				室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温度-15℃~50℃で冷房運転可能(5)	
				マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式	
				圧縮機: 防振ゴム, 吸音断熱材巻付	
				φ9.52 (フレア接続)	
配	管	mm	mm²	φ15.88 (フレア接続)	
				[室内] VP25の排水管の接続可能 [室外] 内径φ20mmの排水穴×3個	
				□3.5/□3.5 × 2本	
				30/30	
				30/30	
				φ1.6/φ1.6	
電	気	A	φmm	φ1.6 × 3本	
				φ1.6 × 3本	
				高圧部: 4.15, 低圧部: 2.26	
				0.74 (届出不要)	
				室内: IPX0, 室外: IPX4	
				冷房時 Frost 防止, 過負荷保護, 吐出温度保護	

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616: 2015条件により運転した値です。 [ ~ ] は最小最大範囲幅を示します。  
 通年エネルギー消費効率 (2006) は, JIS B 8616: 2006条件, (2015) は, JIS B 8616: 2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは, JIS B 8616: 2015, 音圧レベルは, JIS B 8616: 2006条件に基づいた値です。  
 (2) キャンパス仕様の本体高さはキャンパスダクト分が+αされます。  
 (3) パネルの外形寸法は天井から露出する部分を示し, 天井部分は本体高さに含まれます。  
 (4) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速 (急・強・弱) となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定 (P急・急・強) としてください。  
 (5) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合, フレックスフローアダプタおよび防雪フード (別売) を取付けてください。  
 (6) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.14kW

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDRZ-H〕

セット形式		FDRZ805H4B		
形式		室内：FDRZV/P804B 室外：FDCZP805H		
項目	形式			
吸込パネル形式(別売品)	サイレントパネル	R-PNS-3AW	キャンバスパネル	
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2		
(1)能力	電源規格 冷房能力 暖房能力 定格冷房時の顕熱比	kW	三相 200V 50/60Hz	
			7.1 [1.8~8.0]	
			3.2 (中温:3.3)	
			1.8	
			8.0 [2.1~10.0] (最小:2.1)	
(1)運転特性	(1)運転	A	冷房 6.0	
			暖房 6.2	
	消費電力	kW	冷房 1.90	
			0.582 (中温:0.460)	
			0.265	
			1.92 (最小:0.410)	
	エネルギー消費効率	%	冷房 91, 暖房 89	
			定格:3.74, 中間:5.50	
			定格:4.17, 中間:5.53	
			2015年:5.6 2006年:5.3	
運転音	dB(A)	P急:68, 急:64, 強:60, 弱:52 P急:47, 急:43, 強:39, 弱:31		
		冷:65, 暖:66 冷:48, 暖:48		
室内ユニット	外形寸法(高さ×幅×奥行)パネル	mm	サイレントパネル使用:348×950×635, キャンバスパネル使用:(348+α)×950×635 <sup>(2)</sup> 20×1240×750 20×1064×585	
	製品質量	kg	本体:34, パネル:114 本体:34, パネル:9.3	
	送風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式 両吸込多翼遠心式(モータ直結)×2	
	送風量	m³/min	P急:24, 急:19, 強:15, 弱:10	
	機外静圧(標準風量時)	Pa	定格:30, 最小:10, 最大:100(リモコンから設定)	
	電動機定格出力	W	130	
	吹出ダクト接続		プラスチックネット(洗浄可能)	
	新鮮空気取入口		前面(φ200mmフレキシブルダクト×3スポット接続)	
	運転調整		新鮮空気取入(側面:φ125mm, 背面:φ150mmフレキシブルダクト接続), 排気(側面:φ125mmフレキシブルダクト接続)	
	遠方発停用機能		操作(運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節(電子サーモスタット), 表示(運転:点検用・LED, 液晶表示) 遠方発停入力用コネクタ(CnT:6P, CnTA:2P)を保有(室内基板上) -(組込不可能)	
室外ユニット	防振装置・防音・断熱材		送風電動機:防振ゴム, 外板:吸音断熱材貼付	
	外形寸法(高さ×幅×奥行)製品質量	mm/kg	845×970×370 70	
	圧縮機	形式・台数		RMT5118SWE1×1
		電動機出力	kW	1.4
	冷媒制御	冷媒封入量	kg	アルミフィン&銅チューブ式 電子膨張弁 3.6 (R32) [配管30m分封入済]
		冷凍機油封入量	ℓ	0.675 (M-MB75)
	送風装置	形式・台数		軸流式(モータ直結)×1
		電動機定格出力	W	冷:52, 暖:48 86
	クラックケースヒータ	W		20
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風電動機制御及び圧縮機制御により外気温度-15℃~50℃で冷房運転可能 <sup>(5)</sup>
配管寸法	冷媒配管(外径)	液管/mm ガス管/mm	φ9.52 (フレア接続) φ15.88 (フレア接続)	
	排水口		[室内] VP25の排水管の接続可能 [室外] 内径φ20mmの排水穴×3個	
	電源配線サイズ	mm²	□3.5/□3.5×3本	
電気配線	漏電しゃ断器(高調波対応品)	A	30/30	
	開閉器または配線用しゃ断器		20/20	
	アース線サイズ	φmm	φ1.6/φ1.6	
	室内外ユニット接続配線	φmm	φ1.6×3本	
設計圧力	MPa		高圧部:4.15, 低圧部:2.26	
法定冷凍能力	トン		0.74(届出不要)	
IPコード			室内:IPX0, 室外:IPX4	
保護装置			冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護	

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616:2015条件により運転した値です。[ ~ ]は最小最大範囲幅を示します。  
 通年エネルギー消費効率(2006)は、JIS B 8616:2006条件、(2015)は、JIS B 8616:2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは、JIS B 8616:2015、音圧レベルは、JIS B 8616:2006条件に基づいた値です。  
 (2) キャンバス仕様の本体高さはキャンバスダクト分が+αされます。  
 (3) パネルの外形寸法は天井から露出する部分を示し、天井部分は本体高さに含まれます。  
 (4) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速(急・強・弱)となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定(P急・急・強)としてください。  
 (5) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合、フレックスフローアダプタおよび防雪フード(別売)を取付けてください。  
 (6) BEST計算用 室内送風機消費電力:0.14kW

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDRZ-H〕

セット形式		FDRZ1125H4B		FDRZ1405H4B		FDRZ1605H4B				
形式		室内：FDRZVP1124B 室外：FDCZP1125H		室内：FDRZVP1404B 室外：FDCZP1405H		室内：FDRZVP1604B 室外：FDCZP1605H				
項目	形式	サイレントパネル	キャンパスパネル	サイレントパネル	キャンパスパネル	サイレントパネル	キャンパスパネル			
吸込パネル	パネル形式(別売品)	R-PNS-4AW	R-PNC-4AW	R-PNS-4AW	R-PNC-4AW	R-PNS-4AW	R-PNC-4AW			
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2								
(1)能力	冷房能力	定格	10.0 [2.7 ~ 11.2]		12.5 [3.2 ~ 14.0]		14.0 [3.7 ~ 16.0]			
		中間	4.5 (中温:4.5)		5.7 (中温:5.8)		6.3 (中温:6.4)			
		最小	2.7		3.2		3.7			
		定格標準	11.2 [2.9 ~ 14.3] (最小:2.9)		14.0 [3.5 ~ 18.3] (最小:3.5)		16.0 [4.0 ~ 20.3] (最小:4.0)			
		最大	5.1		6.3		7.2			
(1)運	転電流	冷房	7.4		11.2		13.0			
		暖房	8.4		12.0		13.1			
		始動電流 (最大電流)	5 (25)		5 (26)		5 (27)			
		消費電力	冷房	2.44		3.70		4.28		
			暖房	0.766 (中温:0.680)		1.05 (中温:0.940)		1.20 (中温:1.05)		
性	力	最小中温	0.350		0.445		0.505			
		定格標準	2.75 (最小:0.541)		3.95 (最小:0.705)		4.32 (最小:0.830)			
		中間	0.932		1.23		1.45			
		最大低温	5.45		6.04		6.10			
		率	冷:95, 暖:95		冷:95, 暖:95		冷:95, 暖:95			
運	音	室内ユニット	P急:70, 急:66, 強:62, 弱:56		P急:71, 急:66, 強:63, 弱:57		P急:74, 急:68, 強:63, 弱:58			
		室外ユニット	P急:49, 急:44, 強:41, 弱:35		P急:50, 急:45, 強:42, 弱:36		P急:51, 急:47, 強:42, 弱:37			
		音圧レベル	冷:66, 暖:66		冷:67, 暖:69		冷:68, 暖:70			
		音圧レベル	冷:49, 暖:50		冷:50, 暖:52		冷:52, 暖:53			
		音圧レベル	P急:75, 急:69, 強:64, 弱:59		P急:75, 急:69, 強:64, 弱:59		P急:75, 急:69, 強:64, 弱:59			
空	内	外形寸法	サイレントパネル使用:348×1370×738, キャンパスパネル使用:(348+α)×1370×738							
		高さ×幅×奥行	20×1658×850		20×1484×585		20×1658×850		20×1484×585	
		製品質量	本体:54, パネル:17		本体:54, パネル:13.5		本体:54, パネル:17		本体:54, パネル:13.5	
		製気熱交換器	アルミフィン&銅チューブ式							
		送風装置	形式・台数	両吸込多翼遠心式(モータ直結)×3						
二	ツ	風機外静圧(標準風量時)	P急:36, 急:28, 強:25, 弱:19		P急:39, 急:32, 強:25, 弱:20		P急:48, 急:35, 強:28, 弱:22			
		電動機定格出力	100+130		100+200					
		エアーフィルター	プラスチックネット(洗浄可能)							
		吹出ダクト接続口	前面(φ200mmフレキシブルダクト×4スポット接続)							
		新鮮空気取入口	新鮮空気取入(側面:φ125mm, 背面:φ150mmフレキシブルダクト接続), 排気(側面:φ125mmフレキシブルダクト接続)							
ト	加	連転調整	操作(運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節(電子サーモスタット), 表示(運転・点検用・LED, 液晶表示)							
		遠方発停力用コネクタ	遠方発停力用コネクタ(CnT:6P, CnTA:2P)を保有(室内基板上)							
		加湿器	- (組込不可能)							
		防振装置・防音・断熱材	送風用電動機:防振ゴム, 外板:吸音断熱材貼付							
		外形寸法	高さ×幅×奥行	1505×970×370						
室	外	製品質量	115							
		圧縮機形式・台数	RMT5126SWE2×1							
		電動機出力	2.0		2.7		3.4			
		冷媒制御装置	アルミフィン&銅チューブ式							
		冷凍機油封入量	電子膨張弁							
二	ツ	冷媒封入量	4.2 (R32) 【配管30m分封入済】							
		冷凍機油封入量	0.9 (M-MB75)							
		送風装置	形式・台数	軸流式(モータ直結)×2						
		電動機定格出力	冷:92, 暖:92		86×2		冷:92, 暖:100			
		クラックケースヒータ	20							
配	管	低外気温時冷房運転制御機能	室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温度-15℃~50℃で冷房運転可能 <sup>(5)</sup>							
		除霜	マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式							
		防振・防音装置	圧縮機:防振ゴム, 吸音断熱材巻付							
		冷媒配管	液管	φ9.52 (フレア接続)						
		ガス管	φ15.88 (フレア接続)							
電	気	排水口	【室内】VP25の排水管の接続可能【室外】内径φ20mmの排水穴×3個							
		電源配線サイズ	φ5.5/φ5.5×3本							
		漏電しゃ断器(高調波対応品)	60/60							
		開閉器または配線用しゃ断器	40/40							
		アース線サイズ	φ2.0/φ2.0							
設	計	室内外ユニット接続配線	φ1.6×3本(~70mm), φ3.5×3本(~120mm)							
		圧力	高圧部:4.15, 低圧部:2.26							
		冷房能力	1.04 (届出不要)		1.39 (届出不要)		1.62 (届出不要)			
		IPコード	室内:IPX0, 室外:IPX4							
		保護装置	冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護							

注(1)能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616:2015条件により運転した値です。[ ~ ]は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率(2006)は、JIS B 8616:2006条件、(2015)は、JIS B 8616:2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは、JIS B 8616:2015、音圧レベルは、JIS B 8616:2006条件に基づいた値です。

- キャンパス仕様の本体高さはキャンパスダクト分が+αされます。
- パネルの外形寸法は天井から露出する部分を示し、天井部分は本体高さに含まれます。
- ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速(急・強・弱)となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定(P急・急・強)としてください。
- 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合、フレックスフローアダプタおよび防雪フード(別売)を取付けてください。
- BEST計算用 室内送風機消費電力:0.22kW (140形:0.26kW, 160形:0.40kW)

■天井リターン設置仕様（オプション）  
冷暖房兼用機（ヒータレス単相電源形）〔FDRZ-HK〕

セット形式		FDRZ805HK4B	
項目		形式	
天井リターンキット		R-FL-3A	
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2	
電源		単相 200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	7.1 [1.8~8.0]
		最小中間	3.2 (中温:3.3)
	暖房能力	定格標準	1.8
		中間	8.0 [2.1~10.0] (最小:2.1)
		最大低温	3.6
定格冷房時の顕熱比		0.83	
(1)運転	運転電流	冷房	9.8
		暖房	9.9
特性	始動電流 (最大電流)		5 (20)
	消費電力	冷房	1.94
		中間	0.592 (中温:0.467)
		最小中間 定格標準	0.269
	暖房	中間	1.96 (最小:0.416)
最大低温		0.661	
力率		冷:99, 暖:99	
エネルギー消費効率	冷房	定格	3.66, 中間:5.41
		暖房	定格:4.08, 中間:5.45
	通年エネルギー消費効率 (2015)		5.5
通年エネルギー消費効率 (2006)		5.2	
(1)運転音	室内ユニット	パワーレベル 音圧レベル	P急:74, 急:70, 強:66, 弱:58 P急:53, 急:49, 強:45, 弱:37
	室外ユニット	パワーレベル 音圧レベル	冷:65, 暖:66 冷:48, 暖:48
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm (280+37) × 950 × 635
	製品質量	kg	34
送風装置	空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式
	形式・台数	両吸込多翼遠心式 (モータ直結) × 2	
	送風量	m³/min	P急:24, 急:19, 強:15, 弱:10
	機外静圧 (標準風量時)	Pa	定格:30, 最小:20, 最大:100 (リモコンから設定) (4)
	電動機定格出力	W	130
接続口	エアフィルタ		プラスチックネット (洗浄可能)
	新鮮空気取入口		前面 (φ200mm フレキシブルダクト × 3 スポット接続)
	連転調整		新鮮外気取入 (側面: φ125mm, 背面: φ150mm フレキシブルダクト接続), 排気 (側面: φ125mm フレキシブルダクト接続)
	遠方発停機能		操作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転・点検用・LED, 液晶表示)
	加湿器		遠方発停入力用コネクタ (CnT: 6P, CnTA: 2P) を保有 (室内基板上)
室外ユニット	外形寸法		高さ×幅×奥行 mm 845 × 970 × 370
	製品質量		kg 70
	圧縮機	形式・台数	RMT5118SWE1 × 1
		電動機出力	kW 1.4
	空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式
冷媒制御器		電子膨張弁	
冷媒封入量		kg 3.6 (R32) [配管30m分封入済]	
冷凍機油封入量		ℓ 0.675 (M-MB75)	
送風装置	形式・台数		軸流式 (モータ直結) × 1
	送風量	m³/min	冷:52, 暖:48
	電動機定格出力	W	86
	クラックケースヒータ	W	20
	低外気温時冷房運転制御機能		室外送風電動機制御及び圧縮機制御により外気温度-15℃~50℃で冷房運転可能(5)
除霜		マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式	
防振・防音装置		圧縮機:防振ゴム, 吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管	液管	φ9.52 (フレア接続)
	ガス管	φ15.88 (フレア接続)	
排水		〔室内〕 VP25の排水管の接続可能〔室外〕 内径φ20mmの排水穴×3個	
電気配線	電源配線サイズ		mm² □3.5/□3.5 × 2本
	漏電しゃ断器 (高調波対応品)		A 30/30
開閉器または配線用しゃ断器		30/30	
アース線サイズ		φ1.6/φ1.6	
室内外ユニット接続配線		φ1.6 × 3本	
設計圧力		MPa 高圧部:4.15, 低圧部:2.26	
法定冷凍能力		トン 0.74 (届出不要)	
IPコード		室内:IPX0, 室外:IPX4	
保護装置		冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護	

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616:2015条件により運転した値です。〔 ~ 〕は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率 (2006) は, JIS B 8616:2006条件, (2015) は, JIS B 8616:2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは, JIS B 8616:2015, 音圧レベルは, JIS B 8616:2006条件に基づいた値です。  
 (2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速 (急・強・弱) となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定 (P急・急・強) としてください。  
 (3) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合, フレックスフローアダプタおよび防雪フード (別売) を取付けてください。  
 (4) 天井リターン仕様の場合は, 標準機に対して機内圧力損失が低減するため, リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。  
 実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は, 165ページをご覧ください。

必要な機外静圧 (Pa)	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90

(5) BEST計算用 室内送風機消費電力:0.14kW [ダクト機の場合, 機外静圧設定により最大0.190kW (静圧100Pa) となります。]

# 冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDRZ-H〕

セット形式		形式		FDRZ805H4B		
項目	形式	室内：FDRZVP804B 室外：FDCZP805H				
天井リターンキット		R-FL-3A				
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2				
電源		三相 200V 50/60Hz				
(1)能力	冷房能力	定格	kW	7.1 [1.8~8.0]		
		最小中間		3.2 (中温: 3.3)		
	暖房能力	定格標準	kW	1.8		
		最大低温		8.0 [2.1~10.0] (最小: 2.1)		
定格冷房時の顕熱比			0.83			
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	6.0		
		暖房		6.2		
	消費電力	始動電流 (最大電流)		5 (15)		
		冷房	定格	kW	1.90	
最小中間			0.582 (中温: 0.460)			
暖房	定格標準	0.265				
最大低温		1.92 (最小: 0.410)				
力率			%			
エネルギー消費効率	冷房	冷房	冷: 91, 暖: 89			
		暖房	定格: 3.74, 中間: 5.50			
	通年エネルギー消費効率 (2015)		冷房: 4.17, 中間: 5.53			
通年エネルギー消費効率 (2006)		5.6				
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	P急: 74, 急: 70, 強: 66, 弱: 58		
	室外ユニット	音圧レベル		P急: 53, 急: 49, 強: 45, 弱: 37		
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	(280+37) × 950 × 635		
	製品質量		kg	34		
	送風装置	送風機形式・台数		アルミフィン&銅チューブ式 両吸込多翼遠心式 (モータ直結) × 2		
		送風量	m <sup>3</sup> /min	P急: 24, 急: 19, 強: 15, 弱: 10		
	電動機	定格出力	W	定格: 30, 最小: 20, 最大: 100 (リモコンから設定) (4)		
		エアフィルタ		130 プラスチックネット (洗浄可能)		
	新鮮空気取入口			前面 (φ200mm フレキシブルダクト × 3Pスポット接続) 新鮮外気取入 (側面: φ125mm, 背面: φ150mm フレキシブルダクト接続), 排気 (側面: φ125mm フレキシブルダクト接続)		
	運転調整			探作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転・点検用・LED, 液晶表示)		
	遠方発停機能			遠方発停入力用コネクタ (CnT: 6P, CnTA: 2P) を保有 (室内基板上)		
	加湿器			- (組込不可能)		
防振装置・防音・断熱材			送風電動機: 防振ゴム, 外板: 吸音断熱材貼付			
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	845 × 970 × 370		
	製品質量		kg	70		
	圧縮機	形式・台数		RMT5118SWE1 × 1		
		電動機出力	kW	1.4		
	送風装置	送風機形式・台数		アルミフィン&銅チューブ式 電子膨張弁		
		送風量	m <sup>3</sup> /min	冷: 52, 暖: 48		
	電動機	定格出力	W	86		
		クランクケースヒータ	W	20		
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風電動機制御及び圧縮機制御により外気温 -15℃ ~ 50℃ で冷房運転可能 (3)		
	除霜			マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式		
防振・防音装置			圧縮機: 防振ゴム, 吸音断熱材巻付			
配管寸法	冷媒配管	液管	mm	φ9.52 (フレア接続)		
	ガス管			φ15.88 (フレア接続)		
電気配線	排水			(室内) VP25の排水管の接続可能 (室外) 内径φ20mmの排水穴×3個		
	電源配線	サイズ	mm <sup>2</sup>	□3.5/□3.5 × 3本		
設置	漏電しゃ断器 (高調波対応品)		A	30/30		
	開閉器または配線用しゃ断器			20/20		
法定	アース線	サイズ	φmm	φ1.6/φ1.6		
	室内外ユニット接続配線		φmm	φ1.6 × 3本		
I P コー	計圧	圧力	MPa	高圧部: 4.15, 低圧部: 2.26		
	冷凍能力	トン		0.74 (届出不要)		
保護	装置			室内: IPX0, 室外: IPX4 冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護		

- 注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616: 2015条件により運転した値です。 [ ~ ] は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率 (2006) は, JIS B 8616: 2006条件, (2015) は, JIS B 8616: 2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは, JIS B 8616: 2015, 音圧レベルは, JIS B 8616: 2006条件に基づいた値です。  
 (2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速 (急・強・弱) となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定 (P急・急・強) としてください。  
 (3) 外気温が-5℃以下で冷房運転を行う場合, フレックスフローアダプタおよび防雪フード (別売) を取付けてください。  
 (4) 天井リターン仕様の場合は, 標準機に対して機内圧力損失が低減するため, リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。  
 実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は, 165ページをご覧ください。

必要な機外静圧 (Pa)	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90

(5) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.14kW [ダクト機の場合, 機外静圧設定により最大0.190kW (静圧100Pa) となります。]

冷暖房兼用機（ヒートレス形）〔FDRZ-H〕

セッ形式		FDRZ1125H4B	FDRZ1405H4B	FDRZ1605H4B	
項目	形式	室内：FDRZVP1124B 室外：FDCZP1125H	室内：FDRZVP1404B 室外：FDCZP1405H	室内：FDRZVP1604B 室外：FDCZP1605H	
天井リターンキット		R-FL-4A			
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2			
電		三相 200V 50/60Hz			
(1)能力	冷房能力	定格	100 [2.7~11.2]	12.5 [3.2~14.0]	14.0 [3.7~16.0]
		中温	4.5 (中温:4.5)	5.7 (中温:5.8)	6.3 (中温:6.4)
	暖房能力	最小中温	2.7	3.2	3.7
		定格標準	11.2 [2.9~14.3] (最小:2.9)	14.0 [3.5~18.3] (最小:3.5)	16.0 [4.0~20.3] (最小:4.0)
(1)運転特性	定格冷房時の顕熱比	冷房	0.84	0.77	0.79
		暖房	7.4	11.2	13.0
	消費電力	冷房	8.4	12.0	13.1
		暖房	5 (25)	5 (26)	5 (27)
運	始動電流 (最大電流)	冷房	2.44	3.70	4.28
		暖房	0.766 (中温:0.680)	1.05 (中温:0.940)	1.20 (中温:1.05)
	消費電力	冷房	0.350	0.445	0.505
		暖房	2.75 (最小:0.541)	3.95 (最小:0.705)	4.32 (最小:0.830)
性	力	冷房	0.932	1.23	1.45
		暖房	5.45	6.04	6.10
	エネルギー消費効率	冷房	冷:95, 暖:95	冷:95, 暖:95	冷:95, 暖:95
		暖房	定格:4.10, 中間:5.87	定格:3.38, 中間:5.43	定格:3.27, 中間:5.25
通年エネルギー消費効率 (2015)	冷房	定格:4.07, 中間:5.47	定格:3.54, 中間:5.12	定格:3.70, 中間:4.97	
	暖房	5.6	5.1	5.0	
運	室内ユニット	冷房	5.4	4.9	4.8
		暖房	P急:77, 急:72, 強:68, 弱:62	P急:78, 急:74, 強:68, 弱:63	P急:80, 急:75, 強:69, 弱:64
音	室外ユニット	冷房	P急:56, 急:51, 強:47, 弱:41	P急:57, 急:53, 強:47, 弱:42	P急:59, 急:54, 強:48, 弱:43
		暖房	冷:66, 暖:66	冷:67, 暖:69	冷:68, 暖:70
室	外形寸法	高さ×幅×奥行	(280+37) × 1370 × 738		
		製品質量	54		
	送風装置	送風機形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式 両吸込多翼遠心式 (モータ直結) ×2		
		風量	P急:36, 急:28, 強:25, 弱:19	P急:39, 急:32, 強:25, 弱:20	P急:48, 急:35, 強:28, 弱:22
二	電動機定格出力	冷房	定格:30, 最小:20, 最大:100 (リモコンから設定) <sup>(4)</sup>		
		暖房	100 + 130	100 + 200	
	吹出ダクト接続口	形式	プラスチックネット (洗浄可能)		
		接続	前面 (φ200mm フレキシブルダクト ×4スポット接続) 新鮮外気取入 (側面: φ125mm, 背面: φ150mm フレキシブルダクト接続), 排気 (側面: φ125mm フレキシブルダクト接続)		
ッ	連	運転調整	探作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転・点検用・LED, 液晶表示)		
		遠方発停機能	遠方発停入力用コネクタ (CnT: 6P, CnTA: 2P) を保有 (室内基板上)		
	加	湿器	- (組込不可能)		
		防振装置・防音・断熱材	送風用電動機: 防振ゴム, 外板: 吸音断熱材貼付		
室	外形寸法	高さ×幅×奥行	1505 × 970 × 370		
		製品質量	115		
	冷	圧縮機形式・台数	RMT5126SWE2 × 1		
		電動機出力	20	2.7	3.4
外	送風装置	送風機形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式 電子膨張弁		
		冷媒封入量	4.2 (R32) [配管30m分封入済]		
	送風装置	冷媒油封入量	0.9 (M-MB75)		
		風量	冷:92, 暖:92	冷:92, 暖:100	
二	電動機定格出力	冷房	86 × 2		
		暖房	20		
	防振装置	低外気温時冷房運転制御機能	室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温度-15℃~50℃で冷房運転可能 <sup>(3)</sup>		
		除霜	マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式 圧縮機: 防振ゴム, 吸音断熱材巻付		
配	冷媒配管	液管	φ9.52 (フレア接続)		
		ガス管	φ15.88 (フレア接続)		
	排水	排水管	〔室内〕 VP25の排水管の接続可能〔室外〕 内径φ20mmの排水穴×3個		
		排水管径	φ5.5/φ5.5 × 3本		
電	電源配線サイズ	冷房	60/60		
		暖房	40/40		
	漏電しゃ断器 (高調波対応品)	冷房	φ20/φ20		
		暖房	φ1.6 × 3本 (~70mm), φ3.5 × 3本 (~120mm)		
設	計	圧力	高圧部: 4.15, 低圧部: 2.26		
		圧力	1.04 (届出不要)		
	法定冷凍能力	冷房	1.39 (届出不要)		1.62 (届出不要)
		暖房	室内: IPX0, 室外: IPX4		
保	護	装置	冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護		

注(1) 能力・運転特性は適正冷量においてJIS B 8616:2015条件により運転した値です。 [ ~ ] は最小最大範囲を示します。

通年エネルギー消費効率 (2006) は, JIS B 8616:2006条件, (2015) は, JIS B 8616:2015条件に基づいた値です。

運転音のレベルは, JIS B 8616:2015, 音圧レベルは, JIS B 8616:2006条件に基づいた値です。

(2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速 (急・強・弱) となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定 (P急・急・強) としてください。

(3) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合, フレックスフローアダプタおよび防雪フード (別売) を取付けてください。

(4) 天井リターン仕様の場合は, 標準機に対して機内圧力損失が低減するため, リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。

実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は, 165ページをご覧ください。

必要な機外静圧 (Pa)	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90

(5) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.22kW (140形: 0.26kW, 160形: 0.40kW) (ダクト機の場合, 機外静圧設定により112形: 最大0.300kW (静圧100Pa), 140形: 最大0.360kW (静圧100Pa), 160形: 最大0.440kW (静圧100Pa) となります。)

(5)高静圧ダクト形 (FDUZ)  
冷暖房兼用機 (ヒータレス単相電源形)〔FDUZ-HK〕

セット形式		形式		FDUZ805HK4B		
項目						
リモートコントローラ					室内：FDUZVP804B 室外：FDCZP805HK	
電源					RC-DX3, RC-DX2 単相 200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格			7.1 [1.8 ~ 8.0]	
		中間			3.2 (中温:3.3)	
	暖房能力	最小中温			1.8	
		最大低温			8.0 [2.1 ~ 10.0] (最小:2.1)	
定格冷房時の顕熱比					3.6 8.1 0.83	
(1)運転特性	運転電流	冷房			9.9	
		暖房			10.0	
	始動電流 (最大電流)					5 (20)
						1.97
消費電力	冷房	定格			0.605 (中温:0.478)	
		中間			0.275	
	暖房	最小中温			1.98 (最小:0.426)	
		最大低温			0.670	
力率					3.02	
エネルギー消費効率	冷房	冷房			冷:99, 暖:99	
		暖房			定格:3.60, 中間:5.29	
	通年エネルギー消費効率 (2015)					定格:4.04, 中間:5.37
		(2006)				5.4 5.1
運転音	室内ユニット	パワーレベル			P急:68, 急:62, 強:58, 弱:52	
		音圧レベル			P急:44, 急:38, 強:34, 弱:28	
	室外ユニット	パワーレベル			冷:65, 暖:66	
		音圧レベル			冷:48, 暖:48	
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm		280 × 950 × 635	
	製品質量		kg		34	
	送風装置	形式・台数			アルミフィン&銅チューブ式 両吸込多翼遠心式 (モータ直結) ×2	
	機外静圧 (標準風量時)		Pa		P急:24, 急:19, 強:15, 弱:10	
	電動機定格出力		W		定格:100, 最小:10, 最大:200 (リモコンから設定)	
	エアフィルタ				130	
	新鮮空気取入口				- (現地手配)	
	運転調整				新鮮外気取入 (側面:φ125mmフレキシブルダクト接続), 排気 (側面:φ125mmフレキシブルダクト接続)	
	遠方発停用機能				操作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転・点検用・LED, 液晶表示)	
	加湿器				遠方発停入力用コネクタ (CnT:6P, CnTA:2P) を保有 (室内基板上) - (組込不可能)	
防振装置・防音・断熱材				送風用電動機:防振ゴム, 外板:吸音断熱材貼付		
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm		845 × 970 × 370	
	製品質量		kg		70	
	圧縮機	形式・台数				RMT5118SWE1 × 1
		電動機出力		kW		1.4
	送風装置	空気熱交換器				アルミフィン&銅チューブ式
		冷媒制御器				電子膨張弁
		冷媒封入量		kg		3.6 (R32) [配管30m分封入済]
		冷凍機油封入量		ℓ		0.675 (M-MB75)
	送風装置	形式・台数				軸流式 (モータ直結) ×1
		風量		m³/min		冷:52, 暖:48
電動機定格出力			W		86	
クラックケースヒータ			W		20	
低外気温時冷房運転制御機能					室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温度-15℃~50℃で冷房運転可能 <sup>(4)</sup>	
除霜					マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
防振・防音装置					圧縮機:防振ゴム, 吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管 (外径)	液管	mm		φ9.52 (フレア接続)	
	ガス管				φ15.88 (フレア接続)	
排水口					[室内] VP25の排水管の接続可能 [室外] 内径φ20mmの排水穴×3個	
電気配線	電源配線サイズ		mm²		□3.5/□3.5 × 2本	
	漏電しゃ断器 (高調波対応品)				30/30	
	開閉器または配線用しゃ断器		A		30/30	
	アース線サイズ		φmm		φ1.6/φ1.6	
室内外ユニット接続配線			φmm		φ1.6 × 3本	
設計圧力			MPa		高圧部:4.15, 低圧部:2.26	
法定冷凍能力			トン		0.74 (届出不要)	
IPコード					室内:IPX0, 室外:IPX4	
保護装置					冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護	

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616:2015条件により運転した値です。[ ~ ]は最小最大範囲を示します。  
通年エネルギー消費効率(2006)は, JIS B 8616:2006条件, (2015)は, JIS B 8616:2015条件に基づいた値です。  
運転音のパワーレベルは, JIS B 8616:2015, 音圧レベルは, JIS B 8616:2006条件に基づいた値です。  
(2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速(急・強・弱)となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定(P急・急・強)としてください。  
(3) 丸ダクト変換キット(U-UM-3A)を使用した場合の設定可能な機外静圧は10~100Paとなります。  
(4) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合, フレックスフローアダプタおよび防雪フード(別売)を取付けてください。  
(5) BEST計算用 室内送風機消費電力:0.160kW

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDUZ-H〕

セット形式		形式		FDUZ805H4B	
項目	リモートコントローラ	RC-DX3, RC-DX2			
(1)能力	冷房能力	定格	7.1 [1.8 ~ 8.0]		
		中間	3.2 (中温: 3.3)		
	最小中温	1.8			
	暖房能力	定格標準	8.0 [2.1 ~ 10.0] (最小: 2.1)		
		中間	3.6		
最大低温	8.1				
定格冷房時の顕熱比	0.83				
(1)運転特性	運転電流	冷房	6.1		
		暖房	6.2		
	始動電流 (最大電流)	5 (15)			
	消費電力	冷房	定格	1.93	
			中間	0.595 (中温: 0.471)	
		暖房	最小中温	0.271	
			定格標準	1.94 (最小: 0.420)	
	中間	0.659			
	最大低温	2.99			
	力率	%			冷: 91, 暖: 90
エネルギー消費効率	冷房	定格: 3.68, 中間: 5.38			
	暖房	定格: 4.12, 中間: 5.46			
通年エネルギー消費効率	(2015)	5.5			
	(2006)	5.2			
運転音	室内ユニット	パワーレベル	P急: 68, 急: 62, 強: 58, 弱: 52		
		音圧レベル	P急: 44, 急: 38, 強: 34, 弱: 28		
	室外ユニット	パワーレベル	冷: 65, 暖: 66		
		音圧レベル	冷: 48, 暖: 48		
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm 280 × 950 × 635		
	製品質量	kg	34		
	送風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式 両吸込多翼遠心式 (モータ直結) × 2		
	機外静圧 (標準風量時)	Pa	P急: 24, 急: 19, 強: 15, 弱: 10		
	電動機定格出力	W	定格: 100, 最小: 10, 最大: 200 (リモコンから設定)		
	エアフィルタ		130		
	新鮮空気取入口		- (現地手配)		
	運転調整		新鮮外気取入 (側面: φ125mm フレキシブルダクト接続), 排気 (側面: φ125mm フレキシブルダクト接続)		
	遠方発停用機能		操作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転・点検用・LED, 液晶表示)		
	加湿器		遠方発停入り力用コネクタ (CnT: 6P, CnTA: 2P) を保有 (室内基板上)		
防振装置・防音・断熱材		- (組込不可能)			
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm 845 × 970 × 370		
	製品質量	kg	70		
	圧縮機	形式・台数	RMT5118SWE1 × 1		
		電動機出力	kW 1.4		
	送風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式		
		電動機出力	電子膨張弁		
	冷媒封入量	kg	3.6 (R32) [配管30m分封入済]		
	冷凍機油封入量	ℓ	0.675 (M-MB75)		
	送風装置	形式・台数	軸流式 (モータ直結) × 1		
	電動機定格出力	W	冷: 52, 暖: 48		
クラックケースヒータ	W	86			
低外気温時冷房運転制御機能		20			
除霜		室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温度-15℃~50℃で冷房運転可能 <sup>(4)</sup>			
防振・防音装置		マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式			
配管寸法	冷媒配管 (外径)	液管	φ9.52 (フレア接続)		
		ガス管	φ15.88 (フレア接続)		
	排水口	φ15.88 (フレア接続)			
	電気配線	〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個			
電源配線サイズ	mm <sup>2</sup>	□3.5/□3.5 × 3本			
漏電しゃ断器 (高調波対応品)	A	30/30			
開閉器または配線用しゃ断器	A	20/20			
アース線サイズ	φmm	φ1.6/φ1.6			
室内外ユニット接続配線	φmm	φ1.6 × 3本			
設計圧力	MPa	高圧部: 4.15, 低圧部: 2.26			
法定冷凍能力	トン	0.74 (届出不要)			
IPコード		室内: IPX0, 室外: IPX4			
保護装置		冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護			

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616: 2015条件により運転した値です。[ ~ ]は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率 (2006) は, JIS B 8616: 2006条件, (2015) は, JIS B 8616: 2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは, JIS B 8616: 2015, 音圧レベルは, JIS B 8616: 2006条件に基づいた値です。  
 (2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速 (急・強・弱) となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定 (P急・急・強) としてください。  
 (3) 丸ダクト変換キット (U-UM-3A) を使用した場合の設定可能な機外静圧は10~100Paとなります。  
 (4) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合, フレックスフローアダプタおよび防雪フード (別売) を取付けてください。  
 (5) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.160kW

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDUZ-H〕

セット形式		FDUZ1125H4B	FDUZ1405H4B	FDUZ1605H4B	
項目	形式	室内：FDUZVP1124B 室外：FDCZP1125H	室内：FDUZVP1404B 室外：FDCZP1405H	室内：FDUZVP1604B 室外：FDCZP1605H	
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2			
電源		三相 200V 50/60Hz			
(1)能力	冷房能力	定格	10.0 [2.7 ~ 11.2]	12.5 [3.2 ~ 14.0]	14.0 [3.7 ~ 16.0]
		中温	4.5 (中温:4.5)	5.7 (中温:5.8)	6.3 (中温:6.4)
	暖房能力	最小中温	2.7	3.2	3.7
		定格標準	11.2 [2.9 ~ 14.3] (最小:2.9)	14.0 [3.5 ~ 18.3] (最小:3.5)	16.0 [4.0 ~ 20.3] (最小:4.0)
		最大低温	5.1	6.3	7.2
定格冷房時の顕熱比	0.84	0.77	0.79		
(1)運転特性	運転電流	冷房	7.4	11.2	12.7
		暖房	8.4	12.0	12.9
	始動電流 (最大電流)	冷房	5 (26)	5 (26)	5 (26)
		中温	2.44	3.70	4.17
		暖房	0.766 (中温:0.684)	1.04 (中温:0.930)	1.17 (中温:1.02)
	消費電力	最小中温	0.352	0.440	0.495
		定格標準	2.75 (最小:0.546)	3.95 (最小:0.700)	4.26 (最小:0.800)
		中間	0.932	1.21	1.42
	最大低温	5.45	6.04	6.04	
	エネルギー消費効率	冷房	冷:95, 暖:95	冷:95, 暖:95	冷:95, 暖:95
消費効率	暖房	定格:4.10, 中間:5.87	定格:3.38, 中間:5.48	定格:3.36, 中間:5.38	
通年エネルギー消費効率 (2015)		5.5	5.2	5.2	
通年エネルギー消費効率 (2006)		5.4	4.9	4.9	
運転音	室内ユニット	パワーレベル	P急:70, 急:65, 強:62, 弱:57	P急:71, 急:67, 強:61, 弱:57	P急:74, 急:67, 強:62, 弱:57
	音圧レベル		P急:45, 急:40, 強:37, 弱:32	P急:46, 急:42, 強:36, 弱:32	P急:49, 急:42, 強:37, 弱:32
	室外ユニット	パワーレベル	冷:66, 暖:66	冷:67, 暖:69	冷:68, 暖:70
	音圧レベル	冷:49, 暖:50	冷:50, 暖:52	冷:52, 暖:53	
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	280 × 1370 × 738		
	製品質量	kg	54		
	空気熱交換器	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式		
	送風装置	形式・台数	両吸込多翼遠心式 (モータ直結) × 3		
	機外静圧 (標準風量時)	Pa	P急:36, 急:28, 強:25, 弱:19		
	電動機定格出力	W	定格:100, 最小:10, 最大:200 (リモコンから設定)		
	エアフィルタ		100 + 130		
	新鮮空気取入口		- (現地手配)		
	運転調整		新鮮外気取入 (側面: φ125mm フレキシブルダクト接続), 排気 (側面: φ125mm フレキシブルダクト接続)		
	遠方発停用機能		操作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転点検用:LED, 液晶表示)		
加湿		遠方発停入力用コネクタ (CnT: 6P, CnTA: 2P) を保有 (室内基板上)			
防振装置・防音・断熱材		- (組込不可能)			
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	1505 × 970 × 370		
	製品質量	kg	115		
	圧縮機	形式・台数	RMT5126SWE2 × 1		
		電動機出力	kW	2.0	2.7
	空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式		
	冷媒制御器		電子膨張弁		
	冷媒封入量	kg	4.2 (R32) [配管30m分封入済]		
	冷凍機油封入量	ℓ	0.9 (M-MB75)		
	送風装置	形式・台数	軸流式 (モータ直結) × 2		
	電動機定格出力	W	冷:92, 暖:92		
クラックケースヒータ	W	86 × 2			
低外気温時冷房運転制御機能		20			
除霜		室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温度-15℃~50℃で冷房運転可能 <sup>(4)</sup>			
防振・防音装置		マイコン差温式アイサによる逆サイクル方式			
配管寸法	冷媒配管 (外径)	液管	φ9.52 (フレア接続)		
	ガス管		φ15.88 (フレア接続)		
	排水口		〔室内〕VP25の排水管の接続可能 (室外) 内径φ20mmの排水穴×3個		
	電源配線サイズ	mm <sup>2</sup>	□5.5/□5.5 × 3本		
	漏電しゃ断器 (高調波対応品)	A	60/60		
開閉器または配線用しゃ断器		40/40			
アース線サイズ	φmm	φ2.0/φ2.0			
室内外ユニット接続配線	φmm&φmm <sup>2</sup>	φ1.6 × 3本 (~70mm), □3.5 × 3本 (~120mm)			
設計圧力	MPa	高圧部: 4.15, 低圧部: 2.26			
法定冷凍能力	トン	1.04 (届出不要)	1.39 (届出不要)	1.62 (届出不要)	
IPコード		室内: IPX0, 室外: IPX4			
保護装置		冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護			

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616:2015条件により運転した値です。[ ~ ]は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率(2006)は、JIS B 8616:2006条件、(2015)は、JIS B 8616:2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは、JIS B 8616:2015、音圧レベルは、JIS B 8616:2006条件に基づいた値です。

(2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速(急・強・弱)となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定(P急・急・強)としてください。

(3) 丸ダクト変換キット(U-UM-4A)を使用した場合の設定可能な機外静圧は10~100Paとなります。

(4) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合、フレックスフローアダプタおよび防雪フード(別売)を取付けてください。

(5) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.230kW (140形: 0.250kW, 160形: 0.350kW)

■丸ダクト仕様（オプション）  
冷暖房兼用機（ヒータレス単相電源形）〔FDUZ-HK〕

セット形式		FDUZ805HK4B		
形式		室内：FDUZVP804B 室外：FDCZP805HK		
丸ダクト変換キット		U-UM-3A		
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2		
電源		単相 200V 50/60Hz		
(1)能力	冷房能力	定格	7.1 [1.8~8.0]	
		最小中温	3.2 (中温: 3.3)	
	暖房能力	定格標準	1.8	
		最大低温	8.0 [2.1~10.0] (最小: 2.1)	
定格冷房時の顕熱比		0.83		
(1)運転特性	運転電流	冷房	9.9	
		暖房	10.0	
	始動電流 (最大電流)		5 (20)	
	消費電力	冷房	定格	1.97
最小中温			0.605 (中温: 0.478)	
暖房		0.275		
力		%		
エネルギー消費効率		冷房: 99, 暖: 99		
通年エネルギー消費効率 (2015)		定格: 3.60, 中間: 5.29		
通年エネルギー消費効率 (2006)		定格: 4.04, 中間: 5.37		
運転音	室内ユニット	パワーレベル音圧レベル	P急: 68, 急: 62, 強: 58, 弱: 52	
	室外ユニット	パワーレベル音圧レベル	P急: 44, 急: 38, 強: 34, 弱: 28	
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	280 × 950 × 635	
	製品質量	kg	34	
	送風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式 両吸込多翼遠心式 (モータ直結) ×2	
	電動機	定格出力	130	
ユニット	吹出ダクト接続口	前面 (φ200mm フレキシブルダクト ×3スポット接続)		
	新鮮空気取入口	新鮮外気取入 (側面: φ125mm フレキシブルダクト接続), 排気 (側面: φ125mm フレキシブルダクト接続)		
	運転調整	操作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転・点検用・LED, 液晶表示)		
	遠方発停機能	遠方発停入力用コネクタ (CnT: 6P, CnTA: 2P) を保有 (室内基板上)		
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	845 × 970 × 370	
	製品質量	kg	70	
	圧縮機	形式・台数	RMT5118SWE1 × 1	
	電動機出力	kW	1.4	
配管寸法	冷媒配管	液管	φ9.52 (フレア接続)	
	ガス管	φ15.88 (フレア接続)		
	排水	〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個		
	電源配線	サイズ	□3.5/□3.5 × 2本	
電気配線	漏電しゃ断器 (高調波対応品)	A	30/30	
	開閉器または配線用しゃ断器	A	30/30	
	アース線	φmm	φ1.6/φ1.6	
	室内外ユニット接続配線	φmm	φ1.6 × 3本	
設計	圧力	MPa	高圧部: 4.15, 低圧部: 2.26	
	法定冷凍能力	トン	0.74 (届出不要)	
I P コー ド	室内: IPX0, 室外: IPX4			
	冷房時 Frost 防止, 過負荷保護, 吐出温度保護			

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616 : 2015条件により運転した値です。 [ ~ ] は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率 (2006) は, JIS B 8616 : 2006条件, (2015) は, JIS B 8616 : 2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは, JIS B 8616 : 2015, 音圧レベルは, JIS B 8616 : 2006条件に基づいた値です。  
 (2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速 (急・強・弱) となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定 (P急・急・強) としてください。  
 (3) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合, フレックスフローアダプタおよび防雪フード (別売) を取付けてください。  
 (4) 丸ダクト変換キットを使用する場合は, 標準機 (角ダクト) に対して機内圧力損失が増加するため, リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。  
 実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は, 179ページをご覧ください。

必要な機外静圧 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定 (Pa)	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110

(5) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.113kW (ダクト機の場合, 機外静圧設定により: 最大0.160kW (静圧100Pa) となります。)

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDUZ-H〕

セット形式		FDUZ805H4B	
形式		室内：FDUZVP804B 室外：FDCZP805H	
丸ダクト変換キット		U-UM-3A	
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2	
電源		三相 200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	7.1 [1.8~8.0]
		最小中温	3.2 (中温:3.3)
	暖房能力	定格標準	1.8
		最大低温	8.0 [2.1~10.0] (最小:2.1)
定格冷房時の顕熱比		0.83	
(1)運転特性	消費電力	冷房	6.1
		暖房	6.2
(1)運転特性	始動電流 (最大電流)	5 (15)	
		消費電力	冷房
消費電力	中温		0.595 (中温:0.471)
	消費電力	最小中温	0.271
消費電力		定格標準	1.94 (最小:0.420)
	消費電力	中温	0.659
消費電力		最大低温	2.99
	エネルギー消費効率	冷房	冷:91, 暖:90
エネルギー消費効率		暖房	定格:3.68, 中間:5.38
	通年エネルギー消費効率	(2015)	冷:4.12, 中間:5.46
通年エネルギー消費効率		(2006)	5.5
	運転音	室内ユニット	P急:68, 急:62, 強:58, 弱:52
室外ユニット		P急:44, 急:38, 強:34, 弱:28	
室外ユニット	冷房	冷:65, 暖:66	
	暖房	冷:48, 暖:48	
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	280×950×635
	製品質量	kg	34
室内ユニット	送風装置	送風機	アルミフィン&銅チューブ式
		形式・台数	両吸込多翼遠心式(モータ直結)×2
室内ユニット	送風装置	機外静圧(標準風量時)	P急:24, 急:19, 強:15, 弱:10
		電動機定格出力	定格:30, 最小:10, 最大:100 (リモコンから設定) <sup>(4)</sup>
室内ユニット	送風装置	電動機定格出力	130
		エアフィルタ	-(現地手配)
室内ユニット	送風装置	吹出ダクト接続口	前面(φ200mmフレキシブルダクト×3スポット接続)
		新鮮空気取入口	新鮮外気取入(側面:φ125mmフレキシブルダクト接続), 排気(側面:φ125mmフレキシブルダクト接続)
室内ユニット	送風装置	運転調整	操作(運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節(電子サーモスタート), 表示(運転・点検用・LED, 液晶表示)
		遠方発停機能	遠方発停入力用コネクタ(CnT:6P, CnTA:2P)を保有(室内基板上)
室内ユニット	送風装置	加湿器	-(組込不可能)
		防振装置・防音・断熱材	送風電動機:防振ゴム, 外板:吸音断熱材貼付
室外ユニット	送風装置	外形寸法	高さ×幅×奥行
		製品質量	845×970×370
室外ユニット	送風装置	圧縮機	70
		形式・台数	RMT5118SWE1×1
室外ユニット	送風装置	電動機出力	1.4
		空気熱交換器	アルミフィン&銅チューブ式
室外ユニット	送風装置	冷媒制御器	電子膨張弁
		冷媒封入量	3.6 (R32) [配管30m分封入済]
室外ユニット	送風装置	冷凍機油封入量	0.675 (M-MB75)
		形式・台数	軸流式(モータ直結)×1
室外ユニット	送風装置	送風機	冷:52, 暖:48
		電動機定格出力	86
室外ユニット	送風装置	クラックケースヒータ	20
		低外気温時冷房運転制御機能	室外送風電動機制御及び圧縮機制御により外気温-15℃~50℃で冷房運転可能 <sup>(3)</sup>
室外ユニット	送風装置	除霜	マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式
		防振・防音装置	圧縮機:防振ゴム, 吸音断熱材巻付
配管寸法	冷媒配管	液管	φ9.52 (フレア接続)
		ガス管	φ15.88 (フレア接続)
配管寸法	排水	〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個	
		電源配線サイズ	mm <sup>2</sup>
電気配線	漏電しゃ断器(高調波対応品)	30/30	
		開閉器または配線用しゃ断器	20/20
電気配線	アース線サイズ	φ1.6/φ1.6	
		室内外ユニット接続配線	φ1.6×3本
設計	圧力	高圧部:4.15, 低圧部:2.26	
		法定冷凍能力	0.74 (届出不要)
I P コー ド	保護装置	室内:IPX0, 室外:IPX4	
		冷房時 Frost 防止, 過負荷保護, 吐出温度保護	

注(1)能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616:2015条件により運転した値です。[ ~ ]は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率(2006)は、JIS B 8616:2006条件、(2015)は、JIS B 8616:2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは、JIS B 8616:2015, 音圧レベルは、JIS B 8616:2006条件に基づいた値です。  
 (2)ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速(急・強・弱)となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定(P急・急・強)としてください。  
 (3)外気温が-5℃以下で冷房運転を行う場合、フレックスフローアダプタおよび防雪フード(別売)を取付けてください。  
 (4)丸ダクト変換キットを使用する場合は、標準機(角ダクト)に対して機内圧力損失が増加するため、リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。  
 実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は、179ページをご覧ください。

必要な機外静圧 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定 (Pa)	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110

(5) BEST計算用 室内送風機消費電力:0.113kW (ダクト機の場合、機外静圧設定により:最大0.160kW (静圧100Pa)となります。)

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDUZ-H〕

セツト形式		FDUZ1125H4B	FDUZ1405H4B	FDUZ1605H4B	
項目	形式	室内：FDUZVP1124B 室外：FDCZP1125H	室内：FDUZVP1404B 室外：FDCZP1405H	室内：FDUZVP1604B 室外：FDCZP1605H	
丸ダクト変換キット		U-UM-4A			
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2			
電源		三相 200V 50/60Hz			
(1)能力	冷房能力	定格	100 [27~112]	125 [32~140]	140 [37~160]
		中温	4.5 (中温:4.5)	5.7 (中温:5.8)	6.3 (中温:6.4)
	暖房能力	最小中温	2.7	3.2	3.7
		定格標準	11.2 [2.9~14.3] (最小:2.9)	14.0 [3.5~18.3] (最小:3.5)	16.0 [4.0~20.3] (最小:4.0)
(1)運転特性	定格冷房時の顕熱比	冷房	0.84	0.77	0.79
		暖房	7.4	11.2	12.7
	消費電力	冷房	8.4	12.0	12.9
		暖房	5 (26)	5 (26)	5 (26)
運 転 音	室内ユニット	音圧レベル	2.44	3.70	4.17
		音圧レベル	0.766 (中温:0.684)	1.04 (中温:0.930)	1.17 (中温:1.02)
	室外ユニット	音圧レベル	0.352	0.440	0.495
		音圧レベル	2.75 (最小:0.546)	3.95 (最小:0.700)	4.26 (最小:0.800)
室 内 ユ ニ ッ ト	外形寸法	高さ×幅×奥行	280 × 1370 × 738		
		製品質量	54		
	送風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式 両吸込多翼遠心式（モータ直結）×3		
		風量	P急:36, 急:28, 強:25, 弱:19	P急:39, 急:32, 強:26, 弱:20	P急:48, 急:35, 強:28, 弱:22
配管寸法	冷媒配管	液管	φ9.52 (フレア接続)		
		ガス管	φ15.88 (フレア接続)		
	電気配線	電源配線サイズ	□5.5/□5.5 × 3本		
		配線径	φ2.0 φ2.0		
設 法	冷房能力	1.04 (届出不要)	1.39 (届出不要)	1.62 (届出不要)	
		室内:IPX0, 室外:IPX4	冷房時 Frost 防止, 過負荷保護, 吐出温度保護		
	保 護 装 置	防振・防音装置	防振装置・防音・断熱材		
		防振・防音装置	送風用電動機:防振ゴム, 外板:吸音断熱材貼付		

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616:2015条件により運転した値です。〔～〕は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率(2006)は、JIS B 8616:2006条件、(2015)は、JIS B 8616:2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは、JIS B 8616:2015、音圧レベルは、JIS B 8616:2006条件に基づいた値です。  
 (2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速(急・強・弱)となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定(P急・急・強)としてください。  
 (3) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合、フレックスフローアダプタおよび防雪フード(別売)を取付けてください。  
 (4) 丸ダクト変換キットを使用する場合は、標準機(角ダクト)に対して機内圧力損失が増加するため、リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。  
 実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は、179ページをご覧ください。

112形											160形										
必要な機外静圧 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	必要な機外静圧 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定 (Pa)	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	リモコンの設定 (Pa)	40	50	60	70	80	90	100	110	130	140

140形  
 必要な機外静圧 (Pa) 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100  
 リモコンの設定 (Pa) 30 40 50 60 70 80 90 110 120 130

(5) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.170kW (140形:0.200kW, 160形:0.330kW) [ダクト機の場合、機外静圧設定により112形:最大0.230kW(静圧100Pa), 140形:最大0.250kW(静圧100Pa), 160形:最大0.350kW(静圧100Pa)となります。]

(6)天吊形 (FDEZ)  
 冷暖房兼用機 (ヒータレス単相電源形) [FDEZ-HK]

セツト形式		FDEZ805HK4B		
形式		室内: FDEZVP804B 室外: FDCZP805HK		
項目	リモートコントローラ	RC-DX3, RC-DX2, RC-D4G		
(1)能力	冷房能力	定格	7.1 [1.8~8.0]	
		中温	3.2 (中温: 3.2)	
	暖房能力	最小中温	1.8	
		定格標準	8.0 [2.1~10.0] (最小: 2.1)	
		中間	3.6	
		最大低温	8.1	
定格冷房時の顕熱比	0.74			
(1)運転特性	運転電流	冷房	9.1	
		暖房	9.3	
	始動電流 (最大電流)		5 (18)	
	消費電力	冷房	定格	1.80
			中間	0.509 (中温: 0.416)
		暖房	最小中温	0.215
			定格標準	1.85 (最小: 0.367)
	力率	冷房	中間	0.615
			最大低温	2.93
		率		冷: 99, 暖: 99
エネルギー消費効率		冷房: 3.94, 中間: 6.29		
通年エネルギー消費効率	(2015)	6.1		
	(2006)	5.7		
運転音	室内ユニット	パワーレベル	P急: 63, 急: 52, 強: 49, 弱: 46	
	室外ユニット	音圧レベル	P急: 50, 急: 39, 強: 36, 弱: 33	
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	210 × 1320 × 690	
	製品質量	kg	33	
	送風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式 両吸込多翼遠心式 (モータ直結) ×4	
	電動機	定格出力	W	55
		エアフィルタ		プラスチックネット (洗浄可能)
	吹出ダクト接続口		不可能	
	新鮮空気取入口		不可能	
	運転制御機能		操作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転点検用・LED, 液晶表示)	
	遠方発停用機能		遠方発停入力用コネクタ (CnT: 6P, CnTA: 2P) を保有 (室内基板上)	
	加湿器		- (組込不可能)	
	防振装置・防音・断熱材		送風用電動機: 防振ゴム, 外板: 吸音断熱材貼付	
	室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	845 × 970 × 370
製品質量		kg	70	
圧縮機		形式・台数	RMT5118SWE1 × 1	
		電動機出力	kW	1.4
送風装置		形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式	
冷媒制御			電子膨張弁	
冷媒封入量		kg	3.6 (R32) [配管30m分封入済]	
冷凍機油封入量		ℓ	0.675 (M-MB75)	
送風装置		形式・台数	軸流式 (モータ直結) ×1	
電動機		定格出力	W	86
クランクケースヒータ		W	20	
低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温-15℃~50℃で冷房運転可能 <sup>(3)</sup>	
除霜		マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式		
配管寸法	冷媒配管 (外径)	液管	φ9.52 (フレア接続)	
	ガス管	φ15.88 (フレア接続)		
排水口		[室内] VP20の排水管の接続可能 [室外] 内径φ20mmの排水穴×3個		
電気配線	電源配線サイズ	mm <sup>2</sup>	□3.5/□3.5 × 2本	
	漏電しゃ断器 (高調波対応品)	A	30/30	
	開閉器または配線用しゃ断器		30/30	
	アース線サイズ	φmm	φ1.6/φ1.6	
室内外ユニット接続配線	φmm	φ1.6 × 3本		
設計圧力	MPa	高圧部: 4.15, 低圧部: 2.26		
法定冷凍能力	トン	0.74 (届出不要)		
IPコード		室内: IPX0, 室外: IPX4		
保護装置		冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護		

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616: 2015条件により運転した値です。 [ ~ ] は最小最大範囲幅を示します。  
 通年エネルギー消費効率 (2006) は, JIS B 8616: 2006条件, (2015) は, JIS B 8616: 2015条件に基づいた値です。  
 運転音の/パワーレベルは, JIS B 8616: 2015, 音圧レベルは, JIS B 8616: 2006条件に基づいた値です。  
 (2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速 (急・強・弱) となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定 (P急・急・強) としてください。  
 (3) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合, フレックスフローアダプタおよび防雪フード (別売) を取付けてください。  
 (4) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.07kW

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDEZ-H〕

項目		ネット形式	FDEZ805H4B	
リモートコントローラ		形式	室内：FDEZVP804B 室外：FDCZP805H	
電源			RC-DX3, RC-DX2, RC-D4G 三相 200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	7.1 [1.8～8.0]	
		中間	3.2 (中温:3.2)	
	暖房能力	最小中温	1.8	
		定格標準	8.0 [2.1～10.0] (最小:2.1)	
定格冷房時の顕熱比		中間	3.6	
(1)運転特性	運転電流	冷房	5.5	
		暖房	5.8	
	始動電流 (最大電流)			5 (13)
	消費電力	冷房	定格	1.73
			中間	0.500 (中温:0.409)
		暖房	最小中温	0.211
			定格標準	1.81 (最小:0.361)
	力率	中間	0.610	
		最大低温	2.88	
	エネルギー消費効率	冷房	冷	91, 暖:90
暖			定格:4.10, 中間:6.40	
暖房		暖	定格:4.42, 中間:5.90	
通年エネルギー消費効率 (2015)			6.2	
通年エネルギー消費効率 (2006)			5.8	
運転音	室内ユニット	パワーレベル	P急:63, 急:52, 強:49, 弱:46	
	室外ユニット	音圧レベル	P急:50, 急:39, 強:36, 弱:33	
室内ユニット	外形寸法 高さ×幅×奥行		mm	
	製品質量		kg	
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式 (モータ直結) ×4
		送風量	m³/min	P急:22, 急:15, 強:12.5, 弱:10
	機外静圧 (標準風量時)		Pa	0
	電動機 定格出力		W	55
	エアフィルタ			プラスチックネット (洗浄可能)
	吹出ダクト接続口			不可能
	新鮮空気取入口			不可能
運転調整			操作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転・点検用・LED, 液晶表示)	
遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ (CnT: 6P, CnTA: 2P) を保有 (室内基板上)	
加湿器			- (組込不可能)	
防振装置・防音・断熱材			送風用電動機: 防振ゴム, 外板: 吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法 高さ×幅×奥行		mm	
	製品質量		kg	
	圧縮機	形式・台数		RMT5118SWE1 × 1
		電動機出力	kW	1.4
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式
	冷媒制御器			電子膨張弁
	冷媒封入量		kg	3.6 (R32) [配管30m分封入済]
	冷凍機油封入量		ℓ	0.675 (M-MB75)
	送風装置	形式・台数		軸流式 (モータ直結) ×1
		送風量	m³/min	冷:52, 暖:48
電動機 定格出力		W	86	
クランクケースヒータ		W	20	
低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温-15℃～50℃で冷房運転可能 <sup>(3)</sup>	
除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
防振・防音装置			圧縮機: 防振ゴム, 吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管 (外径)	液管	φ9.52 (フレア接続)	
	ガス管		φ15.88 (フレア接続)	
排水口			〔室内〕 VP20の排水管の接続可能 〔室外〕 内径φ20mmの排水穴×3個	
電源配線サイズ		mm²	□3.5/□3.5 × 3本	
漏電しゃ断器 (高調波対応品)		A	30/30	
開閉器または配線用しゃ断器			20/20	
アース線サイズ		φmm	φ1.6/φ1.6	
室内外ユニット接続配線		φmm	φ1.6 × 3本	
設計圧力		MPa	高圧部: 4.15, 低圧部: 2.26	
法定冷凍能力		トン	0.74 (届出不要)	
IPコード			室内: IPX0, 室外: IPX4	
保護装置			冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護	

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616:2015条件により運転した値です。〔～〕は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率(2006)は、JIS B 8616:2006条件、(2015)は、JIS B 8616:2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは、JIS B 8616:2015、音圧レベルは、JIS B 8616:2006条件に基づいた値です。  
 (2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速(急・強・弱)となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定(P急・急・強)としてください。  
 (3) 外気温が-5℃以下で冷房運転を行う場合、フレックスフローアダプタおよび防雪フード(別売)を取付けてください。  
 (4) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.07kW

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDEZ-H〕

セット形式		FDEZ1125H4B	FDEZ1405H4B	FDEZ1605H4B	
項目	形式	室内：FDEZVP1124B 室外：FDCZP1125H	室内：FDEZVP1404B 室外：FDCZP1405H	室内：FDEZVP1604B 室外：FDCZP1605H	
リモートコントローラ		RC-DX3, RC-DX2, RC-D4G			
電源		三相 200V 50/60Hz			
(1)能力	冷房能力	定格	10.0 [2.6 ~ 11.2]	12.5 [3.2 ~ 14.0]	14.0 [3.5 ~ 16.0]
		中間	4.5 (中温: 4.6)	5.7 (中温: 5.8)	6.3 (中温: 6.4)
	暖房能力	最小中温	2.6	3.2	3.5
		定格標準	11.2 [2.8 ~ 14.3] (最小: 2.8)	14.0 [3.5 ~ 18.3] (最小: 3.5)	16.0 [4.0 ~ 20.3] (最小: 4.0)
(1)運転特性	定格冷房時の顕熱比	中間	5.1	6.3	7.2
		最大低温	13.5	15.0	15.0
	運転電流	冷房	7.4	11.0	13.7
		暖房	8.4	11.4	14.1
消費電力	始動電流 (最大電流)	冷房	5 (23)	5 (23)	5 (23)
		暖房	2.43	3.62	4.51
	冷房	中間	0.693 (中温: 0.586)	0.940 (中温: 0.860)	1.14 (中温: 0.992)
		最小中温	0.327	0.414	0.467
暖房	定格標準	2.77 (最小: 0.488)	3.76 (最小: 0.651)	4.65 (最小: 0.749)	
	中間	0.861	1.10	1.35	
エネルギー消費効率	冷房	中間	5.50	6.12	6.12
		最大低温	冷: 95, 暖: 95	冷: 95, 暖: 95	冷: 95, 暖: 95
	暖房	中間	定格: 4.12, 中間: 6.49	定格: 3.45, 中間: 6.06	定格: 3.10, 中間: 5.53
		最大低温	定格: 4.04, 中間: 5.92	定格: 3.72, 中間: 5.73	定格: 3.44, 中間: 5.33
通年エネルギー消費効率 (2006)		6.1	5.6	5.3	
運転音	室内ユニット	パワーレベル	P急: 61, 急: 58, 強: 54, 弱: 50	P急: 64, 急: 60, 強: 56, 弱: 51	P急: 65, 急: 62, 強: 56, 弱: 52
		音圧レベル	P急: 45, 急: 42, 強: 38, 弱: 34	P急: 48, 急: 44, 強: 40, 弱: 35	P急: 49, 急: 46, 強: 40, 弱: 36
	室外ユニット	パワーレベル	冷: 66, 暖: 66	冷: 67, 暖: 69	冷: 68, 暖: 70
		音圧レベル	冷: 49, 暖: 50	冷: 50, 暖: 52	冷: 52, 暖: 53
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	250 × 1620 × 690		
	製品質量	kg	43		
	送風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式 両吸込多翼遠心式 (モータ直結) × 4		
	送風量	m³/min	P急: 28, 急: 26, 強: 21, 弱: 16.5	P急: 32, 急: 29, 強: 23, 弱: 17	P急: 34, 急: 30, 強: 23, 弱: 18
	機外静圧 (標準風量時)	Pa	0		
	電動機定格出力	W	65	80	90
	エアフィルタ		プラスチックネット (洗浄可能)		
	吹出ダクト接続口		不可能		
	新鮮空気取入口		不可能		
	運転調整		操作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転・点検用・LED, 液晶表示)		
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	1505 × 970 × 370		
		製品質量	115		
	圧縮機	形式・台数	RMT5126SWE2 × 1		
		電動機出力	2.0	2.7	3.4
	送風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式 電子膨張弁		
		送風量	4.2 (R32) 【配管30m分封入済】		
	送風装置	形式・台数	0.9 (M-MB75) 軸流式 (モータ直結) × 2		
		送風量	冷: 92, 暖: 92		冷: 92, 暖: 100
	電動機	定格出力	86 × 2		
		クランクケースヒータ	20		
配管寸法	冷媒配管 (外径)	液管	φ9.52 (フレア接続)		
		ガス管	φ15.88 (フレア接続)		
	排水口		【室内】VP20の排水管の接続可能【室外】内径φ20mmの排水穴×3個		
		電源配線サイズ	□5.5/□5.5 × 3本		
電気配線	漏電しゃ断器 (高調波対応品)	30/30			
	開閉器または配線用しゃ断器	30/30			
	アース線サイズ	φ1.6/φ1.6			
	室内外ユニット接続配線	φ1.6 × 3本 (~70mm), □3.5 × 3本 (~120mm)			
設計	圧力	高圧部: 4.15, 低圧部: 2.26			
	冷房能力	1.04 (届出不要)	1.39 (届出不要)	1.62 (届出不要)	
保護装置	IPコード		室内: IPX0, 室外: IPX4		
			冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護		

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616: 2015条件により運転した値です。[ ~ ]は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率(2006)は、JIS B 8616: 2006条件、(2015)は、JIS B 8616: 2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは、JIS B 8616: 2015、音圧レベルは、JIS B 8616: 2006条件に基づいた値です。  
 (2) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が3速(急・強・弱)となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定(P急・急・強)としてください。  
 (3) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合、フレックスフローアダプタおよび防雪フード(別売)を取付けてください。  
 (4) BEST計算用 室内送風機消費電力: 0.08kW (140形: 0.11kW, 160形: 0.12kW)

(7)天吊耐油形 (FDESZ)  
 冷暖房兼用機 (ヒータレス単相電源形) [FDESZ-HK]

セット形式		形式		FDESZ805HK4B		
項目	リモートコントローラ	RC-DX3, RC-DX2, RC-D4G				
(1)能力	冷房能力	定格	7.1 [1.9~8.0]	kW	1.9	
		最少中温	3.2 (中温: 3.2)			
	暖房能力	定格標準	8.0 [2.1~10.0] (最小: 2.1)	kW	3.6	
		中間	8.1			
		最大低温	0.91/0.94			
(1)運転特性	運転電流	冷房	9.1/8.9	A	8.6/8.6	
		暖房	5 (18)			
	消費電力	冷房	定格中間	1.80/1.77	kW	0.674/0.691 (中温: 0.558/0.578)
			最少中温	0.403/0.423		
		暖房	定格標準	1.71/1.71 (最小: 0.465/0.482)		
			中間	0.675/0.702		
	力エネルギー消費効率	冷房	率	2.70/2.69	%	冷: 99, 暖: 99
			定格標準	冷: 99, 暖: 99		
		暖房	率	定格: 3.94/4.01, 中間: 4.75/4.63		
			率	定格: 4.68/4.64, 中間: 5.33/5.13		
通年エネルギー消費効率	(2006)	5.1/5.0			4.9/4.8	
	(2015)	4.9/4.8				
運転音	室内ユニット	パワーレベル 音圧レベル	冷: 急 65/69, 弱 63/65, 暖: 急 66/69, 弱 63/65	dB(A)	冷: 急 50/54, 弱 47/49, 暖: 急 51/54, 弱 48/49	
	室外ユニット	パワーレベル 音圧レベル	66			
室内ユニット	外形寸法 (高さ×幅×奥行)	mm	295×1540×695			
	製品質量	kg	66			
	送風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式 両吸込多翼遠心式 (モータ直結) × 2			
	風量	機外静圧 (標準風量時)	Pa	急: 30/35, 弱: 27/29		
		電動機定格出力	W	70×2		
	吹出ダクト接続	エアフィルタ	アルミ製オイルミストフィルタ			
	新鮮空気取入口	新鮮空気取入口	前面 (φ125mm スポットダクト×2か所, 1m) [品番SAD-10B (オプション)] 新鮮空気取入口 (背面: φ150mm フレキシブルダクト×2か所)			
	運転調整	遠方発停用機能	操作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転・点検用・LED, 液晶表示) 遠方発停入力用コネクタ (CnT: 6P) を保有 (室内基板上)			
	加湿器	防振装置・防音・断熱材	送風用電動機: 防振ゴム, 外板: 吸音断熱材貼付			
	室外ユニット	外形寸法 (高さ×幅×奥行)	mm	845×970×370		
製品質量		kg	70			
冷却装置		圧縮機形式・台数	RMT5118SWE1×1			
		電動機出力	kW	1.4		
冷媒制御		空気熱交換器	アルミフィン&銅チューブ式			
		電子膨張弁	電子膨張弁			
冷凍機油封入量		冷媒封入量	kg	3.6 (R32) [配管30m分封入済]		
		冷凍機油封入量	ℓ	0.675 (M-MB68)		
送風装置		形式・台数	軸流式 (モータ直結) × 1			
		電動機定格出力	W	冷: 52, 暖: 48		
クラックケースヒータ	W	86				
低外気温時冷房運転制御機能	霜除	20				
防振・防音装置	防振装置	室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温-15℃~50℃で冷房運転可能 <sup>(2)</sup> マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式				
	防音装置	圧縮機: 防振ゴム, 吸音断熱材巻付				
配管寸法	冷媒配管 (外径)	液管 ガス管	mm	φ9.52 (フレア接続) φ15.88 (フレア接続)		
	排水口	[室内] VP25の排水管の接続可能 [室外] 内径φ20mmの排水穴×3個				
電気配線	電源配線サイズ	mm <sup>2</sup>	□3.5/□3.5×2本			
	漏電しゃ断器 (高調波対応品)	A	30/30			
設置法	開閉器または配線用しゃ断器	A	30/30			
	アース線サイズ	φmm	φ1.6/φ1.6			
IPコード	室内外ユニット接続配線	φmm	φ1.6×3本			
	設計圧力	MPa	高圧部: 4.15, 低圧部: 2.26			
保護装置	法定冷凍能力	トン	0.74 (届出不要)			
	保護装置		室内: IP20, 室外: IP24			
冷房時 Frost 防止, 過負荷保護, 吐出温度保護						

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616: 2015条件により運転した値です。[ ~ ]は最小最大範囲を示します。  
 通年エネルギー消費効率 (2006) は, JIS B 8616: 2006条件, (2015) は, JIS B 8616: 2015条件に基づいた値です。  
 運転音のパワーレベルは, JIS B 8616: 2015, 音圧レベルは, JIS B 8616: 2006条件に基づいた値です。  
 なお結露防止ヒータはOFF時の値です。(出荷時未接続)

(2) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合, フレックスフローアダプタおよび防雪フード (別売) を取付けてください。  
 (3) BEST計算用 室内送風機消費電力 (50/60Hz) : 0.20/0.23kW

# 冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDESZ-H〕

セット形式		FDESZ805H4B	FDESZ1405H4B	
形式		室内：FDESZVP804B 室外：FDCZP805H	室内：FDESZVP1404B 室外：FDCZP1405H	
項目	リモートコントローラ	RC-DX3, RC-DX2, RC-D4G		
電	源	三相 200V 50/60Hz		
(1) 能力	冷房能力	定格	7.1 [1.9~8.0]	12.5 [3.2~14.0]
		中間	3.2 (中温:3.2)	5.7 (中温:3.2)
力	暖房能力	最少中温	1.9	5.0
		定格標準	8.0 [2.1~10.0] (最小:2.1)	14.0 [3.5~18.3] (最小:3.5)
定	格冷房時の顕熱比	中間	3.6	6.3
		最大低温	8.1	14.5
(1) 運	転電流	冷	5.7/5.6	11.8/11.2
		暖	5.4/5.4	10.9/10.4
特	始動電流 (最大電流)	冷	5 (13)	5 (23)
		暖	1.78/1.75	3.88/3.70
性	消費電力	冷房	0.666/0.684 (中温:0.533/0.572)	1.26/1.23 (中温:1.09/1.08)
		暖房	0.400/0.421	0.669/0.675
力	エネルギー消費効率	冷房	1.68/1.68 (最小:0.46/0.477)	3.60/3.41 (最小:0.673/0.691)
		暖房	0.666/0.693	1.18/1.13
通	年エネルギー消費効率	冷	2.65/2.64	5.75/5.46
		暖	冷:90, 暖:90	冷:95, 暖:95
運	転音	室内ユニット	冷:急65/69, 弱63/65, 暖:急66/69, 弱63/65	冷:急64/67, 弱63/65, 暖:急64/68, 弱63/65
		室外ユニット	冷:急50/54, 弱47/49, 暖:急51/54, 弱48/49	冷:急49/52, 弱46/48, 暖:急49/53, 弱47/49
室	内ユニット	外形寸法 (高さ×幅×奥行)	295×1540×695	
		製品質量	66	69
送	風装置	形式・台数	アルミフィン&銅チューブ式 両吸込多翼遠心式 (モータ直結) × 2	
		風量	急:30/35, 弱:27/29	
吹	出ダクト接続	電動機定格出力	70×2	
		エアフィルタ	アルミ製オイルミストフィルタ	
新	鮮空気取入口	前面 (φ125mm スポットダクト×2か所, 1m) [品番SAD-10B (オプション)]	新鮮空気取入 (背面:φ150mm フレキシブルダクト×2か所)	
		運転調整	操作 (運転切換, 風量調整, タイマ, 換気), 室温調節 (電子サーモスタット), 表示 (運転・点検用・LED, 液晶表示)	
防	振装置	遠方発停用機能	遠方発停入力用コネクタ (CNT:6P) を保有 (室内基板上)	
		加湿器	- (組込不可能)	
室	外ユニット	外形寸法 (高さ×幅×奥行)	845×970×370	1505×970×370
		製品質量	70	115
冷	却装置	圧縮機形式・台数	RMT5118SWE1×1	RMT5126SWE2×1
		電動機定格出力	1.4	2.7
送	風装置	冷媒封入量	3.6 (R32) [配管30m分封入済]	4.2 (R32) [配管30m分封入済]
		冷凍機油封入量	0.675 (M-MB75)	0.9 (M-MB75)
ク	ラ	形式・台数	軸流式 (モータ直結) × 1	軸流式 (モータ直結) × 2
		風量	冷:52, 暖:48	冷:92, 暖:92
電	気配線	電動機定格出力	86	86×2
		電源配線サイズ	20	
設	法	低外気温時冷房運転制御機能	室外送風用電動機制御及び圧縮機制御により外気温-15℃~50℃で冷房運転可能 <sup>(2)</sup>	
		霜除	マイコン差温式デアイスによる逆サイクル方式	
配	管	防振・防音装置	圧縮機:防振ゴム, 吸音断熱材巻付	
		冷媒配管 (外径)	φ9.52 (フレア接続)	φ15.88 (フレア接続)
電	気配線	排水口	〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個	
		電源配線サイズ	□35/□35×3本	□55/□55×3本
漏	電	電線サイズ	30/30	30/30
		開閉器または配線用しゃ断器	20/20	30/30
ア	ー	ース線サイズ	φ1.6/φ1.6	
		室内外ユニット接続配線	φ1.6×3本	φ1.6×3本 (~70m), □3.5×3本 (~120m)
計	圧力	設計	高圧部:4.15, 低圧部:2.26	
		法定冷凍能力	0.74(届出不要)	1.39(届出不要)
I	P	コード	室内:IP20, 室外:IPX4	室内:IP20, 室外:IPX4
		保護装置	冷房時フロスト防止, 過負荷保護, 吐出温度保護	

注(1) 能力・運転特性は適正冷媒量においてJIS B 8616:2015条件により運転した値です。〔 ~ 〕は最小最大範囲を示します。

通年エネルギー消費効率 (2006) は, JIS B 8616:2006条件, (2015) は, JIS B 8616:2015条件に基づいた値です。

運転音のパワーレベルは, JIS B 8616:2015, 音圧レベルは, JIS B 8616:2006条件に基づいた値です。

なお結露防止ヒータはOFF時の値です。(出荷時未接続)

(2) 外気温が-5℃以下で冷房運転を行う場合, フレックスフローアダプタおよび防雪フード (別売) を取付けてください。

(3) BEST計算用 室内送風機消費電力 (50/60Hz) : 0.20/0.23kW

## 2. 使用範囲

項目		室外ユニット形式	
		シングル機	
		P805	P1125, P1405, P1605
室内吸込空気温度	冷房時 暖房時	詳細は使用温度範囲(次ページ)をご覧ください。	
室外吸込空気温度	冷房時 暖房時		
適用地域		ヒートポンプ機(暖房運転を考慮して)日最低気温が12～3月の冬期4か月間の平均値で0℃DB以上であって降雪の多くない地域。降雪地域では、防雪フード(オプション)を組付け使用してください。	
設置場所		外形図に据付けスペースに関する制限を記載しております。室内ユニットの据付けは、床面から2.5m以上としてください。	
室内ユニット雰囲気温度・湿度 <sup>(2)</sup>		露点温度28℃以下、相対湿度80%以下(除くFDEZ, FDESZ) 露点温度23℃以下、相対湿度80%以下(FDEZ, FDESZの場合)	
風量・風圧		送風機特性範囲内で断熱性の良いダクト・吹出口を接続してください。(FDRZ, FDUZのみ)	
エアフィルタ		必ず、メンテナンスが容易な位置にエアフィルタを設置(現地手配)してください。(FDRZ, FDUZのみ)	
冷媒配管の断熱		相対湿度が70%を越える天井内等では、厚さ20mm以上の断熱が必要になります。	
ドレン配管の断熱		相対湿度が70%を越える天井内等では、厚さ10mm以上の断熱が必要になります。	
冷媒配管の片道配管長(実長) <sup>(3)</sup>		70m以下	100m以下
室内・外ユニットの高さの差		30m以下 (室外ユニットが下の場合:15m以下)	
圧縮機の発停頻度	1サイクル時間	7分以上(停止～停止/始動～始動)	
	停止時間	3分以上	
電源電圧	電圧変動	定格電圧200V±10%以内	
	始動時の電圧降下 相間アンバランス	定格電圧200Vの15% 3%以内	

注(1) 次のような場所への設置は行わないでください。

- ・調理場や機械工場などの、油の飛沫や油煙、蒸気の立ち込める場所。
- ・可燃性ガスの漏れる恐れがある場所。
- ・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ等、機器に影響する物質の発生・滞留するところ。
- ・海岸地帯の潮風が直接当たる場所。
- ・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用するところ。
- ・電磁波・高周波の発生する機器の近く。
- ・カーボン繊維や金属分・パウダー等が浮遊する場所。
- ・煙突の煙がかかる場所。
- ・標高1000m以上の場所。
- ・洗たく室等 水が掛かる場所。  
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしていません。
- ・車両・船舶等移動するものへの設置。
- ・積雪の多い所。
- ・ワイヤレス仕様で使われる場合、受信部に影響のある光線が飛び交うところ。
- ・お掃除ラクリーナパネル仕様で使われる場合、温度制御が重要なところ。  
エアコン運転中に清掃運転を開始すると、風量Lo・風向制御停止となります。

24時間運転等のところでは、自動清掃中(約1時間)運転状態(能力低下)が変わります。

(2) 雰囲気温度が上記の値を超える場合は、外板の断熱材のポリウレタンホーム(t10以上)を追加してください。

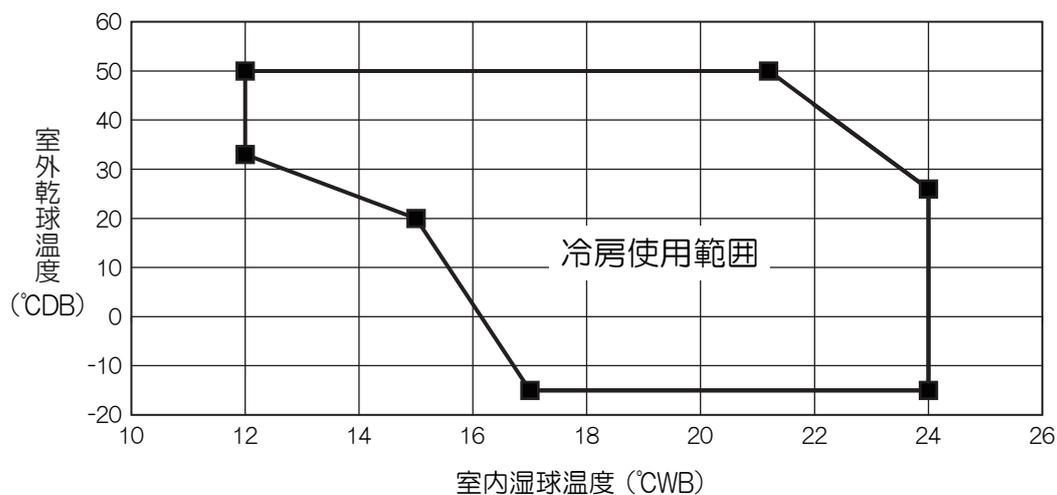
(3) 片道配管長の下限は、3m以上としてください。

P805の場合、片道配管長が3mより短い場合は、工場出荷時のチャージ量から-0.54kgの調整を行ってください。

(4) 冷媒R32には、わずかながら可燃性があります。そのため、半地下や狭小部など換気の悪い場所で室外ユニットを設置・修理・移設する際の作業時は、冷媒漏えいセンサを携帯してください。冷媒が漏えいした場合は、窒息や着火の原因となる恐れがあります。

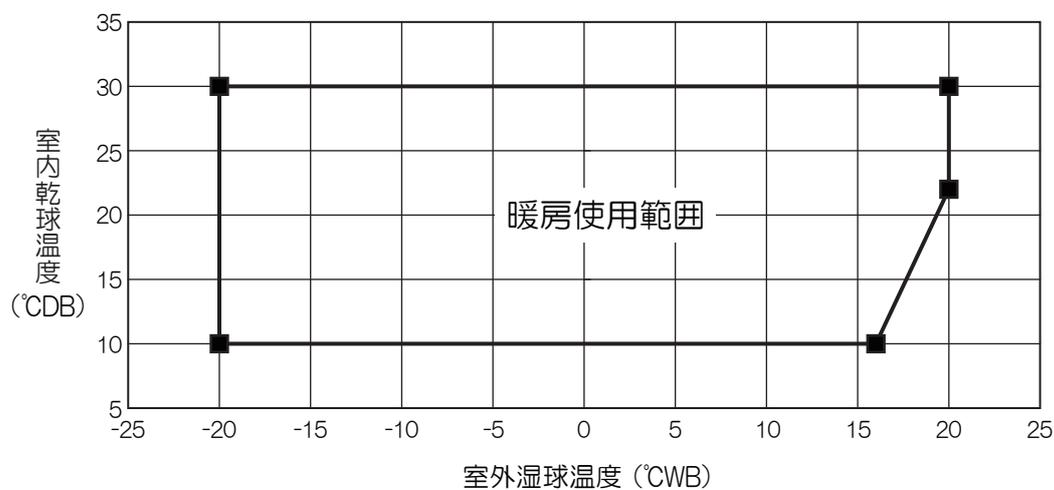
## ■使用温度範囲

### • 冷房運転



注(1) ※-5°C以下で使用する場合は、防雪フード（オプション）を組付けてください。

### • 暖房運転



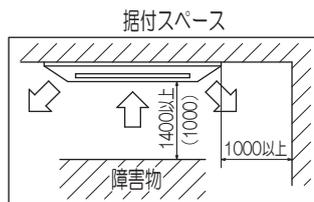
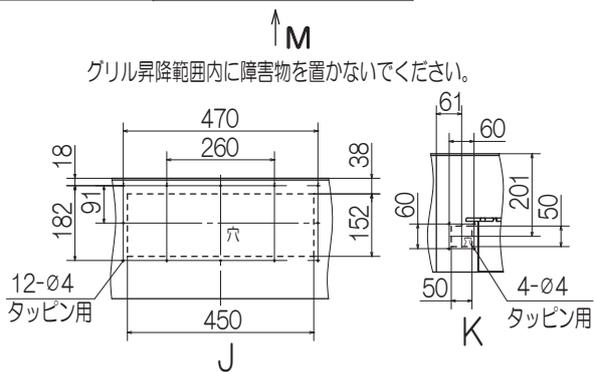
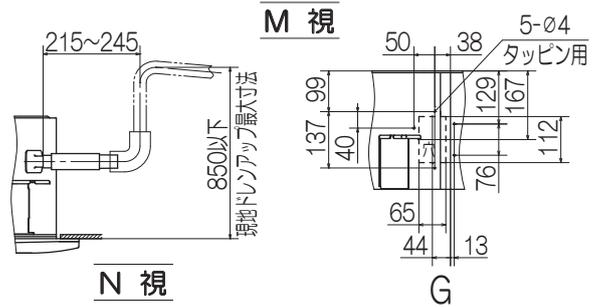
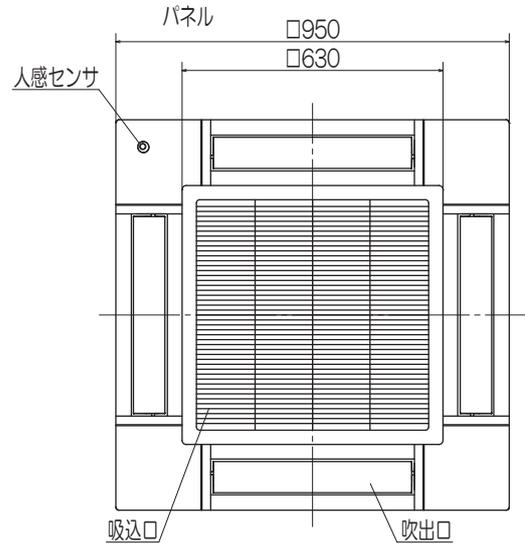
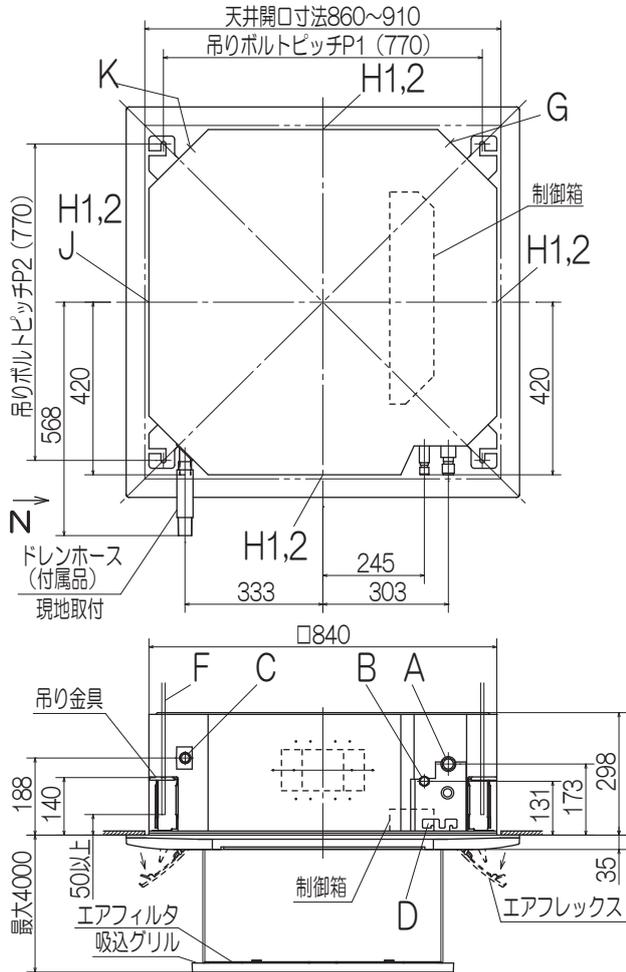
■ ユニットの風量を妨げる様な場所、室外ユニットに強風・他のユニット吹出風が当たる場所に設置された場合、冷房・暖房能力の減少、制御により連続運転をしない範囲が発生します。

### 3. 外形図

#### (1) 室内ユニット

##### (a) 天井埋込形 4 方向吹出し (FDTZ)

(i) 標準パネル・エアフレックスパネル・ラクリーナパネル仕様  
FDTZP805S, 1605S



隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。

#### ●記号説明

記号	内 容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52 (フレア)
C	ドレン配管	VP25 (I.D.25,O.D.32)
D	電源取入口	
F	吊りボルト	M10又はM8
G	OA取入口	
H1	吹出分岐ダクト接続口	φ125
H2		φ200
J	加湿器接続口	
K	加湿器余剰水接続口	

- 注 (1) 装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。  
 (2) 据付高さは2.5m以上としてください。  
 (3) 吊りボルトピッチP1, P2は下表のパターンで調整可能です。  
 (4) 据付スペースの( )内数値は標準パネルおよびエアフレックスパネル装着時の値です。

吊りボルトピッチ範囲表

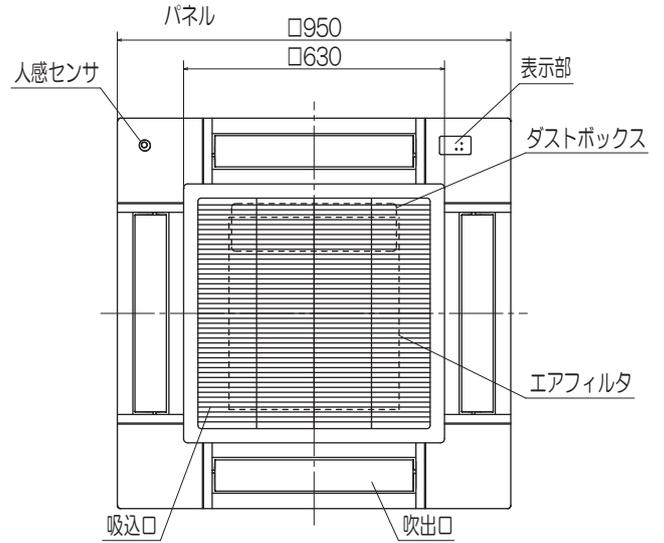
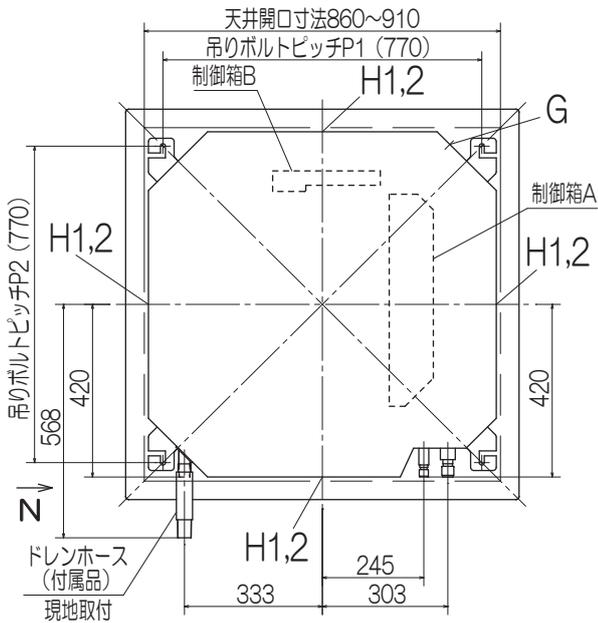
パターン	記号	P1	P2
1		770	725~770
2		770~800	725

PJF000Z391

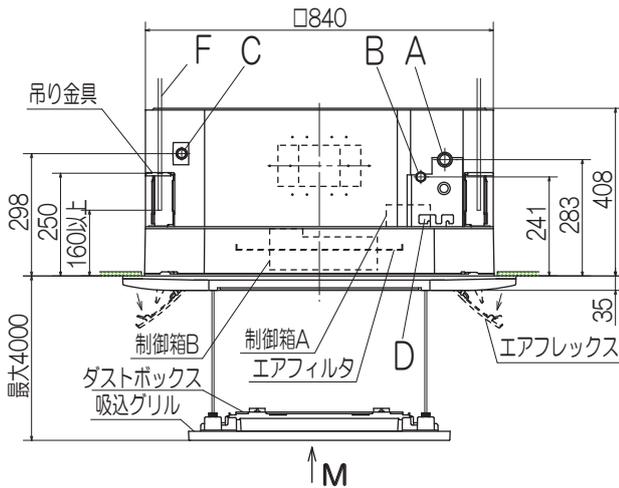
PJF000Z392

PJF000Z393

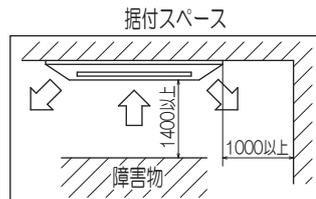
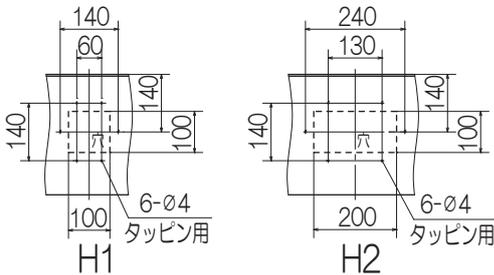
(ii) お掃除ラクリーナパネル仕様  
FDTZP805S, 1605S



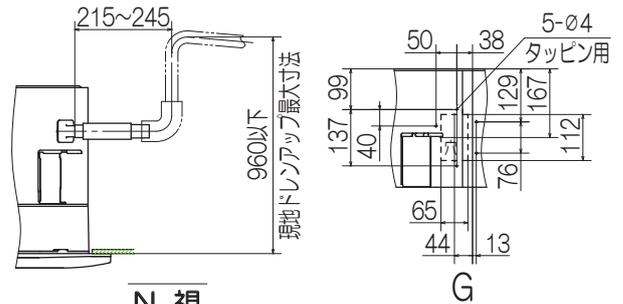
M 視



グリル昇降範囲内に障害物を置かないでください。

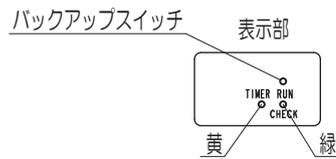


隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。



N 視

G



●記号説明

記号	内 容
A	冷媒ガス側配管 φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側配管 φ9.52 (フレア)
C	ドレン配管 VP25 (I.D.25.O.D.32)
D	電源取入口
F	吊りボルト M10又はM8
G	OA取入口
H1	吹出分岐ダクト接続口 φ125
H2	吹出分岐ダクト接続口 φ200

- 注 (1) 装置銘板は制御箱Aの蓋に付いています。  
 (2) 吸込グリルには方向性があります。90度回転方向には取り付けません。  
 (3) 据付高さは2.5m以上としてください。  
 (4) 吊りボルトピッチP1,P2は下表のパターンで調整可能です。

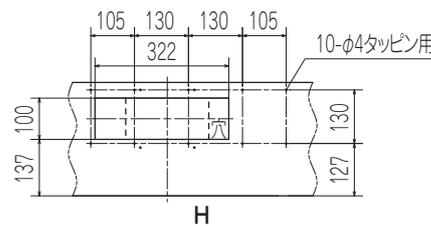
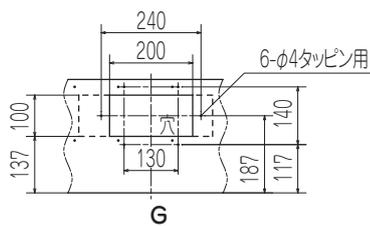
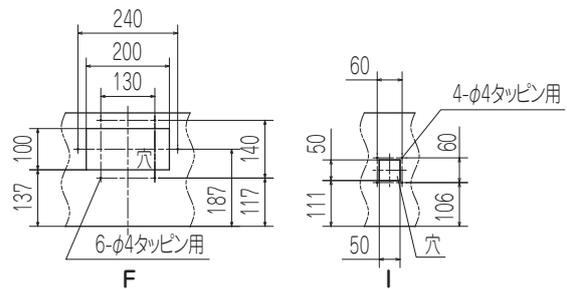
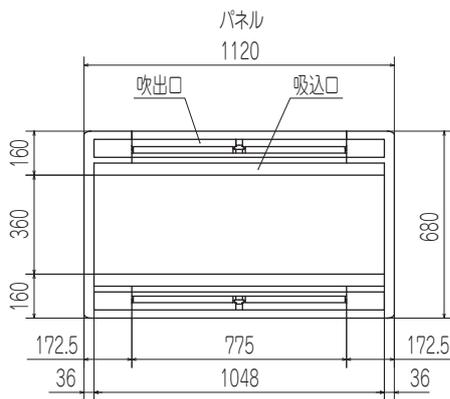
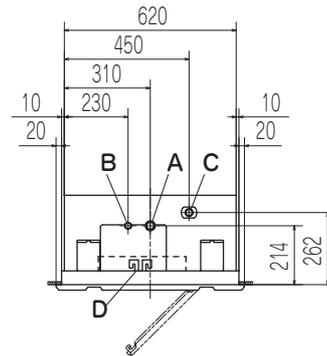
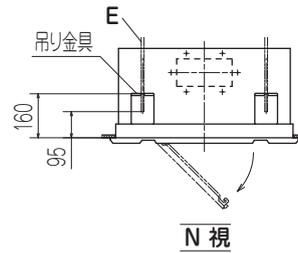
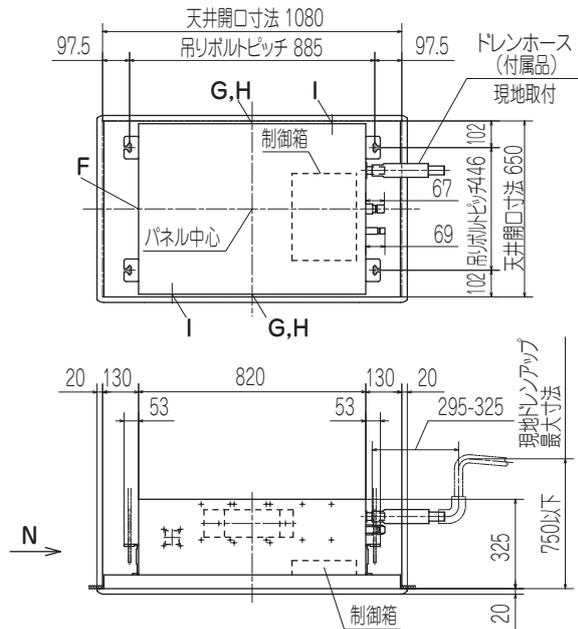
吊りボルトピッチ範囲表

パターン	記号	P1	P2
1		770	725~770
2		770~800	725

(b) 天井埋込形 2 方向吹出し (FDTWZ)

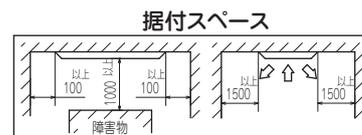
(i) 標準パネル仕様

FDTWZVP804B



●記号説明

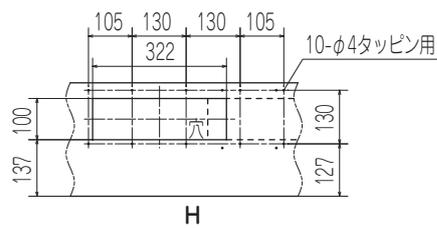
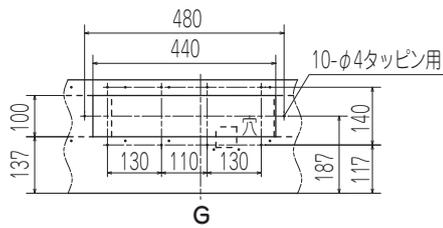
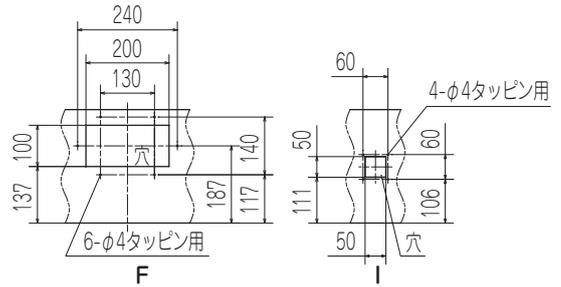
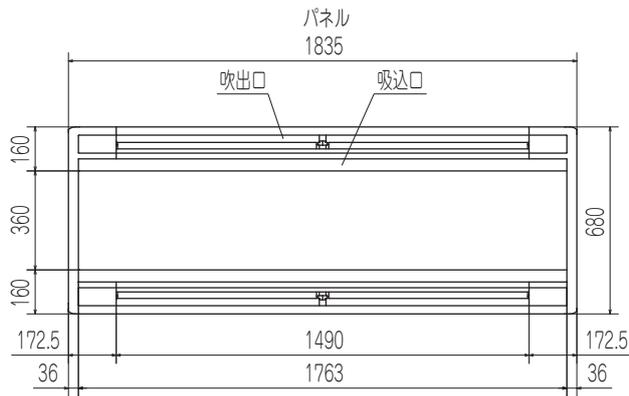
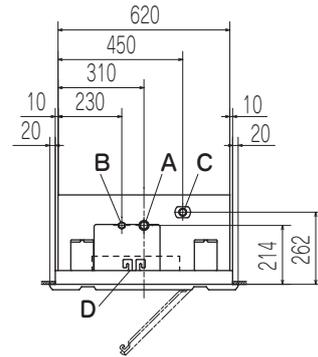
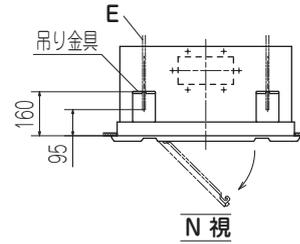
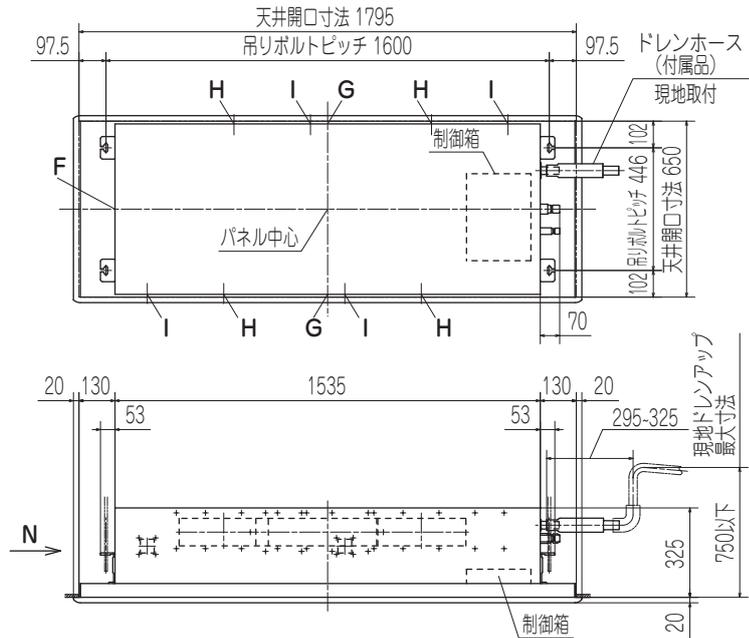
記号	内 容
A	冷媒ガス側接続口 φ15.88(フレア)
B	冷媒液側接続口 φ9.52(フレア)
C	ドレン配管接続口 VP25(I.D.25,O.D.32)
D	電源取入口
E	吊りボルト M10
F	OA取入口
G	吹出分岐ダクト接続口
H	加湿器接続口
I	加湿器余剰水接続口



隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。

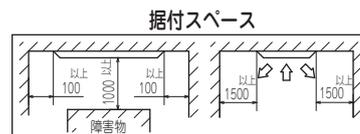
注(1) 装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。

FDTWZVP1124B, 1404B, 1604B



●記号説明

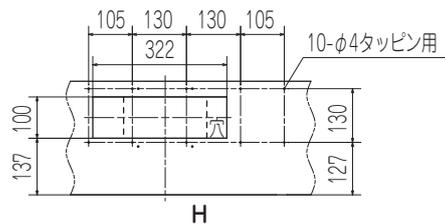
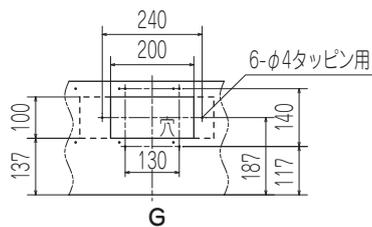
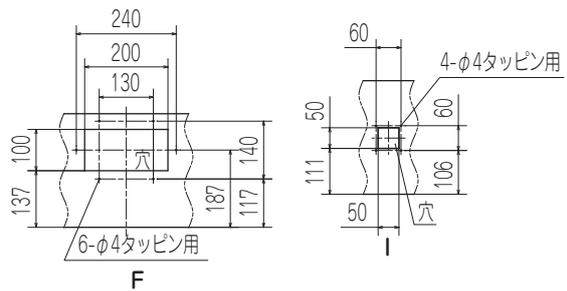
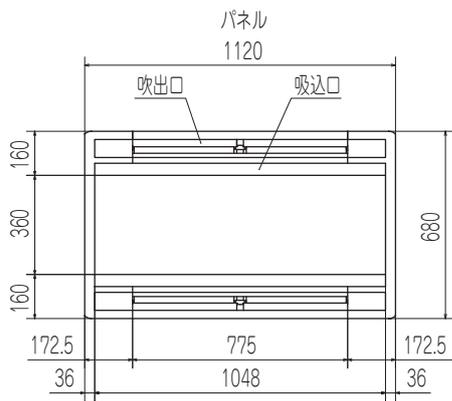
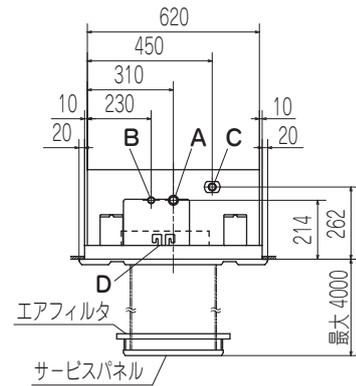
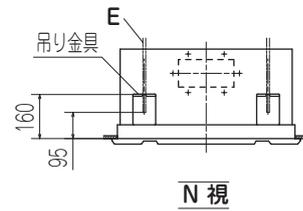
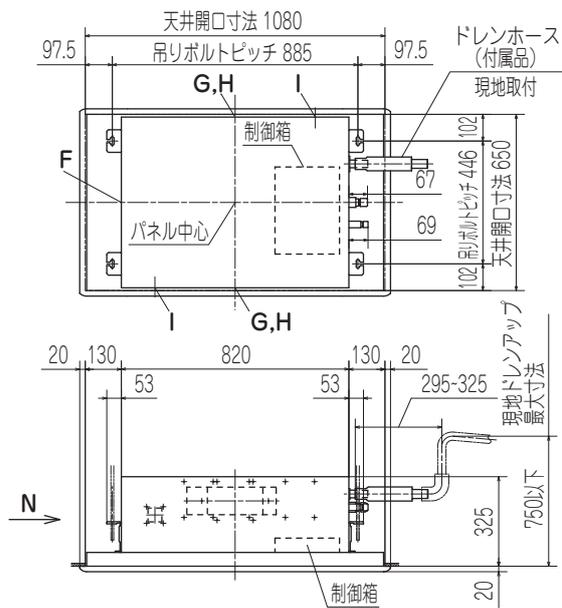
記号	内 容	
A	冷媒ガス側接続口	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側接続口	φ9.52(フレア)
C	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25.O.D.32)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	
G	吹出分岐ダクト接続口	
H	加湿器接続口	
I	加湿器余剰水接続口	



隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。

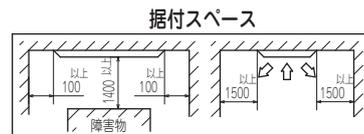
注 (1) 装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。

(ii) ラクリーナパネル仕様  
FDTWZVP804B



●記号説明

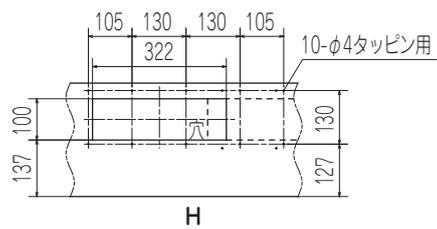
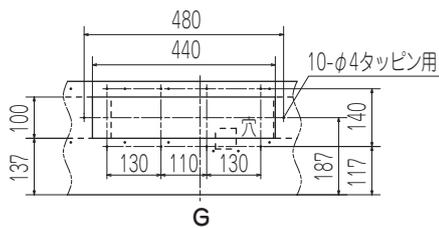
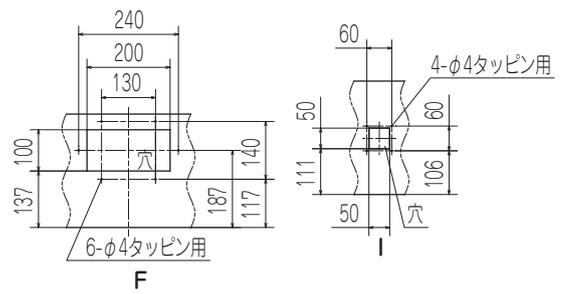
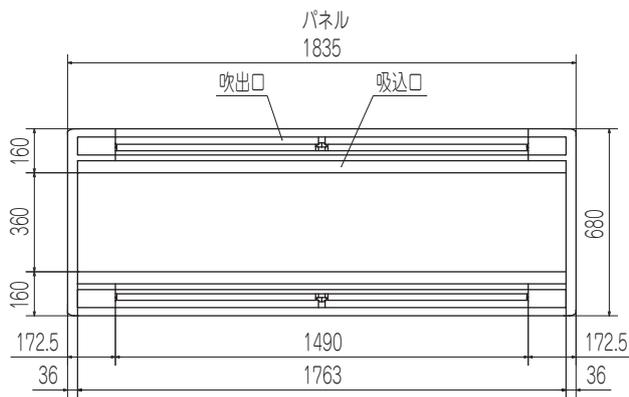
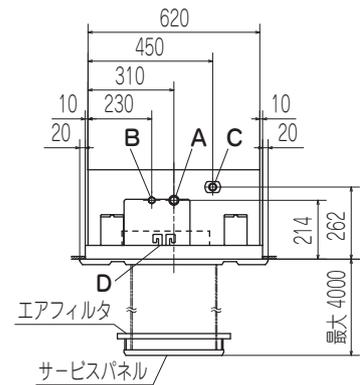
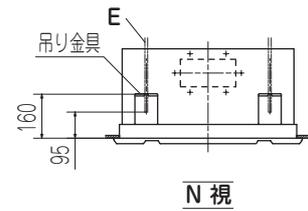
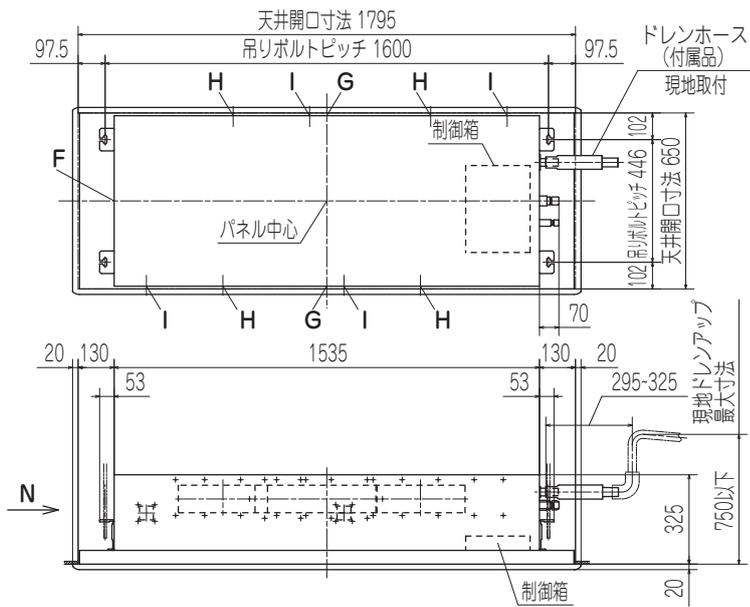
記号	内 容
A	冷媒ガス側接続口 φ15.88(フレア)
B	冷媒液側接続口 φ9.52(フレア)
C	ドレン配管接続口 VP25(I.D.25,O.D.32)
D	電源取入口
E	吊りボルト M10
F	OA取入口
G	吹出分岐ダクト接続口
H	加湿器接続口
I	加湿器余剰水接続口



隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。

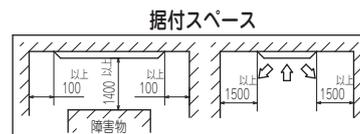
注 (1) 装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。

FDTWZVP1124B, 1404B, 1604B



●記号説明

記号	内 容	
A	冷媒ガス側接続口	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側接続口	φ9.52 (フレア)
C	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	
G	吹出分岐ダクト接続口	
H	加湿器接続口	
I	加湿器余剰水接続口	



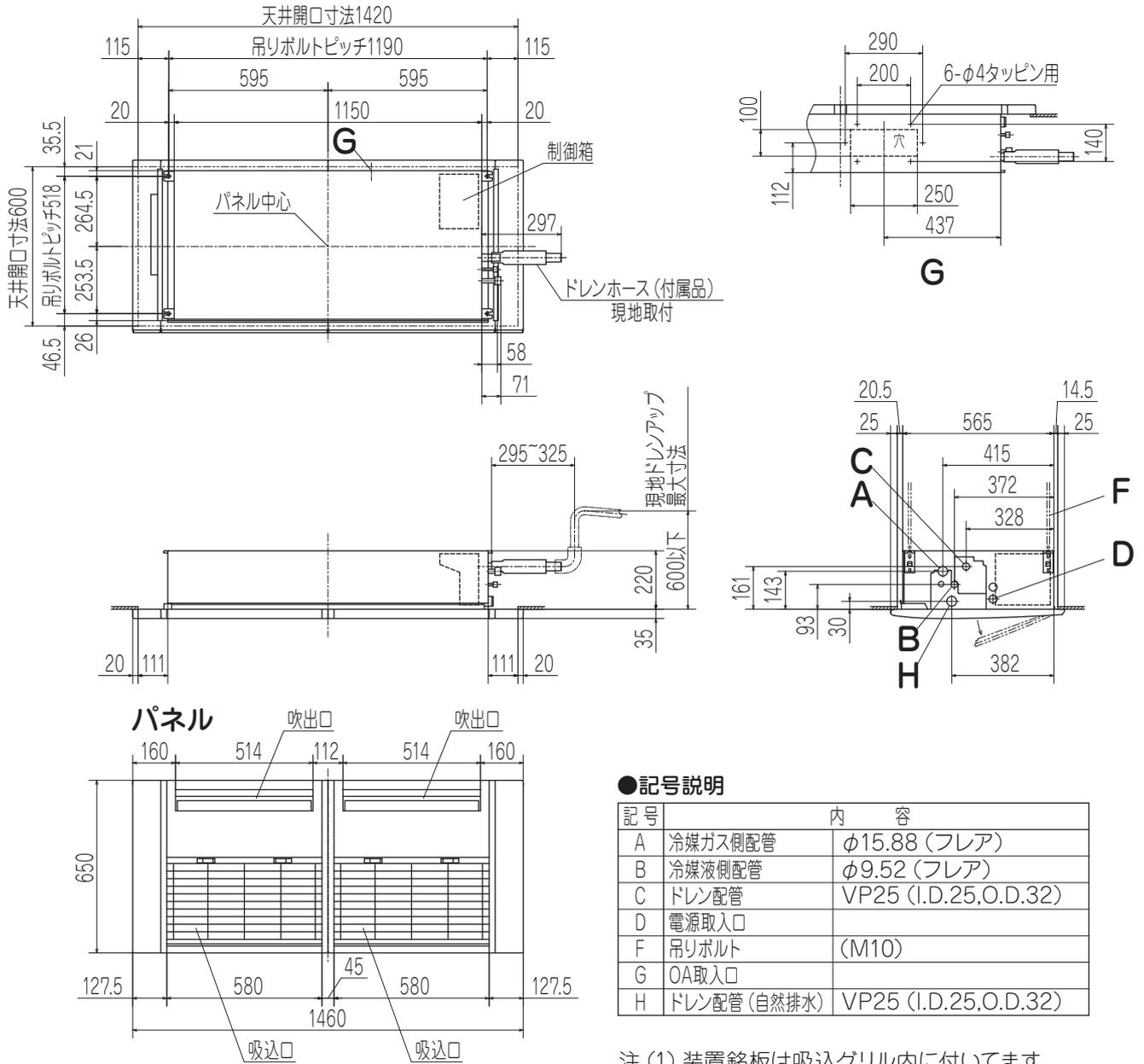
隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。

注 (1) 装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

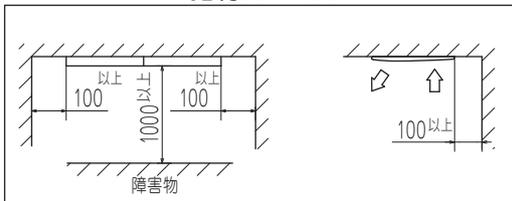
(c) 天井埋込形 1 方向吹出し (FDTSZ)

(i) 天井埋込仕様 (直吹き)

FDTSZVP804B



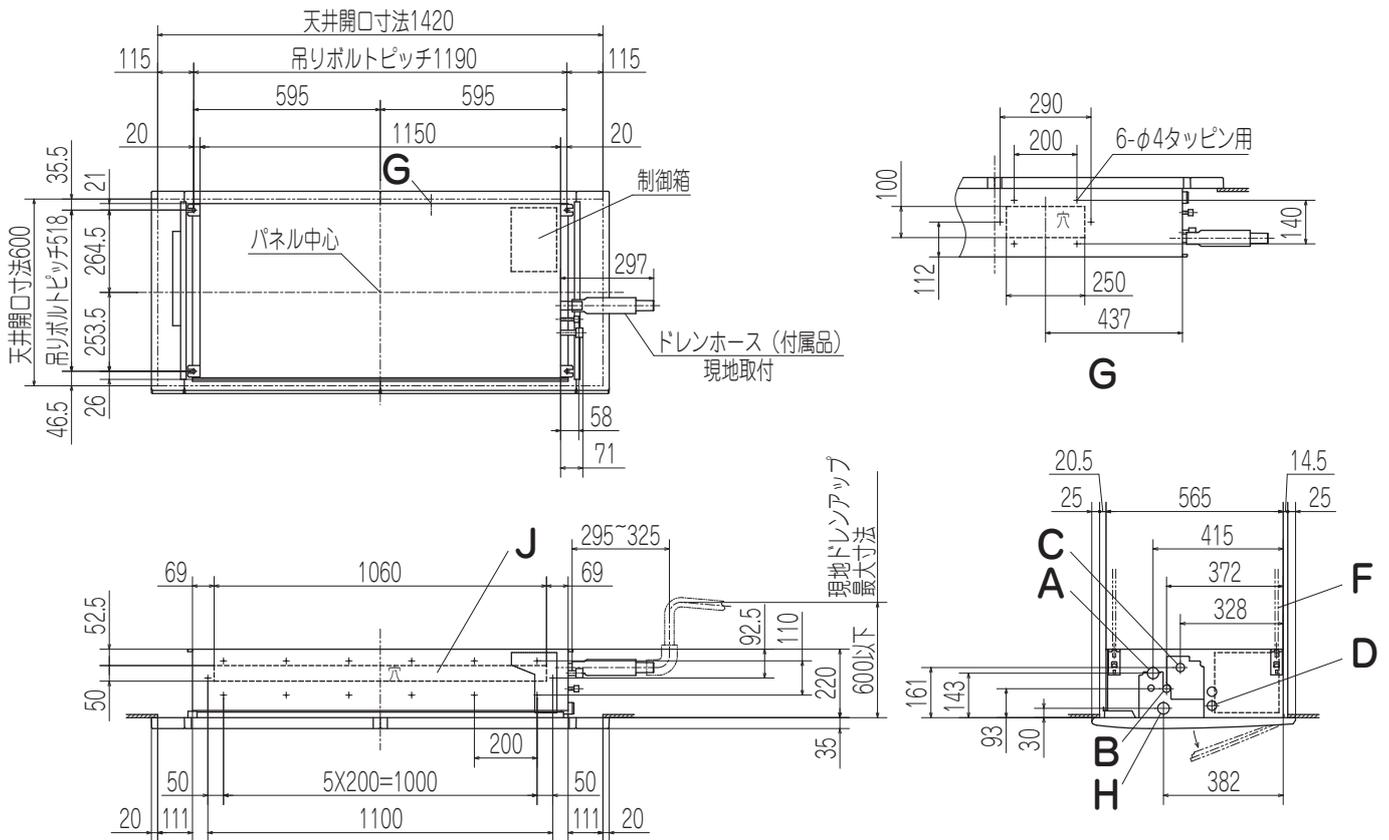
据付スペース



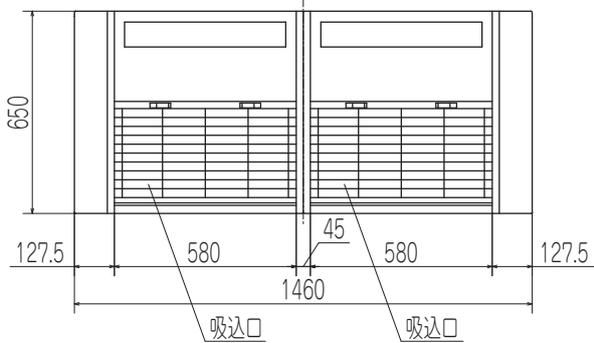
隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。

PJC001Z403

(ii) 下がり天井仕様  
FDTSZVP804B



パネル

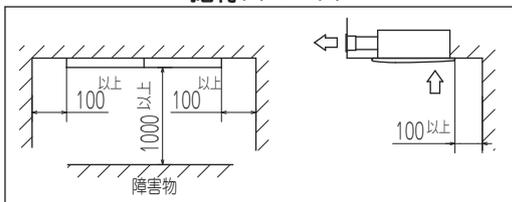


●記号説明

記号	内容
A	冷媒ガス側配管 $\phi 15.88$ (フレア)
B	冷媒液側配管 $\phi 9.52$ (フレア)
C	ドレン配管 VP25(I.D.25,O.D.32)
D	電源取入口
F	吊りボルト (M10)
G	OA取入口
H	ドレン配管 (自然排水) VP25(I.D.25,O.D.32)
J	下がり天井設置時吹出口

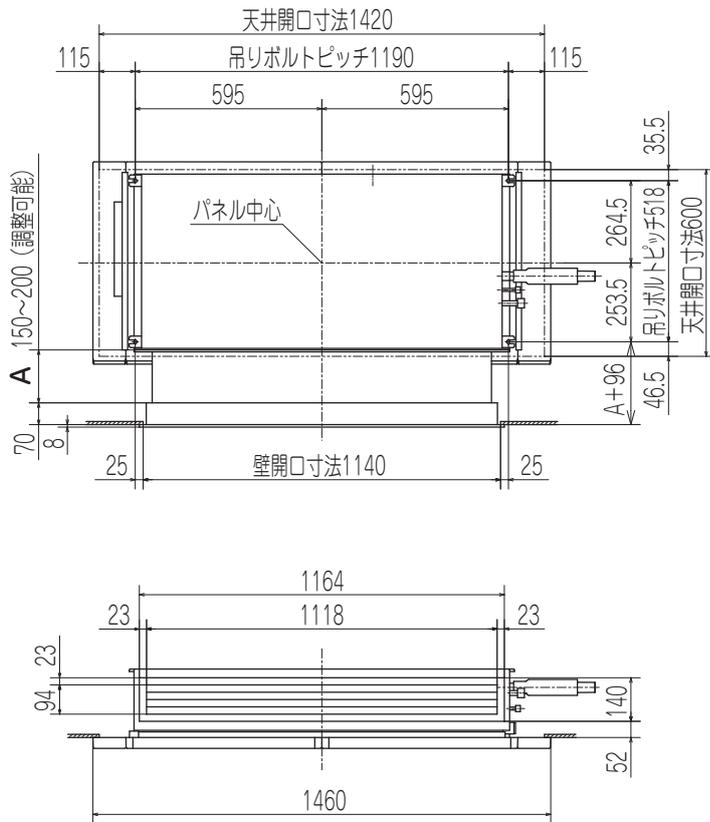
注 (1) 装置銘板は吸込グリル内に付いてます。

据付スペース



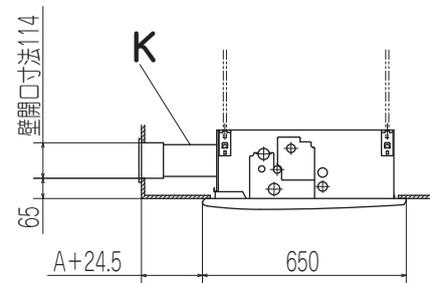
隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。

●吹出グリル取付図



本図は下記オプション部品を組合わせた場合を示す。

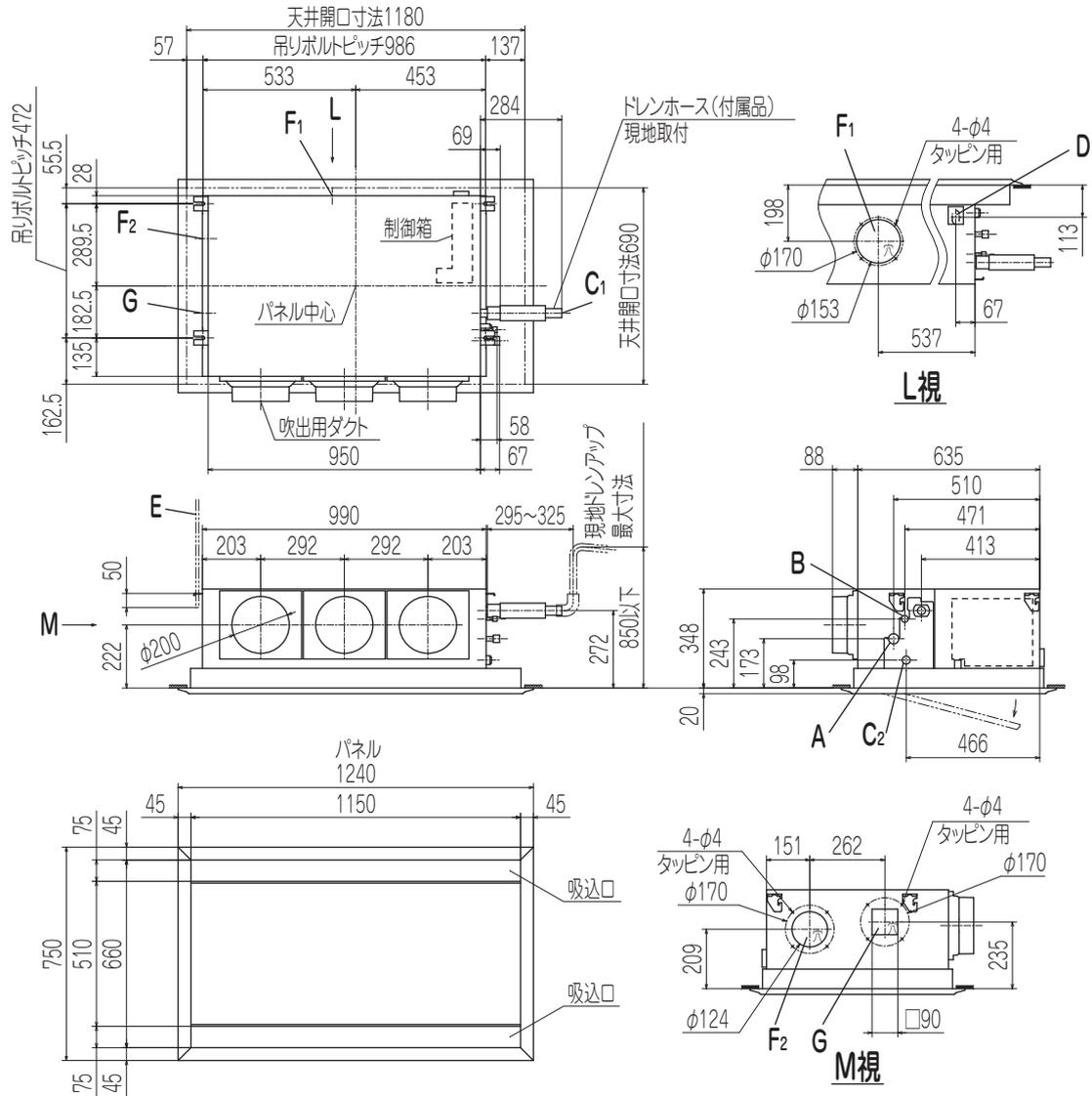
K	下がり天井用吹出グリル (含む吹出しグリル・ダクト)	三菱重工冷熱 HA06241



PJC001Z405

(d) 天埋カセテリア (FDRZ)  
FDRZVP804B

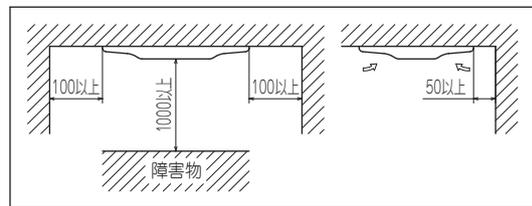
サイレントパネル (品番: R-PNS-3AW) 使用の場合



●記号説明

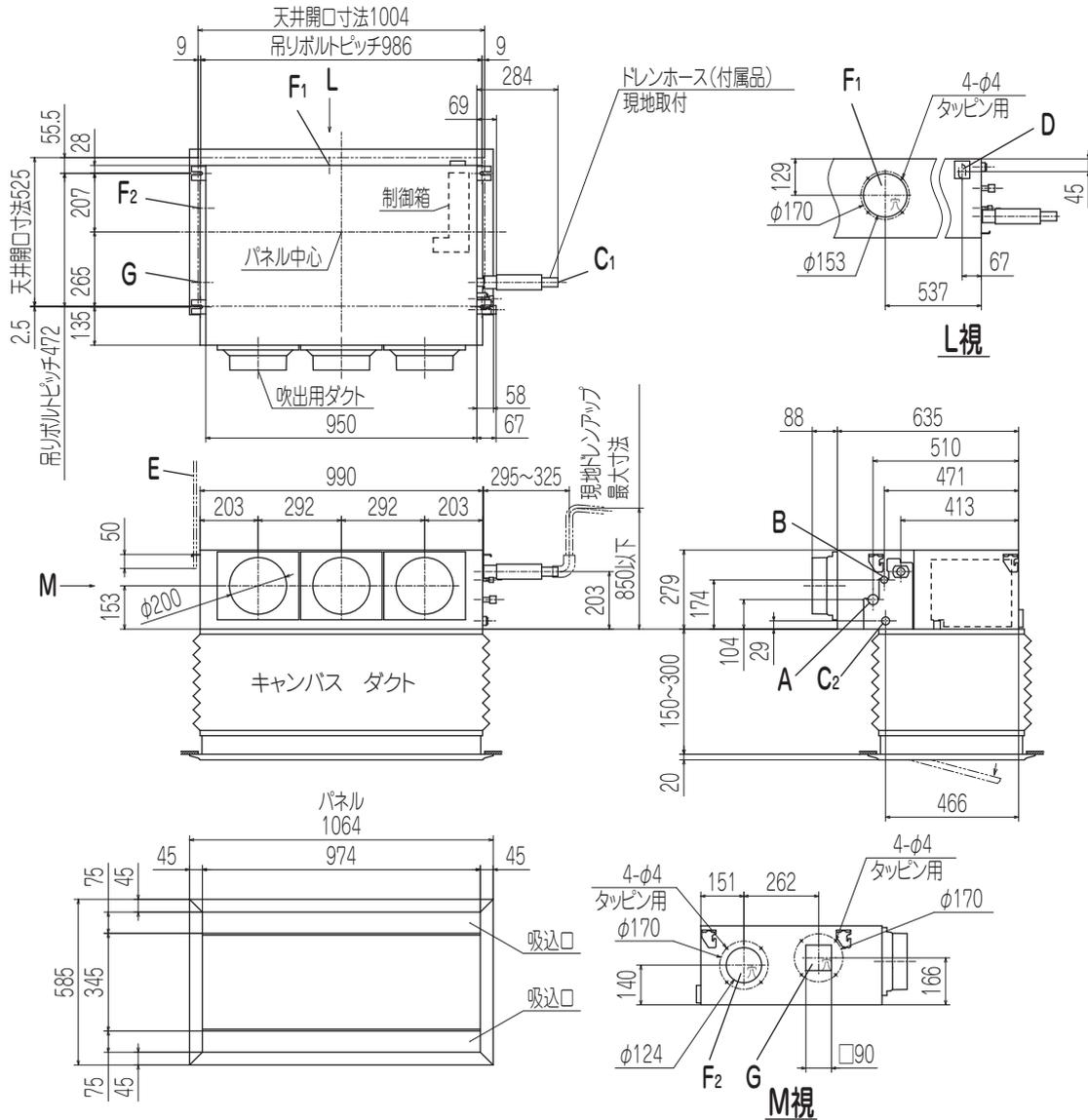
記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52 (フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25, O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20, O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

据付スペース



注  
(1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

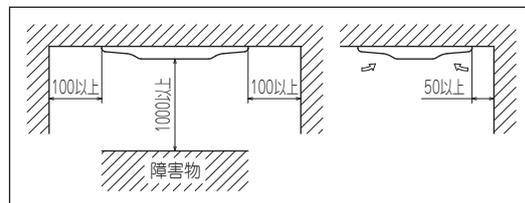
キャンバスパネル（品番：R-PNC-3AW）使用の場合



●記号説明

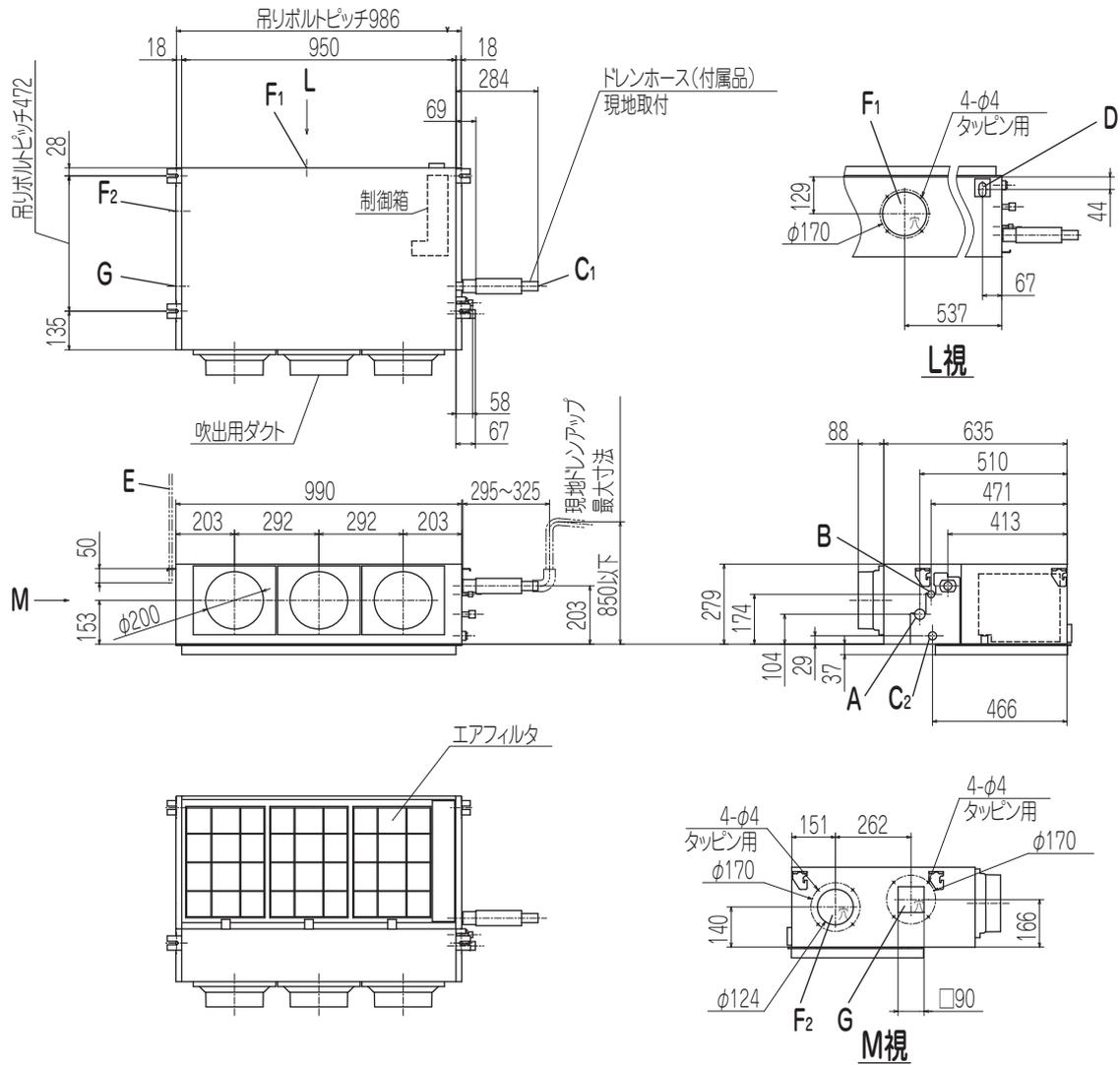
記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20(I.D.20,O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

据付スペース



注  
(1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

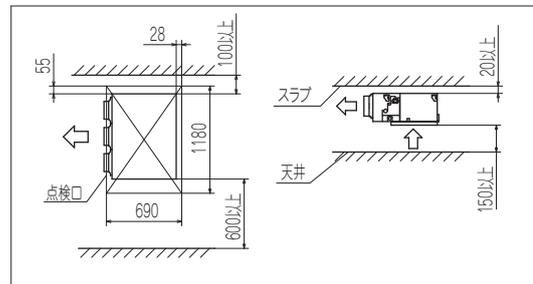
天井リターンキット (品番: R-FL-3A) 使用の場合



●記号説明

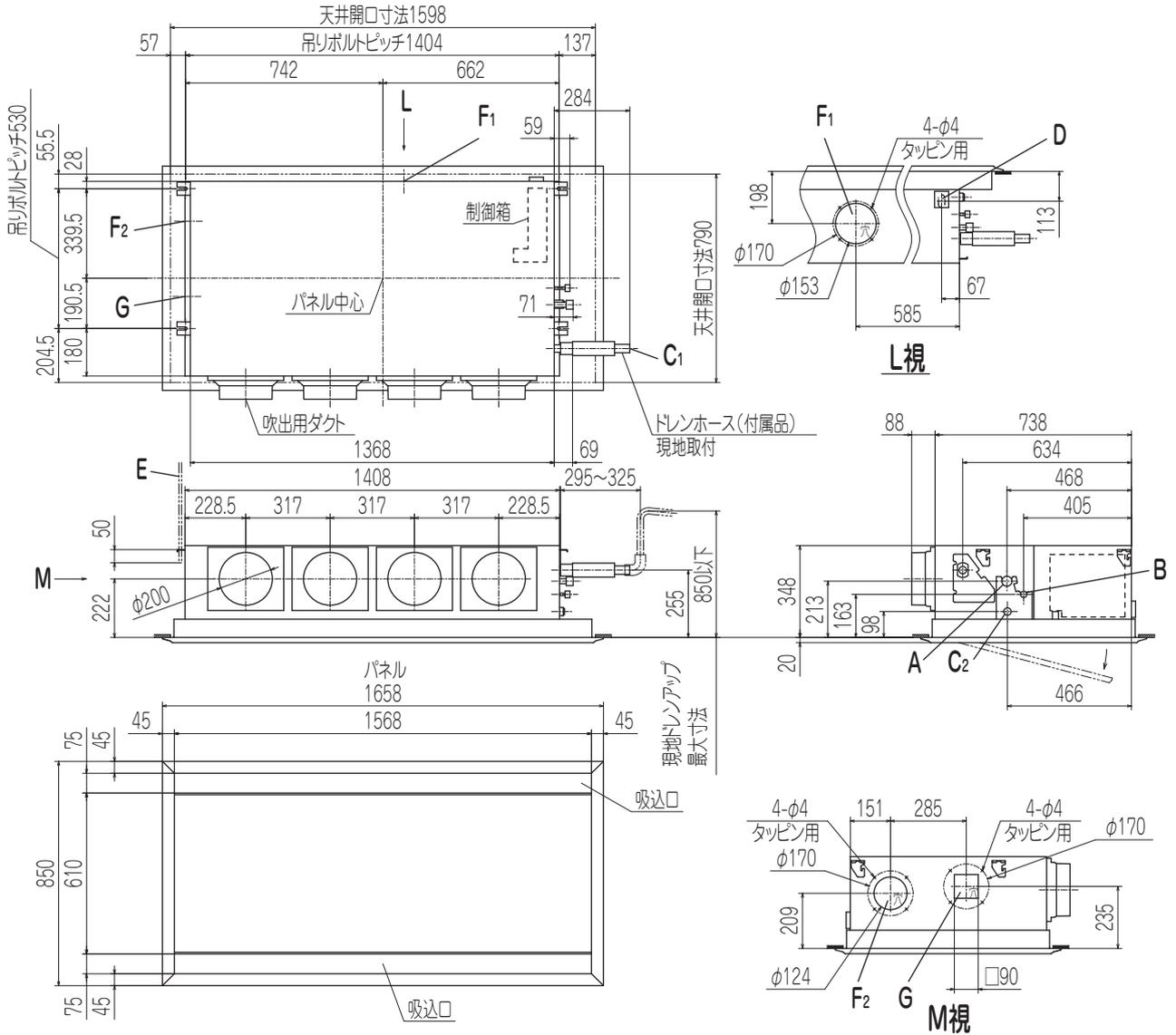
記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20(I.D.20,O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F2	OA取入口	φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

据付スペース



注  
 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

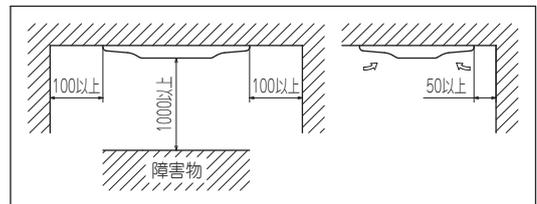
サイレントパネル (品番: R-PNS-4AW) 使用の場合



●記号説明

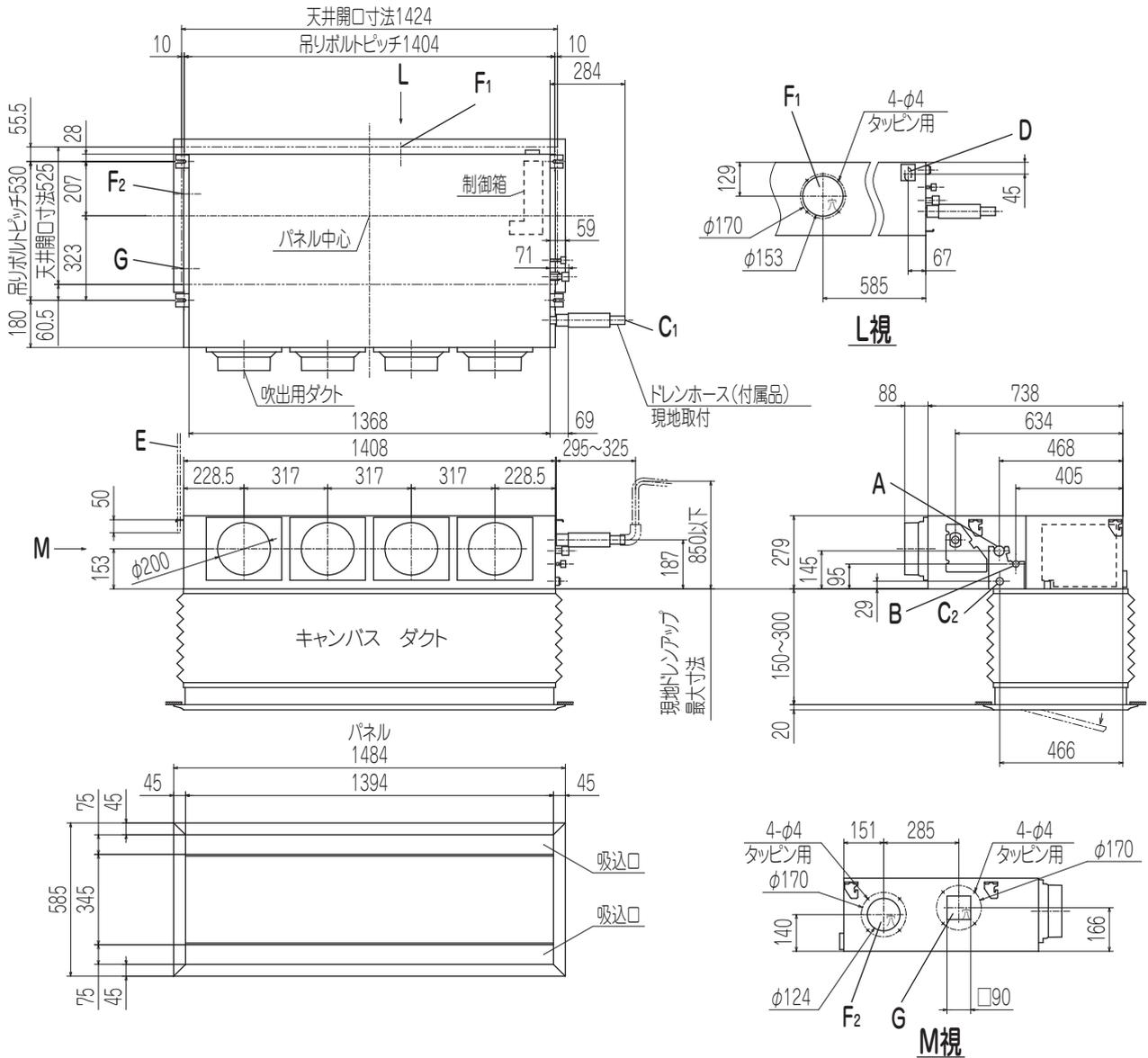
記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52 (フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25,O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20,O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

据付スペース



注  
(1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

キャンバスパネル（品番：R-PNC-4AW）使用の場合

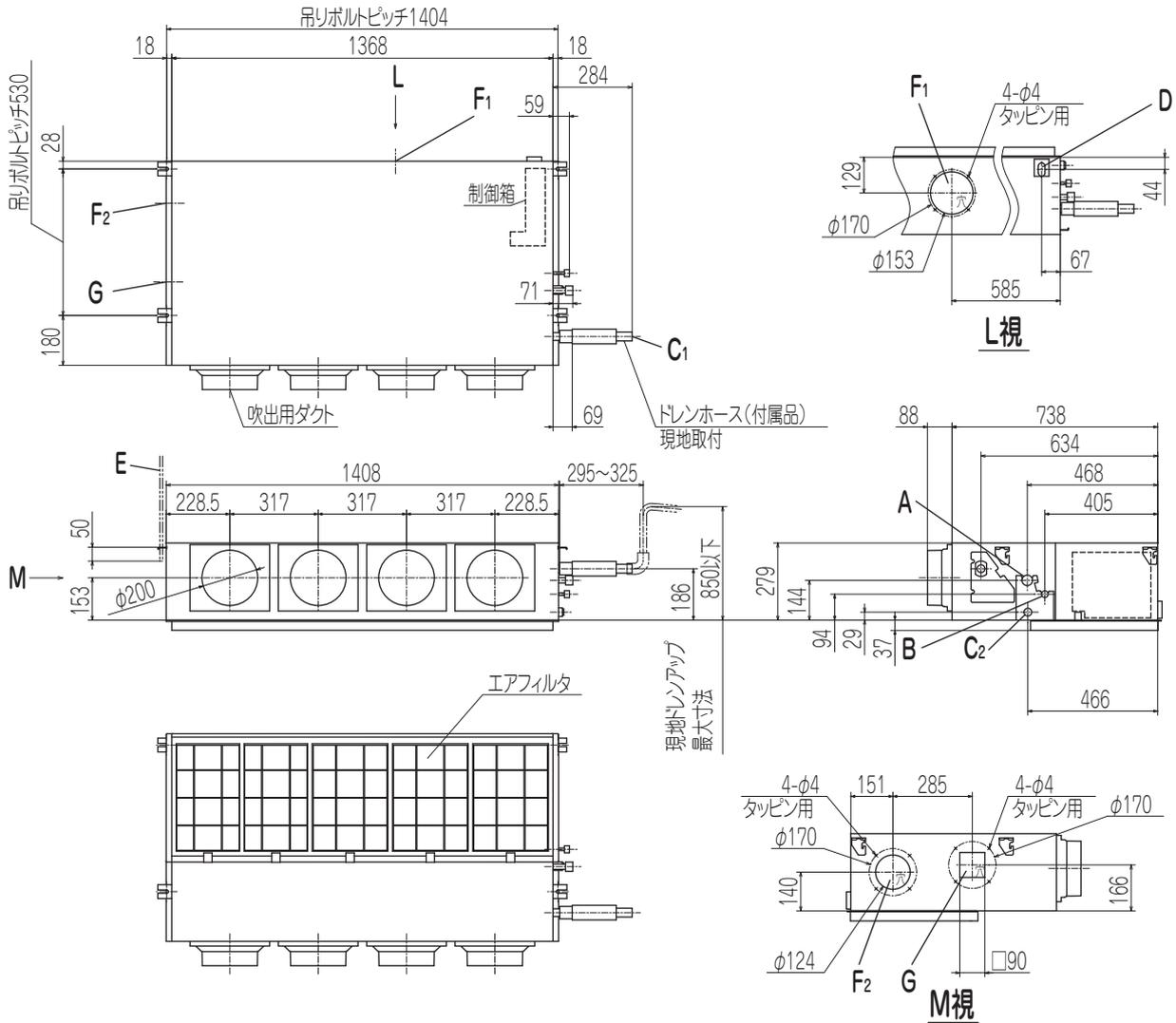


●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20(I.D.20,O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

注  
(1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

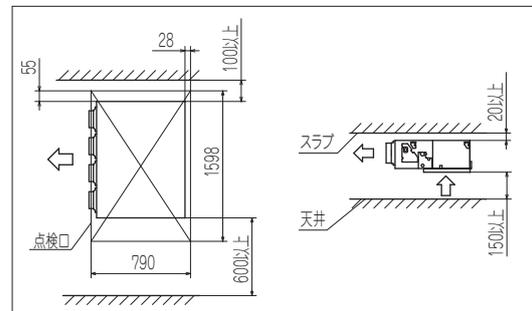
天井リターンキット (品番: R-FL-4A) 使用の場合



●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20(I.D.20,O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

据付スペース



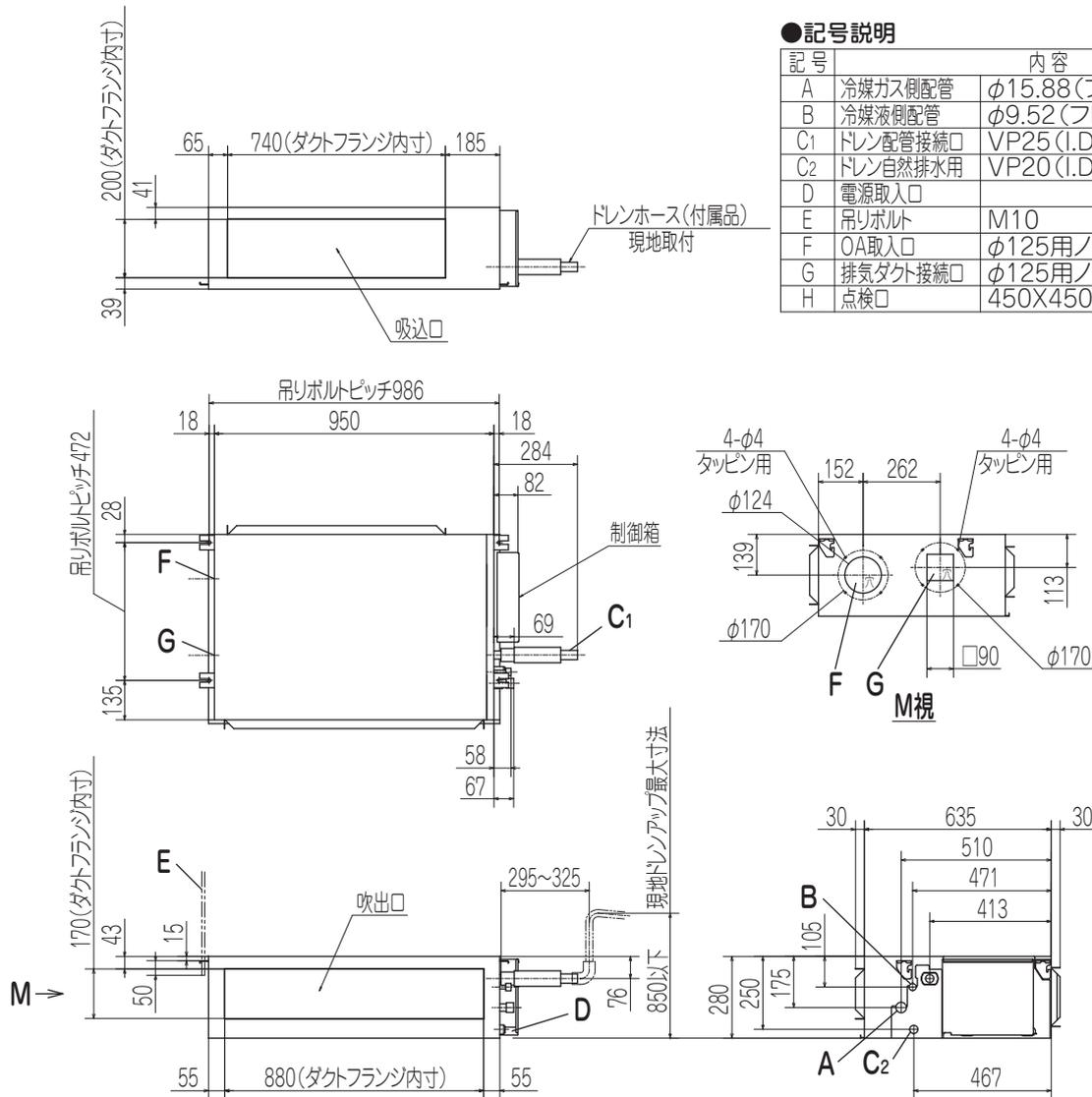
注

- (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

(e) 高静圧ダクト形 (FDUZ)

(i) 標準仕様

FDUZVP804B



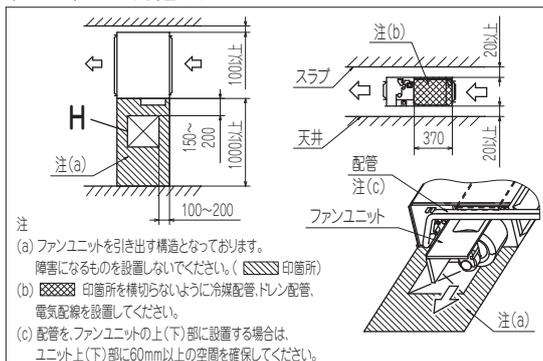
●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20(I.D.20,O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト
H	点検口	450X450

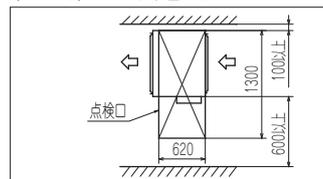
室内ユニット据付スペース

吸込・吹出口にダクトを接続し、ファン及び他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。また、据付高さは2.5m以上としてください。据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。

(ケース1) ユニット側面から

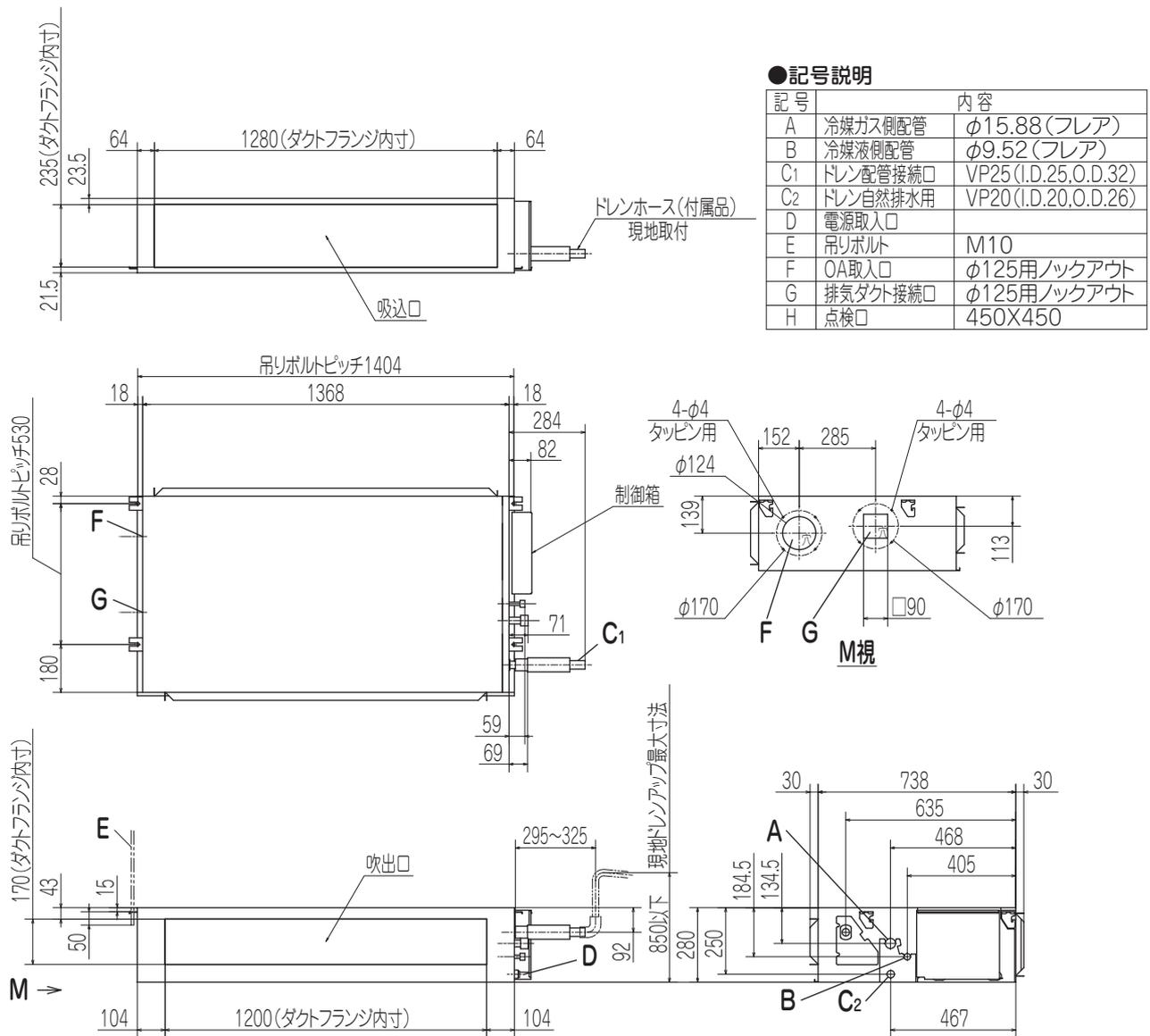


(ケース2) ユニット下面から



注  
 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

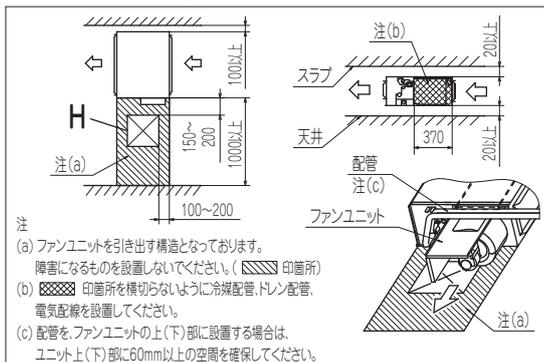
FDUZVP1124B, 1404B, 1604B



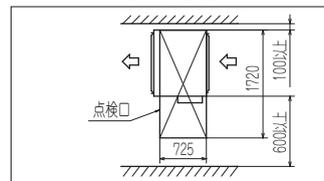
室内ユニット据付スペース

吸込・吹出口にダクトを接続し、ファン及び他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。また、据付高さは2.5m以上としてください。据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。

(ケース1) ユニット側面から



(ケース2) ユニット下面から



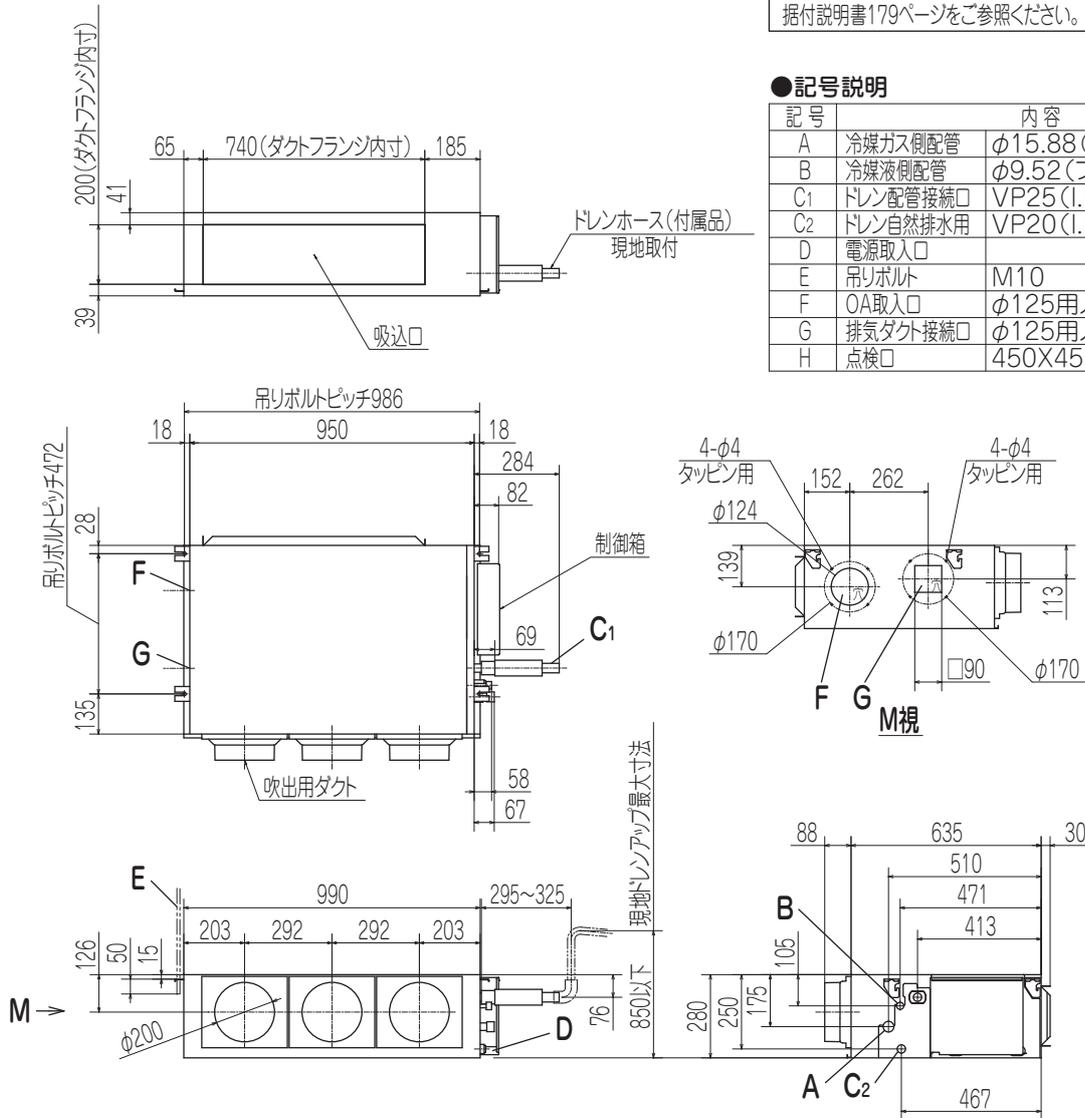
(ii) 丸ダクト仕様  
FDUZVP804B

丸ダクト変換キット (品番: U-UM-3A) 使用の場合

機外静圧設定範囲は10~100Paとなります。  
丸ダクト変換キットを使用する場合は、機内圧力損失が増加する為、リモコンの静圧設定値の調整が必要です。  
据付説明書179ページをご参照ください。

●記号説明

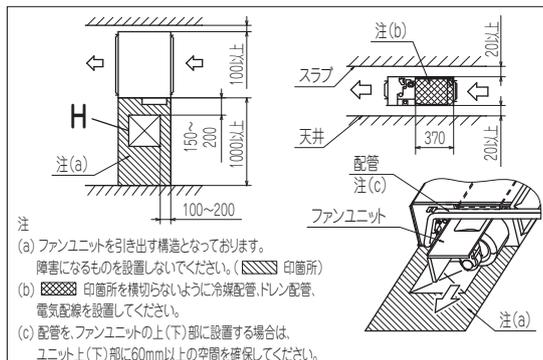
記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20(I.D.20,O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト
H	点検口	450X450



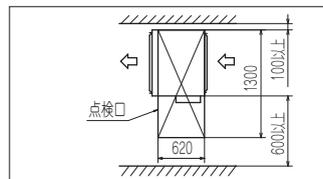
室内ユニット据付スペース

吸込・吹出口にダクトを接続し、ファン及び他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。  
吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。  
また、据付高さは2.5m以上としてください。  
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。

(ケース1) ユニットの側面から



(ケース2) ユニットの下面から



注  
(1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

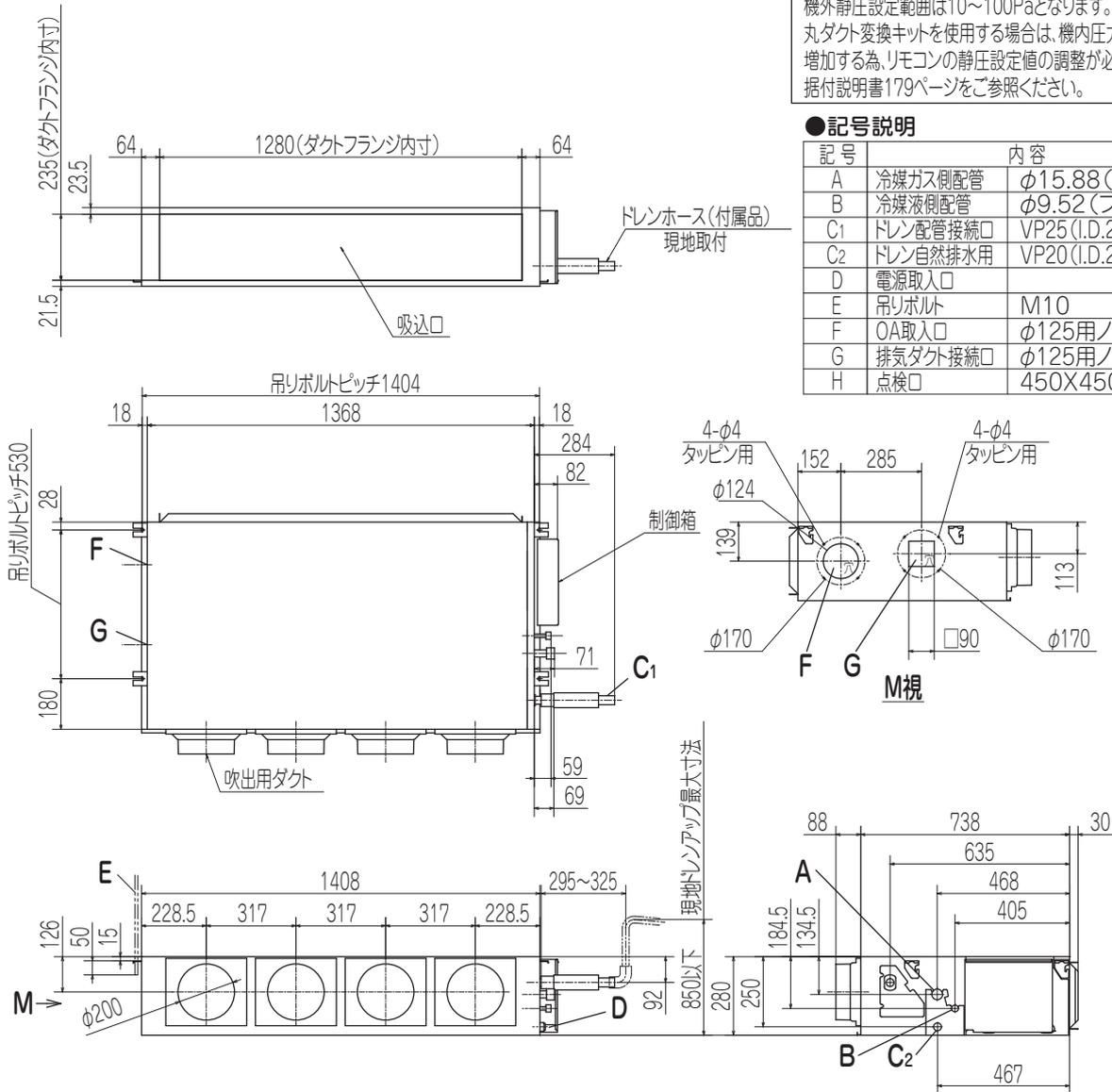
PJG000Z396

丸ダクト変換キット (品番: U-UM-4A) 使用の場合

機外静圧設定範囲は10~100Paとなります。  
丸ダクト変換キットを使用する場合は、機内圧力損失が  
増加する為、リモコンの静圧設定値の調整が必要です。  
据付説明書179ページをご参照ください。

●記号説明

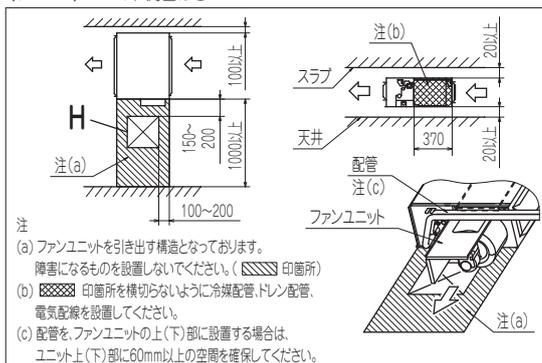
記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25.0.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20(I.D.20.0.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト
H	点検口	450X450



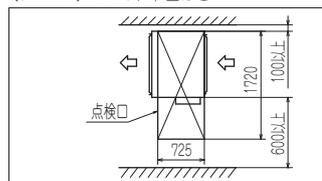
室内ユニット据付スペース

吸込・吹出口にダクトを接続し、ファン及び他の内部部品に手が触れない様に  
配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。  
吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。  
また、据付高さは2.5m以上としてください。  
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。

(ケース1) ユニット側面から

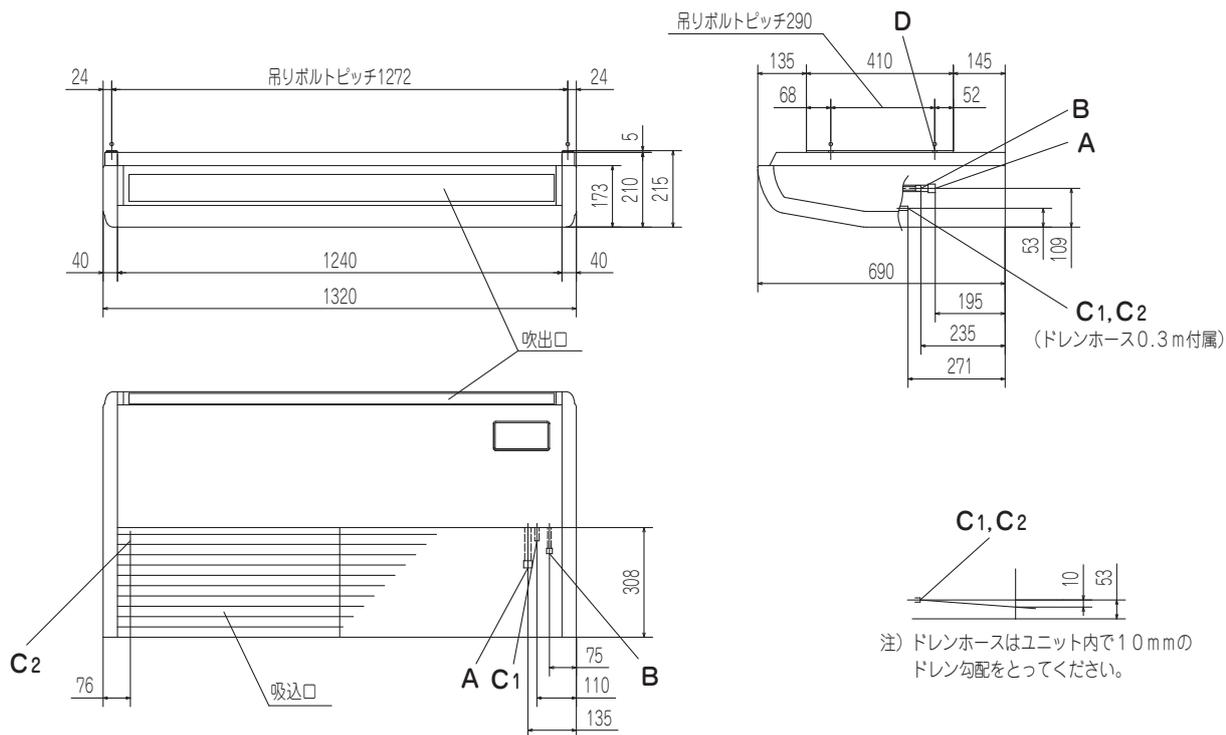


(ケース2) ユニット下面から



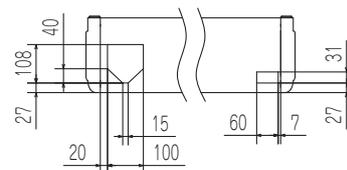
注  
(1) 装置銘板は制御箱蓋に  
付いています。

(f) 天吊形 (FDEZ)  
FDEZVP804B



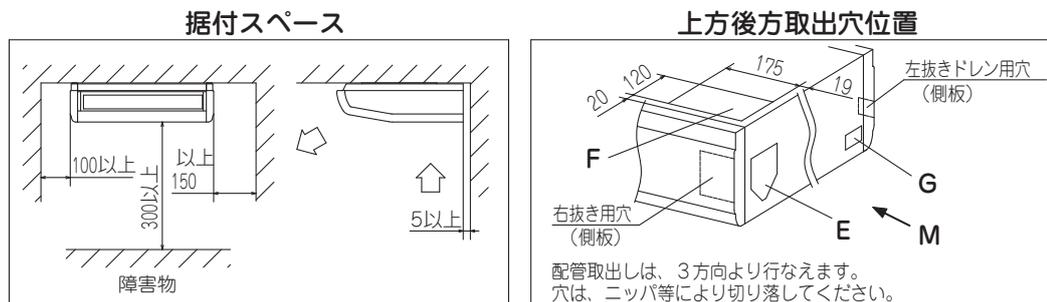
●記号説明

記号	内 容	
A	冷媒ガス配管接続口	φ15.88 (フレア)
B	冷媒液配管接続口	φ9.52 (フレア)
C1,2	ドレン配管接続口	VP20(I.D20,O.D26)
D	吊りボルト用穴	M10又はM8
E	後抜き用穴	リッド
F	上抜き用穴	リッド
G	左後ろ抜きドレン用穴	ノックアウト



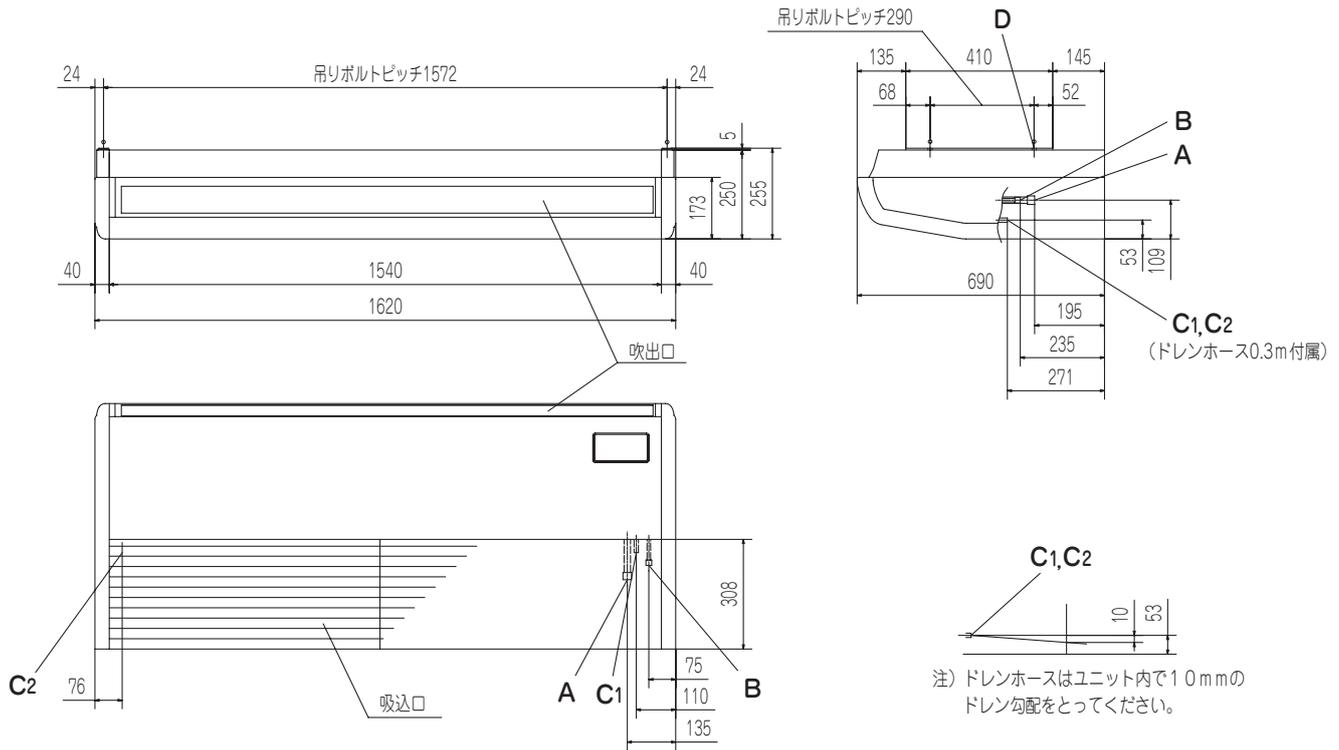
**M視**

注(1) 装置銘板は吸込グリル内のファンケース正面についています。



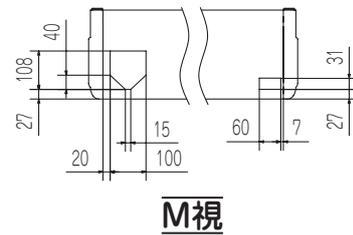
隣接設置の場合は、ユニット間を4500以上離してください。

# FDEZVP1124B, 1404B, 1604B



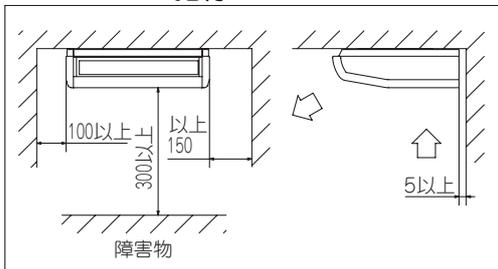
## ●記号説明

記号	内 容	
A	冷媒ガス配管接続口	φ15.88(フレア)
B	冷媒液配管接続口	φ9.52(フレア)
C1,2	ドレン配管接続口	V P20(I.D.20, O.D.26)
D	吊りボルト用穴	M10又はM8
E	後抜き用穴	リッド
F	上抜き用穴	リッド
G	左後ろ抜きドレン用穴	ノックアウト

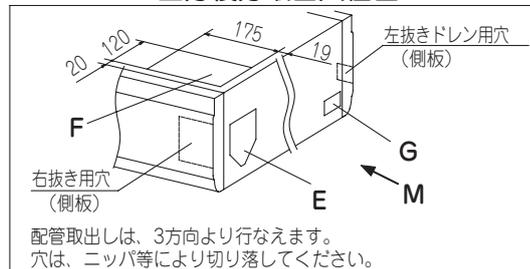


注(1) 装置銘板は吸込グリル内のファンケース正面についています。

## 据付スペース

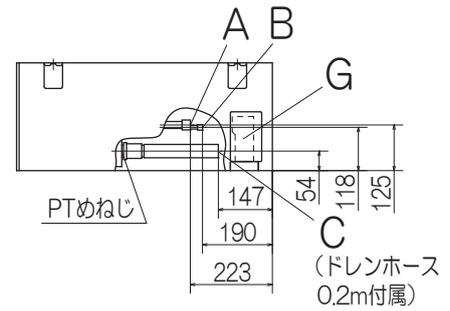
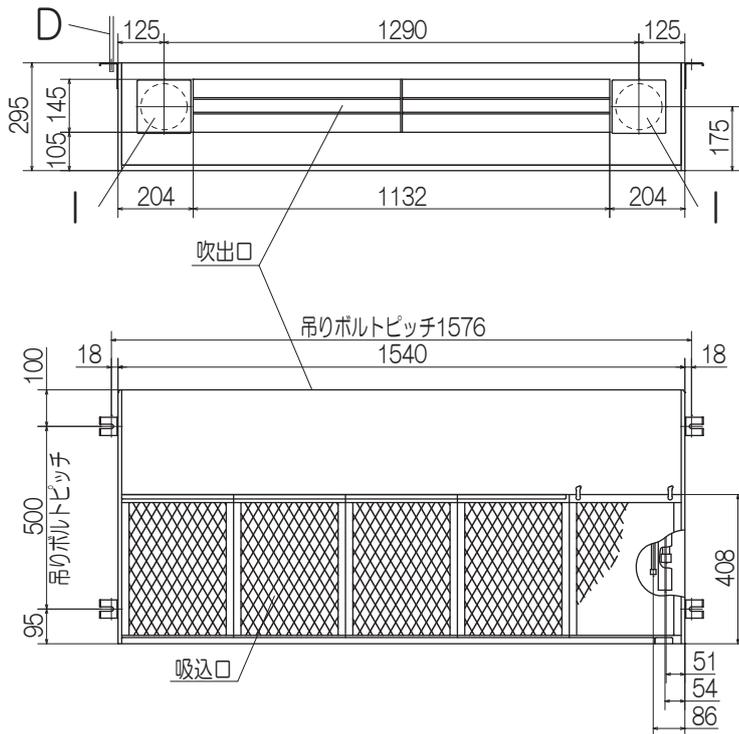


## 上方後方取出穴位置

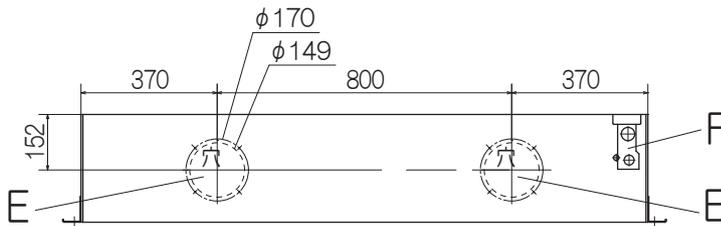


隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。

(5) 天吊耐油形 (FDESZ)  
FDESZVP804, 1404

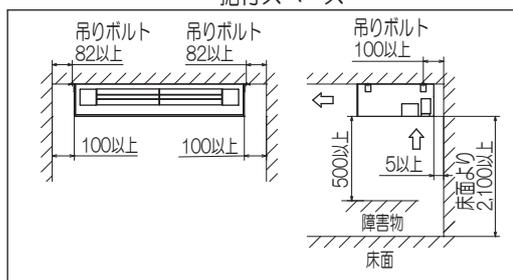


記号	内 容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52 (フレア)
C	ドレン配管接続口	VP25
D	吊りボルト	M10
E	OA取入口	φ150用ロックアウト
F	後抜き用穴	
G	右抜き用穴	
H	上抜き用穴	
I	スポットダクト	φ125



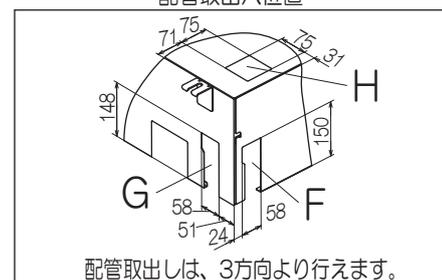
注(1) 装置銘板は吸込グリル内のファンケース正面についています。

据付スペース



隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。

配管取出穴位置

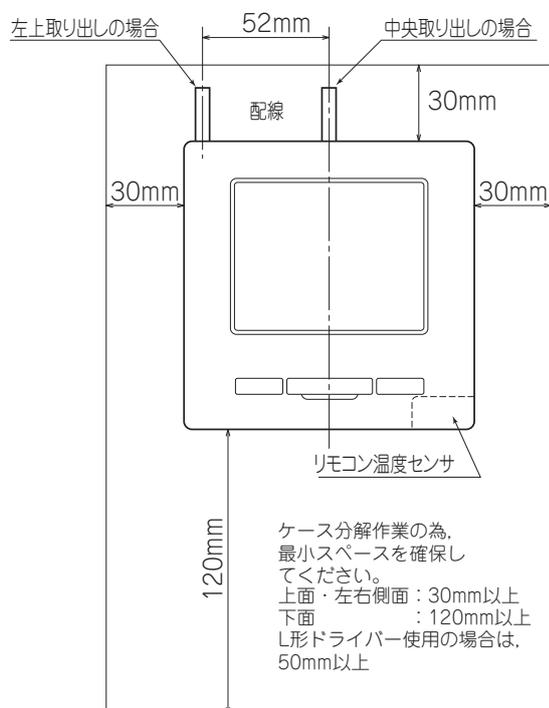


配管取出しは、3方向より行えます。

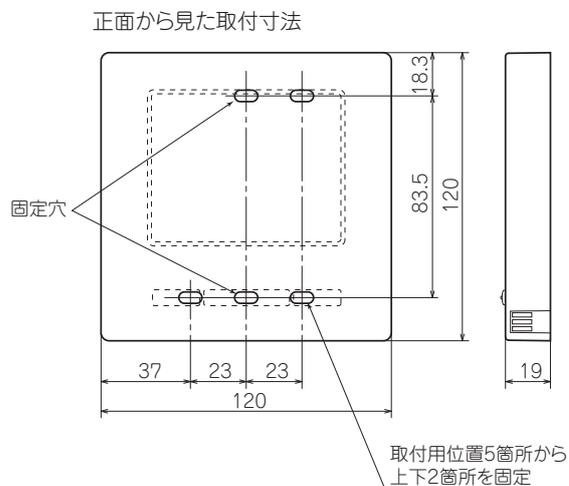
(2) ワイヤードリモコン(別売品)

(a) RC - DX2, 3

設置スペース



リモコン取付寸法



リモコンコードを延長する場合の注意

最大総延長600m

●リモコンコードは0.3mm<sup>2</sup>×2心です。

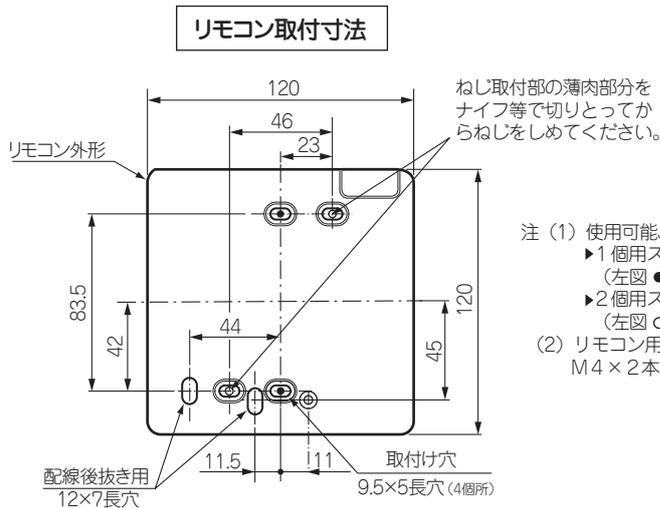
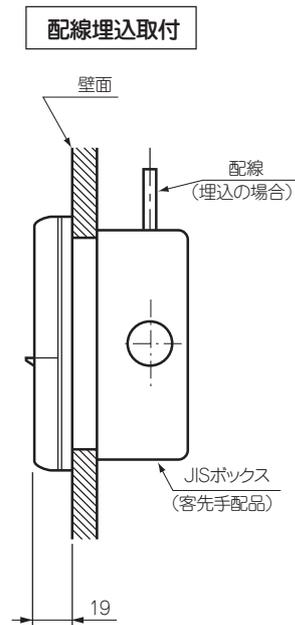
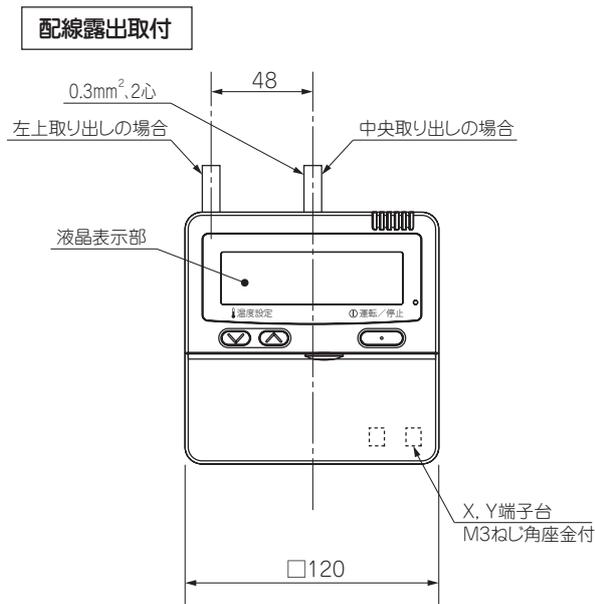
延長は600mまで可能です。延長距離が100mを超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm<sup>2</sup>以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。配線接続する際は、水分等が浸入しないような処置を行ってください。また、配線の接続は、接触不良のないように確実に行ってください。

- 100~200m以内…0.50mm<sup>2</sup>×2心
- ~300m以内…0.75mm<sup>2</sup>×2心
- ~400m以内…1.25mm<sup>2</sup>×2心
- ~600m以内…2.00mm<sup>2</sup>×2心

PJZ000Z309

PJZ000Z298

(b) RC - D4G



- 注 (1) 使用可能JISボックス JIS C 8340
- ▶ 1個用スイッチボックス (左図 ●印穴使用)
  - ▶ 2個用スイッチボックス (左図 ○印穴使用)
- (2) リモコン用取付ねじ M4×2本

**リモコンコードを延長する場合の注意** 最大総延長600m

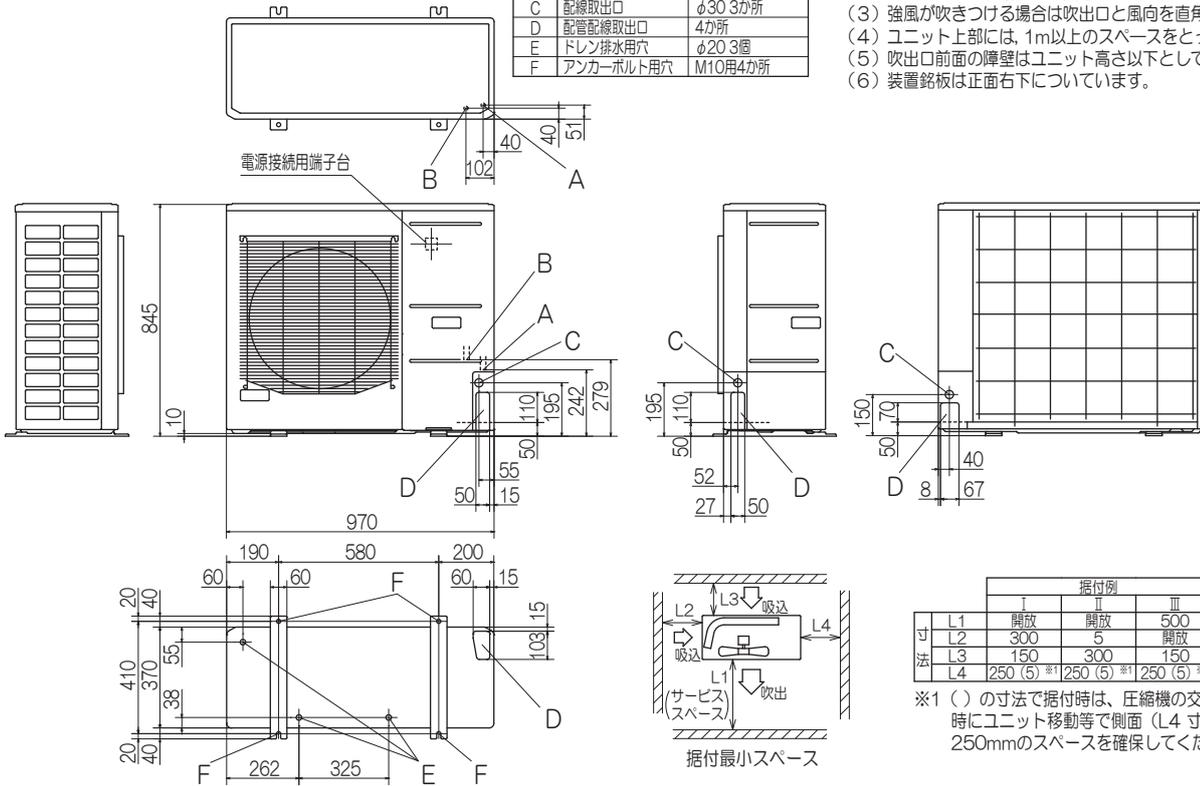
- リモコンコードは0.3mm<sup>2</sup>×2心です。
- 延長は600mまで可能です。延長距離が100mを超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm<sup>2</sup>以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。配線接続する際は、水分等が浸入しないような処置を行ってください。また、配線の接続は、接触不良のないように確実に行ってください。
- 100～200m以内…0.50mm<sup>2</sup>×2心
  - ～300m以内…0.75mm<sup>2</sup>×2心
  - ～400m以内…1.25mm<sup>2</sup>×2心
  - ～600m以内…2.00mm<sup>2</sup>×2心

(3) 室外ユニット  
FDCZP805H, 805HK

●記号説明

記号	内 容
A	冷媒ガス側配管接続口 φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側配管接続口 φ9.52 (フレア)
C	配線取出口 φ30 3か所
D	配管配線取出口 4か所
F	ドレン排水用穴 φ20 3箇所
F	アンカーボルト用穴 M10用4か所

- 注 (1) 四面障壁は不可です。  
 (2) ユニットの固定は必ずアンカーボルトで固定してください。  
 アンカーボルト飛び出し長さは15mm以下としてください。  
 (3) 強風が吹きつける場合は吹出口と風向を直角にしてください。  
 (4) ユニットの上部には、1m以上のスペースをとってください。  
 (5) 吹出口前面の障壁はユニット高さ以下としてください。  
 (6) 装置銘板は正面右下についています。



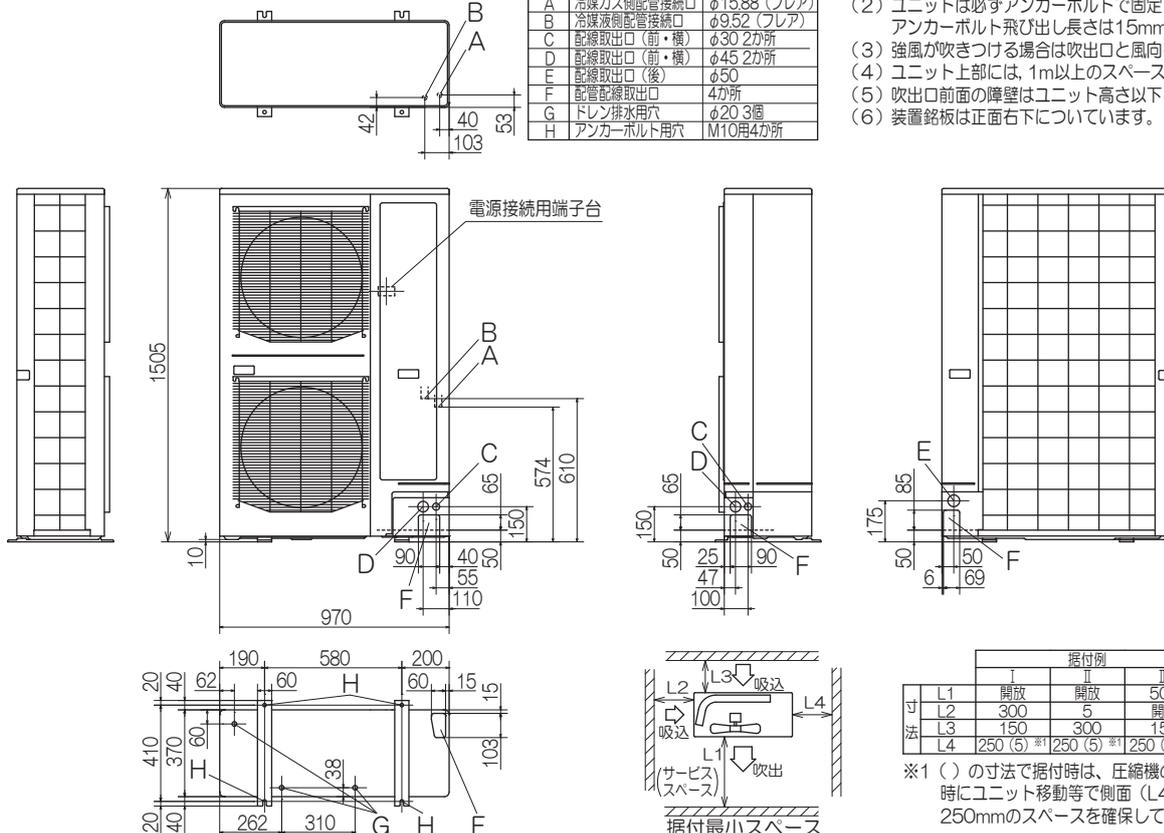
PCA001Z794

FDCZP1125H, 1405H, 1605H

●記号説明

記号	内 容
A	冷媒ガス側配管接続口 φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側配管接続口 φ9.52 (フレア)
C	配線取出口 (前・横) φ30 2か所
D	配線取出口 (前・横) φ45 2か所
F	配線取出口 (後) φ50
F	配管配線取出口 4か所
G	ドレン排水用穴 φ20 3箇所
H	アンカーボルト用穴 M10用4か所

- 注 (1) 四面障壁は不可です。  
 (2) ユニットの固定は必ずアンカーボルトで固定してください。  
 アンカーボルト飛び出し長さは15mm以下としてください。  
 (3) 強風が吹きつける場合は吹出口と風向を直角にしてください。  
 (4) ユニットの上部には、1m以上のスペースをとってください。  
 (5) 吹出口前面の障壁はユニット高さ以下としてください。  
 (6) 装置銘板は正面右下についています。



PCA001Z797

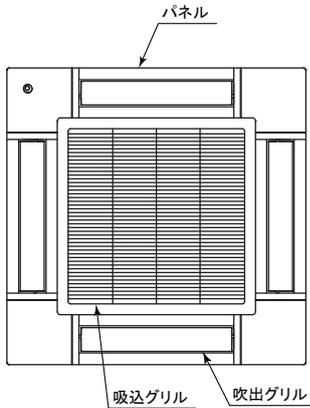
## 4. 塗装色

### (1) 室内ユニット

#### (a) 天井埋込形 4 方向吹出し (FDTZ)

##### (i) パネル

(商品ご注文時パネル形式)  
を指定してください。



##### (ii) パネル形式 (オートスイング付)

区 分	パネル形式	降下長	パネル色
標準パネル	T-PSA-5AW	—	プラスターホワイト(マンセル6.8Y8.9/0.2近似)
	T-PSA-5ASB	—	シャドウブラック(マンセル7.2BG2.9/0.6近似)
	T-PSA-5AC	—	ウッドベージュ(マンセル6.8Y7.9/3.9近似)
エアフレックスパネル	T-PSAE-5AW	—	プラスターホワイト(マンセル6.8Y8.9/0.2近似)
	T-PSAE-5ASB	—	シャドウブラック(マンセル7.2BG2.9/0.6近似)
ラクリーナパネル	T-PSCL-5AW	~ 4.0m	プラスターホワイト(マンセル6.8Y8.9/0.2近似)
	T-PSCL-5ASB	~ 4.0m	シャドウブラック(マンセル7.2BG2.9/0.6近似)
お掃除ラクリーナパネル	T-PSCLS-5AW	~ 4.0m	プラスターホワイト(マンセル6.8Y8.9/0.2近似)

##### (iii) ワイヤレスキット

(標準・エアフレックス・ラクリーナパネル・お掃除ラクリーナパネル共通)

##### ● 全形式共通

形 式	塗 装 色
RCNLA-T-5W	プラスターホワイト(マンセル6.8Y8.9/0.2近似)
RCNLA-T-5SB	シャドウブラック(マンセル7.2BG2.9/0.6近似)

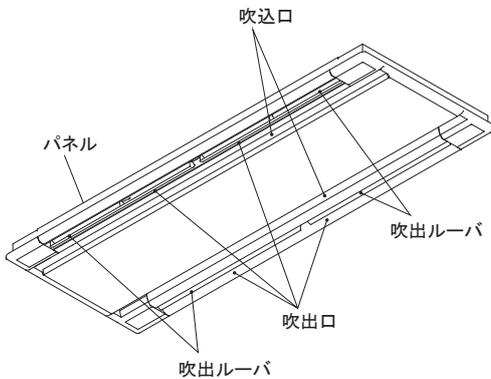
注(1) ワイヤレスキットの取付け方法は、411ページをご覧ください。

(2) お掃除ラクリーナパネルに取付ける場合は、別売のハーネスセット (RCN-T-HA6G) が必要です。

#### (b) 天井埋込形 2 方向吹出し (FDTWZ)

##### (i) パネル

(商品ご注文時パネル形式)  
を指定してください。

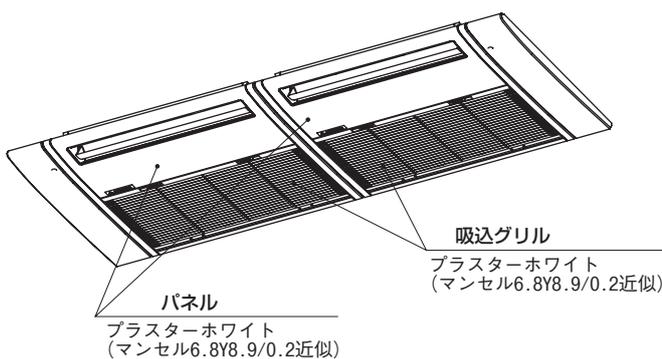


##### (ii) パネル形式 (オートスイング付)

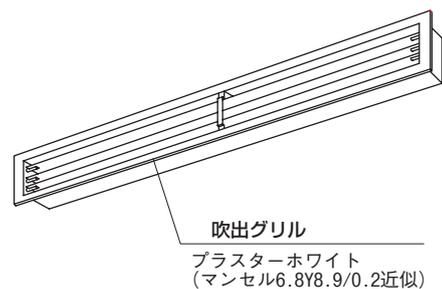
区 分	パネル形式	パネル色	形 式
標準パネル	TW-PSA-26W	プラスターホワイト (マンセル6.8Y8.9/0.2近似)	FDTWVP804
	TW-PSA-46W		FDTWZVP1124,1404,1604
ラクリーナパネル	TW-PSL-26W	プラスターホワイト (マンセル6.8Y8.9/0.2近似)	FDTWVP804
	TW-PSL-46W		FDTWZVP1124,1404,1604

#### (c) 天井埋込形 1 方向吹出し (FDTSZ)

##### (i) パネル

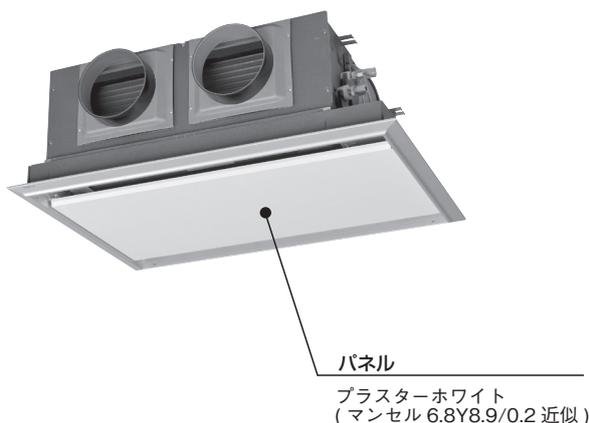


##### (ii) 下り天井用吹出口

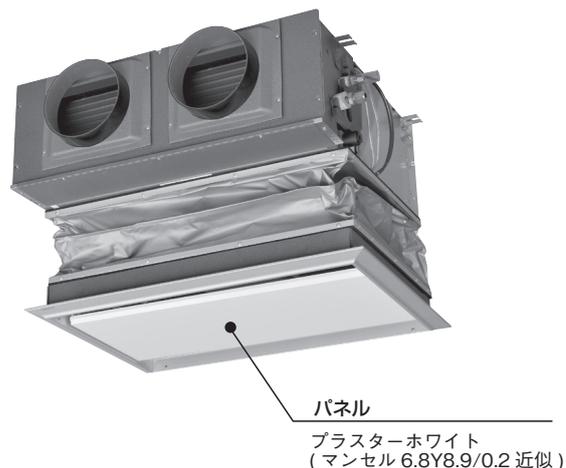


(d) 天埋カセテリア (FDRZ)

(i) サイレントパネル仕様



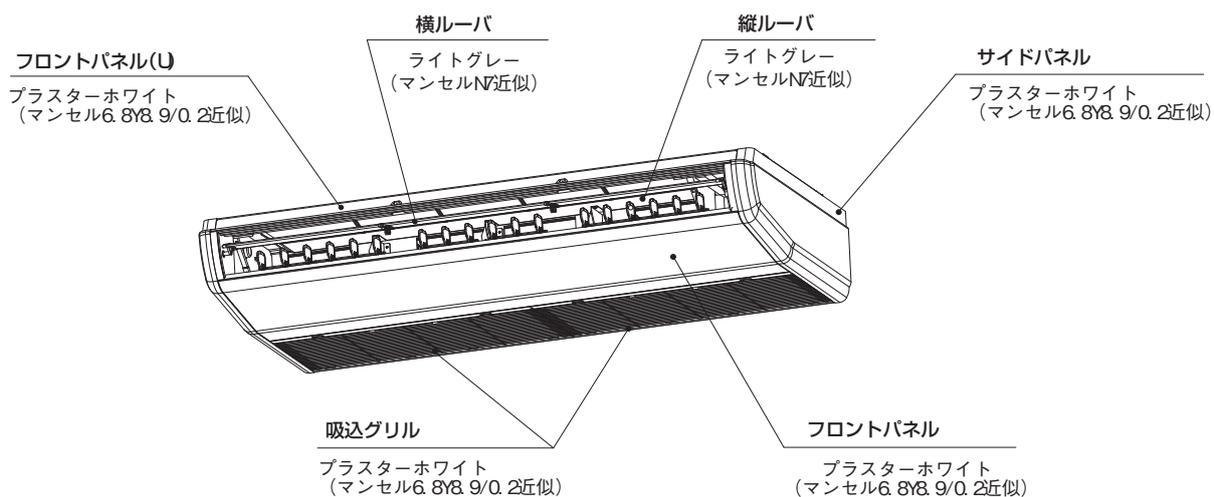
(ii) キャンバスパネル仕様



(iii) 天井リターン仕様……………クロメートフリー鋼板

(e) 高静圧ダクト形 (FDUZ) ……………クロメートフリー鋼板

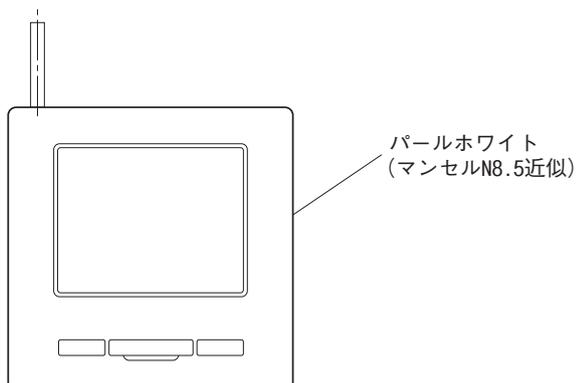
(f) 天吊形 (FDEZ)



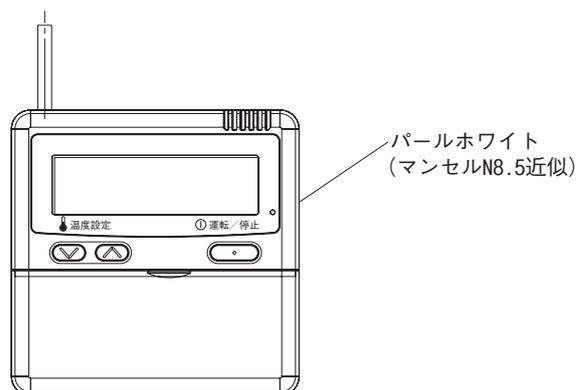
(g) 天井耐油形 (FDESZ) ……………ステンレス鋼板

(2) リモートコントローラ

(a) RC-DX2, 3

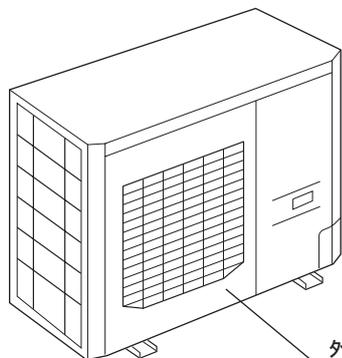


(b) RC-D4G



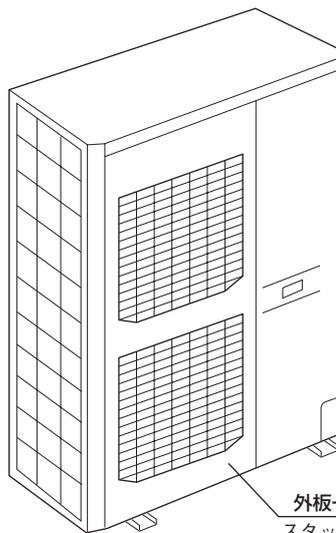
(3) 室外ユニット

FDCZP805H, 805HK



外板一式  
スタッコホワイト  
(マンセル4.2Y7.5/1.1近似)

FDCZP1125H, 1405H, 1605H



外板一式  
スタッコホワイト  
(マンセル4.2Y7.5/1.1近似)

## 5. 能力特性

仕様の能力値はJIS B 8616条件による値です。実際の能力は下式により求めてください。  
 (なお、暖房能力は、補助ヒータを含まないヒートポンプのみの値です。)

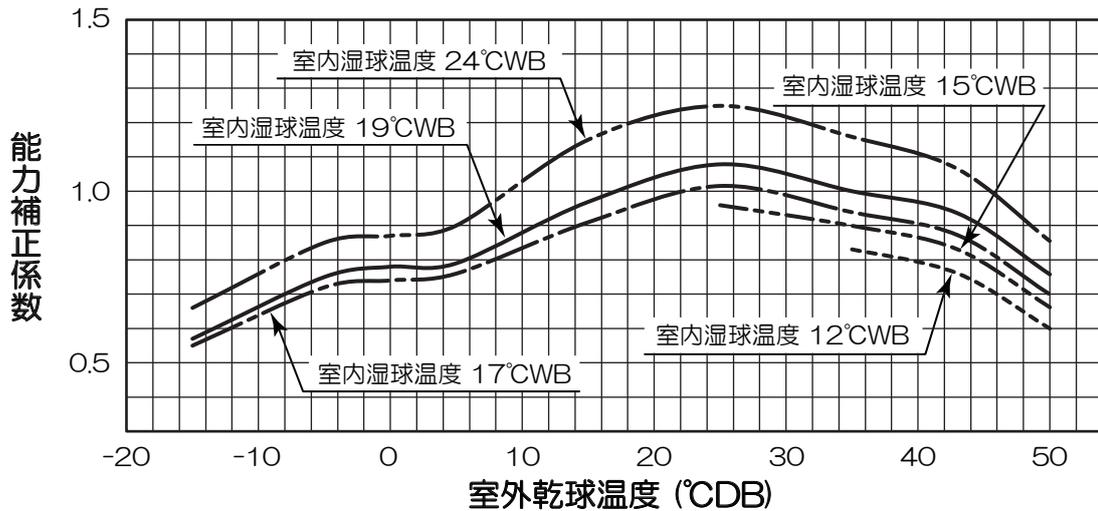
$$\text{実際のユニット能力} = \text{定格能力} \times \text{温度条件による補正係数} \times \text{配管相当長による補正係数} \times \text{室内・外高低差による補正係数} \times \text{風量変更時の補正係数}$$

**ご注意：**外気温度が $-5^{\circ}\text{C}$ 以下で冷房運転する場合は、できるだけ室外ユニットは自然風の影響を受けない設置状態としてください。風が当たると、低圧圧力の低下により圧縮機の停止頻度が多くなり、能力が更に低下しユニットの故障原因となります。

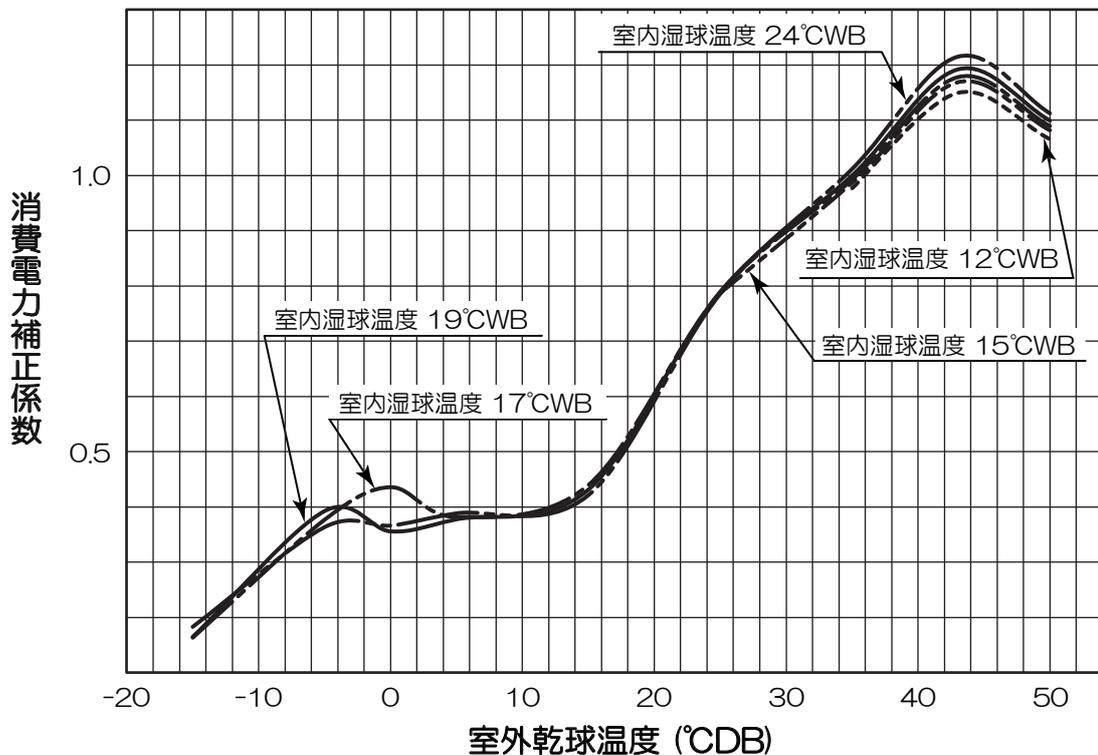
### (1) P805

#### (a) 冷房

##### (i) 室内・外温度条件による能力補正

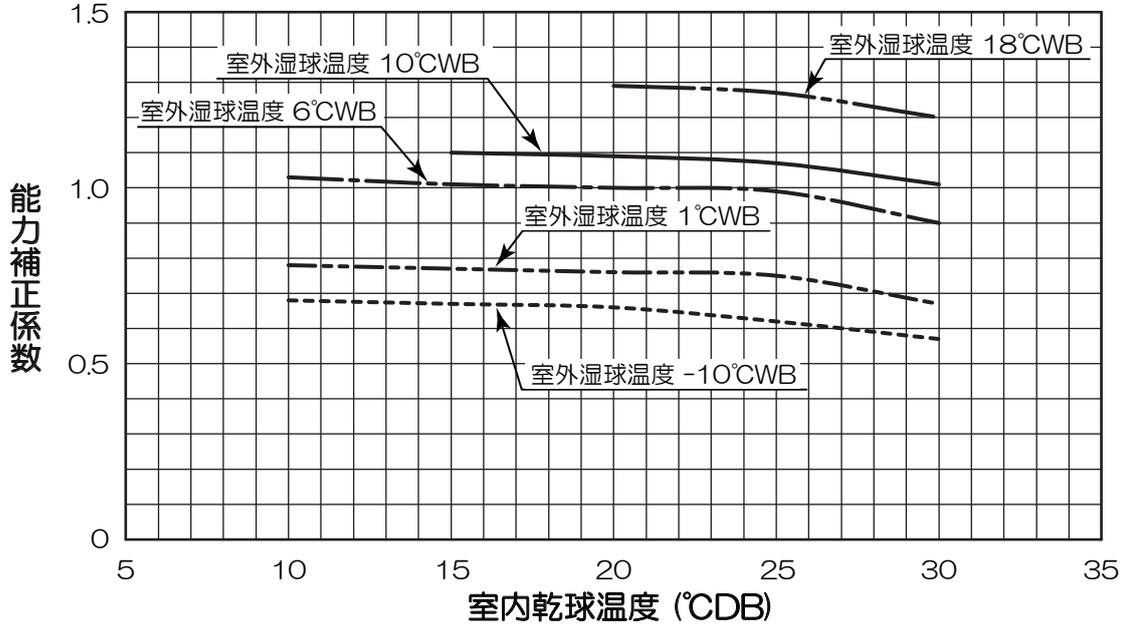


##### (ii) 室内・外温度条件による消費電力補正

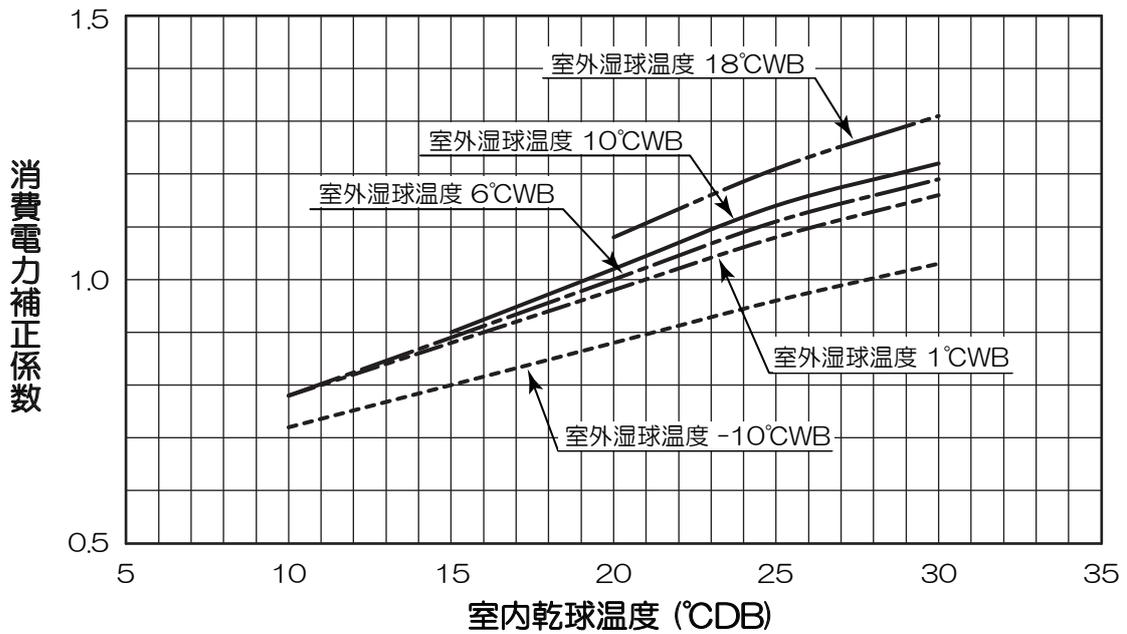


(b) 暖房

(i) 室内・外温度条件による能力補正



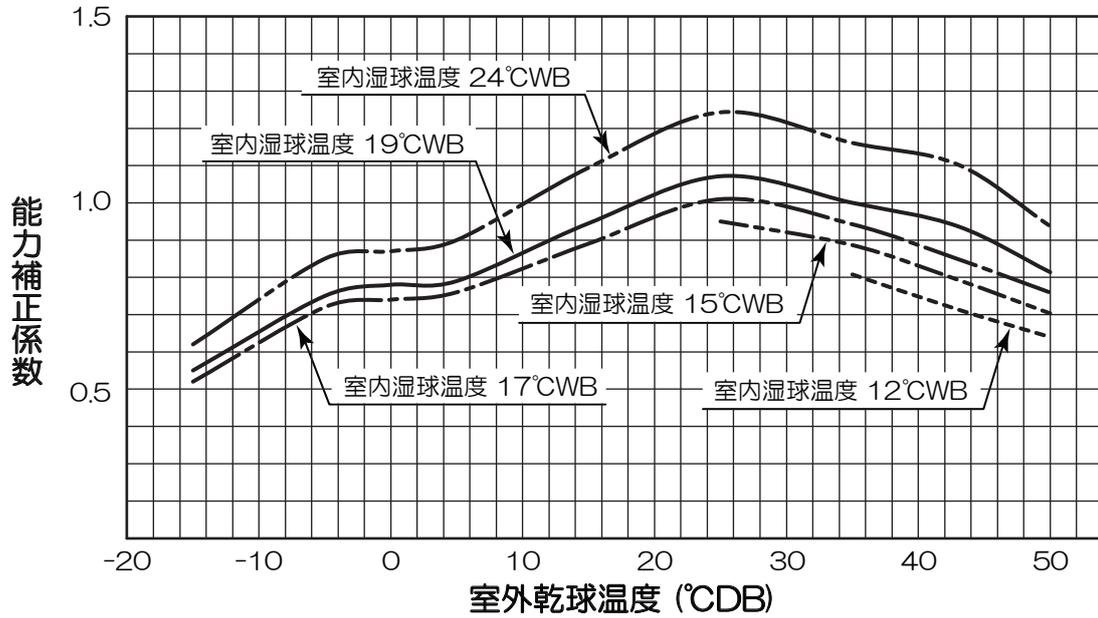
(ii) 室内・外温度条件による消費電力補正



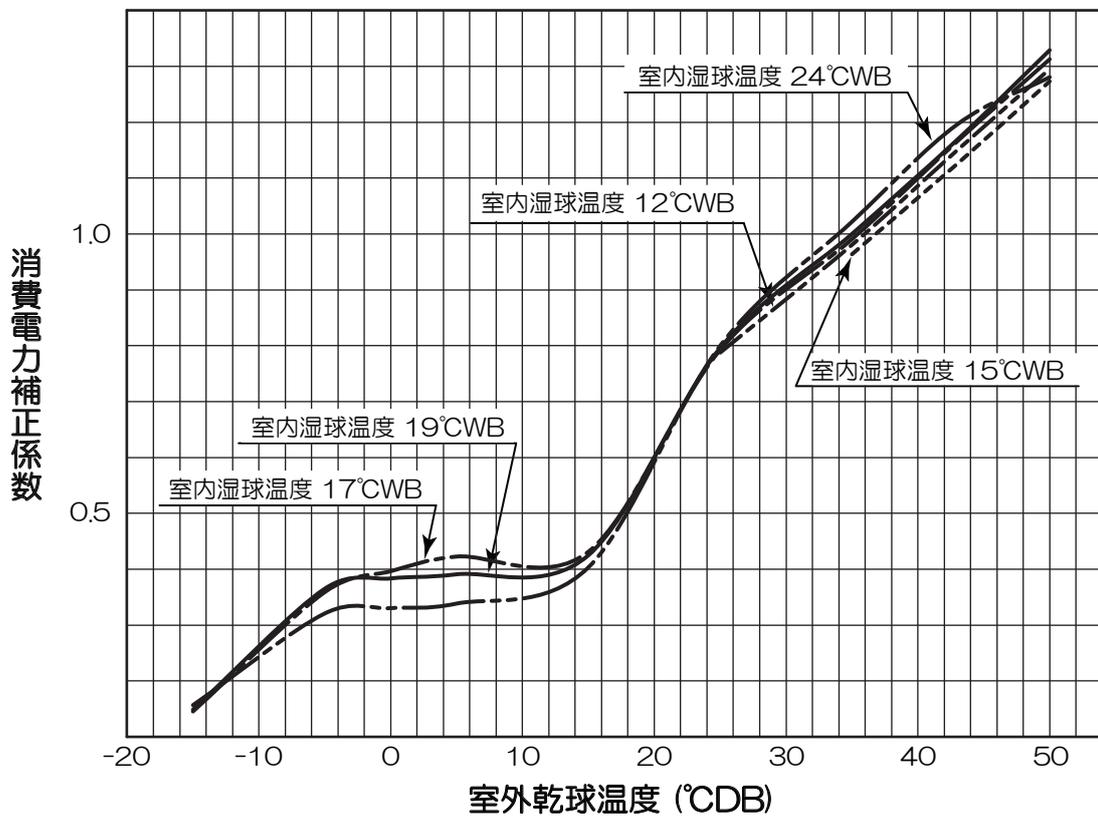
(2) P1125 ~ P1605

(a) 冷房

(i) 室内・外温度条件による能力補正

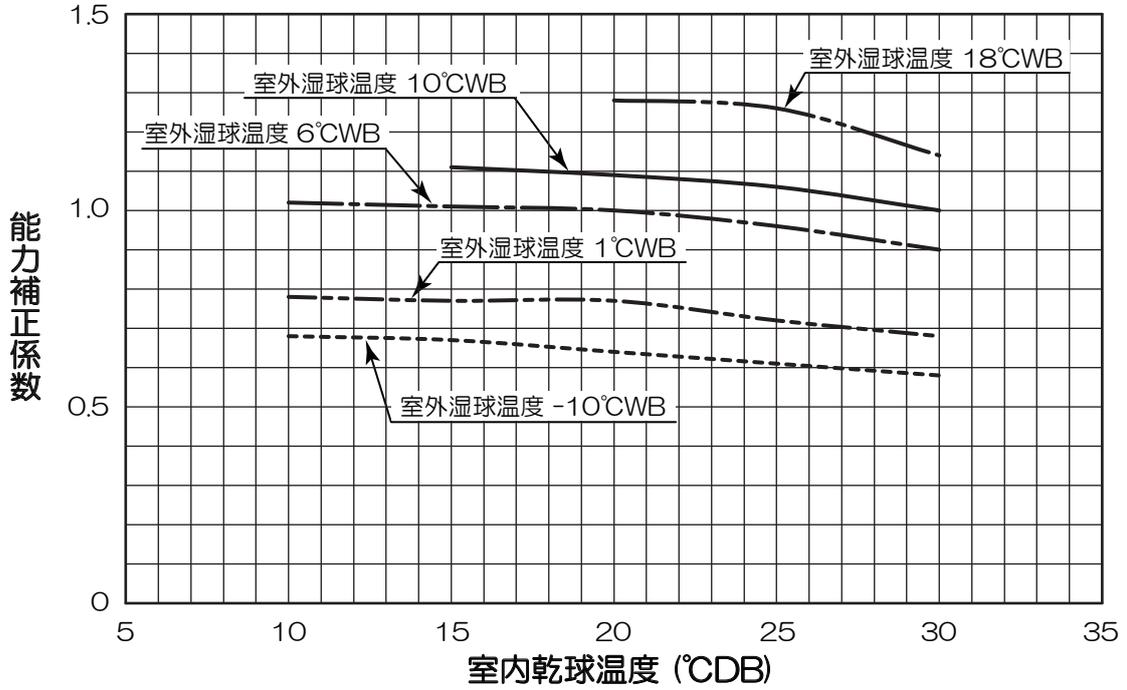


(ii) 室内・外温度条件による消費電力補正

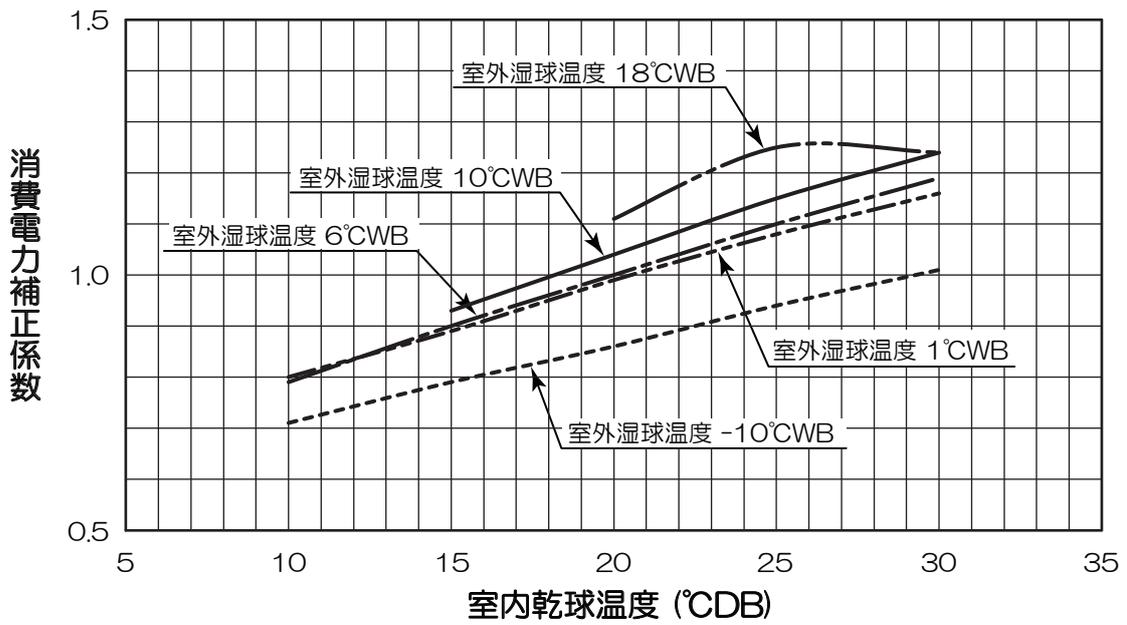


(b) 暖房

(i) 室内・外温度条件による能力補正



(ii) 室内・外温度条件による消費電力補正



**参考** 能力特性表

形式 FDTZ805H5S (室内ユニット：FDTZP805S, 室外ユニット：FDCZP805H)

冷房

(kW)

暖房

(kW)

外気温度 °CDB	室内吸込温度															
	21°CDB		23°CDB		26°CDB		27°CDB		28°CDB		31°CDB		33°CDB			
	14°CWB	16°CWB	18°CWB	19°CWB	20°CWB	22°CWB	24°CWB	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	
11					6.20	6.20	6.37	6.25	6.59	6.24	7.02	6.66	7.46	6.61		
13					6.44	6.38	6.63	6.35	6.86	6.33	7.34	6.77	7.81	6.71		
15					6.67	6.47	6.88	6.44	7.14	6.42	7.65	6.87	8.17	6.82		
17					6.82	6.52	7.03	6.51	7.29	6.49	7.80	6.93	8.31	6.86		
19					6.97	6.59	7.19	6.56	7.44	6.54	7.94	6.97	8.45	6.90		
21					7.13	6.65	7.35	6.62	7.59	6.59	8.09	7.02	8.59	6.94		
23					7.28	6.70	7.50	6.67	7.75	6.66	8.24	7.06	8.73	6.98		
25			7.01	6.32	7.43	6.77	7.66	6.74	7.90	6.71	8.38	7.11	8.87	7.02		
27			6.91	6.28	7.32	6.72	7.55	6.70	7.78	6.67	8.26	7.07				
29			6.82	6.25	7.21	6.68	7.43	6.64	7.67	6.61	8.14	7.03				
31			6.72	6.21	7.10	6.64	7.32	6.61	7.55	6.58	8.02	6.99				
33	6.35	6.27	6.62	6.17	6.99	6.60	7.21	6.57	7.44	6.54	7.90	6.96				
35	6.22	6.22	6.53	6.13	6.88	6.56	7.10	6.53	7.32	6.50	7.77	6.92				
37	6.10	6.10	6.40	6.07	6.77	6.50	6.99	6.47	7.20	6.46	7.63	6.86				
39	5.98	5.98	6.28	6.03	6.65	6.46	6.87	6.44	7.08	6.40	7.48	6.82				
41	5.85	5.85	6.16	5.98	6.53	6.42	6.76	6.40	6.95	6.36	7.34	6.77				
43	5.73	5.73	6.04	5.93	6.42	6.38	6.64	6.36	6.83	6.32	7.19	6.73				

外気温度		室内吸込温度					
°CDB	°CWB	°CDB					
		16	18	20	22	24	
-19.8	-20	3.77	3.69	3.62	3.54	3.46	
-17.7	-18	4.07	3.99	3.92	3.83	3.75	
-15.7	-16	4.37	4.29	4.21	4.13	4.04	
-13.5	-14	4.68	4.59	4.51	4.42	4.33	
-11.5	-12	5.01	4.96	4.90	4.79	4.68	
-9.5	-10	5.34	5.32	5.29	5.16	5.04	
-7.5	-8	5.49	5.46	5.43	5.32	5.21	
-5.5	-6	5.63	5.60	5.57	5.48	5.39	
-3.0	-4	5.77	5.74	5.72	5.64	5.56	
-1.0	-2	5.92	5.89	5.86	5.80	5.74	
1.0	0	6.06	6.03	6.00	5.95	5.91	
2.0	1	6.13	6.10	6.07	6.03	6.00	
3.0	2	6.52	6.49	6.45	6.42	6.38	
5.0	4	7.31	7.27	7.23	7.19	7.15	
7.0	6	8.09	8.04	8.00	7.96	7.91	
9.0	8	8.44	8.39	8.34	8.30	8.25	
11.5	10	8.78	8.73	8.68	8.64	8.59	
13.5	12	9.11	9.08	9.05	9.02	8.99	
15.5	14	9.44	9.43	9.42	9.41	9.40	
16.5	16	9.77	9.78	9.79	9.79	9.80	

形式 FDTZ1125H5S (室内ユニット：FDTZP1605S, 室外ユニット：FDCZP1125H)

冷房

(kW)

暖房

(kW)

外気温度 °CDB	室内吸込温度															
	21°CDB		23°CDB		26°CDB		27°CDB		28°CDB		31°CDB		33°CDB			
	14°CWB	16°CWB	18°CWB	19°CWB	20°CWB	22°CWB	24°CWB	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	
11					8.61	8.01	8.83	7.95	9.10	7.91	9.63	8.39	10.17	8.27		
13					8.89	8.11	9.14	8.06	9.42	8.04	9.99	8.50	10.55	8.38		
15					9.18	8.23	9.45	8.19	9.75	8.15	10.35	8.61	10.94	8.49		
17					9.42	8.32	9.70	8.28	10.01	8.26	10.63	8.69	11.24	8.57		
19					9.67	8.43	9.96	8.39	10.27	8.35	10.91	8.84	11.54	8.72		
21					9.91	8.52	10.21	8.48	10.53	8.45	11.19	8.95	11.84	8.83		
23					10.16	8.63	10.46	8.58	10.80	8.54	11.46	9.03	12.13	8.91		
25			9.80	8.20	10.41	8.72	10.71	8.67	11.06	8.65	11.74	9.14	12.43	9.02		
27			9.67	8.15	10.27	8.67	10.57	8.62	10.91	8.58	11.59	9.07				
29			9.54	8.10	10.13	8.62	10.43	8.57	10.76	8.53	11.43	9.02				
31			9.41	8.03	9.99	8.55	10.29	8.52	10.62	8.48	11.28	8.98				
33	8.84	8.09	9.28	7.98	9.85	8.50	10.14	8.45	10.47	8.41	11.12	8.91				
35	8.60	7.97	9.14	7.92	9.71	8.45	10.00	8.40	10.32	8.36	10.97	8.86				
37	8.37	7.84	8.91	7.81	9.52	8.38	9.84	8.34	10.17	8.31	10.82	8.81				
39	8.14	7.74	8.68	7.69	9.32	8.29	9.69	8.27	10.01	8.26	10.66	8.77				
41	7.90	7.64	8.44	7.59	9.13	8.22	9.53	8.22	9.86	8.18	10.51	8.66				
43	7.67	7.54	8.21	7.50	8.93	8.12	9.37	8.16	9.70	8.13	10.36	8.61				

外気温度		室内吸込温度					
°CDB	°CWB	°CDB					
		16	18	20	22	24	
-19.8	-20	5.40	5.30	5.20	5.09	4.99	
-17.7	-18	5.82	5.71	5.59	5.48	5.37	
-15.7	-16	6.25	6.12	5.99	5.88	5.76	
-13.5	-14	6.68	6.53	6.39	6.27	6.15	
-11.5	-12	7.07	6.93	6.80	6.67	6.54	
-9.5	-10	7.47	7.34	7.20	7.07	6.94	
-7.5	-8	7.68	7.57	7.45	7.31	7.16	
-5.5	-6	7.90	7.80	7.70	7.55	7.39	
-3.0	-4	8.11	8.03	7.95	7.78	7.62	
-1.0	-2	8.33	8.26	8.20	8.02	7.85	
1.0	0	8.54	8.49	8.45	8.26	8.07	
2.0	1	8.65	8.61	8.57	8.38	8.19	
3.0	2	9.18	9.14	9.10	8.91	8.71	
5.0	4	10.23	10.19	10.15	9.96	9.76	
7.0	6	11.29	11.25	11.20	11.01	10.81	
9.0	8	11.83	11.78	11.73	11.55	11.38	
11.5	10	12.36	12.31	12.26	12.10	11.95	
13.5	12	13.00	12.90	12.80	12.66	12.51	
15.5	14	13.63	13.49	13.35	13.21	13.08	
16.5	16	14.26	14.11	13.95	13.80	13.64	

記事(1) 冷房および暖房能力は、定格能力時の圧縮機回転数で固定した条件での計算値です。  
ただし、制御により圧縮機回転数が変化する場合は、その能力変化を考慮しています。

- (2) 運転条件  
配管長：7.5m 室内外ユニット高低差：0m
- (3) 記号説明  
TC：冷房能力 (kW)  
SHC：顕熱能力 (kW)

形式 FDTZ1405H5S (室内ユニット：FDTZP1605S, 室外ユニット：FDCZP1405H)

冷房 (kW)															暖房 (kW)							
外気温度	室内吸込温度														外気温度		室内吸込温度					
	21°CDB		23°CDB		26°CDB		27°CDB		28°CDB		31°CDB		33°CDB		°CDB	°CWB	°CDB					
	14°CWB	16°CWB	18°CWB	19°CWB	20°CWB	22°CWB	24°CWB	16	18	20	22	24										
°CDB	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC		
11					10.76	8.87	11.04	8.81	11.37	8.76	12.04	9.23	12.71	9.10	-19.8	-20	6.75	6.62	6.49	6.36	6.23	
13					11.12	9.01	11.43	8.95	11.78	8.90	12.49	9.38	13.19	9.25	-17.7	-18	7.28	7.14	6.99	6.86	6.72	
15					11.47	9.16	11.81	9.11	12.19	9.06	12.93	9.54	13.68	9.41	-15.7	-16	7.81	7.65	7.49	7.35	7.20	
17					11.78	9.28	12.13	9.22	12.51	9.17	13.28	9.67	14.05	9.54	-13.5	-14	8.34	8.17	7.99	7.84	7.69	
19					12.09	9.39	12.45	9.34	12.84	9.29	13.63	9.81	14.42	9.67	-11.5	-12	8.84	8.67	8.50	8.34	8.18	
21					12.39	9.55	12.76	9.49	13.17	9.46	13.98	9.93	14.79	9.80	-9.5	-10	9.34	9.17	9.00	8.84	8.67	
23					12.70	9.68	13.08	9.62	13.50	9.59	14.33	10.05	15.17	9.92	-7.5	-8	9.60	9.46	9.32	9.13	8.95	
25			12.25	9.31	13.01	9.82	13.39	9.76	13.82	9.70	14.68	10.18	15.54	10.03	-5.5	-6	9.87	9.75	9.63	9.43	9.24	
27			12.09	9.22	12.83	9.73	13.21	9.69	13.64	9.64	14.49	10.12			-3.0	-4	10.14	10.04	9.94	9.73	9.52	
29			11.92	9.15	12.66	9.67	13.04	9.61	13.45	9.56	14.29	10.03			-1.0	-2	10.41	10.33	10.25	10.03	9.81	
31			11.76	9.07	12.49	9.58	12.86	9.54	13.27	9.49	14.10	9.97			1.0	0	10.67	10.62	10.56	10.33	10.09	
33	11.05	9.13	11.59	9.00	12.31	9.48	12.68	9.42	13.09	9.41	13.90	9.89			2.0	1	10.81	10.76	10.72	10.48	10.23	
35	10.75	9.00	11.43	8.92	12.14	9.41	12.50	9.36	12.90	9.31	13.71	9.83			3.0	2	11.47	11.42	11.37	11.13	10.89	
37	10.46	8.85	11.14	8.80	11.90	9.32	12.30	9.29	12.71	9.24	13.52	9.75			4.0	3	12.79	12.74	12.69	12.44	12.20	
39	10.17	8.71	10.85	8.66	11.65	9.23	12.11	9.21	12.51	9.17	13.33	9.69			5.0	4	14.11	14.06	14.00	13.76	13.51	
41	9.88	8.56	10.56	8.53	11.41	9.14	11.91	9.14	12.32	9.11	13.14	9.61			6.0	5	14.78	14.72	14.66	14.44	14.22	
43	9.58	8.43	10.26	8.39	11.16	9.03	11.71	9.07	12.13	9.04	12.96	9.55			7.0	6	15.46	15.39	15.32	15.13	14.93	
															8.0	7	16.25	16.13	16.01	15.82	15.64	
															9.0	8	17.04	16.86	16.69	16.52	16.34	
															10.0	9	17.83	17.63	17.44	17.25	17.05	

形式 FDTZ1605H5S (室内ユニット：FDTZP1605S, 室外ユニット：FDCZP1605H)

冷房 (kW)															暖房 (kW)							
外気温度	室内吸込温度														外気温度		室内吸込温度					
	21°CDB		23°CDB		26°CDB		27°CDB		28°CDB		31°CDB		33°CDB		°CDB	°CWB	°CDB					
	14°CWB	16°CWB	18°CWB	19°CWB	20°CWB	22°CWB	24°CWB	16	18	20	22	24										
°CDB	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC		
11					12.05	9.31	12.36	9.24	12.74	9.18	13.48	9.65	14.23	9.50	-19.8	-20	7.71	7.57	7.42	7.27	7.12	
13					12.45	9.49	12.80	9.43	13.19	9.40	13.98	9.85	14.78	9.70	-17.7	-18	8.32	8.16	7.99	7.83	7.68	
15					12.85	9.66	13.23	9.62	13.65	9.57	14.49	10.02	15.32	9.90	-15.7	-16	8.93	8.74	8.56	8.40	8.23	
17					13.19	9.83	13.59	9.77	14.02	9.72	14.88	10.18	15.74	10.04	-13.5	-14	9.54	9.33	9.13	8.96	8.78	
19					13.54	9.98	13.94	9.92	14.38	9.88	15.27	10.33	16.15	10.18	-11.5	-12	10.10	9.91	9.71	9.53	9.35	
21					13.88	10.13	14.29	10.07	14.75	10.03	15.66	10.46	16.57	10.30	-9.5	-10	10.67	10.48	10.29	10.10	9.91	
23					14.22	10.28	14.65	10.23	15.11	10.18	16.05	10.64	16.99	10.48	-7.5	-8	10.98	10.81	10.65	10.44	10.23	
25			13.72	9.95	14.57	10.45	15.00	10.38	15.48	10.33	16.44	10.78	17.40	10.62	-5.5	-6	11.28	11.14	11.00	10.78	10.56	
27			13.54	9.86	14.37	10.35	14.80	10.29	15.27	10.25	16.22	10.70			-3.0	-4	11.59	11.47	11.36	11.12	10.88	
29			13.35	9.76	14.18	10.26	14.60	10.21	15.07	10.16	16.01	10.62			-1.0	-2	11.89	11.80	11.71	11.46	11.21	
31			13.17	9.69	13.99	10.18	14.40	10.12	14.86	10.07	15.79	10.50			1.0	0	12.20	12.14	12.07	11.80	11.53	
33	12.37	9.73	12.99	9.59	13.79	10.09	14.20	10.03	14.66	9.98	15.57	10.43			2.0	1	12.35	12.30	12.25	11.97	11.69	
35	12.04	9.55	12.80	9.50	13.60	10.00	14.00	9.94	14.45	9.91	15.35	10.36			3.0	2	13.11	13.05	13.00	12.72	12.44	
37	11.72	9.40	12.48	9.33	13.32	9.88	13.78	9.86	14.23	9.81	15.14	10.29			4.0	3	14.62	14.56	14.50	14.22	13.94	
39	11.39	9.24	12.15	9.20	13.05	9.76	13.56	9.76	14.02	9.72	14.93	10.20			5.0	4	16.13	16.06	16.00	15.72	15.44	
41	11.06	9.08	11.82	9.04	12.78	9.64	13.34	9.66	13.80	9.64	14.72	10.12			6.0	5	16.90	16.83	16.75	16.50	16.26	
43	10.73	8.92	11.50	8.89	12.50	9.51	13.12	9.57	13.58	9.55	14.51	10.05			7.0	6	17.66	17.59	17.51	17.29	17.07	
															8.0	7	18.57	18.43	18.29	18.08	17.87	
															9.0	8	19.47	19.27	19.08	18.88	18.68	
															10.0	9	20.38	20.15	19.93	19.71	19.49	

- 記事(1) 冷房および暖房能力は、定格能力時の圧縮機回転数で固定した条件での計算値です。  
 ただし、制御により圧縮機回転数が変化する場合、その能力変化を考慮しています。
- (2) 運転条件  
 配管長：7.5m 室内外ユニット高低差：0m
- (3) 記号説明  
 TC : 冷房能力 (kW)  
 SHC : 顕熱能力 (kW)

(3) 配管距離・室内・外ユニット高低差による能力補正

冷媒配管長（室内・室外ユニット間の片道長）及び室内・室外ユニット高低差により、冷房・暖房能力の補正が必要です。

(a) 配管相当長による能力補正係数

室内・外ユニット間の高低差0mの場合の配管相当長対応の補正係数は下表のとおりです。

(i) P805形

項目	相当長(m) <sup>(1)</sup>	7.5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
暖房		1	1	1	1	1	0.998	0.998	0.993	0.993	0.988	0.988
冷房		1	0.998	0.994	0.991	0.987	0.983	0.981	0.976	0.973	0.969	0.966

項目	相当長(m) <sup>(1)</sup>	60	65	70	75
暖房		0.983	0.983	0.978	0.978
冷房		0.963	0.960	0.957	0.954

注(1) 相当長は次ページの式により計算してください。

ただし相当長としてそれぞれの形式の配管距離制限長さ（実長）+5m以内となるよう設置してください。

(ii) P1125, P1405, P1605形

項目	相当長(m) <sup>(1)</sup>	7.5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
暖房（全形式共通）		1	1	1	1	1	0.998	0.998	0.993	0.993	0.988	0.988
冷房	P1125	1	0.996	0.989	0.982	0.975	0.967	0.962	0.954	0.947	0.941	0.935
	P1405	1	0.994	0.983	0.972	0.961	0.950	0.942	0.931	0.921	0.911	0.903
	P1605	1	0.993	0.980	0.967	0.954	0.941	0.932	0.918	0.907	0.896	0.885

項目	相当長(m) <sup>(1)</sup>	60	65	70	75	80	85	90	95	100	105
暖房（全形式共通）		0.983	0.983	0.978	0.978	0.973	0.973	0.968	0.968	0.963	0.963
冷房	P1125	0.928	0.922	0.916	0.910	0.905	0.899	0.894	0.888	0.882	0.877
	P1405	0.894	0.886	0.877	0.870	0.862	0.855	0.847	0.839	0.832	0.824
	P1605	0.874	0.864	0.853	0.844	0.835	0.826	0.817	0.808	0.799	0.790

注(1) 相当長は下記の式により計算してください。

ただし相当長としてそれぞれの形式の配管距離制限長さ（実長）+5m以内となるよう設置してください。

●相当長=実長+（バンドの相当長×途中配管のバンド数）  
バンド1個当りの相当長

ガス配管径(mm)	φ15.88
バンドの相当長	0.25

(b) 室内・外ユニット高低差による能力補正係数

冷房時室外ユニットが下、暖房時室外ユニットが上の場合のみ補正してください。

室内・室外ユニットの高さ方向の差(m)	5	10	15	20	25	30
補正係数	0.99	0.98	0.97	0.96	0.95	0.94

■配管距離の制限値

項目	形式	
	P805	P1125, P1405, P1605
最大片道長さ(実長) <sup>(1)</sup> (m)	70	100
高さ方向 <sup>(2)</sup> (m)	30 (15)	

注(1) 表中の数値は室内、室外ユニット間の配管片道長さを示します。

(2) ( )は室外ユニットが室内ユニットよりも下にある場合を示します。

(4) 風量変更時の能力補正係数

風量	P急	弱
能力補正係数	1.00	0.95

## 冷暖房能力算出方法

### ●例1…暖房

形式：FDTZ1405H5S，風量：P急  
 室外湿球温度：1°CWB，室内乾球温度：23°CDB  
 配管距離相当長：30m  
 室内，室外ユニットの高さ方向の差：10m  
 (室外ユニットが上)

この場合の暖房能力：

$$14.0 \times 0.74 \times 0.998 \times 0.98 \times 1.0 \approx 10.1\text{kW}$$

FDTZ1405H5S 定格暖房能力 × 温度条件による補正 × 相当長 30m × 高低差 10m × 風量 P急

### ●例2…冷房

形式：FDTZ1405H5S，風量：P急，  
 室外乾球温度：32°CDB，室内湿球温度：19°CWB  
 配管距離相当長：30m  
 室内，室外ユニットの高さ方向の差：5m  
 (室外ユニットが下)

この場合の冷房能力：

$$12.5 \times 1.01 \times 0.950 \times 0.99 \times 1.0 \approx 11.9\text{kW}$$

FDTZ1405H5S 定格冷房能力 × 温度条件による補正 × 相当長 30m × 高低差 5m × 風量 P急

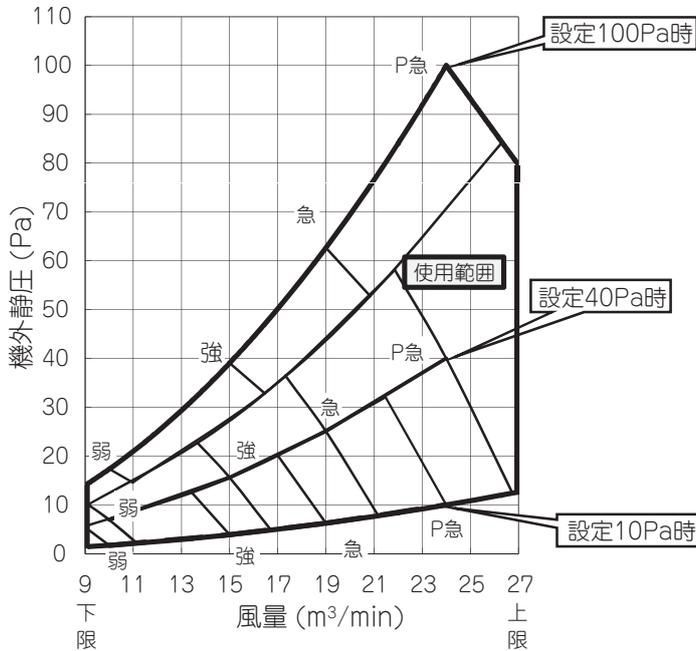
## 6. 送風機特性

### (1) 天埋カセテリア (FDRZ)

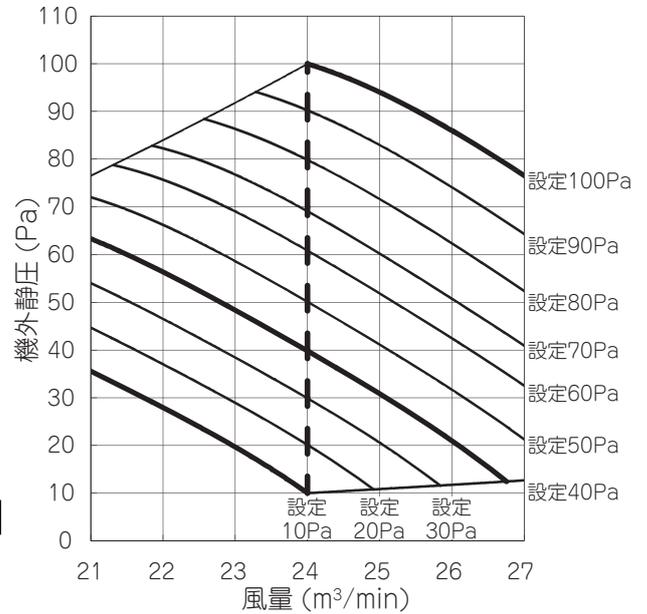
#### (a) サイレントパネル, キャンバスパネル

#### FDRZVP804B

##### ①各タップの機外静圧特性



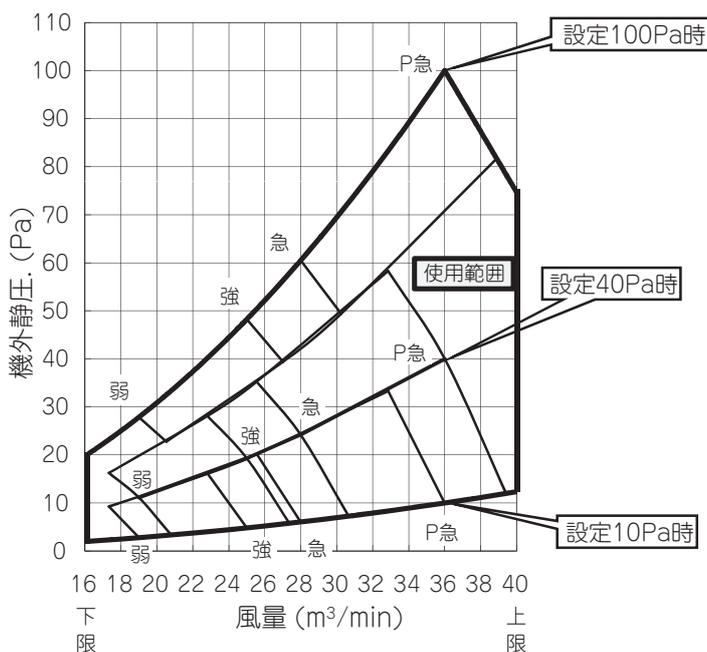
##### ②P急タップの機外静圧特性



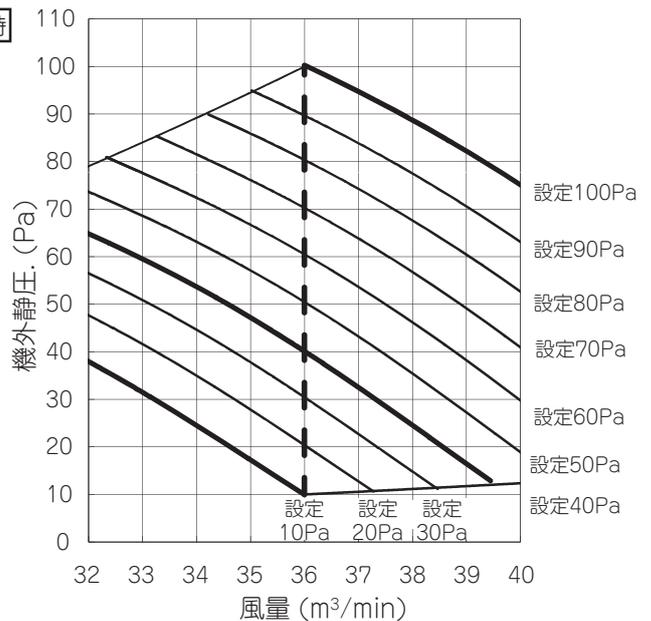
注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

#### FDRZVP1124B

##### ①各タップの機外静圧特性



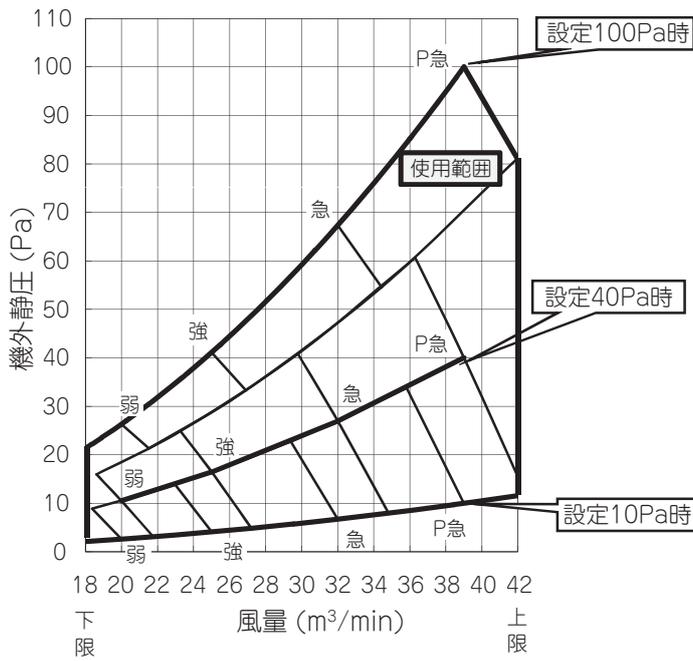
##### ②P急タップの機外静圧特性



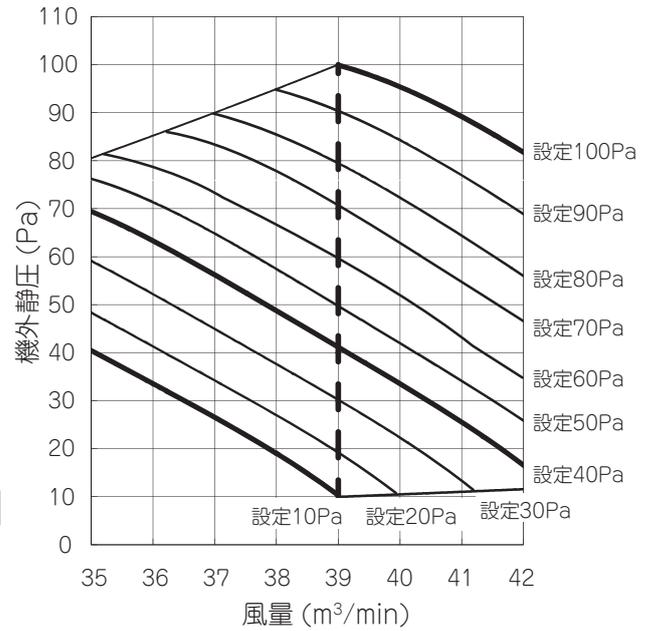
注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

## FDRZVP1404B

### ①各タップの機外静圧特性



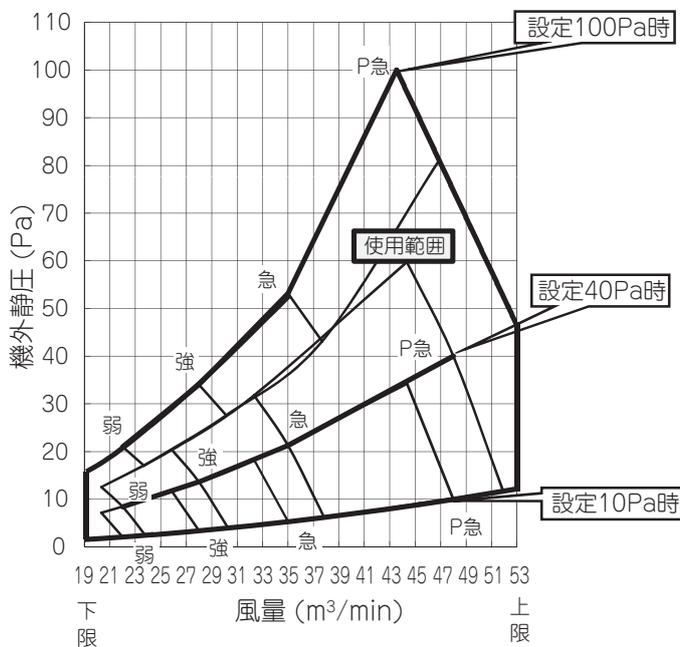
### ②P急タップの機外静圧特性



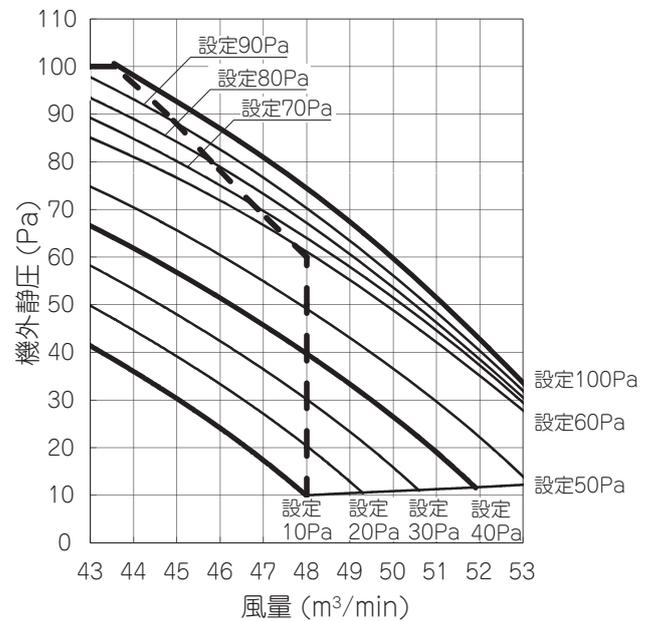
注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

## FDRZVP1604B

### ①各タップの機外静圧特性



### ②P急タップの機外静圧特性

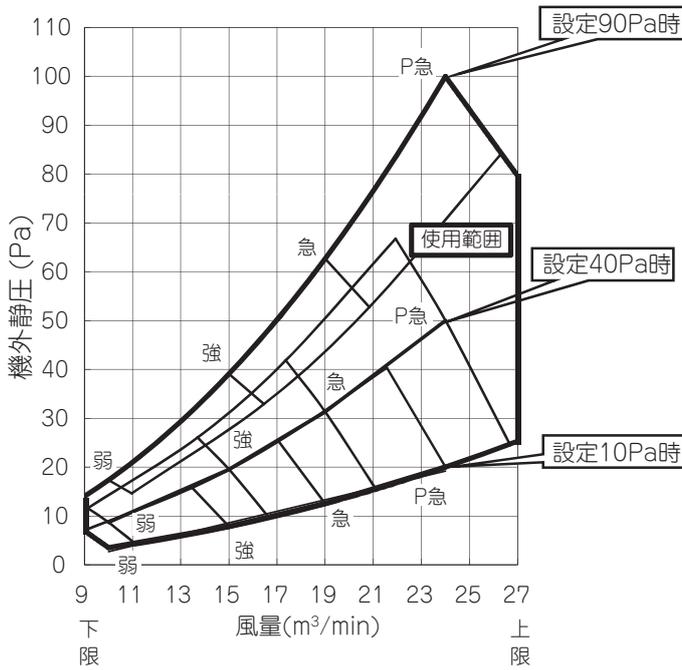


注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

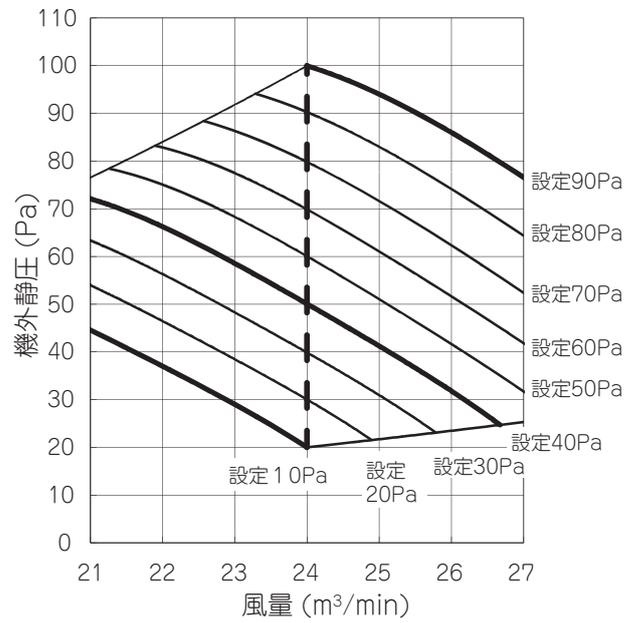
(b) 天井リターン仕様

FDRZVP804B

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

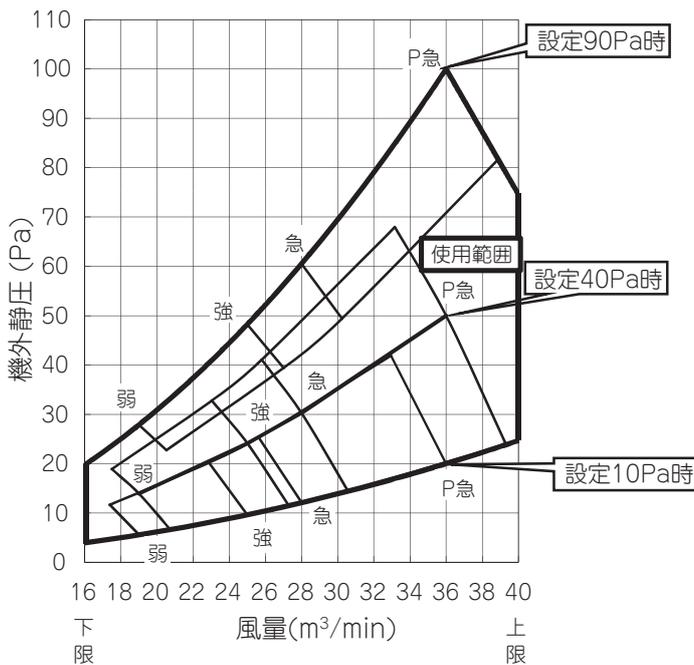
(2) 専用の天井リターンキット(別売品)を必ず装着してください。

(3) 天井リターン仕様の場合、標準機に対して機内圧力損失が低減するため、リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は、165ページをご覧ください。

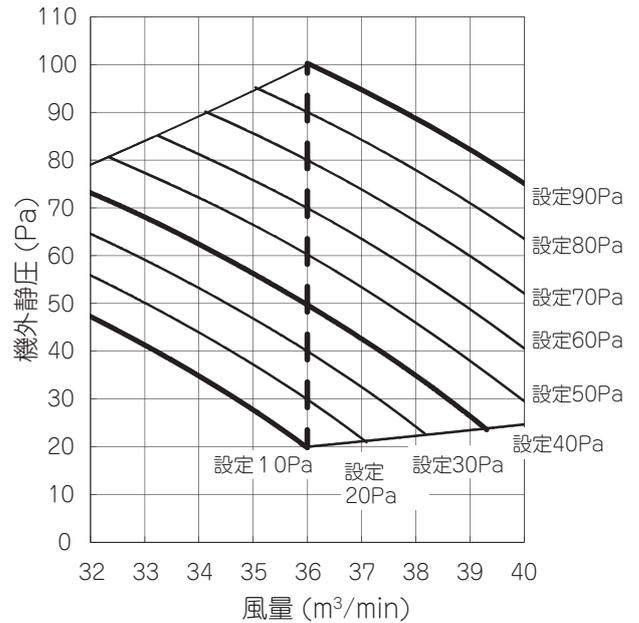
必要な機外静圧 (Pa)	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90

FDRZVP1124B

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

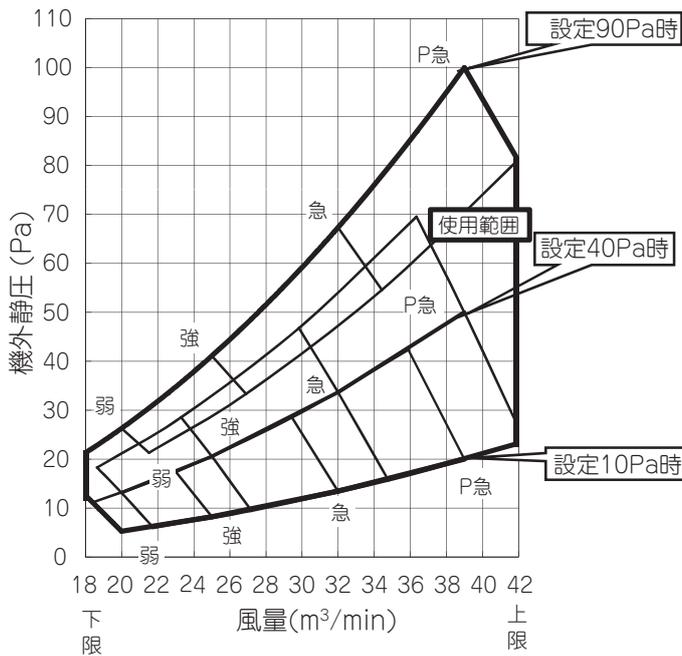
(2) 専用の天井リターンキット(別売品)を必ず装着してください。

(3) 天井リターン仕様の場合、標準機に対して機内圧力損失が低減するため、リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は、165ページをご覧ください。

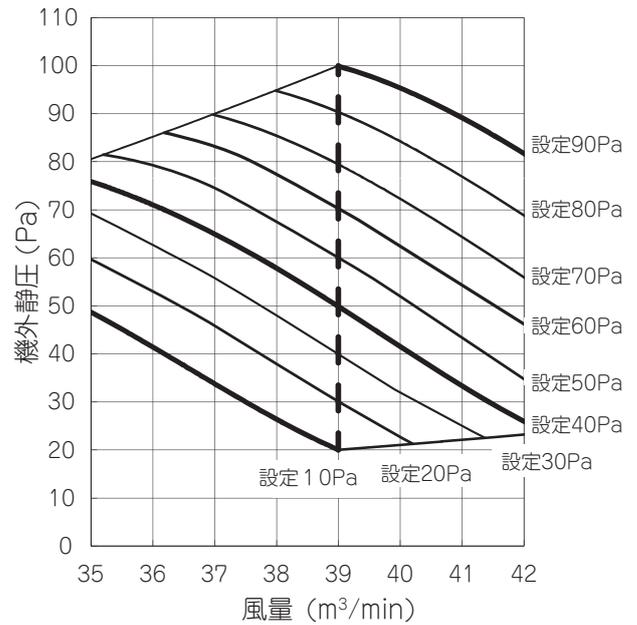
必要な機外静圧 (Pa)	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90

## FDRZVP1404B

### ①各タップの機外静圧特性



### ②P急タップの機外静圧特性



注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

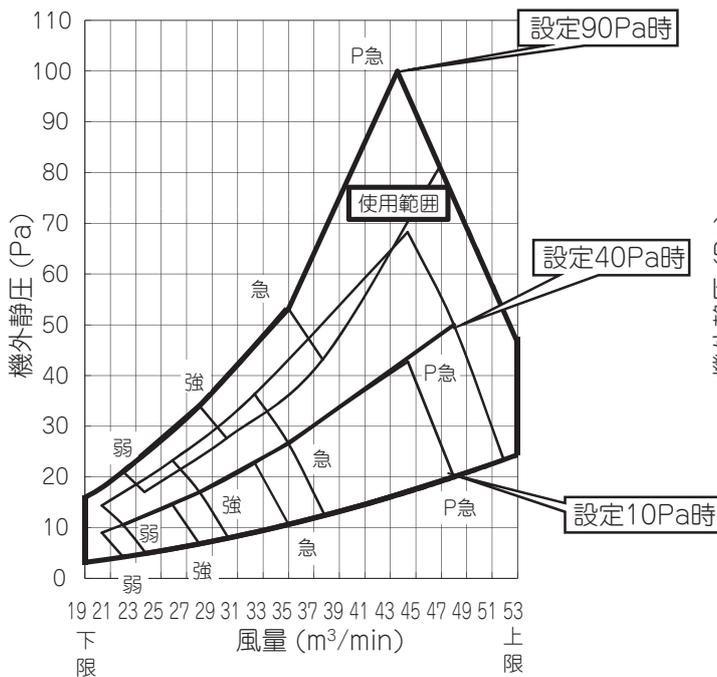
(2) 専用の天井リターンキット(別売品)を必ず装着してください。

(3) 天井リターン仕様の場合は、標準機に対して機内圧力損失が低減するため、リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は、165ページをご覧ください。

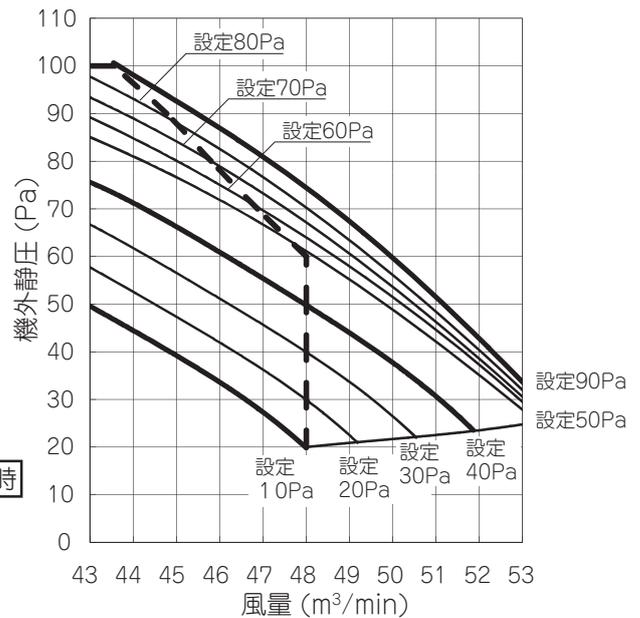
必要な機外静圧 (Pa)	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90

## FDRZVP1604B

### ①各タップの機外静圧特性



### ②P急タップの機外静圧特性



注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

(2) 専用の天井リターンキット(別売品)を必ず装着してください。

(3) 天井リターン仕様の場合は、標準機に対して機内圧力損失が低減するため、リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は、165ページをご覧ください。

必要な機外静圧 (Pa)	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90

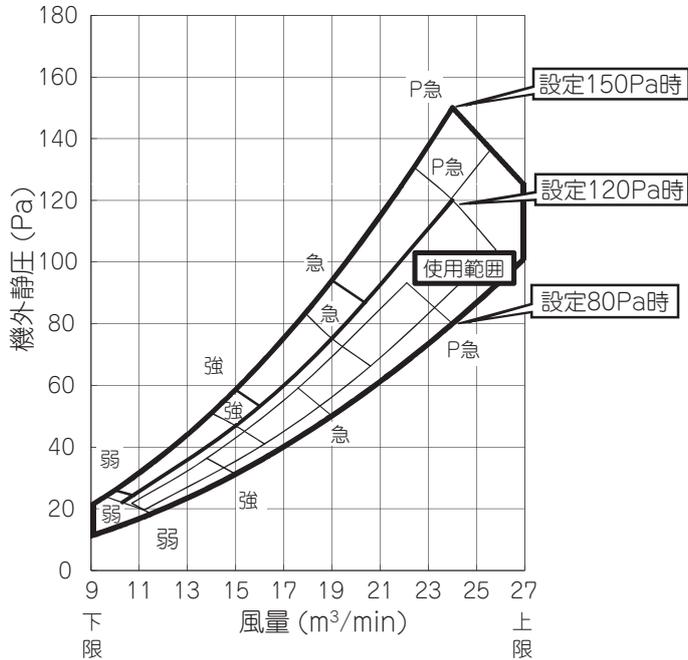
## (2) 高静圧ダクト形 (FDUZ)

### (a) 標準仕様

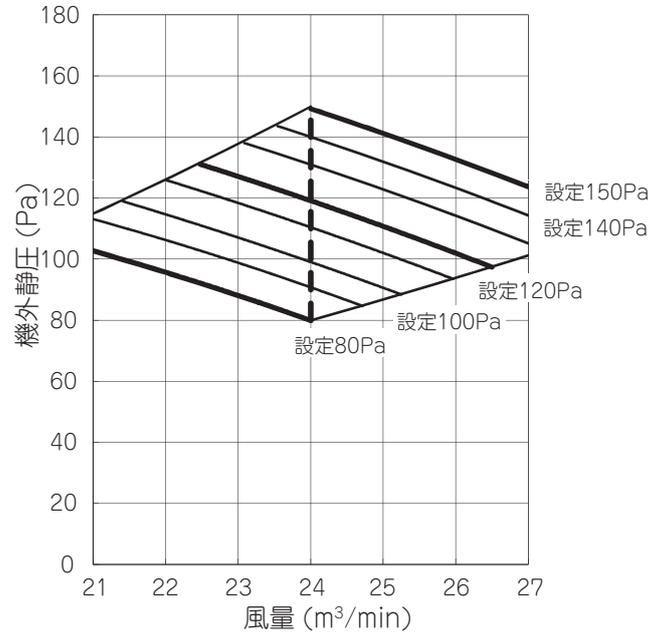
#### FDUZVP804B

##### (i) SW8-4:OFF (出荷状態) の場合

###### ①各タップの機外静圧特性



###### ②P急タップの機外静圧特性

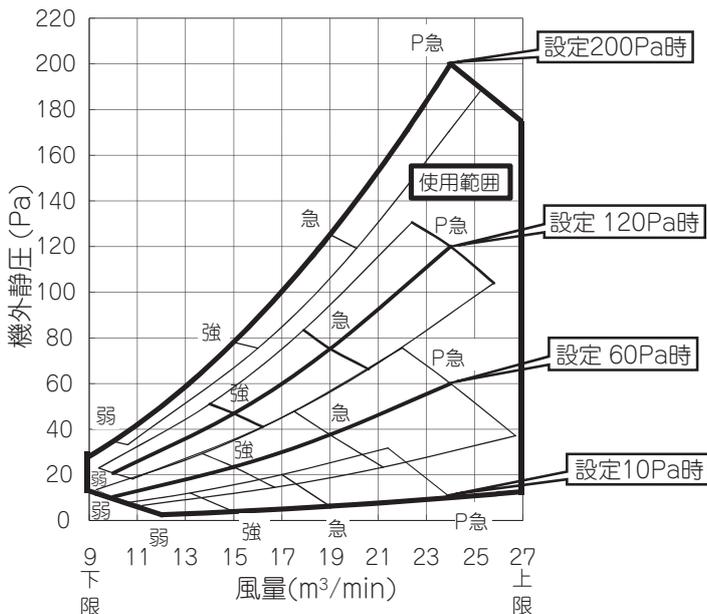


注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

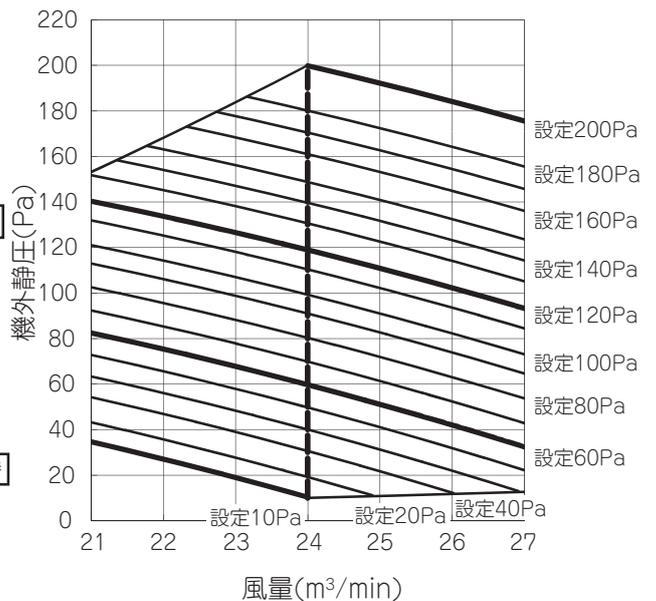
(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を80～150paとしています。

##### (ii) SW8-4:ON の場合

###### ①各タップの機外静圧特性



###### ②P急タップの機外静圧特性



注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

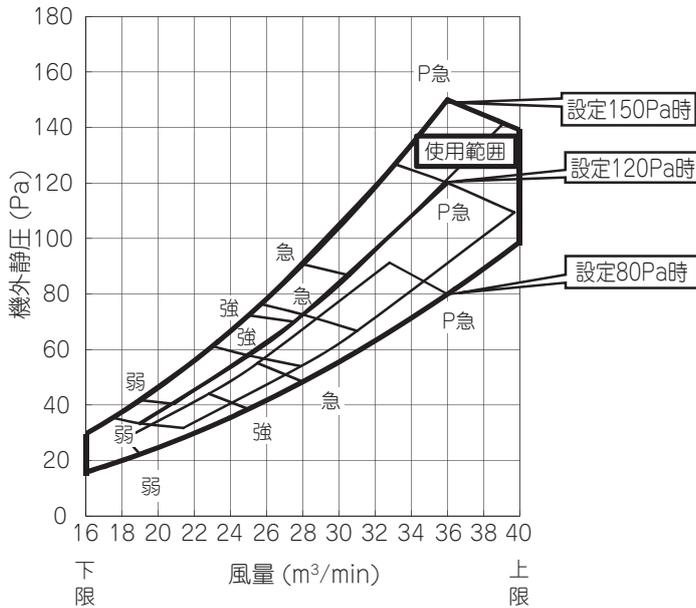
(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。

(3) 基板上のSW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10～200Paにすることも可能です。切替方法は178ページを参照ください。

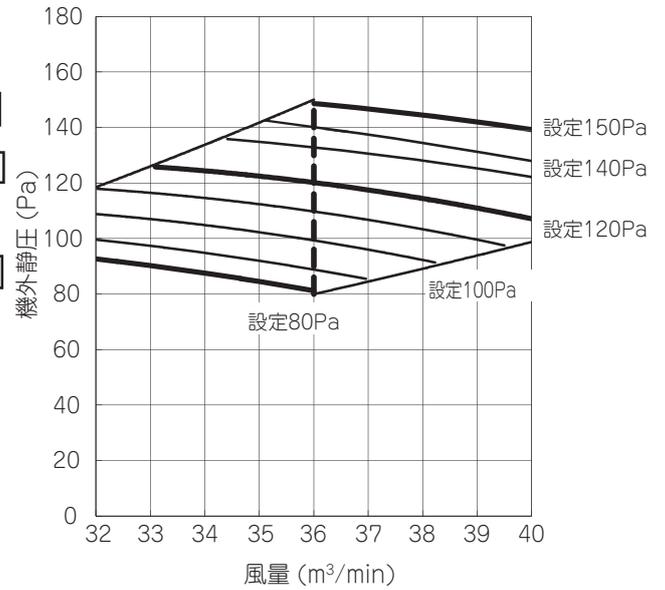
# FDUZVP1124B

## (i) SW8-4:OFF (出荷状態) の場合

### ①各タップの機外静圧特性



### ②P急タップの機外静圧特性

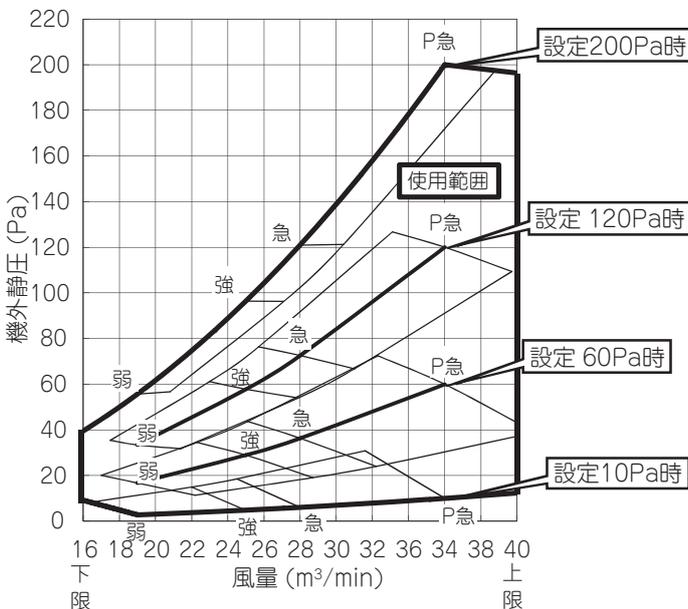


注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

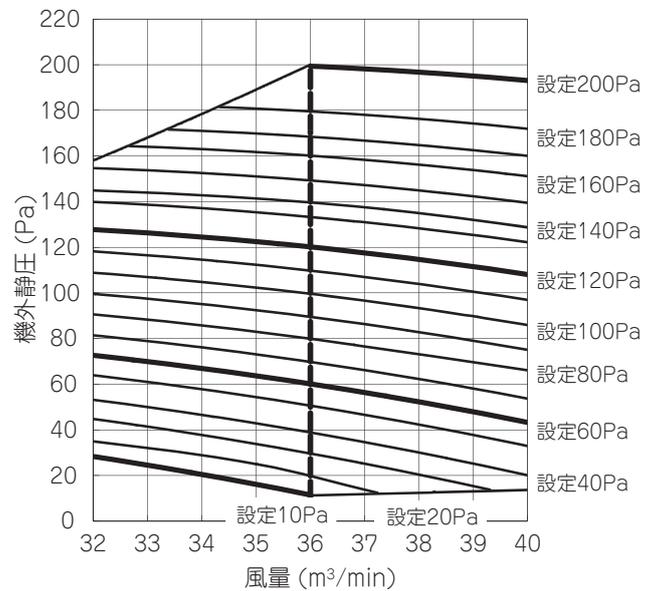
(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を80~150Paとしています。

## (ii) SW8-4:ON の場合

### ①各タップの機外静圧特性



### ②P急タップの機外静圧特性



注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

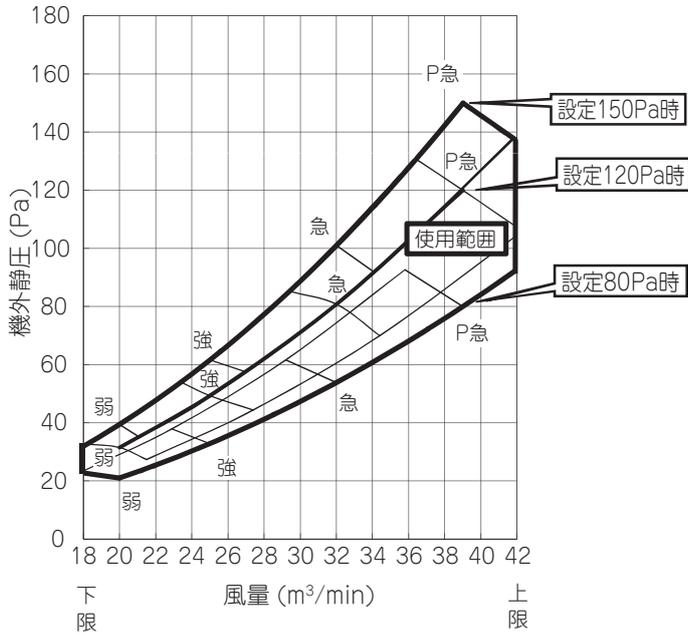
(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。

(3) 基板上の SW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10~200Paにすることも可能です。切替方法は 178 ページを参照ください。

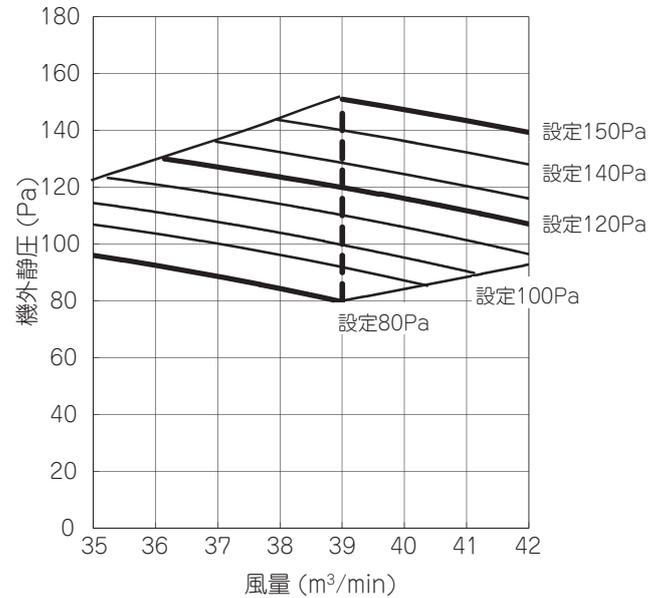
# FDUZVP1404B

## (i) SW8-4:OFF (出荷状態) の場合

### ①各タップの機外静圧特性



### ②P急タップの機外静圧特性

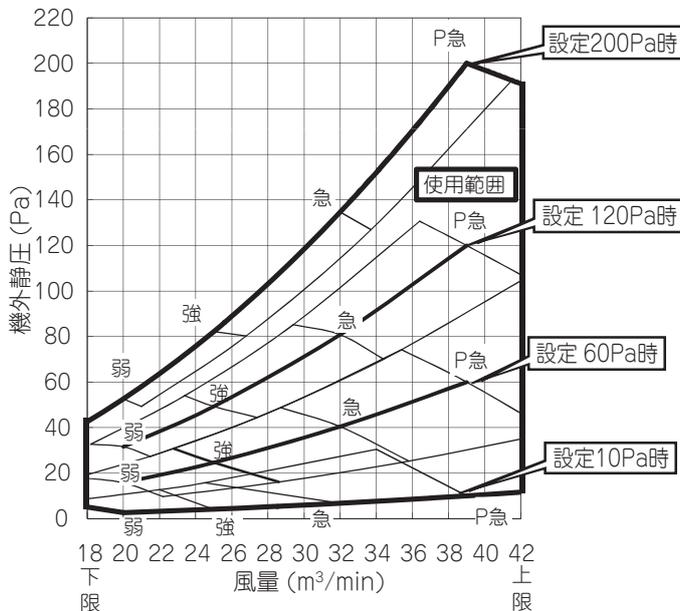


注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

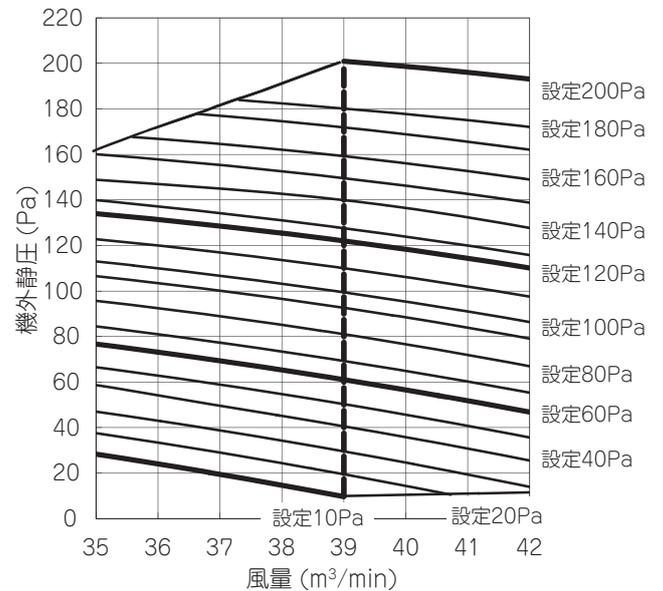
(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。  
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を80~150Paとしています。

## (ii) SW8-4:ON の場合

### ①各タップの機外静圧特性



### ②P急タップの機外静圧特性



注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

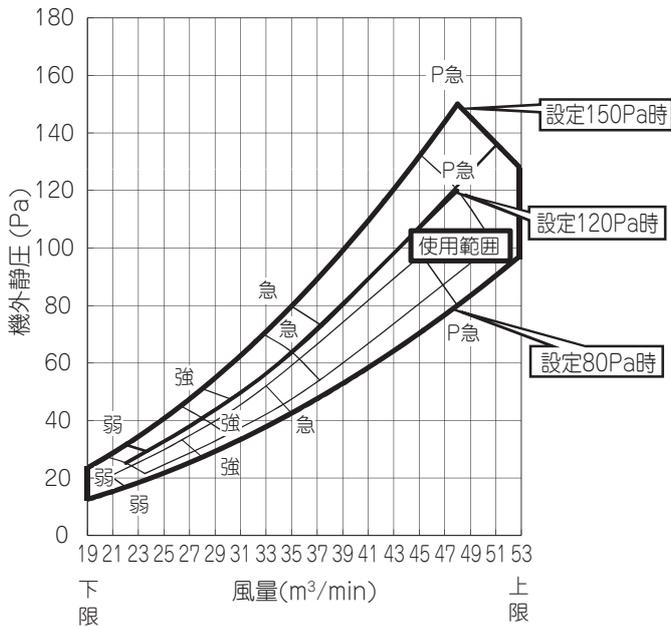
(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。

(3) 基板上のSW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10~200Paにすることも可能です。  
切替方法は178ページを参照ください。

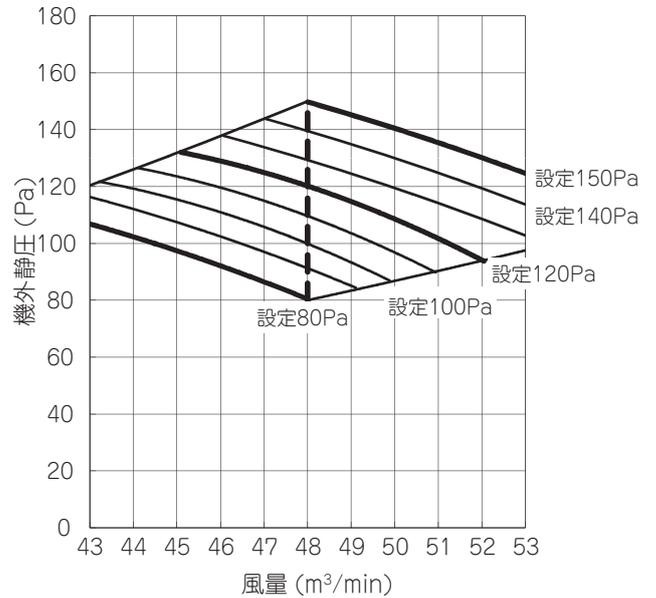
# FDUZVP1604B

## (i) SW8-4:OFF (出荷状態) の場合

### ①各タップの機外静圧特性



### ②P急タップの機外静圧特性

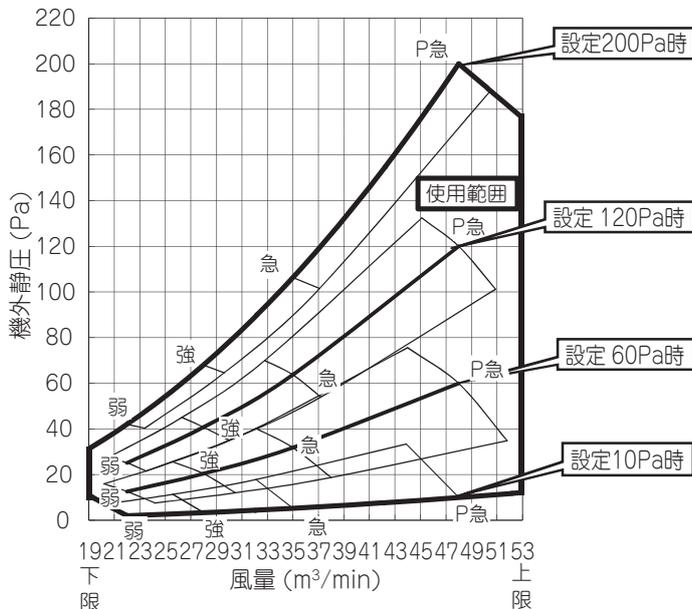


注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

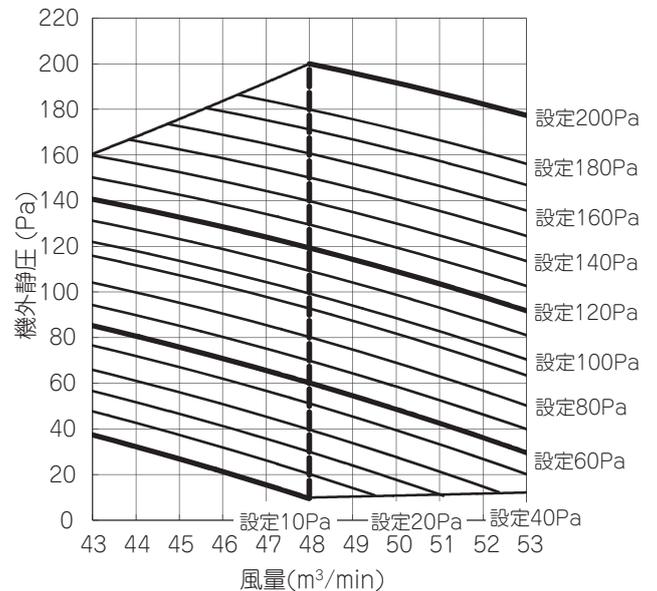
(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。  
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を80~150Paとしています。

## (ii) SW8-4:ON の場合

### ①各タップの機外静圧特性



### ②P急タップの機外静圧特性



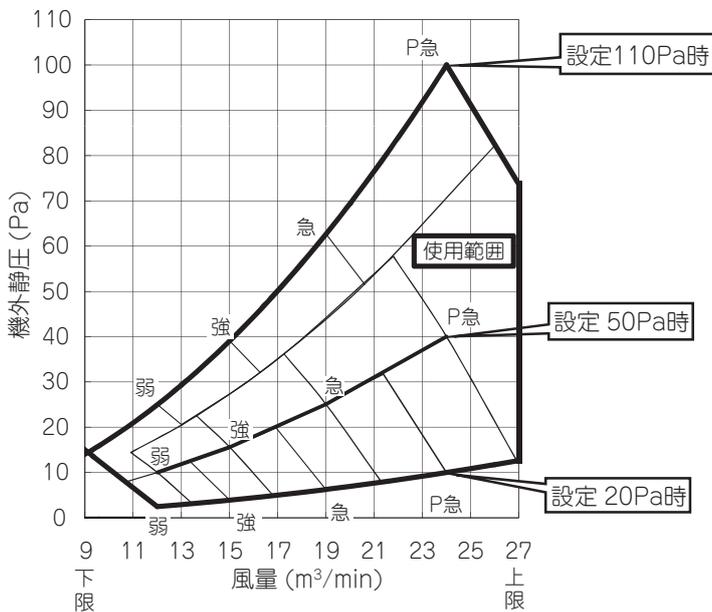
注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。

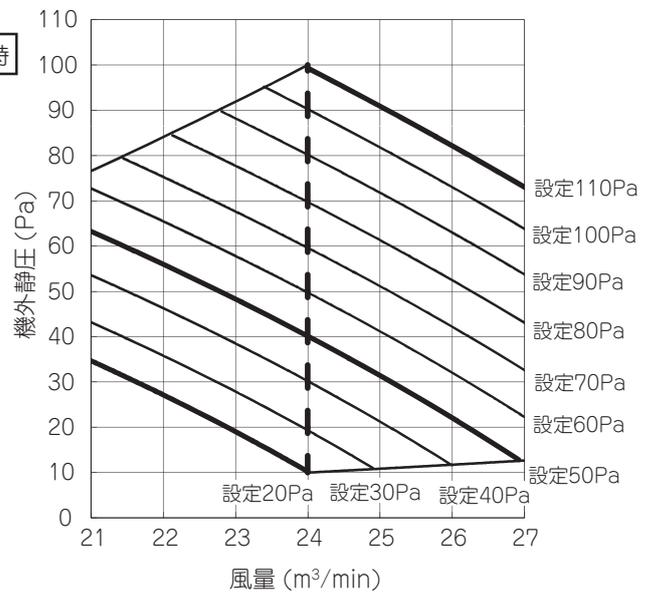
(3) 基板上のSW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10~200Paにすることも可能です。  
切替方法は178ページを参照ください。

(b) 丸ダクト仕様  
FDUZVP804B  
SW8-4:ON

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

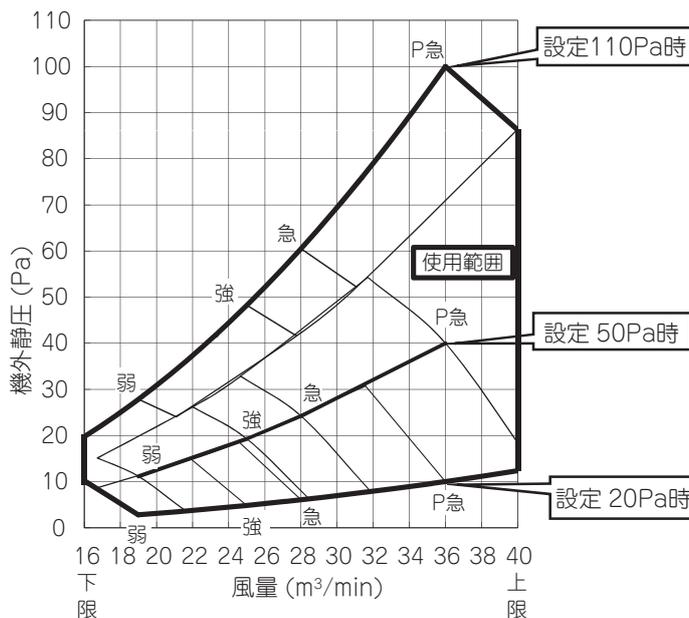
(2) 丸ダクトを使用する場合には基板上のSW8-4をONにしてください。

(3) 丸ダクト変換キットを使用する場合は、標準機(角ダクト)に対して機内圧力損失が増加するため、リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は、179 ページをご覧ください。

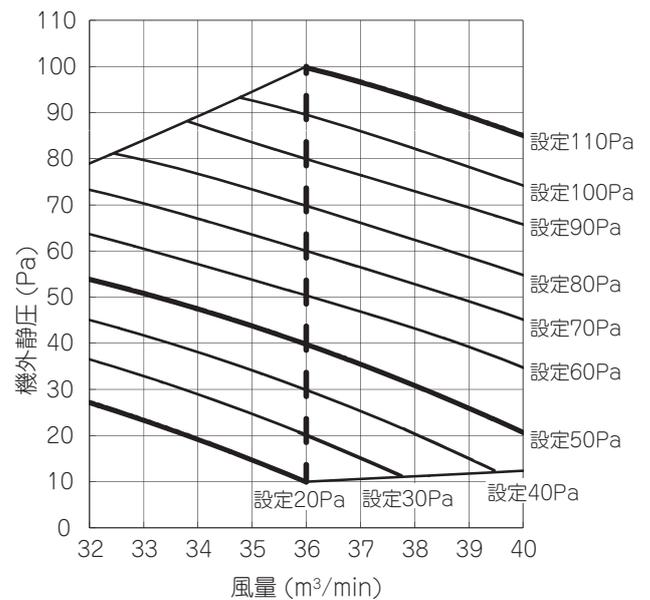
必要な機外静圧 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定 (Pa)	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110

FDUZVP1124B  
SW8-4:ON

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

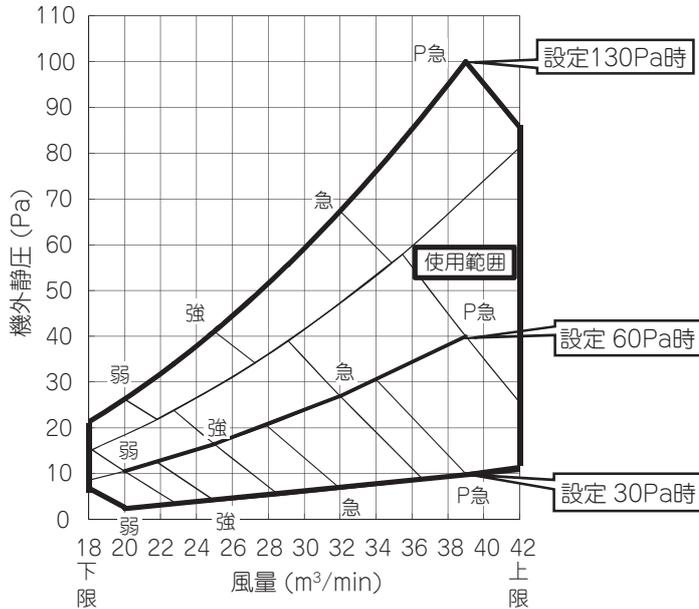
(2) 丸ダクトを使用する場合には基板上のSW8-4をONにしてください。

(3) 丸ダクト変換キットを使用する場合は、標準機(角ダクト)に対して機内圧力損失が増加するため、リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は、179 ページをご覧ください。

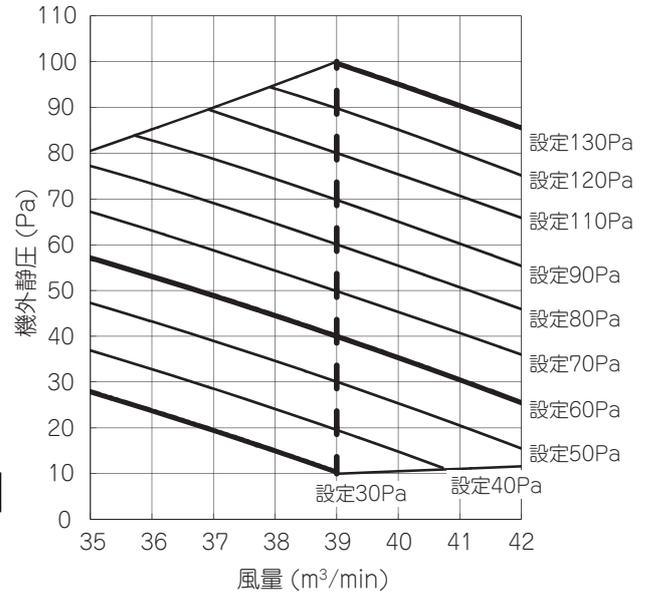
必要な機外静圧 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定 (Pa)	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110

# FDUZVP1404B SW8-4:ON

## ①各タップの機外静圧特性



## ②P急タップの機外静圧特性



注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

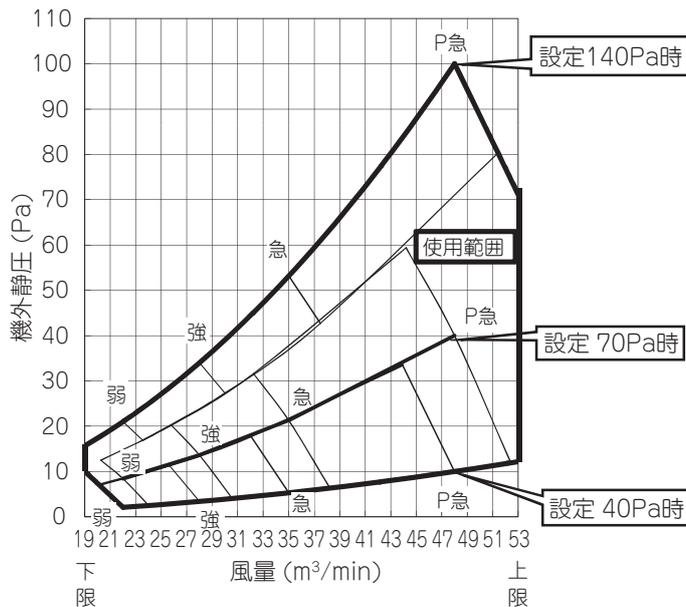
(2) 丸ダクトを使用する場合には基板上のSW8-4をONにしてください。

(3) 丸ダクト変換キットを使用する場合は、標準機(角ダクト)に対して機内圧力損失が増加するため、リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は、179 ページをご覧ください。

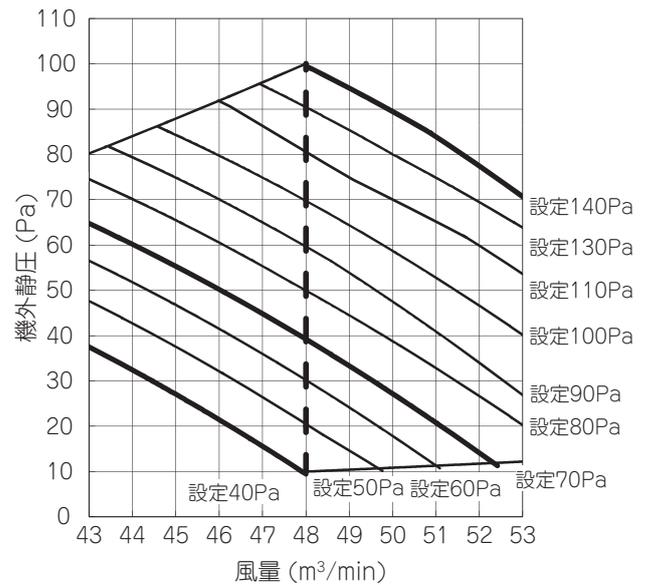
必要な機外静圧 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定 (Pa)	30	40	50	60	70	80	90	110	120	130

# FDUZVP1604B SW8-4:ON

## ①各タップの機外静圧特性



## ②P急タップの機外静圧特性



注(1) 表中の [ 設定 00Pa ] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

(2) 丸ダクトを使用する場合には基板上のSW8-4をONにしてください。

(3) 丸ダクト変換キットを使用する場合は、標準機(角ダクト)に対して機内圧力損失が増加するため、リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は、179 ページをご覧ください。

必要な機外静圧 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定 (Pa)	40	50	60	70	80	90	100	110	130	140

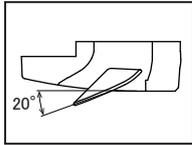
# 7. 送風機特性

## (1) 天井埋込形 4 方向吹出し (FDTZ)

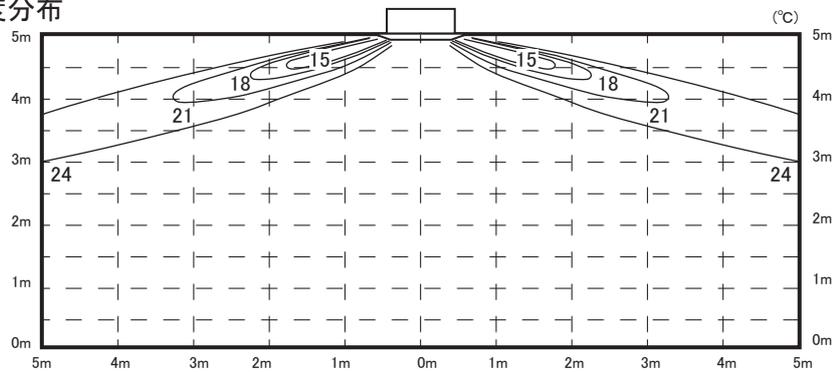
FDTZP805S

(a) 冷房 風量 : P 急

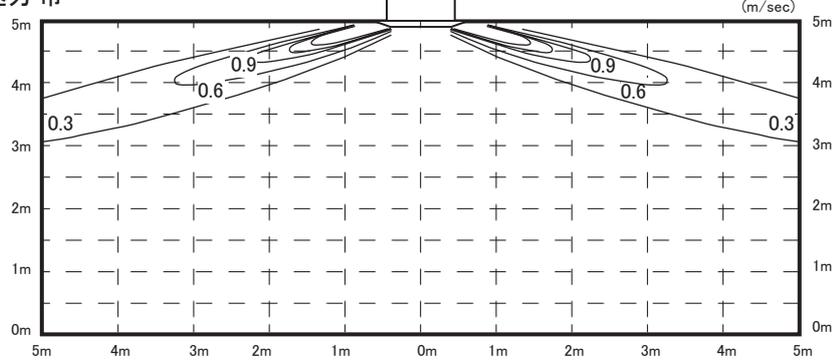
ルーバ位置



温度分布

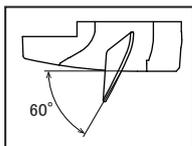


風速分布

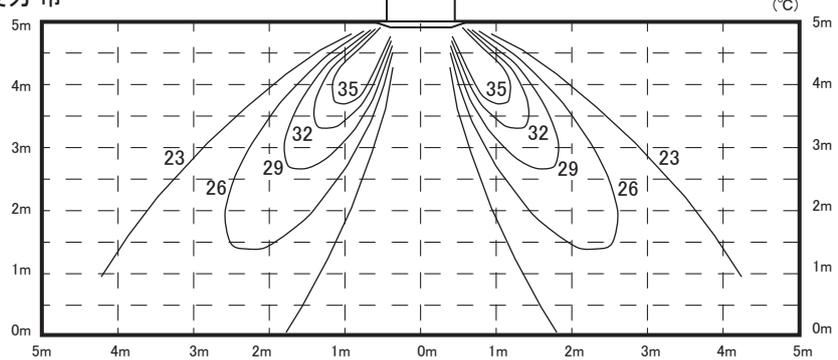


(b) 暖房 風量 : P 急

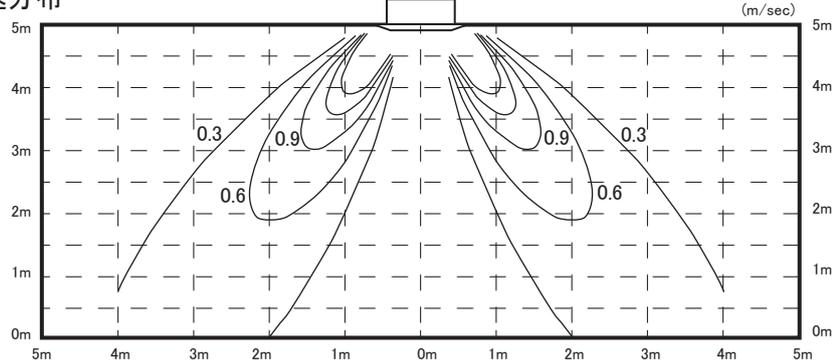
ルーバ位置



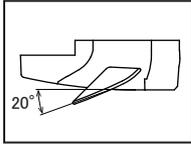
温度分布



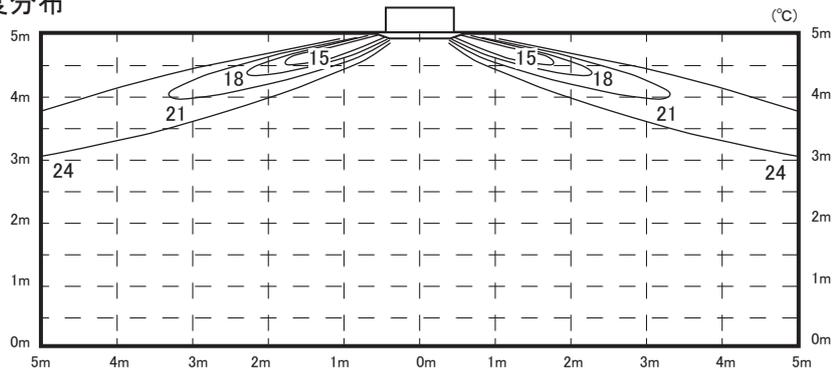
風速分布



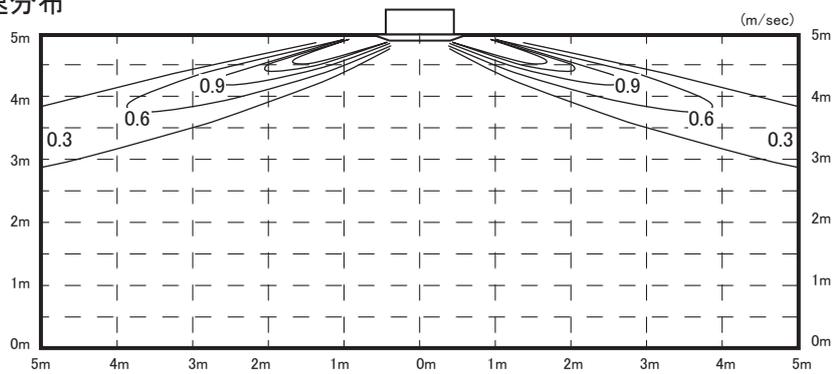
(a) 冷房 風量：P 急  
ルーバ位置



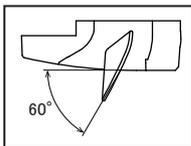
温度分布



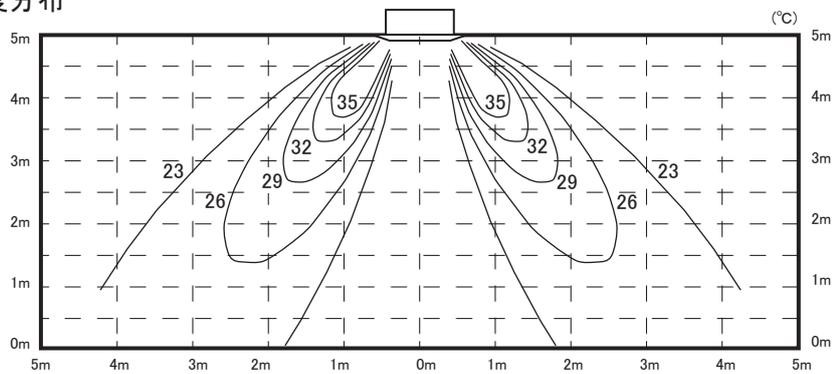
風速分布



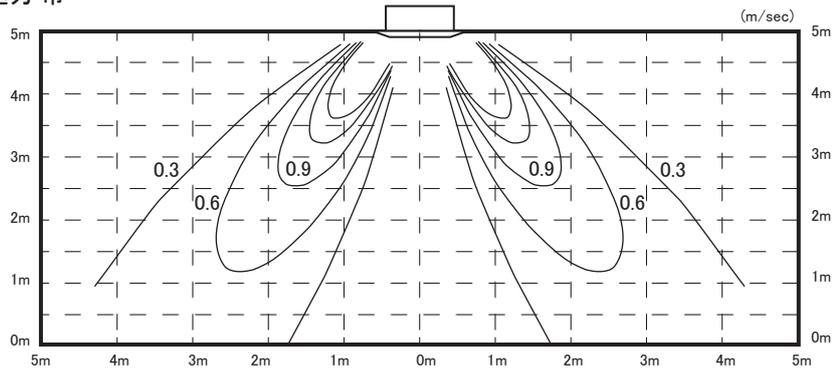
(b) 暖房 風量：P 急  
ルーバ位置



温度分布



風速分布

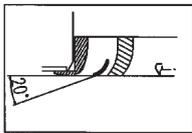


(2) 天井埋込形 2 方向吹出し (FDTWZ)

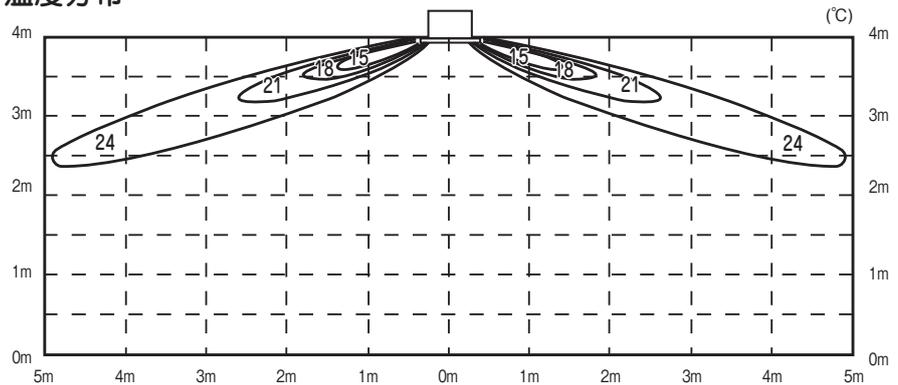
FDTWZVP804B

(a) 冷房 風量 : P 急

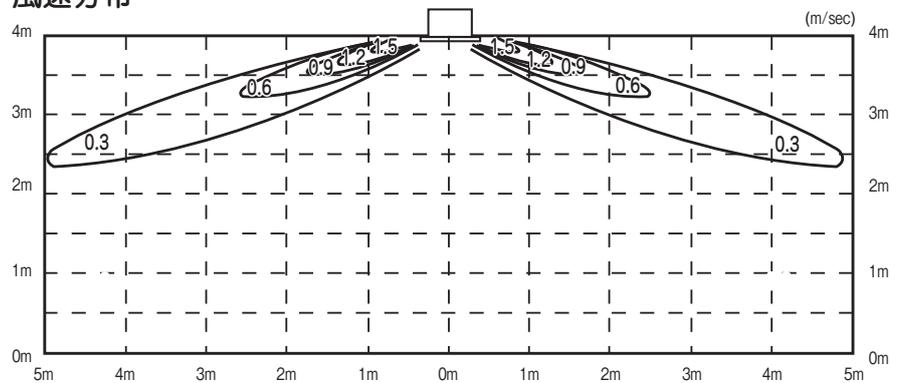
ルーバ位置



温度分布

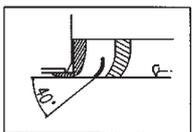


風速分布

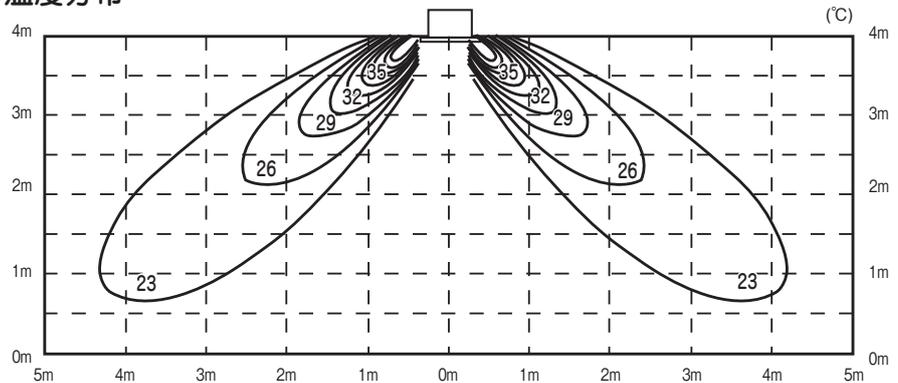


(b) 暖房 風量 : P 急

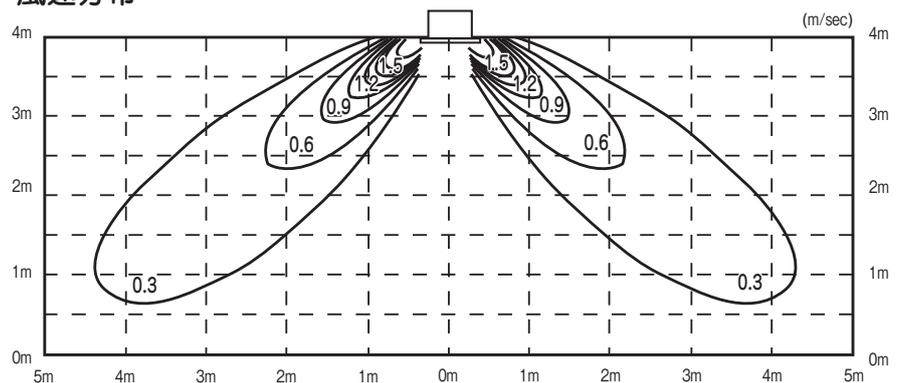
ルーバ位置



温度分布



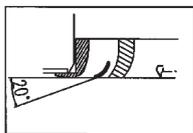
風速分布



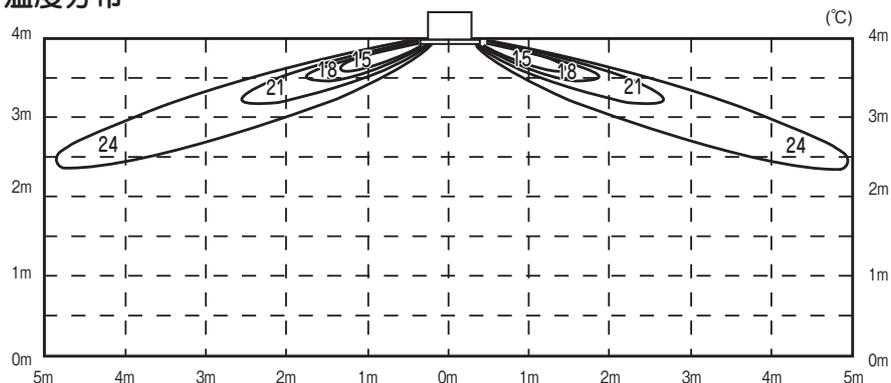
FDTWZVP1124B, 1404B, 1604B

(a) 冷房 風量：P 急

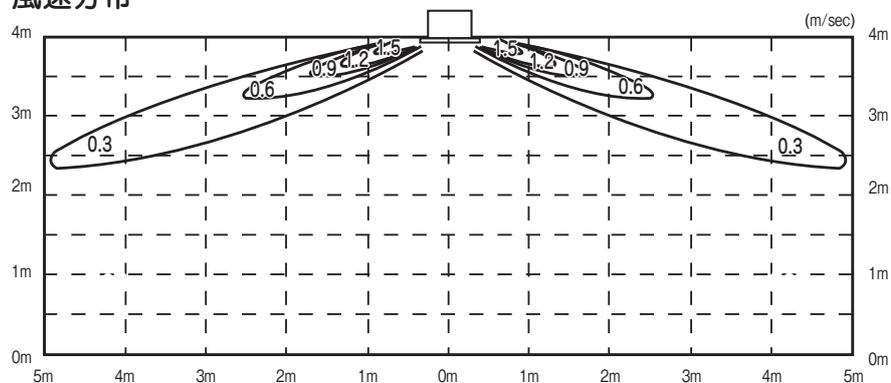
ルーバ位置



温度分布

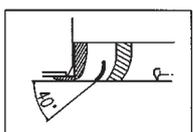


風速分布

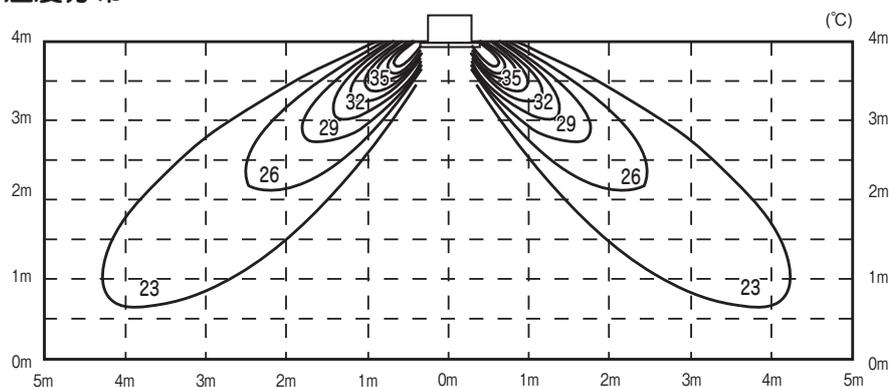


(b) 暖房 風量：P 急

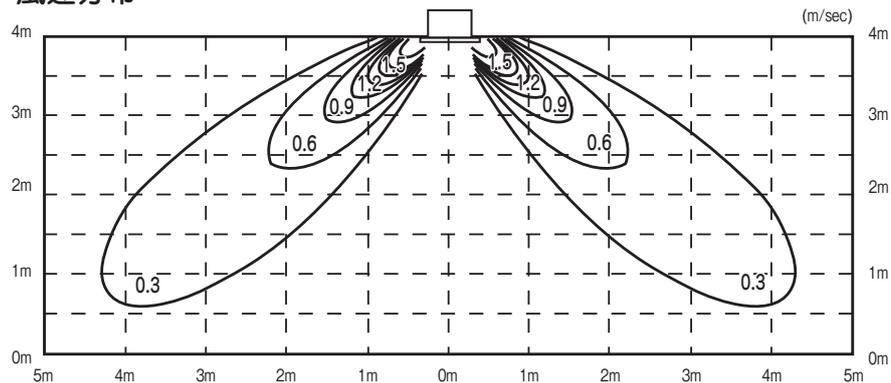
ルーバ位置



温度分布



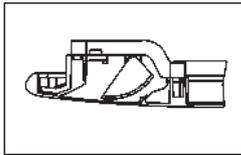
風速分布



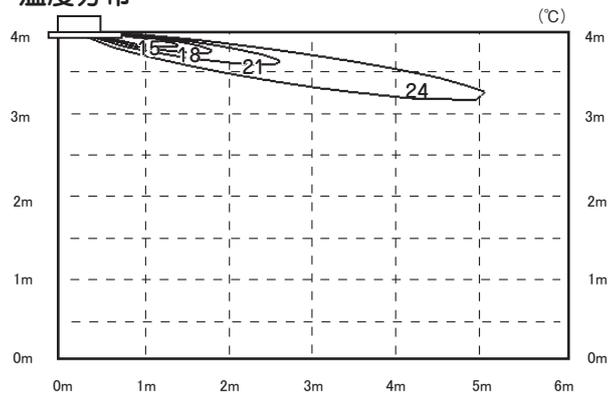
(3) 天井埋込形 1 方向吹出し (FDTSZ)

FDTSZVP804B

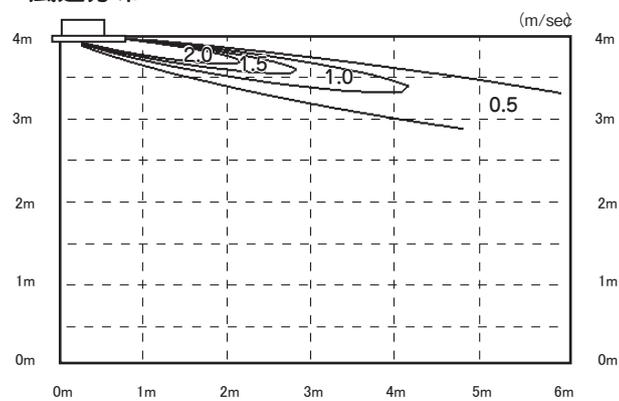
(a) 冷房 風量：P 急  
ルーバ位置



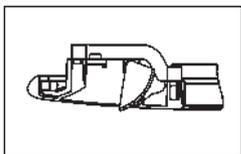
温度分布



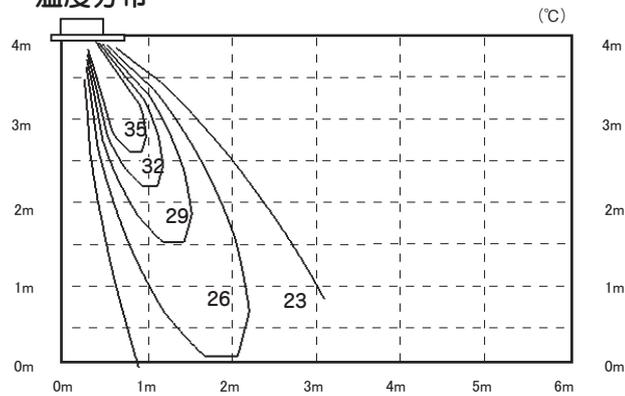
風速分布



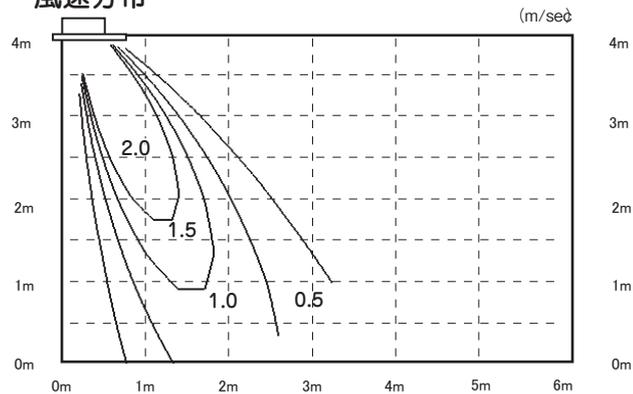
(b) 暖房 風量：P 急  
ルーバ位置



温度分布



風速分布

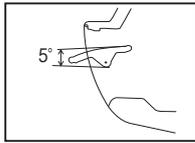


(4) 天吊形 (FDEZ)

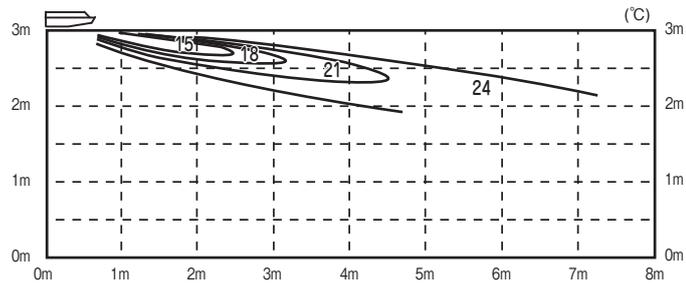
FDEZVP804B

(a) 冷房 風量：P 急

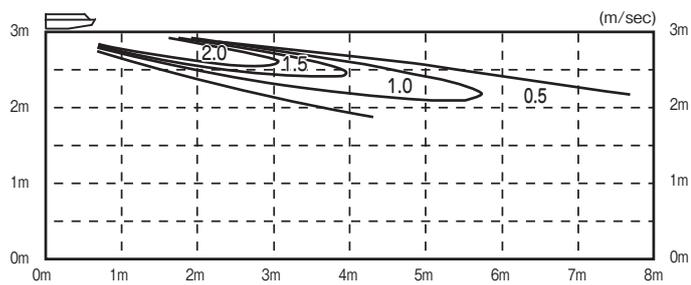
ルーバ位置



温度分布

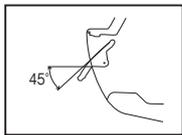


風速分布

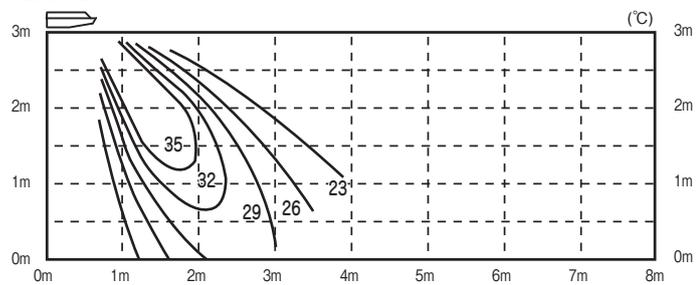


(b) 暖房 風量：P 急

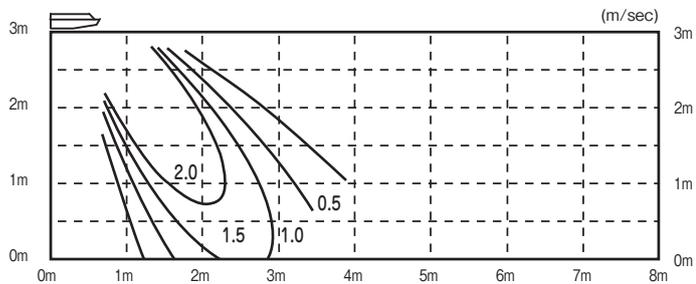
ルーバ位置



温度分布

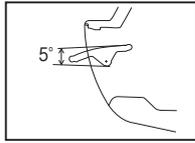


風速分布

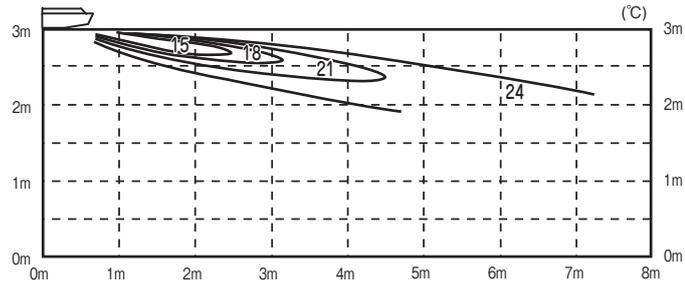


FDEZVP1124B

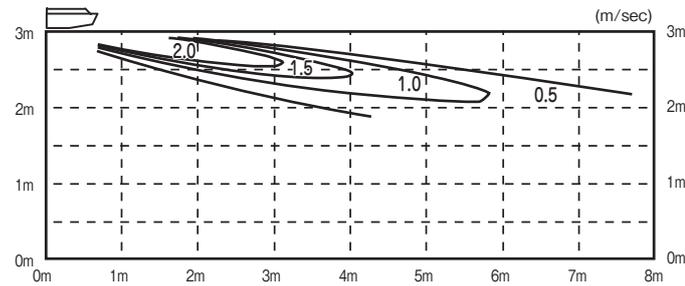
(a) 冷房 風量：P 急  
ルーバ位置



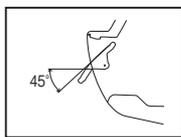
温度分布



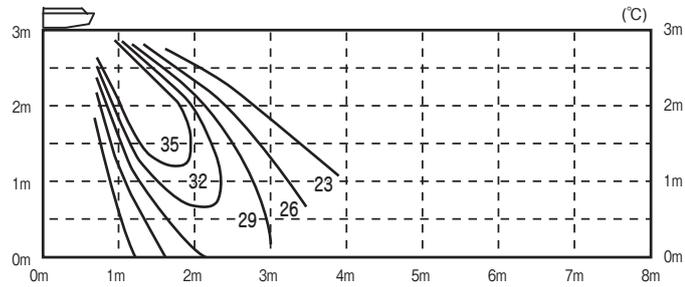
風速分布



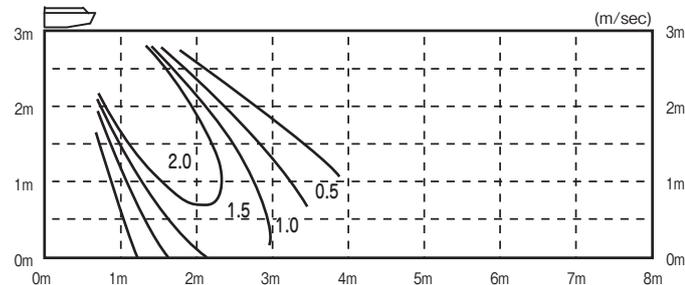
(b) 暖房 風量：P 急  
ルーバ位置



温度分布

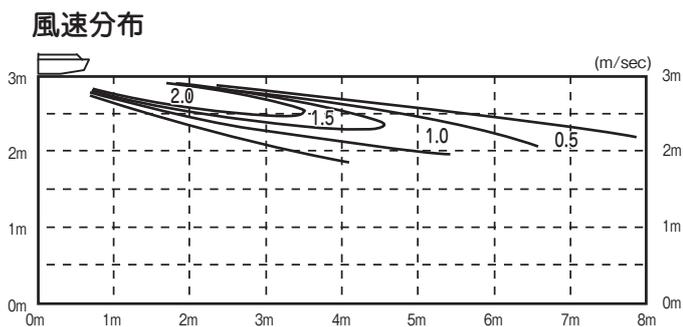
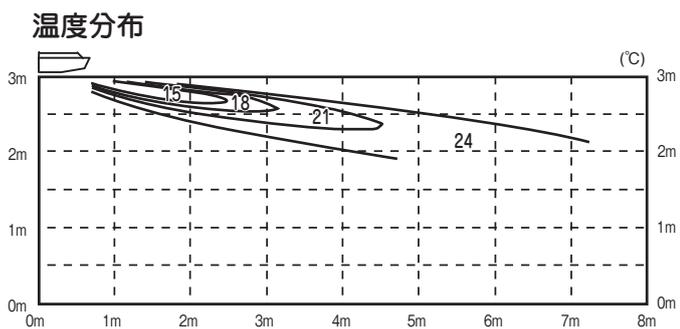
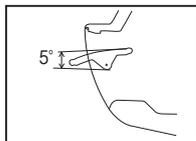


風速分布

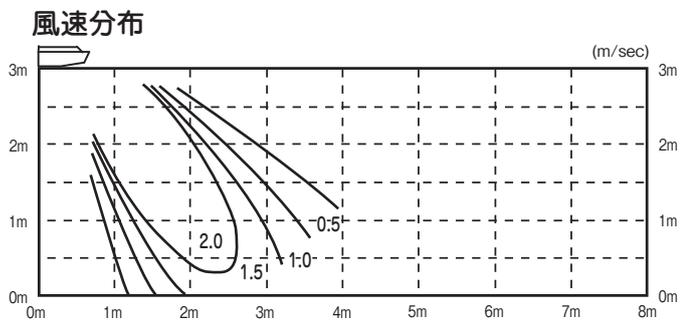
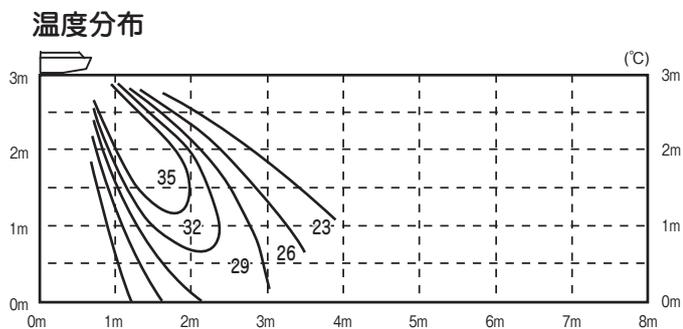
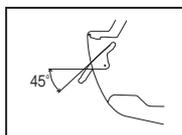


FDEZVP1404B

(a) 冷房 風量：P 急  
ルーバ位置

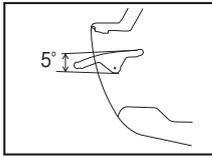


(b) 暖房 風量：P 急  
ルーバ位置

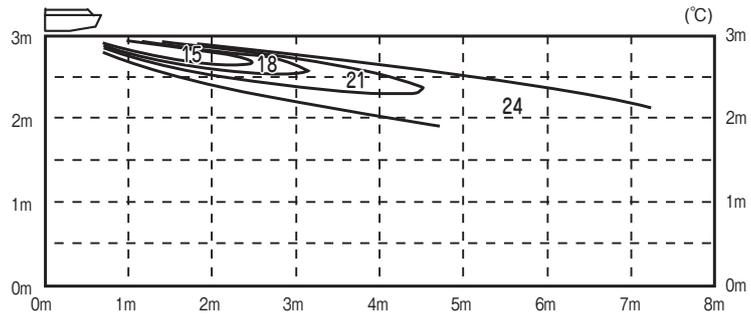


FDEZVP1604B

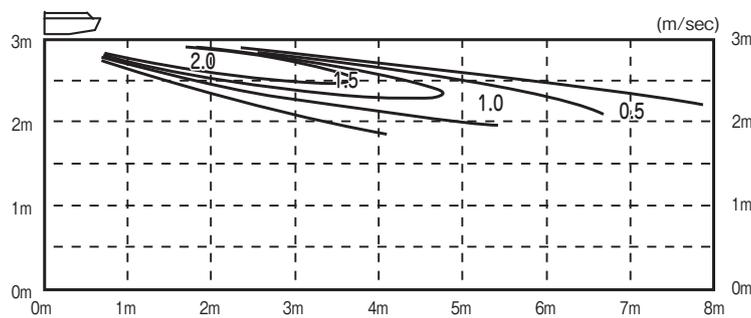
(a) 冷房 風量：P 急  
ルーバ位置



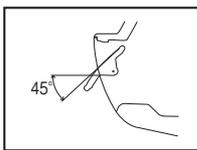
温度分布



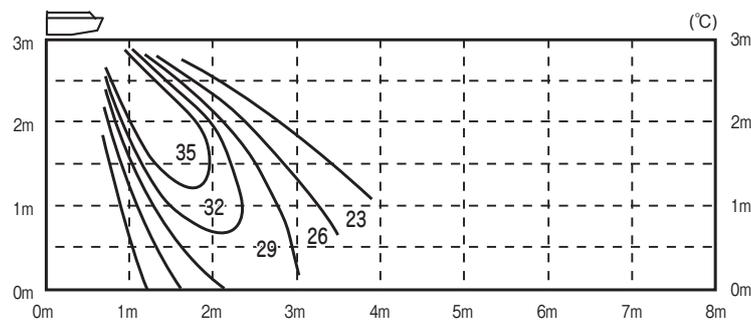
風速分布



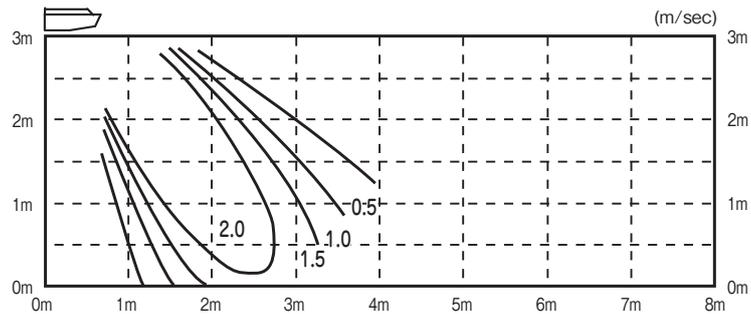
(b) 暖房 風量：P 急  
ルーバ位置



温度分布



風速分布

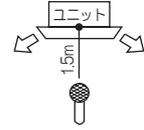


## 8. 運転音

運転音は、JIS規格に準拠し、反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は、周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

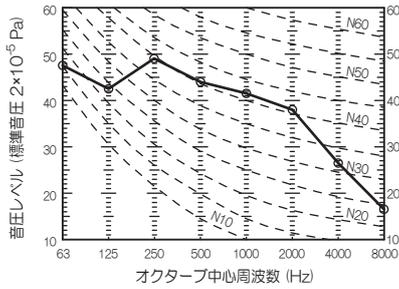
### (1) 室内ユニット

(a) 天井埋込形4方向吹出し (FDTZ) (測定条件：JIS-B8616・冷房 測定場所：無響室)  
マイク位置：ユニット中央下方1.5m

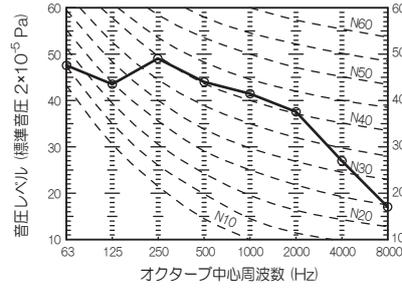


#### FDTZP805S

冷房

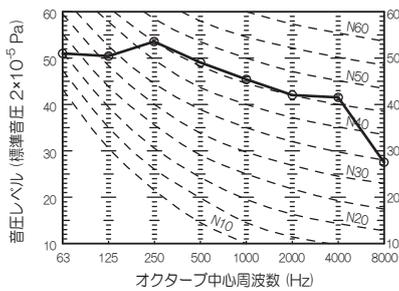


暖房

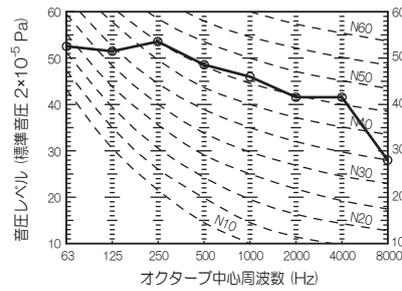


#### FDTZP1605S

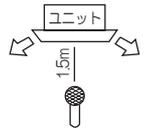
冷房



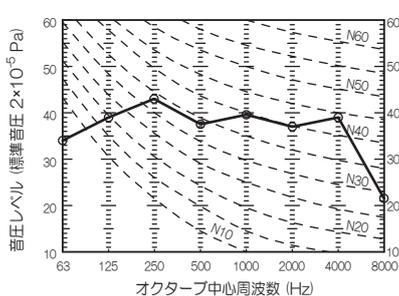
暖房



(b) 天井埋込形2方向吹出し (FDTWZ) (測定条件：JIS-B8616・冷房 測定場所：無響室)  
マイク位置：ユニット中央下方1.5m

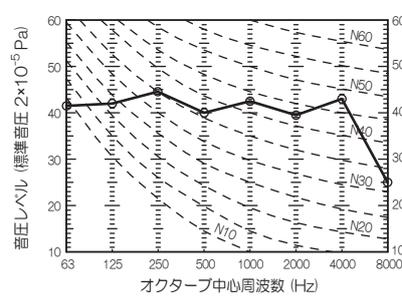


#### FDTWZVP804B



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

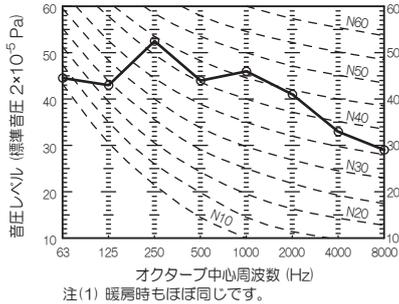
#### FDTWZVP1124B, 1404B, 1604B



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

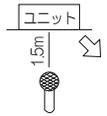
(c) 天井埋込形1方向吹出し (FDTSZ)

FDTSZVP804AG



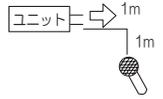
●標準仕様(直吹)

(測定条件：JIS-B8616・冷房 測定場所：無響室)  
マイク位置：ユニット中央下方1.5m



●下がり天井仕様

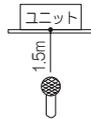
(測定条件：JIS-B8616・冷房 測定場所：無響室)  
マイク位置：ユニット前方1m, 下方1m



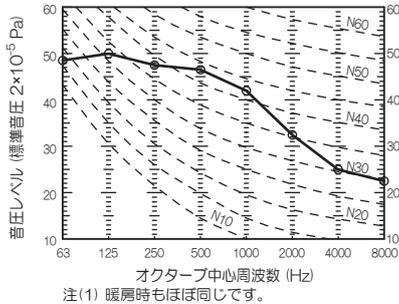
(d) 天井カセテリア (FDRZ)

(i) サイレントパネル仕様

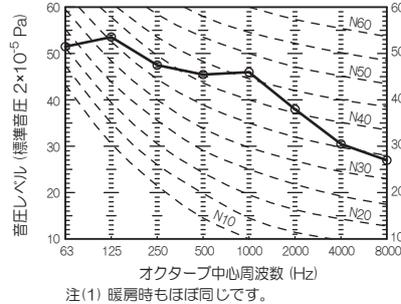
(測定条件：JIS-B8616・冷房 測定場所：無響室)  
マイク位置：ユニット中央下方1.5m



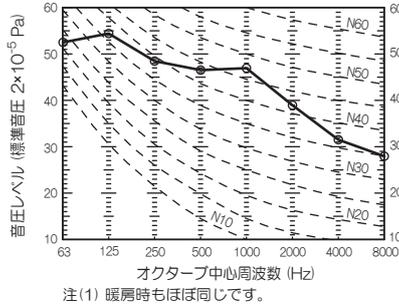
FDRZVP804B



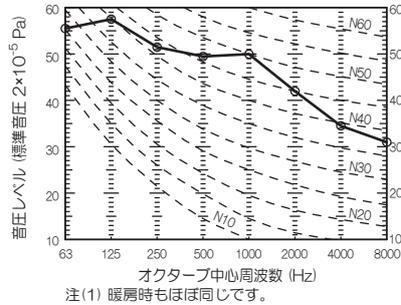
FDRZVP1124B



FDRZVP1404B

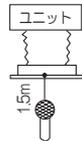


FDRZVP1604B

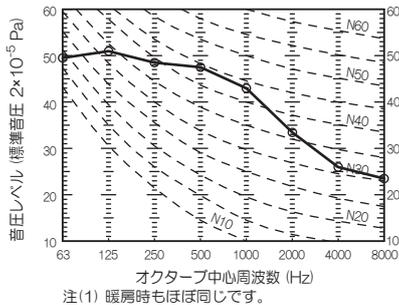


(ii) キャンバスパネル仕様

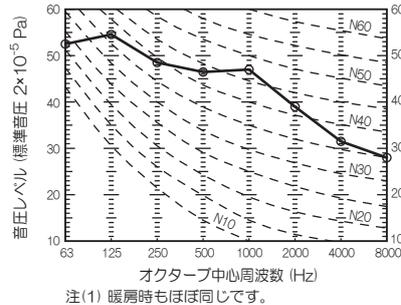
(測定条件：JIS-B8616・冷房 測定場所：無響室)  
マイク位置：ユニット中央下方1.5m



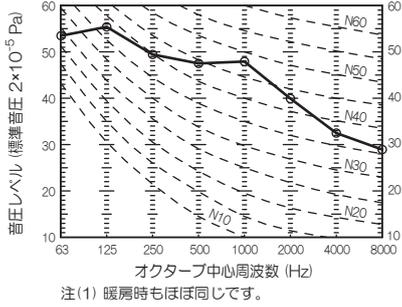
FDRZVP804B



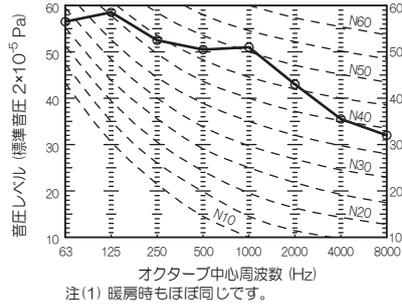
FDRZVP1124B



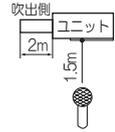
FDRZVP1404B



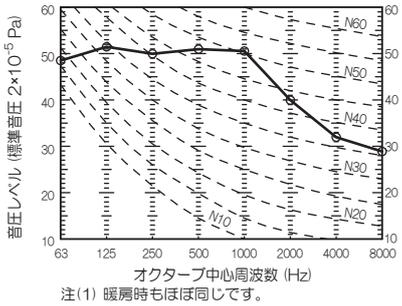
FDRZVP1604B



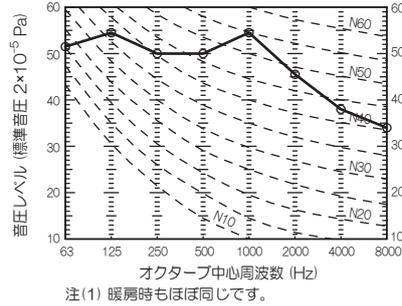
(iii) 天井リターン仕様 (測定条件: JIS-B8616・冷房 測定場所: 無響室)  
 マイク位置: ユニット中央下方1.5m



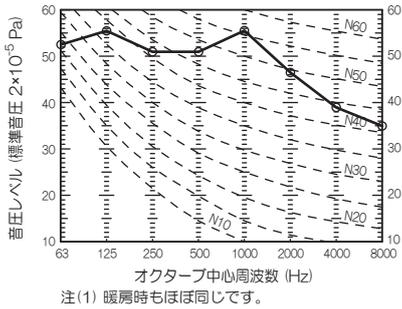
FDRZVP804B



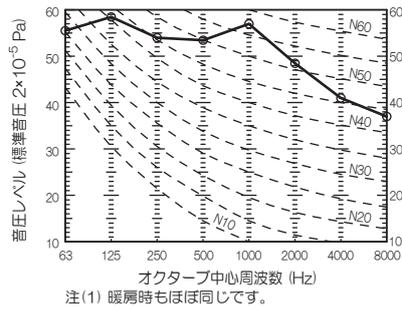
FDRZVP1124B



FDRZVP1404B

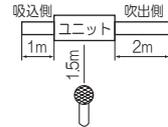


FDRZVP1604B

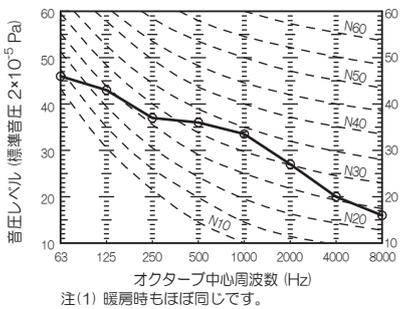


(e) 高静圧ダクト形 (FDUZ)

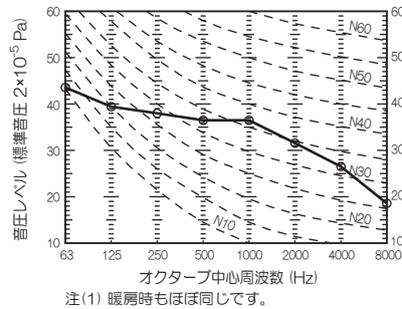
(i) 標準仕様 (測定条件: JIS-B8616・冷房 測定場所: 無響室)  
 マイク位置: ユニット中央下方1.5m



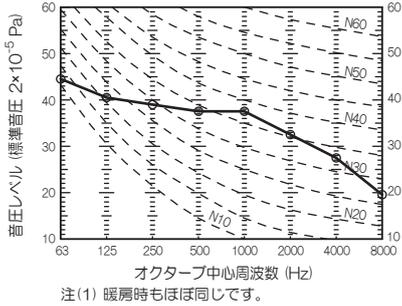
FDUZVP804B



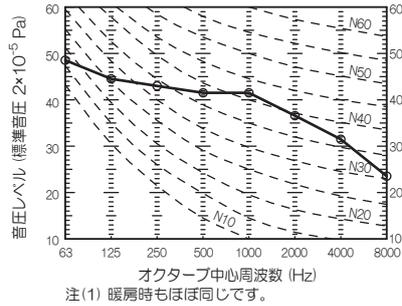
FDUZVP1124B



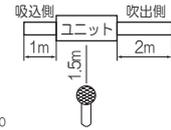
### FDUZVP1404B



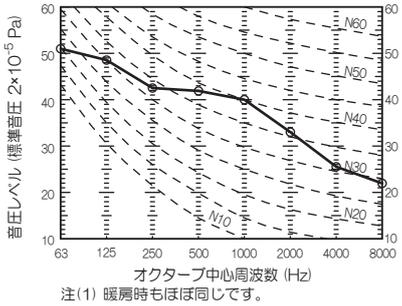
### FDUZVP1604B



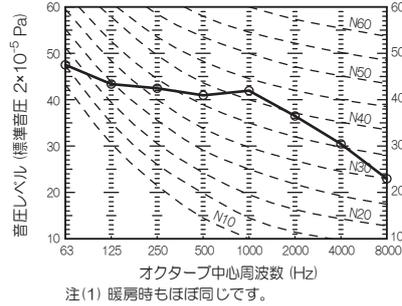
(ii) 丸ダクト仕様 (測定条件: JIS-B8616・冷房 測定場所: 無響室)  
 マイク位置: ユニット中央下方1.5m



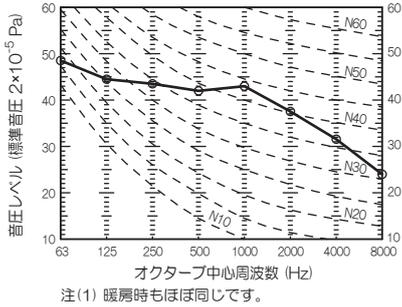
### FDUZVP804B



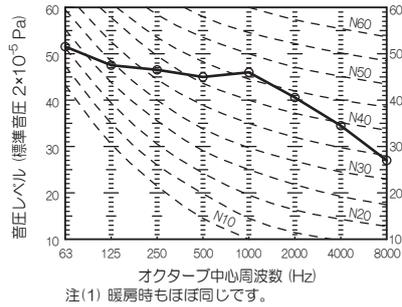
### FDUZVP1124B



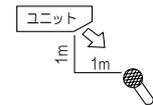
### FDUZVP1404B



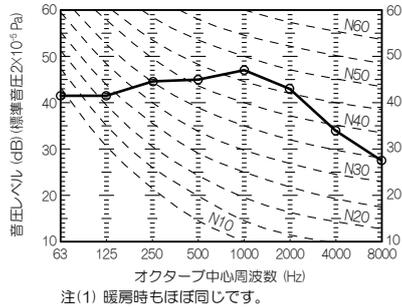
### FDUZVP1604B



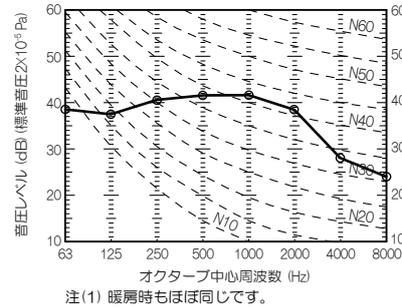
(f) 天吊形 (FDEZ) (測定条件: JIS B 8616・冷房 測定場所: 無響室)  
 マイク位置: ユニット前方 1m, 下方 1m



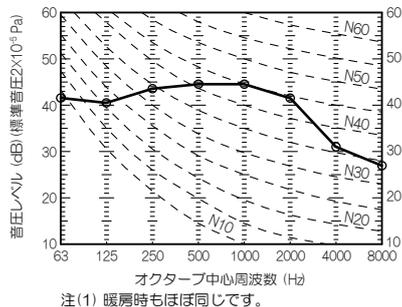
### FDEZVP804B



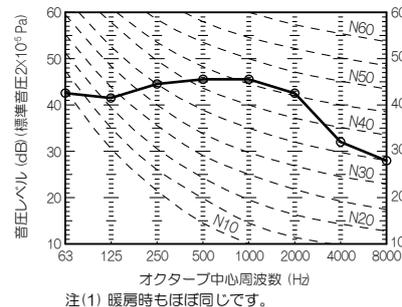
### FDEZVP1124B



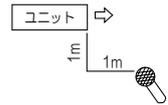
### FDEZVP1404B



### FDEZVP1604B

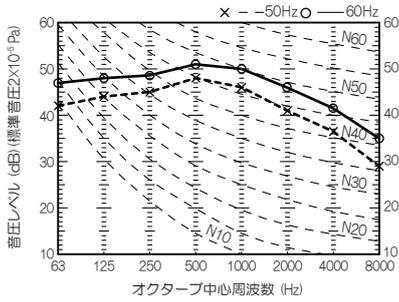


(g) 天吊耐油形 (FDESZ) (測定条件: JIS B 8616・冷房 測定場所: 無響室)  
 マイク位置: ユニット前方 1m, 下方 1m

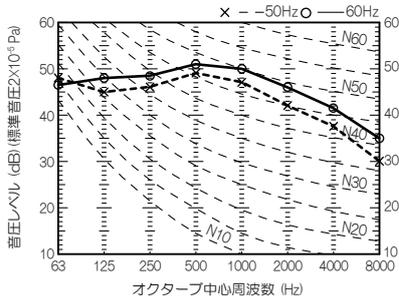


FDESZVP804B

冷房

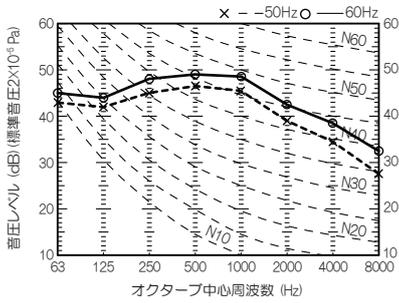


暖房

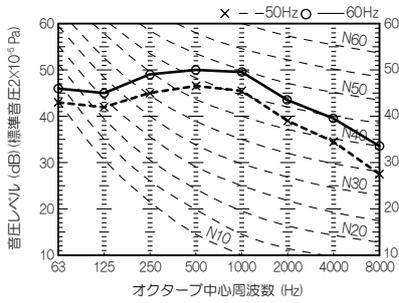


FDESZVP1404B

冷房

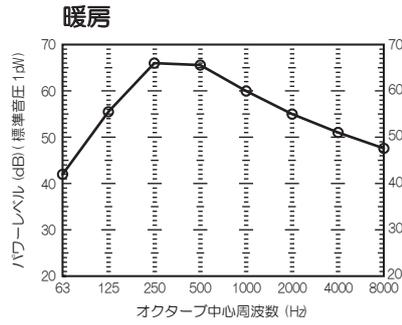
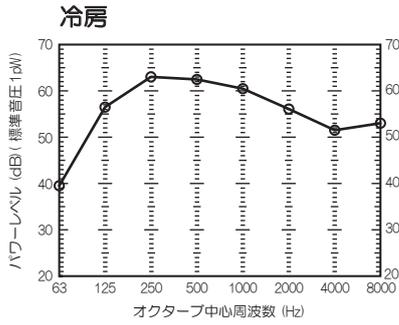


暖房

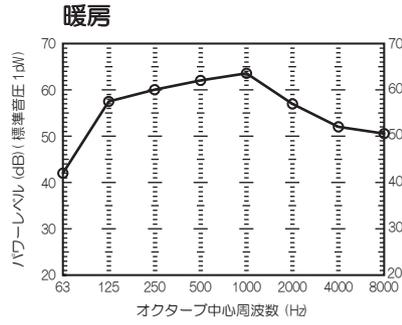
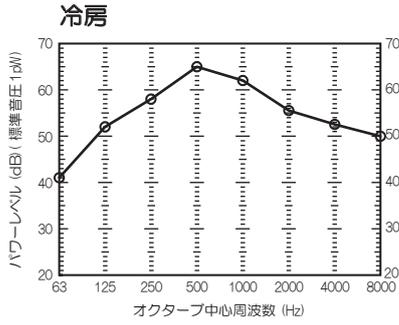


(2) 室外ユニット（測定条件：JIS B 8616）

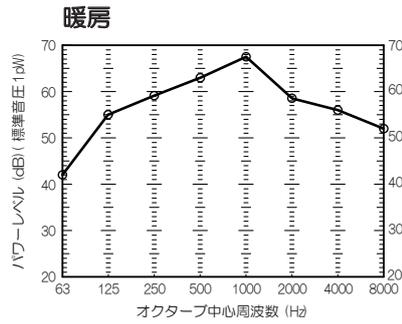
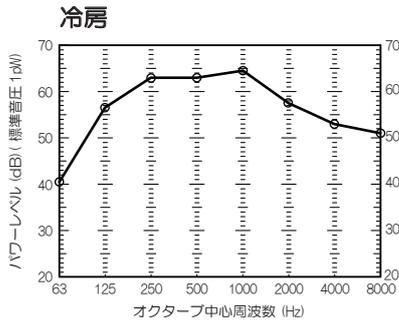
FDCZP805H, 805HK



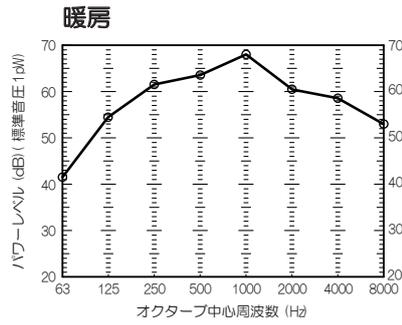
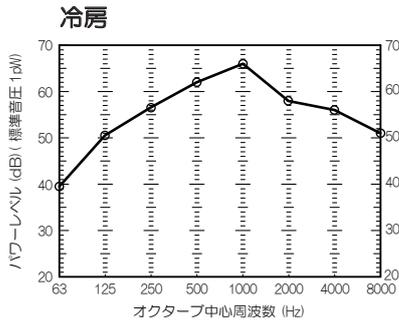
FDCZP1125H



FDCZP1405H



FDCZP1605H

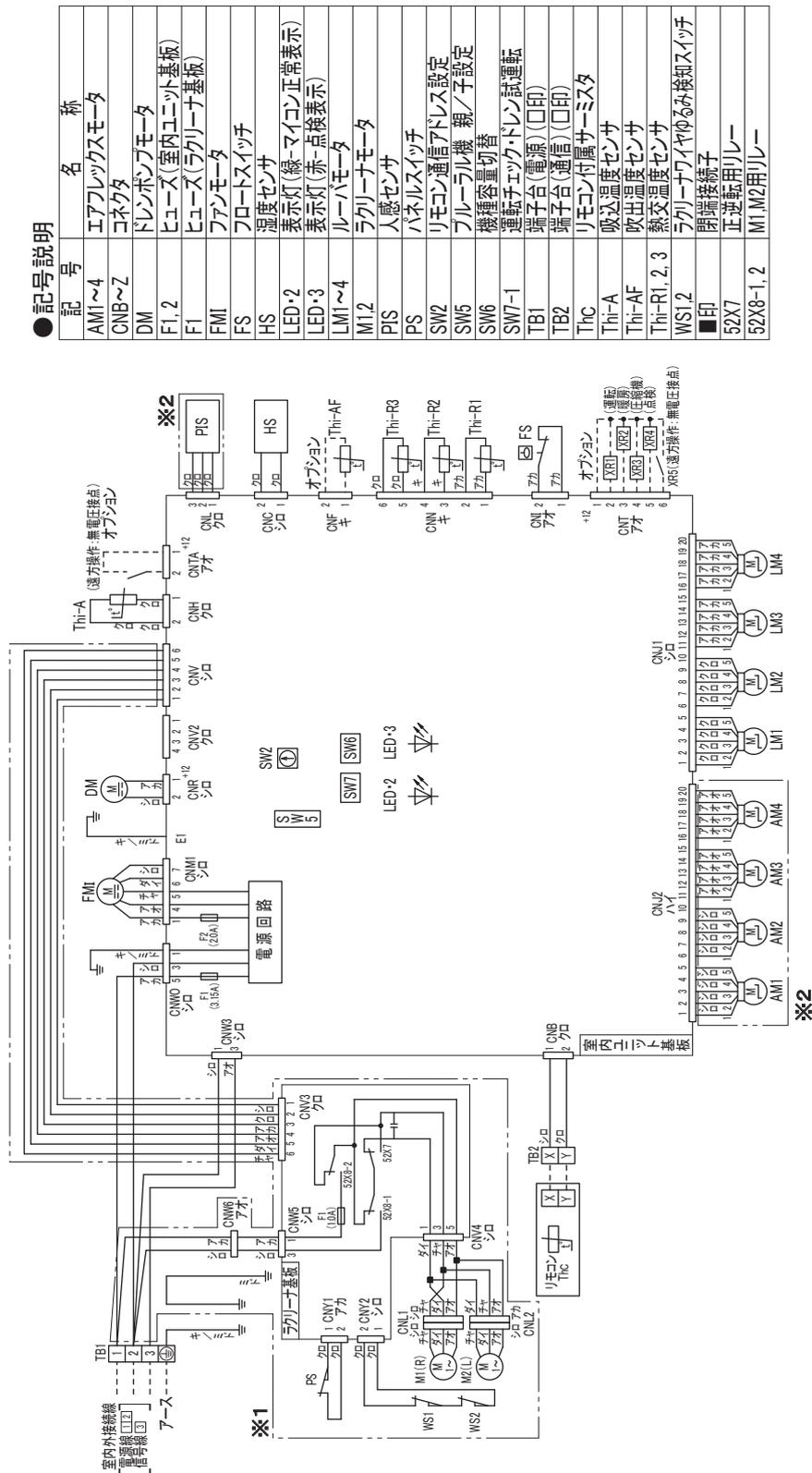


# 9. 電気配線図

## (1) 室内ユニット

### (a) 天井埋込形 4 方向吹出し (FDTZ)

注(1) 本図はエアコン本体側部分について示しています。お掃除パネル部分については、次ページをご覧ください

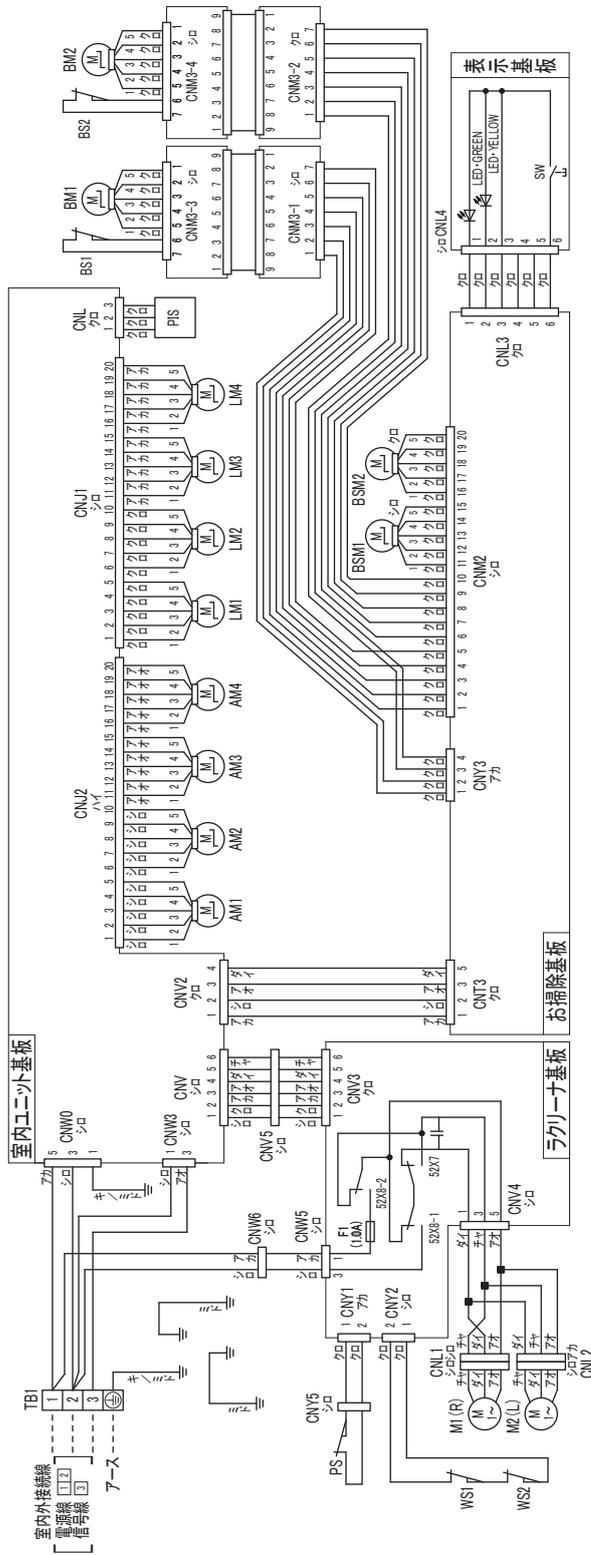


- 記事 1. -----は現地配線を示します。  
 2. TB1は強電用端子台(室内外接続線), TB2は弱電用端子台(リモコン線)です。  
 3. 室内外接続線は、室外機配線図をご覧ください。  
 4. リモコン配線は0.3mm<sup>2</sup> × 2心を使用してください。  
 5. リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。  
 6. 標準パネルまたはエアフレックスパネルの場合は、※1のラクーナ基板および配線等はありません。  
 7. 標準パネルの場合は、※2か所の配線等はありません。

PJF000Z399  
 PJF000Z400  
 PJF000Z401

# FDTZP805S, 1605S

注(1) 本図はお掃除パネル部分について示しています。エアコン本体側部分については、前ページをご覧ください。



## ● 記号説明

記号	名称
AM1~4	エアフレックスモータ
BM1,2	ブラジモータ
BS1,2	ブラジ位置検知スイッチ
BSM1,2	シャフト駆動モータ
CNA~Z	コネクタ
F1	ヒューズ
LED・GREEN	表示灯(緑)右表参照
LED・YELLOW	表示灯(黄)右表参照
LM1~4	ルーパモータ
LM1,2	ラクリーナモータ
PIS	人感センサ
PS	パネルスイッチ
SW	バックアップスイッチ
TB1	端子台(電源)(口印)
WS1,2	ラクリーナワイヤゆるみ検知スイッチ
■印	閉端接続端子
52X7	正逆転用リレー
52X8-1,2	M1,M2用リレー

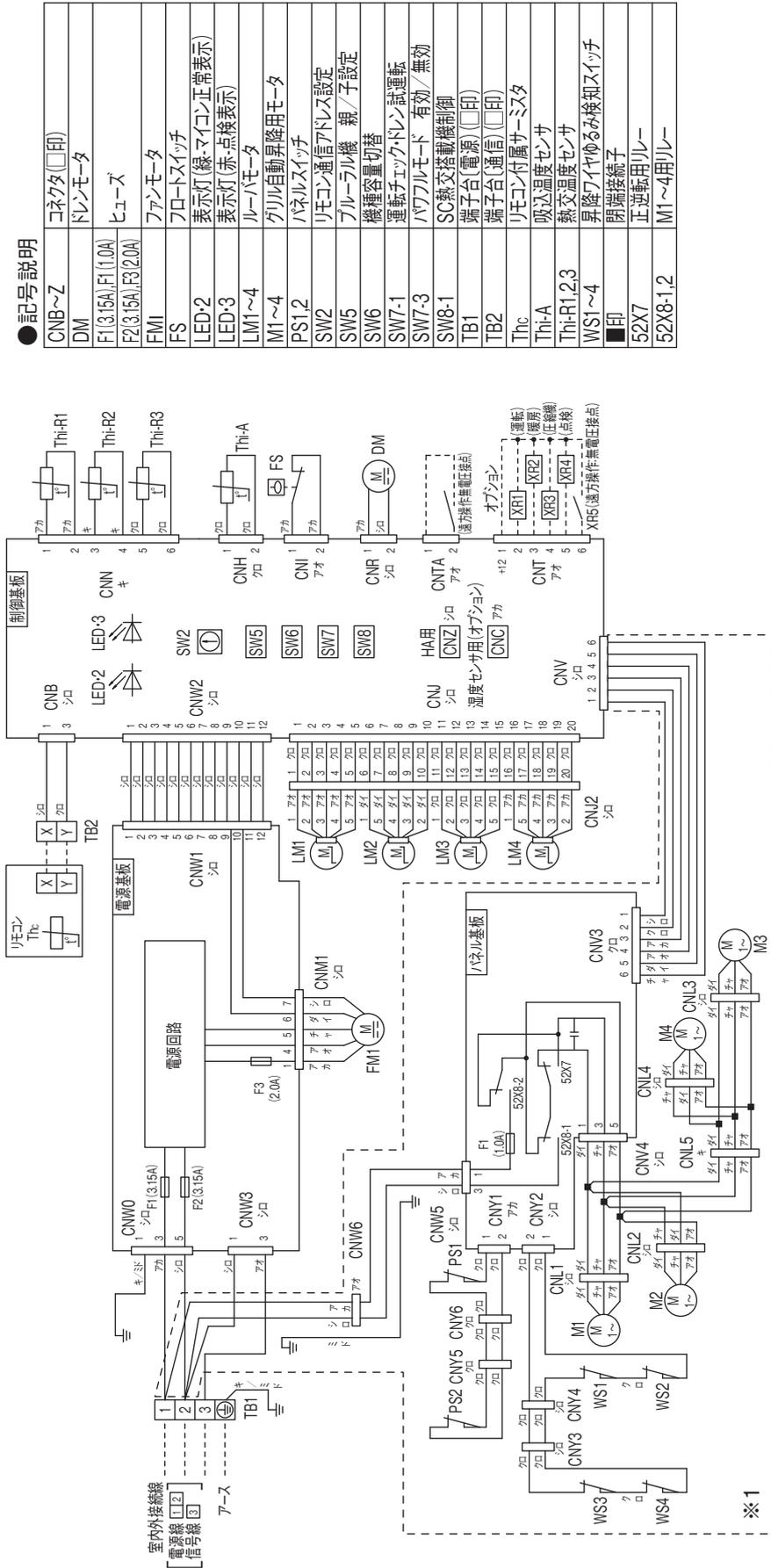
パネル表示部	内容
緑の点灯	お掃除運転中
黄の点灯	ダスト回収表示
緑の連続点滅	通信異常
緑の1回点滅	位置検知不能
緑の2回点滅	作動不良
緑の3回点滅	誤検知
緑の4回点滅	パネルSW作動

バックアップSW	
ON時間	制御内容
3秒未満	エアフィルタ清掃開始
3~6秒	ブラジ清掃開始
6秒以上	表示消灯

(b) 天井埋込形 2 方向吹出し (FDTWZ)

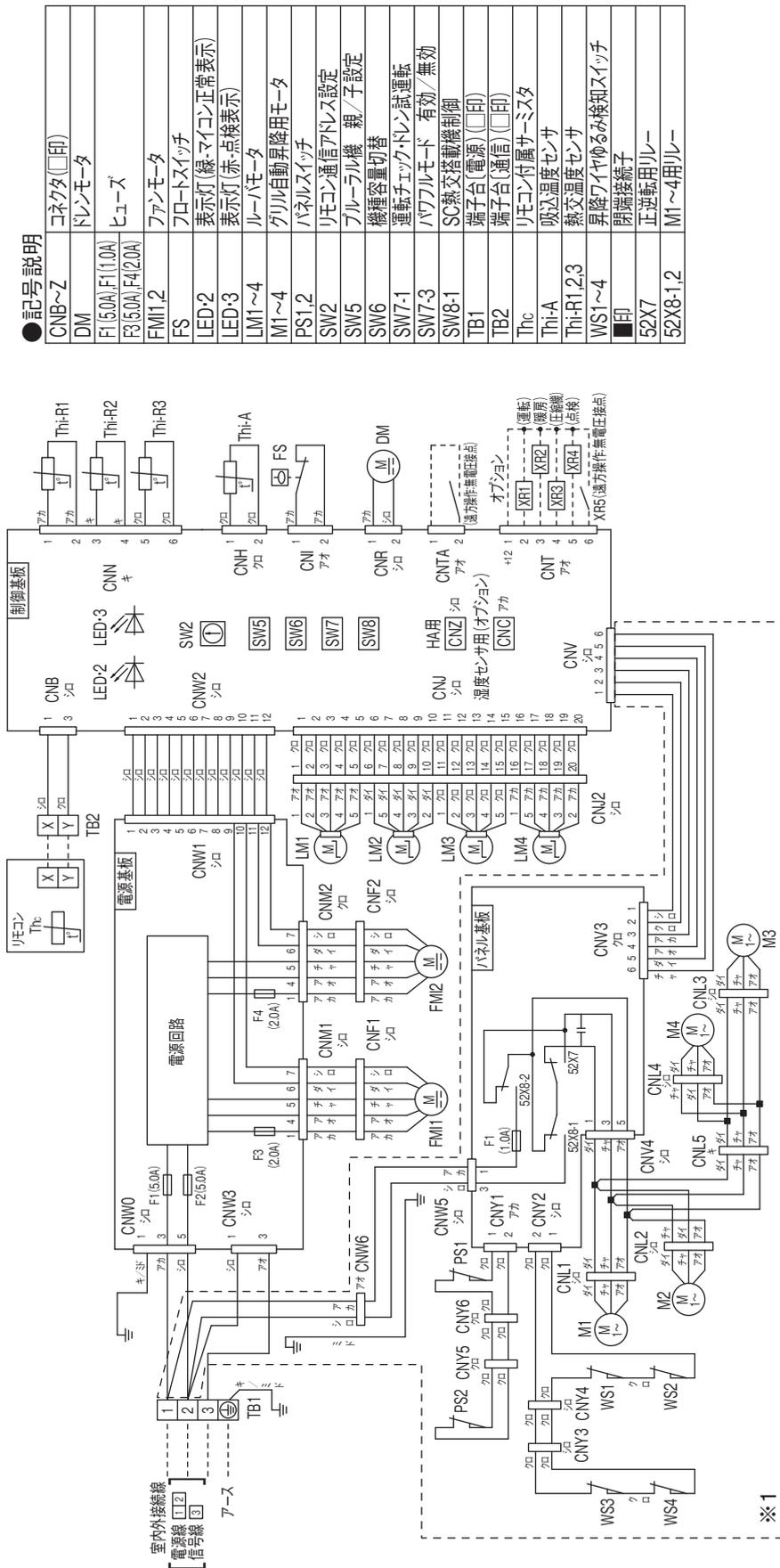
FDTWZVP804B



- 記事 1. --- は現地配線を示します。  
 2. TB1は強電用端子台(室内外接続線), TB2は弱電用端子台(リモコン線)です。  
 3. 室内外接続線は, 室外ユニットの電気配線図をご覧ください。  
 4. リモコン配線は0.3mm<sup>2</sup>×2心を使用してください。  
 5. リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。  
 6. ラクリーナパネルを使用しない場合は※1箇所のパネル基板および配線はありません。

PJB001Z787  
 PJB001Z791

FDTWZVP1124B, 1404B, 1604B



記事1. ---は現地配線を示します。

2. TB1は強電用端子台(室内外接続線), TB2は弱電用端子台(リモコン線)です。

3. 室内外接続線は, 室外ユニットの電気配線図をご覧ください。

4. リモコン配線は0.3mm<sup>2</sup>×2心を使用してください。

5. リモコン配線は電源線や他の動力線と並列しない場合があります。

6. ラクラーパネルを使用しない場合は※1箇所のパネル基板および配線はありません。

●記号説明

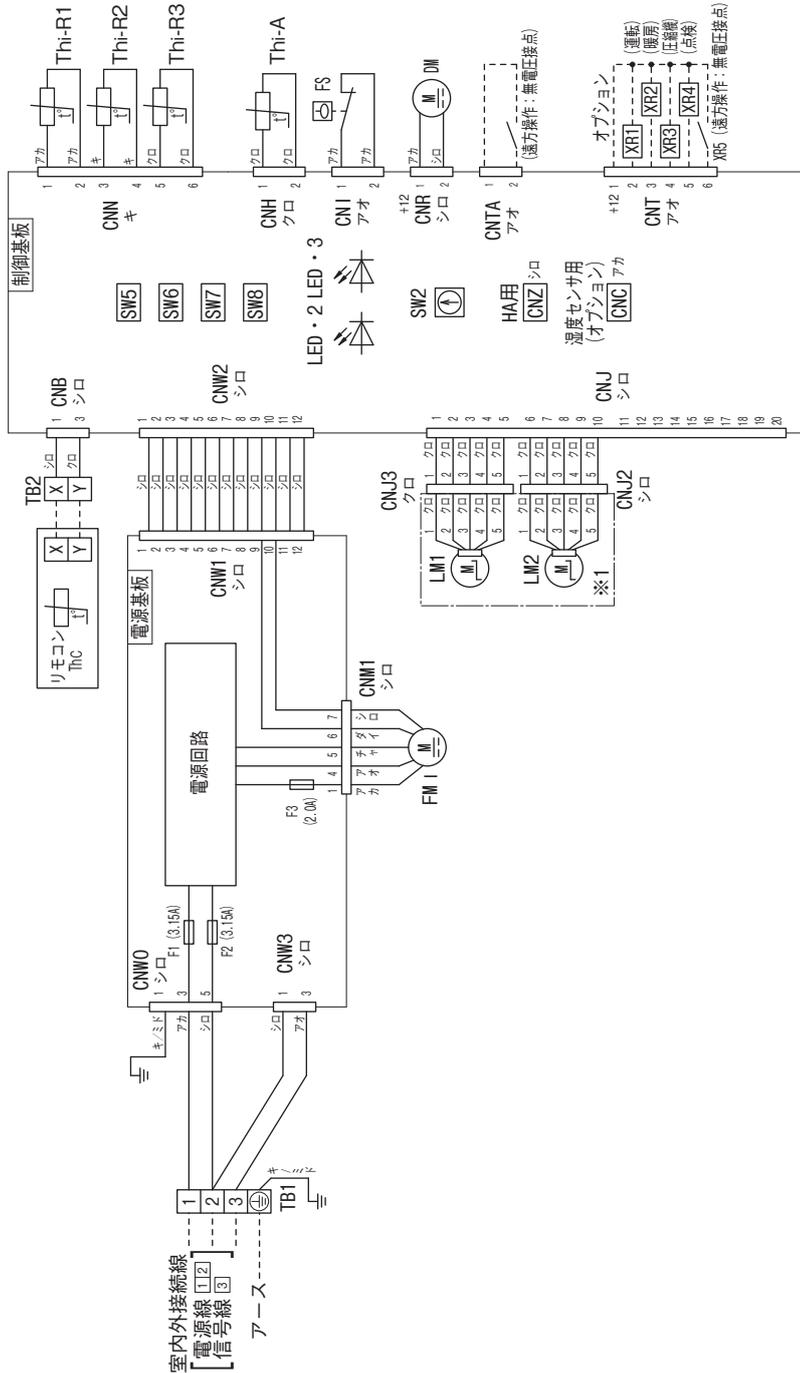
CNB~Z	コネクタ (□印)
DM	ドレンモータ
F1(5.0A), F1(1.0A)	ヒューズ
F3(5.0A), F4(2.0A)	ファンモータ
FM1, 2	フロートスイッチ
FS	表示灯 (緑・マイコン正常表示)
LED-2	表示灯 (赤・点検表示)
LED-3	表示灯 (赤・点検表示)
LM1~4	リモコン通信アドレッシング
LM1~4	リモコン通信アドレッシング
MI1~4	リモコン通信アドレッシング
PS1, 2	リモコン通信アドレッシング
SW2	リモコン通信アドレッシング
SW5	リモコン通信アドレッシング
SW6	リモコン通信アドレッシング
SW7-1	リモコン通信アドレッシング
SW7-3	リモコン通信アドレッシング
SW8-1	リモコン通信アドレッシング
TB1	端子台 (電源) (□印)
TB2	端子台 (通信) (□印)
Thc	リモコン付属サーモスタ
Thi-A	吸込温度センサ
Thi-R1, 2, 3	昇降ワイヤゆるみ検知スイッチ
WS1~4	閉路接線子
52X7	正逆転用リレー
52X8-1, 2	M1~4用リレー

PJB001Z788  
PJB001Z792

(c) 天井埋込形 1 方向吹出し (FDTSZ)

●記号説明

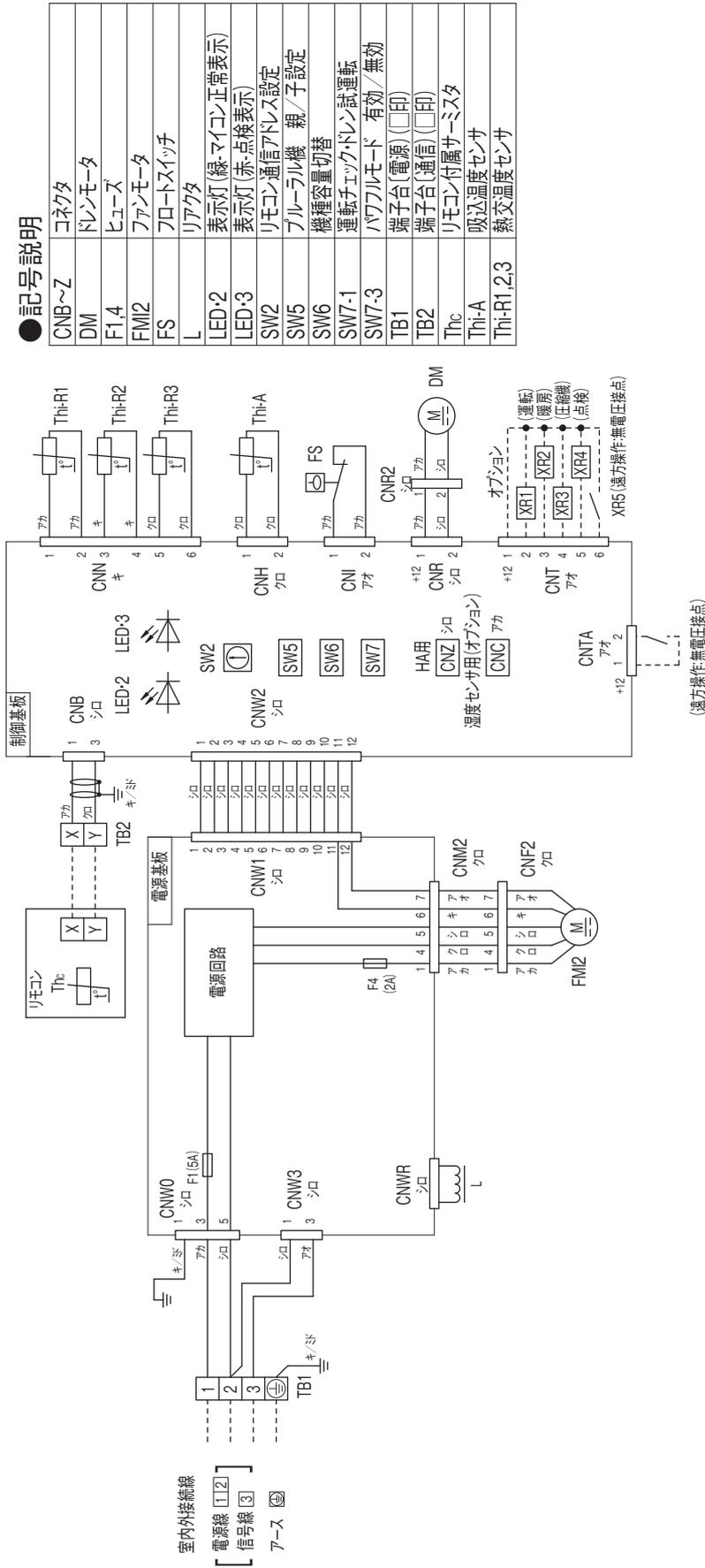
CNB~Z	コネクタ (□印)
DM	ドレンモータ
F1~3	ヒューズ
FM1	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
LED・2	表示灯 (緑=マイコン正常表示)
LED・3	表示灯 (赤=点検表示)
LM1,2	ルーバモータ
SW2	リモコン通信アドレス設定
SW5	ブルーラル機 親/子設定
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チャエック・ドレン試運転
SW7-3	パワーフルモード 有効/無効
SW8-1	SC熱交換搭載機制御
TB1	端子台 (電源) (□印)
TB2	端子台 (通信) (□印)
Thc	リモコン付属サーミスタ
Thi-A	吸込温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ



- 記事 1. -----は現地配線を示します。  
 2. TB1は強電用端子台 (室内外接続線), TB2は弱電用端子台 (リモコン線) です。  
 3. 室内外接続線は、室外ユニット配線図をご覧ください。  
 4. リモコン配線は0.3mm<sup>2</sup> X2/心を使用してください。  
 5. リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。  
 6. 下がり天井設置仕様では、※1箇所はありません。

PJC001Z404  
 PJC001Z406

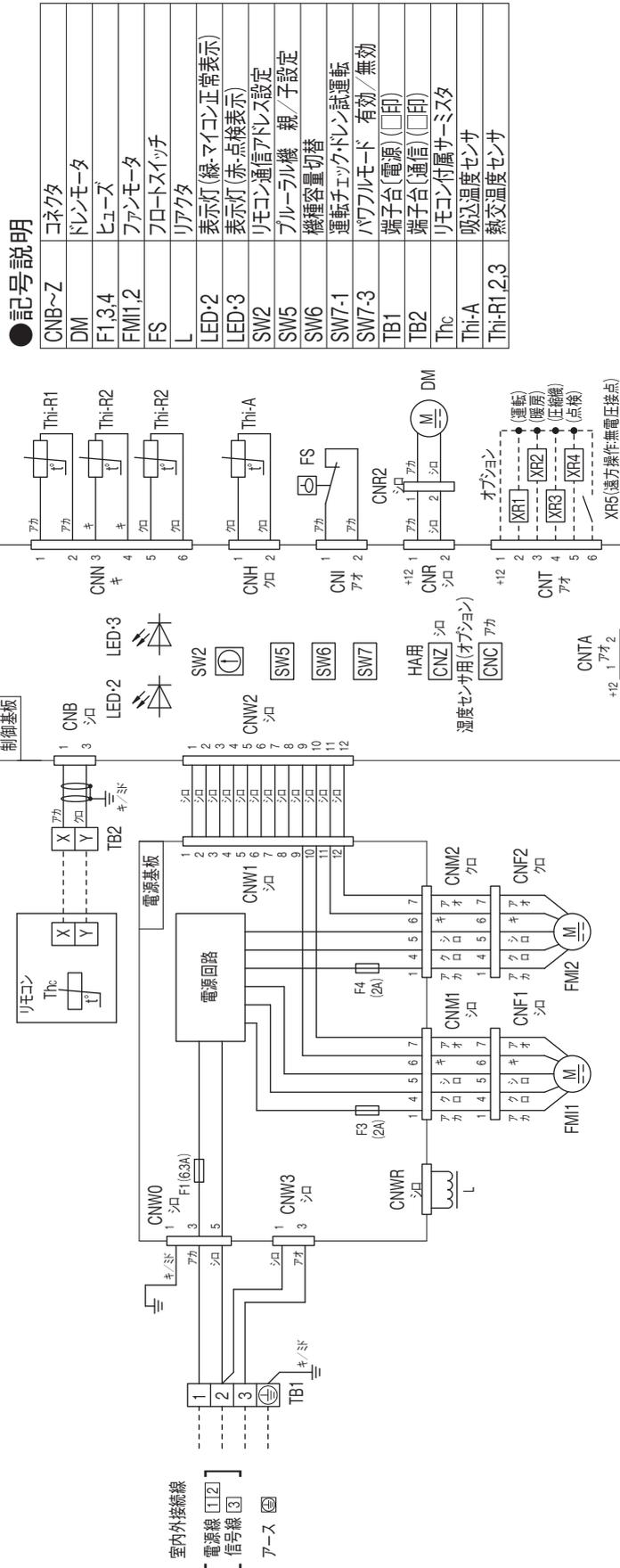
(d) 天埋カセテリア (FDRZ)



●記号説明

CNB~Z	コネクタ
DM	ドレンモータ
F1,4	ヒューズ
FIM2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
L	リアクタ
LED-2	表示灯 (緑・マイコン正常表示)
LED-3	表示灯 (赤・点検表示)
SW2	リモコン通信アドレス設定
SW5	フルフル機 親/子設定
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転子エック・ドレン試運転
SW7-3	パワフルモード 有効/無効
TB1	端子台 (電源) (□印)
TB2	端子台 (通信) (□印)
Thc	リモコン付属サーミスタ
Thi-A	吸込温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交換温度センサ

- 記事 1. -----は現地配線を示します。  
 2. TB1は強電用端子台 (室内外接続線)、TB2は弱電用端子台 (リモコン線) です。  
 3. 室内外接続線は、室外ユニット配線図をご覧ください。  
 4. リモコン配線は0.3mm<sup>2</sup> X2心を使用してください。  
 5. リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。

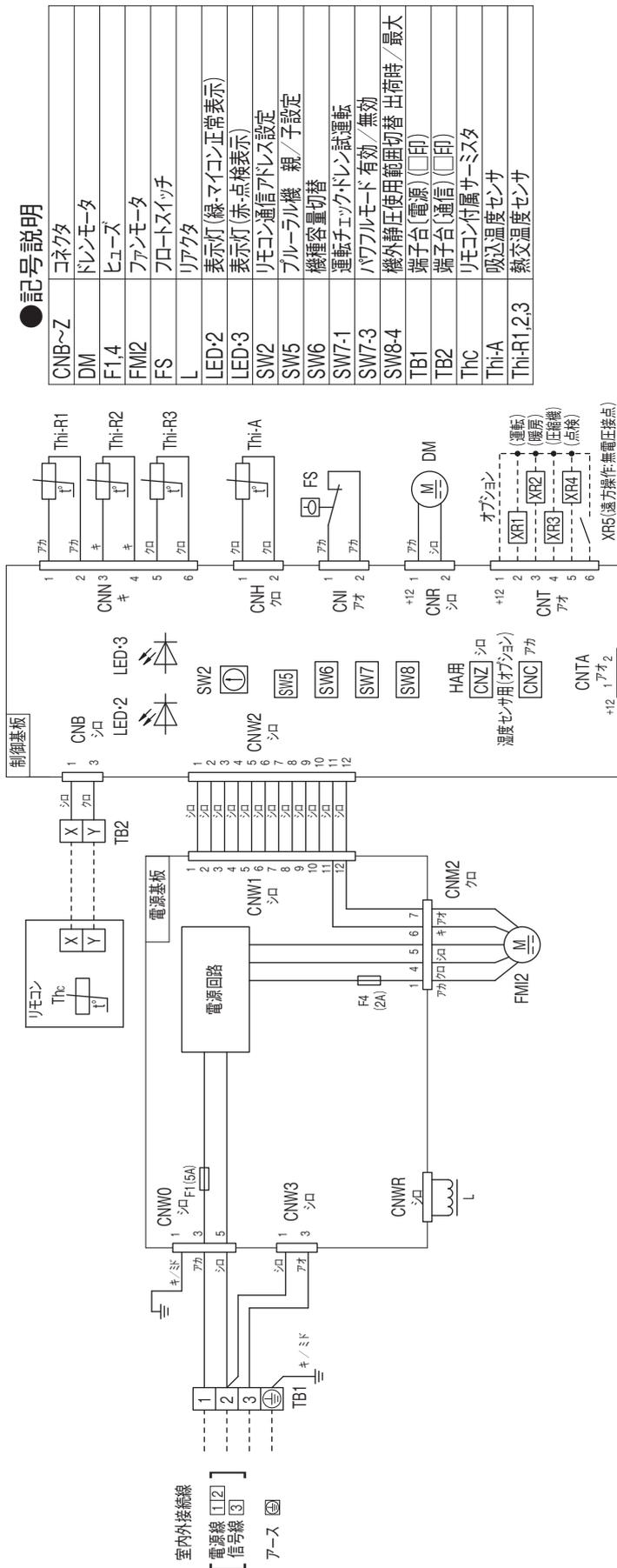


●記号説明

CNB~Z	コネクタ
DM	ドレンモータ
F1,3,4	ヒューズ
FMI1,2	ファンモータ
FS	フロントスイッチ
L	リアクタ
LED-2	表示灯 (緑・マイコン正常表示)
LED-3	表示灯 (赤・点検表示)
SW2	リモコン通信アドレス設定
SW5	フルール機 親/子設定
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転子エック・ドレン試運転
SW7-3	パワフルモード 有効/無効
TB1	端子台 (電源) (□印)
TB2	端子台 (通信) (□印)
Thc	リモコン付属サーミスタ
Thi-A	吸込温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ

- 記事 1. ----は現地配線を示します。  
 2. TB1は強電用端子台 (室内外接続線)、TB2は弱電用端子台 (リモコン線) です。  
 3. 室内外接続線は、室外ユニット配線図をご覧ください。  
 4. リモコン配線は0.3mm<sup>2</sup> X2心を使用してください。  
 5. リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。

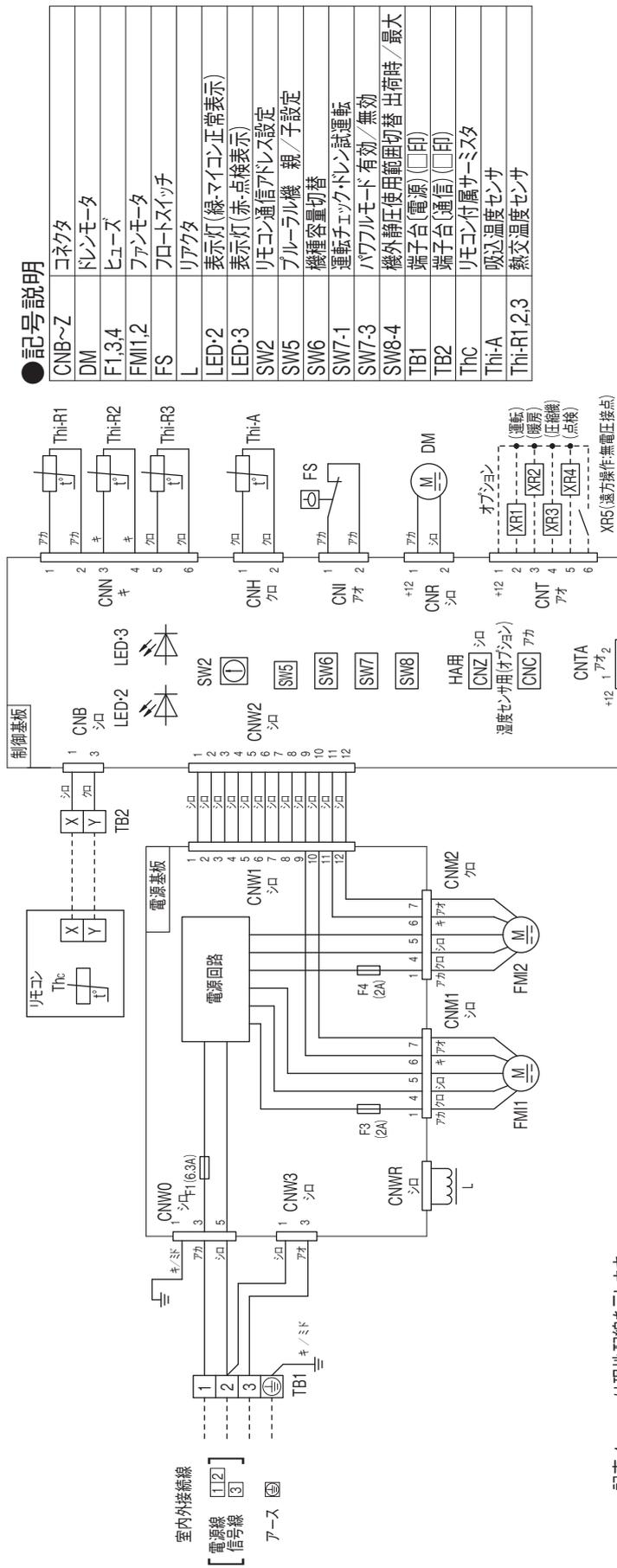
(e) 高静圧ダクト形 (FDUZ)



● 記号説明

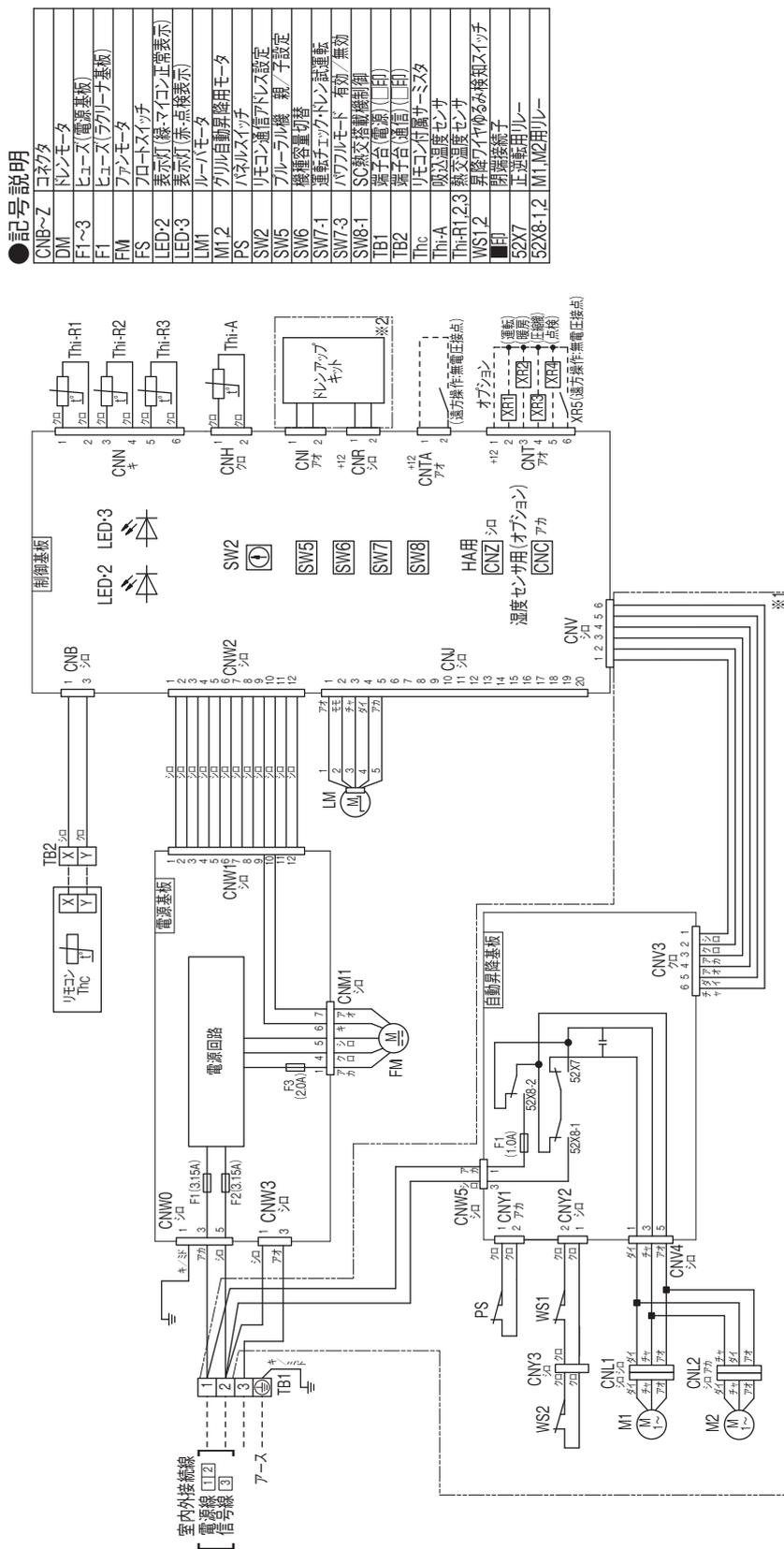
CNB~Z	コネクタ
DM	ドレンモータ
F1,4	ヒューズ
FM2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
L	リアクタ
LED-2	表示灯 (緑・マイコン正常表示)
LED-3	表示灯 (赤・点検表示)
SW2	リモコン通信アドレス設定
SW5	ブルーアル機 親 / 子設定
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転子エクトドレン試験運転
SW7-3	パワフルモード有効 / 無効
SW8-4	機外静圧使用範囲切替 出荷時 / 最大
TB1	端子台 (電源) (□印)
TB2	端子台 (通信) (□印)
Thc	リモコン付属サーミスタ
Thi-A	吸込温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ

- 記事 1. ----- は現地配線を示します。  
 2. TB1は強電用端子台 (室内外接続線)、TB2は弱電用端子台 (リモコン線) です。  
 3. 室内外接続線は、室外ユニット配線図をご覧ください。  
 4. リモコン配線は0.3mm<sup>2</sup> X2心を使用してください。  
 5. リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。



- 記事 1. -----は現地配線を示します。  
 2.TB1は強電用端子台(室内外接続線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線)です。  
 3.室内外接続線は、室外ユニット配線図をご覧ください。  
 4.リモコン配線は0.3mm<sup>2</sup> X2心を使用してください。  
 5.リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。

(f) 天吊形 (FDEZ)

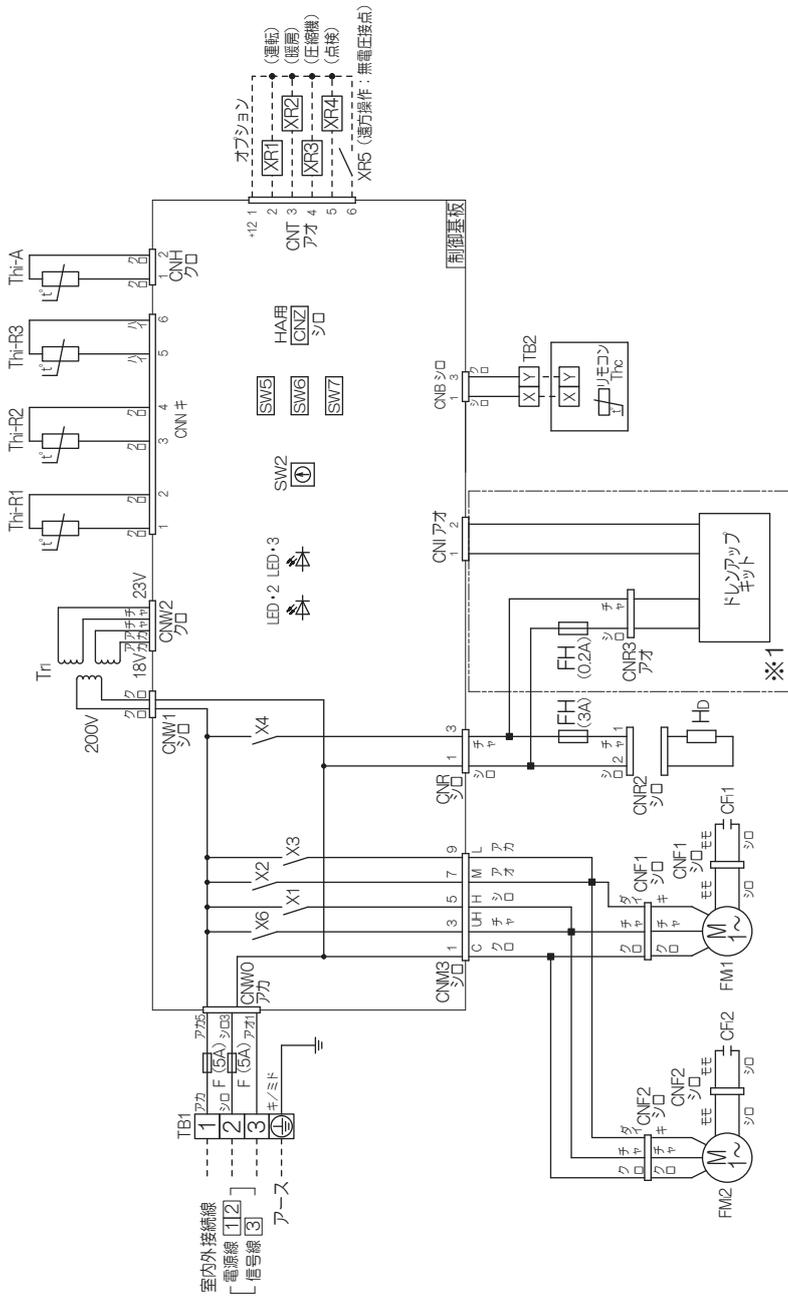


- 記事 1. --- は現地配線を示します。  
 2. TB1は強電用端子台(室内外接続線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線)です。  
 3. 室内外接続線は、室外機配線図をご覧ください。  
 4. リモコン配線は0.3mm<sup>2</sup>X2心を使用してください。  
 5. リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。  
 6. 2点鎖線内(※1印)の回路は自動昇降(オプシオン)無しの場合配線されていません。  
 7. 2点鎖線内(※2印)の回路はドレンアップキット(オプシオン)無しの場合配線されていません。

(g) 天吊耐油形 (FDESZ)

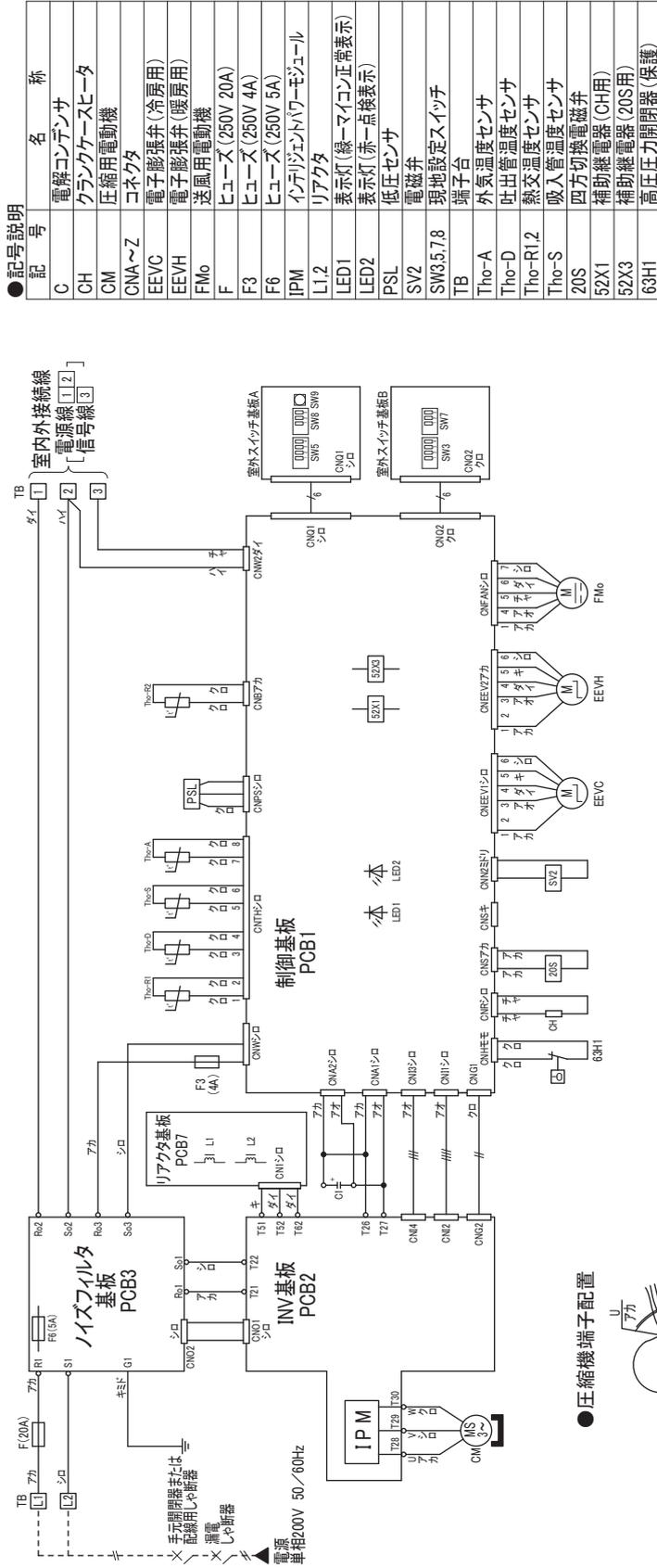
●記号説明

記号	名称
CF1,2	FM用コンデンサ
CNB~Z	コネクタ
F	ヒューズ
FH	電流ヒューズ
FMI1,2	ファンモータ (サーモ付)
Hd	結露防止ヒータ
LED・2	表示灯 (緑・マイコン正常表示)
LED・3	表示灯 (赤・点検表示)
SW2	リモコン通信アドレス設定
SW5	ブルーラル機 親/子設定
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
TB1	端子台 (電源) (口印)
TB2	端子台 (通信) (口印)
Thc	リモコン付属サーミスタ
Th-A	吸込温度センサ
Th-R1,2,3	熱交温度センサ
Tr	トランス
X1~3/6	FM用リレー
X4	結露防止ヒータ用リレー
■印	閉端接続子



- 記事 1. ---は現地配線を示します。  
 2. TB1は強電用端子台 (室内外接続線)、TB2は弱電用端子台 (リモコン線) です。  
 3. 室内外接続線は、室外機配線図をご覧ください。  
 4. リモコン配線は0.3mm<sup>2</sup>X2心を使用してください。  
 5. リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。  
 6. 2点鎖線内 (※1印) の回路はドレンアップキット (オフション) 無しの場合配線されていません。

(2) 室外ユニット



●記号説明

記号	名称
C	電解コンデンサ
CH	クラックケースヒータ
CM	圧縮用電動機
CNA~Z	コネクタ
EEVC	電子膨張弁(冷房用)
EEVH	電子膨張弁(暖房用)
FMo	送風用電動機
F	ヒューズ(250V 20A)
F3	ヒューズ(250V 4A)
F6	ヒューズ(250V 5A)
IPM	インテリジェントパワーモジュール
L1,2	リアクタ
LED1	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED2	表示灯(赤-点検表示)
PSL	低圧センサ
SV2	電磁弁
SW3,5,7,8	現地設定スイッチ
TB	端子台
Tho-A	外気温度センサ
Tho-D	吐出管温度センサ
Tho-R1,2	熱交温度センサ
Tho-S	吸入管温度センサ
20S	四方切換電磁弁
52X1	補助電器(CH用)
52X3	補助電器(20S用)
63H1	高圧圧力開閉器(保護)

漏電遮断器定格電流	手元開閉器 開閉器容量 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線		内外接続線	
			太さX本数	こう長	太さX本数	ねじ
30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	3.5mm <sup>2</sup> ×2	19m	φ 1.6×3	M5

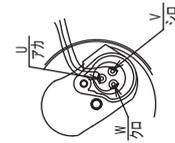
室内ユニットがFDRZ, FDUZの場合

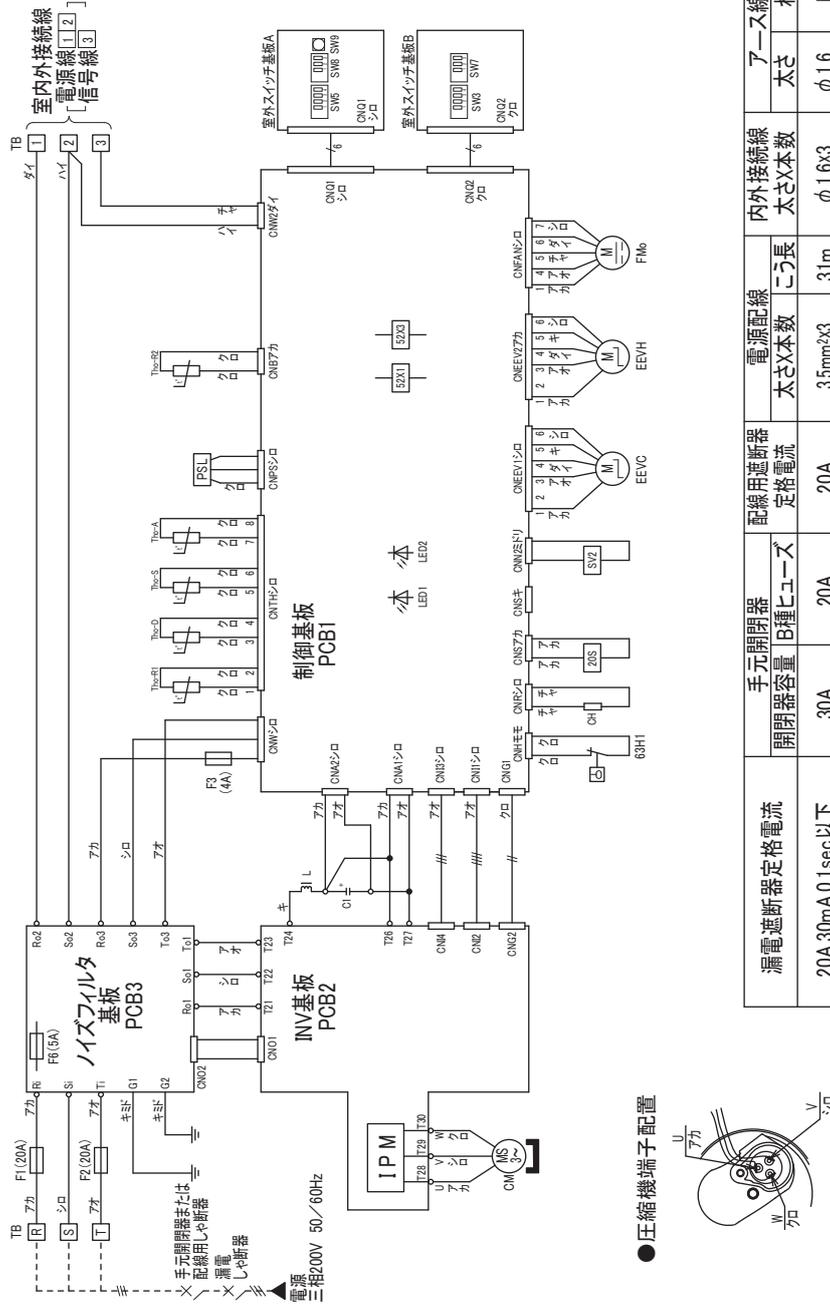
漏電遮断器定格電流	手元開閉器 開閉器容量 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線		内外接続線	
			太さX本数	こう長	太さX本数	ねじ
30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	3.5mm <sup>2</sup> ×2	17m	φ 1.6×3	M5

注(1) 配線仕様は、金属管または合成樹脂管配線で、管内に3本以下で電圧降下2%とした場合を示します。

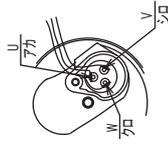
- (2) 室内外接続線は、総長70mまでとしてください。
- ・室内外接続線は、3心ケーブルを使用してください。
  - ・太さはφ 1.6mm以上(2mm<sup>2</sup>以上)です。

●圧縮機端子配置





●圧縮機端子配置



●記号説明

記号	名称
C	電解コンデンサ
CH	クランクケースヒータ
CM	圧縮用電動機
CNA~Z	コネクタ
EEVC	電子膨張弁(冷房用)
EEVH	電子膨張弁(暖房用)
FMo	送風用電動機
F1.2	ヒューズ(250V 20A)
F3	ヒューズ(250V 4A)
F6	ヒューズ(250V 5A)
IPM	インテリジェントパワーモジュール
L	リアクタ
LED1	表示灯(緑=マイコン正常表示)
LED2	表示灯(赤=一点検表示)
PSL	低圧センサ
SV2	電磁弁
SW3,5,7,8	現地設定スイッチ
TB	端子台
Tho-A	外気温度センサ
Tho-D	吐出管温度センサ
Tho-R1,2	熱交温度センサ
Tho-S	吸入管温度センサ
20S	四方切換電磁弁
52X1	補助継電器(CH用)
52X3	補助継電器(20S用)
63H1	高圧力開閉器(保護)

漏電遮断器定格電流	手元開閉器		配線用遮断器 定格電流	電源配線		内外接続線	
	開閉器容量	B種ヒューズ		太さX本数	こう長	太さX本数	ねじ
20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	3.5mm <sup>2</sup> ×3	31m	φ1.6×3	M5

室内ユニットがFDRZ, FDUZの場合

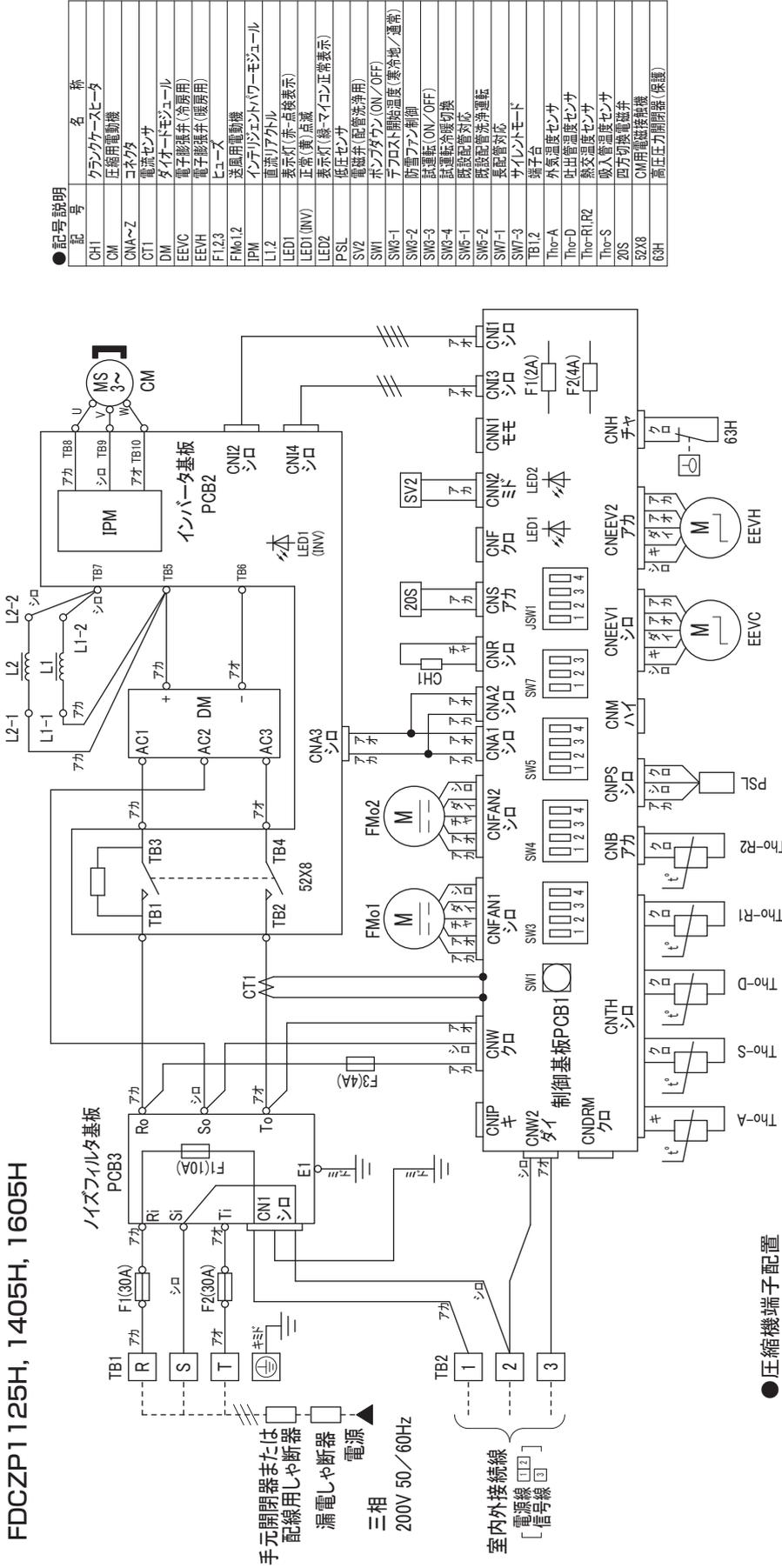
漏電遮断器定格電流	手元開閉器		配線用遮断器 定格電流	電源配線		内外接続線	
	開閉器容量	B種ヒューズ		太さX本数	こう長	太さX本数	ねじ
20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	3.5mm <sup>2</sup> ×3	27m	φ1.6×3	M5

注(1) 配線仕様は、金属管または合成樹脂管配線で、管内に3本以下で電圧降下2%とした場合を  
示します。

(2) 室内外接続線は、総長70mまでとしてください。

- ・室内外接続線は、3心ケーブルを使用してください。
- ・太さはφ1.6mm以上(2mm<sup>2</sup>以上)です。

FDCZP1125H, 1405H, 1605H



● 圧縮機端子配置



● 記号説明

記号	名称
CH1	クランケースヒータ
CM	圧縮機電動機
CNA~Z	コネクタ
CT1	電流センサ
DM	タイマーモジュール
EEVC	電子膨張弁(冷房用)
EEVH	電子膨張弁(暖房用)
F1,2,3	ヒューズ
FMo1,2	送風用電動機
IPM	インバータパワーモジュール
LI,2	直流リアクトル
LED1	表示灯(赤点滅表示)
LED1(INV)	正流(黄)点滅
LED2	表示灯(緑・マイコン正常表示)
PSL	電圧センサ
SV2	電磁弁(配管洗浄用)
SW1	ポンプダウン(ON/OFF)
SW6-1	アフロスト開始温度(寒冷地/通常)
SW6-2	防霜ファン制御
SW6-3	送風機(ON/OFF)
SW6-4	送風機冷風機切替
SW6-1	既設配管対応
SW6-2	既設配管洗浄運転
SW6-1	長距離対応
SW7-3	サインモード
端子台	端子台
Ther-A	外気温度センサ
Ther-D	吐出温度センサ
Ther-S	熱交換温度センサ
Ther-S	吸入温度センサ
20S	四方切換電磁弁
52X8	CM用電磁接触機
63H	高圧圧力開閉器(保護)

機種	漏電遮断器定格電流	手元開閉器 開閉器容量 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線 太さ X 本数 こう長	内外接続線 太さ X 本数	アース線 太さ
FDCZP1125H	30A, 30mA, 0.1sec以下	30A	30A	5.5mm <sup>2</sup> ×3 23m	φ1.6×3 (70mまで) 3.5mm <sup>2</sup> ×3 (120mまで)	φ1.6 M5
FDCZP1405H	40A, 100mA, 0.1sec以下	60A	40A	5.5mm <sup>2</sup> ×3 21m <sup>(1)</sup>	φ1.6×3 (70mまで) 3.5mm <sup>2</sup> ×3 (120mまで)	φ2.0 M5
FDCZP1605H						

注(1) 配線仕様は、金属管または合成樹脂配線で、管内に3本以下で電圧降下2%とした場合を示します。

(2) 室内内外接続線は、総長100mまでとさせていただきます。

・室内内外接続線は、3心ケーブルを使用してください。

・太さはφ1.6mm以上(2mm<sup>2</sup>以上)です。

室内ユニットがFDRZ, FDUZの場合

機種	漏電遮断器定格電流	手元開閉器 開閉器容量 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線 太さ X 本数 こう長	内外接続線 太さ X 本数	アース線 太さ
FDCZP1125H	40A, 100mA, 0.1sec以下	60A	40A	5.5mm <sup>2</sup> ×3 21m <sup>(1)</sup>	φ1.6×3 (70mまで) 3.5mm <sup>2</sup> ×3 (120mまで)	φ2.0 M5
FDCZP1405H						
FDCZP1605H						

注(1) 室内ユニットFDRZVP1604B組合せの場合は20mになります。

# 10. 電源・配線仕様

(電気特性についてはそれぞれの形式の仕様をご覧ください。)

## ヒータレス冷暖房機

### ■単相200V機

《標準仕様》

形式	項目 (単位)	電源容量 (KVA)	漏電しゃ断器 定格容量	開閉器		配線用しゃ断器 定格電流	電源配線用		内外接続線 太さ×本数	アース線	
				開閉器容量(A)	B種ヒューズ(A)		太さ×本数	こう長		太さ	ねじ
80 シ リ ス	FDTZ805HK5S 室内:FDTZP805 室外:FDCZP805HK	2.0	30A, 30mA, 0.1sec以下	30	30	30	□3.5mm <sup>2</sup> ×2	19m	φ1.6mm×3	φ1.6mm	M5
	FDTWZ805HK4B 室内:FDTWZVP804B 室外:FDCZP805HK	2.7									
	FDTSZ805HK4B 室内:FDTSZVP804B 室外:FDCZP805HK	2.4									
	FDRZ805HK4B 室内:FDRZVP804B 室外:FDCZP805HK	2.5									
	FDUZ805HK4B 室内:FDUZVP804B 室外:FDCZP805HK	2.3									
	FDEZ805HK4B 室内:FDEZVP804B 室外:FDCZP805HK	2.2									
	FDESZ805HK4B 室内:FDESZVP804B 室外:FDCZP805HK	19m									

### ■三相200V機

《標準仕様》

形式	項目 (単位)	電源容量 (KVA)	漏電しゃ断器 定格容量	開閉器		配線用しゃ断器 定格電流	電源配線用		内外接続線 太さ×本数	アース線	
				開閉器容量(A)	B種ヒューズ(A)		太さ×本数	こう長		太さ	ねじ
80 シ リ ス	FDTZ805H5S 室内:FDTZP805 室外:FDCZP805H	2.2	20A, 30mA, 0.1sec以下	30	20	20	□3.5mm <sup>2</sup> ×3	31m	φ1.6mm×3	φ1.6mm	M5
	FDTWZ805H4B 室内:FDTWZVP804B 室外:FDCZP805H	2.9									
	FDTSZ805H4B 室内:FDTSZVP804B 室外:FDCZP805H	2.6									
	FDRZ805H4B 室内:FDRZVP804B 室外:FDCZP805H	2.5									
	FDUZ805H4B 室内:FDUZVP804B 室外:FDCZP805H	2.4									
	FDEZ805H4B 室内:FDEZVP804B 室外:FDCZP805H	31m									

【備考】 共通

- (1) 配線こう長は電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を超える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
- (2) シングル機を複数台制御する時は、電源容量は形式毎の容量の加算値としてください。

### ■三相200V機

《標準仕様》

項目 (単位) 形式	電源容量 (KVA)	漏電しゃ断器 定格容量	開閉器		配線用しゃ断器 定格電流	電源配線用		内外接続線 太さ×本数	アース線		
			開閉器容量(A)	B種ヒューズ(A)		太さ×本数	こう長		太さ	ねじ	
112 シリーズ	FDTZ1125H5S 室内:FDTZP1605S 室外:FDCZP1125H	3.0	30A, 30mA, 0.1sec以下	30	30	□5.5mm <sup>2</sup> ×3	23m	φ1.6mm×3 (70mまで) □3.5mm <sup>2</sup> ×3 (120mまで)	φ1.6mm	M5	
	FDTWZ1125H4B 室内:FDTWZVP1124B 室外:FDCZP1125H	3.4									
	FDRZ1125H4B 室内:FDRZVP1124B 室外:FDCZP1125H	3.5	40A, 100mA, 0.1sec以下	60	40		40		21m		φ2.0mm
	FDUZ1125H4B 室内:FDUZVP1124B 室外:FDCZP1125H								23m		φ1.6mm
	FDEZ1125H4B 室内:FDEZVP1124B 室外:FDCZP1125H										
140 シリーズ	FDTZ1405H5S 室内:FDTZP1605S 室外:FDCZP1405H	4.2	30A, 30mA, 0.1sec以下	30	30	□5.5mm <sup>2</sup> ×3	23m	φ1.6mm×3 (70mまで) □3.5mm <sup>2</sup> ×3 (120mまで)	φ1.6mm	M5	
	FDTWZ1405H4B 室内:FDTWZVP1404B 室外:FDCZP1405H	4.9									
	FDRZ1405H4B 室内:FDRZVP1404B 室外:FDCZP1405H	5.0	40A, 100mA, 0.1sec以下	60	40		40		21m		φ2.0mm
	FDUZ1405H4B 室内:FDUZVP1404B 室外:FDCZP1405H								23m		φ1.6mm
	FDEZ1405H4B 室内:FDEZVP1404B 室外:FDCZP1405H	4.8	30A, 30mA, 0.1sec以下	30	30		φ1.6mm				
	FDESZ1405H4B 室内:FDESZVP1404B 室外:FDCZP1405H	5.0					φ1.6mm				
160 シリーズ	FDTZ1605H5S 室内:FDTZP1605S 室外:FDCZP1605H	5.2	30A, 30mA, 0.1sec以下	30	30	□5.5mm <sup>2</sup> ×3	23m	φ1.6mm×3 (70mまで) □3.5mm <sup>2</sup> ×3 (120mまで)	φ1.6mm	M5	
	FDTWZ1605H4B 室内:FDTWZVP1604B 室外:FDCZP1605H	5.9									
	FDRZ1605H4B 室内:FDRZVP1604B 室外:FDCZP1605H	5.5	40A, 100mA, 0.1sec以下	60	40		30		20m		φ2.0mm
	FDUZ1605H4B 室内:FDUZVP1604B 室外:FDCZP1605H	5.4							21m		
	FDEZ1605H4B 室内:FDEZVP1604B 室外:FDCZP1605H	5.9							23m		φ1.6mm

〔備考〕 共通

(1) 配線こう長は電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を超える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。

(2) シングル機を複数台制御する時は、電源容量は形式毎の容量の加算値としてください。

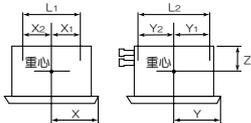
# 11. 防振設計用参考資料

## (1) 耐震データ (a) 室内ユニット

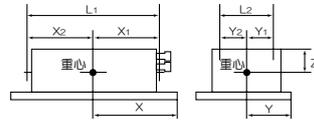
形 式	製品外形寸法 (1) 幅×奥行×高さ (mm)	(1) 製品質量 (kg)	(2) 重心位置 (mm)								
			幅方向				奥行方向				高さ Z
			X	X1	X2	L1	Y	Y1	Y2	L2	
FDTZP805S	950×950×333	29.5	465	375	395	770	490	400	370	770	135
FDTZP1605S		32									
FDTWZVP804B	1120×680×345	31.5	525	407.5	477.5	885	340	223	223	446	110
FDTWZVP1124B	1835×680×345	48	867.5	750	850	1600	340	223	223	446	105
FDTWZVP1404B											
FDTWZVP1604B											
FDTSZVP804B	1460×650×255	34	655	520	670	1190	274.5	214	304	518	110
FDRZVP804B	1240×750×368	45.4	616	449	537	986	343	257.5	214.5	472	173
FDRZVP1124B	1658×850×368	71	798	631	773	1404	405	319.5	210.5	530	167
FDRZVP1404B											
FDRZVP1604B											
FDUZVP804B	950×635×280	34	430	448	538	986	275	247	225	472	125
FDUZVP1124B	1370×738×280	54	603	621	783	1404	343	315	215	530	120
FDUZVP1404B											
FDUZVP1604B											
FDEZVP804B	1320×690×210	33	638	614	658	1272	302	185	105	290	93
FDEZVP1124B	1620×690×250	43	814	790	782	1572	334	153	137	290	110
FDEZVP1404B											
FDEZVP1604B											
FDESZVP804B	1540×695×295	66	770	788	788	1576	300	250	295	500	150
FDESZVP1404B		69									

注 (1) FDTZ・FDTWZシリーズは標準パネル装着時を示しています。  
 (2) L1 (X1, X2), L2 (Y1, Y2) 寸法は据付ボルトの位置を示します。  
 (3) FDRZシリーズはサイレント仕様を示します。

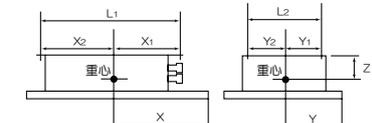
### • FDTZ



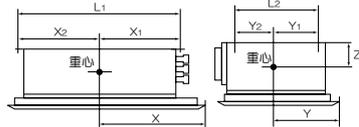
### • FDTWZ



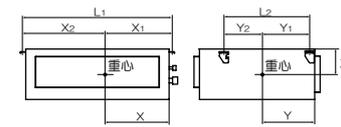
### • FDTSZ



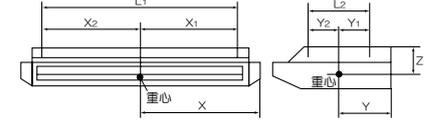
### • FDRZ



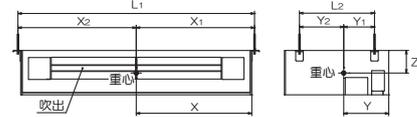
### • FDUZ



### • FDEZ



### • FDESZ

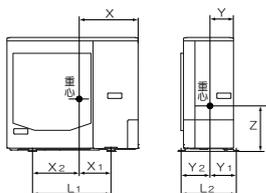


(b) 室外ユニット

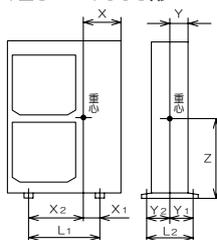
項目 形式	製品外形寸法 (1) 幅×奥行×高さ (mm)	製品質量 (kg)	重心位置 (mm) <sup>(1)</sup>								
			幅方向				奥行方向				高さ Z
			X	X <sub>1</sub>	X <sub>2</sub>	L <sub>1</sub>	Y	Y <sub>1</sub>	Y <sub>2</sub>	L <sub>2</sub>	
FDCZP805H, 805HK	970×370×845	70	382	181	399	580	187	207	203	410	382
FDCZP1125H	970×370×1505	115	385	184	396	580	191	211	199	410	668
FDCZP1405H											
FDCZP1605H											

注 (1) L<sub>1</sub> (X<sub>1</sub>, X<sub>2</sub>), L<sub>2</sub> (Y<sub>1</sub>, Y<sub>2</sub>) 寸法は据付ボルトの位置を示します。

• 805形



• 1125 ~ 1605形



(2) 防振データ

(a) 室内ユニット

(50/60Hz)

項目 形式	送風機回転数 (min <sup>-1</sup> )	項目 形式	送風機回転数 (min <sup>-1</sup> )
FDTZP805S	630	FDUZVP804B	1120
FDTZP1605S	770	FDUZVP1124B	990
FDTWZVP804B	1120	FDUZVP1404B	1020
FDTWZVP1124B	1050	FDUZVP1604B	1200
FDTWZVP1404B		FDEZVP804B	1330
FDTWZVP1604B	1080	FDEZVP1124B	1075
FDTSZVP804B	1412	FDEZVP1404B	1200
FDRZVP804B	1230	FDEZVP1604B	1250
FDRZVP1124B	1260	FDESZVP804B	1355/1560
FDRZVP1404B	1350	FDESZVP1404B	
FDRZVP1604B	1570		

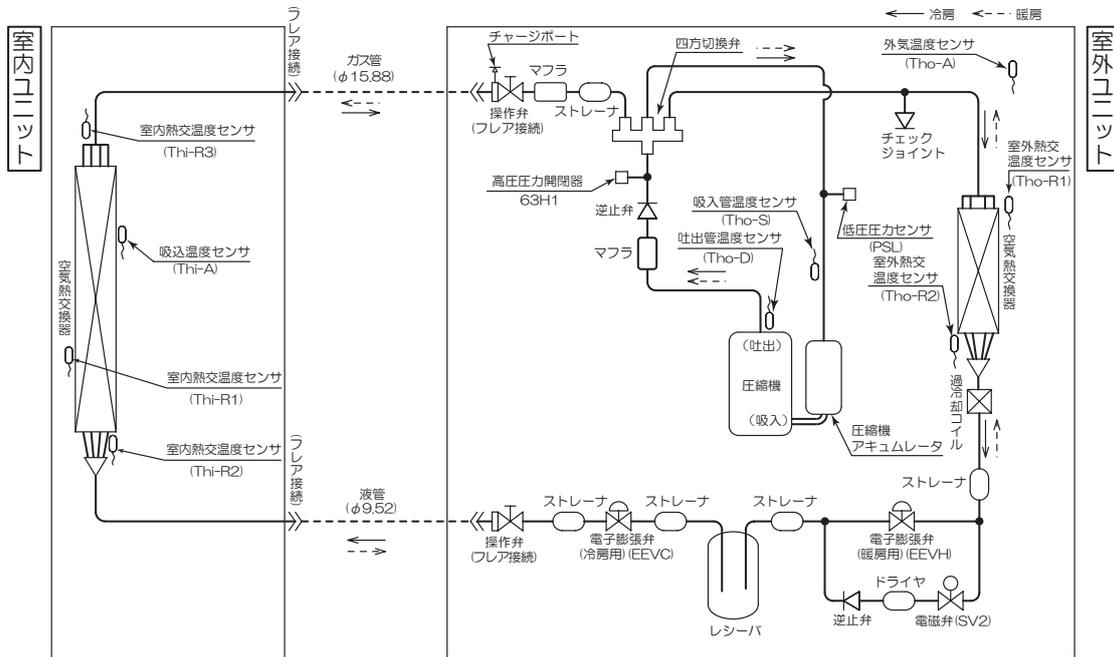
注 (1) 急運転時の数値を示します。

(b) 室外ユニット

項目 形式	圧縮機回転数 (min <sup>-1</sup> )	送風機回転数 (min <sup>-1</sup> )
FDCZP805H, 805HK	6600	750
FDCZP1125H	7200	800
FDCZP1405H	7800	800
FDCZP1605H		

注 (1) 急運転時の数値を示します。

# 12. 冷媒配管系統図



設定値一覧表(運転停止に至る代表的な設定値を示します。詳細は室内、室外コントローラによる運転制御機能をご覧ください。)

名称	形式	設定値
		全形式
室内熱交温度センサ(Thi-R)		1.0 OFF/10 ON (°C)…冷房時フロスト防止 63 OFF/56 ON (°C)…暖房時過負荷保護
室外熱交温度センサ(Tho-R)		63 OFF/51 ON (°C)…冷房時過負荷保護
吐出管温度センサ(Tho-D)		115 OFF/85 ON (°C)…吐出管温度異常上昇保護
高圧圧力開閉器(63H1)		4.15開/3.15閉(°C)…高圧保護
低圧圧力センサ(PSL)		0.079 OFF/0.227 ON (°C)…低圧保護

# 13. 据付関連事項

## (1) 室内ユニット

### (a) 天井埋込形 4 方向吹出し (FDTZ)

#### (i) 室内ユニットの据付

PJF012D031

本説明書は、室内ユニットの据付け方法を記載してあります。  
 電気配線（室内ユニット）は、274 ページをご覧ください。リモコンの取付け方法は、200 ページをご覧ください。  
 ワイヤレスキットの取付け方法は、411 ページをご覧ください。  
 室外ユニットの据付け方法、電気配線（室外ユニット）及び冷媒配管工事方法は、251 ページをご覧ください。  
 また、故障診断は、327 ページをご覧ください。  
 本室内ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。

## 安全上のご注意

- 据付け工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**△警告**、**△注意**、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**△警告**の欄にまとめて記載しています。しかし、**△注意**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。**⊘** 絶対に行わない **⚠** 必ず指示に従い行う
- 据付け工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

### ⚠警告

- |   |   |
|---|---|
| ●据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。<br>ご自分で据付け工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。                                  | ⚠ |
| ●据付け工事は、この据付説明書に従って確実に行う。<br>据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。   | ⚠ |
| ●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13)<br>限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。  | ⚠ |
| ●設置工事は必ず付属品および指定の部品を使用する。<br>当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。   | ⚠ |
| ●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。<br>冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。   | ⚠ |
| ●据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。<br>強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。   | ⚠ |
| ●台風などの強風、地震に備え、所定の据付け工事を行う。<br>据付け工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。  | ⚠ |
| ●室内ユニットの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。<br>空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。                            | ⊘ |
| ●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。<br>電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。           | ⚠ |
| ●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。<br>接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。                               | ⚠ |
| ●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。<br>カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。                         | ⚠ |
| ●据付け工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。<br>冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。                               | ⚠ |
| ●配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用を使用する。<br>既存 (R22) の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。                     | ⚠ |
| ●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。<br>フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。   | ⚠ |
| ●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。<br>室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。                 | ⊘ |
| ●据付け作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。<br>冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。     | ⚠ |
| ●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。<br>圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。 | ⚠ |
| ●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。<br>ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。                                  | ⚠ |
| ●改修は絶対に行わない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。<br>修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。  | ⊘ |
| ●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。<br>据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。   | ⚠ |
| ●エアコンの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。<br>点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。                        | ⚠ |
| ●パネルやガードを外した状態で運転しない。<br>機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。  | ⊘ |
| ●元電源を切った後に電気工事を行う。<br>感電、故障や動作不良の原因になります。   | ⚠ |

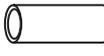
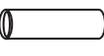
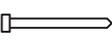
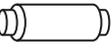
## ⚠注意

- アース（接地）を確実に行う。  
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。 ⚡
- 漏電遮断器は必ず取付ける。  
漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。 !
- 正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。  
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。 !
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。  
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。 ⊘
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。  
万一ガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。 ⊘
- 腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。  
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。 ⊘
- 工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。  
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。 !
- 洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。  
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。 ⊘
- 食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。  
保存物の品質低下などの原因になることがあります。 ⊘
- 病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。  
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。 ⊘
- 直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。  
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。 ⊘
- 次の場所への据付けは避ける。  
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所  
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所  
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）  
・高周波を発生する機械を使用する所  
・海浜地区等塩分の多い所  
・煙突の煙がかかると  
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所  
・車両・船舶等移動するものへの設置  
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所  
・積雪の多い所  
・標高1000m以上の所  
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。 ⊘
- 次の場所への室内ユニットの据付けは避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。  
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所  
・強度が不十分で振動が発生する所  
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所  
・高周波に影響される機器のある所（TVおよびラジオ等の近傍）  
・ドレンの排水がとれない所  
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。 ⊘
- 室内ユニットの下部には、濡れて困るものは置かない。  
湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。 ⊘
- 長期使用で傷んだままの据付け台を使用しない。  
傷んだ状態で放置すると室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。 ⊘
- 室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの進入を防止する。  
溶接作業時に発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。 !
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。  
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。 !
- GHP（ガスヒートポンプ）の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。  
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。 ⊘
- 冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れないことを確認してください。  
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となる場合があります。 !
- ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。  
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。 ⊘
- 冷媒配管の断熱は結露しないように確実にを行う。  
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。 !
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。  
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。  
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。 ⊘
- 製品の運搬は十分注意して行う。  
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。  
素手でフィンなどに触れるとケガをすることがありますので保護具をご使用ください。 !
- 梱包材の処理は確実にを行う。  
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。 !
- フィルタをはずしたまま運転しない。  
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。 ⊘
- 濡れた手でスイッチを操作しない。  
感電の原因になることがあります。 ⊘
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。  
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。 ⊘
- エアコンを水洗いしない。  
感電の原因になることがあります。 ⊘
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。  
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。 ⊘
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。  
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。 ⊘

## ①据付け前に

- 据付けはこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
  - 機種・電源仕様
  - 配管・配線・小物部品
  - 付属品

### 付属品

室内ユニット吊込み用		冷媒配管用			ドレン配管用				
平座金 (M10)	レベルゲージ及び平座金仮固定	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	バンド	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	ドレンホース	ホースクランプ	抗菌材
									
8個	1個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	1個	1個
吊りボルト用	室内ユニットの位置調整及び吊り込み時の補助用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付け用	ドレンパン防汚用

## ②室内ユニットの据付け場所の選定

- 据付け場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
  - ・冷風または温風が十分に行きわたる所。
  - ・据付け高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
  - ・据付け・サービス時の作業スペースが確保できる所。
  - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
  - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
  - ・侵入外気の影響のない所。
  - ・直射日光の当たらない所。
  - ・周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。

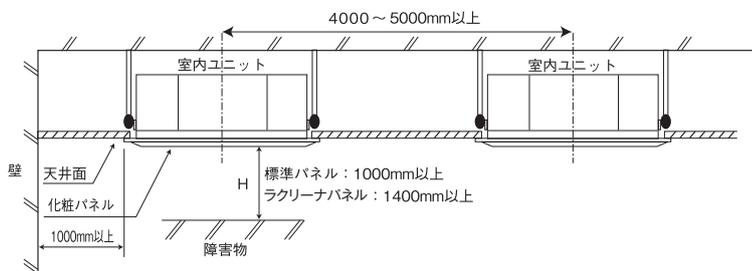
〔本室内ユニットはJIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度・高湿度・高湿度・高湿度の状態では水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10~20mmの断熱材を取付けてください。〕

  - ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
  - ・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
  - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
  - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
  - ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。

ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
- 据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付け作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
- ワイヤレス機種を2台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を6m以上離してください。
- 室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を4~5m以上離して設置してください。

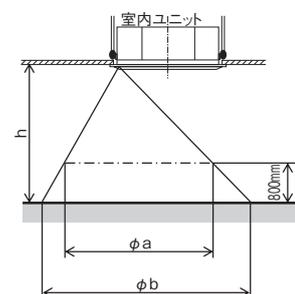
### 室内ユニット据付けスペース

- 室内ユニットー壁、室内ユニットー室内ユニット間など、間隔がとれない場合は、そちら側の吹出口を遮風しショートサーキットしないことを確認してください。
- 据付け高さは2.5m以上としてください。



埋設配管途中に配管継手がある場合は、接続箇所ので点検が可能のように点検口などを設けてください。

### 人感センサ検知範囲の目安



天井高さ	h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①	φa [m]	約 4.5	約 6.4	約 7.6
検知範囲②	φb [m]	約 6.4	約 8.3	約 9.5

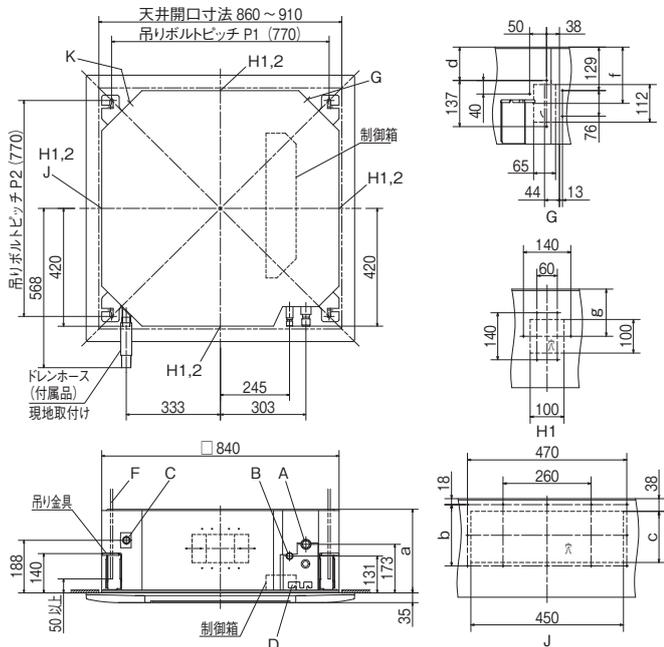
### 吹出パターンの設定

- 部屋の形や据付け位置に最適な吹出方向を4方向・3方向・2方向から選定してください。(1方向はできません。)
- 吹出口数を変更する場合は、別売の遮風材を手配してください。
- 2方向・3方向吹出の場合は風量「弱」での使用は避けてください。
- 高温・多湿環境での2方向吹出は行わないでください。(結露・水漏れの原因になります。)
- 吹出ルーバの上下位置の設定などによりさまざまな吹出パターンが設定できます。設定方法は取扱説明書をご覧ください。

### ③据付け準備

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
  - システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
    - 吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
  - 強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
    - 吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
- 吊りボルト・ナット・パネ座金（M10 or M8）を4組現地ににて手配してください。（mm）

#### 天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置



シリーズ	機種	a	b	c	d	f	g	h
店舗シリーズ	P63,P71形	236	130	100	37	105	88	139
	P80,P160形	298	182	152	99	167	140	201
ビル空調シリーズ ガスヒートポンプ シリーズ	P28~P80形	236	130	100	37	105	88	139
	P90~P160形	298	182	152	99	167	140	201

記号	内容
A	冷媒ガス側配管
B	冷媒液側配管
C	ドレン配管
D	電源取入口
F	吊りボルト
G	O A 取入口
H1 H2	吹出分岐ダクト接続口
J	加湿器接続口
K	加湿器余利水接続口

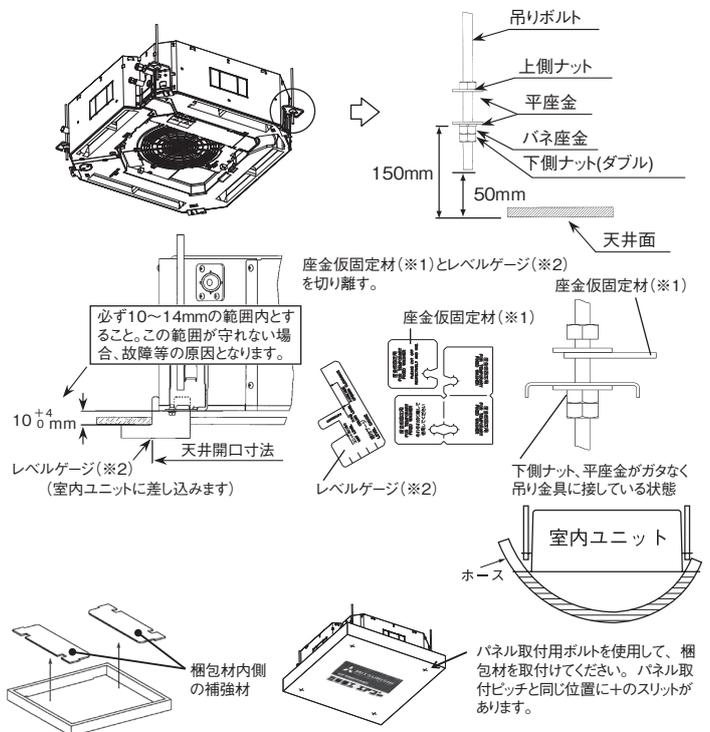
※吊りボルトピッチ P1、P2 は下表の  
パターンで調整可能です。

パターン	記号	P1	P2
1		770	725 ~ 770
2		770 ~ 800	725

### ④室内ユニットの据付け

#### 作業手順

1. 吊りボルト長さは、天井面より50mm程度としてください。
2. 吊りボルトの下側ナット(4か所)は、天井面から150mm程度に仮止めてください。
3. 吊りボルトの上側ナット(4か所)は、室内ユニット吊り込み及び高さ調整時に支障のないよう、下側ナットから十分距離を取った位置に仮止めてください。
4. 吊りボルトの上側ナットと上側座金(各4か所)を下側ナットから十分な距離をとった状態で、座金仮固定材(※1)を吊りボルトに挿しこんでください。上側座金が落下してきません。
5. 室内ユニットを吊り込んでください。
6. 室内ユニット吊り込み後、付属のレベルゲージ(※2)を室内ユニットの吹出口に取付け、室内ユニットの吊り込み高さを調整してください。高さ調整は上側ナット(4か所)を緩めた状態で、下側ナット(4か所)で調整してください。室内ユニット吊り金具(4か所)が下側ナット、平座金にガタなく接していることを確認してください。
7. 座金仮固定材(4か所全て)を外してください。
8. 室内ユニットの水平度を確認してください。水平度は水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。(室内ユニットの両端での高さ許容差は3mm以内)
9. 吊りボルトの上側ナット(4か所)を締付けてください。



#### 室内ユニットの養生

- パネルをしばらくの間取付けられない場合、または室内ユニットを据付け後に天井材を貼る場合は、梱包材(天面ダンボール)を使用して、室内ユニットを養生してください。

#### 室内ユニット据付け時のお願い

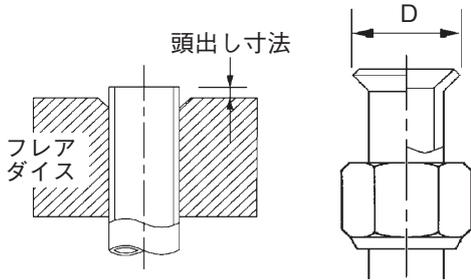
- 上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニットに無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかったり、ファン干渉音が発生することがあります。
- 室内ユニットは必ず水平に据付け、室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付けに不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
- パネルを据付け後、室内ユニット高さの微調整ができます。詳細はパネルの据付説明書をご覧ください。
- パネルと天井面、およびパネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。



## ⑤ 冷媒配管

### 冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品をご使用ください。既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書又はカタログ・技術資料で確認してください。
  - 1) 再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品を使用してください。
  - 2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。



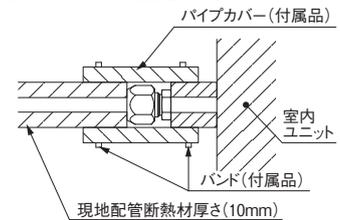
配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N・m
		リジッド (クラッチ式)			
		R32 用 R410A 用	従来ツール		
φ 6.35	0.8	0 ~ 0.5	0.7 ~ 1.3	φ8.9~φ9.1	14 ~ 18
φ 9.52	0.8			φ12.8~φ13.2	34 ~ 42
φ 12.7	0.8			φ16.2~φ16.6	49 ~ 61
φ 15.88	1			φ19.3~φ19.7	68 ~ 82
φ 19.05	1.2			φ23.6~φ24.0	100 ~ 120

- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管 (C1220T、JIS H 3300) をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- 指定冷媒以外は使用しないでください。指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具は R 3 2 用または R 4 1 0 A 用の工具を使用してください。

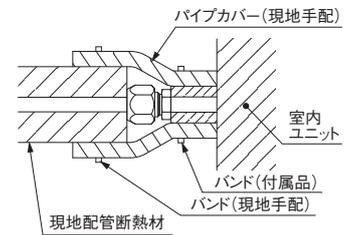
### 作業手順

1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。  
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。)
- フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)
2. 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。  
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。  
また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。  
※フレア接続は、以下のように行ってください。  
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
3. 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
  - ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。  
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
  - ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。
  - 高湿度雰囲気を使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4. 冷媒は室外ユニットに充填されています。  
室内ユニットおよび接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>



<断熱材を強化する場合>



#### 注意

同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

## ⑥ ドレン配管

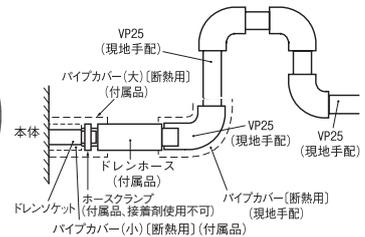
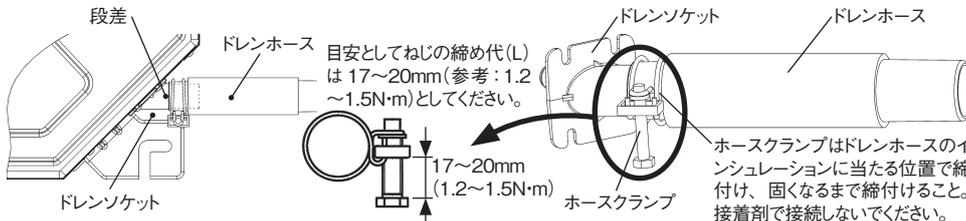
### ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
  - ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
  - 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
  - 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
  - 施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
  - ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けしないでください。
- 試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

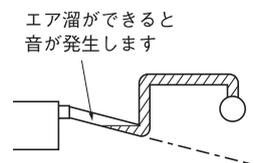
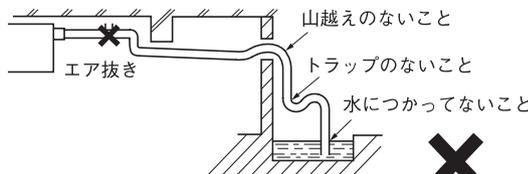
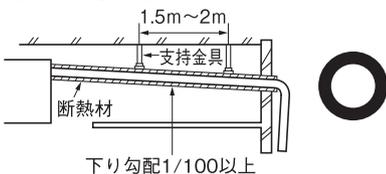
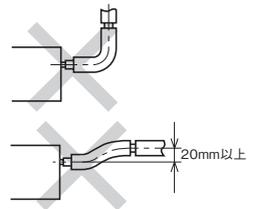
## ⑥ ドレン配管

### 作業手順

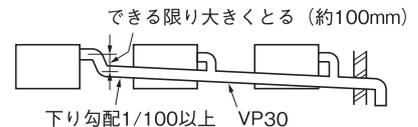
1. 付属のドレンホースの軟質側にホースクランプを通し、ソケットの段差部まで確実に挿入してください。  
その際、ホースクランプのねじが室内ユニットの外側になる位置にし、ボルトが鉛直方向になるようにしてください。  
●接着剤使用不可
2. ホースクランプはドレンホースの断熱材に接触する位置で、ねじを締付けてください。
3. ねじを数回回転させて締付けが固くなる位置まで締付け、それ以上に締付けしないでください。



4. VP25用継手やエルボー、配管(いずれも現地手配)を接続してください。  
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般VP25を使用してください。  
●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。  
乾燥後、フレキシブル部に力が加わった場合、フレキシブル部が破損することがあります。  
●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付け時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。
5. ドレン配管は下り勾配(1/100以上)としてください。不可能な場合はドレンアップしてください。  
途中山越えやトラップを作らないように施工してください。  
●ドレン配管を接続する場合に室内ユニット側の配管に力が加えないように注意して行い、できる限り室内ユニット近傍で配管を固定してください。  
●エア抜きは絶対に設けないでください。



- 複数台のドレン配管の場合、室内ユニットドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はVP30以上を使用してください。

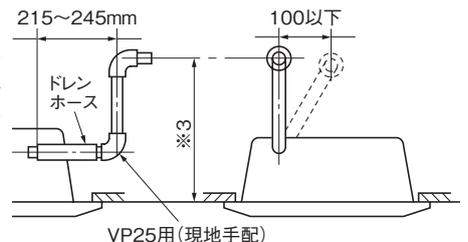


6. ドレン配管の断熱施工を行ってください。  
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。  
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

### ドレンアップする場合

- ドレン配管の出口高さは、天井面より850mmまたは960mm(※3)まで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。

※3: お掃除ラクリーナパネルの場合: 960mm以下、かつ天井に接触しない高さ以上  
お掃除ラクリーナパネル以外の場合: 850mm以下、かつ天井に接触しない高さ以上



### ドレン排水テスト

- ドレン配管工事の完了後に、排水が確実にされていることを、接続部および室内ユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
  - 暖房期の据付けの際にも必ず実施してください。
  - 新築の場合には天井を張る前に実施してください。
1. 室内ユニットドレンパンの中へ水を約1000cc注水してください。注水時は、ドレンポンプなどの電機部品に水をかけないようにしてください。注水は、吹出口から給水ポンプなどを使用するか、冷媒配管取出し部の注水口から行ってください。

2. ドレン排水が確実にされること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。  
ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。ドレン排水の確認は、ドレンソケット部(透明)より確認できます。

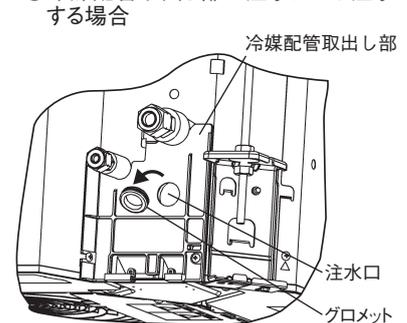
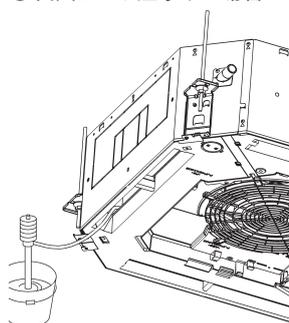
●吹出口から注水する場合

●冷媒配管取出し部の注水口から注水する場合

3. 排水テスト後は、ドレンラグを外して水抜きを行ってください。

水抜き確認後は、ドレンラグを元通りにはめ込んでください。ドレン配管の断熱を室内ユニット部まで完全に行ってください。

リッドを外して注水した場合は、リッドを装着しなおしてください。



## ⑥ ドレン配管のつづき

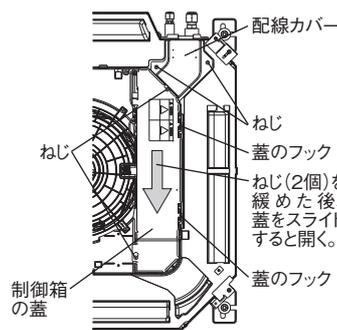
### ドレンポンプ運転方法

- 電気配線工事が完了している場合  
ドレンポンプの運転がリモコン(ワイヤード)操作により可能です。運転操作方法は、電気配線工事説明書の「ドレンポンプ運転操作」をご覧ください。
- 電源が供給されている場合  
室内ユニット基板上的のSW7-1をONにし、かつ、基板上的のコネクタCNBを抜いた後、電源ON(端子台①、②へAC200V)すると、ドレンポンプのみ連続運転します。ドレン排水確認後は、必ずSW7-1を元の状態(OFF)に戻し、かつ、基板上的のコネクタCNBを差し込んでください。
- 電源が供給されていない場合  
ドレンポンプ試運転用チェッカー(別売)でドレンポンプを運転することが可能です。操作方法はドレンポンプ試運転チェッカーに付属の取扱説明書をご覧ください。

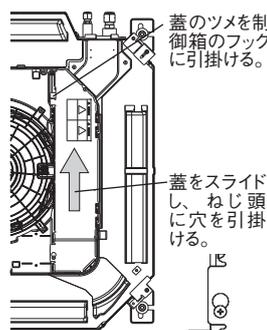
## ⑦ 電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
  - 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
  - 電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
  - D種接地工事を必ず行ってください。
  - 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。
1. 制御箱の蓋のねじ(2個)緩め、蓋を図の矢印の方向にスライドしてください。蓋を開くことができます。
  2. 蓋のフックを制御箱の穴から外して、蓋を取外してください。
  3. 配線カバーのねじ(2個)を取外して、配線カバーを取外してください。
  4. 各配線を制御箱内に入れ、端子台に確実に接続してください。
  5. 各配線をバンドで固定してください。
  6. 配線カバー、制御箱の蓋を取付けてください。

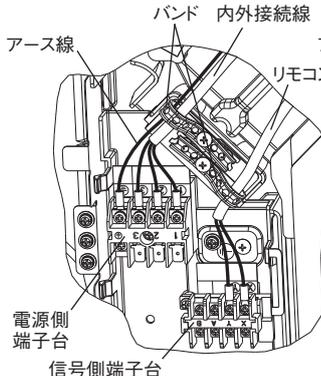
制御箱の蓋を開ける場合



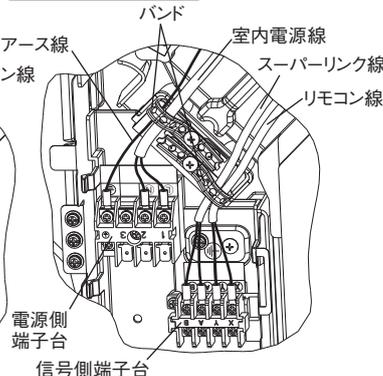
制御箱の蓋を閉める場合



店舗シリーズ



ビル空調シリーズ  
ガスヒートポンプシリーズ

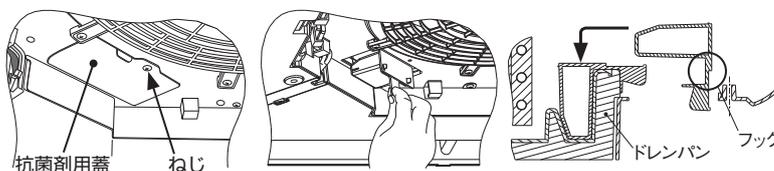


## ⑧ 抗菌剤の取付け

- 付属の抗菌剤ケースをドレンパン内に取付けてください。抗菌剤ケースの中に抗菌剤は入っています。
- 抗菌剤ケースの取付けは室内ユニットを吊った後に実施してください。室内ユニットが天地逆では取付けられません。

### 作業手順 (付属抗菌剤の交換目安: 冷房1シーズン)

1. 抗菌剤用蓋のねじ(1個)を取外し、抗菌剤用蓋を取外してください。
2. 取出し口から抗菌剤を取付けてください。抗菌剤ケースのフックの奥まで、ドレンパンが達するように取付けてください。
3. 抗菌剤用蓋を取付けてください。風漏れや異常音の原因となります。



## ⑨ パネルの取付け

- パネルは、電気配線工事完了後に、室内ユニットに取付けてください。
- パネルの取付け方法は、117ページをご覧ください。

## ⑩ 室内ユニット据付け工事完了後のチェック項目

- 室内ユニット・パネル据付け工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	

## ⑩室内ユニット据付け工事完了後のチェック項目のつづき

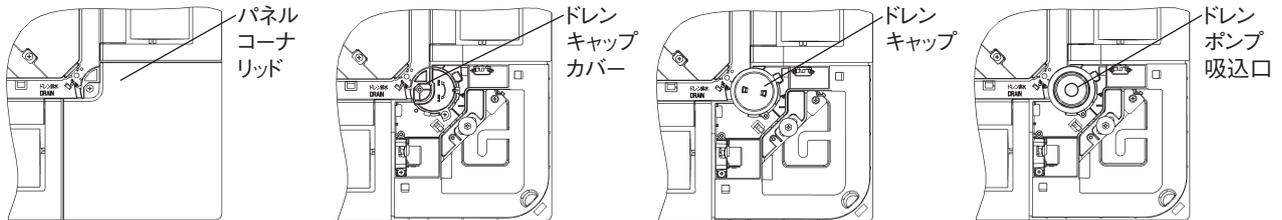
チェック項目	不良だと…	チェック欄
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

## ⑪ドレンパン汚れ確認、ドレンポンプ吸込口清掃（メンテナンス）

### ドレンパン汚れ確認方法

●パネルを取外さずに、ドレンパンの汚れやドレンポンプ吸込口の状況を確認できます。  
(高性能フィルタなどのオプションスペースやお掃除パネルの取付け時は確認できません。)

1. パネル吸込グリルを開け、ドレンポンプ側のパネルコーナリッドを取外してください。
2. パネルコーナにあるドレンキャップカバー（ねじ1個）を取外してください。
3. ドレンキャップからドレンパンの汚れやドレンポンプ吸込口を確認してください。汚れが多い場合はドレンパンを取外し、清掃してください。
4. 取外したドレンキャップカバーは確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。

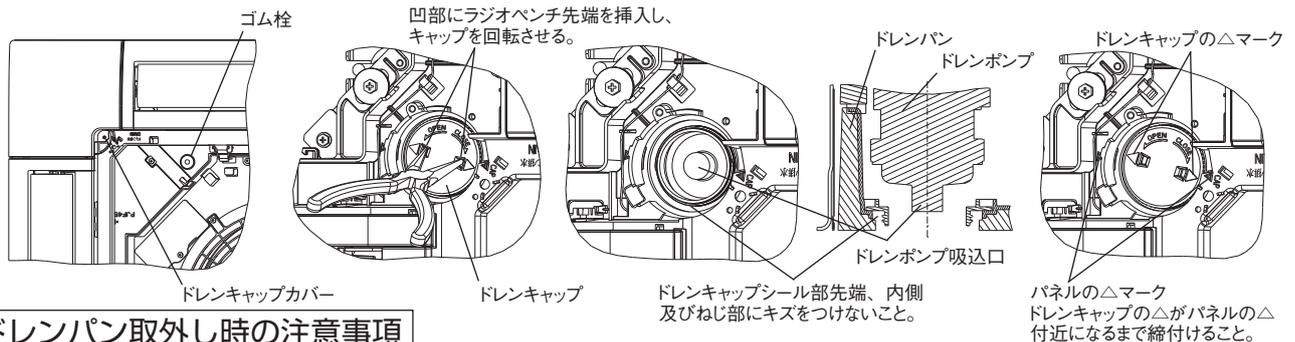


### ドレンポンプ吸込口の清掃

●パネルやドレンパンを取外さず、ドレンキャップを取外することでドレンポンプ吸込口及びその付近の清掃ができます。  
(高性能フィルタなどのオプションスペースやお掃除パネルの取付け時は確認できません。)

●ドレンキャップを取外す前に、ゴム栓を取外してドレンパン内のドレンを排水してください。

1. 前述のようにドレンキャップカバーを取外してください。
2. ドレンキャップの凹部（2か所）にラジオペンチの先を挿入し、反時計回りに約1回転するとドレンキャップを取外せます。
3. ドレンポンプ吸込口を清掃する場合はプラスチックの道具を使用してください。金属製の道具を使用するとドレンキャップ取付け部をキズつけ、水漏れの原因になります。
4. ドレンキャップを取付ける前に、流水で水洗いし、**ドレンキャップ内側の異物を取り除いてください。**異物が付着したままドレンキャップを取付けると水漏れの原因になります。
5. ドレンキャップの取付けは、ラジオペンチでドレンキャップの凹部を使用して取付けてください。時計回りに約1回転させ、**キャップが回転しなくなるまで締付けてください。**キャップが1回転以上回転しない場合は正しく取付けられていません。一度、ドレンキャップを取外し、改めて取付け直してください。
6. ドレンキャップ締付け後、ドレンキャップの△マークがパネルの△マーク付近にあることを確認してください。ドレンキャップの△マークがパネルの△マーク付近にない場合は、増し締めしてください。
7. 取外したドレンキャップカバー、ゴム栓は確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。

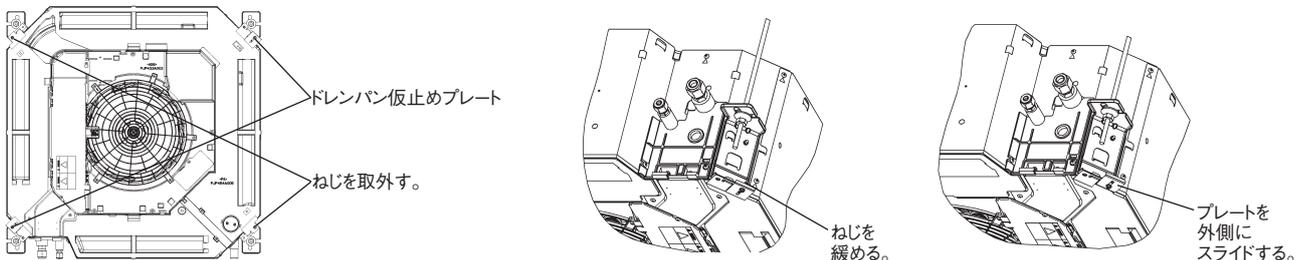


### ドレンパン取外し時の注意事項

●ドレンパンを取外す前に、ドレンパン内のドレンを排水してください。ゴム栓を取外して排水してください。

●ドレンパンは仮止めプレートで仮止めされています。ドレンパン取付ねじ(2個)を取外し、仮止めプレートのねじ(2個)を緩めてください。仮止めプレートをドレンパンの外側にスライドしてください。ドレンパンを取外せます。

●ドレンパン取付け時は、仮止めプレートを内側にスライドし、ドレンパンを仮止めてください。その後、ドレンパン取付ねじ(2個)と仮止めプレートのねじ(2個)を締付けてください。また、取外したゴム栓は確実に取付けてください。



## (ii) パネルの据付

### 1) 標準パネル, エアフレックスパネル, ラクリーナパネル

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

#### 警告

- 配線は、確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事をする。  
感電、故障や動作不良の原因になります。

#### 機能名称について

機能の名称の意味は下記のとおりです。  
 エアフレックス : ドラフト防止機能  
 ラクリーナ : エアフィルタ自動昇降機能

#### お願い <ラクリーナパネルの場合>

- ・吸込グリルの動作範囲の周辺および下方30cm以内に障害物を置かないでください。
- ・電源投入前にパネルを取付けた場合は吸込グリルの昇降動作はできません。
- ・電源投入後に吸込グリルを収納する場合は、付属のクランプで仮固定する事ができます。
- ・電源投入後は付属のクランプを外してあることを確認してから昇降動作を行ってください。
- ・吸込グリル取付け後の初回はリモコンで「上げる」の操作を行い、吸込グリルを正規位置に収納してください。(マイコンが収納位置を記憶します。)
- ・ワイヤは、折り曲げ、ねじり、踏み込み等により傷ついたり、たばこ等の火が触れないようにしてください。

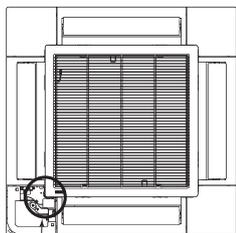
#### ① 据付けの前に

- ・据付けはこの説明書に従って正しく行ってください。
- ・次の項目を確認してください。
- パネル・リモコンのタイプ
- 付属品

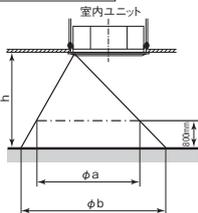
##### 付属品

ボルト		4本	パネル取付け用
ストラップ		4本	コーナリッド落下防止用
クランプ		4本	吸込グリル仮止め用 (ラクリーナパネル)
ねじ		4本	コーナリッド固定用*1

注1: \*1ラクリーナパネルの場合、吸込グリル仮止めクランプ固定用にも使用します。  
 注2: 付属品はコーナリッドを外した位置にあります。



#### 人感センサ検知範囲の目安 <エアフレックスパネル、ラクリーナパネル>



天井高さ h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲① φa [m]	約4.5	約6.4	約7.6
検知範囲② φb [m]	約6.4	約8.3	約9.5

#### ② 室内ユニットの取付けレベルの確認

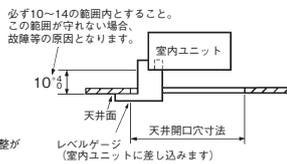
- ・室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。
- ・室内ユニットに付属されているレベルゲージで室内ユニット高さ及び天井開口寸法が正しいことを確認してください。
- ・室内ユニットと天井材との取付けレベルを確認してください。
- ・室内ユニット付属のレベルゲージを吹出口にセットし、室内ユニットの吊込み高さを調整してください。
- ・レベルゲージはパネル取付け前に取外してください。

##### 注意

室内ユニットと天井材との高さは、パネル取付けの際、パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。パネルが変形し破損の恐れがあります。

室内ユニットの取付け高さはパネル取付け後、コーナリッドより微調整ができます。

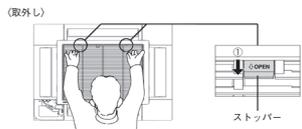
(詳細は ⑥パネルの取付け をご参照ください。)



#### ③ 吸込グリルの取外し

##### <標準パネル、エアフレックスパネルの場合>

1. 吸込グリルのストッパー(2か所)に指をかけて「OPEN」の方向(矢印①)に押し込んだら吸込グリルを下方へ引くと吸込グリルが開きます。
2. 吸込グリルが開いた状態で吸込グリルのヒンジ部をパネルから外します。

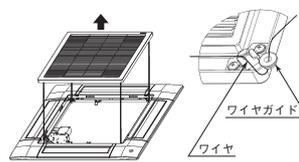


##### <ラクリーナパネルの場合>

1. 吸込グリルを少し持ち上げて、吸込グリルを開けます。
2. 吸込グリルの4コーナに取付けてあるワイヤガイドを外側にスライドさせて外してください。

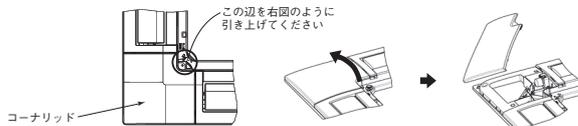
##### 注意

吸込グリルはゆっくりに持ち上げてください。ワイヤおよびワイヤガイドが破損する恐れがあります。



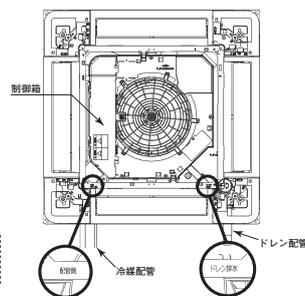
#### ④ コーナリッドの取外し

- ・コーナリッドを矢印の方向へ引き上げて取外してください。(4コーナとも)



#### ⑤ パネルの取付け方向

- ・パネルの取付け方向は室内ユニットに対し方向性があります。
- ・パネルは、右図に示す方向で取付けてください。
- ・パネル吸込部の「ドレン排水」と室内ユニットのドレン配管の位置を合わせてください。
- ・パネル吸込部の「配管側」と室内ユニットの冷媒配管の位置を合わせてください。

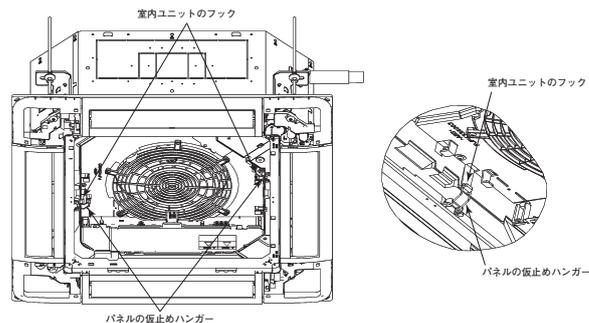


##### 注意

・右図以外の方向で取付けると、風漏れの原因となり、また電気配線の接続ができません。

#### ⑥ パネルの取付け

1. パネルの仮止め
  - ・パネルの仮止め用ハンガーを起こします。(2か所)
  - ・パネルの仮止め用ハンガーを室内ユニットのフックにかけて、パネルを室内ユニットに吊るします。



##### 注意

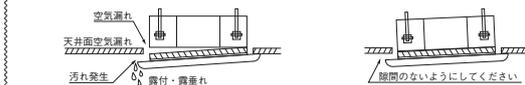
・パネルの吹出口周囲のエアフレックス(斜線部)は別部品です。パネルを持つ際は取扱いに注意してください。特に、エアフレックスパネル、ラクリーナパネルの斜線部は可動します。手で無理に動かすと破損します。

2. パネルの室内ユニットへの固定
  - ・付属のパネル取付け用ボルト4本を用いて、室内ユニットに締め付けてください。

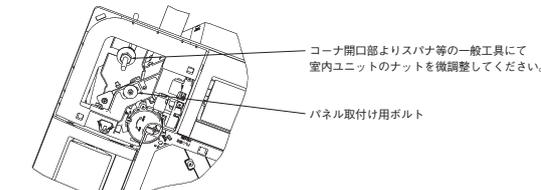
##### 注意

・吊りボルトの締め込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締め込んでください。

・吊りボルトを締め込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニットの高さを再調整してください。



- ・室内ユニットの水平度、ドレン配管などに影響がない程度であればパネルを取付けたまま、室内ユニットの据付け高さを微調整できます。

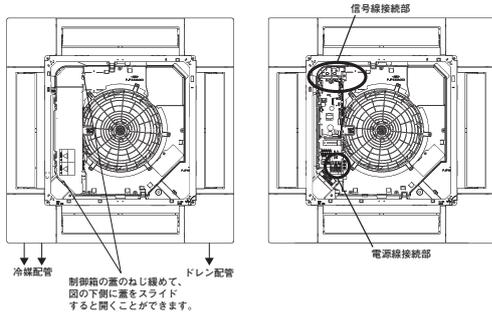


##### 注意

パネル取付けの際、パネルに無理な荷重がかからないよう、室内ユニット据付け高さを調整してください。パネルが変形し、吸込グリル、エアフレックス部品が取まらないおそれがあります。

## ⑦ 電気配線

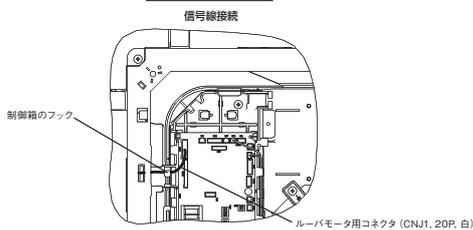
パネルの種類により、配線処理が異なります。パネルの種類にあわせて配線処理を行ってください。  
室内ユニットの接続位置はパネルの種類によらず下図のとおり同じです。



### <標準パネルの場合>

1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ(2本)を緩め、蓋をスライドして取外してください。
2. ルーバモータ線(20線)を制御箱のフックに通し、コネクタCNJ1(20P,白)を接続してください。
3. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け、ねじ(2本)を締付けてください。

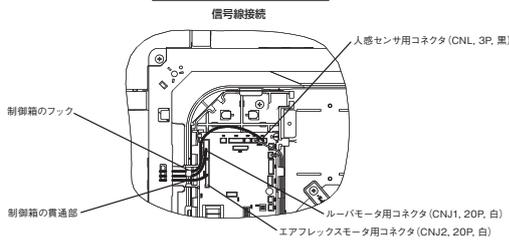
### 標準パネルの場合



### <エアフレックスパネルの場合>

1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ(2本)を緩め、蓋をスライドして取外してください。
2. ルーバモータ線(20線)を制御箱のフックに通し、コネクタCNJ1(20P,白)を接続してください。
3. エアフレックスモータ線(20線)を制御箱のフックに通し、コネクタCNJ2(20P,白)を接続してください。
4. 人感センサ線(3線)を制御箱の貫通部に通し、コネクタCNL(3P,黒)を接続してください。
5. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け、ねじ(2本)を締付けてください。

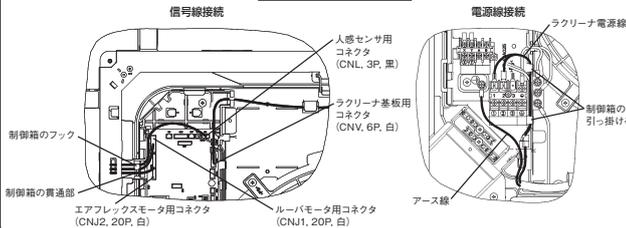
### エアフレックスパネルの場合



### <ラクリーナパネルの場合>

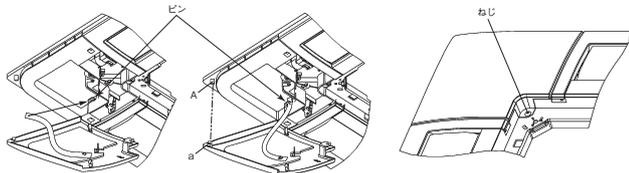
1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ(2本)を緩め、蓋をスライドして取外してください。
2. ルーバモータ線(20線)を制御箱のフックに通し、コネクタCNJ1(20P,白)を接続してください。
3. エアフレックスモータ線(20線)を制御箱のフックに通し、コネクタCNJ2(20P,白)を接続してください。
4. 人感センサ線(3線)を制御箱の貫通部に通し、コネクタCNL(3P,黒)を接続してください。
5. 電源線のファストン端子を室内ユニットの電源端子台の1番,2番に挿入してください。  
電源線の赤を端子台の1番に、白を2番に挿入してください。
6. アース線(緑)を室内ユニット制御箱の④に接続してください。
7. ラクリーナ基板用信号線(6線)を室内ユニット制御箱内の基板のコネクタCNV(6P,白)に接続してください。  
コネクタCNVにショートコネクタが接続されている場合は取外の上、信号線を接続してください。
8. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け、ねじ(2本)を締付けてください。

### ラクリーナパネルの場合



## ⑧ コーナリッドの取付け

1. 付属のコーナリッド落下防止用ストラップをコーナリッドのピンに折り返して引っ掛けてください。
2. コーナリッドに取付けたストラップの反対側をパネルのピンに引っ掛けてください。
3. コーナリッドのa部をパネルのA部に挿入してから、コーナリッドのつめ2か所をはめてください。
4. 付属のねじで固定してください。



## ⑨ 吸込グリルの取付け

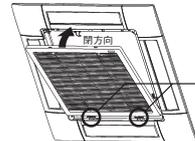
パネルと吸込グリルには方向性ありません。

### <標準パネル、エアフレックスパネルの場合>

吸込グリルの取付け方法は「吸込グリルの取付け」の手順を逆に作業してください。

1. 吸込グリルのヒンジをパネルのヒンジ挿入穴に取付けてください。(吸込グリルのヒンジは4辺どこでも取付け可能です。)
2. 吸込グリルのヒンジを取付け後、ストッパー(2カ所)を「OPEN」の方向へ押し込ま、閉じてください。  
両方のストッパーから「カチッ」と音がしたことを確認してください。

### <取付け>



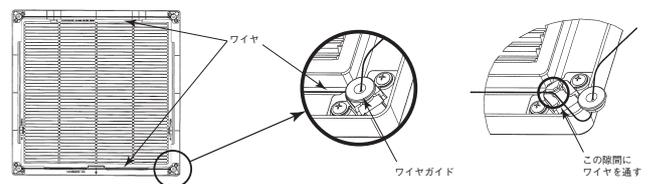
**【注意】**  
・吸込グリルの取付けは、必ずヒンジ側から行ってください。  
・吸込グリルは確実に取付けてください。取付けが不十分ですと落下する恐れがあります。  
・ストッパーが変形・破損した場合は、速やかに修理依頼し、交換してください。吸込グリルが落下する恐れがあります。

### <ラクリーナパネルの場合>

1. 吸込グリルの方向を決定してください。
2. ワイヤを通してあるワイヤガイドを吸込グリルの4コーナの取付け部に固定して装着します。
3. ワイヤガイドを吸込グリルに外側から内側へスライドさせながら装着してください。  
装着の際、取付け部の隙間をワイヤが通過するようにワイヤの向きに注意して確実に取付けてください。
4. ワイヤガイド装着後、ワイヤの曲がり、ねじり、腫み込みがないことを確認してください。

### 【注意】

ワイヤガイドは確実に装着してください。確実に装着されていないと、吸込グリルを昇降できなくなったり、吸込グリルが落下する恐れがあります。



## ⑩ パネルの設定

### <ルーバの動作範囲設定(フリーフロー設定)>

ワイヤードリモコンを使用することで、吹出口のルーバの動作範囲を変更することができます。本モードで上位置と下位置を設定すると、ルーバは設定された上位置と下位置の間で動作します。各ルーバ毎に個別の動作範囲の設定が可能です。

### <エアフレックスの設定(ドラフト防止設定)>

エアフレックスパネル、ラクリーナパネルを取付け、配線接続をするだけではエアフレックスは作動しません。エアフレックスを作動させるために、ワイヤードリモコンを使用して、ドラフト防止設定を有効にしてください。(ワイヤードリモコンRC-DX2、RC-D4以前、ワイヤレスリモコンRCN-D3G以前のリモコンでは設定できません。)  
本モードで有効に設定すると運転開始時にエアフレックスが作動し、運転中は常時エアフレックスが開いています。また、停止時にエアフレックスは閉じます。各吹出口毎に有効/無効の設定が可能です。  
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

### <人感センサの設定(赤外線センサー設定)>

エアフレックスパネル、ラクリーナパネルを取付け、配線接続をするだけでは人感センサは機能しません。人感センサを機能させるために、ワイヤードリモコンを使用して、赤外線センサー設定を有効にしてください。(ワイヤードリモコンRC-DX2、RC-D4以前、ワイヤレスリモコンRCN-D3G以前のリモコンでは設定できません。)  
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

### <吸込グリル昇降の設定(グリル昇降操作)>

ラクリーナパネルを取付け、配線接続をするだけでは吸込グリルの昇降はできません。吸込グリルの昇降を可能にするために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、吸込グリル昇降を有効にしてください。  
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

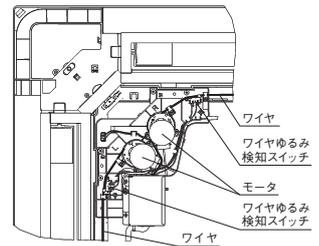
### <吸込グリル下降長さの設定(降下長設定)>

吸込グリルの下降長さをお好みの下降長さに設定することができます。工場出荷時は2mに設定されています。お好みの下降長さにしたい場合は、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、吸込グリルの下降長さを設定してください。  
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

### 【注意】

#### <ワイヤゆるみ検知機構について>

ラクリーナパネルには、ワイヤの絡み防止のため、「ワイヤゆるみ検知機構」を装備しています。吸込グリルを吊ったワイヤがゆるんだ場合、ワイヤゆるみ検知スイッチが働き、自動昇降用モータが自動停止します。  
パネル取付け後、グリルが動かない場合、「ワイヤゆるみ検知機構」が作動している可能性がありますので、据付け時にワイヤの腫み込み、絡まり等がないか、ワイヤ経路をご確認ください。



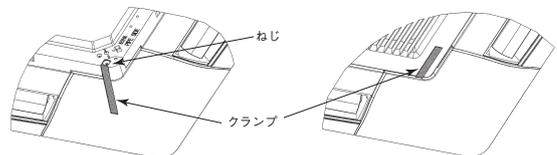
## ⑪ 電源投入前の吸込グリルの仮固定 <ラクリーナパネル>

電源投入前は吸込グリルの自動昇降はできません。

1. 電源投入前に吸込グリルを収納したい場合は、付属のクランプで吸込グリルを仮止めすることができます。
2. パネルの4コーナに付属のクランプを図のようにねじ止めしてください。(4コーナとも)
3. ワイヤを折り曲げたり、かみ込みしないように注意しながら、持ち上げパネルに収納してください。
4. 取付けたクランプを図のように吸込グリル側に折り曲げ、吸込グリルを固定してください。

### 【注意】

クランプを装着したまま昇降動作を行った場合、吸込グリルの昇降装置が故障する恐れがあります。



5. 仮固定が終わったら、クランプを取外した上で、コーナリッドをねじ止めしてください。

## 安全上のご注意

■工事前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく据付けしてください。お掃除ラクリーナパネル関連事項を抜粋しています。必ず室内ユニットの取扱説明書「安全上のご注意」もお読みください。

■ここに示した注意事項は、「△警告」、「△注意」に区分していますが、誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に「△警告」の欄にまとめて記載しています。しかし、「△注意」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

■絵表示の例

 △記号は、危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

 ○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

 ●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合はアースを行ってください）が描かれています。

■お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。また、お使いになる方が代わる場合は、必ず本書をお渡しください。

### 据付け上の注意事項

#### △警告

据付けは、販売店または専門業者に依頼する。  
ご自分で据付け工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、エアコン落下によるケガの原因になります。

配線は、確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

元電源を切った後に電気工事をする。  
感電、故障や動作不良の原因になります。

#### △注意

次の場所への設置は避けてください。故障の原因になります。

- ・油煙が発生する作業場
- ・粉が浮遊する作業場
- ・タバコの煙が多いところ
- ・水蒸気の発生、湿気が多いところ
- ・化粧品・特殊なスプレーを使用するところ

温度制御が重要なところへの設置は避けてください。  
トラブルの原因になります。

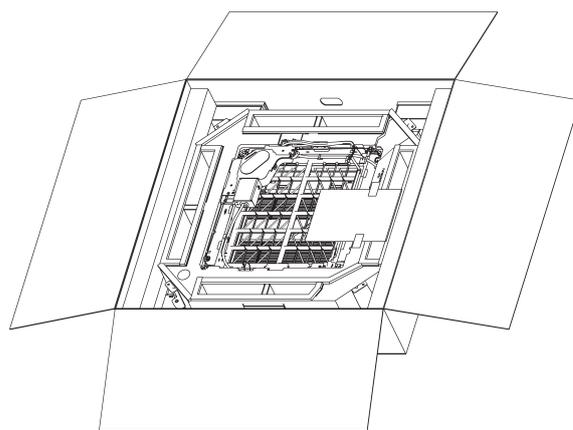
エアコン運転中に清掃運転を開始すると、風量Lo・風向制御停止となります。24時間運転等のところでは、自動清掃中（約1時間）運転状態（能力低下）が変わります。尚、清掃運転中は表示部に緑が点灯します。

### お願い

吸込グリルの稼働範囲の周辺および下方に障害物を置かないでください。電源投入前にパネルを取付けた場合は吸込グリルの昇降動作・ブラシの試運転はできません。

吸込グリル取付け後はリモコン「上がる」の操作を行い、吸込グリルを正規位置に収納してください。（マイコンが収納位置を記憶したのち、ブラシの初期位置設定を行います。）

この間は、風量・風向の変更は入力されますが、終了するまでは実行しません。この間は、表示部に緑が点灯します。



### パネル装着手順

パネルからお掃除ユニットを分離  
パネル裏面の突起で床を傷つける  
場合があります。  
梱包箱から出す前に実施が有効です。

①～⑤

室内ユニットにパネルを装着  
室内ユニットと配線接続

⑥～⑩

パネルにお掃除ユニットを装着

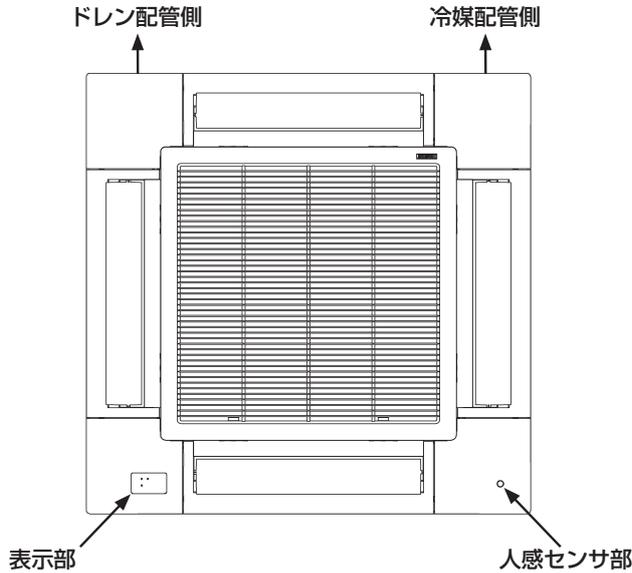
⑪～⑯

室内ユニット・リモコンの設定  
試運転

⑰～⑳

# 据付け工事手順

## ① 据付けのまえに



- ・据付けはこの説明書に従って正しく行ってください。
- ・次の項目を確認してください。

- パネル・リモコンのタイプ
- 付属品

吸込グリルに方向性があります。  
90度回転方向には取付きません。

### 付属品

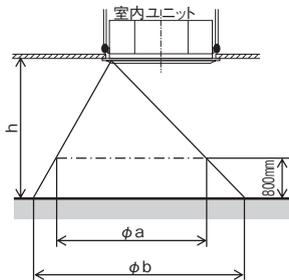
取扱説明書	1冊		
据付説明書	1冊		
電源線 (赤, 白)	1本	⑩⑫	
パネル固定ボルト	4本	⑧	室内ユニットへ取付け用
ストラップ	4本	⑨	コーナリッド落下防止用
配線カバー	1個	⑫	電源配線接続部カバー
ねじ (銀色)	6本	⑨	クランプ固定 コーナリッド固定用
		⑫	共用 配線カバー用 2本
アースねじ (黄銅)	2本	⑫	
クランプ	4本		吸込グリル仮止用

### 機能名称について

機能の名称の意味は下記のとおりです。

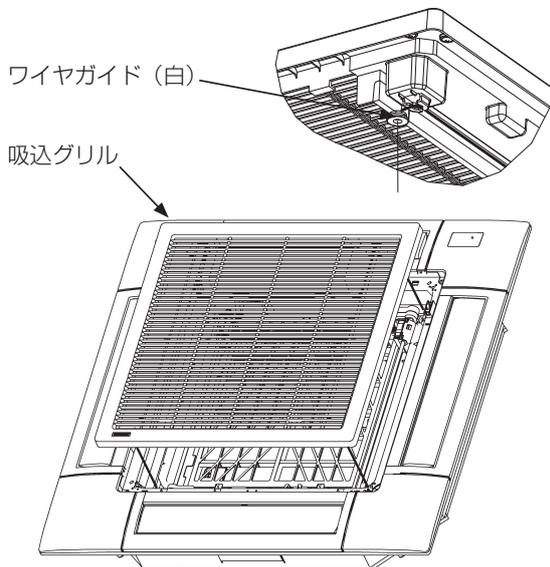
- お掃除 : エアフィルタ自動清掃機能
- ラクリーナ : ダストボックス昇降機能
- エアフレックス : ドラフト防止機能

### 人感センサ検知範囲の目安



天井高さ	h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①	φa [m]	約 4.5	約 6.4	約 7.6
検知範囲②	φb [m]	約 6.4	約 8.3	約 9.5

## ② 吸込グリルの取外し



1. 吸込グリルを持ち上げて、吸込グリルを開けます。
2. 吸込グリル 4 コーナに取付けてあるワイヤガイドを外側にスライドさせて外してください。

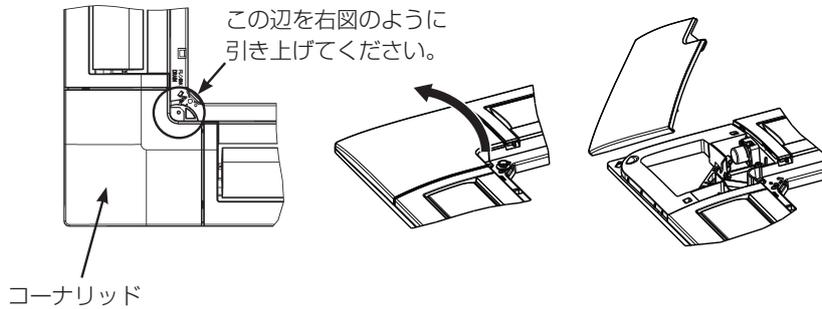
### ご注意

吸込グリルはゆっくり持ち上げてください。  
ワイヤおよびワイヤガイドが破損する恐れがあります。

3. 吸込グリル内側のダストボックスの固定に使用していたダンボール・青テープを外してください。

## 据付け工事手順

### ③ コーナリッドの取外し

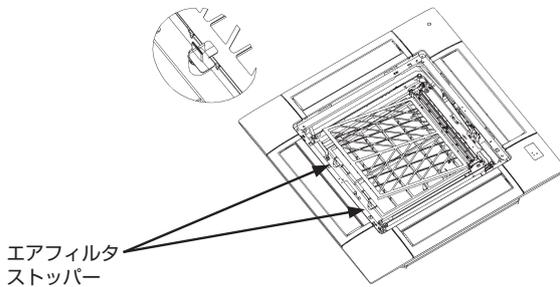


・コーナリッドを矢印の方向へ引き上げて取外してください。(4 コーナとも)

#### ご注意

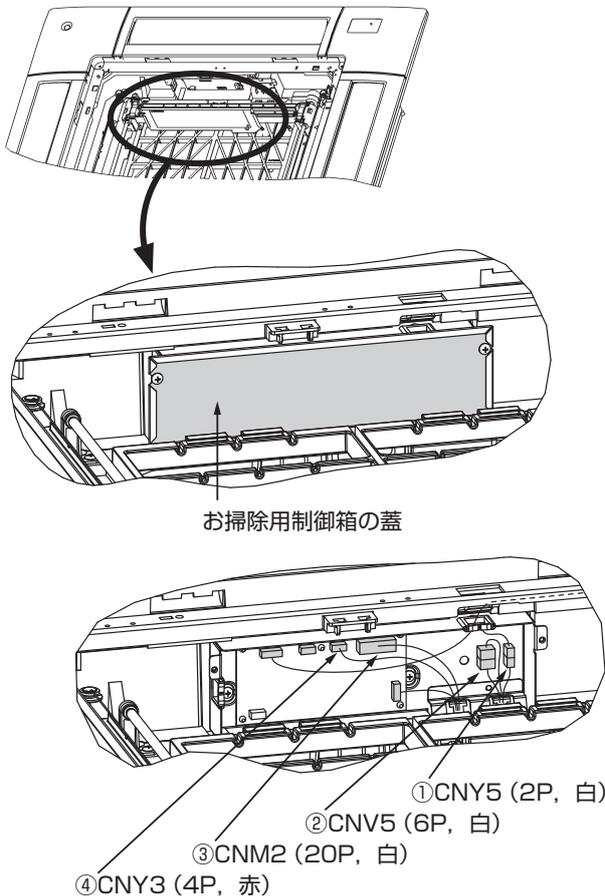
表示部及び人感センサ部は、コーナリッド内で配線が接続されています。

### ④ エアフィルタの取外し



・エアフィルタストッパー (2 か所・白) を押しエアフィルタを手前に引き出してください。

### ⑤ お掃除ユニットの取外し



1. パネルのお掃除用制御箱の蓋を取外してください。  
左側のねじを緩め、右側のねじを取外して、蓋を取外してください。

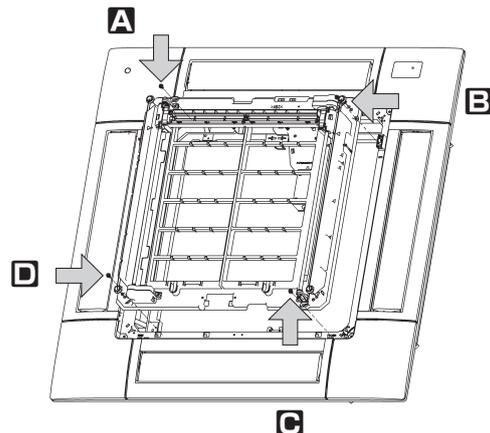
2. パネルのお掃除用制御箱内の配線を外してください。

- ①コネクタ CNY5(2P, 白) : グリル用リミットスイッチ
- ②コネクタ CNV5(6P, 白) : ラクリーナ信号線
- ③コネクタ CNM2(20P, 白) : お掃除用モータ線 1
- ④コネクタ CNY3(4P, 赤) : お掃除用モータ線 2

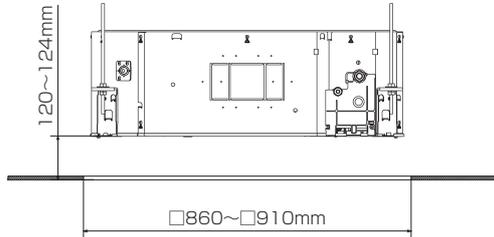
3. **A**・**C** 側のねじ 2 本を緩め、**B**・**D** 側 2 本を外し、お掃除ユニットを外します。

#### ご注意

ドライブシャフトを持たないでください。変形すると故障の原因になります。



## 6 室内ユニットの取付けレベルの確認



- 室内ユニット取付け高さはパネル取付け後、コーナ開口部より微調整ができます。(詳細は **8 パネルの取付け** をご参照ください。)

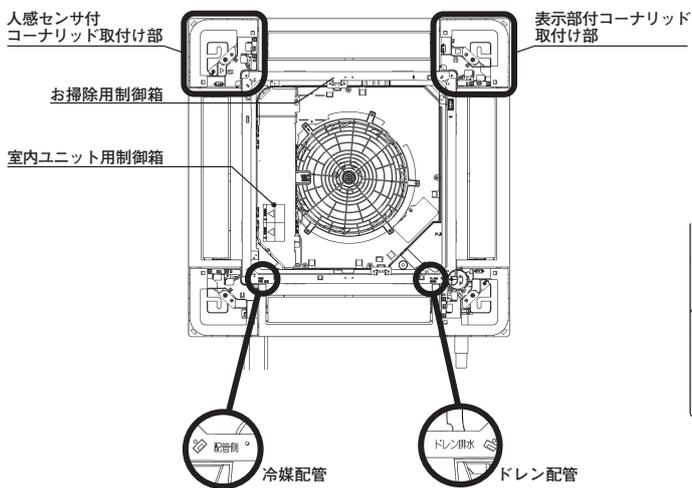
### 標準+110mm 高く

- お掃除ラクリーナパネル据付けの場合は、標準パネル据付けに対し110mm天井裏高さが増します。天井下面と室内ユニット下面のレベル差は、120～124mmの範囲内としてください。天井開口は標準パネルと同一、□860～□910の範囲にしてください。

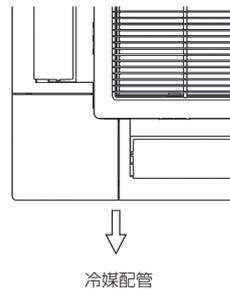
### ご注意

室内ユニットと天井材との高さは、パネル取付けの際、パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。パネルが変形し破損の恐れがあります。

## 7 パネルの取付け方向



- パネルの取付け方向は室内ユニットに対し方向性があります。
- パネルは、図に示す方向で取付けてください。
- パネルの「ドレン排水」と室内ユニットドレン配管の位置を合わせてください。
- パネルの「配管側」と室内ユニット冷媒配管の位置を合わせてください。

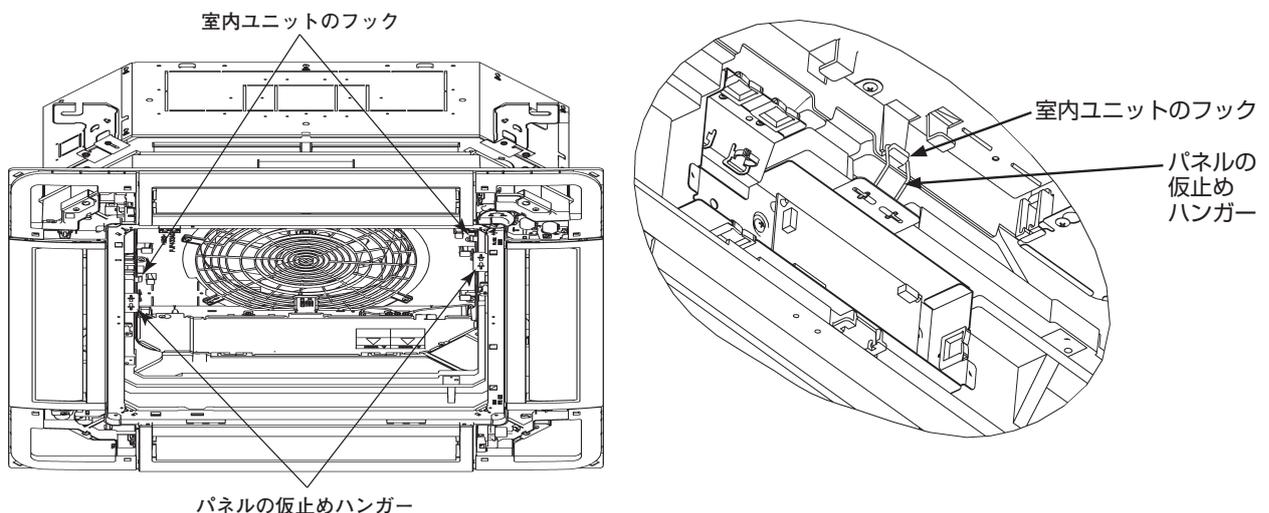


吸込グリルに方向性があります。90度回転方向には取付きません

## 8 パネルの取付け

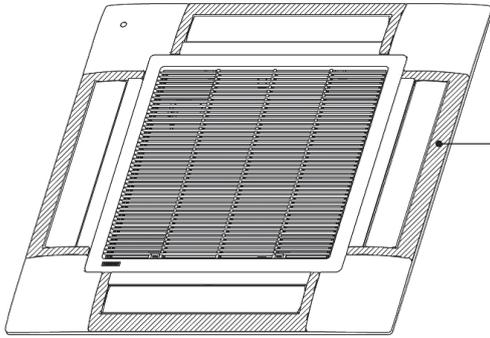
### 1. パネルの仮止め

- パネルの仮止め用ハンガーを起こします。(2か所)
- パネルの仮止め用ハンガーを室内ユニットのフックにかけて、パネルを室内ユニットに吊るします。



# 据付け工事手順

## ⑧ パネルの取付け (つづき)



斜線部(4か所)は可動します。  
手で無理に動かすと破損します。

### ご注意

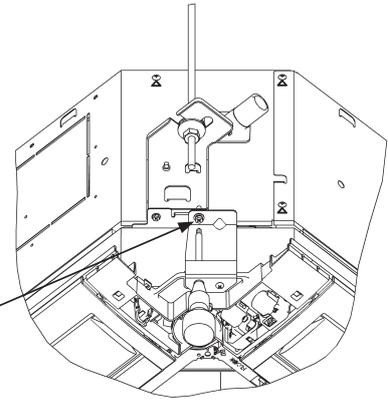
- ・パネルの吹出口周囲のエアフレックス (斜線部) は別部品です。  
パネルを持つ際は取扱いに注意してください。手で無理に動かすと破損します。

### 2. パネルの室内ユニットへの固定

- ・付属のパネル固定ボルト 4本を用いて、室内ユニットに締め付けてください。

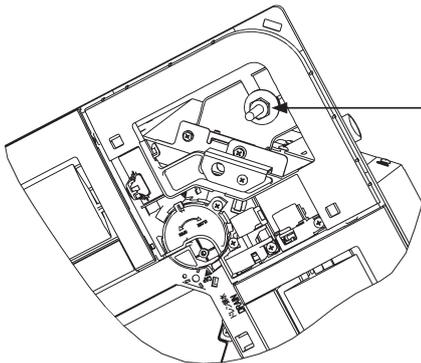
### ご注意

- 仮止め状態のまま、コーナリッドの取外しは大変危険です。  
仮止め状態のまま、室内ユニットの調整を行うことは大変危険です。



パネル固定ボルト

- ・室内ユニットの水平度、ドレン配管などに影響がでない程度であればパネルを取付けたまま、室内ユニットの据付け高さを微調整できます。



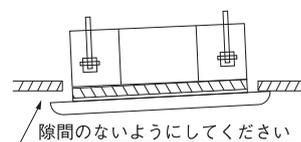
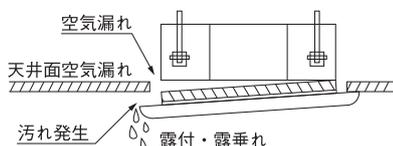
コーナ開口部よりスパナ等の一般工具にて  
室内ユニットのナットを微調整してください。

### ご注意

- パネル取付けの際、パネルに無理な荷重がかからないよう、室内ユニット据付け高さを調整してください。  
パネルが変形し、吸込グリル、エアフレックス部品が収まらないおそれがあります。

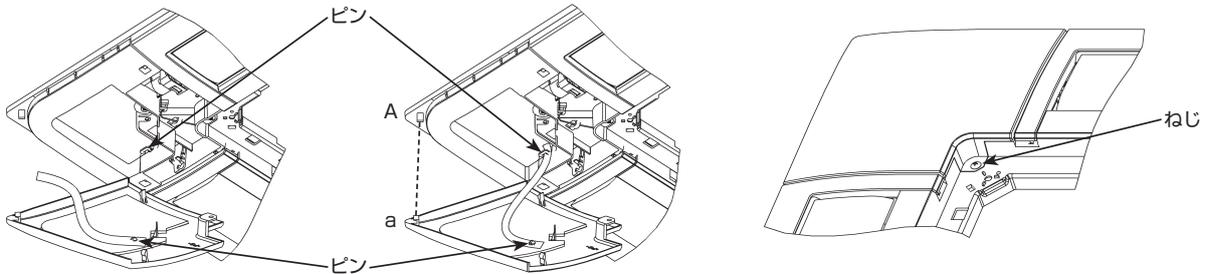
### ご注意

- ・吊りボルトの締め込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締め込んでください。
- ・吊りボルトを締め込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニットの高さを再調整してください。

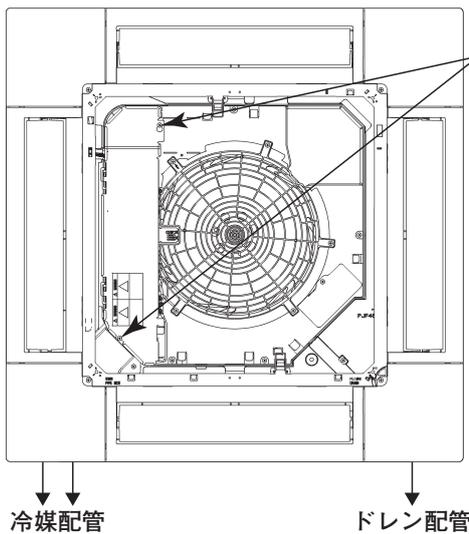


## 9 コーナリッドの取付け

1. 付属のコーナリッド落下防止用ストラップをコーナリッドのピンに折り返して引っ掛けてください。
2. コーナリッドに取付けたストラップの反対側をパネルのピンに引っ掛けてください。
3. コーナリッドの a 部をパネルの A 部に挿入してから、コーナリッドのつめ (2か所) をはめてください。
4. 付属のねじで固定してください。

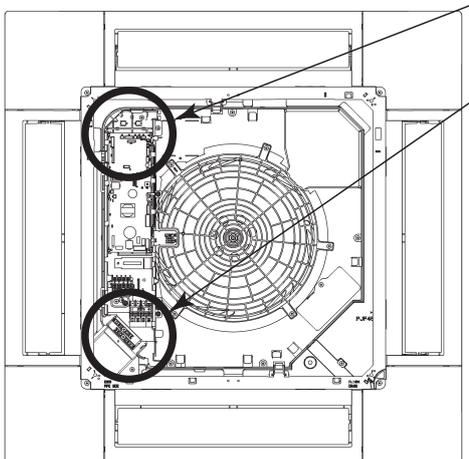


## 10 電気配線



室内ユニット用  
制御箱蓋のねじ

1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ (2本) を緩め、蓋をスライドして取外してください。
2. ルーバモータ線 (20 線) を制御箱のフックに通し、コネクタ CNJ1 (20P, 白) を接続してください。
3. エアフレックスモータ線 (20 線) を制御箱のフックに通し、コネクタ CNJ2 (20P, 白) を接続してください。
4. 人感センサ線 (3 線) を制御箱の貫通部に通し、コネクタ CNL (3P, 黒) を接続してください。
5. ラクリーナ電源 & アース線 (付属品) のファストン端子を室内ユニットの電源端子台の 1 番, 2 番に挿入してください。電源線の赤を端子台の 1 番に、白を 2 番に挿入してください。アース線 [ 緑 ] を室内ユニット制御箱の ⊕ に接続してください。



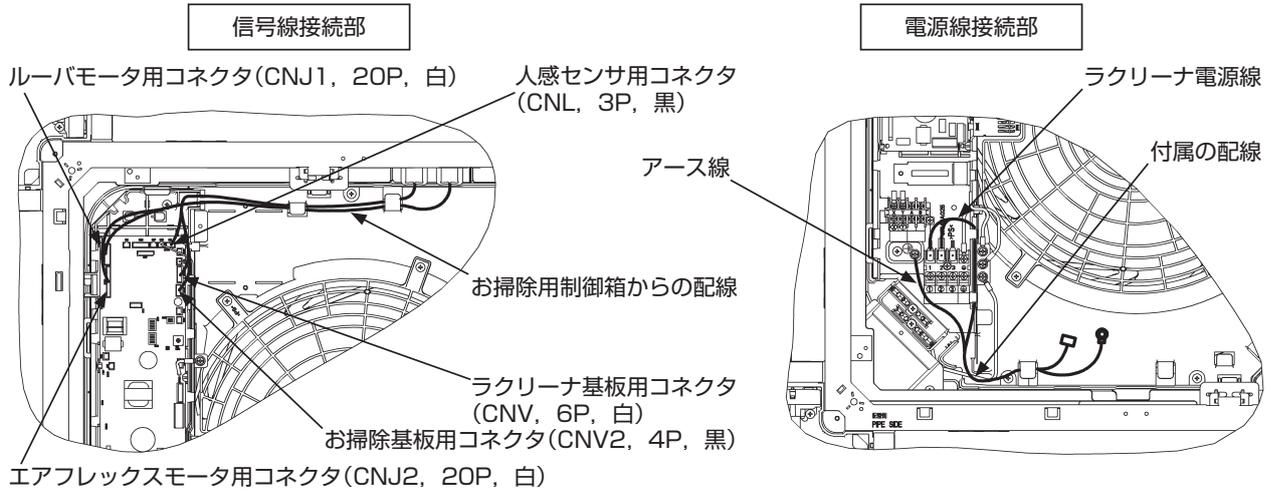
信号線接続部

電源線接続部

7. ラクリーナ基板用信号線 (6 線) を室内ユニットの制御箱内の基板のコネクタ CNV (6P, 白) に接続してください。コネクタ CNV にショートコネクタが接続されている場合は取外しの上、信号線を接続してください。
8. お掃除基板用信号線 (4 線) を室内ユニットの制御箱内の基板のコネクタ CNV2 (4P, 黒) に接続してください。
9. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け、ねじ (2本) を締付けてください。
10. 室内ユニットの形式、製造号機を取扱説明書裏ページ等へ控えてください。  
(お掃除ユニットを取付けると室内ユニットの装置銘板が見え難くなります。)

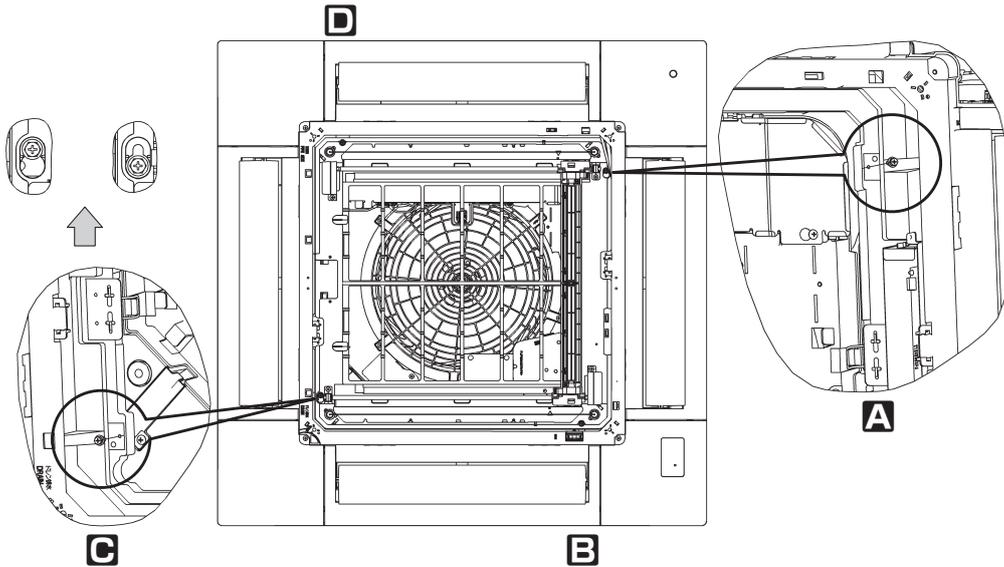
# 据付け工事手順

## ⑩ 電気配線 (つづき)

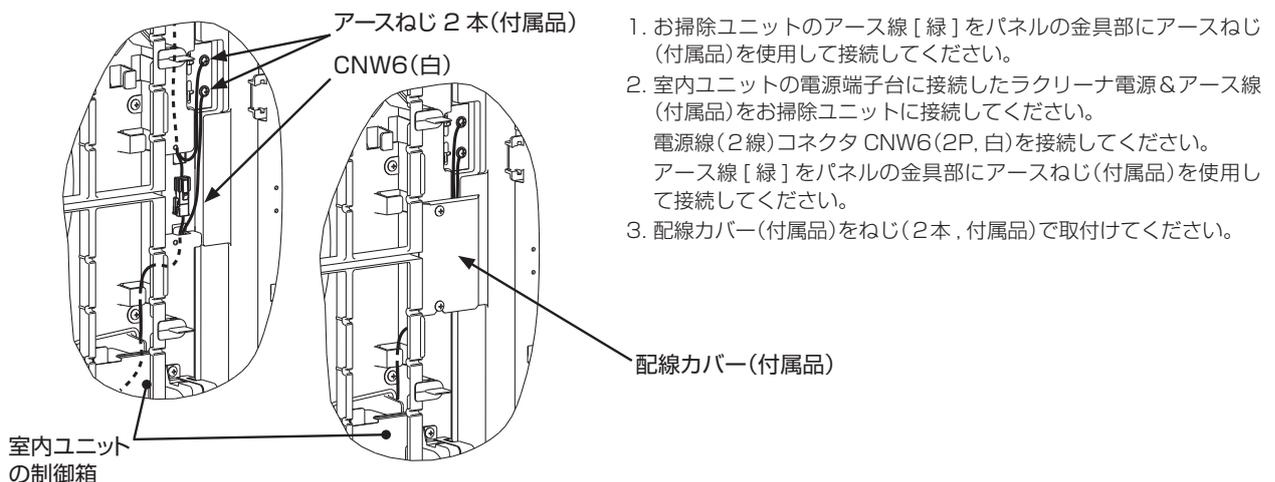


## ⑪ お掃除ユニットの取付け

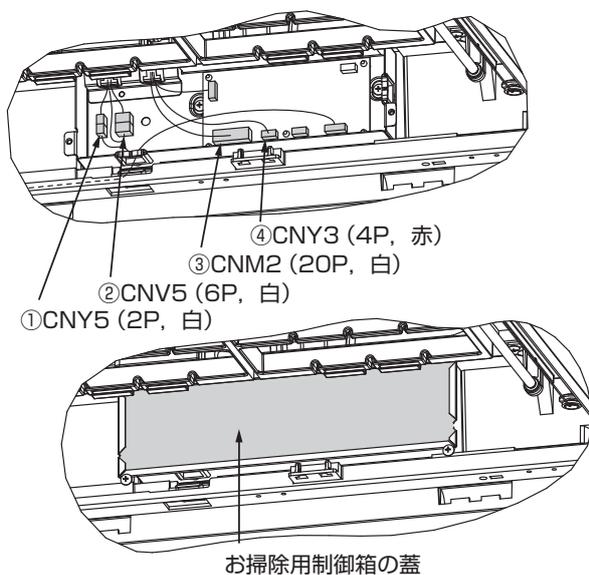
**A**・**C**側のM4ボルト2本に仮止めした後、お掃除ユニットをはめ込みボルトを締めてください。残り**B**・**D**側2本のボルトを締めてください。



## ⑫ 電源線の接続

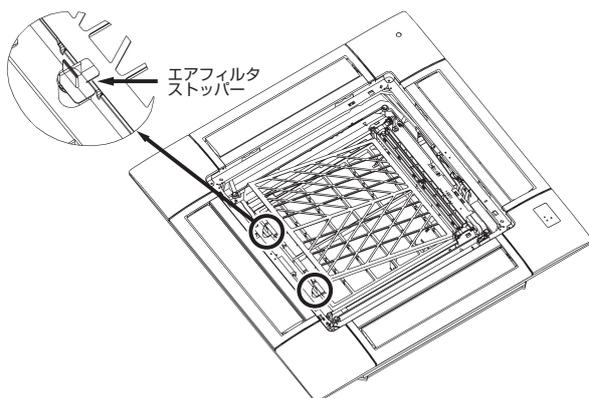


### 13 制御配線の接続



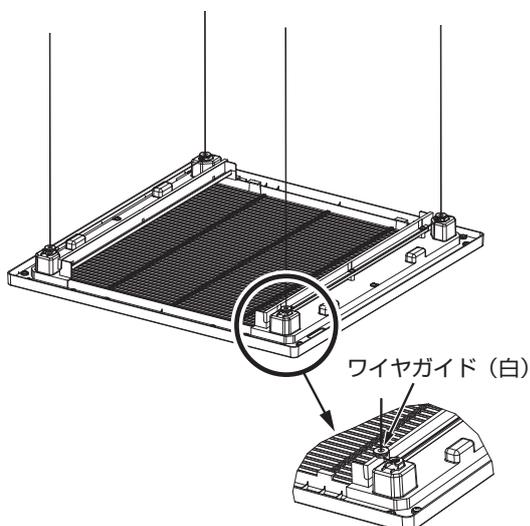
1. パネルのお掃除用制御箱内の配線を接続してください。
  - ①コネクタ CNY5(2P, 白)：グリル用リミットスイッチ
  - ②コネクタ CNV5(6P, 白)：ラクリーナ信号線
  - ③コネクタ CNM2(20P, 白)：お掃除用モータ線 1
  - ④コネクタ CNY3(4P, 赤)：お掃除用モータ線 2
2. パネルのお掃除用制御箱の蓋を取付けてください。

### 14 エアフィルタの取付け



1. ブラシ組立とフレームの間にエアフィルタを装着してください。
2. エアフィルタストップパで固定してください。

### 15 吸込グリルの取付け



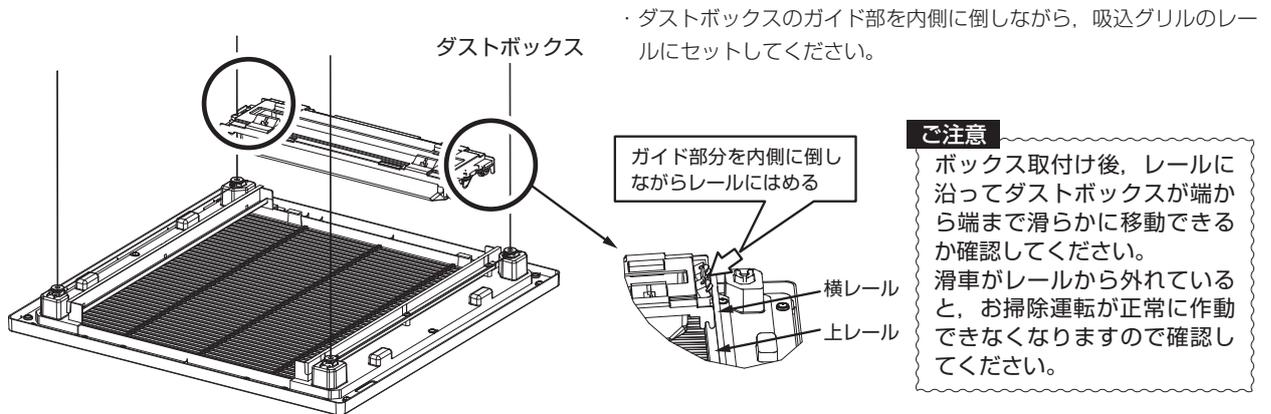
1. 吸込グリル取付け方向には方向性が有ります。吸込グリル方向を決定してください。  
90度回転方向には取付けられません。
2. ワイヤを通してあるワイヤガイドを吸込グリルの4コーナの取付け部に固定して装着します。
3. ワイヤガイドを吸込グリルに外側から内側にスライドさせながら装着してください。  
装着の際、取付け部の隙間をワイヤが通過する様にワイヤの向きに注意して確実に取付けてください。
4. ワイヤガイド装着後、ワイヤの曲り・ねじり・噛み込みがないことを確認してください。

#### ご注意

ワイヤガイドは確実に装着してください。確実に装着されていないと、吸込グリルの自動昇降ができなくなったり、吸込グリルが落下する恐れがあります。ワイヤがお掃除部品に引っ掛かっていないか確認してください。引っ掛かりがあると吸込グリルの昇降・収納ができなくなったりします。

## 据付け工事手順

### ⑯ ダストボックスの取付け



### ⑰ 各種設定

#### <ルーバ動作範囲の設定（フリーフロー設定）>

ワイヤードリモコンを使用することで、吹出口のルーバの動作範囲を変更することができます。本モードで上限位置と下限位置を設定すると、ルーバは設定された上限位置と下限位置の間で動作します。各ルーバ毎に動作範囲の設定が可能です。設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

#### <エアフレックスの設定（ドラフト防止設定）>

お掃除ラクリーナパネルを取付け、配線接続をするだけではエアフレックスは作動しません。エアフレックスを作動させるために、ワイヤードリモコンを使用して、ドラフト防止設定を有効にしてください。本モードで有効に設定するとエアコンの運転開始時にエアフレックスが作動し、運転中は常時エアフレックスが開いています。また、エアコン停止時にエアフレックスは閉じます。各吹出口毎に有効/無効の設定が可能です。設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。  
(ワイヤードリモコン RC-DX2, RC-D4G 以前、ワイヤレスリモコン RCN-D3G 以前のリモコンでは設定できません。)

#### <人感センサの設定（赤外線センサー設定）>

お掃除ラクリーナパネルを取付け、配線接続をするだけでは人感センサは機能しません。人感センサを機能させるために、ワイヤードリモコンを使用して、赤外線センサー設定を有効にしてください。設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。  
(ワイヤードリモコン RC-DX2, RC-D4G 以前、ワイヤレスリモコン RCN-D3G 以前のリモコンでは設定できません。)

#### <吸込グリル昇降の設定（グリル昇降操作）>

お掃除ラクリーナパネルを取付け、配線接続をするだけでは吸込グリルの昇降はできません。吸込グリルの昇降を可能にするために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、吸込グリル昇降を有効にしてください。設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

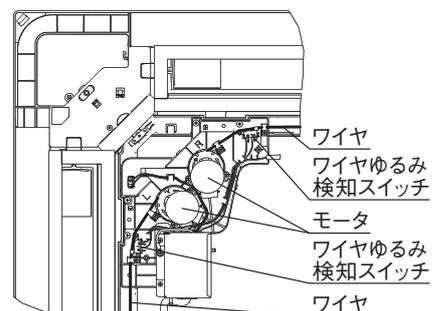
#### <吸込グリル下降長さの設定（降下長設定）>

吸込グリルの下降長さをお好みの下降長さに設定することができます。工場出荷時は2mに設定されています。お好みの下降長さにしたい場合は、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、吸込グリルの下降長さを設定してください。設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

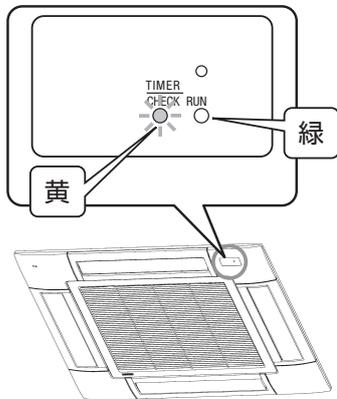
#### ご注意

##### <ワイヤゆるみ検知機構について>

ラクリーナパネルには、ワイヤの絡まり防止のため、「ワイヤゆるみ検知機構」を装備しています。吸込グリルを吊ったワイヤがゆるんだ場合、ワイヤゆるみ検知スイッチが働き、自動昇降用モータが自動停止します。パネル据付け後、グリルが動かない場合、「ワイヤゆるみ検知機構」が作動している可能性がありますので、据付け時にワイヤの噛み込み、絡まり等が無いか、ワイヤ経路をご確認ください。



## 18 吸込グリルの収納



- ・リモコンのグリル昇降で「上がる」を選択して吸込グリルを収納してください。吸込グリルが収納されると、自動でダストボックスセッティングの運動を行います。この間は風量・風向の変更は入力できませんが、終了するまでは実行しません。風量Loでの運転は可能です。
- ・お掃除運転中は、表示部に緑のランプが点灯します。緑の点滅で点検モードを表示します。

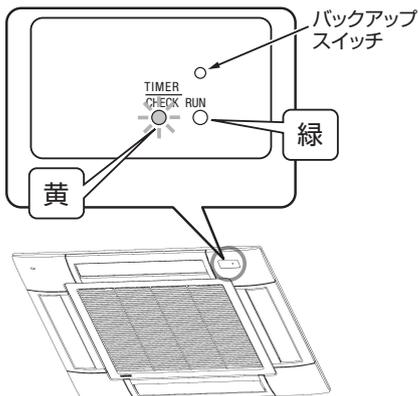
表示部のランプ点灯パターンとその内容		
ランプ点灯パターン	内 容	点検項目
緑と黄の交互点滅	電源投入から 20 秒間	—
消 灯	室内ユニット-お掃除メカ間の通信異常	配線コネクタの差込を確認
緑の連続点滅		
緑の 1 回点滅	位置検知不能	エアフィルタ装着・ダストボックスとレールの装着を確認
緑の 2 回点滅		
緑の 3 回点滅		
緑の 4 回点滅	グリル収納不良	グリルが正しく収納されていません。ワイヤ・ワイヤガイドを確認

## 19 お掃除ラクリーナパネルの初期設定

- 取扱説明書を参照してください。

## 20 お掃除ラクリーナパネルの試運転

- eco タッチリモコンを使用する場合は、取扱説明書を参照してください。
- eco タッチリモコンを使用しない場合



### 1 バックアップスイッチを押す

表示部のバックアップスイッチを押してください。  
バックアップスイッチを押す時間により試運転モードが異なります。

ON 時間	試運転内容
3 秒未満	エアフィルタ清掃開始
3 ~ 6 秒	ブラシ清掃開始
6 秒以上	表示消灯

お掃除試運転中は表示部に緑のランプが点灯します。緑の点滅で点検モードを表示します。この間は、風量・風向の変更は入力できませんが、終了するまでは実行しません。風量Loでの運転は可能です。運転中にバックアップスイッチを押すと停止します。

表示部のランプ点灯パターンとその内容		
ランプ点灯パターン	内 容	点検項目
緑と黄の交互点滅	電源投入から 20 秒間	—
消 灯	室内ユニット-お掃除メカ間の通信異常	配線コネクタの差込を確認
緑の連続点滅		
緑の 1 回点滅	位置検知不能	エアフィルタ装着・ダストボックスとレールの装着を確認
緑の 2 回点滅		
緑の 3 回点滅		
緑の 4 回点滅	グリル収納不良	グリルが正しく収納されていません。ワイヤ・ワイヤガイドを確認

### お知らせ

エアフィルタ清掃は、約 1 時間 20 分で終了します。  
エアフィルタ面を 11mm/分 でゆっくり拭き取ります。

(b) 天井埋込形 2 方向吹出し (FDTWZ)

PJB012D301C 

(i) 室内ユニットの据付

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。  
電気配線 (室内) は、282 ページをご覧ください。リモコンの取付方法は、200 ページをご覧ください。  
ワイヤレスキットの取付方法は、413 ページをご覧ください。  
室外ユニットの据付方法、電気配線 (室外) 及び冷媒配管工事方法は、251 ページをご覧ください。  
また、故障診断は、327 ページをご覧ください。  
本ユニットは、必ずパネルを取付けてご使用ください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**△警告**、**△注意**、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**△警告**の欄にまとめて記載しています。しかし、**△注意**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。  絶対に行わない  必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方 (エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など) をお客様に説明してください。この据付説明書は、取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

**△警告**

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。  
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。 
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。  
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。 
- 小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13)  
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。 
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。  
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。 
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。  
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。 
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。  
強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。 
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。  
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。 
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。  
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。 
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。 
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。 
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。  
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。 
- 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。  
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。 
- 配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用のものを使用する。  
既存 (R22) の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。 
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。  
フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。 
- ドレン配管は、イオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。  
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。 
- 据付作業では、圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。  
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。 
- ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。  
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。 
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは、専門業者に依頼する。  
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。 
- 改修は、絶対に行わない。また、修理は、お買い上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。 
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。  
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。 
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。  
点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。 
- パネルやガードを外した状態で運転しない。  
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。 
- 元電源を切った後に電気工事を行う。  
感電、故障や動作不良の原因になります。 

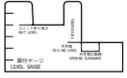
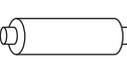
## ⚠注意

<p>●アース（接地）を確実に行う。 アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。</p>	⚡
<p>●漏電遮断器は、必ず取付ける。 漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。</p>	!
<p>●正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。 不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。</p>	!
<p>●正しい容量のヒューズ以外は、使用しない。 針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。 万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。 熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。 スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。</p>	!
<p>●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。 室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。 保存物の品質低下などの原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。 インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。 リモコンの故障や変形の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●次の場所への据付けは避ける。 ・可燃性ガスの漏れる恐れがある所 ・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所 ・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など） ・高周波を発生する機械を使用する所 ・海浜地区等塩分の多い所 ・煙突の煙がかかる所 ・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所 ・車両・船舶等移動するものへの設置 ・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所 ・積雪の多い所 ・標高1000m以上の所 性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●次の場所への室内ユニットの据付けは避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。 ・吸込口、吹出口に風の障害物がある所 ・強度が不十分で振動が発生する所 ・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所 ・高周波に影響される機器のある所（TVおよびラジオ等の近傍） ・ドレンの排水がとれない所 性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。</p>	⊘
<p>●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。 湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。</p>	⊘
<p>●長期使用で傷んだままの据付け台を使用しない。 傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。 溶接作業時などに発生するスパッタがユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。</p>	!
<p>●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。 不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。</p>	!
<p>●GHP（ガスヒートポンプ）の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。 室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。</p>	⊘
<p>●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れないことを確認してください。 万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。</p>	!
<p>●ドレン配管は、下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。 試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。</p>	⊘
<p>●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。 不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。</p>	!
<p>●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。 小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。 また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。</p>	⊘
<p>●製品の運搬は十分注意して行う。 20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。 素手でフィンなどに触れるとケガをすることがありますので保護具をご使用ください。</p>	!
<p>●梱包材の処理は確実にを行う。 梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。</p>	!
<p>●フィルタをはずしたまま運転しない。 内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●濡れた手でスイッチを操作しない。 感電の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●運転中の冷媒配管を素手で触れない。 運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。</p>	⊘
<p>●エアコンを水洗いしない。 感電の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●運転停止後、すぐに電源を切らない。 必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。 火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。</p>	⊘

## ①据付けのまえに

- 据付はこの据付け説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
  - 機種・電源仕様
  - 配管・配線・小物部品
  - 付属品

### 付属品

本体吊り込み用		冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金 (M10)	レベルゲージ	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	バンド	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	ドレンホース	ホース クランプ
								
8個	1個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	1個
ユニット吊下げ用	ユニット吊込み調整用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用

## ②室内ユニットの据付け場所の選定

- 据付け場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
  - ・冷風または温風が十分に行きわたる所。  
据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
  - ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
  - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
  - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
  - ・侵入外気の影響のない所。
  - ・直射日光の当たらない所。
  - ・周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。

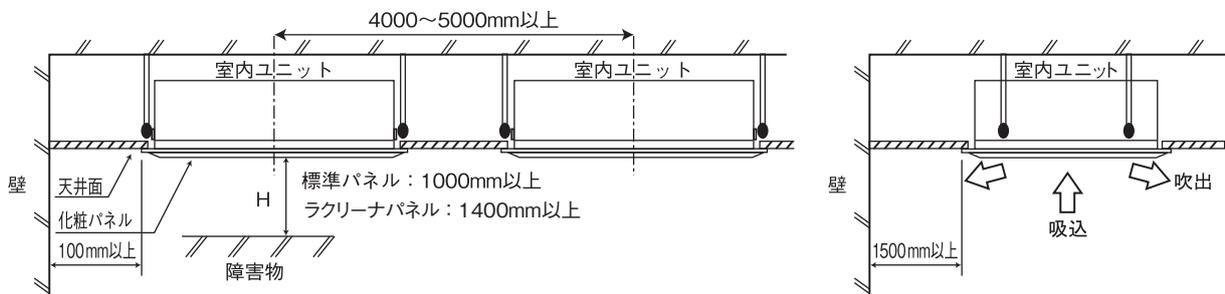
〔本ユニットはJIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度・曇り気の状態では水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用できる可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。〕

  - ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
  - ・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
  - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
  - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
  - ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。

ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
- 据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁などで補強して据付け作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下により、ケガの原因になります。
- ワイヤレス機種を2台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するためユニット間を6m以上離してください。
- 室内ユニットを隣接して設置する場合は、ユニット間距離を4～5m以上離して設置してください。

### 室内ユニット据付けスペース

- 据付高さは2.5m以上としてください。



## ③据付け前の準備

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
  - システム天井 (グリッド天井・ライン天井) の場合  
吊り長さ (吊りボルト長さ) 5000mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
  - 強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合  
吊り長さ (吊りボルト長さ) 1000mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
- 吊りボルト・ナット・バネ座金 (M10) を4組現地にて手配してください。

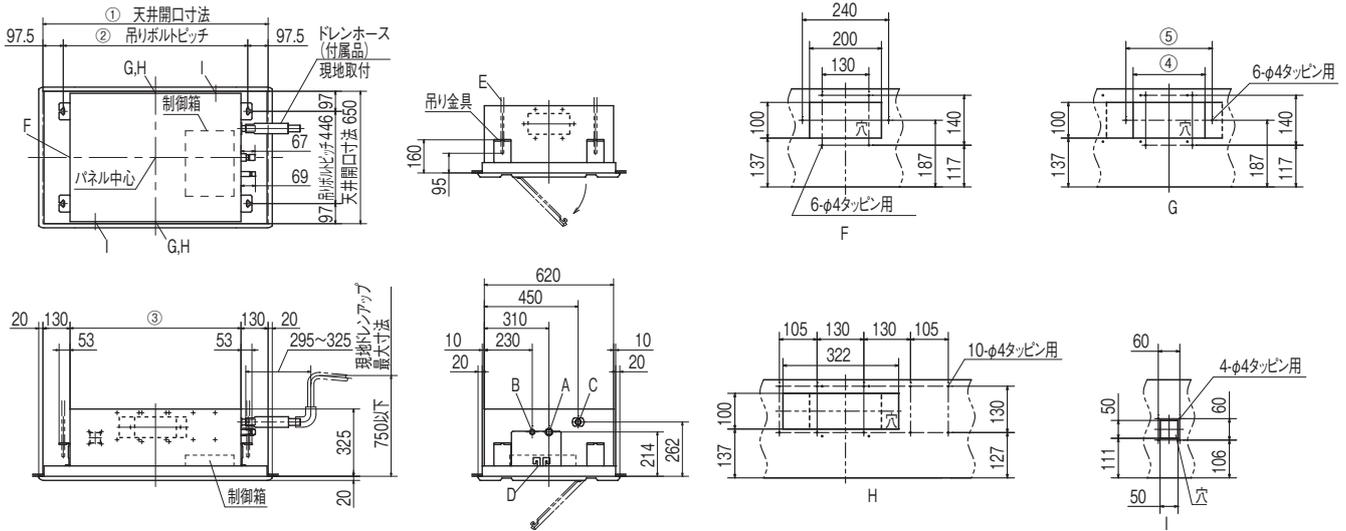
### ③ 据付け前の準備の続き

#### 天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置

(mm)

記号	内容	記号	内容
A	冷媒ガス側接続口	F	OA 取入口
B	冷媒液側接続口	G	吹出分岐ダクト接続口
C	ドレン配管側接続口	H	加湿器接続口
D	電源取入口	I	加湿器余剰水接続口
E	吊りボルト		

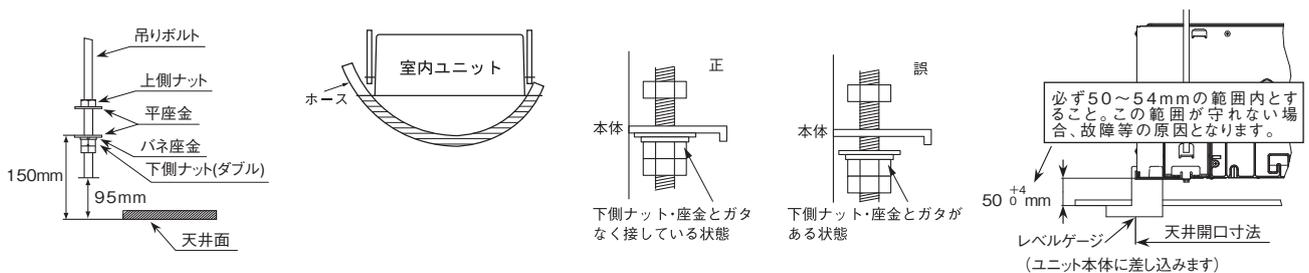
シリーズ	機種	①	②	③	④	⑤
店舗	40~80形	1080	885	820	200	240
	112~160形	1795	1600	1535	440	480
ビル空調 ガスヒートポンプ	22~80形	1080	885	820	200	240
	90~160形	1795	1600	1535	440	480



### ④ 室内ユニットの据付け

#### 作業手順

- 据付場所に天井開口法をあけてください。
- 所定の位置に吊りボルトを設置してください。
- 吊りボルトは4本使用し、1本当たり500Nの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
- 吊りボルト長さは、天井面より95mm程度上としてください。吊りボルトの下側ナット4か所は天井面から150mm程度に仮止めし、上側ナット4か所はユニット吊り込みおよび高さ調整時に支障ないよう、下側ナットから十分距離をとった位置に仮止めし、ユニット本体を吊り込んでください。
- ユニット吊り込み後、付属のレベルゲージを吹出口にセットし、ユニット吊り込み高さを調整してください。高さ調整は、上側ナット4か所を緩めた状態で、下側ナット4か所で調整してください。ユニット吊り金具4か所が下側ナット・座金にガタなく接していることを確認してください。
- ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。  
(ユニット両端での高さ許容差は3mm以内)
- 高さ調整・水平度調整後、上側ナット4か所を締め付けてユニットを固定してください。



## ④室内ユニットの据付けの続き

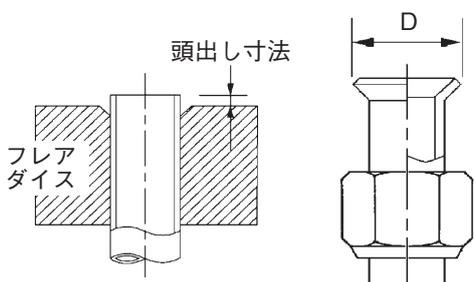
### ユニット据付け時のお願い

- 上側ナットで高さ調整を行わないでください。ユニット本体に無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかつたり、ファン干渉音が発生することがあります。
- ユニットは必ず水平に据付け、ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付けに不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
- パネルと天井面、およびパネルとユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。

## ⑤冷媒配管

### 冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品をご使用ください。既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料で確認すること。
- 1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品を使用すること。
- 2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。



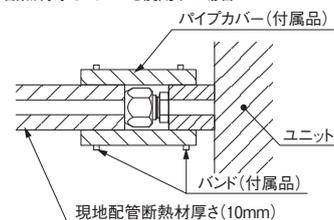
配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N·m
		リジッド (クラッチ式)			
		R410A 用	従来ツール		
φ 6.35	0.8	0 ~ 0.5	0.7 ~ 1.3	8.9 ~ 9.1	14 ~ 18
φ 9.52	0.8			12.8 ~ 13.2	34 ~ 42
φ 12.7	0.8			16.2 ~ 16.6	49 ~ 61
φ 15.88	1			19.3 ~ 19.7	68 ~ 82
φ 19.05	1.2			23.6 ~ 24.0	100 ~ 120

- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管 (C1220T、JIS H 3300) をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- R32またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR32用またはR410A用ツールを使用してください。

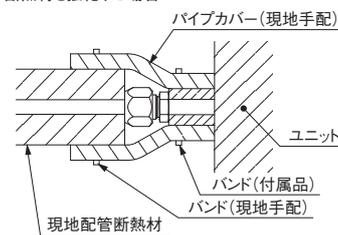
### 作業手順

1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。  
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。(このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません。)
- フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)
2. 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。  
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。  
また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。  
※フレア接続は、以下のように行ってください。  
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
3. 室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
  - ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。  
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
  - ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
  - 高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4. 冷媒は室外ユニットに充填されています。  
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>



<断熱材を強化する場合>



注意

同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

## ⑥ ドレン配管

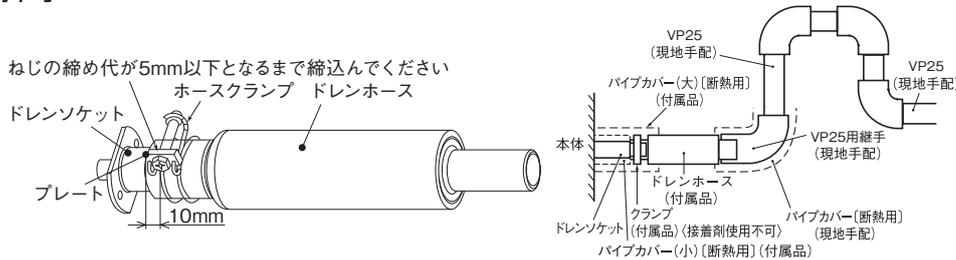
### ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。  
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管は、イオウ系ガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。  
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は、下り勾配 (1/100 以上) とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。  
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

### 作業手順

1. 付属のドレンホース (軟質塩ビパイプ) はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から 10mm 程度のところに取付け、ねじの締め代が 5mm 以下となるまで締込んでください。

#### ●接着剤使用不可



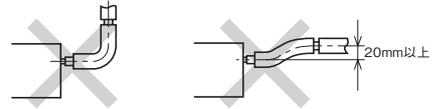
2. ドレンホース (硬質塩ビパイプ) に、VP25用継手 (現地手配) を接着・接続し、この継手に、VP25 (現地手配) を接着・接続してください。

※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25を使用してください。

#### ●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。

乾燥後、フレキシ部に力が加わった場合、フレキシ部が破損することがあります。

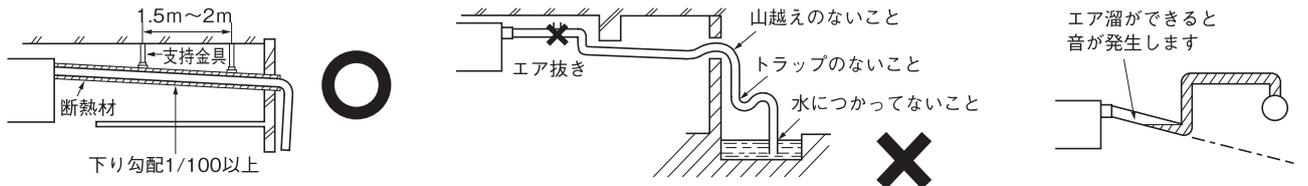
- ドレンホースは、ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。



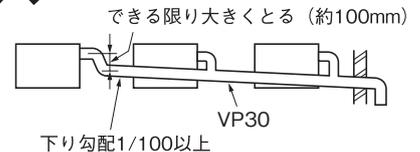
3. ドレン配管は下り勾配 (1/100 以上) とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。

- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力が加えないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。

- エア抜きは絶対に設けないでください。



- 複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約 100mm 下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はVP30以上を使用してください。



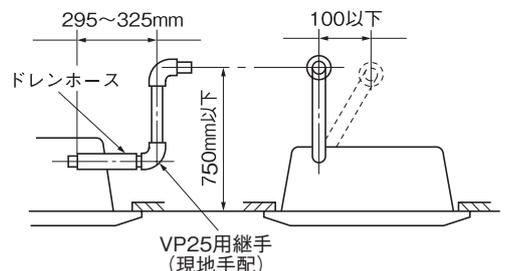
4. ドレン配管の断熱施工を行ってください。

- 結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。

※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー (小) をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー (大) にてパイプカバー (小)、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

### ドレンアップする場合

- ドレン配管の出口高さは、天井面より 750mm まで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。



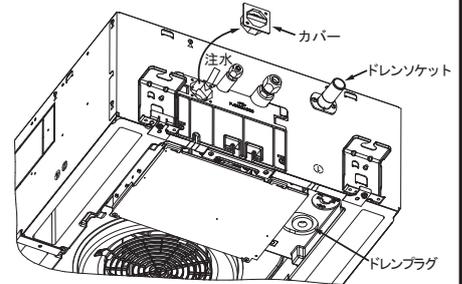
## ⑥ ドレン配管のつづき

### ドレン排水テスト

- ドレン配管工事後の完了後に、排水が確実に実行されていることを、接続部およびユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
- 暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。

### 作業手順

1. 配管リッド部のカバー（ねじ 2 個）を取外し、下図の位置より給水ポンプなどを使用して、電気部品に水をかけないように、本体ドレンパンの中へ約 1000cc 注水してください。
2. ドレン排水が確実に実行されること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。ドレン排水の確認は、ドレンソケット部（透明）より確認できます。
3. 排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。



### ドレンポンプ運転方法

#### ○電気配線工事が完了している場合

ドレンポンプの運転がリモコン（ワイヤード）操作により可能です。運転操作方法は、電気配線工事説明書の「ドレンポンプ運転操作」をご覧ください。

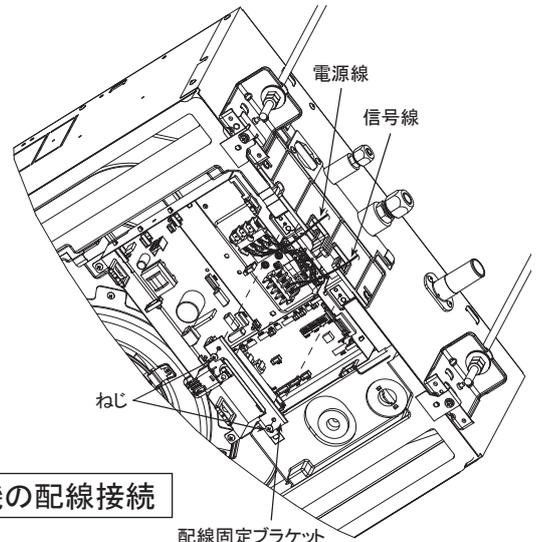
#### ○電気配線工事が完了していない場合

室内ユニット基板上的の SW7-1 を ON にし、かつ、基板上的のコネクタ CnB を抜いた後、電源 ON（端子台①、②へ AC200V）すると、ドレンポンプのみ連続運転します。排水確認後は、必ず SW7-1 を元の状態（OFF）に戻し、かつ、基板上的のコネクタ CnB を差し込んでください。

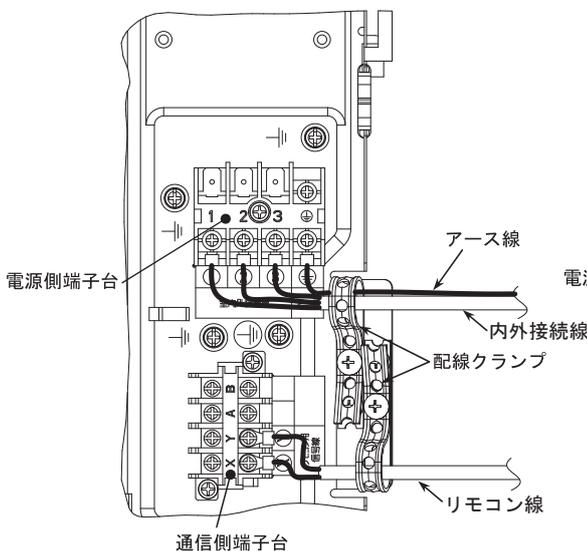
## ⑦ 電気配線取出位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電源線と信号線は、同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D 種設置工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

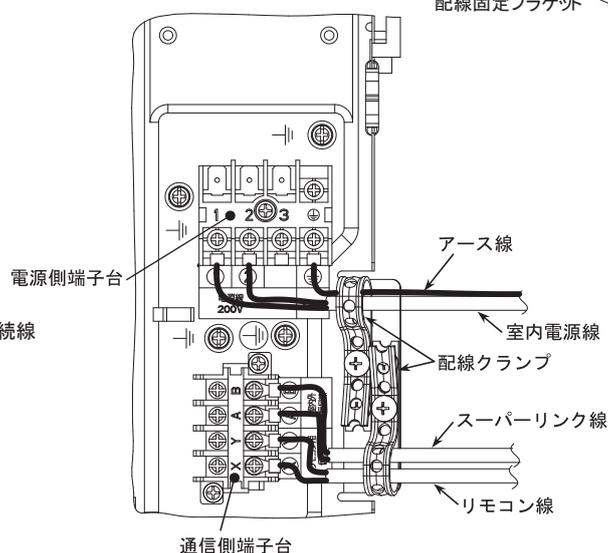
1. 制御箱の蓋（ねじ 2 個）と配線固定ブラケット（ねじ 2 個）を取外してください。
2. 各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
3. 各配線を配線クランプで固定してください。
4. 取外した部品を元通りに取付けてください。



### シングル機の配線接続



### マルチ機の配線接続



## ⑧ パネルの取付け

- パネルは、電気配線工事完了後に、ユニット本体に取付けてください。
- パネルの取付方法は、次ページをご覧ください。

## ⑨ ユニット据付工事完了後のチェック項目

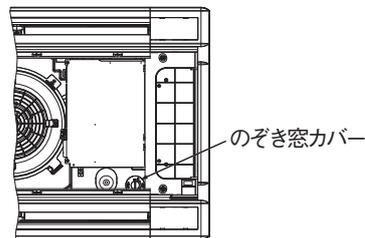
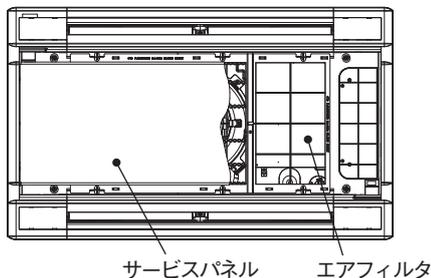
- ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

## ⑩ ドレンパン汚れ確認（メンテナンス）

### ドレンパン汚れ確認方法

- パネル本体を取外さずに、ドレンポンプ吸込口部のドレンパンの汚れが確認できます。  
(高性能フィルタなどオプションスペース取付け時は確認できません。)
1. サービスパネルとエアフィルタを取外してください。
  2. ドレンパンコーナーにあるのぞき窓カバーを取外してください。
  3. のぞき窓からドレンパンの汚れを確認してください。  
汚れが多い場合は、ドレンパンを取外し、ドレンパンを清掃してください。
  4. 汚れ確認後、のぞき窓カバーを確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。

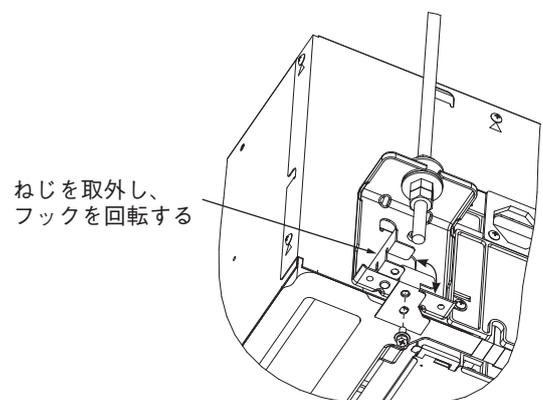
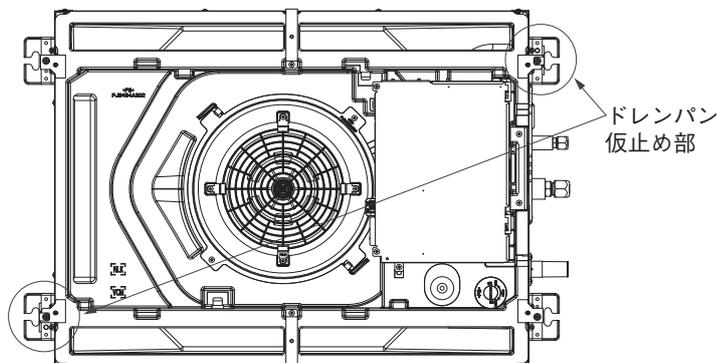


サービスパネル エアフィルタ

のぞき窓カバー

### ドレンパン取外し時の注意事項

- ドレンパンには仮止め機構がついています。ドレンパン取外し時、および取付け時には注意願います。  
ドレンパン取付けねじ（4個）取外し後、仮止めフックを外してください。  
ドレンパン取付け時は、仮止めフックを取付け後、確実にねじで固定してください。



## (ii) パネルの据付

ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。

PJB012D301C 

### 安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**△警告**、**△注意**、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**△警告**の欄にまとめて記載しています。しかし、**△注意**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。  絶対に行わない  必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方の方法など）をお客様に説明してください。この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

#### 警告

- |   |   |
|---|---|
| ●据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。<br>ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。                           |    |
| ●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。<br>据付けに不備があると・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。                                    |    |
| ●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。<br>当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。  |    |
| ●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。<br>電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。 |    |
| ●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。<br>接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。                     |  |
| ●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。<br>カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。               |  |
| ●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。<br>ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。                        |  |
| ●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。<br>修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。   |  |
| ●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。<br>点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。              |  |
| ●パネルやガードを外した状態で運転しない。<br>機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。                                |  |
| ●元電源を切った後に電気工事を行う。<br>感電、故障や動作不良の原因になります。   |  |

## お願い <ラクリーナパネル>

- ・サービスパネルの動作範囲の周辺および下方には、障害物を置かないでください。
- ・電源投入前にパネルを取付けた場合は、サービスパネルの昇降動作はできません。
- ・電源投入前にサービスパネルを収納する場合は、付属のサポートで仮固定する事ができます。
- ・電源投入後は、付属のサポートが外してあることを確認してから昇降動作を行ってください。
- ・サービスパネル取付け後の初回は、リモコンで「上げる」の操作を行い、サービスパネルを正規位置に収納してください。（マイコンが収納位置を記憶します。）
- ・ワイヤは、折り曲げ、ねじり、噛み込み等により傷ついたり、たばこ等の火が触れないようにしてください。

### ① 据付のまえに

- ・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
- ・右図の付属品を確認してください。

#### 付属品

ボルト		6本	パネル取付用
サポート		4本	サービスパネル仮止め用 (ラクリーナパネルのみ)

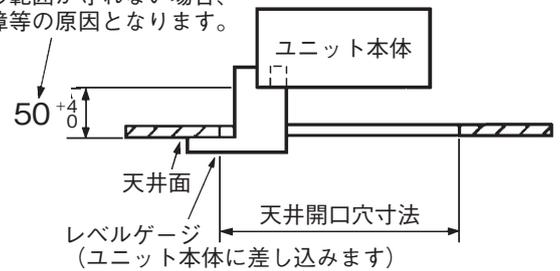
## ② 本体の取付レベルの確認

- ・ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。
- ・ユニット本体と同梱されているレベルゲージで本体高さ及び天井開口寸法が正しいことを確認してください。
- ・ユニット本体と天井材との取付レベルを確認してください。
- ・ユニット本体付属のレベルゲージを吹出口にセットし、本体の吊込み高さを調整してください。
- ・レベルゲージはパネル取付前に取外してください。

### ご注意

ユニット本体と天井材との高さは、パネル取付けの際、パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。パネルが変形し破損の恐れがあります。

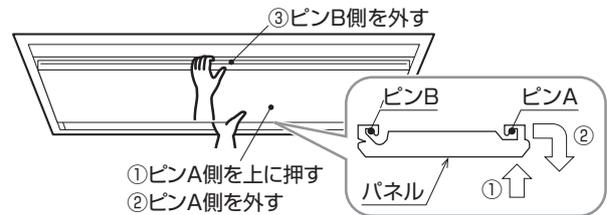
必ず50~54の範囲内とすること。  
この範囲が守れない場合、故障等の原因となります。



## ③ サービスパネルの取外し

<標準パネルの場合>

1. サービスパネルの片側（ピンA側）を上押ししてください。
2. ピンAからパネルを外してください。
3. ピンB側を外し、パネルを取外してください。

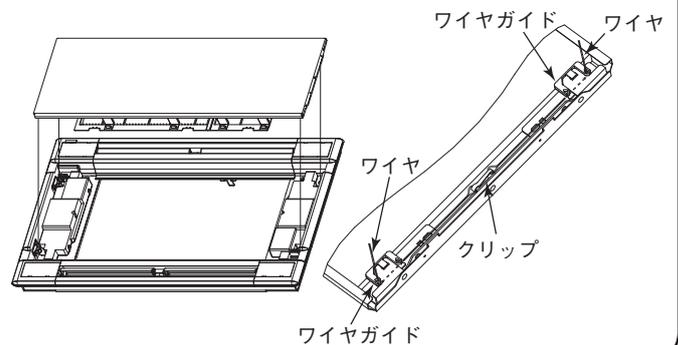


<ラクリーナパネルの場合>

1. サービスパネルを少し持ち上げて、サービスパネルを開けます。
2. サービスパネルの4コーナーに引掛けてあるワイヤをワイヤガイドから取外してください。

### ご注意

サービスパネルはゆっくり持ち上げてください。ワイヤおよびワイヤガイドが破損する恐れがあります。

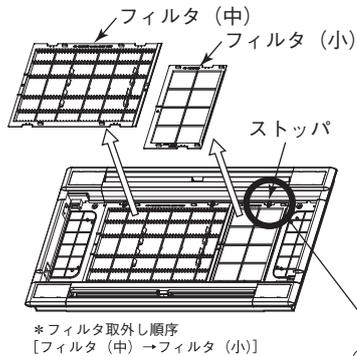


## ④ フィルタの取外し

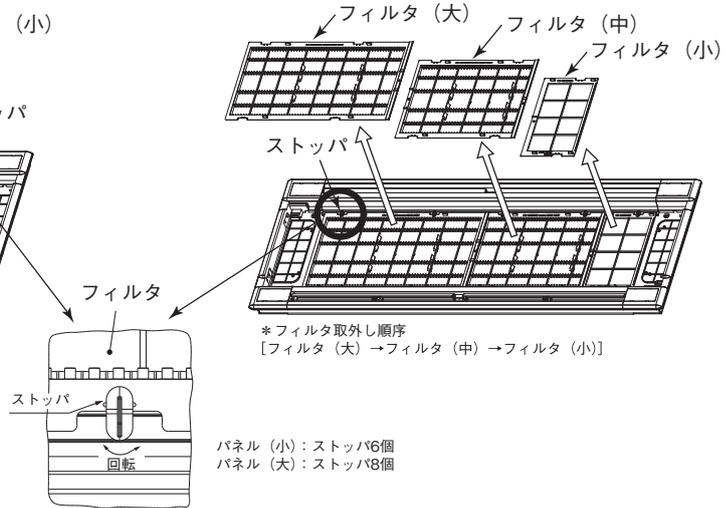
### <標準パネルの場合>

・フィルタを押さえ、ストッパを回転させてフィルタを取外してください。

パネル (小)



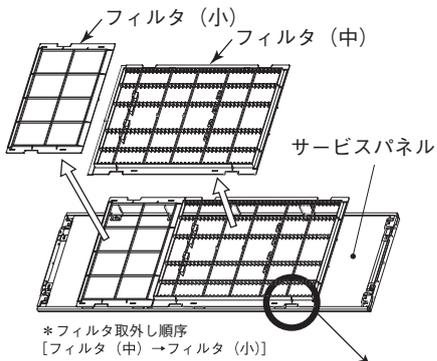
パネル (大)



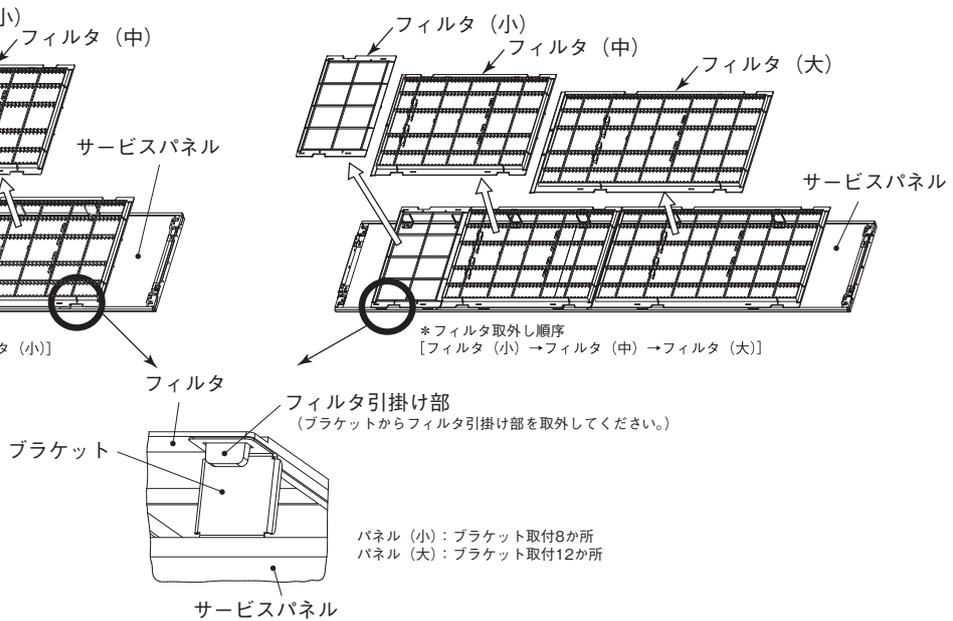
### <ラクリーナパネルの場合>

・フィルタをブラケットから取外してください。

パネル (小)



パネル (大)

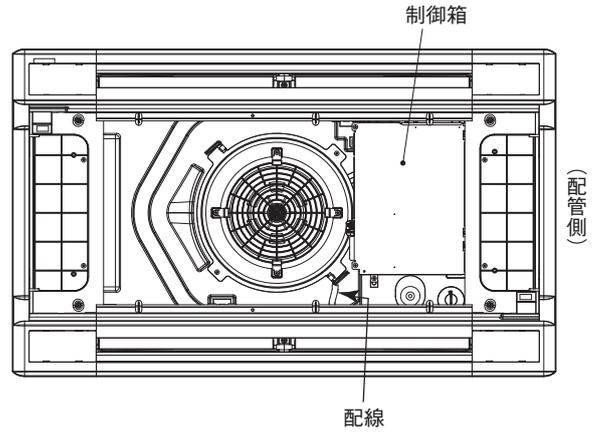


## ⑤ パネルの取付方向

1. パネルの取付方向はユニット本体に対し方向性があります。
  - ・パネルは、右図の様に電気配線が制御箱に近くなる方向で取付けてください。

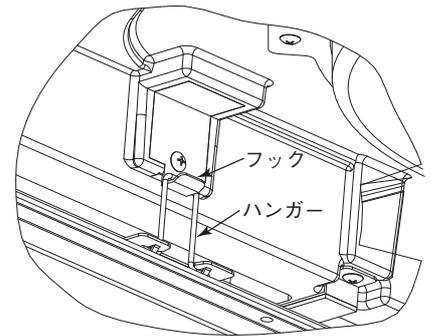
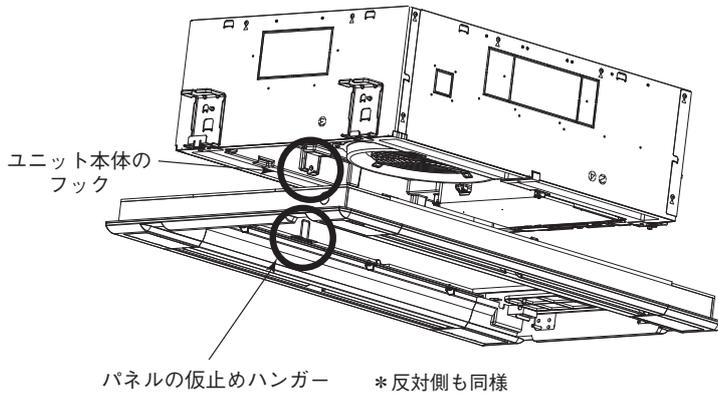
### ご注意

- ・右図以外の方向で取付けると、エアフィルタと制御箱が干渉し風漏れの原因となります。
- ・また電気配線の接続ができません。

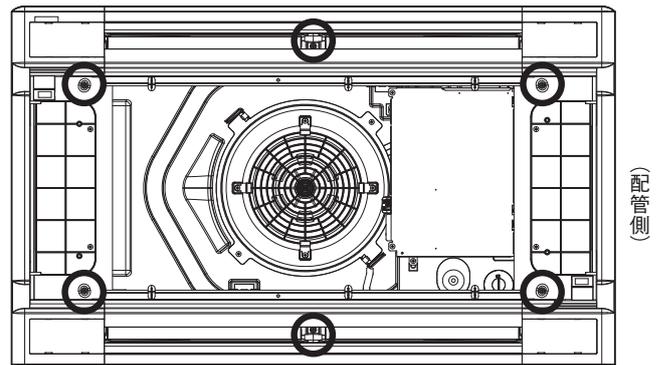


## ⑥ パネルの取付

1. パネルの仮止め
  - ・パネルの仮止め用ハンガーを起こします。(2か所)
  - ・パネルの仮止め用ハンガーをユニット本体のフックにかけて、パネルを本体に吊ります。



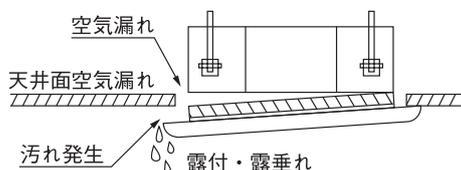
2. パネルのユニット本体への固定
  - ・パネル付属のボルト6本を用いて、ユニット本体に締付けてください。



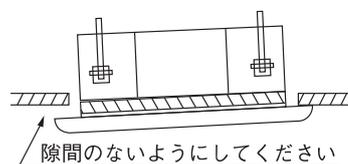
○：パネルのユニット本体への固定部

### ご注意

- ・吊りボルトの締込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締込んでください。



- ・吊りボルトを締込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニット本体の高さを再調整してください。



(c) 天井埋込形 1 方向吹出し (FDTSZ)

PJC012D303B 

(i) 室内ユニットの据付

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。  
電気配線 (室内) は、282 ページをご覧ください。リモコンの取付方法は、200 ページをご覧ください。  
ワイヤレスキットの取付方法は、415 ページをご覧ください。  
室外ユニットの据付方法、電気配線 (室外) 及び冷媒配管工事方法は、251 ページをご覧ください。  
また、故障診断は、327 ページをご覧ください。  
本ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確실히行ってください。
- ここに示した注意事項は、**△警告**、**△注意** に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**△警告**の欄にまとめて記載しています。しかし、**△注意**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。  絶対に行わない  必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方 (エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など) をお客様に説明してください。この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

 警告

●据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。	
●据付工事は、この据付説明書に従って確실히行う。 据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	
●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13) 限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。	
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。 冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	
●据付けは、重量に十分耐える所に確실히行う。 強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。	
●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。 据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。	
●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。 空気が混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	
●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	
●配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用のものを使用する。 既存 (R22) の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。	
●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。 フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。	
●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。 室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。	
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。 冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	
●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。 ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	
●改修は絶対に行わない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	
●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。 据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	

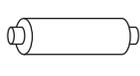
## ⚠注意

<p>●アース（接地）を確実に行う。 アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になることがあります。</p>	⚠
<p>●漏電遮断器は必ず取付ける。 漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になることがあります。</p>	⚠
<p>●正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。 不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。</p>	⚠
<p>●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。 針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。 万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。 熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。 スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。</p>	⚠
<p>●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。 室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。 保存物の品質低下などの原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。 インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。 リモコンの故障や変形の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●次の場所への据付けは避ける。 ・可燃性ガスの漏れる恐れがある所 ・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所 ・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など） ・高周波を発生する機械を使用する所 ・海浜地区等塩分の多い所 ・煙突の煙がかかる所 ・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所 ・車両・船舶等移動するものへの設置 ・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所 ・積雪の多い所 ・標高1000m以上の所 性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●次の場所への室内ユニットの据付けは避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。 ・吸込口、吹出口に風の障害物がある所 ・強度が不十分で振動が発生する所 ・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所 ・高周波に影響される機器のある所（TVおよびラジオ等の近傍） ・ドレンの排水がとれない所 性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。</p>	⊘
<p>●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。 湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。</p>	⊘
<p>●長期使用で傷んだままの据付け台を使用しない。 傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。 溶接作業時などに発生するスパッタがユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。</p>	⚠
<p>●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。 不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。</p>	⚠
<p>●GHP（ガスヒートポンプ）の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。 室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。</p>	⊘
<p>●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れないことを確認してください。 万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。</p>	⚠
<p>●ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。 試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。</p>	⊘
<p>●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。 不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。</p>	⚠
<p>●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。 小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。 また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。</p>	⊘
<p>●製品の運搬は十分注意して行う。 20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。 素手でフィンなどに触れるとケガをすることがありますので保護具をご使用ください。</p>	⚠
<p>●梱包材の処理は確実にを行う。 梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。</p>	⚠
<p>●フィルタをはずしたまま運転しない。 内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●濡れた手でスイッチを操作しない。 感電の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●運転中の冷媒配管を素手で触れない。 運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。</p>	⊘
<p>●エアコンを水洗いしない。 感電の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●運転停止後、すぐに電源を切らない。 必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。 火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。</p>	⊘

## ①据付けのまえに

- 据付けはこの据付け説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
  - 機種・電源仕様
  - 配管・配線・小物部品
  - 付属品

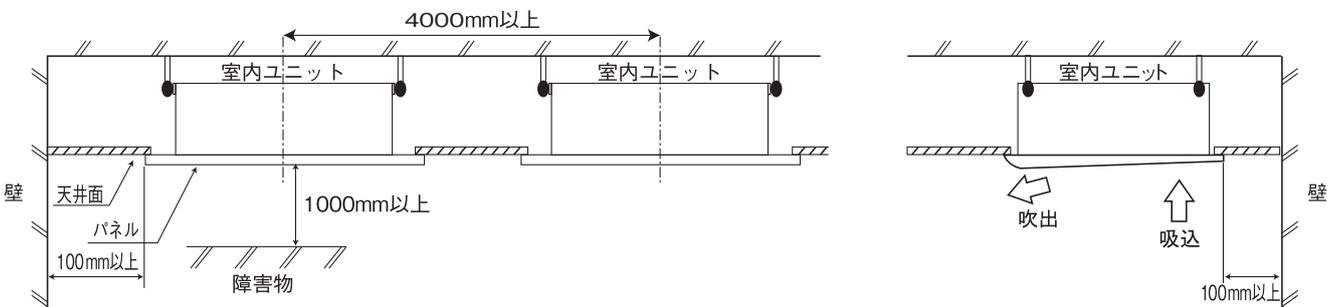
### 付属品

本体吊り込み用	冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金 (M10)	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	バンド	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	ドレンホース	ホース クランプ
							
8個	1個	1個	4個	1個	1個	1個	1個
ユニット 吊下げ用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー 固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管 接続用	ドレンホース 取付用

## ②室内ユニットの据付け場所の選定

- ①据付け場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
- ・冷風または温風が十分に行きわたる所。  
据付け高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
  - ・据付け・サービス時の作業スペースが確保できる所。
  - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
  - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
  - ・侵入外気の影響のない所。
  - ・直射日光の当たらない所。
  - ・周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
- 〔本ユニットは JIS 露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度・曇り気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用できる可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。〕
- ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
  - ・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
  - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
  - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
  - ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
- ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
- ②据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われる場合は板、桁等で補強して据付け作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。
- ③ワイヤレス機種を2台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するためユニット間を6m以上離してください。
- ④室内ユニットを隣接して設置する場合は、ユニット間距離を4m以上離して設置してください。

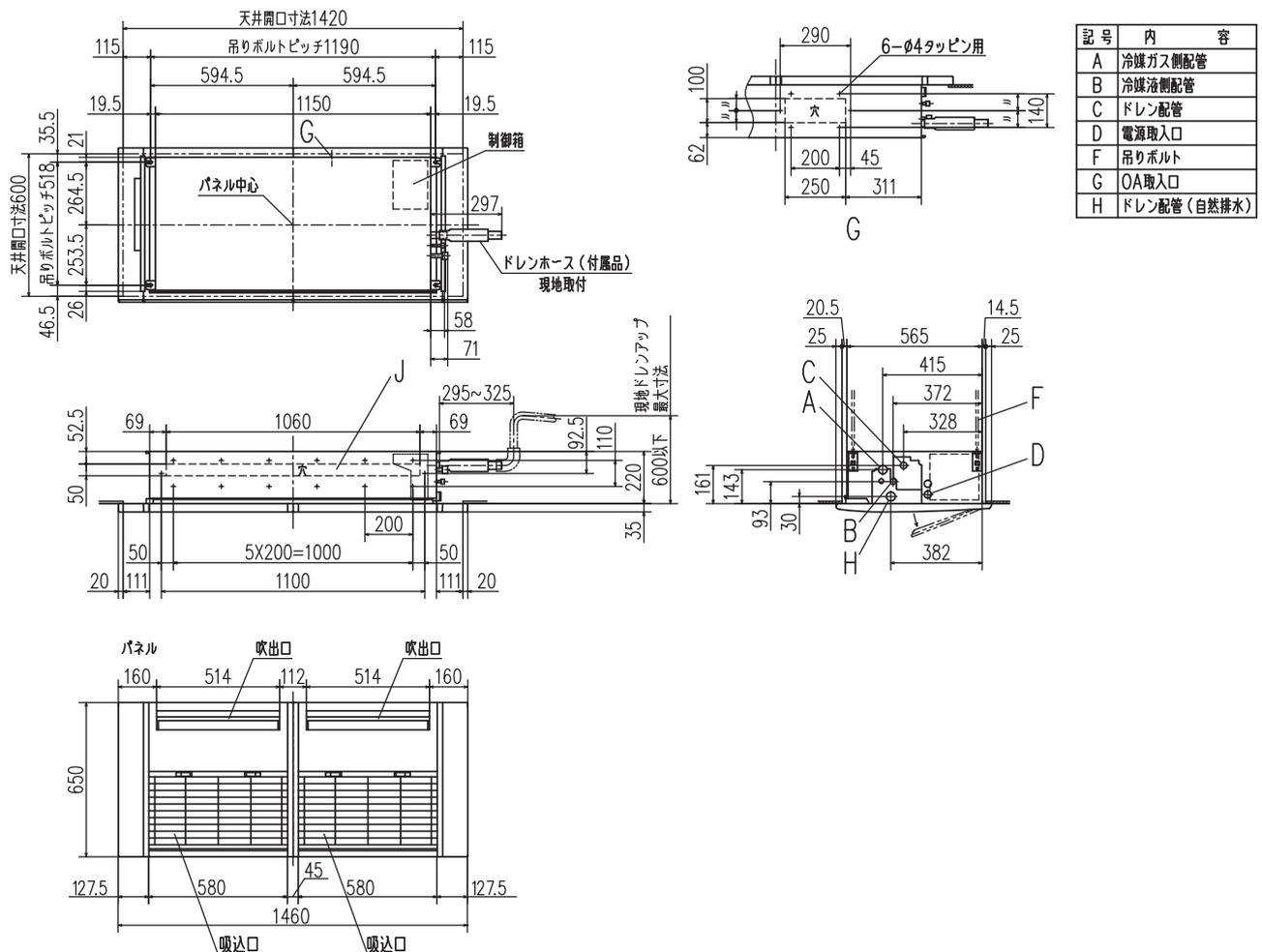
### 室内ユニット据付けスペース



### ③据付け前の準備

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
  - システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
    - 吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
    - 強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
      - 吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
  - 吊りボルト・ナット・バネ座金（M10）を4組現地にて手配してください。

#### 天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置



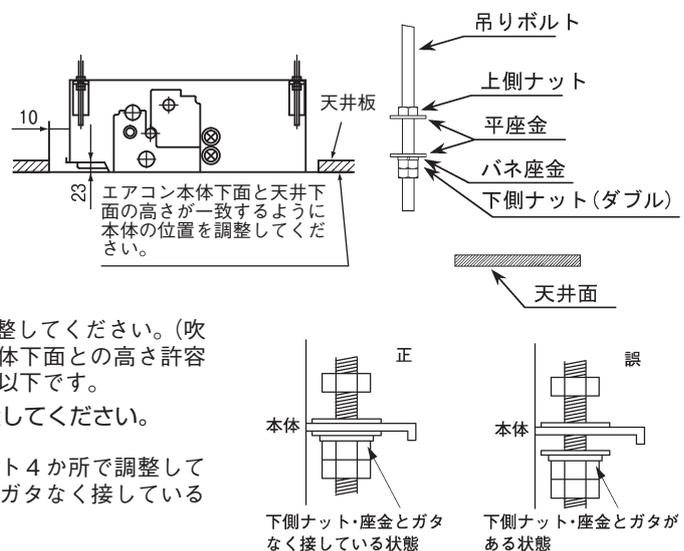
### ④室内ユニットの据付け

#### 作業手順

1. 天井に1420×600の穴をあけてください。
2. 吊りボルト位置（1190×518）を決めてください。
3. 吊りボルトは、4本使用し、1本当り500Nの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
4. 吊りボルト長さは、天井面より165mm程度上としてください。吊りボルトの下側ナット4箇所は天井面から217mm程度に仮止めし、上側ナット4箇所はユニット吊り込み及び高さ調整時に支障ないよう、下側ナットから十分距離をとった位置に仮止めし、ユニット本体を吊り込んでください。
5. ユニット下面と天井面が一致するようにユニット高さを調整してください。（吹出口部分は、天井裏に入ります。）天井下面とエアコン本体下面との高さ許容差は、天井下面に対し、エアコン本体下面が上方に5mm以下です。

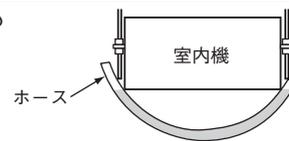
**注意** エアコン本体が天井下面より下方にならないよう設置してください。

高さ調整は、上側ナット4か所を緩めた状態で、下側ナット4か所調整してください。ユニット吊り金具4か所が下側ナット・座金にガタなく接していることを確認してください。



## ④ユニット据付けのつづき

- ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。(ユニット両端での高さ許容差は3mm以内)
- 高さ調整・水平度調整後、上側ナット4か所を締付けてユニットを固定してください。



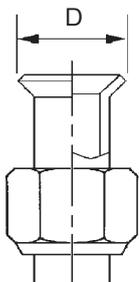
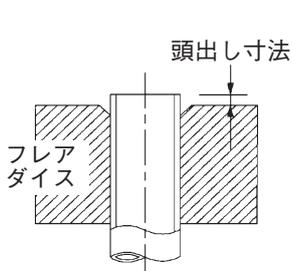
### ユニット据付け時のお願い

- 上側ナットで高さ調整を行わないでください。ユニット本体に無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかつたり、ファン干渉音が発生するおそれがあります。
- ユニットは必ず水平に据付け、ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付けに不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
- パネルと天井面、およびパネルとユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。
- パネルをしばらくの間取付けられない場合、またはユニットを据付け後に天井材を貼る場合は、ユニット内へほこりを入れない様注意してください。

## ⑤冷媒配管

### 冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品をご使用ください。既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料で確認すること。
- 1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品を使用すること。
- 2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。



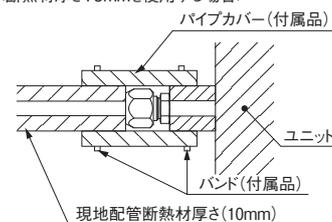
配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N·m
		リジッド (クラッチ式)			
		R410A 用	従来ツール		
φ 6.35	0.8	0 ~ 0.5	0.7 ~ 1.3	8.9 ~ 9.1	14 ~ 18
φ 9.52	0.8			12.8 ~ 13.2	34 ~ 42
φ 12.7	0.8			16.2 ~ 16.6	49 ~ 61
φ 15.88	1			19.3 ~ 19.7	68 ~ 82
φ 19.05	1.2			23.6 ~ 24.0	100 ~ 120

- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管 (C1220T、JIS H 3300) をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- R32またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR32用またはR410A用ツールを使用してください。

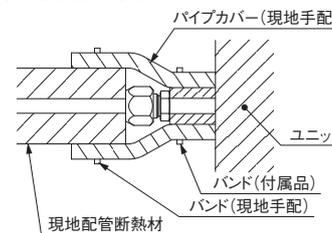
### 作業手順

- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。  
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません)
- フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります)
- 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。  
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。  
また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。  
※フレア接続は、以下のように行ってください。  
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
- 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
  - ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。  
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
  - ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
  - 高湿度雰囲気中使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
- 冷媒は室外ユニットに充填されています。室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>



<断熱材を強化する場合>



注意

同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

## ⑥ ドレン配管のつづき

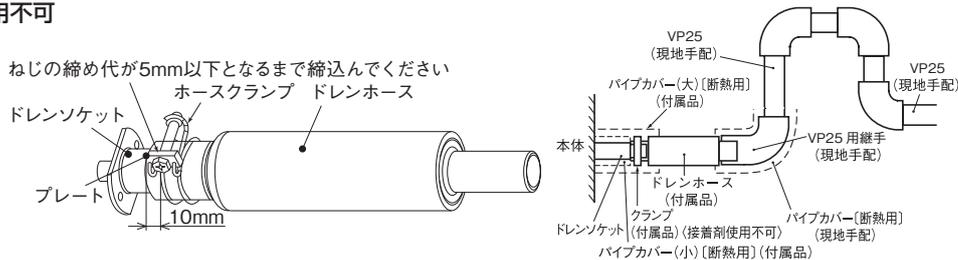
### ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。  
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管は、イオウ系ガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。  
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は、下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。  
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

### 作業手順

1. 付属のドレンホース（軟質塩ビパイプ）はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から10mm程度のところに取付け、ねじの締め代が5mm以下となるまで締込んでください。

#### ●接着剤使用不可



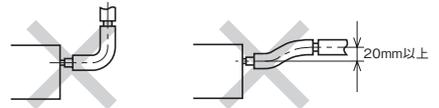
2. ドレンホース（硬質塩ビパイプ）に、VP25用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、VP25（現地手配）を接着・接続してください。

※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25を使用してください。

#### ●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。

乾燥後、フレキシ部に力が加わった場合、フレキシ部が破損することがあります。

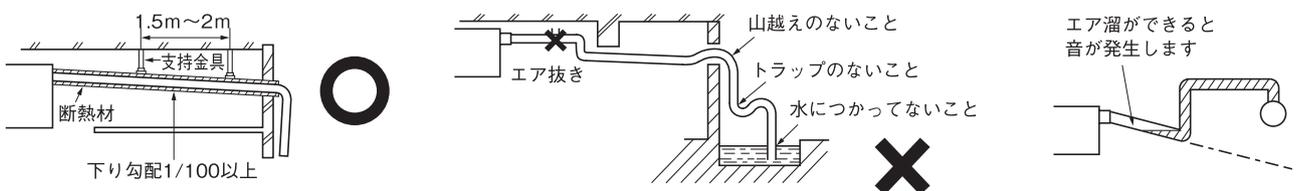
- ドレンホースは、ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。



3. ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。

- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力が加えないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。

- エア抜きは絶対に設けないでください。

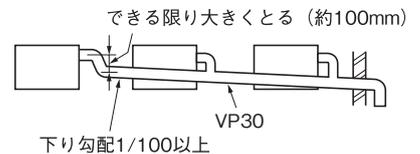


- 複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はVP30以上を使用してください。

4. ドレン配管の断熱施工を行ってください。

- 結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。

※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー（小）をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー（大）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。



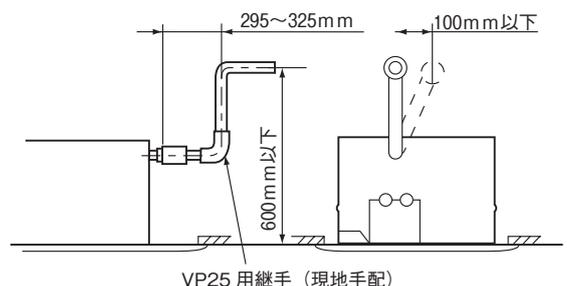
### ドレンアップする場合

- ドレン配管の出口高さは、天井面より600mmまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボ等を用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローのおそれがありますので、右図寸法内で処理願います。

### ドレン排水テスト

- ドレン配管工事後の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部およびユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。

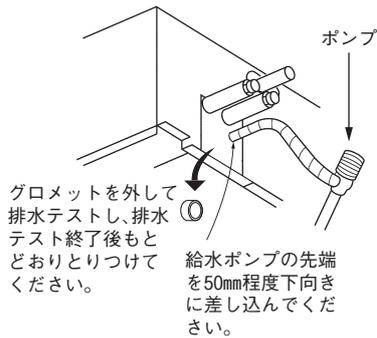
- 暖房期の据付けの際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。



## ⑥ ドレン配管のつづき

### 作業手順

1. 配管貫通部カバーのグロメットを外し、給水ポンプなどを使用してドレンポンプなどの電気部品に水をかけないように、本体ドレンパンの中へ約1000cc注入してください。
2. ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。  
ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。  
ドレン排水の確認は、ドレンソケット部（透明）より確認できます。
3. 排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。  
水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。
4. 排水テスト後は、必ずグロメットを元通りにはめ込んでください。
5. 排水テスト後は、ドレン配管の断熱を本体部まで完全に行ってください。

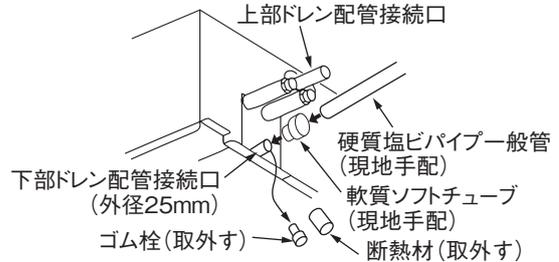


### ○電気配線工事が完了していない場合

室内ユニット基板上的SW7-1をONにし、かつ、基板上的のコネクタCNBを抜いた後、電源ON（端子台①、②へAC200V）すると、ドレンポンプのみ連続運転します。ドレン排水確認後は、必ずSW7-1を元の状態（OFF）に戻し、かつ、基板上的のコネクタCNBを差し込んでください。

### 下部ドレン配管工事要領

ドレン配管に下り勾配（1/50～1/100）が可能な場合下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。

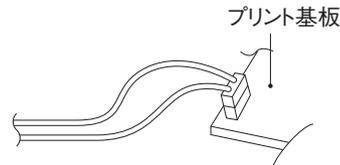


下部ドレン配管を使用する場合に必ず必要です。

### 〈ドレンモータ用のコネクタの取外し〉

下図に示すようにコントロールボックス内のドレンモータ用コネクタCNRを取外してください。

（注：コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。）



### ドレンポンプ運転方法

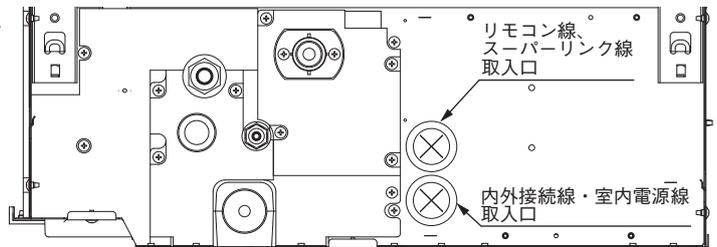
#### ○電気配線工事が完了している場合

ドレンポンプの運転がリモコン（ワイヤード）操作により可能です。

運転操作方法は、電気配線工事説明書の「ドレンポンプ運転操作」をご覧ください。

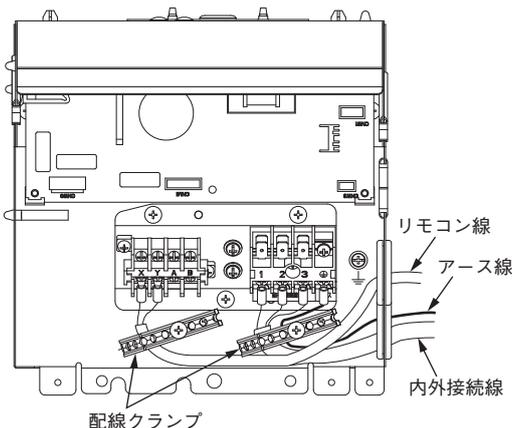
## ⑦ 電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

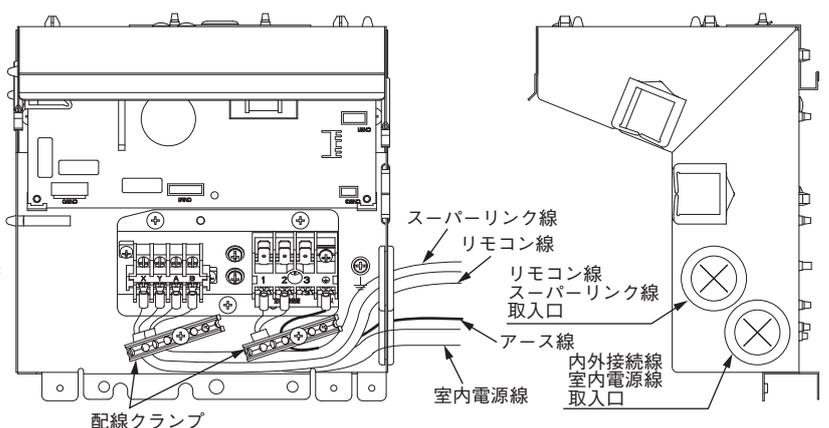


1. 電装箱の蓋（ねじ2本）を取外してください。
2. 各配線をユニットの内に入れてください。
3. 配線を端子台に確実に接続してください。
4. 各配線を配線クランプで固定してください。
5. 電装箱の蓋を元通りねじ2本で取付けてください。

### シングル機の配線接続



### マルチ機の配線接続



## ⑧ パネルの取付け

- パネルは、電気配線工事完了後に、ユニット本体に取付けてください。
- パネルの取付方法は、次ページをご覧ください。

## ⑨ ユニット据付工事完了後のチェック項目

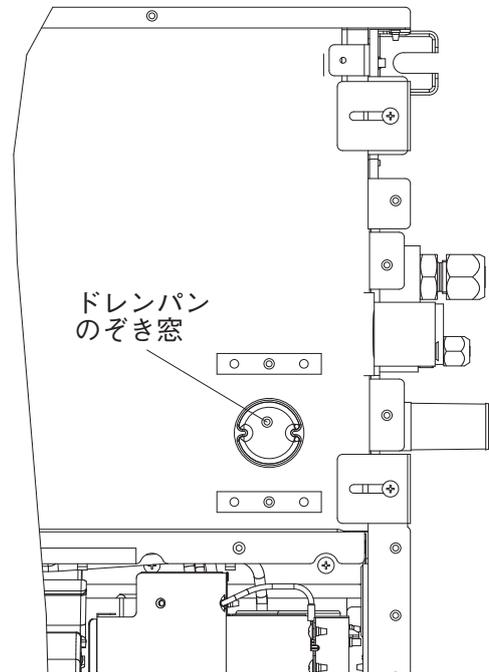
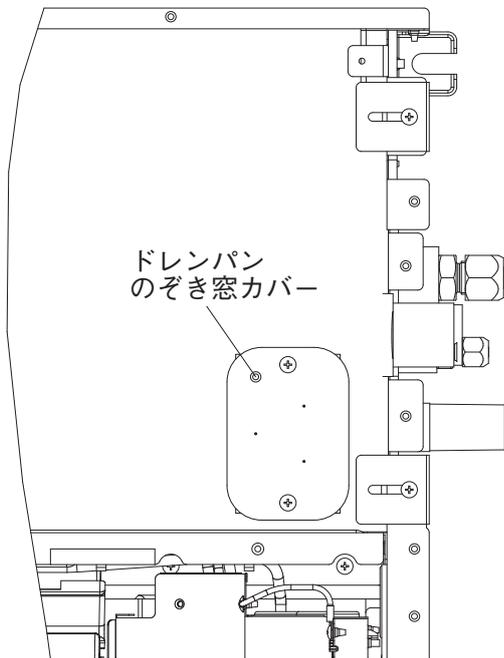
- ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

## ⑩ ドレンパン汚れ確認（メンテナンス）

### ドレンパン汚れ確認方法

- ドレンパンを取外さずに、ドレンポンプ吸込口部のドレンパン汚れが確認できます。
1. パネルを取外してください。
  2. ドレンパンののぞき窓カバーを取外してください。
  3. のぞき窓からドレンパンの汚れを確認してください。  
汚れが多い場合は、ドレンパンを取外しドレンパンを清掃してください。
  4. 汚れ確認後、のぞき窓カバーを確実に装着してください。装着が不完全な場合結露・水漏れの原因となります。



## (ii) パネルの据付

## 1) 天井埋込仕様（直吹き）

## 安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**△警告**、**△注意**、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**△警告**の欄にまとめて記載しています。しかし、**△注意**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。**⊘ 絶対に行わない** **ⓘ 必ず指示に従う**
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方の方法など）をお客様に説明してください。この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

## △警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。  
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。 ⓘ
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。  
据付けに不備があると・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。 ⓘ
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。  
当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。 ⓘ
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。 ⓘ
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。 ⓘ
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。  
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。 ⓘ
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。  
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。 ⓘ
- 改修は絶対に行わない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。 ⊘
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。  
点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。 ⓘ
- パネルやガードを外した状態で運転しない。  
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。 ⊘
- 元電源を切った後に電気工事を行う。  
感電、故障や動作不良の原因になります。 ⓘ

## ① 据付けのまえに

- ・据付けはこの説明書に従って正しく行ってください。
- ・右図の付属品を確認してください。

## 付属品

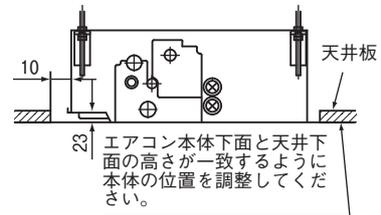
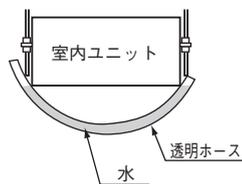
ボルト		右パネル4本、左パネル4本	パネル取付用
ねじ (M4 L=8mm)		右パネル2本、左パネル2本	チェーン取付用

## ② 本体の取付けレベルの確認

- ・室内ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。
- ・室内ユニット本体と天井材との取付けレベルを確認してください。  
室内ユニット下面と天井下面が一致するように室内ユニット高さを調整してください。  
(吹出し口部分は天井裏に入ります。)
- ・天井下面と室内ユニット下面との高さの差は5mm以下としてください。

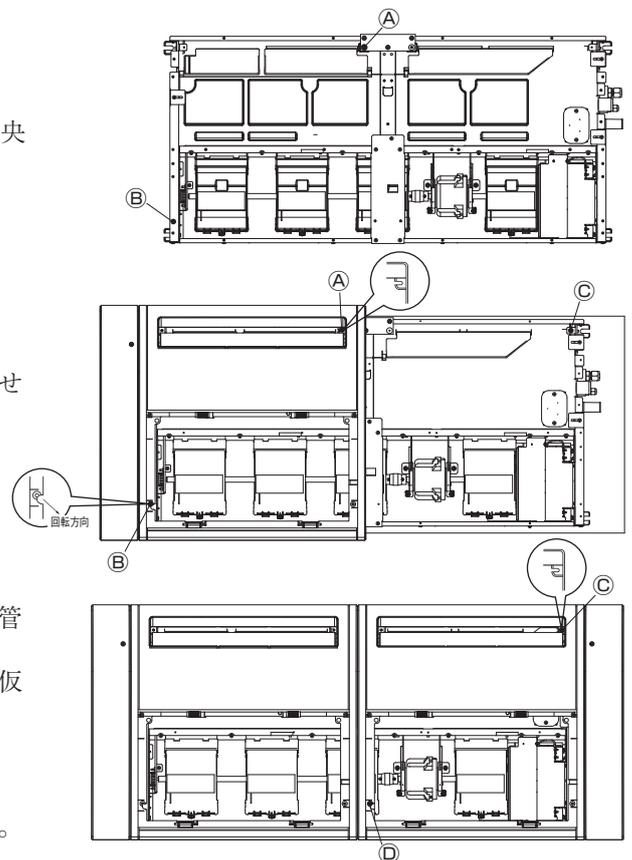
### ご注意

室内ユニット本体が天井下面より下方にならないように設置してください。



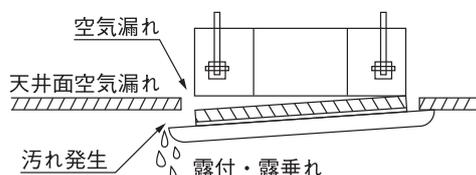
## ③ パネル取付け

1. 左パネル付属のボルト4本のうち、2本を室内ユニットの中央吹出し側とその対角に5mm弱ねじこみます。(A●印)
2. 吸込グリルを開け左パネルを2本のボルトにひっかけ、仮止めしてください。  
仮止めは、先に(A●印)のボルトにパネルをひっかけ、回転させながら(B●印)をひっかけます。
3. 右パネル付属のボルト4本のうち、1本を室内ユニットの配管側に5mm弱ねじこみます。(C●印)
4. (C●印)のボルトにパネルをひっかけ、その対角(D●印)を仮締めします。
5. 右パネルと左パネルの隙間を調整しながら、仮締めしたボルト及び残りのボルト2本を締めつけてください。

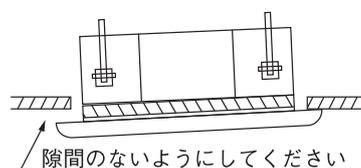


### ご注意

・吊りボルトの締め込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締め込んでください。



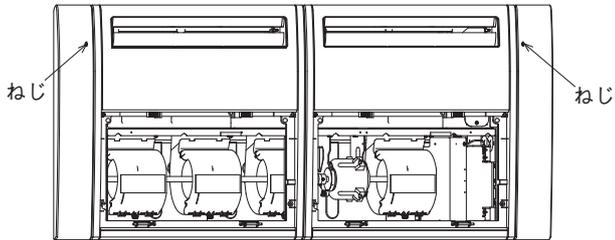
・吊りボルトを締め込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニット本体の高さを再調整してください。



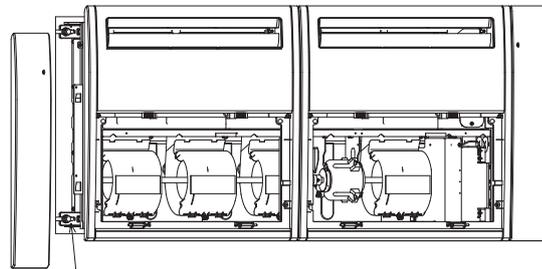
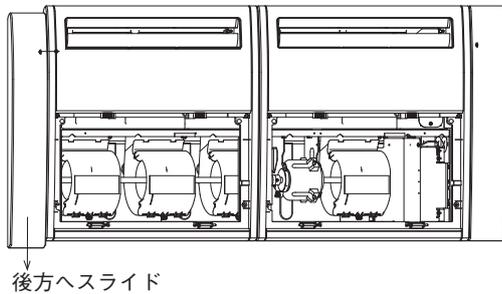
## ④ ユニット高さ調整方法

室内ユニット本体の水平度、ドレン配管などに影響がでない程度であればパネルを取付けたまま室内ユニット本体の据付け高さを微調整できます。

1. サイドパネルのねじを取外してください。



2. サイドパネルを後方にスライドさせ、取外ししてください。(左右共同様)



開口部よりスパナ等の一般工具にて  
ユニット本体のナットを微調整してください。(左右共同様)

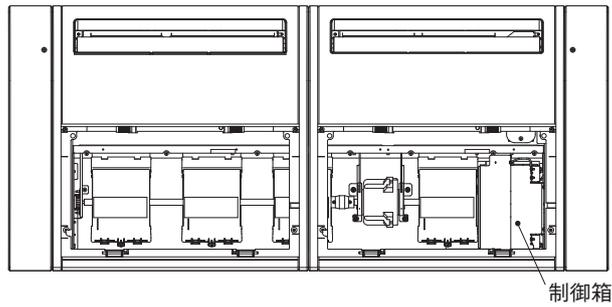
3. 据付け高さ調整後は、サイドパネルを元通りに戻してください。

### ご注意

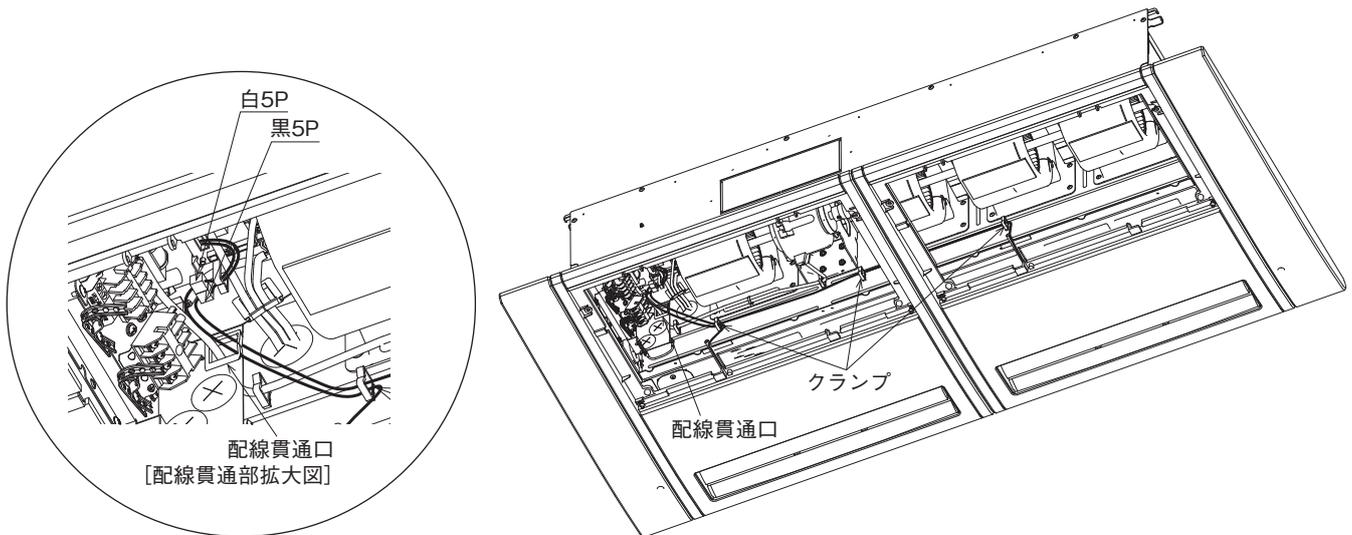
ユニット本体と天井材との高さは、パネル取付けの際、  
パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。  
パネルが変形し破損の恐れがあります。

## ⑤ 電気配線

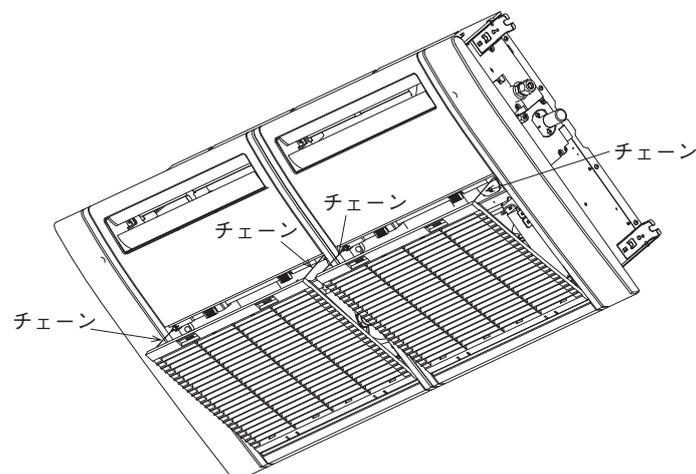
1. ねじ（2本）を外して、ユニット本体の制御箱の蓋を取外してください。



2. ルーバモータ配線を室内ユニットのクランプに通してください。



3. 左パネルのルーバモータのコネクタ（黒5P）と右パネルのルーバモータコネクタ（白5P）を、それぞれ接続してください。  
室内ユニット側のコネクタは、制御箱の中にあります。  
コネクタは、色を合わせて接続してください。
4. コネクタ接続後、制御箱の配線の貫通口に、パネル側の配線を通してください。  
コネクタは、制御箱内に入れてください。
5. 制御箱の蓋を閉めて、ねじ（2本）を締付けてください。
6. 吸込グリルについているチェーンを、パネル側にねじ（2本）で取付けてください。  
チェーンを取付けるためのねじは、ボルトと同じ袋に入っています。



7. 吸込グリルを閉めて完了です。

## 2) 下がり天井仕様

## 安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**△警告**、**△注意**、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**△警告**の欄にまとめて記載しています。しかし、**△注意**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。**⊘** 絶対に行わない **⓪** 必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方の方法など）をお客様に説明してください。この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

## ⚠ 警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。  
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。 **⓪**
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。  
据付けに不備があると、ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。 **⓪**
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。  
当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。 **⓪**
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。 **⓪**
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。 **⓪**
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。  
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。 **⓪**
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。  
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。 **⓪**
- 改修は絶対に行わない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。 **⊘**
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。  
点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。 **⓪**
- パネルやガードを外した状態で運転しない。  
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。 **⊘**
- 元電源を切った後に電気工事を行う。  
感電、故障や動作不良の原因になります。 **⓪**

## ① 据付けのまえに

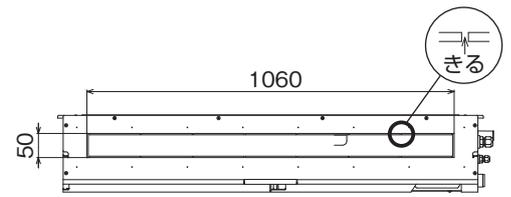
- ・据付けはこの説明書に従って正しく行ってください。
- ・右図の付属品を確認してください。

## 付属品

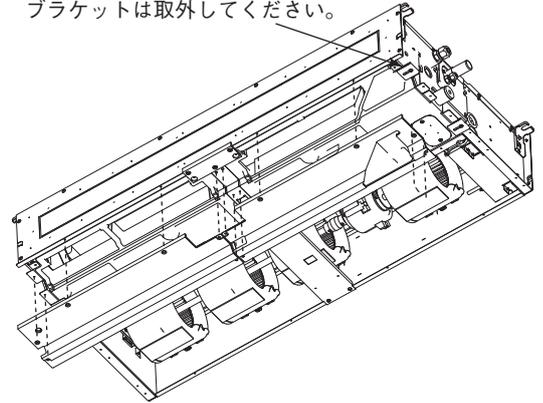
ボルト		右パネル4本、左パネル4本	パネル取付用
ねじ(M4 L=8mm)		右パネル2本、左パネル2本	チェーン取付用
ボトムプレート(左)		1個	
ボトムプレート(右)		1個	
ねじ(M4 L=8mm)		6本	ボトムプレート取付用

## ② 室内ユニットの据付準備

1. 室内ユニットの前面外側のインシュレーションのスリットに合わせて、ナイフなどで切り込みを入れます。
2. ハーフブランキング部をニッパー等で切断し、切り取ります。
3. ドレンパンを取外してください。
4. 室内ユニット内側のインシュレーションを切り取り、穴を開けます。
5. 室内ユニット内にごみが残っていないか確認し、ドレンパンをもとにもどしてください。
6. ボトムプレート (右)(左) を付属のねじで取付けます。  
その際、吹出口横にあるドレンパン抑えブラケットは取外してください。



ドレンパンおさえ  
ブラケットは取外してください。



## ③ 吹出しダクト・吹出しグリルの取付け

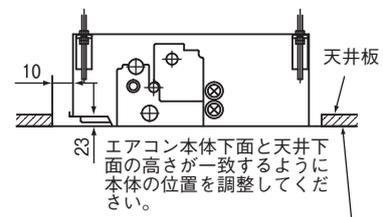
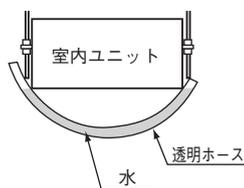
1. 吹出しダクト・吹出しグリル (オプション) に付属の据付説明書に従って、取付けを行ってください。

## ④ 本体の取付けレベルの確認

- ・ 室内ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。
- ・ 室内ユニット本体と天井材との取付けレベルを確認してください。  
室内ユニット下面と天井面が一致するように室内ユニット高さを調整してください。  
(吹出し口部分は天井裏に入ります。)
- ・ 天井下面と室内ユニット下面との高さの差は、5mm以下としてください。

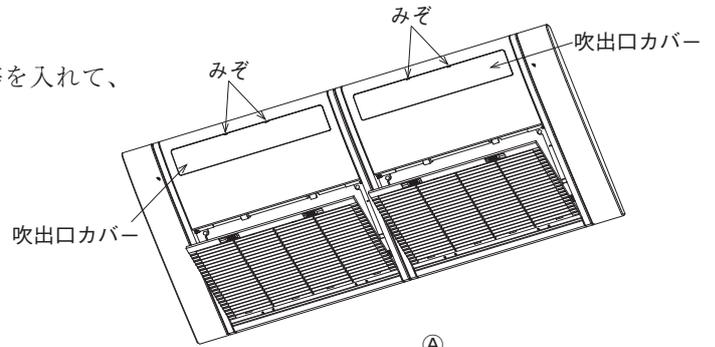
### ご注意

室内ユニット本体が天井下面より下方にならないように設置してください。

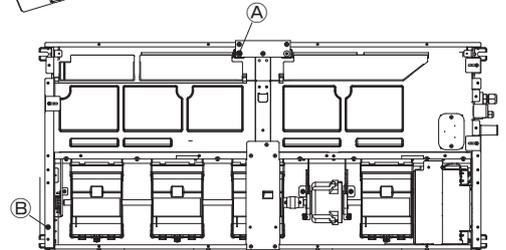


## ⑤ パネル取付け

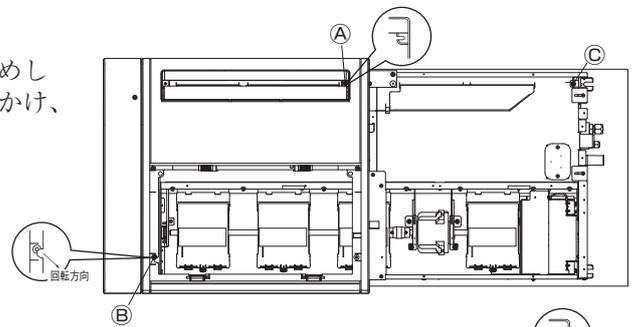
1. パネル吹出し口のカバーの溝に、マイナスドライバー等を入れて、カバーをパネルから取外してください。



2. 左パネル付属のボルト4本のうち、2本を室内ユニットの中央吹出し側とその対角に5mm弱ねじこみます。(A●印)

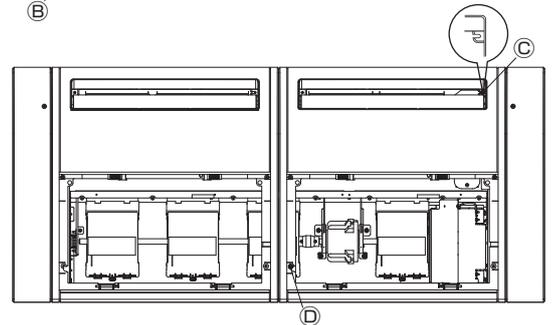


3. 吸込グリルを開け左パネルを2本のボルトにひっかけ、仮止めしてください。仮止めは、先にA●印のボルトにパネルをひっかけ、回転させながらB●印をひっかけます。



4. 右パネル付属のボルト4本のうち、1本を室内ユニットの配管側に5mm弱ねじこみます。(C●印)

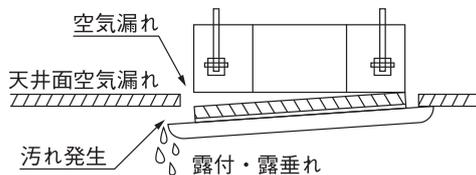
5. C●印のボルトにパネルをひっかけ、その対角(D●印)を仮締めします。



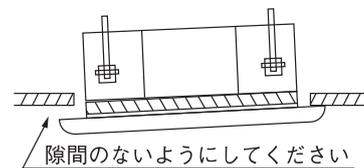
6. 右パネルと左パネルの隙間を調整しながら、仮締めしたボルト及び残りのボルト2本を締め付けてください。

### ご注意

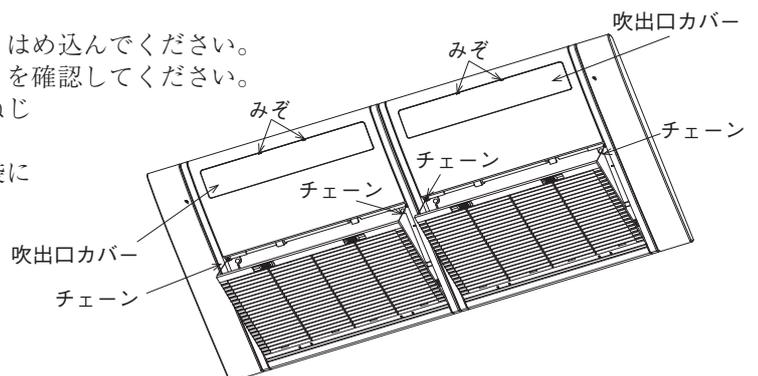
・吊りボルトの締め込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締め込んでください。



・吊りボルトを締め込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニット本体の高さを再調整してください。



7. 吸込グリルを閉めてください。
8. 吹出し口カバーをパネル下側から押し込み、元通りはめ込んでください。吹出し口カバーは確実にはめこみ、落下しないことを確認してください。
9. 吸込グリルについているチェーンを、パネル側にねじ(2本)で取付けてください。チェーンを取付けるためのねじは、ボルトと同じ袋に入っています。

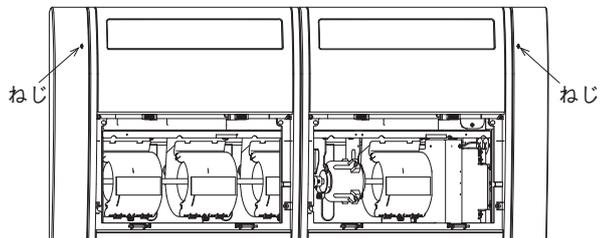


10. 吸込グリルを閉めて完了です。

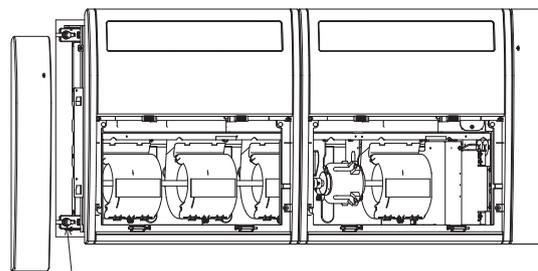
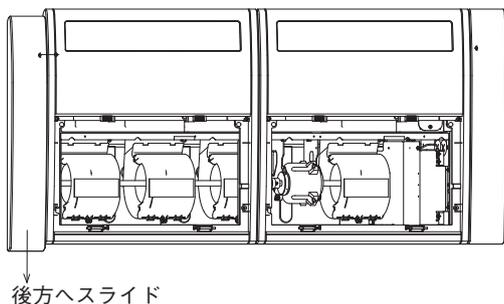
## ⑥ ユニット高さ調整方法

室内ユニット本体の水平度、ドレン配管などに影響がでない程度であれば  
パネルを取付けたまま室内ユニット本体の据付け高さを微調整できます。

1. サイドパネルのねじを取外してください。



2. サイドパネルを後方にスライドさせ、取外ししてください。(左右共同様)



開口部よりスパナ等の一般工具にて  
ユニット本体のナットを微調整してください。(左右共同様)

3. 据付け高さ調整後は、サイドパネルを元通りに戻してください。

### ご注意

ユニット本体と天井材との高さは、パネル取付けの際、  
パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。  
パネルが変形し破損の恐れがあります。

(d) 天理カセテリア (FDRZ)

(i) 室内ユニットの据付

PJG012D006B 

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。  
電気配線(室内)は、282ページをご覧ください。リモコンの取付方法は、200ページをご覧ください。ワイヤレスキットの取付方法は、417ページをご覧ください。

室外ユニットの据付方法、電気配線(室外)及び冷媒配管工事方法は、251ページをご覧ください。

また、故障診断は、327ページをご覧ください。

○本機はダクト機です。直吹きでは使用しないでください。

○専用のパネル(エアフィルタ組込)又はフィルタキット(天井リターン設置)を組み合わせて使用してください。

### 安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確실히行ってください。
- ここに示した注意事項は、警告、注意、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に警告の欄にまとめて記載しています。しかし、注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。絶対に行わない 必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方(エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など)をお客様に説明してください。この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

#### 警告

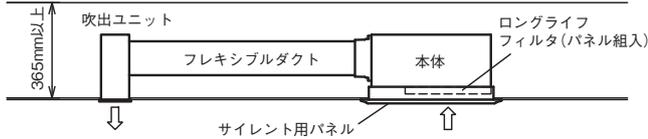
- |  |   |
|--|---|
| ●据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。<br>ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。                                      |    |
| ●据付工事は、この据付説明書に従って確실히行う。<br>据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。   |    |
| ●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13)<br>限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。   |   |
| ●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。<br>当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。  |  |
| ●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。<br>冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。  |  |
| ●据付けは、重量に十分耐える所に確실히行う。<br>強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。  |  |
| ●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。<br>据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。   |  |
| ●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。<br>空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。                               |  |
| ●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。<br>電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。            |  |
| ●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。<br>接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。                                |  |
| ●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。<br>カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。                          |  |
| ●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。<br>冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。                                 |  |
| ●配管、フレアナット、工具は R32用またはR410A用のものを使用する。<br>既存(R22)の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。                        |  |
| ●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。<br>フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。  |  |
| ●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。<br>室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。                  |  |
| ●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。<br>冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。       |  |
| ●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。<br>圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。 |  |
| ●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。<br>ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。                                   |  |
| ●改修は絶対に行わない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。<br>修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。   |  |
| ●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。<br>据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。  |  |
| ●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。<br>点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。                       |  |
| ●パネルやガードを外した状態で運転しない。<br>機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。   |  |
| ●元電源を切った後に電気工事を行う。<br>感電、故障や動作不良の原因になります。  |  |

## ⚠注意

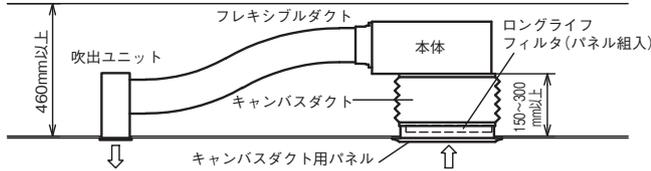
<p>●アース（接地）を確実に行う。 アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。</p>	⚡
<p>●漏電遮断器は必ず取付ける。 漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。</p>	!
<p>●正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。 不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。</p>	!
<p>●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。 針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。 万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。 熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。 スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。</p>	!
<p>●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。 室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。 保存物の品質低下などの原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。 インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。 リモコンの故障や変形の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●次の場所への据付けは避ける。 ・可燃性ガスの漏れる恐れがある所 ・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所 ・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など） ・高周波を発生する機械を使用する所 ・海浜地区等塩分の多い所 ・性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。</p> <p>・煙突の煙がかかると ・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所 ・車両・船舶等移動するものへの設置 ・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所 ・積雪の多い所 ・標高1000m以上の所</p>	⊘
<p>●次の場所への室内ユニットの据付けは避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。 ・吸込口、吹出口に風の障害物がある所 ・強度が不十分で振動が発生する所 ・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所 ・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍） ・ドレンの排水がとれない所 性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。</p>	⊘
<p>●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。 湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。</p>	⊘
<p>●長期使用で傷んだままの据付け台を使用しない。 傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。 溶接作業時などに発生するスパッタがユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。</p>	!
<p>●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。 不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。</p>	!
<p>●GHP（ガスヒートポンプ）の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。 室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。</p>	⊘
<p>●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。 万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超過すると酸欠事故の原因となる場合があります。</p>	!
<p>●ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。 試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。</p>	⊘
<p>●冷媒配管の断熱は結露しないように確実にを行う。 不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。</p>	!
<p>●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。 小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。 また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。</p>	⊘
<p>●製品の運搬は十分注意して行う。 20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。 素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。</p>	!
<p>●梱包材の処理は確実にを行う。 梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にするとケガをすることがあります。</p>	!
<p>●フィルタをはずしたまま運転しない。 内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●濡れた手でスイッチを操作しない。 感電の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●運転中の冷媒配管を素手で触れない。 運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。</p>	⊘
<p>●エアコンを水洗いしない。 感電の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●運転停止後、すぐに電源を切らない。 必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。 火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。</p>	⊘

# 設置方法

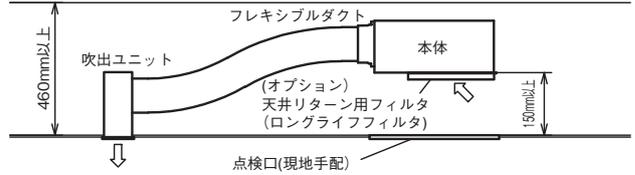
## サイレント仕様



## キャンパス仕様



## 天井リターン方式



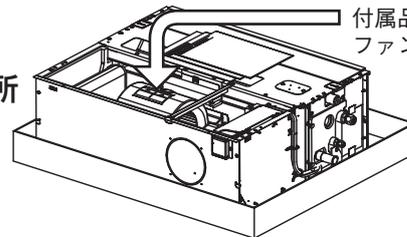
本体の大きさ・設置方法とオプションを確認してください。  
吹出ダクト他のオプションを含めカタログにて確認してください。

シリーズ展開	組合せオプション	小型							中型			大型			
		P22	P28	P36	P40	P45	P50	P56	P63	P71	P80	P90	P112	P140	P160
シリーズ展開	店舗ビル空調	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	GHP	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
吹出口数	丸ダクト	1口					2口				3口				4口
キャンパスダクト	パネル				R-PNC-2AW						R-PNC-3AW			R-PNC-4AW	
	キャンバス				HA01503						HA01490			HA01484	
サイレント	パネル				R-PNS-2AW						R-PNS-3AW			R-PNS-4AW	
	フィルタ				R-FL-2A						R-FL-3A			R-FL-4A	
天井リターン	点検口														現地手配

## ① 据付けのまえに

- 据付けはこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
  - 機種・電源仕様
  - 配管・配線・小物部品
  - 付属品

### 付属品収納場所 (梱包時)



## 付属品

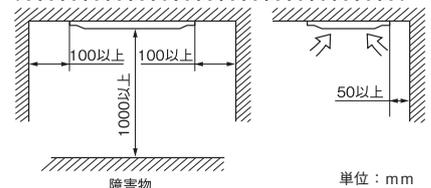
本体吊り込み用	冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金 (M10)	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	バンド	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	ドレンホース	ホースクランプ
8個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	1個
ユニット吊下げ用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用

## ② 室内ユニットの据付場所の選定

- ① 据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
- ・ 冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
  - ・ 据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
  - ・ ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
  - ・ 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
  - ・ 侵入外気の影響のない所。
  - ・ 直射日光の当たらない所。
  - ・ 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。

### 室内ユニット据付スペース

- 据付高さは2.5m以上としてください。



本ユニットはJIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度・曇気の状態が運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10~20mmの断熱材を取付けてください。

- ・ テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
- ・ ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
- ・ 調理器具が発する熱の影響を受けない所。
- ・ フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
- ・ 蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。(ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなる可能性があります。)

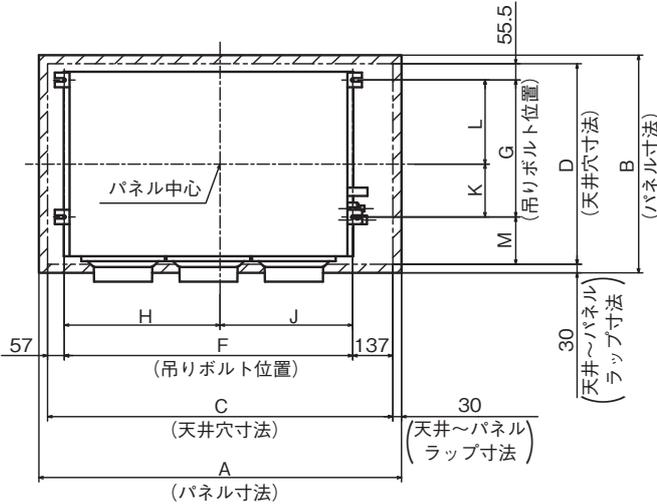
- ② 据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。

### ③据付け前の準備

本内容を参照に最新設置基準に合わせ設置してください。

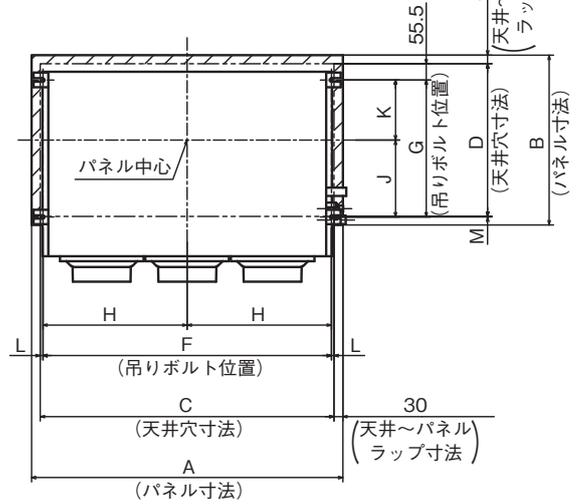
- 吊りボルトの長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
- システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合  
吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
- 強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合  
吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
- 吊りボルト・ナット・バネ座金（M10）を4組現地ににて手配してください。

#### サイレントパネルと組み合わせの場合



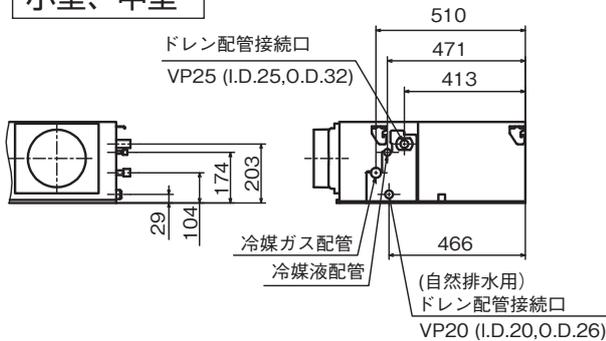
	A	B	C	D	F	G	H	J	K	L	M
小型	1040	750	980	690	786	472	433	353	182.5	289.5	162.5
中型	1240	750	1180	690	986	472	533	453	182.5	289.5	162.5
大型	1658	850	1598	790	1404	530	742	662	190.5	339.5	204.5

#### キャンパスパネルと組み合わせの場合

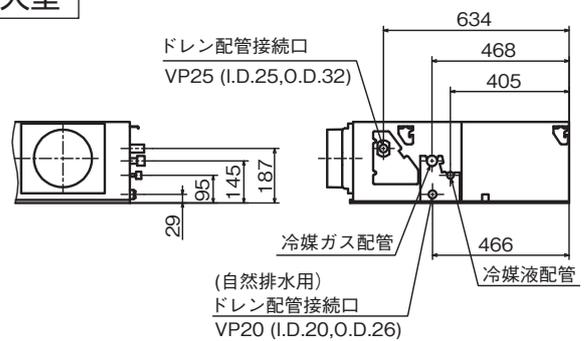


	A	B	C	D	F	G	H	J	K	L	M
小型	864	585	804	525	786	472	393	265	207	9	2.5
中型	1064	585	1004	525	986	472	493	265	207	9	2.5
大型	1484	585	1424	525	1404	530	702	323	207	10	60.5

#### 小型、中型



#### 大型

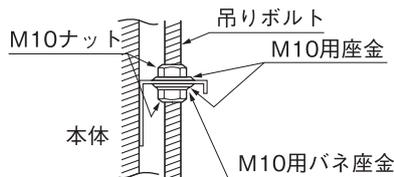


### ④室内ユニットの据付け

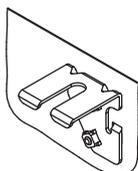
#### 据付

〈吊り込み〉

- ユニットを吊り込んでください。



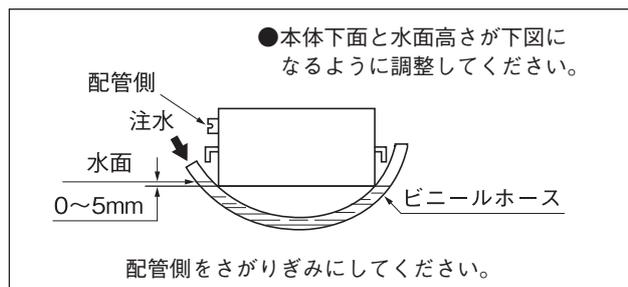
- 本体を据付けたとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。



#### 水平度の調整

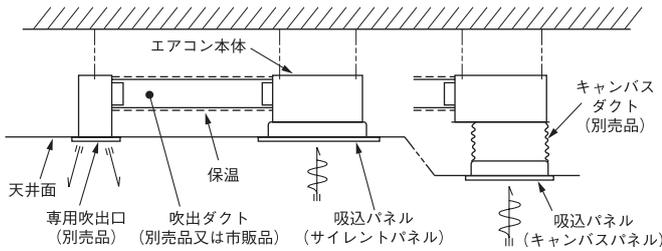
お願い

- 水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。



- 水平度がでていないとフロートスイッチの誤作動あるいは不動作の原因となります。

## ⑤ダクト工事



### お願い

○風量、機外静圧の計算を実施しダクトの長さ、形状、吹出口を選定してください。算出方法は、技術資料を参考にしてください。

#### ①吹出ダクト

- φ200丸形ダクトを接続してください。
- 各スポット間のダクト長さは、2対1以内としてください。
- ダクトは、最短長さとなるよう施工してください。
- 4スポットを3スポット、3スポットを2スポットに改修する場合は、専用塞ぎ板を別売品として用意しています。中央いづれを塞いでください。
- 2スポットから1スポットへの改修は、行わないでください。

### お願い

●曲りは極力少なくしてください。(曲げRは極力大きくしてください。)

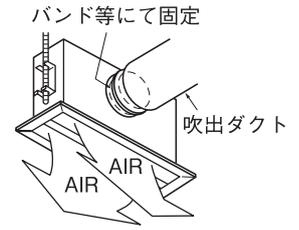


●本体・吹出口のダクトフランジとの接続は、バンドを締め固定してください。さらに固定部分に断熱材を貼り結露防止を行ってください。

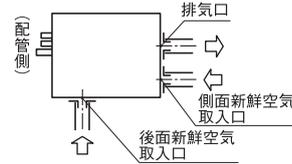
- 露付防止・吸音のため、吸音断熱付フレキシブルダクト使用を推奨いたします。(別売品 1 m、2 m、4 m があります。)
- 天井貼付前にダクト工事を実施してください。

#### ②専用吹出口

- 専用吹出口は、室内全般に空気が流れるような所に据付けてください。
- ダクト接続は、φ200丸形ダクト専用です。
- 専用吹出口の取付け及びダクトとの接続は天井貼付前に行ってください。
- ダクト固定バンド部を断熱し、結露防止を行ってください。



#### ③給・排気ダクトの接続



#### ④新鮮空気取入

- 後面又は、側面のどちらか工事の容易な方の取入口を使用してください。
- 同時給排気を行う場合は、後面新鮮空気取入口を使用してください。(側面は使用不可)

#### ⑤排気 (必ず給気を併用してください。)

- 側面排気口を使用してください。

#### ⑥ダクト接続

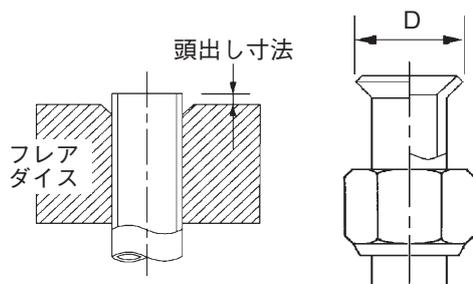
- 別売品の給排気用ダクトフランジ (φ125丸形ダクト接続用) を利用し、φ125丸形ダクトを接続してください(バンド締め)。
- ダクトは結露防止のため、保温してください。

## ⑥冷媒配管

### 冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品をご使用ください。既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料で確認すること。

1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品を使用すること。



配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締めトルク N·m
		R410A 用	従来ツール		
φ6.35	0.8	0 ~ 0.5	0.7 ~ 1.3	8.9 ~ 9.1	14 ~ 18
φ9.52	0.8			12.8 ~ 13.2	34 ~ 42
φ12.7	0.8			16.2 ~ 16.6	49 ~ 61
φ15.88	1			19.3 ~ 19.7	68 ~ 82
φ19.05	1.2			23.6 ~ 24.0	100 ~ 120

2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32用またはR410A用のフレア加工をしてください。

●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管 (C1220T、JIS H3300) をご使用ください。

また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

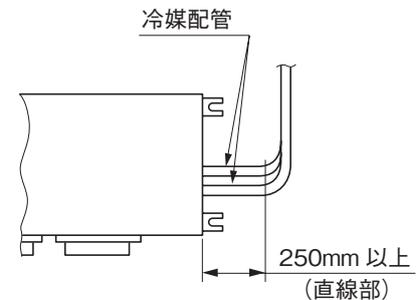
●R32またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。

室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。

●据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。

冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具はR32用またはR410A用ツールを使用してください。



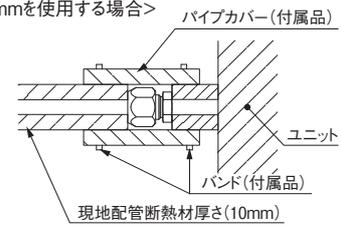
お願い  
冷媒配管工事は、上図のように直線部を250mm以上とって行ってください。(ドレンポンプのサービスに必要です。)

## ⑥冷媒配管のつづき

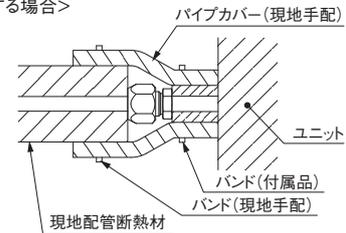
### 作業手順

1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。  
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。  
(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。)  
●フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)
2. 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。  
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。  
また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。  
※フレア接続は、以下のように行ってください。  
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
3. 室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。  
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。  
※配管は断熱しないとは結露し水漏れします。  
●ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。  
●高湿度雰囲気を使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4. 冷媒は室外ユニットに充填されています。  
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>



<断熱材を強化する場合>



### 注意

同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

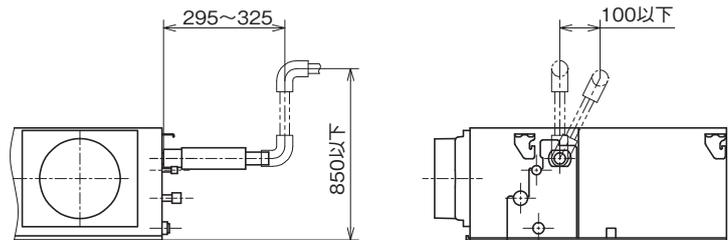
## ⑦ドレン配管

### ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
  - ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
  - 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
  - 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
  - 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
  - ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
- 試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

### ドレンアップする場合

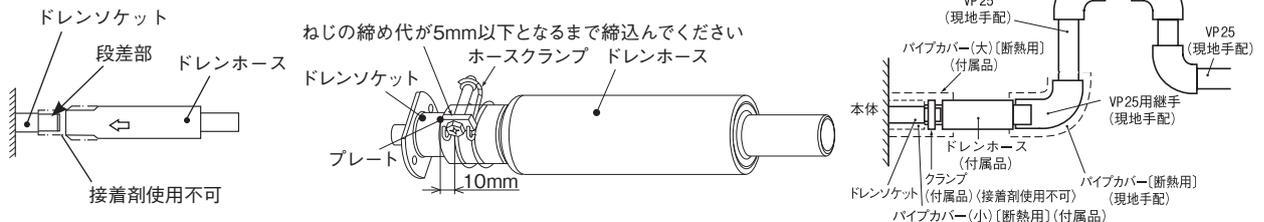
- ドレン配管の出口高さは、天井面より850mmまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。



### 作業手順

1. 付属のドレンホース(軟質塩ビパイプ)はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から10mm程度のところに取付け、ねじの締め代が5mm以下となるまで締込んでください。

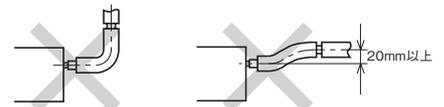
#### ●接着剤使用不可



2. ドレンホース(硬質塩ビパイプ)に、VP25用継手(現地手配)を接着・接続し、この継手に、VP25(現地手配)を接着・接続してください。

※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25を使用してください。

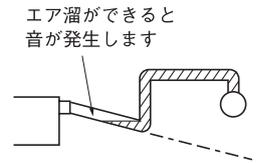
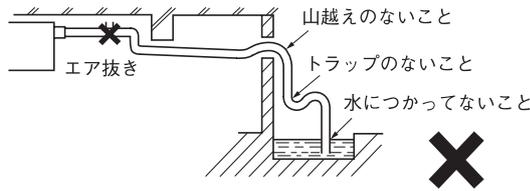
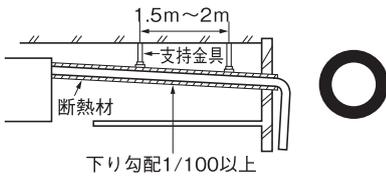
- 接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
- ドレンホースは、ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。



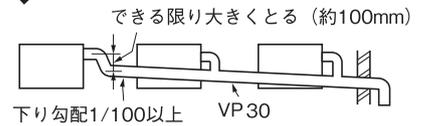
## ⑦ ドレン配管のつづき

3. ドレン配管は下り勾配 (1/100以上) とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。

- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力が加えないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
- エア抜きは絶対に設けないでください。



- 複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はVP30以上を使用してください。



4. ドレン配管の断熱施工を行ってください。

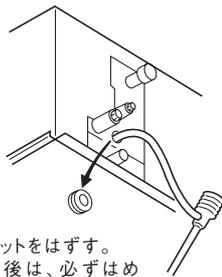
- 結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
- ※ ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

### ドレン排水テスト

- ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていること、接続部およびユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。
- 暖房期の据付けの際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。

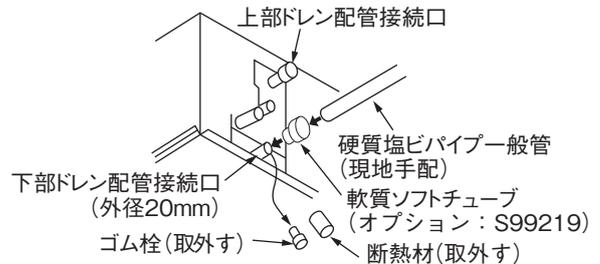
1. 右図要領にて給水ポンプなどを使用して、本体ドレンパンの中へ約1000ccほどの水を注入してください。注水ホースを50mm位差し込んで注水してください。(注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。)
2. ドレン排水しているか排水口部でご確認ください。※ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかテストしてください。
3. 排水テスト後は、本体部まで配管の断熱をしてください。

グロメットははずす。テスト後は、必ずはめておいてください。



### 下部ドレン配管工事要領 [配管接続]

ドレン配管に下り勾配 (1/50~1/100) が可能な場合下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。

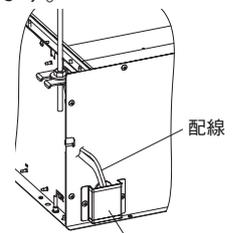


下部ドレン配管を使用する場合は必ず必要でなくドレンモータ用のコネクタの取外し) コントロールボックス内のドレンモータ用コネクタCNRを取り外してください。  
(注: コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。)

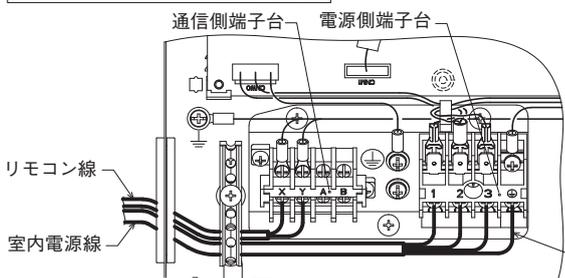
## ⑧ 電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
  - 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  - 電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
  - D種接地工事を必ず行ってください。
  - 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。
1. 電装箱の蓋 (ねじ2本) を取外してください。
  2. 各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。コントロールボックスの蓋に貼付の結線銘板を参照ください。
  3. 各配線をクランプで固定してください。
  4. 取外した部品を元通りに取付けて

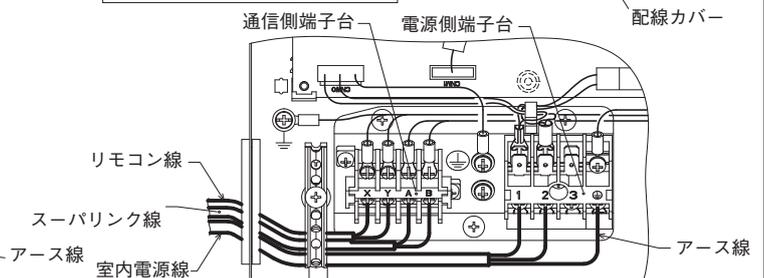
- 天井裏空気の吸込防止で配線カバーを取付けてください。



### シングル機の配線接続



### マルチ機の配線接続



\* 配線を引張っても動かないようにバンドで固定してください。

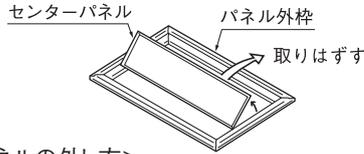
## ⑨ パネルの取付け

### サイレントパネルの場合

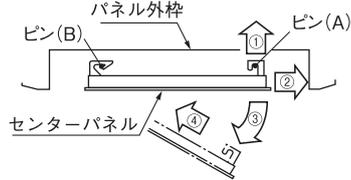
#### <付属品>

丸小ねじ (M5×35)		4個	パネル取付け用
-----------------	---	----	---------

① パネル内枠を外してください。

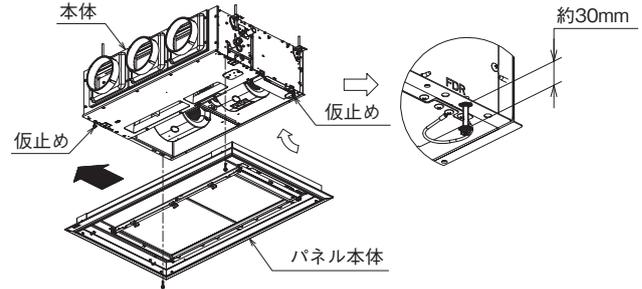


#### <センターパネルの外し方>



- ① 矢印①→②順でピン(A)より外してください。
- ② 矢印③のようにすこし開き矢印④の方向へ移動させてピン(B)より外してください。

- ② フィルタをパネルから外してください。
- ③ パネル外枠を本体に取付けてください。



- ④ パネル取付けねじ (パネル付属品) 4本のうち2本を図のように仮止めしてください。
- ⑤ パネル外枠を仮止めたねじに引っ掛け、図の矢印の方向へスライドさせ仮止めしてください。  
(注: パネル外枠の装着には方向性があります。)
- ⑥ 仮止めたねじ及び残りのねじ (2本) を締付けてください。
- ⑦ センターパネルを①項で外す逆の要領で取付けてください。

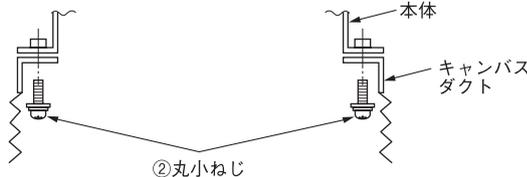
### キャンバスパネルの場合

注) キャンバスパネルの取付けには  
キャンバスダクト (別売品) が必要です。

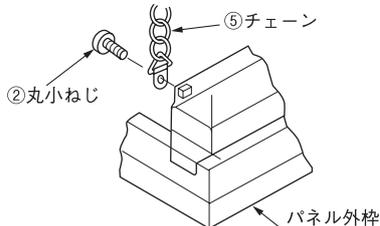
#### <付属品>

①	丸小ねじ (M4×16)		4個	パネル固定
②	丸小ねじ (M5×16)		8個	キャンバスダクト固定 チェーン固定
③	丸小ねじ (M5×25)		4個	チェーン固定
④	ホルダー		4個	
⑤	チェーン		4個	

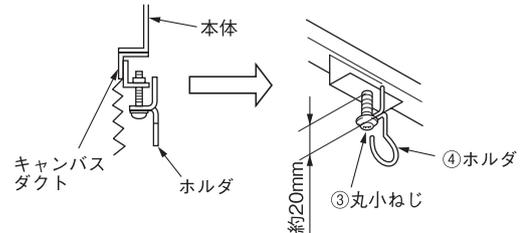
① キャンバスダクト (別売品) を本体に取付けてください。  
(4ヶ所)



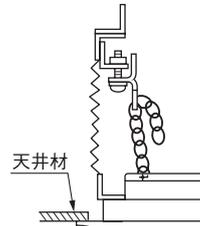
- ② センターパネルを上項に示す、サイレントパネルの場合と同じ要領で取外してください。
- ③ パネル外枠にチェーンを取付けてください。(4カ所)



- ④ パネル外枠を取付けてください。
- ⑤ ホルダを下図に示すように仮止めしてください。

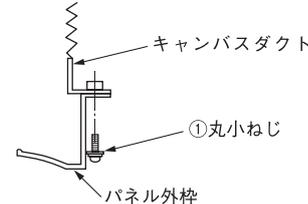


- ⑥ パネル外枠のチェーンをホルダに引っかけてください。



注) チェーンを引っかける際は、パネル外枠を天井材にできるだけ密着させた状態でチェーンにたるみのないように行ってください。

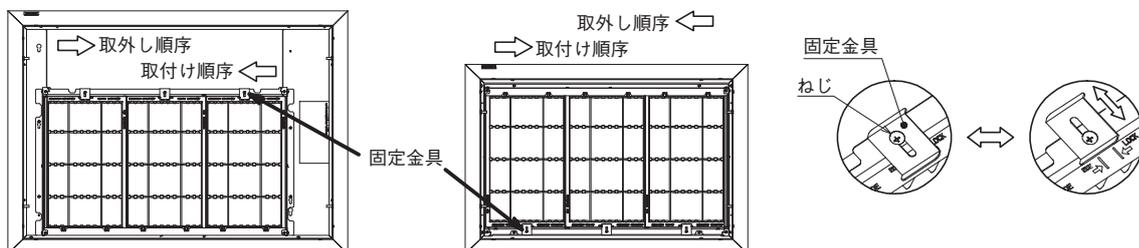
- ⑦ パネル外枠を天井材と密着するまで⑥項の③丸小ねじにより吊り上げてください。
- ⑧ キャンバスダクトとパネル外枠をねじ止めしてください。



- ⑨ センターパネルを上項に示すサイレントパネルの場合と同じ要領で取付けてください。

### フィルタの取付け方法

- パネルに貼付けのラベルを参照に取外し、取付けの順番を確認してください。
- フィルタを取外し・取付けは、ねじを緩め固定金具をスライドして行ってください。



## ⑨ 機外静圧設定

ECOタッチリモコン（RC-DX2以降）を使用し、機外静圧を設定することができます。

定格風量になるように各タップのファン回転数を変化させます。

店舗シリーズをツイン機として設定する場合は、室内ユニット同士が同一風量になるように個々に設定してください。

### ● ECOタッチリモコンからの設定方法

①メニュー画面より据付設定を選択し、サービスパスワードを入力します。

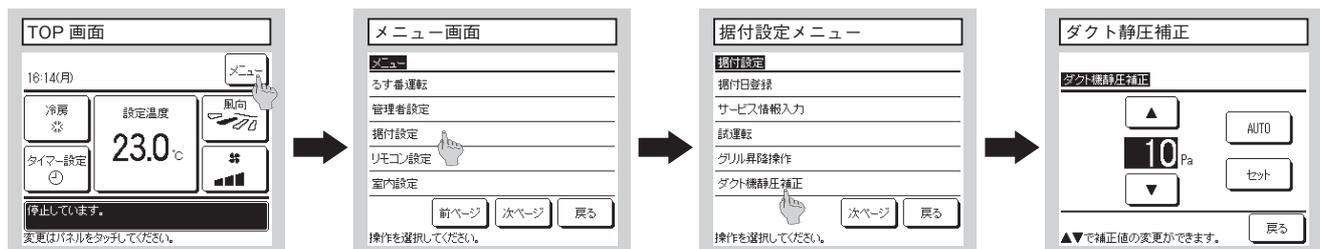
②据付設定メニューより、ダクト機静圧補正を選択します。

③“▲”、“▼”で機外静圧を設定し、“セット”をタッチしてください。

（“AUTO”を選択した場合には、100Paで設定されます。）

詳細な設定方法については、ECOタッチリモコン付属の据付説明書を参照ください。

風量特性については、技術資料を参照ください。



[メニュー] ボタンをタッチしてください。

[据付設定] ボタンをタッチしてください。

選択した画面に移ります。

機外静圧を選択し、[セット]をタッチしてください。

### 注意

- ・RC-DX2以降のECOタッチリモコン以外からは設定できません。

### 静圧設定上の注意

実際の機外静圧を計算し、設定してください。

実際の機外静圧よりも機外静圧設定が高い場合には風量が過大となり、水漏れが発生する恐れがあります。また、実際の機外静圧よりも機外静圧設定が低い場合には風量が過小となり、不冷・不暖の原因になります。

リモコン設定時の有効機外静圧 (Pa) / 部の設定は使用範囲外になります。

リモコン設定		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
標準パネル		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
天井リターン	小型	15	25	35	45	55	65	75	85	95	/
	中型・大型	20	30	40	50	60	70	80	90	100	/
1スポット塞ぎ※	中型	/	/	10	20	30	40	50	60	70	80
	大型	/	10	20	30	40	50	60	70	80	90

※中型(3スポット)を2スポット、大型(4スポット)を3スポットに改修する場合は、専用塞ぎ板(HA06916)を用意しています。両端のスポットはふさがなくてください。また小型(2スポット、1スポット)に塞ぎ板を使用しないでください。

## ⑩ ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	
機外静圧設定は完了していますか。	水漏れ、冷えない	

(ii) パネルの据付  
1) サイレントパネル

PJG012D016

ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。

## 安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- 誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に「警告」の欄にまとめて記載しています。安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。⊘ 絶対に行わない ❗ 必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方の方法など）をお客様に説明してください。この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

### 警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。  
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。❗
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。  
据付けに不備があるとケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。❗
- 設置工事は必ず付属品および指定の部品を使用する。  
当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。❗
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。  
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。❗
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。⊘
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。  
点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。❗
- パネルやガードを外した状態で運転しない。  
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。⊘

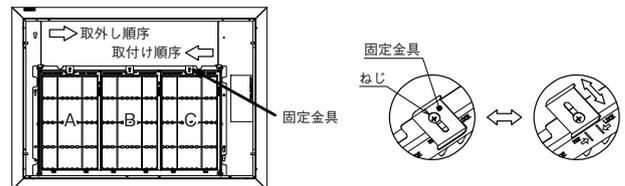
### ① 据付けのまえに

- ・据付けはこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- ・下記の付属品を確認してください。

名称	個数	備考
丸小ねじ M5×35	4個	パネル固定用

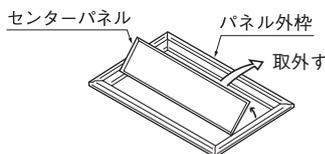
### ③ フィルタの取外し

1. 固定金具のねじを緩めスライドさせてください。
2. 図の取外し順序に従って取外してください。  
(A→B→Cの順)



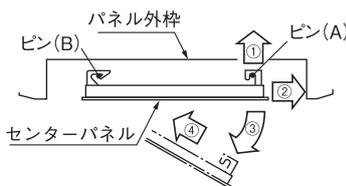
### ② センターパネルの取外し

パネル外枠からセンターパネルを外してください。



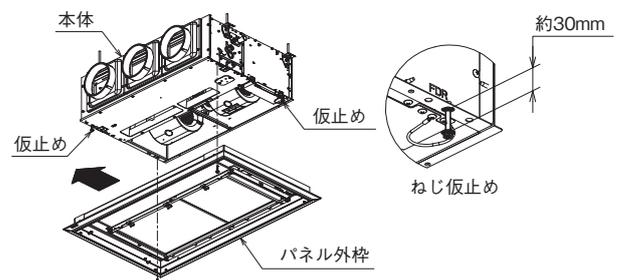
〈センターパネルの外し方〉

1. 矢印①→②の順でピン(A)より外してください。
2. 矢印③のように少し開き矢印④の方向へ移動させてピン(B)より外してください。



### ④ パネルの取付け

1. パネル取付けねじ（パネル付属品）4本のうち2本を図のように仮止めしてください。
2. パネル外枠を仮止めたねじに引っ掛け、図の矢印(←)の方向へスライドさせ仮止めしてください。  
注) パネル外枠の装着には方向性があります。図の方向で取付けてください。
3. 仮止めたねじ及び残りのねじ(2本)を締付けてください。



### ⑤ フィルタの取付け

- ③項に示す取付け順序に従って取付けてください。  
(C⇒B⇒Aの順)
- 固定金具をスライドさせて、ねじを締めてください。

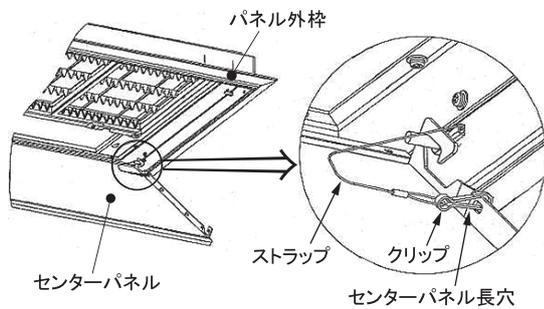
### ⑥ センターパネルの取付け

- ②項に示す逆の順序で取付けてください。

### ⑦ ストラップのはめ込み

センターパネルの落下防止のため、パネル外枠に取付けられているストラップのクリップをセンターパネル長穴にはめてください。

注) クリップが外枠に当たり、傷つく恐れがあるため、センターパネルを閉じる際、ストラップやクリップは図のようにパネル内側を向くようにしてください。



## 2) キャンバスパネル

ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。

### 安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- 誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に「警告」の欄にまとめて記載しています。安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。⊘ 絶対に行わない ⚠ 必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方の方法など）をお客様に説明してください。この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

#### 警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。  
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。 ⚠
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。  
据付けに不備があるとケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。 ⚠
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。  
当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。 ⚠
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。  
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。 ⚠
- 改修は絶対に行わない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。 ⊘
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。  
点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。 ⚠
- パネルやガードを外した状態で運転しない。  
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。 ⊘

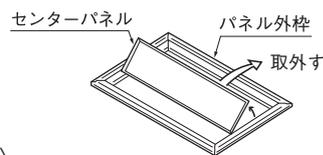
#### ① 据付けのまえに

- ・据付けはこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- ・下記の付属品を確認してください。

No.	名称	個数	備考
I	丸小ねじ (M4×16)	4個	パネル固定用
II	丸小ねじ (M5×16)	8個	キャンバスダクト固定用 チェーン固定用
III	丸小ねじ (M4×25)	4個	ホルダー固定用
IV	ホルダー	4個	
V	チェーン	4個	
VI	断熱材	2個	

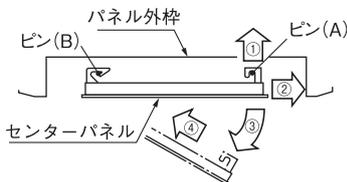
#### ② センターパネルの取外し

パネル外枠からセンターパネルを外してください。



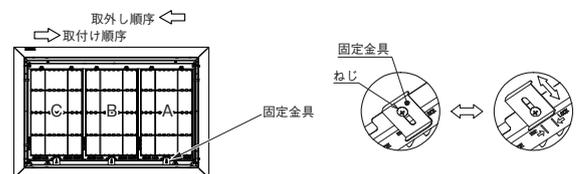
〈センターパネルの外し方〉

1. 矢印①→②の順でピン(A)より外してください。
2. 矢印③のように少し開き矢印④の方向へ移動させてピン(B)より外してください。



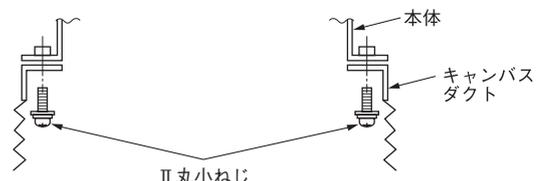
#### ③ フィルタの取外し

1. 固定金具のねじを緩めスライドさせてください。
2. 図の取外し順序に従って取外してください。  
(A⇒B⇒Cの順)

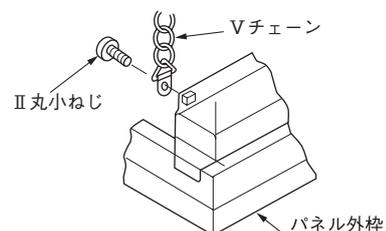


#### ④ パネルの取付け

1. キャンバスダクト（オプション品）を本体に取付けてください。（4か所）



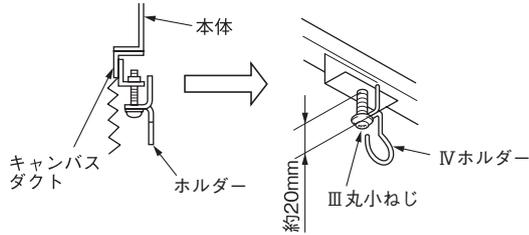
2. パネル外枠にチェーンを取付けてください。（4か所）



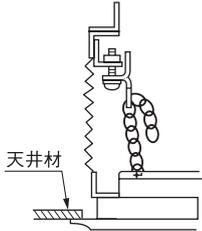
#### ④ パネルの取付けの続き

3. パネル外枠を取付けてください。

- i. ホルダーを下図に示すように仮止めしてください。  
(4か所)

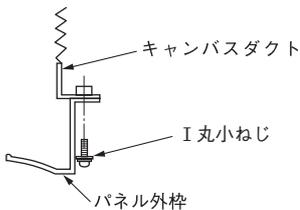


- ii. パネル外枠のチェーンをホルダーに引掛けてください。



注) チェーンを引掛ける際は、パネル外枠を天井材にできるだけ密着させた状態でチェーンにたるみのないように行ってください。

- iii. パネル外枠を天井材と密着するまで i 項の III丸小ねじにより吊り上げてください。  
iv. キャンバスダクトとパネル外枠をねじ止めしてください。(4か所)



#### ⑤ フィルタの取付け

1. ③項に示す取付け順序に従って取付けてください。  
(C⇒B⇒Aの順)  
2. 固定金具をスライドさせて、ねじを締めてください。

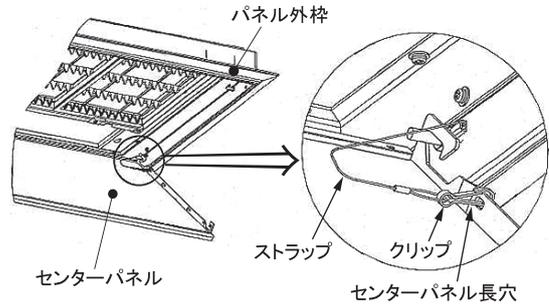
#### ⑥ センターパネルの取付け

- ②項に示す逆の順序で取付けてください。

#### ⑦ ストラップのはめ込み

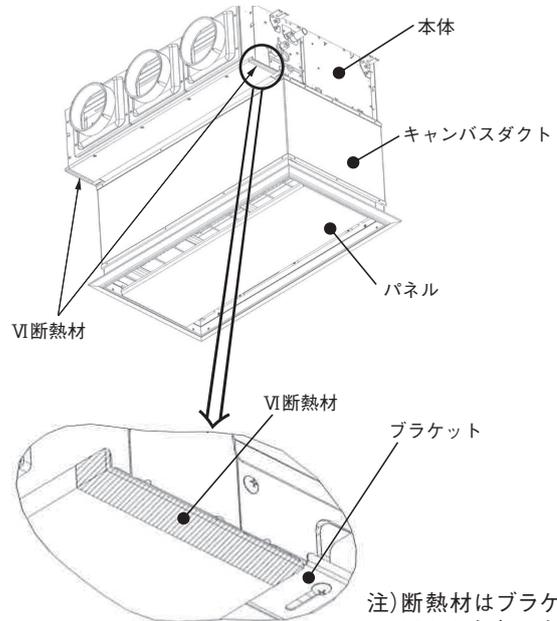
センターパネルの落下防止のため、パネル外枠に取付けられているストラップのクリップをセンターパネル長穴にはめてください。

注) クリップが外枠に当たり、傷つく恐れがあるため、センターパネルを閉じる際、ストラップやクリップは図のようにパネル内側を向くようにしてください。



#### ⑧ 断熱材の貼付け

本体の下記箇所に断熱材を貼付けてください。(2か所)



注) 断熱材はブラケットにかからないように貼付けてください。

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。  
電気配線(室内)は、282 ページをご覧ください。リモコンの取付方法は、200 ページをご覧ください。ワイヤレスキットの取付方法は、417 ページをご覧ください。

室外ユニットの据付方法、電気配線(室外)及び冷媒配管工事方法は、251 ページをご覧ください。

また、故障診断は、327 ページをご覧ください。

給気処理ユニットの場合

- 他のエアコンユニットとの全接続容量は、50～100% (全給気処理ユニットの容量) にしてください。
- 単独で給気処理ユニットを接続することができます。給気処理ユニットの接続容量は 50～100% にしてください。  
室外ユニットに接続できる給気処理ユニットは最大 2 台です。

### 安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**△警告**、**△注意**、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**△警告**の欄にまとめて記載しています。しかし、**△注意**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。  絶対に行わない  必ず指示に従う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方(エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など)をお客様に説明してください。  
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

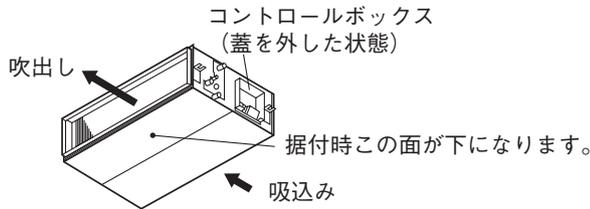
#### 警告

●据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。	
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	
●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13) 限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。	
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。 冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	
●据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。 強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。	
●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。 据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。	
●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。 空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、感電などの原因になります。	
●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	
●配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用のものを使用する。 既存 (R22) の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。	
●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。 フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。	
●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。 室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。	
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。 冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	
●ボンパダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。 ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	
●改修は絶対に行わない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	
●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。 据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	

## ⚠注意

<p>●アース（接地）を確実に行う。 アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。</p>	⚡
<p>●漏電遮断器は必ず取付ける。 漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。</p>	!
<p>●正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。 不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。</p>	!
<p>●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。 針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。 万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。 熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。 スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。</p>	!
<p>●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。 室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。 保存物の品質低下などの原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。 インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。 リモコンの故障や変形の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●次の場所への据付けは避ける。 ・可燃性ガスの漏れる恐れがある所 ・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所 ・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など） ・高周波を発生する機械を使用する所 ・海浜地区等塩分の多い所 ・煙突の煙がかかる所 ・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所 ・車両・船舶等移動するものへの設置 ・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所 ・積雪の多い所 ・標高1000m以上の所 性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●次の場所への室内ユニットの据付けは避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。 ・吸込口、吹出口に風の障害物がある所 ・強度が不十分で振動が発生する所 ・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所 ・高周波に影響される機器のある所（TVおよびラジオ等の近傍） ・ドレンの排水がとれない所 性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。</p>	⊘
<p>●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。 湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。</p>	⊘
<p>●長期使用で傷んだままの据付け台を使用しない。 傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。 溶接作業時などに発生するスパッタがユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。</p>	!
<p>●ドレン工事は、据付け説明書に従って確実に排水するように配管する。 不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。</p>	!
<p>●GHP（ガスヒートポンプ）の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。 室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。</p>	⊘
<p>●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れないことを確認してください。 万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。</p>	!
<p>●ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。 試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。</p>	⊘
<p>●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。 不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。</p>	!
<p>●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。 小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。 また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。</p>	⊘
<p>●製品の運搬は十分注意して行う。 20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。 素手でフィンなどに触れるとケガをしますので保護具をご使用ください。</p>	!
<p>●梱包材の処理は確実にを行う。 梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。</p>	!
<p>●エアフィルタを必ず取付ける。 内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●濡れた手でスイッチを操作しない。 感電の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●運転中の冷媒配管を素手で触れない。 運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。</p>	⊘
<p>●エアコンを水洗いしない。 感電の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●運転停止後、すぐに電源を切らない。 必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。</p>	⊘
<p>●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。 火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。</p>	⊘

- 本機は高静圧ダクト機です。直吹きでは使用しないでください。

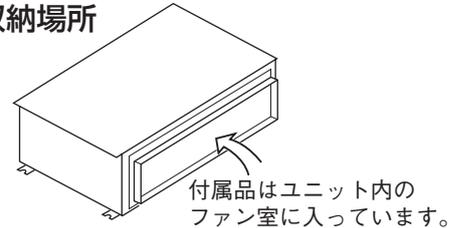


## ①据付けのまえに

- 据付けはこの据付け説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。

○機種・電源仕様      ○配管・配線・小物部品      ○付属品

### 付属品収納場所 (梱包時)



### 付属品

本体吊り込み用	冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金 (M10)	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	バンド	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	ドレンホース	ホースクランプ
8 個	1 個	1 個	4 本	1 個	1 個	1 個	1 個
ユニット吊下げ用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用

## ②室内ユニットの据付場所の選定

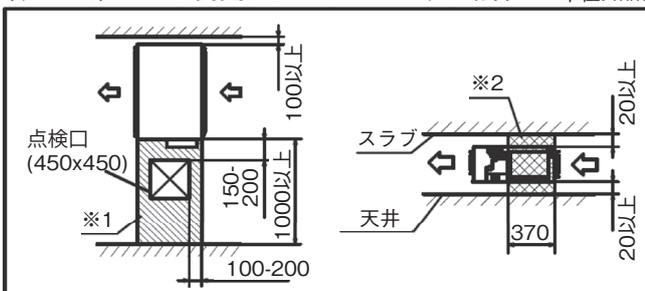
- 据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
  - ・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
  - ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
  - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
  - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
  - ・侵入外気の影響のない所。
  - ・直射日光の当たらない所。
  - ・周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
  - ・本ユニットはJIS露点条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度・霧気の状態では運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。
  - ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
  - ・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
  - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
  - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
  - ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。(ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなる可能性があります。)
- 据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうかを検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。

### 室内ユニット据付スペース

- 据付高さは2.5m以上としてください。据付時、サービス時のために下記2ケースのどちらかを選んでください。

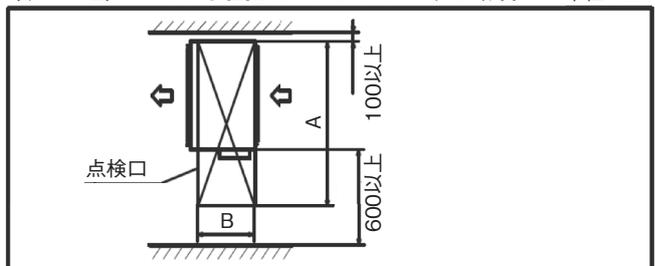
(ケース1) ユニット側面からメンテナンスする場合

単位: mm



(ケース2) ユニット下面からメンテナンスする場合

単位: mm



- ※1 ファンモータを側面へ引き出す構造となっております。障害になるものを設置しないでください。(印箇所)
- ※2 印箇所を横切らないように冷媒配管、ドレン配管、電気配線を設定してください。

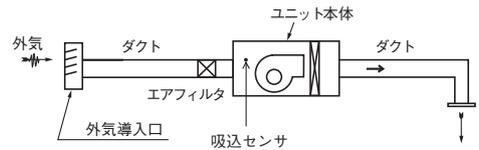
(点検口サイズ)

単位: mm

店舗シリーズ	50, 56	63-80	112-160
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	22-56	71-90	112-160
給気処理ユニット	—	90	140
A	1100	1300	1720
B		620	725

### ③ 給気処理ユニットの据付け時の注意

① 給気処理ユニットは吸込センサの検知温度とリモコン設定温度に基づき、発停を制御しております。  
リモコン設定温度は発停を制御する外温を示しています。冷房モードでは、サーモOFFとなると、外気を直接室内に吹出す送風モードに変わります。



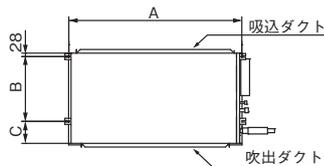
- ② 給気処理ユニットは外気を直接吹出す場合がありますので、直接室内の人に風を当てないように配慮ください。
- ③ ユニットは外温を検知して発停を制御しますので、リモコン設定温度の変更で室温を調整しないでください。冷房運転時にリモコン設定温度を下げ過ぎた場合、結露水が滴下する可能性があります。
- ④ 一般の人がリモコン操作することを避けるため、給気処理ユニットのリモコンは管理者だけが操作できる場所に設置してください。

お客様に製品をお渡しする際には、上記の注意事項、給気処理ユニットを操作するリモコンの設置場所、吹出口に位置をお知らせください。

### ④ 据付け前の準備

- 吊りボルトの長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
  - システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合  
吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
  - 強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合  
吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
- 吊りボルト・ナット・バネ座金（M10）を4組現地にて手配してください。

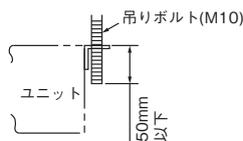
#### 吊りボルト位置、配管位置、ダクト寸法



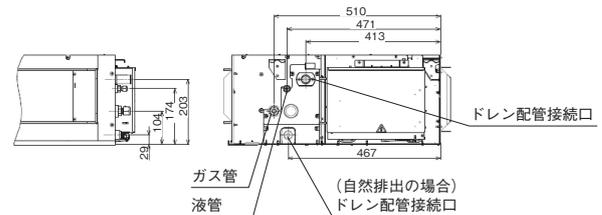
単位: mm

店舗シリーズ	50,56	63-80	112-160
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	22-56	71, 90	112-160
給気処理ユニット	-	90	140
A	786	986	1404
B	472	472	530
C	135	135	180

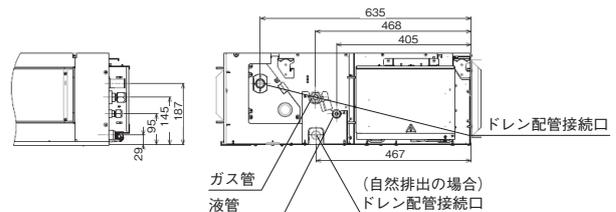
吊りボルト締付け時には下記長さになるように調整してください。



店舗シリーズ	50-80
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	22-90
給気処理ユニット	90



店舗シリーズ	112-160
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	112-160
給気処理ユニット	140

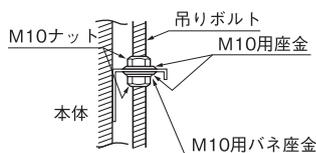


### ⑤ 室内ユニットの据付け

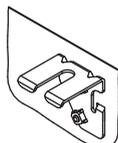
#### 据付

〈吊り込み〉

- ユニートを吊り込んでください。



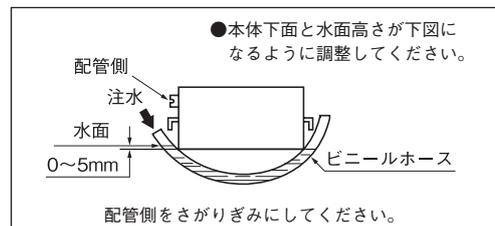
- 本体を据付けたとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。



#### 水平度の調整

お願い

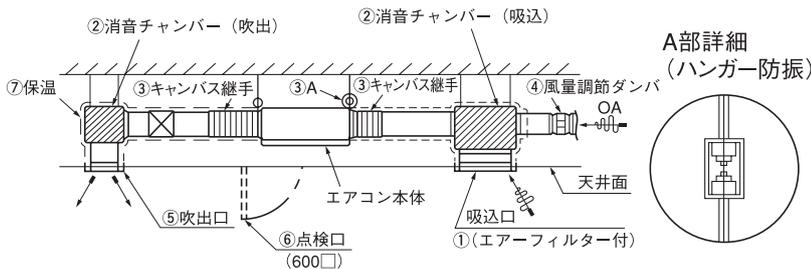
- 水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。



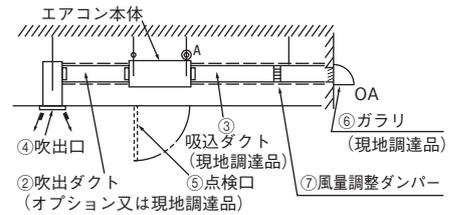
- 水平度がでない場合、フロートスイッチの誤作動あるいは不動作の原因となります。

## ⑥ダクト工事

### 高静圧ダクト (FDU)

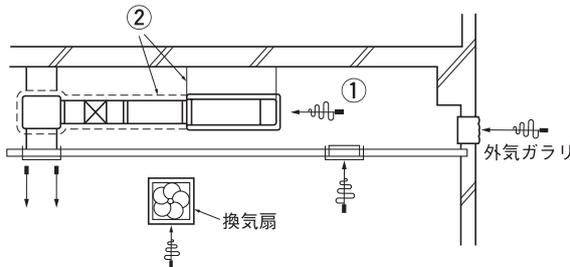


### 給気処理ユニット (FDU-F)



- ① エアコン本体にはエアフィルタが付属されていません。掃除の容易な吸込グリルにエアフィルタを組込んでください。
- ② 消音チャンバーは据付け後の室内の許容される騒音値によって取付けてください。特に低騒音とする必要がある場合は、さらに消音装置が必要です。(事務所、会議室などでは必ず取付けること)
- ③ エアコン本体の振動が天井およびスラブに伝わらないようにダクトはキャンバス継手、エアコン本体は防振ゴムにより防振してください。
- ④ OAダクトの接続口には、据付け後の風量調節ができるよう、風量調節ダンパを取付けてください。
- ⑤ 吹出口は室内全般に空気が流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
- ⑥ 天井面に点検口を必ず設けてください。電装品、モータ、機能品のサービス、熱交換器洗浄のために必要です。
- ⑦ ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。保温材の厚さは65mm (JISA9501)です。
- ⑧ 送風機 (ファンモータ) に手が触れないようにダクトを接続してください。または吸込側を直吸込みで使用の場合は吸込口にエアフィルタを取付けてください。

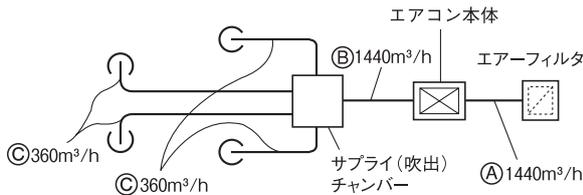
#### 〈ダクト施工の悪い例〉



- ① 吸込側ダクトを使用せず、天井内を吸込ダクトにすると換気扇の能力や外気ガラリに吹きつける風の強さ、天候 (雨の日など) 等により天井内が高湿度となります。  
 (イ) ユニットの外板に結露し天井に滴下するおそれがあります。  
 ユニットの空気条件及び風量限界内で使用してください。コンクリート建築などで新築の場合も天井内ダクトにしなくても湿度が高くなる可能性があります。この場合はユニット全体をグラスウール (25mm) で保温してください。(金あみなどでグラスウールをおさえてください。)  
 (ロ) ユニットの運転限界 (例: 外温35℃ DB のとき吸込空気温度24℃ WB) をこえる場合も考えられ、圧縮機のオーバーロードなどのトラブルの原因となります。  
 (ハ) 換気扇の能力、外気ガラリに吹きつける風の強さによってユニットの送風量が多くなり使用制限をこえてしまうため熱交換器のドレンがドレンパンへ流れず、外部に流れだすこともあり、(天井にドレンが滴下する) 水漏れの原因となります。
- ② ユニットとダクト、ユニットとスラブの防振をしないとダクトに振動が伝わり、天井と吹出口の間で振動音が出たり、スラブにユニットの振動が伝わる場合があります。必ず防振してください。

#### 〈簡易的なダクト寸法の決め方〉

ダクトの単位長さ当り摩擦抵抗を1Pa/mとして、ダクトは一辺が吸込側は170mm、吹出側は200mmのものを使用する場合の方法を示します。80形、定格風量の場合を例とします。



	風量	ダクト (mm×mm)
①部	1440m³/h (24m³/min)	200×440
②部	1440m³/h (24m³/min)	170×540
③部	360m³/h (6m³/min)	170×180

#### 〈空気条件、風量限界〉

店舗シリーズ	50, 56	63-80	112-160
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	22-56	71-90	112-160
最大風量 (m³/min)	14.5	27	53
室内側入口空気	乾球温度 (°C)	32	
	湿球温度 (°C)	29	

給気処理ユニット	90	140	
最大風量 (m³/min)	15	25	
ユニット吸込空気	乾球温度 (°C)	32	
	湿球温度 (°C)	29	

#### 〈簡易ダクト寸法選定図〉

風量 m³/h (m³/min)	ダクトの形	
	項目	角ダクト 寸法 (mm×mm)
100	200×70	170×80
200	200×100	170×120
300	200×140	170×150
360 (6)	200×150	170×180
450	200×180	170×210
500	200×200	170×230
600 (10)	200×220	170×260
800	200×280	170×340
1000	200×330	170×400
1200 (20)	200×380	170×460
1400	200×430	170×530
1440 (24)	200×440	170×540
1600	200×480	170×600
1800 (30)	200×530	170×660
2000	200×580	170×720
2400 (40)	200×680	170×850
3000 (50)	200×830	170×1040

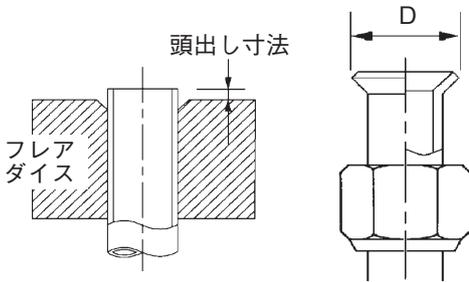
○ダクト抵抗の計算 (簡便的に下表の如く計算する)

直管部	長さ1m当り1Paで計算する1Pa/m
曲り部	曲り部1ヶ当り直管に直して3~4mとする
吹出部	25Paで計算する
チャンバー	1個で50Paで計算する
吸込グリル(フィルター付)	1個で40Paで計算する

## ⑦冷媒配管

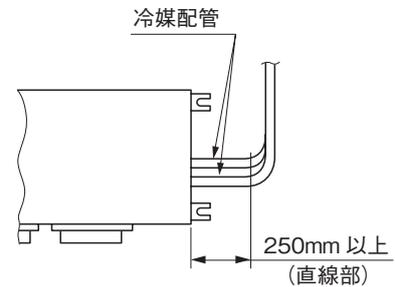
### 冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品をご使用ください。既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料で確認すること。
- 1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品を使用すること。



配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N·m
		リジッド (クラッチ式)			
		R410A 用	従来ツール		
φ 6.35	0.8	0 ~ 0.5	0.7 ~ 1.3	8.9 ~ 9.1	14 ~ 18
φ 9.52	0.8			12.8 ~ 13.2	34 ~ 42
φ 12.7	0.8			16.2 ~ 16.6	49 ~ 61
φ 15.88	1			19.3 ~ 19.7	68 ~ 82
φ 19.05	1.2			23.6 ~ 24.0	100 ~ 120

- 2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。
- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管 (C1220T、JIS H3300) をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- R32 または R410A 以外の冷媒は使用しないでください。室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具は R32 用または R410A 用ツールを使用してください。

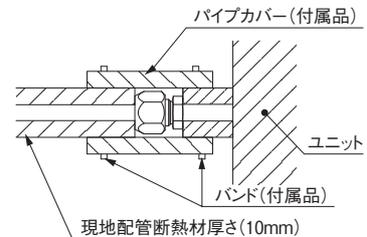


お願い  
冷媒配管工事は、上図のように直線部を 250mm 以上とって行ってください。(ドレンポンプのサービスに必要です。)

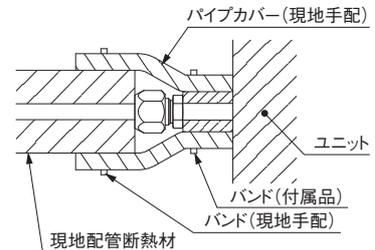
### 作業手順

1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。  
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで 2 丁掛けして外してください。  
(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。)
- フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)
2. 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。  
※配管の曲げは 4D 以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。  
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。  
※フレア接続は、以下のように行ってください。  
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで 3 ~ 4 回転ねじ込み、2 丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
3. 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
- ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。  
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
- ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃ 以上のものを使用してください。
- 高湿度雰囲気を使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4. 冷媒は室外ユニットに充填されています。  
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>



<断熱材を強化する場合>



注意

同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。  
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

## ⑧ ドレン配管

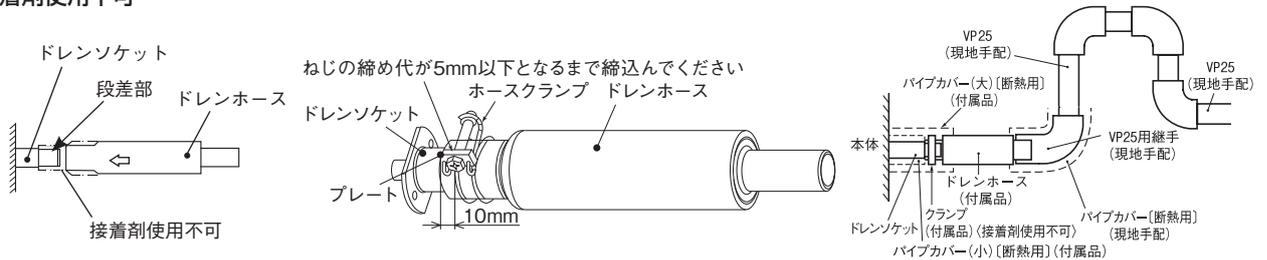
### ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。  
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。  
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起らないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配 (1/100 以上) とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。  
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

### 作業手順

1. 付属のドレンホース (軟質塩ビパイプ) はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から 10mm 程度のところに取付け、ねじの締め代が 5mm 以下となるまで締込んでください。

#### ●接着剤使用不可



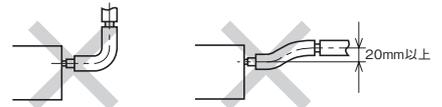
2. ドレンホース (硬質塩ビパイプ) に、VP25用継手 (現地手配) を接着・接続し、この継手に、VP25 (現地手配) を接着・接続してください。

※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25を使用してください。

#### ●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。

乾燥後、フレキシブル部が力加わった場合、フレキシブル部が破損することがあります。

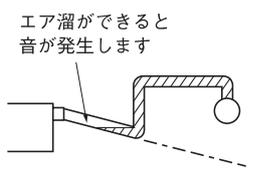
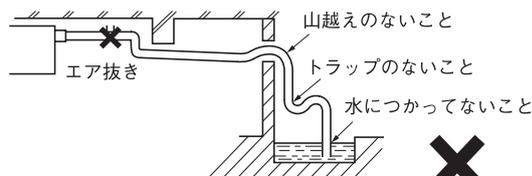
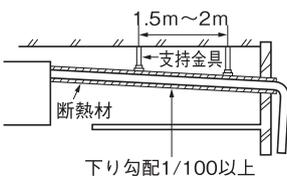
- ドレンホースは、ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。



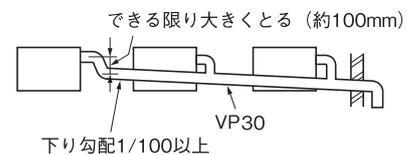
3. ドレン配管は下り勾配 (1/100 以上) とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。

- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力加えないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。

#### ●エア抜きは絶対に設けないでください。



- 複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約 100mm 下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管は VP30 以上を使用してください。



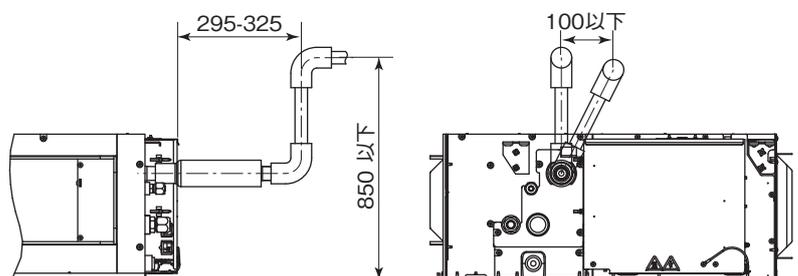
4. ドレン配管の断熱施工を行ってください。

- 結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。

※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー (小) をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー (大) にてパイプカバー (小)、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

### ドレンアップする場合

- ドレン配管の出口高さは、天井面より 850mm まで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長くと、運転停止時におけるドレン逆流が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。

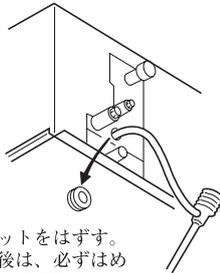


## ⑧ ドレン配管のつづき

### ドレン排水テスト

- ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていること、接続部およびユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。
- 暖房期の据付けの際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。

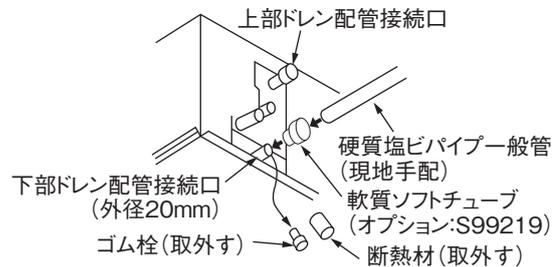
1. 右図要領にて給水ポンプなどを使用して、本体ドレンパンの中へ約1000ccほどの水を注入してください。注水ホースを50mm位差し込んで注水してください。(注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。)
2. ドレン排水しているか排水口部でご確認ください。  
※ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかテストしてください。
3. 排水テスト後は、本体部まで配管の断熱をしてください。



グロメットをはずす。  
テスト後は、必ずはめておいてください。

### 下部ドレン配管工事要領 (配管接続)

ドレン配管に下り勾配 (1/50~1/100) が可能な場合 下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



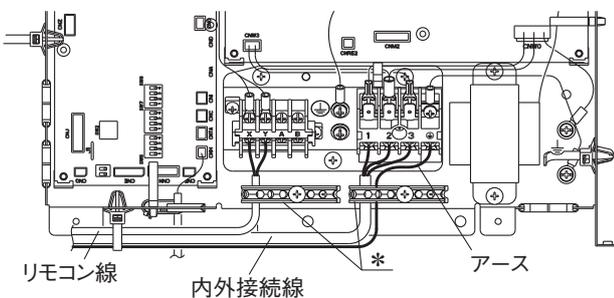
ドレンモータ用のコネクタ CNR の取外し  
下部ドレン配管を使用する場合に必ず必要です  
コントロールボックス内のドレンモータ用コネクタ CNR を取り外してください。

(注：コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。)

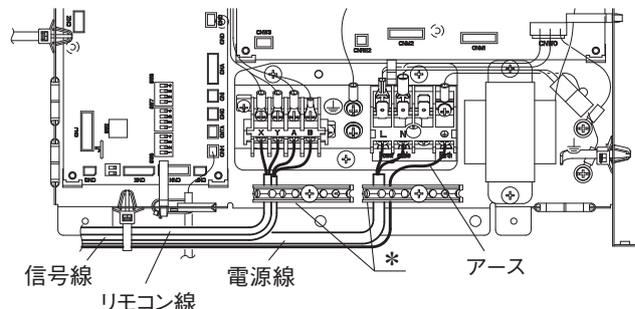
## ⑨ 電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
- 電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1. 電装箱の蓋 (ねじ2本) を取外してください。
2. 各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。  
コントロールボックスの蓋に貼付の結線銘板を参照ください。
3. 各配線をクランプで固定してください。
4. 取外した部品を元通りに取付けてください。



シングル機の配線接続



マルチ機の配線接続

\* 配線を引張っても動かないようにバンドで固定してください。

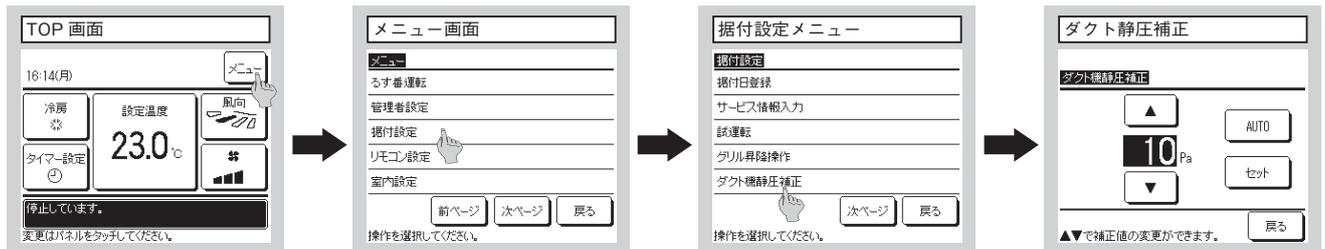
## ⑩機外静圧設定

ECOタッチリモコン（RC-DX2以降）を使用し、機外静圧を設定することができます。  
 定格風量になるように各タップのファン回転数を変化させます。  
 店舗シリーズをツイン機として設定する場合は、室内ユニット同士が同一風量になるように個々に設定してください。

### ●ECOタッチリモコンからの設定方法

- ①メニュー画面より据付設定を選択し、サービスパスワードを入力します。
- ②据付設定メニューより、ダクト機静圧補正を選択します。
- ③“▲”、“▼”で機外静圧を設定し、“セット”をタッチしてください。  
 （“AUTO”を選択した場合には、150Paで設定されます。）

詳細な設定方法については、ECOタッチリモコン付属の据付説明書を参照ください。  
 風量特性については、技術資料を参照ください。



[メニュー] ボタンをタッチしてください。

[据付設定] ボタンをタッチしてください。

選択した画面に移ります。

機外静圧を選択し、[セット]をタッチしてください。

### 注意

- ・RC-DX2 以降の ECO タッチリモコン以外からは設定できません。

### 静圧設定上の注意

実際の機外静圧を計算し、設定してください。

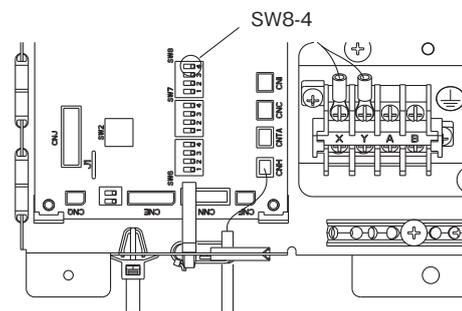
実際の機外静圧よりも機外静圧設定が高い場合には風量が過大となり、水漏れが発生する恐れがあります。また、実際の機外静圧よりも機外静圧設定が低い場合には風量が過小となり、不冷・不暖の原因になります。

工場出荷状態では上記のリスクを減らすため、機外静圧設定範囲を 80-150Pa（給気処理ユニットは 10-120Pa）としております。実際の機外静圧は 80-150Pa（給気処理ユニットは 10-120Pa）の範囲で使用してください。実際の機外静圧が 80Pa（給気処理ユニットは 10Pa）より低い場合には水漏れとなる恐れがあります。

（機外静圧設定を 10～70Pa で設定した場合、機外静圧設定は 80Pa となります。

機外静圧設定を 160～200Pa で設定した場合、機外静圧設定は 150Pa となります。また給気処理ユニットは 130～200Pa で設定された場合、機外静圧設定は 120Pa になります。）

また、コントローラの SW8-4 を ON にすることにより、機外静圧設定範囲を 10-200Pa に変更することが可能です。但し、上記リスクが高くなるため、実際の機外静圧を把握してない場合には使用しないでください。



SW8-4:OFF（機外静圧設定範囲：80～150Pa）



SW8-4:ON（機外静圧設定範囲：10～200Pa）

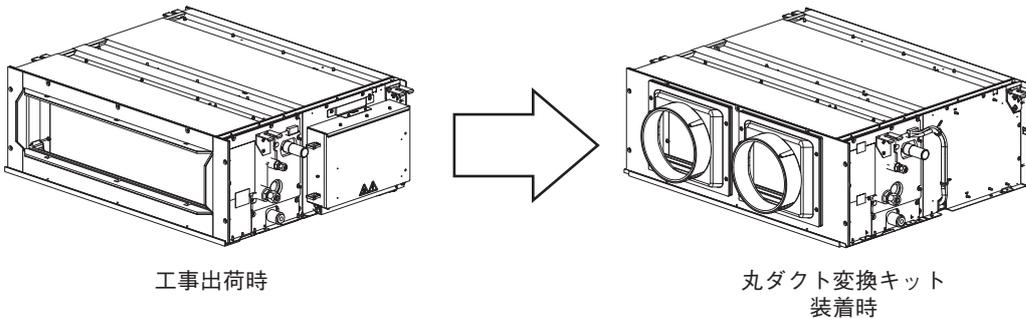
## ⑪丸ダクト変換キット使用時の静圧設定について

丸ダクト変換キット(オプション)を使用する場合、工場出荷時の機内圧損に対して増加します。その為、機外静圧設定時には下表に従って設定してください。

例えば、80形の場合、機外静圧を100Paにする場合には、下表に従ってリモコンの機外静圧設定を110Paにしてください。

### 注意

- ・機外静圧範囲は10-100Paとなります。この範囲内になるよう、下表に従いリモコン機外静圧設定を行ってください。
- ・⑨機外静圧設定に示すSW8-4をONにして使用ください。
- ・実際の機外静圧と設定する機外静圧が一致することを確認してください。  
異なっていると水漏れや不冷・不暖の原因になります。



丸ダクト変換キット使用時のリモコン機外静圧設定 対応表

店舗シリーズ	—	50,56	63	71-80	112	140	160	
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	22	28-56	—	71-90	112	140	160	
オプション型式	U-UM-1A	U-UM-2A	U-UM-3A		U-UM-4A			
実際の機外静圧 (Pa)	10	20	30	10	20	20	30	40
	20	30	40	20	30	30	40	50
	30	40	50	30	40	40	50	60
	40	50	60	50	50	50	60	70
	50	70	70	60	60	60	70	80
	60	80	80	70	70	70	80	90
	70	90	90	90	80	80	90	100
	80	100	100	100	90	90	110	110
	90	120	110	110	100	100	120	130
	100	130	120	120	110	110	130	140

## ⑫ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	
機外静圧設定は完了していますか。	水漏れ、冷えない	

(f) 天吊形 (FDEZ)

PFA012D627C 

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。  
電気配線（室内）は、282ページをご覧ください。リモコンの取付方法は、200ページをご覧ください。  
ワイヤレスキットの取付方法は、419ページをご覧ください。  
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）及び冷媒配管工事方法は、251ページをご覧ください。  
また、故障診断は、327ページをご覧ください。

### 安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**△警告**、**△注意**、に区分してありますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**△警告**の欄にまとめて記載しています。しかし、**△注意**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 絶対に行わない   必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法等）をお客様に説明してください。この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書等をお渡しいただくよう依頼してください。

#### 警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。  
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。 
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。  
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災等の原因になります。 
- 小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13)  
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。 
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。  
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れや、火災、感電等の原因になります。 
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。  
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。 
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。  
強度が不足している場合は、ユニットの落下等により、ケガの原因になります。 
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。  
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になることがあります。 
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気等を入れない。  
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因になります。 
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。 
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。 
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。  
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。 
- 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。  
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。 
- 配管、フレアナット、工具はR32用またはR410A用のものを使用する。  
既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。 
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける。  
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。 
- ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。  
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。 
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。  
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。 
- ボンパダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。  
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。 
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。  
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。 
- 改修は絶対にしないでください。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。 
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。  
据付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。 
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「室内ユニット電源ブレーカ」を必ず落すと。  
点検・修理にあたって、室内ユニット電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。 
- パネルやガードを外した状態で運転しない。  
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。 
- 元電源を切った後に電気工事を行う。  
感電、故障や動作不良の原因になることがあります。 

## ⚠注意

- アース（接地）を確実に行う。  
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。 ⚡
- 漏電遮断器は必ず取付ける。  
漏電遮断器が取付けられていないと火災や感電の原因になることがあります。 !
- 正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。  
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。 !
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。  
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。 /
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。  
万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。 /
- 腐食性ガス（亜硫酸ガス等）、可燃性ガス（シンナー、ガソリン等）の発生、滞留の可能性のある場所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。  
熱交の腐食、プラスチック部品の破損等の原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。 /
- 工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。  
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。 !
- 洗濯室等、水の掛かる場所では使用しない。  
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災等の原因になることがあります。 /
- 食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。  
保存物の品質低下等の原因になることがあります。 /
- 病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。  
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音等弊害の原因になることがあります。 /
- 直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。  
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。 /
- 次の場所への据付けは避ける。  
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所  
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所  
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場等）  
・高周波を発生する機械を使用する所  
・海浜地区等塩分の多い所  
・煙突の煙がかかると  
・カーボン繊維や金属粉、パウダー等が浮遊する所  
・車両・船舶等移動するものへの設置  
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所  
・積雪の多い所  
・標高1000m以上の所  
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。 /
- 次の場所への室内ユニットの据付けは避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。  
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所  
・強度が不十分で振動が発生する所  
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所  
・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）  
・ドレンの排水がとれない所  
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。 /
- エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。  
湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じる恐れがあります。 /
- 長期使用で傷んだままの据付け台を使用しない。  
傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガ等の原因になることがあります。 /
- ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。  
溶接作業時などに発生するスパッタがユニットにあたった場合、ドレンパン等に損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れ等の原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。 !
- ドレン工事は、据付け説明書に従って確実に排水するように配管する。  
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。 !
- 冷媒配管工事後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れないことを確認してください。  
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となる場合があります。 !
- GHP（ガスヒートポンプ）の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。  
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。 /
- ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。  
試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。 /
- 冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。  
不完全な断熱施工を行うと配管等表面が結露して、露たれ等が発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。 !
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。  
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。  
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。 /
- 製品の運搬は充分注意して行う。  
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。 !
- 梱包材の処理は確実にを行う。  
梱包材にクギ等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますとケガをする恐れがあります。 !
- フィルターをはずしたまま運転しない。  
内部に油・ゴミ等が詰まり、故障の原因になることがあります。 /
- 濡れた手でスイッチを操作しない。  
感電の原因になることがあります。 /
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。  
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。 /
- エアコンを水洗いしない。  
感電の原因になることがあります。 /
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。  
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。 /
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。  
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。 /

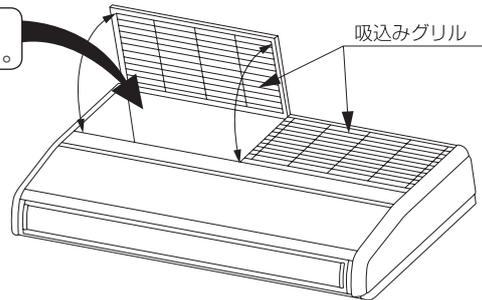
## ①据付けのまえに

- 据付けはこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
  - 機種・電源仕様
  - 配管・配線・小物部品
  - 付属品

### 付属品

本体吊り込み用		冷媒配管用			ドレン配管用					吸込みグリル用
平座金 (M10)	型紙	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	バンド	ドレンホース (クランプつき)	ホース クランプ	固定金具	ねじ	断熱材	ねじ
8 個	1 個	1 個	1 個	4 本	1 個	1 個	1 個	2 個	1 個	4 個
ユニット 吊下げ用	ユニット 吊込み調整用	ガス管 断熱用	液管 断熱用	パイプカバー 固定用	ドレン配管 接続用	ドレンホース 取付用	ドレンホース 固定用	固定金具 取付用	ドレンホース 断熱用	グリル 固定用

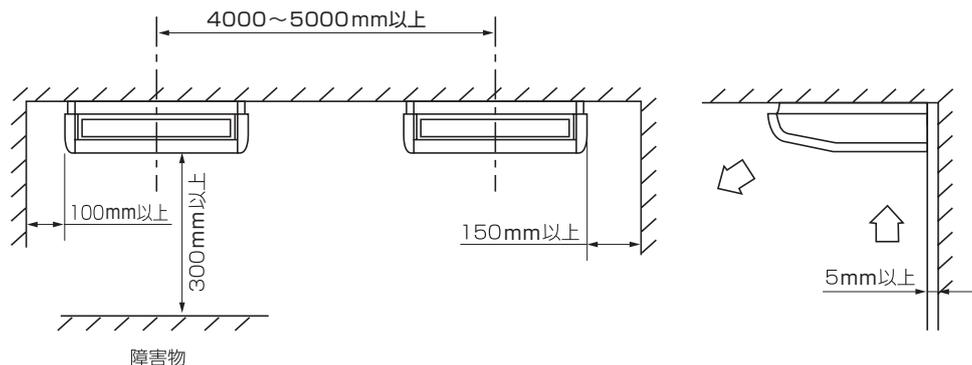
付属品はこの中に  
収納されています。



## ②室内ユニットの据付場所の選定

- 据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
  - ・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
  - ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
  - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
  - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
  - ・侵入外気の影響のない所。
  - ・直射日光の当たらない所。
  - ・周囲の露点温度が23℃以下、相対湿度80%以下の所。  
本ユニットはJIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度・霧囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。天井埋込で据付ける際は、ユニット天面に断熱材を貼り付ける等、結露に対する配慮をしてください。
  - ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
  - ・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
  - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
  - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接、吸込まない所。
- 据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われる場合は、板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下により、ケガの原因になります。
- 室内ユニットを隣接して設置する場合は、ユニット間距離を4～5m以上離して設置してください。

### 室内ユニット据付スペース

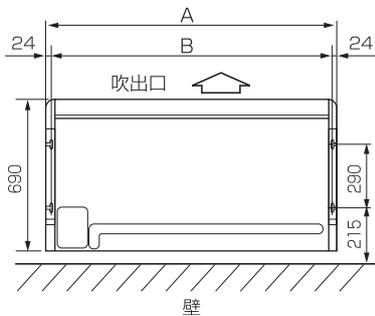


### ③据付け前の準備

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
  - システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合  
吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震プレースを設置する。
  - 強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合  
吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm以上の場合に耐震プレースを設置する。
- 吊りボルト・ナット・バネ座金（M10）を4組現地にて手配してください。

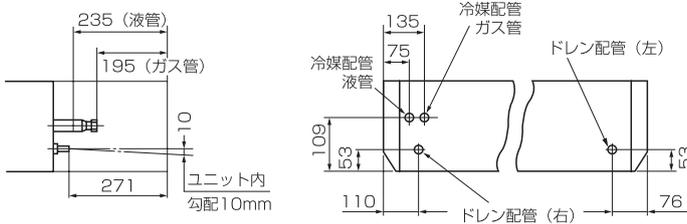
#### 天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置

天井開口穴・吊りボルトピッチ

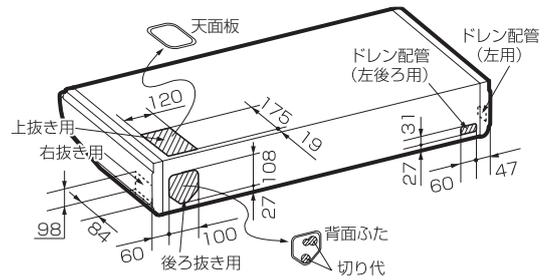


	[mm]		
店舗	40～56型	63～80型	112～160型
ビル空調	36～56型	71～90型	112～160型
ガスヒートポンプ			
A	1070	1320	1620
B	1022	1272	1572

冷媒配管位置



配管取り出し位置



※配管取り出しは3方向（後ろ・右・上）より行えます。

- ・穴はニッパ等により切り落とししてください。
- ・背面ふたは切り代にしたがって配管取出し穴を切り抜いてください。
- ・上取出しの場合は、天面板を外してください。
- ・右取出しの場合は、サイドパネル内側の溝に沿って切り抜いてください。
- ・配管・配線の据付後、埃などが浸入しないよう、隙間をパテなどで塞いでください。

#### ユニットの搬入、据付

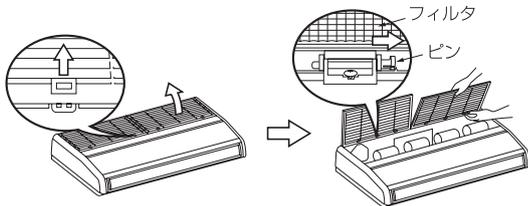
- 搬入時はできるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
- 開梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包み、ユニットを傷つけないよう注意してください。  
※サイドパネル、吹出ルーバ等、プラスチック部分を持たないでください。
- 開梱後ユニットをおく場合は、必ず吸込グリル側を上にして置いてください。



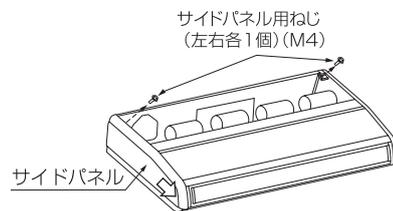
ユニット内への埃の浸入およびエッジ部での配線損傷防止のため、背面・天面ふたは、必ず取付けてください。右取り出しの場合、切り抜き部は、バリ等取り除いてください。

#### 吊り込み前の準備

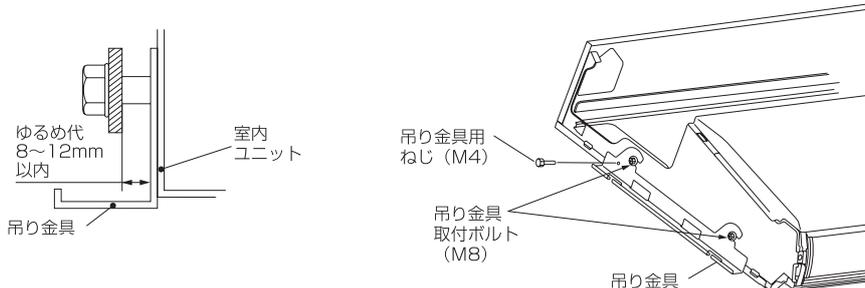
1. 吸込グリルの取外し  
ストッパーをスライドさせ、ピンを抜いてください。



2. サイドパネルの取外し  
ねじを外し、矢印方向にスライドさせてください。



3. 吊り金具の取外し  
ねじを外し、取付ボルトをゆるめてください。

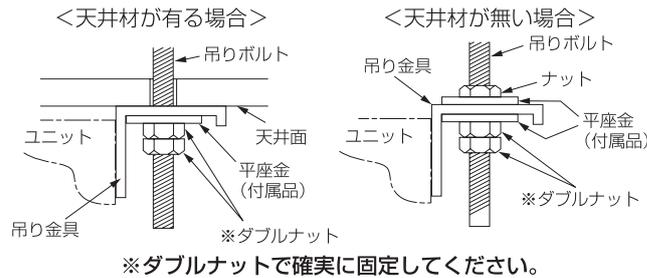
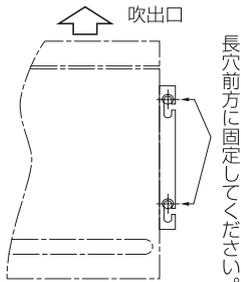
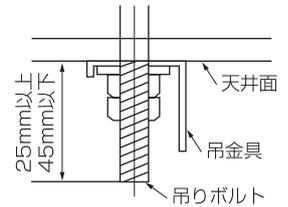
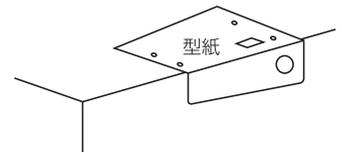


## ④室内ユニットの据付け

### 作業手順

- 吊りボルト位置、配管位置を選定してください。
  - 付属の型紙を目安にして、吊りボルト位置、配管穴位置を選定し、吊りボルトと配管用の穴あけを行ってください。
 

**※注意：位置決定は、実測により行ってください。**
  - 位置決定後、型紙は取外してください。
- 所定の位置に吊りボルトを設置してください。
- 吊りボルトは4本使用し、1本当たり500Nの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
- 吊りボルト長さは右図の寸法を厳守ください。
- 吊り金具を吊りボルトに固定してください。

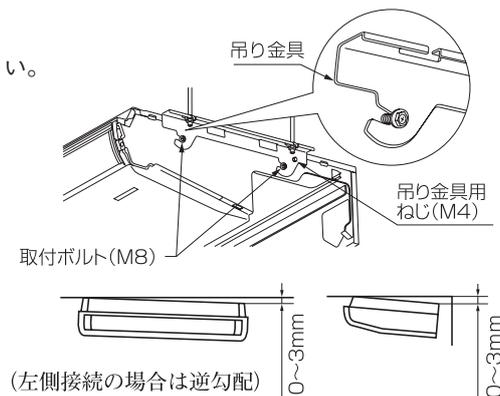


- ユニットを金具に据付けてください。(右図参照)
  - 吊り金具前方より、ユニットをスライドさせ、ボルトを引っかけてください。
  - 取付ボルト (M8) を左右4か所確実に締付けてください。
  - ねじ (M4) を左右2か所締付けてください。

**⚠警告：サイドパネルは前から後方へ向け引っかけた後、本体に確実にねじ止めしてください。**  
**ねじ止めされない場合、本体が落下し、ケガの原因になります。**

※ドレン水を流れやすくするためにユニットを排水側に下り勾配を設け、据付けてください。

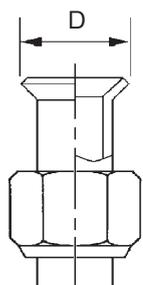
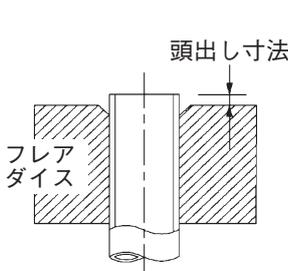
**⚠注意：逆勾配にすると水が漏れる恐れがあります。**



## ⑤冷媒配管

### 冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品をご使用ください。既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料で確認すること。
  - 1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品を使用すること。
  - 2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32用またはR410A用のフレア加工をしてください。



配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N·m
		R410A 用	従来ツール		
φ6.35	0.8	0 ~ 0.5	0.7 ~ 1.3	8.9 ~ 9.1	14 ~ 18
φ9.52	0.8			12.8 ~ 13.2	34 ~ 42
φ12.7	0.8			16.2 ~ 16.6	49 ~ 61
φ15.88	1			19.3 ~ 19.7	68 ~ 82
φ19.05	1.2			23.6 ~ 24.0	100 ~ 120

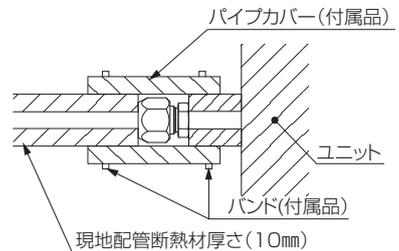
## ⑤ 冷媒配管の続き

- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- R32またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR32用またはR410A用ツールを使用してください。

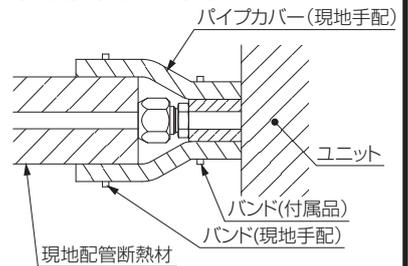
### 作業手順

1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。  
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。（このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません。）
- フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）
2. 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
  - ・後ろ・上取り出しの場合は、配管は⑦の電気配線と一緒にして、付属のふたを通して取付けてください。
  - ・埃などが浸入しないよう、隙間をパテなどで塞いでください。  
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。  
また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。
  - ※フレア接続は、以下のように行ってください。
    - ・ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。
    - ・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで左表の締付力で締めてください。
3. 室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
  - ガス側配管・液側配管ともに断熱は完全に行ってください。  
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
  - ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。
  - 高湿度雰囲気を使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。  
強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4. 冷媒は室外ユニットに充填されています。  
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

〈断熱材厚さ10mmを使用する場合〉

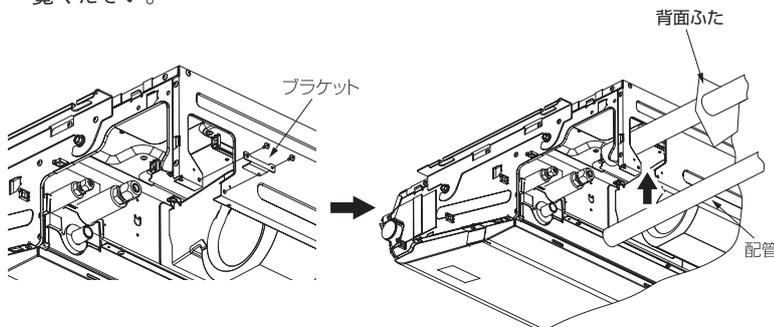


〈断熱材を強化する場合〉



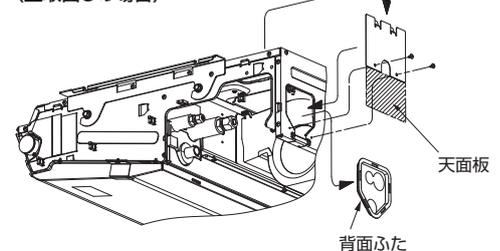
#### 注意

同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。



配管取出しは、後、右、上の3方向より行えます。  
後ろ配管の場合、ブラケットを取外すと作業が容易になります。  
※配管作業終了後、ブラケットを元通り取付けてください。

〈上取り出しの場合〉



1. 天面板を取外してください。
2. 天面板の斜線部をカットしてください。
3. 天面板を背面ふたとして取付けてください。

## ⑥ ドレン配管

- ドレン配管の取出方向は、後向き、右向き、左向きがあります。

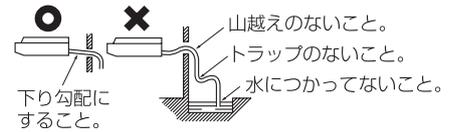
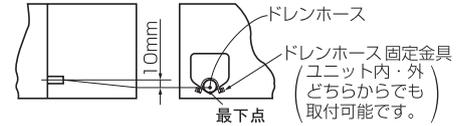
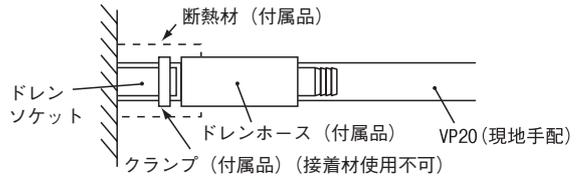
### ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

## ⑥ ドレン配管の続き

### 作業手順

- 付属のドレンホースを本体ドレンソケットの根元まで差し込み、付属のクランプで確実に締付けてください。(接着剤使用不可)  
 ※ドレン配管を左側に行う場合、本体の左側配管接続口に付いているゴム栓と断熱材(筒状)を右側接続口に付け替えてください。  
**△注意：ドレンプラグを外す時には、水の飛び出しに注意してください。**
- ドレンホースを付属の金具で最下点にて固定してください。  
 ※ドレンホースはたるまないように固定し、右図のように10mmの勾配をつけてください。  
 ●電気配線がドレンホースの下に入り込まないようにしてください。  
**△注意：ドレンホースは必ず金具で固定してください。**  
**ドレン水がオーバーフローする恐れがあります。**
- ドレンホースにVP20(現地手配)を接続してください。  
 (接着剤使用不可)  
 ※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP20を使用してください。
- ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。  
 ●エア抜きは絶対に設けないでください。
- ドレン配管の断熱施工を行ってください。  
 ●ドレンホースクランプは付属の断熱材を使用して断熱してください。  
 ●高湿度の環境で使用する場合、ドレン配管に結露する恐れがある場合は、ドレン配管に断熱材を追加する等結露に対する配慮をしてください。

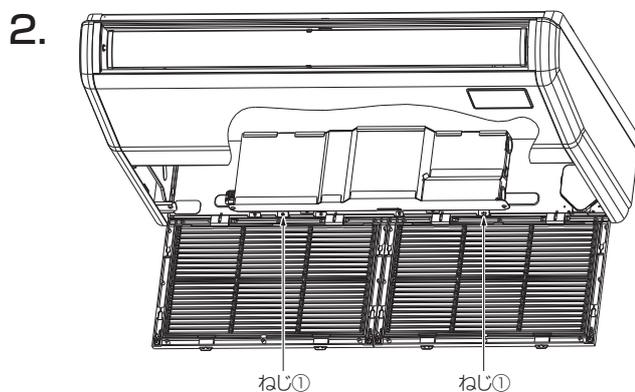
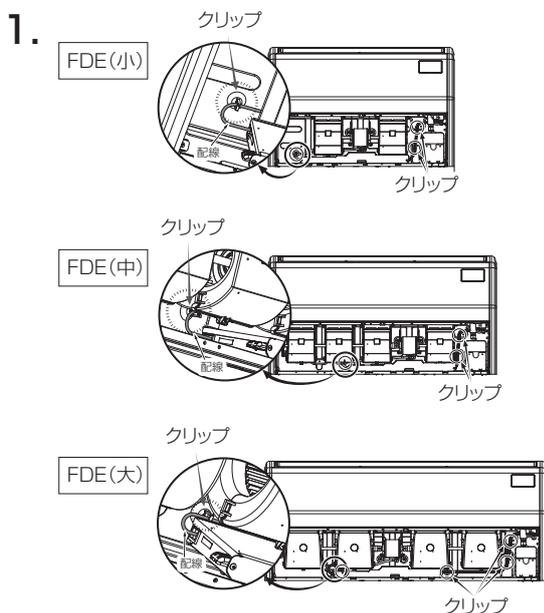


### ドレン排水テスト

- ドレン配管工事後に、排水が確実に行われていることと、水漏れのないことを確認してください。
- 暖房期の据付けの際にも必ず実施してください。

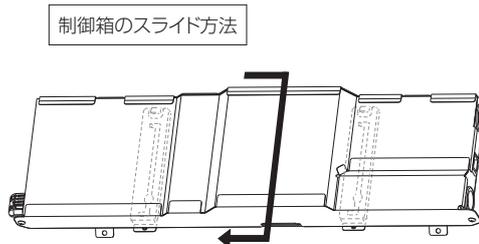
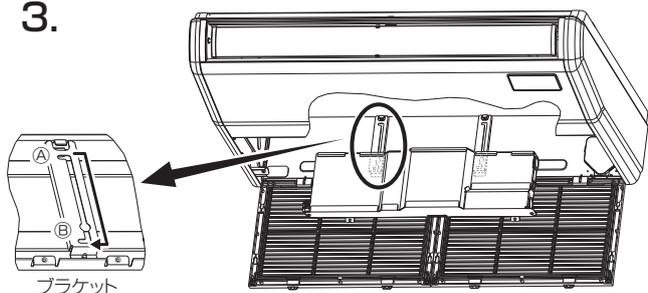
## ⑦ 電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
  - 配線は、所定のケーブルを使用して接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  - D種設置工事を必ず行ってください。
  - 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。
- 配線をクリップから外してください。
  - 制御箱(ねじ① 2本)を取外してください。
  - 制御箱をブラケットの溝に沿ってスライドさせ引き出してください。(A→Bの方向)
  - 制御箱のふた(ねじ② 2本)を取外してください。
  - 各配線をユニット内に入れ、端子台に接続してください。
  - 各配線を電源線クランプで固定してください。
  - 制御箱のふた(ねじ② 2本)を取付けてください。
  - 制御箱をブラケットの溝に沿ってスライドさせ (B→Aの方向)、制御箱を元の位置へ戻してください。
  - 取外した部品を元通りに取付けてください。
- ※1 工場出荷時、端子台X、Y(現地接続側)には、ワイヤレスキット(オプション)受信部用配線が接続されています。ワイヤードリモコン接続時は外す必要はありません。ワイヤード/ワイヤレスを併用する場合はリモコンの親子設定が必要となります。



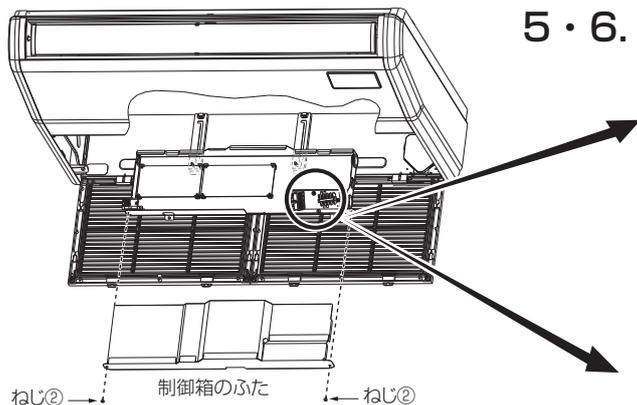
## ⑦ 電気配線取出し位置および電気配線接続の続き

3.



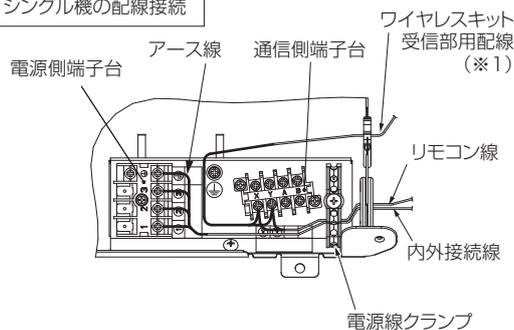
※制御箱を引き出す前に配線をクリップから外してください。

4.

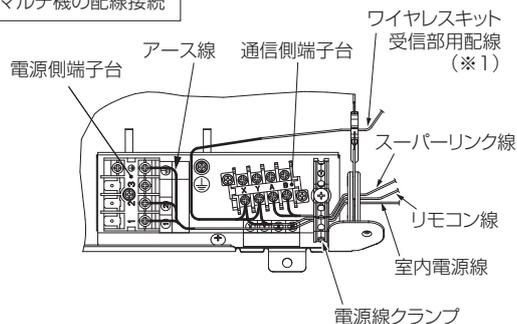


5・6.

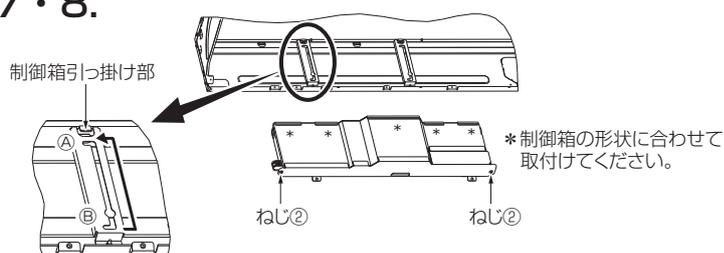
シングル機の配線接続



マルチ機の配線接続



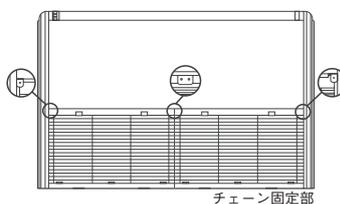
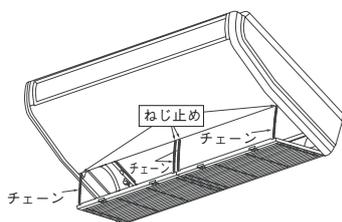
7・8.



## ⑧ 吸込グリルの固定

●電気配線工事完了後、吸込グリルを固定してください。

1. 吸込グリルに固定されているチェーンを、付属のねじで室内ユニット本体に取付け、吸込グリルを閉じてください。

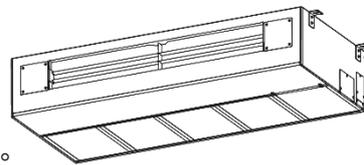


## ⑨ ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

(g)天吊耐油形 (FDESZ)



PFS012D001A

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。

電気配線（室内）は、282 ページをご覧ください。リモコンの取付方法は、200 ページをご覧ください。ワイヤレスキットの取付方法は、417 ページをご覧ください。

室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）および冷媒配管工事方法は、251 ページをご覧ください。また、故障診断は、327 ページをご覧ください。

## 安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、警告、注意に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に警告の欄にまとめて記載しています。しかし、注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。絶対に行わない 必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法等）をお客様に説明してください。
- この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書等をお渡しいただくよう依頼してください。

### 警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。   
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。   
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災等の原因になります。
- 小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13)   
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。  
万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。   
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れや、火災、感電等の原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。   
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。   
強度が不足している場合は、ユニットの落下等により、ケガの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。   
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になることがあります。
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気等を入れない。   
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。   
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。 

---

- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。 

---

- 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。 

---

- 配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 専用のものを使用する。 既存 (R22) の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。 

---

- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。 フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。 

---

- ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。  
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。 

---

- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。  
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。 

---

- ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後、配管を外す前に圧縮機を停止する。  
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。 

---

- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。  
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。 

---

- 改修は絶対にしないでください。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。 

---

- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。  
据付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。 

---

- 室内機の修理・点検作業に際して「室内ユニット電源ブレーカ」を必ず落とす。点検・修理にあたって、室内ユニット電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。 

---

- パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。 

---

- 元電源を切った後に電気工事を行う。  
感電、故障や動作不良の原因になることがあります。 

 **注意**

- 耐油用エアコンは厨房や工場の油を吸い取る機器ではありません。  
油煙などの排出にはレンジフードなどの専用の排気装置を設けてください。 

---

- アース(接地)を確実に行う。  
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース(接地)が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になることがあります。 

---

- 漏電遮断器は必ず取付ける。  
漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になることがあります。 

---

- 正しい容量の全極遮断するブレーカ(漏電遮断器・手元開閉器(開閉器+ B 種ヒューズ)・配線遮断器)を使用する。 不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。 

- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。  
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。  
万が一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。
- 
- 腐食性ガス（亜硫酸ガス等）、可燃性ガス（シンナー、ガソリン等）の発生、滞留の可能性のある場所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。  
熱交の腐食、プラスチック部品の破損等の原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- 
- 工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保する。  
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。
- 
- 洗濯室等、水の掛かる場所では使用しない。  
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災等の原因になることがあります。
- 
- 食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。  
保存物の品質低下等の原因になることがあります。
- 
- 病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。  
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音等弊害の原因になることがあります。
- 
- 直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。  
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
- 
- 次の場所への据付けは避ける。
- |   |                         |
|---|-------------------------|
| ・可燃性ガスの漏れる恐れがある所                            | ・煙突の煙がかかる所              |
| ・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所 | ・カーボン繊維や金属粉、パウダー等が浮遊する所 |
| ・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場等）                     | ・車両・船舶等移動するものへの設置       |
| ・酢酸や次亜塩素酸を大量に使用する所                          | ・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所   |
| ・高周波を発生する機械を使用する所                           | ・積雪の多い所                 |
| ・海浜地区等塩分の多い所                                | ・標高1000m以上の所            |
- 性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。
- 
- 次の場所への室内ユニットの据付けは避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。
- |                               |                                 |
|-------------------------------|---------------------------------|
| ・吸込口、吹出口に風の障害物がある所            | ・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍） |
| ・強度が不十分で振動が発生する所              | ・ドレンの排水がとれない所                   |
| ・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所 |                                 |
- 性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
- 
- 理・美容院における設置は避けてください。  
脱色剤などに混入される硫酸ガス、または酸性の溶液により、溶接部が腐食することがあります。
- 
- エアコンから吹出した風が直接、火気に当たる場所への設置は止めてください。  
不完全燃焼や火災等の原因になることがあります。
- 
- エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。  
湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じる恐れがあります。  
湿度70%以上で長時間運転した場合も同様に室内ユニットから露が滴下し損害が生じる恐れがあります。

- 食品の熱さましなどエアコンから吹出した風を直接当てる使用は止めてください。  
露が滴下して品質低下の原因になります。

---

- 長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。  
傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガ等の原因になることがあります。

---

- ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。  
溶接作業時などに発生するスパッタがユニットにあたった場合、断熱材等が損傷(ピンホール)して、水漏れ等の原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

---

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。  
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。

---

- 冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認する。  
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

---

- GHP[ガスヒートポンプ]の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。  
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

---

- ドレン配管は下り勾配(1/100 以上)とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。 試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

---

- 冷媒配管・ドレン配管の断熱は結露しないように確実にを行う。 不完全な断熱施工を行うと配管等表面が結露して、露たれ等を発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

---

- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。  
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。  
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

---

- 製品の運搬は充分注意して行う。 20kg 以上の製品は原則として 2 人以上で行ってください。  
PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

---

- 梱包材の処理は確実にを行う。 梱包材にクギ等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますとケガをする恐れがあります。

---

- フィルターをはずしたまま運転しない。  
内部に油・ゴミ等が詰まり、故障の原因になることがあります。

---

- 濡れた手でスイッチを操作しない。  
感電の原因になることがあります。

---

- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。 運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

---

- エアコンを水洗いしない。  
感電の原因になることがあります。

---

- 運転停止後、すぐに電源を切らない。  
必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

---

- 電源スイッチによるエアコンの運転や停止をしない。  
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

---

- ドレンポンプを使用の場合は定期的に内部洗浄を実施する。  
一年以上清掃を行わないと故障して排水できなくなる場合があります。

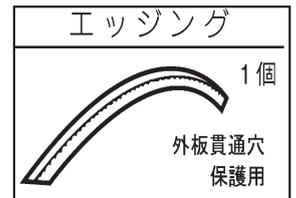
## ① 据付けのまえに

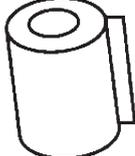
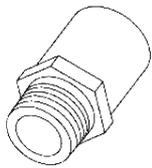
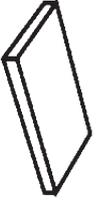
●据付けはこの据付説明書に従って正しく行ってください。

●次の項目を確認してください。

○機種・電源仕様    ○配管・配線・小物部品    ○付属品

### 付属品



本体吊り込み	冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金	パイプカバー		バンド	塩ビソケット	ホース	クランプ	断熱材
							
M10	太	細		VP25			
8 個	1 個	1 個	4 本	1 個	1 個	2 個	3 枚
吊ボルト用	ガス管断熱	液管断熱	パイプカバー	本体側接続	ドレン配管とホース接続		接続部断熱

## ② 室内ユニットの据付場所の選定

① 据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

- ・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設を検討してください。
- ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
- ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
- ・吸入口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
- ・侵入外気の影響のない所。
- ・直射日光の当たらない所。
- ・周囲の露点温度が23℃以下、相対湿度80%以下の所。

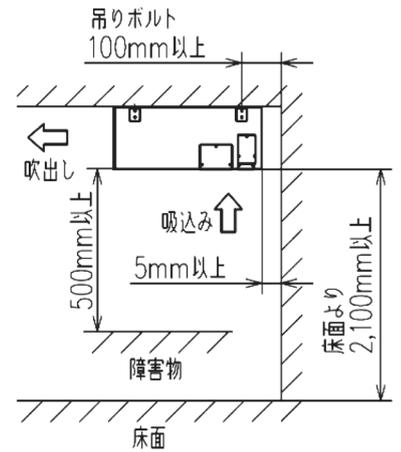
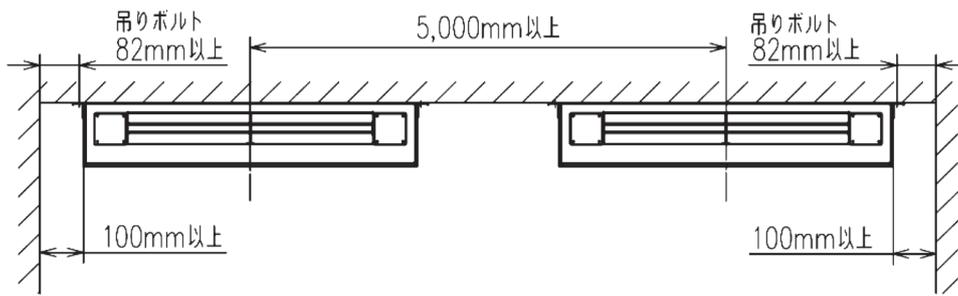
本ユニットはJIS 露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度の状態では水滴が落下する恐れがあります。天井埋込で据付ける際は、ユニット天面に断熱材を貼付ける等、必要に応じて結露対策をお願いします。

- ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
- ・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
- ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
- ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
- ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。(ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。)

② 据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。

③ 複数の室内ユニットを隣接して設置する場合は、ユニット間距離を5m以上離して設置してください。

## 室内ユニット据付スペース



吸込み側に十分な空間が無いと部分的に気圧が下がり、この影響を受けて 吹き出した風が引き込まれショートサーキット原因になることがあります。

## ③ 据付前の準備

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。

○システム天井(グリッド天井・ライン天井)の場合

吊り長さ(吊りボルト長さ)500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。

○強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合

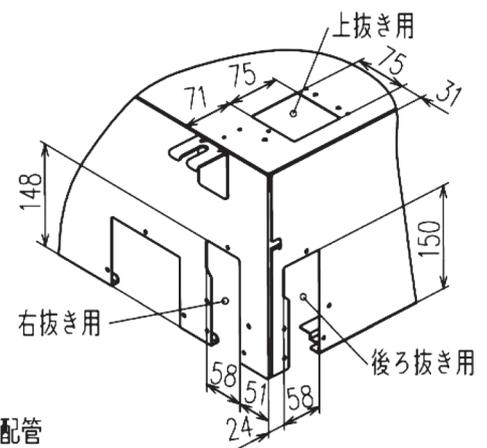
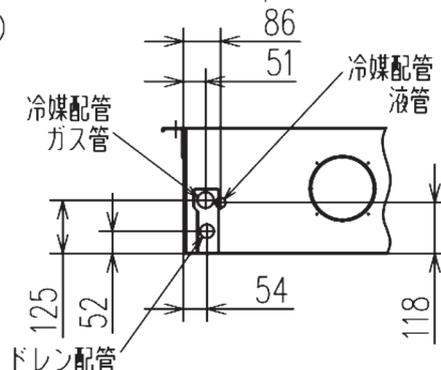
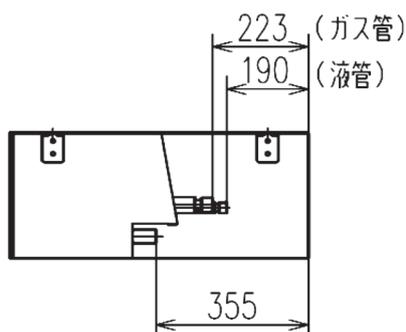
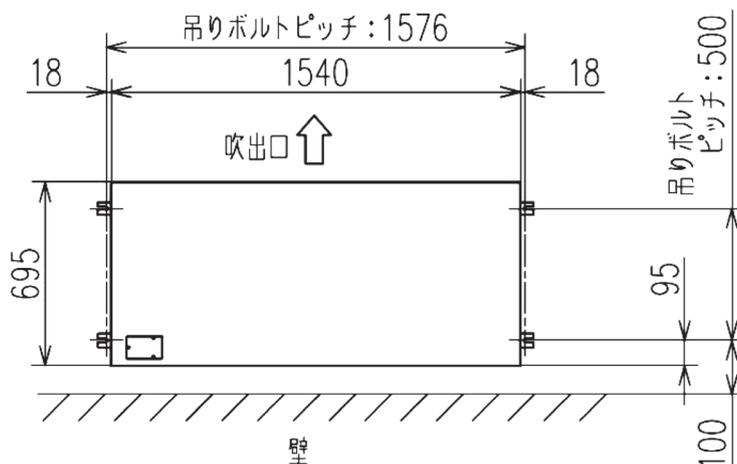
吊り長さ(吊りボルト長さ)1000mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。

- 吊りボルト・ナット・バネ座金(M10 又は M8)を4組現地にて手配してください。

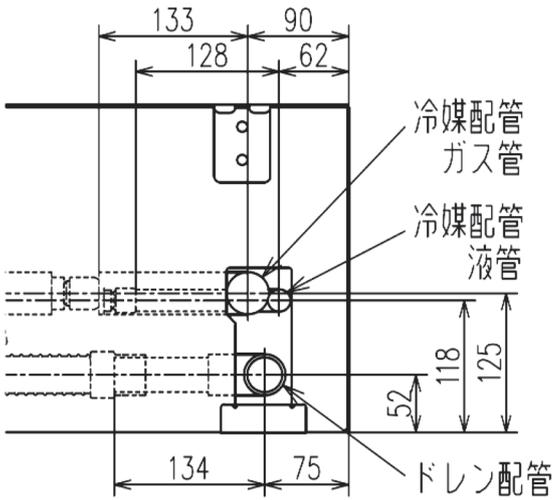
1本当たりの引抜強度は、1.25kN 以上になる方法で建物に固定してください。(吊ボルト長さ 1m以内の場合)

また、吊ボルト長さが1mを超える場合は、耐震計算等により強度確認を行ってください。

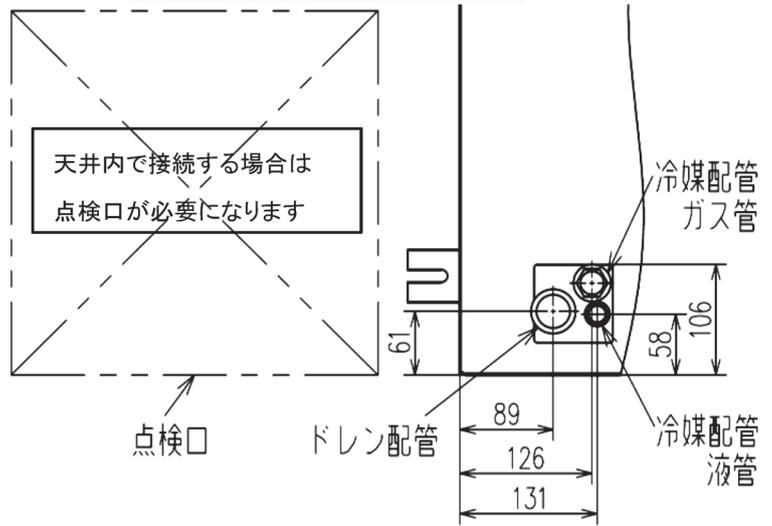
## 吊ボルトピッチ・各配管の位置



右側面へ配管を抜く場合の位置



天面へ配管を抜く場合の位置

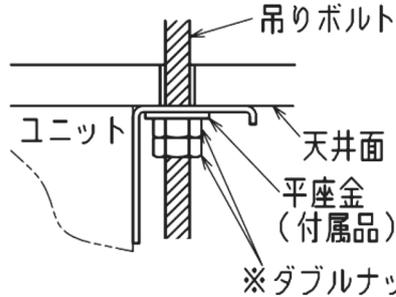


#### ④ 室内ユニットの据付

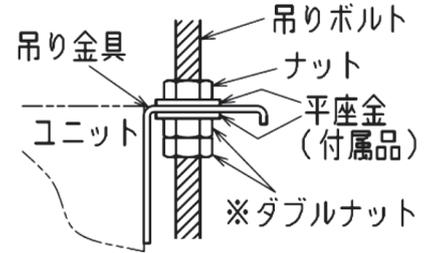
##### 作業手順

1. 吊りボルト位置、配管穴位置を選定し、吊りボルトの設置と配管用の穴あけを行ってください。
2. 天井が無い場合・天井面が丈夫でない場合は、吊金具の上側にもナットを入れてユニットが持ち上がらない様に上下から固定してください。

<丈夫な天井面がある場合>



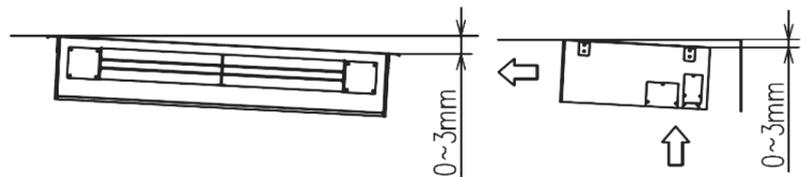
<天井が薄い場合・天井が無い場合>



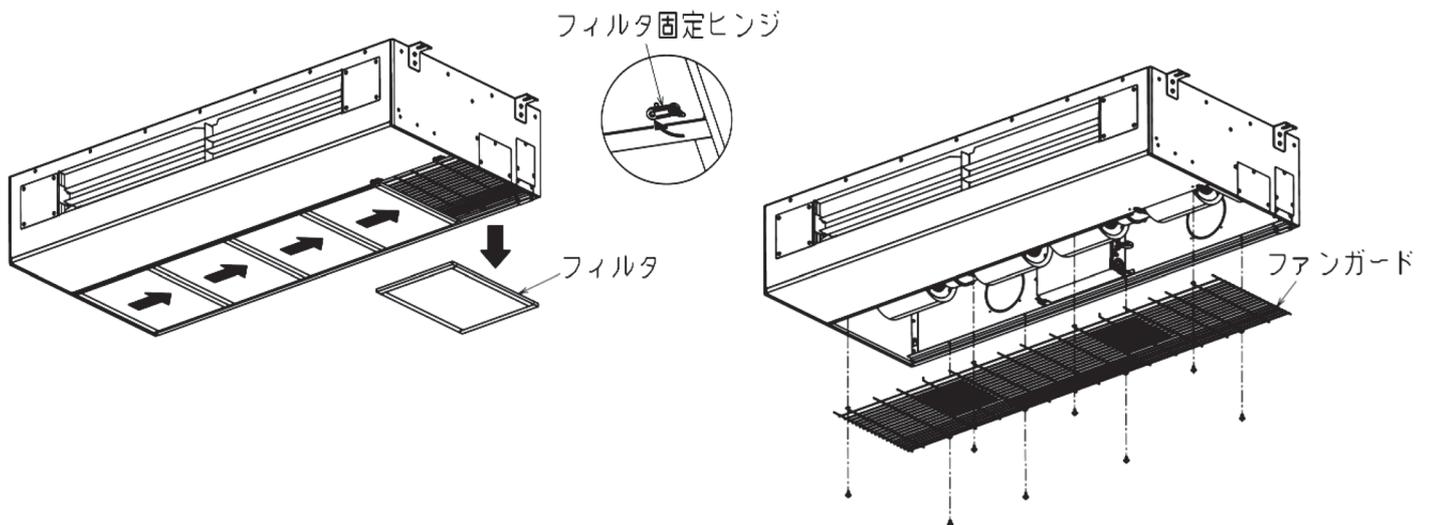
※ダブルナットで確実に固定してください。

3. ドレン水の流れをよくするためユニットを排水側に下り勾配を設け据付けてください。逆勾配にすると水が漏れる恐れがあります。

ドレンポンプを装着される場合は基準を超えてユニット傾斜を設けると、配管詰り等の万一の場合にドレン水があふれ出る原因になりますので厳守してください。



4. エアフィルタの取外しは、配管側の一枚を固定のヒンジを回転させて外した後、残りを横にスライドしてください。



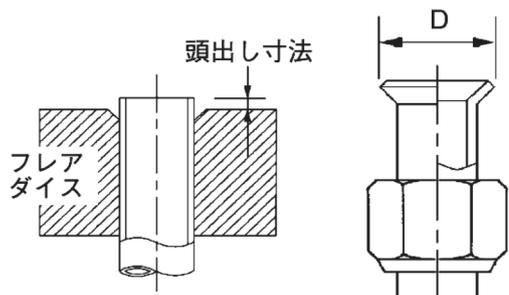
## ⑤ 冷媒配管

### 冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは製品に付属されているもの又は JIS B 8607 2 種適合品を使用してください。既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料で確認すること。

1)再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属されているものまたは JIS B 8607 2 種適合品を使用すること。

2)再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。加工後 D 寸法を確認してください。フレア面にバリ・傷が無いことを確認してください。



配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N·m
		リジッド (クラッチ式) R410A 用	従来ツール		
φ 9.52	0.8	0 ~ 0.5	0.7 ~ 1.3	12.8 ~ 13.2	34 ~ 42
φ 15.88	1				

●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管

(C1220T, JIS H 3300)をご使用ください。

また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等(コンタミ)の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化等の原因になります。

●R32 用またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。

室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化等の原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂等の原因になります。

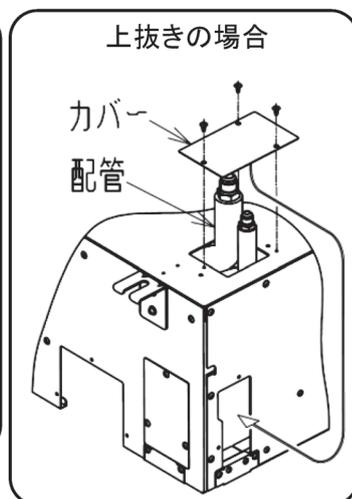
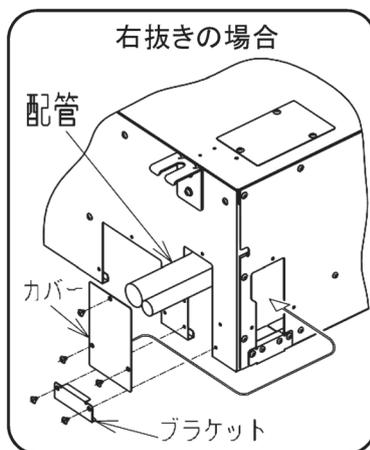
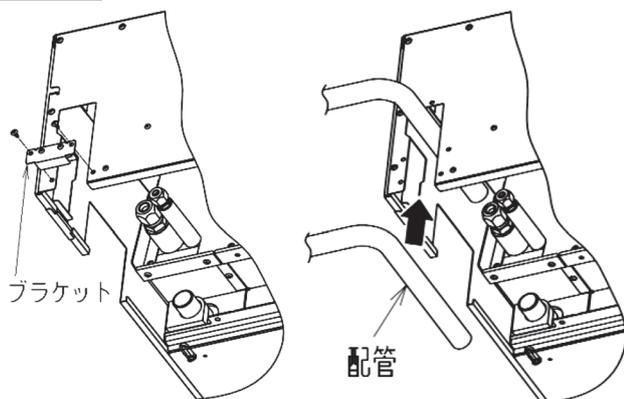
●据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端とも ろう付する直前

までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入ると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具は R32 用またはR410A専用ツールを使用してください。

**注意** 同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、フレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

### 作業手順



2. 外板貫通穴にエッジング(付属品)をはめ込み保護してください。
3. 室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外す。  
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。)

- フレアナット飛びに注意してください。  
(内部に圧力がかかっている場合があります。)

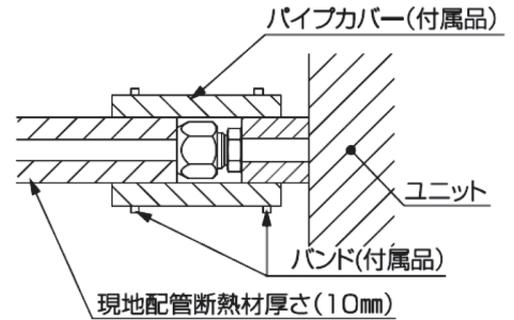
4. 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。  
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。また、配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。  
※フレア接続は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで前頁表の締付け力で締めてください。

5. 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締付ける。

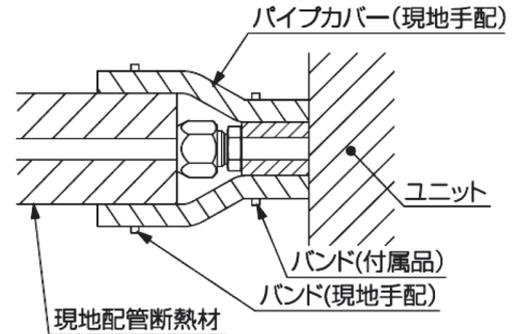
- ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。  
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
- ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。
- 高湿度雰囲気を使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。  
天井内・壁内を通す場合、現地配管断熱材厚さ20mm以上を推奨します。

6. 冷媒は室外ユニットに充填されています。  
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

〈断熱材厚さ10mmを使用する場合〉



〈断熱材を強化する場合〉



## ⑥ ドレン配管

- ドレン配管の取出方向は、後向き、右向きがあります。
- ドレンポンプ(別売)を組込み上向きすることができます。

### 注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。  
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。  
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。  
また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
- 試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

## 作業手順

### 1. 付属の塩ビソケット①に塩ビ管 VP25

長さ 50~55mm②を接着。

(出代 30mm 以上)

### 2. 本体ドレンパンへ塩ビソケット①②を

ねじ込む(シールテープ等使用)。

### 3. 付属のドレンホースを塩ビ管②出代部分

に押し込み、付属のクランプで確実に締付けてください。(接着剤使用不可)

**注意:** クランプはホース先端部より 5mm

程度のところに取り付け、ねじの締めが 10mm 以下となるまで締め込んでください。

### 4. ドレンホースは、ユニット内でたるませないよう

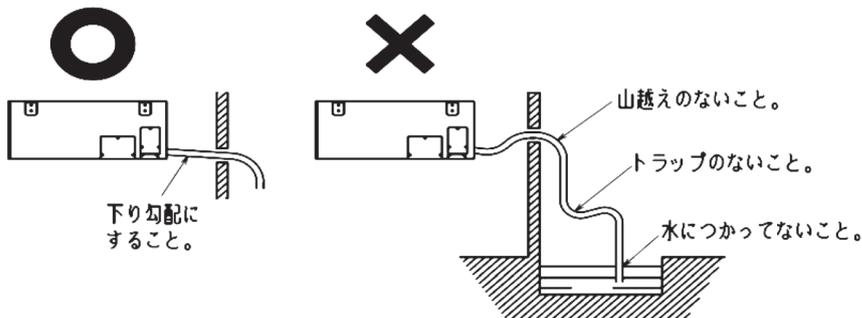
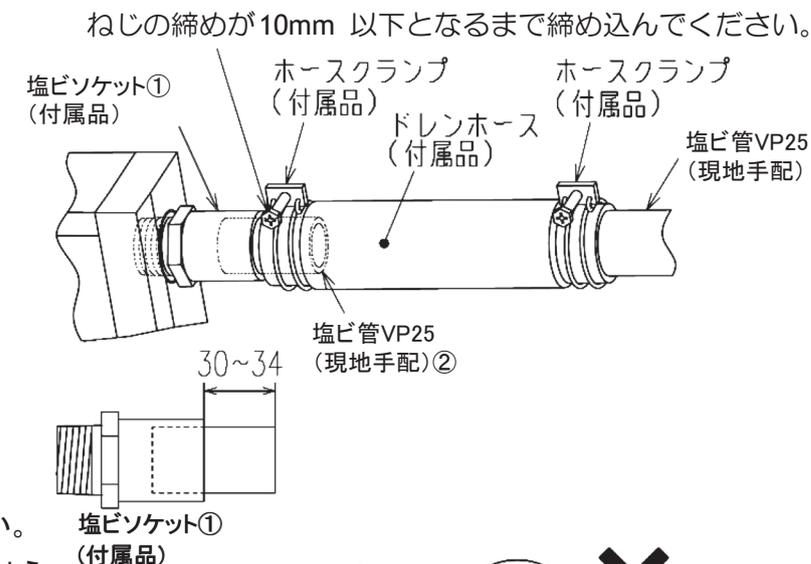
注意して勾配をとってください。

### 5. ドレンホースに市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25

(現地手配)を接続してください。(接着剤使用不可)

### 6. ドレン配管は下り勾配

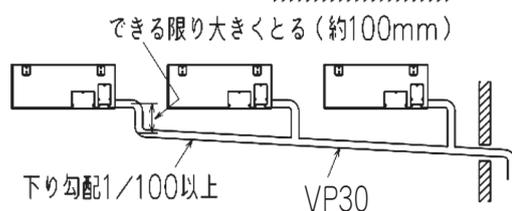
(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。



### ●複数台のドレン配管の場合、

本体ドレン出口より約 100mm 下に集合管がくるようようにしてください。

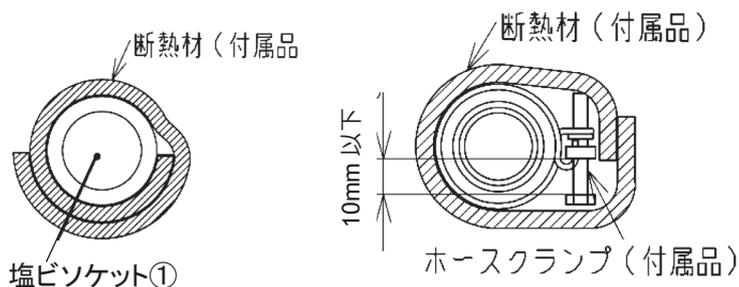
また集合管はVP30以上を使用してください。



### 7. ドレン配管の断熱施工を行ってください。

●塩ビソケット①及びドレンホースクランプは付属の断熱材を使用して断熱してください。

●高湿度の環境で使用する場合、ドレン配管に結露する恐れがある場合は、ドレン配管に断熱材を追加する等結露に対する配慮をしてください。



## ドレン排水確認

●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることと、水漏れのないことを確認してください。

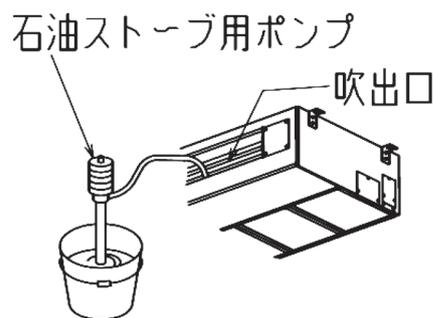
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。

●内蔵ドレンポンプ(別売)使用時は、約 2000cc のドレン水が溜ります。確認は約 4000cc の水を徐々に入れてください。

ドレンポンプ試運転は、リモコンからまたは室内コントローラ

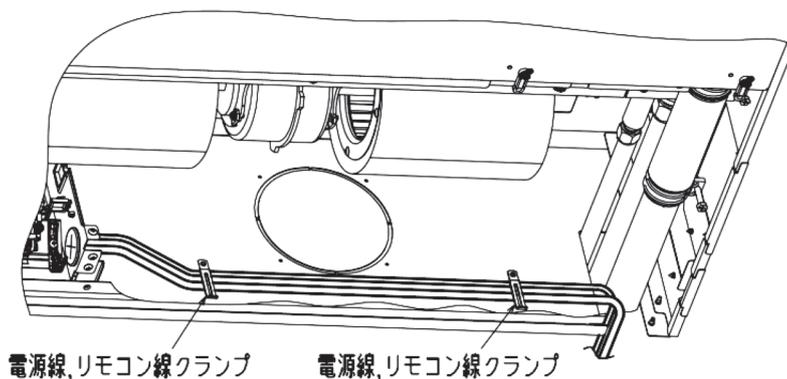
SW7-1 の切替で強制運転ができます。

(確認後はスイッチの戻し忘れにご注意ください)

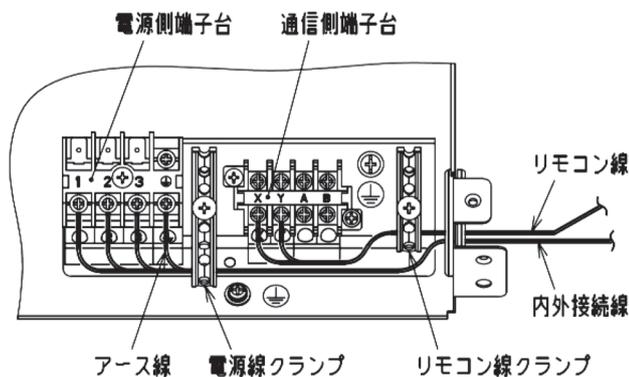


## ⑦ 電気配線取出し位置および電気配線接続

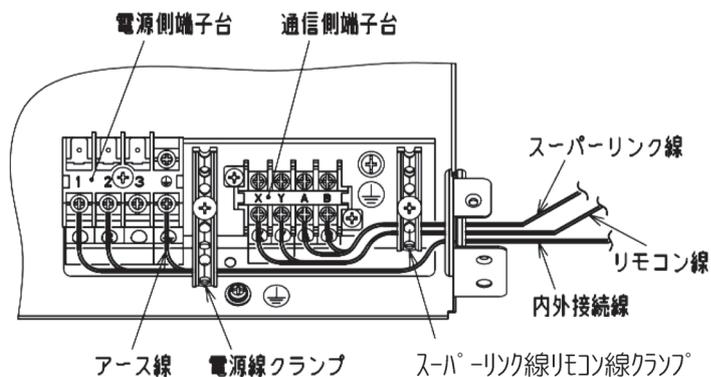
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
- 電源線と通信線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。



シングル機の配線接続



マルチ機の配線接続

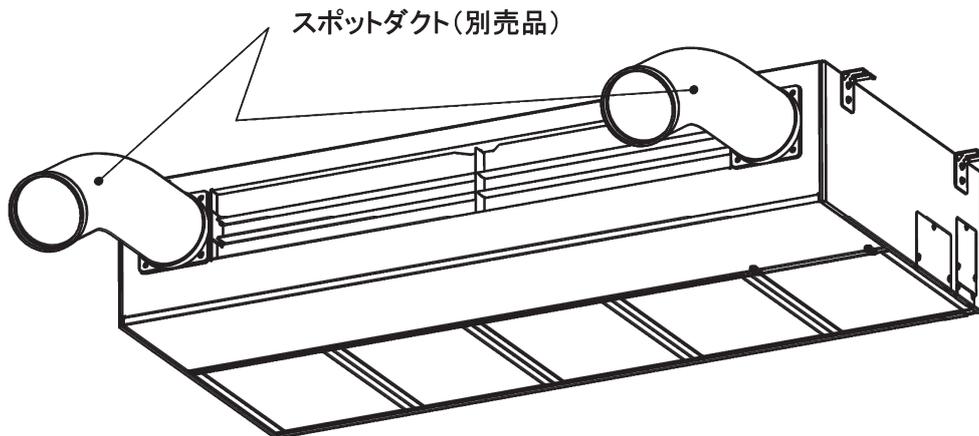
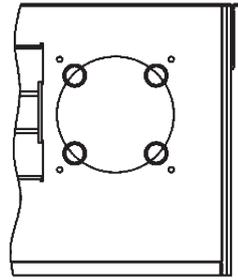


1. 冷媒配管穴から電源線をユニットに入れ板クランプを曲げて配線がたるみファンガードに接触しない様に固定してください。
2. 各配線を端子台に確実に接続してください。
3. 電源線と信号線を別々にクランプで固定してください。
4. コントロールボックスのカバーは、上側をボックス側に差し込み下面からねじ2本で固定してください。

## ⑧ スポットダクト取付け要領

●専用のスポットダクト(別売): 1mを2本まで取付けることができます。

1. 前面両側の四角いカバーを取り外した後、断熱材を丸く取り除いてください。  
断熱材は、円状に切り込みがあり右図○印4か所です。つながっています。  
○印部内側をゆっくり押しして打ち抜くことができます。  
打ち抜いた断熱材は、ユニット内に忘れることなく確実に捨ててください。
2. 1本当たりねじ4本(カバーを取付けていたねじ)で固定してください。
3. ダクトを曲げる時は、本体側パネルが変形しない様に支えながらゆっくり作業をしてください。
4. ダクトを前方に伸ばす場合など適宜ダクトの荷重を天井から支える様にして、本体側パネルの変形を防止してください。



(別売品)  
品名: 吹出しダクト  
品番: SAD-10B  
仕様: φ125 1m  
(伸長時約 1.4m)  
1本

●ダクトの周辺・下部には、濡れて困るものは置かないこと。  
使用する環境によってはダクト表面が結露して露が滴下する場合があります。

## ⑨ 据付けのあとに

1. 配管貫通穴のすき間を埋めて、小動物の侵入を防止してください。
2. 取外したファンガード(ねじ8本)を元通りに取付けてください。
3. 取外したエアフィルタを元通りに取付けてください。

## ⑩ ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

## (2) ワイヤードリモコン

### (a) RC-DX3

PJZ012D105 

この据付説明書は、リモコン関連の据付方法・注意事項を記載しております。  
室内ユニット・室外ユニット・他に付属の説明書と合わせてご覧ください。  
正しく工事していただくために、工事前に、必ずこの説明書をよくお読みください。



## 1. 安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。

いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

**⚠警告** 誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。

**⚠注意** 誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性のあるもの。

状況によっては重大な結果に結びつく可能性があるもの。

●本文中に用いられる「絵表示」の意味は次の通りです。

 絶対にしないでください。   必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この取扱説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

## 警告

●据付けは、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。  
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。 

●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。  
据付けに不備があると感電、火災、故障の原因になります。 

●据付工事は必ず付属品および指定部品を使用する。  
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。 

●据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。  
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。 

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。 

●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。  
感電、故障や動作不良の原因になります。 

●改修は絶対にしない。また、修理はお買上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。 

●移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。  
据付けに不備があると感電、火災、故障の原因になります。 

●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。  
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。 

●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。  
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス(アンモニア・硫黄化合物・酸など)の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。 

●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。  
感電、火災、故障の原因になります。 

●洗濯室など水のかかる所では使用しない。  
感電、火災、故障の原因になります。 

●ぬれた手で操作しない。  
感電の原因になることがあります。 

## ⚠ 警告

● **本機を水洗いしない。**

感電、火災、故障の原因になります。



● **配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。**

接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。



● **リモコンケーブル引込口をパテでシールする。**

水分・ホコリ・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。  
また、水分が浸入すると画面表示不良の原因になります。



● **病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。**

インバーター機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。  
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。



● **リモコンの上ケースおよび USB 端子カバーを取外したまま放置しない。**

水分・ホコリ・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。



## ⚠ 注意

● **リモコンを下記場所に設置しない。**

- (1) リモコンの変形・誤動作・故障の原因になる場合があります。
  - ・直射日光のあたる場所
  - ・周囲温度が 0℃以下、40℃以上になる場所。
  - ・取付面に凹凸のある場所。
  - ・取付部が強度を有しない場所。
- (2) リモコン内部部品へ水分が付着し、画面表示不良の原因になります。
  - ・リモコンが結露する湿度の高い場所
  - ・水がかかる場所
- (3) リモコンの温度センサーを使用して室内温度を検知する場合、正確な室温を検知できない場合があります。
  - ・部屋の平均的な温度を検知できない場所。
  - ・熱源の影響を受ける場所。
  - ・ドアの開閉による室外空気の影響を受ける場所。
  - ・直射日光やエアコンから吹き出した風が直接当たる場所。
  - ・壁面温度と室内温度の差が大きい場所。
- (4) 室内ユニットにラクリーナパネルを使用する場合、昇降動作を確認できない場合があります。
  - ・室内ユニットが見えない場所。



● **パソコンに USB で接続する場合、専用のソフトウェアを使用する。**

**パソコンに他の USB 機器とリモコンを同時に接続しない。**

リモコン・パソコンの誤動作・故障の原因になります。



## 2. 部品確認

下記が付属されています。

付属品	リモコン本体、木ねじ(φ 3.5 × 16)2 本、取扱説明書・据付工事説明書
-----	---

現地手配部品は、以下です。各々の据付方法に従い準備してください。

品名	所要量	記事
スイッチボックス 1 個用 又は 2 個用 (JIS C 8340)	1	壁面に直接据付ける場合は不要です。
薄鋼電線管 (JIS C 8305)	必要量	
ロックナット・ブッシング (JIS C 8330)	必要量	
モール (JIS C 8425)	必要量	リモコンケーブルを壁面に這わす場合に必要です。
パテ	適量	隙間シール用
モリーアンカー	必要量	
リモコンケーブル (0.3mm <sup>2</sup> × 2 線)	必要量	100m を超える場合は右表

延長距離が 100m を超える場合  
リモコンケース内を通る配線は  
最大 0.5mm<sup>2</sup> 以下とし、リモコン  
外部の近傍で配線接続により、  
サイズ変更してください。配線  
する際は水分等が浸入しない様  
な処置をおこなってください。

200m 以内	0.5mm <sup>2</sup> × 2 心
300m 以内	0.75mm <sup>2</sup> × 2 心
400m 以内	1.25mm <sup>2</sup> × 2 心
600m 以内	2.0mm <sup>2</sup> × 2 心

### 3. 据付場所

図の設置スペースを確保してください。

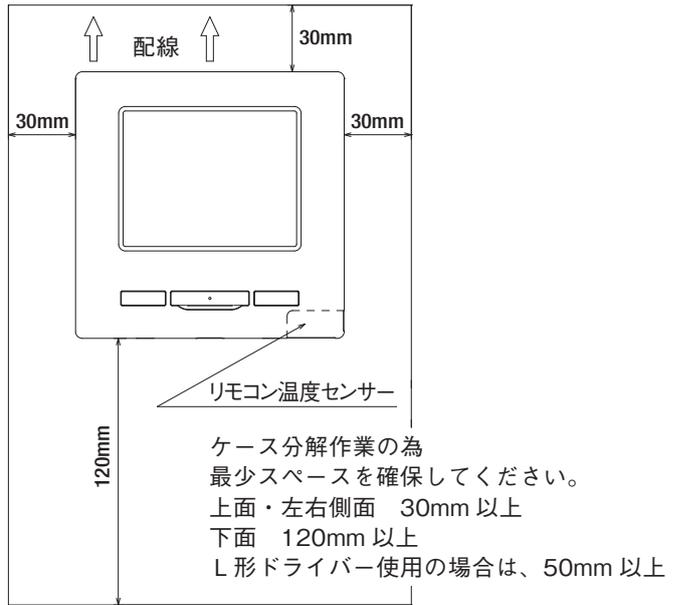
また、据付方式は「スイッチボックスを使用」の場合、「壁面に直接据付」の場合の選択が可能です。

配線取出方向は「背面」、「上面中央」または「上面左」の場合の選択が可能です。

据付方式と配線取出場所を考慮のうえ、据付場所を決めてください。

室内ユニットにラクリーナパネルを採用される場合は、グリルの昇降が確認しやすい場所としてください。

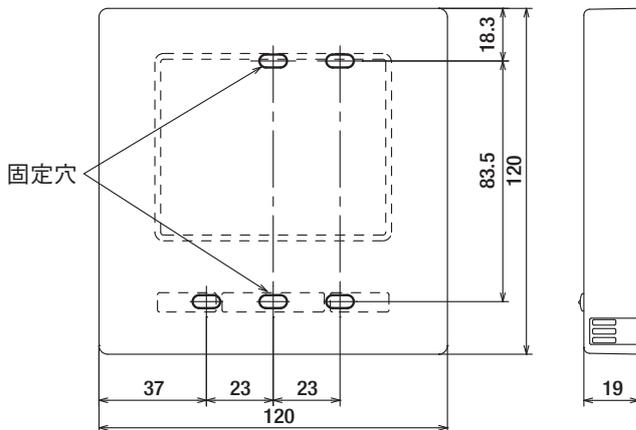
設置スペース



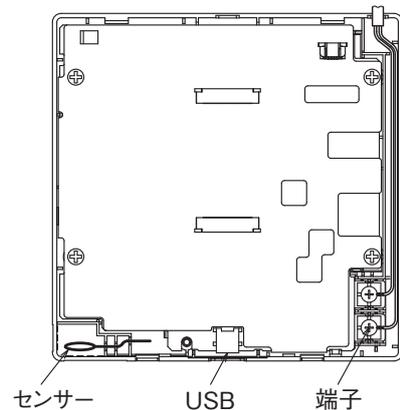
### 4. 据付・配線工事

リモコンの据付・配線工事は下記に従って実施ください。

正面から見た取付寸法図



裏面から見た基板面



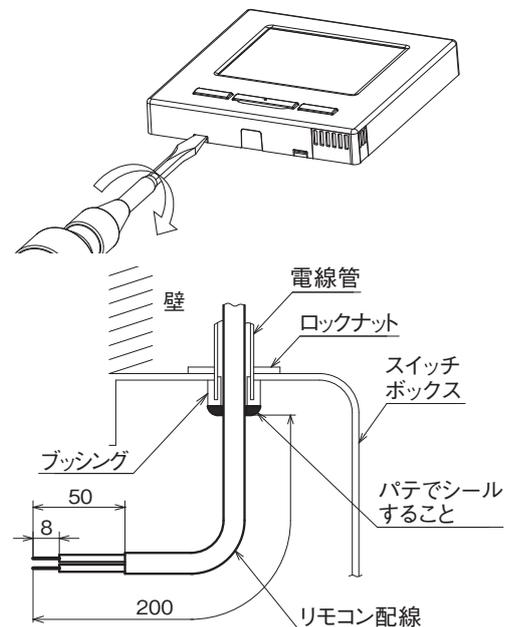
リモコンの上下ケースの分離

・リモコン下面の凹部にマイナスドライバー等を挿し込んで軽くねじって外してください。ケースを傷つけない様、ドライバー先端にテープなどを貼ることをおすすめします。

取外した上ケースは、水分・ゴミが付かない様にしてください。

**スイッチボックスを使用する場合** (配線方向「背面」の場合)

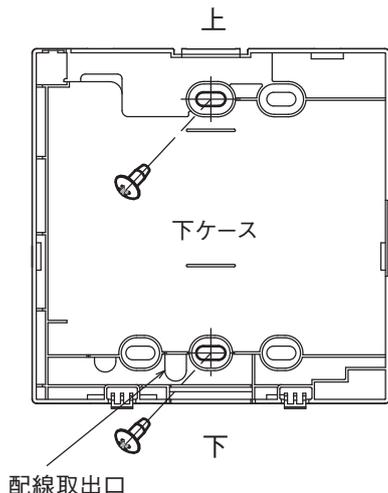
- ①スイッチボックスとリモコン配線をあらかじめ埋め込んでおきます。リモコン配線引込口はパテでシールしてください。



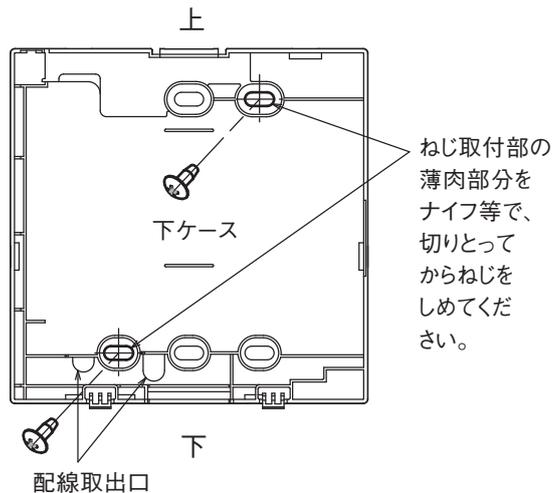
## 4. 据付・配線工事 (つづき)

②下ケースに配線を通した後、スイッチボックスに2か所固定してください。

1個用  
スイッチボックス  
の場合



2個用  
スイッチボックス  
の場合



③リモコン端子 X, Y と室内ユニットの端子 X, Y を接続してください。配線 X, Y の極性はありません。リモコン上ケース端子ねじで配線を固定してください。

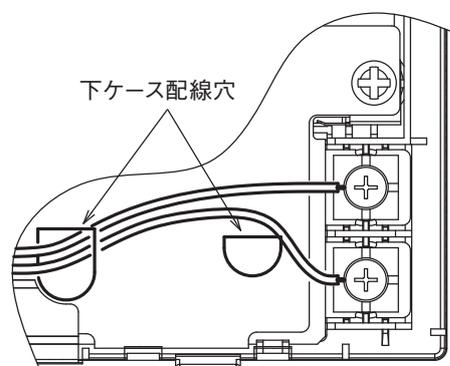
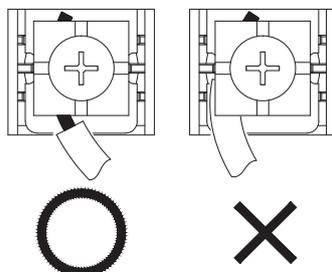
④リモコン配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。

### 配線接続時のご注意

リモコンケース内を通る配線は 0.5 mm 以下とし、シースをかみこまない様に接続してください。

配線接続は、手締め(0.7N・m 以下)で行ってください。

電動ドライバーを使用すると、故障や変形の原因になることがあります。

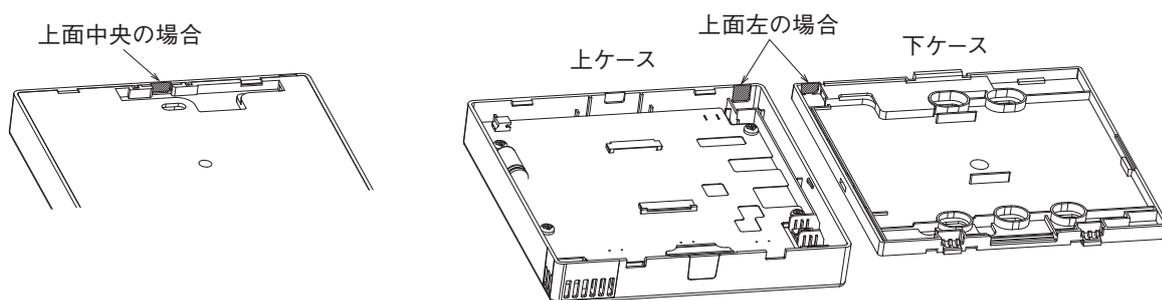


**スイッチボックスを使用しない場合** (配線取出「上面中央」「上面左」の場合)

①ケース薄肉部を配線太さに合わせ切り取ってください。

上面中央の場合は、上下ケース分解前に切り取ってください。基板内部への影響が少なく作業がやり易くなります。

上面左の場合は、基板内部への影響を与えない様に切り取ってください。破片が内部に残らない様に注意してください。



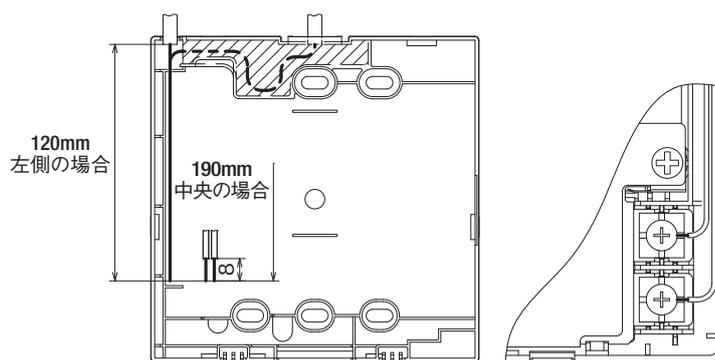
②リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で平らな面に固定してください。

③上面中央の場合はケース背面に配線を通してください。(斜線部分)

④リモコン端子 X, Y と室内ユニットの端子 X, Y を接続してください。配線 X, Y の極性はありません。リモコン上ケース端子ねじで配線を固定してください。

⑤リモコン配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。

⑥①で切り取った部分をパテでシールしてください。

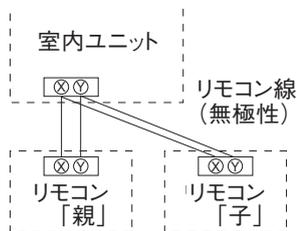


## 5. 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台又は1グループに対して最大2個までのリモコンを接続できます。

片側が親リモコン、反対側が子リモコンになります。

表の様に子リモコンは操作できる機能に制限があります。



6 項の操作で「親」「子」の設定をしてください。

リモコン操作	親	子
運転/停止、設定温度切換、風向切換・オート	○	○
スイング、風量切換 操作	○	○
ハイパワー運転、省エネ運転	○	○
室外静音制御	○	×
省エネ設定	○	×
グリル昇降操作	○	○*
フリーフロー設定	○	×
ドラフト防止設定	○	×
換気操作	○	○
見てみて、消費電力量表示	○	×
お掃除パネル設定	○	×
フィルターサインリセット グリル昇降操作	○	○
初期設定	○	○
タイマー設定	○	○
ウィークリータイマー	○	×
るす番運転	○	×
おこのみ設定	○	○
管理者設定	○	×
操作制限設定	○	×
室外静音タイマー設定	○	×
設定温度範囲設定	○	×
温度設定刻み切換	○	×
設定温度表示切換	○	○
リモコン表示設定	○	○
管理者パスワード変更	○	○
スイッチ機能変更	○	○
言語切換設定	○	○

※リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合、子リモコンから室内ユニットの選択はできません。全台同時に昇降します。

リモコン操作	親	子
据付設定	○	×
据付日登録	○	○
サービス情報入力	○	○
試運転	○	×
グリル昇降操作設定	○	○
ダクト機静圧補正	○	×
自動アドレス変更	○	×
親室内機アドレス設定	○	×
バックアップ制御	○	×
赤外線センサー設定	○	×
リモコン設定	○	○
リモコン親子設定	○	○
吸込センサー制御	○	×
リモコンセンサー設定	○	×
リモコンセンサー補正	○	×
リモコン温度補正	○	×
運転モード選択	○	×
温度単位選択	○	×
ファン速度選択	○	×
外部入力選択	○	×
換気設定	○	×
ルーバ制御	○	×
停電補償設定	○	×
設定温度自動設定	○	×
風量自動設定	○	×
室内設定	○	×
サービスメンテナンス	○	○
エアコン No. 表示	○	○
次回点検日設定	○	×
運転データ表示	○	×
点検表示	○	○
異常履歴表示	○	○
異常時運転データ表示、消去	○	×
定期点検リセット	○	○
お掃除パネル点検	○	×
室内設定保存	○	×
特殊操作	○	×
室内アドレス消去	○	×
CPUリセット	○	○
初期化設定	○	×
タッチパネル調整	○	○
室内機容量表示	○	×

### お知らせ パソコン接続について

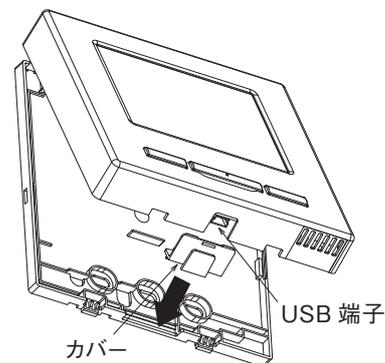
USB コネクター (mini-B) を介してパソコンからの設定が可能です。

上ケース下面カバーを外して接続してください。

使用後はカバーを元の位置にはめてください。

接続には、専用のソフトが必要です。

詳細は、ホームページ・技術資料を参照してください。



### お知らせ パスワード初期化

管理者パスワード (日常使用する項目設定用) と

サービスパスワード (据付・試運転・メンテナンス用) があります。

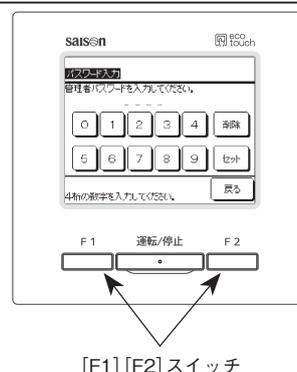
○管理者パスワード初期値は、0000 です。設定変更ができます (取扱説明書参照)。

管理者パスワードを忘れた場合は、管理者パスワード入力画面で [F1]

[F2] スイッチを同時に5秒長押しするとパスワードは初期化されます。

○サービスパスワードは、9999 です。設定変更ができません。

管理者パスワード入力の時、サービスパスワードでも受付られます。



## 6. 電源投入初期設定

電源投入時の表示に沿って親子リモコン設定を行います。

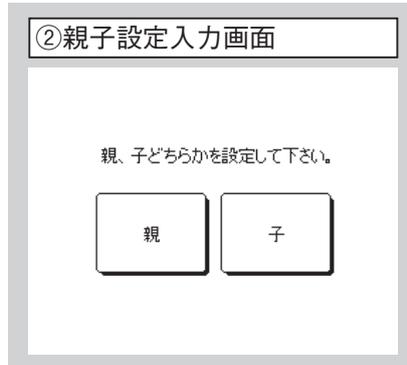
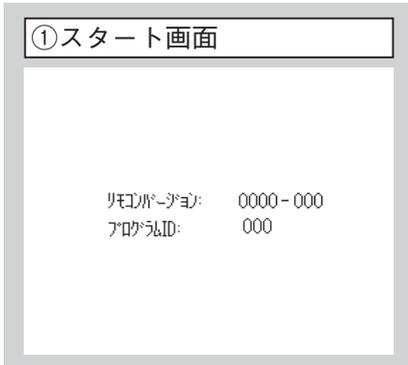
- ・親子が設定されていない場合⇒(1)
- ・親子が設定されている場合 ⇒(2)

### (1) 親子が設定されていない場合

①⇒②親子入力画面を表示します。

枠で囲まれた「親」「子」どちらかをタッチしてください。初期設定作業を開始します。

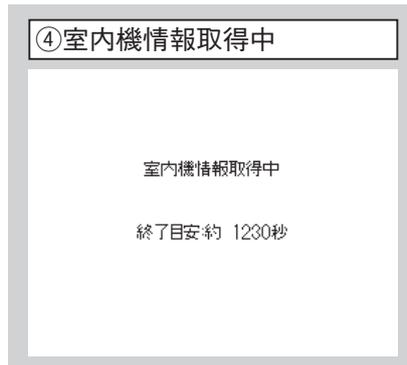
誤ってタッチした場合は、初期設定作業が終了後に設定変更することができます。(8. リモコン機能設定⑩)  
室内ユニット1台または、1グループに、2個のecoタッチリモコンの接続されている場合、1個目を「親」で設定開始すると2個目は自動で「子」になります。



**ご注意**  
リモコン1台の場合は、「親」をタッチしてください。  
初期状態では、どちらか選択されるまで、待ち続けます。

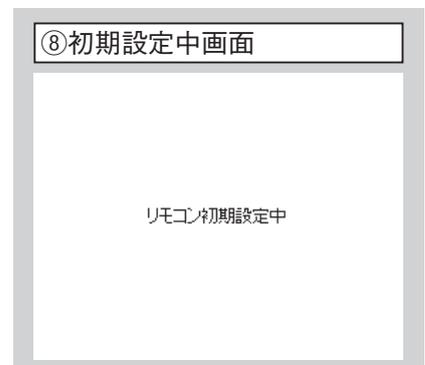
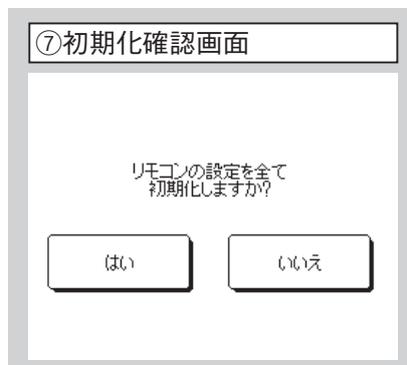
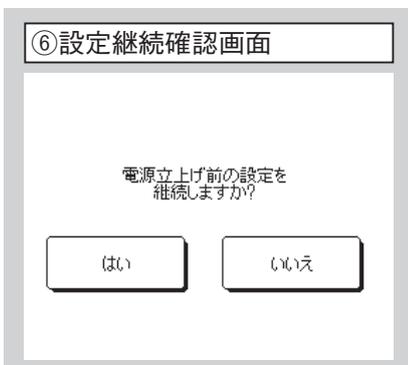
「親」を選択した場合 ③⇒④⇒⑤の順で画面が遷移します。

「子」を選択した場合 ①⇒⑧⇒⑤の順で画面が遷移します。



通信が10分間確定しない場合、赤LEDが点滅します。

### (2) リモコンの親子設定がされている場合



「はい」 ⑧⇒⑤の順で画面が遷移します。

「いいえ」 ⑦に画面が遷移します。  
表示15秒間タッチされない場合は「はい」継続を認識して⑤画面に変わります。

「はい」 ①⇒②の順で画面が遷移します。

「いいえ」 ⑥に画面が遷移します。  
初期化すると出荷状態に戻ります。

ラクリーナパネルを採用のお客様へ

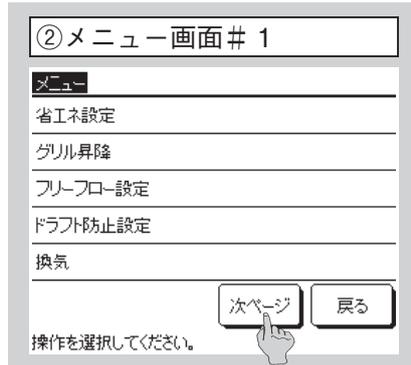
[7. 据付設定 ⑦グリル昇降操作設定]を行ってください。

# 7. 据付設定 試運転

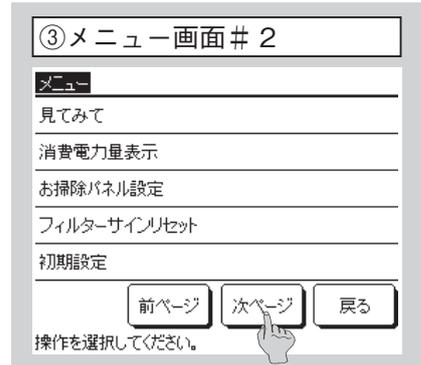
TOP画面 **メニュー** ⇒ **次ページ** ⇒ **据付設定**



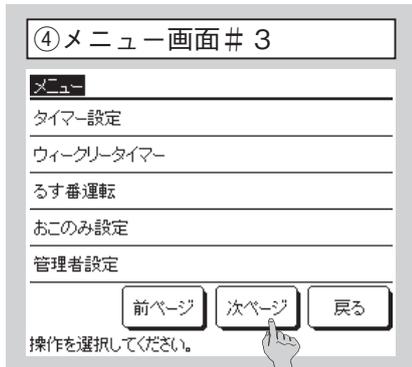
**メニュー** ボタンをタッチしてください。



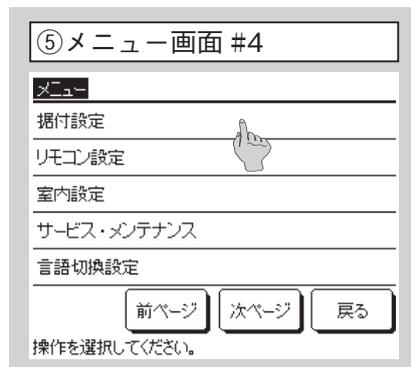
**据付設定** ボタンをタッチしてください。



**初期設定** ボタンをタッチしてください。



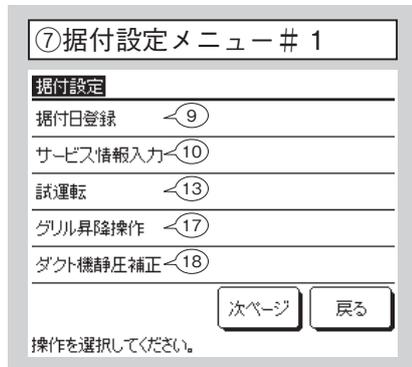
**据付設定** ボタンをタッチしてください。



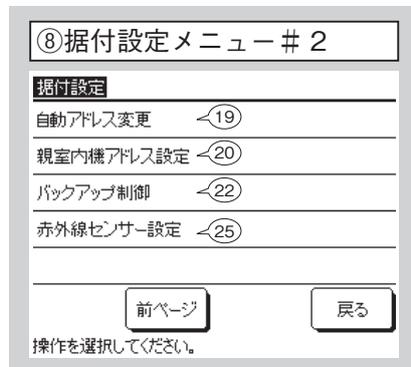
**据付設定** ボタンをタッチしてください。



サービスパスワードは9999です。



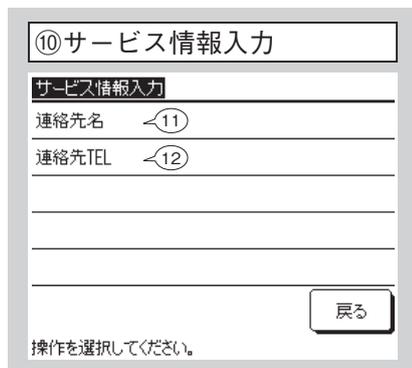
選択した画面に移ります。



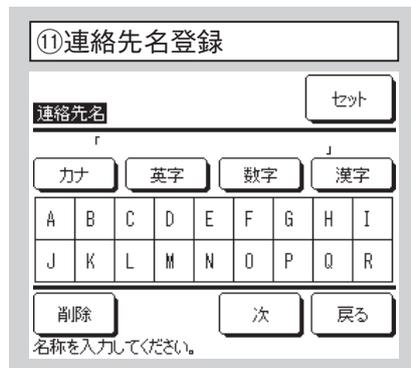
選択した画面に移ります。



▲▼ で設定してください。  
セット で登録されます。



お客様がサービスを依頼される際の連絡先を入力してください。

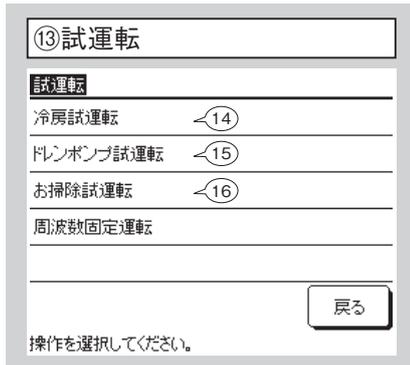


連絡先名を半角 26 文字相当以内で入力し、**セット** ボタンをタッチしてください。

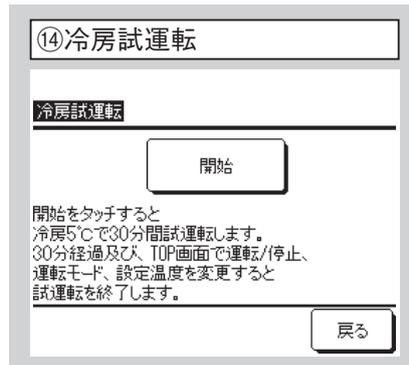


連絡先電話番号を 13 文字以内で入力し、**セット** ボタンをタッチしてください。

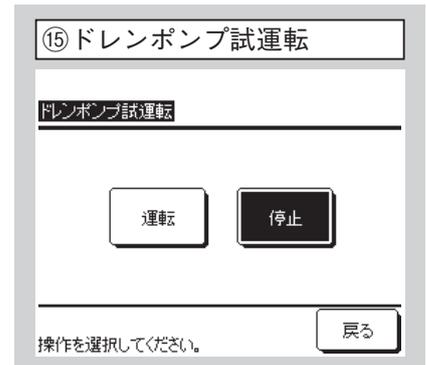
## 7. 据付設定 試運転 (つづき)



選択した画面に移ります。

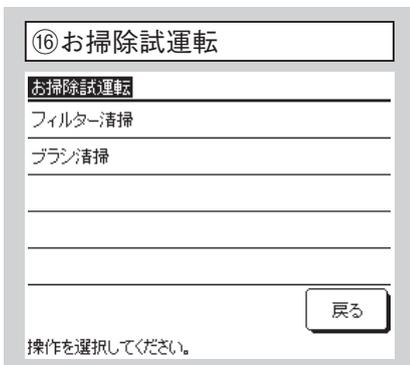


冷房の停止中に操作可能です。室温が低く冷房試運転ができない場合、室温設定を30分間5℃に下げて運転します。

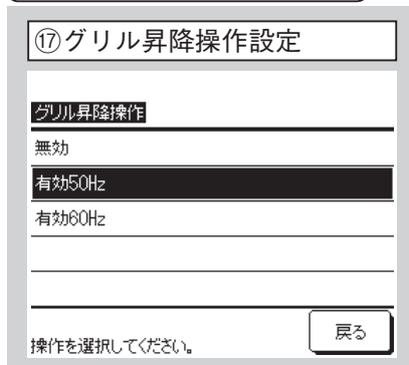


ドレンポンプのみで運転が可能です。

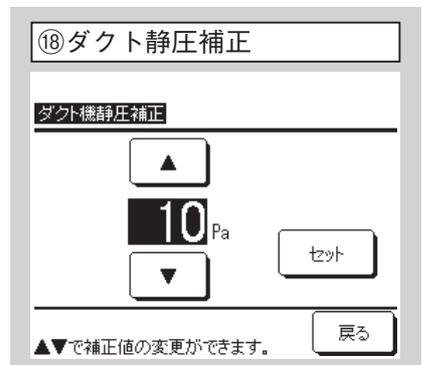
### ラクリーナパネル設定



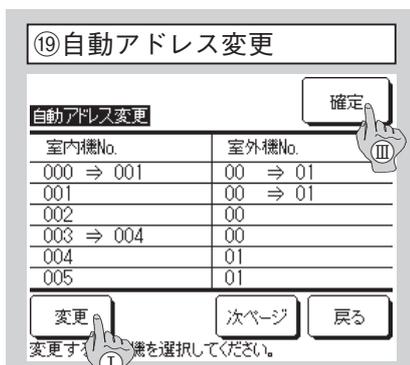
ラクリーナお掃除パネルを組み合わせる場合に操作できます。お掃除パネルの説明書をご覧ください。



ラクリーナパネルを組み合わせる場合は、据付場所電源周波数をタッチしてください。



機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニットを組み合わせる場合に操作できます。機外静圧を選択し、**セット** ボタンをタッチしてください。



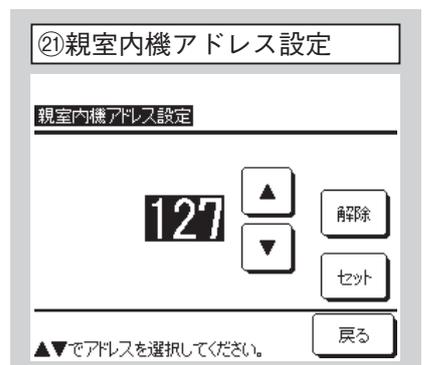
個別発停マルチシリーズで使用の際に自動アドレス設定で登録されている場合に操作できます。

室内ユニット毎の室内外アドレスを変更するための機能です。室内ユニットを選択して

① **変更** をタッチすると右の新アドレス入力画面に変わります。

② **セット** をタッチすると左画面に戻り新アドレスが表示されます。

③ **確定** をタッチすると登録されます。



個別発停マルチシリーズで親室内ユニットのみ、冷房・暖房運転モードの選択を許可します。子とする室内ユニットに対し、親室内機アドレスを設定します。親室内機アドレスが設定された子室内ユニットは、親室内ユニットの設定に追従します。

## 7. 据付設定 試運転 (つづき)

②バックアップ制御

バックアップ制御

ローテーション

キャパシティバックアップ

フォルトバックアップ

操作を選択してください。

1台のリモコンに室内ユニット2台(2グループ)が接続されている時に、以下の制御が可能です。

1. ローテーション：2台の室内ユニットが設定した時間毎に、交互に運転します。
2. キャパシティバックアップ：設定温度と室温の温度差により、室内ユニットの運転台数を1台⇔2台へ切り換えます。
3. フォルトバックアップ：室内ユニット2台中1台が運転している場合、運転している室内ユニットが異常停止すると、もう1台の室内ユニットが運転を開始します。

/を選択し(無効をタッチすると有効に変わります。)、ボタンをタッチすると、設定内容が確定します。

③ローテーション詳細設定

運転切換時間設定

100 時間

▲▼で時間を選択してください。

ローテーションの運転を切換える時間を設定します。10～990時間の間で10時間刻みで設定可能です。設定後バックアップ制御画面に戻ってをタッチしてください。

④キャパシティバックアップ詳細設定

運転開始温度差設定

5℃

▲▼で温度の変更ができます。

キャパシティバックアップの1台⇔2台を切換える設定温度と室温の温度差を設定します。2～5℃の間で1℃刻みで設定可能です。設定後バックアップ制御画面に戻ってをタッチしてください。

### バックアップ制御の制約条件

1. 運転モードが「自動」の場合、バックアップ制御はできません。運転モードが「自動」に設定された空調機にバックアップ制御を設定すると、運転モードは自動的に「冷房」モードに切りかわります。
2. ローテーション制御を設定した場合は、自動的にフォルトバックアップ制御も有効に設定されます。この場合、フォルトバックアップ制御のみを無効にすることはできません。ローテーション運転を無効にした場合は、フォルトバックアップ制御も無効になります。
3. キャパシティバックアップ制御を設定した場合は、自動的にフォルトバックアップ制御も有効に設定されます。この場合、フォルトバックアップ制御のみを無効にすることはできません。キャパシティバックアップ制御を無効にした場合は、フォルトバックアップ制御も無効になります。
4. フォルトバックアップ制御を単独で有効に設定することも可能です。
5. るす番運転、ウォームアップ設定、外部入力設定は、バックアップ制御と同時に設定することはできません。
6. ローテーション運転制御または、フォルトバックアップ制御設定時には、設定対象となっている室内ユニット2台(2グループ)の内、どちらか一方のみが運転します。両方同時に運転することはありません。
7. いずれの制御も、室内アドレスの若い室内ユニットが先に運転開始します。

⑤赤外線センサー設定

赤外線センサー設定

設定を選択してください。

- ・ 赤外線センサーが搭載されており、人の活動量を検知させたい室内ユニットを有効にしてください。赤外線センサー設定が無効の場合には、人の活動量を検知しないため赤外線センサー制御(パワーセーブ、オートオフ)を行いません。
- ・ 4形以前の室内ユニットは、赤外線センサー設定を有効にできません。赤外線センサー設定をタッチとすると、「操作無効です」と表示されます。

リモコンに接続されている室内ユニットの赤外線センサーの/かを選択します。

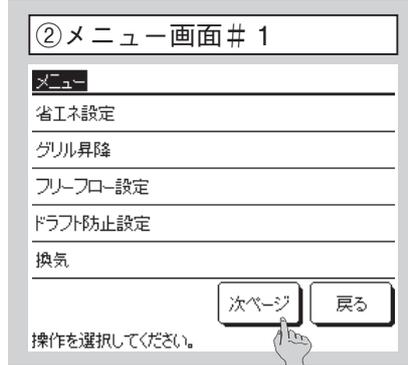
## 8. リモコン機能設定

お知らせ：停止中のみ操作可能

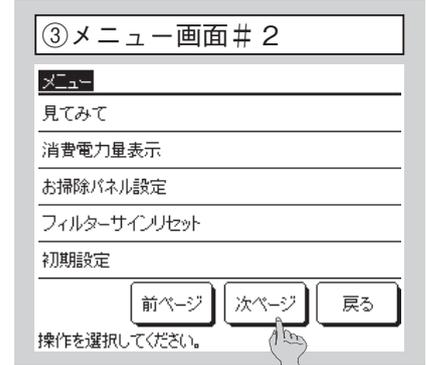
TOP画面 [メニュー] ⇒ [次ページ] ⇒ [リモコン設定]



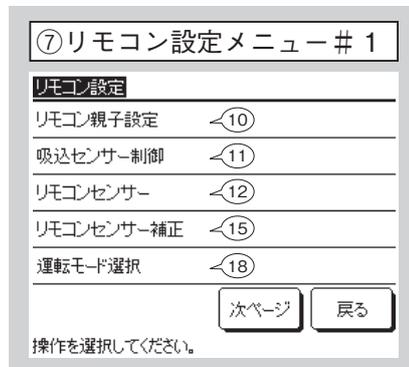
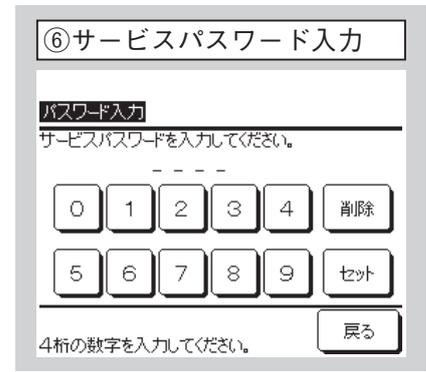
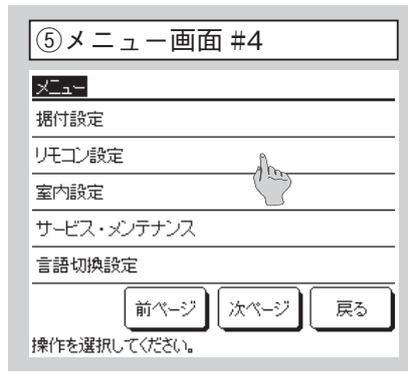
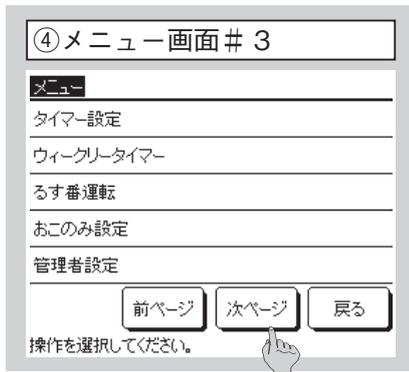
[メニュー] ボタンをタッチしてください。



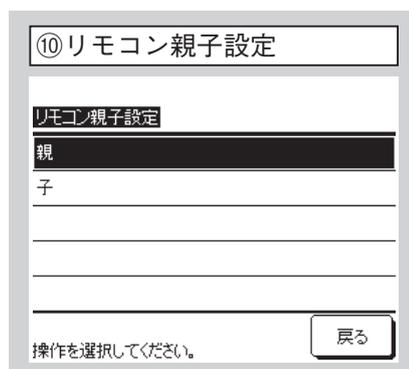
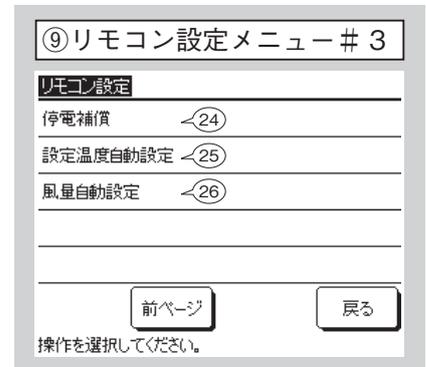
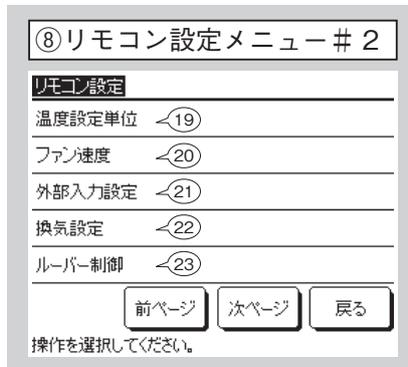
[リモコン設定] ボタンをタッチしてください。



サービスパスワードは 9999 です。



選択した画面に移ります。



リモコンの親子設定を変更する場合に操作します。

## 8. リモコン機能設定 (つづき)

⑪ 吸込センサー制御

吸込センサー制御

個別

親機

平均

操作を選択してください。

戻る

室内ユニットの吸込センサーの検知温度によりサーモ判定を行います。

1台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込温度センサーを選択できます。

1. **個別**：各々の室内ユニットの吸込温度でサーモ判定します。プルラール接続されている場合はプルラール親機の吸込温度を基準とします。
2. **親機**：接続されている室内ユニットの中で、アドレスの若い室内ユニットの吸込温度でサーモ判定します。  
1台のリモコンに、プルラール接続が複数接続されている場合は、プルラール親機間でアドレスが若い室内ユニットの吸込温度を基準とします。
3. **平均**：接続されている室内ユニットの吸込温度を平均し、サーモ判定します。

⑫ リモコンセンサー

リモコンセンサー

無効

有効

有効(暖房のみ)

有効(冷房のみ)

操作を選択してください。

戻る

室内ユニット本体吸込センサーをリモコン側に変更できます。

**無効** 室温表示は、本体側センサーになります。⇒ ⑬

**有効** 室温表示は、リモコン側センサーになります。⇒ ⑭

**有効(暖房のみ)** 室温表示は、暖房中のみリモコン側センサーになります。

**有効(冷房のみ)** 室温表示は、暖房以外で運転中にリモコン側センサーになります。

⑬ TOP画面 (本体側センサーの場合)

会議室 16:00(月) メニュー

自動 設定温度 23.0℃ 風向

タイマー設定 室温 22℃

運転中です。

F1ハイパワー運転 F2省エネ運転

リモコンセンサー無効時は、TOP画面で“室温○℃”と表示されます。

⑭ TOP画面 (リモコン側センサーの場合)

会議室 16:00(月) メニュー

自動 設定温度 23.0℃ 風向

タイマー設定 室温(リモコン) 22℃

運転中です。

F1ハイパワー運転 F2省エネ運転

リモコンセンサー有効時は、TOP画面で“室温(リモコン)○℃”と表示されます。

⑮ リモコンセンサー補正

リモコンセンサー補正

冷房時補正 <⑯

暖房時補正 <⑰

操作を選択してください。

戻る

リモコンセンサー検知温度の補正ができます。

**冷房時補正** ⇒ ⑯ 画面へ

**暖房時補正** ⇒ ⑰ 画面へ

⑯ 冷房時補正

冷房時補正

▲▼で補正温度の変更ができます。

+1℃

▲ セット ▼

戻る

冷房運転中のリモコンセンサー検知温度補正ができます。

-3~+3の範囲で設定します。

⑰ 暖房時補正

暖房時補正

▲▼で補正温度の変更ができます。

0℃

▲ セット ▼

戻る

暖房運転中のリモコンセンサー検知温度補正ができます。

-3~+3の範囲で設定します。

## 8. リモコン機能設定 (つづき)

⑱ 運転モード選択

運転モード選択

自動	無効	有効
冷房	無効	有効
暖房	無効	有効
除湿	無効	有効

設定を選択してください。 セット 戻る

各運転モード毎に「有効」・「無効」を設定可能です。  
冷房または暖房を無効にした場合、自動も無効になります。

⑲ 温度設定単位

温度設定単位

°C

°F

操作を選択してください。 戻る

設定温度の単位を設定します。

⑳ ファン速度

ファン速度

4速

3速

2速(急-弱)

2速(急-強)

1速

操作を選択してください。 戻る

ファン速度選択の変更が可能です。  
室内ユニットにより対応できない場合があります。

㉑ 外部入力方式

外部入力設定

個別

全台

操作を選択してください。 戻る

1つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、運転/停止に対してCnTの入力の適用範囲を設定できます。

「個別」 CnT入力された室内ユニットのみに適用されます。

「全台」 リモコンが接続されている室内ユニット全てに適用されます。

㉒ 換気設定

換気設定

無効

連動

単独操作

操作を選択してください。 戻る

換気機器組合せの設定ができます。

「無効」 接続無し

「連動」 エアコン運転/停止に、連動し、換気出力(CnT)に出力します。

「単独操作」 メニューから換気を選択により換気単独で運転/停止出力を行います。

㉓ ルーバー制御

ルーバー制御

4位置停止

フリー停止

操作を選択してください。 戻る

「4位置停止」 吹出ルーバーを4段階で設定可能

「フリー停止」 リモコンSW操作直後の位置に停止します。

㉔ 停電補償

停電補償

有効

無効

操作を選択してください。 戻る

運転中に停電した場合、

「有効」 停電復旧(電源投入後の制御終了)しだい、停電前の状態に戻ります。

「無効」 停電復旧後、停止します。

㉕ 設定温度自動設定

設定温度自動設定

有効

無効

操作を選択してください。 戻る

「有効」 室温設定画面から自動の選択が可能になります。

「無効」 室温設定の画面上に自動の選択スイッチが表示されません。

㉖ 風量自動設定

風量自動設定

有効

無効

操作を選択してください。 戻る

「有効」 風量設定画面から自動の選択が可能になります。

「無効」 風量設定の画面上に自動の選択スイッチが表示されません。

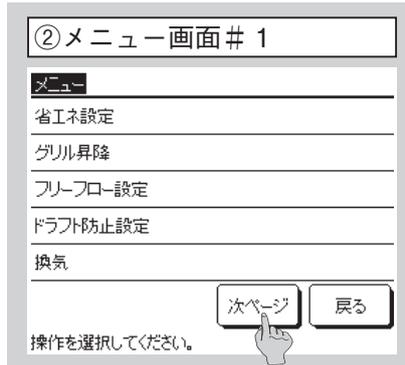
## 9. 室内機能設定

お知らせ：停止中のみ操作可能

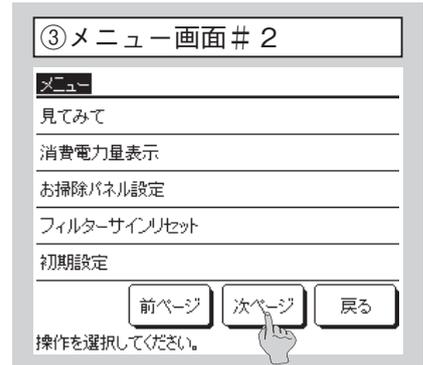
TOP画面 **メニュー** ⇒ **次ページ** ⇒ **室内設定**



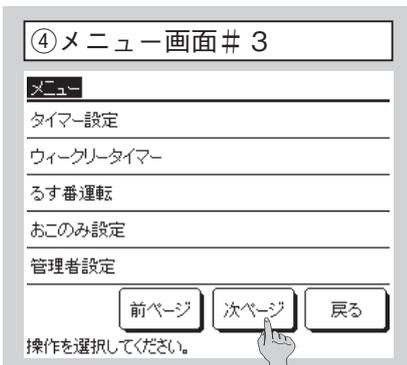
**メニュー** ボタンをタッチしてください。



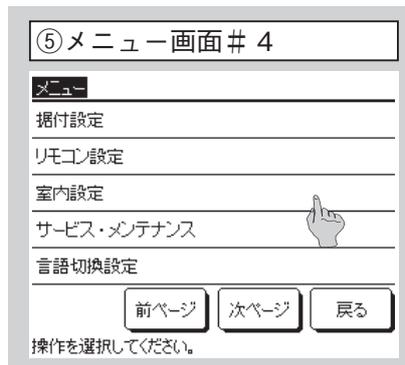
操作を選択してください。



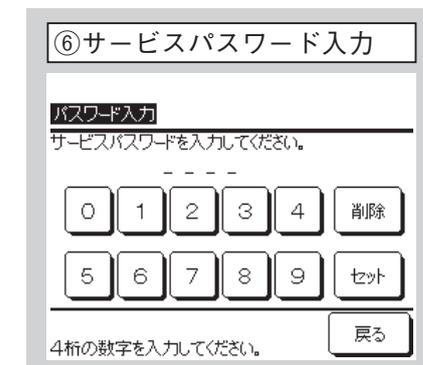
操作を選択してください。



操作を選択してください。



操作を選択してください。



サービスパスワードは9999です。

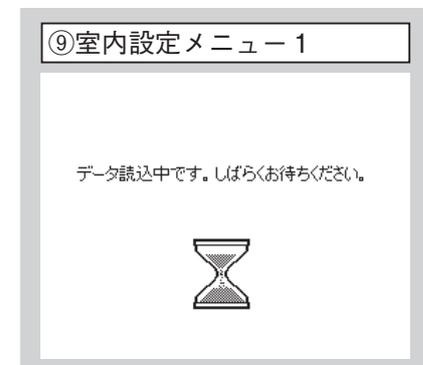
**室内設定** ボタンをタッチしてください。



室内機No.を選択してください。

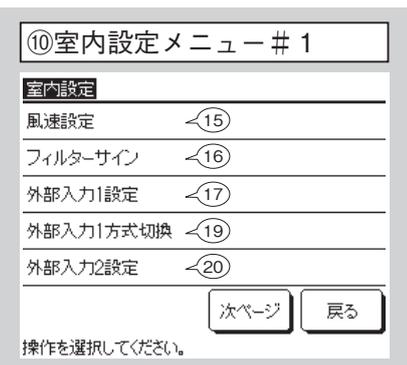


室内機No.を選択してください。

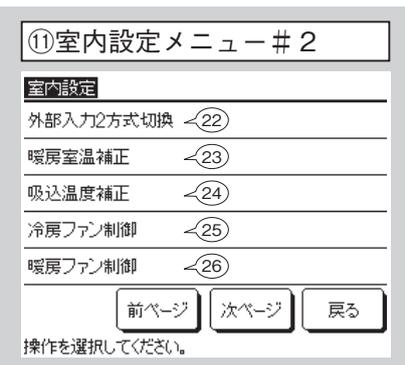


室内ユニットからデータ受信後に⑩に画面が切替わります

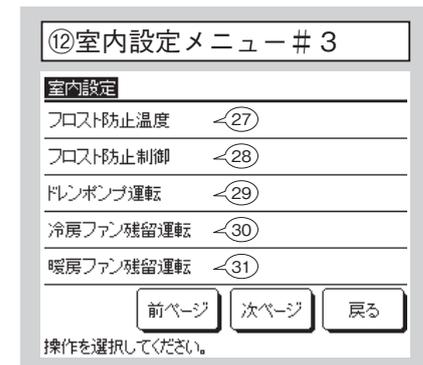
複数室内ユニットを接続の場合、接続された室内ユニットが表示されます。  
**000**～**015** 各室内ユニット毎に個別設定されます。  
**全台** 全台同一設定されます。



操作を選択してください。



操作を選択してください。



操作を選択してください。

選択した画面に移ります。

## 9. 室内機能設定 (つづき)

### ⑬室内設定メニュー # 4

#### 室内設定

暖房ファン間欠 <32

送風サーモ運転 <33

外調機設定 <34

運転モード自動設定 <35

サーモ判定切換 <46

前ページ

次ページ

戻る

操作を選択してください。

### ⑭室内設定メニュー # 5

#### 室内設定

風量自動切換 <50

室内過負荷アラーム <51

外部出力設定 <52

前ページ

戻る

操作を選択してください。

### ⑮風速設定

#### 風速設定

標準

設定1

設定2

戻る

操作を選択してください。

室内ユニットの風速設定を設定します。詳細は、技術資料を参照ください。

### ⑯フィルターサイン

#### フィルターサイン

表示なし

設定1

設定2

設定3

設定4

戻る

操作を選択してください。

	標準	FDTお掃除
表示なし	無し	無し
設定1	180Hr	1,00Hr
設定2	600Hr	2,000Hr
設定3	1,000Hr	2,500Hr
設定4	1,000Hr後 運転停止	2,500Hr後 運転停止

フィルターサイン点灯時間を設定します。

### ⑰外部入力1 設定 #1

#### 外部入力1設定

運転/停止

許可/禁止

冷房/暖房

緊急停止

設定温度シフト

次ページ

戻る

操作を選択してください。

### ⑱外部入力1 設定 #2

#### 外部入力1設定

強制サーモOFF

一時停止

サイレントモード

前ページ

戻る

操作を選択してください。

### ⑲外部入力1 方式

#### 外部入力1方式切換

レベル入力

パルス入力

戻る

操作を選択してください。

室内ユニット CnT 入力時の制御を設定します。詳細は、技術資料を参照ください。

室内ユニットCnTへの入力信号方式を設定します。詳細は、技術資料を参照ください。

外部入力2を装備している室内ユニットと組合わせた場合に操作できます。詳細は、技術資料を参照ください。

### ⑳外部入力2 設定 #1

#### 外部入力2設定

運転/停止

許可/禁止

冷房/暖房

緊急停止

設定温度シフト

次ページ

戻る

操作を選択してください。

### ㉑外部入力2 設定 #2

#### 外部入力2設定

強制サーモOFF

一時停止

サイレントモード

前ページ

戻る

操作を選択してください。

### ㉒外部入力2 方式

#### 外部入力2方式切換

レベル入力

パルス入力

戻る

操作を選択してください。

## 9. 室内機能設定 (つづき)

②③暖房室温補正

暖房室温補正

▲▼で補正温度の変更ができます。

+2.0℃

▲

▼

セット

戻る

暖房サーモ判定温度を補正します。  
0℃ / +1℃ / +2℃ / +3℃

②④吸込温度補正

吸込温度補正

▲▼で補正温度の変更ができます。

+1.5℃

▲

▼

セット

戻る

本体吸込センサー検知温度を補正します。  
-2℃ / -1.5℃ / -1℃ / 0℃ / +1℃ / +1.5℃ / +2℃

②⑤冷房ファン制御

冷房ファン制御

弱風

設定風量

間欠

停止

戻る

操作を選択してください。

冷房サーモ OFF 中のファン速度設定  
弱風 弱風運転  
設定風量 サーモ ON 中と同風量  
間欠 2分Lo (ULo) 運転 / 5分停止  
停止 停止

②⑥暖房ファン制御

暖房ファン制御

弱風

設定風量

間欠

停止

戻る

操作を選択してください。

暖房サーモ OFF 中のファン速度を設定します。  
弱風 弱風運転  
設定風量 サーモ ON 中と同風量  
間欠 2分Lo (ULo) 運転 / 5分停止  
停止 停止

②⑦フロスト防止温度

フロスト防止温度

温度 低

温度 高

戻る

操作を選択してください。

フロスト防止制御温度の切り替えができます。

②⑧フロスト防止制御

フロスト防止制御

有効

無効

戻る

操作を選択してください。

フロスト防止制御後、ファン速度が有効 アップします。  
無効 変化しません。

②⑨ドレンポンプ運転

ドレンポンプ運転

通常

暖房時連動運転

暖房/送風時連動運転

送風時連動運転

戻る

操作を選択してください。

通常 冷房・除湿時に運転  
暖房時連動 通常 + 暖房  
暖房 / 送風時連動 全運転中  
送風時連動 通常 + 送風

③⑩冷房ファン残留運転

冷房ファン残留運転

なし

設定1

設定2

設定3

戻る

操作を選択してください。

冷房運転、停止またはサーモ OFF 後のファン残留運転時間を設定します。  
なし ファン残留運転なし  
設定1 0.5時間  
設定2 2時間  
設定3 6時間  
※残留時間が異なる場合があります。

③⑪暖房ファン残留運転

暖房ファン残留運転

なし

設定1

設定2

設定3

戻る

操作を選択してください。

暖房運転、停止またはサーモ OFF 後のファン残留運転時間を設定します。  
なし ファン残留運転なし  
設定1 0.5時間  
設定2 2時間  
設定3 6時間

## 9. 室内機能設定 (つづき)

### ③②暖房ファン間欠

#### 暖房ファン間欠

非運動

20分停止5分送風

5分停止5分送風

操作を選択してください。

戻る

暖房運転、停止またはサーモOFF後のファン制御を設定します。

**非運動** 停止

**20分停止 5分送風** 25分毎に条件チェックして5分送風

**5分停止 5分送風** 10分毎に条件チェックして5分送風

### ③③送風サーモ運転

#### 送風サーモ運転

無効

有効

操作を選択してください。

戻る

サーキュレーター運転として使用する場合

**無効** 送風時連続運転

**有効** 送風時リモコンと本体の温度差を見て送風運転/停止します。

### ③④外調機設定

#### 外調機設定

圧力制御標準

圧力制御切換

操作を選択してください。

戻る

マルチシステムにて、外調機の場合に設定します。

**圧力制御標準** 通常

**圧力制御切換** 運転中の室内ユニットが全て、この設定の場合、圧力制御値が変わります。

### ③⑤運転モード自動設定

#### 運転モード自動設定

自動1・2・3切換 ←36

自動1関連設定 ←37

自動2関連設定 ←38

自動3関連設定 ←39

操作を選択してください。

戻る

### ③⑥自動1・2・3切換

#### 自動1・2・3切換

自動1

自動2

自動3

操作を選択してください。

戻る

運転モード自動での冷房/暖房切換方式を3方式から選択できます。各方式の条件を設定をします。

**自動1** 設定温度と室温の温度差で、冷房/暖房が切替わります。

**自動2** 設定温度と室温の温度差及び外気温度で冷房/暖房が切替わります。

**自動3** 室温及び外気温度で、冷房/暖房が切替わります。

### ③⑦自動1関連設定

#### 自動1関連設定

冷房切換温度 ←40

暖房切換温度 ←41

操作を選択してください。

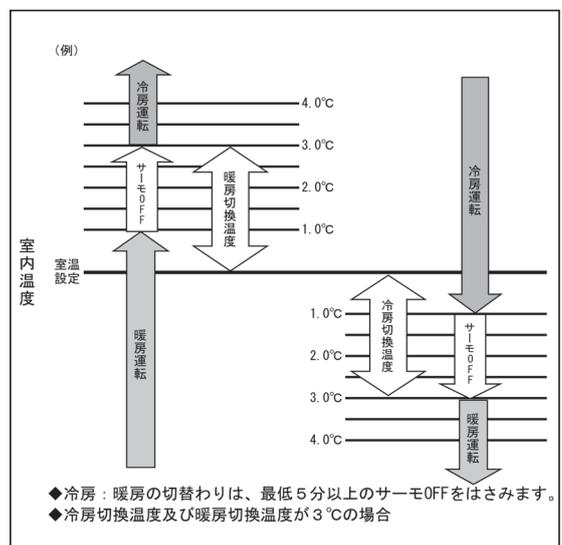
戻る

冷房/暖房の切換温度を設定します。

切換温度は1～4℃の範囲で設定できます。

設定温度－冷房切換温度  
<室内吸込温度の場合  
⇒運転モード：冷房

設定温度＋暖房切換温度  
>室内吸込温度の場合  
⇒運転モード：暖房



## 9. 室内機能設定 (つづき)

**③⑧自動2 関連設定**

**自動2関連設定**

冷房切換温度 <40

暖房切換温度 <41

冷房室外温度 <42

暖房室外温度 <43

戻る

操作を選択してください。

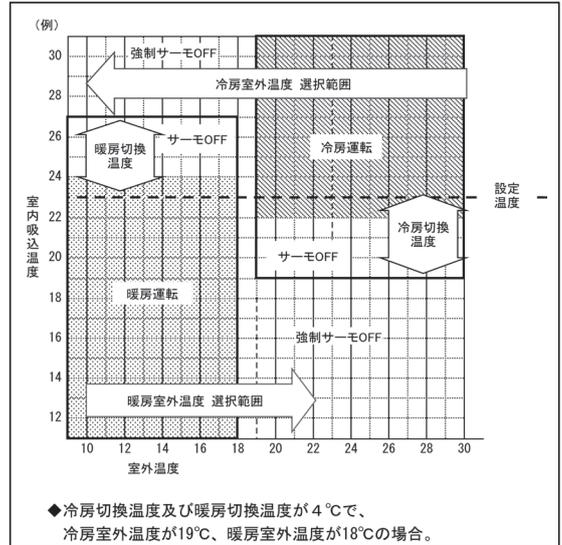
冷房／暖房の切換温度、冷房／暖房室外温度を設定します。

「設定温度－冷房切換温度 < 室内吸込温度」かつ「設定した冷房室外温度 < 室外吸込温度」の場合

⇒ 運転モード：冷房

「設定温度＋暖房切換温度 > 室内吸込温度」かつ「設定した暖房室外温度 > 室外吸込温度」の場合

⇒ 運転モード：暖房



**③⑨自動3 関連設定**

**自動3関連設定**

冷房室外温度 <42

暖房室外温度 <43

冷房室内温度 <44

暖房室内温度 <45

戻る

操作を選択してください。

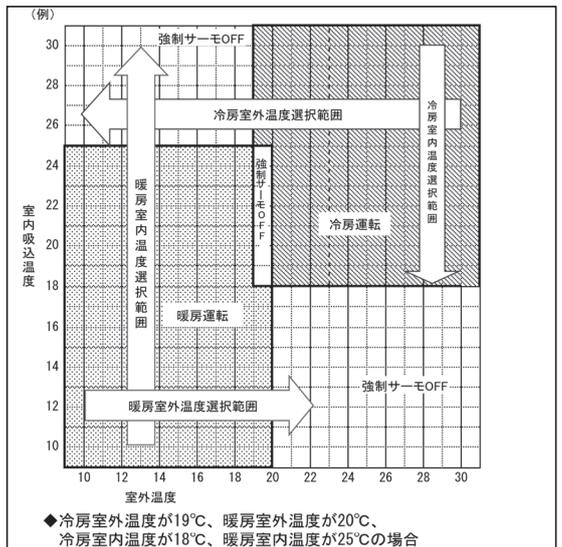
冷房／暖房室外温度、冷房／暖房室内温度を設定します。

「設定した冷房室内温度 < 室内吸込温度」かつ「設定した冷房室外温度 < 室外吸込温度」の場合

⇒ 運転モード：冷房

「設定した暖房室内温度 > 室内吸込温度」かつ「設定した暖房室外温度 > 室外吸込温度」の場合

⇒ 運転モード：暖房



**④⑩冷房切換温度**

**冷房切換温度**

▲▼で補正温度の変更ができます。

3.0℃

▲

▼

セツト

戻る

自動1、自動2で冷房切換温度を設定します。  
1～4℃の範囲で設定できます。

**④⑪暖房切換温度**

**暖房切換温度**

▲▼で補正温度の変更ができます。

3.0℃

▲

▼

セツト

戻る

自動1、自動2で暖房切換温度を設定します。  
1～4℃の範囲で設定できます。

**④⑫冷房室外温度**

**冷房室外温度**

▲▼で補正温度の変更ができます。

18℃

▲

▼

セツト

戻る

自動2、自動3で冷房室外温度を設定します。  
10～30℃の範囲で設定できます。

## 9. 室内機能設定 (つづき)

④③暖房室外温度

暖房室外温度  
▲▼で補正温度の変更ができます。

20℃

▲  
▼

セット

戻る

自動2、自動3で暖房室外温度を設定します。

10～22℃の範囲で設定できます。

④④冷房室内温度

冷房室内温度  
▲▼で補正温度の変更ができます。

22℃

▲  
▼

セット

戻る

自動3で冷房室内温度を設定します。

18～30℃の範囲で設定できます。

④⑤暖房室内温度

暖房室内温度  
▲▼で補正温度の変更ができます。

24℃

▲  
▼

セット

戻る

自動3で暖房室内温度を設定します。

10～30℃の範囲で設定できます。

④⑥サーモ判定切換

サーモ判定切換

通常制御/室外温度制御 <47

室外温度\_冷房補正 <48

室外温度\_暖房補正 <49

戻る

操作を選択してください。

室温制御、サーモ ON / OFF 切換方式・条件を設定します。

**通常制御** 室内温度と設定温度の差でサーモ判定をします。

**外気温度制御** 外気温度±補正值と室内温度でサーモ判定をします。

室温設定は無効となります。

④⑦通常制御/外気温度制御

通常制御/室外温度制御

通常制御

室外温度制御

戻る

操作を選択してください。

④⑧室外温度\_冷房補正

室外温度\_冷房補正  
※室温調整設定を「室外温度により制御」に設定した場合のみ有効です。

2℃

▲  
▼

セット

戻る

室外温度と冷房/暖房補正值によりサーモ判定します。

(a) 室外温度\_冷房補正：冷房中にサーモ判定します。  
室内温度 > (室外温度 - 冷房補正值) でサーモ ON します。  
冷房補正值は 0～10℃で設定できます。

(b) 室外温度\_暖房補正：暖房中にサーモ判定します。  
室内温度 < (室外温度 + 暖房補正值) でサーモ ON します。  
暖房補正值は 0～5℃で設定できます。

④⑨室外温度\_暖房補正

室外温度\_暖房補正  
※室温調整設定を「室外温度により制御」に設定した場合のみ有効です。

3℃

▲  
▼

セット

戻る

⑤⑩風量自動切換

風量自動切換

自動1

自動2

戻る

操作を選択してください。

風量自動の切換範囲を設定

**自動1** 急⇄強⇄弱

**自動2** P 急⇄急⇄強⇄弱

## 9. 室内機能設定 (つづき)

⑤①室内過負荷アラーム設定

室内過負荷アラーム

キャンセル

▲

▼

7℃

セット

▲▼で温度の変更ができます。

戻る

運転開始 30分後、設定温度と吸込温度差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力 (CnT-5) から過負荷アラーム信号を送信します。

⑤②外部出力設定 出力先選択

外部出力設定 出力先選択

外部出力1

外部出力2

外部出力3

外部出力4

設定を選択してください。

戻る

変更する出力先を選択後、選択した出力に割り当てる機能を選択します。各出力のコネクターと初期設定は下記です。

外部出力 1	CnT-2	運転出力
外部出力 2	CnT-3	暖房出力
外部出力 3	CnT-4	圧縮機 ON 出力
外部出力 4	CnT-5	点検 (異常) 出力

詳細は技術資料を参照願います。

⑤③外部出力設定 機能選択 #1

外部出力設定 機能選択

運転出力

暖房出力

コンプレッサON出力

点検(異常)出力

冷房出力

次ページ

戻る

⑤④外部出力設定 機能選択 #2

外部出力設定 機能選択

ファン運転出力1

ファン運転出力2

ファン運転出力3

デフロスト、油戻し出力

換気出力

前ページ

次ページ

戻る

⑤⑤外部出力設定 機能選択 #3

外部出力設定 機能選択

ヒータ出力

フリークーリング出力

室内過負荷アラーム出力

前ページ

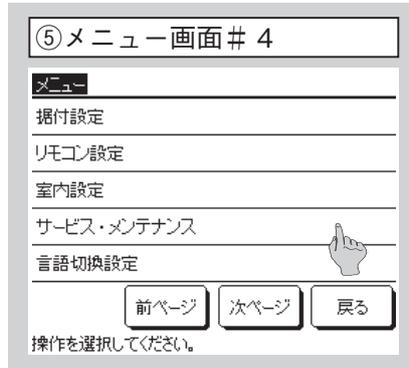
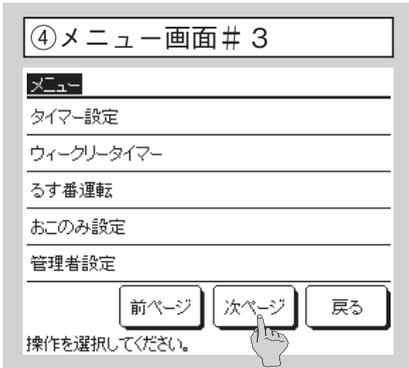
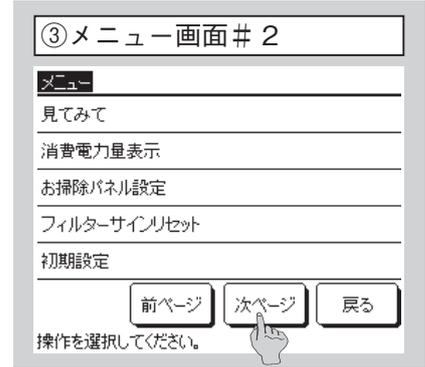
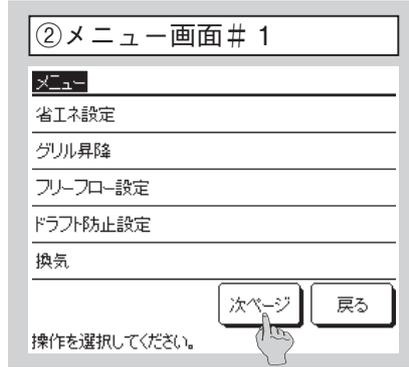
戻る

# 10. サービス・メンテ方法

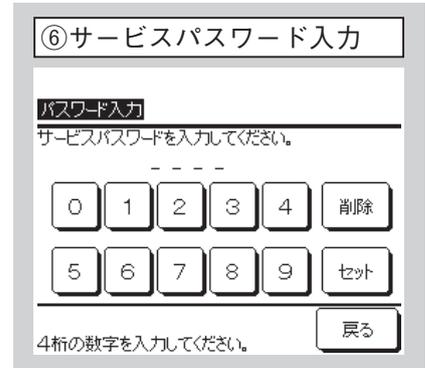
TOP画面 **メニュー** ⇒ **次ページ** ⇒ **サービス・メンテナンス**



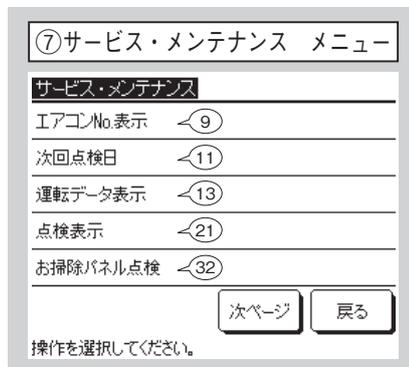
**メニュー** ボタンをタッチしてください。



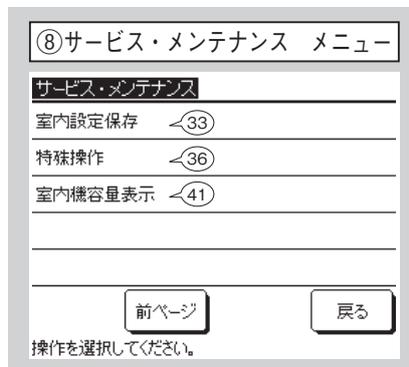
**サービス・メンテナンス** ボタンをタッチしてください。



サービスパスワードは9999です。



選択した画面に移ります。



選択した画面に移ります。



8台以上接続の場合は、次ページ以降に表示が出来ます。室内ユニット選択後**個別送風** ボタンをタッチすると、選択した室内ユニットが送風運転します。⇒⑩

## 10. サービス・メンテ方法（つづき）

⑩個別送風運転

個別送風運転

送風運転

運転 停止

動作を選択してください。

戻る

- 運転** 送風運転開始。  
**停止** 送風運転停止。

⑪次回点検日

次回点検日

▲ ▲ ▲  
 年 月 日  
 2010 / 1 / 1  
 ▼ ▼ ▼

設定なし セット 戻る

年月日を設定してください。

- 次回点検日を入力すると、点検月の運転開始／停止時メッセージが表示されます。表示は、次回点検日を更新するとリセットされます。  
**設定なし** をタッチするとメッセージは表示されません。

⑫点検メッセージ

ご使用期間 0年7ヶ月  
 今回の点検 2010年8月頃  
 連絡先名 ミナソ  
 連絡先TEL 000-000-0000

⑬運転データ画面 #1

運転データ 全更新

室内機 000	室外機	項目	データ	表示
		01 運転モード	冷房	✓
		02 設定温度	28°C	✓
		03 吸込温度	28°C	✓
		04 リモコン温度	29°C	
		05 室内熱交温度1	10°C	

選択表示 次ページ 戻る

表示項目を6つ選択してください。

⑭運転データ画面 #2

運転データ 全更新

室内機 000	室外機	項目	データ	表示
		06 室内熱交温度2	10°C	
		07 室内熱交温度3	10°C	
		08 室内ファン速度	5速	
		09 要求周波数	51.2Hz	
		10 アパー周波数	32Hz	

選択表示 前ページ 次ページ 戻る

表示項目を6つ選択してください。

⑮運転データ画面 #3

運転データ 全更新

室内機 000	室外機	項目	データ	表示
		11 室内EEV開度	256P	
		12 室内運転時間	100H	
		13 吹出	21°C	
		21 外気温度	22°C	
		22 室外熱交温度1	29°C	

選択表示 前ページ 次ページ 戻る

表示項目を6つ選択してください。

- 運転データが表示されます。**全更新** タッチで全データが更新されます。  
 データを自動更新させて表示したい場合、6項目まで選択できます。6項目選択後、**選択表示** ボタンをタッチすると⑳の画面に変わります。

⑯運転データ画面 #4

運転データ 全更新

室内機 000	室外機	項目	データ	表示
		23 室外熱交温度2	29°C	
		24 コパ回転数	51.2Hz	
		25 高圧圧力	1.2MPa	
		26 低圧圧力	0.20MPa	
		27 吐出管温度	78°C	

選択表示 前ページ 次ページ 戻る

表示項目を6つ選択してください。

⑰運転データ画面 #5

運転データ 全更新

室内機 000	室外機	項目	データ	表示
		28 ドーL下温度	27°C	
		29 電流	8A	
		30 SH制御	48°C	
		31 SH	48°C	
		32 TDSh	48°C	

選択表示 前ページ 次ページ 戻る

表示項目を6つ選択してください。

⑱運転データ画面 #6

運転データ 全更新

室内機 000	室外機	項目	データ	表示
		33 保護制御	No.1	
		34 室外ファン速度	5速	
		35 63H1	ON	
		36 ファクト	ON	
		37 コパ運転時間	100H	

選択表示 前ページ 次ページ 戻る

表示項目を6つ選択してください。

## 10. サービス・メンテ方法 (つづき)

①⑨ 運転データ画面 #7

運転データ 全更新

室内機	000	室外機	
項目		データ	表示
38	室外EEV1開度	512P	
39	室外EEV2開度	512P	

表示項目を6つ選択してください。

②⑩ 運転データ個別表示画面

運転データ

運転モード	冷房
設定温度	28℃
吸込温度	29℃
リモコン温度	28℃
室内熱交温度1	10℃
室内熱交温度2	15℃

②⑪ 点検表示メニュー

点検表示

異常履歴表示	←22
異常時運転データ表示	←23
異常時運転データ消去	←30
定期点検リセット	←31

操作を選択してください。

選択した6つの項目を自動更新して表示します。

②⑫ 異常履歴表示 (例)

異常履歴表示 消去

時刻	室内機	異常コード
2011/01/19 PM 6:57	014	E16
2011/01/19 PM 6:57	015	E15
2011/01/19 PM 6:57	012	E14

②⑬ 異常時運転データ表示 #1

異常時運転データ表示

室内機	000	異常コード	E09	室外機
項目		データ		
01	運転モード	冷房		
02	設定温度	28℃		
03	吸込温度	26℃		
05	室内熱交温度1	10℃		
06	室内熱交温度2	10℃		

②⑭ 異常時運転データ表示 #2

異常時運転データ表示

室内機	000	異常コード	E09	室外機
項目		データ		
07	室内熱交温度3	10℃		
08	室内ファン速度	5速		
09	要求周波数	51.2Hz		
10	ファン周波数	32Hz		
11	室内EEV開度	256P		

異常発生日時・室内アドレス・異常コードを表示します。

ボタンをタッチすると、異常履歴を消去します。

異常発生直前の運転データが表示されます。

②⑮ 異常時運転データ表示 #3

異常時運転データ表示

室内機	000	異常コード	E09	室外機
項目		データ		
12	室内運転時間	100H		
13	吹出	21℃		
21	外気温度	22℃		
22	室外熱交温度1	29℃		
23	室外熱交温度2	29℃		

②⑯ 異常時運転データ表示 #4

異常時運転データ表示

室内機	000	異常コード	E09	室外機
項目		データ		
24	コパ回転数	51.2Hz		
25	高圧圧力	1.2MPa		
26	低圧圧力	0.20MPa		
27	吐出管温度	76℃		
28	ドレ下温度	27℃		

②⑰ 異常時運転データ表示 #5

異常時運転データ表示

室内機	000	異常コード	E09	室外機
項目		データ		
29	電流	8A		
30	SH制御	48℃		
31	SH	3℃		
32	TDSH	48℃		
33	保護制御	No.1		

異常発生直前の運転データが表示されます。

## 10. サービス・メンテ方法 (つづき)

### ⑳異常時運転データ表示 #6

#### 異常時運転データ表示

室内機	000	異常コード	E09	室外機
項目	データ			
34	室外ファン速度	5速		
35	63H1	ON		
36	ファンホ	ON		
37	エリア運転時間	100H		
38	室外EEV1開度	512P		

前ページ

次ページ

戻る

### ㉑異常時運転データ表示 #7

#### 異常時運転データ表示

室内機	000	異常コード	E09	室外機
項目	データ			
39	室外EEV2開度	512P		

前ページ

戻る

### ㉒異常時運転データ消去

#### 異常時運転データ消去

はい

操作を選択してください。

戻る

異常時運転データが消去されます。

### ㉓定期点検リセット

#### 定期点検リセット

定期点検をリセットしますか?

はい

設定を選択してください。

戻る

定期点検リセット操作により、時間カウンタがリセットされます。

### ㉔お掃除パネル点検

#### お掃除パネル点検

駆動部個別点検

位置認識指令

位置合わせ制御

点検お掃除運転

戻る

操作を選択してください。

ラクリーナパネル組込みの場合、お掃除パネル説明書を参照ください。

### ㉕室内設定保存

#### 室内設定保存

室内設定を保存

室内設定自動保存 <34>

保存データの転送 <35>

戻る

操作を選択してください。

**室内設定を保存** リモコンに接続されている室内ユニットすべての設定をリモコンに保存します。

**室内設定自動保存** 毎日の自動保存時刻を設定します。

**保存データの転送** リモコンに保存した室内設定データを室内ユニットに転送します。

### ㉖室内設定自動保存

#### 室内設定自動保存

設定時刻に室内設定を自動保存します。

▲ AM 0:00 ▲

▼

設定なし

セット

▲▼で時間を選択し、セットを押してください。

毎日の自動保存時刻を設定します。**設定なし**を選択すると、自動保存は行いません。

### ㉗保存データの転送

#### 室内機選択

000 001 002 003

004 005 006 007

次ページ

戻る

室内機No.を選択してください。

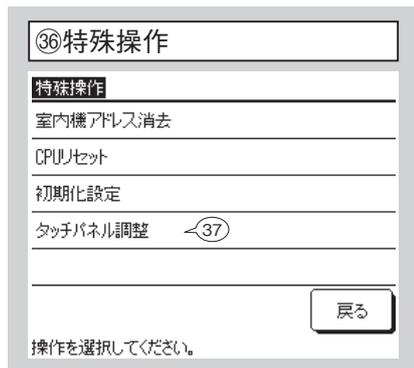
転送する室内ユニットを選択すると、確認画面が表示されますので、データ転送を行ってください。

#### お知らせ

室内ユニット基板を交換したが、設定内容が判らなくなったことはありませんか？

リモコンに室内ユニットの設定を保存しておく、[保存データの転送]により、保存されたデータが室内ユニットに書込まれます。

## 10. サービス・メンテ方法（つづき）

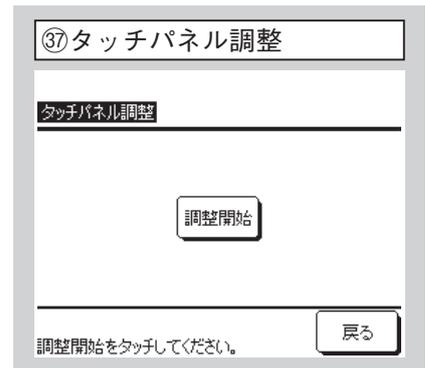


**室内機アドレス消去** マルチ室内ユニットの記憶が消去されます。

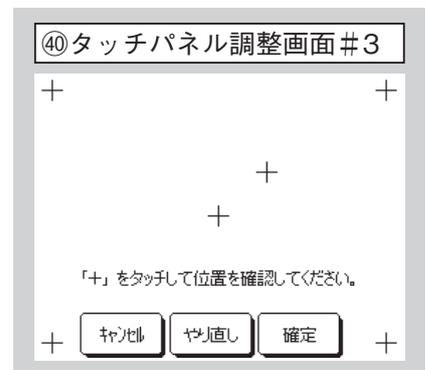
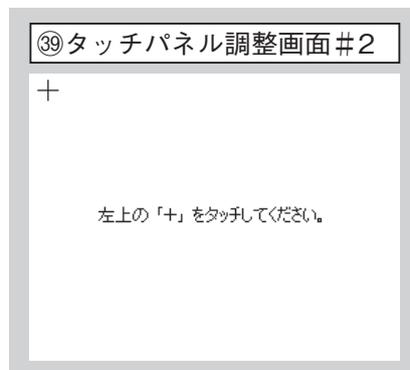
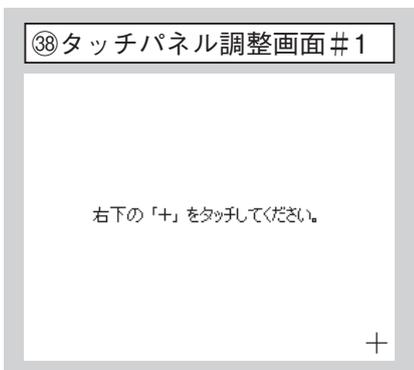
**CPUリセット** 接続されている、室内ユニット・室外ユニットのマイコンがリセット（停電復帰状態）されます。

**初期化** 接続されている、リモコン・室内ユニットの設定が初期値（出荷状態）になります。

**タッチパネル調整** 表示とタッチ位置が一致しない場合に調整します。



選択した画面に移ります。



表示とタッチ位置が一致しない場合に調整します。

画面の指示にそって、[+] マーク中心をタッチしてください。

**確定** で終了します。



リモコンに接続されている室内ユニットの容量を表示します。

7台以上接続の場合は、**次ページ**以降に表示がでます。

(b) RC-DX2

PJZ012D088 

この据付説明書は、リモコン関連の据付方法・注意事項を記載しております。  
室内ユニット・室外ユニット・他に付属の説明書と合わせてご覧ください。  
正しく工事していただくために、工事前に、必ずこの説明書をよくお読みください。



## 1. 安全上のご注意

●工事前、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。

いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

**⚠警告** 誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。

**⚠注意** 誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性のあるもの。

状況によっては重大な結果に結びつく可能性があるもの。

●本文中に用いられる「絵表示」の意味は次の通りです。

 絶対にしないでください。  必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この取扱説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

### 警告

●据付工事説明書に従って、専門業者が据付工事を行うこと。  
施行不備があると感電、火災、故障の原因になります。 

●元電源を切った後に電気工をする。  
感電、故障や動作不良の原因になります。 

●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへは設置禁止。  
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。 

●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには据付禁止  
感電、火災、故障の原因になります。 

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。 

●リモコンケーブル引込口をパテでシールすること。  
露・水・虫などが浸入すると感電、火災、故障の原因になります。 

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。  
インバーター機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤作動や故障の原因になります。  
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。 

### 注意

●リモコンを下記場所に設置しない。  
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。  
(1) 直射日光の当たる場所  
(2) 発熱器具の近く  
(3) 取付面に凹凸がある所 

●リモコンの上ケースを取外したまま放置しない。  
上ケースを取外した場合は、内蔵の基板にゴミや水分等が付着しないように、梱包箱或いは梱包袋に入れて保護してください。 

## 2. 部品確認

付属品	リモコン本体、木ねじ (φ 3.5 × 16) 2本 取扱説明書・据付工事説明書
-----	---

### 現地手配部品

品名	所要量	記事
スイッチボックス 1個用 又は 2個用 (JIS C 8340)	1	壁面に直接据付ける場合は不要です。
薄鋼電線管 (JIS C 8305)	必要量	
ロックナット・ブッシング (JIS C 8330)	必要量	
モール (JIS C 8425)	必要量	リモコンケーブルを壁面に這わす場合に必要です。
パテ	適量	隙間シール用
モリーアンカー	必要量	
リモコンケーブル (0.3mm <sup>2</sup> × 2心)	必要量	100m を超える場合は右表

延長距離が 100m を超える場合リモコンケース内を通る配線は最大 0.5mm<sup>2</sup> 以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。配線する際は水分等が浸入しない様な処置をおこなってください。

200m 以内	0.5mm <sup>2</sup> × 2心
300m 以内	0.75mm <sup>2</sup> × 2心
400m 以内	1.25mm <sup>2</sup> × 2心
600m 以内	2.0mm <sup>2</sup> × 2心

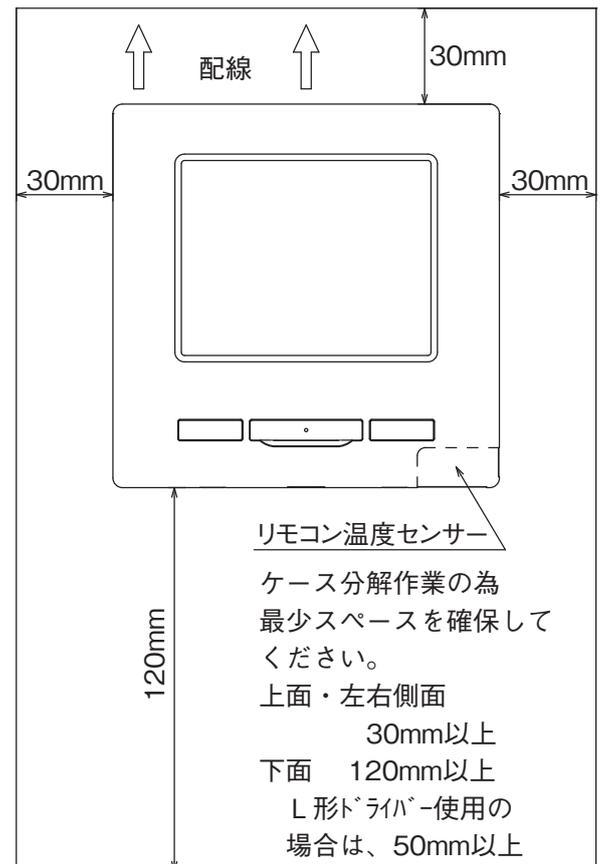
## 3. 据付場所

据付方式 「スイッチボックスを使用」  
「壁面に直接据付」  
配線方向 「背面」  
「上面中央」「上面左」

### 据付場所選定の注意事項

- 据付け面が平らで強度を有すること。  
リモコンケースが変形しないこと。
- リモコンが正確な室内温度を検知できる所  
モコンの温度センサーを使用して室内温度を検知する場合は、必ず守ってください。
  - リモコンは、部屋の平均的な温度を検知できる場所に設置してください。
  - リモコンは、熱源の影響を受けない場所に設置してください。
  - リモコンは、ドアの開閉による室外空気の影響を受けない場所に設置してください。
 直射日光やエアコンから吹き出した風が直接あたる場所壁面温度と室内空気温度の差がでない場所
- ラクリーナパネルを採用される場合は、グリルの昇降が確認しやすい場所。

### 設置スペース



### お願い

リモコン設置壁面付近の温度と実際の室温と差が大きい場所に据付けしないでください。  
検知した室温と実際の室温に差がでることトラブルの原因になります。  
リモコンの検知温度補正は、検知温度全体を補正するため差を解消することはできません。



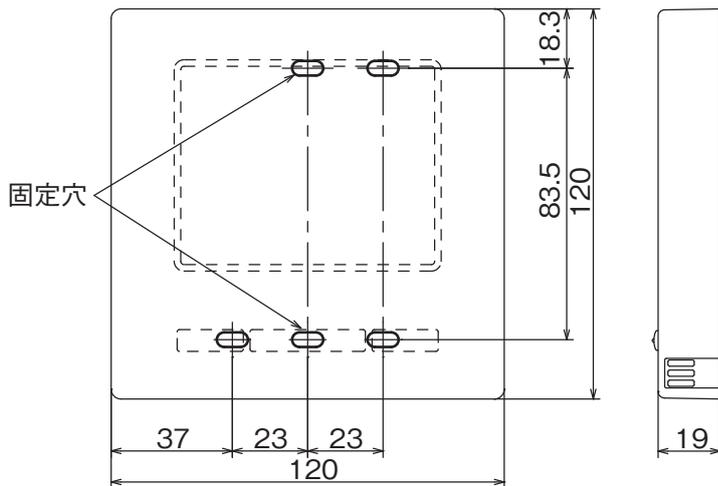
### お願い

直射日光のあたる場所、周囲温度が 40℃以上・0℃以下になる場所にリモコンを据付けないこと。  
日焼け・変形・誤作動・故障の原因になります。

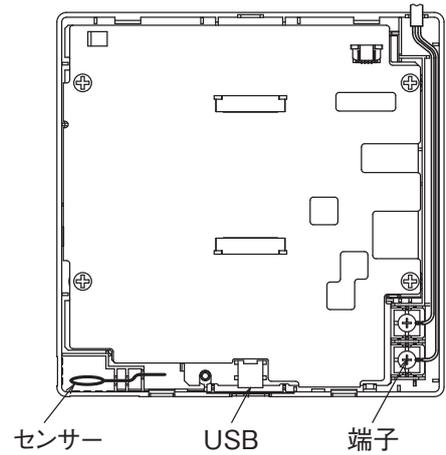


## 4. 据付・配線工事

正面から見た取付寸法図



裏面から見た基板面



- ① リモコンの上下ケースの分離  
 ・リモコン下面の凹部にマイナスドライバ等挿し込んで軽くねじって外してください。

取外した上ケースは、水分・ゴミが付かない様に注意してください。

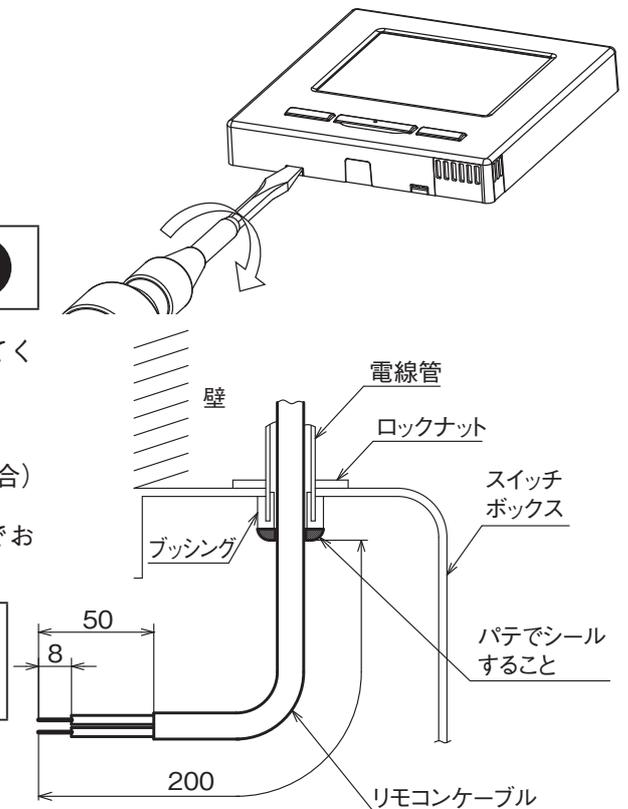


- ② リモコン端子 X, Y と室内ユニットの端子 X, Y を接続してください。  
 配線 X, Y の極性はありません。

**スイッチボックスを使用する場合** (配線方向「背面」の場合)

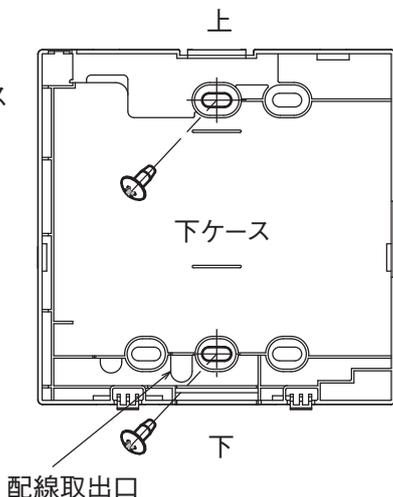
- ③ スwitchボックスとリモコンコードをあらかじめ埋め込んでおきます。

リモコンケーブル引込口をパテでシールすること。  
 ● 露・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。

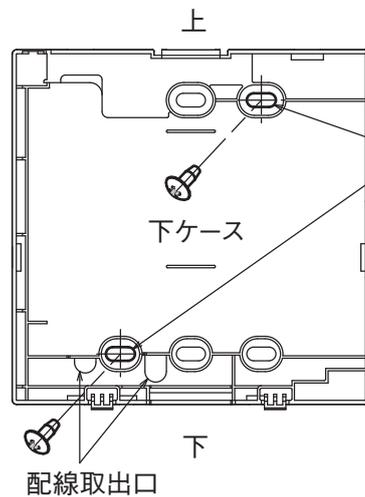


- ④ 下ケースに配線を通した後、スイッチボックスに2か所固定してください。

1個用  
 スwitchボックス  
 の場合



2個用  
 スwitchボックス  
 の場合



ねじ取付部の薄肉部分をナイフ等で、切りとってからねじをしめてください。

## 4. 据付・配線工事 (つづき)

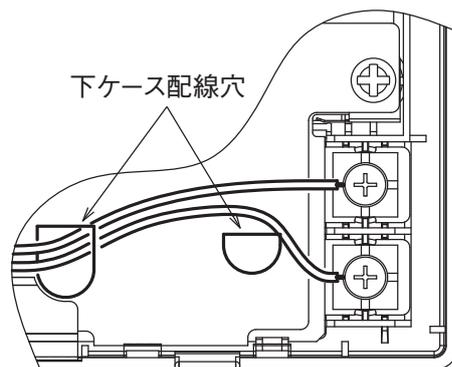
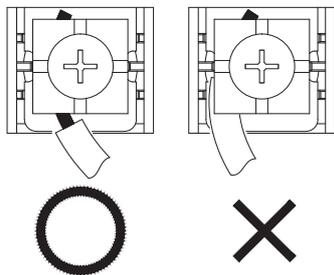
- ⑤斜め2か所で固定の場合は、ケース薄肉部をきり欠いてください。
- ⑥リモコン上ケース端子ねじを巻く様に配線を固定してください。
- ⑦リモコン配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。

### 配線接続時のご注意

リモコンケース内を通る配線は 0.5 mm<sup>2</sup> 以下とし、シースをかみこまない様に接続してください。

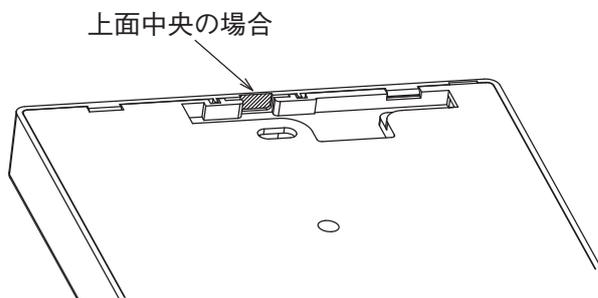
配線接続は、手締め(0.7N・m以下)で行ってください。

電動ドライバーを使用すると、故障や変形の原因になることがあります。



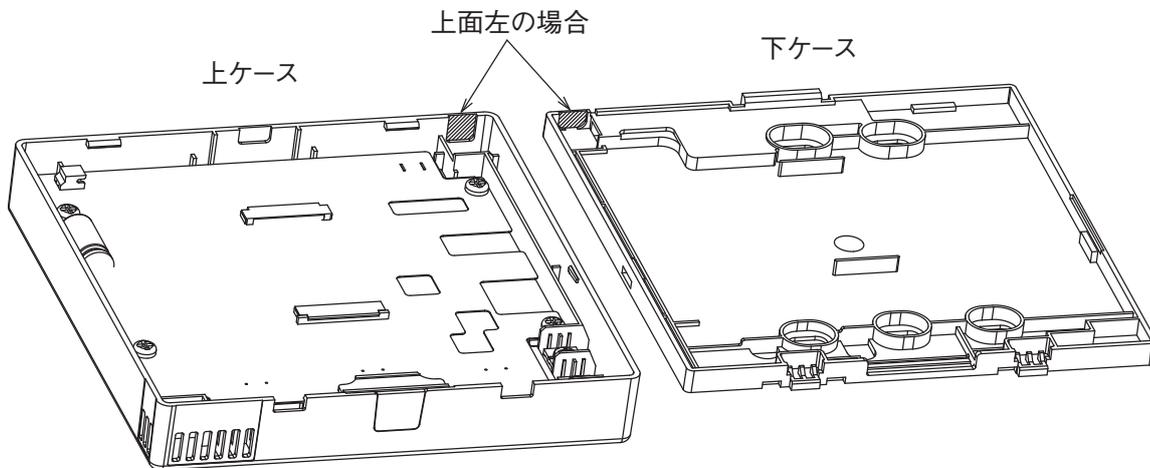
**スイッチボックスを使用しない場合** (配線取出「上面中央」「上面左」の場合)

- ③ケース薄肉部を配線太さに合わせ切り欠いてください。



上面中央の場合は、上下ケース分解前に実施してください。基板内部への影響が少なく作業がやり易くなります。

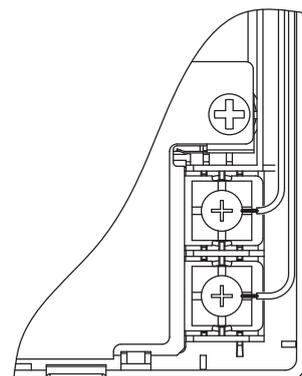
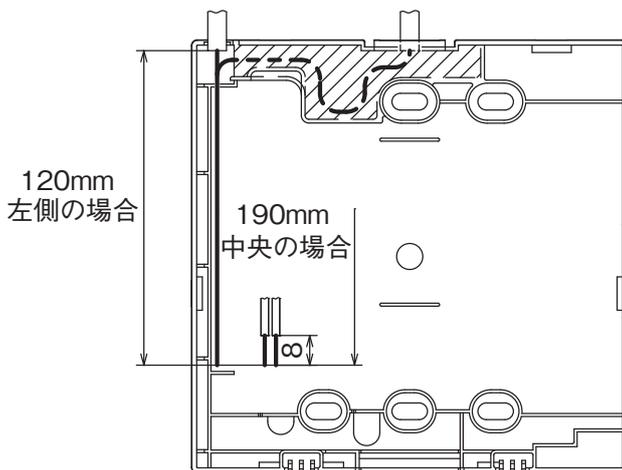
上面左の場合は、基板内部への影響を与えない様に行い、切り取った破片が内部に残らない様に注意してください。



切り欠き部が大きいと、水分・ホコリ・虫の浸入の原因になります。必要に応じてパテ等で封止してください。

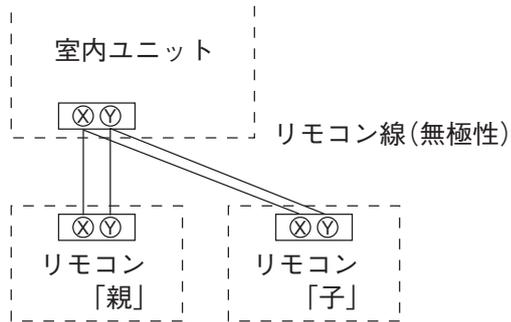


- ④リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で平らな面に固定してください。
- ⑤上面中央の場合はケース背面に配線を通してください。(斜線部分)
- ⑥リモコン上ケース端子ねじを巻く様に配線を固定してください。
- ⑦リモコン配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。



## 5. 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台又は1グループに対して最大2個までのリモコンを接続できます。  
片側が親リモコン、反対側が子リモコンになります。  
リモコンは、親・子で操作できる範囲が異なります。



6項の操作で「親」「子」の設定をしてください。

リモコン機能	親	子
運転/停止 室温 風量 風向 操作	○	○
ハイパワー 省エネ運転 操作	○	○
省エネ運転設定	○	—
リモコンセンサー	○	—
グリル昇降操作	○	○※
試運転メニュー操作	○	—
室温設定範囲の設定	○	—
室内機の設定	○	—
フリーフロー設定	○	—
運転データ表示	○	—
異常履歴の表示	○	○
お掃除パネル操作	○	—

○※ eco タッチリモコン同士で親子となった場合に有効。詳細は、技術資料で確認してください。

### お知らせ パソコン接続について

USB コネクタ (mini-B) を介してパソコンからの設定が可能です。

上ケース下面カバーを外して接続してください。

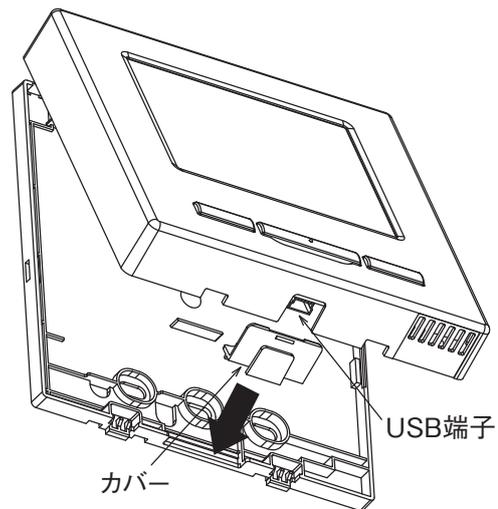
使用後はカバーを元の位置にはめてください。  
ホコリ・虫などが浸入すると、感電・故障の原因になります。



接続には、専用のソフトが必要です。

詳細は、ホームページ・技術資料を参照してください。

専用ソフトを使用しないで、パソコン接続をしないこと。パソコンは、他のUSB機器と同時に接続しないこと。  
リモコン・パソコンの誤作動・故障の原因になります。



### お知らせ パスワード初期化

管理者パスワード (日常使用する項目設定用) とサービスパスワード (据付・試運転・メンテナンス用) があります。

- 管理者パスワード初期値は、0000 です。設定変更ができます (取扱説書参照)。  
管理者パスワードを忘れた場合は、管理者パスワード入力画面で [ハイパワー] [省エネ] ボタンを同時に5秒長押しするとパスワードは初期化されます。
- サービスパスワードは、9999 です。設定変更ができません。  
管理者パスワード入力の時、サービスパスワードでも受付られます。



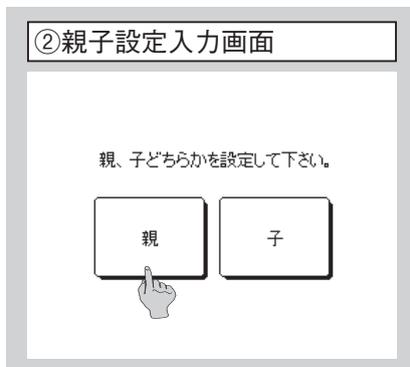
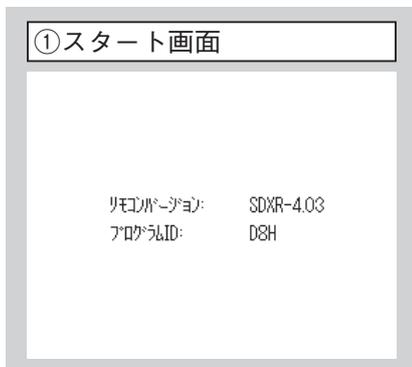
### お知らせ リモコン・室内ユニット との組合せ

- (1) RC-D3・RC-D4 形リモコン・ワイヤレスオプションと親子での使用が可能です。
- (2) 室内ユニット 3形以降のタイプと組合せが可能です。
- (3) 室内ユニット 3D形以前のタイプと組合せの場合、使用できない制御があります。  
操作できない機能を操作・設定しようとする時、「操作無効です」と表示されます。

## 6. 電源投入初期設定

電源投入時の表示に沿って親子リモコン設定を行います。

- (1) 親子が設定されていない場合、①⇒②親子入力画面を表示します。  
枠で囲まれた [親] [子] どちらかをタッチしてください。 初期設定作業を開始します。  
誤ってタッチした場合は、初期設定作業が終了後に設定変更することができます。
- (2) リモコンの親子が設定されている場合、⑥設定継続確認画面を表示します。
- (3) ecoタッチリモコン2個の親子の場合、1個目を [親] で設定開始すると 2個目は自動で [子] になります。

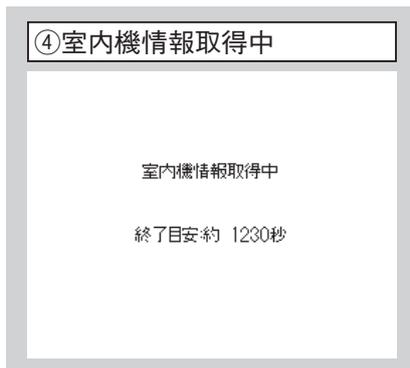


[親] ⇒③⇒④⇒⑤

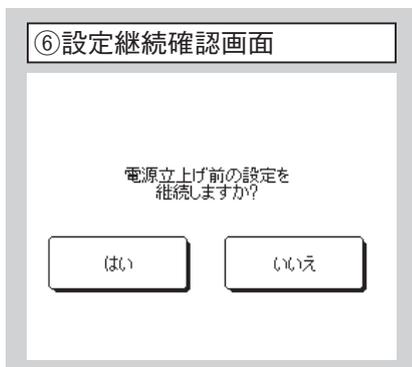
[子] ⇒①⇒⑧⇒⑤

### ご注意

リモコン 1台の場合は、[親] をタッチしてください。  
初期状態では、どちらか選択されるまで、待ち続けます。  
複数リモコンの場合は、片方の設定で、設定作業を開始します。



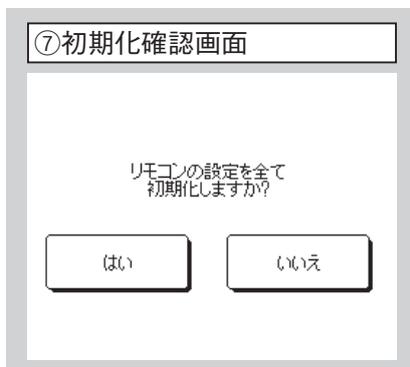
通信が10分間確定しない場合、赤LEDが点滅します。



[はい] 継続 ⇒⑧⇒⑤

[いいえ] 変更 ⇒⑦

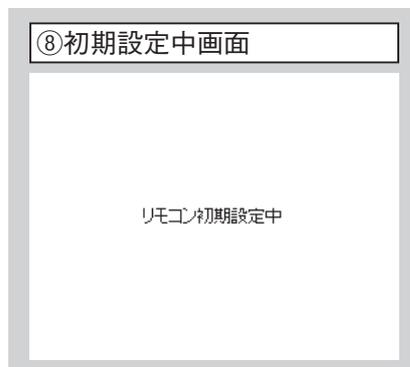
表示15秒間タッチされない場合は「はい」継続を認識して⑤画面に変わります



[はい] ⇒①⇒②

[いいえ] ⇒⑥

初期化すると出荷状態に戻ります。



ラクリーナパネルを採用のお客様へ

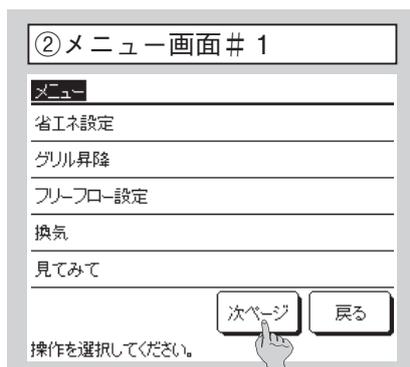
[7. 据付設定 ⑦グリル昇降操作設定] を行ってください。

## 7. 据付設定 試運転

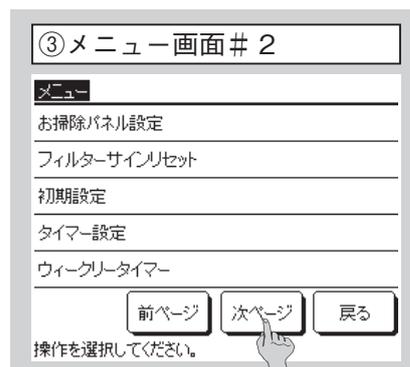
TOP画面 ⇒ メニュー ⇒ 次ページ ⇒ 据付設定



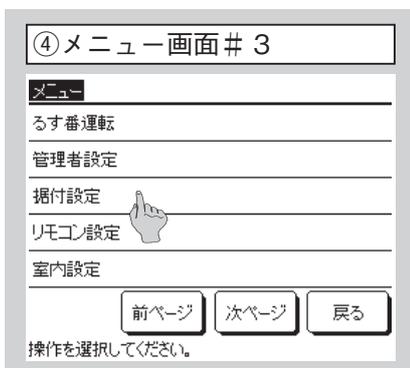
[メニュー] ボタンをタッチしてください。



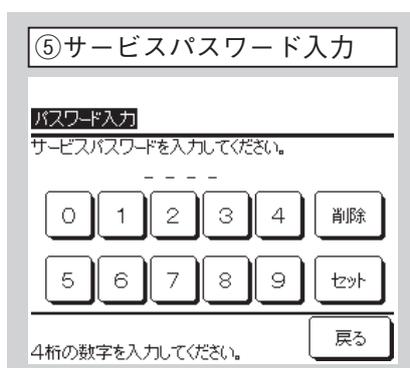
[次ページ] ボタンをタッチしてください。



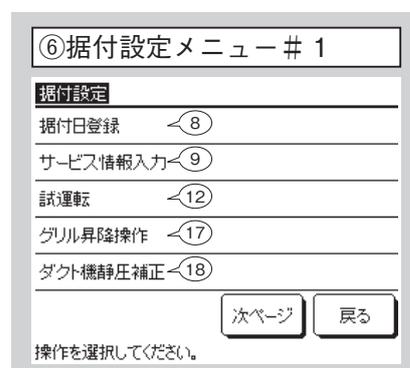
[次ページ] ボタンをタッチしてください。



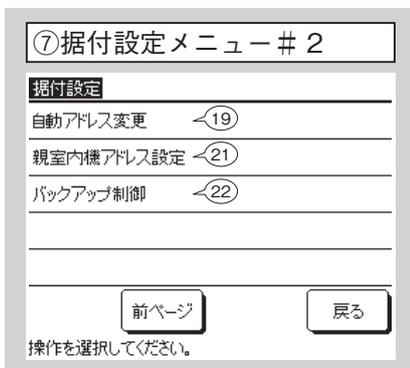
[据付設定] ボタンをタッチしてください。



サービスパスワードは9999です。



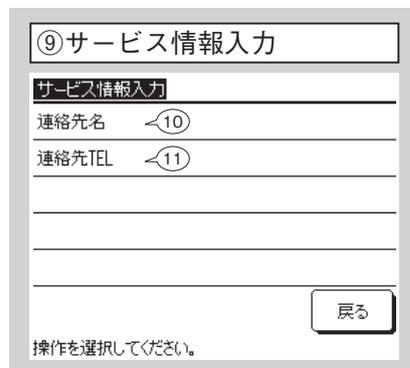
選択した画面に移ります。



選択した画面に移ります。



[▲] [▼] で設定してください。  
[セット] で登録されます。



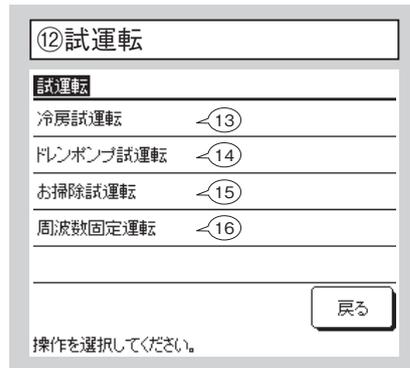
お客様がサービスを依頼される際の連絡先を入力してください。



連絡先名を半角26文字相当以内で入力し、[セット] ボタンをタッチしてください。

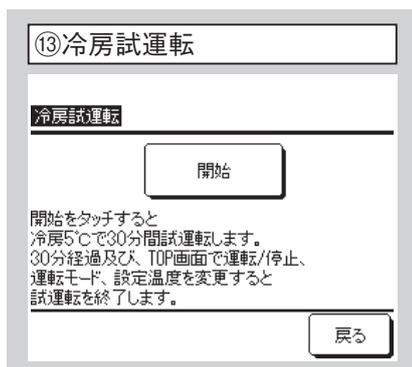


連絡先電話番号を13文字以内で入力し、[セット] ボタンをタッチしてください。

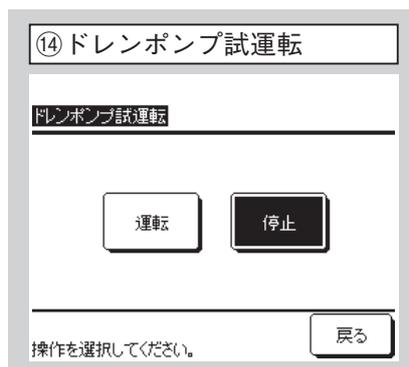


冷暖房運転は、冷房運転中及び停止中に操作可能です。周波数固定運転は、運転中及び停止中に操作可能です。

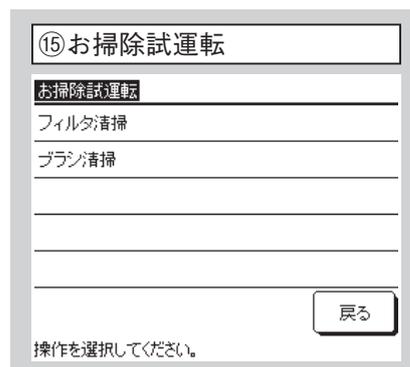
## 7. 据付設定 試運転 (つづき)



室温が低く冷房試運転ができない場合、室温設定を30分間5℃に下げたてて運転します。

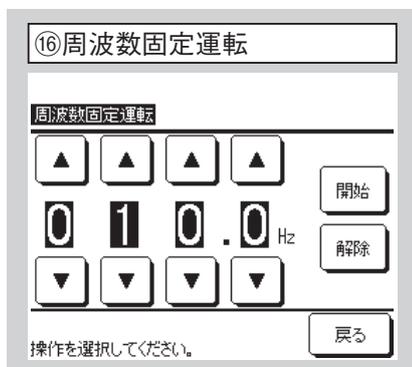


ドレンポンプのみで運転が可能です。

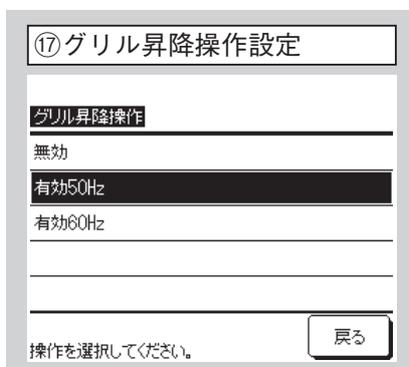


ラクリーナお掃除パネルを組合せの場合に操作できます。  
お掃除パネルの説明書をご覧ください。

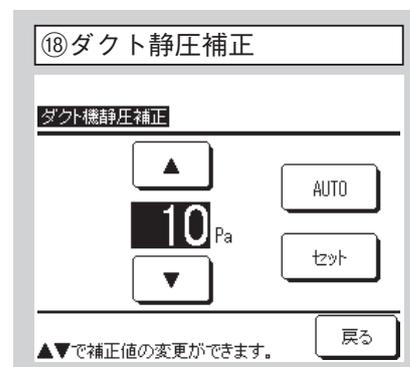
### ラクリーナパネル設定



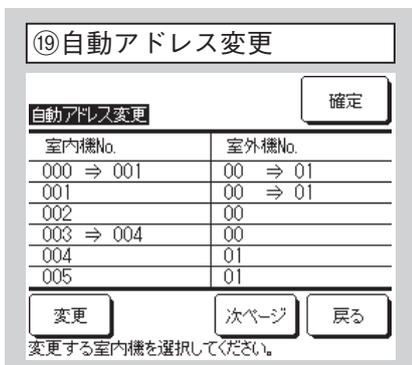
インバータ室外ユニットの運転周波数を固定する事ができます。  
[開始] ボタンより開始します。  
室外ユニットにより有効に制御できない場合があります。



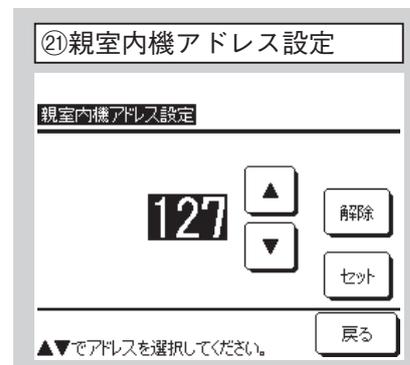
ラクリーナパネルを組合せに関する設定を行ってください。  
組合せの際は、据付場所電源周波数をタッチしてください。



機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニットに組み合わせの場合に操作できます。  
機外静圧を選択し、[セット]をタッチしてください。  
[AUTO] ボタンを選択し、[セット]をタッチすると、室内ユニットが自動で静圧設定を行います。  
※機種により自動静圧設定ができない機種もあります。

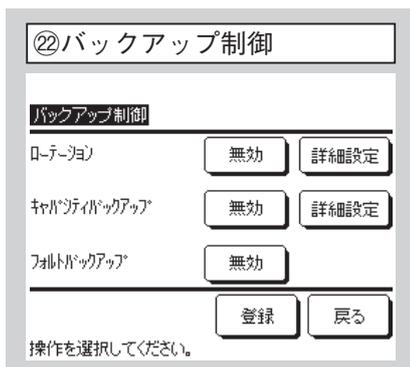


個別発停マルチシリーズで使用の際に自動アドレス設定で登録されている場合に操作できます。  
室内ユニット毎の室内外アドレスを変更するための機能です。室内ユニットを選択して  
[変更] をタッチすると右の新アドレス入力画面に変わります。  
[セット] をタッチすると左画面に戻り新アドレスが表示されます。  
[確定] をタッチすると登録されます。



個別発停マルチシリーズで親室内ユニットのみ、冷房-暖房運転モードの選択を許可します。子とする室内ユニットに対し、親室内機アドレスを設定します。親室内機アドレスが設定された子室内ユニットは、親室内ユニットの設定に追従します。

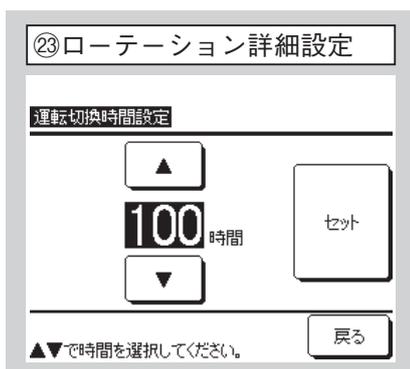
## 7. 据付設定 試運転 (つづき)



1台のリモコンに室内ユニット2台(2グループ)が接続されている時に、以下の制御が可能です。

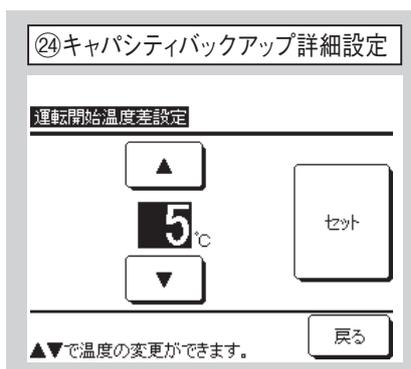
- ①ローテーション：2台の室内ユニットが設定した時間毎に、交互に運転します。
- ②キャパシティバックアップ：設定温度と室温の温度差により、室内ユニットの運転台数を1台⇔2台へ切り換えます。
- ③フォルトバックアップ：室内ユニット2台中1台が運転している場合、運転している室内ユニットが異常停止すると、もう1台の室内ユニットが運転を開始します。

[有効/無効]を選択し([無効]をタッチすると[有効]に変わります。)、[登録]ボタンをタッチすると、設定内容が確定します。



ローテーションの運転を切換える時間を設定します。

10～990時間の間で10時間刻みで設定可能です。設定後バックアップ制御画面に戻って[登録]をタッチしてください。



キャパシティバックアップの1台⇔2台を切換える設定温度と室温の温度差を設定します。

2～5℃の間で1℃刻みで設定可能です。設定後バックアップ制御画面に戻って[登録]をタッチしてください。

### バックアップ制御の制約条件

1. 運転モードが「自動」の場合、バックアップ制御はできません。運転モードが「自動」に設定された空調機にバックアップ制御を設定すると、運転モードは自動的に「冷房」モードに切りかわります。
2. ローテーション制御を設定した場合は、自動的にフォルトバックアップ制御も有効に設定されます。この場合、フォルトバックアップ制御のみを無効にすることはできません。ローテーション運転を無効にした場合は、フォルトバックアップ制御も無効になります。
3. キャパシティバックアップ制御を設定した場合は、自動的にフォルトバックアップ制御も有効に設定されます。この場合、フォルトバックアップ制御のみを無効にすることはできません。キャパシティバックアップ制御を無効にした場合は、フォルトバックアップ制御も無効になります。
4. フォルトバックアップ制御を単独で有効に設定することも可能です。
5. るす番運転、ウォームアップ設定、外部入力設定は、バックアップ制御と同時に設定することはできません。
6. ローテーション運転制御または、フォルトバックアップ制御設定時には、設定対象となっている室内ユニット2台(2グループ)の内、どちらか一方のみが運転します。両方同時に運転することはありません。
7. いずれの制御も、室内アドレスの若い室内ユニットが先に運転開始します。

### お知らせ

日常使用に関する下記設定は、取扱説明書・技術資料を参照してください。

初期設定

時刻設定 時刻表示設定 サマータイム補正 コントラスト バックライト ブザー音

省エネ設定

切忘れタイマー ピークカットタイマー 温度設定自動復帰

フリーフロー設定

タイマー設定

時間入 時間切 時刻入 時刻切 タイマー設定内容の確認 ウィークリータイマー

るす番運転

管理者設定

操作制限設定 室外清音タイマー設定 設定温度の範囲設定 温度設定刻み切換 設定温度表示切換  
リモコン表示設定 管理者パスワード

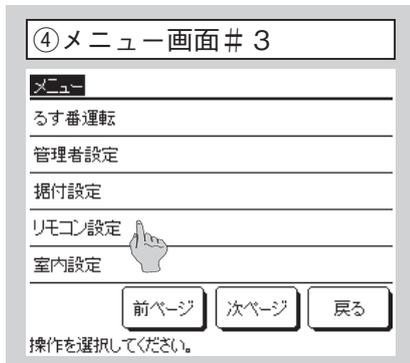
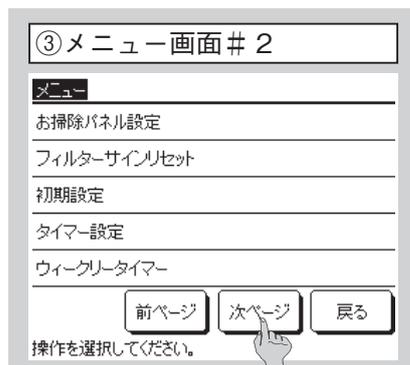
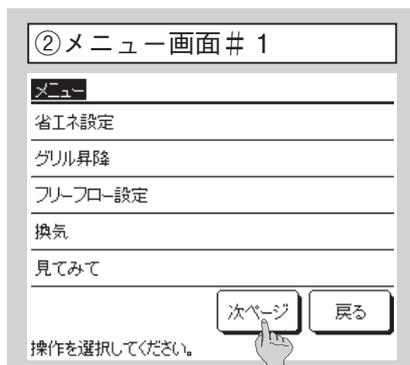
## 8. リモコン機能設定

お知らせ：停止中のみ操作可能

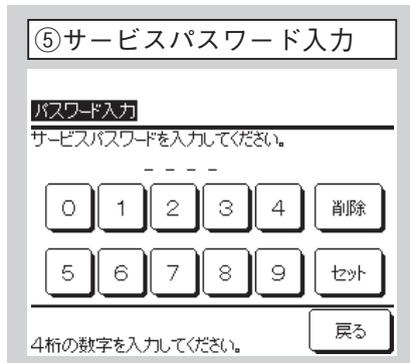
TOP画面 ⇒ メニュー ⇒ 次ページ ⇒ リモコン設定



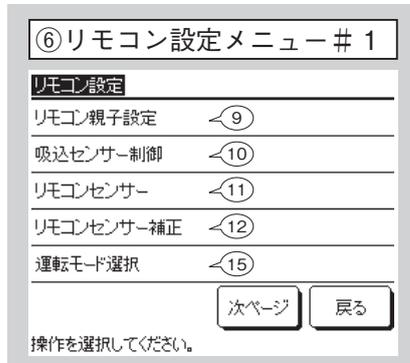
[メニュー] ボタンをタッチしてください。



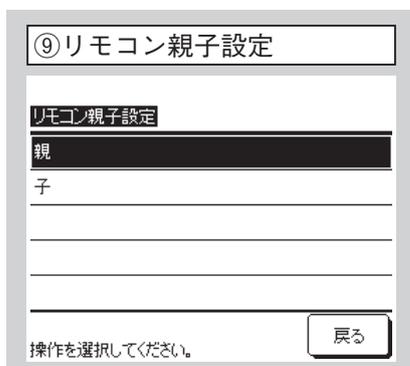
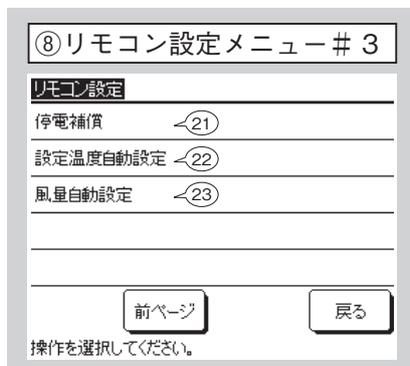
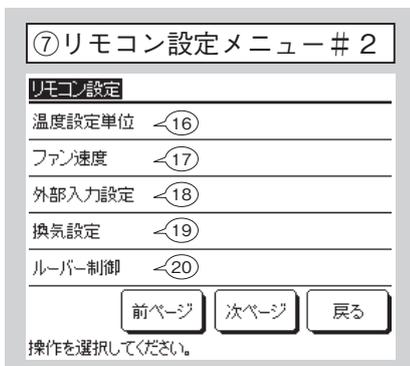
[リモコン設定] ボタンをタッチしてください。



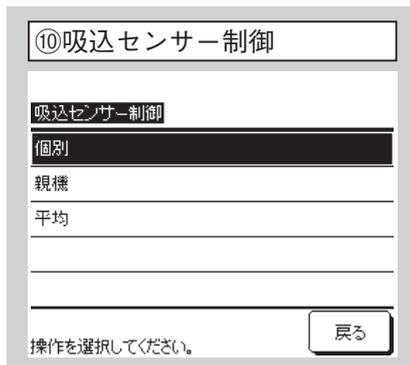
サービスパスワードは9999です。



選択した画面に移ります。



リモコンの親子設定を変更する場合に操作します。



室内ユニットの吸込センサーの検知温度によりサーモ判定を行います。1台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込温度センサーを選択できます。

- ①個別：各々の室内ユニットの吸込温度でサーモ判定します。プルラール接続されている場合はプルラール親機の吸込温度を基準とします。
- ②親機：接続されている室内ユニットの中で、アドレスの若い室内ユニットの吸込温度でサーモ判定します。1台のリモコンに、プルラール接続が複数接続されている場合は、プルラール親機間でアドレスが若い室内ユニットの吸込温度を基準とします。
- ③平均：接続されている室内ユニットの吸込温度を平均し、サーモ判定します。

## 8. リモコン機能設定 (つづき)

⑪ リモコンセンサー

リモコンセンサー

無効

有効

有効(暖房のみ)

有効(冷房のみ)

操作を選択してください。

戻る

### お知らせ

リモコンセンサー有効中  
(1) 室温表示は、リモコンセンサー検知温度になります。

⑫ リモコンセンサー補正

リモコンセンサー補正

冷房時補正 <⑬

暖房時補正 <⑭

操作を選択してください。

戻る

室内ユニット本体吸込センサーをリモコン側に変更できます。

[無効] 本体側センサーになります。

[有効] リモコン側センサーになります。

[有効(暖房のみ)] 暖房中リモコン側、暖房以外で運転中は本体側になります。

[有効(冷房のみ)] 暖房以外で運転中はリモコン側、暖房中本体側になります。

リモコンセンサー検知温度の補正ができます。

[冷房時補正] ⇒ ⑬ 画面へ

[暖房時補正] ⇒ ⑭ 画面へ

⑬ 冷房時補正

冷房時補正

▲▼で補正温度の変更ができます。

+1℃

▲

▼

セット

戻る

冷房運転中のリモコンセンサー検知温度補正ができます。

−3～+3の範囲で設定します。

⑭ 暖房時補正

暖房時補正

▲▼で補正温度の変更ができます。

0℃

▲

▼

セット

戻る

暖房運転中のリモコンセンサー検知温度補正ができます。

−3～+3の範囲で設定します。

⑮ 運転モード

運転モード選択

自動	無効	有効
冷房	無効	有効
暖房	無効	有効
除湿	無効	有効

設定を選択してください。

セット

戻る

各運転モード毎に有効・無効を設定可能です。

冷房又は暖房を無効にした場合、自動も無効になります。

⑯ 温度設定単位

温度設定単位

℃

°F

操作を選択してください。

戻る

設定温度の単位を設定します。

⑰ ファン速度

ファン速度

4速

3速

2速(急-弱)

2速(急-強)

1速

操作を選択してください。

戻る

ファン速度選択の変更が可能です。

室内ユニットにより対応できない場合があります。

⑱ 外部入力方式

外部入力設定

個別

全台

操作を選択してください。

戻る

1つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnTの入力の適用範囲が設定されます。

[個別] CnT入力された室内ユニットのみに適用されます。

[全台] リモコンが接続されている室内ユニット全てに適用されます。

## 8. リモコン機能設定 (つづき)

①9 換気設定

換気設定

無効

連動

単独操作

操作を選択してください。

換気組合せが設定されます。  
[無効] 接続無し  
[連動] エアコン運転／停止に、換気も連動します。  
[単独操作] メニューから換気を選択により換気単独で運転／停止します

②0 ルーバー制御

ルーバー制御

4位置停止

フリー停止

操作を選択してください。

[4位置停止] 吹出ルーバーを4段階で設定可能  
[フリー停止] リモコンSW操作直後の位置に停止します。

②1 停電補償

停電補償

有効

無効

操作を選択してください。

運転中に停電した場合、  
[有効] 停電復旧（電源投入後の制御終了）しだい、停電前の状態に戻ります。  
[無効] 停電復旧後、停止します。

②2 設定温度自動

設定温度自動設定

有効

無効

操作を選択してください。

[有効] 室温設定画面から自動の選択が可能になります。  
[無効] 室温設定の画面上に自動の選択スイッチが表示されません。

②3 風量自動設定

風量自動設定

有効

無効

操作を選択してください。

[有効] 風量設定画面から自動の選択が可能になります。  
[無効] 風量設定の画面上に自動の選択スイッチが表示されません。

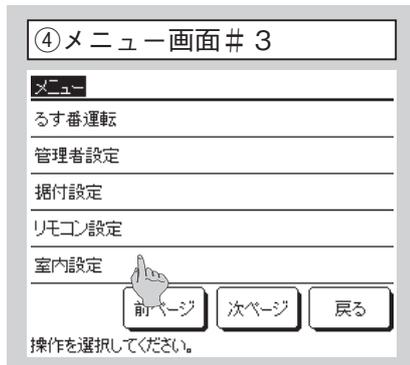
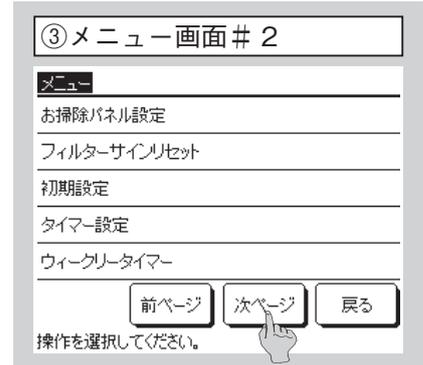
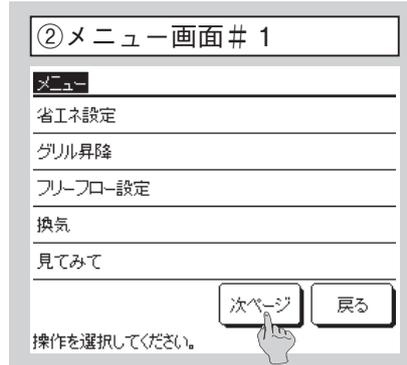
## 9. 室内機能設定

お知らせ：停止中のみ操作可能

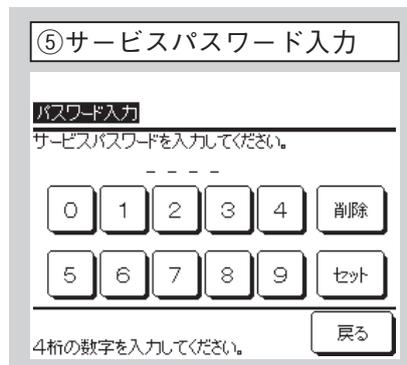
TOP画面 ⇒ メニュー ⇒ 次ページ ⇒ 室内設定



[メニュー] ボタンをタッチしてください。



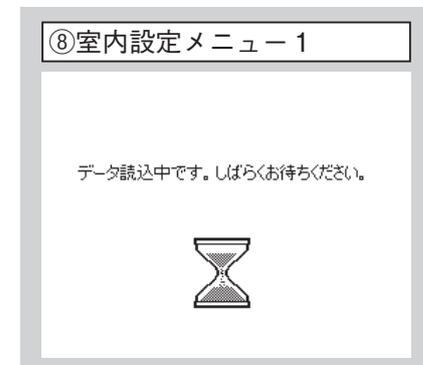
[室内設定] ボタンをタッチしてください。



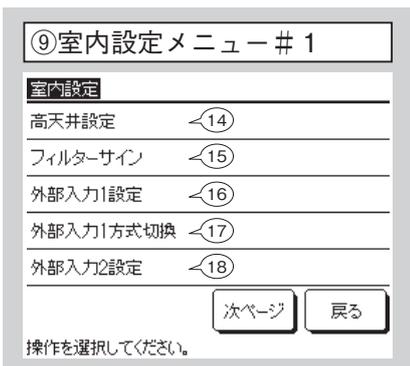
サービスパスワードは9999です。



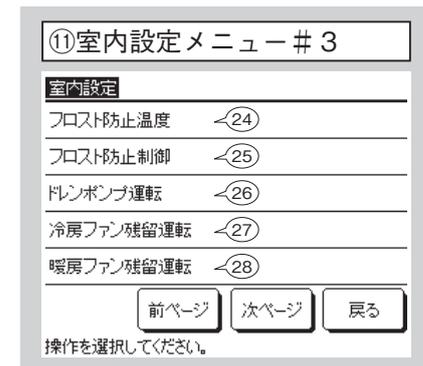
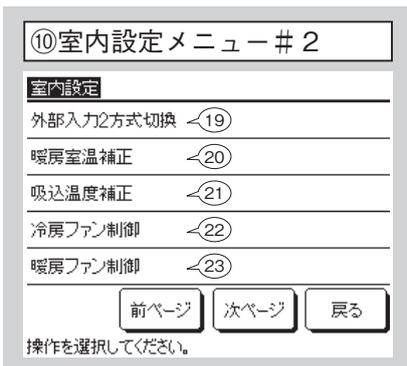
複数室内ユニットを接続の場合、接続された室内ユニットが表示されます。  
[アドレス] 各室内ユニット毎に個別設定されます。  
[全台] 全台同一設定されます。



室内ユニットからデータ受信後⑨へ



選択した画面に移ります。



## 9. 室内機能設定 (つづき)

### ⑫室内設定メニュー# 4

室内設定	
暖房ファン間欠	←29
送風サーモ運転	←30
外調機設定	←31
運転モード自動設定	←32
サーモ判定切換	←37
前ページ 次ページ 戻る	

操作を選択してください。

### ⑬室内設定メニュー# 5

室内設定	
風量自動切換	←39
室内過負荷アラーム	←40
前ページ 戻る	

操作を選択してください。

### ⑭高天井設定

高天井設定	
標準	
高天井1	
高天井2	
戻る	

操作を選択してください。

室内ユニットの風量タップを設定します。組合せ室内ユニットにより対応しない場合があります。

### ⑮フィルターサイン

フィルターサイン	
表示なし	
設定1	
設定2	
設定3	
設定4	
戻る	

操作を選択してください。

	標準	FDTお掃除
表示なし	無し	無し
設定1	180Hr	1,00Hr
設定2	600Hr	2,000Hr
設定3	1,000Hr	2,500Hr
設定4	1,000Hr後 運転停止	2,500Hr後 運転停止

フィルターサイン点灯時間を設定します。

### ⑯外部入力1設定

外部入力1設定	
運転/停止	
許可/禁止	
冷房/暖房	
緊急停止	
戻る	

操作を選択してください。

室内ユニット CnT 入力時の制御を設定します。詳細は、技術資料を参照願います。

### ⑰外部入力1方式

外部入力1方式切換	
レベル入力	
パルス入力	
戻る	

操作を選択してください。

### ⑱外部入力2設定

外部入力2設定	
運転/停止	
許可/禁止	
冷房/暖房	
緊急停止	
戻る	

操作を選択してください。

### ⑲外部入力2方式

外部入力2方式切換	
レベル入力	
パルス入力	
戻る	

操作を選択してください。

室内ユニットCnTへの入力信号方式を設定します。詳細は、技術資料を参照願います。

外部入力2を装備している室内ユニットと組合せた場合に操作できます。詳細は、技術資料を参照願います。

### ⑳暖房室温補正

暖房室温補正	
▲▼で補正温度の変更ができます。	
+2.0℃	▲
	▼
セット	
戻る	

暖房サーモ判定温度を補正します。  
0℃ / +1℃ / +2℃ / +3℃

### ㉑吸込温度補正

吸込温度補正	
▲▼で補正温度の変更ができます。	
+1.5℃	▲
	▼
セット	
戻る	

本体吸込センサー検知温度を補正します。  
-2℃ / -1.5℃ / -1℃ / 0℃ / +1℃ / +1.5℃ / +2℃

### ㉒冷房ファン制御

冷房ファン制御	
弱風	
設定風量	
間欠	
停止	
戻る	

操作を選択してください。

冷房サーモ OFF 中のファン速度設定  
[弱風] 弱風運転  
[設定風量] サーモ ON 中と同風量  
[間欠] 2分 Lo(ULo)運転 / 5分停止  
[停止] 停止

## 9. 室内機能設定 (つづき)

⑳ 暖房ファン制御

暖房ファン制御

弱風

設定風量

間欠

停止

操作を選択してください。 戻る

暖房サーモ OFF 中のファン速度設定  
 [弱風] 弱風運転  
 [設定風量] サーモ ON 中と同風量  
 [間欠] 2分Lo(ULo)運転 / 5分停止  
 [停止] 停止

㉑ フロスト防止温度

フロスト防止温度

温度 低

温度 高

操作を選択してください。 戻る

フロスト防止制御温度の切り換えができます。

㉒ フロスト防止制御

フロスト防止制御

有効

無効

操作を選択してください。 戻る

フロスト防止制御後、ファン速度が  
 [有効] アップします。  
 [無効] 変化しません。

㉓ ドレンポンプ運転

ドレンポンプ運転

通常

暖房時連動運転

暖房/送風時連動運転

送風時連動運転

操作を選択してください。 戻る

[通常] 冷房・除湿時に運転  
 [暖房時連動] 通常+暖房  
 [暖房/送風時連動] 全運転中  
 [送風時連動] 通常+送風

㉔ 冷房ファン残留運転

冷房ファン残留運転

なし

設定1

設定2

設定3

操作を選択してください。 戻る

冷房運転、停止又はサーモOFF後の  
 残留時間を設定します。  
 設定1 : 0.5 時間  
 設定2 : 2 時間  
 設定3 : 6 時間

㉕ 暖房ファン残留運転

暖房ファン残留運転

なし

設定1

設定2

設定3

操作を選択してください。 戻る

暖房運転、停止又はサーモOFF後の  
 残留時間を設定します。  
 [設定1] 0.5 時間  
 [設定2] 2 時間  
 [設定3] 6 時間

※残留時間が異なる場合があります。

㉖ 暖房ファン間欠

暖房ファン間欠

非連動

20分停止5分送風

5分停止5分送風

操作を選択してください。 戻る

暖房運転、停止又はサーモOFF後の  
 ファン制御を設定します。  
 [非連動] 停止  
 [20分停止5分送風] 25分毎に条件  
 チェックして5分送風  
 [5分停止5分送風] 10分毎に条件  
 チェックして5分送風

㉗ 送風サーモ運転

送風サーモ運転

無効

有効

操作を選択してください。 戻る

サーキュレーター運転として使用する場合  
 [無効] 送風時連続運転  
 [有効] 送風時リモコンと本体の温  
 度差を見て送風運転 / 停止します。

㉘ 外調機設定

外調機設定

圧力制御標準

圧力制御切換

操作を選択してください。 戻る

マルチシステムにて、外調機の場合  
 に設定します。  
 [圧力制御標準] 通常  
 [圧力制御切換] 運転中の室内ユ  
 ニットが全て、この設定の場合、  
 圧力制御値が変わります。

## 9. 室内機能設定 (つづき)

③② 運転モード自動設定

運転モード自動設定

自動1・2・3切換 ←33

自動1関連設定 ←34

自動2関連設定 ←35

自動3関連設定 ←36

戻る

操作を選択してください。

③③ 自動1・2・3切換

自動1・2・3切換

自動1

自動2

自動3

戻る

操作を選択してください。

自動運転、冷房／暖房切替方式を3方式から選択できます。  
各方式の条件を設定をします。

③④ 自動1関連設定

自動1関連設定

冷房切替温度 ←37

暖房切替温度 ←38

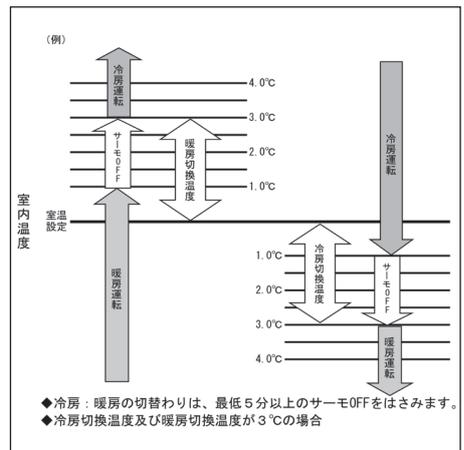
戻る

操作を選択してください。

冷房／暖房の切替温度を設定します。  
切替わり温度は1～4℃の範囲で  
設定できます。

設定温度－冷房切替温度  
＜室内吸込温度の場合  
⇒運転モード：冷房

設定温度＋暖房切替温度  
＞室内吸込温度の場合  
⇒運転モード：暖房



③⑤ 自動2関連設定

自動2関連設定

冷房切替温度 ←37

暖房切替温度 ←38

冷房室外温度 ←39

暖房室外温度 ←40

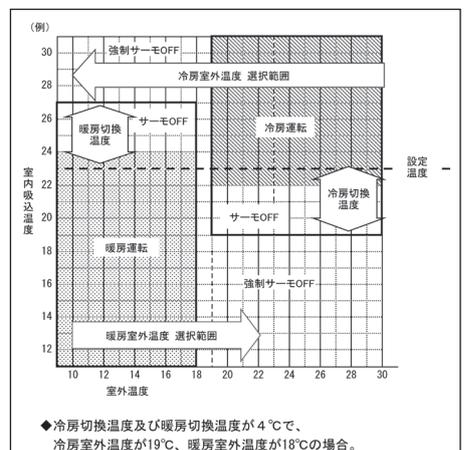
戻る

操作を選択してください。

冷房／暖房の切替温度、冷房／暖房  
室外温度を設定します。

「設定温度－冷房切替温度＜室内  
吸込温度」かつ「設定した冷  
房室外温度＜室外吸込温度」の  
場合  
⇒運転モード：冷房

「設定温度＋暖房切替温度＞室  
内吸込温度」かつ「設定した暖  
房室外温度＞室外吸込温度」の  
場合  
⇒運転モード：暖房



③⑥ 自動3関連設定

自動3関連設定

冷房室外温度 ←39

暖房室外温度 ←40

冷房室内温度 ←41

暖房室内温度 ←42

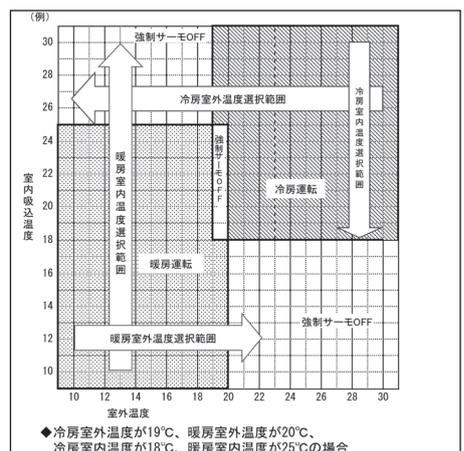
戻る

操作を選択してください。

冷房／暖房室外温度、冷房／暖房  
室内温度を設定します。

「設定した冷房室内温度＜室内  
吸込温度」かつ「設定した冷房  
室外温度＜室外吸込温度」の場  
合  
⇒運転モード：冷房

「設定した暖房室内温度＞室内  
吸込温度」かつ「設定した暖房  
室外温度＞室外吸込温度」の場  
合  
⇒運転モード：暖房



## 9. 室内機能設定 (つづき)

③⑦冷房切換温度

冷房切換温度  
▲▼で補正温度の変更ができます。

3.0℃

▲

▼

セット

戻る

自動1、自動2で冷房切換温度を設定します。

1～4℃の範囲で設定できます。

③⑧暖房切換温度

暖房切換温度  
▲▼で補正温度の変更ができます。

3.0℃

▲

▼

セット

戻る

自動1、自動2で暖房切換温度を設定します。

1～4℃の範囲で設定できます。

③⑨冷房室外温度

冷房室外温度  
▲▼で補正温度の変更ができます。

18℃

▲

▼

セット

戻る

自動2、自動3で冷房室外温度を設定します。

10～30℃の範囲で設定できます。

④⑩暖房室外温度

暖房室外温度  
▲▼で補正温度の変更ができます。

20℃

▲

▼

セット

戻る

自動2、自動3で暖房室外温度を設定します。

10～22℃の範囲で設定できます。

④⑪冷房室内温度

冷房室内温度  
▲▼で補正温度の変更ができます。

22℃

▲

▼

セット

戻る

自動3で冷房室内温度を設定します。

18～30℃の範囲で設定できます。

④⑫暖房室内温度

暖房室内温度  
▲▼で補正温度の変更ができます。

24℃

▲

▼

セット

戻る

自動3で暖房室内温度を設定します。

10～30℃の範囲で設定できます。

④③サーモ判定切換

サーモ判定切換

通常制御/室外温度制御 <44

室外温度\_冷房補正 <45

室外温度\_暖房補正 <46

戻る

操作を選択してください。

④④通常制御/外気温度制御

通常制御/室外温度制御

通常制御

室外温度制御

戻る

操作を選択してください。

室温制御、サーモ ON / OFF 切換方式・条件の設定

[通常制御] 室内温度と設定温度の差でサーモ判定をします。

[外気温度制御] 外気温度±補正值と室内温度でサーモ判定します。室温設定は無効となります。

## 9. 室内機能設定 (つづき)

④5 室外温度\_冷房補正

室外温度\_冷房補正

※室温調整設定を「室外温度により制御」に設定した場合のみ有効です。

2℃

▲

▼

セット

戻る

④6 室外温度\_暖房補正

室外温度\_暖房補正

※室温調整設定を「室外温度により制御」に設定した場合のみ有効です。

3℃

▲

▼

セット

戻る

④7 風量自動切換

風量自動切換

自動1

自動2

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

操作を選択してください。

戻る

室外温度と冷房／暖房補正值によりサーモ判定します。

- (a) 室外温度\_冷房補正：冷房中にサーモ判定します。  
室内温度 > (室外温度 - 冷房補正值) でサーモ ON します。  
冷房補正值は 0 ~ 10℃ で設定できます。
- (b) 室外温度\_暖房補正：暖房中にサーモ判定します。  
室内温度 < (室外温度 + 暖房補正值) でサーモ ON します。  
暖房補正值は 0 ~ 5℃ で設定できます。

風量自動の切換範囲を設定

- [自動 1] 急 ⇄ 強 ⇄ 弱
- [自動 2] P 急 ⇄ 急 ⇄ 強 ⇄ 弱

④8 室内過負荷アラーム設定

室内過負荷アラーム

キャンセル

▲

▼

7℃

セット

▲▼で温度の変更ができます。

戻る

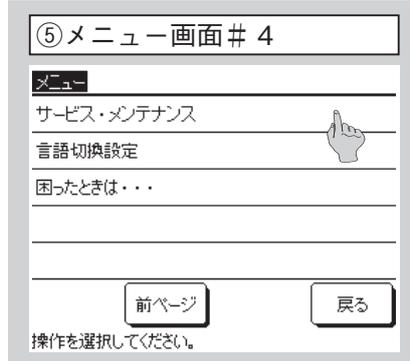
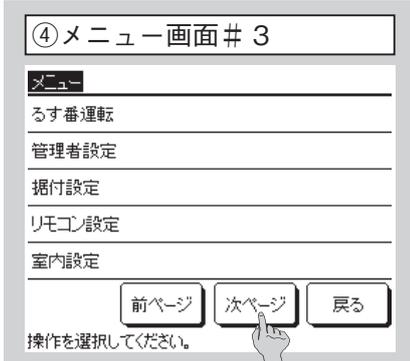
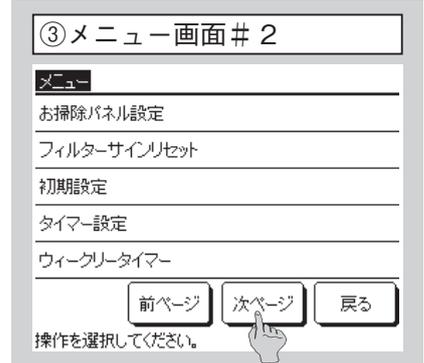
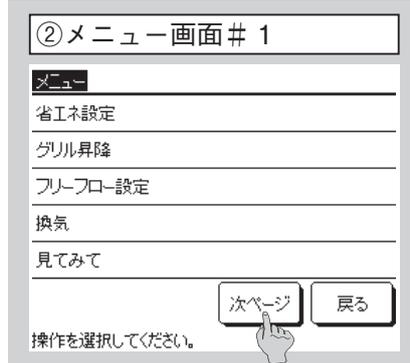
運転開始 30 分後、設定温度と吸込温度差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力 (CnT-5) から過負荷アラーム信号を送信します。

# 10. サービス・メンテ方法

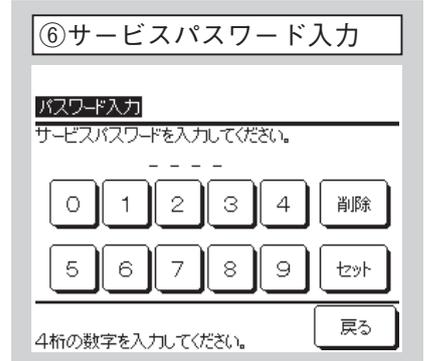
TOP画面 ⇒ メニュー ⇒ 次ページ ⇒ サービス・メンテナンス



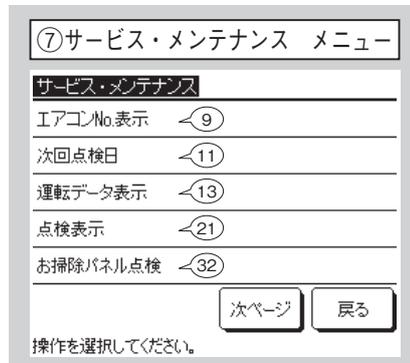
[メニュー] ボタンをタッチしてください。



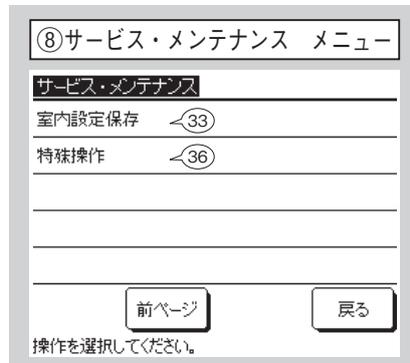
[サービス・メンテナンス] ボタンをタッチしてください。



サービスパスワードは9999です。



選択した画面に移ります。



選択した画面に移ります。



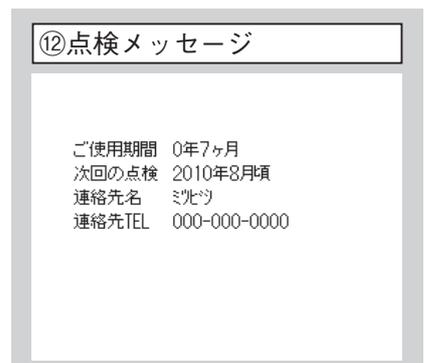
8台以上接続の場合は、次ページ以降に表示が出来ます。室内ユニット選択後[個別送風]ボタンをタッチすると、選択した室内ユニットが送風運転します。



[運転] をタッチすると、送風運転開始。  
[停止] をタッチすると、送風運転停止。



次回点検日を入力すると、点検月の運転開始/停止時メッセージが表示されます。表示は、次回点検日を更新するとリセットされます。  
[設定なし] をタッチするとメッセージは表示されません。



# 10. サービス・メンテ方法 (つづき)

⑬ 運転データ画面 1

運転データ				全更新
室内機	000	室外機		
項目	データ	表示		
01 運転モード	冷房	✓		
02 設定温度	28°C	✓		
03 吸込温度	28°C	✓		
04 リモコン温度	29°C			
05 室内熱交温度1	10°C			

選択表示 次ページ 戻る

表示項目を6つ選択してください。

⑭ 運転データ画面 2

運転データ				全更新
室内機	000	室外機		
項目	データ	表示		
06 室内熱交温度2	10°C			
07 室内熱交温度3	10°C			
08 室内ファン速度	5速			
09 要求周波数	51.2Hz			
10 アガ-周波数	32Hz			

選択表示 前ページ 次ページ 戻る

表示項目を6つ選択してください。

⑮ 運転データ画面 3

運転データ				全更新
室内機	000	室外機		
項目	データ	表示		
11 室内EEV開度	256P			
12 室内運転時間	100H			
13 吹出	21°C			
21 外気温度	22°C			
22 室外熱交温度1	29°C			

選択表示 前ページ 次ページ 戻る

表示項目を6つ選択してください。

運転データが表示されます。[全更新] タッチで全データが更新されます。データを自動更新させて表示したい場合、6項目まで選択できます。6項目選択後、[選択表示] ボタンをタッチすると⑳の画面に変わります。

⑯ 運転データ画面 4

運転データ				全更新
室内機	000	室外機		
項目	データ	表示		
23 室外熱交温度2	29°C			
24 コマ回轉数	51.2Hz			
25 高圧圧力	1.2MPa			
26 低圧圧力	0.2MPa			
27 吐出管温度	78°C			

選択表示 前ページ 次ページ 戻る

表示項目を6つ選択してください。

⑰ 運転データ画面 5

運転データ				全更新
室内機	000	室外機		
項目	データ	表示		
28 ド-ム下温度	27°C			
29 電流	8A			
30 SH制御	48°C			
31 SH	48°C			
32 TDSH	48°C			

選択表示 前ページ 次ページ 戻る

表示項目を6つ選択してください。

⑱ 運転データ画面 6

運転データ				全更新
室内機	000	室外機		
項目	データ	表示		
33 保護制御	No.1			
34 室外ファン速度	5速			
35 63H1	ON			
36 FFD1	ON			
37 コマ運転時間	100H			

選択表示 前ページ 次ページ 戻る

表示項目を6つ選択してください。

⑲ 運転データ画面 7

運転データ				全更新
室内機	000	室外機		
項目	データ	表示		
38 室外EEV1開度	512P			
39 室外EEV2開度	512P			

選択表示 前ページ 戻る

表示項目を6つ選択してください。

⑳ 運転データ個別表示画面

運転データ	
運転モード	冷房
設定温度	28°C
吸込温度	29°C
リモコン温度	28°C
室内熱交温度1	10°C
室内熱交温度2	15°C

戻る

㉑ 点検表示メニュー

点検表示	
異常履歴表示	←(22)
異常時運転データ表示	←(23)
異常時運転データ消去	←(30)
定期点検リセット	←(31)

戻る

操作を選択してください。

選択した画面に移ります。

㉒ 異常履歴表示 (例)

異常履歴表示			消去
時刻	室内機	異常コード	
2011/01/19 PM 6:57	014	E16	
2011/01/19 PM 6:57	015	E15	
2011/01/19 PM 6:57	012	E14	

戻る

㉓ 異常時運転データ表示 1

異常時運転データ表示				
室内機	000	異常コード	E09	室外機
項目	データ			
01 運転モード	冷房			
02 設定温度	28°C			
03 吸込温度	26°C			
05 室内熱交温度1	10°C			
06 室内熱交温度2	10°C			

次ページ 戻る

㉔ 異常時運転データ表示 2

異常時運転データ表示				
室内機	000	異常コード	E09	室外機
項目	データ			
07 室内熱交温度3	10°C			
08 室内ファン速度	5速			
09 要求周波数	51.2Hz			
10 アガ-周波数	32Hz			
11 室内EEV開度	256P			

前ページ 次ページ 戻る

異常発生日時・室内アドレス・異常コードを表示します。  
[消去] ボタンをタッチすると、異常履歴を消去します。

異常発生直前の運転データが表示されます。

## 10. サービス・メンテ方法 (つづき)

### ⑳異常時運転データ表示 3

異常時運転データ表示			
室内機	000	異常コード E09	室外機
項目	データ		
12	室内運転時間		100H
13	吹出		21°C
21	外気温度		22°C
22	室外熱交換温度1		29°C
23	室外熱交換温度2		29°C

前ページ 次ページ 戻る

### ㉑異常時運転データ表示 4

異常時運転データ表示			
室内機	000	異常コード E09	室外機
項目	データ		
24	コファ回転数		512Hz
25	高圧圧力		1.2MPa
26	低圧圧力		0.20MPa
27	吐出管温度		76°C
28	ドム下温度		27°C

前ページ 次ページ 戻る

### ㉒異常時運転データ表示 5

異常時運転データ表示			
室内機	000	異常コード E09	室外機
項目	データ		
29	電流		8A
30	SH制御		48°C
31	SH		3°C
32	TDSH		48°C
33	保護制御		No.1

前ページ 次ページ 戻る

異常発生直前の運転データが表示されます。

### ㉓異常時運転データ表示 6

異常時運転データ表示			
室内機	000	異常コード E09	室外機
項目	データ		
34	室外ファン速度		5速
35	⑧SH1		ON
36	チカスト		ON
37	コファ回転時間		100H
38	室外EEV1開度		512P

前ページ 次ページ 戻る

### ㉔異常時運転データ表示 7

異常時運転データ表示			
室内機	000	異常コード E09	室外機
項目	データ		
39	室外EEV2開度		512P

前ページ 戻る

### ㉕異常時運転データ消去

異常時運転データ消去		
はい		
操作を選択してください。		戻る

異常時運転データが消去されます。

### ㉖定期点検リセット

定期点検リセット	
定期点検をリセットしますか?	
はい	
設定を選択してください。	戻る

定期点検リセット操作により、時間カウントがリセットされます。

### ㉗お掃除パネル点検

お掃除パネル点検	
駆動部個別点検	
位置認識指令	
位置合わせ制御	
点検お掃除運転	
戻る	
操作を選択してください。	

ラクリーナパネル組込みの場合、お掃除パネル説明書を参照ください。

### ㉘室内設定保存

室内設定保存	
室内設定を保存	
室内設定自動保存	←34
保存データの転送	←35
戻る	
操作を選択してください。	

[室内設定を保存] リモコンに接続されている室内ユニットすべての設定をリモコンに保存します。  
 [室内設定自動保存] 毎日の自動保存時刻を設定します。  
 [保存データの転送] リモコンに保存した室内設定データを室内ユニットに転送します。

### ㉙室内設定自動保存

室内設定自動保存	
設定時刻に室内設定を自動保存します。	
▲ AM	▲
▼	0:00
▼	▼
設定なし	戻る
▲▼で時間を選択し、セットを押してください。	

毎日の自動保存時刻を設定します。  
 [設定なし]を選択すると、自動保存は行いません。

### ㉚保存データの転送

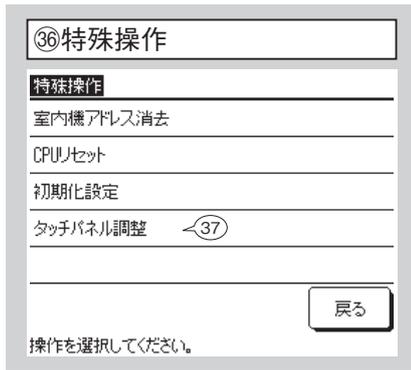
室内機選択			
000	001	002	003
004	005	006	007
次ページ		戻る	
室内機No.を選択してください。			

転送する室内ユニットを選択すると、確認画面が表示されますので、データ転送を行ってください。

### お知らせ

室内ユニット基板を交換したが、設定内容が判らなくなったことはありませんか?  
 リモコンに室内ユニットの設定を保存しておく、[保存データの転送]により、保存されたデータが室内ユニットに書込まれます。

## 10. サービス・メンテ方法 (つづき)



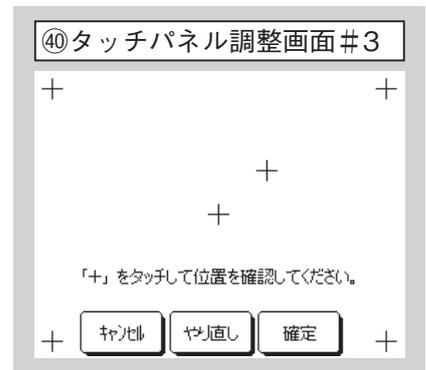
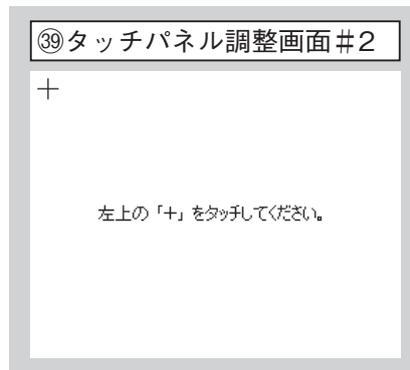
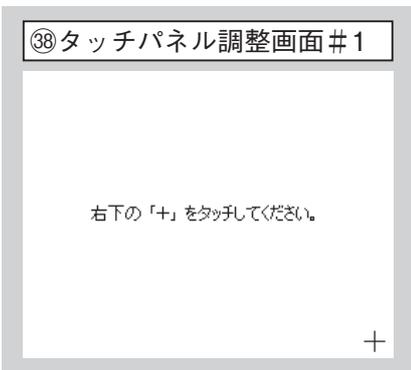
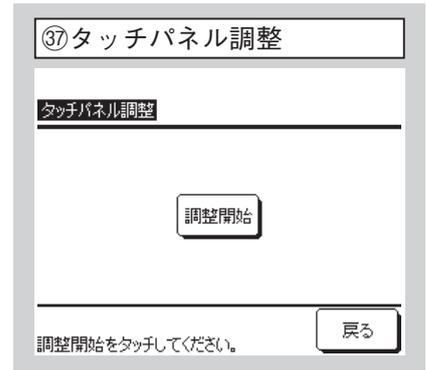
選択した画面に移ります。

[室内機アドレス消去] マルチ室内ユニットの記憶が消去されます。

[CPUリセット] 接続されている、室内ユニット・室外ユニットのマイコンがリセット（停電復帰状態）されます。

[初期化] 接続されている、リモコン・室内ユニットの設定が初期値（出荷状態）になります。

[タッチパネル調整] 表示とタッチ位置が一致しない場合に調整します。



表示とタッチ位置が一致しない場合に調整します。

画面の指示にそって、[+] マーク中心をタッチしてください。

[確定] で終了します。

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

### ⚠警告

- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事をする。  
感電、故障や動作不良の原因になります。

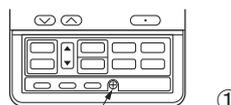
### ⚠注意

- リモコンを下記場所に設置しない。  
リモコンの故障や変形の原因になります。  
 (1)直射日光の当たる場所 (4)取付面が発熱・結露する場所  
 (2)発熱器具の近く (5)油の飛沫や蒸気が直接触れる場所  
 (3)湿気の多い所・水の掛る所 (6)取付面に凹凸がある所
- リモコンの上ケースを取外したまま放置しない。  
上ケースを取外した場合は、内蔵の基板にゴミや水分等が付着しないように、梱装箱或いは梱包袋に入れて保護してください。

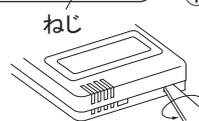
付属品	リモコン本体、 木ねじ (φ3.5×16) 2本
客先手配品	リモコンコード (2心) [埋込取付の場合] JIS ボックス、M4 ねじ (2本) [露出取付の場合] コードクランプ (適時)

### 取付要領

- ① リモコンの蓋を開け、スイッチ下部のねじを必ず外してください。



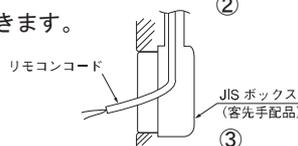
- ② リモコンの上ケースを外してください。  
リモコン上部の凹部にマイナスドライバー等を差し込んで軽くねじると、容易にはずれます。



#### [埋込取付の場合]

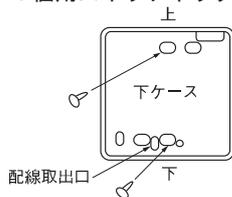
- ③ JIS ボックスとリモコンコードをあらかじめ埋め込んでおきます。

[使用可能な JIS ボックス]  
JIS C 8340 1 個用スイッチボックス  
2 個用スイッチボックス

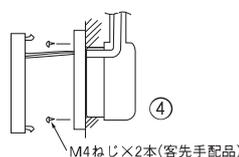


- ④ M4 ねじ 2 本 (推奨長さ 12~16mm) を用意して、下ケースを JIS ボックスに取付けてください。

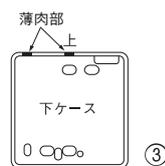
1 個用スイッチボックスの場合      2 個用スイッチボックスの場合



- ⑤ リモコンコードを端子台に接続してください。  
リモコンの端子 (X, Y) と室内ユニットの端子 (X, Y) とを接続してください。(X, Y の極性はありません。)

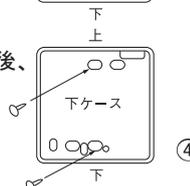


- ⑥ リモコンコードが噛みこまないように、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。



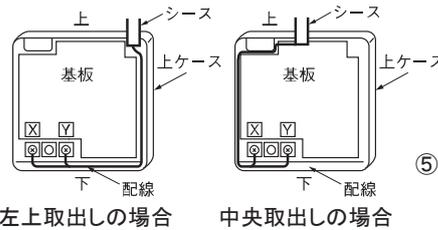
#### [露出取付の場合]

- ③ リモコンコードの取出し方向は、上部左上又は、中央から可能です。  
リモコン下ケースの上方の薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。



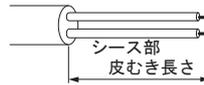
- ④ リモコンの下ケースを付属の木ねじ 2 本 (付属) で平らな壁に取付けます。

- ⑤ リモコンコードを端子台に接続してください。  
 リモコンの端子 (X, Y) と室内ユニットの端子 (X, Y) とを接続してください。  
 (X, Y の極性はありません。)  
 取出し方向によって、配線経路は右図の通りとなります。



リモコン内部のリモコンコードは、0.3mm<sup>2</sup> (推奨) ~最大 0.5mm<sup>2</sup> 以下としてください。また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。各配線の皮むき長さは、下記の通りです。

左上取出しの場合	中央取出しの場合
X 配線 : 215mm	X 配線 : 170mm
Y 配線 : 195mm	Y 配線 : 190mm



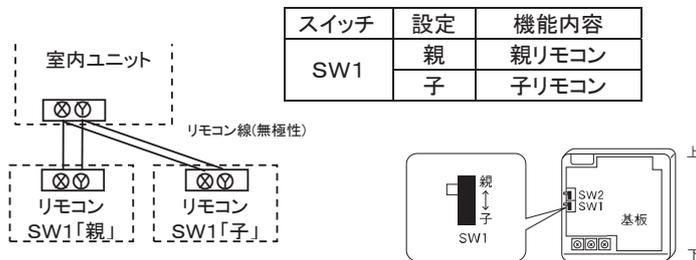
- ⑥ リモコンコードが噛みこまないように、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。  
 ⑦ 露出取付けの場合は、リモコンコードがたるまないようにコードクランプ等で壁面に固定します。

#### リモコンコードを延長する場合の注意 最大総延長600m

- リモコンコードは 0.3mm<sup>2</sup> × 2 心です。  
 延長距離が 100m を超える場合は、下記サイズに変更してください。  
 但し、リモコンケース内を通る配線は最大 0.5mm<sup>2</sup> 以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。配線接続する際は、水分等が浸入しない様な処置を行ってください。また、配線の接続は、接触不良のない様確実に行ってください。
- 100~200m 以内.....0.5mm<sup>2</sup> × 2 心  
 300m 以内.....0.75mm<sup>2</sup> × 2 心  
 400m 以内.....1.25mm<sup>2</sup> × 2 心  
 600m 以内.....2.0mm<sup>2</sup> × 2 心

#### 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して最大2個までのリモコンを接続できます。



子リモコンの切換スイッチ SW1を「子」に設定してください。工場出荷時は「親」設定です。

(注) リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。

親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

リモコンの親子設定をした場合、後操作優先で運転されます。

#### 電源投入時の表示

電源投入時、リモコンとエアコンの通信が確定する間、リモコンには、下記表示がでます。

親リモコンの場合: 「内機確認中 親」

子リモコンの場合: 「内機確認中 子」

室内ユニット1台(又は1グループ)に、1個のリモコンを接続する場合は、必ず親リモコン(出荷時設定)としてください。子リモコンにすると、通信ができません。

上記表示と同時に、最初の2秒間、記号又は数字が点灯いたします。

これらはリモコンのソフトウェアの管理番号を表示させているものであり、異常コードの表示ではありません。



※左記記号は一例です。  
別の記号が出る場合もあります。

リモコンと室内ユニットの通信ができない状態が30分程度続くと、下記表示がでます。室内ユニット及び室外ユニットの配線及び、リモコンの親子設定等をご確認願います。



## 温度範囲設定

工場出荷時、設定温度範囲は、運転モードによって異なり、下記の様になっています。

暖房時：18～28℃(中温パッケージエアコンの場合10～30℃)

暖房以外(冷房、送風、除湿、自動)：20～30℃(中温パッケージエアコンの場合10～30℃)

●リモコンから、設定温度の上限及び下限を設定することができます。

上限値設定…暖房運転時に有効。20～30℃の範囲で設定可能です。

下限値設定…暖房以外(自動、冷房、送風、除湿)時に有効。18～26℃(中温パッケージエアコンの場合10～18℃)の範囲で設定可能です。

本機能により、上限及び下限を設定した場合、下記制御となります。

1. 機能設定モードのリモコン機能の⑫温度範囲設定が「表示変更有り」の時(出荷時設定)、

【上限値を設定すると】

- ① 暖房時、リモコンから上限値より高い温度が設定された場合：  
30分間設定温度で運転し、その後自動的に上限値温度を送信します。  
リモコン表示もそれに付随します。
- ② 暖房時、上限値以下の温度が設定された場合：  
設定温度を送信します。

【下限値を設定すると】

- ① 暖房以外の運転モードの時、リモコンから下限値より低い温度が設定された場合：  
30分間設定温度で運転し、その後自動的に下限値温度を送信します。  
リモコン表示もそれに付随します。
- ② 暖房以外の運転モードの時、下限値以上の温度が設定された場合：  
設定温度を送信します。

2. 機能設定モードの「リモコン機能」⑫温度範囲設定が「表示変更無し」の時

【上限値を設定すると】

- ① 暖房時、リモコンから上限値より高い温度が設定された場合：  
上限値を送信します。但し、リモコン表示はそれに付随せず、設定した温度のままです。
- ② 暖房時、上限値以下の温度が設定された場合：  
設定温度を送信します。

【下限値を設定すると】

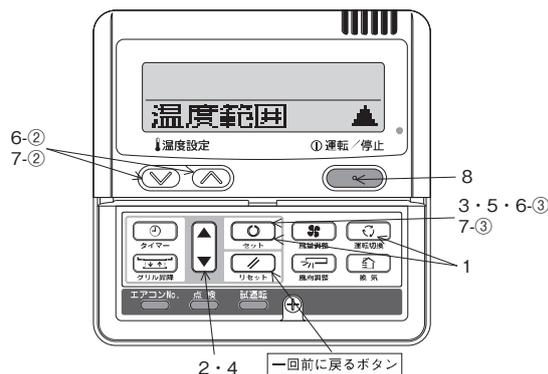
- ① 暖房以外の運転モードの時、リモコンから下限値より低い温度が設定された場合：  
下限値を送信します。但し、リモコン表示はそれに付随せず、設定した温度のままです。
- ② 暖房以外の運転モードの時、下限値以上の温度が設定された場合：  
設定温度を送信します。

●上限値、下限値の設定方法

1. エアコンを停止させて、**セット**と**運転切換**ボタンを同時に3秒以上押します。  
表示が「機能設定▼」となります。
2. **▼**ボタンを一度押し、「温度範囲▲」表示に切換えます。
3. **セット**ボタンを押して、温度範囲設定モードに入ります。
4. **▲**/**▼**ボタンにより、「上限設定▼」又は「下限設定▲」を選びます。
5. **セット**ボタンを押して確定します。
6. 「上限設定▼」を選んだ場合(暖房時に有効となります。)  
①表示:「VΛで設定」→「上限 28℃VΛ」  
②温度設定**V**/**Λ**ボタンにより、上限値を選びます。表示例:「上限 26℃VΛ」(点滅)  
③**セット**ボタンを押して確定します。表示例:「上限 26℃」(2秒間点灯)  
確定した上限値を2秒間点灯後、表示は「上限設定▼」に戻ります。
7. 「下限設定▲」を選んだ場合(冷房、除湿、送風時に有効となります。)  
①表示:「VΛで設定」→「下限 20℃VΛ」  
②温度設定**V**/**Λ**ボタンにより、下限値を選びます。表示例:「下限 24℃VΛ」(点滅)  
③**セット**ボタンを押して確定します。表示例:「下限 24℃」(2秒間点灯)  
確定した下限値を2秒間点灯後、表示は「下限設定▼」に戻ります。
8. **運転/停止**ボタンを押して、終了します。

・設定の途中で、**運転/停止**ボタンを押しても終了します。但し、設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。

・設定の途中で、**リセット**ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。



## 機能設定

- リモコンと室内ユニットの各機能は、リモコンと室内ユニットを接続した際に、標準的な使い方である初期設定に自動的に設定されます。標準的な使い方をする場合は、設定の変更はいりません。但し、グリル昇降設定や、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定を変更してください。

### ラグリーナパネル使用時のご注意

初期設定では、リモコンはグリル昇降無効の設定となっております。ラグリーナパネルをご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定をしてください。  
据付地域の電源周波数に合わせて、50Hz 地区または 60Hz 地区のどちらかを選んで設定してください。

#### 【グリル昇降有効設定のしかた(簡易設定)】

1. エアコン停止状態で、「**セツト**」ボタンと「**グリル昇降**」ボタンを同時に長押ししてください。  
表示が「昇降無効」となります。  
表示「昇降無効」は「有効50Hz」⇔「有効60Hz」
2. 「**▲**」または「**▼**」ボタンにより設定を選択してください。  
表示「昇降無効」⇔「有効50Hz」⇔「有効60Hz」
3. 「**セツト**」ボタンを押す  
表示が「設定完了」となります。その後リモコンは停止状態に戻ります。

### 【機能設定のながれ】

開始: エアコン停止状態で「**セツト**」+「**運転切戻**」ボタン同時3秒押し

確定: 「**セツト**」ボタンを押す

戻る: 「**セツト**」ボタンを押す

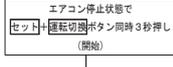
選択: 「**▲**」/「**▼**」ボタンを押す

終了: 「**運転**」/「**停止**」ボタンを押す

(設定の途中でも終了しますが、設定が完了していないものは無効になります。)

「○」: 初期設定

「※」: 自動判別



設定内容を記録して保管してください。

各制御の詳細は、技術資料等でご確認ください。

リモコン機能	機能	設定	初期設定	注
01	グリル昇降設定	昇降無効 有効50Hz 有効60Hz	○	50Hz地区で使用の場合 60Hz地区で使用の場合
02	自動運転設定	自動運転有効 自動運転無効	※	自動運転不可
03	温度設定	温度設定有効 温度設定禁止	○	温度設定ボタンの操作禁止
04	運転切戻	運転切戻有効 運転切戻禁止	○	運転切戻ボタンの操作禁止
05	運転/停止	運転/停止有効 運転/停止禁止	○	運転/停止ボタンの操作禁止
06	風量切戻	風量切戻有効 風量切戻禁止	※	風量調整ボタンの操作禁止
07	風向切戻	風向切戻有効 風向切戻禁止	※	風向調整ボタンの操作禁止
08	タイマー	タイマー有効 タイマー禁止	○	タイマーボタンの操作禁止
09	リモコンセンサ設定	リモコンセンサ無効 リモコンセンサ有効 リモコンセンサ+3.0℃ リモコンセンサ+2.0℃ リモコンセンサ+1.0℃ リモコンセンサ-1.0℃ リモコンセンサ-2.0℃ リモコンセンサ-3.0℃	○	リモコンセンサ有効、且つ+3.0℃温度補正する。 リモコンセンサ有効、且つ+2.0℃温度補正する。 リモコンセンサ有効、且つ+1.0℃温度補正する。 リモコンセンサ有効、且つ-1.0℃温度補正する。 リモコンセンサ有効、且つ-2.0℃温度補正する。 リモコンセンサ有効、且つ-3.0℃温度補正する。
10	停電復帰設定	停電復帰無効 停電復帰有効	○	
11	換気設定	換気なし 換気連動 換気連動なし	○	シングル機は室内基板CnT、マルチ機は室内基板CNDに換気機器を接続すると、室内ユニットの運転に連動し、換気機器の運転/停止を行います。 シングル機は室内基板CnT、マルチ機は室内基板CNDに換気機器を接続すると、換気ボタンの操作により、換気機器が単独で運転/停止を行います。
12	温度範囲設定	表示変更有り 表示変更無し	○	温度設定範囲を変更した場合、設定温度表示は、制御に追従し変化します。 温度設定範囲を変更した場合、設定温度表示は、制御に追従せず、設定した温度のままとなります。
13	室内ファン	3速HI-ME-LO 2速HI-LO 2速HI-ME 1速	※	ファン風量が、急-強-弱の3速又はP急-急-強-弱の4速となります。 ファン風量が、急-弱の2速となります。 ファン風量が、急-強の2速となります。 ファン風量が1速のみで固定されます。
14	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止 ルーバフリー停止	※	リモコン機能「14ルーバ制御設定」を変更する場合は、室内機能「04ルーバ制御設定」も合わせて変更してください。 ルーバの停止位置は、4位置より選択します。 ルーバの停止位置は、任意の位置に停止します。
15	冷専/ヒーボン	ヒーボン 冷専	※	
16	外部入力設定	一台運転 全台同一運転	○	室内基板のCnTIに外部入力すると、その室内ユニットが単独で外部入力に従って運転します。 室内基板のCnTIに外部入力すると、同一リモコンネットワークの全台が外部入力に従って運転します。
17	室温表示設定	室温表示無し 室温表示有り	○	通常の運転表示において、風量表示の代わりに室温を表示します。(親リモコンのみ切戻可能)
18	暖房準備表示	表示有り 表示無し	○	暖房準備表示を出さない様にします。

運転/停止ボタン (終了)

注1: 「※」印の初期設定は、接続される室内ユニット及び室外ユニットにより異なり、下記の通り自動判別されます。

機能番号	項目	初期設定	機種
リモコン機能02	自動運転設定	自動運転有効	「自動」モード選択可能な機種
		自動運転無効	「自動」モードの無い機種
リモコン機能06	風量切戻	風量切戻有効	室内ファン風量切戻が2速又は3速の機種
		風量切戻無効	室内ファン風量切戻が1速のみの機種
リモコン機能07	風向切戻	風向切戻有効	オートスイングルーバ搭載機種
		風向切戻無効	その他
リモコン機能13	室内ファン	3速HI-ME-LO 2速HI-LO 2速HI-ME	室内機ファン風量3速の機種 室内機ファン風量2速の機種
リモコン機能14	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止	室内ファン風量切戻が1速のみの機種
室内機能04	ルーバフリー停止	ルーバフリー停止	床置FDF以外のオートスイングルーバ搭載機種
リモコン機能15	冷専/ヒーボン	ヒーボン	ヒーボン機
		冷専	冷専機
室内機能17	外機制御	圧力制御標準	給気処理室内機以外
		圧力制御切戻	給気処理室内機

注3: ツイントリプル/ダブルツイン機の場合、室内機能設定は親室内ユニット・室内ユニット各々設定してください。但し、「05 外部入力切替」「06 運転許可/禁止」は親室内ユニットのみで設定可能です。

### 注2: 高天井設定時のファンタップ

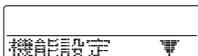
ファンタップ	室内風量設定				
	P高	急-強	急-弱	急-弱	急-強
標準	UH-Hi-Me-Lo	Hi-Me-Lo	Hi-Lo	Hi-Me	
高天井設定	UH-UH-Hi-Me	UH-Hi-Me	UH-Me	UH-Hi	

機種によって、初期設定が高天井設定の機種もあります。

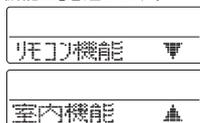
機能番号	項目	初期設定	機種
02	高天井設定	標準 高天井1 高天井2	※
03	フィルターサイン設定	表示なし 設定1 設定2 設定3 設定4	
04	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止 ルーバフリー停止	※
05	外部入力切替	ヘル入力 ハル入力	○
06	運転許可/禁止	無効 有効	○
07	緊急停止	無効 有効	○
08	暖房室温補正	室温補正+3.0℃ 室温補正+2.0℃ 室温補正+1.0℃ 補正なし	○
09	吸込温度補正	吸込補正+2.0℃ 吸込補正+1.5℃ 吸込補正+1.0℃	○
10	暖房ファン制御	弱風 設定風量 間欠 停止	○
11	フロスト防止温度	温度 高 温度 低	○
12	フロスト防止制御	ファン制御有効 ファン制御無効	○
13	ドレンポンプ	標準 暖房 暖房 送風 送風	○
14	冷房ファン運転	運転なし 0.5時間 1時間 6時間	○
15	暖房ファン運転	運転なし 0.5時間 1時間 6時間	○
16	暖房ファン間欠	運転なし 20休5送風 5休5送風	○
17	外機制御	圧力制御標準 圧力制御切戻	※

## 機能設定の仕方

1. エアコンを停止させて、**セット**と**運転切換**ボタンを同時に長押しする。  
表示が「機能設定 ▼」となります。



2. **セット**ボタンを押す。
3. 設定したい内容が「リモコン機能」か「室内機能」かを確認する。
4. **▲**または**▼**ボタンを押す。  
「リモコン機能▼」又は「室内機能▲」を選びます。



5. **セット**ボタンを押す。

### 4. 【リモコン機能を選んだ場合】

- ①「データ確認中」(約2秒間点滅表示)

↓  
「01 グリル昇降設定」と、表示が切り替わります。

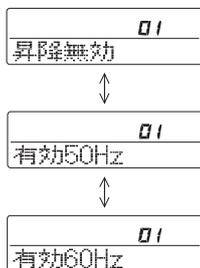


- ② **▲**または**▼**ボタンを押す。  
リモコン機能一覧表の「番号と機能」が順番に表示されますので、機能を選びます。

- ③ **セット**ボタンを押す。  
選択した機能の、現在の設定が表示されます。  
(例)「昇降無効」←「01 グリル昇降設定」を選択した場合。



- ④ **▲**または**▼**ボタンを押す。  
設定を選びます。



- ⑤ **セット**ボタンを押す。  
「設定完了」が表示され、設定が完了します。  
その後、「番号と機能」の表示に戻りますので、続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。  
終了する場合は、7へお進みください。

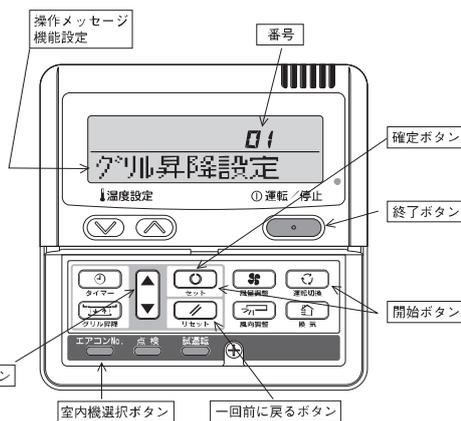


7. **運転/停止**ボタンを押す。  
設定を終了します。

- ・設定の途中で、**運転/停止**ボタンを押しても終了します。但し、設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。
- ・設定の途中で、**リセット**ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。
- ・セット内容は、コントローラ内部に記憶され停電しても保存されています。

### 【現在設定の確認方法】

上記操作により、「番号と機能」を選び、**セット**を押した時に、最初に表示される「設定」が、現在設定されている内容です。(但し、「全台▼」を選んだ場合は、室内番号の最も若い機種の設定が表示されます。)

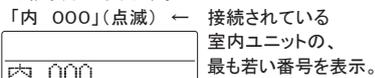


### 【室内機能を選んだ場合】

- ①「データ確認中」(データを読み込む間約2~23秒点滅) ↓  
「02 高天井設定」と、表示が切り替わります。  
②へお進みください。

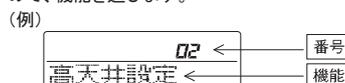
#### 【注意】

- (1) 室内ユニットをリモコンに複数台接続している場合は、下記表示となります。

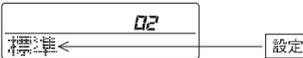


- (2) **▲**または**▼**ボタンを押す。  
設定したい室内ユニットの番号を選びます。  
「全台▼」を選択すると、全台同一の設定ができます。
- (3) **セット**ボタンを押す。

- ② **▲**または**▼**ボタンを押す。  
室内機能一覧表の「番号と機能」が順番に表示されますので、機能を選びます。

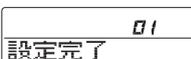


- ③ **セット**ボタンを押す。  
選択した機能の、現在の設定が表示されます。  
(例)「標準」←「02 高天井設定」を選択した場合。



- ④ **▲**または**▼**ボタンを押す。  
設定を選びます。

- ⑤ **セット**ボタンを押す。  
「設定完了」が表示され、設定が完了します。  
その後、「番号と機能」の表示に戻りますので、続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。  
終了する場合は、7へお進みください。



※ 室内ユニット複数台接続時、**エアコンNo**ボタンを押すと室内ユニット選択表示(例「内 000」)に戻りますので、室内ユニットを換えて設定する場合は、同じ要領で設定してください。



### 冷媒R32対応機としての注意点

- R32以外の冷媒は使用しないでください。R32は従来の冷媒（R22など）に比べ圧力が1.6倍高くなります。
- R32側は、他冷媒の機器（別記のため室内ユニット動作時のチャージポート栓と室外ユニット内のエアクラップバルブの閉鎖状態を監視しています。又、耐圧強度を上げるため冷媒配管の加工方法がR32対応機と異なります。従って、施工・サービス時には、右表に示すR32またはR410A専用ツールを準備してください。
- 冷媒注入は必ず必ず冷媒注入機を用いて行ってください。
- 室内ユニットはR32またはR410A専用機となります。接続可能な室内ユニットはカタログ等で確認してください。（他の室内ユニットを接続すると正常運転できません）
- 冷媒の漏入をささけるために、冷媒の種類により工具を使い分けしてください。特にゲージマニホールド、チャージホースは絶対に他冷媒（R22、R407C）と共用しないでください。
- 冷媒R32にはわずかな可燃性があります。そのため、半地下や狭い部屋など換気の悪い場所ですべて室外ユニットを設置・修理・移動する際の作業時は冷媒漏えいセンターを携行してください。冷媒が漏えいした場合、窒息や着火の原因となる恐れがあります。

1	R32冷媒対応用R410A専用ハンマー
2	ゲージマニホールド
3	チャージホース
4	冷媒注入機
5	R32対応用エアクラップバルブ
6	フレックス
7	吐出側用銅製ケーシング
8	吐出側用銅製ケーシング
9	吐出側用銅製ケーシング
10	吐出側用銅製ケーシング

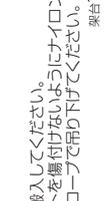
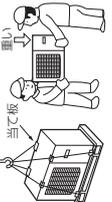
地球温暖化防止のため、この製品の移設・修理・廃棄等に当たってはフロン類の回収が必要で、本機には地球温暖化係数(GWP)が675のフロン類を使用しています。(冷媒R32)



## 1. ユニットの搬入・据付 (ユニットの搬入・移動には十分に注意し、必ず2人以上で行ってください。)

### 【注意】

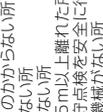
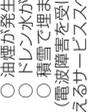
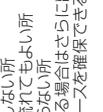
ユニットにロープ掛けを行い搬入する場合は、必ずユニット重心のずれを考慮してください。ユニットが安定を失って落下する恐れがあります。



- 1) 搬入
  - 据付場所付近までできるだけ梱包のまま搬入してください。
  - やむを得ず解梱して搬入する場合は、ユニットを傷つけないよう(ナイロン)スリングで吊り下げ、または当て板をしてロープで吊り下げてください。
- 2) 移動
  - エユニット正面(吹出側)から見て右側が重くなります。右側を持つ作業者は十分に注意してください。
  - 左側を持つ作業者は、右手でユニット正面の把手を持ち、左手はコーナー支柱部に添えてください。

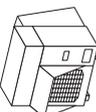
### 3) 据付場所の選定

- 下記条件に注意し、据付場所を選んでください。
- 室外ユニットの重量・振動に耐え、水平に据付けられる安全な所
  - 運転音や通風に隣家に迷惑がかからない所
  - 可燃性ガスの漏れおそれのない所
  - 他の熱源から熱輻射を受けない所
  - テレビやラジオの周囲から5m以上離れた所(電波障害を受けやすい所に離してください。)
  - 通風が十分に確保でき、保守点検しやすい所
  - 電磁波、高調波を発生する機械がない所
  - 硫黄系ガス、塩素系ガス、酸、アルカリ(アンモニアを含む)など機器に影響する物質の発生・滞留しない所
  - 吹出口に強風が当たらない所



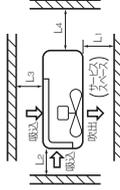
### 4) 据付場所に関する注意

- (1) 積雪が予想される地域では、室外ユニットの吸込口・吹出口や底版下部が雪で閉塞する恐れがありますので、次のような対策を行ってください。
  - 積雪面より底版が重くなるよう室外 ②吹出口に防雪フード ③軒下に設置するが、雪除け屋根(現地手配)を取付けてください。
  - ユニットの重量を軽減してください。
  - 吹出口に強風が当たらないようにしてください。



### 5) 据付スペース

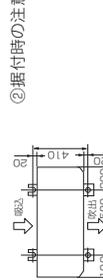
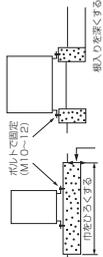
- 四方障壁は不可です。
- ユニット上方のスペースは1m以上確保してください。
- 横連続設置するときは、最小10mmの連続設置で連続は可能ですが、ユニット間に250mm以上のサービスペースを確保してください。又、コゾットローラのサービスペースを考慮しユニットの天板が外れるようにユニット間のスペースを確保してください。
- ショートサーキークーの恐れのある場所はフレックスフロアアダプタを取付けてください。
- 連続設置する場合は、特にショートサーキークーが生じないように吸い込みスペースを十分に確保してください。



取付例	I	II	III
取付例	100	100	100
L1	300	300	300
L2	150	150	300
L3	250(5)	250(5)	250(5)
L4	250(5)	250(5)	250(5)

### 6) 据付

- ① アンカーボルト固定位置
  - 以下の内容を守ってください。
  - 海水飛沫および潮風に直接さらされることを極力回避するような場所へ設置してください。また、波しぶき等が直接かかる場所への設置は避けてください。
  - 外装パネルに付着した海塩粒子が雨水によって十分洗浄されるようにしてください。室外ユニットには日除け等を取付けないなど配慮してください。
  - 露外ユニット底版内への水の滞留は、著しく腐食状態を促進させるため、底版内の水抜け性を損なわないように、傾き等に注意してください。
  - 海岸地帯への据付品については付着した塩分等を除去するために定期的に水洗いを行ってください。
  - 据付、メンテナンス等で付いた傷は、補修してください。
  - 機器の状態を定期的に点検してください。必要に応じて再防錆処理や部品交換等を実施してください。
  - 基礎部分の排水性を確保してください。
- ② 据付時の注意
  - 前面側アンカーボルト飛び出し長さ(15mm以下)としてください。
  - 地震や突風などで倒れないように強固に据付けてください。
  - コンクリート基礎は上図を参照してください。
  - ユニットの基礎は水平に設置してください。(ベース面で左右の差は5mm以下)圧縮機の故障、ユニット内配管の破損、異常音の原因となります。



### 7) 外気温-5℃以下で冷房運転を行う場合

- フレックスフロアアダプタ及び防雪フード(別売品)を取付けてください。

## 2. 冷媒配管工事

### 1) ユニットの据付使用制限

- 室内ユニットの仕様と据付場所に合わせて以下の内容を確認してください。
- 以下の据付使用制限は必ず守ってください。据付けに不備があると圧縮機の故障や能力低下の原因となります。

制限項目	右図での記号	
	シングル機	ツイン機
片道配管長	ZP80	L
主配管長	ZP80	L+L1+L2
第一分岐後の片道配管長		L
第一分岐後配管長の差		L1, L2
室内ユニット間の高さの差		L1-L2
室内ユニットが上の場合		H
室内ユニットが下の場合		H
室内ユニット間の高さの差		h

- △注意** ●上表の使用制限は下表に示す標準配管サイズの場合を示します。既設配管を使用する場合は配管サイズにより片道配管長の制限が変わります。詳しくは「16. 既設配管対応」をご確認ください。

### 2) 冷媒配管サイズ選定

- 室内ユニットの仕様に合わせて以下の内容で冷媒配管サイズを選定してください。

	ZP80	
	ガス管	液管
室内ユニット接続	φ15.88 フレア	φ9.52 フレア
冷媒配管 (主管L)	φ15.88	φ9.52
シングル機 の場合	室内ユニット接続 φ15.88	室内ユニット接続 φ9.52
分岐管セット	DIS-WA1G P80	
ツイン機 の場合	冷媒配管 (分岐管L1, L2) φ12.7	φ9.52
室内ユニット接続	φ12.7	φ9.52
室内ユニット容量	P40 X2	

- △注意** ●接続する室内ユニットがP40の場合、分岐配管部 (分岐管～室内ユニット) の液配管サイズは必ずφ9.52とし、室内ユニット (液配管側φ6.35) への接続は分岐管セットに付属の異径継手を使用してください。  
φ6.35のまま接続されますと、分岐不良の原因となり、片方の室内ユニットが能力不足となります。
- 立ち上がり配管は主管としてください。また、分岐管セットはできるだけ室内ユニットに近いところに水平に分岐するように取付けてください。また、分岐部には付属の断熱材を取付けてください。
  - 分岐部の施工詳細は、分岐管セットに付属の説明書を参照してください。

### 3) 冷媒配管の肉厚および材質

- 冷媒配管のサイズに対して以下の肉厚及び材質のものを選定してください。

配管外径 [mm]	φ6.35	φ9.52	φ12.7	φ15.88
最小配管内厚 [mm]	0.8	0.8	0.8	1.0
配管材質※	O材	O材	O材	O材

- 配管の選定・施工については、必ず「冷凍保安規則関係告示基準」を厳守してください。  
●配管内厚は、最小配管内厚以上のものを選定してください。

※リン脱酸銅線目無管 C1220T、JIS H 3300

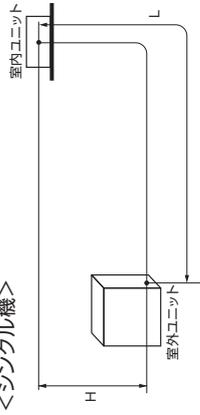
### 4) 現地配管施工

- △重要** 施工する配管はユニット内部部品に接触しないように注意してください。  
内部部品に接触すると、異音・振動が発生します。

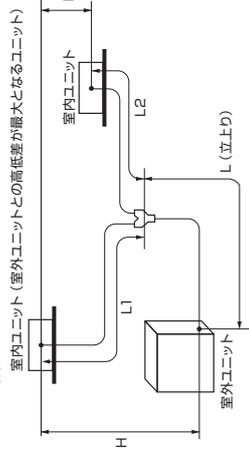
#### サービスパネルの外し方

- サービスパネルのねじ5本 (×印) を外し、パネルを矢印方向へ引き下げてから、手前を外してください。
- 配管施工方向は、右機、前、後、下の4方向に可能です。
- 配管貫通部のノックアウト穴の板を必要最小限の寸法で取外し、付属のエッジングを適当な長さで切断して配管接続前に取付けてください。
- 現地配管施工は、操作弁を全閉にして行ってください。
- 配管内部に水分、異物が入らないように、管端の養生 (凍りこもり防止テープによる) を十分に行ってください。
- 配管の曲げはできるだけ大きな半径 (R100～R150) で行ってください。曲げおしを何回も行わなくてください。

#### <シングル機>

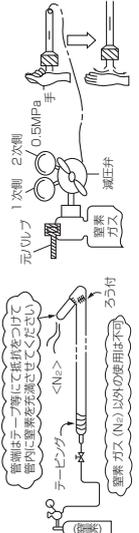


#### <ツイン機>



#### ろう付について

ろう付は必ず窒素ガスを流しながら行ってください。窒素ガスを流さないで多量の異物 (酸化皮膜) が生成され、キャピラリーチューブや膨張弁詰りによる致命的故障の原因となります。



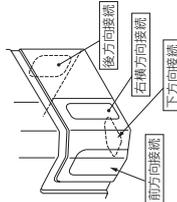
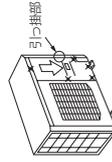
フレア管端部: A (mm)

銅管外径	A
φ6.35	8.9~9.1
φ9.52	12.8~13.2
φ12.7	16.2~16.6
φ15.88	19.3~19.7

フレア加工の銅管出し代: B (mm)

銅管外径	R32またはR410A用ツイン機使用時	従来ツイン機使用時
φ6.35	0~0.5	0.7~1.3
φ9.52		
φ12.7		
φ15.88		

A

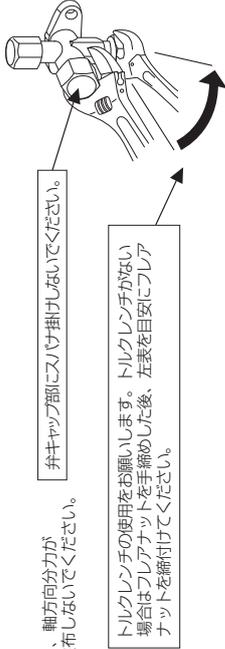


- ユニットと冷媒配管との接続はフレア方式です。配管にフレアナットを取付け後、フレア加工を施してください。R32のフレア加工寸法は、従来のR407Cとは異なります。R32またはR410A用フレアツールを推奨しますが、出し代調整用ケーシングにて出し代B寸法を調節すれば、従来ツールを使用できます。
- フレア接続はダブルスナッチで締めてください。

### △注意

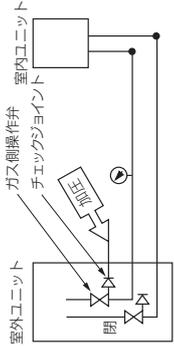
**フレアナットを適正トルクを超えて締めないでください。**液側、ガス側操作弁とともに右の絵のように操作弁本体を固定し、適正な締付トルクにて締付けをお願いします。  
同一締付トルクでも、ユニットのねじ部に冷媒油を塗布した場合は、ねじ部潤滑摩擦力が低下することにより、軸方向力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となります。ユニットねじ部、又はフレア外面には冷媒油を塗布しないでください。  
冷媒油を塗布する場合は、フレア内面のみとしてください。

操作弁サイズ (mm)	締付トルク (N・m)	締付角度 (°)	工具の推奨長さ (mm)
φ6.35 (1/4")	1.4~1.8	45~60	150
φ9.52 (3/8")	3.4~4.2	30~45	200
φ12.7 (1/2")	4.9~6.1	30~45	250
φ15.88 (5/8")	6.8~8.2	15~20	300



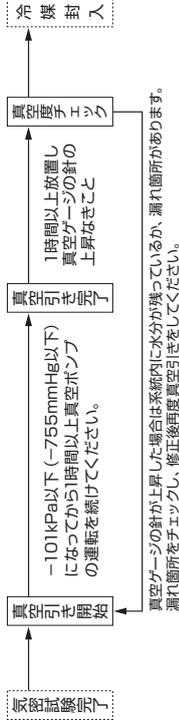
## 5) 気密試験

- ① 室外ユニットおよび室内ユニット本体の気密試験は弊社にて実施済みですが、配管接続後、接続配管の気密試験を室外ユニット側の操作弁のチェックジョイントより行ってください。尚、操作弁は必ず閉のままに実施してください。
  - (A) 0.5MPaまで加圧したところで、加圧を止めて5分間以上放置し、圧力の低下のないことを確認してください。
  - (B) 次に1.5MPaまで加圧し、再び5分間以上そのまま放置し、圧力の低下のないことを確認してください。
  - (C) その後、規定圧力 (4.15MPa) まで昇圧し、周囲温度と圧力をメモしてください。
  - (D) その後、規定圧力 (4.15MPa) まで昇圧し、周囲温度が1℃低下すれば合格です。この際周囲温度が1℃低下するまで圧力が約0.01MPa低下しますので補正を行ってください。
  - (E) 約1日放置し、圧力が低下しない場合は合格です。この際周囲温度が1℃低下するまで圧力が約0.01MPa低下しますので補正を行ってください。
  - (F) (A)~(E)の確認で圧力低下の認められたものには漏れがあります。溶接箇所、フレア部等に発泡試験液等を用いて漏れ箇所を発見し補修してください。補修後は再度気密試験を実施してください。
- ② 気密試験には窒素ガスを使用し、窒素ガスに劣る加圧はガス側から行ってください。また窒素以外のガスは絶対使用しないでください。



## 6) 真空引き

<作業フロー>



- 本機はR32のため下記の点にご注意ください。
- 異種油の混入を避けるために、冷媒の種類により工具等を使い分けてください。特にサービスマニホールド、チャージホースは絶対に他冷媒 (R22、R407C等) と共用しないでください。
  - 真空ポンプ油が冷凍システム内に混入しないように、逆流防止アダプタを使用してください。

## 7) 冷媒追加封入

(1) 下表に従い、冷媒封入量を計算してください。

ZP80	基準チャージ量 (kg)	基準チャージ配管長 (m)	冷媒配管 (液管φ9.52) 1mあたりの追加チャージ量 (kg)	工場出荷時チャージ量 (kg)	追加チャージ不要の現地配管長さ (m)
	3.06	2.0	0.054	3.6	3.0

- 室外ユニットは配管長30m相当分の冷媒量が工場出荷時に封入されており、30mまでは現場での追加チャージが不要です。それを超えた分については、配管長と上表より追加封入量を計算し追加封入してください。
- 既設配管を使用する場合は、液管サイズにより必要封入量が変わります。詳しくは「6. 既設配管対応」をご確認ください。
- 追加冷媒量計算式

$$\text{追加封入量 (kg)} = \{ \text{主管長 (m)} - \text{チャージレス分 (30 m)} \} \times 0.054 \text{ (kg/m)} + \text{分岐管総長 (m)} \times 0.054 \text{ (kg/m)}$$

- サービスなどで再チャージする場合は配管長20m以下では基準チャージ量を再封入してください。

(例) 10mで再チャージする場合は3.06kgを封入してください。  
25mで再チャージする場合は3.06 + (25-20) × 0.054 = 3.33kgを封入してください。

- **配管長が9mより短い場合は冷媒封入量を減らす必要があります。基準チャージ量を再封入してください。**
- **再チャージを行う場合は冷媒回収後、上表の基準チャージ+基準チャージ配管長に対し追加した配管長分を再チャージしてください。**

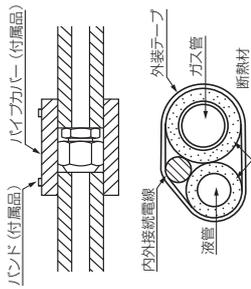
## (2) 冷媒封入

- 操作弁を閉じたまま、必ず液側のサービスポートから液冷媒を封入してください。規定量が封入できない場合は、室外ユニットのリバを液側、ガス側ともに全開にした後、冷房運転を行いガス側 (吸込側) サービスポートから封入します。圧縮機保護のため、ポンプのリバを絞り気味にするか、液冷媒を霧状に変換する専用ツールを使用し、ユニットに吸引された時はガス化しているように調整してください。
- 冷媒の封入は必ずはかりを使用して計算封入してください。
- 運転しながら冷媒封入する場合は必ず30分以内に完了してください。冷媒不足の状態では長時間運転されると圧縮機の故障の原因となります。

**お願い** 配管長から算出した冷媒量をサービスパネル裏面の注量ラベルに記入してください。

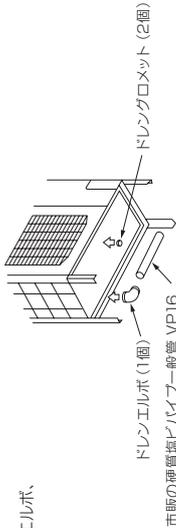
### 8. 断熱・防露

- (1) 冷媒配管（ガス管、液管共）の防露断熱工事を行ってください。
  - ・防露断熱工事に不備があると、水漏れまたは露たれが発生し、家財等を濡らす原因となることがあります。
- (2) 断熱材は120℃以上の耐熱性があるものをご使用ください。耐熱性が低いと断熱不良や電線劣化の原因となります。
  - ・ガス管は冷房運転時、配管に結露したものがドレン水となり水漏れ事故となることがあります。また、暖房時には吐出ガスが流れ、管表面温度が高湿とな
  - るため、人に接触すると火傷などの危険があります。
  - ・室内ユニットのフレア接続部分は断熱材（パイプカバー）で断熱してください。（ガス管、液管共に断熱してください。）
  - ・断熱はガス側、液側配管両方に行ってください。その際断熱材と配管を密着させて隙間ができないように接続線と共に外装テープで巻いてください。
  - ・本エアコンはJIS書付条件で試験を行い不具合のないことを確認しておりますが、**相対湿度70%を超える天井内等では、ガス側、液側配管共厚さ20mm以上の断熱が必要となります。**



### 3. ドレン配管工事

- 室外ユニットからのドレンが問題になる場所では、別売品のドレンエルボ、ドレンログロメットを利用してドレン配管を施工してください。
  - 室外ユニットの底板には凝縮水を排出する穴が3か所あります。
  - 凝縮水を排水口などに導くときは平置き台（別売品）やブロックなどに載せて据付けてください。
  - 図の様にドレンエルボを接続し、他の穴はログロメットでふさいでください。



### 4. 電気配線 電気工事の詳細は、室内ユニットの据付説明書をご覧ください。

- 漏電遮断器の取付けを必ず行ってください。漏電遮断器が取付けられないと火災や感電の原因になることがあります。
- 内外接続線は同一端子番号を接続してください。
- 配線は、端子接続部に外力が伝わらないようにしてください。
- 制御箱にアース端子があります。D種接地工事を必ず行ってください。
- 内外接続線は必ず3心ケーブルを使用してください。シールド線は使用しないでください。

#### 電源・内外接続線

- アース工事を行う際には、電源プラグを抜いた状態で実施してください。

#### △ 注意

- 漏電遮断器の誤動作を防ぐため、必ずインバータ回路用遮断器を使用してください。

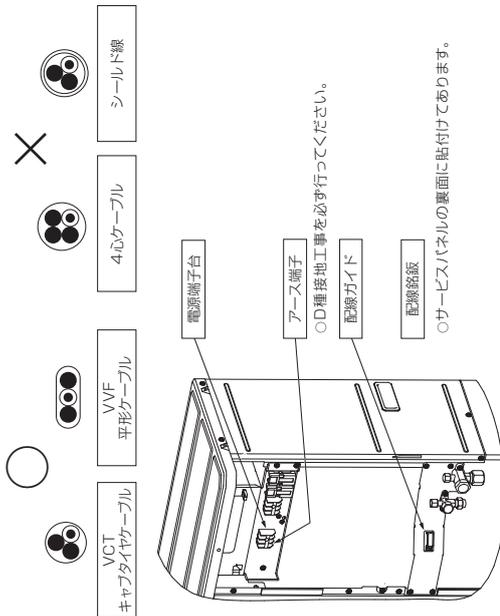
〈三相線〉

機種	漏電遮断器定格電流	配線用遮断器 定格電流	電源配線 太さ×本数	内外接続線 太さ×本数	アース線 太さ×本数
単相	30A, 30mA・0.1sec以下	30A	3.5mm <sup>2</sup> ×2	φ1.6×3	φ1.6 M5
三相	20A, 30mA・0.1sec以下	20A	3.5mm <sup>2</sup> ×3	φ1.6×3	φ1.6 M5

室内ユニットがFDU、FDRの場合

機種	漏電遮断器定格電流	配線用遮断器 定格電流	電源配線 太さ×本数	内外接続線 太さ×本数	アース線 太さ×本数
単相	30A, 30mA・0.1sec以下	30A	3.5mm <sup>2</sup> ×2	φ1.6×3	φ1.6 M5
三相	20A, 30mA・0.1sec以下	20A	3.5mm <sup>2</sup> ×3	φ1.6×3	φ1.6 M5

- 上表はヒータレス機の場合を示します。ヒータ付の場合は室内ユニットの据付説明書、工事説明書をご覧ください。
- 配線仕様は金属管または合成樹脂配管線で、管内に3本以下で電圧降下2%とした場合を示します。これ以外の条件は内線規程により実施してください。
- 上図は室外電源取りの場合を示します。既設配線流用接続（室内電源取り、室内・室外電源取り）はカタログ・技術資料を参考ください。



# 5. 試運転

## 警告

- 試運転の前に操作弁が開閉になっていることを必ず確認してください。
- 試運転前に電源を入れ、クランクケースヒータに通电してください。
- 停止から運転までは、必ず3分以上待ってください。
- サービスパネルを外すと、高圧充電部・高温部が露出して危険です。感電や火傷に十分注意してください。また、サービスパネルを開けたまま放置しないでください。

## 注意

- ディップSWを操作する場合は、充電部に触れぬよう十分注意してください。
- 液操作弁のチャージポートから吐出圧力の検圧はできません。
- 四方弁（20S）は暖房運転時に通電されます。
- 電源遮断によりリセットする場合は、電源遮断より3分経過後に電源を再投入してください。3分経過後でなければ「E-5」（通信異常）が発生する場合があります。

## 絶縁抵抗について

● 振付け直後、もしくは充電を切った状態で長時間放置した場合、圧縮機に冷媒が溜まることにより、絶縁抵抗が数MΩまで低下することがあります。絶縁抵抗が小さく、漏電遮断器が動作する場合は、以下の事項を確認ください。

① 電源を投入し、6時間程度経過後、絶縁抵抗が復帰するか確認する。

② 漏電遮断器が高電圧対応品であるか確認する。

本機はインバータを装備しており、漏電遮断器の誤動作を防止するため、高調波対応品を使用してください。

## 1) 試運転方法

- サイドカバーを外してください。
- |       |       |             |
|-------|-------|-------------|
| SW5-3 | SW5-4 |             |
| ON    | OFF   | 冷房試運転       |
| OFF   | ON    | 暖房試運転       |
| OFF   | -     | 通熱、および試運転終了 |
- (1) ディップSW5-3、4により室外ユニット側から試運転が可能です。
  - (2) SW5-3をONすることで圧縮機が運転します。
  - (3) SW5-4がOFF状態で冷房試運転を行い、ON状態では暖房運転を行います。
  - (4) 試運転終了後は、必ずSW5-3をOFFに戻してください。

## 2) 運転状態のチェック

サービスパネルを外してください。

配管の	ガス操作弁の
チェックジョイント	チャージポート
冷房運転時	吐出圧力（高圧）
暖房運転時	吐出圧力（低圧）
	吐出圧力（高圧）

吐出圧力、吸込圧力の検圧は、室外ユニット内部の四方弁後に取付けられたチェックジョイント及び、ガス操作弁のチャージポートから行ってください。冷房運転・暖房運転によって右表のように検出圧力は異なります。

電源投入1回目の起動時は、圧縮機保護のため圧縮機回転数をゆるやかに上昇させます。  
**試運転時は1時間ほど連続運転させてから運転状態をチェックしてください。**

## 3) ディップSW3-1、SW3-2の設定

- サービスパネルを外してください。
- (1) デフロスト制御切換え（SW3-1）
    - ・ ONすることでデフロスト制御に入り易くなります。
    - ・ 暖房シーズン時、外気温が氷点以下となる地域は、設定をONにしてください。
  - (2) 防雪ファン制御（SW3-2）
    - ・ ONすることで、外気温が3℃以下で圧縮機停止中、室外ファンが10分毎に30秒間運転します。
    - ・ 豪雪地帯で使用される場合は、設定をONにしてください。

## 4) 試運転時の故障診断

リモコン表示	室外機LED表示(周期5秒)	故障内容	対策
E34	1回点滅	連続点滅	交相
E40	1回点滅	連続点滅	63Hz(1)動作、または操作弁閉運転(主に暖房時に発生)
E49	1回点滅	連続点滅	低圧異常、または操作弁閉運転(主に冷房時に発生)

● 上記以外の異常が表示される場合は、室外ユニットと室内ユニットの配線図版をご覧ください。

## 5) 停止時の電子膨張弁の状態

電源投入時の通常停止時、および異常停止時の電子膨張弁の状態は右表の通りです。

	電源投入時	通常停止時	異常停止時
冷房用	全開	全閉	暖房時 全開
暖房用	全開	全開	冷房時 全開

## 6) 電源ブレーカ投入後1回目の運転について

電源ブレーカ投入後1回目の起動において、圧縮機の油上がりを防止するため、リモコンに「運転準備中」が最大で30分間表示される場合があります。

## 試運転前の確認事項

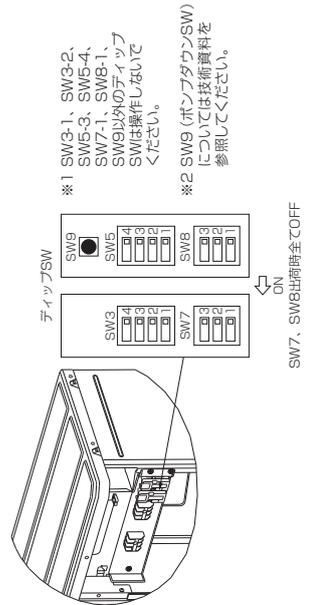
● 電源を入れた状態で室外ユニットから離れる場合は、パネルを必ず閉めてください。

確認の項目	項目	確認項目	チェック
2	冷媒配管工事	冷媒追加充量、冷媒配管長をパネルのレベルに記入しましたか。	
		配線の接続忘れ、交相、並相はないですか。	
		運転前、配線など電気機器は適正容量の機器を使用していますか。	
		複数設置の場合は、ユニット間の配線が入力替わっていますか。	
4	電気配線	リモコン側に室内外通線線路を接続していませんか。	
		内外接続線は同一端子番号間で接続していませんか。	
		内外接続線はVGFケーブルまたはVVVF形状ケーブルですか。	
		アース工事はD種接地工事が行われていますか。	
-	室内ユニット	他の機器のアース線と接続せず、単独アースを取っていますか。	
		配線の取付け箇所のねじが緩んでいませんか。	
		配線は配線コンパンドで取り、端子接続部にはねじが伝わらないように取っていますか。	
		室内ユニットの操作作業は完了していませんか。	

## 試運転手順

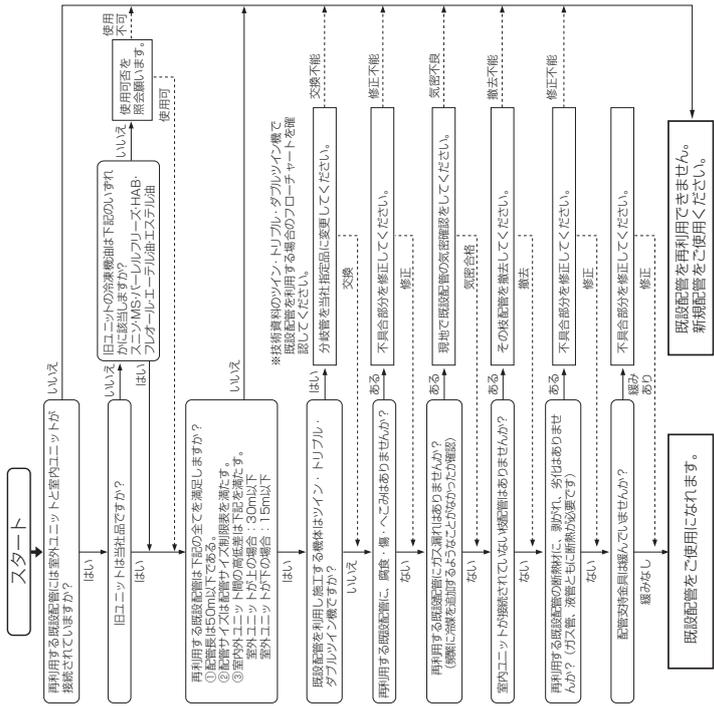
● 必ず試運転を行い、下記の順に従ってチェックを行ってください。

順番	操作内容	チェック
①	ガス側操作弁を全開にしてください。	
②	液側操作弁を全開にしてください。	
③	パネルを開けてください。	
④	リモコンによる現地設定を行う場合は、リモコンによる現地設定の説明に従って行ってください。	
⑤	SW5-3 ON / SW5-4 OFF：冷房試運転を開始します。	
⑥	SW5-3 ON / SW5-4 ON：暖房試運転を開始します。	
⑦	運転が開始したら、リモコンの運転方向調節ボタンを押して動作を確認してください。	
⑧	室内ユニットの吐出口に手を当て、冷房時は冷風、暖房時は暖風が出ていることを確認してください。	
⑨	赤LEDが点滅していないことを確認してください。	
⑩	試運転終了後、必ずSW5-3をOFFにしてください。	
⑪	オフショングレを使用している場合は、各々の取扱説明書に従って機能の確認をしてください。	



# 6. 既設配管対応

既設配管が再利用できるかどうかを下記フローチャートを使用して判断してください。



## 注意

- <既設ユニットが冷房運転可能な場合>  
**既設ユニットで下記作業を実施してください。** ①→②→③→④の順番
- ①30分間冷房運転
  - ②ビニールシートなどで室内ユニット吸込口を完全に閉塞し3分間冷房運転（液バック運転）
  - ③室外ユニットの液操作弁を締めポンダウン（冷媒回収）
  - ④窒素ガスによるフロア ※フロアにより変色した冷凍機油や油以外の残留物が排出された場合は「配管洗浄」または「新規配管」をお願いします。
- フレシアネットは流用せず室外ユニット付属のものを使用してください。  
 またフレシアはR32用に再加工してください。
- 右表の既設配管タイプSWをONにしてください。（ガス配管サイズがφ19.05の場合）

エクシードハイバードの場合（ZP80）は、既設配管の洗浄運転が可能です。  
 詳細はエクシードハイバード既設配管洗浄運転手順を確認ください。  
 エクシードハイバードの配管洗浄機能をご使用になれない場合は以下の△注意をご参照ください。

### 配管サイズ制限表

○：標準配管サイズ ○：使用可能 △：配管長制限線  
 冷 ↓：冷房能力低下 ×：使用不可

配管1m当たりの追加チャージ量	0.02 kg/m	0.054 kg/m	0.11 kg/m
液管	φ6.35	φ6.35	φ9.52
ガス管	φ12.7	φ15.88	φ19.05
適用可否	○	△	○※
最大付置距離	20	△	70
チャージス量	10	10	30

※：φ19.05を使用する場合、曲げRに  
 関わらず室外ユニット基板上のディ  
 プSW7-1をONにしてください。  
 油戻し運転時間の設定を切替えます。  
 ●配管長の下限は3mとしてください。3m  
 以下の場合は、冷媒充填量を減らす必要が  
 あります。

冷媒回収、再充填を行う場合は最高の代  
 理店にお問い合わせください。  
 ●表に記載のない配管サイズの組み合わせ  
 及び表の×の配管サイズの組み合わせは  
 使用できません。

### 分岐管後配管

○：標準配管サイズ ○：使用可能 △：別表外

配管1m当たりの追加チャージ量	0.06 kg/m (0.07 kg/m)		
液管			
ガス管			
形式	組合せ能力	組合せ能力	φ15.88
ZP80	ツイン	40+40	○

●表に記載のない配管サイズの組み合わせは使用できません。

### 分岐管を流用可能な既存ユニット機種

既存ユニットの分岐管は流用できません。当社製R32またはR410A用の分岐管を使用してください。

### 追加チャージ量計算式

追加チャージ量 (kg) = (主配管長 (m) - 表のチャージレス長 (m)) × 表の配管1m当たりの追加チャージ量 (kg/m)  
 + 分岐管総長 (m) × 表の配管1m当たりの追加チャージ量 (kg/m)

※計算の結果が負の値になる場合は追加チャージ不要です。

例) 既設配管30m (液管φ12.7、ガス管φ15.88) を使用して、ZP80 (シングル機) を設置する場合。  
 (30m - 15m) × 0.11 kg/m + 1.65 kg = 追加チャージ量

例) 既設配管30m (主配管長20m、液管φ12.7、ガス管φ15.88 / 分岐後配管長5m × 2、液管φ9.52、  
 ガス管φ12.7) を使用して、ZP80 (ツイン機) を設置する場合。  
 (20m - 15m) × 0.11 kg/m + 5m × 2 × 0.054 kg/m = 1.09 kg を追加チャージする。

### <既設ユニットが冷房運転できない場合>

- 別売のリニューアルキットにより、既設配管をご使用できます。
- ①冷媒回収機で冷媒を回収ください。
  - ②既設配管内の冷凍機油の汚れを確認ください。  
 色柄6.0以上の黒色、褐色(\*)、多量の残渣、異質がある場合「配管洗浄」または「新規配管」  
 をご使用をおねがいします。  
 \* 冷凍機油の色柄はカタログの末页を参考してください。
  - ③リニューアルキットを取付し、右表の既設配管タイプSWをONによりご使用可能です。  
 ●「配管洗浄」を行う場合は、最高の代理店にお問い合わせください。

## 注意

- <既設ユニットが冷房運転可能な場合>  
**既設ユニットで下記作業を実施してください。** ①→②→③→④の順番
- ①30分間冷房運転
  - ②ビニールシートなどで室内ユニット吸込口を完全に閉塞し3分間冷房運転（液バック運転）
  - ③室外ユニットの液操作弁を締めポンダウン（冷媒回収）
  - ④窒素ガスによるフロア ※フロアにより変色した冷凍機油や油以外の残留物が排出された場合は「配管洗浄」または「新規配管」をお願いします。
- フレシアネットは流用せず室外ユニット付属のものを使用してください。  
 またフレシアはR32用に再加工してください。
- 右表の既設配管タイプSWをONにしてください。（ガス配管サイズがφ19.05の場合）



### 冷媒R32対応機種としての注意点

- R32以外の冷媒は使用しないでください。R32は従来の冷媒（R22など）に比べ圧力が1.6倍高くなります。
- R32機は、他冷媒の密封防止のため室外ユニット・操作弁のチャージポートと室内ユニット内のチャージポートとを接続して、右側に示すR32またはR410A専用ツールを準備してください。
- チャージシリンダ加工寸法が異なるチャージポートは、右側に示すR32またはR410A専用ツールを準備してください。
- チャージシリンダは使用しないでください。
- 冷媒封入は必ずボンベから液相で取り出してください。
- 室内ユニットはR410A専用機とR410A専用機とを接続して確認してください。（他の室内ユニットを接続する正常運転できません。）
- 冷媒の漏入をさけるために、冷媒の種類により工具を使い分けてください。
- 冷媒R32にはわずかながら可燃性があります。そのため、半軒下や狭い部屋など換気の悪い場所を避けて設置・移動・移設する際の作業時は冷媒漏えいセンサを携行してください。冷媒が漏えいした場合、窒息や着火の原因となる恐れがあります。

地球温暖化防止のため、この製品の移設・修理・廃棄等にあたってはフロン類の回収が必要です。本機には地球温暖化係数(GWP)が6750のフロン類を使用しています。(冷媒R32)

R32対応R410A専用ツール	
a)	ゲージマニホールド
b)	チャージホース
c)	高圧冷媒用圧力計
d)	トルクレンチ
e)	真空ポンプ
f)	真空計
g)	真空計アダプター
h)	真空計保護キャップ

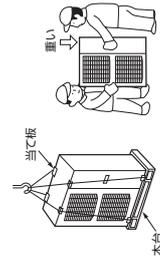
## 1. ユニットの搬入・据付 (ユニットの搬入・移動には十分に注意し、必ず2人以上で行ってください。)

### ▲注意

- ユニットにロープ掛け発行し搬入する場合は、必ずユニット重心のずれを考慮してください。ユニットが安定を失って落下する恐れがあります。

#### 1) 搬入

- 据付場所付近までできるだけ梱包のまま搬入してください。
- やむを得ず解梱して搬入する場合は、ユニットを横付けしないようにナイロンスリングで吊り下げるか、または当て板をしてロープで吊り下げてください。



#### 2) 移動

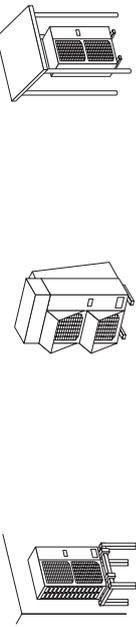
- ユニット正面（吹出側）から見て右側が重くなります。右側を保持作業者は十分に注意してください。

#### 3) 据付場所の選定

- 下記条件に注意し、据付場所を選んでください。
- 室外ユニットの重量・移動に際し、水平に据付けられる安全な所
  - 壁面や足元で騒音に感傷の恐れがない所 ○ 油垢が発生しない所
  - 可燃物・燃焼物の置けない所 ○ ドレン管が流れてもよい所
  - 他の熱源から輻射を受けない所 ○ 積雪で埋まらない所
  - フレキシブルの周囲から50mm以上離れた所（高圧配管を受ける場合はさらに離してください）
  - 通風が充分に確保でき、保守点検を容易に行えるリーススペースを確保できる所
  - 燃焼ガス、高圧配管、燃焼ガス、配管が通らない所
  - 配管が当らない所 ○ 吹出側に強い風が当たらない所

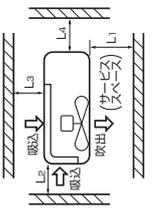
#### 4) 据付場所に関する注意

- (1) 積雪が予想される地域では、室外ユニットの吸込口・吹出口や底板下部が雪で閉鎖される恐れがありますので、次のような対策を行ってください。
- ① 積雪より底板が高くなるよう室外ユニットを架台の上に設置してください。
  - ② 吹出口に防護フード(別売品)を取付ける。
  - ③ 軒下に設置するか、雪除け屋根(現地手配)を取付けてください。



#### 5) 据付スペース

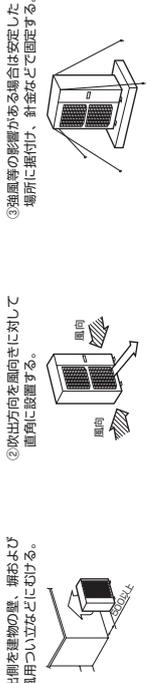
- 四方開製は不可です。
- ユニット上のリーススペースは1m以上確保してください。
- ジョイントサーキットの恐れのある場所はフレックスフロアアダプタを十分に確保してください。
- 接続台設置する場合は、特にジョイントサーキットが生じないように吸込みスペースを十分に確保してください。
- 吸込口前面の障壁はユニット高さ以下としてください。
- 接続設置するときは、最小10mmの隙間設置で構いませんが、ユニット間に250mm以上のサービススペースを確保してください。250mm以上の隙間がない場合は、ユニット移動等で対応をお願いします。



寸法	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
L1	開放	開放	500
L2	300	300	開放
L3	150	300	150
L4	250(G1)	250(G1)	250(G1)

※1 ( )内の記号条件は仕上階層の交換作業をする場合、L1寸法を250mm以上確保する必要がある場合があります。作業時はユニット移動等で対応をお願いします。

- また、除霜運転時のドレン管が凍結する恐れがありますので、次のような対策を行ってください。
- ドレン管がドレン管に凍結しないよう、ドレン集中排水キット(別売品)を使った集中排水工事を行わないでください。
  - 【⇒3. ドレン配管工事 参照】
  - テフロスト制御の切替と防曇ファン制御の設定を行ってください。
  - 【⇒5. 現地スイッチの設定参照】
- (2) 強風の影響を受けやすい場所では、下記の内容に従って防風対策を行ってください。
- ① 能力の低下、高圧上昇による稼働停止、ファンの故障などの原因となります。
  - ② 吹出側を建物の壁、塀および防風用ツリ立などにむける。
  - ③ 吹出方向を風向きに対して直角に設置する。



- (3) 維持管理に関する注意 (荷重管理責任者の場合)
- 耐重管理責任者は耐食性に優れた部品を使用していますが、適切な据付場所選定および維持管理を行わないと故障・故障の原因となります。
- 耐食性に優れた部品を使用してください。
  - 海水・塩水および潮風に直接さらされることを避け、適切な場所へ設置してください。また、波しびがき等が直接かかる場所への設置は避けてください。
  - 外装パネルに付着した海塩粒子が雨水によって十分に洗浄されるようにしてください。室外ユニットには日除け等を取付けないでください。
  - 室外ユニット底面への水の滞留は、著しく腐食状態を促進させるため、底面内の水抜け性を損なわないよう、積雪等に注意してください。
  - 海岸地帯への据付品については付着した塩分等を除去するために定期的に水洗いを行ってください。
  - 据付・メンテナンス等を行った場合は、補修してください。
  - 腐食の状態を定期的に点検してください。必要に応じて補防酸蝕置や部品交換等を実施してください。
  - 腐食部分の排水性を確保してください。

#### 6) 据付

- ① アンカーボルト固定位置
- 
- ② 据付時の注意
- 
- ユニットを据付する場合は、上記ボルトでユニットの足を必ず固定してください。
  - 前面アンカーボルト飛び出し量は15mm以下としてください。
  - 地盤や空室などで掘れないように強固に据付けてください。
  - ユニット基礎は上面を参照してください。面と面との差は5mm以下としてください。
  - 圧縮力の確保、ユニット内配管の破損、異常音の原因になります。

#### 7) 外気温-5℃以下で冷房運転を行う場合

- フレックスフロアアダプタ及び防護フード(別売品)を取付けてください。

## 2. 冷媒配管工事

### 1) ユニットの据付使用制限

- 室内ユニットの仕様と据付場所にあわせて以下の内容を確認してください。
- 以下の据付使用制限は必ず守ってください。据付けに不備があると圧縮機の故障や能力低下の原因となります。

制御項目	右図での記号	
	第1分岐管～各室内ユニットまでの配管長さ	3m未満
片道配管長	制限長さ	制限長さ
主配管	ツイン機	トリプル機
第1分岐～第2分岐間の片道長さ	100m以下	L
第1分岐～室内ユニット間の片道長さ	100m以下	L
第1分岐～第2分岐間の片道長さ	5m以下	L
第1分岐～室内ユニット間の片道長さ	30m以下	L1, L2
第1分岐～第2分岐間の片道長さ	30m以下	L1, L2, L3
第1分岐～室内ユニット間の片道長さ	10m以下	L1, L2, L2.1, L3, L1
第2分岐～室内ユニット間の片道長さ	3m以上10m以下	(使用不可)
室内・室外ユニット間の高さの差	10m以下	h
室内・室外ユニット間の高さの差	30m以下	H
室内・室外ユニット間の高さの差	15m以下	H
室内ユニット間の高さの差	0.5m以下	h1, h2, h3

#### △注意

- 上表の使用制限は下表に示す標準配管サイズの場合を示します。既設配管を使用する場合は配管サイズにより片道配管長の制限が変わります。詳しくは「6. 既設配管対応」をご確認ください。
- トリプル機は、第1分岐後の片道配管長さにより使用方法が異なります。上表ならびに右図をご確認ください。
- ※1 L1は、片道長さが最大となる室内ユニットを接続してください。(La+L2)と(La+L3)は、L1に対し片道長さの差が3m以上10m以下の制限長さ内にしてください。

### 2) 冷媒配管サイズ選定

- 室内ユニットの仕様に合わせて以下の内容で冷媒配管サイズを選定してください。

室内ユニット接続	ZP112		ZP140		ZP160	
	ガス管	液管	ガス管	液管	ガス管	液管
冷媒管(主管)	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
室内ユニット管	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
分岐管	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
ツイン機の場合	φ12.7	φ9.52	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
トリプル機の場合	φ12.7	φ9.52	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52

#### △注意

- 接続する室内ユニットがP50/P56の場合、分岐配管(分岐機～室内ユニット)の液配管サイズは必ずφ9.52とし、室内ユニット液配管(φ6.35)への接続は分岐管セットに付属の異径継手を使用してください。
- 立ち上がり配管は主配管としてください。また、分岐管セットはできる限り室内ユニットに近いところに水平に分岐するように取付けてください。また、分岐部には付属の断熱材を取付けてください。
- トリプル機の場合は、本表に示す分岐管セットは第1分岐後の片道配管長さにより異なります。上表をご確認ください。

### 3) 冷媒配管の肉厚および材質

- 冷媒配管のサイズに対して以下の肉厚及び材質のものを選定してください。
- 本機はR32を使用します。外径19.05[mm]以上の配管についてはO材では耐圧が不足しますので、必ずφ12.7H材、肉厚1.0[mm]以上の配管をご使用ください。

配管外径 [mm] φ6.35 φ9.52 φ12.7 φ15.88

最小配管肉厚 [mm] 0.8 0.8 0.8 1.0

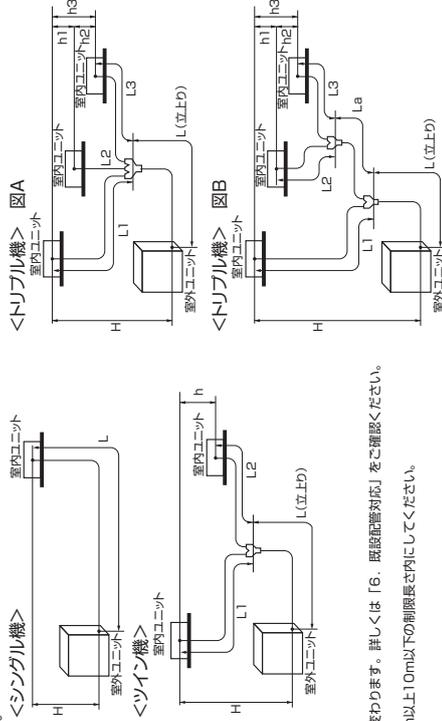
配管材質※ O材 O材 O材 O材

※1 断熱銅線目無管 C1220T、JIS H 3300

●配管の選定・施工については、必ず「冷凍保安規則関係例示基準」を厳守してください。

●配管肉厚は、最小配管肉厚以上のものを選定してください。

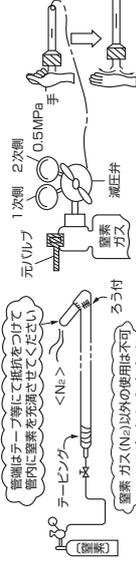
#### お留意



室内ユニット接続	ZP112		ZP140		ZP160	
	ガス管	液管	ガス管	液管	ガス管	液管
分岐管セット	φ12.7	φ9.52	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
冷媒配管(分岐機L1,L2,L3)	φ12.7	φ9.52	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
室内ユニット接続	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
分岐管	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
分岐管(分岐機L)	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
分岐管(分岐機L1)	φ12.7	φ9.52	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
分岐管(分岐機L2,L3)	φ12.7	φ9.52	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
室内ユニット管	φ12.7	φ9.52	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
室内ユニット管	φ12.7	φ9.52	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52

#### ろう付について

ろう付は必ず窒素ガスを流しながら行ってください。窒素ガスを流さないで多量の異物(酸化皮膜)が生成され、キャピラリーチューブや膨張弁詰りによる致命的故障の原因となります。



#### 4) 現地配管施工

**重要** 施工する配管はユニット内部部品に接触しないように注意してください。  
内部部品に接触すると、異音・振動が発生します。

##### サービスパネルの外し方

- サービスパネルは固定しているねじ2本（×印）を外し、パネルを矢印方向へ引き下げてから手前を外してください。
- ※引っぱ部（右）には倒れ込み防止の返しがついています。引き下げ後、少し持ち上げ手前に外してください。
- 配管の取出しは前・右・下・後が可能です。
- 配管貫通部のノックアウトの板を必要最小限の寸法で取外し、付属のエッジングを適当な長さで切断して配管接続前に取付けてください。
- 現地配管施工は、操作弁を全開にして行ってください。
- 配管内部に水分、異物が入らないように、管端の養生（漬）してらう付又は粘着テープによる）を十分に行ってください。
- 配管の曲げはできるだけ大きな半径（R100～R150）で行ってください。曲げをおしを何回も行わないでください。
- ユニットと冷媒配管との接続はフレア方式です。配管にフレアナットを取付け後、フレア加工を施してください。R32のフレア加工方法は、従来のR407Cとは異なります。R32またはR410A用フレアナットを推奨しますが、出し代調整用ゲージにて出し代B寸法を調整すれば、従来ツールを使用できます。取付け方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。
- フレア接続はダブルスパンで締付けてください。

**注意** フレアナットを適正トルクを超えて締めないでください。液剤、ガス制御弁ともにも右の絵のように操作弁本体を固定し、適正な締付トルクにて締付けをお願いします。

操作弁サイズ(mm)	締付トルク(N・m)	締付角度(°)	工具の推奨長さ(mm)
φ6.35 (1/4")	1.4~1.8	45~60	150
φ9.52 (3/8")	3.4~4.2	30~45	200
φ12.7 (1/2")	4.9~6.1	30~45	250
φ15.88(5/8")	6.8~8.2	15~20	300

#### 5) 気密試験

- ①室外ユニットおよび室内ユニット本体の気密試験は弊社にて実施済ですが、配管接続後、接続配管の気密試験を室外ユニット側の操作弁のチェックポイントより行ってください。尚、操作弁は必ず閉のままにして実施してください。  
(ア) 0.5MPaまで加圧したところで、加圧を止め5分間以上放置し、圧力の低下のないことを確認してください。  
(イ) 次に1.5MPaまで加圧し、再び5分間以上そのまま放置し、圧力の低下のないことを確認してください。  
(ウ) その後、規定圧力(4.15MPa)まで昇圧し、周囲温度と圧力をメモしてください。  
(エ) 約1分放置し、圧力が低下してはいなければ合格です。この際周囲温度が1℃低下すると圧力が約0.01MPa低下しますので補正を行ってください。  
(オ) (ア)~(エ)の確認で圧力低下の認められたものには漏れがあります。接続箇所、フレア部等に発泡試験液等を用いて漏れ箇所を発見し補修してください。補修後は再度気密試験を実施してください。
- ②気密試験には窒素ガスを使用し、窒素ガスによる加圧はガス側から行ってください。また窒素以外のガスは絶対使用しないでください。

#### 6) 真空引き

<作業フロー>



真空ゲージの針が上昇した場合系内には水分が残っているか、漏れ箇所があります。漏れ箇所をチェックし、修正後再度真空引きをしてください。

①下に従い、冷媒追加封入量を計算してください。  
<シングル機>

項目	冷媒配管(液管)1mあたりの追加チャージ量(kg)	工場出荷時チャージ量(kg)	追加チャージ不要の現地配管長さ(m)
容量	0.054	4.2	30
ZP112, ZP140, ZP160			

<ツイン機、トリプル機>

項目	冷媒配管(液管)1mあたりの追加チャージ量(kg)		工場出荷時チャージ量(kg)	追加チャージ不要の現地配管長さ(m)
	主管	分岐管		
容量	0.054	0.054	4.2	30
ZP112, ZP140, ZP160				

●室外ユニットは配管長30m相当分の冷媒量が工場出荷時に封入されており、30mまでは現場での追加チャージが不要です。それを超えた分については、配管長と上表より追加封入量を計算し追加封入してください。現場での追加チャージが必要となった場合、長配管設定として**現地設定スイッチSW7-1をON**にしてください。詳しくは5. 試運転の項を参照してください。

●既設配管を使用する場合は、液管サイズにより必要封入量が変わります。詳しくは「6. 既設配管対応」をご確認ください。

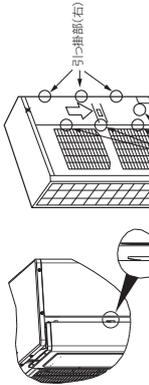
追加冷媒量計算式

$$ZP112 \sim ZP160 \quad \text{追加チャージ量 (m)} = (\text{主管長 (m)} - \text{チャージ分30 (m)}) \times 0.054 \text{ (kg/m)} + \text{分岐管総長 (m)} \times 0.054 \text{ (kg/m)}$$

※追加冷媒量の計算結果が負の場合は、追加チャージ不要です

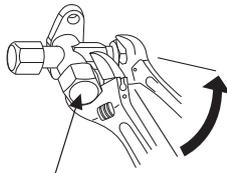
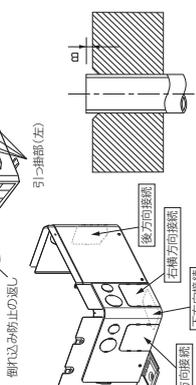
フレア管端部: A (mm)

細管外径	A	O
φ6.35	9.1	
φ9.52	13.2	
φ12.7	16.6	
φ15.88	19.7	



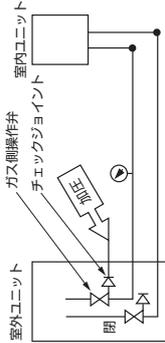
フレア加工の銅管出し代: B (mm)

細管外径	リジッド(クラツチ式)の場合 R32またはR410A用 ツール使用時	0~0.5	0.7~1.3
φ6.35			
φ9.52			
φ12.7			
φ15.88			



キャップ部にスパン掛けしないでください。

トルクレンチの使用をお願いします。トルクレンチがない場合はフレアナットを手締めした後、左表を目安にフレアナットを締付けてください。



本機はR32のため下記の点にご確認ください。

- 異種油の混入を避けるために、冷媒の種類により工具等を使い分けてください。特にゲージマニホールド、チャージホースは絶対に他冷媒(R22, R407C等)と共用しないでください。
- 真空ポンプ油が冷凍システム内に混入しないように、逆流防止アダプタを使用してください。



## 5. 試運転

### 警告

- 試運転の前に操作弁が全開になっていることを必ず確認してください。
- 試運転の6時間前に電源を入れ、クランクケースヒータに通電してください。
- 停止から運転までは、必ず3分以上待ってください。
- サービスパネルを外すと、高圧充電部・高温部が露出して危険です。感電や火傷に十分注意してください。また、サービスパネルを開けたまま放置しないでください。

### 注意

- 現地設定スイッチ(SW3, SW5)を操作する場合は、充電部に触れぬよう十分注意してください。
- 液操作弁のチャージポートから吐出圧力の検圧はできません。
- 四方弁(20S)は暖房運転時に通電されます。
- 電源遮断によりリセットする場合は、電源遮断より3分経過後に電源を再投入してください。3分経過後でなければ「室内外通信異常」が発生する場合があります。

#### 絶縁抵抗について

- 据付け直後、もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合、圧縮機に冷媒が溜まることにより、絶縁抵抗が数MΩまで低下することがあります。

- 絶縁抵抗が小さく、漏電ブレーカーが作動する場合は、以下の事項を確認ください。
- ① 電源を投入し、6時間程度経過後、絶縁抵抗が復帰するか確認する。
- ② 電源を投入することにより、圧縮機に通電加熱を行い、圧縮機に溜まった冷媒を蒸発させます。
- ③ 漏電ブレーカーが高調波対応品であるか確認する。

本機はインバータを装備しており、漏電ブレーカーの誤動作を防止するため、高調波対応品を使用してください。

### 1) 試運転方法

- (1) 現地設定スイッチSW3-3, 4により室外ユニット側から試運転が可能です。
- (2) SW3-3をONすることで圧縮機が運転します。
- (3) SW3-4がOFF状態で冷房試運転を行います。
- (4) **試運転終了後は、必ずSW3-3をOFFに戻してください。**

### 2) 運転状態のチェック

吐出圧力、吸込圧力の検圧は、室外ユニット内部の四方弁前後に取付けられたチェックポイント及び、ガス操作弁のチャージポートから行ってください。冷房運転・暖房運転による右表のように検出圧力は異なります。

電源投入1回目の起動時は、圧縮機保護のため圧縮機回転数をゆるやかに上昇させます。

**試運転時は1時間ほど連続運転させてから運転状態をチェックしてください。**

### 3) 現地設定スイッチSW3-1, SW3-2, SW7-1の設定

- (1) テフロスト制御切換え(SW3-1)
  - ・ ONすることでテフロスト制御に入り易くなります。
  - ・ 暖房シーズン時、外気温が氷点下以下となる地域は、設定をONにしてください。
- (2) 防雪ファン制御(SW3-2)
  - ・ ONすることで、外気温が3℃以下で圧縮機停止中、室外ファンが10分毎に30秒間運転します。
  - ・ 豪雪地帯で使用される場合は、設定をONにしてください。
- (3) 長配管設定(SW7-1)
  - ・ 現地での冷媒追加チャージが必要な場合は、設定をONにしてください。

### 4) 試運転時の故障診断

リモコン表示	室外基板LED表示(周期5秒)	故障内容	対策
E34	赤LED 1回点滅	電源線のゆるみ、外れのないことを確認	
E40	1回点滅	63H1作動、または操作弁閉運転(主に暖房時発生)	1. 操作弁が開いているか確認 2. 運転停止から3分経過後、異常が解消されない場合はリモコンからの点検リセットにより再起動可能
E49	1回点滅	連続点滅	連続点滅 低圧異常、または操作弁閉運転(主に冷房時発生)

● 上記以外の異常が表示される場合は、室外ユニットと室内ユニットの配線銘板をご覧ください。

### 5) 停止時の電子膨張弁の状態

電源投入時の通常停止時、および異常停止時の電子膨張弁の状態は右表の通りです。

電源投入時		通常停止時		異常停止時	
冷房用	暖房用	冷房時	暖房時	冷房時	暖房時
全閉	全開	全閉	全開	全開	全開
全開	全閉	全開	全閉	全閉	全閉

### 6) 電源ブレーカ投入後1回目の運転について

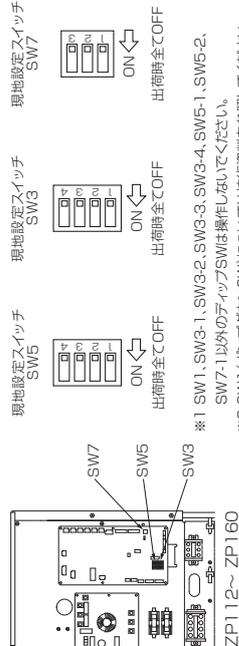
電源ブレーカ投入後1回目の起動において、圧縮機の油上がりを防止するため、リモコンに「運転準備中」が最大で30分間表示される場合があります。故障ではありませんが、「運転準備中」の表示が消えるまでお待ちください。

#### 試運転前の確認事項

確認の項目	確認項目	チェック
2	冷媒配管工事	ろう付した場合は、配管に露露ガスを流してろう付しましたか。 気密試験、真空引きは確実にを行いましたか。 配管の断熱材は液相ガス等の配管に取付けられていますか。 液相ガス液管前ガス管側の両方とも確実に開いていますか。 冷媒追加充量、冷媒配管長さをパネルのラベルに記入しましたか。 配管の接続忘れ、交差、交差はありますか。 遮断器、配線など電気機器は適正容量の機器を使用していますか。 接続配線の場合は、ユニット間の配線が入れ替わっていませんか。 リモコン側に室内外通信線が接続していませんか。 室内外配線は同一ケーブルを接続していませんか。 室内外配線はVVFケーブルまたはVVFP形ケーブルですか。 室内配線はVVFケーブルかケーブルボックス内に入っていますか。 アース工事は正確に工事が行われていますか。 他の機器のアース線と接続せず、単独でアースを取っていますか。 配線の取付部のねじが緩んでいませんか。 室内ユニットの配管作業は完了していますか。 室内ユニットに化粧パネルを取付けた場合は、化粧パネルの取付けが完了していますか。
4	電気配線	
1	室内ユニット	

#### 試運転手順

順番	操作内容	チェック
①	ガス側操作弁を全開にしてください。	
②	液側操作弁を全開にしてください。	
③	パネルを開けてください。	
④	リモコンによる現地設定を行う場合は、リモコンによる現地設定の説明に従って行ってください。	
⑤	SW3-3 ON / SW3-4 OFFで冷房試運転を開始します。	
⑥	SW3-3 ON / SW3-4 ONで暖房試運転を開始します。	
⑦	運転が開始したら、リモコンの向き側面ボタンを押して作動を確認してください。	
⑧	室内ユニットの取出口に手を当て、冷房時は冷風、暖房時は暖風が出ていることを確認してください。	
⑨	赤LEDが点滅しなくなったら、必ずSW3-3をOFFにしてください。	
⑩	オプション品を使用している場合は、各々の取扱説明書に従って機能の確認をしてください。	

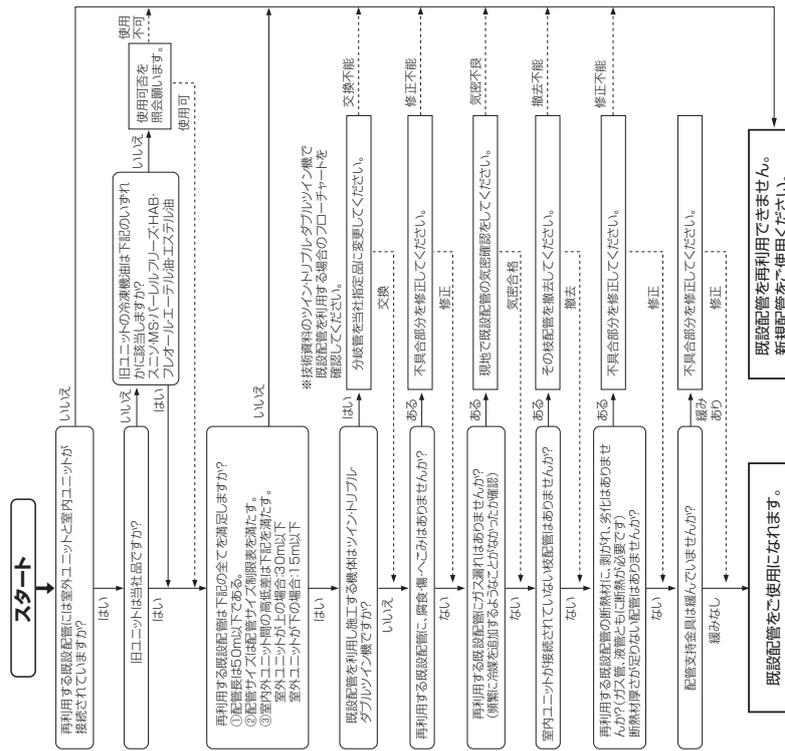


- ※1 SW1, SW3-1, SW3-2, SW3-3, SW3-4, SW5-1, SW5-2, SW7-1以外のチャイプ(SWI)は操作しないでください。
- ※2 SW1(ポンプダウンSW)については技術資料を参照してください。

ZP112~ ZP160

# 6. 既設配管対応

既設配管が再利用出来るかどうかを下記フローチャートを利用して判断してください。



エクシードハイバーの場合 (ZP112~ZP160) は、既設配管の洗浄運転が可能です。詳細はエクシードハイバー既設配管洗浄運転手順を確認ください。エクシードハイバーでの配管洗浄機能で使用になれない場合は以下の「注意」をご参照ください。

## 注意

### <既設ユニットが冷房運転可能な場合>

#### 既設ユニットで下配作業を要してください。 (① → ② → ③ → ④の順番)

- ① 30分間冷房運転
- ② ビニールシートなどで室内ユニット吸込口を完全に閉塞し3分間冷房運転 (液バグ運転)
- ③ 室外ユニットの液操作弁を締めポンプダウン (冷媒回収)
- ④ 窒素ガスによるブロー ※ブローにより変色した冷凍機油や油以外の残留物が排出された場合は「配管洗浄」または「新規配管」をお願いします。
- フレアネットは流用せず室外ユニット付属のものを使用してください。
- またフレアはR32用に再加工してください。
- 現地設定スイッチSW5-1をONにしてください。 (ガス配管サイズがφ19.05の場合)

<配管サイズ制限表> ●標準配管サイズ ○使用可能 △配管長制限短縮 ×使用不可

配管 m 当たりの追加チャージ量	0.02kg/m	0.054kg/m	0.11kg/m
液管	φ6.35	φ9.52	φ12.7
ガス管	φ15.88	φ19.05	φ15.88
適用可否	△	○**1	△
ZP112	取付通配管 20	100*2	50
チャージス味	10	30	15
ZP140	取付通配管 20	100*2	50
チャージス味	△	○**1	△
ZP160	取付通配管 20	100*2	50
チャージス味	10	30	15

<分岐管後配管> ●標準配管サイズ ○使用可能 ×使用不可 →対象外

配管サイズ	第一分岐※3		第二分岐	
	液管	ガス管	液管	ガス管
形式	組合せ	組合せ能力	φ9.52	φ9.52
ZP112	ツイン	56+56	φ12.7	φ15.88
ZP140	ツイン	71+71	φ12.7	φ15.88
ZP160	ツイン	80+80	○	○
	トリプルA	50+50+50	○	○
	トリプルB	50+50+50	○	○

※1: φ19.05×1.0は前任機種不足のため、室外ユニット基板上の「**スイッチSW5-1をON**」にしてください。(ツイン、トリプル機の場合、第1分岐以降の配管にφ19.05×1.0が存在する場合は含む)

※2: 分岐後の配管サイズは、主管と同じ径もしくは小さい径であること。

※3: 第1分岐から室内ユニットまでの配管サイズはφ9.52(液管)/φ12.7(ガス管)とすること。

●表に記載のない配管サイズの組み合わせ及び表の×の配管サイズの組み合わせは使用できません。

### 追加チャージ量計算式

追加チャージ量(kg) = 注配管長(m) × 一表のチャージス長(m) × 表の配管1m当たりの追加チャージ量(kg/m) + 分岐管総長(m) × 表の配管1m当たりの追加チャージ量(kg/m)

※計算の結果が負の値になる場合は追加チャージ不要です。

例) 既設配管20m(液管φ12.7、ガス管φ19.05)を使用して、ZP160(シングル機)を設置する場合。

(20m - 15m) × 0.11kg/m + 0.55kg = 追加チャージ量。

<分岐管を流用可能な既存ユニット機種>

ZP112~ZP160の場合 ●FDCJ\*\*\*H、HA、HD、HD1、HD2、HD3(A) ●FD3P\*\*\*HD3 ●FDCVJ\*\*\*HD3 ●FD3V\*\*\*HD3

●上記以外の機種 (FDCの後に「J」または「P」が付かない機種、当社製以外の機種、当社製以外の機種) 及び中温パッケージ既存ユニットの分岐管は耐圧強度不足のため使用できません。当社製R32用の分岐管を使用してください。

●\*\*\*には能力を示す数字が入ります。

### <既設ユニットが冷房運転できない場合>

別売のリニューールキットにより、既設配管をご使用できます。

- ① 冷媒回収機で冷媒を回収ください。
- ② 既設配管内の冷凍機油の汚れを確認ください。色標5.0以上の黒色、褐色(\*)、多量の残渣、異質がある場合「配管洗浄」または「新規配管」をご使用をお勧めします。\* 冷凍機油の色標はカタログの末頁を参考ください。
- ③ リニューールキットを取付しSW5-1をONによりご使用可能です。
- 「配管洗浄」を行う場合は、最寄りの代理店にお問い合わせください。

本説明書は冷媒配管工事に関する一般事項について示したものです。  
 室外ユニット据付説明書・室内ユニット据付説明書・他の説明書を合わせてご覧ください。

## 安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、「△警告」「△注意」に区分していますが、誤った据付けをしたときに、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に「△警告」の欄にまとめて記載しています。しかし、「△注意」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。⊘ 絶対に行わない ⚠ 必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそって「安全上のご注意」や正しい使用方法、お手入れの方法をご指導ください。
- 据付説明書は、取扱説明書と共に、お客様で保管頂くように依頼してください。またお使いになる方が代わられる場合は、新しくお使いになる方に、取扱説明書をお渡しくださるよう依頼してください。

### △ 警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。  
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニットの落下によるケガの原因になります。 
- 小部屋に据付ける場合は日本冷凍工業会のガイドライン JRA GL-13 に従い、万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要です。  
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度超えると酸欠事故の原因になります。 
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気する。  
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。 
- 据付工事完了後冷媒ガスが漏れていないことを確認する。  
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。 
- 配管、フレアナット、工具は R32 または R410A 専用のものを使用する。  
既存 (R22) 部材を使用すると、機器の故障と同時に冷媒サイクルの破損などの重大な事故の原因になります。 
- フレアナットの締付けはダブルスパナで行い、トルクレンチで指定の方法で締付ける。締付け過ぎによるフレア部の破損に注意してください。  
フレア部のゆるみ、締付け過ぎによる破損が発生した場合に、冷媒ガスが漏洩して酸欠事故の原因になることがあります。 
- 冷媒配管工事、機密試験および真空引きが完了するまでは、サービバルブ(液、ガス共)を開けないでください。  
冷媒配管が確実に取付けておらず、サービバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。また空気などを吸引し、冷媒サイクル内が異常高圧となり、破損、ケガ等の原因になります。 
- エアコンの設置や移設の場合、冷媒サイクル内に指定冷媒 (R32) 以外の空気等を入れない。  
空気が混入すると冷媒サイクル内が異常高圧になり、破損、ケガ等の原因になります。 
- 室内ユニットの近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。  
溶接作業時などに発生するスパッタがユニット内に侵入した場合、ドレンパン等に損傷 (ピンホール) をあたえ、水漏れ等の原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態にしておくとか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。 
- 冷媒配管の断熱は結露しないように確実にを行う。  
不完全な断熱施工を行うと配管等の表面が結露して、露たれ等が発生し、天井、床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。 
- 冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる機密試験を行い、漏れの無いことを確認してください。  
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になることがあります。 

### 冷媒R32対応機としての注意点

- R32以外の冷媒は使用しないでください。R32は従来の冷媒 (R22など) に比べ圧力が1.6倍高くなります。
- R32機は、他冷媒誤封入防止のため室外ユニット操作弁のチャージポート径とユニット内のチェックジョイント径を変更しています。又、耐圧強度を上げるため冷媒配管のフレア加工寸法及びフレアナットの対応寸法を変更しています。従って、施工、サービス時には、右表に示すR32またはR410A専用ツールを準備してください。
- 異種油の混入を避けるために、冷媒の種類により工具を使い分けてください。特にゲージマニホールド、チャージホースは絶対に他冷媒 (R22、R407C等) と共用しないでください。
- チャージシリンダは使用しないでください。チャージシリンダを使用すると冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。
- 冷媒封入は必ずボンベから液相で取り出して行ってください。
- 室内ユニットはR32またはR410A専用機となります。接続可能な室外ユニットはカタログ等で確認してください。(他の室内ユニットを接続すると正常に運転できません。)

	R32またはR410A専用ツール
a)	ゲージマニホールド
b)	チャージホース
c)	冷媒充填用電子はかり
d)	トルクレンチ
e)	フレアツール
f)	出し代調整用配管ゲージ
g)	真空ポンプアダプター
h)	ガス漏れ検知器

(表1)

## ① 現地配管と配管継ぎ手の準備

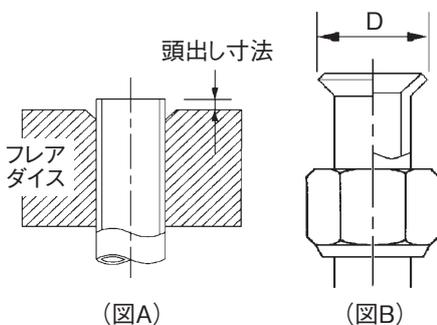
配管径 mm	最少肉厚 mm	質 別	フレアーナット 締付けトルク N・m
φ6.35	0.8	O材 OL材	14 ~ 18
φ9.52	0.8		34 ~ 42
φ12.7	0.8		49 ~ 61
φ15.88	1.0		68 ~ 82
φ19.05	1.2	1/2H材 H材	100 ~ 120
	1.0		
φ22.22	1.0		
φ25.4	1.0		
φ28.58	1.0		
φ31.75	1.1		
φ38.1	1.35		

JIS H 3300 C1220T リン脱酸銅継目無管 (表2)

- (1)配管及び配管継手は、その配管に傷がないこと、及び経時硬化していないものを用い、フレアー及びろう付管継手にあつては、JIS B 8607に規定したものをを使用すること。
- (2)フレアー加工する銅管はO材、OL材を使用する。また、R32冷媒で外径19.05mmはO材では肉厚1.2mmを使用しなければならない。
- (3)ろう付接続する銅管は、外径19.05 mm 以上は1/2H、又はH 材の使用を推奨する。
- (4)フレアーナットは製品付属のもの、又はJIS B 8607適合品を使用すること。

## ② 既設配管再利用時の確認・点検事項

既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料で確認すること。



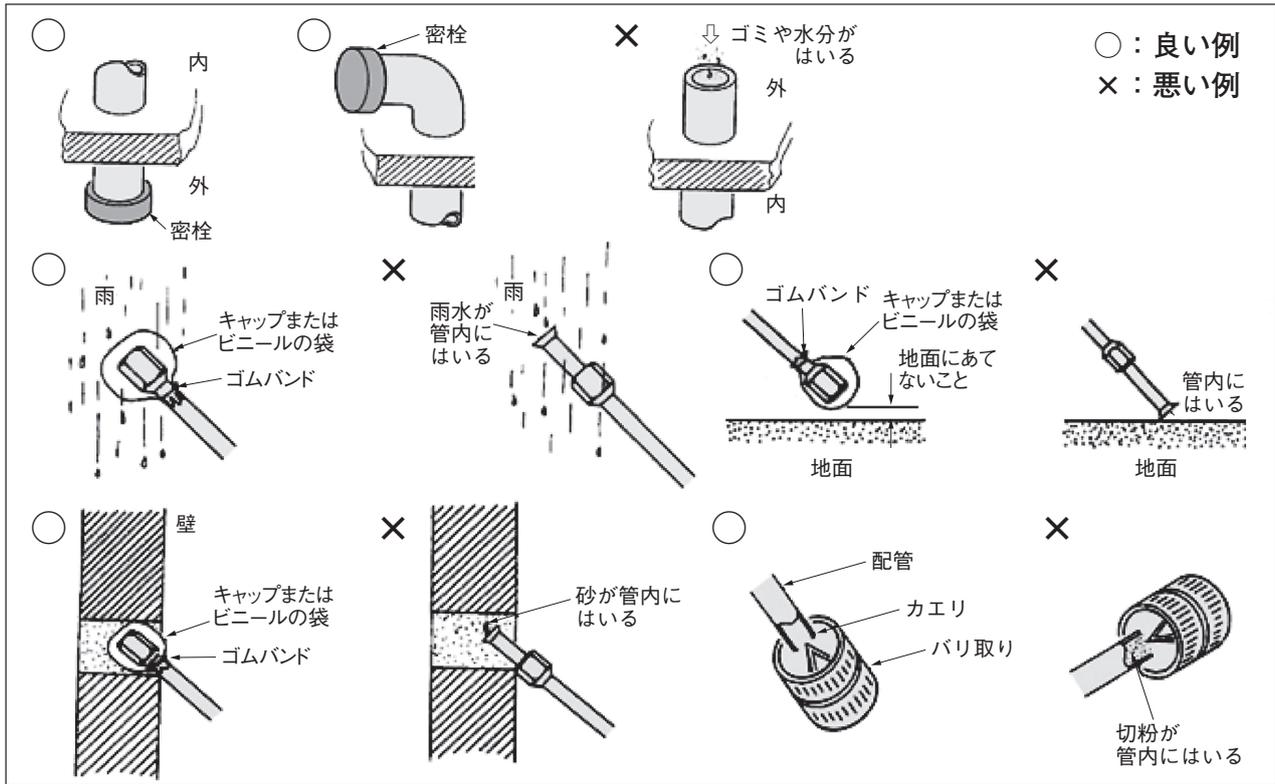
配管径 d mm	フレアー加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm
	R32	従来ツール	
φ6.35	0~0.5	0.7~1.3	φ8.9~φ9.1
φ9.52			φ12.8~φ13.2
φ12.7			φ16.2~φ16.6
φ15.88			φ19.3~φ19.7

(表3)

- (1)フレアーナットは流用せずユニットに付属のものを使用し、部分的に交換した新しい配管に、R32用のフレアー加工(図A、図B、表3)をしてください。
- (2)配管肉厚、設置年数、過去に配管腐食による漏えいの有無確認を行ってください。  
⇒再利用する既設配管に、ガス漏れはありませんか？
- (3)既設配管の気密確認をしてください。  
気密不良の場合、既設配管を再利用できません。新規配管をご使用ください。
- (4)配管に腐食、亀裂、傷、変形、劣化などが無いかを可能な限り点検してください。  
⇒再利用する既設配管に、腐食・傷・へこみはありませんか？
- (5)不具合部分を修正してください。  
⇒修正不能の場合、既設配管を再利用できません。新規配管をご使用ください。
- (6)再利用する既設配管の断熱材に、剥がれ、劣化はありませんか？  
配管支持金具は緩んでいませんか？
- (7)不具合部分を修正してください。  
修正不能の場合、既設配管を再利用できません。新規配管をご使用ください。

### ③冷媒配管施工上の注意点

(1)配管は、接続の直前まで密栓・キャップ等でカバーして水分、ゴミ、ほこり、切粉、壁材などが入らないようにすること。



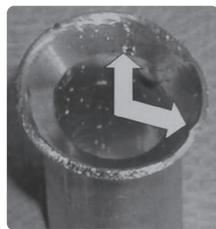
(図C)

(2)冷媒配管はできるだけ短く、直線になるように配管する。やむを得ず曲がりを取る場合は、曲げ半径を配管外径の4倍以上にすること。

(3)冷媒配管を曲げる場合はベンダを使用し、パイプが2/3D以下につぶれないようにすること。

(4)作業手順

- ①パイプ切断：パイプの長さに余裕（30～50mm）をもって、パイプカッタを使用し、切断面を直角にする。
- ②バリ取り：切り粉が配管内に入らないように、配管を下向きにして、リーマを使用する。
- ③バリの銅くず除去：配管内部の銅くずを、ドライバの柄などで軽くたたか、ガーゼ棒を使用して除去する。
- ④フレア加工：フレアナットを挿入し、フレアダイス面から配管先端までは適正な寸法でセットし（図A,表3）、フレア内面はキズがないように真円で均一に加工する。
- ⑤フレア部の確認：（図B、表3）にて寸法を確認し、図Dのような形状となっていないか確認する



コーン・位置不良によるキズ



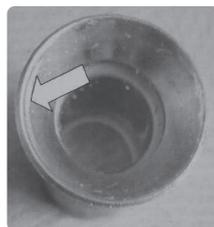
リーマ・やすりがけの切粉の付着



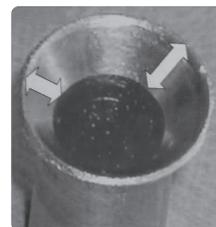
コーンに付着したゴミによるキズ



加工後の衝撃による変形



バリ取り不足による段差



曲ったパイプ使用による扁平

フレア加工の不具合例

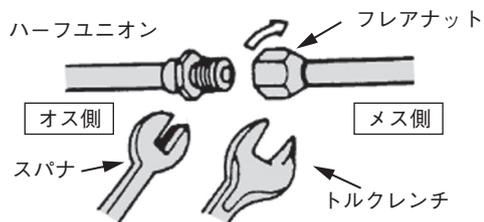
(図D)

### ③冷媒配管施工上の注意点の続き

(5)フレアーナットは、トルクレンチを使用して、表2のトルクで締付けること。

図の様にユニオン側又は操作弁側を固定して適性なトルクで締付ける。

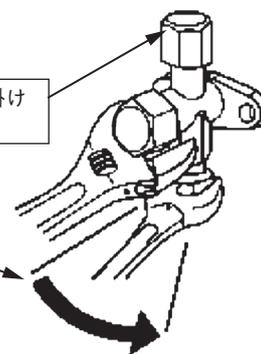
#### ■接続部(A)



#### ■接続部(B)

弁キャップ部にスパナ掛けしないでください。

トルクレンチの使用をお願いします。



(図E)

#### 注記

同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。

冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

### ④ろう付接続に関する注意点

(1)ろう付作業は高度な技術と経験を要するため、労働安全衛生法で定めた溶接技能士又は、ガス溶接技術講習を終了した者が作業すること

(2)ろう付接合面を重ね、そのすき間にろう材を溶着させるため、接合面積を十分に取り、適切なすき間を取る。

(3)銅管継手の最少はまり込み深さと、管外径と継手内径のすき間は、表4のとおり。

(4)銀ろうの場合のすき間は0.05mm~0.1mm程度が、接続強度を最も高くすることができる。

	配管径 D	最小はまり込み深さ B	すき間 A-D
	φ5 以上 φ8 未満	6	0.05~0.35
φ8 以上 φ12 未満	7		
φ12 以上 φ16 未満	8	0.05~0.45	
φ16 以上 φ25 未満	10		
φ25 以上 φ35 未満	12	0.05~0.55	
φ35 以上 φ45 未満	14		

(表4)

(5)ろう材については、次の注意事項を遵守する。

(a)亜硫酸ガス濃度が高いなど、腐食性雰囲気では、りん銅ろうBCuP はイオウと反応しやすく、水溶性のもろい化合物を作り、冷媒漏えいの原因となるので、他のろう材（例えば銀ろう）にする。また、ろう付部を塗装するなどの対策が必要。

(b)低温ろう（熔融温度が450℃未満のもの、いわゆる“はんだ”）は、強度が弱く冷媒漏えいを起こすおそれがあるため、使用しない。

(c)修理などで再ろう付する場合は、同一ろう材を使用する。ろう材の名称が同じでも号数が異なれば、再ろう付できない場合がある。



## ④ろう付接続に関する注意点の続き

(6)フラックスを使用する場合は、母材の種類、形状及びろう材の種類及びろう付の方法などによって、適切なフラックスの選定が必要となる。表5にフラックスの分類を示す。注意事項を次に示す。

- (a)ろう付後、フラックスを除去する。
- (b)フラックスに含まれる塩素が配管内に残量すると冷凍機油が劣化する原因になるので、塩素含有率の低いフラックスを選定する。
- (c)フラックスに水を追加する場合は、塩素を含まない蒸留水を使用する。その他、JIS Z 3621参照。

AW5 No.	使用形状	ろうのタイプ	活性温度範囲 単位 °C	フラックスの組成	母材の種類
FB3-A	ペースト	B <sub>Ag</sub> , B <sub>CuP</sub>	565~870	ほう酸塩 フッ化物	すべてのろう付できる 鉄, 非鉄金属合金
FB3-C	ペースト	B <sub>Ag</sub> , B <sub>CuP</sub>	565~925	ほう酸塩, ボロン, フッ化物	すべてのろう付できる 鉄, 非鉄金属合金
FB3-D	ペースト	B <sub>Ag</sub> , B <sub>CuP</sub> , B <sub>Ni</sub>	760~1205	ほう酸塩, フッ化物	すべてのろう付できる 鉄, 非鉄金属合金
FB3-K	液 状	B <sub>Au</sub> , B <sub>CuZn</sub> , B <sub>Ag</sub> , B <sub>CuP</sub>	760~1205	ほう酸塩, フッ化物	すべてのろう付できる 鉄, 非鉄金属合金
FB4-A	ペースト	B <sub>CuZn</sub> , B <sub>Ag</sub> , B <sub>CuP</sub>	595~870	塩化物, ほう酸塩, フッ化物	Al 青銅, Al 黄銅, Ti 及び他の 金属が少量添加されたもの

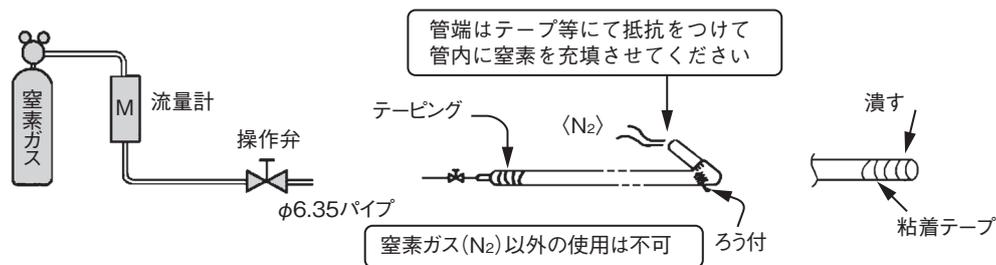
表5 フラックスの分類

(7)ろう付作業は、配管材の内部に酸化皮膜が発生しないように窒素ガスを流しながら（窒素ガスブロー）施工する。

(8)酸化皮膜が発生すると、はがれてキャピラリチューブ・膨張弁の詰まり及び圧縮機の故障の原因になる。

(9)作業手順は、次による。

- ①窒素容器に減圧弁と流量計を付ける。
- ②配管材に導く配管は細い銅管を使用し、容器側に流量計を取付ける。
- ③配管材と挿入する窒素用導管のすき間は、図Fのように外から空気が混入するのを防ぐためにシールする。
- ④窒素ガスを流すときは、配管側の端部は行き止まりにせず、抵抗を付けて開放する。
- ⑤窒素ガスの流量は0.05m<sup>3</sup>/h、又は減圧弁で0.02MPa (0.2 kgf/cm<sup>2</sup>) 以下が適当。
- ⑥ろう材に適した温度でろう付する。
- ⑦操作弁と配管とのろう付は、弁本体を濡れタオル等で冷やしながら実施してください。
- ⑧作業後、配管がある程度冷えるまで（手でさわられる程度、やけど注意）窒素ガスを流したままにする。
- ⑨ろう付作業後フラックスは完全に除去する。



(図F)

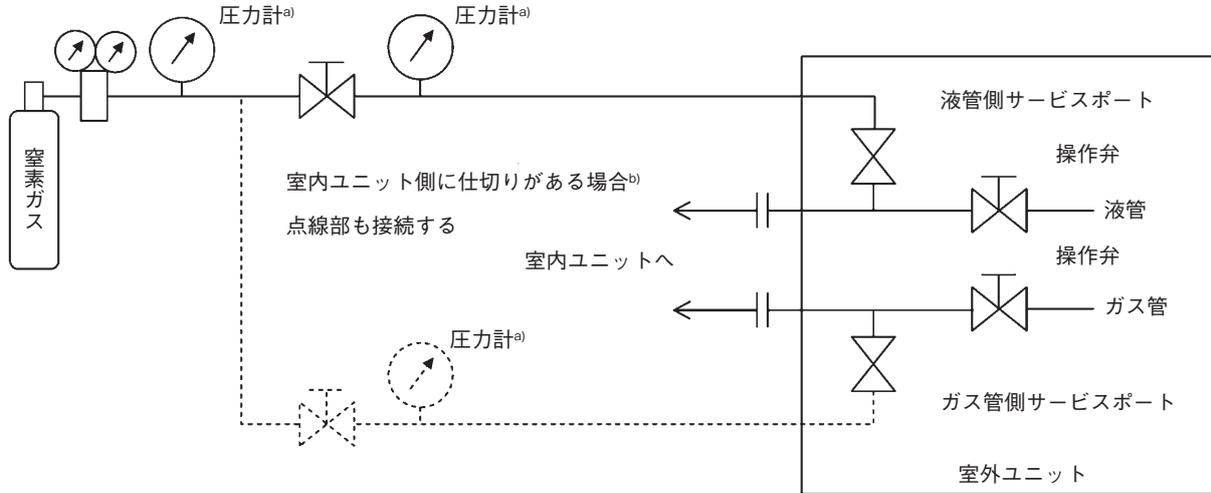
(10)ろう付時の注意事項は、次による。

- (a)過熱防止 ろう付加熱により母材の内外面は酸化するが、特に配管内部の加熱酸化によるスケールの生成は冷媒系統のゴミとなり、致命的な悪影響を及ぼすので、ろう付適正温度でしかも必要最小限の加熱面積でろう付する。
- (b)過熱保護 バーナーの火災によるろう付部に近い部品の火災による過熱損傷及び変質を防ぐため、金属板による遮蔽保護並びにウエスを水に浸して保護する、又は熱吸収材を使い過熱保護する。
- (c)ろう付後の冷却 加熱後すぐに水をかけると、配管が劣化する場合もあるため、水をかけないことを推奨する。
- (d)ろう付時の固定 熔融したろう材が凝固する時、動いたり振動が伝わったりすると、ろう付部に割れが入り漏えいの原因となる。
- (e)酸化防止剤について ろう付作業の効率化のため、各種酸化防止剤が出回っている。しかし、その成分は多種多様であり、中には配管を腐食し、HFC 冷媒及び冷凍機油などに悪影響を及ぼすことが予想されるものもあるので、注意を要する。

## ⑤ 気密試験

配管施工が終了した後、漏えいの有無を検査するため、配管に窒素ガスを加圧封入し圧力計の針の動きによって漏えいがないことを確認する。

図Gに示す装置を用いて窒素ガスにより加圧し、漏えいが予想される箇所には発泡液を塗布して泡の発生がないことを確認する。



(図G)

注a) 文字板の大きさは、75mm以上のものを使用する。最高目盛は、試験圧力の1.25倍以上2倍以下のものを使用する。精度1.6級以上のものを使用する。

注b) 店舗用：室内ユニット側に仕切りがない場合は、ガス管/液管どちらか片方からの加圧のみでも可。

マルチ：室内ユニット側に膨張弁等による仕切りがある場合は、ガス管/液管両方に加圧すること。

(新品出荷時点は膨張弁は開で出荷。通電後に停止した場合は膨張弁は閉となっています。)

### (1) 気密試験方法

① 気密試験は、窒素ガスで機器の気密試験圧力まで、冷媒配管内を加圧して行うため、図Gを参考に器具類を接続する。

注記1 気密試験時に機器を運転してはならない。

注記2 加圧ガスにはフロン類、酸素及び可燃性ガスなどは絶対に使用しない。

注記3 機器側の操作弁は閉じたままとし、配管施工部以外に加圧しないように注意する。

注記4 室内ユニット側に膨張弁等による仕切りがある場合は、必ず液管、ガス管の両方に加圧し気密試験を実施する。

注記5 ろう付後、配管温度が下がらないうちに加圧すると、冷却後に減圧するので注意する。

② 加圧は一度に試験圧力値まで昇圧せず、徐々に加圧する。

注記1 0.5MPaまで加圧したところで、加圧を止めて5分間以上放置し、圧力の低下のないことを確認する。

注記2 1.5MPaまで加圧し、再び5分間以上そのまま放置し、圧力の低下のないことを確認する。

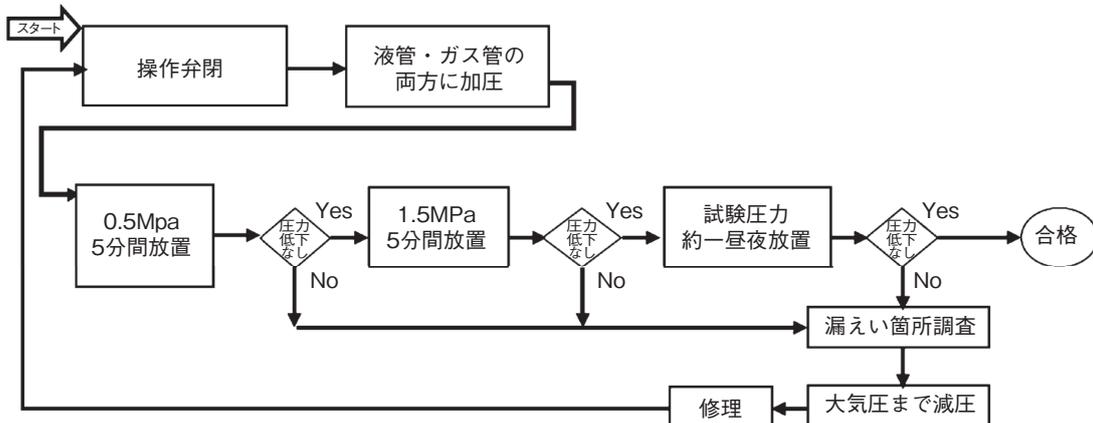
注記3 その後に試験圧力値まで昇圧し、周囲温度と圧力をメモする。

③ 規定値で約一昼夜放置し、圧力が低下していなければ合格とする。

容器内の気体の圧力は絶対温度に比例するため、外気温度による圧力変動に注意する。

例 (測定時絶対圧力) = (加圧時絶対圧力) × { (273+測定時温度(°C)) / (273+加圧時温度(°C)) }

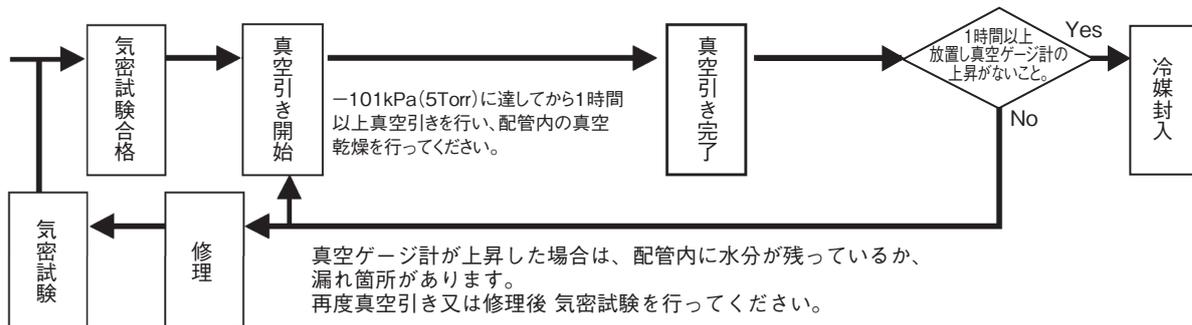
④ 上記②,③の確認で、圧力低下が認められた場合は漏えいがあるので、必ず補修し再度漏えいのないことを確認する。



(図H)

## ⑥真空引き

- (1)気密試験合格後に冷媒配管内部の空気、又は窒素ガスを排除するため、真空ポンプで真空引きを行ってください。
- (2)冷媒によるエアバージは、冷媒の放出を伴うため、禁止されています。
- (3)真空ポンプ油が冷凍システム内に混入しないように、逆流防止アダプタを使用してください。



(図J)

## ⑦冷媒の封入と記録 操作弁を開く

- (1)冷媒の封入は必ずはかりを使用して計量しながら行ってください。チャージシリンダは絶対使用しないでください。
- (2)操作弁を閉じたまま、必ず液側のサービスポートから液冷媒で封入してください。規定量が封入できない場合は、室外ユニットのバルブを液側、ガス側ともに全開にした後、冷房運転を行いガス側(吸入側) サービスポートから封入します。ただし圧縮機保護のため、ポンペのバルブを絞る気味にするか、液冷媒を霧状に変換する専用ツールを使用して、ユニットに吸引された時にはガス化しているように調整してください。
- (3)運転しながら冷媒封入する場合は必ず30分以内に完了してください。冷媒不足の状態で長時間運転されますと圧縮機の故障の原因となります。
- (4)室外ユニット説明書に従って配管長から算出した冷媒量を決定し、その追加した冷媒量を室外ユニットサービスパネル裏面の冷媒量記入欄に記入してください。
- (5)冷媒封入作業完了後、冷媒液側及びガス側の操作弁を全開にしてください。
- (6)バルブはキャップを被せ、所定のトルクで締付けてください。  
チャージポート・チェックジョイントのキャップの締付けトルク：11～13N・m  
操作弁のキャップの締付けトルク：30～33N・m

## ⑧配管の断熱工事

- (1)断熱工事は、気密試験の時に漏えいを検出可能なように、気密試験実施後に行う。
- (2)埋設配管途中に配管継手がある場合は、接続箇所の点検が可能ないように点検口などを設けてください。
- (3)配管接続部が天井内にある場合にも必ず点検口を設けてください。
- (4)断熱材は120℃以上の耐熱性のあるものをご使用ください。耐熱性が低いと断熱不良や電線劣化の原因となります。
- (5)防露断熱工事に不備があると、水漏れまたは露たれが発生し、家財等を濡らす原因となることがあります。
- (6)ガス管は冷房運転時、配管に結露したものがドレン水となり水漏れ事故となることがあります。また、暖房時には吐出ガスが流れ、管表面温度が高温となるため、人に接触すると火傷などの危険があります。
- (7)室内ユニットのフレア接続部分は断熱材(パイプカバー)で断熱してください。(ガス管・液管共に断熱してください。)
- (8)断熱はガス側、液側配管共両方に行ってください。その際断熱材と配管を密着させて隙間ができないように接続線と共に外装テープで巻いてください。
- (9)本エアコンはJ I S露付条件で試験を行い不具合のないことを確認しておりますが、相対湿度70%※を超える天井内等では、ガス側、液側配管共厚さ20mm以上の断熱が必要となります。  
※中温パッケージの場合は相対湿度60%

(5) 既設配管洗浄運転手順

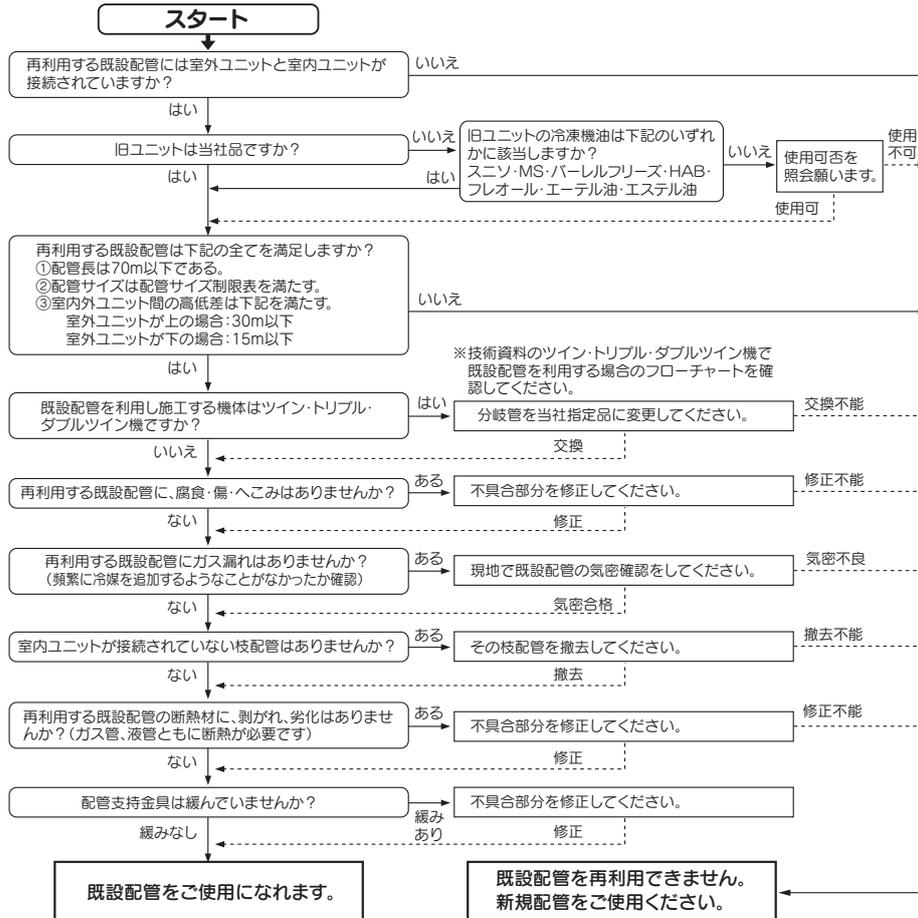
(a) ご使用の前に確認いただきたい事項

PSC012D013B

●既設配管流用時の条件

注意ポイント	配管	この手順書での記載項
クリーン (CLEAN) ・配管内にゴミがないこと	・既設配管は既設機ユニットに接続された状態であること。 外れた状態では、既設配管内に雨水、空気が浸入し配管内が錆びている可能性があります。 ・フロン回収破壊法に従い。確実に冷媒回収を行うこと 冷媒をみだり大気中に放出すると、罰則が適用される場合があります。 ・内蔵の洗浄回路により、指定の時間洗浄運転ください。	⇒1 (b) 既設配管流用可否判断フローチャート ⇒2 既設配管流用時の現地施工手順 ⇒3 洗浄運転
ドライ (DRY) ・配管内に水分がないこと	・確実な真空引きの実施 -101kPa(-755mmHg) 以下になってから1時間以上真空ポンプの運転を実施。	⇒2 既設配管流用時の現地施工手順
タイト (TIGHT) ・冷媒もれがないこと	・既設配管に腐食・傷・へこみがないこと。更に断熱材の剥れ・劣化がないこと。 ・R32用のフレアナットの使用かつフレア加工の実施。 ・気密試験(規定圧力:4.15MPa)を確実にすること。	⇒同封の据付説明書の2 冷媒配管工事を参考ください ⇒2 既設配管流用時の現地施工手順

(b) 既設配管流用可否判断フローチャート



〈配管サイズ制限表〉

◎:標準配管サイズ ○:使用可能 △:配管長制限短縮 冷↓:冷房能力低下 ×:使用不可  
●表に記載のない配管サイズの組み合わせは使用できません。

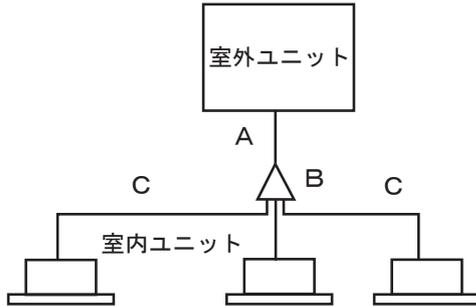
配管サイズ	液管	0.02 kg/m				0.054 kg/m		0.11 kg/m	
		φ6.35	φ6.35	φ9.52	φ9.52	φ9.52	φ12.7	φ12.7	
ZP80	ガス管	φ12.7	φ15.88	φ12.7	φ15.88	φ19.05	φ15.88	φ19.05	
	適用範囲	冷↓	△	冷↓	◎	○※1	△	×	
	最大片道配管長	20	20	70	70	70	35	×	
ZP112	チャージス長	10	10	30	30	30	15	×	
	適用範囲	×	△	×	◎	○※1	△	△※1	
	最大片道配管長	×	20	×	70	70	50	50	
ZP140	チャージス長	×	10	×	30	30	15	15	
	適用範囲	×	△	×	◎	○※1	△	△※1	
	最大片道配管長	×	20	×	70	70	50	50	
ZP160	チャージス長	×	10	×	30	30	15	15	
	適用範囲	×	△	×	◎	○※1	△	△※1	
	最大片道配管長	×	20	×	70	70	50	50	
ZP160	チャージス長	×	10	×	30	30	15	15	

※1: φ19.05 × t1.0は耐圧強度が不足のため、ZP112,140,160の場合は、室外ユニット基板上のディップSW5-1をONにしてください。ZP80の場合は、ディップSW7-1をONにしてください。(ツイン・トリプル・ダブルツイン機の場合、第1分岐以降の配管にφ19.05 × t1.0が存在する場合を含む)ただし、1/2H材または肉厚1.2以上の配管を使用の場合は必要ありません。

※2: ZP80は配管長の下限は3mとしてください。3m以下の場合、冷媒充填量を減らす必要があります。冷媒回収、再充填を行う場合は最寄の代理店にお問い合わせください。

(c) 分岐間使用時の留意点

ツイン・トリプル機にて既設配管を使用する場合は、下記の該当項目を確認してください。



室外ユニット容量 (馬力)		ZP80	ZP112	ZP140	ZP160
A部	主管	(b) 項既設配管使用可能範囲を参照			
B部	分岐管	当社製ユニット分岐管の場合一部使用可。(c) 項参照			
C部	分岐後配管	配管サイズにより、一部使用可。			

■ツイン,トリプル機で既設配管を使用する場合,下記フローチャートで主管・分岐管・分岐後配管の流用可否を確認してください。



表1 〈分岐管後配管〉

◎：標準配管サイズ ○：使用可能 ×：使用不可

配管サイズ	液管		0.054kg/m		
	ガス管		φ9.52	φ12.7	φ15.88
ZP80	ツイン	40+40	◎	○	×
ZP112	ツイン	56+56	◎	◎	○※1
ZP140		71+71	×	◎	○※1
ZP160	ツイン	80+80	×	◎	○※1
	トリプル	50+50+50	◎	○	×

<注意>

既設配管がツイン・トリプル機で、第1分岐後の液配管にφ6.35をご使用の際はφ9.52に変更お願いいたします。

※2:<分岐管流用可能な既存ユニット機種>

112~160:FDCJ~H,FDCJ~HA,FDCJ~HD,FDCJ~HD1,FDCJ~HD2,FDCJ~HD3(A),FDCP~HD3以降のFDCの後に" P"がつく形式

※~には能力を示す数字が入ります。 ※既存ユニットがFDC~ではじまる形式の場合(FDCの後に" J"または" P"がつかない形式。例:FDC125H8A),分岐管は流用できません。 R32用の分岐管を使用してください。(分岐管にオリフィスが無いため室内ユニット間の分配不良となります。また耐圧不足となります。)

(6) 電気配線工事  
(a) FDTZ シリーズ

PSC012D051

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

安全上のご注意

- 作業前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく作業してください。  
**安全のため必ずお守りください。**
- 誤った作業、行為をしたときに生じる危害や損害を「△警告」と「△注意」に区分し、お守りいただく内容を「図記号」を使用し説明していますので、必ずお守りください。
- 「△警告」「△注意」の意味

 <b>警告</b>	守らないと、死亡または重大な障害にいたる危険性がある事項について説明しています。
 <b>注意</b>	守らないと、傷害や物的損害ある事項について説明しています。

- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。  絶対に行わない  必ず指示に従い行う
- 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

 <b>警告</b>	
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。	
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。	
●別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。 ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。	
●改修は絶対に行わない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	
●室内外ユニットを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。 据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	
●室内外ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	
●元電源を切った後に電気工事をする。 感電、故障や動作不良の原因になります。	

 <b>注意</b>	
●アース（接地）を確実に行う。 アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。	
●電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。 漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。	
●正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。 不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。	
●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。 針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。	
●電源配線は、電流容量に合った規格品の配線を使用する。 漏電や発熱・火災などの原因になることがあります。	
●室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。 また、異なったサイズの単線またはより線を併用しない。 端子台のねじゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。	
●運転停止後、すぐに電源を切らない。 必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。	
●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。 火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。	

制御の切換え・機種容量の設定

- 室内ユニットの制御内容を下記方法にて切換え可能です。（ は工場出荷時の設定）

スイッチ No.	制御内容
SW2	室内アドレス (0 - Fh)
SW5 - 1	親 / 子切換え (ブルーラル / 子機設定)
SW5 - 2	

スイッチ No.	制御内容	
SW6 - 1 ~ 4	機種容量	
SW7 - 1	ON	運転チェック・ドレンポンプ試運転
	OFF	通常運転

## 制御の切換え・機種容量の設定 (つづき)

- 本室内ユニットはマルチV接続の場合、それぞれの室内ユニットの機種容量設定が必要です。  
室内ユニットの制御箱内の基板上的スイッチで機種設定してください。(シングル・ツイン・トリプル・Wツイン接続の場合は不要)

**マルチV接続の場合** ※：異機種 / 異容量, 同機種 / 異容量, 異機種 / 同容量の室内ユニットを接続する場合

- ①電源投入前に、室内ユニットの制御箱内の基板上的スイッチで機種設定してください。マルチV接続の場合、形式により設定できる機種容量は下表のとおりです。これ以外に設定しないでください。正常に運転できません。また破損の原因となります。

形式	—	63		71	80	160		
容量	自動	50	56	63	71	80	112	140
SW6-1	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	OFF
SW6-2	OFF	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON	OFF
SW6-3	OFF	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON
SW6-4	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON

注1：工場出荷時の設定は自動(全てOFF)になっています。

注2：シングル・ツイン・トリプル・Wツイン接続の場合でもスイッチを自動以外の状態に設定すると、設定した機種容量として認識してしまいます。

- ②“①電源・室内外配線の接続”で室内ユニットの機種容量を確認してください。

**シングル・ツイン・トリプル・Wツイン接続の場合** ※同機種 / 同容量の室内ユニットを接続する場合

- ①室内ユニットを室外ユニットに接続すると自動で機種容量を認識するので、設定は不要です。
- ②“①電源・室内外配線の接続”で室内ユニットの機種容量を確認してください。

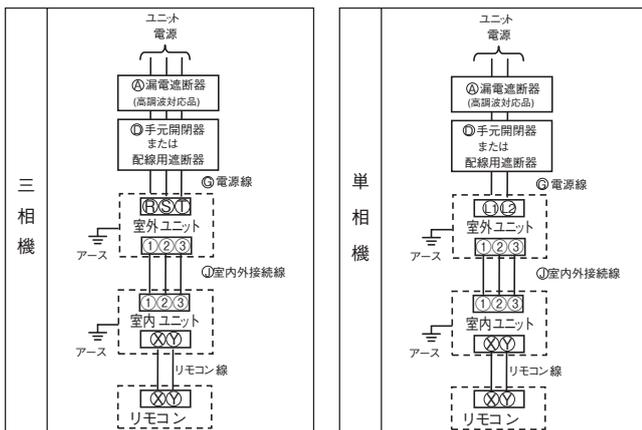
## ①電源・室内外配線の接続

- 電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。
- ①配線は銅線以外のものを使用しないでください。
- ②電源は、室外ユニットへ接続してください。
- ③電気ヒータ(別売品)はなしにて記載してあります。注：電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。
- アース線は室内外接続線及び室内ユニット間配線の接続前に接続してください。また、アース線は室内外接続線より長くし、アース線に力がかからないようにしてください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 端子台への接続は、丸型圧着端子を使用してください。
- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカ落ちによる二次災害が生じる恐れがあります。
- 室内外接続線は必ず3心ケーブルを使用してください。詳細は室外ユニットに付属の据付説明書を参照ください。
- 室内外接続線は途中接続しないでください。途中接続した場所に水が浸入すると、対地間絶縁不良や途中接続部の接触不良をまねき、通信異常の原因となります。(万一、途中接続する場合には、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。)
- 天井裏内の配線(電源・リモコン・室内外接続線など)はネズミ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の保護管内に通してください。
- 室内外ユニットの外部では、リモコン線と電源線が直接接触しないように施工してください。
- リモコン用端子台には、AC 200V電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
- 室内外接続線・室内ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続
  - ①室内外接続線・室内ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続は、制御箱内の電源側端子台、リモコン側端子台に接続してください。室内外接続線の①②③は極性がありますので、必ず番号を合わせて接続してください。また、アース線は、電源側端子台アース端子に接続してください。
  - ②電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器(三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品)を選定してください。
  - ③漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器(開閉器+B種ヒューズ)または、配線用遮断器が必要となります。
  - ④手元開閉器は室外ユニットの近傍に設置してください。
- 配線の接続はねじの緩みのないように確実に行ってください。また、制御箱内のコネクタの抜けや端子外れがないことを確認してください。
- 補助電気ヒータ組込の場合は、電気ヒータ組込時の説明書・または技術資料で確認してください。



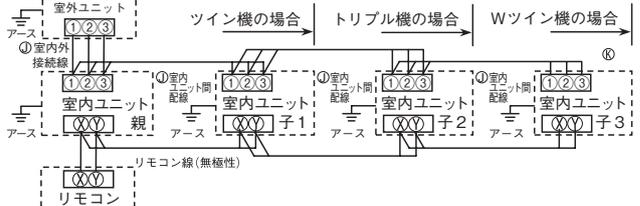
### シングル接続の結線

- ①室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。  
※例外的な接続方法の場合は技術資料を参照の上、所轄の電力会社にご相談の上、指示に従ってください。



### ツイン・トリプル・Wツイン接続の結線

- ①親・子室内ユニット間は端子台①②③及びⓧⓎの同一番号間を接続してください。
- ②室内基板上的のロータリスイッチSW2により、同一冷媒系統すべての室内ユニットを同一アドレスに設定してください。
- ③子室内ユニットは、室内基板上的のアドレススイッチSW5-1、SW5-2により、子1~子3に設定してください。



### 室内ユニット本体の親・子設定方法 (工場出荷時「親」設定)

室内ユニット	親	子1	子2	子3
室内基板 SW	SW5-1	OFF	ON	ON
	SW5-2	OFF	ON	ON

## ② リモコンの取付け (別売部品)

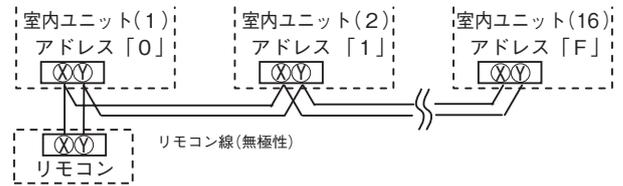
- 取付けの詳細はリモコンの据付説明書を参照ください。
- 次の位置へ取付けないでください。
  - 直射日光の当たる所
  - 湿気の多い所、水が飛散する所
  - 油の飛沫や蒸気が直接触れる所
  - 発熱器具に近い所
  - 取付け面が発熱・結露する所
  - 取付け面の凹凸がある所

### リモコン取付け・配線

- ① リモコンの取付けは、リモコン付属の説明書に従ってください。
- ② リモコン線は、0.3mm<sup>2</sup>×2心の電線またはケーブルを使用してください。配線の被覆は1mm以上のものを使用してください。(現地手配)
- ③ リモコン線の総延長は600mです。  
延長距離が100mを超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm<sup>2</sup>以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。
  - 100～200m以内・・・0.5mm<sup>2</sup>×2心
  - 300m以内・・・0.75mm<sup>2</sup>×2心
  - 400m以内・・・1.25mm<sup>2</sup>×2心
  - 600m以内・・・2.0mm<sup>2</sup>×2心
- ④ 誤動作する場合がありますので、多芯ケーブルの使用は避けてください。
- ⑤ リモコン線はアース(建物の鉄骨部分または金属など)からできるだけ離してください。
- ⑥ リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。(極性はありません)

### 1リモコンによる複数台室内ユニット制御

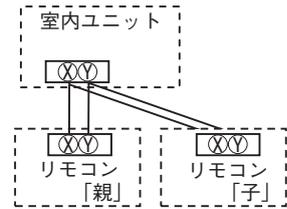
- ① 1つのリモコンで複数台の室内ユニット(最大16台)をグループ制御できます。同一モード、同一室温設定で運転します。
- ② グループ制御用に各室内ユニット間を2心のリモコン線にて渡り配線してください。
- ③ 室内ユニットの基板上的ロータリスイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。



### 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン+ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。

- 1 個を「親」に、残りを「子」に設定してください。
- 注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。



## ③ リモコンからの操作・確認方法

- 電源投入後、接続されている室内ユニットの機種容量とアドレスがリモコンに表示されることを必ず確認してください。(アドレス確認はシングル接続を除く)

### eco タッチリモコン (RC-DX3) の場合



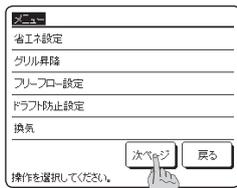
- 1 メニューをタッチする。メニュー画面に切り替わります。



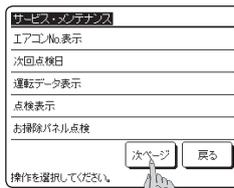
- 4 サービスパスワードを入力する。  
5 セットをタッチする。サービス・メンテナンスの画面に切り替わります。

室内機No.	容量
000	40
001	71
002	80
003	112
004	224
005	280

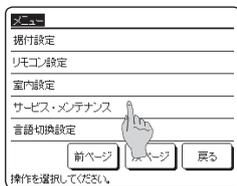
- 8 接続されている室内ユニットのアドレスNo.(室内機No.)と機種容量(容量)が表示されます。



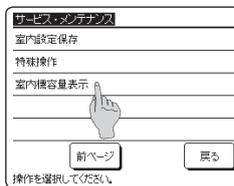
- 2 次ページを3回タッチする。



- 6 次ページをタッチする。



- 3 サービス・メンテナンスをタッチする。パスワード入力画面に切り替わります。



- 7 室内機容量表示をタッチする。

### ③ リモコンからの操作・確認方法 (つづき)

標準リモコン (RC-D4G) の場合 機種容量は確認できません。

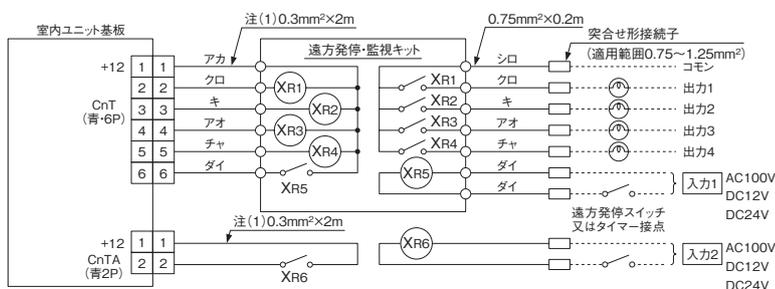


- 1 エアコンNo.ボタンを押す。  
室内ユニットアドレスが表示されます。
- 2 ▲▼ボタンを押す。  
接続されている室内ユニットのアドレスが表示されます。

カバーを開けた状態です。また、液晶表示部は全表示してあります。

eco タッチリモコンから操作	標準リモコンから操作
1 リモコン系統内の接続室内ユニットの接続台数および機種容量を確認します。(標準リモコンは機種容量を確認できません。) ツイン・トリプル・Wツイン接続の子機を確認します。	1 エアコン No. ボタンを押すと室内アドレスが表示されますので、▲ ▼ ボタンで接続されている室内ユニットアドレスを1台ずつ確認してください。
[メニュー] ⇒ [次頁] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [パスワード] ⇒ [エアコン No. 表示]	2 リモコン系統内の接続室内ユニットの接続を個別に確認します。ツイン・トリプル・Wツイン接続の親子機の確認はできません。
2 リモコン系統内の接続室内ユニットの接続を個別に確認します。ツイン・トリプル・Wツイン接続の親子機の確認はできません。	停止中、エアコン No. ボタンを押すと室内アドレスが表示されますので、▲ ▼ ボタンで接続されている室内ユニットアドレスを1台選択⇒[運転切換]を押すと送風運転します。
停止中、[メニュー] ⇒ [次頁] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [パスワード] ⇒ [エアコン No. 表示] ⇒ [個別送風運転]	3 親子リモコン設定
3 親子リモコン設定	[メニュー] ⇒ [次頁] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [パスワード] ⇒ [リモコン親子設定]
4 運転データの確認方法	子リモコンの切換えスイッチ (SW1) を「子」に設定してください。
[メニュー] ⇒ [次頁] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [パスワード] ⇒ [運転データ表示]	4 運転データの確認方法
[メニュー] ⇒ [次頁] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [パスワード] ⇒ [運転データ表示]	[点検] ⇒ 運転データ表示▼ ⇒ [セット] ⇒ データ確認中 ⇒ 室内機選択 ⇒ ▲ ▼ ボタンで接続されている室内アドレスを1台選択 ⇒ [セット] ⇒ データ確認中 ⇒ ▲ ▼ データ選択
5 点検表示の確認方法	5 点検表示の確認方法
[メニュー] ⇒ [次頁] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [パスワード] ⇒ [点検表示]	[点検] ⇒ 運転データ表示▼ ⇒ [▼] ⇒ エラーデータ表示▲ ⇒ [セット] ⇒ データ確認中 ⇒ データ表示
6 リモコンからの冷房試運転方法	6 リモコンからの冷房試運転方法
[メニュー] ⇒ [次頁] ⇒ [据付け設定] ⇒ [パスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [冷房試運転] ⇒ [開始]	① [運転/停止] を押して、運転します。 ② [運転切換] により、「冷房」を選択します。 ③ [試運転] を3秒以上押します。表示が、「冷房試運転▼」となります。 ④ [冷房試運転▼] の表示で、[セット] ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は、「冷房試運転」となります。
7 リモコンからのドレンポンプ試運転方法	7 リモコンからのドレンポンプ試運転方法
[メニュー] ⇒ [次頁] ⇒ [据付け設定] ⇒ [パスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [ドレンポンプ試運転] ⇒ [運転]	① [試運転] を3秒以上押します。表示が「冷房試運転▼」となります。 ② [▼] を一度押し、「ドレンポンプ運転」を表示させます。 ③ [セット] を押すと、ドレンポンプ運転を開始します。表示:「セットで停止」

### ④ 室内基板 C n T コネクタの機能



注(1) 2mより長くしないでください。

- XR1~4はDC12Vリレー (オムロン製LY2F相当品)
- XR5は、DC12、24VまたはAC100Vリレー (オムロン製MY2F相当品)
- CnTコネクタ (現地側) メーカー、形式  
コネクタ: モレックス製 5264-06  
端子: モレックス製 5263T
- 遠方発停・監視キットを別売品にて準備しておりますのでご利用ください。
- CnTAコネクタは、FDT他に搭載仕様書で確認願います (現地側) メーカー、形式  
コネクタ: 日本圧着端子JST製 XAP02V-1-E  
端子: 日本圧着端子JST製 SXA-01T-P0.6

- 出力1~4, 入力1・2を下記の項目より自由に選択・設定することができます。
- 工場出荷時は下記のように設定されています。

#### 出力

① 運転出力	⑧ ファン運転出力3
② 暖房出力	⑨ デフロスト、油戻し出力
③ 圧縮機 ON 出力	⑩ 換気出力
④ 点検 (異常) 出力	⑪ ヒータ出力
⑤ 冷房出力	⑫ フリークーリング出力
⑥ ファン運転出力1	⑬ 室内過負荷異常出力
⑦ ファン運転出力2	

#### 入力

① 運転 / 停止	⑤ 設定温度シフト
② 運転許可禁止	⑥ 強制サーモ OFF
③ 緊急停止	⑦ 一時停止
④ 冷房 / 暖房	⑧ 静音モード

#### 工場出荷時の設定

CnT-2 出力1	運転出力	CnT-5 出力4	点検 (異常) 出力
CnT-3 出力2	暖房出力	CnT-6 入力1	運転 / 停止
CnT-4 出力3	圧縮機 ON 出力	CnTA 入力2	運転 / 停止

- 設定の方法は技術資料をご覧ください。

## ⑤ リモコンからの操作・設定

A：eco タッチリモコン付属の取扱説明書を参照ください。

B：eco タッチリモコン付属の据付工事説明書を参照ください。

C：インターネットよりユーティリティソフトを配信中です。

○：eco タッチリモコンと、ほぼ同等の機能設定・操作が可能です。

△：eco タッチリモコンと、類似の機能設定・操作が可能です。

※ 1：RC-DX2 には、この機能はありません。

設定および表示項目	詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
<b>1. リモコンネットワーク</b>			
1 複数室内ユニット制御	リモコン 1 台 (リモコンネットワーク内) に最大 16 台室内ユニットを接続制御できます。室内ユニット側にアドレスを設定します。		○
2 親子リモコン設定	リモコンネットワーク内に 2 個のリモコン (含むワイヤレスリモコン) を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。	B	○
<b>2. TOP 画面・SW 操作</b>			
1 メニュー	制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。	A	
2 運転モード	冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。	A	○
3 設定温度	室温を 0.5℃単位で設定します。	A	○
4 風向	風向を設定します。 4 方向/フリー	A	○
5 風量	風量を設定します。	A	○
6 タイマー設定	タイマー運転を設定します。	A	○
7 運転/停止 SW	運転を開始します。/停止します。	A	○
8 F1 スイッチ	F1 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。 ※ 1	A	
9 F2 スイッチ	F2 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。 ※ 1	A	
<b>3. 省エネ設定</b>			
管理者パスワード			
1 切忘れ防止タイマー	運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ●設定時間は 30～240 分 (10 分単位) まで選択可能です。 ●設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。	A	△
2 ピークカットタイマー	能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ●1 日最大 4 パターンまで設定可能です。 ●設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ●能力制限率は 0.40～80% (20%単位) から選択可能です。 ●祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。	A	
3 設定温度自動復帰	設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ●1 日最大 4 パターンまで設定可能です。 ●設定時間は 20～120 分 (10 分単位) まで設定可能です。	A	△
4 赤外線センサー制御 ※ 1 人感センサー付パネル組合せの場合	人感センサーを使用の場合、パワーコントロールとオートセーブの有効/無効を設定します。	A	
<b>4. グリル昇降</b>			
1 ラクリーナパネル制御 ラクリーナ付パネル組合せの場合	ラクリーナ付パネルのグリルの昇降操作をします。 [メニュー] ⇒ [据付設定] ⇒ [グリル昇降操作] の設定が必要です。	A	○
2 降下長設定 管理者パスワード	グリル昇降長さを設定します。 ●0.1～4.0 m の範囲で設定できます。 ●設定長さは 0.1 m 単位で設定可能です。 ●接続室内ユニット毎に設定できます。	A	○
3 ダスト回収リセット お掃除ラクリーナパネル組合せの場合	ダスト回収後にダスト回収タイマーをリセットします。	A	
<b>5. フリーフロー設定</b>			
フリーフロー設定	各吹出口のルーバ可動範囲 (上限位置・下限位置) を設定します。	A	○
<b>6. ドラフト防止設定</b>			
ドラフト防止設定 ※ 1 エアフレックス付パネル組合せの場合	エアフレックス付パネルを使用の場合、各運転モード、各吹出口のドラフト防止動作 (エアフレックス) の有効・無効を設定します。	A	
<b>7. 換気</b>			
1 換気 換気機器組合せの場合	換気の ON/OFF 操作を行います。 [メニュー] ⇒ [リモコン操作] ⇒ [換気設定] の設定が必要です。 ●換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転/停止ができます。	A	○
<b>8. 見てみて</b>			
1 見てみて	室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ●室内ユニット—室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
<b>9. 消費電力量表示</b>			
1 消費電力量表示	今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ●室内ユニット—室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	

## ⑤ リモコンからの操作・設定 (つづき)

設定および表示項目	詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
10. お掃除ラクリーナパネル設定	管理者パスワード		
1 お掃除自動設定	自動清掃の有効 / 休止を設定します。	A	
2 清掃時間帯設定	自動清掃を開始する時間帯を設定します。	A	
3 清掃間隔設定	自動清掃する最小の間隔を設定します。	A	
4 ダスト回収設定	ダストの回収時期を設定します。	A	
5 ブラシ清掃回数設定	ブラシの清掃回数を設定します。	A	
11. フィルターサインリセット			
1 フィルターサインの解除	フィルターサインの解除を行います。	A	
2 次回清掃日の設定	次回清掃日の設定を行います。	A	
12. 初期設定			
1 時刻設定	現在の日付・時刻を設定及び修正を行います。 ● 80 時間以内の停電の場合、内蔵バックアップ電源の働きにより時計は動き続けます。	A	△
2 時刻表示設定	時刻表示のあり/なし、12 H / 24 H、AM/PM 位置、を設定します。	A	
3 サマータイム補正	現在時刻に対し、+ 1 時間の補正を行います。	A	
4 コントラスト調整	液晶の濃度の調整を行います。	A	
5 バックライト	バックライトの有効 / 無効、点灯時間を設定します。	A	
6 ブザー音	タッチパネル操作時のブザー音のあり / なしを設定します。	A	
7 運転ランプ輝度 ※ 1	運転ランプの輝度の調整を行います。	A	
13. タイマー設定			
1 時間入タイマー	停止後、運転させたい時間を設定します。 ● 1 ~ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。 ● 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
2 時間切タイマー	運転後、停止させたい時間を設定します。 ● 1 ~ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。	A	△
3 時刻入タイマー	運転開始時刻を設定します。 ● 設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ● 1 回のみ / 毎日の切換えが可能です。 ● 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
4 時刻切タイマー	運転停止時刻を設定します。 ● 設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ● 1 回のみ / 毎日の切換えが可能です。	A	△
14. ウィークリータイマー設定	管理者パスワード		
1 ウィークリータイマー	1 週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ● 1 日最大 8 パターンまで設定可能です。 ● 設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ● 祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ● 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
15. るす番運転	管理者パスワード		
1 るす番運転	部屋が高温 / 低温になりすぎないように温度を保ちます。 ● 外温と制御温度により冷房 / 暖房を行います。 ● 設定温度、風量の設定が可能です。	A	
16. おこのみ設定	管理者パスワード		
1 おこのみ設定 ※ 1	おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。 おこのみ設定 1、おこのみ設定 2 それぞれに設定が可能です。	A	
17. 管理者設定	管理者パスワード		
1 操作制限設定	● 操作の許可 / 禁止を設定します。 [ 運転 / 停止 ] [ 設定温度切換 ] [ 運転モード切換 ] [ 風向切換 ] [ 風量切換 ] [ ハイパワー運転 ] [ 省エネ運転 ] [ 見えて ] [ タイマー設定 ] ● 操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [ フリーフロー設定 ] [ グリル降下長設定 ] [ ウィークリータイマー設定 ] [ 言語切換設定 ] [ ドラフト防止設定 ] [ 消費電力量表示 ] ※ 1	A	△
2 室外静音タイマー	静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ● 静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ● 設定時刻は 5 分単位で設定可能です。	A	△

## ⑤ リモコンからの操作・設定 (つづき)

設定および表示項目	詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
3 設定温度の範囲設定	設定温度範囲を制限します。 ●運転モードによる温度範囲の制限が可能です。	A	△
4 設定温度刻み切換	設定温度の刻み (0.5℃ / 1.0℃) を設定します。	A	
5 設定温度表示切換	設定温度の表示の仕方を切換えます。	A	
6 リモコン表示設定	リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり / なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・外温表示のあり / なしを設定します。	A	△
7 管理者パスワード変更	管理者パスワードの変更を行います。 管理者パスワードのリセットを行います。	A B	
8 スイッチ機能変更 ※ 1	<input type="checkbox"/> F1、 <input type="checkbox"/> F2 スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 [ ハイパワー運転 ] [ 省エネ運転 ] [ 室外静音制御 ] [ るす番運転 ] [ おこのみ設定運転 1 ] [ おこのみ設定運転 2 ] [ 消費電力量表示 ] [ フィルターサインリセット ] [ グリル昇降 ]	A	
18. 据付け設定	サービスパスワード		
1 据付け日登録	据付け日を登録した場合、点検表示を行います。	B	
2 サービス情報入力	リモコンに連絡先を登録することができます。 ●連絡先を半角 26 文字相当以内で登録できます。 ●連絡先 TEL 番号を 13 文字以内で登録できます。	B	
3 試運転	試運転の開始 / 停止を制御できます。		
冷房試運転	設定 5℃ 30 分間運転します。	B	△
ドレンポンプ試運転	ドレンポンプのみを運転します。		
お掃除試運転	フィルター清掃 ブラシ清掃運転します。お掃除ラクリーナパネル組合せの場合		
4 グリル昇降操作	ラクリーナパネル操作を有効に設定します。 ラクリーナパネル組合せの場合	B	○
5 ダクト機外静圧補正	機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ●接続室内ユニット毎に個別に設定できます。	B	
6 自動アドレス変更	個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。	B	△
7 親室内ユニットアドレス設定	個別発停マルチシリーズ 設定された親室内ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定した室内ユニットは親室内ユニットから送られた運転モードに従って運転します。	B	△
8 バックアップ制御	1 台のリモコンに室内ユニット 2 台 (2 グループ) は接続されている時にローテーション運転、キャパシティバックアップ運転、フォルトバックアップ運転の有効 / 無効が設定できます。	B	
9 赤外線センサー設定 ※ 1 人感センサ付パネルの組合せの場合	リモコンに接続された室内ユニットの赤外線センサー (人感センサ) 検知の有効 / 無効を設定します。 無効の場合は、省エネ設定の赤外線センサー制御を行うことができません。	B	
19. リモコン設定	サービスパスワード		
1 リモコン親子設定	リモコン親子設定の変更ができます。	B	○
2 吸込センサー制御	1 台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込センサーを選択できます。 ●個別 / 親機 / 平均の選択が可能です。	B	
3 リモコンセンサー	リモコンセンサーに切換えモードを設定できます。 冷房 / 暖房で切換え可能です。	B	△
4 リモコンセンサー補正	リモコンセンサー検知温度を補正できます。 冷房 / 暖房 別々に補正可能です。	B	△
5 運転モード選択	各運転モード毎に有効 / 無効を設定できます。	B	△
6 温度設定単位	設定温度の単位を設定します。 ●℃ / °F の選択が可能です。	B	
7 ファン速度	ファン速度の選択が可能です。	B	○
8 外部入力設定	1 つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT 入力の適用範囲が設定されます。	B	○
9 換気設定	換気ユニット組合せ制御が設定できます。	B	○
10 ルーバー制御	[ 4 位置停止 ] / [ フリー停止 ] の切換えができます。	B	○
11 停電補償	停電復帰した場合の制御内容を設定できます。	B	○
12 設定温度自動設定	設定温度自動の有効 / 無効を選択できます。	B	
13 風量自動設定	風量自動の有効 / 無効を選択できます。	B	

## ⑤ リモコンからの操作・設定 (つづき)

設定および表示項目	詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
20. 室内機能設定	サービスパスワード		
1 風速設定	室内ユニットの風量タップを設定します。	B	○
2 フィルターサイン	フィルターサイン点灯タイマーの設定が換えられます。	B	○
3 外部入力 1 設定	外部入力 1 の制御内容を換えられます。	B	○
4 外部入力 1 方式切換	外部入力 1 の信号方式を換えられます。	B	○
5 外部入力 2 設定	外部入力 2 の制御内容を換えられます。	B	
6 外部入力 2 方式切換	外部入力 2 の信号方式を換えられます。	B	
7 暖房室温補正	暖房サーモ判定値を 0 ~ +3℃の範囲で補正できます。	B	△
8 吸込温度補正	吸込センサー検知温度を±2℃の範囲で補正できます。	B	△
9 冷房ファン制御	冷房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
10 暖房ファン制御	暖房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
11 フロスト防止温度	冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。	B	○
12 フロスト防止制御	冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。	B	○
13 ドレンポンプ運転	冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。	B	○
14 冷房ファン残留運転	冷房停止・冷房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
15 暖房ファン残留運転	暖房停止・暖房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
16 暖房ファン間欠	暖房停止・暖房サーモ OFF ファン残留運転後のファン運転を設定できます。	B	○
17 送風サーモ運転	送風時のサーキュレータ運転を設定できます。	B	
18 外調機設定	マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。	B	
19 運転モード自動設定	運転モード自動判定方法を 3 種類から選択できます。	B	
20 サーモ判定切換	サーモ判定を室外温度で補正することができます。	B	
21 風量自動切換	風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。	B	
22 室内過負荷アラーム	運転開始 30 分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力 (CnT-5) から過負荷アラーム信号を送信します。	B	
23 外部出力設定 ※1	外部出力 1 ~ 4 に割り当てる機能を換えられます。	B	
21. サービス・メンテナンス	サービスパスワード		
1 エアコンNo. 表示	リモコン 1 台に 16 台の室内ユニットを接続できます。個別送風運転で確認できます。	B	○
2 次期点検日	次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。	A B	○
3 運転データ表示	室内ユニット+室外ユニットの運転データをモニターすることができます。	B	○
4 点検表示			
異常履歴表示	過去の異常履歴 (点検コード・発生時間) を表示します。		
異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。	B	△
異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。		
定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。		
5 お掃除ラクリーナパネル点検	お掃除ラクリーナパネルの詳細点検操作ができます。	B	○
6 室内設定保存	接続室内ユニットの基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。	B	
7 特殊操作	[ 室内アドレス消去 ][ CPU リセット ][ 初期化設定 ][ タッチパネル調整 ] の操作ができます。	B	△
8 室内機容量表示 ※1	リモコンに接続されている室内ユニット No. とその容量を表示します。	B	
22. 言語切換設定	リモコンに表示する言語を選択します。 ●日本語 / English の選択が可能です。	A	
23. 困ったときは・・・			
1 連絡先表示	登録した連絡先・TEL 番号、サービスフロントセンターの TEL 番号※1 を表示します。 QR コードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。	A	
2 サービスを依頼される前に Q & A	Q & A が表示されます。	A	
24. 点検表示			
点検表示確認	異常発生時の表示	A	△
25. パソコン接続			
USB 接続	ウィークリータイマー設定他、パソコンから一括設定ができます。	C	

◆組合せ室内・室外ユニットの仕様により、本内容が機能しない場合もあります。

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

### 安全上のご注意

- 作業前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく作業してください。  
**安全のため必ずお守りください。**
- 誤った作業、行為をしたときに生じる危害や損害を「**△警告**」と「**△注意**」に区分し、お守りいただく内容を「**図記号**」を使用し説明していますので、必ずお守りください。
- 「**△警告**」「**△注意**」の意味

<b>△警告</b>	守らないと、死亡または重大な障害にいたる危険性がある事項について説明しています。
<b>△注意</b>	守らないと、傷害や物的損害ある事項について説明しています。

- ここで使われる“**図記号**”の意味は右のとおりです。 絶対に行わない 必ず指示に従い行う
- 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

#### △警告

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。  
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
- 別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。  
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 改修は絶対に行わない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内外ユニットを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。  
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内外ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。  
点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事をする。  
感電、故障や動作不良の原因になります。

#### △注意

- アース（接地）を確実に行う。  
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。  
漏電遮断器が取り付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。  
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。  
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 電源配線は、電流容量に合った規格品の配線を使用する。  
漏電や発熱・火災などの原因になることがあります。
- 室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。  
また、異なったサイズの単線またはより線を併用しない。  
端子台のねじゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。  
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。  
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

### 制御の切換え・機種容量の設定

- 室内ユニットの制御内容を下記方法にて切換え可能です。（ は工場出荷時の設定）

スイッチ NO	制御内容
SW2	室内アドレス (0 - Fh)
SW5 - 1	親 / 子切換え (プル-ラール / 子機設定)
SW5 - 2	

スイッチ NO	制御内容	
SW6 - 1 ~ 4	機種容量	
SW7 - 1	ON	運転チェック・ドレンポンプ試運転
	OFF	通常運転

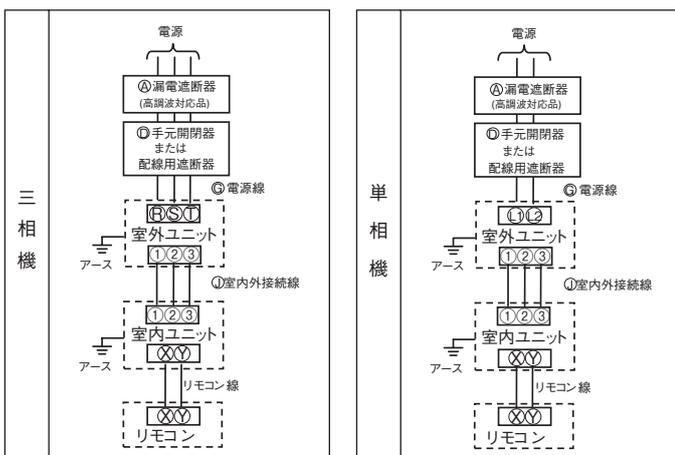
# ①電源・室内外配線の接続

- 電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。
  - ①配線は銅線以外のものを使用しないでください。
  - ②電源は、室外ユニットへ接続してください。
  - ③電気ヒータ(別売品)はなしにて記載してあります。注：電気ヒータの組込みは不可です。別置ヒータを連動させる場合は、ヒータ専用電源を設けること。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- アース線は室内外接続線及び室内ユニット本体間配線の接続前に接続してください。また、アース線は室内外接続線より長くし、アース線に力がかからないようにしてください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。
- 端子台への接続は、丸型圧着端子を使用してください。
- 端子台への接続は、ねじの緩みがないように確実に行ってください。
- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカ落ちによる二次災害が生じる恐れがあります。
- 室内外接続線は必ず3心ケーブルを使用してください。詳細は室外ユニットに付属の据付説明書を参照ください。
- 室内外接続線は途中接続しないでください。途中接続した場所に水が浸入すると、対地間絶縁不良や途中接続部の接触不良をまねき、通信異常の原因となります。(万一、途中接続する場合には、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。)
- 天井裏内の配線(電源・リモコン・室内外接続線など)はネズミ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の保護管内に通してください。
- 室内外ユニットの外部では、リモコン線と電源線が直接接触しないように施工してください。
- リモコン用端子台には、200V電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
- 室内外接続線・室内ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続
  - ①室内外接続線・室内ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続は、制御箱内の電源側端子台、リモコン側端子台に接続してください。室内外接続線の①②③は極性がありますので、必ず番号を合わせて接続してください。また、アース線は、電源側端子台アース端子に接続してください。
  - ②電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器(三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品)を選定してください。
  - ③漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器(開閉器+B種ヒューズ)または、配線用遮断器が必要となります。
  - ④手元開閉器は室外ユニットの近傍に設置してください。
- 配線の接続はねじの緩みのないように確実に行ってください。また、制御箱内のコネクタの抜けや端子外れがないことを確認してください。
- 補助電気ヒータ組込の場合は、電気ヒータ組込時の説明書・または技術資料で確認してください。



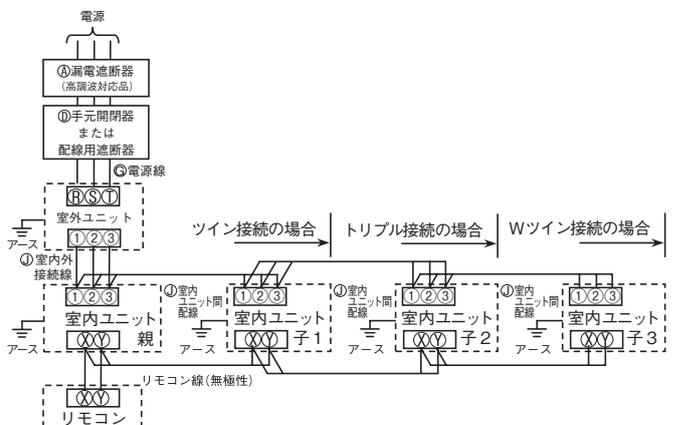
## シングル接続の結線

- ①室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。  
※例外的な接続方法の場合は技術資料を参照の上、所轄の電力会社にご相談の上、指示に従ってください。



## ツイン・トリプル・Wツイン接続の結線

- ①親・子室内ユニット間は端子台①②③及び⑧⑨の同一番号間を接続してください。
- ②室内基板上のロータリスイッチSW2により、同一冷媒系統すべての室内ユニットを同一アドレスに設定してください。
- ③子室内ユニットは、室内基板上のアドレススイッチSW5-1、SW5-2により、子1～子3に設定してください。



### 室内ユニットの親・子設定方法 (工場出荷時「親」設定)

室内ユニット	親	子1	子2	子3
室内基板 SW	SW5-1 OFF	OFF	ON	ON
	SW5-2 OFF	ON	OFF	ON

## ② リモコンの取付け (別売部品)

●取付けの詳細はリモコンの据付説明書を参照ください。

●次の位置へ取付けないでください。

- 直射日光の当たる所
- 湿気の多い所、水が飛散する所
- 油の飛沫や蒸気が直接触れる所
- 発熱器具に近い所
- 取付け面が発熱・結露する所
- 取付け面の凹凸がある所

### リモコン取付け・配線

①リモコンの取付けは、リモコン付属の説明書に従ってください。

②リモコン線は、0.3mm<sup>2</sup>×2心の電線またはケーブルを使用してください。配線の被覆は1mm以上のものを使用してください。(現地手配)

③リモコン線の総延長は600mです。

延長距離が100mを超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm<sup>2</sup>以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。

- 100~200m以内・・・0.5mm<sup>2</sup>×2心
- 300m以内・・・0.75mm<sup>2</sup>×2心
- 400m以内・・・1.25mm<sup>2</sup>×2心
- 600m以内・・・2.0mm<sup>2</sup>×2心

④誤動作する場合がありますので、多芯ケーブルの使用は避けてください。

⑤リモコン線はアース(建物の鉄骨部分または金属など)からできるだけ離してください。

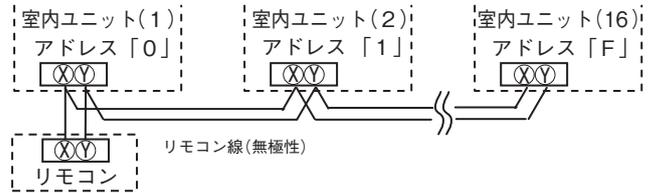
⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。(極性はありません)

### 1リモコンによる複数台室内ユニット制御

①1つのリモコンで複数台の室内ユニット(最大16台)をグループ制御できます。同一モード、同一室温設定で運転します。

②グループ制御用に各室内ユニット間に2心のリモコン線にて渡り配線してください。

③室内ユニットの基板上的ロータリスイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。



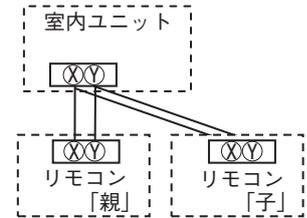
### 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン+ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。

1個を「親」に、残りを「子」に設定してください。

○注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。



## ③ リモコンからの操作・確認方法

●電源投入後、接続されている室内ユニットの機種容量とアドレスがリモコンに表示されることを必ず確認してください。

(アドレス確認はシングル接続を除く)

本操作は、eco タッチリモコン RC-DX3、標準リモコン RC-D4 での操作・設定を示します。リモコンのバージョンアップにより変更となることがあります。

### eco タッチリモコン (RC-DX3) の場合



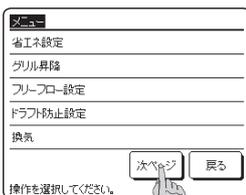
1 メニューをタッチする。メニュー画面に切り替わります。



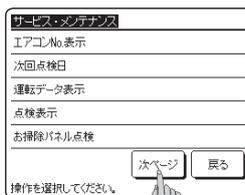
4 サービスパスワードを入力する。  
5 セットをタッチする。サービス・メンテナンスの画面に切り替わります。

室内機No.	容量
000	40
001	71
002	80
003	112
004	224
005	280

8 接続されている室内ユニットのアドレスNo.(室内機No.)と機種容量(容量)が表示されます。



2 次ページを3回タッチする。



6 次ページをタッチする。



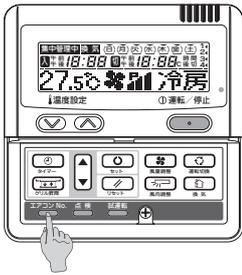
3 サービス・メンテナンスをタッチする。パスワード入力画面に切り替わります。



7 室内機容量表示をタッチする。

### ③ リモコンからの操作・確認方法 (つづき)

標準リモコン (RC-D4G) の場合 機種容量は確認できません。



- 1 エアコンNo.ボタンを押す。  
室内ユニットアドレスが表示されます。
- 2 ▲▼ボタンを押す。  
接続されている室内ユニットのアドレスが表示されます。

カバーを開けた状態です。また、液晶表示部は全表示してあります。

#### eco タッチリモコンから操作

#### 標準リモコンから操作

1 リモコン系統内の接続室内ユニットの接続台数および機種容量を確認します。(標準リモコンは機種容量を確認できません) ツイン・トリプル・Wツイン接続の子機を確認します。

[メニュー] ⇒ [次頁] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [パスワード] ⇒ [エアコン No. 表示]

エアコン No. ボタンを押すと室内アドレスが表示されますので、▲▼ボタンで接続されている室内ユニットアドレスを1台ずつ確認してください。

2 リモコン系統内の接続室内ユニットの接続を個別に確認します。ツイン・トリプル・Wツイン接続の親子機の確認はできません。

停止中、[メニュー] ⇒ [次頁] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [パスワード] ⇒ [エアコン No. 表示] ⇒ [個別送風運転]

停止中、エアコン No. ボタンを押すと室内アドレスが表示されますので、▲▼ボタンで接続されている室内ユニットアドレスを1台選択⇒[運転切換]を押すと送風運転します。

3 親子リモコン設定

[メニュー] ⇒ [次頁] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [パスワード] ⇒ [リモコン親子設定]

子リモコンの切換えスイッチ (SW1) を「子」に設定してください。

4 運転データの確認方法

[メニュー] ⇒ [次頁] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [パスワード] ⇒ [運転データ表示]

[点検] ⇒ 運転データ表示▼ ⇒ [セット] ⇒ データ確認中 ⇒ 室内機選択 ⇒ ▲▼ボタンで接続されている室内アドレスを1台選択 ⇒ [セット] ⇒ データ確認中 ⇒ ▲▼データ選択

5 点検表示の確認方法

[メニュー] ⇒ [次頁] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [パスワード] ⇒ [点検表示]

[点検] ⇒ 運転データ表示▼ ⇒ [▼] ⇒ エラーデータ表示▲ ⇒ [セット] ⇒ データ確認中 ⇒ データ表示

6 リモコンからの冷房試運転方法

[メニュー] ⇒ [次頁] ⇒ [据付け設定] ⇒ [パスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [冷房試運転] ⇒ [開始]

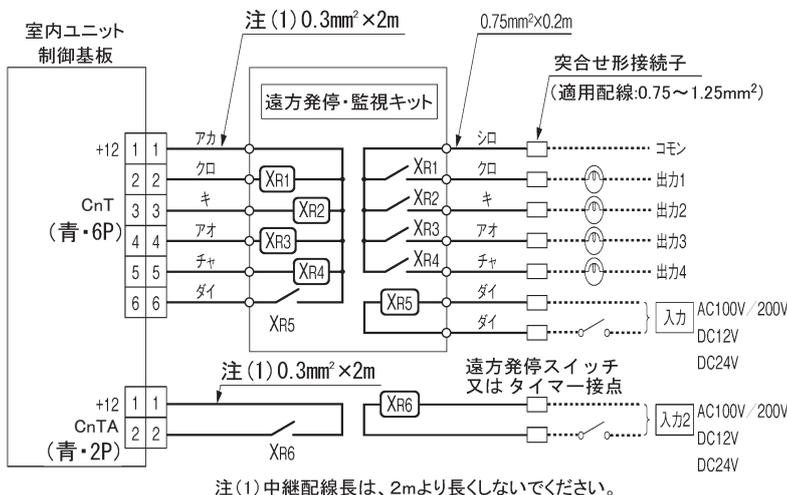
- ① [運転/停止]を押して、運転します。
- ② [運転切換]により、「冷房」を選択します。
- ③ [試運転]を3秒以上押します。表示が、「冷房試運転▼」となります。
- ④ 「冷房試運転▼」の表示で、[セット]ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は、「冷房試運転」となります。

7 リモコンからのドレンポンプ試運転方法

[メニュー] ⇒ [次頁] ⇒ [据付け設定] ⇒ [パスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [ドレンポンプ試運転] ⇒ [運転]

- ① [試運転]を3秒以上押します。表示が「冷房試運転▼」となります。
- ② [▼]を一度押し、「ドレンポンプ運転」を表示させます。
- ③ [セット]を押すと、ドレンポンプ運転を開始します。表示:「セットで停止」

### ④ 室内基板 CnT コネクタの機能



- XR1~4はDC12Vリレー (オムロン製LY2F相当品)
- XR5は、DC12、24Vまたは100Vリレー (オムロン製MY2F相当品)
- CnTコネクタ (現地側) メーカー、形式  
コネクタ: モレックス製 5264-06  
端子: モレックス製 5263T
- 遠方発停・監視キットを別売品にて準備しておりますのでご利用ください。
- CnTAコネクタは、FDT他に搭載<仕様書で確認願います> (現地側) メーカー、形式  
コネクタ: 日本圧着端子JST製 XAP02V-1-E  
端子: 日本圧着端子JST製 SXA-01T-P0.6

出力1	エアコン運転出力(エアコンON時XR1=ON)
出力2	暖房出力
出力3	サーモON出力(サーモON時XR3=ON)
出力4	エアコン点検出力(エアコン点検時XR4=ON)
入力	出荷時 XR5 OFF⇒ON エアコン運転 XR5 ON⇒OFF エアコン停止
	※現地切換により、機能・制御が変わります。
入力2 ※ (FDT他)	出荷時 XR6 OFF⇒ON エアコン運転 XR6 ON⇒OFF エアコン停止
	※現地切換により、機能・制御が変わります。

※室内機能設定参照

## ⑤ リモコンからの操作・設定

本表は、eco タッチリモコン RC-DX3、標準リモコン RC-D4 での操作・設定を示します。リモコンのバージョンアップにより変更となることがあります。

A：eco タッチリモコン付属の取扱説明書を参照ください。

B：eco タッチリモコン付属の据付工事説明書を参照ください。

C：インターネットよりユーティリティソフトを配信中です。

○：eco タッチリモコンと、ほぼ同等の機能設定・操作が可能です。

△：eco タッチリモコンと、類似の機能設定・操作が可能です。

※ 1：RC-DX2 には、この機能はありません。

設定および表示項目	詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
<b>1. リモコンネットワーク</b>			
1 複数室内ユニット制御	リモコン 1 台（リモコンネットワーク内）に最大 16 台室内ユニットを接続制御できます。室内ユニット側にアドレスを設定します。		○
2 親子リモコン設定	リモコンネットワーク内に 2 個のリモコン（含むワイヤレスリモコン）を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。	B	○
<b>2. TOP 画面・SW 操作</b>			
1 メニュー	制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。	A	
2 運転モード	冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。	A	○
3 設定温度	室温を 0.5℃単位で設定します。	A	○
4 風向	風向を設定します。 4 方向／フリー	A	○
5 風量	風量を設定します。	A	○
6 タイマー設定	タイマー運転を設定します。	A	○
7 運転／停止 SW	運転を開始します。／停止します。	A	○
8 F1 スイッチ	F1 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。 ※ 1	A	
9 F2 スイッチ	F2 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。 ※ 1	A	
<b>3. 省エネ設定</b>			
管理者パスワード			
1 切忘れ防止タイマー	運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ●設定時間は 30～240 分（10 分単位）まで選択可能です。 ●設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。	A	△
2 ピークカットタイマー	能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ●1 日最大 4 パターンまで設定可能です。 ●設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ●能力制限率は 0.40～80%（20%単位）から選択可能です。 ●祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。	A	
3 設定温度自動復帰	設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ●1 日最大 4 パターンまで設定可能です。 ●設定時間は 20～120 分（10 分単位）まで設定可能です。	A	△
4 赤外線センサー制御 ※ 1 赤外線センサー搭載の場合	室内ユニット（パネル等）に人感センサー（赤外線センサー）を搭載している場合、パワーコントロールとオートセーブの有効／無効を設定します。	A	
<b>4. グリル昇降</b>			
1 ラクリーナパネル制御 ラクリーナ付パネル組合せの場合	ラクリーナ付パネルのグリルの昇降操作をします。 [メニュー]⇒[据付設定]⇒[グリル昇降操作]の設定が必要です。	A	○
2 降下長設定 管理者パスワード	グリル昇降長さを設定します。 ●0.1～4.0 m の範囲で設定できます。 ●設定長さは 0.1 m 単位で設定可能です。 ●接続室内ユニット毎に設定できます。	A	○
3 ダスト回収リセット お掃除ラクリーナパネル組合せの場合	ダスト回収後にダスト回収タイマーをリセットします。	A	
<b>5. フリーフロー設定</b>			
フリーフロー設定	各吹出口のルーバ可動範囲（上限位置・下限位置）を設定します。	A	○
<b>6. ドラフト防止設定</b>			
ドラフト防止設定 ※ 1 ドラフト防止機構搭載の場合	室内ユニット（パネル等）にドラフト防止機構を搭載している場合、各運転モード、各吹出口のドラフト防止動作の有効・無効を設定します。	A	
<b>7. 換気</b>			
1 換気 換気機器組合せの場合	換気の ON/OFF 操作を行います。 [メニュー]⇒[リモコン操作]⇒[換気設定]の設定が必要です。 ●換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転／停止ができます。	A	○
<b>8. 見てみて</b>			
1 見てみて	室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ●室内ユニット—室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
<b>9. 消費電力量表示</b>			
1 消費電力量表示	今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ●室内ユニット—室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	

## ⑤ リモコンからの操作・設定 (つづき)

設定および表示項目	詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
10. お掃除ラクリーナパネル設定	管理者パスワード		
1 お掃除自動設定	自動清掃の有効 / 休止を設定します。	A	
2 清掃時間帯設定	自動清掃を開始する時間帯を設定します。	A	
3 清掃間隔設定	自動清掃する最小の間隔を設定します。	A	
4 ダスト回収設定	ダストの回収時期を設定します。	A	
5 ブラシ清掃回数設定	ブラシの清掃回数を設定します。	A	
11. フィルターサインリセット			
1 フィルターサインの解除	フィルターサインの解除を行います。	A	
2 次回清掃日の設定	次回清掃日の設定を行います。	A	
12. 初期設定			
1 時刻設定	現在の日付・時刻を設定及び修正を行います。 ● 80 時間以内の停電の場合、内蔵バックアップ電源の働きにより時計は動き続けます。	A	△
2 時刻表示設定	時刻表示のあり / なし、12 H / 24 H、AM / PM 位置、を設定します。	A	
3 サマータイム補正	現在時刻に対し、+ 1 時間の補正を行います。	A	
4 コントラスト調整	液晶の濃度の調整を行います。	A	
5 バックライト	バックライトの有効 / 無効、点灯時間を設定します。	A	
6 ブザー音	タッチパネル操作時のブザー音のあり / なしを設定します。	A	
7 運転ランプ輝度 ※ 1	運転ランプの輝度の調整を行います。	A	
13. タイマー設定			
1 時間入タイマー	停止後、運転させたい時間を設定します。 ● 1 ~ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。 ● 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
2 時間切タイマー	運転後、停止させたい時間を設定します。 ● 1 ~ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。	A	△
3 時刻入タイマー	運転開始時刻を設定します。 ● 設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ● 1 回のみ / 毎日の切り換えが可能です。 ● 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
4 時刻切タイマー	運転停止時刻を設定します。 ● 設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ● 1 回のみ / 毎日の切り換えが可能です。	A	△
14. ウィークリータイマー設定	管理者パスワード		
1 ウィークリータイマー	1 週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ● 1 日最大 8 パターンまで設定可能です。 ● 設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ● 祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ● 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
15. るす番運転	管理者パスワード		
1 るす番運転	部屋が高温 / 低温になりすぎないように温度を保ちます。 ● 外温と制御温度により冷房 / 暖房を行います。 ● 設定温度、風量の設定が可能です。	A	
16. おこのみ設定	管理者パスワード		
1 おこのみ設定 ※ 1	おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。 おこのみ設定 1、おこのみ設定 2 それぞれに設定が可能です。	A	
17. 管理者設定	管理者パスワード		
1 操作制限設定	● 操作の許可 / 禁止を設定します。 [ 運転 / 停止 ] [ 設定温度切換 ] [ 運転モード切換 ] [ 風向切換 ] [ 風量切換 ] [ ハイパワー運転 ] [ 省エネ運転 ] [ 見てみて ] [ タイマー設定 ] ● 操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [ フリーフロー設定 ] [ グリル降下長設定 ] [ ウィークリータイマー設定 ] [ 言語切換設定 ] [ ドラフト防止設定 ] [ 消費電力量表示 ] ※ 1	A	△
2 室外静音タイマー	静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ● 静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ● 設定時刻は 5 分単位で設定可能です。	A	△

## ⑤ リモコンからの操作・設定 (つづき)

設定および表示項目	詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン	
3 設定温度の範囲設定	設定温度範囲を制限します。 ●運転モードによる温度範囲の制限が可能です。	A	△	
4 設定温度刻み切換	設定温度の刻み (0.5℃ / 1.0℃) を設定します。	A		
5 設定温度表示切換	設定温度の表示の仕方を切換えます。	A		
6 リモコン表示設定	リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり / なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・外温表示のあり / なしを設定します。	A	△	
7 管理者パスワード変更	管理者パスワードの変更を行います。	A		
	管理者パスワードのリセットを行います。	B		
8 スイッチ機能変更 ※ 1	<input type="checkbox"/> F1、 <input type="checkbox"/> F2 スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 [ ハイパワー運転 ] [ 省エネ運転 ] [ 室外静音制御 ] [ るす番運転 ] [ おこのみ設定運転1 ] [ おこのみ設定運転 2 ] [ 消費電力量表示 ] [ フィルターサインリセット ] [ グリル昇降 ]	A		
18. 据付け設定	サービスパスワード			
1 据付け日登録	据付け日を登録した場合、点検表示を行います。	B		
2 サービス情報入力	リモコンに連絡先を登録することができます。 ●連絡先を半角 26 文字相当以内で登録できます。 ●連絡先 TEL 番号を 13 文字以内で登録できます。	B		
3 試運転	試運転の開始 / 停止を制御できます。	B	△	
	冷房試運転			設定 5℃ 30 分間運転します。
	ドレンポンプ試運転			ドレンポンプのみを運転します。
	お掃除試運転			フィルター清掃 ブラシ清掃運転します。お掃除ラクリーナパネル組合せの場合
4 グリル昇降操作	ラクリーナパネル操作を有効に設定します。 ラクリーナパネル組合せの場合	B	○	
5 ダクト機外静圧補正	機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ●接続室内ユニット毎に個別に設定できます。	B		
6 自動アドレス変更	個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。	B	△	
7 親室内ユニットアドレス設定	個別発停マルチシリーズ 設定された親室内ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定した室内ユニットは親室内ユニットから送られた運転モードに従って運転します。	B	△	
8 バックアップ制御	1 台のリモコンに室内ユニット 2 台 (2 グループ) は接続されている時にローテーション運転、キャパシティバックアップ運転、フォルトバックアップ運転の有効 / 無効が設定できます。	B		
9 赤外線センサー制御 ※ 1 赤外線センサー搭載の場合	室内ユニット (パネル等) に人感センサー (赤外線センサー) を搭載している場合、赤外線センサー検知の有効 / 無効を設定します。 無効の場合は、省エネ設定の赤外線センサー制御を行うことができません。	B		
19. リモコン設定	サービスパスワード			
1 リモコン親子設定	リモコン親子設定の変更ができます。	B	○	
2 吸込センサー制御	1 台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込センサーを選択できます。 ●個別 / 親機 / 平均の選択が可能です。	B		
3 リモコンセンサー	リモコンセンサーに切換えるモードを設定できます。 冷房 / 暖房で切換え可能です。	B	△	
4 リモコンセンサー補正	リモコンセンサー検知温度を補正できます。 冷房 / 暖房 別々に補正可能です。	B	△	
5 運転モード選択	各運転モード毎に有効 / 無効を設定できます。	B	△	
6 温度設定単位	設定温度の単位を設定します。 ●℃ / °F の選択が可能です。	B		
7 ファン速度	ファン速度の選択が可能です。	B	○	
8 外部入力設定	1 つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT 入力の適用範囲が設定されます。	B	○	
9 換気設定	換気ユニット組合せ制御が設定できます。	B	○	
10 ルーバー制御	[ 4 位置停止 ] / [ フリー停止 ] の切換えができます。	B	○	
11 停電補償	停電復帰した場合の制御内容を設定できます。	B	○	
12 設定温度自動設定	設定温度自動の有効 / 無効を選択できます。	B		
13 風量自動設定	風量自動の有効 / 無効を選択できます。	B		

## ⑤ リモコンからの操作・設定 (つづき)

設定および表示項目	詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
20. 室内機能設定	サービスパスワード		
1 風速設定	室内ユニットの風量タップを設定します。	B	○
2 フィルターサイン	フィルターサイン点灯タイマーの設定が換えられます。	B	○
3 外部入力 1 設定	外部入力 1 (CnT) の制御内容を換えられます。	B	○
4 外部入力 1 方式切換	外部入力 1 (CnT) の信号方式を換えられます。	B	○
5 外部入力 2 設定	外部入力 2 (CnTA) の制御内容を換えられます。	B	
6 外部入力 2 方式切換	外部入力 2 (CnTA) の信号方式を換えられます。	B	
7 暖房室温補正	暖房サーモ判定値を 0 ~ +3°C の範囲で補正できます。	B	△
8 吸込温度補正	吸込センサー検知温度を ± 2°C の範囲で補正できます。	B	△
9 冷房ファン制御	冷房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
10 暖房ファン制御	暖房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
11 フロスト防止温度	冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。	B	○
12 フロスト防止制御	冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。	B	○
13 ドレンポンプ運転	冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。	B	○
14 冷房ファン残留運転	冷房停止・冷房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
15 暖房ファン残留運転	暖房停止・暖房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
16 暖房ファン間欠	暖房停止・暖房サーモ OFF ファン残留運転後のファン運転を設定できます。	B	○
17 送風サーモ運転	送風時のサーキュレータ運転を設定できます。	B	
18 外調機設定	マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。	B	
19 運転モード自動設定	運転モード自動判定方法を 3 種類から選択できます。	B	
20 サーモ判定切換	サーモ判定を室外温度で補正することができます。	B	
21 風量自動切換	風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。	B	
22 室内過負荷アラーム	運転開始 30 分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力 (CnT-5) から過負荷アラーム信号を送信します。	B	
23 外部出力設定 室内ユニット 5 形〜対応 ※ 1	外部出力 1 ~ 4 に割り当てる機能を換えられます。 <室内ユニットにより対応できない機種があります。技術資料等で確認願います。>	B	
21. サービス・メンテナンス	サービスパスワード		
1 エアコン No. 表示	リモコン 1 台に 16 台の室内ユニットを接続できます。個別送風運転で確認できます。	B	○
2 次期点検日	次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。	A B	○
3 運転データ表示	室内ユニット+室外ユニットの運転データをモニターすることができます。	B	○
4 点検表示			
異常履歴表示	過去の異常履歴 (点検コード・発生時間) を表示します。		
異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。	B	△
異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。		
定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。		
5 お掃除ラクリーナパネル点検	お掃除ラクリーナパネルの詳細点検操作ができます。	B	○
6 室内設定保存	接続室内ユニットの基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。	B	
7 特殊操作	[ 室内アドレス消去 ] [ CPU リセット ] [ 初期化設定 ] [ タッチパネル調整 ] の操作ができます。	B	△
8 室内機容量表示 ※ 1	リモコンに接続されている室内機 No. とその容量を表示します。	B	
22. 言語切換設定	リモコンに表示する言語を選択します。 ●日本語 / English の選択が可能です。	A	
23. 困ったときは・・・			
1 連絡先表示	登録した連絡先・TEL 番号、サービスフロントセンターの TEL 番号 ※ 1 を表示します。 QR コードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。	A	
2 サービスを依頼される前に Q & A	Q & A が表示されます。	A	
24. 点検表示			
点検表示確認	異常発生時の表示	A	△
25. パソコン接続			
USB 接続	ウィークリータイマー設定他、パソコンから一括設定ができます。	C	

◆ 組合せ室内・室外ユニットの仕様により、本内容が機能しない場合もあります。

# 14. マイコン運転制御機能

ESP-FP-1986

ESP-FP-2002

ESP-FP-2298

## 14.1 室内コントローラによる運転制御機能

### (1) 室温制御

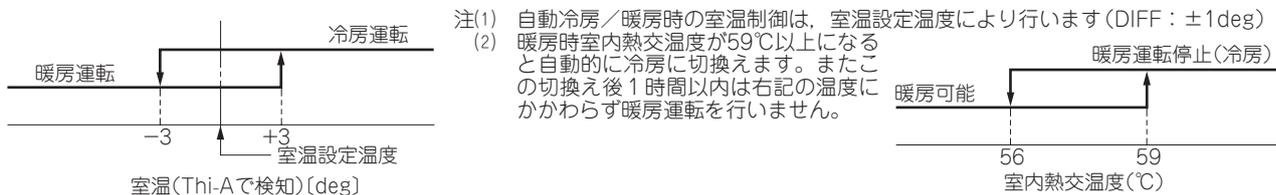
吸込温度センサ (Thi-A) にて検知をします。



注(1) リモコンセンサ有効時はリモコンセンサ (Thc) にて検知。

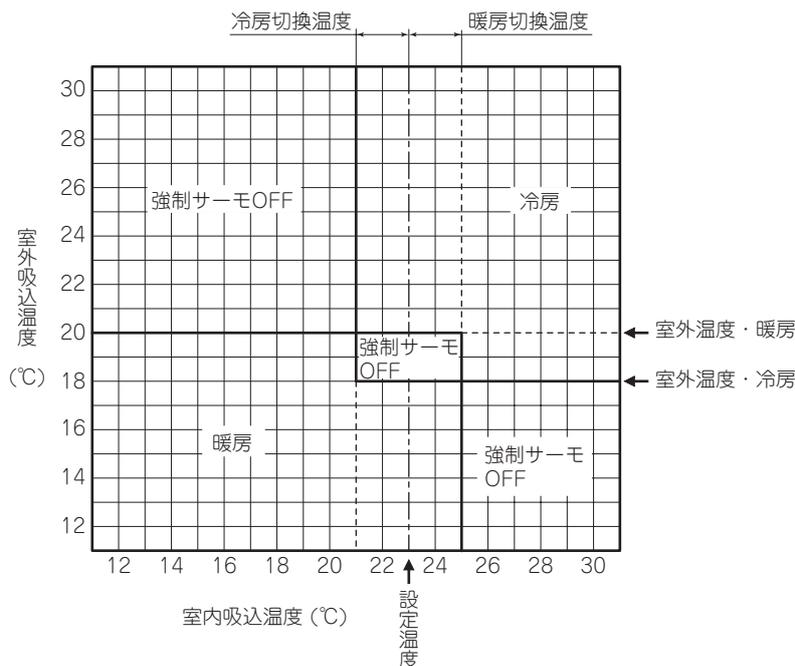
### (2) 自動運転

- (a) リモコンで「自動」モードを選択すると、外気温度と設定温度または設定温度と吸込温度の差温に応じ自動的に冷房・暖房に切替えます。(冷房⇄暖房切替えが3分以内に行われる場合は3分タイマにより3分間圧縮機は運転しません。) 中間期等に於ける冷/暖切替え操作を簡便にできると共に、店舗等(銀行のATMコーナー)の無人運転に対応できます。



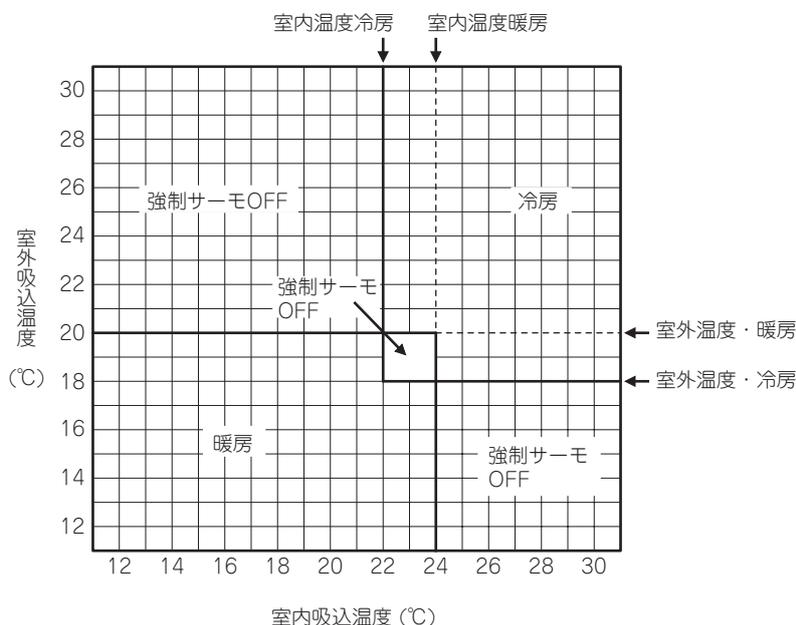
- (b) (a)項以外に下記自動運転制御を実施します。(FDESZシリーズは除く)

- (i) 「設定温度 + 冷房切替温度 < 室内吸込温度による判定」と「室外温度による判定」との条件により、冷暖運転モードを判定します。
- 「設定温度 - 冷房切替温度 < 室内吸込温度」かつ「室外温度・冷房 < 室外吸込温度」⇒ 運転モード：冷房
  - 「設定温度 + 暖房切替温度 > 室内吸込温度」かつ「室外温度・暖房 > 室外吸込温度」⇒ 運転モード：暖房
  - 上記判定条件の室外吸込温度は、10分毎にサンプリングをします。
  - 上記の冷房・暖房領域が重なる範囲の場合 ⇒ 強制サーモOFF



(ii) 設定温度によらず、「室内温度・冷房または暖房と室外温度・冷房または暖房による判定により、冷暖運転モードを判定します。

- 1) 「室内温度・冷房<室内吸込温度」かつ「室外温度・冷房<室外吸込温度」の場合 ⇒ 運転モード：冷房
- 2) 「室内温度・暖房>室内吸込温度」かつ「室外温度・暖房>室外吸込温度」の場合 ⇒ 運転モード：暖房
- 3) 上記判定条件の室外吸込温度は、10分毎にサンプリングをします。
- 4) 上記の冷房・暖房領域が重なる範囲の場合 ⇒ 強制サーモOFF



### (3) 冷房・暖房運転時の機能品動作

機能品 \ 動作	冷 房		送 風	暖 房			除 湿
	サーモ ON	サーモ OFF		サーモ ON	サーモ OFF	ホットスタート (デフロスト)	
圧 縮 機	○	×	×	○	×	○	○/×
四 方 切 換 弁	×	×	×	○	○	○(×)	×
室 外 送 風 機	○	×	×	○	×	○(×)	○/×
室 内 送 風 機	○	○	○	○/×	○/×	○/×	○/×
ル ー パ モ ー タ	○/×			○/×	○/×	○/×	○/×
ド レ ン ポ ン プ <sup>(3)</sup>	○	× <sup>(2)</sup>	× <sup>(2)</sup>	○/× <sup>(2)</sup>			サーモON：○ サーモOFF：× <sup>(2)</sup>
加 湿 機	×			○/× <sup>(4)</sup>			×

注(1) ○：運転 ×：停止 ○/×：室温制御以外の制御により運転/停止します。

(2) ドレンモータ遅延制御中はON。

(3) ワイヤードリモコンの室内機能設定によりドレンポンプON設定の選択が可能です。

(4) 加湿器ドレン連動制御中はON。

### (4) 除湿運転

吸込温度センサ [Thi-A (リモコンセンサ有効時はリモコンによる)] により、室内の温度環境を同時に制御します。

- (a) 冷房運転で運転を開始し、吸込温度と設定温度の差が2°C以内の場合は、室内ファンタップを1タップダウンします。室内ファンタップ切換え後3分間はタップを保持します。
- (b) 除湿運転中に吸込温度が設定温度より3°Cより大きくなった場合、室内ファンタップを1タップアップします。室内ファンタップ切換え後3分間はタップを保持します。
- (c) 上記制御中にサーモOFFが成立した場合、サーモOFF中はサーモON時の室内ファンタップを保持します。

(5) タイマー運転

(a) RC-DX2, 3リモコンの場合

(i) 切忘れタイマー

運転開始してから停止するまでの時間を設定します。設定時間は30～240分の範囲（10分単位）で設定します。  
注(1) リモコンより「切忘れタイマー」設定を有効にしてください。有効の場合、毎回タイマーが作動します。

(ii) 時間切タイマー

運転後、停止させたい時間を1～12時間の範囲（1時間単位）で設定します。

(iii) 時間入タイマー

停止後、運転させたい時間を1～12時間の範囲（1時間単位）で設定します。また、同時に室内温度・運転モード・風量・ウォームアップ有効/無効の設定が可能です。

(iv) 時刻入タイマー

運転開始時刻を設定します。設定時刻は5分単位での設定が可能で、1回のみ毎回の切換えが可能です。また、同時に室内温度・運転モード・風量・ウォームアップ有効/無効の設定が可能です。

注(1) 時刻入タイマーを使用するには、時刻設定が必要です。

(v) 時刻切タイマー

運転停止時刻を設定します。設定時刻は5分単位での設定が可能で、1回のみ毎回の切換えが可能です。

注(1) 時刻切タイマーを使用するには、時刻設定が必要です。

(vi) ウィークリータイマー

1週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。1日最大8パターンまでの設定が可能で、祭日および臨時休業など休日設定が可能です。

注(1) ウィークリータイマーを使用するには、時刻設定が必要です。

(vii) タイマー運転の併用設定可能な組合せ

	切忘れタイマー	時間切タイマー	時間入タイマー	時刻切タイマー	時刻入タイマー	ウィークリータイマー
切忘れタイマー		×	×	○	○	○
時間切タイマー	×		×	×	×	×
時間入タイマー	×	×		×	×	×
時刻切タイマー	○	×	×		○	×
時刻入タイマー	○	×	×	○		×
ウィークリータイマー	○	×	×	×	×	

注(1) ○：可，×：不可

(b) RC-D4Gリモコンの場合

(i) 時間タイマー

現在よりエアコンOFFの時間を設定します。

「1時間後切」から「10時間後切」の10段階での選択が可能です。時間タイマー設定後は、現在時刻の経過とともに1時間単位で残り時間の表示を行います。

(ii) 時刻切タイマー

エアコンOFF時刻を10分単位での設定が可能です。

(iii) 時刻入タイマー

エアコンON時刻を10分単位での設定が可能です。また、同時に室内温度も1℃単位で設定が可能です。

(iv) ウィークリータイマー

各曜日毎に、一日最大4回タイマー運転(入タイマー、切タイマー)の設定が可能です。

(v) タイマー運転の併用設定可能な組合せ

	時間タイマー	時刻切タイマー	時刻入タイマー	ウィークリータイマー
時間タイマー		×	○	×
時刻切タイマー	×		○	×
時刻入タイマー	○	○		×
ウィークリータイマー	×	×	×	

注(1) ○：可，×：不可

(2) 時刻入タイマーと時間タイマーおよび時刻切タイマーが併用設定されており、タイマー入時刻とタイマー切時刻（または切時間）が同時刻に設定された場合は、タイマー切設定が優先されず。

## (6) ホットスタート（暖房時コールドドラフト防止）

### (a) 開始条件

下記のいずれかの条件が成立時、ホットスタート制御を行います。

- (i) 停止から暖房運転へ
- (ii) 冷房運転から暖房運転へ
- (iii) 暖房サーモOFFからサーモONへ
- (iv) デフロスト制御終了後（サーモONユニットのみ）

### (b) 制御内容

#### (i) ホットスタート時の室内ファン制御

1) 暖房運転開始後7分以内にサーモ状態（暖房サーモOFF時のファン制御）によりファンモードを決定します。

##### a) サーモOFFの場合

- i) 暖房サーモOFF時の室内ファン制御設定により運転します。
- ii) サーモOFFからサーモONに変化しても室内ファンは室内熱交温度センサ（Thi-R1, R2の何れが高い方）が35℃以上になるまでサーモOFF時のファン制御で運転を続けます。
- iii) 室内熱交温度センサ（Thi-R1, R2の何れが高い方）が35℃以上になった時は、設定風量で運転します。

##### b) サーモONの場合

- i) 室内熱交温度センサ（Thi-R1, R2の何れが高い方）が25℃以下の時は、室内ファンはOFFで運転しません。
- ii) 室内熱交温度センサ（Thi-R1, R2の何れが高い方）が25℃以上になった時は、暖房サーモOFF時のファン制御で運転します。
- iii) 室内熱交温度センサ（Thi-R1, R2の何れが高い方）が35℃以上になった時は、設定風量で運転します。

c) 暖房サーモOFF時の室内ファン制御でワイヤードリモコン室内機能設定で「暖房ファン制御」を設定風量に設定している場合は、サーモON/OFFに関わらず室内ファンは設定風量で運転します。

2) サーモON中に、1度室内ファンがOFFからONとなった時、室内熱交温度センサが25℃以下となっても室内ファンをOFFしません。

注(i) デフロスト制御受信時はデフロスト時のファン制御に従います。

3) 一旦、ホットスタートを終了すると室内熱交温度センサの温度が低下してもホットスタートを再開しません。

(ii) ホットスタート作動時は、ルーバは水平位置となります。

(iii) デフロスト終了後、連続7分間室内ファンがOFFの場合は、室内熱交温度センサ（Thi-R1, R2）の検知温度に係わらずONします。

### (c) 終了条件

(i) ホットスタート制御中に下記の何れかの条件が成立した時、本制御を終了し室内ファンは設定風量で運転します。

- 1) 室内熱交温度センサ（Thi-R1, R2の何れが高い方）が35℃以上の時。
- 2) ホットスタート制御開始7分経過した時。

## (7) ホットキープ

デフロスト制御開始時にホットキープ制御を行います。

### (a) 制御内容

- (i) 室内熱交温度（Thi-R1またはR2で検知）が35℃以下となった場合、室内ファンを各設定の低速タップで運転します。
- (ii) ホットキープ時は、ルーバは水平位置となります。

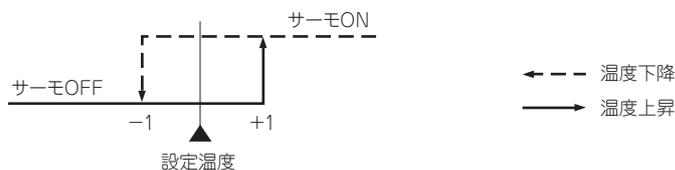
### (b) 終了条件

室内ファンが各設定の低速タップ時、室内熱交温度が45℃以上となれば設定風量に戻ります。

## (8) サーモ動作

### (a) 冷房

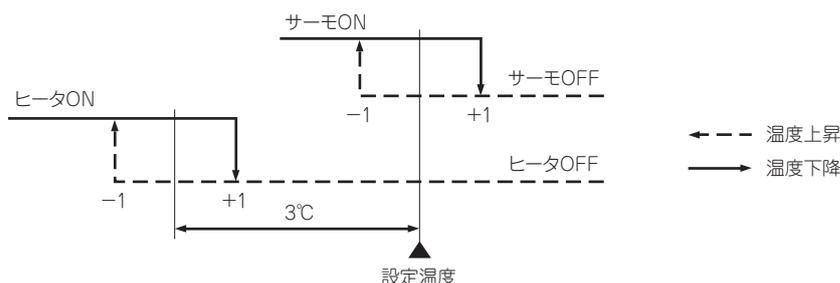
- (i) 室温制御によりサーモを動作させます。
- (ii) 設定温度に対し、サーモONとOFFは次の通りです。



(iii) 冷房運転開始時（暖房から冷房も含む）室温が $-1 < \text{設定温度} < +1$ の間はサーモONとします。

## (b) 暖房

- (i) 室温制御によりサーモを動作させます。
- (ii) 設定温度に対し、サーモONとOFFは次の通りです。



- (iii) 暖房運転開始時（冷房から暖房も含む）室温が $-1 < \text{設定温度} < +1$ の間はサーモONとします。

## (c) 暖房サーモOFF中のファン制御

- (i) 暖房サーモOFF中のファン制御は下記に示す内容が、ワイヤードリモコンの室内機能設定から選択が可能です。  
①弱風（工場出荷時） ②設定風量 ③間欠 ④停止
- (ii) 「弱風（工場出荷時）」を選択した場合の室内ファンタップはULo（Lo）で運転します。
- (iii) 「設定風量」を選択した場合は、サーモOFF時も設定風量で運転します。
- (iv) 「間欠」を選択した場合は、下記の制御を行います。
  - 1) 暖房運転中にサーモOFFした室内ユニットは、室内ファンをOFFします。
  - 2) 室内ファンOFFを5分間固定とし、5分後に室内ファンをULo（Lo）で運転を2分間行います。この間ルーバは水平制御となります。
  - 3) 室内ファンをULo（Lo）で運転2分後に1) 項に移行します。
  - 4) サーモONであれば、ホットスタート制御へ移行します。
  - 5) 暖房サーモOFFとなった場合、リモコンに表示する温度は室内ファンが停止となった時点とし、以降室内ファンがULo（Lo）から停止のタイミングで更新します。  
リモコンでは運転データ表示操作により温度表示を行い、室内ファンがOFF中も値を更新します。
  - 6) 暖房サーモOFF中にデフロストに入った場合、またはデフロスト中にサーモOFFした場合の室内ファンはOFFとします。（ホットキープ、ホットスタート制御を優先）ただし、吸込温度の更新は7分毎に行います。
  - 7) 暖房サーモONとなった場合、または他の運転モード（含む停止）に切換えた場合は、その時点で本制御を中止し、その後通常運転に復帰します。
- (v) 「停止」を選択した場合は、暖房運転中にサーモOFFすると室内ファンをOFFします。  
注(1) ( )内の室内ファンタップはFDESZシリーズの場合を示します。

## (d) 冷房サーモOFF中のファン制御

- (i) 冷房サーモOFF中のファン制御は下記に示す内容が、ワイヤードリモコンの室内機能設定から選択が可能です。  
①弱風 ②設定風量（工場出荷時） ③間欠 ④停止
- (ii) 「弱風」を選択した場合の室内ファンタップはULo（Lo）で運転します。
- (iii) 「設定風量（工場出荷時）」を選択した場合は、サーモOFF時も設定風量で運転します。
- (iv) 「間欠」を選択した場合は、下記の制御を行います。
  - 1) 冷房運転中にサーモOFFした室内ユニットは、室内ファンをOFFします。
  - 2) 室内ファンOFFを5分間固定とし、5分後に室内ファンをULo（Lo）で運転を2分間行います。
  - 3) 室内ファンをULo（Lo）で運転2分後に1) 項に移行します。
  - 4) サーモONであれば、室内ファンは設定風量で、冷房運転を行います。
  - 5) 冷房サーモOFFとなった場合、リモコンに表示する温度は室内ファンが停止となった時点とし、以降室内ファンがULoから停止のタイミングで更新します。  
リモコンでは運転データ表示操作により温度表示を行い、室内ファンがOFF中も値を更新します。
  - 6) 冷房サーモONとなった場合、または他の運転モード（含む停止）に切換えた場合は、その時点で本制御を中止し、その後通常運転に復帰します。
- (v) 「停止」を選択した場合は、冷房運転中にサーモOFFした室内ファンをOFFします。  
注(1) ( )内の室内ファンタップはFDESZシリーズの場合を示します。

## (9) フィルターサイン（お掃除パネル対応機は306ページ参照）

運転時間（運転／停止スイッチが ON となっている時間）が 180 時間<sup>(1)</sup>になるとリモコン上の「フィルター清掃」を表示します。（運転／停止に関係なく、故障時、集中制御時也表示します。）

注(1) フィルターサインの時間設定はワイヤードリモコンの室内機能「フィルターサイン設定」により下表の様に設定が可能です。（工場出荷時は、設定1に設定されています。）

フィルターサイン設定	機 能
設定 1	設定時間：180 時間(工場出荷時)
設定 2	設定時間：600 時間
設定 3	設定時間：1,000 時間
設定 4	設定時間：1,000 時間(ユニット停止) <sup>(2)</sup>

(2) 設定 4 では、設定時間経過後フィルター清掃を表示させ更に 24 時間(停止中もカウント)経過後ユニットを停止します。

## (10) オートスイング制御（オートスイング機能付機種のみ）

**注意** FDTZ シリーズは RC-DX3 リモコンの機能設定で「ドラフト防止設定」が有効の時、オートスイングを選択してもドラフト防止設定が有効なルーバはスイングせず水平位置となります。オートスイングさせる場合は「ドラフト防止設定」を解除してください。

### (a) RC-DX2, 3リモコンの場合

#### (i) ルーバ制御

- 1) エアコンが運転している時に、ルーバを動かすときは、リモコンのTOP画面で「風向」ボタンをタッチすると風向切換画面が表示されます。
- 2) ルーバをスイングさせる場合は「オートスイング」ボタンをタッチしてください。ルーバが上下に連動して動きます。  
ルーバ位置を固定する場合は [1] ~ [4] ボタンをタッチしてください。ルーバが指定の位置でとまります。
- 3) ルーバ4位置制御機の電源投入時のルーバ動作  
電源投入時、ルーバは自動的に（リモコン操作なし）1回スイングします。  
これは、ルーバ位置をマイコンが確認するため、ルーバモータ（LM）の位置をマイコンに入力させるための動作です。

#### (ii) 暖房時のルーバ自動水平セット

ホットスタートおよび暖房サーモOFF時は、（コールドドラフトを防ぐため）オートスイング操作(オートスイングまたはルーバ停止)に関わらずルーバは水平位置となります。またルーバ位置の表示は本制御に入る前の表示を継続します。

#### (iii) ルーバフリー停止制御

リモコンのTOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「リモコン設定」→「ルーバ制御」の順に選択してください。この画面にてフリー停止を選択するとリモコンより停止信号があった場合ルーバを停止します。さらにリモコンよりオートスイング信号があった場合、停止位置よりルーバが動き始めます。

### (b) RC-D4Gリモコンの場合

#### (i) ルーバ制御

- 1) エアコンが運転している時に、ルーバを動かすときは、**風向調整**ボタンを押します。  
「スイング」を表示し、ルーバが上下に連続して動きます。
- 2) ルーバの位置を固定するときは、ルーバが動いているときに、**風向調整**ボタンを一度押すと、4位の停止位置が1秒ごとに順番に表示されます。  
停止させたい位置に表示がきたときに、再度**風向調整**ボタンを押します。表示が停止し、「ルーバ停止」表示を5秒間表示し、ルーバが停止します。
- 3) ルーバ4位置制御機の電源投入時のルーバ動作  
電源投入時、ルーバは自動的に（リモコン操作なし）1回スイングします。  
これは、ルーバ位置をマイコンが確認するため、ルーバモータ（LM）の位置をマイコンに入力させるための動作です。

#### (ii) 暖房時のルーバ自動水平セット

ホットスタートおよび暖房サーモOFF時はオートスイングスイッチの操作(オートスイングまたはルーバ停止)に関わらずルーバは水平位置となります。（コールドドラフトを防ぐため）またルーバ位置の表示は本制御に入る前の表示を継続します。

#### (iii) ルーバフリー停止制御

ワイヤードリモコン室内機能「ルーバ制御設定」でルーバフリー停止を選択した場合、リモコンより停止信号があった場合ルーバモータを停止します。さらにリモコンよりオートスイング信号があった場合、停止前の位置よりオートスイングを始めます。

注(1) ワイヤードリモコン室内機能「ルーバ制御設定」を切替えた場合は、リモコン機能「ルーバ制御設定」も同様に切替えてください。

## (11) 圧縮機インチング防止制御

### (a) 3分タイマー

圧縮機がサーモスタート，リモコンの運転スイッチ，異常により停止した場合は3分間圧縮機を再始動させません。ただし電源投入時，3分タイマーは無効となります。

### (b) 3分強制運転タイマー

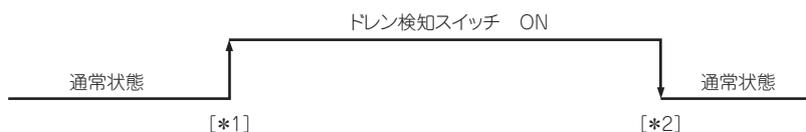
- (i) 圧縮機ON後3分間圧縮機は停止しません。ただし運転／停止による停止，運転モード変更によりサーモOFFとなった時は即停止します。
- (ii) 強制運転制御中に，保護制御に入った場合は，保護制御を優先して圧縮機をOFFします。

## (12) ドレンポンプ制御

- (a) 冷房運転，自動の冷房および除湿運転にて圧縮機運転中に作動します。
- (b) ドレンポンプがONしてからOFFの領域となっても，5分間ドレンポンプONを継続し，その後停止します。また異常停止の場合も5分間遅延を継続します。
- (c) 圧縮機ONからOFF時にドレンポンプを5分間遅延運転させます。
- (d) 上記以外の状態（暖房，送風，停止，冷房サーモOFF）でもドレン検知によりドレンポンプ制御を行います。
- (e) ワイヤードリモコン室内機能設定の「ドレンポンプ運転」により下記設定が可能です。
  - (i) 標準：冷房時ドレンポンプ ON（出荷時）
  - (ii) 暖房：(i)+暖房時ドレンポンプ ON
  - (iii) 暖房 送風：(i)+暖房時，送風時ドレンポンプ ON
  - (iv) 送風：(i)+送風時ドレンポンプ ON

## (13) ドレン異常検知

- (a) フロートスイッチ（FS）とタイマーによりドレン検知スイッチをON-OFFします。



[\*1] ドレン検知可能区間においてフロートスイッチ「開」を3秒間連続検知した時，ドレン検知スイッチを「ON」にします。

[\*2] フロートスイッチ「閉」を10秒間連続検知した時，ドレン検知スイッチを「OFF」にします。

- (i) 電源 ON 後 30 秒以降は常時検知します。
- (ii) ドレンポンプ OFF 後 10 秒間はドレン異常検知を行ないません。
- (iii) ドレン検知スイッチ「ON」により，ドレンポンプを強制 ON にします。
- (iv) ドレン検知スイッチ「OFF」により，ドレンポンプ強制 ON を解除します。
- (b) 室内ユニットは，各運転状態によりA制御またはB制御を行ないます。

	室内ユニットの運転モード				
	停止 <sup>(1)</sup>	冷房	除湿	送風 <sup>(2)</sup>	暖房
圧縮機ON中		A 制御			
圧縮機OFF中		B 制御			

注(1) 冷房，除湿，送風，暖房からの停止，異常停止を含む  
 (2) 運転モード不一致による「送風」運転を含む

- (i) A制御
  - 1) フロートスイッチがドレン異常を検知すると異常停止（E9表示）します。異常検知後，ドレンモータはONを継続します。
  - 2) フロートスイッチがドレン異常を検知している間は運転します。
- (ii) B制御
 

フロートスイッチがドレン異常を検知するとドレンモータを5分間ONし，ドレンモータOFF後10秒の時点でフロートスイッチをチェックし正常ならば通常の停止，異常ならばE9を表示しドレンモータをONします。（ドレン検知中はONのまま。）

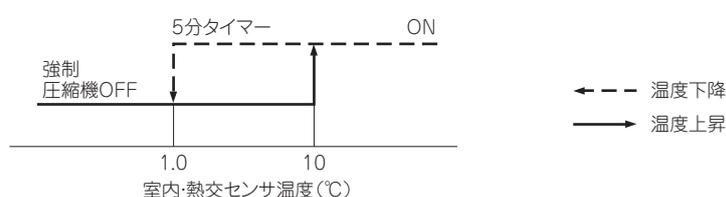
#### (14) 運転チェック／ドレンポンプ試運転モード

- (a) 室内基板上のディップスイッチ（SW7-1）をONの状態にて電源を投入することにより運転チェック／ドレンポンプ試運転モードに入ります。なお、電源投入後の切換えは無効（禁止）です。
- (b) ディップスイッチ（SW7-1）がONで電源投入後60秒以内にリモコン通信が確定した場合は、運転チェックモードに入ります。また、リモコン通信が確定しない場合は、ドレンポンプ試運転モードに入ります。  
注(1) ドレンポンプ試運転モードを選択する場合は、室内基板上のリモコン用コネクタ（CNB）を抜きリモコン通信を断ってください。
- (c) 運転チェックモード  
室外ユニットとの通信は行われず、リモコン操作により各運転モードを行います。
- (d) ドレンポンプ試運転モード  
ドレンポンプ試運転確定後、ドレンポンプのみ運転を行い運転中は、室内ユニットのマイコンによる保護機能は、無効となります。

#### (15) 室内熱交アンチフロスト（凍結防止制御）

##### (a) 強制圧縮機OFF制御

- (i) 「冷房」「除湿」運転中、熱交温度センサ（Thi-R1, R2）の検知により圧縮機をOFFします。



- (ii) 圧縮機ON後4分間は、凍結防止制御の強制圧縮機OFF制御を作動させません。圧縮機ONから4分経過時点で室内熱交温度センサ（Thi-R1, R2）の検知温度が、強制圧縮機OFF温度（1.0°C）以上の場合は圧縮機ON可の状態から検知を開始します。
- (iii) 圧縮機ONから4分経過後、室内熱交温度センサ（Thi-R1, R2の何れか）が5分連続して強制圧縮機OFF温度（1.0°C）以下となると圧縮機OFFさせます。また、復帰は室内熱交温度センサ（Thi-R1, R2）の温度が圧縮機ON可能領域に入ると圧縮機をONさせます。
- (iv) 室外ユニットへ「アンチフロスト」信号を送ります。
- (v) ワイヤードリモコン室内機能設定の「フロスト防止温度」により強制圧縮機OFF温度の切換えができます。
  - ・温度 低：1.0°C（工場出荷時）
  - ・温度 高：2.5°C

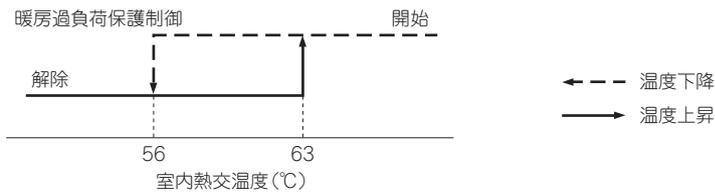
##### (b) 凍結防止制御時の室内ファン制御

冷房・除湿運転中に凍結防止制御に入った場合は、室内ファンを切換えます。

- (i) 吸込温度（Thi-Aで検知）が23°C以上かつ、室内熱交温度（Thi-R1, R2で検知）が周波数低下開始温度A°C+1.0°Cを検知した場合は、室内ファン回転数を20min<sup>-1</sup>増加させます。
  - ・周波数低下開始温度（A） 低：1.0°C（工場出荷時）
  - ・周波数低下開始温度（A） 高：2.5°C
- (ii) 吸込温度（Thi-Aで検知）が23°C以上かつ、凍結防止制御による強制圧縮機OFF制御実施時、室内ファンを1タップ上げます。
- (iii) 凍結防止制御による室内ファンアップ後、吸込温度が23°C以上かつ室内熱交温度が周波数低下開始温度A°C+1.0°Cを検知した場合は、室内ファン回転数を20min<sup>-1</sup>増加させます。
- (iv) 凍結防止制御による室内ファンアップ後、(ii)項を再度検知した場合は、室内ファンを1タップ上げます。
- (v) ワイヤードリモコン室内機能の「フロスト防止制御」によりファン制御の有効／無効が切換えられます。

## (16) 暖房過負荷保護制御

- (a) 室内熱交温度（Thi-R1、2で検知）が63℃以上を2秒間検知した場合は、暖房過負荷保護制御を開始し、検知温度が56℃以下を検知すると解除します。



- (b) 1回目の暖房過負荷検出
- (i) 圧縮機OFF信号を送信し停止制御を行います。
  - (ii) サーモONにより圧縮機をONし、吸込温度（Thi-Aで検知）が31℃以上を2秒間検知すると圧縮機を強制OFFします。
- (c) 暖房過負荷検出後、60分以内に2回目、3回目、4回目の検出
- (i) 圧縮機OFF信号を送信し停止制御を行います。
  - (ii) サーモONにより圧縮機をONし、室内ファン速度がMe、Loタップであれば1速アップさせます。
- (d) 1回目の検知から60分以内に5回および連続6分間検出すると異常停止（E8）します。

## (17) 室内ファンモータ異常（FDESZ シリーズは除く）

- (a) ファンモータ運転後、30秒間連続して回転数が200min<sup>-1</sup>未満を60分以内に4回検知した時は異常停止（E16）します。
- (b) ファンモータが回転指令出力後、2分間連続して要求回転数-50min<sup>-1</sup>に達しないときは、ファンモータ異常として異常停止（E20）します。

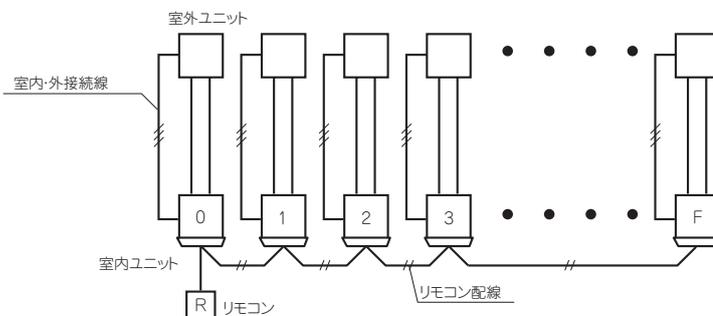
## (18) 複数台制御— 1 リモコンによる 16 台グループ制御

### (a) 機能

1個のリモコンで複数台のユニット（室内ユニット・最大16台）をグループ制御できます。リモコンでセットした「運転モード」でグループの全ユニットは号機No.<sup>(1)</sup>順に順次運転・停止させることができます。各ユニットのサーモ、保護機能は独立して機能します。

注(1) 号機No.は室内制御基板上的SW2で設定します。SW2の号機設定は室内のみ必要です。

SW2：0～9,A～Fの範囲で設定します。



(2) 号機は重複しなければランダムでも構いませんが、0, 1, 2..., Fと順番に設定していった方が間違いなく設定できます。

### (b) リモコンへの表示

- (i) センタまたはリモート別、暖房準備：運転中のユニットでリモートモードの（リモートモードが無い時は、センタモード）最若号機ユニットの表示
- (ii) 点検表示、フィルタサイン：いずれか初発のユニット対応で表示

### (c) 接続ユニットの確認

- (i) RC-DX2、3 リモコンの場合  
リモコンのTOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「サービス・メンテナンス」→「サービスパスワード入力」→「エアコンNo.表示」の順に選択すると接続室内ユニットが表示されます。
- (ii) RC-D4Gリモコンの場合  
リモコンの「エアコンNo.」ボタンを押すと、リモコン通信アドレスが表示されます。その後▲▼ボタンを押すと最若号機から順に表示されます。

(d) 異常時

- (i) グループの一部ユニットに異常が発生した場合（保護装置作動）当該ユニットは異常停止しますが、他の正常なユニットはそのまま運転を継続します。
- (ii) 配線要領  
各ユニットの室内・外接統線は各ユニット毎に通常と同じ配線をしてください。グループ制御用にリモコンの端子台（X、Y）を使用し各室間に渡り配線をしてください。  
リモコン線と電源線または他の電気機械器具電線（AC100V以上）とは分離して配線してください。

(19) グリル昇降制御

- ・ 子リモコンでは操作できません。親リモコンで操作してください。
- ・ 上昇・下降制御に入っていない限り、エアコンは運転可能です。

(a) オートリフトモード

リモコンの「グリル昇降」を押すことにより、室内ユニットは停止し、オートリフトモードになります。

(b) グリル下降制御

リモコンの下降信号により、設定された長さに相当する時間分、グリルが下降します。

設定された長さに相当する時間以上になるとそれ以上グリルは下降しません。

(c) グリル上昇制御

リモコンの上昇信号により、グリルが上昇します。パネルスイッチがONになるまでか、または設定された長さに相当する時間分、グリルが上昇し、グリル収納制御を行います。

(d) グリル収納制御

グリル上昇制御でパネルスイッチがONになるか、設定された長さに相当する時間になるとグリル収納制御を行います。収納位置を補正するため、下降・上昇制御を2回繰り返します。

(e) ワイヤゆるみ検知機構

- (i) グリル停止中に、ワイヤゆるみ検知スイッチがOFFの場合は、グリル上昇制御・下降制御を行いません。
- (ii) グリル上昇制御・下降制御・グリル収納制御中に、ワイヤゆるみ検知スイッチがOFFした場合は、1秒後にグリル昇降モータをOFFします。
- (iii) (ii)項でモータ停止後、ワイヤゆるみ検知スイッチがONになると、再度リモコンにより上昇制御・下降制御を行います。

(f) グリル開時のエラー表示（FDTZシリーズのみ）

エアコン運転中に1秒以上パネルスイッチ（PS）が開を検知した場合はエアコンを停止し、リモコンにE21を表示します。

注(1) リモコンによる自動下降制御で、自動昇降モードに入っている場合は除きます。

(20) 高天井制御

高天井に設置された室内ユニットで風量が不足する場合にファンタップを変更することにより風量のアップが可能です。ワイヤードリモコン室内機能の「高天井（風速）設定」によりファンタップが変更できます。

		室内風量設定				適用機種
		P急 - 急 - 強 - 弱	急 - 強 - 弱	急 - 弱	急 - 強	
高天井設定 (風速設定)	標準	PHi1 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	FDTWZ, FDTSZ, FDRZ, FDUZ, FDESZシリーズ
		PHi2 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	FDEZシリーズ
		PHi2 - Hi - Me - UL0	Hi - Me - UL0	Hi - UL0	Hi - Me	FDTZシリーズ
	高天井1(設定1)	PHi1 - PHi1 - Hi - Me	PHi1 - Hi - Me	PHi1 - Me	PHi1 - Hi	FDRZ, FDUZ, FDESZシリーズ
		PHi1 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	FDEZシリーズ
		PHi2 - PHi1 - Hi - Me	PHi1 - Hi - Me	PHi1 - Me	PHi1 - Hi	FDTZ, FDTWZ, FDTSZシリーズ
高天井2(設定2)	PHi2 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	FDTZ, FDTWZ, FDTSZ, FDEZシリーズ	

注(1) 出荷時標準に設定されています。

(2) ホットスタートおよび暖房サーモOFF時等は室内ファンを各設定の低速タップで運転します。

(3) ( )内は、RC-DX3リモコンの場合を示します。

(21) 温度センサ（吸込・室内熱交）断線・短絡検知

(a) 断線検知

吸込温度センサの検知温度が-50℃以下、室内熱交温度センサの検知温度が-50℃以下を連続5秒間検知した場合は圧縮機を停止します。3分遅延後に圧縮機を再起動させ1回目の検知から60分以内に再検知および連続6分間検知した場合は、停止（吸込温度センサ：E7、室内熱交温度センサ：E6）します。

(b) 短絡検知

室内熱交温度センサの検知温度が、冷房運転で圧縮機ON2分後から20秒間に70℃以上を連続5秒間検知した場合は停止（E6）します。

(22) 外部入力（遠方表示）／遠方操作〔FDESZ シリーズは CnTA を除く〕

外部入出力端子CnTおよび入力端子CnTAにより、運転状態の出力およびエアコンの発停入力を行うことができます。

(a) 外部制御（遠方表示）用出力（オプションの遠方発停監視キットが利用できます。）

(i) 出荷状態の出力

- 1) 室内制御基板上に下記の出力用コネクタ（CnT）を持っています。遠方発停監視キットを接続して各々の無電圧接点を取出してください。
- 2) 出荷状態では、以下の4つの出力が割り当てられています。
  - ・運転出力（CnT1-2）：運転中、リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
  - ・暖房出力（CnT1-3）：暖房運転中、リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
  - ・圧縮機 ON 出力（CnT1-4）：圧縮機が運転中、リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
  - ・異常出力（CnT1-5）：異常発生時、リレー駆動用出力DC12Vを出力します。

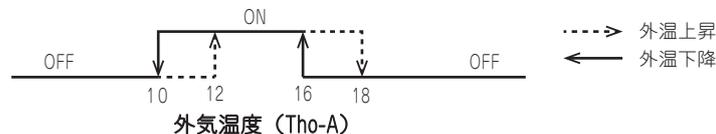
(ii) 出力コネクタの変更

- 1) ワイヤードリモコンの室内機能設定により、出力コネクタの変更および(iii)項の出荷状態以外の出力に変更することができます。ワイヤードリモコンRC-DX3での設定は可能ですが、ワイヤードリモコンRC-DX2およびRC-D4Gでは設定できません。
- 2) 設定は、ワイヤードリモコンの室内機能「外部出力設定」で出力先の選択してください。ワイヤードリモコンでの設定名とコネクタは以下のようになります。
 

①外部出力1：CnT1-2 ②外部出力2：CnT1-3 ③外部出力3：CnT1-4 ④外部出力4：CnT1-5

(iii) 出荷状態以外の出力

- 1) 冷房出力：冷房モード中（自動の冷房運転、デフロスト、暖房油戻しを含む）に出力します。
- 2) ファン運転出力1：室内ファンの速度によらず、ファン運転中に出力します。
- 3) ファン運転出力2：室内ファンが、Hiタップ以上で運転中に出力します。
- 4) ファン運転出力3：室内ファンが、Hiタップ未満で運転中に出力します。
- 5) デフロスト、油戻し出力：室外ユニットからのデフロスト信号または暖房油戻し信号を受信中に出力します。
- 6) 換気出力：ワイヤードリモコンからの換気指令により出力します。
- 7) ヒータ出力：(8)、(b)項の条件により出力します。
- 8) フリークーリング出力  
運転モードが冷房または送風の場合、外気温度により出力します。（外気導入による温度調整用）



9) 室内過負荷アラーム出力

運転開始30分以降で、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上となった場合、出力します。

(b) 遠方操作入力（CnT1-6 または CnTA1-2）

(i) リモコンによる設定方法

- 1) ワイヤードリモコンの室内機能設定により、運転/停止モードおよび入力方式を設定します。出荷状態で、外部入出力1, 2の設定は運転/停止、外部入力1, 2の方式はレベル入力となっています。

	入力端子	室内機能設定	
		RC-DX2, DX3 (ワイヤードリモコン)	RC-D4G (ワイヤードリモコン)
モード設定	CnT	外部入力1 設定：運転/停止	運転許可/禁止:無効
	CnTA	外部入力2 設定：運転/停止	設定項目はありませんが、出荷状態のままで使用可能です。
入力方式	CnT	外部入力1 方式：“レベル入力”または“パルス入力”	外部入力切換え：“レベル入力”または“パルス入力”
	CnTA	外部入力2 方式：“レベル入力”または“パルス入力”	設定項目はありませんが、出荷状態のままレベル入力です。

(ii) 外部入力による動作

- 1) 運転・停止の切換え
  - a) レベル入力の場合
    - 外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnTA1-2は閉）の場合は運転となります。
    - 外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnTA1-2は開）の場合は停止となります。

b) パルス入力の場合

外部入力 (CnT1-6またはCnTA1-2) がOFF (開) からON (閉) のタイミングで運転と運転停止を反転します。

外部入力機能切換	外部入力方式	動作	
運転/停止	①レベル	外部端子入力 (CnT または CnTA)	
		運転/停止	
		運転/停止 (競合)	
	②パルス	外部端子入力 (CnT または CnTA)	
		運転/停止	
		運転/停止 (競合)	

(iii) 注意事項

- 1) ワイヤードリモコンは必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと、本制御は行えません。
- 2) エアコンの操作が「センターモード」となっている時は、CnT または CnTA による遠方操作は無効となります。
- 3) コネクタの部品番号 (別売品、配線長さ 500mm)

コネクタ	部品番号
CnT	PCZ006A043
CnTA	PCZ006A053
CnZ (HA用)	PCZ006A054

(23) 運転許可・禁止 (コインタイマー用制御) [FDESZ シリーズは CnTA を除く]

リモコンで設定を変更することで、(22)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT、CnTAの機能切換えを行い、外部信号の入力によりエアコンの操作可能・操作不可を制御することができます。

市販のコインタイマーの信号等によりエアコン使用可能・使用不可を制御することが出来ます。

(i) リモコンによる設定方法

- 1) ワイヤードリモコンの室内機能設定により、運転許可・禁止モードおよび入力方式を設定します。

	入力端子	室内機能設定	
		RC-DX2, DX3 (ワイヤードリモコン)	RC -D4G (ワイヤードリモコン)
モード設定	CnT	外部入力1 設定: 許可/禁止	運転許可/禁止:有効
	CnTA	外部入力2 設定: 許可/禁止	設定できません。
入力方式	CnT	外部入力1 方式: “レベル入力” または “パルス入力”	外部入力切換え: “レベル入力” または “パルス入力”
	CnTA	外部入力2 方式: “レベル入力” または “パルス入力”	設定できません。

(ii) 外部入力による動作

- 1) 運転許可・禁止の切換え

a) レベル入力の場合

外部入力ON (CnT1-6: 閉またはCnTA1-2:閉) の場合は、運転許可となります。

外部入力OFF (CnT1-6: 開またはCnTA1-2:開) の場合は、運転禁止となります。

外部端子入力 (CnT または CnTA)	
運転許可/禁止	

b) パルス入力の場合

外部入力 (CnT1-6またはCnTA1-2) がOFF (開) からON (閉) のタイミングで運転許可と運転禁止を反転します。

外部端子入力 (CnT または CnTA)	
運転許可/禁止	

- 2) 運転許可の場合の動作
  - a) エアコンは、リモコンからの操作が可能です。
  - b) 「センター」モード設定時は、センターからのみ操作可能となります。
- 3) 運転禁止時の場合の動作
  - a) エアコンは、リモコンからの操作ができません。
  - b) エアコン運転中に運転禁止となった場合は、エアコンは停止します。

(iii) 注意事項

- 1) ワイヤードリモコンは、必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと、本制御は行えません。
- 2) プルラール制御中は、親機のみ本制御を受け付けます。子機は本制御を受け付けません。子機は、親機の入力に連動します。

(24) 冷房・暖房外部入力機能切換え〔FDESZシリーズはCnTAを除く〕

リモコンで設定変更することで、(22)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT、CnTAの機能切換えを行い、外部信号の入力により運転モードを冷房/暖房に切換えることができます。

(a) リモコンによる設定方法

- (i) ワイヤードリモコンの室内機能設定により、冷房/暖房モードおよび入力方式を設定します。RC-DX2、DX3のリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定 (RC-DX2、DX3ワイヤードリモコン)
モード設定	CnT	外部入力1設定：冷房/暖房
	CnTA	外部入力2設定：冷房/暖房
入力方式	CnT	外部入力1方式：“レベル入力”または“パルス入力”
	CnTA	外部入力2方式：“レベル入力”または“パルス入力”

(b) 外部入力による動作

(i) 冷房/暖房の切換え

- 1) レベル入力の場合
  - a) 外部入力ON (CnT1-6：閉またはCnTA1-2:閉)の場合は暖房となります。
  - b) 外部入力OFF (CnT1-6：開またはCnTA1-2:開)の場合は冷房となります。
- 2) パルス入力の場合
  - 外部入力 (CnT1-6またはCnTA1-2) がOFF (開) からON (閉) のタイミングで冷房と暖房を反転します。

(c) 外部入力により冷房 / 暖房の切換えを受けた場合は、リモコンに運転モードを送信します。

外部入力機能切換	外部入力方式	動作	
冷房/暖房切換	⑤レベル	外部端子入力 (CnT または CnTA)	
		冷房/暖房	
		冷房/暖房 (競合)	
	⑥パルス	外部端子入力 (CnT または CnTA)	
		冷房/暖房	
		冷房/暖房 (競合)	

(d) 注意事項

ワイヤードリモコンは必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと本制御は行えません。

## (25) 設定温度シフト入力 (FDTZ シリーズのみ)

リモコンで設定変更することで、(22)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT, CnTA の機能切換えを行い、外部信号の入力により運転モードを設定温度シフト入力に切換えることができます。

### (a) リモコンによる設定方法

- (i) ワイヤードリモコンの室内機能設定により、設定温度シフト入力モードおよび入力方式を設定します。RC-DX2, DX3のリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定 (RC-DX2, DX3ワイヤードリモコン)
モード設定	CnT	外部入力1 設定: 制御が有効
	CnTA	外部入力2 設定: 制御が有効
入力方式	CnT	外部入力1 方式: "レベル入力"または"パルス入力"
	CnTA	外部入力2 方式: "レベル入力"または"パルス入力"

### (b) 外部入力による動作

#### (i) 設定温度シフト入力の切換え

##### 1) レベル入力の場合

- a) 外部入力ON (CnT1-6: 閉またはCnTA1-2:閉) の場合は制御が有効となります。  
b) 外部入力OFF (CnT1-6: 開またはCnTA1-2:開) の場合は制御が無効となります。

##### 2) パルス入力の場合

外部入力 (CnT1-6またはCnTA1-2) がOFF (開) からON (閉) のタイミングで制御の有効/無効を反転します。

#### (ii) 注意事項

ワイヤードリモコンは、必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと、本制御は行えません。

## (26) 強制サーモ OFF 入力 (FDTZ シリーズのみ)

リモコンで設定変更することで、(22)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT, CnTA の機能切換えを行い、外部信号の入力により運転モードを強制サーモOFF入力に切換えることができます。

### (a) リモコンによる設定方法

- (i) ワイヤードリモコンの室内機能設定により、強制サーモOFF入力モードおよび入力方式を設定します。RC-DX2, DX3のリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定 (RC-DX2, DX3ワイヤードリモコン)
モード設定	CnT	外部入力1 設定: 制御が有効
	CnTA	外部入力2 設定: 制御が有効
入力方式	CnT	外部入力1 方式: "レベル入力"または"パルス入力"
	CnTA	外部入力2 方式: "レベル入力"または"パルス入力"

### (b) 外部入力による動作

#### (i) 設定温度シフト入力の切換え

##### 1) レベル入力の場合

- a) 外部入力ON (CnT1-6: 閉またはCnTA1-2:閉) の場合は制御が有効となります。  
b) 外部入力OFF (CnT1-6: 開またはCnTA1-2:開) の場合は制御が無効となります。

##### 2) パルス入力の場合

外部入力 (CnT1-6またはCnTA1-2) がOFF (開) からON (閉) のタイミングで制御の有効/無効を反転します。

#### (ii) 注意事項

ワイヤードリモコンは、必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと、本制御は行えません。

## (27) 一時停止入力 (FDTZ シリーズのみ)

リモコンで設定変更することで、(22)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT, CnTA の機能切換えを行い、外部信号の入力により運転モードを一時停止入力に切換えることができます。

### (a) リモコンによる設定方法

- (i) ワイヤードリモコンの室内機能設定により、一時停止入力モードおよび入力方式を設定します。RC-DX2, DX3のリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定 (RC-DX2, DX3ワイヤードリモコン)
モード設定	CnT	外部入力1 設定: 制御が有効
	CnTA	外部入力2 設定: 制御が有効
入力方式	CnT	外部入力1 方式: "レベル入力"または"パルス入力"
	CnTA	外部入力2 方式: "レベル入力"または"パルス入力"

(b) 外部入力による動作

(i) 設定温度シフト入力の切換え

1) レベル入力の場合

- a) 外部入力ON (CnT1-6：閉またはCnTA1-2:閉) の場合は制御が有効となります。
- b) 外部入力OFF (CnT1-6：開またはCnTA1-2:開) の場合は制御が無効となります。

2) パルス入力の場合

外部入力 (CnT1-6またはCnTA1-2) がOFF (開) からON (閉) のタイミングで制御の有効/無効を反転します。

(ii) 注意事項

ワイヤードリモコンは、必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと、本制御は行えません。

(28) 静音モード入力〔FDTZ シリーズのみ〕

リモコンで設定変更することで、(22)項の遠方制御/遠方操作端子CnT, CnTA の機能切換えを行い、外部信号の入力により運転モードを一時停止入力に切換えることができます。

(a) リモコンによる設定方法

- (i) ワイヤードリモコンの室内機能設定により、静音モードおよび入力方式を設定します。RC-DX2, DX3のリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定 (RC-DX2, DX3ワイヤードリモコン)
モード設定	CnT	外部入力1設定：制御が有効
	CnTA	外部入力2設定：制御が有効
入力方式	CnT	外部入力1方式：“レベル入力”または“パルス入力”
	CnTA	外部入力2方式：“レベル入力”または“パルス入力”

(b) 外部入力による動作

(i) 設定温度シフト入力の切換え

1) レベル入力の場合

- a) 外部入力ON (CnT1-6：閉またはCnTA1-2:閉) の場合は制御が有効となります。
- b) 外部入力OFF (CnT1-6：開またはCnTA1-2:開) の場合は制御が無効となります。

2) パルス入力の場合

外部入力 (CnT1-6またはCnTA1-2) がOFF (開) からON (閉) のタイミングで制御の有効/無効を反転します。

(ii) 注意事項

ワイヤードリモコンは、必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと、本制御は行えません。

(29) 外部入力機能と優先順位〔FDESZ シリーズは CnTA を除く〕

(a) CnTとCnTAの組み合わせ優先順位

■CnTとCnTAの組み合わせ優先順位

		CnTA					
		①運転停止レベル	②運転停止パルス	③運転許可/禁止レベル	④運転許可/禁止パルス	⑤冷暖切換レベル	⑥冷暖切換パルス
CnT	①運転停止レベル	CnT①	CnT①	CnT①+CnTA③	CnT①	CnT①/CnTA⑤	CnT①/CnTA⑥
	②運転停止パルス	CnT②	CnT②	CnT②+CnTA③	CnT②	CnT②/CnTA⑤	CnT②/CnTA⑥
	③運転許可/禁止レベル	CnT③>CnTA①	CnT③>CnTA②	CnT③+CnTA③	CnT③	CnT③/CnTA⑤	CnT③/CnTA⑥
	④運転許可/禁止パルス	CnT④	CnT④	CnT④+CnTA③*	CnT④	CnT④/CnTA⑤	CnT④/CnTA⑥
	⑤冷暖切換レベル	CnT⑤/CnTA①	CnT⑤/CnTA②	CnT⑤/CnTA③	CnT⑤/CnTA④	CnT⑤	CnT⑤
	⑥冷暖切換パルス	CnT⑥/CnTA①	CnT⑥/CnTA②	CnT⑥/CnTA③	CnT⑥/CnTA④	CnT⑥	CnT⑥

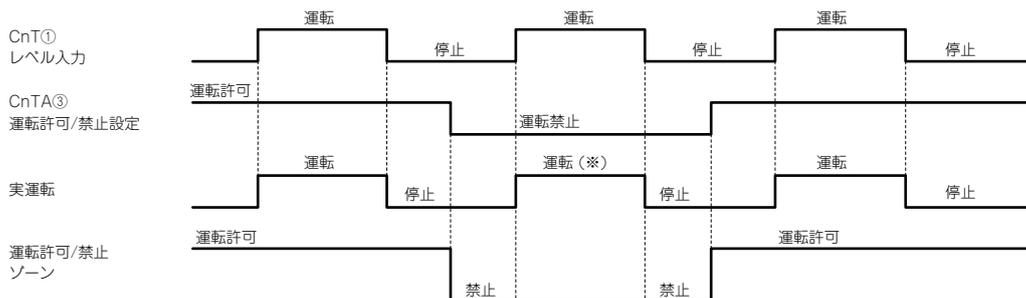
注(1) \*部のCnTAによる運転禁止設定中は、以下の運転指令を受け付けます。  
・リモコンからの個別運転指令、室外からの試運転指令およびオプションからの運転指令

参考:上記記号および組み合わせ記号の説明

1. CnT"番号"の場合、CnT"番号"採用しCnTAを無効とする。
2. CnTA"番号"の場合、CnTA"番号"採用しCnTを無効とする。
3. CnT"番号"/CnTA"番号"の場合、CnT"番号"とCnTA"番号"は共に独立した機能とする。
4. CnT"番号"+CnTA"番号"の場合、CnT"番号"とCnTA"番号"は競合機能
5. CnT"番号">CnTA"番号"の場合、CnT"番号"はCnTA"番号"より機能の優先順位が高い。
6. CnT"番号"<CnTA"番号"の場合、CnTA"番号"はCnT"番号"より機能の優先順位が高い。  
(上記"番号"の部分には、①～⑥の番号が入ります)

## (b) CnTとCnTAでの優先順位例

### (i) CnTA①運転レベル>CnTA③運転許可/禁止レベルの場合



(※) CnTレベル入力をCnTA運転禁止よりも優先する。

### (ii) CnT③運転許可/禁止レベル + CnTA③運転許可/禁止レベルの場合



(※) 運転禁止ゾーンはCnT運転禁止ゾーンとCnTA運転禁止ゾーンのOR判定とする。

## (30) 暖房立上がり時のファン制御 [FDESZ シリーズは除く]

### (a) 開始条件

暖房運転開始時とホットスタート制御終了後に、設定温度と吸込温度との温度差が5℃以上の時、本制御を行います。

### (b) 制御内容

(i) サンプルリング時間は1分毎とし、室内熱交温度(Thi-R1,2で検知)が37℃以上の場合、現在の室内ファン回転数を $10\text{min}^{-1}$ 上げます。

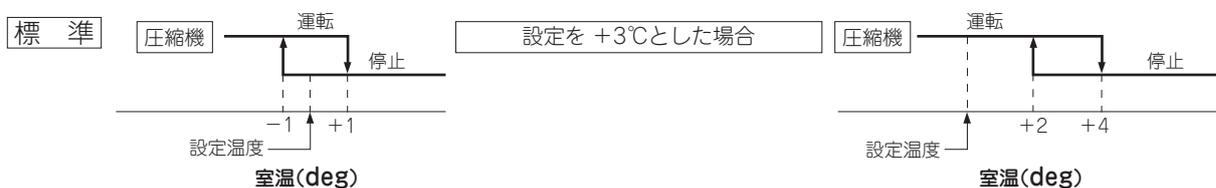
(ii) 次のサンプルリング時に室内熱交温度が37℃未満となった場合、現在の室内ファン回転数を $10\text{min}^{-1}$ 下げます。

### (c) 終了条件

圧縮機OFFが成立した場合および暖房運転開始時から30分経過後、 $-10\text{min}^{-1}/\text{分}$ で設定風量まで室内ファン回転数を下げます。

## (31) 暖房時室温検知温度補正

サーモの設定温度で圧縮機をON/OFFしていますが、天井に暖気が籠り易い据付状況で早目にサーモOFFしてしまう場合、ワイヤードリモコン室内機能「暖房室温補正」により設定温度の変更が可能です。設定温度+3、+2、+1℃のいずれかの温度で圧縮機をON/OFFさせ、暖房ファーストリング向上させることができます。ただし設定温度の上限を30℃とします。



## (32) 吸込温度補正

吸込温度センサの検知温度とユニット据付後の計測温度との誤差が生じて、補正が必要となった場合に補正する機能です。

(a) ワイヤードリモコン室内機能「吸込温度補正」により0.5℃単位で変更が可能です。

●+1.0℃, +1.5℃, +2.0℃, ●-1.0℃, -1.5℃, -2.0℃,

(b) 補正後の温度をリモコンや室外ユニットに送信し、補正後の温度で制御を行います。

注(1) 検知温度補正は室内ユニットセンサのみ有効です。

### (33) お掃除パネル対応機能制御〔FDTZシリーズのみ〕

#### (a) フィルターサイン

- (i) 運転時間（「運転／停止」スイッチがONとなっている時間）が下記設定時間になると、リモコンの液晶に「フィルター清掃」を表示します。（運転・停止に関係なく、故障時、集中制御時也表示します。）

注(1) フィルターサインの時間設定は、ワイヤードリモコン室内機能「フィルターサイン設定」により下表のように設定可能です。

フィルターサイン設定	機 能
設定1	設定時間：1,000時間
設定2	設定時間：2,000時間
設定3	設定時間：2,500時間
設定4	設定時間：2,500時間（ユニット停止）

注(1) 設定4では、設定時間経過後フィルター清掃を表示させ、更に24時間（停止中も含む）経過後ユニットを停止します。

(2) RC-D4Gリモコンは工場出荷時、設定3（2,500時間）に設定されていますが、RC-DX2,3リモコンについては工場出荷時の設定はされていません。

- (ii) フィルタサインが点灯すると、お掃除パネルは、表示部に黄色を点灯します。RC-DX2,3リモコンは、「ホコリを回収してください」を表示します。

### (34) ハイパワー運転〔RC-DX2,3リモコンのみ〕

最大能力で、最長15分間運転します。

### (35) 省エネ運転〔RC-DX2,3リモコンのみ〕

設定温度を冷房28℃、暖房22℃、自動25℃で固定して運転します。（最大能力を80%に制限します。）

### (36) ピークカットタイマー〔RC-DX2,3リモコンのみ〕

最大能力を制限することで消費電力を削減します。

### (37) ウォームアップ制御〔RC-DX2,3リモコンのみ〕

運転開始設定時間にお部屋が設定温度近くになるように、マイコンが運転開始時間を予測して、5～60分前から運転を開始します。

### (38) 赤外線センサ制御〔FDTZシリーズのみ〕

赤外線センサにより人の有無および活動量をセンサで判定し、下記制御を行います。設定は、RC-DX3リモコンのTOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「据付設定メニュー」→「赤外線センサー設定」の順に選択し、有効・無効の設定をしてください。

#### (a) パワーコントロール制御

赤外線センサにより人の活動量および人の有無を検知し、設定温度を補正します。

#### (b) オートオフ制御

1時間不在の場合は、運転を停止して運転待機状態となります。待機状態が12時間継続した場合は、運転を停止します。

## 14.2 リモートコントローラ

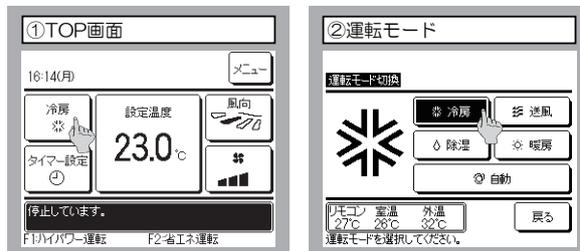
### (1) RC-DX2, 3リモコンの場合

#### (a) リモコンの運転モード選択

- (i) TOP画面上より「運転モード」ボタンをタッチしてください。
- (ii) 「運転モード」選択画面が表示されますので、ご希望の運転モードをタッチしてください。
- (iii) 運転モード選択後、TOP画面に戻ります。



• 下図はRC-DX3の場合を示しますが、RC-DX2の操作も同じです。



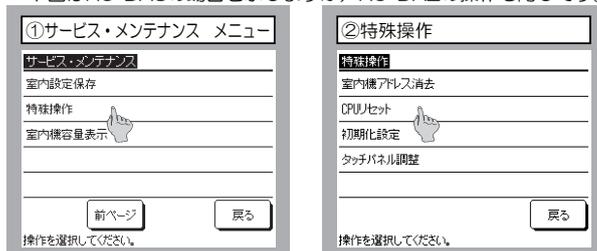
- 注(1) 室内ユニット-室外ユニットの組合わせにより、選択できない運転モードは表示されません。  
(2) 自動を選択すると、室温と外温に応じて、冷房・暖房自動切替運転を行います。

#### (b) CPUリセット

下記手順にてリモコンよりCPUをリセットしてください。

- (i) TOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「サービス・メンテナンス」を選択し、サービスパスワードを入力します。
- (ii) 「サービス・メンテナンス メニュー」より「特殊操作」→「CPUリセット」の順に選択すると接続している室内ユニット・室外ユニットのマイコンがリセット(停電復帰状態)されます。

• 下図はRC-DX3の場合を示しますが、RC-DX2の操作も同じです。



#### (c) 停電補償機能

下記手順にてリモコンより停電補償機能を有効設定してください。

- (i) TOP画面上の「メニュー」より「メニュー画面」→「リモコン設定」を選択し、サービスパスワードを入力します。
- (ii) 「リモコン設定 メニュー」より「停電補償」を選択し「有効」に設定してください。運転中に停電した場合は、停電復帰(電源投入後の制御終了)後に、停電前の状態に戻ります。



●常にリモコンの状態を記憶しており停電から復帰後、記憶内容により運転を再開します。ただしタイマーモードはキャンセルされますが、ウィークリータイマー、ピークカットタイマーおよび室外静音タイマーについては下記内容となります。

- ・時計機能が有効の場合：設定された内容により機能します。
- ・時計機能が無効の場合：時計機能を再設定し、リモコンの機能設定によりウィークリータイマー、ピークカットタイマーおよび室外静音タイマーの設定を「有効」にすると記憶された内容で機能します。

●停電補償で記憶される内容は以下のとおりです。

注(1) ⑥、⑦項は停電補償有効・無効にかかわらず記憶されます。

- ① 停電時 運転中/停止中  
時刻切タイマーモード、時間タイマーモードで運転中は、停止中を記憶します。
- ② 運転モード
- ③ 風量モード
- ④ 室温設定
- ⑤ ルーバのオートスイング/停止  
ただし停止位置(4位置)はキャンセルされます。
- ⑥ 「お掃除パネル設定」「管理者設定」「据付設定」「室内設定」により設定された内容は、室内ユニットが記憶します。
- ⑦ ウィークリータイマー、ピークカットタイマー、室外静音タイマー
- ⑧ リモコン設定

(d) 注意喚起表示

下記(i)～(iii)が表示される場合、以下のとおり確認、処置してください。

(i) 室内機確認注意喚起



- リモコンと室内ユニット間の通信が確立できない場合に表示します。  
システム（室内ユニット、室外ユニット、リモコン）として正しく接続されているか、室外ユニットの電源が接続されているかを確認してください。

(ii) タイマー時刻設定警告



- 時刻未設定でタイマー設定をしたときに表示します。  
時刻設定を行ってください。時刻設定を行わないとタイマー設定が出来ません。

(iii) 誤接続



- リモコンに空調機以外のものが接続されたとき本表示を行います。  
リモコンの接続先を確認してください。

(e) 設定および表示項目

(i) RC-DX3リモコンの場合

●接続する機種により設定できる項目が異なります。

設定および表示項目	詳細内容
1. リモコンネットワーク	
1 複数室内機制御	リモコン1台(リモコンネットワーク内)に最大16台室内ユニットを接続制御できます。室内ユニット側にアドレスを設定します。
2 親子リモコン設定	リモコンネットワーク内に2個のリモコン(含むワイヤレスリモコン)を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。
2.TOP画面・SW操作	
1 メニュー	制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。
2 運転モード	冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。
3 設定温度	室温を0.5℃単位で設定します。
4 風向	風向を設定します。4方向/フリー
5 風量	風量を設定します。
6 タイマー設定	タイマー運転を設定します。
7 運転/停止SW	運転を開始します。/停止します。
8 F1スイッチ	F1スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。
9 F2スイッチ	F2スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。
3.省エネ設定	
管理者パスワード	
1 切忘れ防止タイマー	運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ●設定時間は30～240分(10分単位)まで選択可能です。 ●設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。
2 ピークカットタイマー	能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ●1日最大4パターンまで設定可能です。 ●設定時刻は5分単位で設定可能です。 ●能力制限率は0.40～80%(20%単位)から選択可能です。 ●祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。
3 設定温度自動復帰	設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ●1日最大4パターンまで設定可能です。 ●設定時間は20～120分(10分単位)まで設定可能です。
4 赤外線センサー制御	赤外線センサーを使用の場合、パワーコントロールとオートセーブの有効/無効を設定します。
赤外線センサー付パネル組合せの場合	
4.グリル昇降	
1 ラクリーナパネル制御	ラクリーナパネル グリルの昇降操作をします。
ラクリーナパネル組合せの場合	
[メニュー]⇒[据付設定]⇒[グリル昇降操作]の設定が必要です。	
2 降下長設定	グリル昇降長さを設定します。 ●0.1～4.0mの範囲で設定できます。 ●設定長さは0.1m単位で設定可能です。 ●接続室内ユニット毎に設定できます。
管理者パスワード	
3 ダスト回収リセット	ダスト回収後にダスト回収タイマーをリセットします。
お掃除パネル組合せの場合	
5.フリーフロー設定	
フリーフロー設定	各吹出口のルーバ可動範囲(上限位置・下限位置)を設定します。
6.ドラフト防止設定	
ドラフト防止設定	ドラフト防止機構付パネルを使用の場合、各運転モード、各吹出口のドラフト防止動作の有効・無効を設定します。
ドラフト防止機構付パネル組合せの場合	
7.換気	
1 換気	換気のON/OFF操作を行います。 [メニュー]⇒[リモコン操作]⇒[換気設定]の設定が必要です。 ●換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転/停止ができます。
換気機器組合せの場合	
8.見てみて	
1 見てみて	室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ●室内ユニット—室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。
9.消費電力量表示	
1 消費電力量表示	今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。昨日、先週、昨年と比較することができます。 ●室内ユニット—室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。
10.お掃除パネル設定	
管理者パスワード	
1 お掃除自動設定	自動清掃の有効/休止を設定します。
2 清掃時間帯設定	自動清掃を開始する時間帯を設定します。
3 清掃間隔設定	自動清掃する最小の間隔を設定します。
4 ダスト回収設定	ダストの回収時期を設定します。
5 ブラシ清掃回数設定	ブラシの清掃回数を設定します。
11.フィルタサインリセット	
1 フィルタサインの解除	フィルターサインの解除を行います。
2 次回清掃日の設定	次回清掃日の設定を行います。

設定および表示項目	詳細内容
12.初期設定	
1 時刻設定	現在の日付・時刻を設定及び修正を行います。 ●80時間以内の停電の場合、内蔵バックアップ電源の動きにより時計は動き続けます。
2 時刻表示設定	時刻表示のあり/なし、12H/24H、AM/PM位置を設定します。
3 サマータイム補正	現在時刻に対し、+1時間の補正を行います。
4 コントラスト調整	液晶の濃度の調整を行います。
5 バックライト	バックライトの有効/無効、点灯時間を設定します。
6 ブザー音	タッチパネル操作時のブザー音のあり/なしを設定します。
7 運転ランプ輝度	運転ランプの輝度の調整を行います。
13.タイマー設定	
1 時間入タイマー	停止後、運転させたい時間を設定します。 ●1～12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。 ●運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。
2 時間切タイマー	運転後、停止させたい時間を設定します。 ●1～12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。
3 時刻入タイマー	運転開始時刻を設定します。 ●設定時刻は5分単位で設定可能です。 ●1回のみ/毎日の切換えが可能です。 ●運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。
4 時刻切タイマー	運転停止時刻を設定します。 ●設定時刻は5分単位で設定可能です。 ●1回のみ/毎日の切換えが可能です。
14.ウィークリータイマー設定	
1 ウィークリータイマー	管理者パスワード 1週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ●1日最大8パターンまで設定可能です。 ●設定時刻は5分単位で設定可能です。 ●祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ●運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。
15.るす番運転	
1 るす番運転	管理者パスワード 部屋が高温/低温になりすぎないように温度を保ちます。 ●外温と制御温度により冷房/暖房を行います。 ●設定温度、風量の設定が可能です。
16.おこのみ設定	
1 おこのみ設定	管理者パスワード おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。 おこのみ設定1、おこのみ設定2のそれぞれに設定が可能です。
17.管理者設定	
1 操作制限設定	管理者パスワード ●操作の許可/禁止を設定します。 [運転/停止][設定温度切換][運転モード切換][風向切換][風量切換][ハイパワー運転][省エネ運転] [見てみて][タイマー設定] ●操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [フリーフロー設定][グリル降下長設定][ウィークリータイマー設定][言語切換設定][ドラフト防止設定] [消費電力量表示]
2 室外静音タイマー	静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ●静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ●設定時刻は5分単位で設定可能です。
3 設定温度の範囲設定	設定温度範囲を制限します。 ●運転モードによる温度範囲の制限が可能です。
4 設定温度刻み切換	設定温度の刻み(0.5°C/1.0°C)を設定します。
5 設定温度表示切換	設定温度の表示の仕方を切換えます。
6 リモコン表示設定	リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり/なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・外温表示のあり/なしを設定します。
7 管理者パスワード変更	管理者パスワードの変更を行います。 管理者パスワードのリセットを行います。
8 スイッチ機能変更	F1、F2スイッチの機能を設定します。 [ハイパワー運転][省エネ運転][室外静音制御][るす番運転][おこのみ設定運転1] [おこのみ設定運転2][消費電力量表示][フィルタサインリセット][グリル昇降]

設定および表示項目	詳細内容
18. 据付設定	サービスパスワード
1 据付日登録	据付日を登録した場合、点検表示を行います。
2 サービス情報入力	リモコンに連絡先を登録することができます。 ●連絡先を半角26文字相当以内で登録できます。 ●連絡先TEL番号を13文字以内で登録できます。
3 試運転	試運転の開始/停止を制御できます。
1 冷房試運転	設定5°C 30分間運転します。
2 ドレンポンプ試運転	ドレンポンプのみを運転します。
3 お掃除試運転	フィルタ清掃 ブラシ清掃運転します。
お掃除パネル組合せの場合	
4 グリル昇降操作 ラクリーナパネル組合せの場合	ラクリーナパネル操作を有効に設定します。
5 ダクト機外静圧補正 機外静圧補正機能付ダクト形 室内ユニット組合せの場合	機外静圧の設定を行います。 ●接続室内ユニット毎に個別に設定できます。
6 自動アドレス変更	個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。
7 親室内機アドレス設定	個別発停マルチシリーズ 設定された親ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定したユニットは親ユニットから送られた運転モードに従って運転します。
8 バックアップ制御	1台のリモコンに室内ユニット2台(2グループ)は接続されている時にローテーション運転、キャパシティバックアップ運転、フォルトバックアップ運転の有効/無効が設定できます。
9 赤外線センサー設定 赤外線センサー付パネルの組合せ の場合	リモコンに接続された室内ユニットの赤外線センサー検知の有効/無効を設定します。 無効の場合は、赤外線センサー制御を行うことができません。
19. リモコン設定	サービスパスワード
1 リモコン親子設定	リモコン親子設定の変更ができます。
2 吸込センサー制御	1台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込センサーを選択できます。 ●個別/親機/平均の選択が可能です。
3 リモコンセンサー	リモコンセンサーに切替えるモードを設定できます。 冷房/暖房で切替え可能です。
4 リモコンセンサー補正	リモコンセンサー検知温度を補正できます。 冷房/暖房 別々に補正可能です。
5 運転モード選択	各運転モード毎に有効/無効を設定できます。
6 温度設定単位	設定温度の単位を設定します。 ●°C/°Fの選択が可能です。
7 ファン速度	ファン速度の選択が可能です。
8 外部入力設定	1つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT入力の適用範囲が設定されます。
9 換気設定	換気ユニット組合せ制御が設定できます。
10 ルーバー制御	[4位置停止]/[フリー停止]の切替えができます。
11 停電補償	停電復帰した場合の制御内容を設定できます。
12 設定温度自動設定	設定温度自動の有効/無効を選択できます。
13 風量自動設定	風量自動の有効/無効を選択できます。
20. 室内機能設定	サービスパスワード
1 風速設定	室内ユニットの風量タップを設定します。
2 フィルタサイン	フィルターサイン点灯タイマーの設定が換えられます。
3 外部入力1設定	外部入力1の制御内容を換えられます。
4 外部入力1方式切換	外部入力1の信号方式を換えられます。
5 外部入力2設定	外部入力2の制御内容を換えられます。
6 外部入力2方式切換	外部入力2の信号方式を換えられます。
7 暖房室温補正	暖房サーモ判定値を0~+3°Cの範囲で補正できます。
8 吸込温度補正	吸込センサー検知温度を±2°Cの範囲で補正できます。
9 冷房ファン制御	冷房サーモOFF時のファン制御を変更できます。
10 暖房ファン制御	暖房サーモOFF時のファン制御を変更できます。
11 フロスト防止温度	冷房中、室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。
12 フロスト防止制御	冷房中、室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。
13 ドレンポンプ運転	冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。
14 冷房ファン残留運転	冷房停止・冷房サーモOFF後のファン残留運転を設定できます。
15 暖房ファン残留運転	暖房停止・暖房サーモOFF後のファン残留運転を設定できます。
16 暖房ファン間欠	暖房停止・暖房サーモOFFファン残留運転後のファン運転を設定できます。
17 送風サーモ運転	送風時のサーキュレータ運転を設定できます。
18 外調機設定	マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。
19 運転モード自動設定	運転モード自動判定方法を3種類から選択できます。
20 サーモ判定切換	サーモ判定を室外温度で補正することができます。
21 風量自動切換	風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。
22 室内過負荷アラーム	運転開始30分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力(CNT-5)から過負荷アラーム信号を送信します。
23 外部出力設定	外部出力1~4に割り当てる機能を換えられます。

設定および表示項目	詳細内容
21. サービス・メンテナンス	サービスパスワード
1 エアコンNo. 表示	リモコン1台に16台の室内ユニットを接続できます。個別送風運転で確認できます。
2 次期点検日	次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。
3 運転データ表示	室内ユニット+室外ユニットの運転データをモニターすることができます。
4 点検表示	
1 異常履歴表示	過去の異常履歴(点検コード・発生時間)を表示します。
2 異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。
3 異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。
4 定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。
5 お掃除パネル点検	お掃除パネルの詳細点検操作ができます。
6 室内設定保存	接続室内ユニット基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。
7 特殊操作	[室内アドレス消去][CPUリセット][初期化設定][タッチパネル調整]の操作ができます。
8 室内機容量表示	リモコンに接続されている室内アドレス番号とその容量を表示します。
22. 言語切替設定	リモコンに表示する言語を選択します。 ●日本語/Englishの選択が可能です。
23. 困ったときは・・・	
1 連絡先表示	登録した連絡先・TEL番号、サービスフロントセンター フリーコールを表示します。 QRコードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。
2 サービスを依頼される前にQ&A	Q&Aが表示されます。
24. 点検表示	
点検表示確認	異常発生時の表示
25. パソコン接続	
USB接続	ウィークリータイマー設定他、パソコンから一括設定ができます。

## (ii) RC-DX2 リモコンの場合

●接続する機種により設定できる項目が異なります。

設定および表示項目	詳細内容
1.リモコンネットワーク	
1 複数室内機制御	リモコン1台(リモコンネットワーク内)に最大16台室内ユニットを接続 制御できます。室内ユニット側にアドレス設定します。
2 親子リモコン設定	リモコンネットワーク内に2個のリモコン(含むワイヤレスオプション)を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。
2.TOP画面・SW操作	
1 メニュー	制御・設定・詳細確認等の項目を選択します。3～20項
2 運転モード	冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。
3 設定温度	室温を0.5℃単位で設定します。
4 風向	風向を設定します。 4位置／フリー
5 風量	風量を設定します。
6 タイマー設定	タイマー運転を設定します。
7 運転／停止SW	運転開始します。／停止します。
8 ハイパワーSW	ハイパワー運転を開始します。
9 省エネSW	省エネ設定で運転を開始します。
3.省エネ設定	
1 切忘れ防止タイマー 管理者パスワード	運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ●設定時間は30～240分(10分単位)まで選択可能です。 ●設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。
2 ピークカットタイマー 管理者パスワード	最大能力を制限することで消費電力を削減します。 制御の開始時刻と終了時刻、能力制限率を設定します。 ●1日最大4パターンまで設定可能です。 ●設定時刻は5分単位で設定可能です。 ●能力制限率は0.40～80%(20%単位)から選択可能です。 ●休日設定により、無効設定も可能です。
3 設定温度自動復帰 管理者パスワード	設定時間後に設定した温度に戻ります。 ●暖房モード／冷房モード他 各々設定可能です。 ●設定時間は20～120分まで選択可能です。 ●設定時間は10分単位で設定可能です。
4.グリル昇降	
1 ラクリーナパネル制御 ラクリーナパネル組合せの場合	ラクリーナパネル グリルの昇降操作をします。 [メニュー]⇒[据付設定]⇒[グリル昇降操作]の設定が必要です。
2 降下長設定 管理者パスワード	グリル昇降長さを設定します。 ●0.1～4.0mの範囲で設定できます。 ●設定長さは0.1m単位で設定可能です。 ●接続室内ユニット毎に設定できます。
3 ダスト回収リセット お掃除パネル組合せの場合	ダスト回収後にダスト回収タイマーをリセットします。 ●回収日を日付設定している場合は次回設定ができます。
5.フリーフロー設定	
フリーフロー設定	各吹出口のルーバの作動範囲(上限位置・下限位置)を設定します。
6.換気	
1 換気 換気機器を組合せの場合	換気のON/OFF操作を行います。 [メニュー]⇒[リモコン設定]⇒[換気設定] の設定が必要です。 ●換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転/停止ができます。

設定および表示項目	詳細内容
7. 見てみて	
見てみて	室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ●室内ユニット-室外ユニットの組合せによって表示できない場合があります。
8. お掃除パネル設定	管理者パスワード
1 お掃除自動設定	自動清掃の有効/休止を設定します。
2 清掃時間帯設定	自動清掃を開始する時間帯を設定します。
3 清掃間隔設定	自動清掃する最小の間隔を設定します。
4 ダスト回収設定	ダストの回収時期を設定します。
5 ブラシ清掃回数設定	ブラシの清掃回数を設定します。
9. フィルターサインリセット	
1 フィルターサイン解除	フィルターサインの解除を行います。
2 次回清掃日の設定	次回清掃日の設定を行います。
10. 初期設定	
1 時刻設定	現在の日付・時刻を設定および修正を行います。 ●80時間以内の停電の場合、バックアップ電源により時計は動き続けます。
2 時刻表示設定	時刻表示のあり/なし、12H/24H、AM/PM位置、を設定します。
3 サマータイム補正	現在時刻に対し、+1時間の補正を行います。
4 コントラスト調整	液晶の濃度の調整を行います。
5 バックライト	バックライトの有効/無効、点灯時間を設定します。
6 ブザー音	タッチパネル操作時のブザー音のあり/なしを設定します。
11. タイマー設定	
1 時間入タイマー	停止後、運転させたい時間を設定します。 ●1～12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。 ●運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。
2 時間切タイマー	運転後、停止させたい時間を設定します。 ●1～12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。
3 時刻入タイマー	運転開始時刻を設定します。 ●設定時刻は5分単位で設定可能です。 ●1回のみ/毎日の切換えが可能です。 ●運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。
4 時刻切タイマー	運転停止時刻を設定します。 ●設定時刻は5分単位で設定可能です。 ●1回のみ/毎日の切換えが可能です。
5 タイマー設定内容確認	各タイマー設定内容を一覧できます。
12. ウィークリータイマー設定	
1 ウィークリータイマー 管理者パスワード	1週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ●1日最大8パターンまで設定可能です。 ●設定時刻は5分単位で設定可能です。 ●休日設定により、無効設定も可能です。 ●運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。
13. るす番運転	
1 るす番運転 管理者パスワード	お部屋を留守にする時、お部屋が高温/低温にならないように温度を保ちます。 ●外温と制御温度により冷房/暖房を行います。 ●設定温度、風量の設定が可能です。

設定および表示項目	詳細内容
14. 管理者設定	管理者パスワード
1 操作制限設定	●操作の許可/禁止を設定します。 [運転/停止][設定温度切換][運転モード切換][風向切換] [風量切換][ハイパワー運転][省エネ運転][見てみて][タイマー設定] ●操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [フリーフロー設定][グリル自動昇降][ウィークリータイマー設定][言語切換設定]
2 室外静音タイマー	静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ●静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ●設定時刻は1日1回、5分単位で設定可能です。
3 設定温度の範囲設定	設定温度範囲を制限します。 ●運転モードによる温度範囲の制限が可能です。
4 設定温度刻み切換	設定温度の刻み(0.5℃/1.0℃)を設定します。
5 設定温度表示切換	設定温度の表示の仕方を切換えます。
6 リモコン表示設定	リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり/なしを設定します。 (点検コード表示)(暖房準備表示)(除霜運転中表示) (自動冷暖表示)(リモコン・室温・外温表示※1)のあり/なしを設定します。
7 管理者パスワード変更	管理者パスワードの変更を行います。 管理者パスワードのリセットを行います。
15. 言語切換	リモコンに表示する言語を選択します。 ●日本語/Englishの選択が可能です。
16. 据付設定	サービスパスワード
1 据付日登録	据付日を登録した場合、点検日表示を行います。
2 サービス情報入力	リモコンに連絡先を登録することができます。 ●連絡先名を半角26文字相当以内で登録できます。 ●連絡先TEL番号を13文字以内で登録できます。
3 試運転	試運転の開始/停止を制御できます。
冷房試運転	設定5℃ 30分間運転します。
ドレンポンプ試運転	ドレンポンプのみ運転します。
お掃除試運転	フィルター清掃 ブラシ清掃運転します。 お掃除パネル組合せの場合
周波数固定運転	インバーターコンプレッサーの運転Hzを固定します。
4 グリル昇降操作設定	ラクリーナパネル操作を有効に設定します。 ラクリーナパネル組合せの場合
5 ダクト機静圧補正	機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ●接続室内ユニット毎に個別に設定できます。
6 自動アドレス変更	個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。
7 親室内機アドレス設定	個別発停マルチシリーズ 設定された親ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定したユニットは親ユニットから送られた運転モードに従って運転します。
17. リモコン機能設定	サービスパスワード
1 リモコン親子設定	リモコン親子設定の変更ができます。
2 吸込センサー制御	1台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込温度センサーを選択できます。 ●個別/親機/平均の選択が可能です。
3 リモコンセンサー	リモコンセンサーに切替えるモードを設定できます。 冷房/暖房で切替え可能です。
4 リモコンセンサー補正	リモコンセンサー検知温度を補正できます。冷房/暖房 別々に補正可能
5 運転モード選択	各運転モード毎に有効/無効を設定できます。
6 温度単位設定	設定温度の単位を設定します。 ●℃/°Fの選択が可能です。
7 ファン速度	ファン速度選択が可能です。
8 外部入力設定	1つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT入力の適用範囲が設定されます。
9 換気設定	換気ユニット組合せ制御が設定できます。
10 ルーバー制御	[4位置停止]/[フリー停止]の切替えができます。
11 停電補償	停電復帰した場合の制御内容を設定できます。
12 設定温度自動設定	設定温度自動の有効/無効を選択できます。
13 風量自動設定	風量自動の有効/無効を選択できます。

設定および表示項目	詳細内容
18. 室内機能設定	サービスパスワード
1 高天井設定	室内ユニットの風量タップを設定します。
2 フィルターサイン	フィルターサイン点灯タイマーの設定が換えられます。
3 外部入力1設定	外部入力1の制御内容を換えられます。
4 外部入力1方式	外部入力1の信号方式を換えられます。
5 外部入力2設定	外部入力2の制御内容を換えられます。
6 外部入力2方式	外部入力2の信号方式を換えられます。
7 暖房室温補正	暖房サーモ判定値を0～+3℃の範囲で補正できます。
8 吸込温度補正	吸込センサー検知温度を±2℃の範囲で補正できます。
9 冷房ファン制御	冷房サーモOFF時のファン制御を変更できます。
10 暖房ファン制御	暖房サーモOFF時のファン制御を変更できます。
11 フロスト防止温度	冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。
12 フロスト防止制御	冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。
13 ドレンポンプ運転	冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。
14 冷房ファン残留運転	冷房停止・冷房サーモOFF後のファン残留運転を設定できます。
15 暖房ファン残留運転	暖房停止・暖房サーモOFF後のファン残留運転を設定できます。
16 暖房ファン間欠	暖房停止・暖房サーモOFFファン残留運転後のファン運転を設定できます。
17 送風サーモ運転	送風時のサーキュレータ運転を設定できます。
18 外調機設定	マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。
19 運転モード自動設定	運転モード自動の判定方法を3種類から選択できます。
20 サーモ判定切換	サーモ判定を室外温度で補正することができます。
21 風量自動切換	風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。
22 室内過負荷アラーム設定	運転開始30分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力(CnT-5)から過負荷アラーム信号を送信します。
19. サービスメンテナンス	サービスパスワード
1 エアコンNo.	リモコン1台に16台の室内ユニットを接続できます。個別送風運転で確認できます。
2 次回点検日	次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。
3 運転データ表示	室内ユニット+室外ユニットの運転データをモニターすることができます。
4 点検表示	
異常履歴表示	過去の異常履歴(点検コード・発生時間)を表示します。
異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示できます。
異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。
定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。
5 お掃除パネル点検	お掃除パネルの詳細点検操作ができます。
6 室内設定保存	接続室内ユニット基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。
7 特殊操作	[室内アドレス消去][CPUリセット][初期化設定][タッチパネル調整]の操作ができます。
20. 困ったときは..	
1 連絡先表示	登録した連絡先・TEL番号を表示します。 QRコードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。
2 サービスを依頼される前にQ&A	Q&Aが表示されます。
21. 点検表示	
点検表示確認	異常発生時の表示
22. パソコン接続	
USB接続	ウィークリータイマー設定他、パソコンから一括設定ができます。

## (2) RC-D4G リモコンの場合

### (a) リモコンの運転モードスイッチ切換え順



### (b) CPU リセット

リモコンの「点検」「グリル昇降」ボタンを同時に押した場合に機能します。電源リセットと動作は同じです。

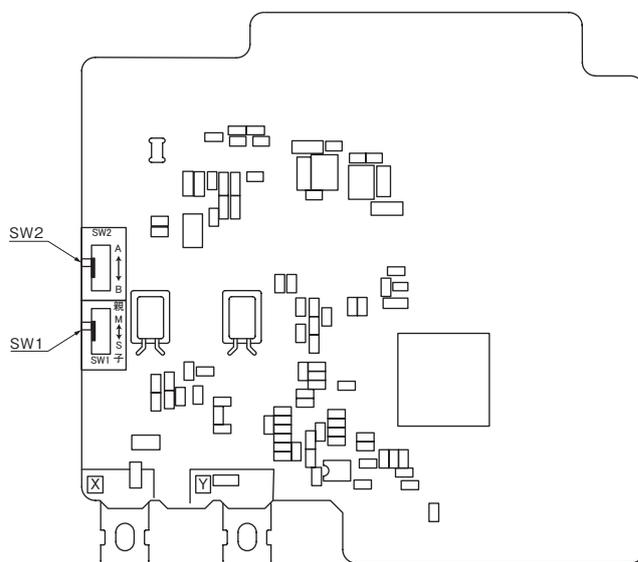
### (c) 停電補償機能

- リモコンの機能設定により「停電補償有効」の設定をすると有効となります。
- 常にリモコンの状態を記憶しており停電から復帰後、記憶内容により運転を再開します。ただしオートスイング停止位置、タイマーモードはキャンセルされますがウィークリータイマー設定は全曜日とも休日設定で復帰します。復電後、時刻合わせを行い、各曜日の休日設定を解除することにより、ウィークリータイマーの設定が有効となります。
- 停電補償で記憶される内容は以下のとおりです。

注(1) ⑥, ⑦, ⑧項は停電補償有効・無効にかかわらず記憶され、静音モード設定は停電補償有効・無効にかかわらずキャンセルされます。

- ① 停電時 運転中／停止中  
時刻切タイマーモード、時間タイマーモードで運転中は、停止中を記憶します。(復電時タイマーモードはキャンセルされますが、ウィークリータイマー設定は全曜日が休日設定となります。)
- ② 運転モード
- ③ 風量モード
- ④ 室温設定
- ⑤ ルーバのオートスイング／停止  
ただし停止位置(4位置)はキャンセルされます。
- ⑥ リモコンの機能設定により設定された「リモコン機能項目」(「室内機能項目」は室内ユニットが記憶します。)
- ⑦ 温度設定制御で設定した上限値、下限値。
- ⑧ 時間タイマー、ウィークリータイマー設定(その他のタイマー設定は記憶しません。)

### リモコン基板の部品配置



### ■制御切換スイッチ(SW1)

スイッチ	設定	機能内容
SW1	親	親リモコン
	子	子リモコン

注(1) SW2 は、通常使用しませんので、切換えないでください。

## 14.3 室外コントローラによる運転制御機能

ESP-FP-2289△

### (1) 圧縮機回転数の決定

ユニットの要求回転数

#### (a) 冷房・除湿運転

単位： rps

		P80形	P112形	P140形	P160形
最高要求回転数	室内風量「P 急」	80	75	105	110
	室内風量「急」	70	70	80	90
	室内風量「強」	55	50	55	60
	室内風量「弱」	45	40	45	50
最低要求回転数		11	11	11	11

#### (b) 暖房運転

単位： rps

		P80形	P112形	P140形	P160形
最高要求回転数	室内風量「P 急」	110	120	130	130
	室内風量「急」	80	100	110	110
	室内風量「強」	65	55	60	65
	室内風量「弱」	55	45	50	55
最低要求回転数		18	15	15	15

#### (c) リモコンより「サイレントモード開始」信号を受信した場合、最高要求回転数を切換えます。

単位： rps

		P80形	P112形	P140形	P160形
最高要求回転数	冷房・除湿	48	52	61	65
	暖房	60	53	80	80

#### (d) 冷房高外気条件下での最高要求回転数。

外気温度 (Tho-A) により、最高要求回転数を切換えます。

単位： rps

		P80形	P112形	P140形	P160形
最高要求回転数	外気温度が37℃以上	80	75	105	108
	外気温度が40℃以上	62	75	91	91
	外気温度が46℃以上	50	75	84	84

#### (e) 暖房高外気条件下での最高要求回転数

外気温度 (Tho-A) により、最高要求回転数を切換えます。

単位： rps

		P80形	P112形	P140形	P160形
最高要求回転数	外気温度が18℃以上	76	60	87	92
	外気温度が10℃以上	100	100	100	100

#### (f) 熱交温度による最高要求回転数の切換え

(i) 冷房・除湿時は、室外熱交温度 (Tho-R)、暖房時は室内熱交温度 (Thi-R) により、最高要求回転数を切換えます。

(ii) 室内熱交温度 (Thi-R) が2つある場合は、大きい方の値を使用します。 単位： rps

		P80形	P112形	P140形	P160形	
最高要求回転数	冷房・除湿	室外熱交温度が 55 (61)℃以上	60	70	100	100
	暖房	室外熱交温度が 47℃以上	110	—	—	—
		室外熱交温度が 54℃以上	100	—	—	—
		室外熱交温度が 55℃以上	—	100	100	100
		室外熱交温度が 60℃以上	90	—	—	—

注(1) ( )内数値はP80形を示します。

(g) 前述の(a)から(f)項の制御が重複する場合は、重複した制御の中で、最も小さい値を最高要求回転数として運転します。

(h) 暖房運転時、室内熱交温度が40℃以上になるまで1分ごとに回転数を+5rpsします。

## (2) 圧縮機始動制御

- (a) 圧縮機始動は室内ユニットからのサーモON信号を受信した時点で圧縮機を始動します。
- (b) ただし、電源ブレーカを投入後1回目の起動時においては、圧縮機の油上がりを防止するため、最大30分間の待機状態（リモコンに「運転待機中」の表示）に入る場合があります。  
 室外ユニットが待機状態時に、リモコンで冷房/除湿/暖房の運転を選択した場合は、リモコンに3秒間「運転待機中」の表示を行います。

## (3) 圧縮機ソフト始動制御

### (a) 圧縮機保護始動Ⅰ

【制御条件】 通常は、本始動パターンにて圧縮機の運転回転数を上昇させます。

- 【制御内容】 (i) 圧縮機の目標回転数を**A rps**として始動させます。  
 ただし、冷房・除湿時に外気温度(Tho-A)が35℃以上、暖房時に吸込温度(Thi-A)が25℃以上では、**C rps**で始動します。
- (ii) 圧縮機始動から30秒後に、圧縮機の目標回転数を**B rps**とし、2～4分間圧縮機の運転回転数を固定し運転します。

	運転モード*	A rps	B rps	C rps
P80形	冷房・除湿	45	45	30
	暖房	45	45	30
P112～P160形	冷房・除湿	45	45	25
	暖房	45	45	25

### (b) 圧縮機保護始動Ⅲ

【制御条件】 電源ブレーカ投入後の圧縮機始動回数が積算1回目の始動時。

【制御内容】 運転モード、外気温度(Tho-A)に応じて以下の始動パターンを選択し運転を行います。

#### (i) 冷房・除湿時の低回転数運転制御

【制御条件】 圧縮機保護始動Ⅲの条件が成立した時点で、冷房・除湿時の低回転数運転制御を行います。

- 【制御内容】 1) 圧縮機の目標回転数を**A rps**として始動させます。ただし、外気温度(Tho-A)が35℃以上では**C rps**で始動します。
- 2) 圧縮機始動から30秒後に、圧縮機の目標回転数を**B rps**とし、10分間圧縮機の運転回転数を固定し運転します。
- 3) その後、30分間は圧縮機回転数の上昇レートを6rps/2分に制限します。

	運転モード*	A rps	B rps	C rps
P80形	冷房・除湿	45	45	30
P112～P160形	冷房・除湿	45	45	25

#### (ii) 暖房時の低回転数運転制御

【制御条件】 圧縮機保護始動Ⅲの条件が成立し、下記条件を満たす場合に、暖房時の低回転数運転制御を行います。  
 ・電源ブレーカ投入後から30分以上が経過している場合。

- 【制御内容】 1) 圧縮機の目標回転数を**A rps**として始動させます。ただし、吸込温度(Thi-A)が25℃以上では**C rps**で始動します。
- 2) 圧縮機始動から30秒後に、圧縮機の目標回転数を**B rps**とし、10分間圧縮機の運転回転数を固定し運転します。
- 3) その後、30分間は圧縮機回転数の上昇レートを6rps/2分に制限します。

	運転モード*	A rps	B rps	C rps
P80形	暖房	45	45	30
P112～P160形	暖房	45	45	25

## (4) 室外ファン制御

### (a) ファンタップとファン回転数

単位：min<sup>-1</sup>

		ファン回転数						
P80形	ファンタップ	1速	2速	3速	4速	5速	6速	7速
		冷房・除湿	200	390	550	660	750	800
	暖房	200	390	500	620	750	800	850
P112～P160形	ファンタップ	1速	2速	3速	4速	5速	6速	7速
	冷房・除湿	200	390	540	600	630	750	800
	暖房	200	390	540	600	630	750	800

(b) 冷房・除湿運転時のファンタップ制御

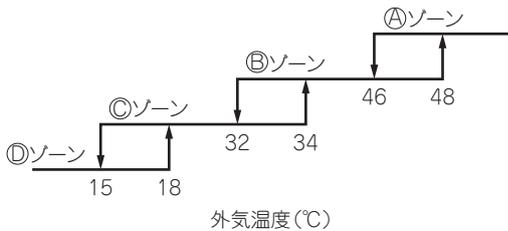
室外熱交温度 (Tho-R1, R2) と外気温度 (Tho-A) によりファンタップを切換えます。

注(1) Tho-R1, R2はどちらか高い方で検知

・通常モード時

	Ⓐゾーン	Ⓑゾーン	Ⓒゾーン	Ⓓゾーン
Ⓐゾーン	6(5)速	6(5)速	6(5)速	5(4)速
Ⓑゾーン	6(5)速	4速	4速	3速
Ⓒゾーン	5(4)速	4(3)速	3速	2速
Ⓓゾーン	4(3)速	2(3)速	2速	1速

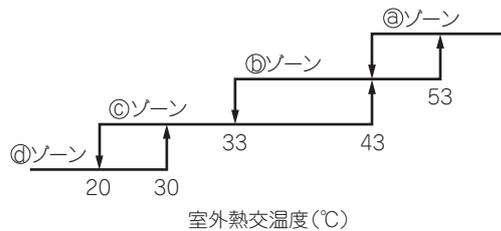
注(1) ( ) 内数値はP80形を示します。



・サイレントモード時

	Ⓐゾーン	Ⓑゾーン	Ⓒゾーン	Ⓓゾーン
Ⓐゾーン	6(4)速	5(4)速	5(4)速	5(4)速
Ⓑゾーン	6(4)速	3速	3速	3速
Ⓒゾーン	5(4)速	3速	3速	2速
Ⓓゾーン	4(3)速	2(3)速	2速	1速

注(1) ( ) 内数値はP80形を示します。



(c) 暖房運転時のファンタップ制御

室外熱交温度 (Tho-R1, R2) と外気温度 (Tho-A) によりファンタップを切換えます。

注(1) Tho-R1, R2はどちらか低い方で検知

・通常モード時

	Ⓐゾーン	Ⓑゾーン	Ⓒゾーン
Ⓐゾーン	1速	1速	2速
Ⓑゾーン	2速	2/3*(3)速	5(4)速
Ⓒゾーン	4(3)速	4 [5]速	7(5)速
Ⓓゾーン	4 [5]速	7(5)速	7(5)速

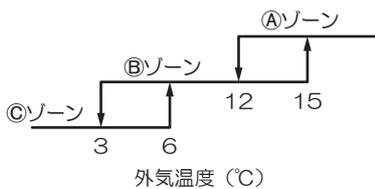
注(1) ( ) 内数値はP80形を示します。

(2) [ ] 内数値はP160形を示します。

(3)\*1 圧縮機回転数によりファンタップ変更します。

目標回転数 < 46rps の場合：3速

目標回転数 ≥ 46rps の場合：2速

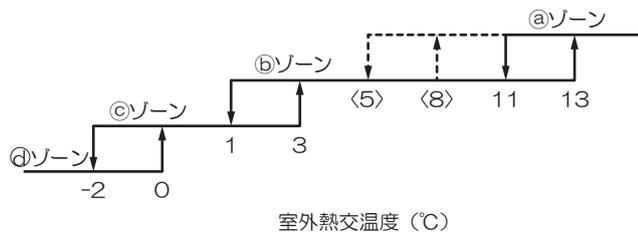


・サイレントモード時

	Ⓐゾーン	Ⓑゾーン	Ⓒゾーン
Ⓐゾーン	1速	1速	2速
Ⓑゾーン	2速	2(3)速	5(4)速
Ⓒゾーン	3速	3速	5(4)速
Ⓓゾーン	4 [5]速	5(4)速	7(5)速

注(1) ( ) 内数値はP80形を示します。

(2) [ ] 内数値はP160形を示します。



注(1) < > 内数値は圧縮機回転数が目標回転数100rps 以上の場合を示します。

(d) 冷房低外気時の室外ファン制御

(i) 開始条件

圧縮機始動より下記条件が全て成立した場合に開始します。

- 1) 冷房・除湿モード運転時。
- 2) 外気温度 (Tho-A) が20℃未満のとき。
- 3) 室外ファン起動から20秒経過後。
- 4) 室外ファンタップが1速のとき。

(ii) 制御内容

- 1) 室外熱交温度 (Tho-R1, R2) を30秒ごとにサンプリングし、室外ファンの回転数を制御します。
- 2) 本制御中の室外ファン回転数は、上限を390min<sup>-1</sup>、下限を130min<sup>-1</sup>とします。

注(1) Tho-R1, R2はどちらか低い方で検知

(iii) 終了条件

下記条件の何れかが成立した場合は、本制御を終了します。

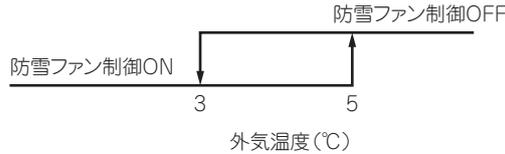
- 1) 外気温度 (Tho-A) が20℃以上かつ室外熱交温度 (Tho-R1, R2) が30℃以上を連続40秒以上を検知。
- 2) 室外熱交温度 (Tho-R1, R2) が40℃以上を連続40秒以上を検知。
- 3) 室外熱交温度 (Tho-R1, R2) が50℃以上を検知。

(e) 室外ファン起動制御における注意点

圧縮機運転前に、室外ファンが400min<sup>-1</sup>以上で回転している場合は、室外ファンを起動させずに圧縮機のみで運転する場合がありますが、故障ではありません。

(f) 防雪ファン制御

室外制御基板上のディップスイッチ (SW3-2) をONすると停止モード、異常停止モード中において、外気温度 (Tho-A で検知) により室外ファンを10分毎に1回30秒間4速で運転します。



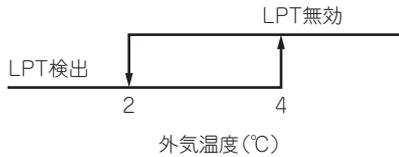
(5) 除霜

(a) 除霜開始条件

次の除霜条件Aまたは条件Bを全て満たせば除霜運転を開始します。

(i) 除霜条件A

- 1) 除霜終了後の圧縮機運転累計時間が37分経過および暖房運転開始 (リモコンON) 後の圧縮機運転累計時間が30分経過。
- 2) 圧縮機がON後5分経過。
- 3) 室外ファン運転後5分経過。
- 4) 上記の全ての条件を満たした後、室外熱交温度センサ (Tho-R1, R2) と外気温度センサ (Tho-A) の温度が15秒継続して右図の除霜開始温度以下になったときまたは、低圧圧力センサ (LPT) の検出値より求められる吸入ガス飽和温度 (SST) と外気温度 (Tho-A) が右図に示す除霜運転開始温度以下の領域に3分間存在。ただし、圧縮機始動後10分間および外気温度が下図のときは除きます。

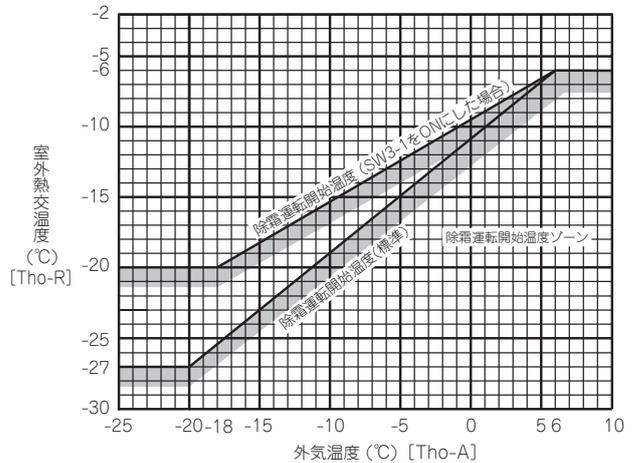


- 5) 吐出管温度と室内熱交温度の差が30℃以上。

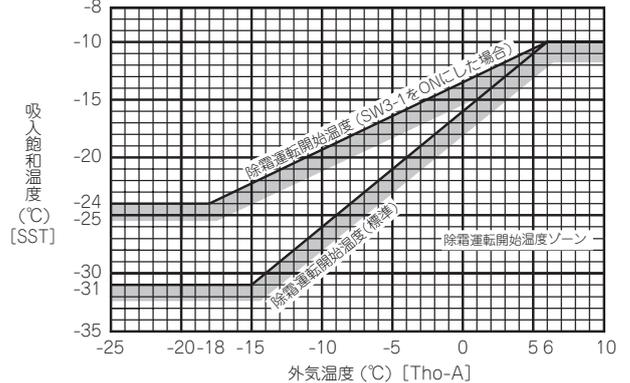
(ii) 除霜条件B

- 1) 前回の除霜終了条件が、除霜運転時間タイムアップかつ除霜終了後の圧縮機運転累計時間が30分経過後の暖房運転。
- 2) 圧縮機始動より5分経過。
- 3) 室外ファン運転後5分経過。
- 4) 吐出管温度と室内熱交温度の差が30℃以上。

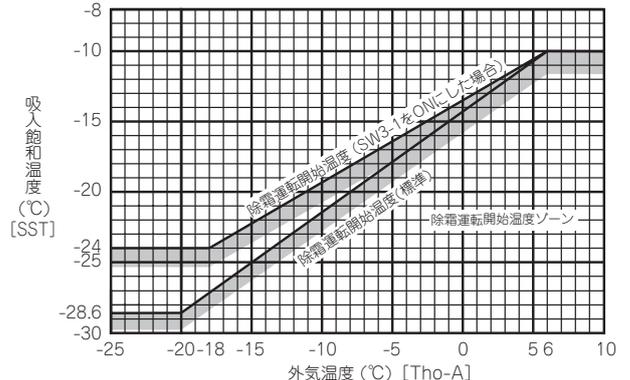
P80~P160形



P80形



P112~P160形



**(b) 除霜終了条件**

次の何れかの条件を満たせば除霜終了運転を開始します。

- (i) 除霜開始から10分20秒（P112～P160形：13分20秒）経過したとき。
- (ii) 室外熱交温度（Tho-R1, R2）のどちらかが低い方が10秒連続して12℃以上となったとき。

**(c) SW3-1 による除霜制御の切換え**

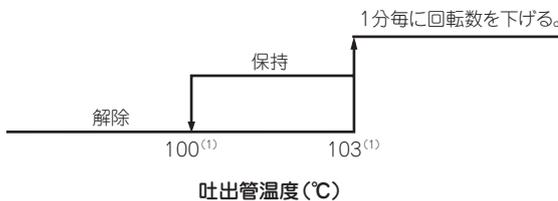
- (i) 室外制御基板上のディップスイッチ（SW3-1）をONにすることで、除霜運転に入りやすくなります。降雪地域にユニットを設置する場合に使用します。
- (ii) 制御内容
  - 1) 除霜条件Aにて、暖房運転時間の累積30分で除霜運転に入ることを許可します。出荷時は37分。
  - 2) 除霜条件Bにて、暖房運転時間の累積25分で除霜運転に入ることを許可します。出荷時は30分。
  - 3) 室外熱交温度(Tho-R)と吸入圧力飽和温度(SST)が、通常よりも高い温度で除霜運転を許可します。

**(6) 圧縮機回転数による保護制御／異常停止制御**

**(a) 圧縮機吐出管温度保護**

(i) 保護制御

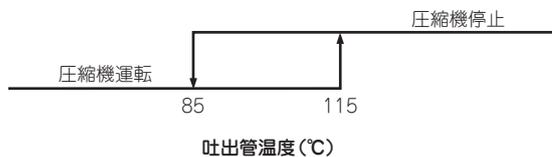
吐出管温度（Tho-Dで検知）が設定値を超えると、圧縮機回転数を制御し吐出管温度の上昇を押さえます。



注(1)圧縮機が起動してから10分間は制御値、解除値を-5℃下げます。また外気温度に応じて-5～-10℃下げます。

(ii) 異常停止制御

- 1) 吐出管温度(Tho-Dで検知)が設定値を超えると、圧縮機を停止させます。
- 2) 60分以内に2回または圧縮機停止中を含め連続60分間で、リモコンにE36を表示し異常停止モードとなります。



(iii) 異常停止モードの解除

45分間継続して、解除値85℃以下となった時点で、リモコンにより再運転が可能になります。

**(b) 冷房高圧保護**

(i) 保護制御

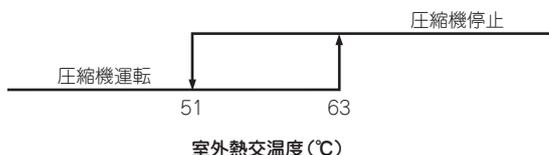
- 1) 外気温度（Tho-A）が40℃以上で、室外熱交温度（Tho-R）が設定値を超えると、圧縮機回転数を制御し高圧の上昇を押さえます。
- 2) 制御値Aは、使用条件により自動的に最適値に更新されます。



機種	制御値 A
P80形	53～59
P112～P160形	

(ii) 異常停止制御

- 1) 室外熱交温度（Tho-R）が設定値を超えると、圧縮機を停止させます。
- 2) 60分以内に5回、または63℃以上が圧縮機停止中を含め連続30分間で、リモコンにE35を表示し異常停止モードとなります。



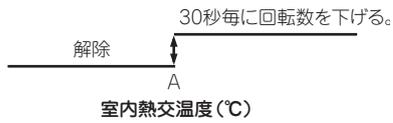
(iii) 異常停止モードの解除

解除値51℃以下となった時点で、リモコンにより再運転が可能になります。

(c) 暖房高圧保護

(i) 保護制御

- 1) 室内熱交温度 (Thi-R) が設定値を超えると、圧縮機回転数を制御し高圧の上昇を押さえます。
- 2) 制御値 A は、使用条件により自動的に最適値に更新されます。



機種	既設配管対応スイッチ SW5-1 (SW7-1:P80形)	
	OFF(出荷)	ON
制御値 A℃		
P80形	48~54	45~51
P112~P160形		

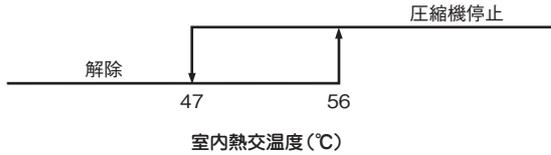
注(1) ON時が既設配管対応です。

(ii) 異常停止制御

室内コントローラによる運転制御機能298ページの暖房過負荷保護をご覧ください。

(iii) 既設配管対応、停止制御

既設配管対応スイッチSW5-1 (SW7-1:P80形) をONすることで、室内熱交温度 (Thi-R) が設定値を超えると、圧縮機を停止し既設配管を保護します。



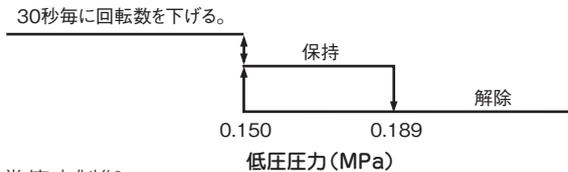
(d) 高圧圧力開閉器(63H1)による異常検知制御

- (i) 圧力が上昇し高圧圧力開閉器 (4.15MPa開 / 3.15MPa閉) が作動した時点で圧縮機を停止します。
- (ii) 以下のいずれかの条件でE40を表示し、異常停止モードとなります。
  - 1) 60分以内に5回、圧力が上昇し63H1により圧縮機が停止した時点
  - 2) 圧縮機停止中も含め63H1が連続30分開状態となった時点

(e) 低圧制御

(i) 保護制御

低圧圧力センサ (LPT) の検出値が設定値を超えると、圧縮機回転数を制御し圧力の低下を押さえます。

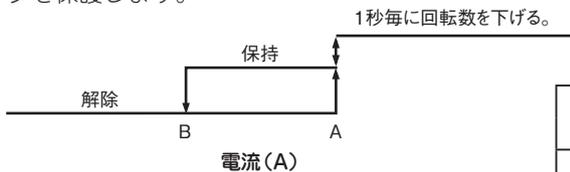


(ii) 異常停止制御

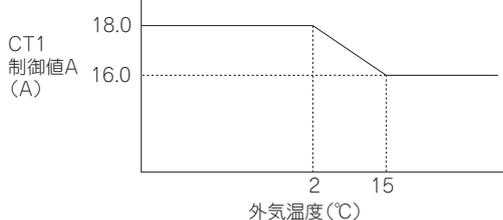
- 1) 低圧圧力 (LPT) が、以下のいずれかの条件を満たすと、圧縮機を停止させます。
  - a) 低圧圧力が0.079MPa以下を連続15秒間
  - b) 圧縮機始動10分後で、吸入過熱度が30℃、且つ低圧圧力が0.15MPa以下を連続60秒。
- 2) 以下のいずれかの条件でE49を表示し、異常停止モードとなります。
  - a) 60分以内に5回、低圧圧力が低下し上記のいずれかの条件で圧縮機が停止した時点
  - b) 圧縮機停止中も含め低圧圧力センサの検出値が連続で5分間0.079MPa以下となった時点
  - c) 圧縮機保護始動Ⅲ中に1) の制御条件が成立した場合。

(f) 過電流保護カレントセーフ制御

室外インバータ入力 (1次) 電流と出力 (2次) 電流を検出し、電流値が設定を超えると、圧縮機回転数を制御しインバータを保護します。



〔図1〕



		冷房		暖房	
		制御値A	解除値B	制御値A	解除値B
1次電流側	P80形(三相機)	11.5	10.5	13.0	12.0
	P80形(単相機)	15.0	14.0	図1	注(1)
	P112~P160形	20.0	19.0	23.0	22.0
2次電流側	P80形(三相機)	13.0	12.0	13.0	12.0
	P80形(単相機)	13.0	12.0	13.0	12.0
	P112~P160形	17.0	16.0	17.0	16.0

注(1) 解除値Bは、図1の値より-1引いた値となります。

### (g) パワトラ電流異常

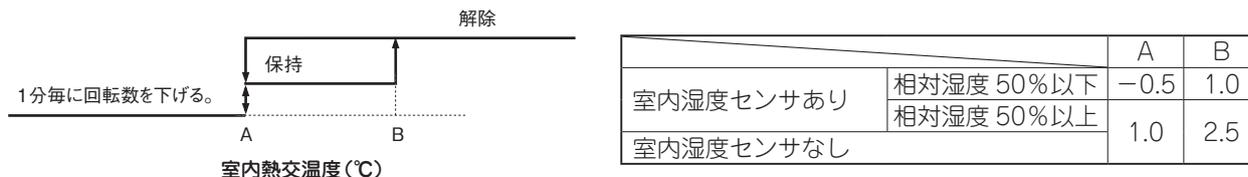
- (i) インバータ部の過電流を防止するため、パワトラ内の電流値が設定値を超えると圧縮機を停止させます。
- (ii) 30分以内に4回、パワトラ内の電流値が規定値を超え圧縮機が停止した時点で、リモコンにE42を表示し異常停止モードとなります。

### (h) インバータ通信異常

圧縮機停止中も含め15分間に4回インバータ通信異常を検知すると、リモコンにE45を表示し異常停止モードとなります。

### (i) 圧縮機回転数制御による凍結防止制御

- (i) 圧縮機始動より4分後に、室内熱交温度（Thi-Rにより検出）が設定値を超えると、圧縮機回転数を制御し室内熱交の凍結防止制御を行います。
- (ii) 室内熱交温度（Thi-R1、2）が2つある場合は、温度の低い方を検出します。



- (iii) 運転停止による凍結防止制御については、室内コントローラによる運転制御機能297ページの室内熱交アンチフロスト（凍結防止制御）をご覧ください。

### (j) 温度センサおよび低圧圧力センサ断線検知

- (i) 室外熱交温度センサ、外気温度センサ、低圧圧力センサ  
圧縮機ON後、2分から2分20秒間に5秒間連続して下記を検知したとき圧縮機を停止します。3分遅延後に圧縮機を再起動させますが40分間に3回再検知した場合は異常停止します。  
注(1) 除霜および除霜終了後3分間は検知しません。
  - 室外熱交温度センサ : - 50℃以下
  - 外気温度センサ : - 45℃以下
  - 低圧圧力センサ : 0V以下または4V以上
- (ii) 吐出管温度センサ、吸入管温度センサ  
圧縮機ON後、10分から10分20秒間に5秒間連続して下記を検知したとき圧縮機を停止します。3分遅延後に圧縮機を再起動させますが40分間に3回再検知した場合は異常停止します。  
注(1) 除霜および除霜終了後3分間は検知しません。
  - 吐出管温度センサ : - 10℃以下
  - 吸入管温度センサ : - 50℃以下

### (k) 欠相保護（三相機のみ）

電源ON後5秒間連続してR、S、T相の何れかの電圧が0Vのとき、電源欠相状態と判断し1秒後に異常停止（E34）します。

### (l) 室外ファンモータ異常

- (i) 室外ファン制御時（ファンタップが1速以上の運転指令中）に、室外ファン回転数が $100\text{min}^{-1}$ 以下を30秒連続で検出した場合は、圧縮機を停止します。
- (ii) 60分以内に5回、室外ファン回転数が $100\text{min}^{-1}$ 以下となり圧縮機が停止した時点で、リモコンにE48を表示し異常停止します。

### (m) 圧縮機起動停止による異常停止

- (i) 圧縮機始動中にインバータより起動不良異常を検知した場合は、一旦停止状態とし、3分後に再度、圧縮機を始動させます。
- (ii) 5回異常検知をカウントした場合は、圧縮機起動異常とし異常停止（E59）します。

## (7) サイレントモード

- (a) リモコンより「サイレントモード開始」信号を受信した場合に、ファンタップと、圧縮機回転数を下げて運転します。
- (b) 詳しくは、前述の(1)項の圧縮機回転数の決定および(4)項の室外ファン制御をご覧ください。

## (8) 試運転

- (a) 室外制御基板上のディップスイッチにより室外ユニットより運転が可能です。

SW3-3 (SW5-3)	ON	SW3-4 (SW5-4)	OFF	冷房試運転
			ON	暖房試運転
	OFF	通常および試運転終了		

必ず運転終了時はSW3-3 (SW5-3) をOFFにしてください。

注(1) ( )内はP80形を示します。

## (b) 試運転制御

- (i) 吸込温度 (Thi-A) とリモコンの設定温度をファジー演算して決まる回転数にて運転をします。
- (ii) 各保護制御, 異常検知制御は有効です。
- (iii) 試運転中にSW3-4 (SW5-4) を切替えた場合は停止制御を行い一旦圧縮機を停止させ, 冷・暖房運転を切替えます。

注(1) ( )内はP80形を示します。

- (iv) 試運転中リモコンの設定および表示

モード	リモコンの設定・表示内容
冷房試運転	冷房, 設定温度は5℃
暖房試運転	暖房(準備), 設定温度は30℃

## (9) ポンプダウン制御

運転停止, 異常停止中 (サーモOFFは含まず) にポンプダウンスイッチSW1 (SW9) を2秒間ONするとポンプダウン運転をします。(室内ユニット運転中は無効。室内ユニットが異常停止中または電源OFFでも有効)

### (a) 制御内容

- (i) 液側の操作弁を閉めてください。(ガス側は全開のまま)
- (ii) 冷房モードで目標回転数をArpsとして圧縮機を始動します。
- (iii) 室外ユニット制御基板上の赤, 緑(LED) を連続点滅させます。
- (iv) 低圧制御, アンチフロスト制御および露付き保護制御を除き各保護, 異常検知制御は有効です。
- (v) 室外ファンは通常通り制御します。
- (vi) 電子膨張弁(冷・暖) は全開にします。

形式	P80形	P112形	P140,P160形
目標回転数 A	45	45	45

### (b) 制御終了条件

下記の何れかの条件により停止制御を行います。

- (i) 低圧圧力が0.087MPa以下を連続5秒検知
  - 1) 赤LED: 点灯, 緑LED: 点滅, リモコン: 停止を表示します。
  - 2) 低圧圧力が0.087MPaを超えると再起動可能です。
  - 3) 電子膨張弁(冷・暖) は全開のまま。
- (ii) 異常検知制御により停止
  - 1) 赤LED: 連続点滅, 緑LED: 点滅します。
  - 2) 再起動は不可です。通常運転への復帰は電源リセット。
  - 3) 電子膨張弁(冷・暖) は全開のまま。
- (iii) ポンプダウン制御による圧縮機の運転積算時間が5分になった時。
  - 1) 赤LED: 消灯, 緑LED: 点滅, リモコン: 停止を表示します。
  - 2) 再ポンプダウンは可能です。
  - 3) 電子膨張弁(冷・暖) は全開のまま。

注(1) 圧縮機停止後は, ガス側の操作弁を閉めてください。

注意: ポンプダウンスイッチを押すと, 室内ユニットとの通信をキャンセルするため, 室内ユニットおよびリモコンには“伝送異常・E5”が表示されますが, 異常ではありません。

## (10) 既設配管洗浄運転制御

### (a) 開始条件

運転停止中に室外制御基板のディップスイッチ SW5-2 (P80 形 : SW8-1) を OFF から ON に切換えたとき。

### (b) 制御内容

- (i) 電磁弁 (SV2) を ON し暖房用電子膨張弁 (EEVH) を全閉します。
- (ii) 吸込温度 (Thi-A) とリモコンの設定温度をファジー演算して決まる回転数にて冷房運転を行います。
- (iii) 各保護制御, 異常検知制御は有効です。
- (iv) 制御中は, 室外制御基板の LED1 (緑) を高速点滅させます。

### (c) 終了条件

下記の何れかが成立した場合。

- (i) 圧縮機運転時間が120分を経過したとき。
- (ii) 室外制御基板のディップスイッチ SW5-2 (P80 形 : SW8-1) を OFF したとき。
- (iii) 冷房運転以外を選択または異常停止のとき。

## (11) ドレンパンヒータ ON/OFF 出力制御 (現地手配)

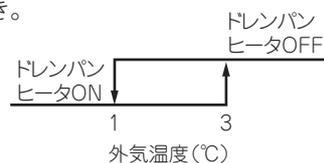
### (a) ドレンパンヒータ ON 条件

暖房モード時で外気温度が $1^{\circ}\text{C}$ 以下で圧縮機が運転中のとき。

### (b) ドレンパンヒータ OFF 条件

下記の何れかが成立した場合。

- (i) 外気温度が $3^{\circ}\text{C}$ 以上
- (ii) 圧縮機停止を30分連続検知したとき。
- (iii) 冷房・除湿モードを選択したとき。



# 15. 電装品故障診断要領

## 15.1 点検表示一覧

(1) リモコンの故障記号一覧 (室内・外制御基板の正常 [緑], 点検 [赤] 表示灯との組合せによる故障表示)

(a) 室内ユニット側故障時に於けるリモコン, 制御基板の点検表示一覧

点 検 表 示					故障箇所	故 障 内 容 <sup>(2)</sup>	修理方法	記載ページ	
リモコン		室内制御基板		室外制御基板					
故障記号	点検表示灯 (赤)	点検表示灯 (赤)	正常表示灯 (緑)	点検表示灯 (赤)					正常表示灯 (緑)
無表示	消灯	消灯	連続点滅	消灯	連続点滅	●正常運転	—	—	
		消灯	消灯	2回点滅	連続点滅	室内電源	●電源OFF, 断線・ヒューズ切れ	修 理	360-361
		消灯	連続点滅	2回点滅	連続点滅	リモコン配線 リモコン	●リモコン線の接続不良・断線 (クロ,シロ) ●リモコン基板不良	修 理 リモコン交換	362-363
内機確認中 又は消灯	消灯	連続点滅	2回点滅	連続点滅	室内外接続線 リモコン	●室内外接続線の接続不良または断線 ●リモコン親子設定不良	修 理	367	
		消灯	☆連続点滅	消灯	連続点滅	リモコン配線 (ノイズ) リモコン室内制御基板	●リモコン信号線 (シロ) の接続不良 ●リモコン線にノイズ侵入 ※●リモコンまたは室内制御基板不良 (通信回路不良)?	修 理 リモコンまたは基板交換	369
E5	2回点滅	連続点滅	2回点滅	連続点滅	室内外接続線	●運転中に室内外接続線接続不良発生 (外れ・緩み) ●ノイズ等による室内外通信異常	修 理	370-371	
		連続点滅	消灯	連続点滅	(ノイズ) 室外制御基板	●通電中に室外制御基板CPUが暴走 ※●通電中に室外制御基板不良発生 (通信回路不良)?	修 理 基板交換		
		連続点滅	消灯	消灯	室外制御基板 ヒューズ	●通電中に室外制御基板不良 ●通電中にヒューズ切れ	交 換		
E6	1回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	室内熱交温度センサ 室内基板	●室内熱交温度センサ不良 (素子不良,断線,短絡) ●温度センサ用コネクタ接触不良 ※●室内制御基板不良 (温度センサ入力回路不良)?	温度センサ交換・修理 基板交換	372	
E7	1回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	吸込温度センサ 室内制御基板	●吸込温度センサ不良 (素子不良,断線,短絡) ●温度センサ用コネクタ接触不良 ※●室内制御基板不良 (温度センサ入力回路不良)?	温度センサ交換・修理 基板交換	373	
E8	1回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	据付・運転状況	●暖房過負荷 (室内熱交温度が異常に高い)	修 理	374	
室内熱交温度センサ 室内制御基板					●室内熱交温度センサ不良 (短絡) ※●室内制御基板不良 (温度センサ入力回路不良)?	温度センサ交換 基板交換			
E9	1回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	排水不良	●ドレンポンプ (DM) 不良, ドレンポンプ用配線断線・コネクタ外れ	DM交換・修理	375	
フロートスイッチ					●フロートスイッチの作動不良 (誤作動)	修 理			
室内制御基板					※●室内制御基板不良 (フロートスイッチ入力回路不良) ※●室内制御基板不良 (DM駆動用出力回路不良)	基板交換			
オプション					●オプション部品不良 (オプション異常入力設定時)	修 理			
E10	消灯	連続点滅	消灯	連続点滅	室内接続台数	●1リモコン複数台制御時⇒室内ユニット接続台数オーバー	修 理	376	
E11	消灯	連続点滅	消灯	連続点滅	アドレス設定	●リモコン通信アドレス設定不良	修 理	377	
E14	3回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	室内号機設定	●子機に対応する親機がない	修 理	378	
リモコン配線					●親機子機間のリモコン配線接続不良,断線				
E16	1(2)回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	室内ファンモータ	●室内ファンモータ不良	交換・修理 交 換	379	
室内制御基板					●室内制御基板不良				
E19	1回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	室内制御基板	●運転モード設定不良	修 理	380	
E20	1(2)回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	室内ファンモータ	●室内ファンモータ回転不良	交換・修理 交 換	381	
室内制御基板					●室内制御基板不良				
E21	消灯	連続点滅	消灯	連続点滅	ラクリーナパネル	●ラクリーナパネル収納不良 ●パネルスイッチの動作不良	修 理 交 換	382	
(FDTZシリーズのみ)									
E28	消灯	連続点滅	消灯	連続点滅	リモコン温度センサ	●リモコン温度センサ不良	修 理	383	

注(1) 正常表示灯 (室内・外: 緑) はCPU異常時のみ消灯 (または連続点灯) します。CPU異常以外の故障の場合は点滅を続けます。  
 (2) 故障内容の※印は通常の診断では、明確にそれと原因を特定できない場合で、部品交換して故障が直れば、結果的に交換した部品が悪かったことを判断できるケースを示します。

(b) 室外ユニット側故障時に於けるリモコン、制御基板の点検表示一覧

点 検 表 示					故障箇所	故 障 内 容	修 理 方 法	記 載 ページ
リモコン	室内制御基板		室外制御基板					
故障記号	点検表示灯(赤)	点検表示灯(赤)	正常表示灯(緑)	点検表示灯(赤)	正常表示灯(緑)			
E34	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	電源配線 ●室外電源R, S, T相欠相, ノイズフィルタ不良 ※●室外制御基板不良 (電源入力回路不良)?	三相機のみ	修理 基板交換	384・385
E35	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	据付・運転状況 ●室外熱交温度が高い ●室外熱交温度センサ不良 ※●室外制御基板不良 (温度センサ入力回路不良)?		修理 温度センサ交換修理 基板交換	386
E36	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	吐出管温度センサ ●吐出温度が高い ●吐出管温度センサ不良 ※●室外制御基板不良 (温度センサ入力回路不良)?		修理 温度センサ交換修理 基板交換	387
E37	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	室外熱交温度センサ ●室外熱交温度センサ不良または断線またはコネクタ接触不良 ※●室外制御基板不良 (温度センサ入力回路不良)?		温度センサ交換修理 基板交換	388
E38	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	外気温度センサ ●外気温度センサ不良または断線またはコネクタ接触不良 ※●室外制御基板不良 (温度センサ入力回路不良)?		温度センサ交換修理 基板交換	389
E39	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	吐出管温度センサ ●吐出管温度センサ不良または断線またはコネクタ接触不良 ※●室外制御基板不良 (温度センサ入力回路不良)?		温度センサ交換修理 基板交換	390
E40	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	据付・運転状況 ●高圧が上昇(63H1作動) ●操作弁閉運転 ※●室外制御基板不良 (63H1入力回路不良)?		修理 基板交換	391
E41	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	インバータ基板・放熱フィン ●パワトラ電源電圧低下		修理 基板交換	392
E42	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	室外制御基板圧縮機 ●カレントカット (圧縮機過電流異常) 据付・運転状況 ●操作弁閉運転		修理 操作弁閉確認	393・394
E45	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	室外制御基板 ●室外制御基板通信異常 インバータ基板 ●インバータ基板通信異常		基板交換	395・396
E47	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	リアクタ基板 ●AF異常 (FDCZP805HK形のみ) インバータ基板 ●AF異常 (FDCZP805H~1605H形のみ)		基板交換	397 398
E48	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	室外ファンモータ ●室外ファンモータ不良 ※●室外制御基板不良 (ファンモータ入力回路不良)?		交換修理 基板交換	399
E49	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	据付・運転状況 ●低圧が低い ●操作弁閉運転 低圧圧力センサ ●低圧異常または低圧圧力センサ断線またはコネクタ接触不良 ※●室外制御基板不良 (センサ入力回路不良)?		修理 センサ交換修理 制御基板交換	400・401
E51	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	インバータ基板 ●インバータ・室外ファンモータ異常		基板交換	402
E53	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	吸入管温度センサ ●吸入管温度センサ不良または断線またはコネクタ接触不良 ※●室外制御基板不良 (センサ入力回路不良)?		温度センサ交換修理 制御基板交換	403
E54	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	低圧圧力センサ ●低圧圧力センサ不良 室外制御基板 ●室外制御基板不良 (センサ入力回路不良)?		センサ交換 制御基板交換	404
E57	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	運転状況 ●冷媒量不足 据付状況 ●操作弁閉運転		修理 操作弁閉確認	405
E58	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	圧縮機 ●圧縮機脱調異常 インバータ基板		交 換	406
E59	消灯	連続点滅	5回点滅	連続点滅	圧縮機 ●圧縮機起動異常 インバータ基板		交 換	407・408

注(1) 故障内容の※印は通常の診断では、明確にそれと原因を特定できない場合で、部品交換して故障が直れば、結果的に交換した部品が悪かったことを判断できるケースを示します。

(c) オプションコントローラ使用時の点検表示一覧

点 検 表 示					故障箇所	故 障 内 容	修 理 方 法
SL1N SL2NA SL4	室内制御基板		室外制御基板				
故障記号	点検表示灯(赤)	点検表示灯(赤)	正常表示灯(緑)	点検表示灯(赤)	正常表示灯(緑)		
E75	連続点滅	消灯	点滅	消灯	(1)点滅 SL1N SL2NA SL4	●通信異常 (SL1N, SL2NA, SL4 本体の通信回路不良)	交 換

(d) 故障記号・点検表示灯の表示順序

■1種類の故障が発生

故障に応じた表示をそれぞれ行います。

■複数の故障が発生

区 分	表 示 区 分
リモコンの故障記号	●優先度の高い故障を表示（複数の故障が現に継続している場合）
室内制御基板の点検LED（赤）	<b>E1&gt;E5&gt;……&gt;E10&gt;E32&gt;……&gt;E59</b>
室外制御基板の点検LED（赤）	●現在発生している故障を表示（先発の故障が自動復帰後、新たに故障が発生した場合）

■故障検知時期

区分	故障内容	故障記号	故障検知時期
室内	ドレン異常（フロートスイッチ作動）	<b>E9</b>	電源ON30秒後常時
	室内-室外誤接続	内機確認中	室外ユニットと一度も通信していない状態。
	リモコン・室内伝送不良	<b>E1</b>	電源投入後リモコンと室内が1度以上通信した後、伝送不良が2分間継続した時
	室内・外伝送不良	<b>E5</b>	室外と1度以上通信した後2分間連続して通信異常
	室内ユニット接続台数オーバー (1リモコン複数台制御時)	<b>E10</b>	電源投入後(通電中)常時
	吸込温度センサ断線	<b>E7</b>	1回目の検知から60分以内に吸込温度センサ入力温度が-50℃以下を5秒間以上計測した時
	室内熱交温度センサ断線、短絡	<b>E6</b>	1回目の検知から60分以内に熱交温度センサ温度が-50℃以下を5秒間以上計測した時および70℃以上を連続5秒間検知した時
室外	外気温度センサ断線	<b>E38</b>	1回目の検知から40分以内に3回温度センサ入力温度が-45℃以下を5秒間以上計測した時および電源投入時、20秒間に-45℃以下を連続5秒間検知した時
	室外熱交温度センサ断線	<b>E37</b>	1回目の検知から40分以内に3回温度センサ入力温度が-50℃以下を5秒間以上計測した時および電源投入時、20秒間に-50℃以下を連続5秒間検知した時
	吐出管温度センサ断線	<b>E39</b>	1回目の検知から40分以内に3回温度センサ入力温度が-10℃以下を5秒間以上計測した時
	吸入管温度センサ断線	<b>E53</b>	1回目の検知から40分以内に3回吸入管温度センサ入力温度が-50℃を5秒間以上計測した時
	低圧圧力センサ断線	<b>E54</b>	1回目の検知から40分以内に3回低圧圧力センサの検出値が0V以下もしくは、DC4.0V以上

■故障の記憶とリセット

故障表示	記 憶	リ セ ッ ト
リモコンの故障記号	●優先度の高いモードを記憶	●リモコンの運転/停止スイッチを押してユニットを停止する ●異常が復旧していれば再運転可能
室内・点検表示灯（赤）	●記憶は不可	
室外・点検表示灯（赤）	●優先度の高いモードを記憶	

## ■故障モード記憶の解除（故障が復帰している場合）

### ① RC-DX2, 3リモコンの場合

- リモコン故障モード記憶の解除

TOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「サービス・メンテナンス」→「サービスパスワード入力」→「点検表示」→「異常履歴表示」の順に選択します。

画面上の「消去」→消去確認画面で「はい」の順に選択すると、リモコンが記憶している異常履歴・異常発生時のデータの記憶をすべて消去します。

- 室内ユニット故障モード記憶の解除

TOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「サービス・メンテナンス」→「サービスパスワード入力」→「点検表示」→「異常時運転データ消去」の順に選択します。

異常時運転データ消去画面で「はい」を選択すると、リモコンは室内ユニットに異常履歴クリアを送信します。送信された室内ユニットは、リモコンに対し異常なしを送信します。

### ② RC-D4Gリモコンの場合

- リモコン故障モード記憶の解除

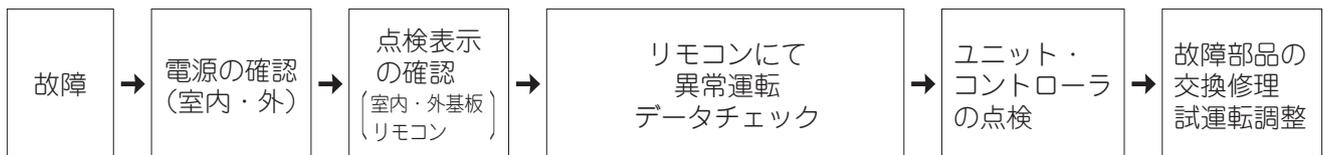
**点検** ボタンを押しながら **タイマー** ボタンを押すことにより、リモコンが記憶している故障モードの記憶を解除します。

- 室内ユニット故障モード記憶の解除

**点検** ボタンを押しながら **換気** ボタンを押すことにより、リモコンは室内ユニットに異常履歴クリアを送信します。送信された室内ユニットは、リモコンに対し異常なしを送信します。

## 15.2 故障診断の手順

故障が発生したら、次の手順で点検を進めてください。それぞれの点検方法の詳細は後述してあります。



## 15.3 室内ユニット基板の交換手順

故障診断は、点検表示またはユニットの運転状況（圧縮機が回らない、ファンが回らない、四方弁が切換わらない等）に応じて室内ユニットの基板周辺の各コネクタ部で電圧（AC、DC）抵抗等を測定する等して不良部品を見つけ、下記の部品単位で交換修理します。

### (1) 室内基板関係の交換部品単位

制御基板、電源基板、温度センサ（吸込、室内熱交）、リモコンスイッチ、リミットスイッチ、ヒューズ

注(1) 強電回路・冷凍サイクルの部品は、通常の点検方法により判定してください。

### (2) 基板交換要領

**お願い** ワイヤードリモコン使用機種は基板交換後、電源を投入した後に「リモコンによる機能設定」を参照し室内ユニットの機能や用途に合わせて設定を行ってください。

#### 安全上のご注意

- 交換工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
  - ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。  
表示と意味は次のようになっています。
- |  |           |   |
|--|-----------|---|
|  | <b>警告</b> | 誤った作業を行った時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。 |
|  | <b>注意</b> | 誤った作業を行った時に、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。  |
- 基板交換完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。

#### △ 警告

- 交換作業は、販売店または専門業者に依頼する。  
ご自分で作業をされ不備があると、感電や火災の原因になります。
- 作業は、この交換要領書に従って確実に行う。  
作業に不備があると、感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後、交換工事をする。（電源を切って1分以上経過後に実施してください。）  
通電状態での基板交換は、感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後、電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。  
交換作業に不備があると、感電や火災の原因になります。

#### △ 注意

- 基板にコネクタを接続する際は、基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは、確実に挿入しストッパを掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は、かみ込んだり、つっぱらないように結束する。断線・変形して故障・感電の原因になることがあります。

(a) FDTZ シリーズ

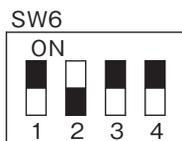
- (i) アドレス設定・仕様切替スイッチ設定をしてください。  
交換する基板と同一設定としてください。

項目	スイッチ	制御内容			
アドレス	SW2	1リモコン複数室内ユニット制御			
親/子 設定		親	子1	子2	子3
	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

項目	スイッチ	制御内容	
試運転	SW7-1	OFF	通常運転
		ON	運転チェック/ドレンポンプ試運転

- (ii) 容量切替スイッチ(SW6)により容量を設定してください。  
交換する基板と同一になります。

機種 設定	SW6			
	-1	-2	-3	-4
自動認識	OFF	OFF	OFF	OFF
P80	ON	OFF	OFF	ON
P112	ON	ON	OFF	ON
P140	OFF	OFF	ON	ON
P160	ON	OFF	ON	ON



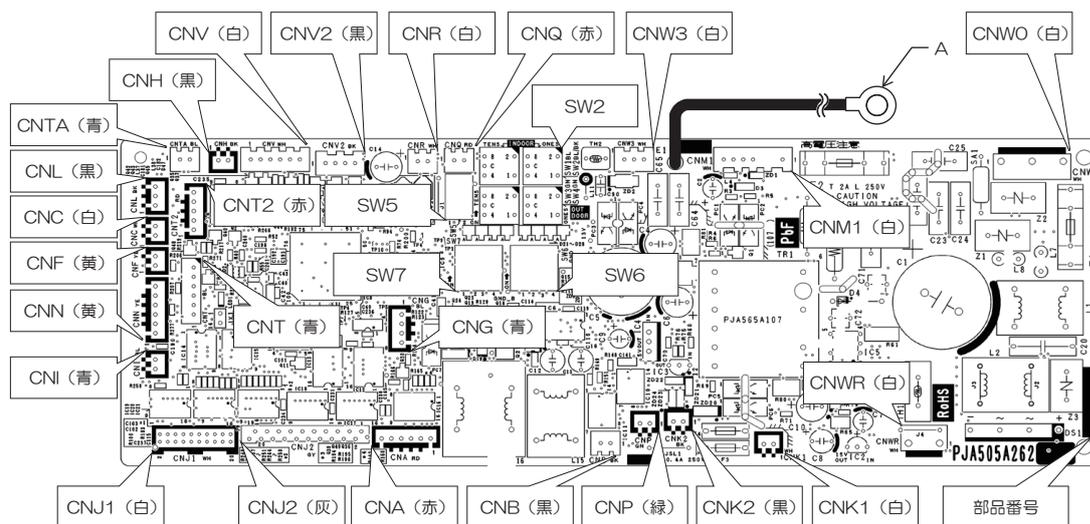
(P160の場合)

注(1) 機種設定の自動認識 (SW6が全てOFF) を選択した場合は、接続する室外ユニットにより機種容量を自動認識しますので設定は不要です。

- (iii) 基板を交換してください。

- 1) 基板に接続されているE1配線(黄/緑)のねじ止め部のねじ(矢視A)を外してください。
- 2) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
- 3) 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。
- 4) スイッチ設定は、交換する基板と同一設定としてください。
- 5) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。
- 6) 1)項で外した配線を元の場所にねじ止めしてください(矢視A)。

(iv) 制御基板部品配置図



(b) FDTWZ・FDTSZ・FDRZ・FDUZ・FDEZ シリーズ

(i) 制御基板

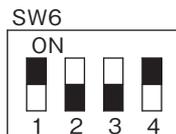
1) アドレス設定・仕様切換スイッチ設定をしてください。  
交換する基板と同一設定としてください。

項目	スイッチ	制御内容			
アドレス	SW2	1リモコン複数室内機制御			
親/子設定		親	子1	子2	子3
	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

項目	スイッチ	制御内容	
試運転	SW7-1	OFF	通常運転
		ON	運転チェック/ドレンポンプ試運転

2) 容量切換スイッチ(SW6)により容量を設定してください。  
交換する基板と同一になります。

機種設定	SW6			
	-1	-2	-3	-4
P80	ON	OFF	OFF	ON
P112	ON	ON	OFF	ON
P140	OFF	OFF	ON	ON
P160	ON	OFF	ON	ON



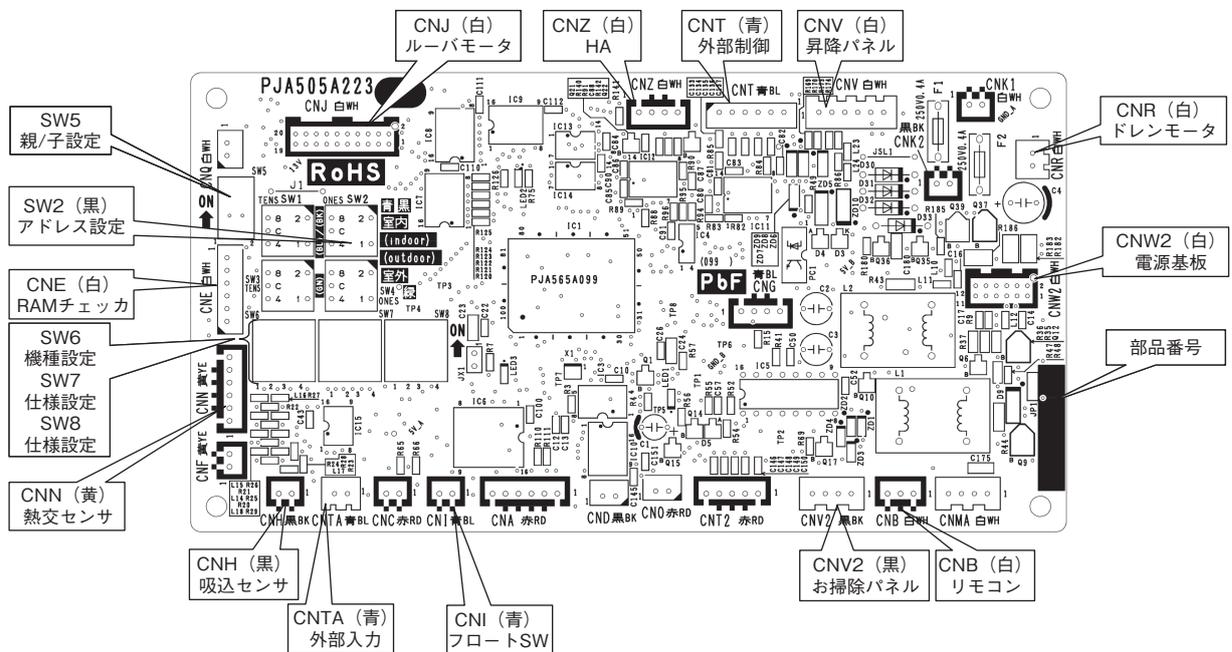
(P80の場合)

3) 基板を交換してください。

- 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
- 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。
- 基板へコネクタ接続してください。基板上的コネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

4) 制御基板部品配置図

基板の種類により部品の実装が異なります。

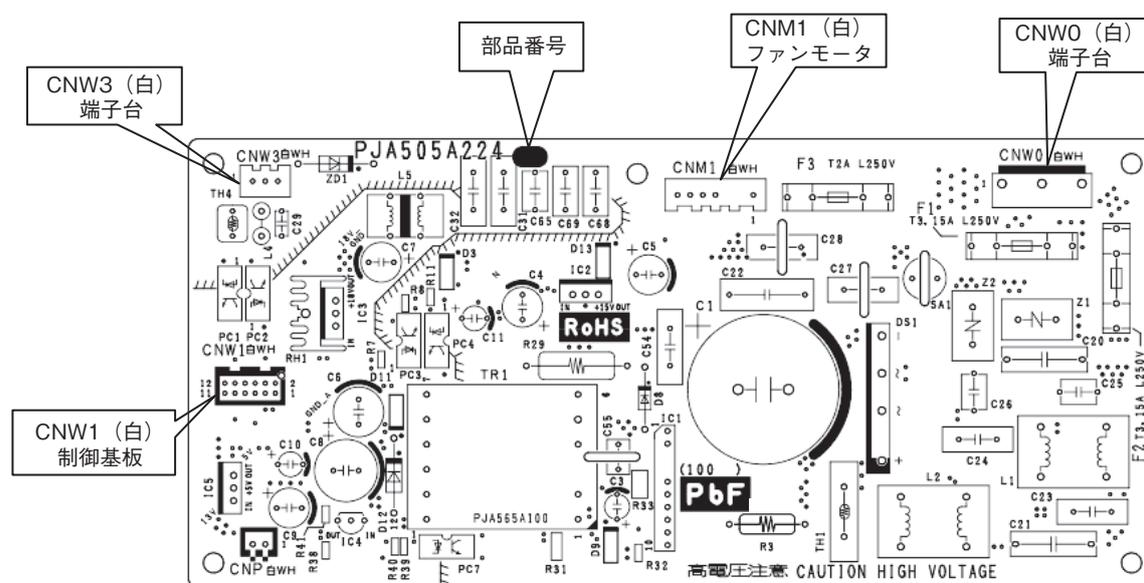


PSB012D990A

(ii) 電源基板

1) FDTWZ804形・FDTSZ・FDEZ

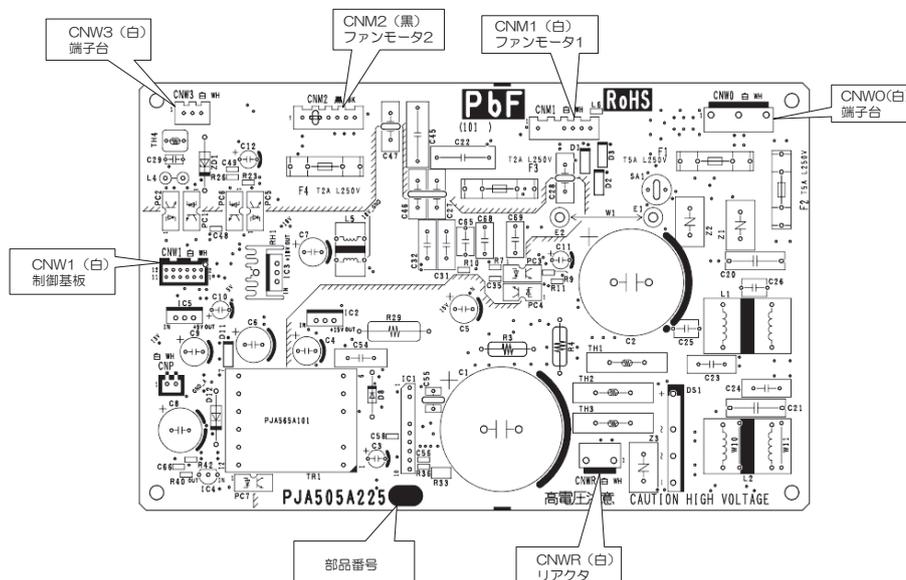
- a) 基板を交換してください。
- i) 端子台 (CNW0) に接続されている配線(黄/緑)のボックスねじ止め部のねじを外してください。
  - ii) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
  - iii) 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。
  - iv) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。
  - v) i) で外した配線を元の場所にねじ止めしてください。
- b) 電源基板部品配置図  
基板の種類により部品の実装が異なります。



PSB012D992

2) FDTWZ1124~1604形

- a) 基板を交換してください。
- i) 端子台 (CNW0) に接続されている配線 (黄/緑) のボックスねじ止め部のねじを外してください。
  - ii) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
  - iii) 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。
  - iv) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。
  - v) i) 項で外した配線を元の場所にねじ止めしてください。
- b) 電源基板部品配置図



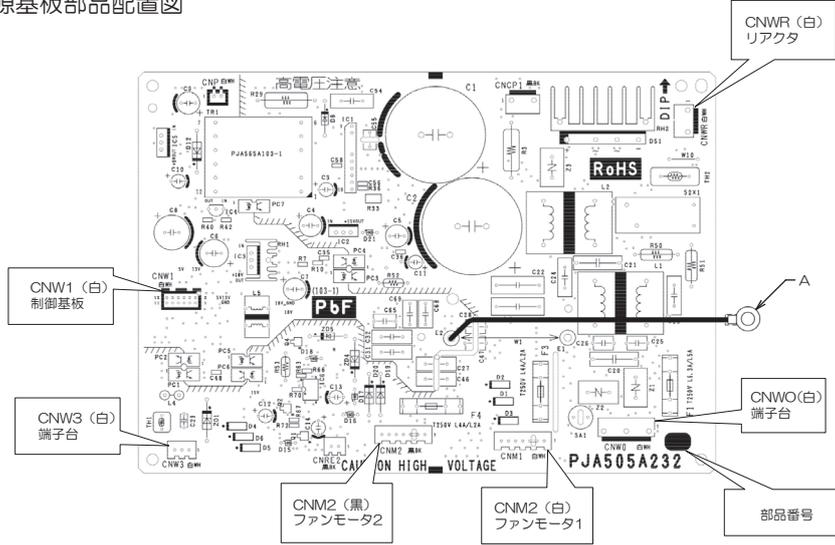
PSB012D993

### 3) FDRZ, FDUZ

a) 基板を交換してください。

- i) 基板に接続されているE2配線（黄／緑）のねじ止め部のねじ（矢視A）を外してください。
- ii) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
- iii) 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。
- iv) 基板へコネクタ接続してください。基板上的コネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。
- v) i)項で外した配線を元の場所にねじ止めしてください（矢視A）。

b) 電源基板部品配置図



### (c) FDESZ シリーズ

(i) アドレス設定・親子設定スイッチ  
交換する基板と同一設定になります。

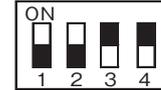
項目	スイッチ	制御内容
アドレス	SW2	1リモコン 複数室内機制御 O~F
		親 子1 子2 子3
親/子設定	SW5-1	OFF OFF ON ON
	SW5-2	OFF ON OFF ON
試運転	SW7-1	OFF 通常運転
		ON 運転チェック ドレンポンプ試運転

(ii) 容量切換スイッチ

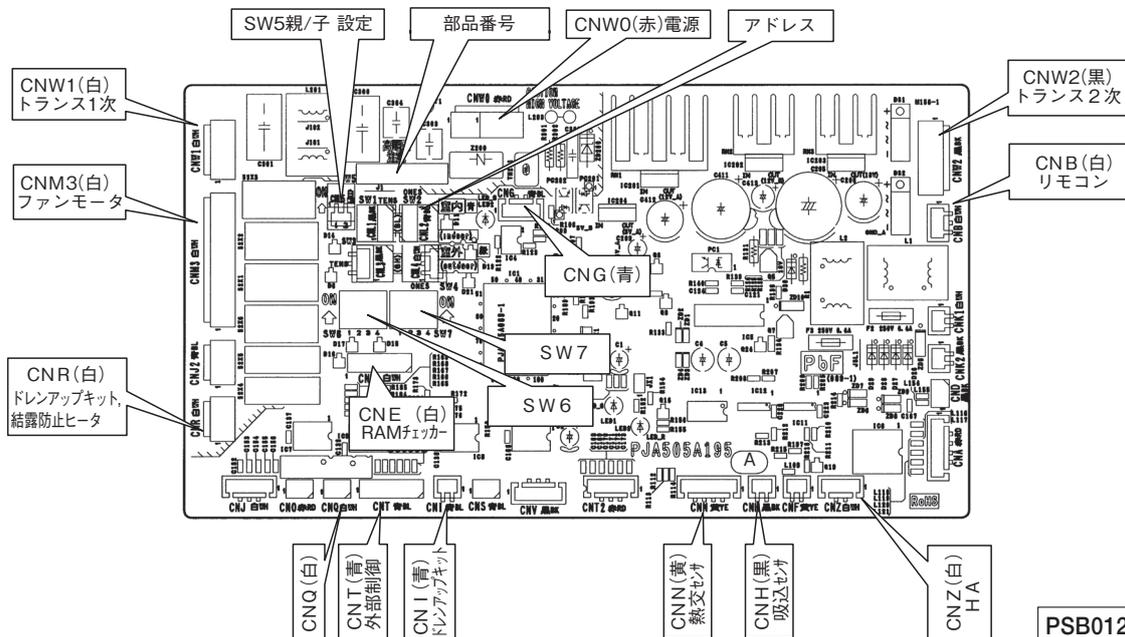
(SW6) により容量を設定してください。交換する基板と同一設定になります。

SW6	-1	-2	-3	-4
P80	ON	OFF	OFF	ON
P140	OFF	OFF	ON	ON

SW6(P140の場合)



(iii) 制御基板部品配置図



●ディップスイッチ設定表

スイッチ	項 目		通常の設定		備 考
SW2	リモコン通信アドレス設定		0		0-F
SW5-1	プルーラル機	親/子設定	OFF		下表2参照
SW5-2			OFF		
SW6-1	室内ユニット機種容量切換		機種容量により切換え		下表1参照
SW6-2					
SW6-3					
SW6-4					
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転	通常/運転チェック・ドレン試運転	OFF	通常	
SW7-2	-		OFF		
SW7-3	パワフルモード	有効/無効	ON	有効	
SW7-4	-		OFF		
JSL1	スーパーリンク端子予備	有/無	有		

表1：室内ユニット機種容量切換 (SW6-1～SW6-4)

	自動設定	P80	P112	P140	P160
SW6-1	OFF	ON	ON	OFF	ON
SW6-2	OFF	OFF	ON	OFF	OFF
SW6-3	OFF	OFF	OFF	ON	ON
SW6-4	OFF	ON	ON	ON	ON

注(1) 自動設定はFDTZシリーズのみ

表2：室内ユニット親/子切換 (SW5-1,SW5-2)

	SW5-1	SW5-2
親	OFF	OFF
子1	OFF	ON
子2	ON	OFF
子3	ON	ON

## 15.4 室外ユニット基板の交換手順

室外ユニットの故障診断は、リモコンの故障記号、室外制御基板上の点検表示灯(赤・LED)および正常表示灯(緑・LED)の点滅パターンを確認して故障の概要とその原因、部位を推定した上で点検・修理を進めてください。

室内・外マイコンによる自己診断はマイコン異常の他、電源系統の異常、据付スペース、冷媒量不適等に起因するオーバードロード等を診断しますので、故障発見が円滑に行えます。

また、室外の点検表示灯は電源を遮断する以外は、故障が自動復帰した後も記憶され点滅を続けます。

故障復帰後、記憶されている故障より優先度の高いモードが発生すると、そのモードに切換えて記憶します。

### [電源のリセットについて]

基板の交換をする場合および点検をする場合、室外ユニットへの供給電源を遮断してもコントローラ内部の電解コンデンサに電圧が残っていますので、作業をされる場合は感電にご注意ください。

電源遮断後、3分以上経過し、コントローラ内部緑のLEDが10秒以上、消灯していることを確認してから作業を実施ください。電解コンデンサ(C58)の両端の電圧(DC)を測定して十分に放電した事を確認してください。

(防湿コーティングしてあるため測定できないことがありますので、感電に注意して防湿剤を剥がして測定してください。)

### (1) 室外コントローラ関係の交換部品単位

室外制御基板、インバータ基板、温度センサ(室外熱交、吐出管、外気、吸入管)、ヒューズ(電源、制御基板)、ノイズフィルタ、コンデンサ、リアクタ

### (2) 基板交換要領

安全上のご注意	
ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。表示と意味は次のようになっています。	
<b>△ 警告</b>	誤った作業を行った時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
<b>△ 注意</b>	誤った作業を行った時に、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
<b>△ 警告</b>	
・ 基板交換はこの交換要領書に従って確実に行ってください。 交換作業に不備があると、感電や火災の原因になります。	
・ 基板交換時は、必ず室外ユニットの電源が切れていることを確認してから行ってください。 通電状態での基板交換は、感電の原因になります。	
・ 基板交換の作業終了後、電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認してください。 交換作業に不備があると、感電や火災の原因になります。	
<b>△ 注意</b>	
・ 配線はつっぱらないように結束してください。感電の原因になることがあります。	

#### (a) FDCZP805H, 805HK

##### (i) 制御基板

下記の要領で制御基板の交換を行ってください。

1) 交換作業は**電源を切って3分後**に実施してください。

(図2. インバータ基板のファストンタブの位置を参照し**T26, T27の電圧(DC)を測定し十分に放電(10V以下まで)したことを確認してください。**)

2) 制御基板のコネクタを外してください。

3) 新しい基板の設定スイッチ(SW4)の設定を交換前の基板に合わせてください。

4) 制御基板へコネクタを接続してください。(接続後、**半挿しが無い様**確認してください。)

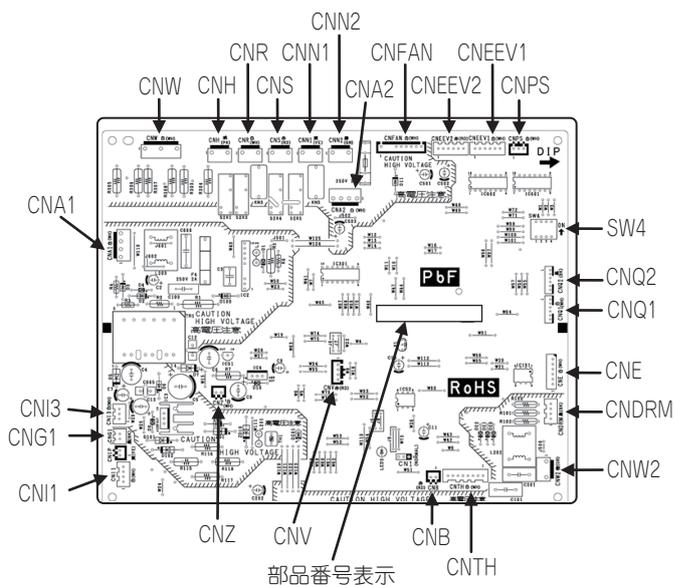


図1. 部品配置図



電圧測定箇所(T26(アカ), T27(アオ))

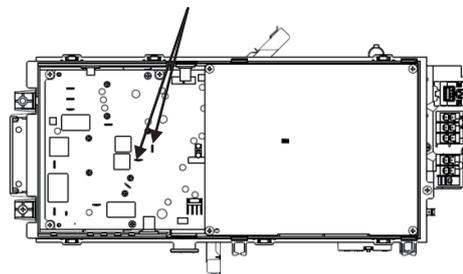


図2. ファストンタブの位置

※電装部品の有無、形状および位置は、機種によって異なる場合があります。



PCA012D049A

## (ii) インバータ基板

下記の要領でインバータ基板(図1)の交換を行ってください。

1) 交換作業は、電源を切って3分後に実施してください。

(電源OFF直後はコンデンサが放電されておらず、高電圧状態で危険な為、コントローラに触らないでください。)

ハーネスが接続されている状態で、図2に示すT26, T27間のDC電源電圧を測定し、10V以下(コンデンサ放電後の電圧)であることを確認してください。

2) 図1で示すインバータ基板上のコネクタおよびファストン端子を外してください。

3) 新しいインバータ基板のJ SW10, 11のON/OFF設定を交換前の状態に設定してください。

4) コントローラのハーネスバンド3か所を取外し、放熱フィンの固定ねじ4か所を外してください。

(図3参照)

5) インバータ基板を放熱フィンごとコントローラから取外し、新しいインバータ基板と交換してください。交換の際に、ハーネスが放熱フィンなどに噛み込まない様注意してください。

6) 放熱フィンをねじで締めてコントローラと固定してください。その後、コネクタおよびファストン端子を元通り接続してください。(コネクタ接続後に半挿しが無い様確認してください。)

7) 付属のハーネスバンドを元の位置に取付け(3か所)、ハーネスをバンドで元通り固定してください。

8) 付属のハーネスクリップを図4に従ってインバータ基板に取付け、ハーネスを固定してください。

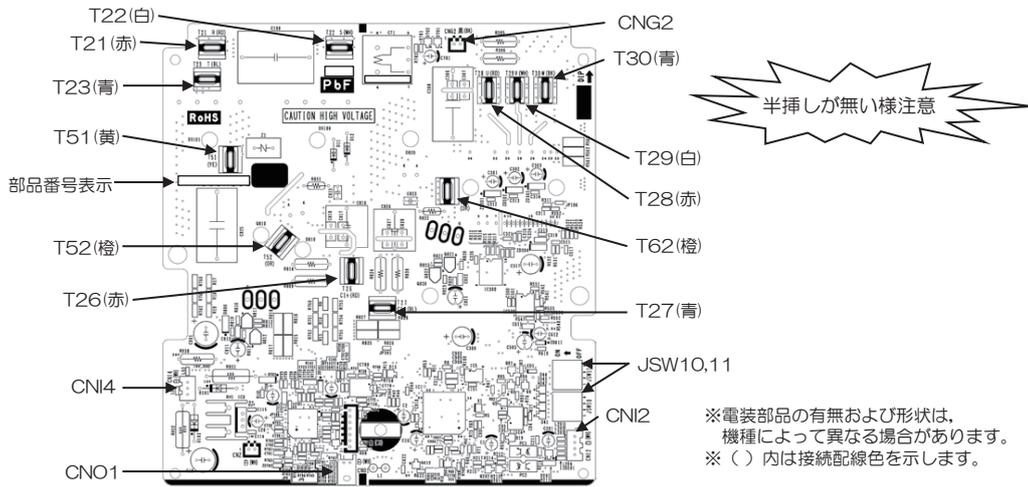


図1. 部品配置図

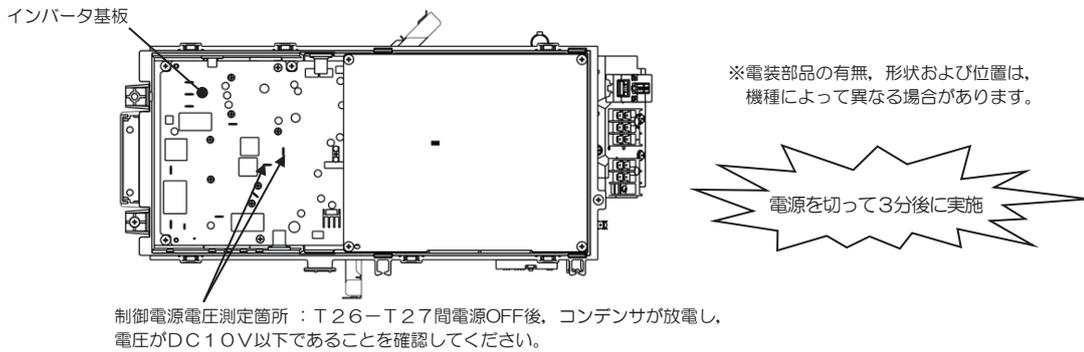


図2. 電圧測定箇所

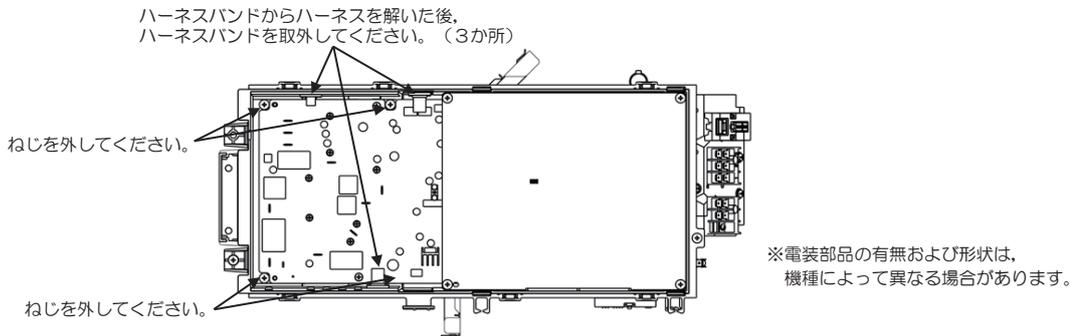


図3. 取外し箇所

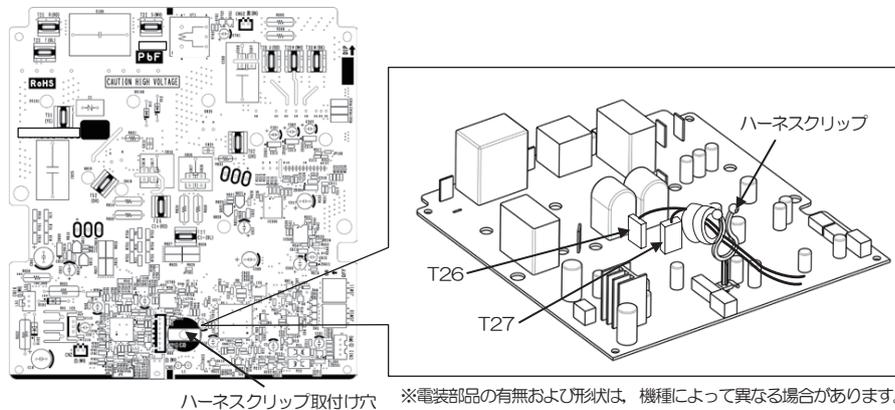


図4. ハーネス固定図

(b) FDCZP1125H～1605H

(i) 制御基板

下記の要領で制御基板の交換を行ってください。

- 1) 交換作業は、電源を切って3分後に実施してください。
- 2) コネクタ（CNA1）の両極を測定し、電解コンデンサに充電されたDC電圧が十分に放電した事を確認してください。（図2参照）
- 3) 制御基板のコネクタを外してください。（図1．部品配置図を参照してください。）
- 4) 基板上的CT1に通している白色または青色の配線を外して、制御基板を交換してください。
- 5) 新しい基板の設定スイッチ（SW3～5，7，JSW1）の設定を交換前の基板に合わせてください。
- 6) 白色または青色の配線を、交換した基板上的CT1に通してねじを締めてください。
- 7) コネクタを交換前と同じ場所に接続してください。（接続後、半挿しが無い様確認してください。）

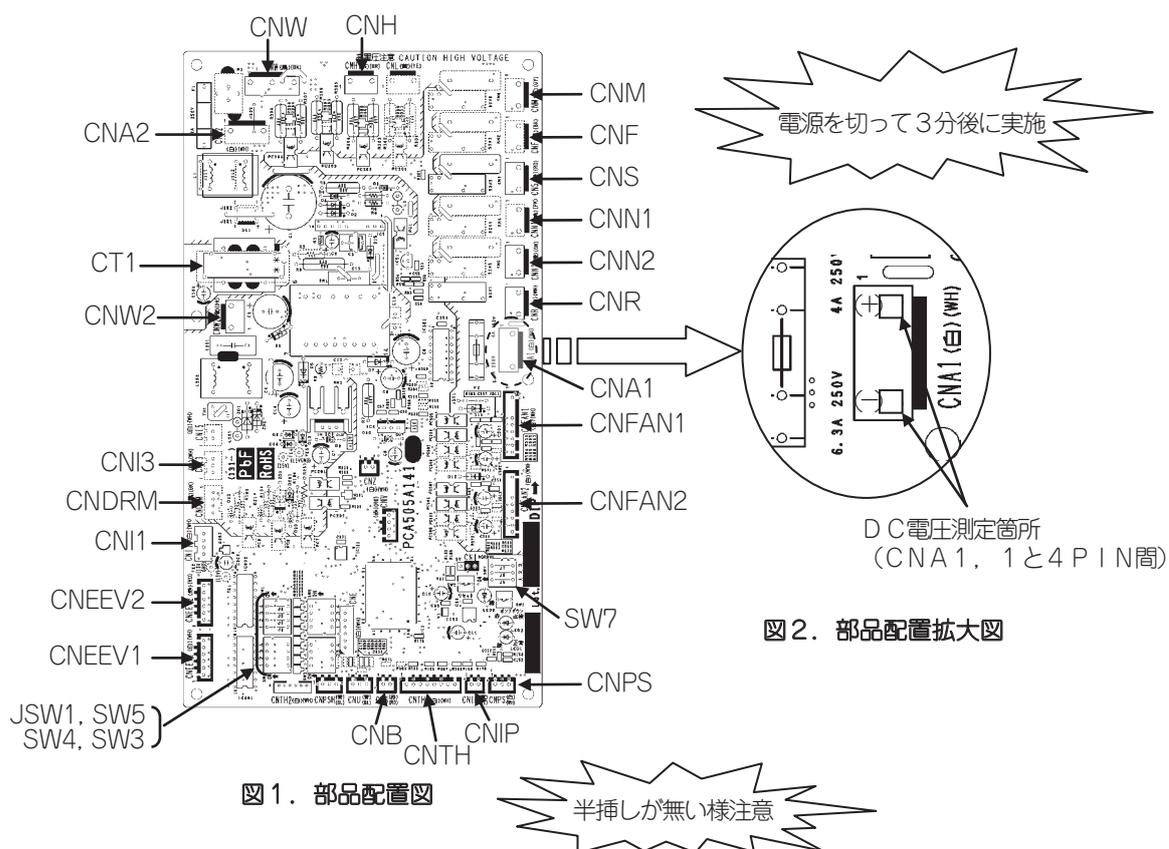


図2. 部品配置拡大図

(ii) インバータ基板

下記の要領でインバータ基板（図1）の交換を行ってください。インバータ基板の搭載箇所は図3を参照してください。

- 1) 交換作業は、**電源を切って3分後**に実施してください。（電源OFF直後はコンデンサが放電されておらず、高電圧状態で危険なため、コントローラを触らないでください。また、リアクタが高温になっていますので、リアクタには触らないでください。）
- 2) ハーネスが接続されている状態で、図2に示す制御基板のコネクタCNA1（1-4ピン間）の**DC電源電圧を測定し、20V以下（コンデンサ放電後の電圧）である事**を確認してください。
- 3) 図2に示す様にバンドに束ねられているハーネスをクリップと制御基板上的のコネクタから外し、ねじ（4か所）を外してください。
- 4) 図3の様に制御面を開き、図1で示すインバータ基板のCNA3（1-4ピン間）の**DC電源電圧を測定し、20V以下（コンデンサ放電後の電圧）である事**を確認してください。（※）
  - ・インバータ基板に接続されたコネクタ、端子およびダイオード（D801）、トランジスタ（Q802）、パワトラ（IC2）の取付け用ねじを外してインバータ基板を取外してください。
  - ・取外した後、放熱フィンに付着しているシリコングリスをきれいに拭き取ってください。
  - ・ダイオード（D801）およびトランジスタ（Q802）用の**絶縁シートを放熱フィンより剥がし、新しい絶縁シートを放熱フィンに貼り付けてください。**（図4参照）
  - ・制御面を開けている際は、上から力を加えないでください。製品の変形やけがの原因になります。
- 5) 新しい基板のダイオード（D801）、トランジスタ（Q802）に装着されているスペーサ（図5参照）を取外してください。
- 6) 新しい基板のスイッチ（JSW10, 11）のON/OFF設定を交換前の基板に合わせてください。
- 7) 新しい基板のパワトラ（IC2）表面に、同梱の**シリコングリスを均一に塗布**して基板を取付けてください。塗布しないと**部品が破損することがあります**。（シリコングリスは使い切ってください）
- 8) 新しい基板のパワトラ（IC2）、ダイオード（D801）、トランジスタ（Q802）の取付け用ねじを締付け（各推奨締付トルクは図6参照）、端子およびコネクタを元の状態に接続してください。コネクタ接続後、**半挿しが無い事**を確認してください。制御面を閉じる際に配線の噛み込みがない様に注意してください。配線が損傷し、ショートや火災の原因になります。

（※）インバータ基板（CNA3）のコネクタが**未接続の状態**で電源を投入した場合や、故障の内容によって電荷が数時間放電されない可能性があります。**感電、基板破損の恐れがあります**ので確実にCNA3の電圧測定を行ってください。

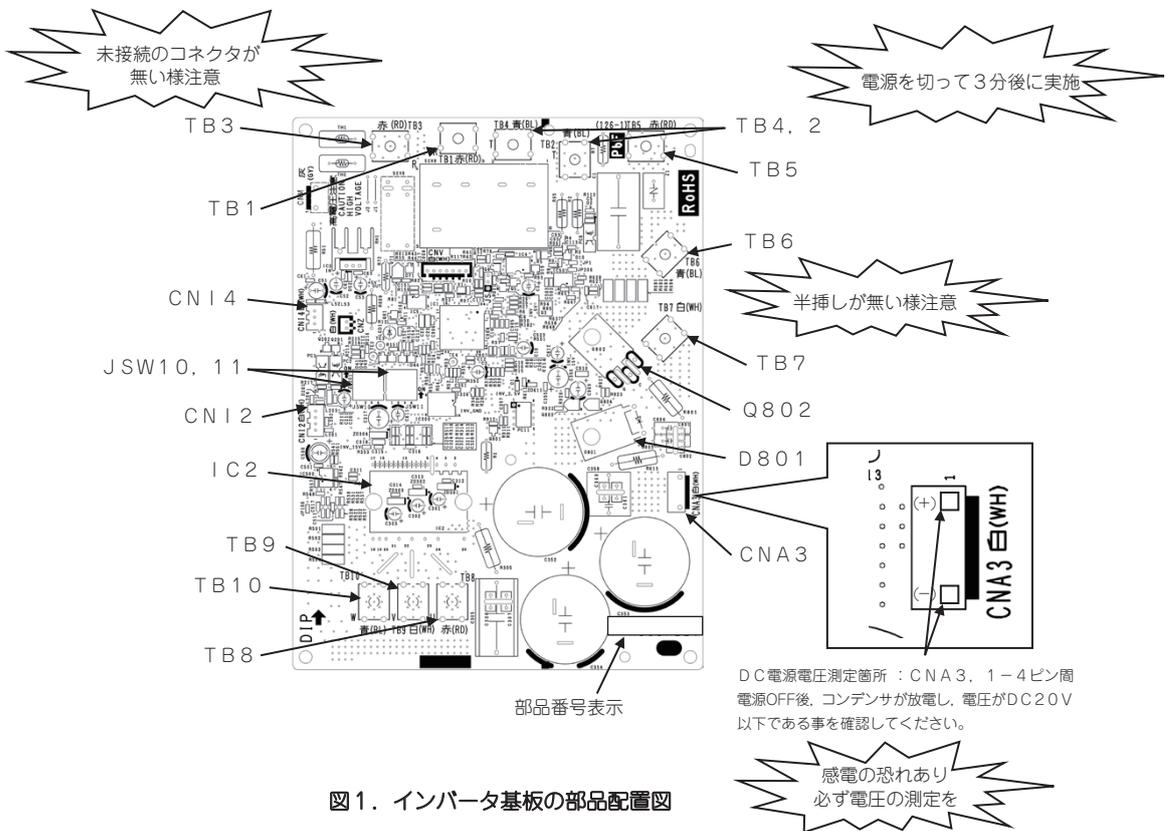


図1. インバータ基板の部品配置図

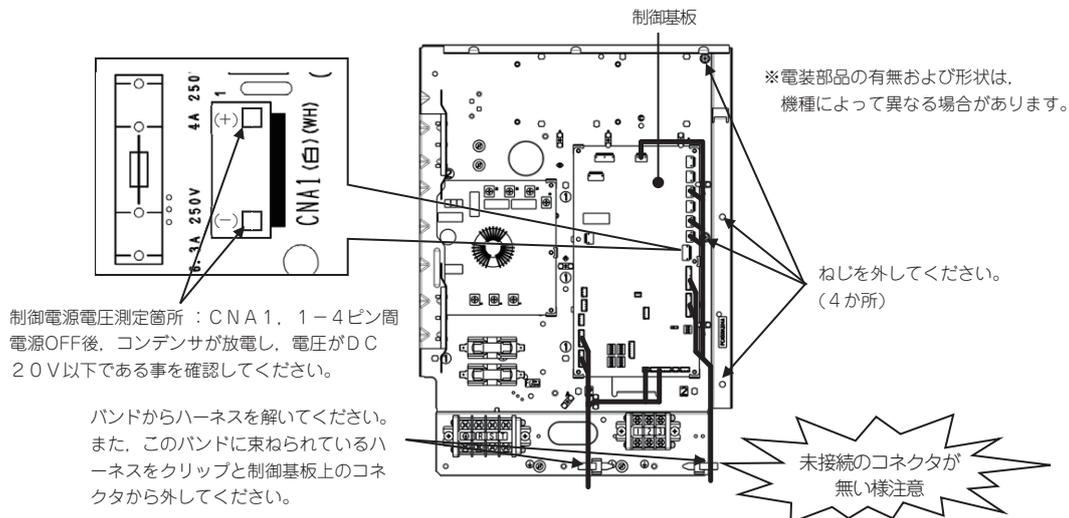


図2. コントローラ正面 (制御面)

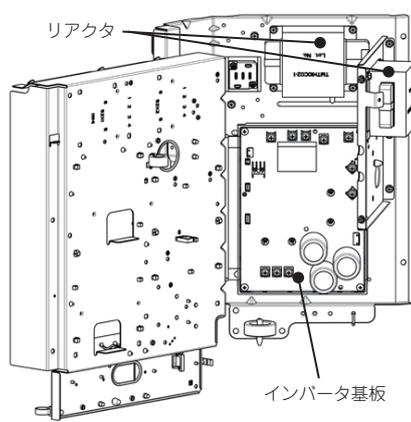


図3. 制御面を開き、インバータ基板が見える状態

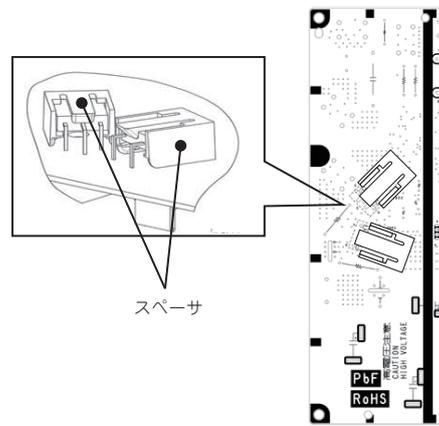


図5. インバータ基板裏側 (半田面側)

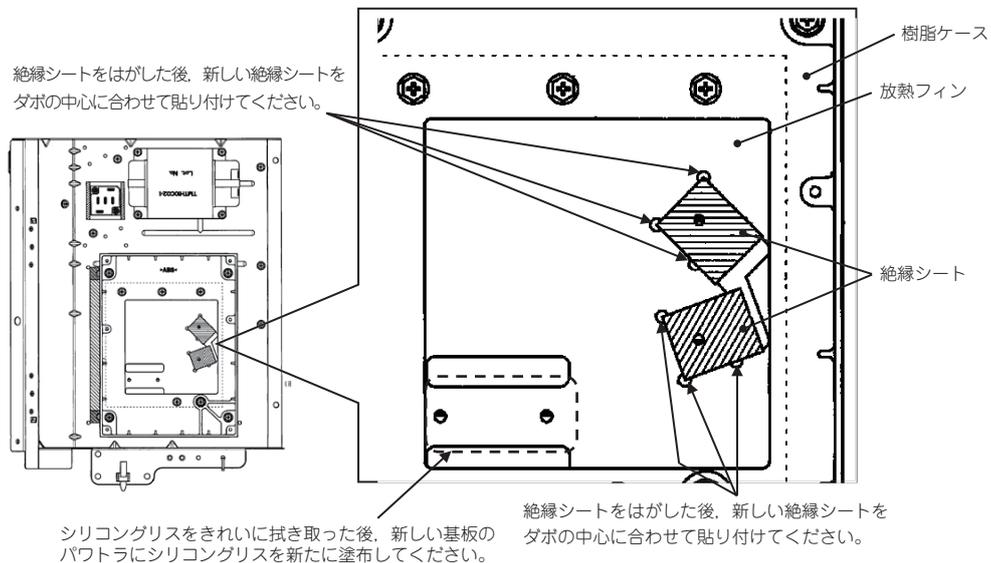


図4. インバータ基板を取外した状態

名称	記号	締付順序	締付位置	締付トルク	備考
パワトラ	IC2	1	(A)	0.16~0.23 N・m	仮締め
		2	(B)		
		3	(A)	0.59~0.78 N・m	本締め
		4	(B)		
トランジスタ	Q802	-	-	0.6~0.8 N・m	-
ダイオード	D801	-	-	0.39~0.59 N・m	-

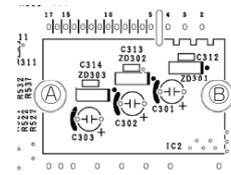


図6. 推奨締付トルクおよびパワトラ (IC2) 締付位置

## ●ディップスイッチ設定表

### (1) 制御基板

#### (a) FDCZP805H, 805HK

スイッチ	項目		出荷時	内容			
SW3-1	デフロスト設定切換	通常/寒冷地	OFF	OFF	通常	ON	寒冷地
SW3-2	防雪ファン制御	無/有	OFF	OFF	無	ON	有
SW3-3	機種切換	ヒーボン/冷専	OFF	OFF	ヒーボン	ON	冷専
SW3-4	—	—	OFF	—	—	—	—
SW4-1	機種切換	国内/輸出	表1参照	OFF	国内	ON	輸出
SW4-2	機種切換	三相/単相	—	OFF	三相	ON	単相
SW4-3	—	—	OFF	—	—	—	—
SW4-4	—	—	OFF	—	—	—	—
SW5-1	—	—	OFF	—	—	—	—
SW5-2	機種切換	ハイパー/エクシード	表1参照	OFF	ハイパー	ON	エクシード
SW5-3	試運転	通常/試運転	OFF	OFF	通常	ON	試運転
SW5-4	冷房/暖房試運転切換	冷房/暖房	OFF	OFF	冷房	ON	暖房
SW7-1	既設配管流用	通常/既設配管	OFF	OFF	通常	ON	既設配管
SW7-2	—	—	OFF	—	—	—	—
SW7-3	—	—	OFF	—	—	—	—
SW8-1	既設配管洗浄運転	通常/洗浄運転	OFF	OFF	通常	ON	洗浄運転
SW8-2	—	—	OFF	—	—	—	—
SW8-3	—	—	OFF	—	—	—	—
SW9	ポンプダウン制御	通常/ポンプダウン	OFF	OFF	通常	ON	ポンプダウン

表1：室外ユニット機種切換

スイッチ	P805H	P805HK
SW3-3	OFF	OFF
SW4-1	OFF	OFF
SW4-2	OFF	ON
SW5-2	ON	ON

#### (b) FDCZP1125H, 1405H, 1605H

スイッチ	項目		出荷時	内容			
SW1	ポンプダウン制御	通常/ポンプダウン	OFF	OFF	通常	ON	ポンプダウン
J5	—		—	—	—	—	—
J6	—		—	—	—	—	—
J7	—		—	—	—	—	—
JSW1-1	—		表1参照	—			
JSW1-2	室外ユニット機種容量切換			—			
JSW1-3	—			—			
JSW1-4	機種切換	ヒーボン/冷専		OFF	ヒーボン	ON	冷専
SW3-1	デフロスト設定切換	通常/寒冷地	OFF	OFF	通常	ON	寒冷地
SW3-2	防雪ファン制御	無/有	OFF	OFF	無	ON	有
SW3-3	試運転	通常/試運転	OFF	OFF	通常	ON	試運転
SW3-4	冷房/暖房試運転切換	冷房/暖房	OFF	OFF	冷房	ON	暖房
SW4-1	機種切換	国内/輸出	表1参照	OFF	国内	ON	輸出
SW4-2	機種切換	三相/単相	—	OFF	三相	ON	単相
SW4-3	—	—	OFF	—	—	—	—
SW4-4	機種切換	ハイパー/エクシード	表1参照	OFF	ハイパー	ON	エクシード
SW5-1	既設配管流用	通常/既設配管	OFF	OFF	通常	ON	既設配管
SW5-2	既設配管洗浄運転	通常/洗浄運転	OFF	OFF	通常	ON	洗浄運転
SW5-3	—	—	OFF	—	—	—	—
SW5-4	—	—	OFF	—	—	—	—
J5(SW7-1)	長配管対応	通常/長配管	OFF	OFF	通常	ON	長配管
J6(SW7-2)	—	—	OFF	—	—	—	—
J7(SW7-3)	サイレントモード切換	通常/騒音規制対応	OFF	OFF	通常	ON	騒音規制対応

表1：室外ユニット機種切換

スイッチ	P1125H	P1405H	P1605H
JSW1-1	OFF	ON	OFF
JSW1-2	OFF	OFF	ON
JSW1-3	OFF	OFF	OFF
JSW1-4	OFF	OFF	OFF
SW4-1	OFF	OFF	OFF
SW4-2	OFF	OFF	OFF
SW4-3	OFF	OFF	OFF
SW4-4	ON	ON	ON

### (2) インバータ基板

スイッチ	P805H	P805HK	P1125H~1605H
JSW10-1	OFF	OFF	OFF
JSW10-2	OFF	OFF	OFF
JSW10-3	OFF	OFF	OFF
JSW10-4	OFF	OFF	OFF
JSW11-1	OFF	ON	ON
JSW11-2	OFF	OFF	OFF
JSW11-3	ON	ON	OFF
JSW11-4	OFF	OFF	OFF

## 15.5 リモコンによる異常運転データの確認

異常発生時の運転データを記憶し、リモコンから異常運転データの確認ができます。

### (1) RC-DX2, 3リモコンの場合

[操作手順]

①TOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「サービス・メンテナンス」→「サービスパスワード入力」→「点検表示」→「異常時運転データ表示」の順に選択します。

②リモコンに接続されている室内ユニットが1台の場合は、以下の表示となります。

1. 異常がある場合：「データ読み中」の後、異常時の運転データが表示されます。

表示内容

- ・異常コード
- ・番号およびデータ項目

2. 異常がない場合：「異常なし」を表示し、本モードを終了します。

③リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合は、以下の表示となります。

1. 異常がある場合：「室内機選択」画面で対象室内ユニットを選択→「データ読み中」の後、異常時の運転データが表示されます。

表示内容

- ・室内機 No.
- ・異常コード
- ・番号およびデータ項目

2. 異常がない場合：「異常なし」を表示し、本モードを終了します。

注(1)「室内機選択」画面で接続台数が1ページを超える場合は、「次ページ」を選択してください。

④ **運転/停止** ボタンを押すと、TOP画面に戻ります。

◎**設定の途中で、「戻る」をタッチすると、一回前の設定画面に戻ります。**

注(1) 異常運転データの確認は、リモコン2台で室内ユニットを運転する場合、親リモコンのみ操作可能です。(子リモコンからの操作はできません。)

### ■異常運転データ(機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。)

圧縮機保護ステータスNo. 33 (左記異常運転データ) 詳細

番号	データ項目	表示内容	No
01	運転モード	正常	"0"
02	設定温度	T D 保護	"1"
03	吸込温度	T D 異常	"2"
05	室内熱交温度(Thi-R1)	C T セーフ	"3"
06	室内熱交温度(Thi-R2)	高圧保護	"4"
07	室内熱交温度(Thi-R3)	高圧異常	"5"
08	室内ファン速調	低圧保護	"6"
09	要求周波数	低圧異常	"7"
10	アンサー周波数	アンチフロストまたは露付き保護	"8"
11	室内膨張弁開度	カレントカット	"9"
12	室内運転積算時間	パワトラ保護	"10"
13	吹出温度	パワトラ異常(過熱)	"11"
21	外気温度	圧力比制御	"12"
22	室外熱交温度(Tho-R1)	出力カットオフ(ノイズ停止)	"13"
23	室外熱交温度(Tho-R2)	露付き保護	"14"
24	圧縮機周波数	2次C T セーフ	"15"
25	高圧	圧縮機ロック停止または脱調停止	"16"
26	低圧	起動不良停止	"17"
27	吐出管温度		
28	ドーム下温度		
29	CT電流		
30	SH制御値		
31	実SH		
32	実TDSH		
33	圧縮機保護ステータスNo.		
34	室外ファン速調		
35	63H1ON/OFF		
36	デフロスト ON/OFF		
37	圧縮機運転積算時間		
38	室外膨張弁開度(EEVC)		
39	室外膨張弁開度(EEVH)		

### ■メンテナンスコード

コード	内容
M1	お掃除パネル異常
M9	ドレンポンプ過電流検知

## (2) RC-D4Gリモコンの場合

### [操作手順]

- ① **点検** ボタンを押します。表示が「運転データ表示▼」となります。
- ② **▼** ボタンを一度押して、「エラーデータ表示▲」に切換えます。
- ③ **セット** ボタンを押すと、異常運転データ表示モードに入ります。
- ④ リモコンに接続されている室内ユニットが1台の場合は、以下の表示となります。
  1. 異常履歴がある場合：エラーコードと「データ確認中」を表示します。  
 「例」 「E8」 (エラーコード)  
 「データ確認中」 (データを読み込む間点滅表示)  
 続いて、データが表示されます。⑧へお進みください。
  2. 異常履歴がない場合：「異常なし」を3秒間表示し、本モードを終了します。
- ⑤ リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合は、以下の表示となります。
  1. 異常履歴がある場合：接続されている室内ユニットの中で、最も小さい室内アドレス番号とその室内ユニットのエラーコードを表示します。  
 「例」 「E8」「内000▲」 (点滅)
  2. 異常履歴がない場合：アドレス番号表示のみとなります。
- ⑥ **▲ ▼** ボタンで、表示したい室内アドレスを選びます。
- ⑦ **セット** により確定します。(室内アドレスが点滅から点灯に変わります。)  
 「例」 「E8」  
 「内000」 (選択した室内アドレスを2秒間点灯) → 「E8」  
 「データ確認中」 (データを読み込む間点滅表示) 続いて、データが表示されます。  
 異常履歴がない室内ユニットを選択した場合は、「異常なし」を3秒間表示し、室内アドレス表示に戻ります。
- ⑧ **▲ ▼** ボタンにより、異常運転データを確認できます。データ項目は下表をご覧ください。  
 注(1) 機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。
- ⑨ 室内ユニットを変更する場合は、**エアコンNo.** ボタンを押すことにより、室内ユニット選択表示に戻ります。
- ⑩ **運転/停止** ボタンを押すと、終了します。

◎設定の途中で、**リセット** ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

注(1) 異常運転データの確認は、リモコン2台で室内ユニットを運転する場合、親リモコンのみ操作可能です。(子リモコンからの操作はできません。)

## ■異常運転データ

圧縮機保護ステータスNo. 33 (左記異常運転データ) 詳細

番号	データ項目	表示内容	No
01	運転モード	正常	"0"
02	設定温度	T D保護	"1"
03	吸込温度	T D異常	"2"
05	室内熱交温度 (ThI-R1)	C Tセーフ	"3"
06	室内熱交温度 (ThI-R2)	高圧保護	"4"
07	室内熱交温度 (ThI-R3)	高圧異常	"5"
08	室内ファン速調	低圧保護	"6"
09	要求周波数	低圧異常	"7"
10	アンサー周波数	アンチフロストまたは露付き保護	"8"
11	室内膨張弁開度	カレントカット	"9"
12	室内運転積算時間	パワトラ保護	"10"
21	外気温度	パワトラ異常 (過熱)	"11"
22	室外熱交温度 (Tho-R1)	圧力比制御	"12"
23	室外熱交温度 (Tho-R2)	出力カットオフ (ノイズ停止)	"13"
24	圧縮機周波数	露付き保護	"14"
25	高圧	2次C Tセーフ	"15"
26	低圧	圧縮機ロック停止または脱調停止	"16"
27	吐出管温度	起動不良停止	"17"
28	ドーム下温度		
29	CT電流		
30	SH制御値		
31	実SH		
32	実TDSH		
33	圧縮機保護ステータスNo.		
34	室外ファン速調		
35	63H1 ON/OFF		
36	デフロスト ON/OFF		
37	圧縮機運転積算時間		
38	室外膨張弁開度 (EEVC)		
39	室外膨張弁開度 (EEVH)		

圧縮機回転数保護制御内容  
異常検知制御内容

【リモコン運転データ表示】  
・解除時まで表示  
・重複時は、表示データの一番若い番号を表示する。

#### 【共通事項】

**暖房時**：室内回転数ダウン信号による保護制御の場合は「4」を表示する。

**冷房・除湿時**：室内回転数ダウン信号による保護制御の場合は「8」を表示する。

## 15.6 ワイヤレス仕様機の点検表示

### (1) 点検表示, フィルタサインについて

(a) タイマー/点検表示灯（黄色）が短点滅（0.5秒点灯, 0.5秒消灯）したとき。

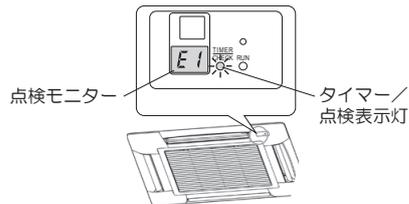
注(1) エアコンに異常が起きています。

タイマー/点検表示灯の点滅（0.5秒点灯, 0.5秒消灯）と同時にエアコンは停止します。

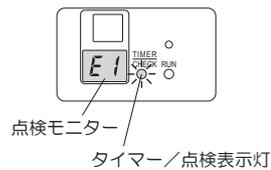
#### (i) FDTZ, FDTSZ, FDRZ, FDUZ, FDEZ, FDESZシリーズの場合

- 1) 本体の点検モニター部にアドレスNo.および点検コードが表示されます。
- 2) モニター表示は, 表示時間が経過すると消灯します。
- 3) モニター部に表示がでていない場合は, リモコン操作またはバックアップスイッチを押してください。

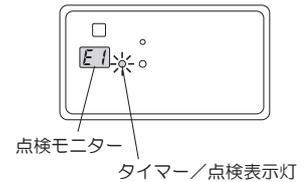
#### • FDTZシリーズ



#### • FDTSZ, FDRZ, FDUZ, FDESZシリーズ

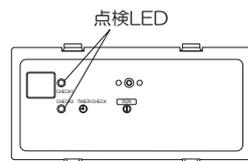


#### • FDEZシリーズ



#### (ii) FDTWZシリーズの場合

点検LED表示“CHECK1” / “CHECK2” LEDがエラーコードの“+の位” / “-の位”だけ点滅（10秒あたり）します。



(b) タイマー/点検表示灯（黄色）が長点滅（2秒点灯, 1秒消灯）したとき。

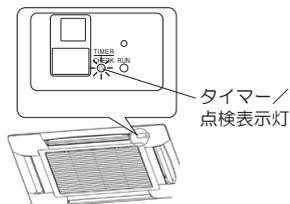
フィルタの掃除をしてください。

(i) 延べ運転時間が120時間になるとタイマー/点検表示灯が長点滅（2秒点灯, 1秒消灯）します。

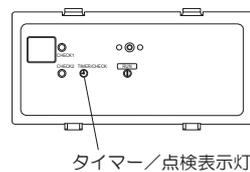
(ii) フィルタの掃除完了後, リモコンのフィルタボタンを押してリセットしてください。

(フィルタボタンは1秒以上押し続けてください)

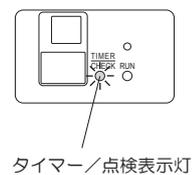
#### • FDTZシリーズ



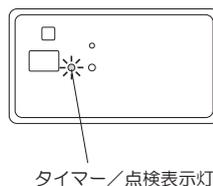
#### • FDTWZシリーズ



#### • FDTSZ, FDRZ, FDUZ, FDESZシリーズ



#### • FDEZシリーズ



## (2) バックアップスイッチの使い方

リモコンの電池切れ、紛失および故障時に本体表示部のバックアップスイッチで応急的にエアコンの運転/停止ができます。

### ■設定内容

運転モード……自動	風量切換……急
タイマー……連続	設定温度……23℃
オートスイング…停止（水平）	

### 運転/停止

■バックアップスイッチを押してから2秒以内にスイッチから手を離してください。

運転を開始します。

■もう一度押すと停止します。

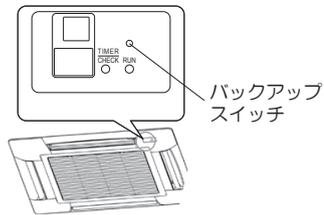
### 吸込グリルの収納

(グリル自動昇降付を使用の場合)

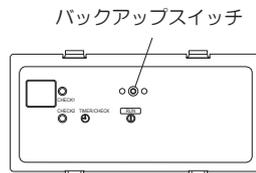
■バックアップスイッチを押してから2秒以内にスイッチから手を離してください。

吸込グリルが上昇し、エアコン本体に収納されます。

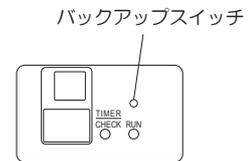
#### • FDTZシリーズ



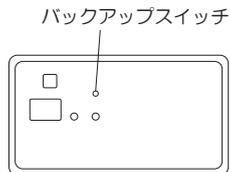
#### • FDTWZシリーズ



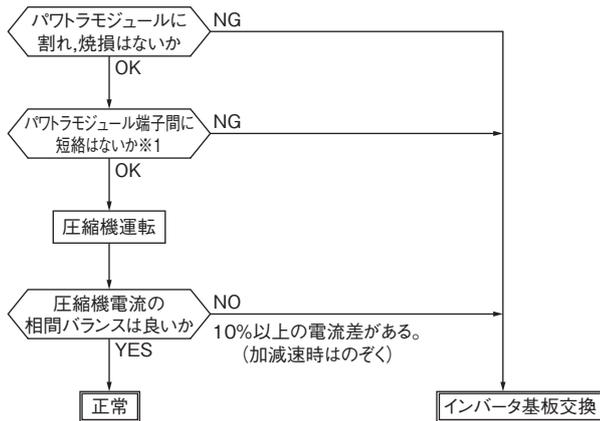
#### • FDTSZ, FDRZ, FDUZ, FDESZシリーズ



#### • FDEZシリーズ



## 15.7 パワトラモジュール（含むドライブ回路）点検方法



### ※ 1 パワトラモジュール端子短絡点検要領

圧縮機の配線を外し、テスターで短絡チェックをしてください。  
 P-U, P-V, P-W  
 N-U, N-V, N-W  
 P-N 端子間を点検  
 各端子は下記の場所がテスターを当てやすいです。  
 P：パワトラ P 端子  
 N：パワトラ N 端子  
 U：圧縮機への赤ハーネス先端  
 V：圧縮機への白ハーネス先端  
 W：圧縮機への黒または青ハーネス先端

### パワトラ短絡確認

インバータ不良判定用診断チェッカーを持っていないとき、パワトラ部品の端子間を測定しパワトラ不良かどうか診断する。

テスタ		正常な値 (Ω)
端子(+)	端子(-)	FDCZP805~1605
P	N	数M
N	P	
P	U	数M
P	V	
P	W	
N	U	数M
N	V	
N	W	
U	P	数M
V	P	
W	P	
U	N	数M
V	N	
W	N	

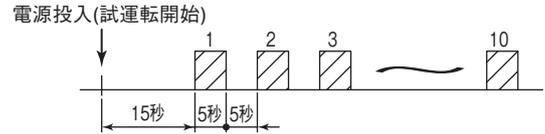
測定値が0~数kΩの場合は、素子が破損している可能性があるのでパワトラ部品を交換してください。

## ※2 インバータ不良判定用診断チェッカ

### ◆チェック要領

- (1) チェッカのセット手順
  - (a) 電源をOFFにします。(ブレーカOFF)
  - (b) 圧縮機のターミナルカバーを外して接続線(U, V, W)を外します。
  - (c) チェッカの配線(U:赤, V:白, W:黒)を外した接続配線端子部に接続します。
- (2) 判定運転方法
  - (a) インバータ基板のスイッチJSW10-4をONし電源を投入します。
  - (b) 電源投入15秒後, LEDが5秒間点滅/消灯を10回繰り返します。
  - (c) 6個のLEDの点滅状態を確認します。
  - (d) LEDの点滅状態により判定

LEDの点滅状態	6個のLEDが同じ点滅をした場合	6個のLEDが消灯または数個のLED点滅の場合
インバータ	正常	不良

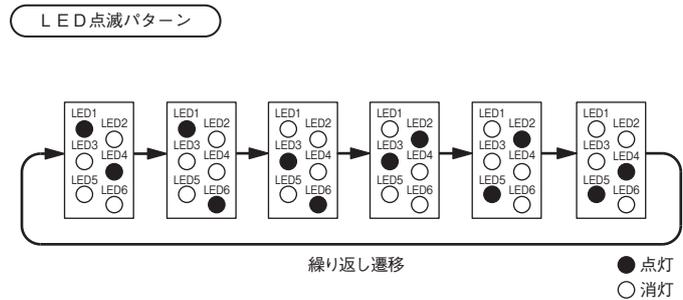
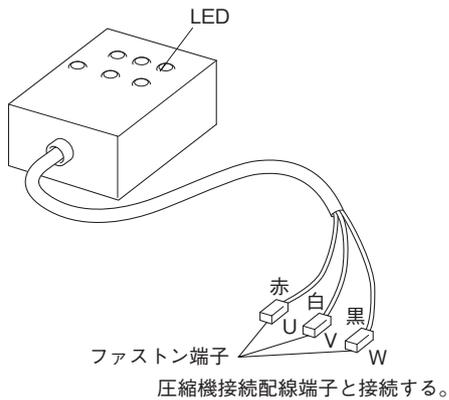


- (e) 作業終了後は、インバータ基板のスイッチJSW10-4を  
かならずOFFしてください。

注(1) 斜線部の動作区間は下図のLED点滅パターンを繰り返します。

### ■インバータ不良判定用診断チェッカ

品番	SA01927	重工冷熱扱
----	---------	-------

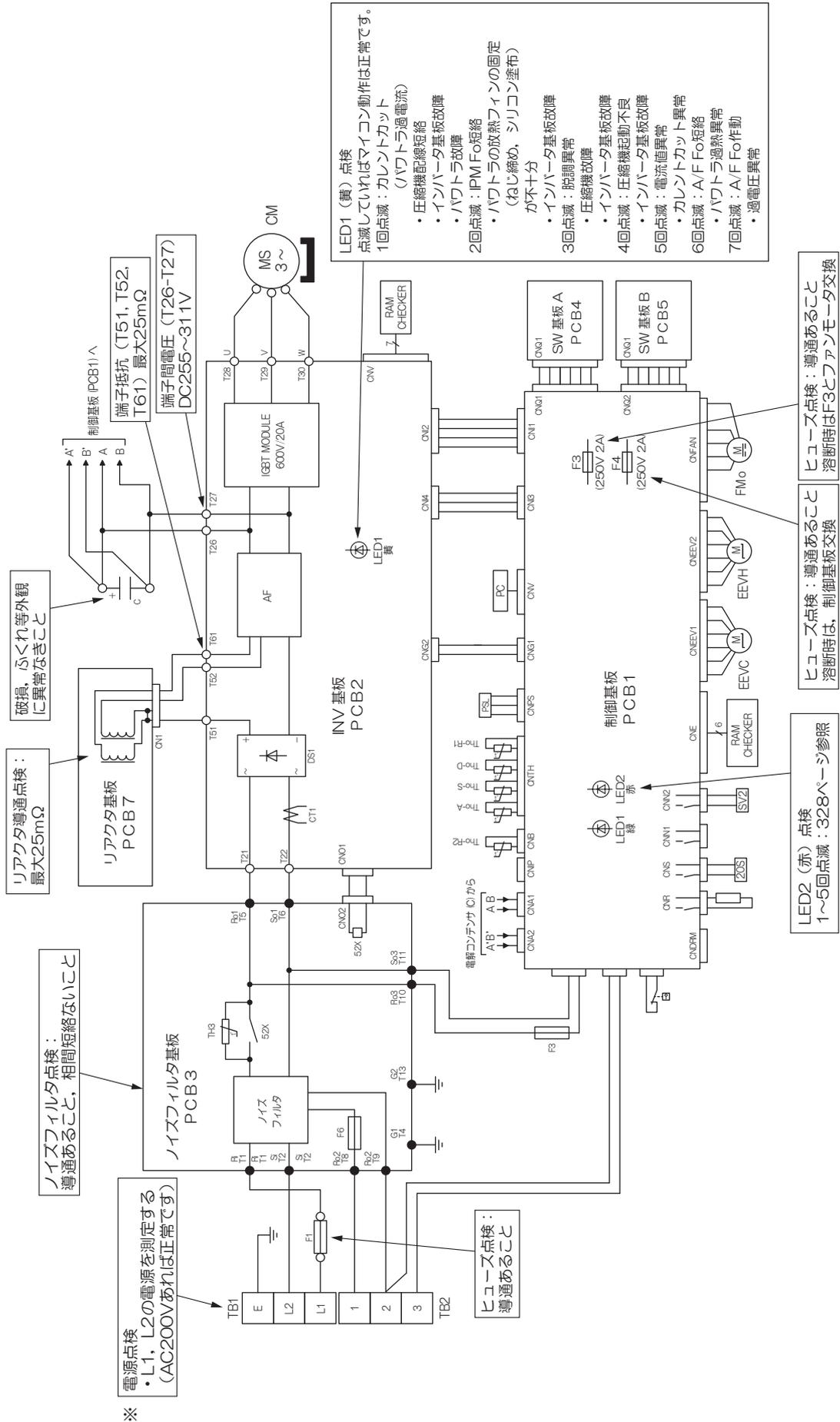


# 15.8 室外コントローラ故障診断回路図

◆FDCZP805HK

★室外ユニット点検ポイント

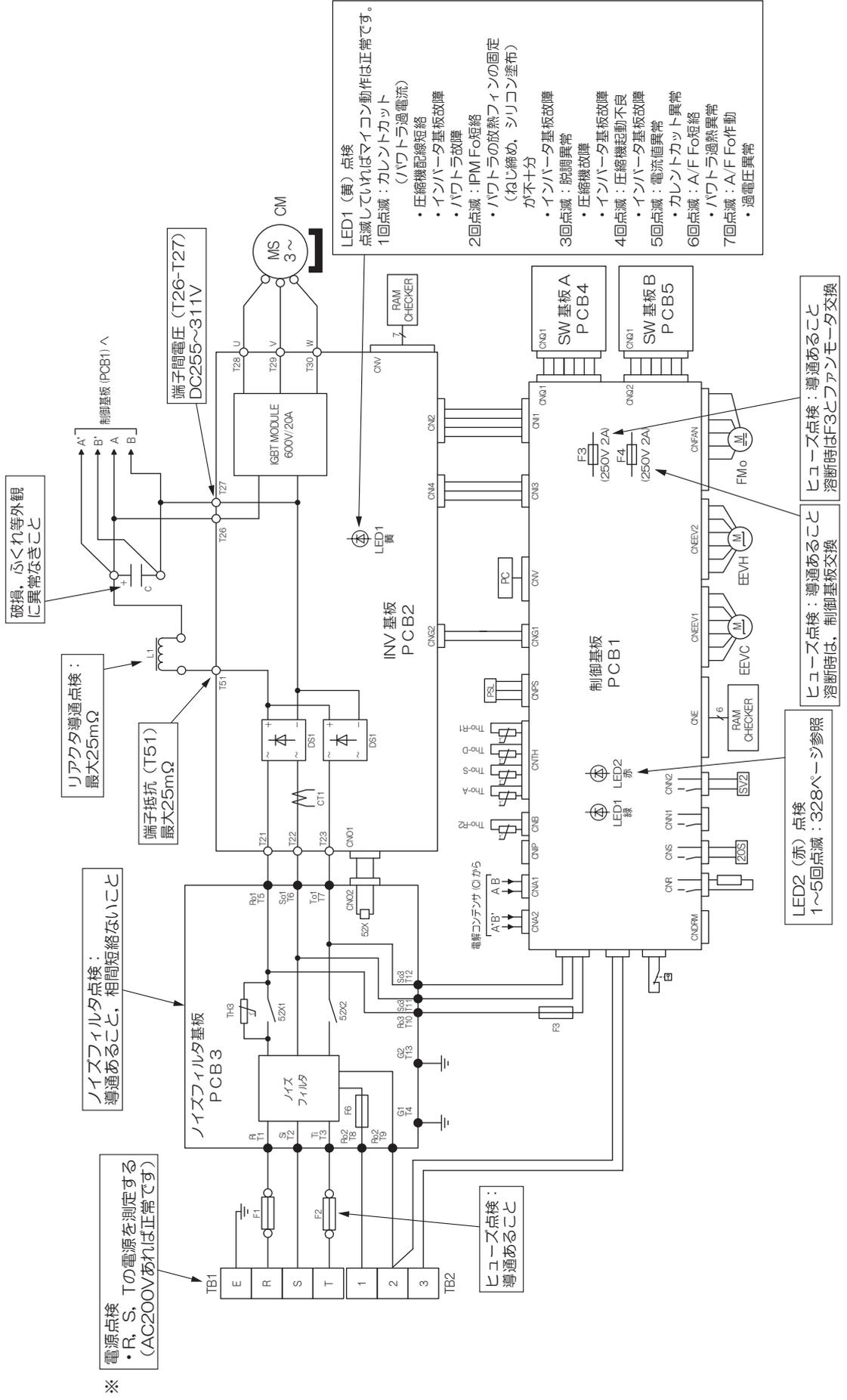
▷ ※印は電源ONにてチェックしてください。



◆FDCZP805H

★室外ユニット点検ポイント

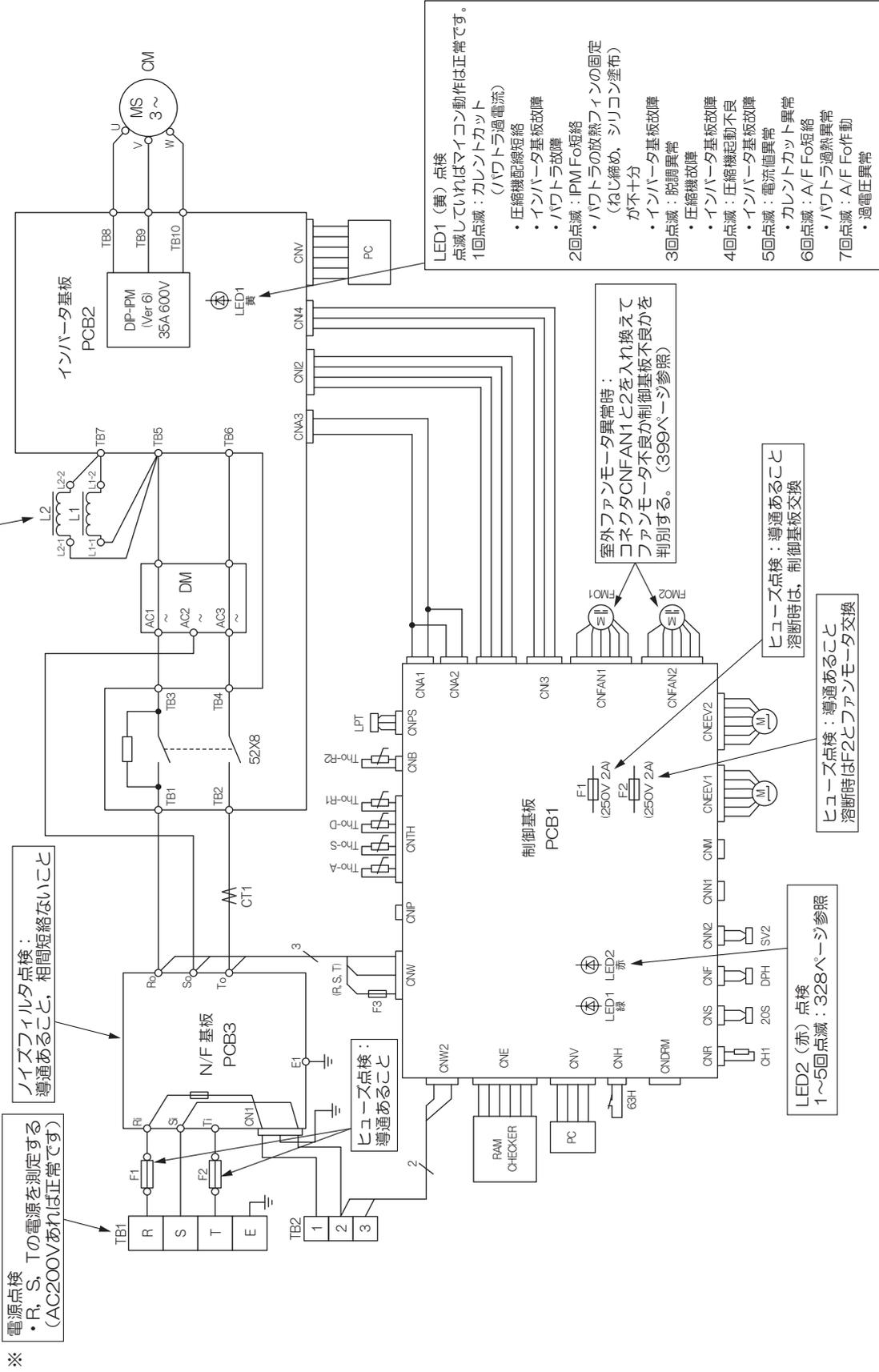
▷ ※印は電源ONにてチェックしてください。



◆FDCZP1125H, 1405H, 1605H

★室外ユニット点検ポイント

▷ ※印は電源ONにてチェックしてください。



## 15.9 故障診断フロー

### (1) 故障内容一覧

リモコン表示	故障内容	記載ページ
なし	運転するが、冷えない。	353
なし	運転するが、暖まらない。	354
なし	漏電ブレーカ作動	355
なし	音・振動が非常に大きい(その1)	356
なし	音・振動が非常に大きい(その2)	357
なし	音・振動が非常に大きい(その3)	358
なし	ルーバーマータが回らない	359
なし	電源系統異常(室外・室内基板への電源供給)	360・361
なし	電源系統異常(リモコンへの電源供給)	362・363
なし	ラクリーナパネルが動かない	364
内機確認中	室内機点検(リモコン1台接続または2台接続時)	365
内機確認中	室内機点検(リモコン3台以上接続)	366
内機確認中	内機確認中	367
無表示	無表示	368
E1	室内・リモコン通信回路不良	369
E5	運転中に室内外通信異常	370・371
E6	室内熱交温度センサ不良	372
E7	吸込温度センサ不良	373
E8	暖房過負荷運転	374
E9	ドレン不良	375
E10	1リモコン複数台制御時接続台数オーバー(17台以上)	376
E11	リモコン通信アドレス設定不良	377
E14	親子室内ユニット間通信異常	378
E16	室内ファンモータ不良 (FDESZ シリーズは除く)	379
E19	運転モード設定不良	380
E20	室内ファンモータ回転不良 (FDESZ シリーズは除く)	381
E21	ラクリーナパネル収納不良・パネルスイッチ動作不良 (FDTZ シリーズのみ)	382
E28	リモコン温度センサ不良	383
E34	電源欠相(三相機のみ)	384・385
E35	冷房過負荷運転	386
E36	吐出管温度異常	387
E37	室外熱交温度センサ不良	388
E38	外気温度センサ不良	389
E39	吐出管温度センサ不良	390
E40	63H1作動	391
E41	パワートランジスタ電源電圧低下	392
E42	カレントカット(その1, 2)	393・394
E45	インバータ通信異常	395・396
E47	AF 異常(FDCZP805HK形のみ)	397
E47	AF 異常(FDCZP805~1605H形のみ)	398
E48	室外ファンモータ不良	399
E49	低圧圧力異常または低圧圧力センサ不良 (その1, 2)	400・401
E51	インバータ・室外ファンモータ異常	402
E53	吸入管温度センサ不良	403
E54	低圧圧力センサ不良	404
E57	冷媒量不足または操作弁閉検出	405
E58	圧縮機脱調異常	406
E59	圧縮機起動異常	407・408

(2) 故障診断

表示 リモコン: なし	LED	緑	赤	内容 <b>運転するが、冷えない</b>
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種
全機種
2. 異常検出方法
3. 異常発生条件
4. 予想原因
<ul style="list-style-type: none"> <li>・圧縮機の圧縮不良</li> <li>・膨張弁動作不良</li> <li>・インバータ不良</li> </ul>

5. 故障診断と処置	
診断	処置
<p>室内ユニット送風機の運転確認 吸込-吹出温度差の測定</p> <p>機種選定ミス、熱負荷再計算願います</p> <p>冷房温度差 10~20°C以内</p> <p>設置以降の熱負荷増加</p> <p>圧縮機は運転しているか?</p> <p>リモコンで冷房・除湿・暖房の運転を操作した際「運転準備中」の表示(3秒間)がでる。</p> <p>圧縮機回転数が低い</p> <p>圧縮機回転数 (1) が100rpm以上となる場合、低回転時(40rpm)に比べ、DC電圧が数ボルト以上増加しているか。</p> <p>注(1) 測定箇所 CN1, 2の①-④ピン間</p> <p>室外コントローラによる運転制御機能の「圧縮機回転数の決定」および「圧縮機回転数による保護制御」から該当する運転制御内容を確認してください。</p> <p>内外の空気条件は、定格条件付近か?</p> <p>注(2) 外35°C内27°C DB/19°C WB</p> <p>ユニットは正常に運転し、圧縮機や各部品を保護している可能性があります。不明な点がございましたら、弊社サービスセンターにご連絡ください。</p>	<p>増設の検討が必要です。</p> <p>正常です。 (本機は、電源リセット後再スタートする場合圧縮機ドーム温度検知によりソフトスタートします。)</p> <p>圧縮機の冷凍機油保護制御が作動しています。制御内容は、マイコン制御機能の圧縮機始動制御をご覧ください。</p> <p>異常検出制御により圧縮機を停止させている可能性があります。マイコン制御機能の圧縮機回転数による異常停止制御の内容をご確認ください。</p> <p>下記点検を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽度フィルタの詰り</li> <li>・軽度熱交換器の汚れ</li> <li>・軽度ショートサーキット</li> <li>・軽度冷媒量過不足</li> <li>・圧縮機圧縮不良</li> </ul> <p>該当する運転制御より原因と思われる箇所の点検を行う。</p> <p>インバータ基板不良 →交換</p> <p>下記は参考にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度のフィルタ詰り</li> <li>・重度の熱交換器の汚れ</li> <li>・重度のショートサーキット</li> <li>・重度の冷媒量過不足</li> <li>・圧縮機保護始動中</li> <li>・室内ユニットファンタップ</li> <li>・サイレントモードの有効設定</li> </ul>

注記:

表示 リモコン: なし	LED	緑	赤	内容 <b>運転するが、暖まらない</b>
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

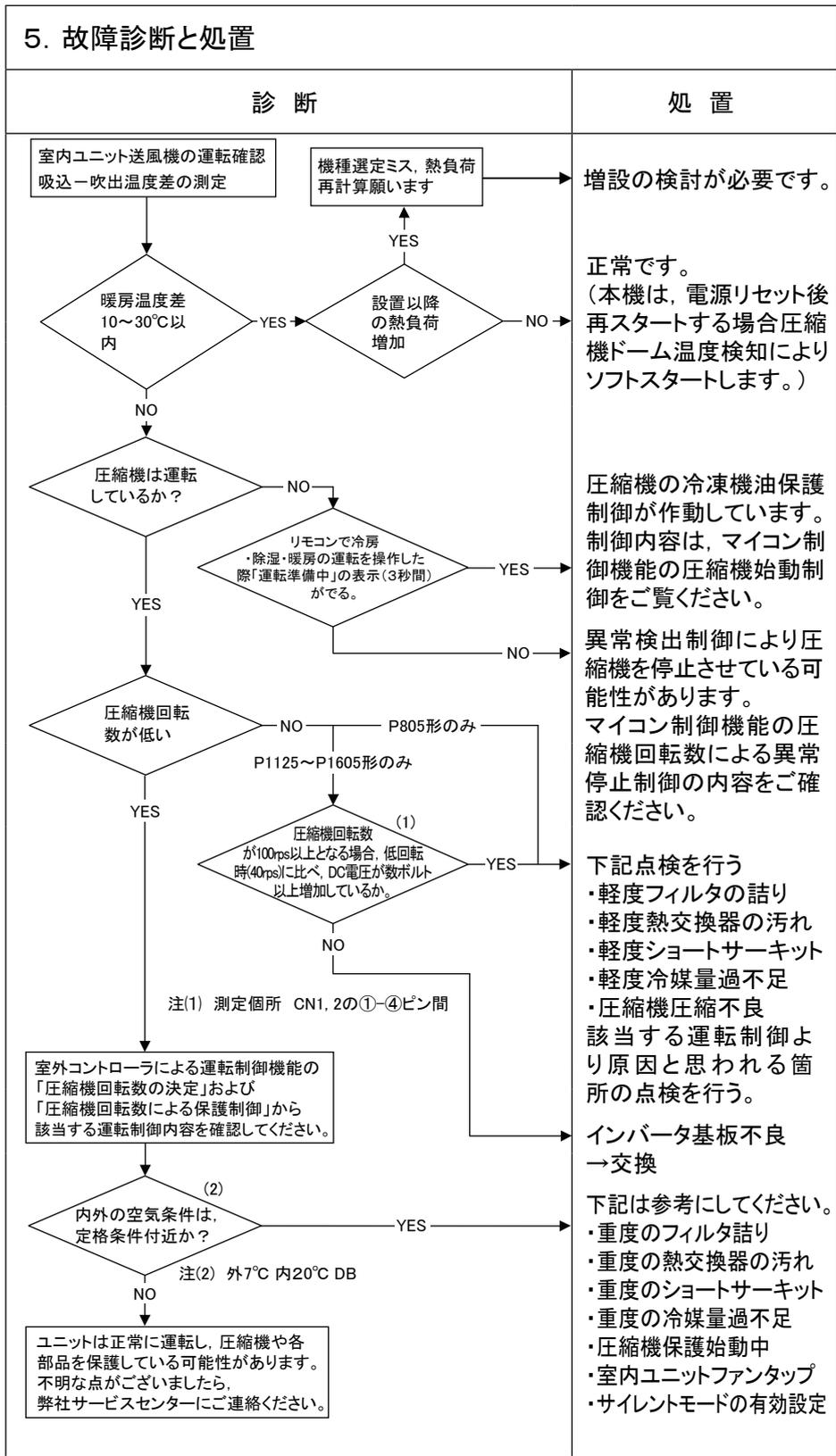
1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

- ・四方弁動作不良
- ・圧縮機の圧縮不良
- ・膨張弁動作不良
- ・インバータ不良



注記:

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 <b>漏電ブレーカ作動</b>
	室内	消灯	消灯	
	室外	消灯	消灯	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因  
・ 圧縮機不良  
・ ノイズ

5. 故障診断と処置

診 断	処 置
<pre> graph TD     A{圧縮機の絶縁抵抗,巻線抵抗はOK?} -- NO --&gt; B[圧縮機交換※]     A -- YES --&gt; C{各ハーネス類は絶縁が確保されているか? 板金などの噛み込みはないか?}     C -- NO --&gt; D[絶縁抵抗確保]     C -- YES --&gt; E[室外アース線/漏電しゃ断器チェック]     E --&gt; F[室外アース線/漏電しゃ断器チェック]     F --&gt; G[①アース線は,室外ユニットのアースねじ部から配電盤のアース端子まで,単独の線で工事してください。]     F --&gt; H[②漏電しゃ断器自体の誤作動を防止するため,高調波対応品であるか確認してください。]     </pre> <p>室外アース線/漏電しゃ断器チェック</p> <p>①アース線は,室外ユニットのアースねじ部から配電盤のアース端子まで,単独の線で工事してください。(他のアース線との接続はしないでください)</p> <p>②漏電しゃ断器自体の誤作動を防止するため,高調波対応品であるか確認してください。</p> <p>※圧縮機の絶縁抵抗について</p> <p>●据付け直後,もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合,圧縮機に冷媒が溜まることにより,絶縁抵抗が数MΩまで低下することがあります。絶縁抵抗が小さく,漏電ブレーカーが作動する場合は,以下の事項を確認ください。</p> <p>①電源を投入し,6時間程度経過後,絶縁抵抗が復帰するか確認する。電源を投入することにより,圧縮機に通電加熱を行い,圧縮機に溜まった冷媒を蒸発させます。</p> <p>②漏電ブレーカーが高調波対応品であるか確認する。本機はインバータを装備しており,漏電ブレーカーの誤動作を防止するため,高調波対応品を使用してください。</p>	

注記：

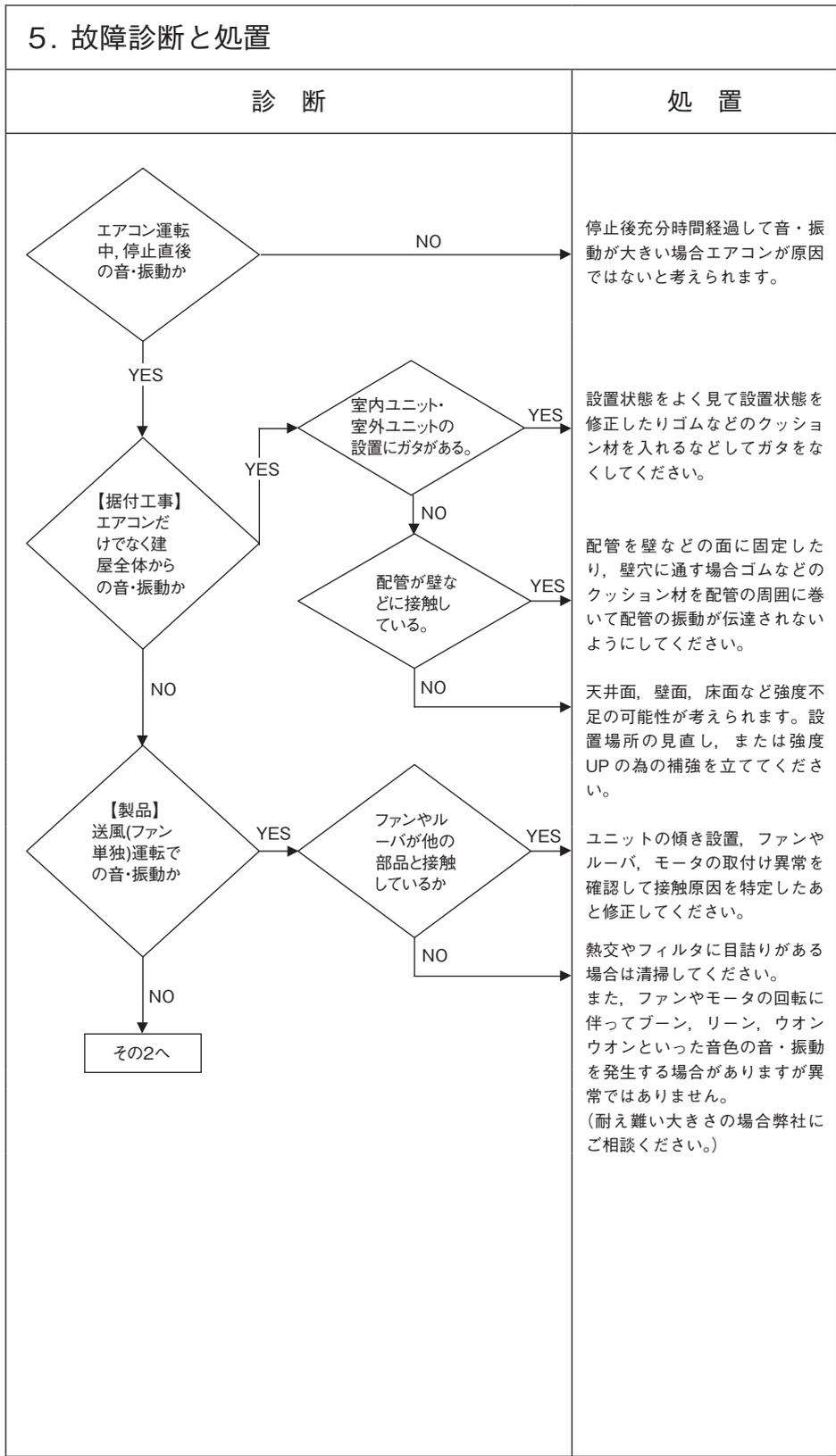
表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 音・振動が非常に大きい(その1)
	室内	—	—	
	室外	—	—	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因
- ①据付工事不良
    - ・設置時の防振対策不良
    - ・取付面の強度不足
  - ②製品不良
    - ・工場出荷前/後不良
  - ③運転調整不良
    - ・冷媒の過多/不足など



注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 音・振動が非常に大きい (その2)
	室内	—	—	
	室外	—	—	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

5. 故障診断と処置	
診断	処置
<p>注記：</p>	

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 音・振動が非常に大きい (その3)
	室内	—	—	
	室外	—	—	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

5. 故障診断と処置

診 断	処 置
<p>その2から</p> <p>【運転調整】 冷房／暖房運転が不良な状態での音・振動か</p> <p>YES</p>	<p>冷房／暖房運転で温度が適正でない不良な状態の場合、以下の懸念があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷媒の過多充填</li> <li>・冷媒の不足充填</li> <li>・空気、窒素などの混入</li> </ul> <p>このため、冷媒回収、真空乾燥、冷媒再充填を実施してください。</p> <p>※音・振動はさまざまなことが原因となって発生するため、上記の内容に当てはまらない場合があると思われれます。 その場合、以下の点を確認・メモした後弊社にご相談願います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・室内／室外ユニット</li> <li>・冷房／暖房／送風</li> <li>・起動／停止／運転中</li> <li>・運転状態 (室内外温度、圧力)</li> <li>・発生時間</li> <li>・圧縮機回転数、熱交センサ温度、電子膨張弁開度等のリモコンによる運転データ</li> <li>・音色</li> <li>・その他気付き事項</li> </ul>

注記：

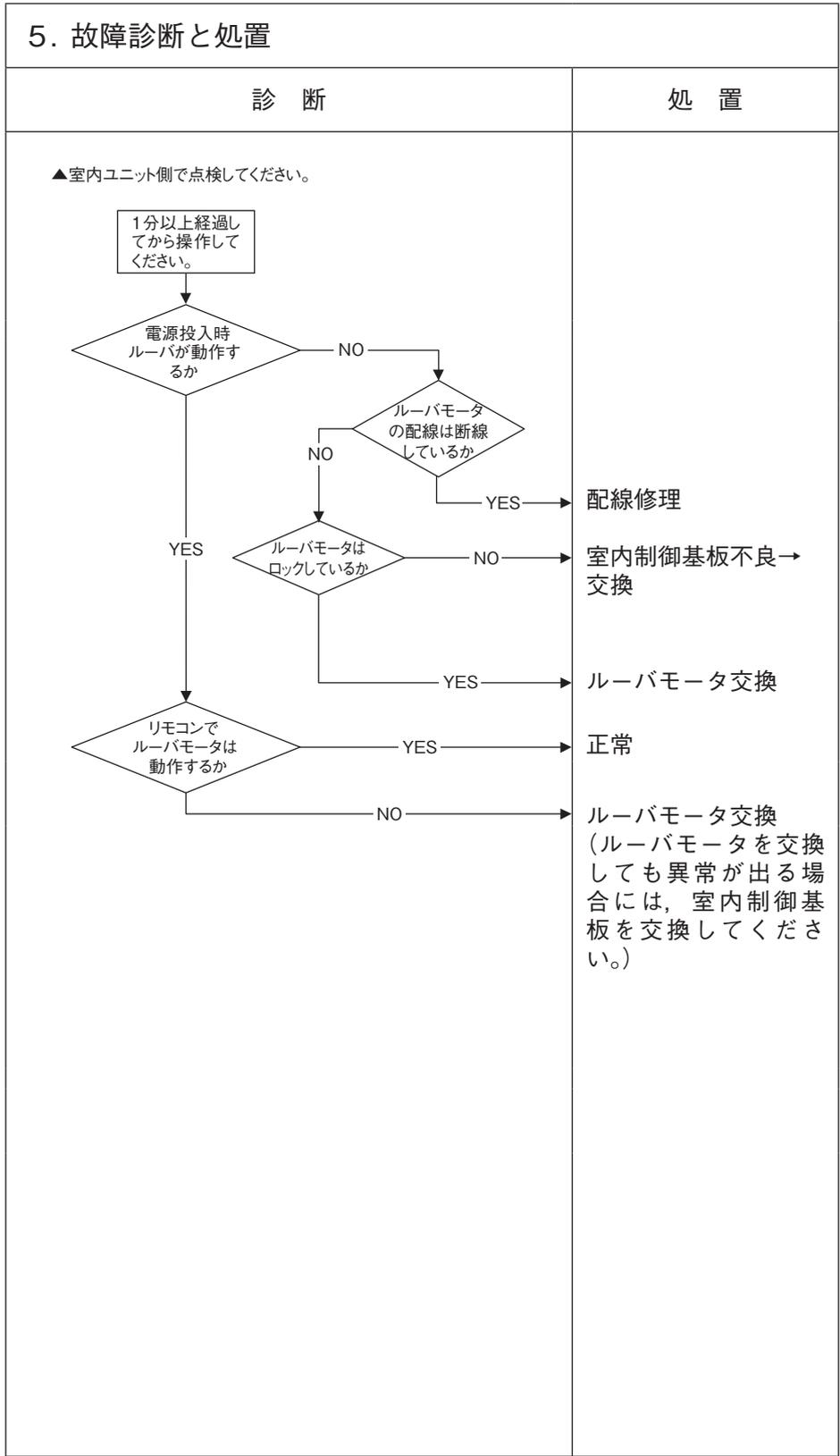
表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 ルーバモーターが回らない
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種  
オートスイング機能付機種のみ

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因
- ・ルーバモーター不良
  - ・ルーバモーター配線断線
  - ・室内制御基板不良



注記：

表示 リモコン：なし	LED	緑	赤	内容 <b>電源系統異常</b> (室内・外基板への電源供給)
	室内	消灯	消灯	
	室外	連続点滅	2回点滅	

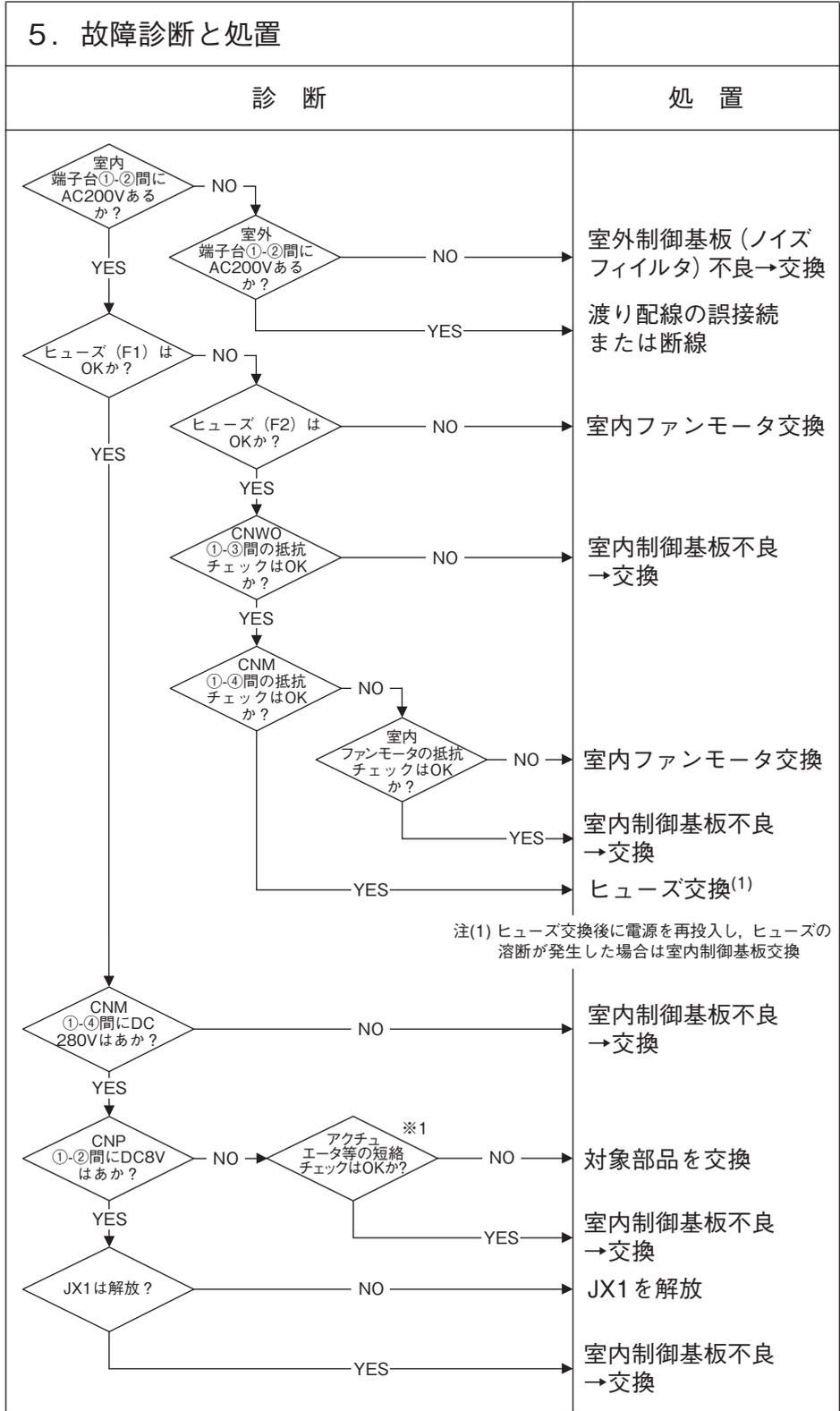
1. 対象機種  
FDTZシリーズのみ

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

- ・ 渡り配線の誤接続または断線
- ・ ヒューズの断線
- ・ 室内ファンモータ不良
- ・ 室外制御基板不良
- ・ 室内制御基板不良
- ・ アクチュエータ等不良



注記：※1 CNW0, CNW3を除くコネクタを、一個ずつ外していき電源投入後にCNP①-②間にDC8Vがあるか確認。  
 ・ YES：コネクタを外しても、CNP①-④間にDC8Vがない。  
 ・ NO：コネクタを外しても、CNP①-④間にDC8Vがある。

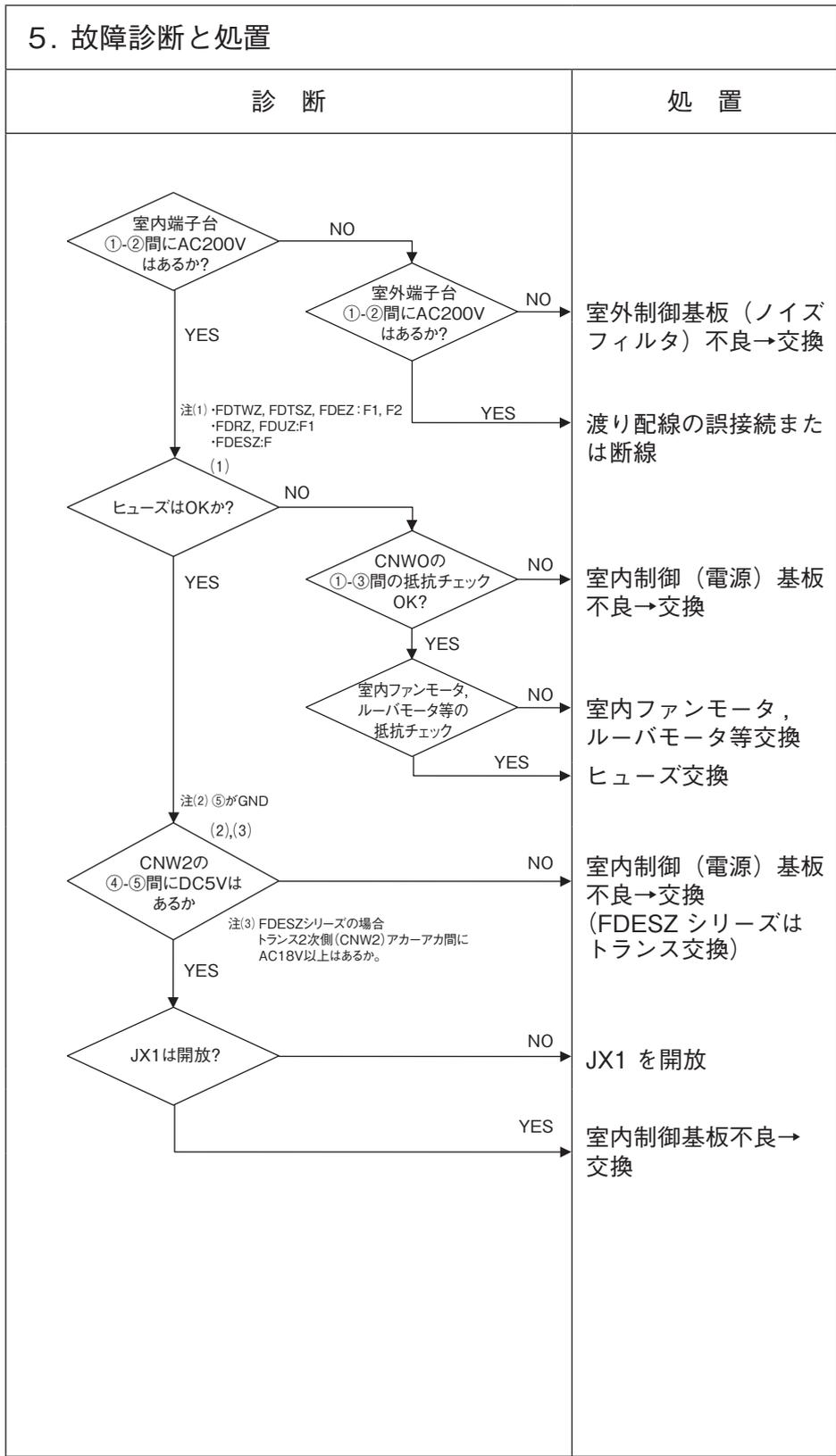
表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 <b>電源系統異常</b> (室内・外基板への電源供給)
	室内	消灯	消灯	
	室外	連続点滅	2回点滅	

1. 対象機種  
FDTZ シリーズ以外の機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因
- ・ 渡り配線の誤接続または断線
  - ・ ヒューズの断線
  - ・ 室内ファンモータ, ルーバモータ不良
  - ・ 室内電源基板不良
  - ・ ハーネス断線
  - ・ 室内制御基板不良
  - ・ 室外制御基板(ノイズフィルタ)不良
  - ・ トランスの不良



注記:

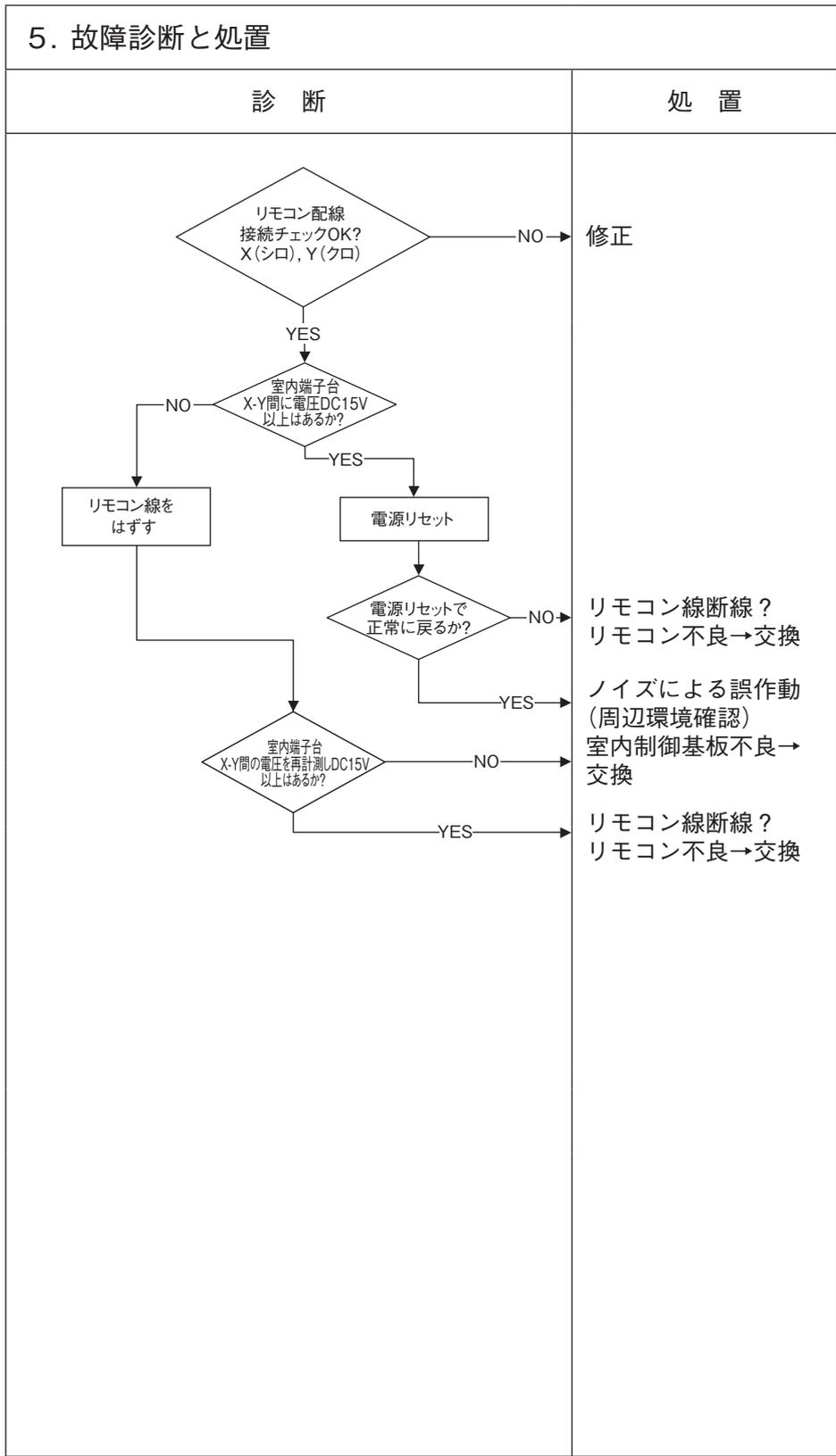
表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 <b>電源系統異常</b> (リモコンへの電源供給)
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	2回点滅	

1. 対象機種  
FDESZ シリーズ以外の機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因
- ・ リモコン線断線／短絡
  - ・ リモコン不良
  - ・ ノイズ誤動作
  - ・ ハーネス断線
  - ・ 室内制御基板不良



注記：

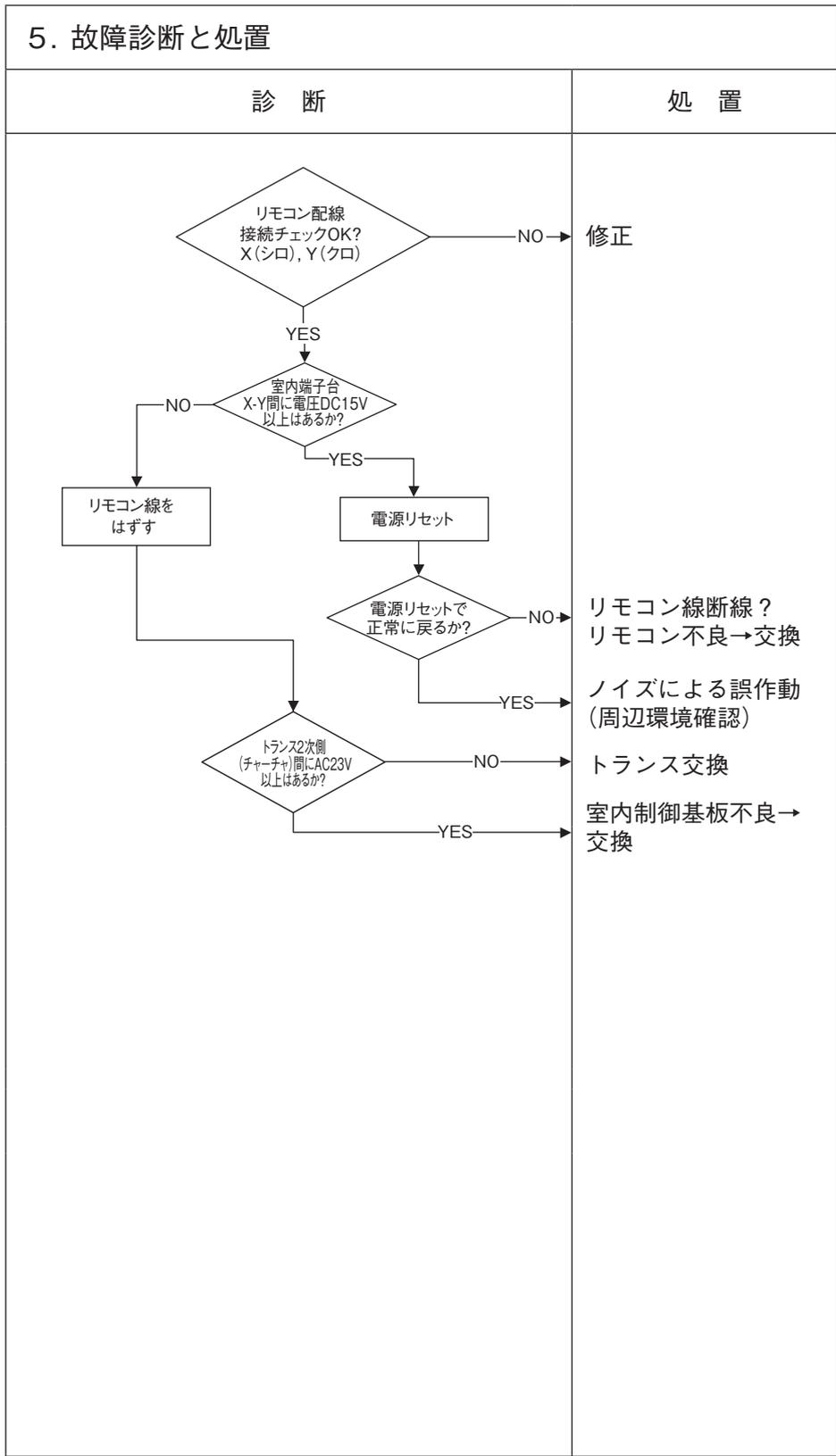
表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 <b>電源系統異常</b> (リモコンへの電源供給)
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	2回点滅	

1. 対象機種  
FDESZ シリーズのみ

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因
- ・ リモコン線断線／短絡
  - ・ リモコン不良
  - ・ ノイズ誤動作
  - ・ ハーネス断線
  - ・ 室内制御基板不良
  - ・ トランス不良



注記：

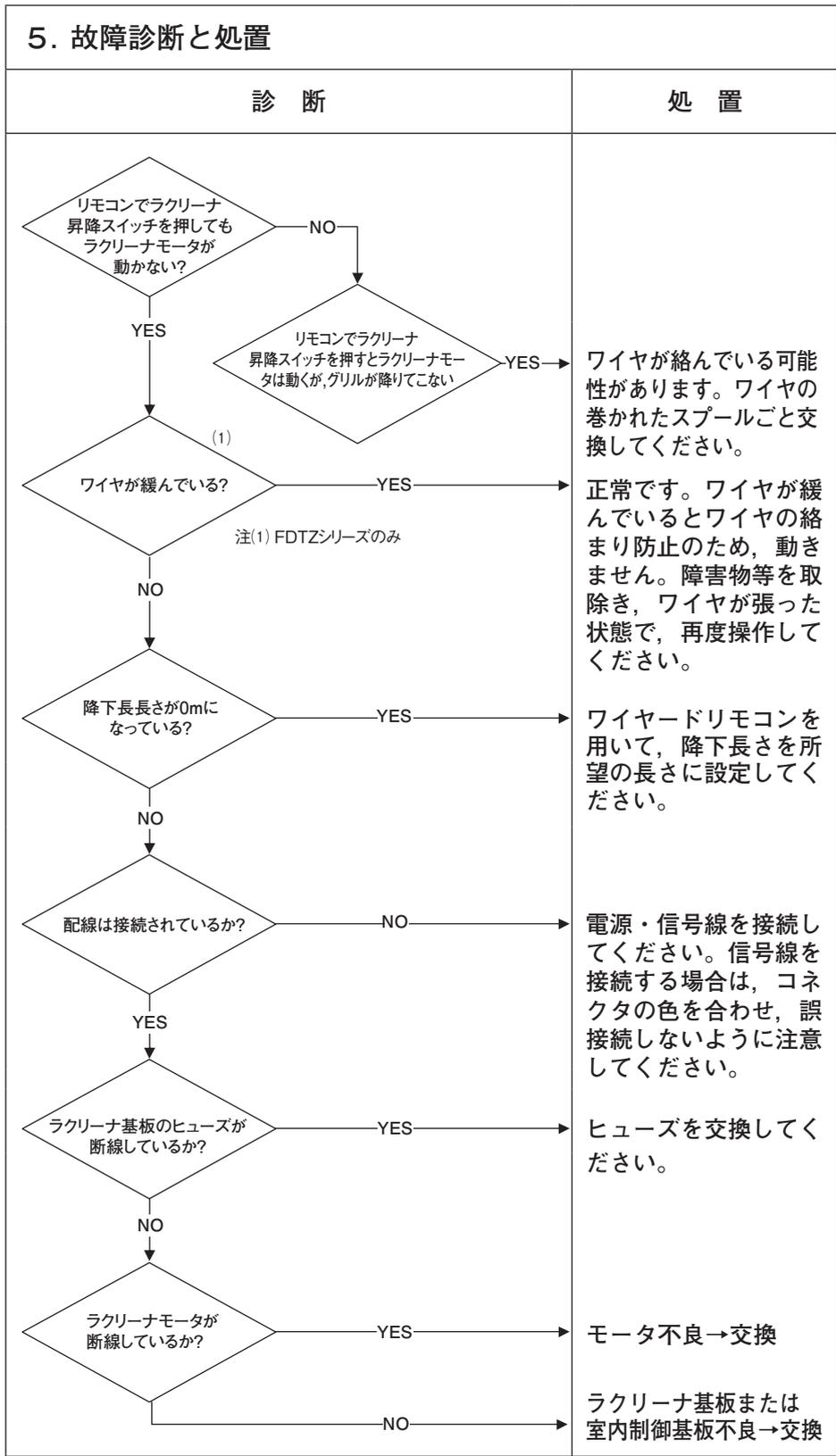
表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 <b>ラクリーナパネルが動かない</b>
	室内	消灯	消灯	
	室外	消灯	消灯	

**1. 対象機種**  
ラクリーナパネル搭載機種のみ  
(FDTZ, FDTWZ, FDEZ シリーズ)

**2. 異常検出方法**

**3. 異常発生条件**

- 4. 予想原因**
- ・ワイヤゆるみ検知機構が働いている
  - ・誤配線
  - ・誤接続
  - ・ラクリーナモータ不良
  - ・ワイヤの絡まり
  - ・ヒューズの断線
  - ・ラクリーナ基板不良
  - ・室内制御基板不良



注記：

表示 リモコン:内機確認中	LED	緑	赤	内容 <b>室内機点検表示</b> (リモコン1台接続または2台接続時)
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	2回点滅	

1. 対象機種
全機種

2. 異常検出方法
電源投入後,30分以上室内ユニットと通信できない。 (リモコン側)

3. 異常発生条件
同上

4. 予想原因
<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定不良</li> <li>・周囲環境</li> <li>・リモコン通信回路不良</li> <li>・室内制御基板不良</li> </ul>

5. 故障診断と処置	
診 断	処 置
<pre> graph TD     Q1{リモコンを2台接続?} -- YES --&gt; B1[1台を親機にもう1台を子機に修正]     Q1 -- NO --&gt; Q2{子リモコンの設定となっている?}     Q2 -- YES --&gt; A1[SW1を「親」に設定]     B1 --&gt; Q3{正常復帰?}     A1 --&gt; Q3     Q3 -- YES --&gt; R1[正常]     Q3 -- NO --&gt; Q4{複数の室内ユニットが同じアドレスになっている?}     Q4 -- YES --&gt; A2[アドレス再設定(SW2)]     Q4 -- NO --&gt; Q5{リモコン線が強電線と並走している?}     Q5 -- YES --&gt; A3[リモコン線を強電線とはなす]     Q5 -- NO --&gt; B2[内外渡り線③を外す]     B2 --&gt; B3[電源リセット]     B3 --&gt; Q6{60秒後自動的にドレンモータが動作する?}     Q6 -- YES --&gt; A4[室内制御基板不良→交換]     Q6 -- NO --&gt; A5[リモコン不良→交換]     </pre>	

注記：リモコン表示は「内機確認中」から30分後、異常検出すると「室内機点検」に表示が変わります。

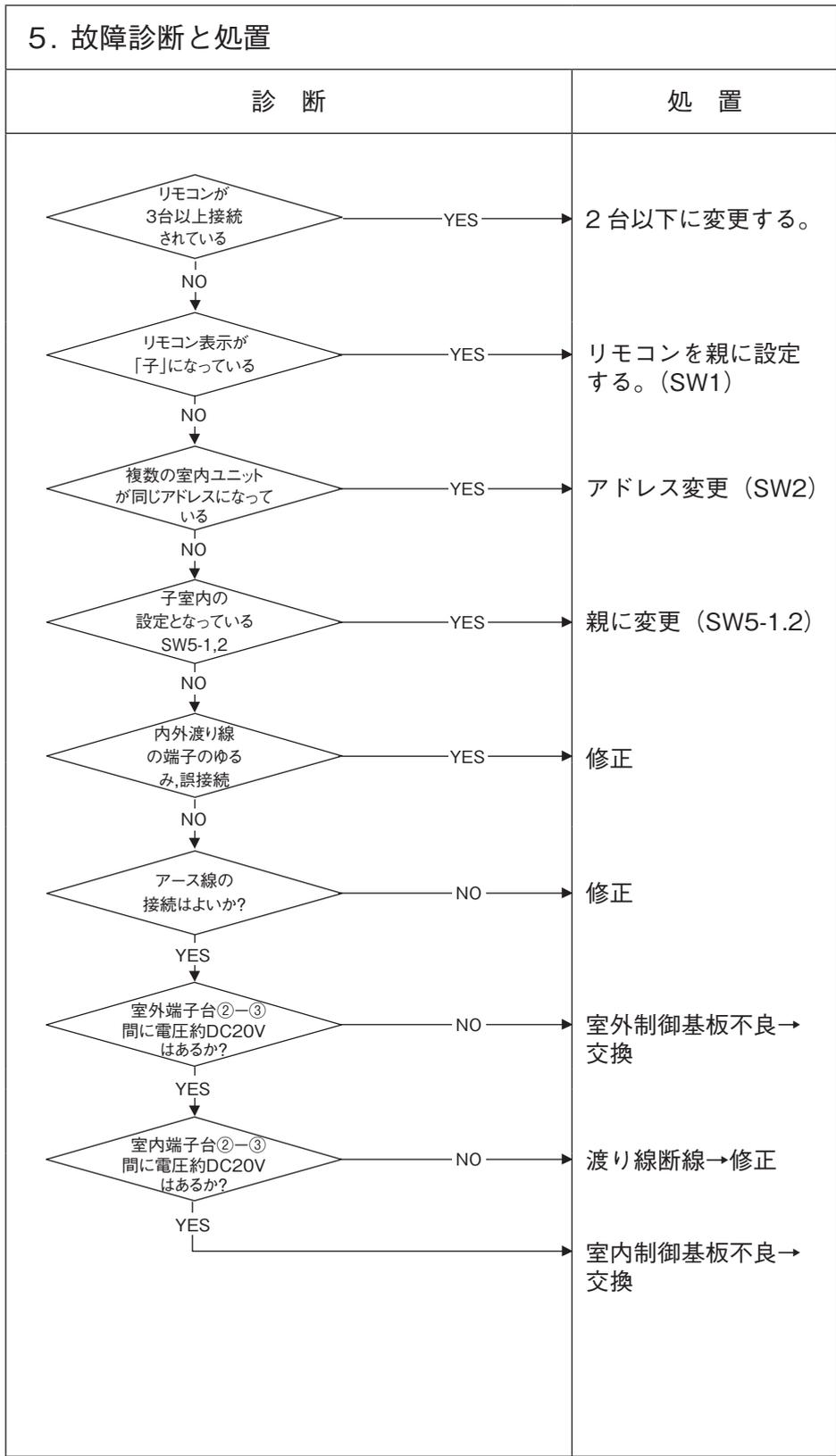
表示 リモコン:内機確認中	LED	緑	赤	内容 <b>室内機点検表示</b> (リモコン3台以上接続)
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	2回点滅	

**1. 対象機種**  
全機種

**2. 異常検出方法**  
電源投入後, 30分以上室内ユニット通信できない (リモコン側)

**3. 異常発生条件**  
同上

- 4. 予想原因**
- ・設定不良
  - ・周囲環境
  - ・リモコン通信回路不良
  - ・室外制御基板不良
  - ・室内制御基板不良



注記：リモコン表示は「内機確認中」から30分後, 異常検出すると「室内機点検」に表示が変わります。

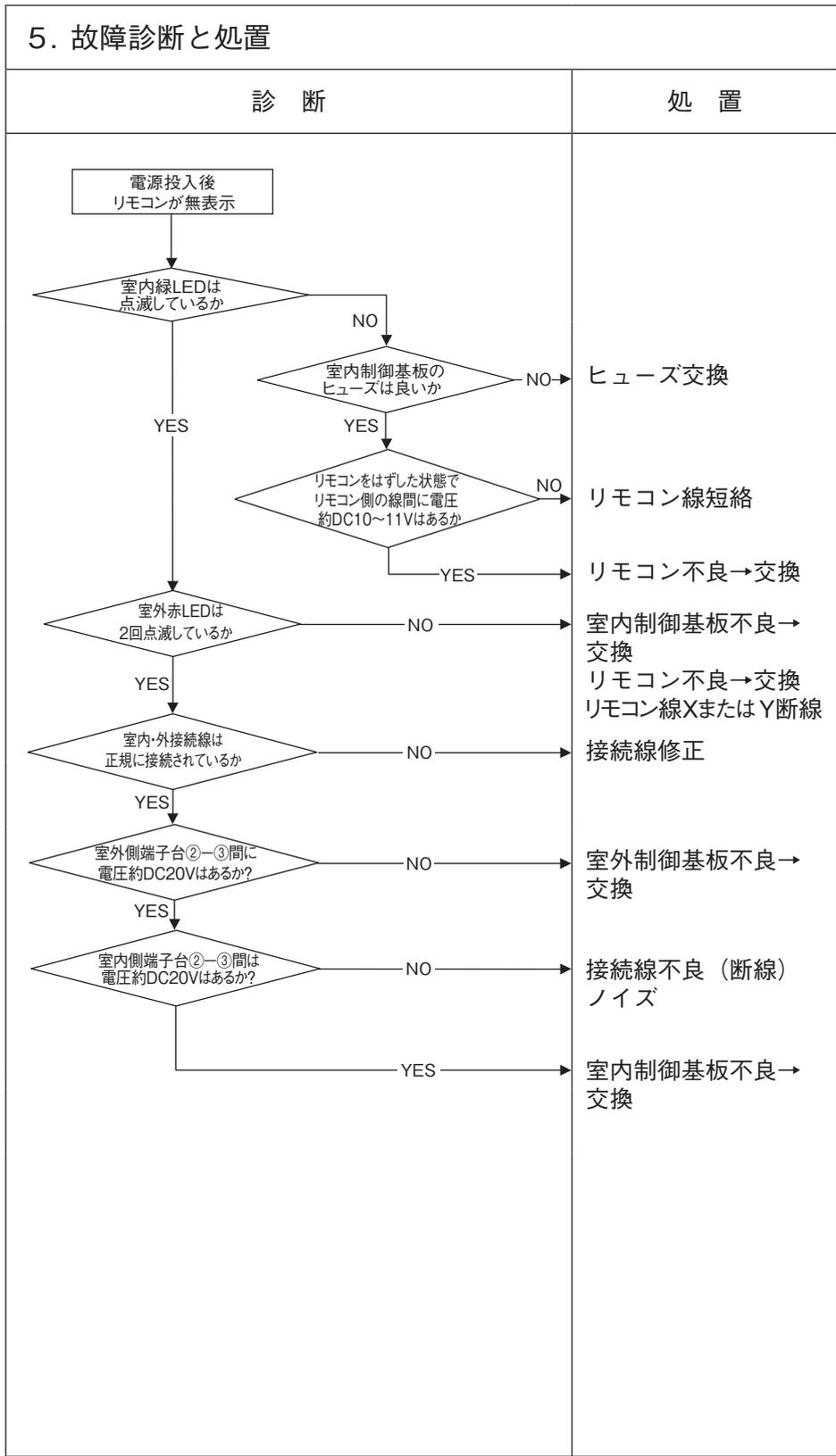
表示 リモコン:内機確認中	LED	緑	赤	内容 <b>内機確認中</b>
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	2回点滅	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因
- ・ヒューズの断線
  - ・ノイズフィルタの不良
  - ・基板間の接続
  - ・ヒューズ溶断
  - ・室内制御基板不良
  - ・リモコン不良
  - ・リモコン線断線
  - ・室外制御基板不良



注記：

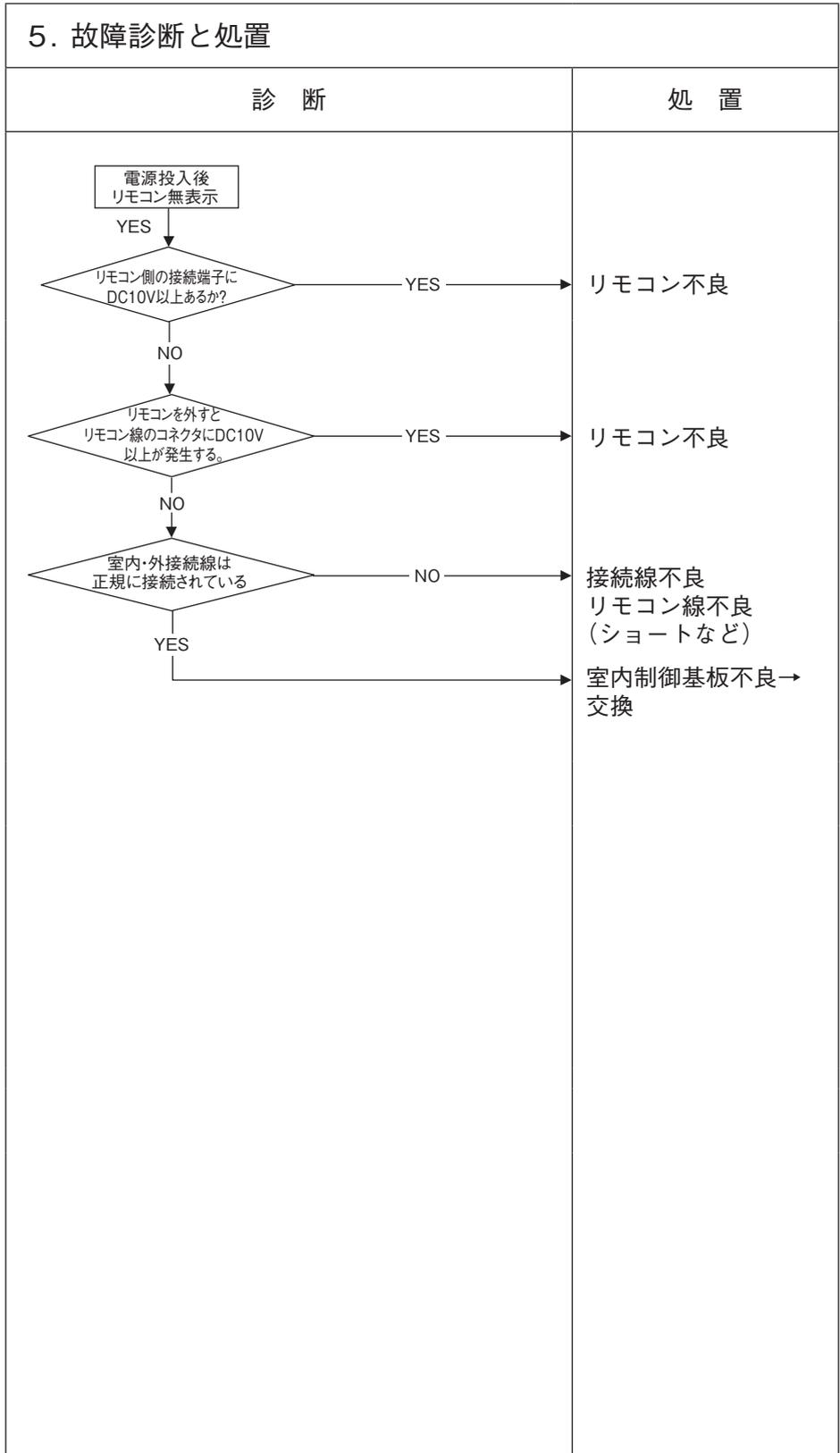
表示 リモコン:無表示	LED	緑	赤	内容 無表示
	室内	消灯	消灯	
	室外	消灯	消灯	

1. 対象機種  
全機種  
(電源投入後リモコン無表示の場合)

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因  
・基板間の接続不良  
・室内制御基板不良  
・リモコン不良  
・リモコン線断線



注記：

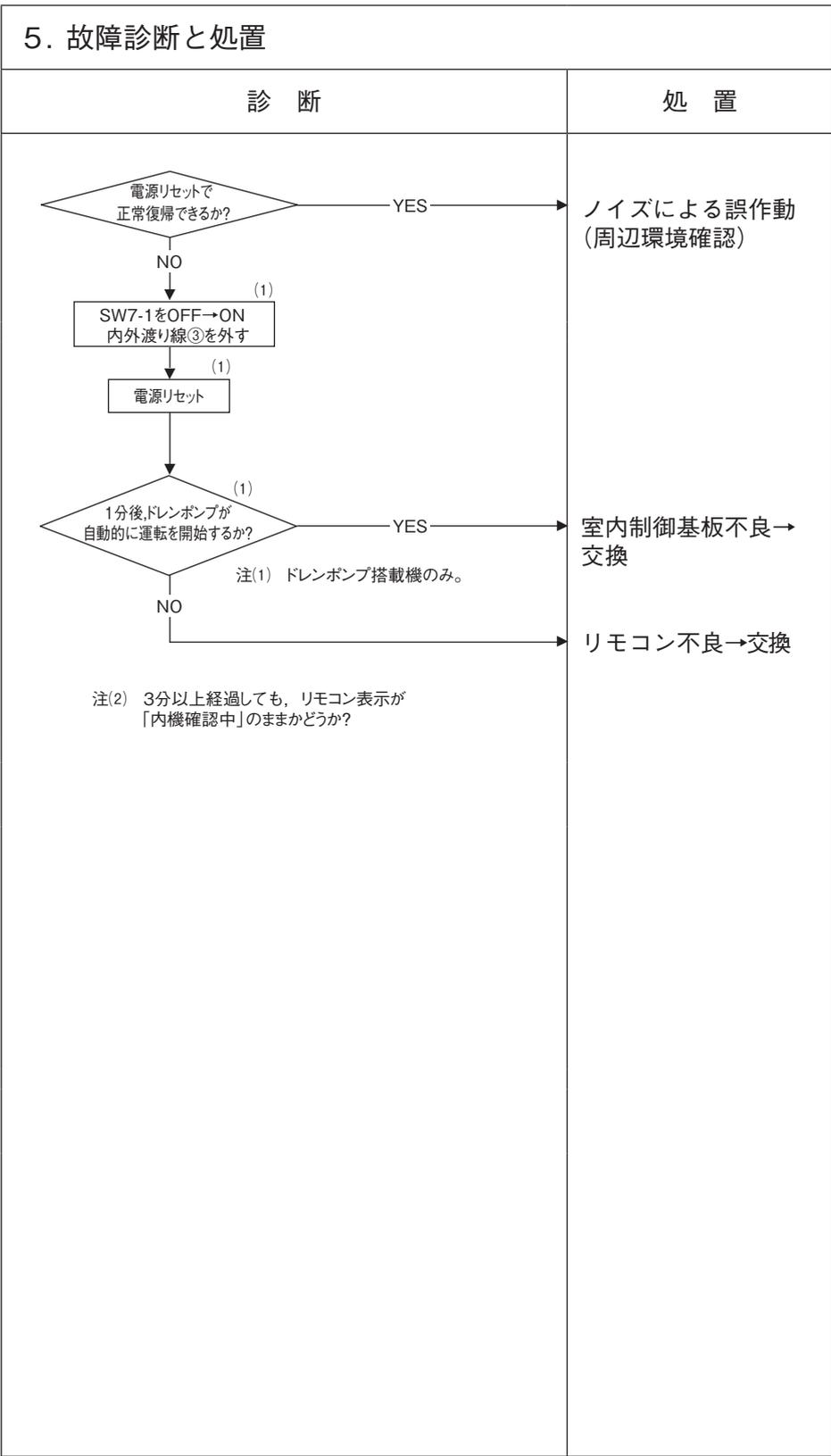
表示 リモコン:E1	LED	緑	赤	内容 リモコン通信回路不良
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
リモコンー室内ユニット間の通信が運転中に2分以上正常にできない場合(リモコンでのみ検出)

3. 異常発生条件  
同上

4. 予想原因
- ・リモコンー室内ユニット間通信回路不良
  - ・ノイズ
  - ・室内制御基板不良
  - ・リモコン不良



注記：室内側ではリモコンと180秒間正常に通信できない場合、室内ユニットの基板は自動的にリセットスタートします。

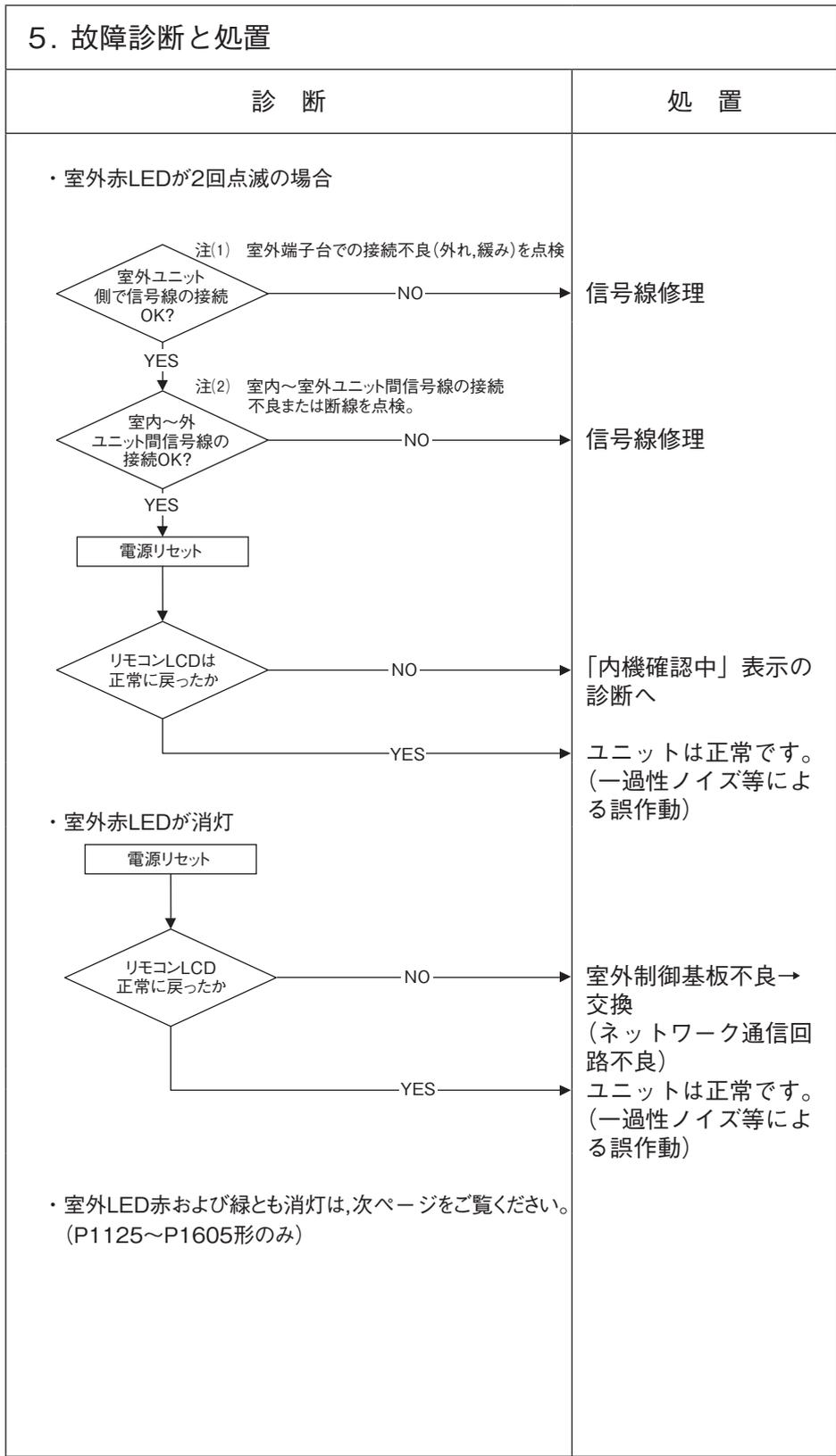
表示 リモコン:E5	LED	緑	赤	内容 運転中に室内外通信異常
	室内	連続点滅	2回点滅	
	室外	連続点滅	下記参照	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
室内-室外ユニット間が2分以上正常に通信できない場合

3. 異常発生条件  
運転中, 同上を検知

4. 予想原因  
・号機設定ミス  
・リモコン配線断線  
・リモコン配線接続不良  
・室外制御基板不良



注記: ポンプダウンスイッチを押すと, 室内ユニットとの通信をキャンセルするため, 室内ユニットおよびリモコンには“伝送異常・E5”が表示されますが異常ではありません。

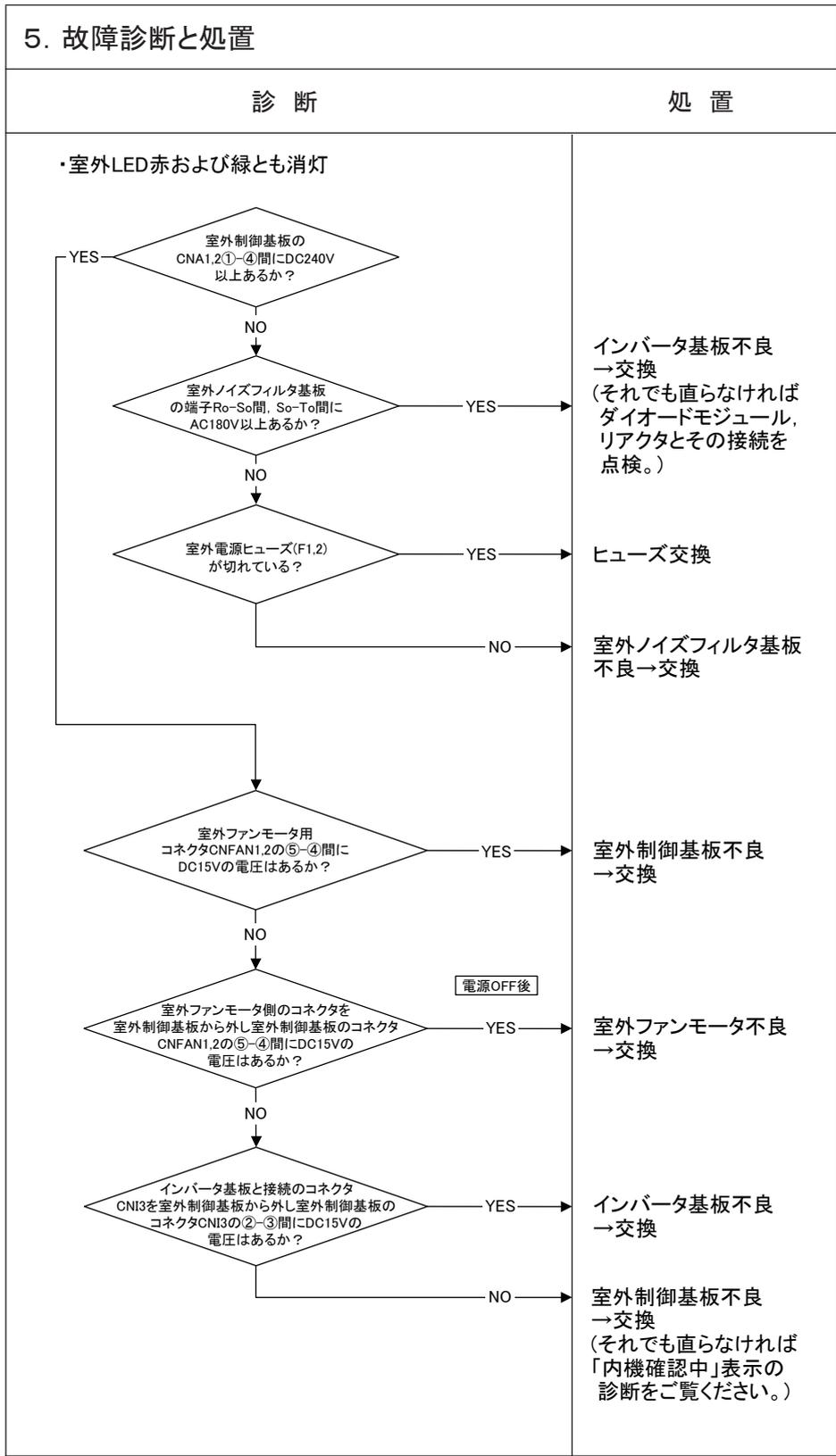
表示 リモコン:E5	LED	緑	赤	内容 運転中に内外通信異常
	室内	連続点滅	2回点滅	
	室外	連続点滅	下記参照	

1. 対象機種  
FDCZP1125～1605形のみ

2. 異常検出方法  
室内－室外ユニット間が2分以上正常に通信できない場合

3. 異常発生条件  
運転中、同を検知

4. 予想原因
- ・室外制御基板不良
  - ・インバータ基板不良
  - ・室外ノイズフィルタ基板不良
  - ・ヒューズ不良
  - ・室外ファンモータ不良



注記:

表示 リモコン:E6	LED	緑	赤	内容 室内熱交温度センサ不良
	室内	連続点滅	1回点滅	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
室内熱交温度センサ (Thi-R1, R2, R3,) の異常低温および異常高温(抵抗)を検知

3. 異常発生条件

- ・ 温度センサが $-50^{\circ}\text{C}$ 以下を連続5秒間検知(断線)した場合は圧縮機を停止します。3分遅延後に圧縮機を再起動させ、1回目の検知から60分以内に再検知した場合。
- ・  $70^{\circ}\text{C}$ 以上を連続5秒間検知(短絡)

4. 予想原因

- ・ 室内熱交温度センサコネクタ不良
- ・ 室内熱交温度センサ不良
- ・ 室内制御基板不良

5. 故障診断と処置

診断	処置																
<pre> graph TD     A{室内熱交温度センサコネクタの接続はOKか?} -- NO --&gt; B[コネクタを確実に接続する]     A -- YES --&gt; C{室内熱交温度センサの特性はOKか?}     C -- NO --&gt; D[室内熱交温度センサ不良→交換]     C -- YES --&gt; E[室内制御基板不良→交換 (室内熱交温度センサ入力回路不良)]     </pre>																	
<p>温度-抵抗特性</p> <table border="1"> <caption>温度-抵抗特性 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>温度 (°C)</th> <th>温度センサ抵抗 (kΩ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0</td><td>15</td></tr> <tr><td>10</td><td>10</td></tr> <tr><td>20</td><td>7</td></tr> <tr><td>25</td><td>5</td></tr> <tr><td>30</td><td>4</td></tr> <tr><td>40</td><td>3</td></tr> <tr><td>50</td><td>2</td></tr> </tbody> </table>	温度 (°C)	温度センサ抵抗 (kΩ)	0	15	10	10	20	7	25	5	30	4	40	3	50	2	
温度 (°C)	温度センサ抵抗 (kΩ)																
0	15																
10	10																
20	7																
25	5																
30	4																
40	3																
50	2																

注記：

表示 リモコン:E7	LED	緑	赤	内容 <h1>吸込温度センサ不良</h1>
	室内	連続点滅	1回点滅	
	室外	連続点滅	消灯	

**1. 対象機種**  
全機種

**2. 異常検出方法**  
吸込温度センサ (Thi-A) の異常低温および異常高温 (抵抗) を検知

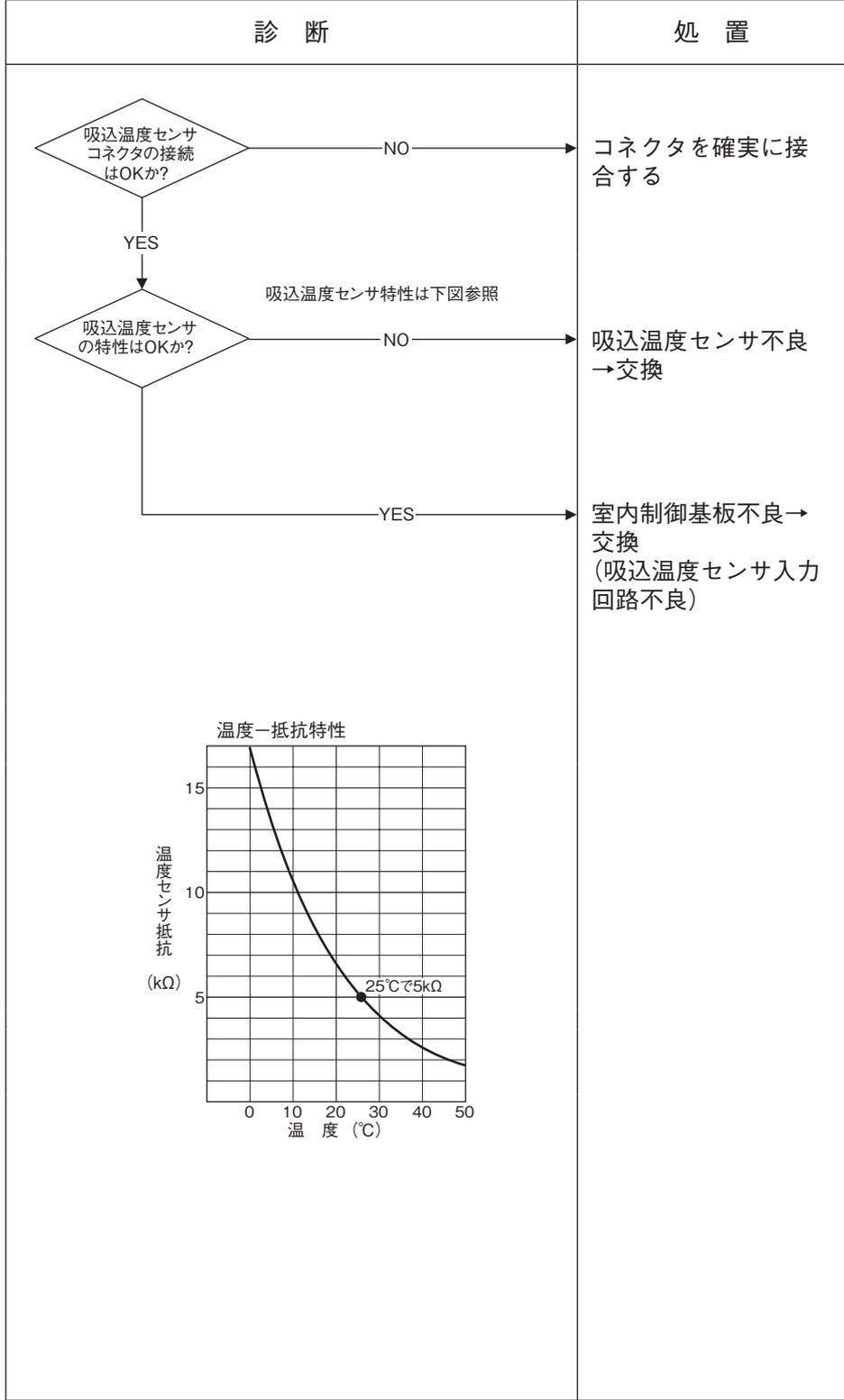
**3. 異常発生条件**

- 温度センサが $-50^{\circ}\text{C}$ 以下を連続5秒間検知した場合は圧縮機を停止します。3分遅延後に圧縮機を再起動させ、1回目の検知から60分以内に再検知した場合。

**4. 予想原因**

- 吸込温度センサコネクタ不良
- 吸込温度センサ不良
- 室内制御基板不良

**5. 故障診断と処置**



注記：

表示 リモコン:E8	LED	緑	赤	内容  <b>暖房過負荷運転</b>
	室内	連続点滅	1回点滅	
	室外	連続点滅	消灯	

**1. 対象機種**  
全機種

**2. 異常検出方法**  
室内熱交温度センサ (Thi-R1, R2, R3)

**3. 異常発生条件**  
1回目の検知から60分以内に5回検知した時、または過負荷状態を連続6分間感知した場合。

**4. 予想原因**

- ・エアフィルタ目詰まり
- ・室内熱交温度センサコネクタ不良
- ・室内熱交温度センサ不良
- ・冷媒系統異常

**5. 故障診断と処置**

診断	処置
<pre> graph TD     A{エアフィルタが目詰まりしているか} -- YES --&gt; B[洗浄]     A -- NO --&gt; C{室内熱交温度センサコネクタの接続はOKか}     C -- NO --&gt; D[コネクタを確実に接合する]     C -- YES --&gt; E{室内熱交温度センサの特性はOKか}     E -- NO --&gt; F[室内熱交温度センサ不良→交換]     E -- YES --&gt; G[リモコンで異常データ点検]     G --&gt; H{暖房過負荷状態か}     H -- NO --&gt; I[冷媒系統点検]     H -- YES --&gt; J[調整]           </pre>	
<p>注(1) 過負荷状態か否かの点検は下記内容を確認する。            ▲ショートサーキットは無い            ▲室内熱交換器の汚れ、つまりは無い            ▲室外ファンコントロールは正常か            ▲室内・外気温が高すぎないか</p> <p>注(2) 室内熱交温度センサの特性は、故障表示E6をご覧ください。</p>	
<p>室内熱交温度(°C)</p>	

注記：暖房；圧縮機始動後、室内熱交温度（Thi-R）により圧縮機の回転数を下げ高圧制御します。

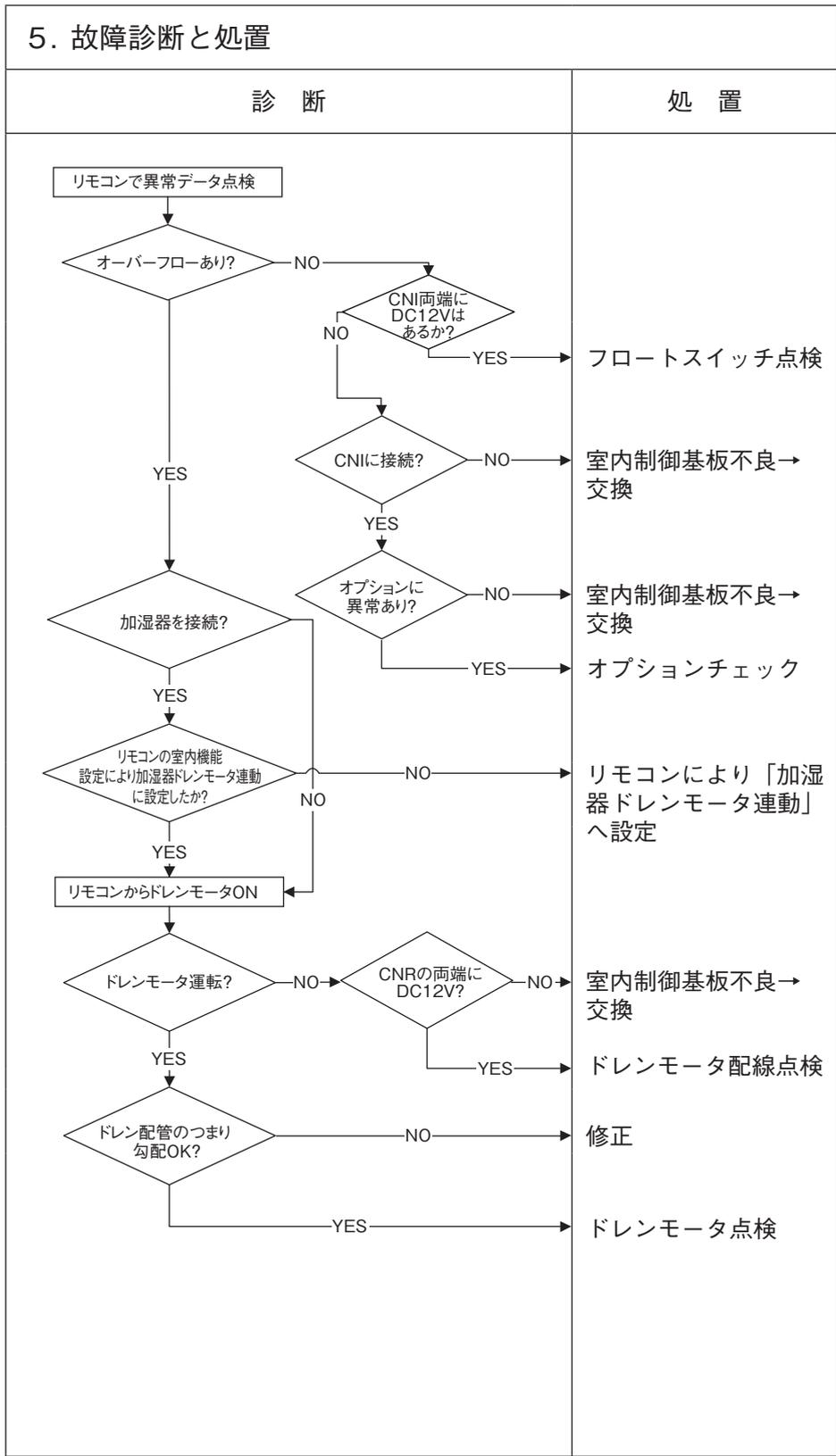
表示 リモコン:E9	LED	緑	赤	内容 ドレン不良
	室内	連続点滅	1回点滅	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種  
ドレンポンプ搭載機種のみ

2. 異常検出方法  
フロートスイッチ作動

3. 異常発生条件  
フロートスイッチ開を3秒間連続検知したとき、またはフロートスイッチの未接続時・断線時。

4. 予想原因
- ・室内制御基板不良
  - ・フロートスイッチ設定ミス
  - ・加湿器ドレンモータ連動設定ミス
  - ・オプション設定ミス
  - ・ドレン配管ミス
  - ・ドレンモータ不良
  - ・ドレンモータ配線不良
  - ・フロートスイッチ不良



注記：電源投入時に発生した場合は、フロートスイッチの断線・接点不良が考えられます。点検修正（交換）してください。

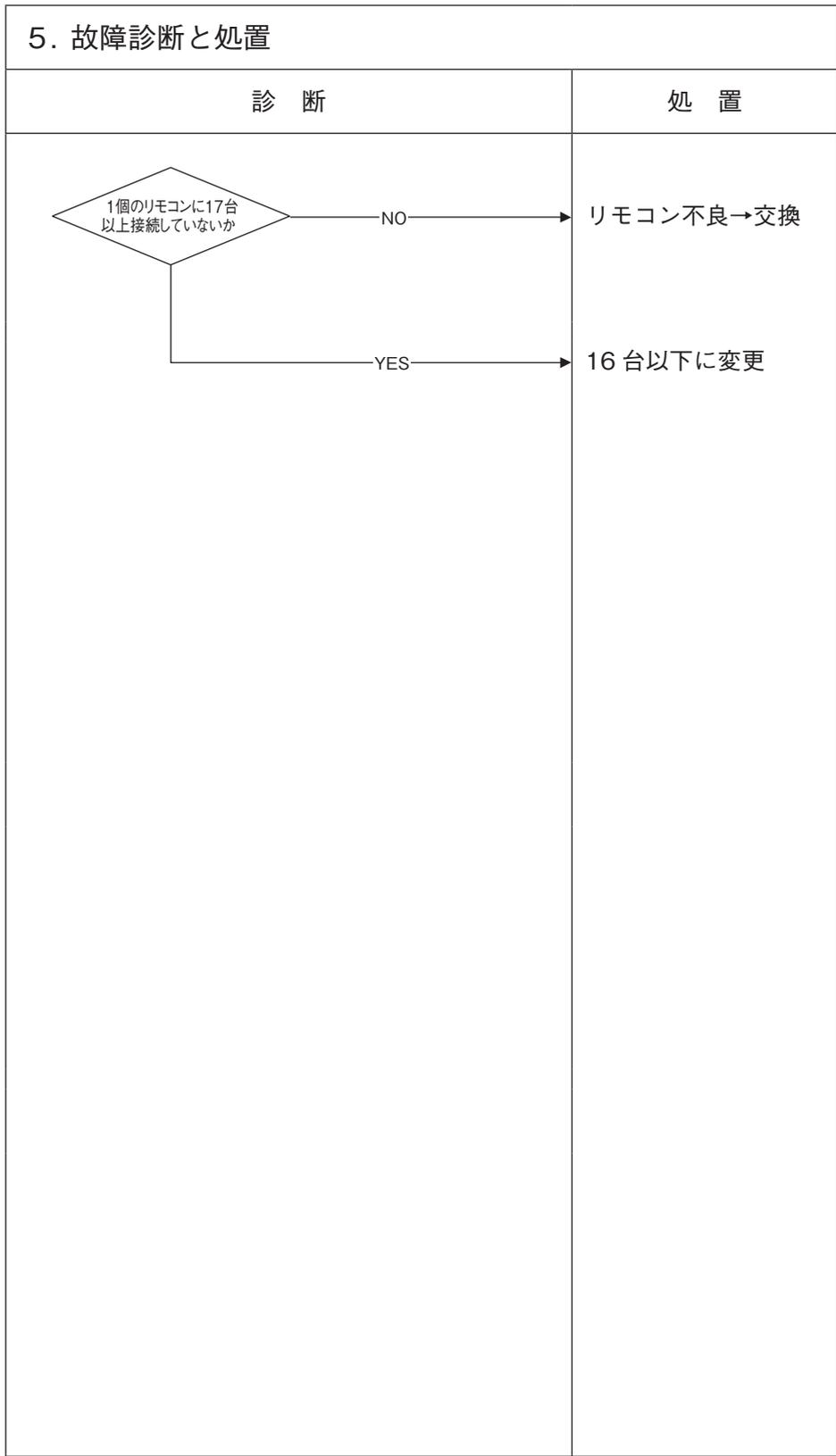
表示 リモコン:E10	LED	緑	赤	内容 1 リモコン複数台制御時 接続台数オーバー（17台以上）
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
1 リモコンで室内ユニット  
17台以上を検知した時

3. 異常発生条件  
同上

4. 予想原因  
・接続台数オーバー  
・リモコン不良



注記：

表示 リモコン:E11	LED	緑	赤	内容 リモコン通信アドレス設定不良
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種
全機種

2. 異常検出方法
複数の室内ユニットを1リモコンで結線し、リモコンアドレスで設定をした場合

3. 異常発生条件
同上

4. 予想原因
アドレス設定方法のまちがい。 (リモコンからのアドレス設定はできない。)

5. 故障診断と処置	
診 断	処 置
<p>下図のリモコン結線で、リモコンによりアドレス設定をすると E11 発生。</p>	
<p>アドレス設定方法変更 室内ユニット制御基板 上のディップスイッチ SW2でアドレス設定を 行う。</p>	

注記:

表示 リモコン:E14	LED	緑	赤	内容 親子室内ユニット間通信異常
	室内	連続点滅	3回点滅	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
親子室内ユニット間に通信異常が発生

3. 異常発生条件  
同上

4. 予想原因  
・号機設定ミス  
・リモコン配線断線  
・リモコン配線接続不良  
・室内制御基板不良

5. 故障診断と処置

診 断	処 置																					
<p>室内ユニットの親・子の号機設定はよいか</p> <p>NO → 号機設定修正</p> <p>YES ↓</p> <p>室内ユニット間のリモコン配線不良?</p> <p>YES → 配線修正</p> <p>NO ↓</p> <p>電源リセットで復規するか?</p> <p>NO → 室内制御基板不良 → 交換</p> <p>YES → ノイズによる誤作動 (周辺環境を確認)</p>																						
<p>注(2) 室内制御基板上的ディップスイッチSW5-1, SW5-2を下表のように設定してください。(工場出荷時[親]設定)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="4">室内ユニット</th> </tr> <tr> <th>親</th> <th>子a</th> <th>子b</th> <th>子c</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ディップスイッチ</td> <td>SW5-1</td> <td>OFF</td> <td>OFF</td> <td>ON</td> <td>ON</td> </tr> <tr> <td>SW5-2</td> <td>OFF</td> <td>ON</td> <td>OFF</td> <td>ON</td> </tr> </tbody> </table>				室内ユニット				親	子a	子b	子c	ディップスイッチ	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON
				室内ユニット																		
		親	子a	子b	子c																	
ディップスイッチ	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON																	
	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON																	

注記：

表示 リモコン：E16	LED	緑	赤	内容 <h1>室内ファンモータ不良</h1>
	室内	連続点滅	1回点滅	
	室外	連続点滅	消灯	

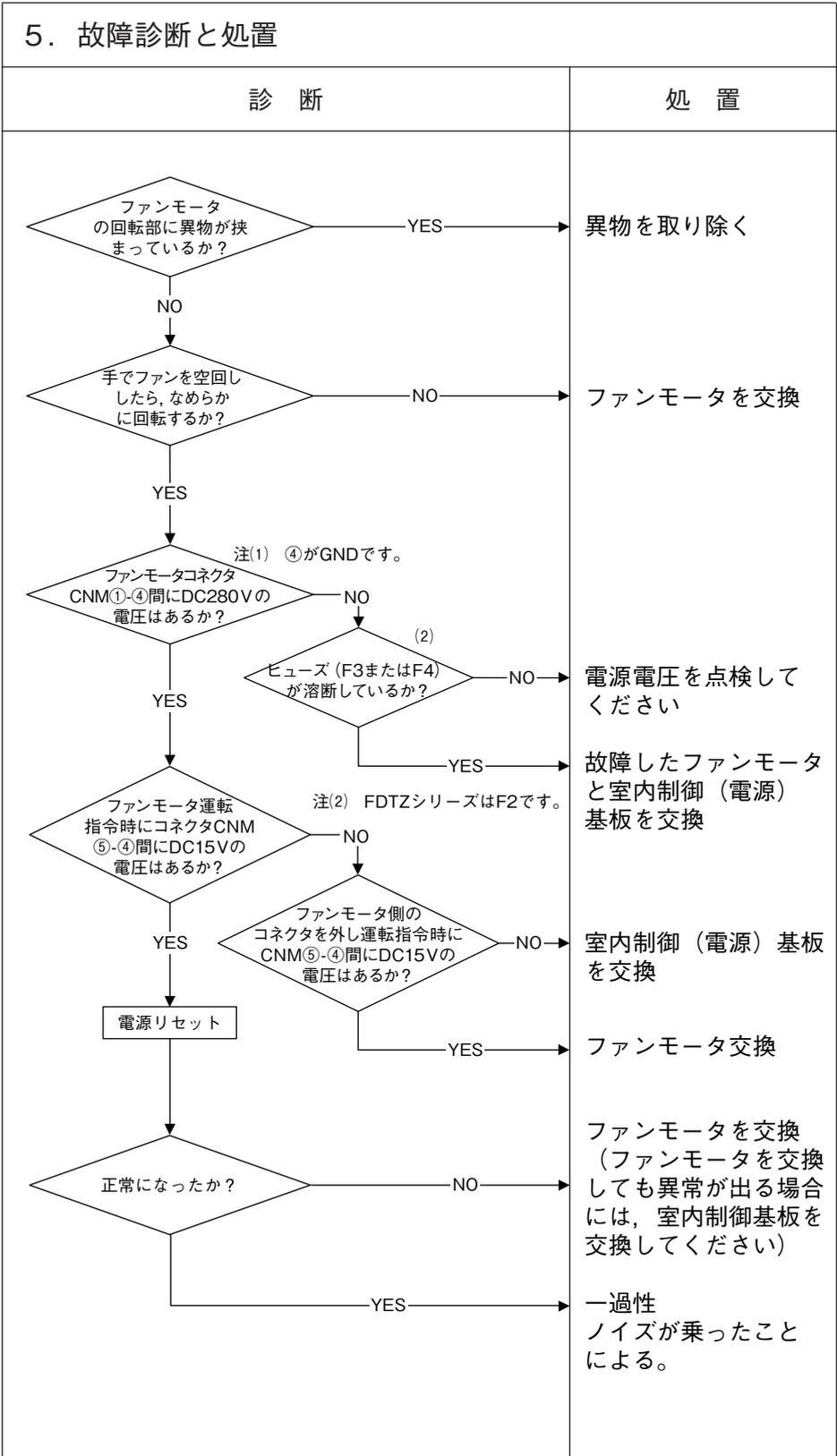
**1. 対象機種**  
全機種  
(FDESZシリーズは除く)

**2. 異常検出方法**  
室内ファンモータ回転数

**3. 異常発生条件**  
室内ファンモータの実回転が30秒連続して $200\text{min}^{-1}$ 以下になると圧縮機、室内ファンモータを停止します。2秒遅延後自動復帰しますが60分以内に4回作動した場合。

**4. 予想原因**

- ・室内制御（電源）基板不良
- ・ファンモータの回転部の異物
- ・ファンモータ不良
- ・基板の塵埃
- ・ヒューズ溶断
- ・外来ノイズ，サージ



注記：

表示 リモコン:E19	LED	緑	赤	内容 運転モード設定不良
	室内	連続点滅	1回点滅	
	室外	連続点滅	消灯	

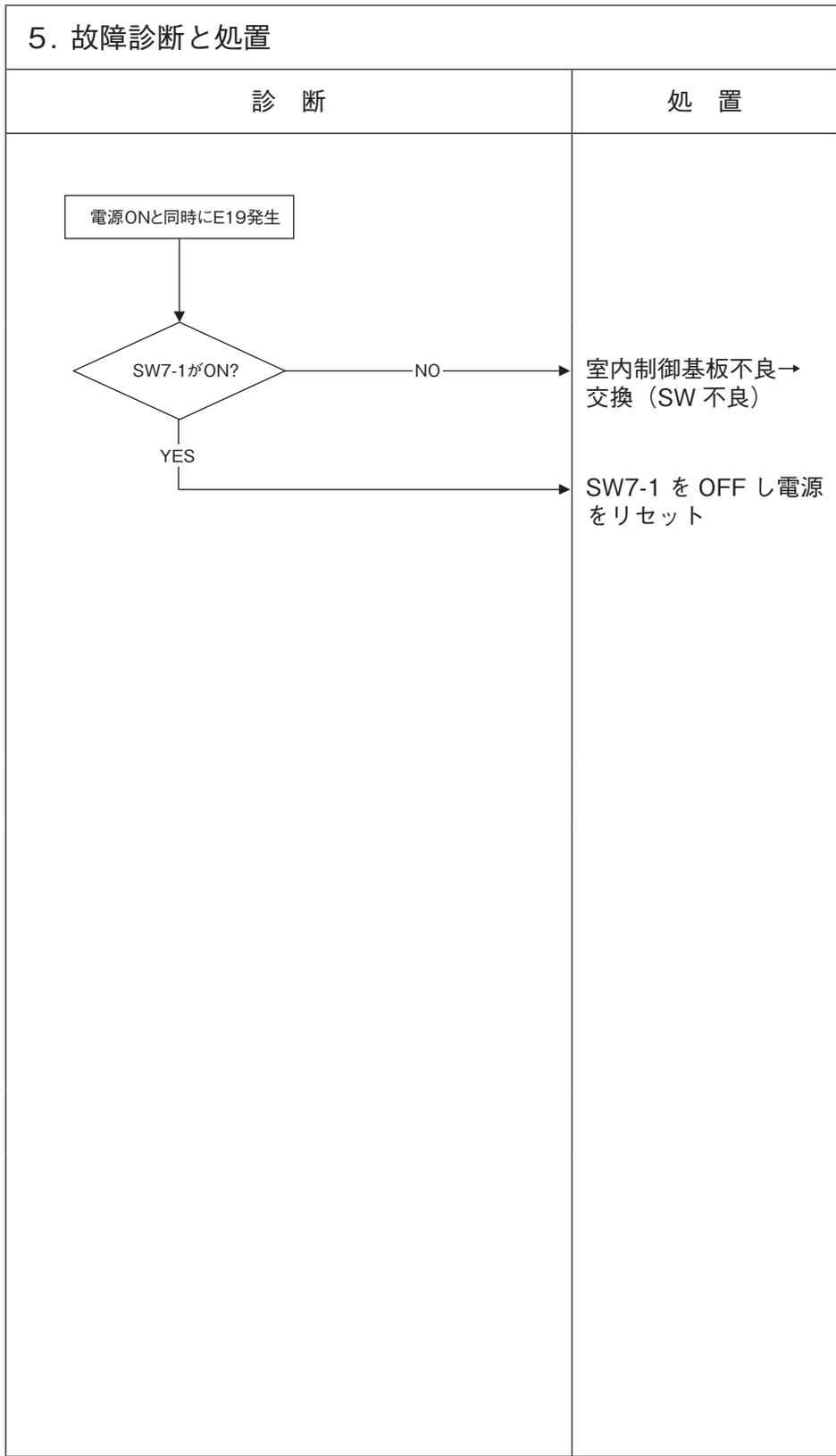
1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
E19 発生

3. 異常発生条件  
同上

4. 予想原因

- ・ SW 設定ミス (SW の戻し忘れ)
- ・ 室内制御基板不良 (SW 不良)



注記：

表示 リモコン： E20	LED	緑	赤	内容 室内ファンモータ回転不良
	室内	連続点滅	1回点滅	
	室外	連続点滅	消灯	

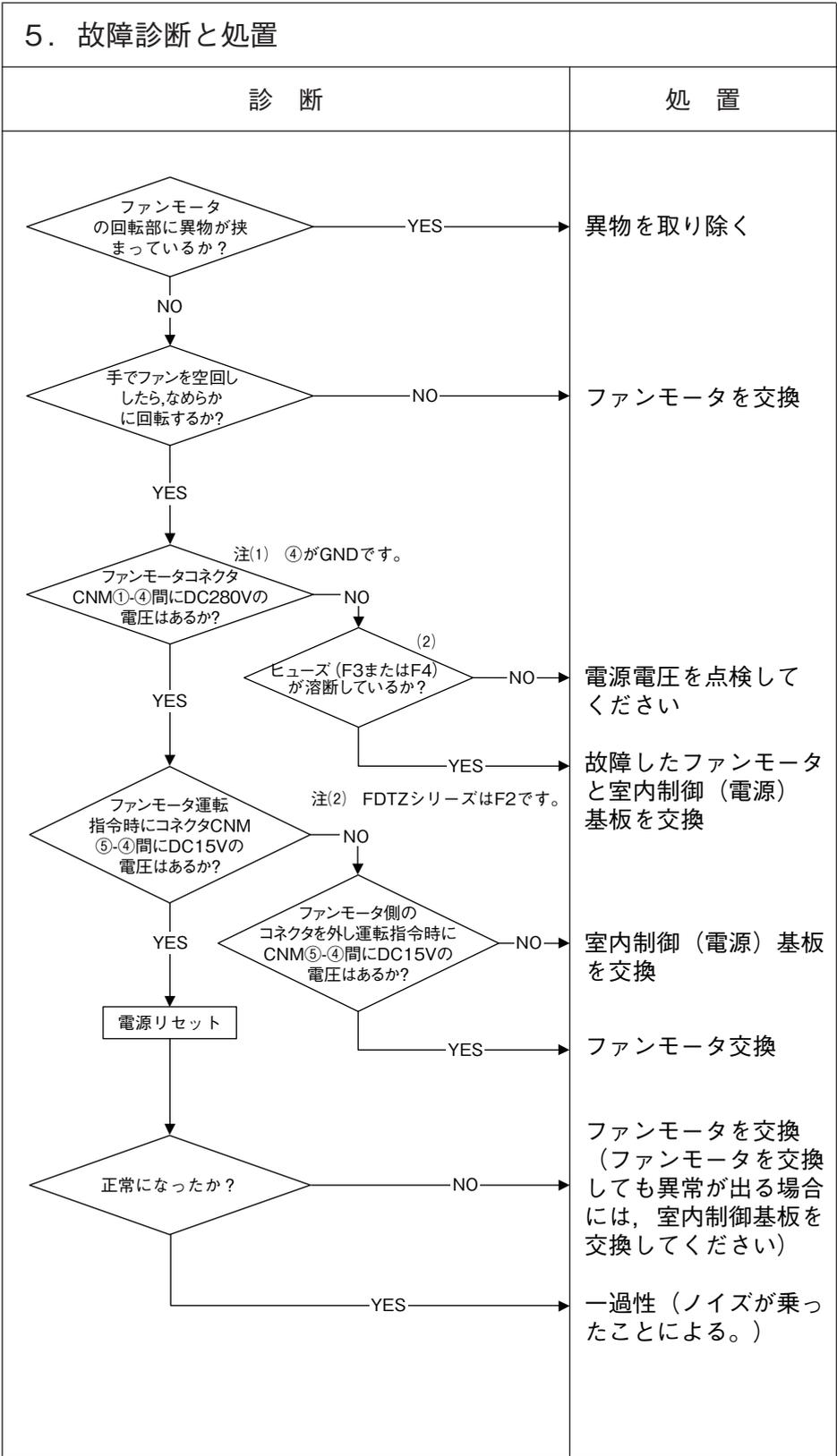
1. 対象機種  
全機種  
(FDESZシリーズは除く)

2. 異常検出方法  
室内ファンモータ回転数

3. 異常発生条件  
室内ファンモータ回転指令が出力された後2分経過しても実回転数が要求回転数 $-50\text{min}^{-1}$ に達しないときは、ファンモータ回転異常を検出し停止します。

4. 予想原因

- ・室内制御（電源）基板不良
- ・ファンモータの回転部の異物
- ・ファンモータ不良
- ・基板の塵埃
- ・ヒューズ溶断
- ・外来ノイズ，サージ



注記：

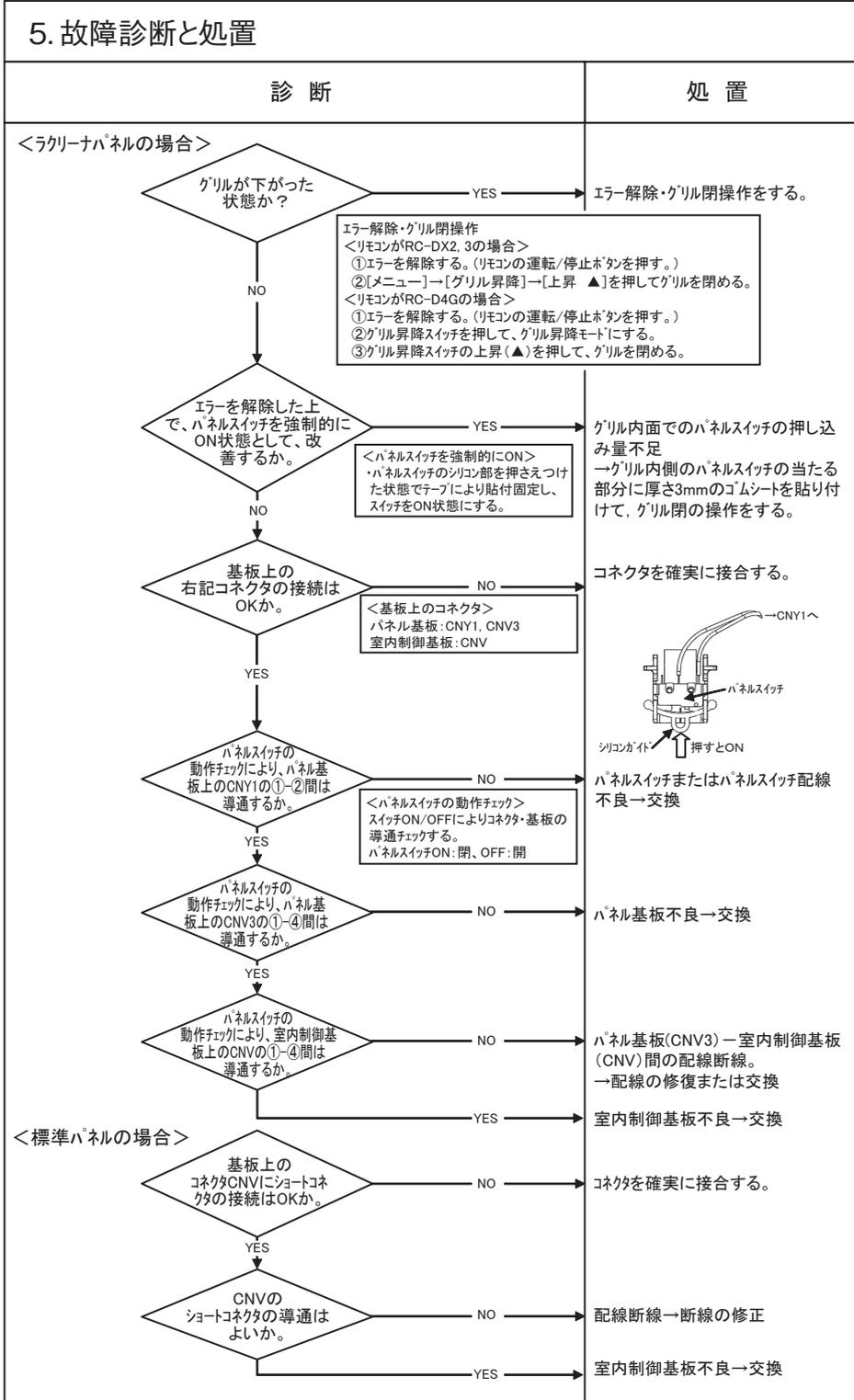
表示 リモコン: E21	LED	緑	赤	内容 ラクリーナパネル収納不良 ・パネルスイッチ動作不良 (FDTZシリーズ)
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種  
FDTZシリーズのみ

2. 異常検出  
1秒以上パネルスイッチ (PS)が開を検知

3. 異常発生条件  
同上

4. 予想原因  
・パネルスイッチ(PS)不良  
・配線断線  
・パネル基板不良  
・室内制御基板不良



注記：お掃除パネル装着時のみ、パネルの表示部で緑のLEDが4回点滅します。

表示 リモコン:E28	LED	緑	赤	内容 リモコン温度センサ不良
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
リモコン温度センサ (Thc) の異常低温 (抵抗) を検知

3. 異常発生条件  
温度センサが -50℃以下を連続5秒間検知した場合は圧縮機を停止します。3分間延長後に圧縮機を再起動させ、1回目の検知から60分間以内に再検知した場合。

4. 予想原因

- ・リモコン温度センサ接続不良
- ・リモコン温度センサ不良
- ・リモコン基板不良

5. 故障診断と処置

診 断	処 置																																																																								
<pre> graph TD     A{リモコン温度センサ コネクタの 接続はOKか?} -- NO --&gt; B[コネクタを確実に接合する]     A -- YES --&gt; C{リモコン温度 センサの特性は良いか 断線は無い?}     C -- NO --&gt; D[リモコン温度センサ 不良→交換]     C -- YES --&gt; E[リモコン基板不良→ 交換 (リモコン温度センサ 入力回路不良)]           </pre>																																																																									
<p>リモコン温度センサ抵抗温度特性 (Thc)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>温度(℃)</th> <th>抵抗値(kΩ)</th> <th>温度(℃)</th> <th>抵抗値(kΩ)</th> <th>温度(℃)</th> <th>抵抗値(kΩ)</th> <th>温度(℃)</th> <th>抵抗値(kΩ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0</td><td>65</td><td>14</td><td>33</td><td>30</td><td>16</td><td>46</td><td>8.5</td></tr> <tr><td>1</td><td>62</td><td>16</td><td>30</td><td>32</td><td>15</td><td>48</td><td>7.8</td></tr> <tr><td>2</td><td>59</td><td>18</td><td>27</td><td>34</td><td>14</td><td>50</td><td>7.3</td></tr> <tr><td>4</td><td>53</td><td>20</td><td>25</td><td>36</td><td>13</td><td>52</td><td>6.7</td></tr> <tr><td>6</td><td>48</td><td>22</td><td>23</td><td>38</td><td>12</td><td>54</td><td>6.3</td></tr> <tr><td>8</td><td>44</td><td>24</td><td>21</td><td>40</td><td>11</td><td>56</td><td>5.8</td></tr> <tr><td>10</td><td>40</td><td>26</td><td>19</td><td>42</td><td>9.9</td><td>58</td><td>5.4</td></tr> <tr><td>12</td><td>36</td><td>28</td><td>18</td><td>44</td><td>9.2</td><td>60</td><td>5.0</td></tr> </tbody> </table>	温度(℃)	抵抗値(kΩ)	温度(℃)	抵抗値(kΩ)	温度(℃)	抵抗値(kΩ)	温度(℃)	抵抗値(kΩ)	0	65	14	33	30	16	46	8.5	1	62	16	30	32	15	48	7.8	2	59	18	27	34	14	50	7.3	4	53	20	25	36	13	52	6.7	6	48	22	23	38	12	54	6.3	8	44	24	21	40	11	56	5.8	10	40	26	19	42	9.9	58	5.4	12	36	28	18	44	9.2	60	5.0	
温度(℃)	抵抗値(kΩ)	温度(℃)	抵抗値(kΩ)	温度(℃)	抵抗値(kΩ)	温度(℃)	抵抗値(kΩ)																																																																		
0	65	14	33	30	16	46	8.5																																																																		
1	62	16	30	32	15	48	7.8																																																																		
2	59	18	27	34	14	50	7.3																																																																		
4	53	20	25	36	13	52	6.7																																																																		
6	48	22	23	38	12	54	6.3																																																																		
8	44	24	21	40	11	56	5.8																																																																		
10	40	26	19	42	9.9	58	5.4																																																																		
12	36	28	18	44	9.2	60	5.0																																																																		

注記：リモコンセンサ無効→有効切替えの10秒間以降は、断線してもE28は表示しません。同時に使用するセンサをリモコン→吸込温度センサに変更します。リモコンセンサを有効にしても点検表示の吸込温度表示は吸込温度センサの値となります。

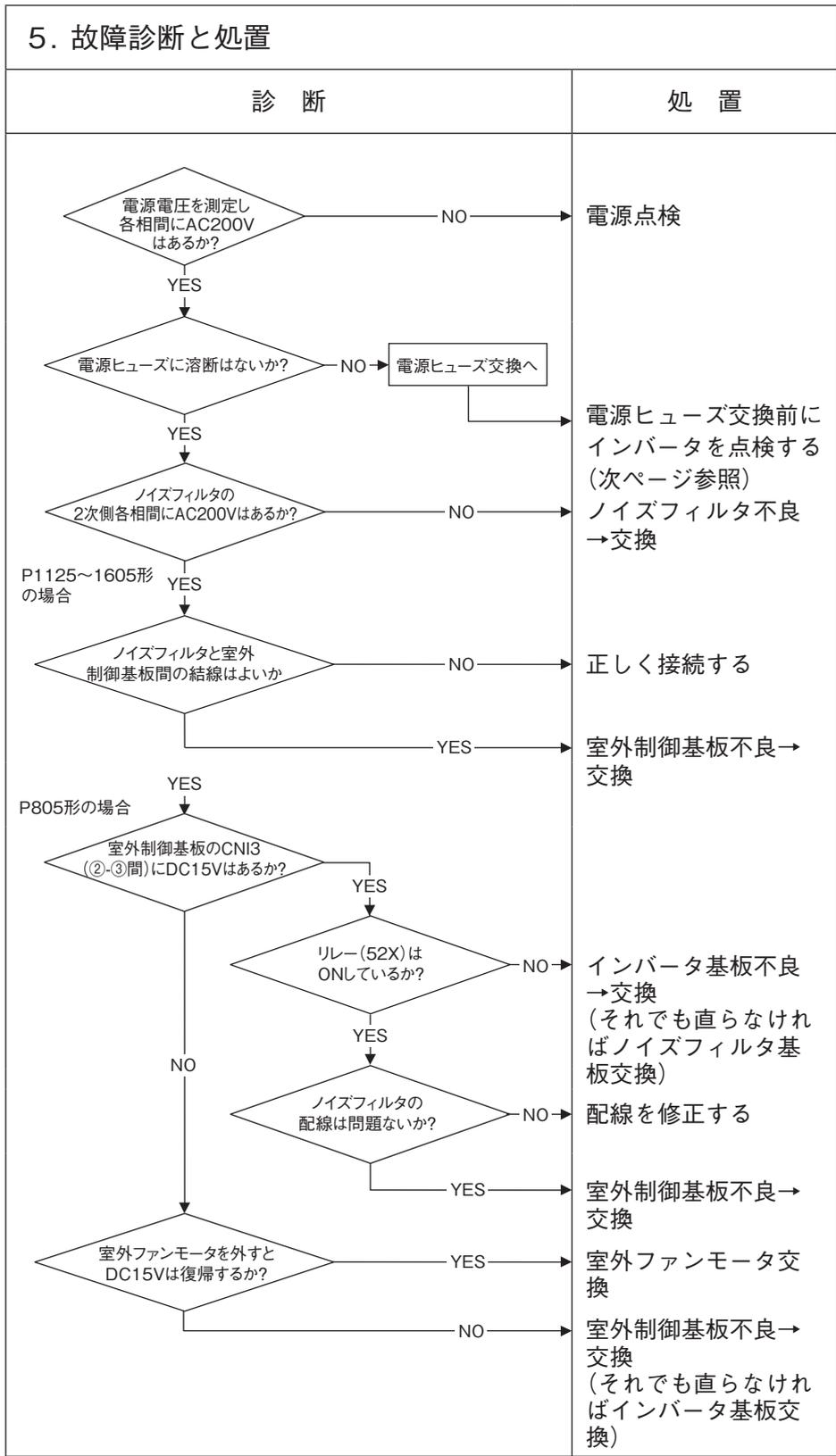
表示 リモコン:E34	LED	緑	赤	内容 <b>電源欠相</b> (三相機のみ)
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

**1. 対象機種**  
三相機のみ

**2. 異常検出方法**  
電源 ON 後, 5 秒間連続して R・S・T 相何れかの電圧が 0V の場合

**3. 異常発生条件**  
同上

- 4. 予想原因**
- ・電源異常
  - ・電源ヒューズ溶断
  - ・ノイズフィルタ不良
  - ・ノイズフィルタ制御基板結線不良
  - ・室外制御基板不良
  - ・インバータ基板不良
  - ・室外ファンモータ不良
  - ・ノイズフィルタ配線不良



注記：電源電圧が逆相となっている場合はE34が表示されます。その場合は、電源の相を入換えてください。

表示 リモコン:E34	LED	緑	赤	内容 <b>電源欠相(続き)</b> (三相機のみ)
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

**1. 対象機種**

三相機のみ  
(ヒューズ溶断の場合、  
電源ヒューズ交換前に  
インバータを点検す  
る。)

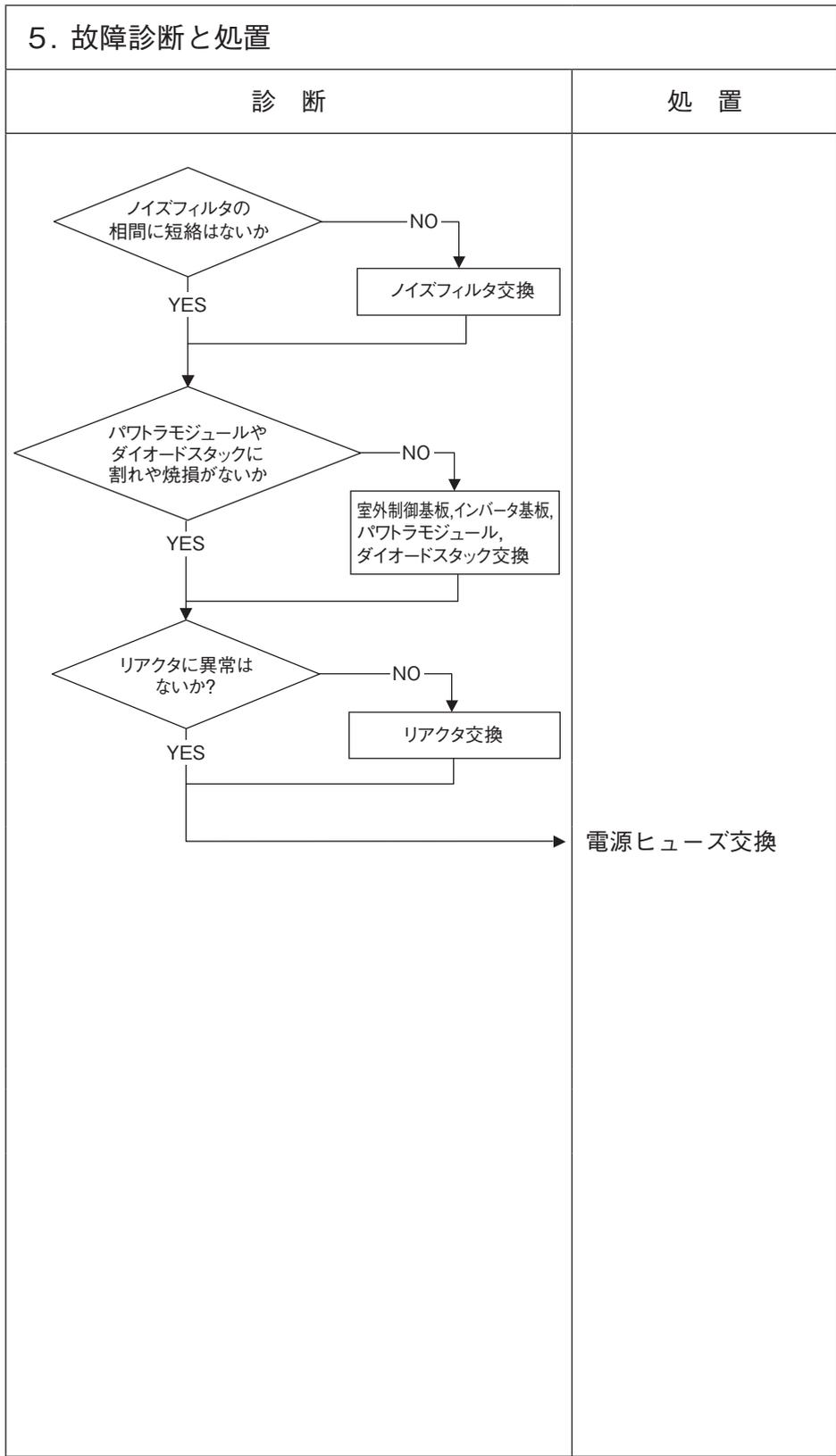
**2. 異常検出方法**

電源 ON 後, 5 秒間連続し  
て R・S・T 相何れかの電  
圧が 0V の場合

**3. 異常発生条件**

同上

- 4. 予想原因**
- ・電源異常
  - ・電源ヒューズ溶断
  - ・ノイズフィルタ不良
  - ・ノイズフィルタ結線不良
  - ・室外制御基板不良
  - ・インバータ基板不良
  - ・リアクタ不良



注記：

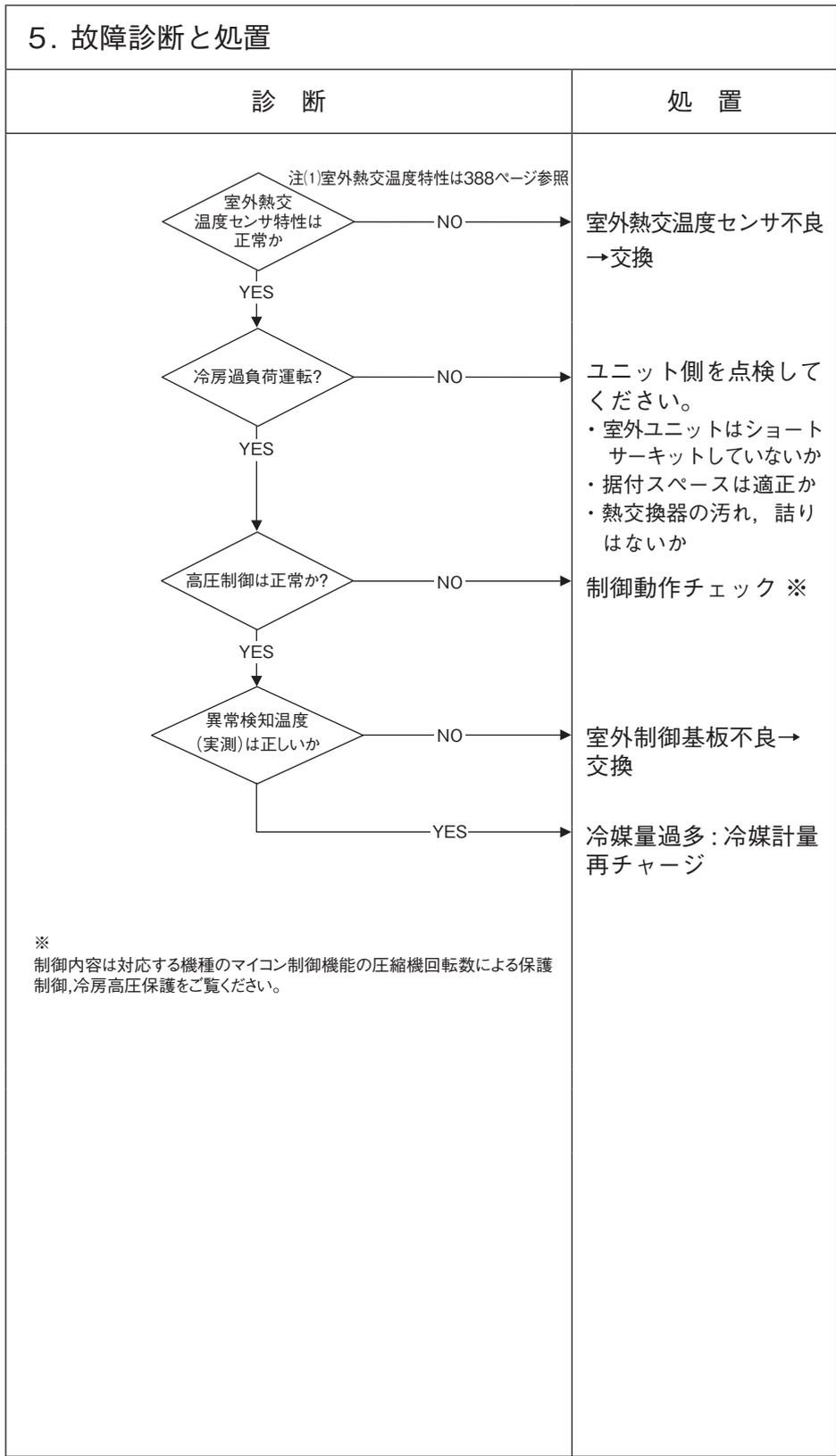
表示 リモコン:E35	LED	緑	赤	内容	冷房過負荷運転
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	1回点滅		

**1. 対象機種**  
全機種

**2. 異常検出方法**  
異常検出方法については対応する機種のマイコン制御機能の圧縮機回転数による保護制御, 冷房高圧保護をご覧ください。

**3. 異常発生条件**  
室外熱交温度異常が60分以内に5回, 或いは圧縮機停止中も含め異常検出状態が60分間連続した場合。

- 4. 予想原因**
- ・ 室外熱交温度センサ不良
  - ・ 室外制御基板不良
  - ・ 室内外の据付スペース
  - ・ 室内外ショートサーキット
  - ・ 熱交換器の汚れ, 詰り
  - ・ 冷媒量過多



注記:

表示 リモコン:E36	LED	緑	赤	内容	<b>吐出管温度異常</b>
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	1回点滅		

**1. 対象機種**

全機種

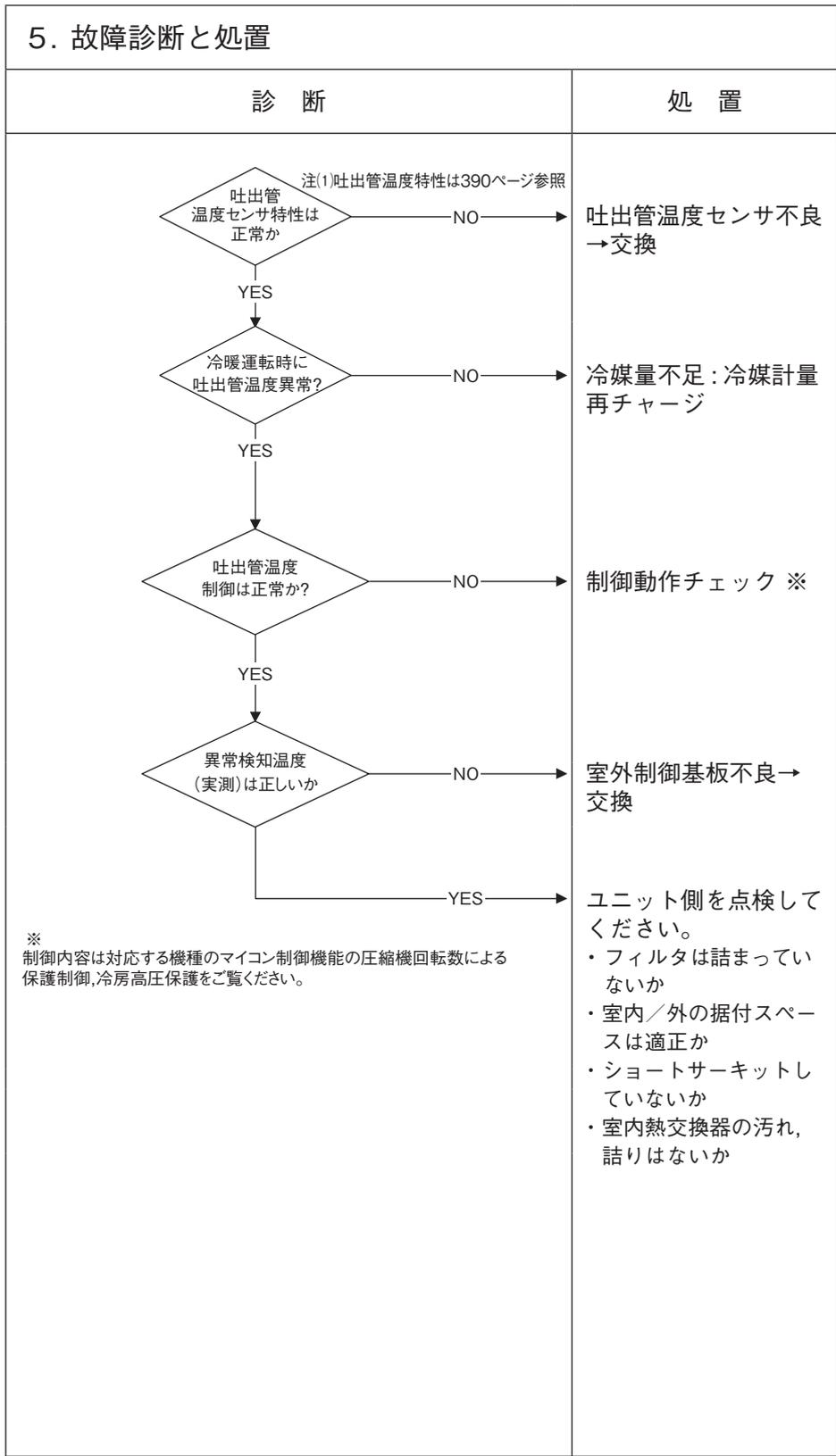
**2. 異常検出方法**

異常検出方法については対応する機種のマイコン制御機能の圧縮機回転数による保護制御, 冷房高圧保護をご覧ください。

**3. 異常発生条件**

吐出管温度異常が60分以内に2回または圧縮機停止中を含め連続60分間。

- 4. 予想原因**
- ・ 室外制御基板不良
  - ・ 吐出管温度センサ不良
  - ・ フィルタ詰り
  - ・ 室内外の据付スペース
  - ・ 室内外ショートサーキット
  - ・ 熱交換器の汚れ, 詰り



注記:

表示 リモコン:E37	LED	緑	赤	内容 室外熱交温度センサ不良
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
室外熱交温度センサの異常低温(抵抗)を検知

3. 異常発生条件

- ・ 圧縮機 ON 後 2 分～2 分 20 秒の間に温度センサが  $-50^{\circ}\text{C}$  以下を連続 5 秒検知すると圧縮機を停止, 3 分遅延後に圧縮機を再起動させ 40 分に 3 回検知した場合。
- ・ 電源投入時, 20 秒の間に連続 5 秒間  $-50^{\circ}\text{C}$  以下を検知した場合。

4. 予想原因

- ・ 室外制御基板不良
- ・ センサ配線, 感温部の断線(モールド部を確認)
- ・ 配線接合部(コネクタ)のはずれ

5. 故障診断と処置

診 断	処 置																
<pre> graph TD     A{室外熱交温度センサコネクタの接続はOKか} -- NO --&gt; B[コネクタを確実に接続する]     A -- YES --&gt; C{室外熱交温度センサ特性はOKか}     C -- NO --&gt; D[室外熱交温度センサ不良→交換]     C -- YES --&gt; E[室外制御基板不良→交換 (室外熱交温度センサ入力回路不良)]           </pre>																	
<p>温度—抵抗特性</p> <table border="1"> <caption>温度—抵抗特性 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>温度 (°C)</th> <th>温度センサ抵抗 (kΩ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0</td><td>15</td></tr> <tr><td>10</td><td>10</td></tr> <tr><td>20</td><td>7</td></tr> <tr><td>25</td><td>5</td></tr> <tr><td>30</td><td>4</td></tr> <tr><td>40</td><td>3</td></tr> <tr><td>50</td><td>2.5</td></tr> </tbody> </table>	温度 (°C)	温度センサ抵抗 (kΩ)	0	15	10	10	20	7	25	5	30	4	40	3	50	2.5	
温度 (°C)	温度センサ抵抗 (kΩ)																
0	15																
10	10																
20	7																
25	5																
30	4																
40	3																
50	2.5																

注記：

表示 リモコン:E38	LED	緑	赤	内容 <b>外気温度センサ不良</b>
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
外気温度センサの異常低温(抵抗)を検知

3. 異常発生条件

- ・圧縮機 ON 後 2 分～2 分 20 秒の間に温度センサが  $-45^{\circ}\text{C}$  以下を連続 5 秒検知すると圧縮機を停止, 3 分遅延後に圧縮機を再起動させ 40 分に 3 回検知した場合。
- ・電源投入時, 20 秒の間に連続 5 秒間  $-45^{\circ}\text{C}$  以下を検知した場合。

4. 予想原因

- ・室外制御基板不良
- ・センサ配線, 感温部の断線(モールド部を確認)
- ・配線接合部(コネクタ)のはずれ

5. 故障診断と処置

診 断	処 置
<pre> graph TD     A{外気温度センサコネクタの接続はOKか} -- NO --&gt; B[コネクタを確実に接続する]     A -- YES --&gt; C{外気温度センサ特性はOKか}     C -- NO --&gt; D[外気温度センサ不良 → 交換]     C -- YES --&gt; E[室外制御基板不良 → 交換 (外気温度センサ入力回路不良)]           </pre> <p>外気温度センサ特性は下図参照</p> <p>●P805形 温度-抵抗特性</p> <p>●P1125～P1605形 外気温度センサ特性</p>	<p>コネクタを確実に接続する</p> <p>外気温度センサ不良 → 交換</p> <p>室外制御基板不良 → 交換 (外気温度センサ入力回路不良)</p>

注記:

表示 リモコン:E39	LED	緑	赤	内容 <b>吐出管温度センサ不良</b>
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
吐出管温度センサの異常低温(抵抗)を検知

3. 異常発生条件  
圧縮機 ON 後 10 分～10 分 20 秒の間に温度センサが-10℃以下を連続 5 秒検知すると圧縮機を停止, 3 分遅延後に圧縮機を再起動させ 40 分に 3 回検知した場合。

4. 予想原因
- ・ 室外制御基板不良
  - ・ センサ配線, 感温部の断線(モールド部を確認)
  - ・ 配線接合部(コネクタ)のはずれ

5. 故障診断と処置

診 断	処 置
<p>吐出管温度センサコネクタの接続はOKか</p> <p>NO →</p> <p>YES ↓</p> <p>吐出管温度センサ特性は下図グラフ参照</p> <p>吐出管温度センサ特性はOKか</p> <p>NO →</p> <p>YES →</p> <p>●P805形</p> <p>温度-抵抗特性</p> <p>●P1125～P1605形</p> <p>温度-抵抗特性</p>	<p>コネクタを確実に接合する</p> <p>吐出管温度センサ不良→交換</p> <p>室外制御基板不良→交換 (吐出管温度センサ入力回路不良)</p>

注記：

表示 リモコン:E40	LED	緑	赤	内容 <b>63H1 作動</b>
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1 回点滅	

**1. 対象機種**  
全機種

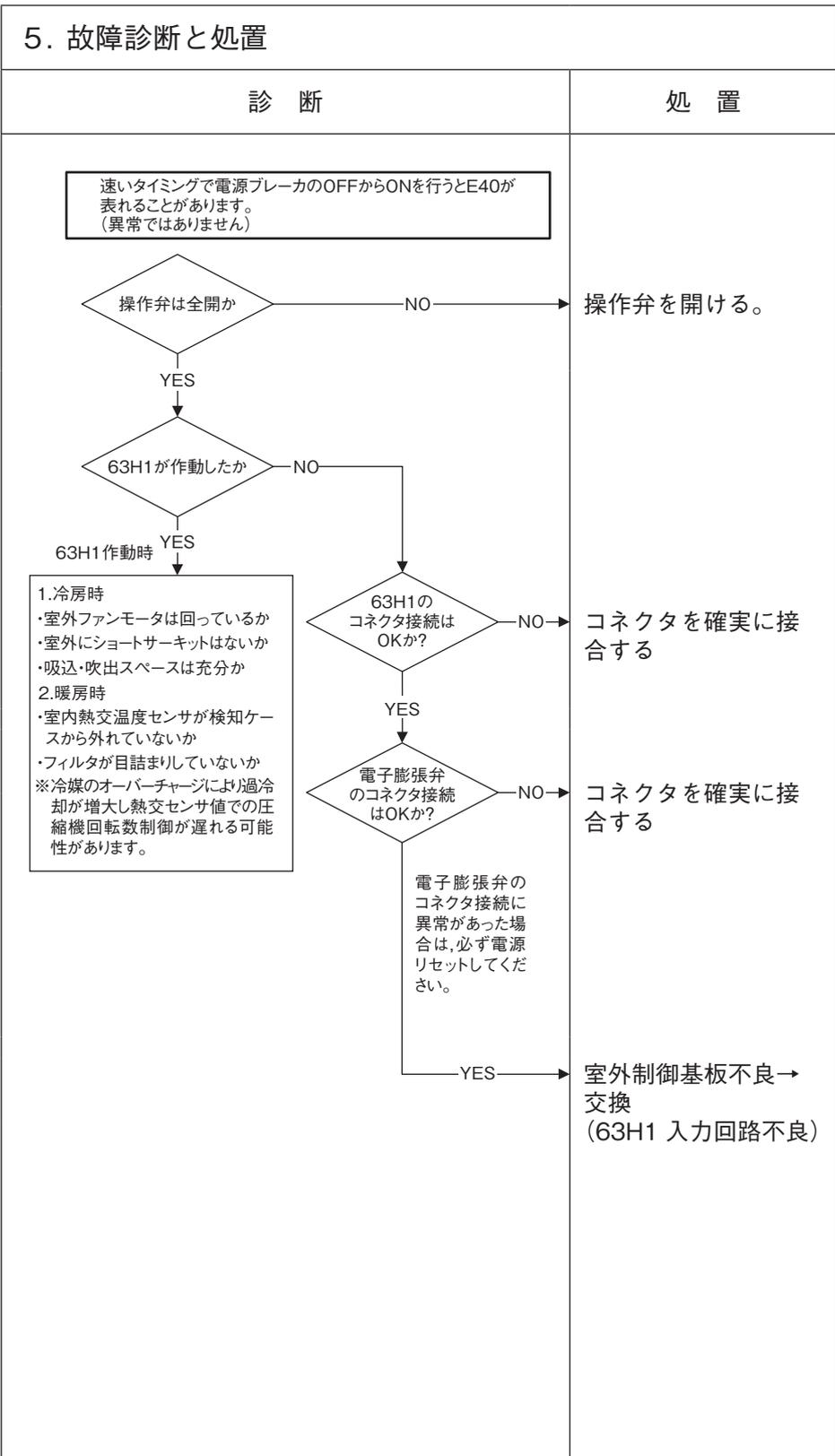
**2. 異常検出方法**  
高圧圧力スイッチ 63H1 が作動。

圧縮機停止  
圧縮機運転  
3.15 4.15  
高圧圧力 (MPa)

**3. 異常発生条件**  
63H1 が OFF(閉) すると圧縮機を停止します。3分遅延後、再始動しますが60分以内に5回作動した時、またはOFF(閉)の状態が連続60分間継続したとき。

**4. 予想原因**

- 凝縮器側熱交のショートサーキット／通風妨害／フィルタ詰り／ファンモータダウン
- 室外制御基板不良
- 63H1 コネクタ不良
- 電子膨張弁コネクタ不良
- 操作弁閉
- 不凝縮ガス(窒素等)の混合



注記：圧縮機保護始動域(電源 ON1 回目の起動)では、63H1 が OFF した場合一回目の作動で異常表示とします。

表示 リモコン:E41	LED	緑	赤	内容 パワートランジスタ 電源電圧低下
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

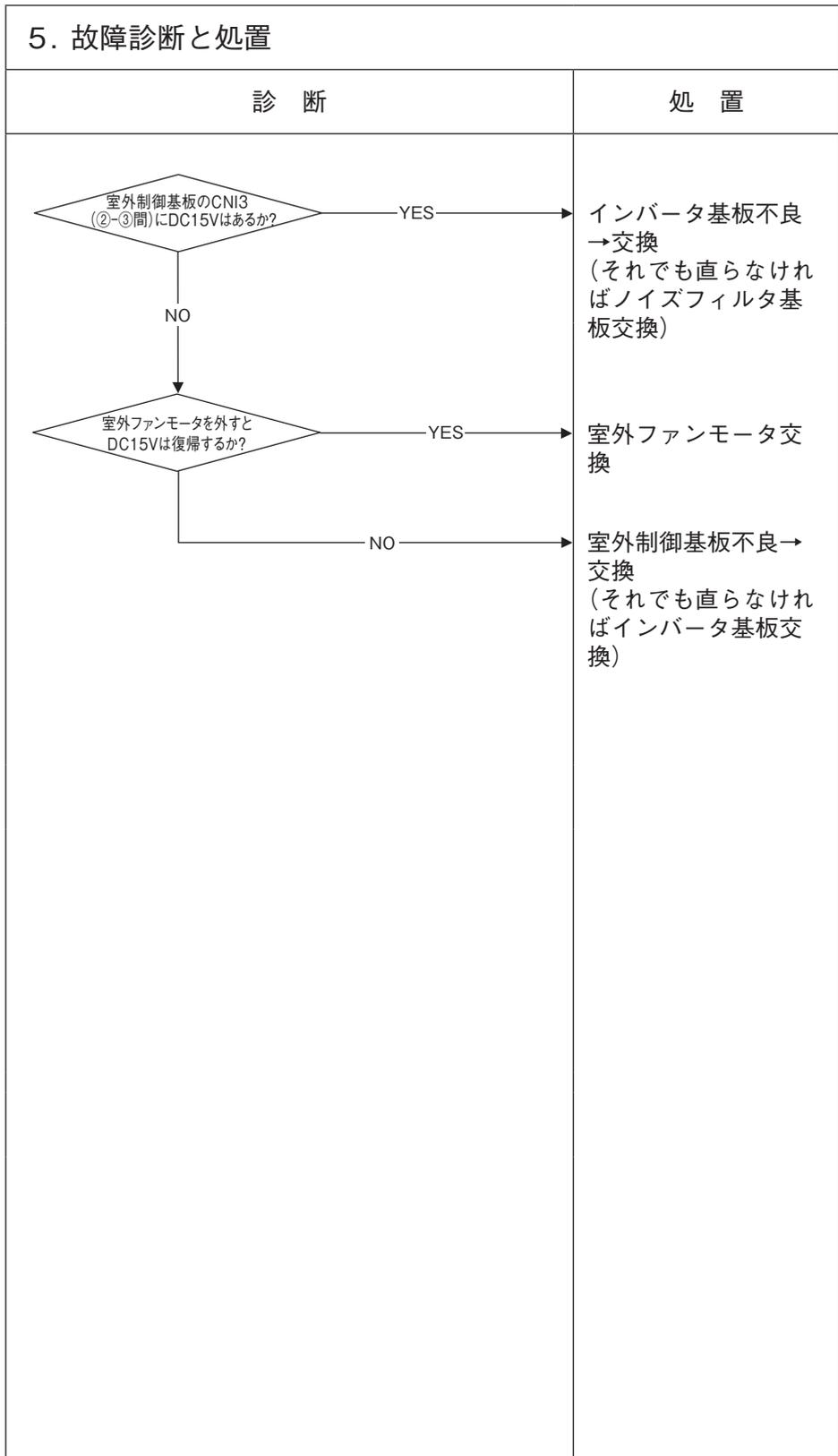
1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
パワートランジスタの電源低下 (DC15V 以下)。

3. 異常発生条件  
同上

4. 予想原因

- ・ 室外制御基板不良
- ・ インバータ基板不良
- ・ ノイズフィルタ基板不良
- ・ 室外ファンモータ不良



注記：

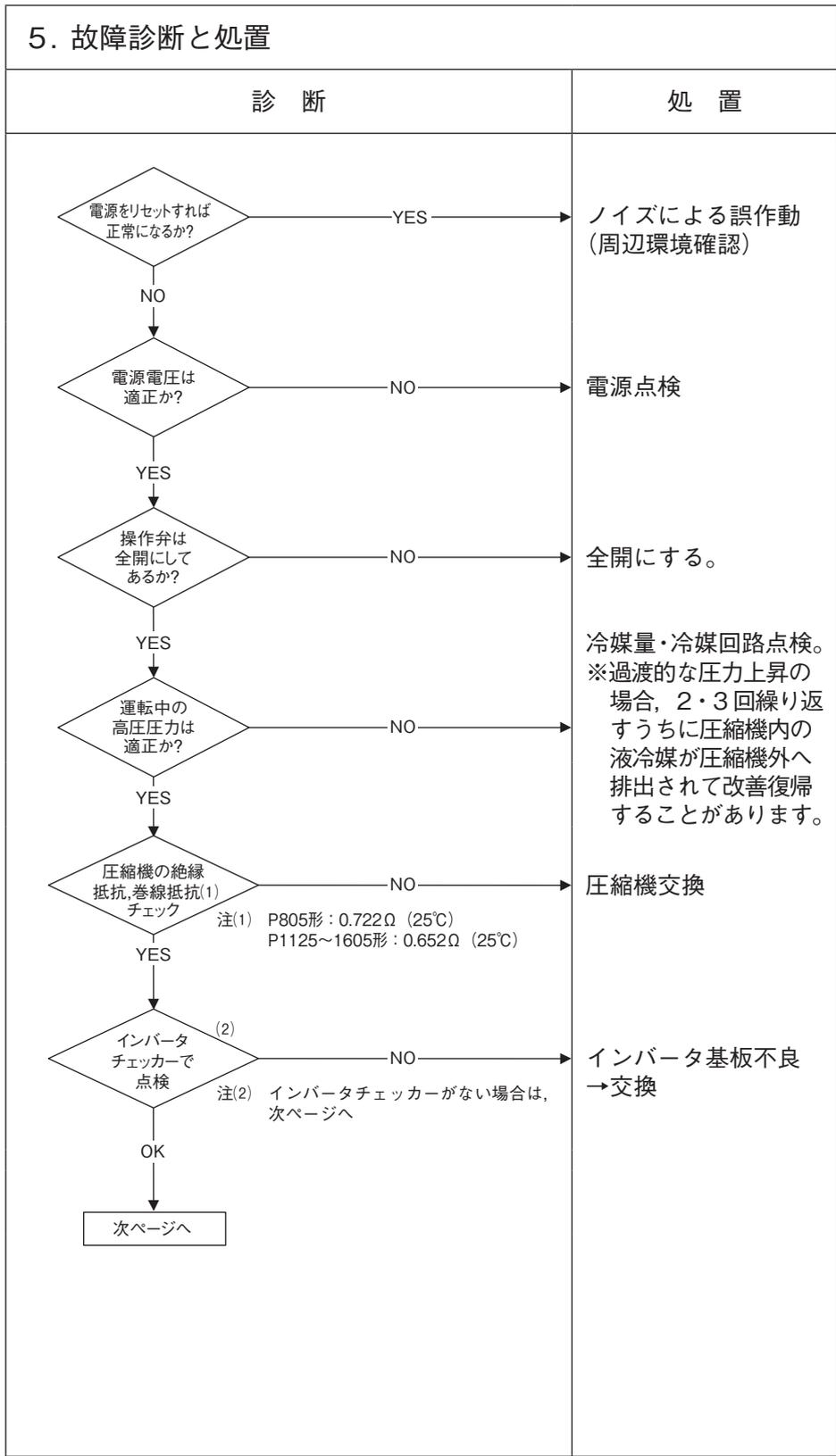
表示 リモコン:E42	LED	緑	赤	内容 カレントカット(その1)
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
インバータ部の過電流を防止、電流が設定値を超えると圧縮機を停止させます。

3. 異常発生条件  
インバータ出力電流が設定値を超えると圧縮機を停止します。3分遅延後、再始動しますが30分間に4回作動した時。

4. 予想原因  
・インバータ基板不良  
・電源不良  
・冷媒量不良  
・圧縮機不良  
・パワトラモジュール不良



注記：

表示 リモコン:E42	LED	緑	赤	内容 カレントカット(その2)
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

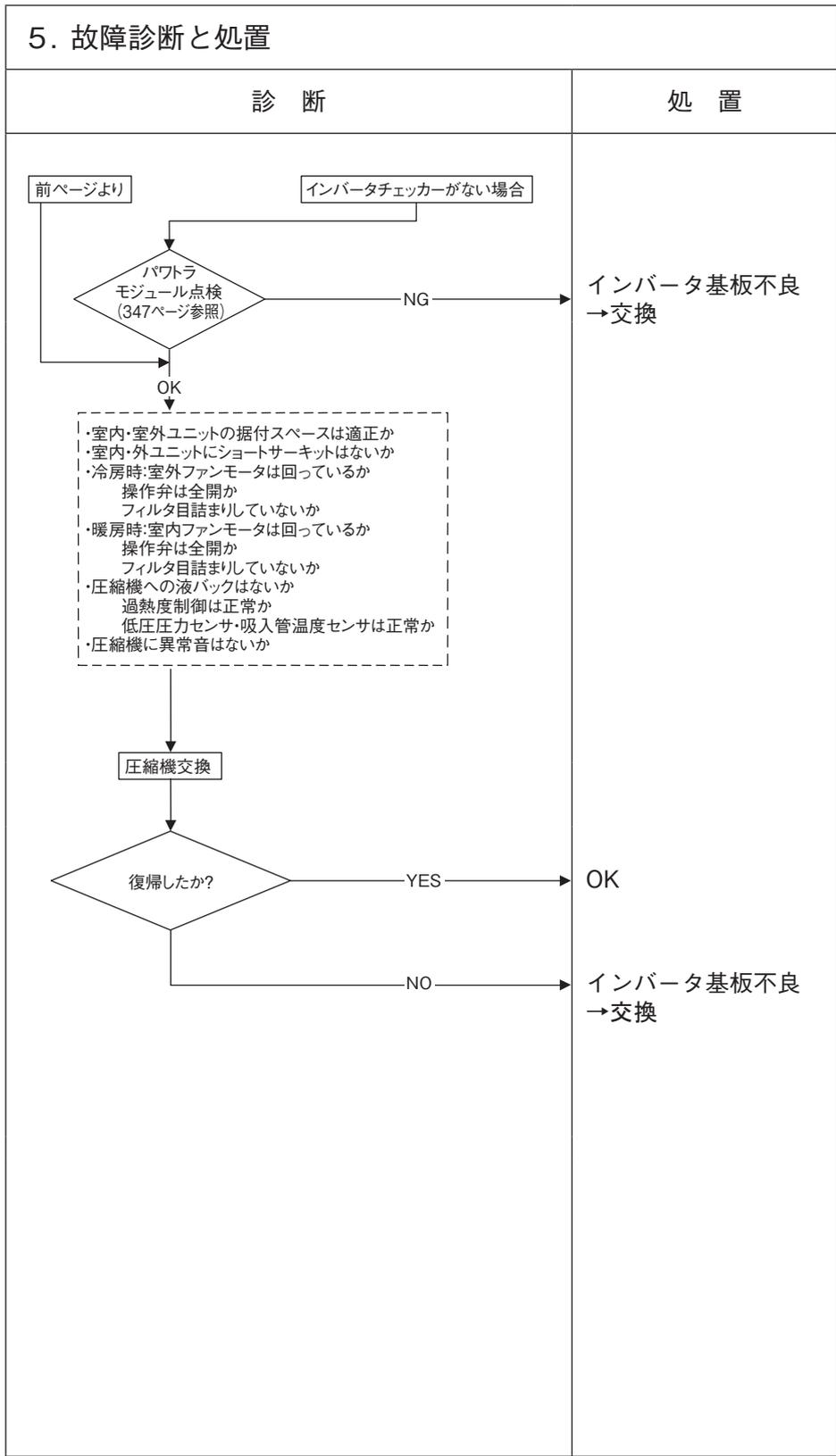
1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
インバータ部の過電流を防止、電流が設定値を超えると圧縮機を停止させます。

3. 異常発生条件  
インバータ出力電流が設定値を超えると圧縮機を停止します。3分遅延後、再始動しますが30分間に4回作動した時。

4. 予想原因

- ・インバータ基板不良
- ・電源不良
- ・冷媒量不良
- ・圧縮機不良
- ・パワトラモジュール不良



注記：

表示

リモコン:E45

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	1回点滅

内容

# インバータ通信異常

(FDCZP805形のみ)

## 1. 対象機種

FDCZP805形

## 2. 異常検出方法

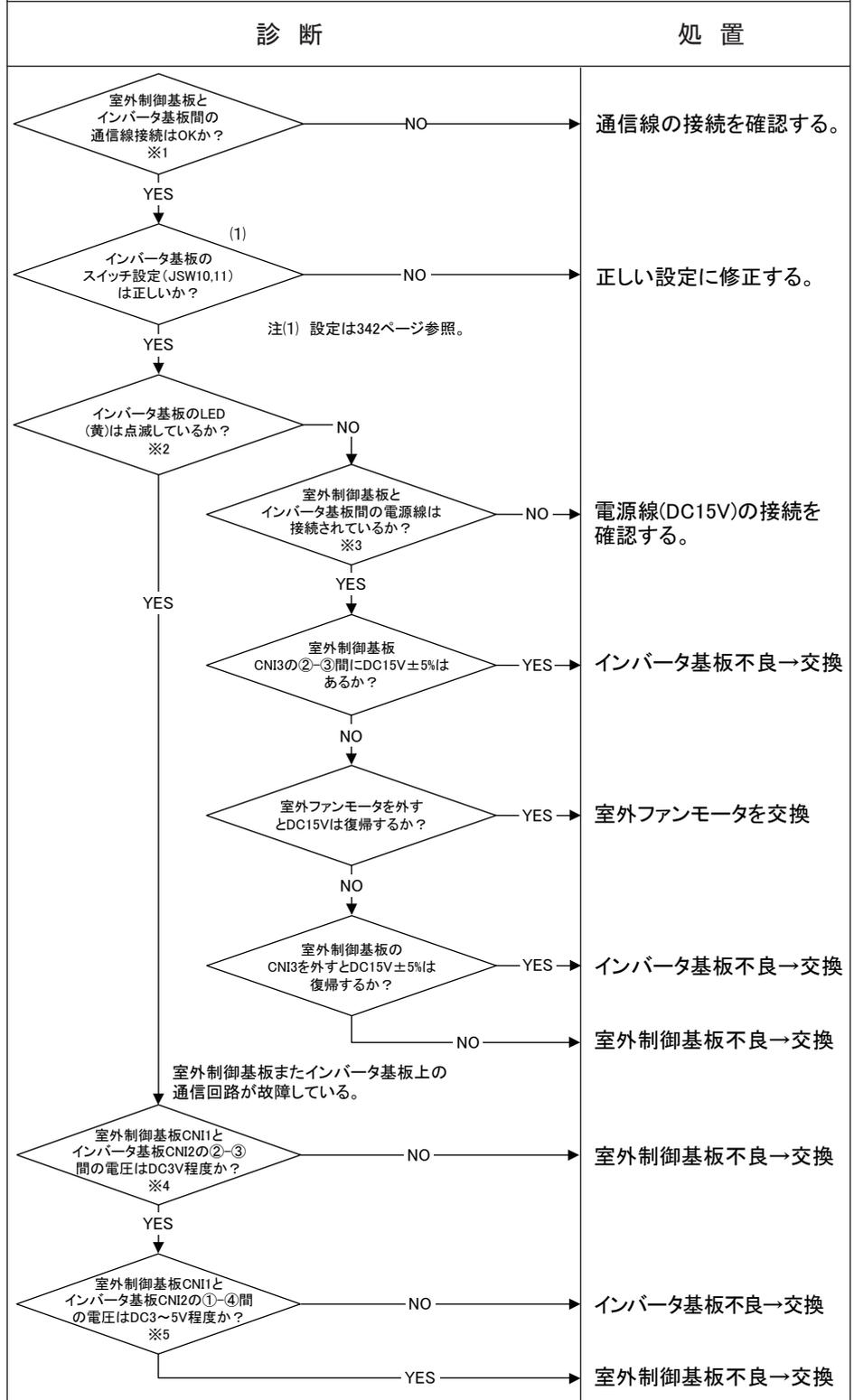
## 3. 異常発生条件

インバータ基板と室外制御基板間の通信が成立しないとき

## 4. 予想原因

- ・インバータ基板不良
- ・室外制御基板—インバータ基板間の配線接続不良
- ・室外ファンモータ不良
- ・室外制御基板不良

## 5. 故障診断と処置



注記: ※1 室外制御基板CnI1～インバータ基板CnI2の各ピン間の導通を確認する。 ※2 リセット後、運転状態を確認する。  
 ※3 室外制御基板CnI3～インバータ基板CnI4の各ピン間の導通を確認する。 ※4 テスタの測定レンジをACレンジにして測定する。  
 ※5 テスタの測定レンジをDCレンジにして測定する。

表示

リモコン: E45

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	1 回点滅

内容

# インバータ通信異常

(FDCZP1125 ~ 1605 形のみ)

## 1. 対象機種

FDCZP1125~1605形

## 2. 異常検出方法

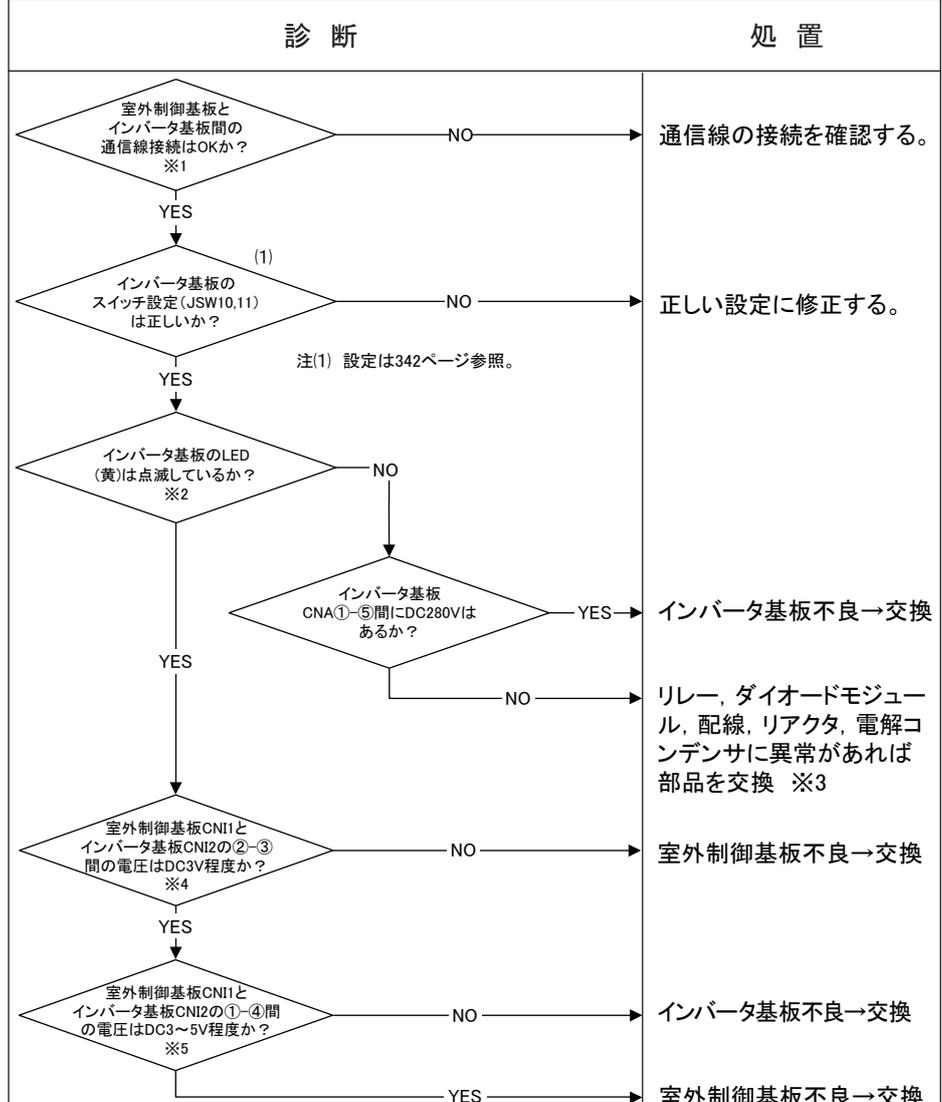
## 3. 異常発生条件

インバータ基板と室外制御基板間の通信が成立しないとき

## 4. 予想原因

- ・室外制御基板—インバータ基板間の配線接続不良
- ・インバータ基板不良
- ・室外制御基板不良
- ・リレー, ダイオードモジュール, 配線, リアクタ, 電解コンデンサ等の不良

## 5. 故障診断と処置



注記: ※1 室外制御基板CnI1~インバータ基板CnI2の各ピン間の導通を確認する。 ※2 リセット後, 運転状態を確認する。  
 ※3 下記部品の状態を確認する。リレーの溶着, ダイオードモジュールの短絡, 電解コンデンサの短絡, 配線の誤接続・損傷等。  
 ※4 テスタの測定レンジをACレンジにして測定する。 ※5 テスタの測定レンジをDCレンジにして測定する。

表示 リモコン：E47	LED	緑	赤	内容 <b>AF異常</b> (FDCZP805HK形のみ)
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

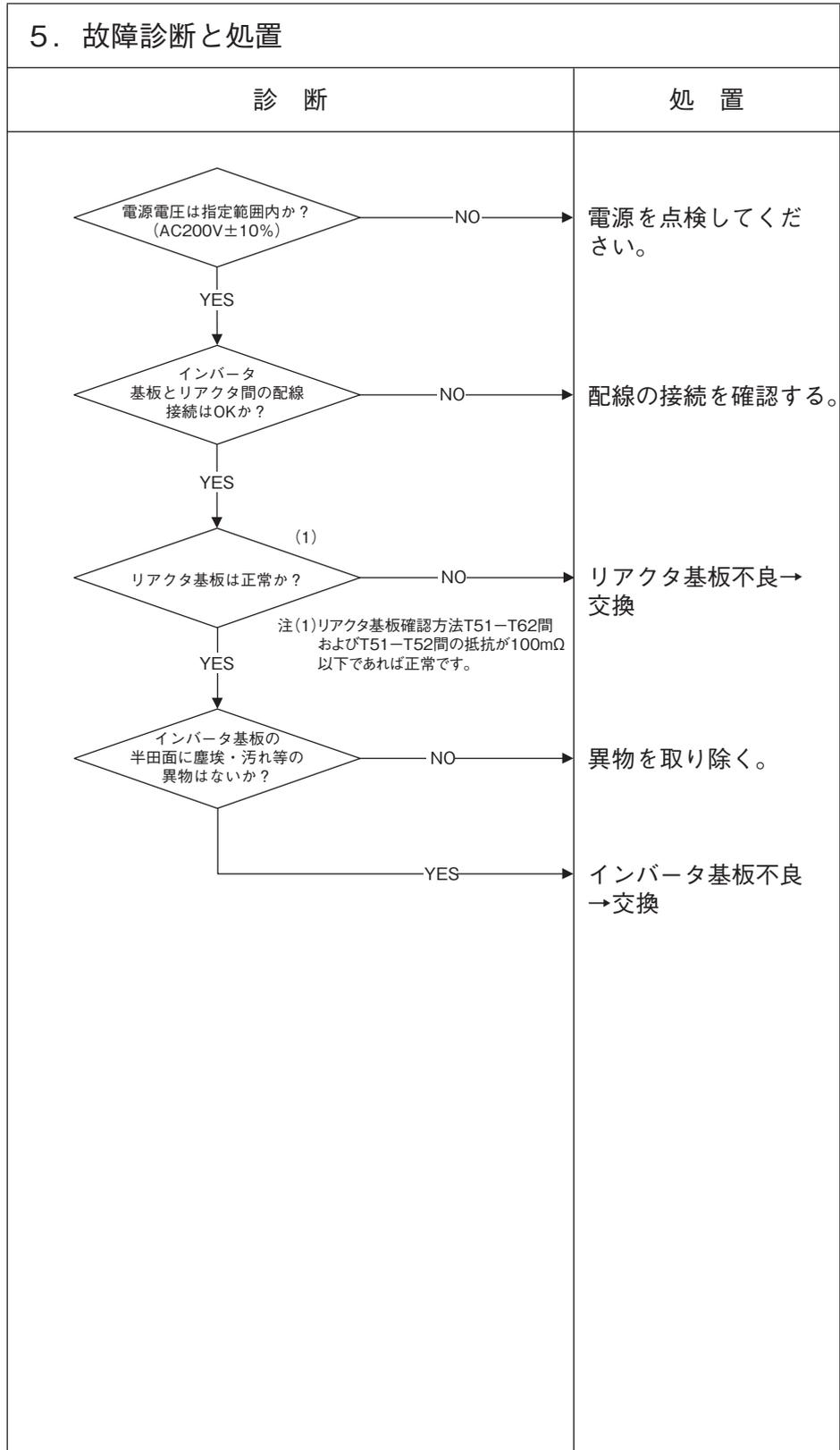
**1. 対象機種**  
FDCZP805HK形

**2. 異常検出方法**  
インバータ基板よりAF異常を60分間に4回検知,または15分継続した場合

**3. 異常発生条件**  
同上。

**4. 予想原因**

- ・インバータ基板不良
- ・接続配線不良
- ・リアクタ基板不良
- ・インバータ基板の塵埃



注記：

表示 リモコン:E47	LED	緑	赤	内容 <b>AF 異常</b> (FDCZP805H~1605H形のみ)
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1 回点滅	

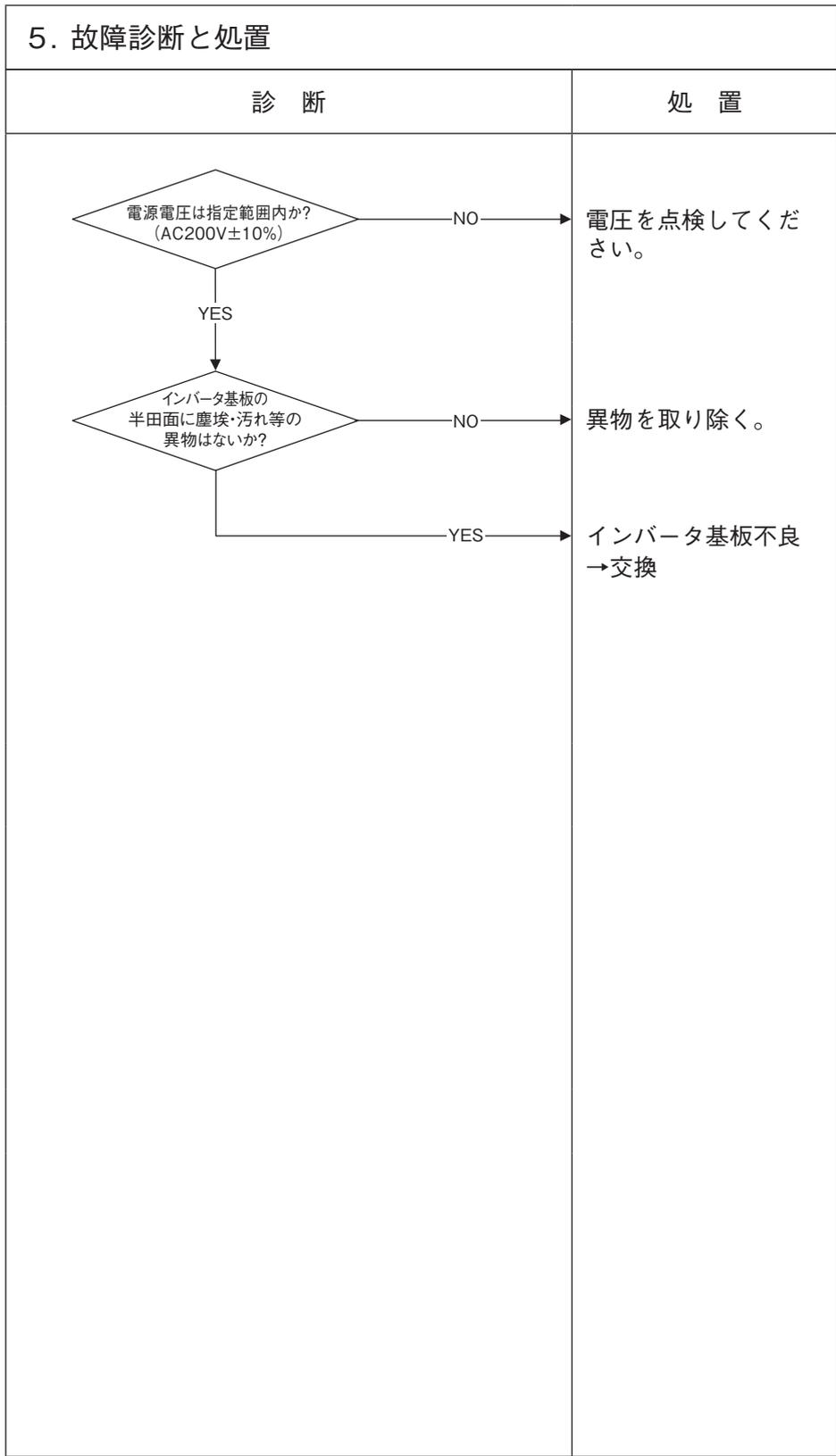
**1. 対象機種**  
FDCZP805H~1605H形

**2. 異常検出方法**  
インバータ基板より AF 異常を 60 分間に 4 回検知, または 15 分継続した場合

**3. 異常発生条件**  
同上。

**4. 予想原因**  

- ・インバータ基板不良
- ・インバータ基板の塵埃
- ・電源電圧異常



注記：

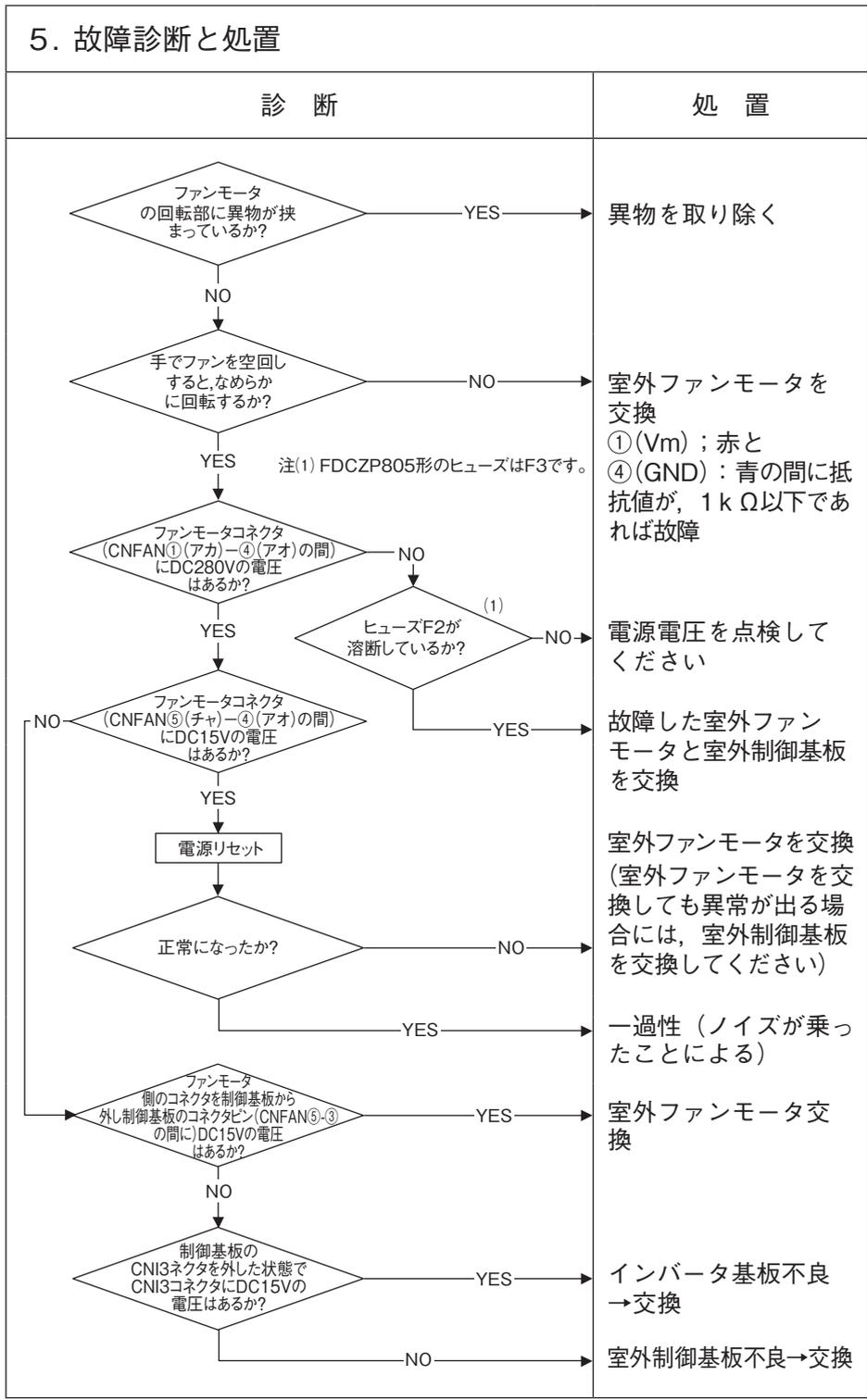
表示 リモコン:E48	LED	緑	赤	内容 室外ファンモータ不良
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
室外ファンモータ回転数

3. 異常発生条件  
室外ファンモータ (FMo1, 2) の実回転が 30 秒連続して  $100\text{min}^{-1}$  以下になると圧縮機、室外ファンモータを停止します。3分遅延後自動復帰しますが 60分以内に5回作動した場合。

4. 予想原因
- ・ 室外制御基板不良
  - ・ インバータ基板不良
  - ・ 室外ファンモータの回転部の異物
  - ・ 室外ファンモータ不良
  - ・ 制御基板の塵埃
  - ・ ヒューズ溶断
  - ・ 外来ノイズ、サージ



注記：E48発生時は、ほとんどの場合制御基板上的のF2ヒューズ (2A) [FDCZP805形:F3ヒューズ(2A)] が断線しています。ファンモータ破損により、ヒューズが断線してE48に至るケースが多く、制御基板 (ヒューズ) 交換のみを実施した場合には他のトラブル (※1) を発生するケースがありますのでヒューズ断線時には、必ずファンモータ故障の有無をチェックし、ファンモータ交換後に通電確認を実施してください。ファンモータ故障の有無未確認のまま電源投入しないでください。(※1：内機確認中表示/室外制御基板 LED 消灯、インバータ通信異常 (E45) といった、一見ファンモータ異常と関係の無い異常が発生します。)

表示 リモコン:E49	LED	緑	赤	内容 低圧圧力異常 または低圧 圧力センサ不良 (その1)
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1 回点滅	

**1. 対象機種**  
全機種

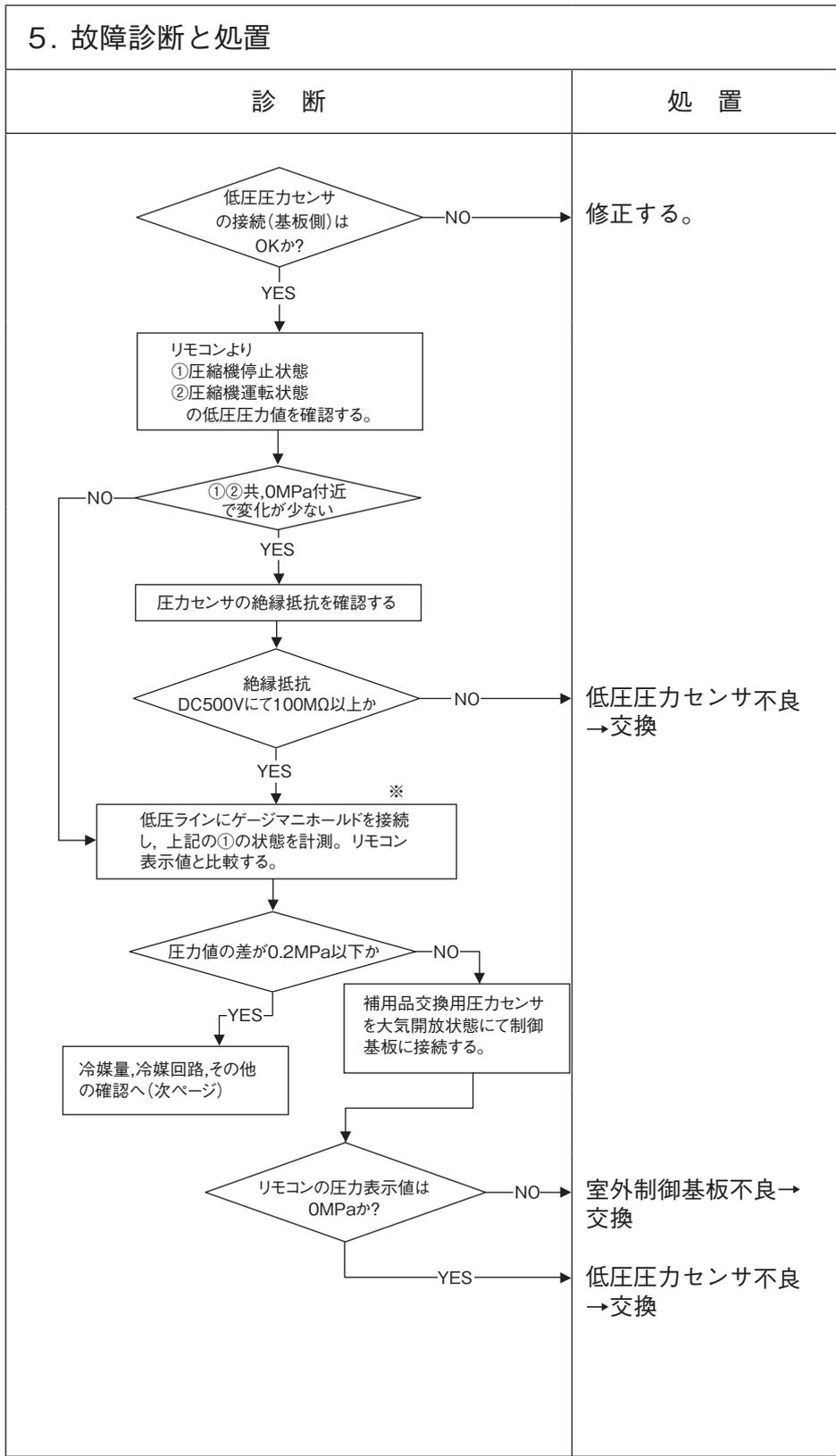
**2. 異常検出方法**  
低圧圧力の低下, 吸入過熱度の検知

**3. 異常発生条件**

①低圧センサが 0.079MPa 以下を連続 15 秒間検知 (3 分遅延後自動復帰) が 60 分以内に 3 回成立した場合に表示。  
 ②圧縮機始動 10 分経過以降且つ低圧センサが 0.15MPa 以下を連続 60 秒間検知且つ圧縮機吸入過熱度が 30℃以上を連続 60 秒間が, 60 分以内に 3 回発生した場合に表示。  
 ③低圧センサが 0.079MPa 以下を連続 5 分間検知 (圧縮機停止中含む) が成立した場合即表示。

**4. 予想原因**

- ・ 室外制御基板不良
- ・ 低圧圧力センサコネクタ不良
- ・ 低圧圧力センサ不良
- ・ 吸入管温度センサコネクタ不良
- ・ 吸入管温度センサ不良



注記：※ゲージマニホールドは, 冷房時は操作弁チェックジョイント, 暖房時は室外ユニット機械室内より取出しているチェックジョイントに接続。

表示 リモコン:E49	LED	緑	赤	内容 低圧圧力異常 または低圧 圧力センサ不良 (その2)
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1 回点滅	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
低圧圧力の低下, 吸入過熱度の検知

3. 異常発生条件

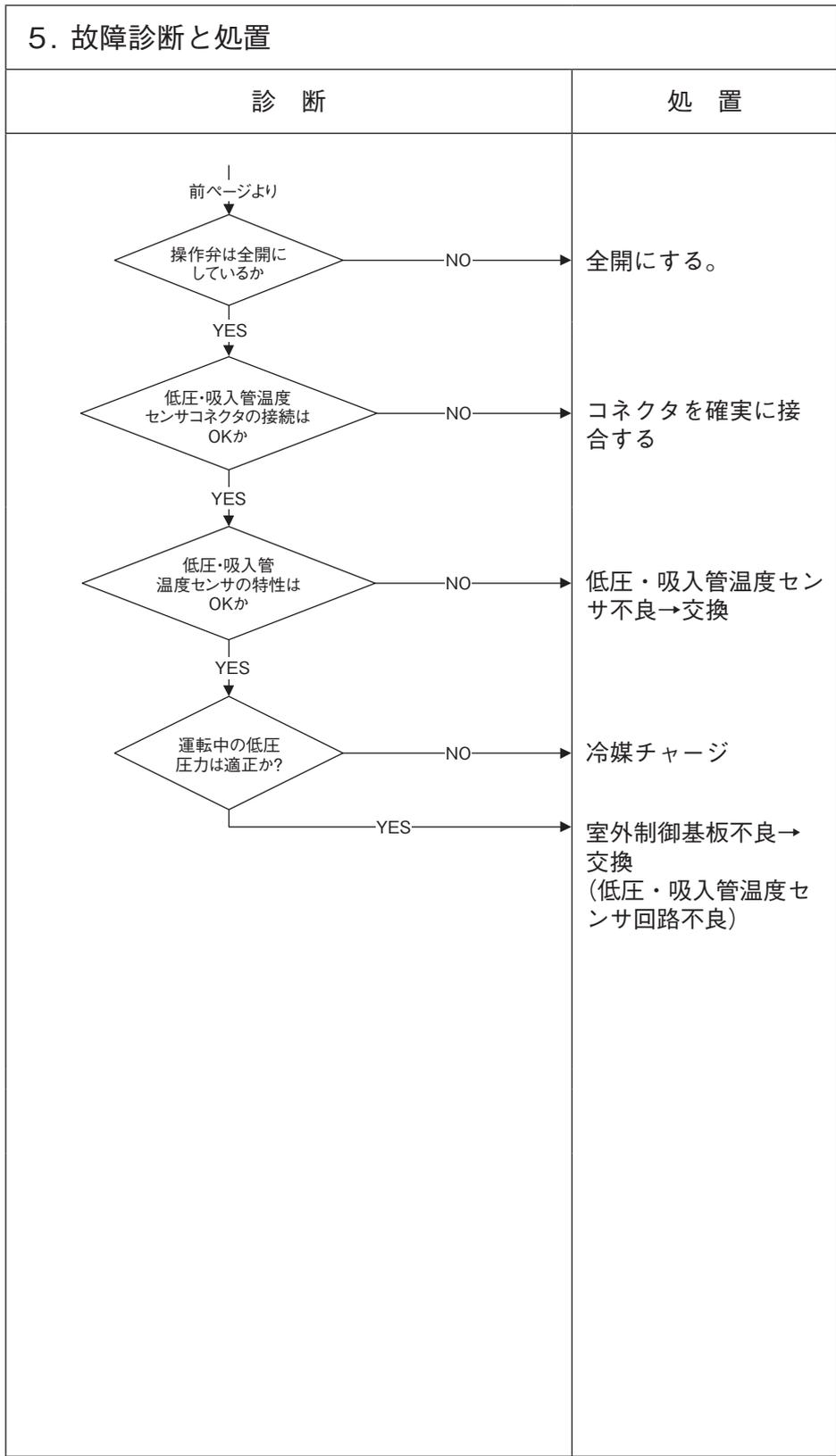
①低圧センサが 0.079MPa 以下を連続 15 秒間検知 (3 分遅延後自動復帰) が 60 分以内に 3 回成立した場合に表示。

②圧縮機始動 10 分経過以降且つ低圧センサが 0.15MPa 以下を連続 60 秒間検知且つ圧縮機吸入過熱度が 30℃以上を連続 60 秒間が, 60 分以内に 3 回発生した場合に表示。

③低圧センサが 0.079MPa 以下を連続 5 分間検知 (圧縮機停止中含む) が成立した場合即表示。

4. 予想原因

- ・ 室外制御基板不良
- ・ 低圧圧力センサコネクタ不良
- ・ 低圧圧力センサ不良
- ・ 吸入管温度センサコネクタ不良
- ・ 吸入管温度センサ不良



注記：

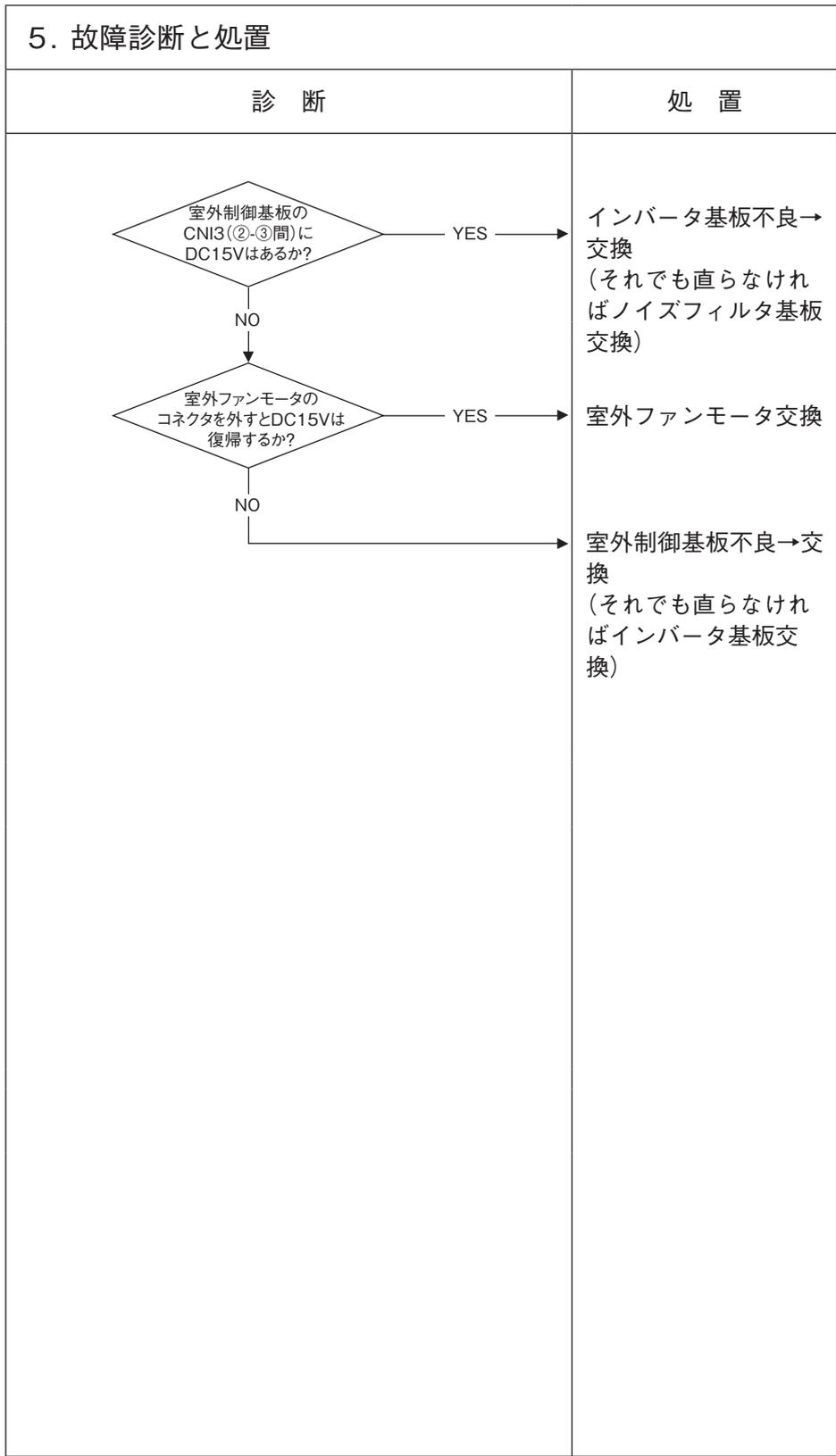
表示 リモコン:E51	LED	緑	赤	内容 インバータ・室外ファンモータ異常
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
パワートランジスタ異常が15分継続した場合

3. 異常発生条件  
同上

4. 予想原因  
・ 室外ファンモータ不良  
・ インバータ基板不良  
・ 室外制御基板不良



注記：

表示 リモコン:E53	LED	緑	赤	内容 吸入管温度センサ不良
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

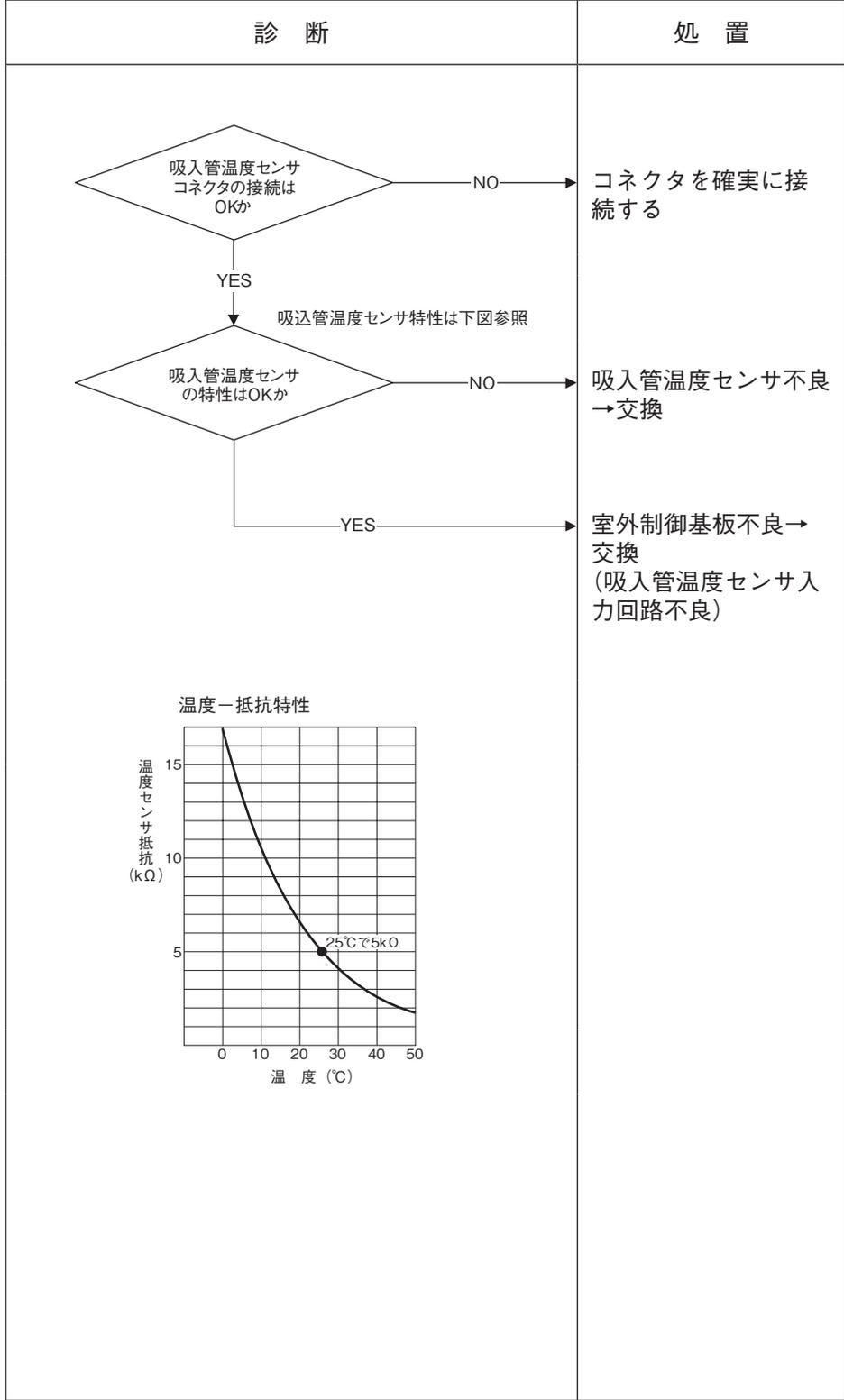
1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
吸入管温度センサの異常低温（抵抗）の検知

3. 異常発生条件  
圧縮機 ON 後 10 分から 10 分 20 秒の間に温度センサが  $-50^{\circ}\text{C}$  以下を連続 5 秒間検知すると圧縮機を停止, 3 分遅延後に圧縮機を再起動させ 40 分に 3 回検知した場合。

4. 予想原因
- ・吸入管温度センサ接続不良
  - ・吸入管温度センサ不良
  - ・室外制御基板不良

5. 故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:E54	LED	緑	赤	内容 低圧圧力センサ不良
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

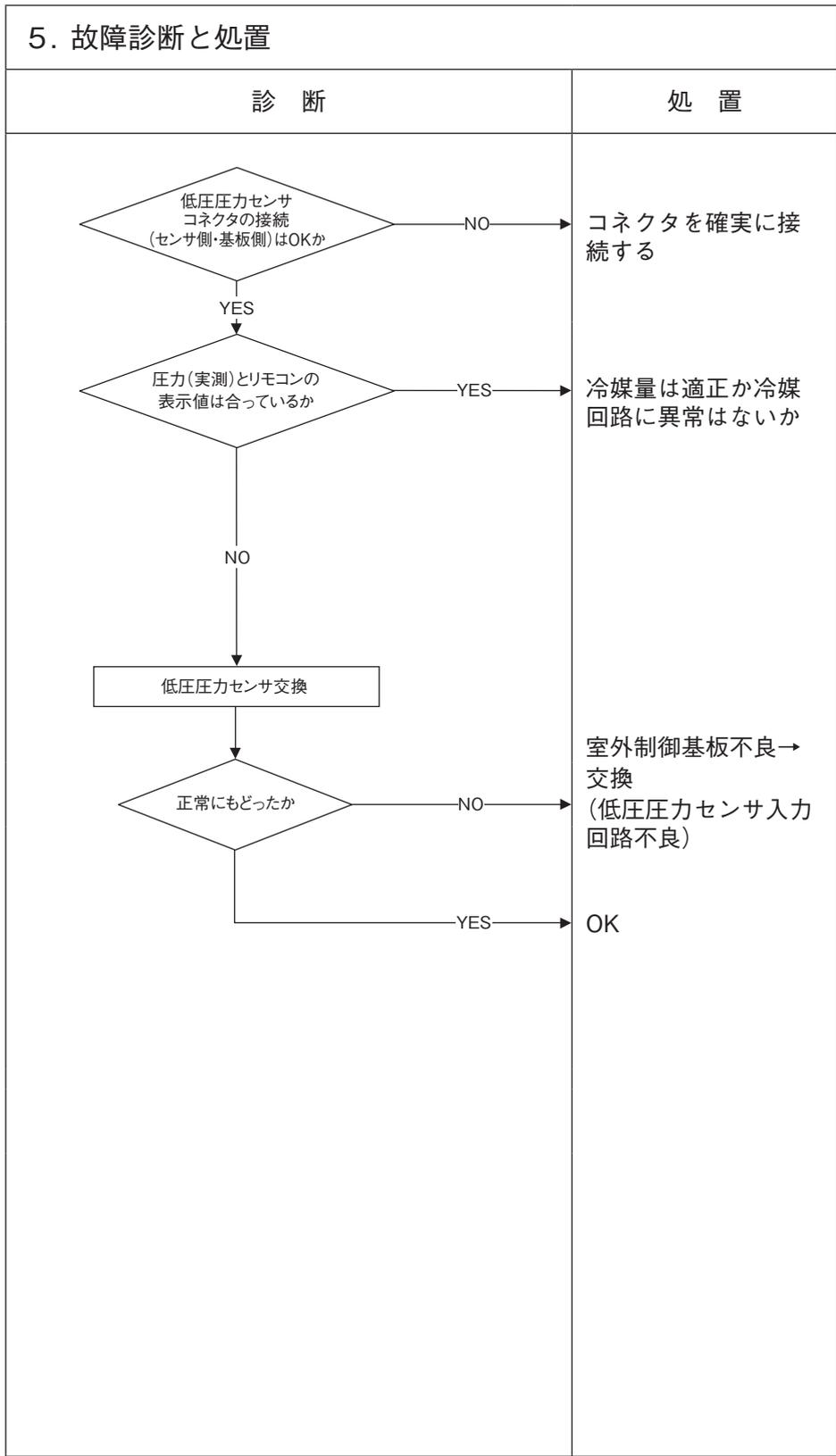
1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
異常電圧（圧力）の検出

3. 異常発生条件  
圧縮機 ON 後 2 分～2 分 20 秒の間に圧力センサが DCOV 以下および 4.0V 以上を連続 5 秒検知すると圧縮機を停止, 3 分遅延後に圧縮機を再起動させ 40 分に 3 回検知した場合。

4. 予想原因

- ・低圧圧力センサ接続不良
- ・低圧圧力センサ不良
- ・室外制御基板不良
- ・冷媒量不適格
- ・冷媒回路異常



注記：

表示 リモコン:E57	LED	緑	赤	内容 冷媒量不足または操作弁閉検出
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法

- ・室内熱交温度 (Thi-R) と吸込温度 (Thi-A) の差を検知しガスロー状態を判断します。
- ・ブレーカ電源投入より1回目の冷房・除湿起動時のみ検出します。

3. 異常発生条件

冷媒量不足異常を60分以内に1回検知した場合。

4. 予想原因

- ・室内熱交温度センサ不良
- ・吸込温度センサ不良
- ・室内制御基板不良
- ・冷媒不足

5. 故障診断と処置

診断	処置																
<p>操作弁は全開にしているか</p> <p>NO → 全開にする。</p> <p>YES ↓</p> <p>室内熱交・吸込温度センサコネクタの接続はOKか</p> <p>NO → コネクタを確実に接続する</p> <p>YES ↓</p> <p>室内熱交・吸込温度センサ特性はOKか <small>室内熱交・吸込温度センサ特性は下図参照</small></p> <p>NO → 室内熱交・吸入温度センサ不良 → 交換</p> <p>YES ↓</p> <p>運転中の低圧圧力は適正か?</p> <p>NO → 冷媒チャージ</p> <p>YES → 室内制御基板不良 → 交換 (室内熱交・吸入温度センサ入力回路不良)</p>																	
<p>室内熱交・吸込温度センサ温度-抵抗特性</p> <table border="1"> <caption>室内熱交・吸込温度センサ温度-抵抗特性</caption> <thead> <tr> <th>温度 (°C)</th> <th>温度センサ抵抗 (kΩ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>40</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>50</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	温度 (°C)	温度センサ抵抗 (kΩ)	0	15	10	10	20	7	25	5	30	4	40	3	50	2	
温度 (°C)	温度センサ抵抗 (kΩ)																
0	15																
10	10																
20	7																
25	5																
30	4																
40	3																
50	2																

注記：冷媒量不足の保護制御は圧縮機始動から冷房・除湿：1分、暖房9分経過後に室内熱交温度 (Thi-R) と吸込温度 (Thi-A) の差を検知しガスロー状態を判断し圧縮機を停止します。(冷房：吸込温度 (Thi-A) - 室内熱交温度 (Thi-R)  $\geq$  4deg, 暖房：室内熱交温度 (Thi-R) - 吸込温度 (Thi-A)  $\leq$  4deg)

表示 リモコン：E58	LED	緑	赤	内容 <b>圧縮機脱調異常</b>
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

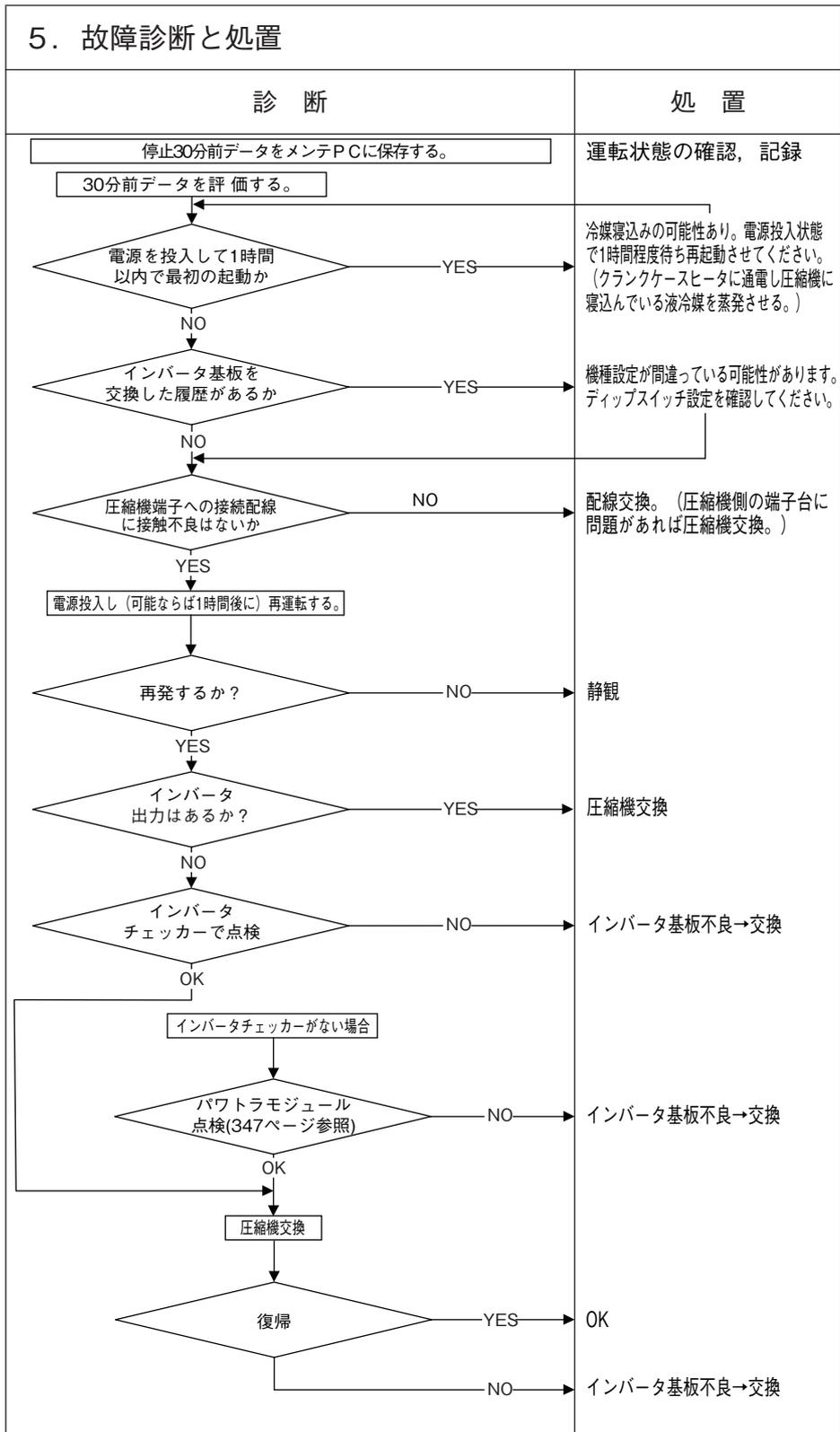
1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
E58発生

3. 異常発生条件  
15分以内に4回成立した場合

4. 予想原因

- ・ 起動前の通電時間不足 (クランクケースヒータ未通電による起動)
- ・ 圧縮機不良
- ・ インバータ基板不良
- ・ パワトラ不良



注記： ※1 測定箇所 C19の+-間  
 ※2 測定箇所 P-U,P-V,P-W,N-U,N-V,N-W,P-N間の抵抗値を確認する。(圧縮機の配線を外して確認すること。)  
 再現しない場合は、メンテPCを接続しデータ取得を継続する。(各地区の技術課が管理する。)

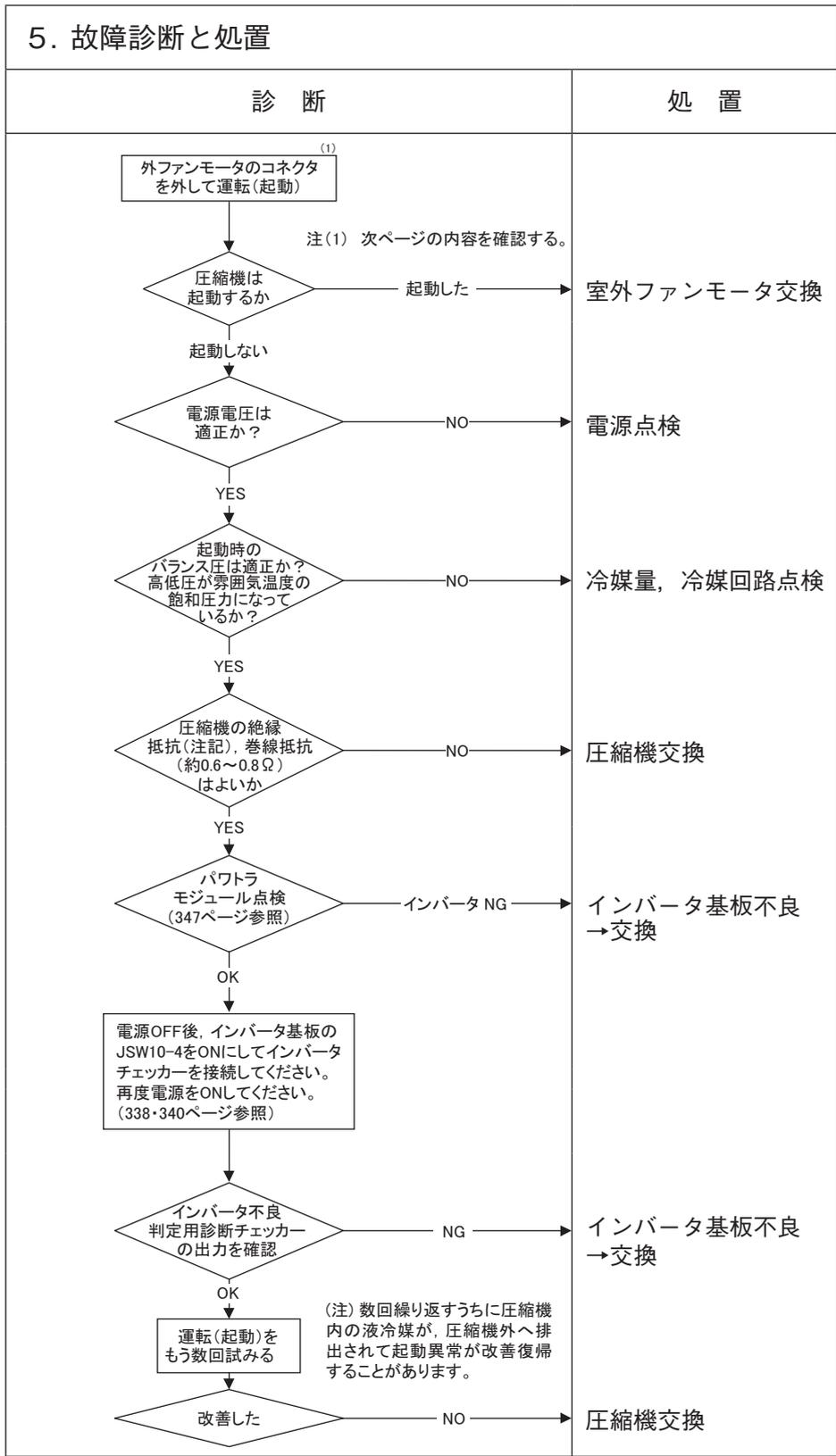
表示 リモコン:E59	LED	緑	赤	内容	圧縮機起動異常
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	5回点滅		

1. 対象機種  
全機種

2. 異常検出方法  
圧縮機モータのロータ位置検出運転 (11Hz 以上) に移行できない。

3. 異常発生条件  
起動 10 回トライを 5 セット実施しても起動できない場合。3 分経過後にリモコンリセット可能。

4. 予想原因  
・ 室外ファンモータ不良  
・ インバータ基板不良  
・ 電源電圧異常  
・ 冷媒量・冷媒回路不適合  
・ 圧縮機不良 (モータ, 軸受け)



注記：絶縁抵抗について  
● 据付け直後、もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合、圧縮機に冷媒が溜まることにより、絶縁抵抗が数 MΩ まで低下することがあります。絶縁抵抗が小さく、漏電ブレーカーが作動する場合は、以下の事項を確認してください。  
① 電源を投入し、6 時間程度経過後、絶縁抵抗が復帰するか確認する。  
② 電源を投入することにより、圧縮機に通電加熱を行い、圧縮機に溜まった冷媒を蒸発させます。  
③ 漏電ブレーカーが高調波対応品であるか確認する。  
本機はインバータを装備しており、漏電ブレーカーの誤作動を防止するため、高調波対応品を使用してください。

表示 リモコン:E59	LED	緑	赤	内容 <b>圧縮機起動異常</b>
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	5回点滅	

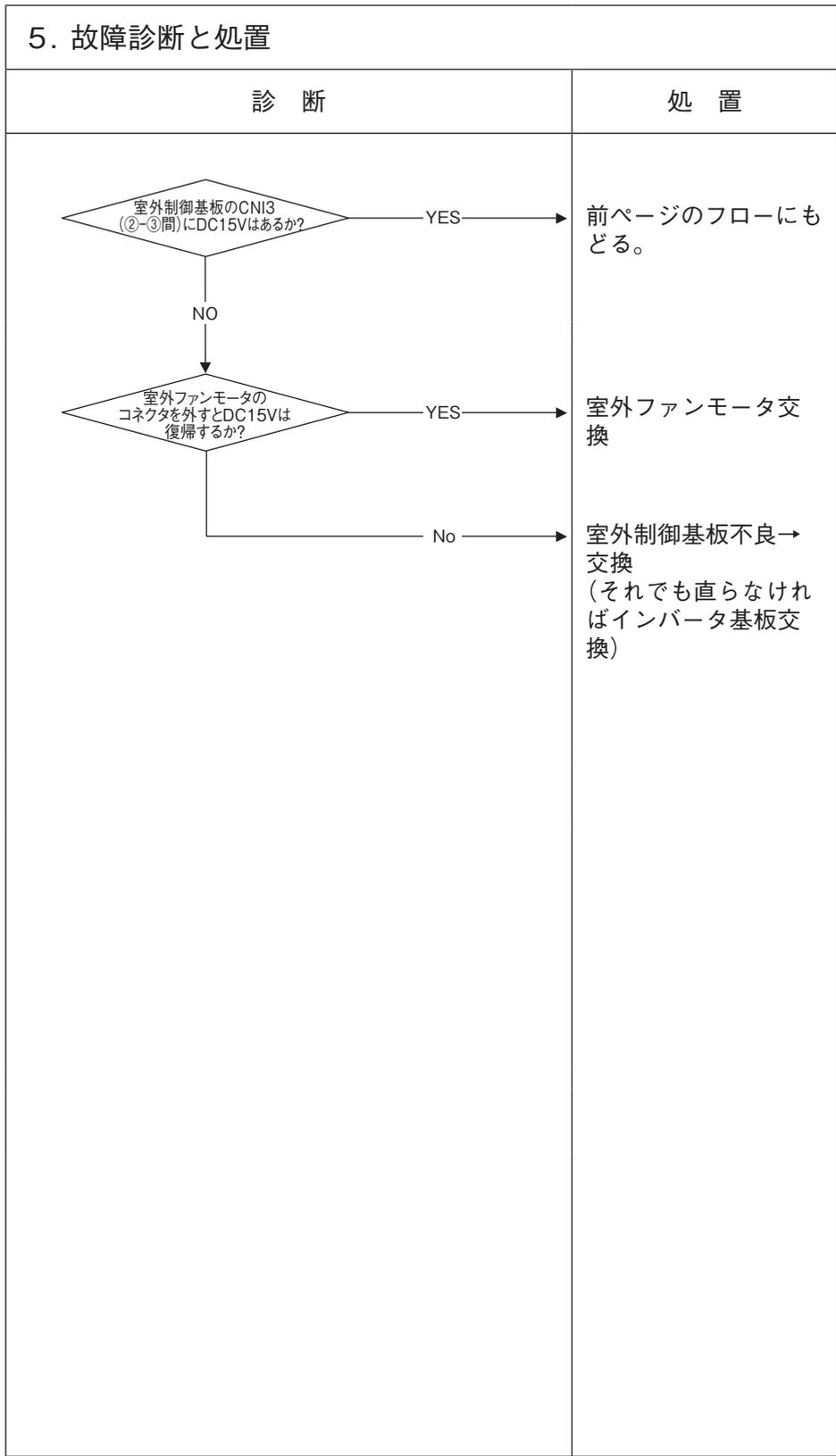
**1. 対象機種**  
全機種

**2. 異常検出方法**  
圧縮機モータのロータ位置検出運転 (11Hz 以上) に移行できない。

**3. 異常発生条件**  
起動 10 回トライを 5 セット実施しても起動できない場合。3 分経過後にリモコンリセット可能。

**4. 予想原因**

- ・ 室外ファンモータ不良
- ・ インバータ基板不良
- ・ 室外制御基板不良



注記：

# 16. 耐重塩害仕様室外ユニット

耐重塩害仕様室外ユニットを受注生産品としてシリーズ化しています。商品ご注文時、耐重塩害仕様室外ユニットとしてご注文してください。

●形式記号 (例) FDCZSP1405H  
└───┬─── 耐重塩害仕様

(1) 形式

FDCZSP805HK, 805H, 1125H, 1405H, 1605H

(2) 仕様

耐重塩害仕様室外ユニットは離島・沖縄地区等の海岸線に近く直接潮風の当たらない場所に設置できる仕様ですが、設置に当たっては下記の事項に留意してください。

(3) 据付時のご注意

- (a) 建物の風下や軒下等に設置してください。
- (b) 海岸線に設置する場合は、直接潮風が当たらないように防風板等を設けてください。
- (c) 水はけのよい場所に設置してください。
- (d) 据付け時についた傷は補修してください。
- (e) 取外したサービスパネルの取付けねじは、作業終了後に確実に締付けられていることを確認してください。

(4) メンテナンス時のご注意

シーズンオフなどで長期間ユニットを停止する場合は、ユニットにカバーを掛ける等の処置をしてください。

部 品 名		仕 様	
外 板		塗装用亜鉛メッキ鋼板+塗装 (総合塗膜厚さ70μ以上)	下塗：カチオン電着塗装 上塗：ポリエステル系塗料粉体塗装 ※塗装色 スタッコホワイト (マンセル4.2Y7.5/1.1近似)
底 板		Zn-Al-Mg合金メッキ鋼板+塗装 (総合塗膜厚さ70μ以上)	下塗：カチオン電着塗装 上塗：ポリエステル系塗料粉体塗装 ※塗装色 スタッコホワイト (マンセル4.2Y7.5/1.1近似)
フィンガード, ファンガード		鉄線+樹脂コーティング	
ファン		プラスチック	
ファンモータ		亜鉛メッキ鋼板+プラスチック+防錆剤塗布	
モータベース		外板と同じ	
熱 交 換 器	フィン	高耐食仕様プレコートアルミ (青色)	
	配管	銅管+防錆剤塗布	
	側板	亜鉛メッキ鋼板+防錆剤塗布	
圧 縮 機		銅管・銅管+焼付塗装+防錆剤塗布	
アキュムレータ, レシーバ		銅管・銅管+焼付塗装+防錆剤塗布	
基 板	P80	制御、ノイズフィルタ基板 紙フェノール銅張積層板+防湿材塗布 インバータ基板 CEM3銅張積層板+防湿材塗布	
	P112~P160	全ての基板 CEM3銅張積層板+防湿材塗布	
電 装 品 箱		外板と同じ	
仕 切 板		外板と同じ	
操作弁ブラケット		外板と同じ	
ね じ	P80	外側：ステンレス+亜鉛コーティング+クロメート処理+フッ素コーティング ステンレス+亜鉛コーティング+アルミコーティング 内側：鉄鋼+亜鉛コーティング+クロメート処理 ステンレス+亜鉛コーティング+クロメート処理+フッ素コーティング ステンレス+ニッケルコーティング	
	P112~P160	外側：ステンレス+亜鉛コーティング+クロメート処理 (+フッ素コーティング) 鉄鋼+ジオメット処理 内側：ステンレス+亜鉛コーティング+クロメート処理 (+フッ素コーティング)	
他 (機能品, 銘板など)		標準機と同じ	

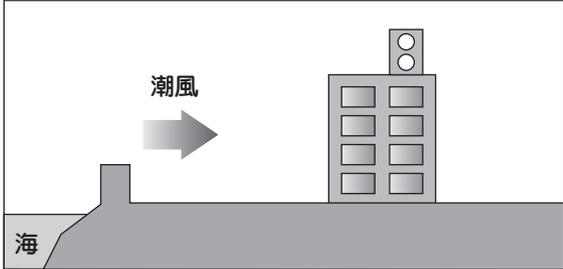
注(1) 「耐重塩害仕様」は、日本冷凍空調工業会標準規格JRA9002に基づいています。

(2) 上表にて 下線は、標準機仕様と異なる点を示します。

## (5) 据付上の注意(維持管理)

- (a) 海水飛沫および潮風に直接さらされることを極力回避するような場所へ設置してください。また、波しぶき等が直接かかる場所への設置は避けてください。
- (b) 外装パネルに付着した海塩粒子が雨水によって十分洗浄されるようにしてください。室外ユニットには日除け等を取付けないなど配慮してください。
- (c) 室外ユニット底板内への水の滞留は、著しく腐食状態を促進するため、底板内の水抜け性を損なわないように、傾き等に注意してください。
- (d) 海岸地帯への据付品については付着した塩分等を除去するために定期的に水洗いを行ってください。
- (e) 据付け、メンテナンス等に付いた傷は、補修してください。
- (f) 機器の状態を定期的に点検してください。必要に応じて再防錆処理や部品交換等を実施してください。
- (g) 基礎部分の排水性を確保してください。

## (6) 据付場所について

耐重塩害仕様	
据付場所	<p>潮風の影響を受ける場所 ただし、塩分を含んだ水が直接室外ユニットにかからない場所</p> 
設置場所条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 室外ユニットに雨があまりかからない場所</li> <li>• 潮風が直接当たる場所</li> <li>• 室外ユニットの設置場所から海までの距離が約300m以内にある場所</li> <li>• 室外ユニットが建物の表（海岸面）になる場所</li> <li>• 室外ユニット設置場所付近のトタン屋根、ベランダの鉄製部の塗り替え等が多い場所</li> </ul>

## (5) 設置距離目安

直接風が当たるところ(設置環境により条件が変わります)

設置する地域	設置距離目安		
	300m	500m	1km
内海に面する地域 ※1	H	L	-
外洋に面する地域	H	L	L
沖縄・離島	H	L	L

H:耐重塩害仕様 L:耐塩害仕様 ※1 瀬戸内海等

直接風が当たらないところ(設置環境により条件が変わります)

設置する地域	設置距離目安		
	300m	500m	1km
内海に面する地域 ※1	L	-	-
外洋に面する地域	H	L	L
沖縄・離島	H	L	L

H:耐重塩害仕様 L:耐塩害仕様 ※1 瀬戸内海等

# 17. 別売部品

PJF012D030

## (1) ワイヤレスキット

### (a) FDTZ シリーズ (RCNLA-T-5W, 5SB)

#### 警告

●配線は確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

#### 注意

●受信部に、直射日光や、強い照明等の光があたらないところに据付ける。  
●元電源を切った後に電気工事をする。感電、故障や動作不良の原因になります。

#### お願い

・取扱説明書を見ながらお客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかたをご指導ください。  
・ユニット本体およびパネルの据付け方法につきましてはそれぞれに同梱してあります据付説明書をご覧ください。

#### ① 付属品

次の付属品を確かめてください。

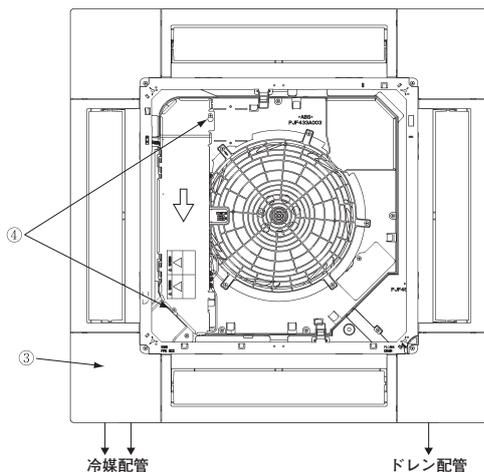
受信部		1	リモコンホルダー		1
リモコン		1	木ねじ		2
パーツセット		1	単4乾電池 (R03)		2

#### ② 受信部の取付け

本ワイヤレスキットの受信部は、パネルのコーナリッドと交換することにより取付け可能です。

##### 取付け前の準備

- ①パネルに付属の据付説明書に従って、パネルをユニット本体に取付けてください。
- ②吸込グリルを取外してください。
- ③冷媒配管部のコーナリッドを取外してください。
- ④ユニット本体の制御箱の蓋のねじ(2本)を緩め、図の矢印方向に蓋をスライドさせて取外してください。



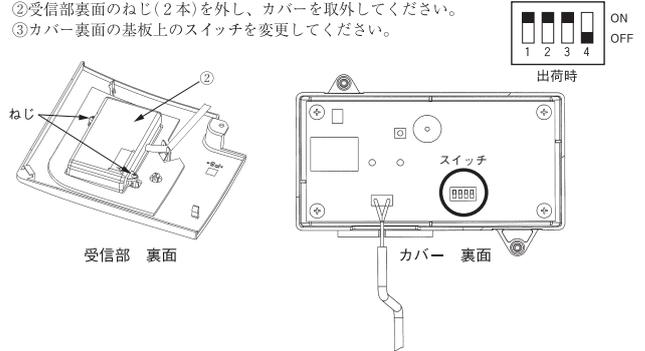
##### 現地設定

- ①受信部基板上的のスイッチの設定は以下の通りです。  
なお、出荷時の設定は□で囲まれた方になっています。

SW 1	混信による誤動作防止	ON: 通常 OFF: 切換
SW 2	受信部の親子切換	ON: 親 OFF: 子
SW 3	ブザー音の有無	ON: 有り OFF: 無し
SW 4	停電補償	ON: 有効 OFF: 無効

<設定を変更する場合>

- ②受信部裏面のねじ(2本)を外し、カバーを取外してください。
- ③カバー裏面の基板上的のスイッチを変更してください。



- ④SW 1をOFFにする場合はリモコン側も以下のように設定変更してください。

##### リモコンの設定変更

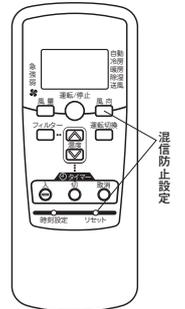
【風向】ボタンを押しながら【リセット】スイッチを押すか、【風向】ボタンを押しながら電池を投入すると設定が混信防止設定へ切り替わります。

##### ご注意

※一度電池を取外すと初期設定(工場出荷時設定)へ戻ります。電池を取外した時は、再度、上記操作を行ってください。

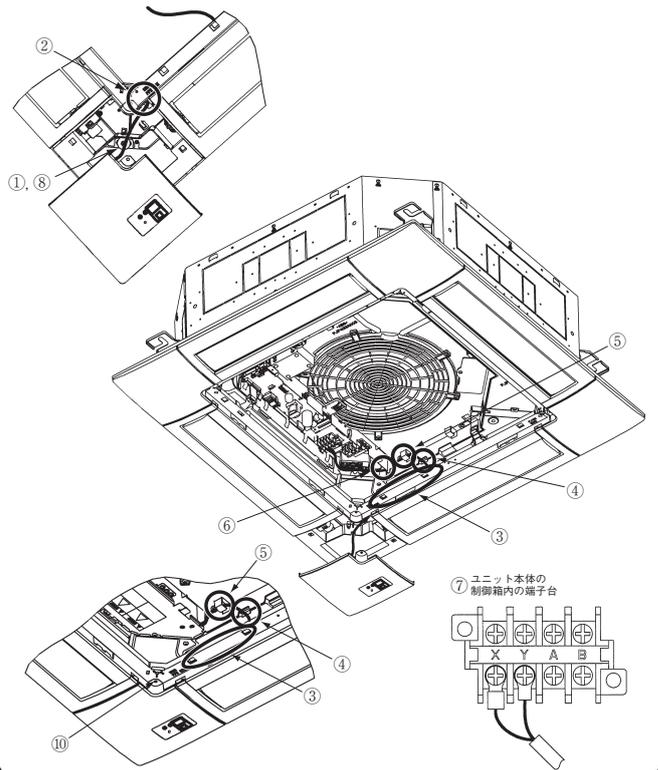
##### お願い

上記操作方法を必ずお客様に説明してください。



##### 受信部の取付け

- ①パネル固定用ボルトを緩めて、パネルとユニット本体との隙間を開けてください。
- ②受信部の配線を開口部に通してください。
- ③パネルのユニット側にあるフックに配線を引掛けてください。
- ④図の位置より配線を引出してください。
- ⑤配線をユニット本体のフックに引掛けてください。
- ⑥図の位置より配線を制御箱の中に通してください。
- ⑦配線の丸端子を制御箱内の端子台(X, Y)に接続してください。配線に極性はありません。
- ⑧パネル固定用ボルトを締めてください。
- ⑨受信部をパネルに取付けてください。
- ⑩パネルに付属のねじで受信部を固定してください。
- ⑪配線を噛み込まないように、ユニット本体の制御箱の蓋を取付け、ねじ(2本)を締めてください。



### ③ リモコン

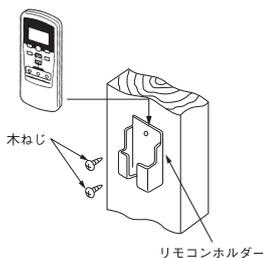
#### リモコンホルダーの据付け

##### お願い

- 次の位置は避けてください。
- 1) 直射日光の当たる場所
  - 2) 発熱器具の近く
  - 3) 湿気の多い所・水のかかる所
  - 4) 取付け面に凸凹がある所

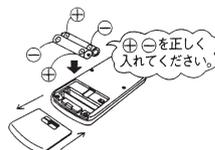
#### リモコンホルダー取付け時の注意

- ・垂直になるよう、調節してください。
- ・ねじ頭が出ないようにしてください。
- ・土壁等へは取付けしないでください。



#### 電池の入れ方

- ①裏フタを外します。
- ②乾電池を入れます。(単4 2本)
- ③裏フタを取付けます。

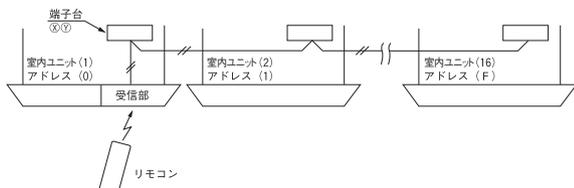


#### 1リモコンによる複数台室内ユニット制御

室内ユニット最大16台まで接続可能です。

- ①各室内ユニット間を2心の渡り線にて配線してください。渡り線については下記を参照願います。
- ②店舗シリーズの場合：ユニット本体の基板上のロータリースイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないように「0」～「F」に設定してください。

渡り線の太さと、長さの制限 (最大総長600m)	
標準	0.3 mm×100m以内
	0.5 mm×200m以内
	0.75mm×300m以内
	1.25mm×400m以内
	2mm×600m以内



- ③ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合：ユニット本体の基板上のロータリースイッチSW1, SW2、ディップスイッチSW5-2により、リモコン通信アドレスを重複しないように「000」～「127」設定してください。

#### 複数リモコン使用時の親子設定

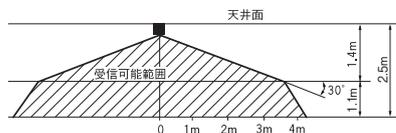
1つのグループに対して最大2個までのリモコンを接続できます。その際は2つのワイヤレスキットのいずれか一方の受信部の基板上のSW2をOFFにし、子機設定とする必要があります。

(切換えは、本説明書「**受信部の取付け**」の「**現地設定**」をご覧ください。)

#### ワイヤレスリモコンの操作距離

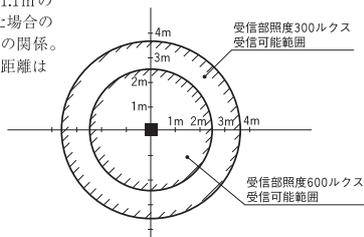
- ①標準的な受信距離

【条件】受信部照度300ルクス  
(一般事務所で室内ユニット周辺1m以内の天井面に照明がない場合)



- ②平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係

【条件】天井高さ2.5m、床面より1.1mの高さより、リモコン操作した場合の受信部照度と受信距離との関係。照度が2倍になると受信距離は2/3となる。



- ③複数台近接設置時の注意

【条件】受信部照度300ルクス  
(一般事務所で室内ユニット周辺1m以内の天井面に照明がない場合)  
【複数台近接設置】リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は5mです。

### ④ 自動運転の設定変更

ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ (除く冷暖フリーマルチ) は、自動運転ができません。これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。

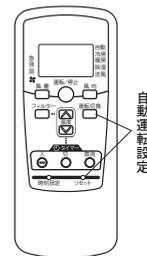
「**運転切換**」ボタンを押しながら「**リセット**」スイッチを押すか、「**運転切換**」ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

##### 注意

※一度電池を外すと初期設定(自動有効設定)に戻ります。電池を外した時は、再度、上記操作を行ってください。

##### お願い

上記操作方法を必ずお客様に説明してください。  
(操作方はユニット本体に付属の取扱説明書にも記載してあります。)



### ⑤ ラクリーナパネル

#### 電源周波数の設定変更

ラクリーナパネルに取付け時は、リモコンの電源周波数設定を必ず行ってください。(初期設定は60Hz)

- ①「**フィルター**」ボタンと「**風量**」ボタンを同時に3秒以上押すと周波数設定モードになります。
- ②設定温度表示部に現在の周波数設定が点滅表示されます。
- ③「**△**」ボタンを押すと「60」表示となり、「**▽**」ボタンを押すと「50」表示となります。
- ④周波数設定後、フィルターボタンを押すと、周波数が確定され、ユニット本体にデータが送信されます。約2秒間設定された周波数が点灯した後、元の表示に戻ります。

#### グリル降下長さの設定

ラクリーナパネルのグリル降下長さの設定は、詳細は本ワイヤレスキットに同梱されている「ワイヤレスリモコン室内機能設定説明書」を参照してください。(初期値は2.0m)

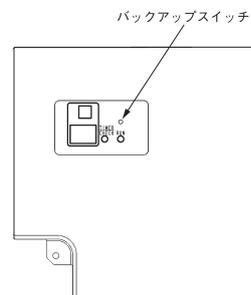
※一度設定した後は、ユニット本体の制御箱内のマイコンが記憶するため、ワイヤードリモコンを接続し続ける必要はありません。



### ⑥ バックアップスイッチ操作

受信部の表面にバックアップスイッチを装備しています。ワイヤレスリモコンで操作ができない場合(電池切れ、紛失、故障)に急应的に使用してください。操作は手で直接してください。

- (1) 停止中に押すことにより自動モード(冷専は冷房モード)で運転します。風量「急」温度設定「23℃」ルーバ「水平」
- (2) 運転中に押すことにより「停止」します。
- (3) 2秒以上押し続けてから離れた場合、ラクリーナパネル上昇となります。



### ⑦ 冷房試運転操作

- 安全を確認して元電源を投入してください。
- 受信部バックアップスイッチを押しながらいリモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付けの結線銘板の点検表示を参照し、点検してください。

### ⑧ 2桁表示の見方

受信部は2桁表示(7セグメント)を装備しています。

- (1) 表示は電源投入後1時間表示します。
- (2) リモコンから「**停止**」送信又は、バックアップスイッチ「**停止**」操作後3分間表示します。
- (3) 上記の表示は、運転開始とともに消灯します。
- (4) 異常履歴がない場合は接続台数分のアドレスを表示します。
- (5) 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
- (6) 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらいリモコンから「**停止**」送信によりクリアされます。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**【A】警告**の欄にまとめて記載していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**【B】注意**の欄にまとめて記載しています。しかし、**【A】警告**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。**【B】絶対に行わない** **【C】必ず指示に従う**
- 据付工事を完了後、設置転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法をお客様に説明してください。
- この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。  
ご自分で据付工事をされると不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この取扱説明書に従って確実に行う。  
据付けに不備があると、ケガの原因となり、また水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。  
当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、1電気設備に関する技術基準、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
電圧回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。  
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
- 改修は絶対に行ない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理、点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。  
点検、修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- パネルやガードを外した状態で運転しない。  
機器の回転部、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 充電済の電池を取り出した後に据付工を行う。  
感電、故障や動作不良の原因になります。

注意

- ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。  
ワイヤレスキット故障や発熱の原因になることがあります。
- (1) 直射日光の当たる場所 (2) 発熱器具の近く (3) 湿気の多い所・水のかかる所 (4) 取付面が発熱・結露する場所 (5) 油の飛沫や蒸気が接触しうる場所 (6) 取付面に凸凹がある場所 (7) 室内ユニットの取出し空気が当たる場所
- (8) 蛍光灯 (特にインバータタイプ) の近くあるいは、直接日光が受光アダプタに当たる場所 (9) 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所 (10) ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所
- リモコンの上ケースを取外したまま設置しない。  
上ケースを取外した場合は、内蔵の基板にゴミや水分等が付着しないように、梱包箱あるいは梱包袋に入れて保護してください。

1 付属品

次の付属品を確かめてください。

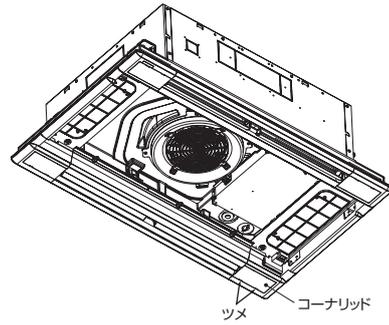
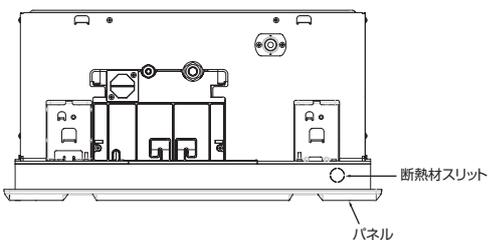
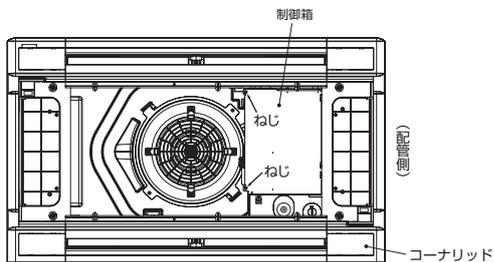
受信部	リモコン	リモコン用ホルダー	木ねじ	単4乾電池 (R03)	配線クランプ	グロメット	タッピンねじ
1	1	1	2	2	2	1	2

2 受信部の取付け

本ワイヤレスキットの受信部は、対応パネルのコーナリッドと交換することにより取付け可能です。

取付け前の準備

- ① サービスパネルとエアフィルタを取外してください。
- ② エアコン本体の制御箱の蓋(ねじ2個)を取外してください。
- ③ パネル側面に貼り付けられた断熱材のスリットを切り取ってください。
- ④ コーナリッドのツメをマイナスドライバー等で取外してください。



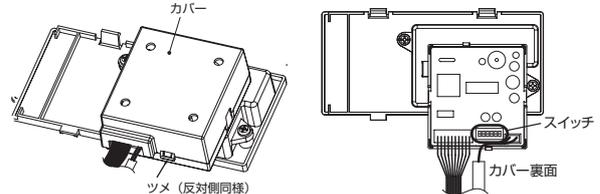
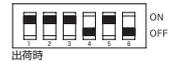
受信部の設定

① 受信部基板上のスイッチの設定は以下の通りです。  
なお、出荷時の設定は  で囲まれた設定になっています。  
(設定変更する場合は以下の②~④を行ってください。)

SW1-1	混信による誤動作防止	ON: 通常 OFF: 切換
SW1-2	受信部の親子切換	ON: 親 OFF: 子
SW1-3	ブザー音の有無	ON: 有り OFF: 無し
SW1-4	停電補償	ON: 有効 OFF: 無効
SW1-5	点検表示	ON: 有効 OFF: 無効
SW1-6	予備	ON: -- OFF: --

<設定を変更する場合>

- ② 受信部裏面のカバーを取外してください。
- ③ カバー裏面の基板上のスイッチを変更してください。



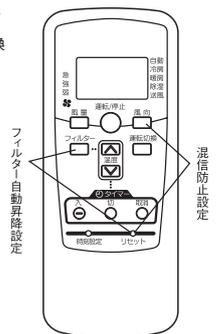
- ④ SW1-1をOFFにする場合はリモコン側も以下のように設定変更してください。  
リモコンの設定変更  
[風向]ボタンを押しながら[リセット]スイッチを押すか、[風向]ボタンを押しながら電池を投入すると設定が混信防止設定へ切り換わります。

ご注意

※ 一度電池を取外すと初期設定(工場出荷時設定)へ戻ります。  
電池を取外した時は、再度、上記操作を行ってください。

お願い

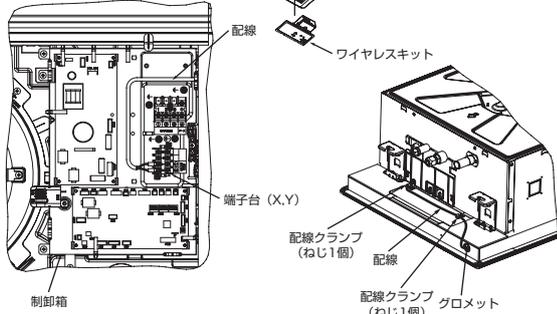
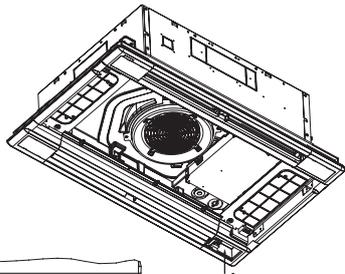
上記操作方法を必ずお客様に説明してください。  
(操作方法はリモコンに付属の取扱説明書にも記載してあります。)



受信部の取付け

- ① 下図に示すようにワイヤレスキットをパネルに取付けてください。
- ② グロメットおよび配線クランプを取付けてください。
- ③ ワイヤレスキットの配線を下図に示すように、コントロールボックスに入れてください。
- ④ 配線を制御箱内の端子台(X、Y)に接続してください。(無極性)
- ⑤ 制御箱の蓋を外したねじ(2本)を用いて取付けてください。

※ ご注意: 取付けの際、配線はさまぬようにしてください。



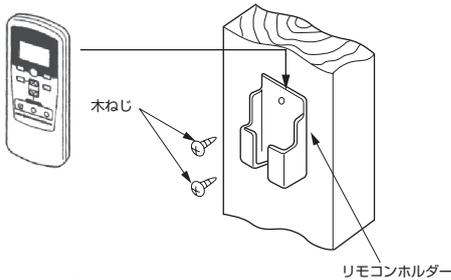
### ③ リモコン

#### リモコンホルダーの据付け

##### お願い

次の位置は避けてください。

1. 直射日光の当たる場所
2. 発熱器具の近く
3. 湿気の多い所・水のかかる所
4. 取付面が発熱・結露する場所
5. 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
6. 取付面に凸凹がある所

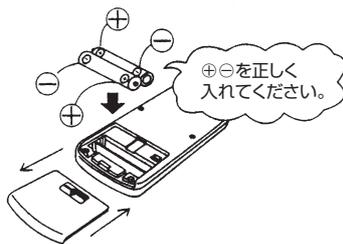


##### ホルダー取付け時の注意

- ・ 垂直になるよう、調節してください。
- ・ ねじ頭が出ないようにしてください。
- ・ 土壁等へは取付けないでください。

#### 電池の入れ方

- ① 裏フタを外します。
- ② 乾電池を入れます。(単四 2本)
- ③ 裏フタを取付けます。

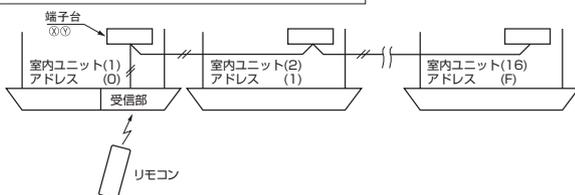


#### 1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

室内ユニット最大16台まで接続可能です。

- ① 各室内ユニット間を2心の渡り線にて配線してください。渡り線については下記を参照してください。
- ② 店舗シリーズの場合：室内基板上のロータリスイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないように「0」～「F」に設定してください。

渡り配線の太さと、長さの制限 (最大総長600m)	
標準	0.3 mm <sup>2</sup> ×100m以内
	0.5 mm <sup>2</sup> ×200m以内
	0.75mm <sup>2</sup> ×300m以内
	1.25mm <sup>2</sup> ×400m以内
	2mm <sup>2</sup> ×600m以内



- ③ ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合：室内基板上のロータリスイッチSW1, SW2, ディップスイッチSW5-2により、リモコン通信アドレスを重複しないように「000」～「127」に設定してください。

#### 複数リモコン使用時の親子設定

1つのグループに対して最大2個までリモコンを接続できます。

その際は2つのワイヤレスキットのいずれか一方の受信部の基板上のSW2をOFFにし、子機設定とする必要があります。

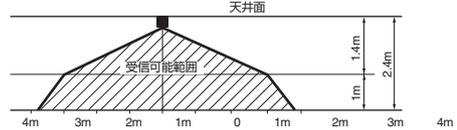
(切換えは、本説明書 ②受信部の取付け の受信部の設定)をご覧ください。)

#### ワイヤレスリモコンの操作距離

##### ① 標準的な受信距離

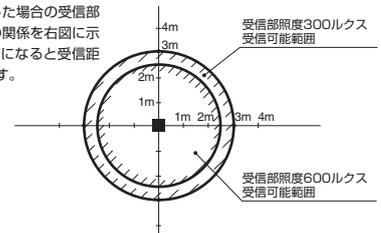
【条件】受信部照度300ルクス

(一般事務所等受信部周辺1m以内の天井面に照明がない場合)



##### ② 平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係

【条件】天井高さ2.4m、床面より1mの高さより、リモコン操作した場合の受信部照度と受信距離との関係を右図に示します。照度が2倍になると受信距離は2/3となります。



##### ③ 複数台近接設置の注意

【条件】受信部照度300ルクス

(一般事務所等受信部周辺1m以内の天井面に照明がない場合)

【複数台近接設置】リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は5mです。

#### ④ 自動運転の設定変更

ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ (除く冷暖フリーマルチ) は、自動運転はできません。

これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。

##### <自動運転無効設定方法>

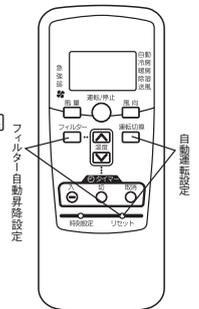
【運転切換】ボタンを押しながら【リセット】スイッチを押すか、【運転切換】ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

##### 【ご注意】

※ 一度電池を外すと初期設定 (自動有効設定) へ戻ります。電池を外した時は、再度、上記操作を行ってください。

##### 【お願い】

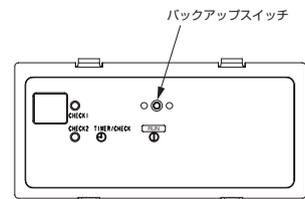
上記操作方法を必ずお客様に説明してください。(操作方法はエアコン本体に付属の取扱説明書にも記載してあります。)



#### ⑤ バックアップスイッチ操作

受信部の表面にバックアップスイッチを装備しています。ワイヤレスリモコン操作ができない場合 (電池切れ、紛失、故障) に応急的に使用してください。操作は、手で直接してください。

- (1) 停止中にバックアップスイッチを押すことにより自動モード (冷房は冷房モード) で運転します。風量「急」温度設定「23℃」ルーバ「水平」
- (2) 運転中にバックアップスイッチを押すことにより「停止」します。



#### ⑥ 冷房試運転操作

- 安全を確認して元電源を投入してください。
- 受信部バックアップスイッチを押しながらリモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付けの結線銘板の点検表示を参照し、点検してください。

#### ⑦ 点検表示の見方

- 点検LED表示「CHECK1」/「CHECK2」のLEDがエラーコードの「十の位」/「一の位」の数だけ点滅します。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、「**取付け**」「**配線**」に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性があります。必ずこの中に「**絶対に行わない**」事項を必ず記載してあります。しかし、「**絶対に行わない**」事項に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。① 絶対に行わない ② 必ず指示に従い行う
- 据付工事後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書に、「安全上のご注意」や正しい使用方法をお客様に説明してください。この取扱説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。  
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この取扱説明書に従って確実に行う。  
据付けに不備があると、ケガの原因となります。
- 据付工事は必ず付属品および指定の部品を使用する。  
指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 据付工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び取扱説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。  
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理をお買い上げの販売店に依頼する。  
修理に不備があると感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。  
点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- パネルやガードを外した状態で運転しない。  
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。  
感電、故障や動作不良の原因になります。

注意

- ワイヤレスリモコンを下記場所に設置しない。  
ワイヤレスリモコンが受信機に受信できない場合があります。
- (1) 直射日光の当たる場所
- (2) 発熱器具の近く
- (3) 湿度が高い場所、水のかかる場所
- (4) 取付面が発熱・結露する場所
- (5) 油の飛沫や蒸気が接触する場所
- (6) 取付面に凹凸がある場所
- (7) 室内ユニットの取出し窓が当たる場所
- (8) 蛍光灯 (特にインバータタイプ) の近くあるいは、直接日光が受光アダプタに当たる場所
- (9) 他の室外機と隣接する光線が受光アダプタに当たる場所
- (10) ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所
- リモコンの上ケースを取外したまま放置しない。  
上ケースを取外した場合は、内蔵の基板にゴミや水分が付着しないように、梱包箱あるいは梱包袋に入れて保護してください。

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

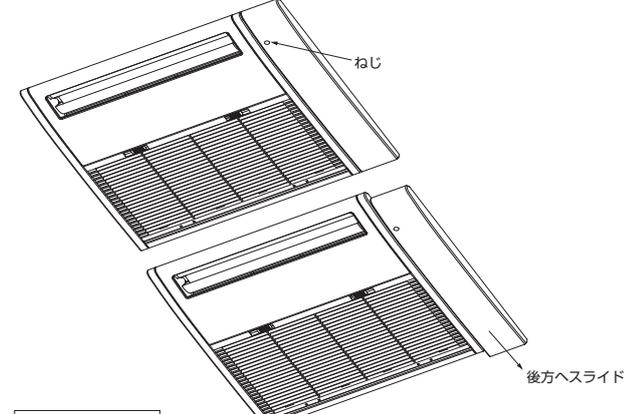
受信部		1	リモコン用ホルダー		1
リモコン		1	木ねじ		2
パーツセット		1	単4乾電池 (R03)		2

② 受信部の取付け

本ワイヤレスリモコンの受信部は、冷媒配管側のサイドパネルと交換することにより取付け可能です。

取付け前の準備

- ① 冷媒配管側のサイドパネルのねじを1本外してください。
- ② サイドパネルを後方にずらし、取外してください。
- ③ ねじ2本を外して、エアコン本体のコントロールボックスのカバーを取外してください。



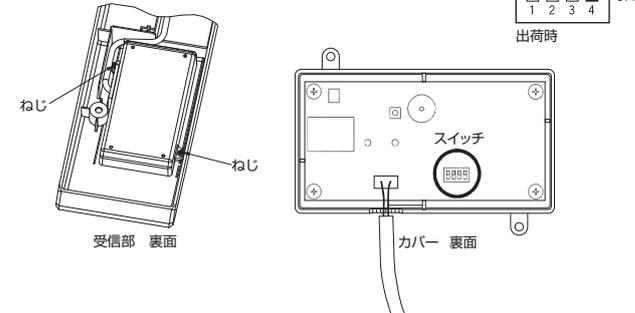
受信部の設定

① 受信部基板上的スイッチの設定は以下の通りです。  
なお、出荷時の設定は  で囲まれた設定になっています。  
(設定変更する場合は以下の②~④を行ってください。)

SW 1	混信による誤動作防止	ON: 通常 OFF: 切換
SW 2	受信部の親子切換	ON: 親 OFF: 子
SW 3	ブザー音の有無	ON: 有り OFF: 無し
SW 4	停電補償	ON: 有効 OFF: 無効

<設定を変更する場合>

- ② 受信部裏面のねじ2本を外し、カバーを取外してください。
- ③ カバー裏面の基板上のスイッチを変更してください。



④ SW1をOFFにする場合はリモコン側も以下のように設定変更してください。

リモコンの設定変更  
[風向]ボタンを押しながら[リセット]スイッチを押すか、[風向]ボタンを押しながら電池を投入すると設定が混信防止設定へ切り替わります。

ご注意

※一度電池を取外すと初期設定(工場出荷時設定)へ戻ります。  
電池を取外した時は、再度、上記操作を行ってください。

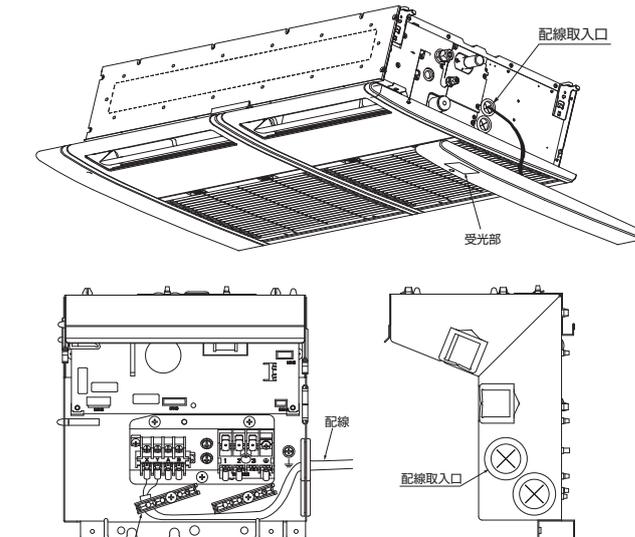
お願い

上記操作方法を必ずお客様に説明してください。  
(操作方法はエアコン本体に付属の取扱説明書にも記載してあります。)

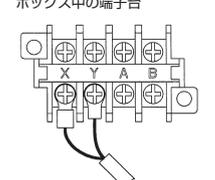
受信部の取付

- ① 受信部の配線を下図に示すように、現地配線と一緒にコントロールボックスに入れてください。
- ② 配線をコントロールボックス内の端子台(X、Y)に接続してください。(無極性)
- ③ 下図に示すように、配線をクランプで固定してください。
- ④ コントロールボックスのカバーを元通りに取付けてください。
- ⑤ 受信部をパネルにひっかけ、ねじ(1本)を用いて取付けてください。

※ご注意: 取付けの際、配線はをさまないようにしてください。



エアコン本体のコントロールボックス中の端子台



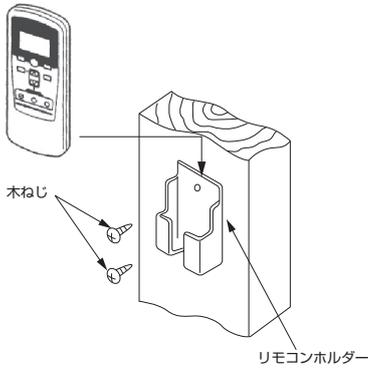
### ③ リモコン

#### リモコンホルダーの据付け

##### お願い

次の位置は避けてください。

1. 直射日光の当たる場所
2. 発熱器具の近く
3. 湿気の多い所・水のかかる所
4. 取付面が発熱・結露する場所
5. 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
6. 取付面に凸凹がある所



##### ホルダー取付け時の注意

- ・ 垂直になるよう、調節してください。
- ・ ねじ頭が出ないようにしてください。
- ・ 土壁等へは取付けしないでください。

#### 電池の入れ方

- ① 裏ボタンを外します。
- ② 乾電池を入れます。(単四 2本)
- ③ 裏ボタンを取付けます。



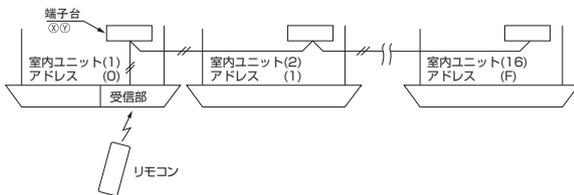
#### 1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

室内ユニット最大16台まで接続可能です。

- ① 各室内ユニット間を2心の渡り線にて配線してください。渡り線については下記を参照してください。
- ② 店舗シリーズの場合：室内基板上のロータリスイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないように「0」～「F」に設定してください。

渡り配線の太さと、長さの制限 (最大総長600m)

標準	制限
	0.3 mm <sup>2</sup> ×100m以内
	0.5 mm <sup>2</sup> ×200m以内
	0.75mm <sup>2</sup> ×300m以内
	1.25mm <sup>2</sup> ×400m以内
	2mm <sup>2</sup> ×600m以内



- ③ ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合：室内基板上のロータリスイッチSW1, SW2, ディップスイッチSW5-2により、リモコン通信アドレスを重複しないように「000」～「127」に設定してください。

#### 複数リモコン使用時の親子設定

1つのグループに対して最大2個までリモコンを接続できます。その際は2つのワイヤレスキットのいずれか一方の受信部の基板上のSW2をOFFにし、子機設定とする必要があります。

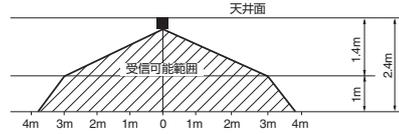
(切り換えは、本説明書 ②受信部の取付け の「受信部の設定」をご覧ください。)

#### ワイヤレスリモコンの操作距離

##### ① 標準的な受信距離

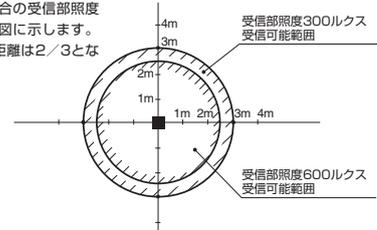
【条件】受信部照度300ルクス

(一般事務所で受信部周辺1m以内の天井面に照明がない場合)



##### ② 平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係

【条件】天井高さ2.4m、床面より1mの高さより、リモコン操作した場合の受信部照度と受信距離との関係を右図に示します。照度が2倍になると受信距離は2/3となります。



##### ③ 複数台近接設置の注意

【条件】受信部照度300ルクス

(一般事務所で受信部周辺1m以内の天井面に照明がない場合)

【複数台近接設置】リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は5mです。

### ④ 自動運転の設定変更

ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ (除く冷暖フリーマルチ) は、自動運転はできません。

これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。

##### <自動運転無効設定方法>

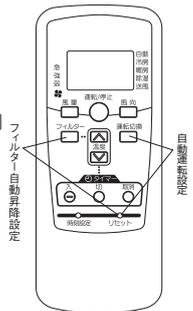
【運転切換】ボタンを押しながら【リセット】スイッチを押すか、【運転切換】ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

##### 【で注意】

※一度電池を外すと初期設定 (自動有効設定) へ戻ります。電池を外した時は、再度、上記操作を行ってください。

##### 【お願い】

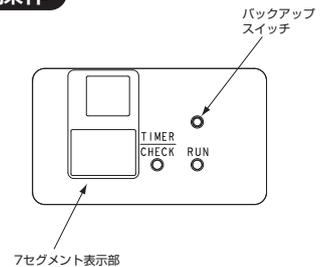
上記操作方法を必ずお客様に説明してください。  
(操作方法はエアコン本体に付属の取扱説明書にも記載してあります。)



### ⑤ バックアップスイッチ操作

受信部の表面にバックアップスイッチを装備しています。ワイヤレスリモコン操作ができない場合 (電池切れ、紛失、故障) に応急的に使用してください。操作は、手で直接してください。

- (1) 停止中にバックアップスイッチを押すことにより自動モード (冷専は冷房モード) で運転します。風量「急」温度設定「23℃」ルーバ「水平」
- (2) 運転中にバックアップスイッチを押すことにより「停止」します。



### ⑥ 冷房試運転操作

- 安全を確認して元電源を投入してください。
- 受信部バックアップスイッチを押しながらリモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付けの結線銘板の点検表示を参照し、点検してください。

### ⑦ 2桁表示の見方

受信部は2桁表示 (7セグメント) を装備しています。

- (1) 表示は電源投入後1時間表示します。
- (2) リモコンから「停止」送信又は、バックアップスイッチ「停止」操作後3.5秒間表示します。
- (3) 上記の表示は、運転開始とともに消灯します。
- (4) 異常履歴がない場合は接続台数分のアドレスを表示します。
- (5) 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
- (6) 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらリモコンから「停止」送信によりクリアされます。

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

**警告**

- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 電源を切った後に電気工事をする。  
感電、故障や動作不良の原因になります。

**注意**

- ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。  
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。  
(1)直射日光の当たる場所 (8)蛍光灯 (特にインバータータイプ) の近く  
(2)発熱器具の近く (9)あるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所  
(3)湿気の多い所・水の掛る所 (10)他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所  
(4)取付面が発熱・結露する場所  
(5)油の飛沫や蒸気が直接触れる場所  
(6)取付面に凹凸がある所 (10)ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所  
(7)室内ユニットの吹出し空気が当たる場所
- ワイヤレスキット上ケースを取外したまま放置しない。  
上ケースを取外した場合は、内蔵の基板にゴミや水分等が付着しないように、梱包箱または梱包袋に入れて保護してください。

**お願い**

- ・取扱説明書を見ながらお客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかたをご指導ください。
- ・ワイヤレスリモコンの取扱説明書は、室内ユニット又は室外ユニットに付属されております。
- ・本ワイヤレスキットに付属の説明書と合せてご覧ください。

**① 付属品** 次の付属品を確かめてください。

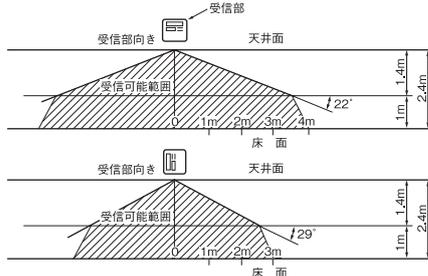
① 受光アダプタ		1	① リモコン用ホルダー		1
② 配線 (3m)		1	② 同上用木ねじ		2
③ パーツセット (A)		1	③ リモコン用電池		2
④ パーツセット (B)		1	① 受光アダプタ用ねじ		2
⑤ パーツセット (C)		1	② バンド		1
⑥ ワイヤレスリモコン		1	③ クランプ		5
⑦ 取扱説明書		1	④ 同上用ねじ		5
			① 受光アダプタ取付用ブラケット		1
			② 同上用ねじ		2
			③ 取付金具		2
			④ JISボックス取付用ねじ		2

**② ワイヤレスリモコンの操作距離**

(1) 天井面に取付けた場合

① 標準的受信距離

【条件】受信部照度 **300ルクス** (一般事務所で受信アダプタ周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合)

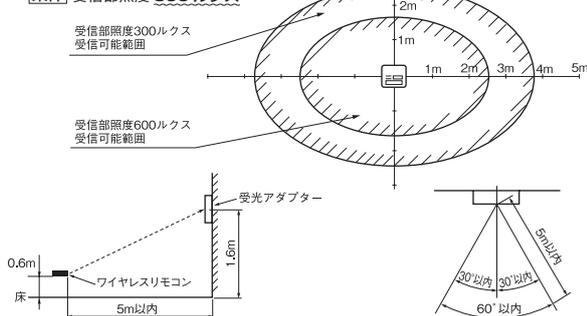


② 平面から見た時の受信部照度と受信距離の関係

【条件】天井高さ 2.4m、床面より 1m の高さより、リモコン操作をした場合の受信部照度と受信距離との関係。照度が 2 倍になると受信距離は 2/3 となる。

(2) 壁面に取付けた場合

【条件】受信部照度 **800ルクス**



**③ 受光アダプタ取付け**

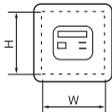
天井あるいは、壁面 (以後あわせて壁面と呼ぶこととします) への取付け方法として、下記 3 種類の取付けが可能です。設置場所に応じて選んでください。

《取付け方法》

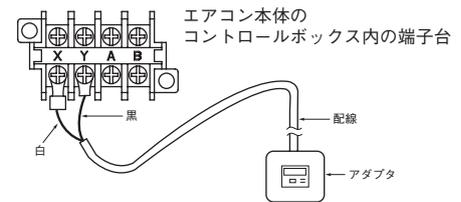
- (A) 壁面への木ねじによる直接取付け
- (B) JIS ボックス (現地手配) による取付け
- (C) 付属ブラケットによる取付け

(1) 壁面への穴あけ (壁面開口)

取付け用の穴を付属配線 (3m) で接続可能な壁面位置に、下表の寸法にてあけてください。

(A) 壁面への木ねじによる直接取付け	88mm (H) × 101mm (W)	
(B) JIS ボックスによる取付け	108mm (H) × 108mm (W)	
(C) 付属ブラケットによる取付け		

(2) 受光アダプタ用配線



△注意

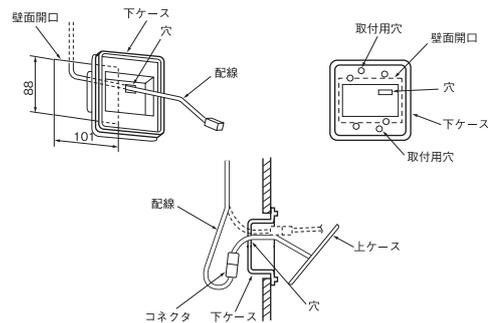
配線を端子台 AC200V に接続しないこと。プリント基板が焼損します。

(3) 受光アダプタ取付け

側面についているねじをはずし、上ケースと下ケースに分割してください。下記 4 種 ((A)~(D)) のうちのいずれかの方法により取付けてください。

(A) 壁面への木ねじによる直接取付け

▷ 壁面が木製などのもので、直接木ねじにより取付けても強度的に問題のない場合にこの方法で取付けてください。



- ① 配線を裏面側から下ケースの穴に通してください。
- ② 下ケースを壁面開口にはめてください。この時、下ケース後面凸部と壁面開口とのすきまは両側ともできるだけ等しくなる様にしてください。
- ③ 上図 2 か所の取付用穴を用いて付属の木ねじにより下ケースを壁に固定してください。(他の 4 か所の穴は使用しません)
- ④ 配線と上ケースから出ている配線とをコネクタにより接続してください。
- ⑤ 接続したコネクタを①項にて配線を通した下ケースの穴より裏側へ出してください。
- ⑥ 上ケースを下ケースに元通りはめ込み、ねじをしめてください。

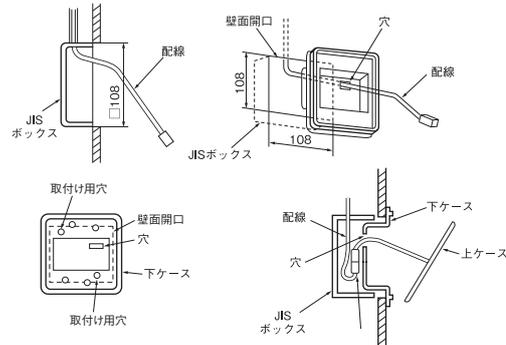
(B) JIS ボックスによる取付け (JIS ボックス: 現地手配)

① JIS ボックスと配線をあらかじめ設置しておきます。

〔使用可能 JIS ボックス〕

JIS C 8435 埋込用四角アウトレットボックス中浅形

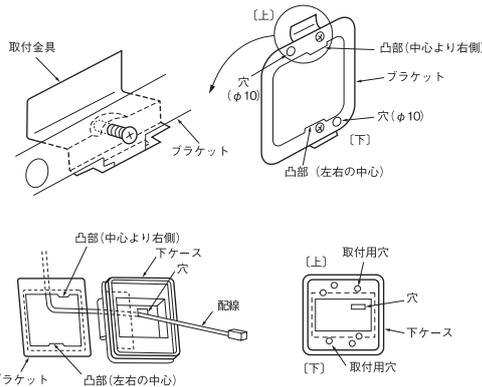
JIS C 8340 中形四角アウトレットボックス



- ② 配線を裏面側から下ケースの穴に通してください。
- ③ 上図 2 か所の取付け用穴を用いて付属しているねじにより下ケースは JIS ボックスに固定してください。(他の 4 か所の穴は使用しません)
- ④ 配線と上ケースから出ている配線とをコネクタにより接続してください。
- ⑤ 接続したコネクタを②項にて配線を通した下ケースの穴より、下ケースと JIS ボックスの間へ入れてください。
- ⑥ 上ケースを下ケースに元通りはめ込み、ねじをしめてください。

**③ 付属ブラケットによる取付け**

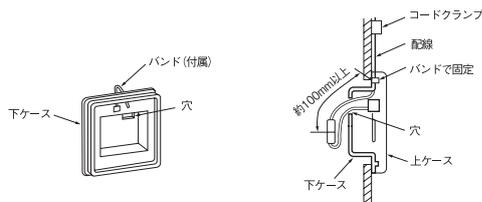
石膏ボード(7~18mm)などに取付ける場合は、この方法により取付けてください。より薄い壁面に取付ける場合は別途、松下電工製取付金具(WN3990:3~7mm用)を手配願います。



- ①上図の様に付属ブラケットの凸部(2か所)に取付金具を引掛け、ねじにより仮止めてください。(ブラケットには上下および表裏があります。上下凸部の位置およびブラケットにあるφ10の穴と取付金具の取付面との位置関係を上図にてご確認ください。)
- ②壁面開口より取付金具の端部を壁面裏側へ入れ、さらにねじをしめてブラケットを壁面に固定してください。
- ③配線を裏面側から下ケースの穴に通してください。
- ④下ケースをブラケットにはめ込み、上図2か所の取付用穴を用いて下ケースをブラケットに固定してください。(他の4か所の穴は使用しません)
- ⑤以降(A)の①~⑥を参照して取付けてください。

**④ 配線露出取付け**

配線を露出させて取付ける場合は下記の通りに行なってください。

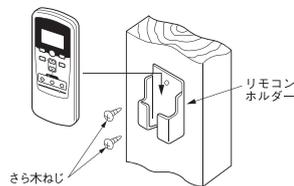


- ①上ケース側面の薄肉部をニッパー、ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。(この部分に配線を通します。)
- ②下ケースの配線取出部の穴に付属のバンドを通します。
- ③3項の受光アダプタ取付方法(A)~(C)のいずれかの方法に従い、下ケースを壁面に固定してください。ただし、配線は下ケースの穴に通さないでください。
- ④バンドでの固定部から配線のコネクタの先端までの長さを100mm以上とした状態でバンドにより配線を固定してください。(ただし、JISボックスにより下ケースを取付けた場合は約100mmとしてください。)
- ⑤配線と上ケースより出ている配線をコネクタにより接続してください。
- ⑥接続したコネクタおよび不要な配線を下ケースの穴より裏側へ出してください。
- ⑦上ケースを下ケースに通りはめ込み、ねじをしめてください。
- ⑧配線は付属のコードクランプで適宜固定してください。

**④ リモコン**

**リモコンホルダーの据付け**

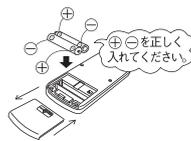
- お願い**  
次の位置は避けてください。
- 1) 直射日光の当たる場所
  - 2) 発熱器具の近く
  - 3) 湿気の多い所・水のかかる所
  - 4) 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
  - 5) 取付面に凹凸がある所



- ホルダー取付け時の注意**
- ・垂直になるよう、調節してください。
  - ・ねじ頭が出ないようにしてください。
  - ・土壁等へは取付けしないでください。

**電池の入れ方**

- ①裏ボタンを外します。
- ②乾電池を入れます。(単四2本)
- ③裏ボタンを取付けます。



**⑤ 冷房試運転操作**

- 安全を確認して元電源を投入してください。
- 受信部バックアップスイッチを押しながらリモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付けの結線銘板の点検表示を参照し、点検してください。

**(A) 混信による誤動作を防ぐ方法** ①②両方を実施

他の家電製品と混信する場合又は、2個の受光アダプタが近接して混信する場合に設定します。

**①ワイヤレスリモコンの設定変更**

**風向** ボタンを押しながらリセットボタンを押すか電池投入をすると設定が混信防止設定へ切り替わります。

**ご注意** ※一度電池を外すと初期設定(工場出荷時設定)へ戻ります。電池を外した時は、再度、上記操作を行ってください。

**②受光アダプタ基板の改修**

SW1-1をOFF(切換)にしてください。

**(B) フィルター自動昇降機能への対応方法**

フィルター自動昇降機能が装備された室内ユニットに対応させる場合に設定します。ワイヤレスリモコンの設定変更

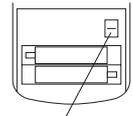
次の①②いづれかの方法によりリモコン設定を変更してください。

① **フィルター** ボタンを押しながら、リセットボタンを押すか電池投入すると設定がフィルター自動昇降対応となります。

② リモコン裏ボタンを外し、ジャンパー線を切断すると、フィルター自動昇降モード有効に切り替わります。

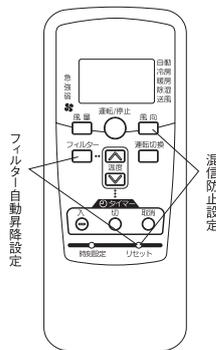
(設定を実施すると、フィルター自動昇降モード時、ディスプレイに「**フィルター**」と表示されます。)

**ご注意** ※①の方法により設定した場合、一度電池を取り外すと初期設定(工場出荷時設定)へ戻ります。電池を外した時は、再度、上記操作を行ってください。

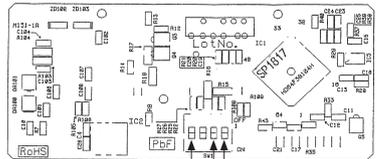


フィルター自動昇降設定ジャンパー線

**●ワイヤレスリモコン**



**●受光アダプタ基板**



SW1-4 (室内機停電補償) SW1-1 (混信防止) SW1-2 (親子切換)

SW1-1	混信による誤動作防止	※ ON: 通常 OFF: 切換
SW1-2	受信部の親子切換	※ ON: 親 OFF: 子
SW1-4	室内機停電補償	ON: 有効 ※ OFF: 無効 ※ 出荷時設定

※上記(A)と(B)のワイヤレスリモコンの設定を同時に行う場合は、**風向** ボタン及び **フィルター** ボタンを同時に押しながら、リセットボタンを押すか電池投入をしてください。

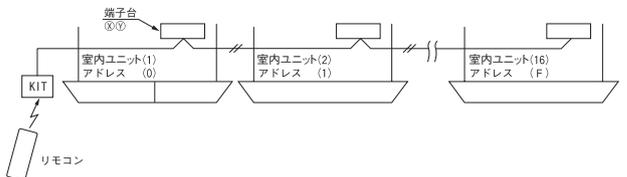
**(C) 1リモコンによる複数台室内ユニット制御方法**

室内ユニット最大16台まで接続可能です。

①各室内ユニット間を2心の渡り線にて配線してください。渡り線については下記を参照願います。

②店舗シリーズの場合: 室内基板上のロータリースイッチ SW2により、リモコン通信アドレスを重複しないように「0」~「F」に設定してください。

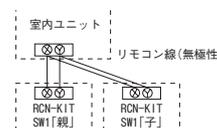
渡り線の太さと、長さの制限(最大総長600m)
標準
0.3mm×100m以内
0.5mm×200m以内
0.75mm×300m以内
1.25mm×400m以内
2mm×600m以内



③ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合: 室内基板上のロータリースイッチ SW1、SW2、ディップスイッチ SW5-2 により、リモコン通信アドレスを重複しないように「000」~「127」設定してください。

**(D) 複数リモコン使用時の親子設定**

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して最大2個までのリモコンを接続できます。



スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

**警告**

- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。 
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「室外ユニット電源ブレーカ」を必ず落とす。  
点検・修理にあたって、室内ユニット電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。 
- 元電源を切った後に電気工事を行う。  
感電、故障や動作不良の原因になります。 

**注意**

- 次の場所への据付けは避ける。  
ワイヤレスキットの故障や変形の原因になることがあります。 
- |                   |                                    |
|-------------------|------------------------------------|
| (1) 直射日光の当たる所     | (4) 蛍光灯の近く                         |
| (2) 発熱機器の近く       | (5) 他の赤外線通信機器の光線が受光部に当たる所          |
| (3) 湿気の多い所・水のかかる所 | (6) ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう所 |

**① 付属品**

次の付属品を確かめてください。

受信部	リモコン用ホルダー	単 4 乾電池	木ねじ	ワイヤレスリモコン
				
1 個	1 個	2 個	2 個	1 個

**② 取付け前の準備**

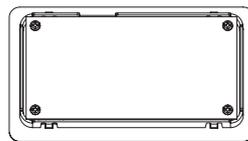
**現地設定**

受信基板上のスイッチの設定は以下の通りです。

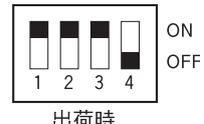
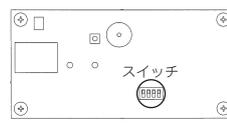
SW 1	複数台設置時の混信誤動作防止	ON：通常(1ch) OFF：切換(2ch)
SW 2	受信部の親子切換	ON：親 OFF：子
SW 3	ブザー音の有無	ON：有り OFF：無し
SW 4	停電補償	ON：有効 OFF：無効

**現地設定の変更方法**

1. 受信部裏面のねじ（4本）を外し、基板を取外してください。
2. 基板上（7セグメント表面側）のスイッチを変更してください。



受信部裏面



出荷時

3. SW 1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更してください。  
設定変更は、本説明書 **④受信部** の混信防止設定をご覧ください。  
※複数台設置時の受信可能範囲は、本説明書 **⑥受信部** のワイヤレスリモコンの操作距離をご覧ください。

**複数リモコン使用時の親子設定**

1つのグループに対して最大2個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。  
その際は2つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。  
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

### ③ 受信部の取付け

本ワイヤレスキットの受信部は、パネルのカバーと交換することにより取付け可能です。

**注意：本体吊り込み前に受信部を取付けください。**

吊り込み後に取付ける場合、高所作業となり、転倒などによりケガの恐れがあります。

#### ①カバーを外し

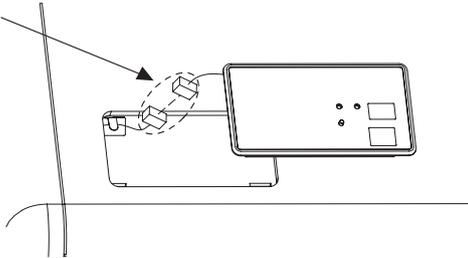
カバーの溝（2箇所）に工具を挿し、軽くねじると外れます。

#### ②配線の接続

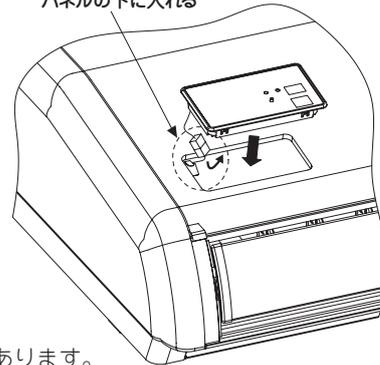
受信部の配線とパネル穴部の配線を接続してください。

**※注意：配線を固定しているクランプは外さないでください。**

コネクタ接続



パネルの下に入れる

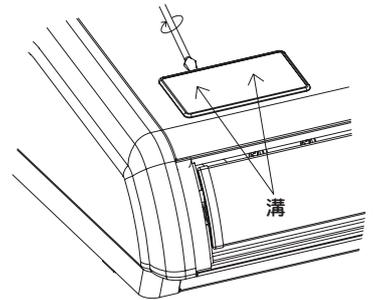


#### ③受信部の取付け

右図の様にコネクタをパネルの下に入れ、受信部の向きに注意し、パネルへ取付けてください。

注意：コネクタは受信部を取付ける前に接続してください。

取付け後にコネクタを接続する場合、パネルを外す必要があります。



### ④ ワイヤレスリモコン

●リモコンを下記場所に設置しない。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

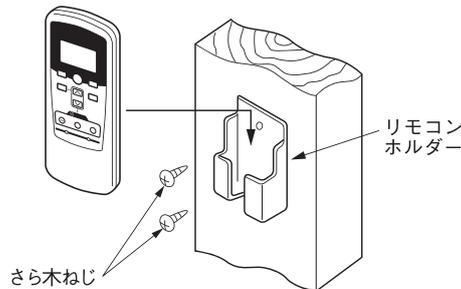
- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| (1) 直射日光の当たる所     | (4) 取付面が発熱・結露する所   |
| (2) 発熱器具の近く       | (5) 油の飛沫や蒸気が直接触れる所 |
| (3) 湿気の多い所・水のかかる所 | (6) 取付面に凹凸がある所     |

#### リモコンホルダーの据付け

1. リモコンホルダーを付属のねじで固定してください。

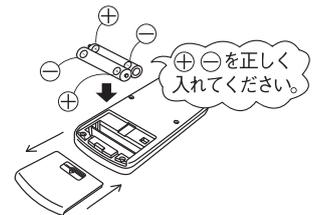
※ホルダー取付け時の注意

- ・垂直になるよう調節してください。
- ・ねじ頭が出ないようにしてください。
- ・土壁等へは取付けないでください。



#### 電池の入れ方

1. 裏プタを外します。
2. 乾電池を入れます。（単四2本）
3. 裏プタを取付けます。



#### リモコンの設定変更

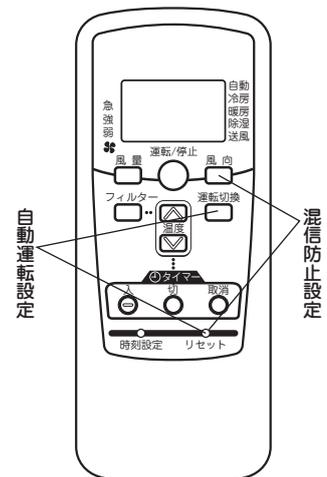
##### (1) 混信防止設定

風向ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、風向ボタンを押しながら電池を投入すると、設定が混信防止設定へ切り替わります。

##### (2) 自動運転の設定変更

ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ（除く冷暖フリーマルチ）は、自動運転ができません。これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。

運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。



**※注意：一度電池を外すと初期設定（工場出荷時設定）へ戻ります。**

**電池を外した時は、再度上記操作を行ってください。**

## ④ ワイヤレスリモコンの続き

〈ラクリーナパネル機能への対応方法〉

### (3) フィルター自動昇降モード有効

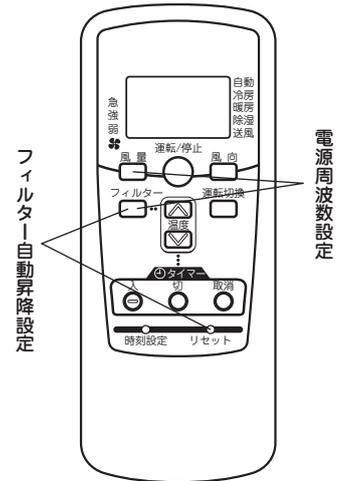
次の①、②いづれかの方法によりリモコン設定をフィルター自動昇降モード有効に変更してください。

- ① **フィルター** ボタンを押しながら **リセット** スイッチを押すか、 **フィルター** ボタンを押しながら電池を投入する。
- ② リモコン裏ボタンを外し、ジャンパー線を切断する。  
設定を実施すると、フィルター自動昇降モード時、ディスプレイに **フィルター** と表示されます。

### (4) ダリル降下長さの設定

ラクリーナパネルのグリル降下長さの設定は、ワイヤードリモコンを室内ユニットに接続して行ってください。詳細はパネルに同梱されている据付説明書を参照してください。  
(初期値は 2.0 m)

**※注意：一度設定した後は、室内ユニットのコントローラのマイコンが記憶するため、ワイヤードリモコンを接続し続ける必要はありません。**



### (5) 電源周波数の設定変更

ラクリーナパネル取付け時は、電源周波数の設定をワイヤレスリモコンを用いて必ず行ってください。(初期設定は 60Hz)

- ① **フィルター** ボタンと **風量** ボタンを同時に 3 秒以上押すと周波数設定モードになります。
- ② 設定温度表示部に現在の周波数設定が点滅表示されます。
- ③ **△** ボタンを押すと "60" 表示となり、**▽** ボタンを押すと "50" 表示となります。
- ④ 周波数設定後、**フィルター** ボタンを押すと、周波数が確定され、室内ユニットにデータが送信されます。  
約 2 秒間設定された周波数が点灯した後、元の表示に戻ります。

### お願い

上記操作方法を必ずお客様に説明してください。  
(操作方法はエアコン本体に付属の取扱説明書にも記載してあります。)

## ⑤ 受信部

### 1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

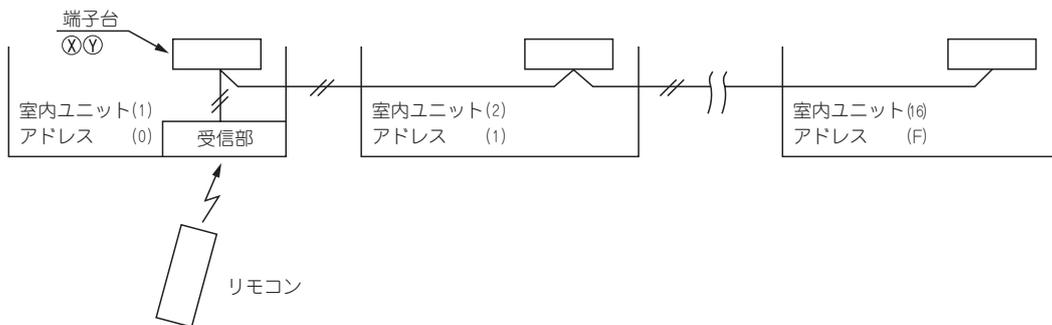
- ① 1 つのリモコンで複数台のユニット (最大 16 台) をグループ制御できます。  
同一モード、同一室温設定で運転します。
- ② グループ制御用に各室内ユニット間を 2 心のリモコン線にて渡り配線してください。

#### 店舗シリーズの場合

- ③ 室内基板上的ロータリスイッチ SW 2 により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

渡り配線の太さと長さの制限 (最大 600m)

標準	制限
0.3 mm <sup>2</sup> × 100m 以内	
0.5 mm <sup>2</sup> × 200m 以内	
0.75mm <sup>2</sup> × 300m 以内	
1.25mm <sup>2</sup> × 400m 以内	
2.0 mm <sup>2</sup> × 600m 以内	



#### ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

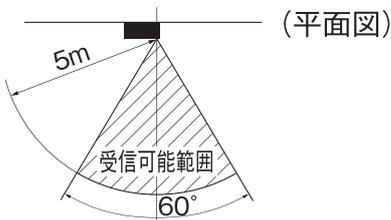
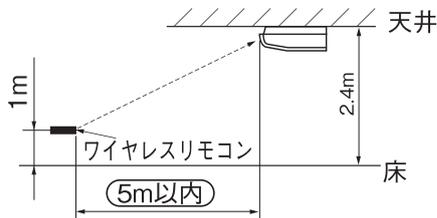
- ④ 室内・室外 No. を手動アドレス設定にてセットしてください。  
室内基板上的ロータリ SW 1、SW 2 により、室内 No. を重複しないように設定してください。

## ⑤ 受信部の続き

### ワイヤレスリモコンの操作距離

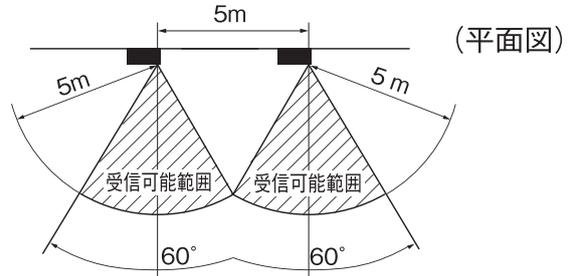
#### ① 標準的な受信距離

〔条件〕 受信部照度 360 ルクス  
(一般事務所でユニット周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合)



#### ② 複数台近接設置時の注意

〔条件〕 受信部照度 360 ルクス  
同一動作を防止できるユニット間最小距離は 5m です。



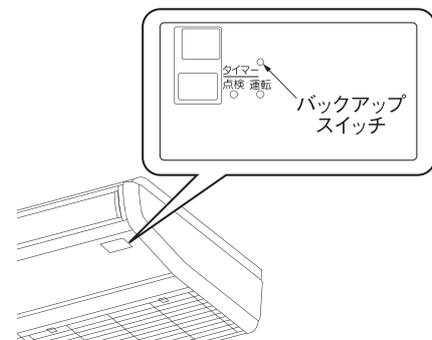
#### お願い

- リモコンを正しくエアコンの受信部に向けて操作してください。
- 操作距離は、受信部照度、部屋壁面の反射状態により変化します。
- 受信部に直射日光・照明等の強い光が当たっている場合、操作距離の縮小、また、受信不良が起こる場合があります。

### バックアップスイッチ操作

パネル表面受信部にバックアップスイッチを装備しています。  
ワイヤレスリモコン操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に  
応急的に使用してください。  
操作は手で直接操作してください。

- (1) 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。  
風量「急」 温度設定「23℃」 ルーバ「水平」
- (2) 運転中に押すことにより「停止」します。
- (3) ラクリーナパネル使用時、2 秒以上押し続けてから離れた場合、  
ラクリーナパネル上昇となります。



### 冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼り付けの結線銘板の点検表示を参照し、  
点検してください。

### 2桁表示の見方

受信部は 2 桁表示（7 セグメント）を装備しています。

- (1) 表示は電源投入後 1 時間表示します。
- (2) エアコン停止中に、ワイヤレスリモコン「停止」信号送信により 3.5 秒間表示します。
- (3) 上記の表示は、運転開始により消灯します。
- (4) 異常履歴がない場合は、接続台数分のアドレスを表示します。
- (5) 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
- (6) 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらワイヤレスリモコン「停止」信号送信によりクリアされます。

## (2) コンパクトリモコン (RCH-D3)

PJZ012D068

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

### 警告

- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 元電源を切った後に電気工をする。  
感電、故障や動作不良の原因になります。

### 注意

- 下記の様な所にリモコンを設置しない。  
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
- (1) 直射日光の当たる場所 (4) 取付面が発熱・結露する場所
- (2) 発熱器具の近く (5) 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
- (3) 湿気の多い所・水の掛る所 (6) 取付面に凹凸がある所
- リモコンの上ケースを取外したまま放置しない。  
上ケースを取外した場合は、内蔵の基板にゴミや水分等が付着しないように、梱包箱或いは梱包袋に入れて保護してください。

付属品	リモコン本体、木ねじ(φ3.5×16) 2本
客先手配品	リモコンコード (2心) (※2. リモコンコードを延長する場合の注意Jを参照ください。) [埋込取付けの場合] JISボックス、M4ねじ (2本) [露出取付けの場合] コードクランプ (適時)

### 1. 取付要領

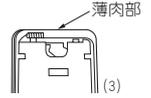
#### 埋込取付けの場合

- リモコンの下面のねじを必ず外してください。
- リモコンの上ケースを外してください。  
リモコン下面の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースを外します。
- JISボックスとリモコンコードをあらかじめ埋め込んでおきます。  
[使用可能 JISボックス]  
JIS C 8336 1個用スイッチボックス
- M4ねじ2本(推奨長さ12~16mm)を用意して、下ケースをJISボックスに取付けてください。  
ねじ穴の周囲の壁の高さより、ねじ頭の大きなねじを、使用しないでください。
- リモコンコードを端子台に接続してください。  
リモコンの端子(X, Y)と室内ユニットの端子(X, Y)とを接続してください。(X, Yの極性はありません。)
- リモコンコードが噛みこまない様に、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。

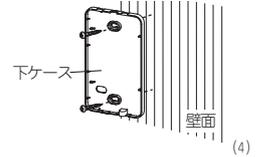
#### 露出取付けの場合

- リモコンの下面のねじを必ず外してください。
- リモコンの上ケースを外してください。  
リモコン下面の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースを外します。

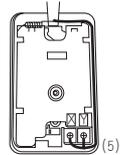
- リモコンコードの取出し方向は、上部中央から可能です。  
リモコン上ケースの上方の薄肉部をニッパ・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。



- リモコンの下ケースを付属の木ねじ2本で平らな壁に取付けます。



- リモコンコードを端子台に接続してください。  
リモコンの端子(X, Y)と室内ユニットの端子(X, Y)とを接続してください。(X, Yの極性はありません。)  
配線経路は右図の通りとなります。



リモコンケース内を通る配線は、0.3mm<sup>2</sup>(推奨)~最大0.5mm<sup>2</sup>以下としてください。  
また、シース部を皮むきしてください。  
各配線の皮むき長さは、下記の通りです。

X配線: 160mm
Y配線: 150mm



- リモコンコードが噛みこまない様に、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。
- 露出取付けの場合は、リモコンコードがたるまないように、コードクランプ等で壁面に固定します。

### 2. リモコンコードを延長する場合の注意 最大総延長 600m

- リモコンコードは0.3mm<sup>2</sup>×2心です。  
延長距離が100mを超える場合は、下記サイズに変更してください。  
但し、リモコンケース内を通る配線は0.3mm<sup>2</sup>(推奨)~最大0.5mm<sup>2</sup>以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。配線接続する際は、水分等が浸入しない様な処置を行ってください。また、配線の接続は、接触不良のない様確実に行ってください。
- |             |                          |
|-------------|--------------------------|
| 100~200m 以内 | 0.5mm <sup>2</sup> × 2心  |
| 300m 以内     | 0.75mm <sup>2</sup> × 2心 |
| 400m 以内     | 1.25mm <sup>2</sup> × 2心 |
| 600m 以内     | 2.0mm <sup>2</sup> × 2心  |

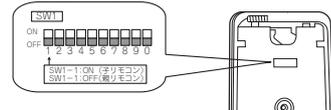
### 3. 複数リモコン使用時の親子設定

- 室内ユニット1台(又は1グループ)に対して最大2個までのリモコンを接続できます。



- 子リモコンの切換スイッチ SW1-1 を「子」(ON) に設定してください。工場出荷時は「親」(OFF)設定です。

(注) ・リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。  
・親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください  
・リモコンを複数接続した場合、エアコンの運転は、後操作したリモコンに従います。



#### 4. 電源投入時の表示

- (1) 電源投入時、最初の2秒間全点灯した後、下記表示となります。  
リモコンLCD上部に表示される番号は、ソフトウェアの管理番号を表示させているものであり、異常コードの表示ではありません。



- (2) その後、リモコンと室内ユニットの通信が確定するまで、リモコンには、「88.0℃」が点滅します。
- (3) 室内ユニット1台（又は1グループ）に、1個のリモコンを接続する場合は、必ず親リモコン（出荷時設定）としてください。  
子リモコンにすると通信ができません。
- (4) リモコンと室内ユニットの通信ができない状態が30分程度続くと、「E」表示がでます。  
室内ユニット及び室外ユニットの配線、及びリモコンの親子設定等をご確認ください。



#### 5. 吸込温度の確認方法

リモコン操作により、吸込温度の確認ができます。

- (1) **エアコンNo** ボタンを5秒以上押す。  
温度設定表示部に、「88」が点滅します。  
(データを読み込む間約2秒間点滅)



その後、吸込温度を表示します。

(例) 吸込温度：「27℃」(点灯)

(注) 吸込温度は、通常の場合室内ユニットの吸込温度を表示しますが、リモコンセンサ有効の場合は、リモコンセンサ検知温度が表示されます。

- (2) **運転/停止** ボタンを押す。  
終了します。

【リモコンセンサが無効で、一つのリモコンに複数台の室内ユニットが接続されている場合】

- (1) **エアコンNo** ボタンを5秒間押す。  
室内ユニットNo表示部：「U 000」(点滅)  
(接続されている室内ユニットの、最も若い番号を表示。)



- (2) **TEMP△**または**TEMP▽** ボタンを押す。  
室内ユニットの番号を選びます。

- (3) **MODE** ボタンを押す。  
室内ユニットNoを確認します。

(例) 室内ユニットNo表示部：「U 000」

温度設定表示部に、「88」が点滅します。(データを読み込む間約2~10秒間点滅)

その後、吸込温度を表示します。**エアコンNo** ボタンを押すと、室内ユニット選択表示(例「U 000」)に戻ります。

- (4) **運転/停止** ボタンを押す。  
終了します。

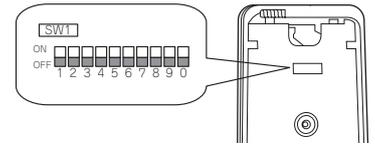
## 6. 機能設定

リモコンと室内ユニットの各機能は、リモコンと室内ユニットを接続した際に、標準的な使い方である初期設定に自動的に設定されます。標準的な使い方をする場合は、設定の変更はいりません。但し、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定を変更してください。設定内容は記録して保管してください。

### (1) 基板上の切替スイッチによる機能設定項目

スイッチNo	設定	設定内容	初期設定
SW1-1	ON	子リモコン	
	OFF	親リモコン	○
SW1-2	ON	リモコンセンサ有効	
	OFF	リモコンセンサ無効	○
SW1-3	ON	「運転切換」ボタン禁止	
	OFF	「運転切換」ボタン有効	○
SW1-4	ON	「運転/停止」ボタン禁止	
	OFF	「運転/停止」ボタン有効	○

スイッチNo	設定	設定内容	初期設定
SW1-5	ON	「温度設定」ボタン禁止	
	OFF	「温度設定」ボタン有効	○
SW1-6	ON	「風量調整」ボタン禁止	※注1
	OFF	「風量調整」ボタン有効	※注1
SW1-7	ON	停電補償有効	
	OFF	停電補償無効	○
SW1-8, 9, 0	ON	未使用	
	OFF	未使用	



・子リモコンは SW1-1 以外は設定無効です。  
・風量1速の室内ユニットは「風量調整」ボタン有効にはできません。

### (2) ボタン操作による機能設定項目

分類	機能番号	機能	設定番号	設定	初期設定	備考
リモコン機能	01	室内ファン速度	01	ファン速度3速	※注1	ファン風量が、急-強-弱の3速となります。
			02	ファン速度2速 (Hi-Lo)	※注1	ファン風量が、急-弱の2速となります。
			03	ファン速度2速 (Hi-Me)		ファン風量が、急-強の2速となります。
			04	ファン1速	※注1	ファン風量が1速のみで固定されます。
	03	冷房時 リモコンセンサ	01	リモコンセンサ補正なし	○	
			02	リモコンセンサ+3.0℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、+3.0℃温度補正する。
			03	リモコンセンサ+2.0℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、+2.0℃温度補正する。
			04	リモコンセンサ+1.0℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、+1.0℃温度補正する。
			05	リモコンセンサ-1.0℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、-1.0℃温度補正する。
			06	リモコンセンサ-2.0℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、-2.0℃温度補正する。
			07	リモコンセンサ-3.0℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、-3.0℃温度補正する。
	04	暖房時 リモコンセンサ	01	リモコンセンサ補正なし	○	
			02	リモコンセンサ+3.0℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、+3.0℃温度補正する。
			03	リモコンセンサ+2.0℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、+2.0℃温度補正する。
04			リモコンセンサ+1.0℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、+1.0℃温度補正する。	
05			リモコンセンサ-1.0℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、-1.0℃温度補正する。	
06			リモコンセンサ-2.0℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、-2.0℃温度補正する。	
07			リモコンセンサ-3.0℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、-3.0℃温度補正する。	
05	換気設定	01	換気接続なし	○		
		02	エアコンと連動		シングル機は室内基板 CnT、マルチ機は室内基板 CND に換気機器を接続すると、室内ユニットの運転に連動し、換気機器の運転/停止を行います。	
06	「自動」運転設定	01	「自動」運転有効	※注1		
		02	「自動」運転無効	※注1	「自動」運転不可	
室内機能	07	運転許可/禁止	01	無効	○	
			02	有効		運転許可/禁止制御を有効にします。
	08	外部入力切替	01	レベル入力	○	
			02	パルス入力		
	09	高天井設定	01	標準	注2	
			02	高天井1	注2	
			03	高天井2	注2	
	10	冷房時 ファン残留運転	01	残留運転なし	○	冷房停止後、ファン残留運転なし。
			02	0.5時間		冷房停止後、0.5時間ファン残留運転する。
			03	1時間		冷房停止後、1時間ファン残留運転する。
			04	6時間		冷房停止後、6時間ファン残留運転する。
	11	暖房時 ファン残留運転	01	残留運転なし	○	暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、ファン残留運転なし。
			02	0.5時間		暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、0.5時間ファン残留運転する。
			03	2時間		暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、2時間ファン残留運転する。
04			6時間		暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、6時間ファン残留運転する。	
12	暖房室温補正	01	補正なし	○		
		02	室温補正+3.0℃		暖房時の設定温度を+3.0℃補正します。	
		03	室温補正+2.0℃		暖房時の設定温度を+2.0℃補正します。	
		04	室温補正+1.0℃		暖房時の設定温度を+1.0℃補正します。	
13	暖房ファン制御	01	弱風	○	暖房サーモ OFF 時、弱風で運転します。	
		02	設定風量		暖房サーモ OFF 時、設定風量で運転します。電気集塵機を取付けた場合は「設定風量」に設定してください。	
		03	間欠運転		暖房サーモ OFF 時、間欠運転します。	
		04	停止		暖房サーモ OFF 時、ファンは停止します。リモコンセンサ有効時は、自動的に「停止」に設定されます。本体サーモの時は、設定しないでください。	
14	吸込温度補正	01	補正なし	○		
		02	吸込温度補正+2.0℃		室内ユニットの吸込温度を+2.0℃補正します。	
		03	吸込温度補正+1.5℃		室内ユニットの吸込温度を+1.5℃補正します。	
		04	吸込温度補正+1.0℃		室内ユニットの吸込温度を+1.0℃補正します。	
		05	吸込温度補正-1.0℃		室内ユニットの吸込温度を-1.0℃補正します。	
		06	吸込温度補正-1.5℃		室内ユニットの吸込温度を-1.5℃補正します。	
		07	吸込温度補正-2.0℃		室内ユニットの吸込温度を-2.0℃補正します。	

注1：「※」印の初期設定は、接続される室内ユニット及び室外ユニットにより異なり、下記の通り自動判別されます。

スイッチNo 機能番号	機能	設定	機種
SW1-6	風量調整	「風量調整」ボタン禁止	室内ファン風量切換えが1速のみの機種
		「風量調整」ボタン有効	室内ファン風量切換えが2速又は3速の機種
リモコン機能 01	室内ファン速度	ファン速度2速 (Hi-Lo)	室内ファン風量2速の機種
		ファン速度3速	室内ファン風量3速の機種
		ファン速度2速 (Hi-Me)	室内ファン風量切換えが1速のみの機種
リモコン機能 06	「自動」運転設定	「自動」運転有効	「自動」モード選択可能な機種
		「自動」運転無効	「自動」モードの無い機種

注2：高天井設定時のファンタップ

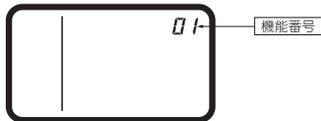
ファンタップ	室内風量設定		
	急-強-弱	急-弱	急-強
標準	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me
高天井1・2	UHi - Hi - Me	UHi - Me	UHi - Hi

機種によって、初期設定が高天井設定の機種もあります。

注3：ツイン・トリプル・ダブルツイン機の場合、室内機能設定は親室内ユニット・子室内ユニット  
各々設定してください。但し、「07 運転許可/禁止」「08 外部入力切替」は親室内ユニットのみ  
で設定可能です。

## 7. ボタン操作による機能設定の仕方

- (1) エアコンを停止させて、**[エアコンNo]**と**[MODE]**ボタンを同時に長押しする。  
右上に、機能番号「01」が点滅します



- (2) **[TEMP△]**または**[TEMP▽]**ボタンを押す。  
機能番号を選択します。

- (3) **[MODE]**ボタンを押す。  
機能番号を確定する。

- (4) **[リモコン機能 (01~06)]**を選んだ場合]

- ① 選択した機能番号の現在の設定番号が点滅します。  
(例)  
機能番号：「01」 (点灯)  
設定番号：「01」 (点滅)



- ② **[TEMP△]**または**[TEMP▽]**ボタンを押す。  
設定番号を選択します。

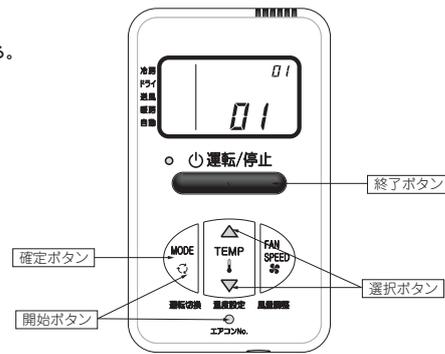
- ③ **[MODE]**ボタンを押す。  
設定が完了します。  
確定した機能番号と、設定番号をデータを送信する間約  
3～20秒間点灯します。

(例)  
機能番号：「01」 (3～20秒間点灯)  
設定番号：「01」 (3～20秒間点灯)



その後、機能番号の点滅表示(1)に戻りますので、  
続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。  
終了する場合は、(5)へお進みください。

- (5) **[運転/停止]**ボタンを押す  
設定を終了します。



- 【室内機能 (07~14)]

- ① 温度設定表示部に、「88」が点滅します。  
(データを読み込む間約2～10秒点滅)

↓  
その後、選択した機能番号の現在の設定番号が点滅します。

(例)  
機能番号：「07」 (点灯)  
設定番号：「01」 (点滅)

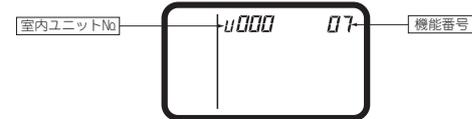


- ② へお進みください。

### 【注意】

- a. 一つのリモコンに、室内ユニットを複数台接続している場合は、  
下記表示となります。

室内ユニットNo表示部：「U 000」(点滅)  
(接続されている室内ユニットの、最も若い番号を表示。)



- b. **[TEMP△]**または**[TEMP▽]**ボタンを押す。  
設定したい室内ユニットの番号を選びます。  
「U ALL」を選択すると、全台同一の設定ができます。

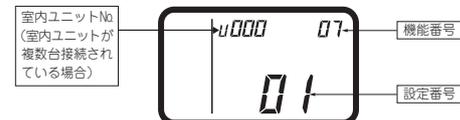
- c. **[MODE]**ボタンを押す。  
室内ユニットNoを確定します。  
温度設定表示部に、「88」が点滅します。(データを読み込む間2～10秒点滅)  
**[エアコンNo]**ボタンを押すと室内ユニット選択表示 (例「U 000」点滅)  
に戻ります。

- ② **[TEMP△]**または**[TEMP▽]**ボタンを押す。  
設定番号を選択します。

- ③ **[MODE]**ボタンを押す。

設定が完了します。  
確定した室内ユニットNo、機能番号、設定番号をデータを送信する間約  
3～20秒間点灯します。

(例)  
室内ユニットNo：「U 000」 (3～20秒間点灯)  
機能番号：「07」 (3～20秒間点灯)  
設定番号：「01」 (3～20秒間点灯)



その後、機能番号の点滅表示(1)に戻りますので、続けて設定する場合は、  
同じ要領で設定してください。終了する場合は、(5)へお進みください。

- ・ 設定の途中で、**[運転/停止]**ボタンを押しても終了します。但し、設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。
- ・ 設定内容は、コントローラ内部に記憶され停電しても保存されています。

### 【現在設定の確認方法】

上記操作により、「機能番号」を選び、**[MODE]**ボタンを押した時に、最初に表示される「設定番号」が、現在設定されている内容です。  
(但し、「U ALL」(全台)を選んだ場合は、室内ユニットNoの最も若い機種の設定番号が表示されます。)

## 据付けについて

- 本機は、ラクリーナパネル専用のワイヤレスリモコンです。本機を使用する場合は、別売のワイヤレスキットをラクリーナパネルに取付け、ご使用ください。
- リモコン通信線上に、ワイヤードリモコン、ワイヤレス受信部は、合計2セットまで接続可能です。但し、グリル昇降操作は「親」設定側のみ対応可能です。  
本機からグリル昇降させる時は、ワイヤレス受信部基板上のSW2を「親」設定とし、ワイヤードリモコン側を「子」設定としてください。
- ・この取扱説明書を見ながらお客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかたをご指導ください。
- ・室内ユニット本体及びパネルの据付方法につきましては、それぞれに同梱してあります据付説明書をご覧ください。
- ・この取扱説明書は、工事完了後、お客様に保管していただく様依頼してください。



## 注 意

操作するときは、吸込グリル動作範囲内に人がいないこと、物が無いことを確認のうえ行ってください。吸込グリルがあたるとケガをしたり、物が破損する原因になることがあります。

吸込グリル動作中に、吸込グリルやワイヤなどに触れないでください。吸込グリルがぶつかったり、ワイヤが巻きついたりしてケガの原因になることがあります。

ワイヤは折り曲げたり、タバコなどの火に触れないでください。ワイヤ断線により、吸込グリルやエアフィルタが落下し、ケガの原因になることがあります。

本機で使用している電池を取外した場合は、誤って電池を飲むことがないようにしてください。電池は小さなお子様の手の届かない所へ置いてください。

## お 願 い

- ・吸込グリル降下中以外のときに、子リモコンまたはセンターコンソールなどのオプションから運転操作をした場合、そのエアコンは運転になりますのでご注意ください。
- ・停止中に吸込グリルを無理に引き下げないでください。モータやワイヤ破損の原因になることがあります。

## お 知 ら せ

- ・吸込グリルが所定の位置に停止したとき、吸込グリルが傾くことがありますが、収納時に自動補正します。
- ・収納位置を補正するとき大きな音がしますが、故障ではありません。
- ・リモコン複数台制御の場合（ツイン・トリプル等）は、1回の操作で各ユニットが動作します。

## 1. 付 属 品

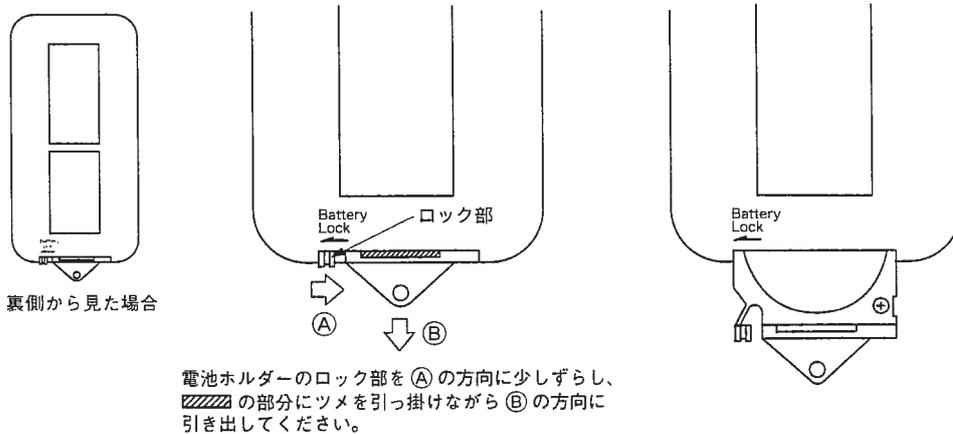
下記部品が梱包されていますので、据付け前にご確認願います。

ワイヤレスリモコン本体・・・1    ストラップ・・・1    動作確認用電池 (CR2025)・・・1

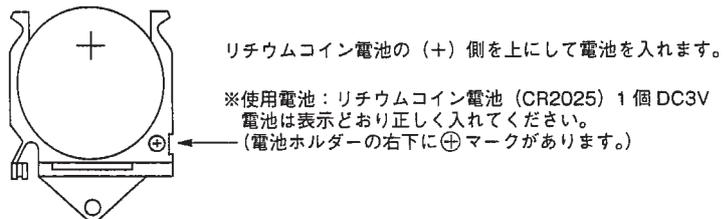
## 2. 電池の入れかた

1) 付属の電池（リチウムコイン電池：CR2025…1個）をワイヤレスリモコンにセットしてください。

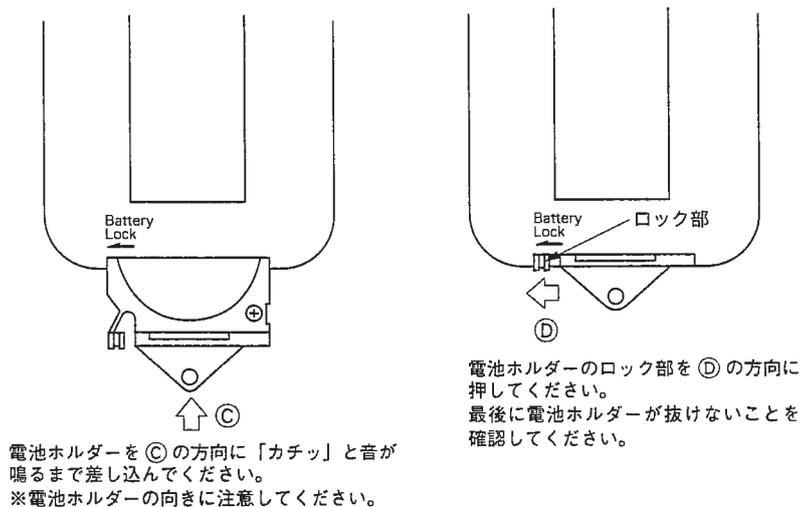
①電池ホルダーを引き出す。



②電池を入れる。

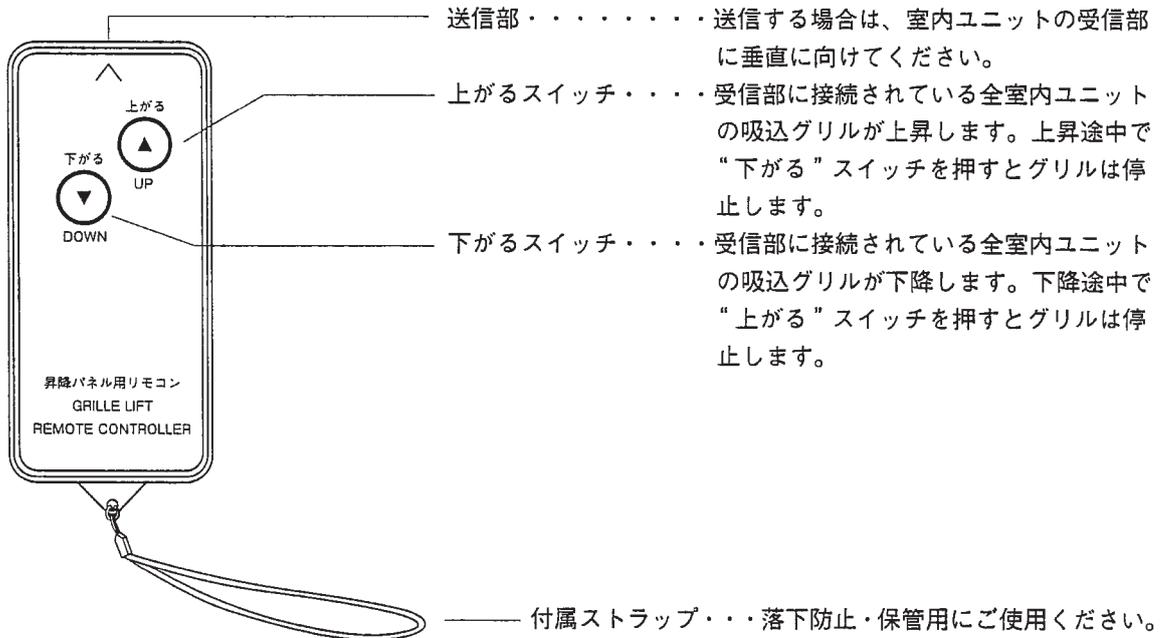


③電池ホルダーを元に戻す。



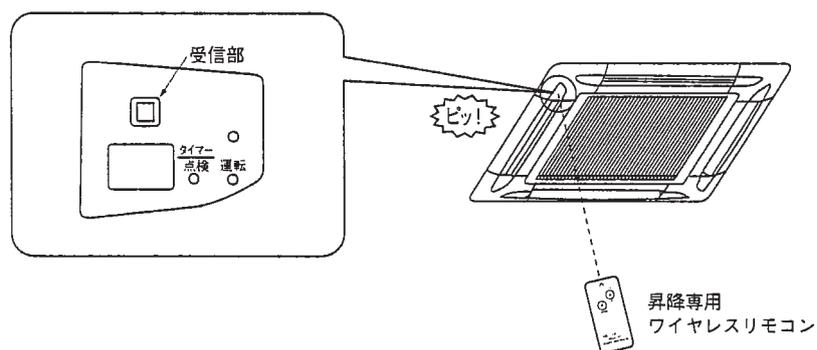
### 3. 各部の名称

- ラクリーナパネルに昇降指令する送信機です。ワイヤレスキットの受信部に向け、各スイッチを押し、送信します。
- 送信距離は最大で約5mです。受信部に垂直に送信できなかつたり、または受信部照度が大きくなると送信距離は短くなる場合があります。
- グリル昇降の操作中はエアコンを停止させてください。



### 4. ワイヤレスリモコンスイッチの送信は

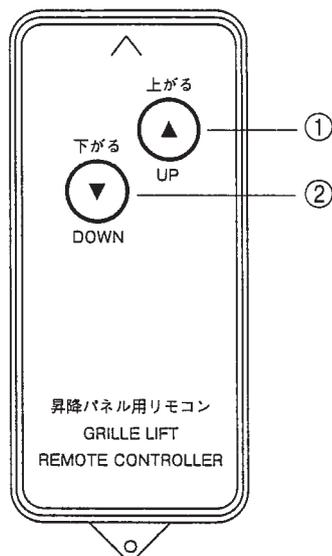
- 1) ワイヤレスリモコンの送信は、室内ユニットの受信部にワイヤレスリモコンの送信部を向けて必要なボタンを押すと送信できます。本体が受信すると「ピッ!」と音がします。



#### — ご注意

受信部の親子設定が「子」になっている場合は、グリル昇降操作はできません。

## 5. 吸込グリルの昇降のしかた



1

下がる  
**▽スイッチ**を押すと、受光部に接続されている全室内ユニットの吸込グリルが下降します。運転中のエアコンは自動的に停止します。

- ・昇降グリルが所定の位置に達すると、自動的に下降を停止します。
- ・下降中に停止したい場合は、<sup>上がる</sup>**▲**スイッチを押すと任意の位置で停止します。

2

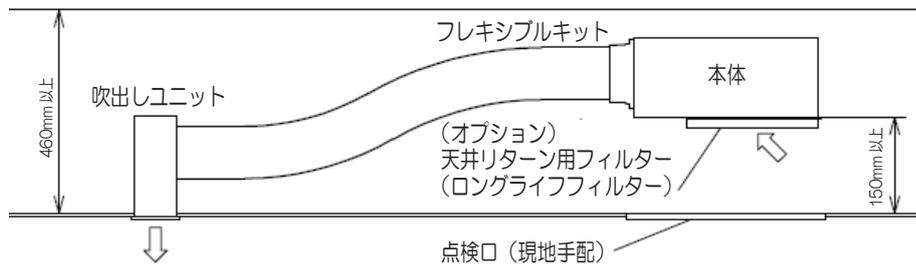
上がる  
**▲スイッチ**を押すと、受光部に接続されている全室内ユニットの吸込グリルが上昇します。吸込グリルが一旦パネルに収納されたあと、上下に動いて収納位置の補正をしてから自動停止します。

- ・上昇中に停止したい場合は、<sup>下がる</sup>**▽**スイッチを押すと任意の位置で停止します。
- ・操作終了後、運転を開始する場合は、グリルの収納が確実に完了していることを確認後、運転操作リモコンで運転を開始してください。

(4) フィルターキット (FDRZ シリーズのみ)

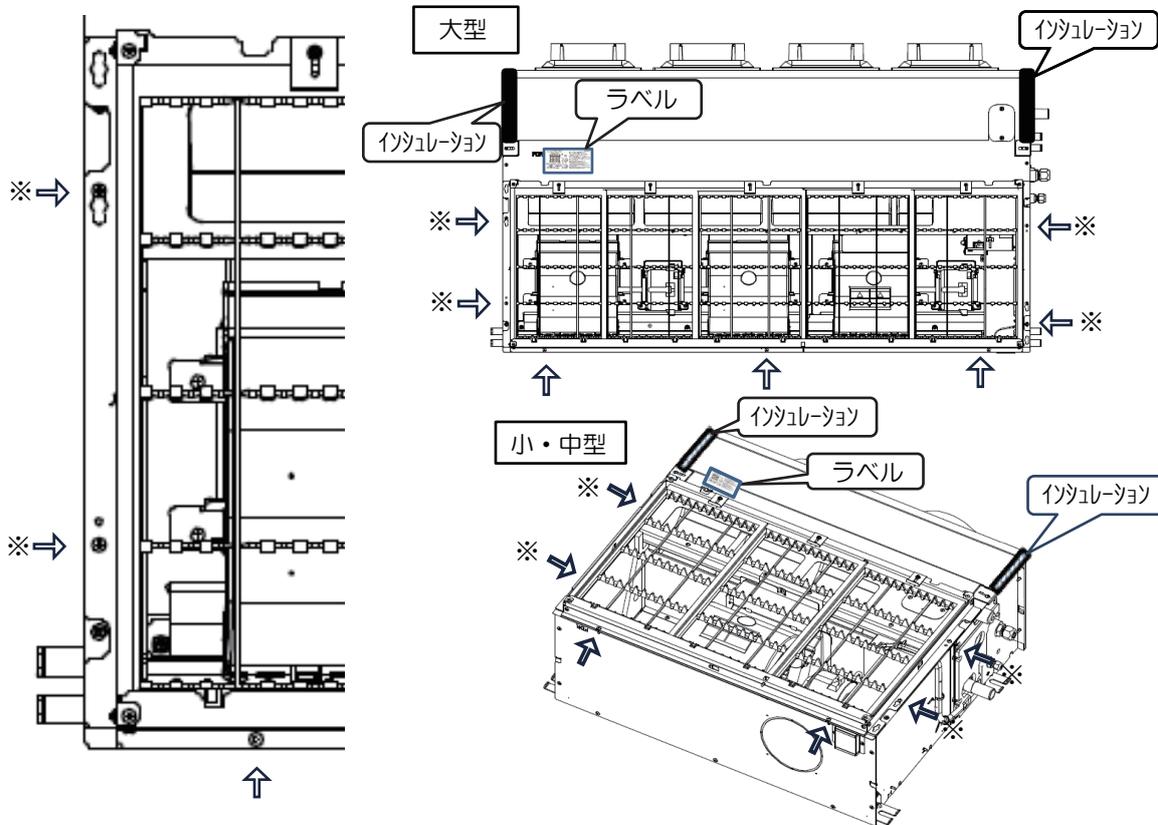
PJC012D011A

室内ユニット付属の据付説明書と合わせて、ご覧ください。  
 フィルタ清掃用・ユニット点検用に点検口を設置してください。  
 天井内が負圧にならない様に設計してください。



フィルターキット形式		R-FL-2A						R-FL-3A				R-FL-4A			
		P22	P28	P36	P40	P45	P50	P56	P63	P71	P80	P90	P112	P140	P160
適用機種	店舗											●			
	ビル空調	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●
	GHP	●	●	●		●		●			●	●	●	●	
内容物	フィルター	フィルター小 3枚						フィルター大 3枚				フィルター小 2枚 フィルター大 3枚			
	ねじ	6本						6本				7本			
	インシュレーション	2枚						2枚				2枚			

- ・ 付属のラベル『エアフィルターの取付け・取外し方』を貼り付けてください。
- ・ ⇒ 矢印部を付属のねじで固定してください。 小型・中型は6本 大型は7本
- ・ 機種によって、※部のねじがユニット側のねじと重なる場合があります。  
その場合はユニット側のねじを取外してから共締めしてください。
- ・ インシュレーションを下図に従って2か所貼り付けてください。
- ・ 室内ユニット付属の据付説明書を参照に静圧設定を行ってください。

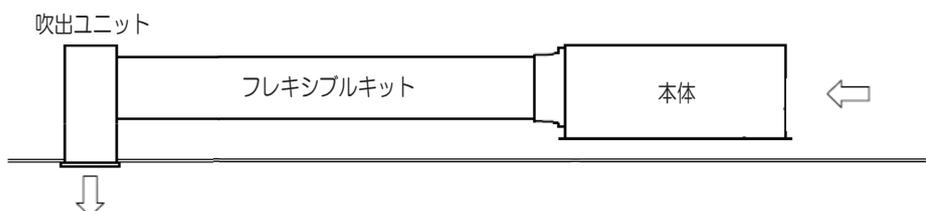


(5) 丸ダクト変換キット (FDUZ シリーズのみ)

PJG012D012A

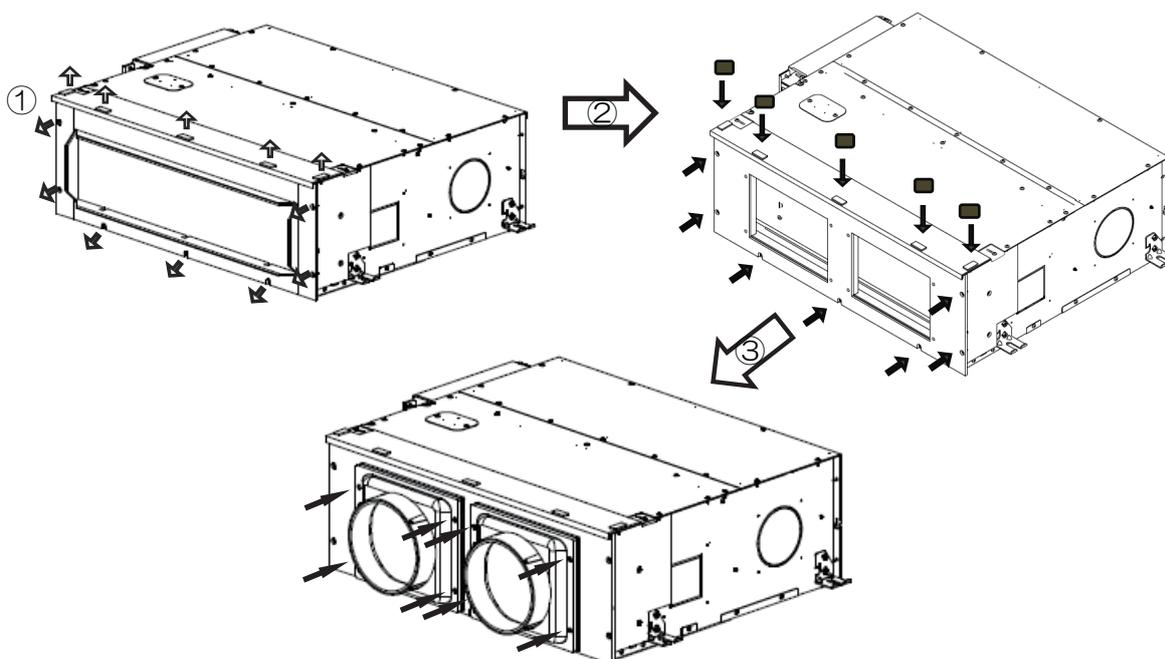
- 室内ユニット付属の据付説明書と合わせて、ご覧ください。
- φ200丸形ダクトを接続してください。
- 各スポット間のダクト長さは、2対1以内としてください。
- ダクトは、最短長さとなるよう施工してください。
- 4スポットを3スポット、3スポットを2スポットに改修する場合は、専用塞ぎ板を別売品として用意しています。中央いづれかを塞いでください。
- 2スポットから1スポットへの改修は、行わないでください。
- 室内ユニット付属の据付説明書を参照に静圧設定を行ってください。

注意：丸ダクト仕様の場合、最大機外静圧は、100Pa以下としてください。



シリーズ展開		小型						中型				大型			
		P22	P28	P36	P40	P45	P50	P56	P63	P71	P80	P90	P112	P140	P160
シリーズ展開	店舗						●	●	●	●	●		●	●	●
	ビル空調	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●
	GHP					●		●		●		●	●	●	
丸ダクト変換キット	丸ダクト	1個		2個				3個				4個			
	形式	U-UM-1A		U-UM-2A				U-UM-3A				U-UM-4A			
付属品	付属ねじ(長さ12mm)	12本		12本				13本				14本			
	付属ねじ(長さ16mm)	4本		8本				12本				16本			
	断熱材	5枚		5枚				6枚				6枚			

- 本作業は、本体吊り込み前に実施してください。
- ① 熱交換器側の角ダクトフランジを取外してください。矢印のねじを外してください。 →
- ② フロントパネルを取付けてください。付属のねじ(長さ12mm)を使用してください。 →  
付属のインシュレーションを貼り付けてください。 ■
- ③ 丸ダクトを取付けてください。付属のねじ(長さ16mm)を使用してください。 →



三菱重工サーマルシステムズ株式会社 〒108-8215 東京都港区港南2-16-5  
三菱重工冷熱株式会社 〒108-0023 東京都港区芝浦2-11-5

●製品の仕様は改良のため予告なしに変更することがあります。